2023年度
実務経験のある教員による授業科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

人間福祉特別演習Ⅲ［宮城　孝］ …… 1
人間福祉特別演習Ⅰ［土肥　将敦］ …… 2
人間福祉特別演習Ⅰ［関谷　秀子］ …… 3
臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義Ⅰ［関谷　秀子］春学期授業/Spring …… 4
臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅱ［末武　康弘］秋学期授業/Fall …… 5
臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅱ［金築　優］秋学期授業/Fall …… 6
臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義Ⅱ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall …… 7
人間福祉特別演習Ⅱ［末武　康弘］ …… 8
地域・政策系特殊講義Ⅰ［土肥　将敦］春学期授業/Spring …… 9
地域・政策系特殊講義Ⅰ［佐野　竜平］春学期授業/Spring …… 10
福祉臨床系特殊講義Ⅰ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 11
人間福祉特別演習Ⅰ［伊藤　正子］ …… 12
人間福祉特別演習Ⅰ［髙良　麻子］ …… 13
地域・文化系特殊講義Ⅱ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall …… 14
福祉臨床系特殊講義Ⅱ［岩田　美香］秋学期授業/Fall …… 15
臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅰ［末武　康弘］春学期授業/Spring …… 16
臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅰ［金築　優］春学期授業/Spring …… 17
地域・文化系特殊講義Ⅰ［野田　岳仁］春学期授業/Spring …… 18
地域・文化系特殊講義Ⅱ［水野　雅男］秋学期授業/Fall …… 19
地域・文化系特殊講義Ⅰ［水野　雅男］春学期授業/Spring …… 20
人間福祉特別演習Ⅰ［末武　康弘］ …… 21
人間福祉特別演習Ⅰ［佐野　竜平］ …… 22
地域・政策系特殊講義Ⅱ［土肥　将敦］秋学期授業/Fall …… 23
福祉臨床系特殊講義Ⅰ［髙良　麻子］春学期授業/Spring …… 24
福祉臨床系特殊講義Ⅱ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 25
人間福祉特別演習Ⅱ［宮城　孝］ …… 26
人間福祉特別演習Ⅰ［眞保　智子］ …… 27
福祉社会系特殊講義Ⅱ［眞保　智子］秋学期授業/Fall …… 28
福祉臨床系特殊講義Ⅱ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 29
人間福祉特別演習Ⅰ［佐藤　繭美］ …… 30
人間福祉特別演習Ⅰ［宮城　孝］ …… 31
福祉臨床系特殊講義Ⅱ［宮城　孝］秋学期授業/Fall …… 32
福祉臨床系特殊講義Ⅰ［岩田　美香］春学期授業/Spring …… 33
福祉臨床系特殊講義Ⅱ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall …… 34
福祉臨床系特殊講義Ⅰ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring …… 35
地域・政策系特殊講義Ⅱ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall …… 36
福祉社会系特殊講義Ⅰ［眞保　智子］春学期授業/Spring …… 37
人間福祉特別演習Ⅰ［金築　優］ …… 38
人間福祉特別演習Ⅰ［岩田　美香］ …… 39
人間福祉特別演習Ⅰ［水野　雅男］ …… 40
福祉臨床系特殊講義Ⅰ［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 41
人間福祉特別演習Ⅰ［岩崎　晋也］ …… 42
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目　ブランディングデザイン（２０２３年度以降入学生）（２０２４年度開講）［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期後半/Fall(2nd half) …… 43
【18007】経営学特講 [ロジスティクス論](春期スクーリング) ［恩田　登志夫］春期 …… 44

【18008】演習 [貿易概論](春期スクーリング) ［恩田　登志夫］春期 …… 45
【56001】経済学入門Ⅰ／経済学入門 A(前期メディア) ［平田　英明］前期 …… 46
【56009】マーケティング論Ⅰ (前期メディア) ［竹内　淑恵］前期 …… 47
【56019】ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンス A(前期メディア) ［山嵜　輝］前期 …… 49
【A0015】憲法訴訟論［大津　浩］秋学期授業/Fall …… 50
【A0046】親族法［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 52
【A0047】相続法［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 54
【A0129】社会安全政策論Ⅰ ［篠崎　ほし江］春学期授業/Spring …… 56
【A0132】法と遺伝学Ⅰ ［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 57
【A0133】法と遺伝学Ⅱ ［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 59
【A0159】演習［高須　順一］年間授業/Yearly …… 61
【A0189】演習［和田　幹彦］年間授業/Yearly …… 63
【A0253】経済原論Ⅰ ［水野　和夫］春学期授業/Spring …… 65
【A0254】経済原論Ⅱ ［水野　和夫］秋学期授業/Fall …… 67
【A0436】政治過程論Ⅰ ［田中　信一郎］春学期授業/Spring …… 69
【A0437】政治過程論Ⅱ ［田中　信一郎］秋学期授業/Fall …… 70
【A0485】政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）［半田　滋］春学期授業/Spring …… 71
【A0491】演習［水野　和夫］春学期授業/Spring …… 73
【A0492】演習［水野　和夫］秋学期授業/Fall …… 75
【A0503】外国書講読（英語）Ⅰ ［和田　幹彦］春学期授業/Spring …… 76
【A0504】外国書講読（英語）Ⅱ ［和田　幹彦］秋学期授業/Fall …… 78
【A0520】都市政策［杉崎　和久］春学期授業/Spring …… 80
【A0521】まちづくり論［杉崎　和久］秋学期授業/Fall …… 81
【A0606】財政と金融Ⅰ ［島澤　諭］春学期授業/Spring …… 83
【A0607】財政と金融Ⅱ ［島澤　諭］秋学期授業/Fall …… 84
【A0649】国際ＮＧＯ論Ⅰ ［渡部　カンコロンゴ　清花］春学期授業/Spring …… 85
【A0662】アジア国際政治概論［水野　孝昭］秋学期授業/Fall …… 87
【A0717】国際協力論Ⅰ ［志賀　裕朗］春学期授業/Spring …… 89
【A0718】国際協力論Ⅱ ［志賀　裕朗］秋学期授業/Fall …… 91
【A0769】国際社会の法Ⅰ ［新垣　修］春学期授業/Spring …… 93
【A0770】国際社会の法Ⅱ ［新垣　修］秋学期授業/Fall …… 95
【A0779】演習［杉崎　和久］春学期授業/Spring …… 97
【A0780】演習［杉崎　和久］秋学期授業/Fall …… 98
【A0921】現代政策学特講Ⅰ（立法学）［正木　寛也］春学期授業/Spring …… 99
【A0922】現代政策学特講Ⅱ（立法学）［正木　寛也］秋学期授業/Fall …… 100
【A0947】演習［土山　希美枝］春学期授業/Spring …… 101
【A0948】演習［土山　希美枝］秋学期授業/Fall …… 102
【A0983】演習［弓削　昭子］春学期授業/Spring …… 103
【A0984】演習［弓削　昭子］秋学期授業/Fall …… 104
【A0985】法学入門［金子　匡良］春学期授業/Spring …… 105
【A2441】日本文章史Ａ［中沢　けい］春学期授業/Spring …… 106
【A2443】日本文章史Ｂ［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 107
【A2445】文章表現論Ａ［伊東　祐吏］春学期授業/Spring …… 108
【A2447】文章表現論Ｂ［伊東　祐吏］秋学期授業/Fall …… 109
【A2584】表現と著作権 A ［内藤　裕之］春学期授業/Spring …… 110
【A2586】表現と著作権 B ［内藤　裕之］秋学期授業/Fall …… 111
【A2647】ゼミナール１７Ａ［中沢　けい］春学期授業/Spring …… 112
【A2648】ゼミナール１７Ｂ［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 113
【A2649】ゼミナール１８Ａ［中沢　けい］春学期授業/Spring …… 114
【A2650】ゼミナール１８Ｂ［中沢　けい］秋学期授業/Fall …… 115
【A2651】ゼミナール１９Ａ［藤谷　治］春学期授業/Spring …… 116
【A2652】ゼミナール１９Ｂ［藤谷　治］秋学期授業/Fall …… 117
【A2653】ゼミナール２０Ａ［藤谷　治］春学期授業/Spring …… 118
【A2654】ゼミナール２０Ｂ［藤谷　治］秋学期授業/Fall …… 119
【A2655】ゼミナール２１Ａ［山口　和人］春学期授業/Spring …… 120
【A2656】ゼミナール２１Ｂ［山口　和人］秋学期授業/Fall …… 121
【A2687】日本文芸研究特講（９）表現Ａ［藤谷　治］春学期授業/Spring …… 122

【A2688】日本文芸研究特講（９）表現 B ［藤谷　治］秋学期授業/Fall 123
【A2709】編集理論Ａ［福江　泰太］春学期授業/Spring 124
【A2710】編集理論Ｂ［福江　泰太］秋学期授業/Fall 125
【A2717】情報メディア演習 A ［武田　俊］春学期授業/Spring 126
【A2718】情報メディア演習 B ［武田　俊］秋学期授業/Fall 127
【A2719】書道 A(書写を中心とする) ［橋本　匡朗］春学期授業/Spring 128
【A2720】書道 B(書写を中心とする) ［橋本　匡朗］秋学期授業/Fall 129
【A2721】書道 A(書写を中心とする) ［橋本　匡朗］春学期授業/Spring 130
【A2722】書道 B(書写を中心とする) ［橋本　匡朗］秋学期授業/Fall 131
【A3101】日本史概説Ⅰ ［古庄　浩明］春学期授業/Spring 132
【A3113, A3856】日本考古学／日本考古学（資格）［古庄　浩明］秋学期授業/Fall 133
【A3124】日本近世史料学Ⅰ ［松本　剣志郎］春学期授業/Spring 134
【A3125】日本近世史料学Ⅱ ［松本　剣志郎］秋学期授業/Fall 135
【A3128】日本考古学演習［小倉　淳一］年間授業/Yearly 136
【A3152, A3855】考古学概論／考古学概論（資格）［古庄　浩明］春学期授業/Spring 137
【A3412】地球科学概論Ⅰ ［宍倉　正展］春学期授業/Spring 138
【A3413】地球科学概論Ⅱ ［宍倉　正展］秋学期授業/Fall 139
【A3416】地質・岩石学及び実験［宇津川　喬子］秋学期授業/Fall 140
【A3422】気候・気象学及び実験Ⅰ ［山口　隆子］春学期授業/Spring 141
【A3423】気候・気象学及び実験Ⅱ ［山口　隆子］秋学期授業/Fall 142
【A3434】自然地理学演習（１）［山口　隆子］年間授業/Yearly 143
【A3453】自然地理学特講（３）［丸本　美紀］春学期授業/Spring 144
【A3461】測量学及び測量実習Ⅰ ［菅　富美男］春学期授業/Spring 145
【A3462】測量学及び測量実習Ⅱ ［菅　富美男］春学期授業/Spring 146
【A3511】地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）［加藤　美雄］秋学期授業/Fall 147
【A3527】理科教育法（１）［狩野　真規］春学期授業/Spring 148
【A3528】理科教育法（２）［狩野　真規］秋学期授業/Fall 149
【A3530】理科教育法（３）［狩野　真規］春学期授業/Spring 150
【A3531】理科教育法（４）［狩野　真規］秋学期授業/Fall 151
【A3619】脳の科学［高橋　敏治］秋学期授業/Fall 152
【A3643】研究法Ⅰ（１）［高橋　敏治］春学期授業/Spring 153
【A3651】研究法Ⅱ（１）［高橋　敏治］秋学期授業/Fall 154
【A3659】精神生理学特講［高橋　敏治］春学期授業/Spring 155
【A3667】言語心理学［菊池　理紗］秋学期授業/Fall 156
【A3669】行動分析学特講［島宗　理］秋学期授業/Fall 157
【A3670】行動分析学［島宗　理］春学期授業/Spring 158
【A3685】精神保健学Ⅰ ［高橋　敏治］春学期授業/Spring 159
【A3686】精神保健学Ⅱ ［高橋　敏治］秋学期授業/Fall 160
【A3691, A2259】犯罪心理学／心理学３（犯罪心理学）２［越智　啓太］秋学期授業/Fall 161
【A3721】産業組織心理学［島宗　理］秋学期授業/Fall 162
【A3722】心理学特殊講義Ⅰ ［島宗　理］秋学期授業/Fall 164
【A3813】文学部生のキャリア形成［荒井　弘和、川﨑　貴子、小寺　浩二］春学期授業/Spring 165
専門入門科目 100 番台【A4002】組織論入門［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 166
専門入門科目 100 番台【A4009】マーケティング入門［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 168
専門入門科目 100 番台【A4010】マーケティング入門［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall 170
専門入門科目 100 番台【A4013】ファイナンス入門［山嵜　輝］春学期授業/Spring 172
専門入門科目 100 番台【A4014】ファイナンス入門［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 173
専門入門科目 100 番台【A4040】情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 174
専門入門科目 100 番台【A4041】情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall . 175
専門入門科目 100 番台【A4042】情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 176
専門入門科目 100 番台【A4043】情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall . 177
専門入門科目 100 番台【A4048】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 178
専門入門科目 100 番台【A4049】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 179
【A4110】情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 180
【A4111】情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 181
【A4112】情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 182
【A4113】情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 183

【A4118】情報科学実習Ⅰ（b コース）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 184
【A4119】情報科学実習Ⅱ（b コース）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 185
【A4180】情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 186
【A4181】情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 187
【A4182】情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 188
【A4183】情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 189
【A4188】情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 190
【A4189】情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 191
【A4325】マーケティング論Ⅰ［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 192
【A4326】マーケティング論Ⅱ［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall 194
経営学科専門科目 200 番台【A4361】キャリア・マネジメントⅠ（2019 年度以降入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 196
経営学科専門科目 200 番台【A4362】キャリア・マネジメントⅡ（2019 年度以降入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 198
経営学科専門科目 300 番台【A4393】組織経済学［奥西　好夫］春学期授業/Spring 199
【A4394】組織経済学Ⅰ　（2018 年度以前入学者）［奥西　好夫］春学期授業/Spring 200
市場経営学科専門科目 200 番台【A4451】マーケティング・マネジメント論Ⅰ［竹内　淑恵］春学期授業/Spring . 201
市場経営学科専門科目 200 番台【A4452】マーケティング・マネジメント論Ⅱ［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall 203
市場経営学科専門科目 200 番台【A4457】マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019 年度以降入学者）［西川　英彦］春学期授業/Spring 205
市場経営学科専門科目 200 番台【A4458】マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019 年度以降入学者）［西川　英彦］秋学期授業/Fall 207
市場経営学科専門科目 200 番台【A4467】製品開発論Ⅰ［田路　則子］春学期授業/Spring 209
市場経営学科専門科目 200 番台【A4468】製品開発論Ⅱ［田路　則子］秋学期授業/Fall 210
市場経営学科専門科目 200 番台【A4471】デリバティブ入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）［山嵜　輝］春学期授業/Spring 211
市場経営学科専門科目 200 番台【A4472】デリバティブ入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 212
市場経営学科専門科目 200 番台【A4473】投資入門（2019 年度以降入学者）［岸本　直樹］春学期授業/Spring 213
市場経営学科専門科目 200 番台【A4474】ポートフォリオ理論入門（2019 年度以降入学者）［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 214
【A4483】マーケティング・リサーチⅠ（2018 年度以前入学者）［西川　英彦］春学期授業/Spring..... 215
【A4484】マーケティング・リサーチⅡ（2018 年度以前入学者）［西川　英彦］秋学期授業/Fall 217
【A4487】ファイナンス論Ⅰ（2018 年度以前入学者）［山嵜　輝］春学期授業/Spring 219
【A4488】ファイナンス論Ⅱ（2018 年度以前入学者）［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 220
【A4489】証券経済論Ⅰ（2018 年度以前入学者）［岸本　直樹］春学期授業/Spring 221
【A4490】証券経済論Ⅱ（2018 年度以前入学者）［岸本　直樹］秋学期授業/Fall..... 222
市場経営学科専門科目 300 番台【A4495】Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 223
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4501】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［秋友　一広］春学期授業/Spring 224
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4502】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［秋友　一広］秋学期授業/Fall 226
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4512】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［岡本　慶子］秋学期授業/Fall 228
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4514】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［依田　光広］春学期授業/Spring 229
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4516】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［依田　光広］秋学期授業/Fall 231
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4521】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［鴨志田　晃］春学期授業/Spring 233
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4522】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［鴨志田　晃］秋学期授業/Fall 234
グローバル・ビジネス/GBP 科目【A4524】入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）［鴨志田　晃］春学期授業/Spring 235
【A4541】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［秋友　一広］春学期授業/Spring 236
【A4542】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［秋友　一広］秋学期授業/Fall 238
【A4552】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［岡本　慶子］秋学期授業/Fall 240
【A4554】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［依田　光広］春学期授業/Spring 241
【A4556】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［依田　光広］秋学期授業/Fall 243
【A4561】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［鴨志田　晃］春学期授業/Spring 245
【A4562】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［鴨志田　晃］秋学期授業/Fall 246
【A4564】入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）［鴨志田　晃］春学期授業/Spring 247
【A4587】キャリア・マネジメントⅠ（2018 年度以前入学者）［小川　憲彦］春学期授業/Spring 248
【A4588】キャリア・マネジメントⅡ（2018 年度以前入学者）［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 249
演習【A4693】演習 1［小川　憲彦］春学期授業/Spring 250
演習【A4694】演習 2［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 252
演習【A4695】演習 3［小川　憲彦］春学期授業/Spring 254

演習【A4696】演習 4［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 256
演習【A4697】演習 5［小川　憲彦］春学期授業/Spring 258
演習【A4698】演習 6［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 260
演習【A4699】演習 1［奥西　好夫］春学期授業/Spring 262
演習【A4700】演習 2［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 263
演習【A4701】演習 3［奥西　好夫］春学期授業/Spring 264
演習【A4702】演習 4［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 265
演習【A4703】演習 5［奥西　好夫］春学期授業/Spring 266
演習【A4704】演習 6［奥西　好夫］秋学期授業/Fall 267
演習【A4735】演習 1［岸本　直樹］春学期授業/Spring 268
演習【A4736】演習 2［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 270
演習【A4737】演習 3［岸本　直樹］春学期授業/Spring 272
演習【A4738】演習 4［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 274
演習【A4739】演習 5［岸本　直樹］春学期授業/Spring 276
演習【A4740】演習 6［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 278
演習【A4825】演習 1［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 280
演習【A4826】演習 2［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall 282
演習【A4827】演習 3［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 283
演習【A4828】演習 4［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall 285
演習【A4829】演習 5［竹内　淑恵］春学期授業/Spring 286
演習【A4830】演習 6［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall 288
演習【A4867】演習 1［西川　英彦］春学期授業/Spring 289
演習【A4868】演習 2［西川　英彦］秋学期授業/Fall 290
演習【A4869】演習 3［西川　英彦］春学期授業/Spring 291
演習【A4870】演習 4［西川　英彦］秋学期授業/Fall 292
演習【A4871】演習 5［西川　英彦］春学期授業/Spring 293
演習【A4872】演習 6［西川　英彦］秋学期授業/Fall 294
演習【A4939】演習 1［山嵜　輝］春学期授業/Spring..... 295
演習【A4940】演習 2［山嵜　輝］秋学期授業/Fall..... 296
演習【A4941】演習 3［山嵜　輝］春学期授業/Spring..... 297
演習【A4942】演習 4［山嵜　輝］秋学期授業/Fall..... 298
演習【A4943】演習 5［山嵜　輝］春学期授業/Spring..... 299
演習【A4944】演習 6［山嵜　輝］秋学期授業/Fall..... 300
情報関係科目【A5205】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 301
情報関係科目【A5206】プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall... 302
情報関係科目【A5207】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 303
情報関係科目【A5208】プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall... 304
【A5219】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring..... 305
【A5220】プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall..... 306
【A5221】プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring..... 307
【A5222】プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall..... 308
【A5233】プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring..... 309
【A5234】プログラミング言語Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall..... 310
【A5235】プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring..... 311
【A5236】プログラミング言語Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall..... 312
情報関係科目【A5270】情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring. 313
情報関係科目【A5271】情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 314
情報関係科目【A5272】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 315
情報関係科目【A5273】情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 316
情報関係科目【A5274】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 317
情報関係科目【A5275】情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 318
情報関係科目【A5276】情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 319
情報関係科目【A5277】情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 320
情報関係科目【A5278】情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019 年度以降入学者）［沼尻　治樹］春学期授業/Spring..... 321
情報関係科目【A5279】情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019 年度以降入学者）［沼尻　治樹］秋学期授業/Fall..... 322
【A5290】データ処理論Ⅰ（CG）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 323
【A5291】データ処理論Ⅱ（CG）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall..... 324

【A5292】データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 325
【A5293】データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 326
【A5294】データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 327
【A5295】データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 328
【A5296】データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 329
【A5297】データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 330
【A5298】データ処理論Ⅰ（空間情報システム）（2018 年度入学者）［沼尻　治樹］春学期授業/Spring 331
【A5299】データ処理論Ⅱ（空間情報システム）（2018 年度入学者）［沼尻　治樹］秋学期授業/Fall 332
【A5310】データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 333
【A5311】データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 334
【A5312】データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 335
【A5313】データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 336
【A5314】データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 337
【A5315】データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 338
【A5316】データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 339
【A5317】データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 340
【A5318】データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［沼尻　治樹］春学期授業/Spring 341
【A5319】データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［沼尻　治樹］秋学期授業/Fall 342
情報関係科目【A5332】情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 343
情報関係科目【A5333】情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 344
情報関係科目【A5334】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring . 345
情報関係科目【A5335】情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 346
情報関係科目【A5338】情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring . 347
情報関係科目【A5339】情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 348
【A5344】ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 349
【A5345】ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 350
【A5346】ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 351
【A5347】ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall..... 352
【A5350】ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）（2018 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 353
【A5351】ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall..... 354
【A5356】ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］春学期授業/Spring 355
【A5357】ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［飯塚　康至］秋学期授業/Fall 356
【A5358】ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 357
【A5359】ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 358
【A5362】ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］春学期授業/Spring 359
【A5363】ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）［上野　京子］秋学期授業/Fall 360
特殊講義【A5411】寄附講座・日本の物流と企業経営［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 361
特殊講義【A5412】寄附講座・上場会社におけるディスクロージャー制度［谷口　義幸］春学期授業/Spring 362
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration【A5504】Introduction to Finance ［Naoki KISHIMOTO］秋学期授業/Fall 364
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration【A5506】Introduction to Operations Management ［Kiyoko YOSHIMURA］春学期授業/Spring 365
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration【A5507】Introduction to Japanese Economy ［Hideaki HIRATA］春学期授業/Spring ... 366
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門基礎科目／ Introductory Courses of Business Administration【A5509】Introduction to Informatics ［Yasushi KODAMA］秋学期授業/Fall 367
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5516】Human Resource Management Ⅱ ［Yoshio OKUNISHI］春学期授業/Spring .. 368
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5528】Investments A ［Mitsuru Katagiri］秋学期授業/Fall..... 369
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5529】Investments B ［Yongjin KIM］春学期授業/Spring 370
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5533】Operations Management Ⅰ ［Kiyoko YOSHIMURA］秋学期授業/Fall 371
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5534】Operations Management Ⅱ ［Kiyoko YOSHIMURA］春学期授業/Spring 372

専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5535】Principles of Macroeconomics ［Mitsuru Katagiri］春学期授業/Spring 373
専門教育科目／ Business Administration Courses_専門科目／ Intermediate/Advanced Courses of Business Administration【A5538】Entrepreneurship ［Noriko TAJI］春学期授業/Spring 374
専門教育科目／ Business Administration Courses_特殊講義／ Special Topics in Management【A5539】Special Topics in Management A ［Akira KAMOSHIDA］春学期授業/Spring 375
専門教育科目／ Business Administration Courses_特殊講義／ Special Topics in Management【A5540】Special Topics in Management B ［Akira KAMOSHIDA］春学期授業/Spring 376
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5542】Workshop Ⅰ ［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 377
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5543】Workshop Ⅱ ［Azusa Ebisuya］春学期授業/Spring 378
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5545】Special Topics in Global Business B ［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 379
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5546】Special Topics in Global Business C ［Kazuhiro AKITOMO］秋学期授業/Fall 380
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5553】Seminar ［Kiyoko YOSHIMURA］秋学期授業/Fall 382
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5554】Seminar ［Akira KAMOSHIDA］春学期授業/Spring 383
専門教育科目／ Business Administration Courses_GBP 科目／ Global Business Courses【A5555】Seminar ［Akira KAMOSHIDA］秋学期授業/Fall 384
【A6188】Introduction to Tourism Studies ［John Melvin］春学期授業/Spring 385
【A6189】Introduction to Tourism Studies ［John Melvin］秋学期授業/Fall 386
【A6266】Brand Management ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring 387
【A6267】Event Management ［John Melvin］秋学期授業/Fall 388
【A6274】Tourism Development in Japan ［John Melvin］春学期授業/Spring 389
【A6353】Services Marketing ［John Melvin］春学期授業/Spring 390
【A6356】Cultural Tourism ［John Melvin］秋学期授業/Fall 391
【A6425】Seminar: Tourism Management I ［John Melvin］春学期授業/Spring 392
【A6426】Seminar: Tourism Management I ［John Melvin］春学期授業/Spring 393
【A6427】Seminar: Tourism Management II ［John Melvin］秋学期授業/Fall 394
【A6428】Seminar: Tourism Management II ［John Melvin］秋学期授業/Fall 395
【A6433】Seminar: Global Strategic Management I ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring 396
【A6434】Seminar: Global Strategic Management I ［Takamasa Fukuoka］春学期授業/Spring 397
【A8000】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I ［Glenn Torrens］春学期授業/Spring 398
【A8001】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I ［Sandor Dome］春学期授業/Spring 399
【A8002】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I ［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring 400
【A8003】ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I ［Samuel Harper］春学期授業/Spring 401
【A8004】ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I ［Sandor Dome］春学期授業/Spring .. 402
【A8005】ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I ［Samuel Harper］春学期授業/Spring 403
【A8006】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I ［Glenn Torrens］春学期授業/Spring 404
【A8007】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I ［Sandor Dome］春学期授業/Spring 405
【A8008】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I［Thomas Rapsey］春学期授業/Spring 406
【A8009】ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Joe Trujillo］春学期授業/Spring 407
【A8010】ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Joe Trujillo］春学期授業/Spring 408
【A8011】ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 409
【A8012】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I ［Wendy Horikoshi］春学期授業/Spring 410
【A8013】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I ［Samuel Harper］春学期授業/Spring 411

【A8014】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I［Joe Trujillo］春学期授業/Spring 412
【A8015】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 413
【A8016】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I ［Glenn Torrens］春学期授業/Spring 414
【A8017】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I ［Andrew Finegan］春学期授業/Spring .. 415
【A8018】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I ［Andrew Finegan］春学期授業/Spring .. 416
【A8019】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I ［Samuel Harper］春学期授業/Spring 417
【A8020】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 418
【A8050】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II ［Andrew Finegan］秋学期授業/Fall 419
【A8051】ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II ［Samuel Harper］秋学期授業/Fall 420
【A8052】ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II ［Glenn Torrens］秋学期授業/Fall ... 421
【A8053】ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II ［Joe Trujillo］秋学期授業/Fall 422
【A8054】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II ［Wendy Horikoshi］秋学期授業/Fall 423
【A8055】ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II ［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 424
【A8056】ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II ［Joe Trujillo］秋学期授業/Fall 425
【A8057】ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 426
【A8058】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II ［Andrew Finegan］秋学期授業/Fall 427
【A8059】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 428
【A8060】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II ［Samuel Harper］秋学期授業/Fall 429
【A8061】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II ［Thomas Rapsey］秋学期授業/Fall..... 430
【A8062】ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II ［Joe Trujillo］秋学期授業/Fall 431
【A8063】ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II ［Samuel Harper］秋学期授業/Fall 432
【A8080】ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1 スプリングセッション/Spring Session 433
【A8081】ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2 スプリングセッション/Spring Session 434
【A8100】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring 435
【A8101】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I ［Samuel Harper］春学期授業/Spring 436
【A8102】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring 437
【A8103】ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I ［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring 438
【A8104】ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I ［Samuel Harper］春学期授業/Spring ... 439
【A8105】ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I ［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring 440
【A8106】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I ［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring 441
【A8107】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I ［Glenn Torrens］春学期授業/Spring 442
【A8108】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I ［Bridget Kim］春学期授業/Spring..... 443
【A8109】ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Bridget Kim］春学期授業/Spring 444
【A8110】ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Glenn Torrens］春学期授業/Spring 445
【A8111】ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 446
【A8112】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I ［Bridget Kim］春学期授業/Spring 447
【A8113】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I［Glenn Torrens］春学期授業/Spring 448
【A8114】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I［Sandor Dome］春学期授業/Spring 449
【A8115】ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I ［Jonathan Docherty］春学期授業/Spring ... 450
【A8116】ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I ［Bridget Kim］春学期授業/Spring..... 451
【A8117】ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I ［Bridget Kim］春学期授業/Spring..... 452
【A8150】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II［Glenn Torrens］秋学期授業/Fall 453
【A8151】ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 454
【A8152】ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II ［Bridget Kim］秋学期授業/Fall 455
【A8153】ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II ［Jonathan Docherty］秋学期授業/Fall . 456

【A8154】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II［Jonathan Docherty］秋学期授業/Fall 457
【A8155】ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II［Jonathan Docherty］秋学期授業/Fall 458
【A8156】ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II［Glenn Torrens］秋学期授業/Fall 459
【A8157】ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 460
【A8158】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II［Glenn Torrens］秋学期授業/Fall 461
【A8159】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II［Sandor Dome］秋学期授業/Fall 462
【A8160】ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II［Bridget Kim］秋学期授業/Fall 463
【A8161】ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II［Jonathan Docherty］秋学期授業/Fall 464
【A8162】ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II［Bridget Kim］秋学期授業/Fall . 465
【A8200】ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I［Bridget Kim］春学期授業/Spring 466
【A8201】ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I［Wendy Horikoshi］春学期授業/Spring 467
【A8202】ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I［Ryan Olimer］春学期授業/Spring 468
【A8203】ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I［Wendy Horikoshi］春学期授業/Spring 469
【A8204】ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I［Bridget Kim］春学期授業/Spring 470
【A8206】ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I［Andrew Finegan］春学期授業/Spring... 471
【A8250】ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II［Bridget Kim］秋学期授業/Fall 472
【A8251】ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II［Wendy Horikoshi］秋学期授業/Fall 473
【A8252】ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II［Ryan Olimer］秋学期授業/Fall 474
【A8253】ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II［Wendy Horikoshi］秋学期授業/Fall 475
【A8254】ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II［Bridget Kim］秋学期授業/Fall 476
【A8256】ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II［Andrew Finegan］秋学期授業/Fall 477
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】知的財産権［加納　昌彦］秋学期授業/Fall 478
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】知的財産権［加納　昌彦］秋学期授業/Fall.. 479
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1009】知的財産権［加納　昌彦］秋学期授業/Fall 480
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力［浅川　英理子、小野澤　雅人］秋学期授業/Fall 481
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力［浅川　英理子、小野澤　雅人］秋学期授業/Fall 482
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力［浅川　英理子、小野澤　雅人］秋学期授業/Fall 483
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring 484
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring. 485
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】環境とエネルギー［下田　昭郎］春学期授業/Spring 486
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 487
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 489
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1051】マーケティング［林　奈生子］秋学期授業/Fall 491
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論［井波　真弓］春学期授業/Spring..... 493
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論［井波　真弓］春学期授業/Spring 494
建築学科_基盤科目_留学生科目【B1066】日本文化論［井波　真弓］春学期授業/Spring..... 495
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1100】技術者倫理［山内　裕之］秋学期授業/Fall 496
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1150】数学 1［浜田　英明］春学期授業/Spring..... 498
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1264】工業力学及演習 X［山本　佳士］秋学期授業/Fall 499
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1265】工業力学及演習 Y［内田　大介］秋学期授業/Fall 500
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1266】図学及演習［山田　裕貴、髙栁　誠也、金城　正紀、今井　裕久］秋学期授業/Fall..... 501
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】ジオロジカルエンジニアリング［中谷　匡志］秋学期授業/Fall 502
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1300】技術者倫理［北原　義典］春学期授業/Spring 504
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2007】色彩論［大高　知子］秋学期授業/Fall..... 506

建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2009】哲学（２０１９年度以降入学生）［大西　悟、横山　奈那］秋学期授業/Fall 507
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2009】哲学（２０１９年度以降入学生）［大西　悟、横山　奈那］秋学期授業/Fall 509
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B2009】哲学（２０１９年度以降入学生）［大西　悟、横山　奈那］秋学期授業/Fall 510
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) . 512
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 513
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 514
建築学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策［土屋　愛自］春学期前半/Spring(1st half) 515
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策［土屋　愛自］春学期前半/Spring(1st half) 516
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策［土屋　愛自］春学期前半/Spring(1st half) . 517
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登］秋学期授業/Fall 518
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登］秋学期授業/Fall 519
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習［竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登］秋学期授業/Fall 520
建築学科_専門科目_導入科目【B2150】デザインスタジオ２（建築）W ［小堀　哲夫］秋学期授業/Fall 521
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 523
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 524
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 525
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 526
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 527
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 528
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 529
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 530
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B2230】導入ゼミナール（都市）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］春学期前半/Spring(1st half) 531
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2232】国土・地域概論［堀川　洋子、高見　公雄］秋学期授業/Fall 532
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2234】都市計画法と政策［土橋　悟］秋学期前半/Fall(1st half) .. 533
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2237】地盤力学及演習 X ［酒井　久和］春学期授業/Spring 534
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2238】地盤力学及演習 Y ［澤田　俊一］春学期授業/Spring 535
建築学科_専門科目_導入科目【B2250】デザインスタジオ２（建築）X ［小池　ひろの］秋学期授業/Fall 536
システムデザイン学科_専門科目_導入科目【B2344】デザインスタジオ２（SD) ［相川　真実、山田　泰之、飯村　武志、西岡　靖之、安積　伸］秋学期授業/Fall 538
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2346】図形科学基礎演習 X ［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall 540
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2347】図形科学基礎演習 Y ［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall 541
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2356】クリエーション基礎論［土屋　雅人、大西　景太］秋学期授業/Fall 542
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2357】プレゼンテーション技術 X ［豊島　純子］秋学期授業/Fall .. 543
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2358】プレゼンテーション技術 Y ［豊島　純子］秋学期授業/Fall .. 545
建築学科_専門科目_基礎科目【B2402】材料の力学［浜田　英明］春学期授業/Spring 547
建築学科_専門科目_基礎科目【B2405】骨組の力学［浜田　英明］秋学期授業/Fall 548
建築学科_専門科目_導入科目【B2450】デザインスタジオ２（建築）Y ［山道　拓人］秋学期授業/Fall 549
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2531】交通計画［今井　龍一］春学期前半/Spring(1st half) 551
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2533】建築設計基礎［瀬戸　健似、今井　裕久］秋学期授業/Fall. 552

都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2538】鋼構造デザイン実習［鈴木　泰之、山下　修平］春学期授業/Spring 553
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2545】工学実験２［鈴木　善晴、酒井　久和、鈴木　弘明、池田　勇司、道奥　康治、北條　幸雄］春学期後半/Spring(2nd half) 555
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2549】メンテナンス工学［溝渕　利明、臼井　則生］春学期前半/Spring(1st half) 556
建築学科_専門科目_導入科目【B2550】デザインスタジオ２（建築）Z［塩田　能也］秋学期授業/Fall 558
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2667】デザインシンキング（2019 年度以降入学生用）［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期後半/Fall(2nd half) 560
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2708】プロダクトデザイン理論［安積　伸］春学期授業/Spring 561
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2715】プロダクトデザイン１（２０１９年度以降入学生）［安積　伸、秋山　かおり、林　登志也］春学期授業/Spring 562
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2716】プロダクトデザイン２（２０１９年度以降入学生）［安積　伸、秋山　かおり、林　登志也］春学期授業/Spring 563
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2717】プロダクトデザイン３（２０１９年度以降入学生）［梶本　博司、宮沢　哲、谷口　武司、安積　伸］秋学期授業/Fall 564
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2718】プロダクトデザイン４（２０１９年度以降入学生）［梶本　博司、安積　伸、宮沢　哲、谷口　武司］秋学期授業/Fall 565
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2719】３ DCAD デザイン X（２０１９年度以降入学生）［渡辺　仙一郎］年間授業/Yearly 566
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2720】３ DCAD デザイン Y（２０１９年度以降入学生）［村田　桂太］年間授業/Yearly 567
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2728】インクルーシブデザイン（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）［安積　伸、三浦　秀彦］秋学期前半/Fall(1st half) 568
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2729】デザイン・バックキャスティング（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）［松山　祥樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 569
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2730】サービスＵＸデザイン（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）［平田　昌大］春学期後半/Spring(2nd half) 571
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2733】映像制作演習（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）［北村　拓司］秋学期前半/Fall(1st half) 573
建築学科_専門科目_基礎科目【B3010】ランドスケープデザイン［小木曽　裕］春学期授業/Spring 575
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3010】ランドスケープデザイン［小木曽　裕］春学期授業/Spring 577
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3010】ランドスケープデザイン［小木曽　裕］春学期授業/Spring .. 579
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 581
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3014】テクニカルライティング X［大友　敬三］秋学期授業/Fall .. 583
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B3014】テクニカルライティング X［大友　敬三］秋学期授業/Fall 585
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3014】テクニカルライティング X［大友　敬三］秋学期授業/Fall .. 587
システムデザイン学科_外国語科目_英語【B3015】テクニカルライティング Y［浅川　英理子］秋学期授業/Fall .. 589
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3015】テクニカルライティング Y［浅川　英理子］秋学期授業/Fall 591
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語【B3015】テクニカルライティング Y［浅川　英理子］秋学期授業/Fall 593
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学［牧野　倫子］春学期授業/Spring 595
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学［牧野　倫子］春学期授業/Spring 596
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野【B3016】数理統計学［牧野　倫子］春学期授業/Spring 597
建築学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント［藤澤　浩子、土屋　愛自］秋学期前半/Fall(1st half) 598
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント［藤澤　浩子、土屋　愛自］秋学期前半/Fall(1st half) 599
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3017】タウンマネジメント［藤澤　浩子、土屋　愛自］秋学期前半/Fall(1st half) 600
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3018】マテリアルサイエンス［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 601
建築学科_専門科目_基礎科目【B3018】マテリアルサイエンス［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 602
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3018】マテリアルサイエンス［伊崎　健晴］秋学期前半/Fall(1st half) 603
建築学科_専門科目_基礎科目【B3402】デザインスタジオ４［下吹越　武人、榮家　志保、岩佐　明彦、山﨑　健太郎、池田　賢、青木　弘司］秋学期授業/Fall 604
建築学科_専門科目_展開科目【B3403】デザインスタジオ５［下吹越　武人、山道　拓人、山田　紗子、御手洗　龍］春学期授業/Spring 605

建築学科_専門科目_展開科目【B3404】デザインスタジオ６［赤松　佳珠子、渡邉　健介、仲　俊治、平井　政俊］秋学期授業/Fall 607
建築学科_専門科目_基礎科目【B3413】建築材料［網野　禎昭］春学期前半/Spring(1st half) 609
建築学科_専門科目_展開科目【B3416】施工管理［三上　孝明］春学期授業/Spring 610
建築学科_専門科目_展開科目【B3417】木造建築の構法［網野　禎昭］秋学期後半/Fall(2nd half) 613
建築学科_専門科目_展開科目【B3427】空間の構造デザイン［浜田　英明］春学期授業/Spring 614
建築学科_専門科目_展開科目【B3428】鉄筋コンクリートのデザイン［浜田　英明］春学期授業/Spring 615
建築学科_専門科目_展開科目【B3446】構造計算プログラミング［浜田　英明］秋学期前半/Fall(1st half) 616
建築学科_専門科目_基礎科目【B3535】設備入門（２０１９年度以降入学生）［石川　裕司］春学期授業/Spring ... 617
建築学科_専門科目_展開科目【B3538】建築デザイン論１（２０１９年度以降入学生）［下吹越　武人、今村　創平］春学期授業/Spring 619
建築学科_専門科目_展開科目【B3539】建築デザイン論２（２０１９年度以降入学生）［赤松　佳珠子、山道　拓人］秋学期授業/Fall 620
建築学科_専門科目_基礎科目【B3541】構法スタジオ１（２０１９年度以降入学生）［永野　尚吾、網野　禎昭、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉］春学期前半/Spring(1st half) 621
建築学科_専門科目_基礎科目【B3542】構法スタジオ２（２０１９年度以降入学生）［永野　尚吾、網野　禎昭、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉］秋学期前半/Fall(1st half) 622
建築学科_専門科目_展開科目【B3544】ビルディングワークショップ（２０１９年度以降入学生）［浜田　英明］年間授業/Yearly 623
建築学科_専門科目_展開科目【B3545】ビルディングワークショップ（２０１９年度以降入学生）［宮田　雄二郎］年間授業/Yearly 624
建築学科_専門科目_展開科目【B3546】ビルディングワークショップ（２０１９年度以降入学生）［中山　翔太］年間授業/Yearly 625
建築学科_専門科目_展開科目【B3548】エンジニアリングスタジオ X（２０１９年度以降入学生）［浜田　英明］春学期授業/Spring 626
建築学科_専門科目_展開科目【B3549】エンジニアリングスタジオ Y（２０１９年度以降入学生）［川久保　俊］春学期授業/Spring 627
建築学科_専門科目_展開科目【B3550】エンジニアリングスタジオ Z（２０１９年度以降入学生）［宮田　雄二郎］春学期授業/Spring 628
建築学科_専門科目_展開科目【B3567】卒業制作２［宮田　雄二郎］秋学期授業/Fall 629
建築学科_専門科目_展開科目【B3568】卒業制作２［山道　拓人］秋学期授業/Fall 630
建築学科_専門科目_展開科目【B3569】卒業制作２［安藤　直見］秋学期授業/Fall 631
建築学科_専門科目_展開科目【B3570】卒業制作２［下吹越　武人］秋学期授業/Fall 632
建築学科_専門科目_展開科目【B3571】卒業制作２［網野　禎昭］秋学期授業/Fall 633
建築学科_専門科目_展開科目【B3572】卒業制作２［赤松　佳珠子］秋学期授業/Fall 634
建築学科_専門科目_展開科目【B3573】卒業制作２［浜田　英明］秋学期授業/Fall 635
建築学科_専門科目_展開科目【B3574】卒業制作２［川久保　俊］秋学期授業/Fall 636
建築学科_専門科目_展開科目【B3575】卒業制作２［高村　雅彦］秋学期授業/Fall 637
建築学科_専門科目_展開科目【B3576】卒業制作２［岩佐　明彦］秋学期授業/Fall 638
建築学科_専門科目_展開科目【B3577】卒業制作２［小堀　哲夫］秋学期授業/Fall 639
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3588】生態学概論（２０２３年度以降入学生）ＳＤ［山田　由美］秋学期授業/Fall 640
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3588】生態学概論（２０２３年度以降入学生）建築［山田　由美］秋学期授業/Fall 641
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B3591】図学設計基礎演習 X（２０２３年度以降入学生）［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall 642
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B3592】図学設計基礎演習 Y（２０２３年度以降入学生）［梶本　博司、石橋　忠人］秋学期授業/Fall 643
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3601】測量実習 X ［今井　龍一］春学期後半/Spring(2nd half) .. 644
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3602】測量実習 Y［大山　容一、渡辺　一博］春学期後半/Spring(2nd half) 645
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3611】都市調査解析［今井　龍一］春学期後半/Spring(2nd half). 646
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3617】構造力学２［小笠原　照夫］秋学期前半/Fall(1st half) 647
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 648
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 649

都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 650
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 651
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 652
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 653
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 654
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 655
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3630】ゼミナール［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 656
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3637】インターンシップ（都市）［山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall 657
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3645】上下水道システム［島田　裕康］秋学期前半/Fall(1st half) 658
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3649】PC 構造デザイン［酒井　秀昭］秋学期後半/Fall(2nd half) 659
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3660】建築法規（都市）［飯田　直彦］春学期前半/Spring(1st half) 660
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3662】海洋環境工学［東　博紀、越川　海］秋学期後半/Fall(2nd half) 662
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3670】卒業研究１（都市）［溝渕　利明］春学期授業/Spring 663
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3671】卒業研究１（都市）［今井　龍一］春学期授業/Spring 664
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3672】卒業研究１（都市）［内田　大介］春学期授業/Spring 665
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3674】卒業研究１（都市）［高見　公雄］春学期授業/Spring 666
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3676】卒業研究１（都市）［福島　秀哉、荻原　知子］春学期授業/Spring 667
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3677】卒業研究１（都市）［山本　佳士］春学期授業/Spring 668
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3678】卒業研究１（都市）［酒井　久和］春学期授業/Spring 669
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3679】卒業研究１（都市）［道奥　康治］春学期授業/Spring 670
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3680】卒業研究２（都市）［溝渕　利明］秋学期授業/Fall 671
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3681】卒業研究２（都市）［今井　龍一］秋学期授業/Fall 673
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3682】卒業研究２（都市）［内田　大介］秋学期授業/Fall 674
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3684】卒業研究２（都市）［高見　公雄］秋学期授業/Fall 675
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3686】卒業研究２（都市）［福島　秀哉、荻原　知子］秋学期授業/Fall 676
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3687】卒業研究２（都市）［山本　佳士］秋学期授業/Fall 678
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3688】卒業研究２（都市）［酒井　久和］秋学期授業/Fall 679
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3689】卒業研究２（都市）［道奥　康治］秋学期授業/Fall 680
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3698】バイオ・ケミカルエンジニアリング（２０１９年度以降入学生）［山田　由美］秋学期授業/Fall 682
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B3698】バイオ・ケミカルエンジニアリング（２０１９年度以降入学生）［山田　由美］秋学期授業/Fall 683
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 684
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 686
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 688
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 690
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 692
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 694
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 696
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall ... 698

都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目【B3700】基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）［溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介］秋学期授業/Fall … 700
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3704】鋼構造学及演習Ｘ（２０１９年度以降入学生）［内田　大介］秋学期授業/Fall … 702
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3705】鋼構造学及演習Ｙ（２０１９年度以降入学生）［平山　繁幸］秋学期授業/Fall … 703
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3709】デザインスタジオ（２０１９年度以降入学生）［高見　公雄、袴田　喜夫、金城　正紀、佐多　祐一、上條　慎司］春学期授業/Spring … 704
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3711】プロジェクトスタジオ（都市）（２０１９年度以降入学生）［高見　公雄、袴田　喜夫、椿　真吾］秋学期授業/Fall … 705
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3713】景観とデザイン（２０１９年度以降入学生）［西村　亮彦］春学期後半/Spring(2nd half) … 706
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3714】ジオテクニカルデザイン（２０１９年度以降入学生）［酒井　久和］春学期授業/Spring … 707
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3715】環境マネジメント（２０１９年度以降入学生）［弘末　文紀］秋学期前半/Fall(1st half) … 708
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3718】風土と建築（都市）（２０１９年度以降入学生）［高見　公雄、金城　正紀、桂　有生］秋学期授業/Fall … 710
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B3718】風土と建築（都市）（２０１９年度以降入学生）［高見　公雄、金城　正紀、桂　有生］秋学期授業/Fall … 711
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3809】メカトロニクス［木村　文信］秋学期後半/Fall(2nd half) … 712
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3812】システム工学［森　健一郎］春学期後半/Spring(2nd half) … 713
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3816】素材と機能［堀井　辰衛］春学期後半/Spring(2nd half) … 715
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント［池庄司　雅臣］秋学期授業/Fall … 717
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント［池庄司　雅臣］秋学期授業/Fall … 718
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント［池庄司　雅臣］秋学期授業/Fall … 719
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3831】プロジェクトマネジメント（ＳＤ）［村上　季史、永田　義昭］春学期授業/Spring … 720
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3846】プレゼンテーション技術（2023 年度以降入学生）［豊島　純子］秋学期授業/Fall … 722
【C0200】国際文化情報学の展開［和泉　順子］春学期授業/Spring … 724
【C0242】国際文化協力［松本　悟］春学期授業/Spring … 726
【C0243】平和学［松本　悟］秋学期授業/Fall … 727
【C0432】メディア表現法［大嶋　良明］秋学期授業/Fall … 728
【C0439】メディアアートの世界［大嶋　良明］春学期授業/Spring … 730
【C0810】道具のデザイン学［甲　洋介］春学期授業/Spring … 732
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理［大嶋　良明］春学期授業/Spring … 733
【C0860】マルチメディア表現法［大嶋　良明］春学期授業/Spring … 735
【C0883】空間デザイン論［前田　尚武］秋学期授業/Fall … 737
【C1040】国際関係研究Ⅰ［松本　悟］春学期授業/Spring … 739
【C1041】国際関係研究Ⅱ［松本　悟］秋学期授業/Fall … 740
【C1048】実践国際協力［松本　悟］秋学期授業/Fall … 741
【C1060】インターンシップ事前学習［岩下　弘史］春学期授業/Spring … 742
【C2119】国際環境政策Ⅱ［久谷　一朗、土井　菜保子］秋学期授業/Fall … 744
【C2208】ファシリテーション論［德田　太郎］春学期授業/Spring … 745
【C2226】ローカルスタディーズⅡ［坂本　昭夫］秋学期授業/Fall … 747
【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期授業/Spring … 748
【C2240】ファシリテーション論［德田　太郎］春学期授業/Spring … 751
【C2243】ファシリテーション論［德田　太郎］春学期授業/Spring … 753
【C2402】サイエンスカフェⅢ［高田　雅之］春学期授業/Spring … 755
【C2413】自然環境政策論Ⅰ［高田　雅之］春学期授業/Spring … 756
【C2414】自然環境政策論Ⅱ［高田　雅之］秋学期授業/Fall … 757
【C2416】環境科学Ⅰ［浦野　真弥］春学期授業/Spring … 758
【C2417】環境科学Ⅱ［藤倉　良］秋学期授業/Fall … 760
【C2418】環境科学Ⅲ［石渡　幹夫］サマーセッション/Summer Session … 761
【C2421】衛生・公衆衛生学Ⅲ［宮川　路子］春学期授業/Spring … 762
【C2433】自然環境論Ⅳ［高田　雅之］秋学期授業/Fall … 763

【C2500】環境管理論Ⅰ［大岡　健三］春学期授業/Spring 764
【C3024】研究会 A［長谷川　直哉］年間授業/Yearly 766
【C3035】研究会 A［高田　雅之］年間授業/Yearly 768
【C3049】研究会 B［長谷川　直哉］年間授業/Yearly 770
【C3052】研究会 A［高田　雅之］年間授業/Yearly 772
【C3054】研究会 B［永野　秀雄］春学期授業/Spring 774
【C3095】研究会 B［高田　雅之］年間授業/Yearly 775
展開科目／ Disciplinary & Elective Courses_Environment & Society【C3607】Environmental Science［Ryo FUJIKURA］秋学期授業/Fall 777
基幹科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7061】ビジネスキャリア入門D［酒井　理］秋学期授業/Fall 778
基幹科目_選択【C7081】ファシリテーション論［鈴木　まり子］春学期授業/Spring 780
基幹科目_選択【C7086】生活設計論Ⅱ（生活設計）［林　奈生子］秋学期授業/Fall 782
展開科目_選択必修（体験型）【C7117】キャリア体験事前指導（インターン）［松浦　民恵］春学期授業/Spring ... 784
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7156】臨床教育相談論Ⅰ［土屋　弥生］春学期授業/Spring 785
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7157】臨床教育相談論Ⅱ［土屋　弥生］秋学期授業/Fall 786
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7160】キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）［宮脇　優子］秋学期授業/Fall 787
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7163】教育相談［土屋　弥生］秋学期授業/Fall 788
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7166】教育相談［土屋　弥生］春学期授業/Spring 790
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7168】教育心理学［輕部　雄輝］春学期授業/Spring 792
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7183】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］秋学期授業/Fall 793
展開科目_選択必修（領域別）_発達・教育【C7186】図書館情報学概論Ⅱ［竹之内　明子］春学期授業/Spring 794
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7270】アントレプレナーシップ論Ⅰ［松本　真尚］春学期授業/Spring 795
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7271】アントレプレナーシップ論Ⅱ［松本　真尚］秋学期授業/Fall .. 797
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7274】シティズンシップ論［榎並　利博］春学期授業/Spring 799
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7278】産業論［青木　成樹］春学期授業/Spring 801
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7282】流通・サービスビジネス論［村田　茂］春学期授業/Spring..... 803
展開科目_選択必修（領域別）_ビジネス【C7283】就業機会発見実務［今井　道子］春学期授業/Spring 805
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7313】ＮＰＯ論［山口　佳子］秋学期授業/Fall 807
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7322】ミュージアム経営論［杉長　敬治］秋学期授業/Fall 808
展開科目_選択必修（体験型）【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2022 年度以降入学者用】［島村　泰子］春学期授業/Spring 810
展開科目_総合【C7351】職業能力ベーシックスキルⅠ【2021 年度以前入学者用】［島村　泰子］春学期授業/Spring 811
展開科目_総合【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2021 年度以前入学者用】［島村　泰子］秋学期授業/Fall.. 812
展開科目_選択必修（体験型）【C7352】職業能力ベーシックスキルⅡ【2022 年度以降入学者用】［島村　泰子］秋学期授業/Fall..... 814
演習科目【C7477】演習（ビジネス）［松浦　民恵］秋学期授業/Fall 816
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ［鈴木　美伸］春学期授業/Spring 817
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ［鈴木　美伸］秋学期授業/Fall 819
関連科目【C7905】図書館サービス概論［栗原　智久］秋学期授業/Fall..... 821
関連科目【C7948】現代生活・文化と社会教育Ⅰ［鈴木　悌遍］春学期授業/Spring 822
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5023】機械製図［五嶋　裕之］春学期授業/Spring 823
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5024】機械製図［吉田　一朗］春学期授業/Spring 825
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5049】設計工学［吉田　一朗］秋学期授業/Fall..... 827
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5065】宇宙工学［矢野　創］秋学期授業/Fall 829
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5075】製品開発工学［吉田　一朗］春学期授業/Spring..... 832
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5076】ＣＡＤ／ＣＡＭ／ＣＡＥ［平野　元久、吉田　一朗］秋学期授業/Fall 834
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5091】環境工学［西井　啓典］春学期授業/Spring 836
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5111】工業数学基礎演習［平野　元久、吉田　一朗］秋学期授業/Fall.. 838
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5119】図形科学［吉田　一朗］春学期授業/Spring 839
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5138】計測工学［吉田　一朗］春学期授業/Spring 841
電気電子工学科_学科専門科目【H5516】基礎電気電子材料工学［笠原　崇史］春学期授業/Spring..... 843
電気電子工学科_学科専門科目【H5520】ロボット知能［伊藤　一之］春学期授業/Spring 844
電気電子工学科_学科専門科目【H5528】基礎半導体工学［笠原　崇史］秋学期授業/Fall 845
電気電子工学科_学科専門科目【H5530】知的制御［伊藤　一之］秋学期授業/Fall 846
電気電子工学科_学科専門科目【H5541】電磁波情報工学［柴山　純］春学期授業/Spring 847
電気電子工学科_学科専門科目【H5566】認知ロボティクス［伊藤　一之］春学期授業/Spring 848

電気電子工学科_学科専門科目【H5580】電気機器設計［近藤　稔］春学期授業/Spring 849
電気電子工学科_学科専門科目【H5606】分布定数回路論［柴山　純］秋学期授業/Fall 851
電気電子工学科_学科専門科目【H5612】自然科学の方法（電気）［柴山　純］春学期授業/Spring 852
電気電子工学科_学科専門科目【H5661】制御工学入門［伊藤　一之］春学期授業/Spring 853
応用情報工学科_学科専門科目【H6006】セキュリティ概論［菊池　亮、野岡　弘幸］春学期授業/Spring 854
応用情報工学科_学科専門科目【H6007】基礎電気回路（情報）［品川　満］秋学期授業/Fall 856
応用情報工学科_学科専門科目【H6009】組込システムの基礎［足立　正二］春学期授業/Spring 857
応用情報工学科_学科専門科目【H6031】ユビキタス計算　［品川　満］秋学期授業/Fall 858
応用情報工学科_学科専門科目【H6034】ネットワークプログラミング［下村　道夫］秋学期授業/Fall 859
応用情報工学科_学科専門科目【H6047】情報ネットワーク設計論［上田　浩］春学期授業/Spring 861
応用情報工学科_学科専門科目【H6068】パターン認識［森　稔］春学期授業/Spring 862
応用情報工学科_学科専門科目【H6070】セキュアシステム設計［斉藤　典明］秋学期授業/Fall 863
応用情報工学科_学科専門科目【H6078】ユビキタスネットワーク［若林　哲］春学期授業/Spring 864
応用情報工学科_学科専門科目【H6102】インターネットプロトコル［原　潤一］秋学期授業/Fall 865
応用情報工学科_学科専門科目【H6110】クラウドコンピューティング［下村　道夫］秋学期授業/Fall 866
応用情報工学科_学科専門科目【H6159】電子回路［品川　満］春学期授業/Spring 867
経営システム工学科_学科専門科目【H6538】アクチュアリー数理［佐伯　利明］秋学期授業/Fall 868
経営システム工学科_学科専門科目【H6547】保険数理論［三戸　亮平］春学期授業/Spring 869
経営システム工学科_学科専門科目【H6558】国際経営分析［赤塚　正樹］春学期授業/Spring 870
経営システム工学科_学科専門科目【H6568】管理会計論［熊谷　均］秋学期授業/Fall 871
経営システム工学科_学科専門科目【H6596】公共経済学［宮越　龍義］秋学期授業/Fall 872
経営システム工学科_学科専門科目【H6800】オペレーションズリサーチＡ［千葉　英史］春学期授業/Spring 873
経営システム工学科_学科専門科目【H6807】金融システム論［宮越　龍義］春学期授業/Spring 874
経営システム工学科_学科専門科目【H6809】産業組織論［高野　直樹］春学期集中/Intensive(Spring) 875
経営システム工学科_学科専門科目【H6817】金融政策論［宮越　龍義］春学期授業/Spring 877
経営システム工学科_学科専門科目【H6850】社会システム［宮越　龍義］秋学期授業/Fall 878
学部共通科目【H7023】物質構造化学［緒方　啓典］秋学期授業/Fall 879
学部共通科目【H7033】物質機能化学［緒方　啓典］春学期授業/Spring 880
学部共通科目【H7035】物質循環化学［明石　孝也］秋学期授業/Fall 881
学部共通科目【H7040】蛋白工学［常重　アントニオ］秋学期授業/Fall 882
生命機能学科_学科専門科目【H7045】生体超分子［曽和　義幸］春学期授業/Spring 883
学部共通科目【H7083】分子生物学　ＩＩ［木口　悠也］秋学期授業/Fall 884
学部共通科目【H7085】生物化学　Ｉ［金丸　周司］春学期授業/Spring 885
学部共通科目【H7087】蛋白質構造機能学　Ｉ［廣野　雅文］春学期授業/Spring 886
学部共通科目【H7088】蛋白質構造機能学　ＩＩ［曽和　義幸］秋学期授業/Fall 887
学部共通科目【H7304】植物病学概論［濱本　宏］秋学期授業/Fall 888
生命機能学科_学科専門科目【H7551】生物化学　ＩＩ［西川正俊］秋学期授業/Fall 889
生命機能学科_学科専門科目【H7552】生物物理学　Ｉ［西川正俊］春学期授業/Spring 890
生命機能学科_学科専門科目【H7553】生物物理学　ＩＩ［曽和義幸］秋学期授業/Fall 891
学部共通科目【H7554】細胞生物学　Ｉ［金子　智行］春学期授業/Spring 892
学部共通科目【H7562】細胞構造機能学　Ｉ［川岸　郁朗］春学期授業/Spring 893
生命機能学科_学科専門科目【H7571】バイオエナジェティクス［常重　アントニオ］春学期授業/Spring 895
生命機能学科_学科専門科目【H7572】医用生体工学［金子　智行］秋学期授業/Fall 896
応用植物科学科_学科専門科目【H8005】植物病防除学［池田　健太郎］秋学期授業/Fall 897
学部共通科目【H8024】植物ウイルス学［津田　新哉］秋学期授業/Fall 898
応用植物科学科_学科専門科目【H8027】媒介システム学［津田　新哉］春学期授業/Spring 900
応用植物科学科_学科専門科目【H8028】植物メディカルシステム学［濱本　宏］春学期授業/Spring 901
応用植物科学科_学科専門科目【H8031】植物臨床医科学［池田　健太郎］春学期授業/Spring 902
応用植物科学科_学科専門科目【H8106】基礎植物害虫学［大井田　寛］秋学期授業/Fall 903
応用植物科学科_学科専門科目【H8113】応用植物害虫学［大井田　寛］春学期授業/Spring 904
環境応用化学科_学科専門科目【H8512】無機化学概論［明石　孝也］秋学期授業/Fall 905
環境応用化学科_学科専門科目【H8525】物理化学　Ｉ［緒方　啓典］春学期授業/Spring 906
環境応用化学科_学科専門科目【H8527】無機化学　Ｉ［石垣　隆正］春学期授業/Spring 907
環境応用化学科_学科専門科目【H8528】無機化学　ＩＩ［石垣　隆正］秋学期授業/Fall 908
環境応用化学科_学科専門科目【H8556】触媒化学［石垣　隆正］春学期授業/Spring 909
環境応用化学科_学科専門科目【H8581】環境化学工学応用［山下　明泰］春学期授業/Spring 910
環境応用化学科_学科専門科目【H8584】無機素材反応化学［明石　孝也］春学期授業/Spring 912

創生科学科_学科専門科目【H9017】解析力学［田中　幹人］春学期授業/Spring 913
創生科学科_学科専門科目【H9034】フィールドワークとモデル構成［福澤　レベッカ］秋学期授業/Fall 914
創生科学科_学科専門科目【H9062】数値計算［田村　祐介］春学期授業/Spring 915
創生科学科_学科専門科目【H9063】シミュレーション技法［田村　祐介］秋学期授業/Fall 916
創生科学科_学科専門科目【H9071】メディアインタラクション［鈴木　郁］春学期授業/Spring 917
創生科学科_学科専門科目【H9085】宇宙科学計測［田中　幹人］春学期授業/Spring 918
創生科学科_学科専門科目【H9086】データ発見と仮想天文台［田中　幹人］秋学期授業/Fall 919
創生科学科_学科専門科目【H9269】科学実験リテラシー［田中　幹人］春学期授業/Spring 920
創生科学科_学科専門科目【H9274】電気電子回路の基礎［鈴木　郁］春学期授業/Spring 921
創生科学科_学科専門科目【H9278】数理モデルと統計［田中　幹人］春学期授業/Spring 923
専門教育科目_専門科目【J0406】コンピュータシステム入門 2［小池　崇文］秋学期授業/Fall 924
専門教育科目_専門科目【J0439】最適化［佐藤　裕二］秋学期授業/Fall 925
専門教育科目_専門科目【J0511】形式言語とオートマトン［藤田　悟］春学期授業/Spring 926
専門教育科目_専門科目【J0515】プログラミング演習 2(C/C++)［小池　崇文］春学期授業/Spring 928
専門教育科目_専門科目【J0530】新ネットワーク理論［廣津　登志夫］春学期授業/Spring 929
専門教育科目_専門科目【J0537】データベース［日高　宗一郎］秋学期授業/Fall 931
専門教育科目_専門科目【J0540】人工知能［藤田　悟］秋学期授業/Fall 932
専門教育科目_専門科目【J0548】CG のための幾何学［小池　崇文］春学期授業/Spring 934
専門教育科目_専門科目【J0551】プログラミング (MATLAB)［伊藤　克亘］秋学期授業/Fall 935
専門教育科目_専門科目【J0555】ディジタル信号処理［高村　誠之］春学期授業/Spring 937
専門教育科目_専門科目【J0556】画像処理［花泉　弘］秋学期授業/Fall 938
【K5353】物理学Ａ［藤田　貢崇］春学期授業/Spring 939
【K5354】物理学Ｂ［藤田　貢崇］秋学期授業/Fall 940
【K5355】物理学Ａ［藤田　貢崇］春学期授業/Spring 941
【K5356】物理学Ｂ［藤田　貢崇］秋学期授業/Fall 942
General Education Courses ／総合教育科目_Tama Campus General Education Courses ／多摩総合教育科目
【K5365】Basic Science for Global Environment A［DOUGLAS HUNGWE］春学期授業/Spring 943
General Education Courses ／総合教育科目_Tama Campus General Education Courses ／多摩総合教育科目
【K5366】Basic Science for Global Environment B［DOUGLAS HUNGWE］秋学期授業/Fall 944
【K6243】社会保障論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 945
【K6244】社会保障論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 946
【K6501】特別講義 （寄付講座　証券市場論）［大和証券（株)］春学期授業/Spring 947
【L0106】職業社会論［依田　素味］秋学期授業/Fall 948
【L0131】コンピュータ入門［湯本　正実］春学期授業/Spring 949
【L0132】プログラミング入門［湯本　正実］秋学期授業/Fall 950
【L0509】スポーツ総合２-Ⅰ（バドミントン）［升　佑二郎］春学期授業/Spring 951
【L0510】スポーツ総合２-Ⅱ（バドミントン）［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 952
【L0511】スポーツ総合２-Ⅰ（バドミントン）［升　佑二郎］春学期授業/Spring 953
【L0512】スポーツ総合２-Ⅱ（バドミントン）［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 954
【L1401】演習１［青木　貞茂］年間授業/Yearly 955
【L1402】演習２［青木　貞茂］年間授業/Yearly 957
【L1403】演習３（卒業論文）［青木　貞茂］年間授業/Yearly 959
【L1446】演習１・２［岡野内　正］年間授業/Yearly 961
【L1448】演習３（卒業論文）［岡野内　正］年間授業/Yearly 962
【L1680】演習１［長沼　建一郎］年間授業/Yearly 964
【L1681】演習２［長沼　建一郎］年間授業/Yearly 965
【L1682】演習３（卒業論文）［長沼　建一郎］年間授業/Yearly 966
教職関係科目【L3107】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 967
教職関係科目【L3108】教育心理学［安齊　順子］秋学期授業/Fall 968
資格関係科目【L3153】生涯学習支援論［栗山　究］年間授業/Yearly 969
教職関係科目【L3160】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］春学期授業/Spring 971
教職関係科目【L3161】特別な教育的ニーズの理解と支援［山下　洋児］秋学期授業/Fall 972
教職関係科目【L3162】総合的な学習の時間の指導法［本山　明］春学期授業/Spring 973
教職関係科目【L3163】総合的な学習の時間の指導法［本山　明］秋学期授業/Fall 974
【L5013】基礎演習Ⅰ［岡野内　正］春学期授業/Spring 975
【L5014】基礎演習Ⅱ［岡野内　正］秋学期授業/Fall 976
【L5092】基礎演習Ⅰ［中村　尚樹］春学期授業/Spring 977

【L5093】基礎演習Ⅱ［中村　尚樹］秋学期授業/Fall 978
【LA019】政策と制度［長沼　建一郎］春学期授業/Spring 979
【LA201】サステイナビリティ論Ｂ［長沼　建一郎］秋学期授業/Fall 980
【LA210】社会保障法Ⅰ［長沼　建一郎］春学期授業/Spring 981
【LA211】社会保障法Ⅱ［長沼　建一郎］秋学期授業/Fall 982
【LA300】グローバル市民社会論Ａ［岡野内　正］春学期授業/Spring 983
【LA308】国際協力論［岡野内　正］秋学期授業/Fall 984
【LA309】イスラム社会論［岡野内　正］秋学期授業/Fall 985
【LD010-a】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］春学期授業/Spring 986
【LD010-b】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］秋学期授業/Fall 987
【LD010-c】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］春学期授業/Spring 988
【LD010-d】クリエイティブ・ライティング［梨屋　アリエ］秋学期授業/Fall 989
【LD017】プログラミングと論理的思考［湯本　正実］春学期授業/Spring 990
【LD018-b】ウェブ・プログラミングＡ［湯本　正実］春学期授業/Spring 991
【LD022-a】メディアプログラミング実習［湯本　正実］春学期授業/Spring 992
【LD022-b】メディアプログラミング実習［湯本　正実］秋学期授業/Fall 993
【LD101-a】映像制作技法［小坂　一順］春学期授業/Spring 994
【LD102-b】映像制作実習［小坂　一順］秋学期授業/Fall 995
【LD103】広告・消費文化論［青木　貞茂］春学期授業/Spring 997
【LD104】広告・ＰＲ論［青木　貞茂］秋学期授業/Fall 998
【LD105】広告制作実習［青木　貞茂］春学期授業/Spring 999
【LD111-b】ニュース・ライティング［飯田　裕美子］秋学期授業/Fall 1000
【LD112】メディア社会学特講（表現）［青木　貞茂］秋学期授業/Fall 1001
【LD125】広告制作実習［青木　貞茂］秋学期授業/Fall 1002
【LL007-d】プログラミング初級［湯本　正実］秋学期授業/Fall 1003
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0530】経営学［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1004
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0550】コミュニケーション論［山本　浩］春学期授業/Spring 1006
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0600】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1008
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0601】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1010
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0602】情報リテラシーⅠ［新海　貴弘］春学期授業/Spring 1012
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0610】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 1014
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0611】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 1016
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0612】情報リテラシーⅡ［新海　貴弘］秋学期授業/Fall 1018
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0710】障害者福祉論［山岸　倫子］春学期授業/Spring 1020
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）【M0730】基礎科学［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1021
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1040】スポーツ哲学［小田　佳子］春学期授業/Spring 1022
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）【M1140】スポーツ史［山本　浩］秋学期授業/Fall 1023
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M1650】スポーツ文化論［山本　浩］春学期授業/Spring 1025
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】スポーツリスクマネジメント［木下　訓光］春学期授業/Spring 1027
専門教育科目_専門基幹科目【M1780】予防医学概論［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1029
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2060】運動処方・負荷テスト［木下　訓光］春学期授業/Spring 1030
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2080】生活習慣病と身体活動［木下　訓光］春学期授業/Spring 1032
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2090】運動生理学［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1034
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2191】運動負荷テスト実習［木下　訓光］秋学期授業/Fall 1035
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2321】スポーツ医科学実習　［木下　訓光、瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1037
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2370】スポーツ医学Ａ［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1039
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M2400】スポーツ医学Ｂ［瀬戸　宏明］秋学期授業/Fall 1040
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3020】スポーツ経済論［宮下　量久］秋学期授業/Fall 1041
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】スポーツメディア論［山本　浩］秋学期授業/Fall 1042
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4380】バドミントン指導論演習［升　佑二郎］秋学期授業/Fall 1044
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4550】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall 1045
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4551】剣道指導論演習［小田　佳子］秋学期授業/Fall 1046
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目【M4640】バドミントン実習［升　佑二郎］春学期授業/Spring 1047
専門教育科目_専門演習【M5016】専門演習Ⅰ［木下　訓光］年間授業/Yearly 1048
専門教育科目_専門演習【M5028】専門演習Ⅰ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 1049
専門教育科目_専門演習【M5116】専門演習Ⅱ［木下　訓光］年間授業/Yearly 1051

専門教育科目_専門演習【M5126】専門演習Ⅱ［山本　浩］年間授業/Yearly 1053
専門教育科目_専門演習【M5128】専門演習Ⅱ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 1055
専門教育科目_専門演習【M5216】専門演習Ⅲ［木下　訓光］年間授業/Yearly 1056
専門教育科目_専門演習【M5226】専門演習Ⅲ［山本　浩］年間授業/Yearly 1058
専門教育科目_専門演習【M5228】専門演習Ⅲ［瀬戸　宏明］年間授業/Yearly 1060
【N0004】基礎演習Ⅰ（D・Q クラス）［西田　ちゆき］春学期授業/Spring 1061
【N0005】基礎演習Ⅰ（E・R クラス）［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1062
【N0006】基礎演習Ⅰ（F・S クラス）［水野　雅男］春学期授業/Spring 1063
【N0008】基礎演習Ⅰ（H・U クラス）［岩田　千亜紀］春学期授業/Spring 1064
【N0010】基礎演習Ⅰ（J・W クラス）［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1065
【N0016】基礎演習Ⅱ（D・Q クラス）［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 1066
【N0017】基礎演習Ⅱ（E・R クラス）［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 1067
【N0018】基礎演習Ⅱ（F・S クラス）［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1068
【N0020】基礎演習Ⅱ（H・U クラス）［岩田　千亜紀］秋学期授業/Fall 1069
【N0022】基礎演習Ⅱ（J・W クラス）［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1070
【N0025】フィールドスタディ入門［水野　雅男、眞保　智子、丹羽　郁夫］秋学期授業/Fall 1071
【N0151】人体の構造と機能及び疾病［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1072
【N0152】リハビリテーション概論［渡邊　塁、後藤　圭介、酒井　克也］秋学期授業/Fall 1073
【N1001】地域問題入門［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1074
【N1003】社会問題論［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1075
【N1005】ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 1076
【N1051】地域福祉論［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1077
【N1052】社会的包摂論［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1078
【N1053】地域計画論［今井　裕久］秋学期授業/Fall 1079
【N1055】ローカルイノベーション論［野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦］秋学期授業/Fall 1080
【N1056】ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）Ⅱ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1081
【N1057】ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 1082
【N1058】心理学的支援法［末武　康弘］春学期授業/Spring 1083
【N1059】アジア地域開発論（2020 年度以前入学者）［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1084
【N1059】アジア地域開発論（2021 年度以降入学者）［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1085
【N1107】都市住宅政策論［水野　雅男］春学期授業/Spring 1086
【N1111】政策評価論［倉根　明徳］サマーセッション/Summer Session 1087
【N1114】刑事司法と福祉［辰野　文理］春学期授業/Spring 1088
【N1116】国際協力論［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 1089
【N1117】Community Based Inclusive Development［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1090
【N1159】災害支援論［青木　信夫、正谷　絵美、松井　正雄］春学期授業/Spring 1091
【N1165・N6165】地域ツーリズム［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1092
【N1172】Disability and Development in Asia［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 1093
【N1204】子ども家庭福祉論［板倉　香子］秋学期授業/Fall 1094
【N1207】権利擁護と成年後見［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 1095
【N1209】スクールソーシャルワーク［宮地　さつき］春学期授業/Spring 1096
【N1210】ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring 1097
【N1211】多文化ソーシャルワーク［中條　桂子］春学期授業/Spring 1098
【N1212】死生観とソーシャルワーク［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1099
【N1216】精神疾患とその治療［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1100
【N1217】臨床心理学概論［金築　優］春学期授業/Spring 1101
【N1225】教育心理学特講［大瀧　玲子］サマーセッション/Summer Session 1102
【N1454】公認心理師の職責［津村　麻紀］秋学期授業/Fall 1103
【N1505】臨床心理学特講［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1104
【N1506】精神分析学［中　康］秋学期授業/Fall 1105
【N1507】児童精神医学［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1106
【N1508】認知行動療法［金築　優］秋学期授業/Fall 1107
【N1511】投映法特講［津村　麻紀］春学期授業/Spring 1108
【N2001】ソーシャルワーク演習Ⅰ［安西　美咲］秋学期授業/Fall 1109
【N2002】ソーシャルワーク演習Ⅰ［小野田　由実子］秋学期授業/Fall 1110
【N2003】ソーシャルワーク演習Ⅰ［中條　桂子］秋学期授業/Fall 1111
【N2004】ソーシャルワーク演習Ⅰ［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall 1112

【N2011】ソーシャルワーク演習Ⅱ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 1113
【N2012】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岩田　美香］春学期授業/Spring …… 1114
【N2013】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岡田　栄作］春学期授業/Spring …… 1115
【N2015】ソーシャルワーク演習Ⅱ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring …… 1116
【N2016】ソーシャルワーク演習Ⅱ［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1117
【N2017】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岩田　千亜紀］春学期授業/Spring …… 1118
【N2018】ソーシャルワーク演習Ⅱ［山崎　禎広］春学期授業/Spring …… 1119
【N2021】ソーシャルワーク演習Ⅲ［安西　美咲］春学期授業/Spring …… 1120
【N2022】ソーシャルワーク演習Ⅲ［小野田　由実子］春学期授業/Spring …… 1121
【N2023】ソーシャルワーク演習Ⅲ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring …… 1122
【N2024】ソーシャルワーク演習Ⅲ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1123
【N2031】ソーシャルワーク演習Ⅳ［安西　美咲］春学期授業/Spring …… 1124
【N2032】ソーシャルワーク演習Ⅳ［小野田　由実子］春学期授業/Spring …… 1125
【N2033】ソーシャルワーク演習Ⅳ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring …… 1126
【N2034】ソーシャルワーク演習Ⅳ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1127
【N2035】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1128
【N2036】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1129
【N2037】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1130
【N2038】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1131
【N2051】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall …… 1132
【N2052】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［岩田　美香］秋学期授業/Fall …… 1133
【N2053】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［岡田　栄作］秋学期授業/Fall …… 1134
【N2054】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［金　慧英］秋学期授業/Fall …… 1135
【N2055】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 1136
【N2056】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［宮城　孝］秋学期授業/Fall …… 1137
【N2057】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［岩田　千亜紀］秋学期授業/Fall …… 1138
【N2058】ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［山崎　禎広］秋学期授業/Fall …… 1139
【N2061】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 1140
【N2062】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［岩田　美香］春学期授業/Spring …… 1141
【N2063】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［岡田　栄作］春学期授業/Spring …… 1142
【N2065】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring …… 1143
【N2066】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1144
【N2067】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［岩田　千亜紀］春学期授業/Spring …… 1145
【N2068】ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［山崎　禎広］春学期授業/Spring …… 1146
【N2071】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall …… 1147
【N2072】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［岩田　美香］秋学期授業/Fall …… 1148
【N2073】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［岡田　栄作］秋学期授業/Fall …… 1149
【N2075】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 1150
【N2076】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［宮城　孝］秋学期授業/Fall …… 1151
【N2077】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［岩田　千亜紀］秋学期授業/Fall …… 1152
【N2078】ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［山崎　禎広］秋学期授業/Fall …… 1153
【N2081】ソーシャルワーク実習Ⅰ［伊藤　正子］スプリングセッション/Spring Session …… 1154
【N2082】ソーシャルワーク実習Ⅰ［岩田　美香］スプリングセッション/Spring Session …… 1155
【N2083】ソーシャルワーク実習Ⅰ［岡田　栄作］スプリングセッション/Spring Session …… 1156
【N2085】ソーシャルワーク実習Ⅰ［佐藤　繭美］スプリングセッション/Spring Session …… 1157
【N2086】ソーシャルワーク実習Ⅰ［宮城　孝］スプリングセッション/Spring Session …… 1158
【N2087】ソーシャルワーク実習Ⅰ［岩田　千亜紀］スプリングセッション/Spring Session …… 1159
【N2088】ソーシャルワーク実習Ⅰ［山崎　禎広］スプリングセッション/Spring Session …… 1160
【N2091】ソーシャルワーク実習Ⅱ［伊藤　正子］年間授業/Yearly …… 1161
【N2092】ソーシャルワーク実習Ⅱ［岩田　美香］年間授業/Yearly …… 1162
【N2093】ソーシャルワーク実習Ⅱ［岡田　栄作］年間授業/Yearly …… 1163
【N2094】ソーシャルワーク実習Ⅱ［金　慧英］年間授業/Yearly …… 1164
【N2095】ソーシャルワーク実習Ⅱ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly …… 1165
【N2096】ソーシャルワーク実習Ⅱ［宮城　孝］年間授業/Yearly …… 1166
【N2097】ソーシャルワーク実習Ⅱ［岩田　千亜紀］年間授業/Yearly …… 1167
【N2098】ソーシャルワーク実習Ⅱ［山崎　禎広］年間授業/Yearly …… 1168
【N2101】精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ［眞保　智子］春学期授業/Spring …… 1169

【N2102】精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1170
【N2103】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1171
【N2104】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ［眞保　智子］春学期授業/Spring 1172
【N2105】精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ［眞保　智子］秋学期授業/Fall 1173
【N2106】精神保健ソーシャルワーク実習［眞保　智子］年間授業/Yearly 1174
【N2151】スクールソーシャルワーク演習［岩田　美香］春学期授業/Spring 1175
【N2152】スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ［岩田　美香］春学期授業/Spring 1176
【N2153】スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ［岩田　美香］秋学期授業/Fall 1177
【N2154】スクールソーシャルワーク実習［岩田　美香］年間授業/Yearly 1178
【N2201】コミュニティマネジメント・リサーチ［水野　雅男、土肥　将敦］秋学期授業/Fall 1179
【N2202】コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］春学期授業/Spring 1180
【N2203】コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ［佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1181
【N2501】心理演習Ⅰ［金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵］春学期授業/Spring 1182
【N2502】心理演習Ⅱ［金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵］秋学期授業/Fall 1183
【N2503】心理実習［金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、関谷　秀子、服部　環、小田　友理恵、久保田幹子］年間授業/Yearly 1184
【N3001】専門演習ＩＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1185
【N3002】専門演習ＩＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1186
【N3003】専門演習ＩＡ［岩田　美香］春学期授業/Spring 1187
【N3006】専門演習ＩＡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1188
【N3007】専門演習ＩＡ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1189
【N3008】専門演習ＩＡ［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1190
【N3012】専門演習ＩＡ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1191
【N3013】専門演習ＩＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring 1192
【N3014】専門演習ＩＡ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1193
【N3015】専門演習ＩＡ［金築　優］春学期授業/Spring 1194
【N3018】専門演習ＩＡ［末武　康弘］春学期授業/Spring 1195
【N3019】専門演習ＩＡ［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1196
【N3031】専門演習ＩＢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1197
【N3032】専門演習ＩＢ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1198
【N3033】専門演習ＩＢ［岩田　美香］秋学期授業/Fall 1199
【N3036】専門演習ＩＢ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1200
【N3037】専門演習ＩＢ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall 1201
【N3038】専門演習ＩＢ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall 1202
【N3042】専門演習ＩＢ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall 1203
【N3043】専門演習ＩＢ［水野　雅男］秋学期授業/Fall 1204
【N3044】専門演習ＩＢ［宮城　孝］秋学期授業/Fall 1205
【N3045】専門演習ＩＢ［金築　優］秋学期授業/Fall 1206
【N3048】専門演習ＩＢ［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1207
【N3049】専門演習ＩＢ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1208
【N3061】専門演習ⅡＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring 1209
【N3062】専門演習ⅡＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring 1210
【N3063】専門演習ⅡＡ［岩田　美香］春学期授業/Spring 1211
【N3065】専門演習ⅡＡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring 1212
【N3066】専門演習ⅡＡ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1213
【N3067】専門演習ⅡＡ［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1214
【N3071】専門演習ⅡＡ［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1215
【N3073】専門演習ⅡＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring 1216
【N3074】専門演習ⅡＡ［宮城　孝］春学期授業/Spring 1217
【N3075】専門演習ⅡＡ［永田　真吾］春学期授業/Spring 1218
【N3076】専門演習ⅡＡ［金築　優］春学期授業/Spring 1219
【N3078】専門演習ⅡＡ［末武　康弘］春学期授業/Spring 1220
【N3079】専門演習ⅡＡ［関谷　秀子］春学期授業/Spring 1221
【N3091】専門演習ⅡＢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall 1222
【N3092】専門演習ⅡＢ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall 1223
【N3093】専門演習ⅡＢ［岩田　美香］秋学期授業/Fall 1224
【N3095】専門演習ⅡＢ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall 1225

【N3096】専門演習ⅡＢ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 1226
【N3097】専門演習ⅡＢ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall …… 1227
【N3101】専門演習ⅡＢ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall …… 1228
【N3103】専門演習ⅡＢ［水野　雅男］秋学期授業/Fall …… 1229
【N3104】専門演習ⅡＢ［宮城　孝］秋学期授業/Fall …… 1230
【N3105】専門演習ⅡＢ［永田　真吾］秋学期授業/Fall …… 1231
【N3106】専門演習ⅡＢ［金築　優］秋学期授業/Fall …… 1232
【N3108】専門演習ⅡＢ［末武　康弘］秋学期授業/Fall …… 1233
【N3109】専門演習ⅡＢ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall …… 1234
【N3121】専門演習ⅢＡ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 1235
【N3122】専門演習ⅢＡ［岩崎　晋也］春学期授業/Spring …… 1236
【N3123】専門演習ⅢＡ［岩田　美香］春学期授業/Spring …… 1237
【N3125】専門演習ⅢＡ［髙良　麻子］春学期授業/Spring …… 1238
【N3126】専門演習ⅢＡ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring …… 1239
【N3127】専門演習ⅢＡ［佐野　竜平］春学期授業/Spring …… 1240
【N3131】専門演習ⅢＡ［野田　岳仁］春学期授業/Spring …… 1241
【N3133】専門演習ⅢＡ［水野　雅男］春学期授業/Spring …… 1242
【N3134】専門演習ⅢＡ［永田　真吾］春学期授業/Spring …… 1243
【N3135】専門演習ⅢＡ［金築　優］春学期授業/Spring …… 1244
【N3137】専門演習ⅢＡ［末武　康弘］春学期授業/Spring …… 1245
【N3138】専門演習ⅢＡ［関谷　秀子］春学期授業/Spring …… 1246
【N3151】専門演習ⅢＢ［伊藤　正子］秋学期授業/Fall …… 1247
【N3152】専門演習ⅢＢ［岩崎　晋也］秋学期授業/Fall …… 1248
【N3153】専門演習ⅢＢ［岩田　美香］秋学期授業/Fall …… 1249
【N3155】専門演習ⅢＢ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1250
【N3156】専門演習ⅢＢ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 1251
【N3157】専門演習ⅢＢ［佐野　竜平］秋学期授業/Fall …… 1252
【N3161】専門演習ⅢＢ［野田　岳仁］秋学期授業/Fall …… 1253
【N3163】専門演習ⅢＢ［水野　雅男］秋学期授業/Fall …… 1254
【N3164】専門演習ⅢＢ［永田　真吾］秋学期授業/Fall …… 1255
【N3165】専門演習ⅢＢ［金築　優］秋学期授業/Fall …… 1256
【N3167】専門演習ⅢＢ［末武　康弘］秋学期授業/Fall …… 1257
【N3168】専門演習ⅢＢ［関谷　秀子］秋学期授業/Fall …… 1258
【N3201】卒業論文［伊藤　正子］年間授業/Yearly …… 1259
【N3202】卒業論文［岩崎　晋也］年間授業/Yearly …… 1260
【N3203】卒業論文［岩田　美香］年間授業/Yearly …… 1261
【N3205】卒業論文［髙良　麻子］年間授業/Yearly …… 1262
【N3206】卒業論文［佐藤　繭美］年間授業/Yearly …… 1263
【N3207】卒業論文［佐野　竜平］年間授業/Yearly …… 1264
【N3211】卒業論文［野田　岳仁］年間授業/Yearly …… 1265
【N3213】卒業論文［水野　雅男］年間授業/Yearly …… 1266
【N3214】卒業論文［永田　真吾］年間授業/Yearly …… 1267
【N3215】卒業論文［金築　優］年間授業/Yearly …… 1268
【N3217】卒業論文［末武　康弘］年間授業/Yearly …… 1269
【N3218】卒業論文［関谷　秀子］年間授業/Yearly …… 1270
【N5026】キャリアデザイン論［大八木　智一］春学期授業/Spring …… 1271
【N5027】キャリアデザイン論［大八木　智一］春学期授業/Spring …… 1274
【N5151】医学概論［瀬戸　宏明］春学期授業/Spring …… 1276
【N6002】まちづくりの思想［水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、佐野　竜平、野田　岳仁］春学期授業/Spring 1277
【N6005】ソーシャルワークⅠ［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 1278
【N6006】ソーシャルワークⅠ（相談援助の基盤と専門職）［佐藤　繭美］秋学期授業/Fall …… 1279
【N6055】地域の歴史と文化［野田　岳仁］秋学期授業/Fall …… 1280
【N6056】コミュニティソーシャルワーク［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1281
【N6057】ソーシャルワークⅢ［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall …… 1282
【N6058】カウンセリング［末武　康弘］春学期授業/Spring …… 1283
【N6059】現代福祉特講（国際地域開発）［佐野　竜平］春学期授業/Spring …… 1284
【N6060】ソーシャルワークⅢ（方法）［西田　ちゆき］秋学期授業/Fall …… 1285

【N6114】司法福祉論［辰野　文理］春学期授業/Spring …… 1286
【N6116】国際支援論［佐野　竜平］秋学期授業/Fall …… 1287
【N6210】ソーシャルワークⅡ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1288
【N6212】ソーシャルワークⅡ（理論）［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1289
【N6216】精神医学［関谷　秀子］秋学期授業/Fall …… 1290
【N6217】臨床心理学Ⅰ［金築　優］春学期授業/Spring …… 1291
【N6218】臨床心理学［金築　優］春学期授業/Spring …… 1292
【N6225】教育心理学［大瀧　玲子］サマーセッション/Summer Session …… 1293
【N6505】臨床心理学Ⅱ［末武　康弘］秋学期授業/Fall …… 1294
【N6511】投映法特論［津村　麻紀］春学期授業/Spring …… 1295
【N7011】ソーシャルワーク演習Ⅱ［伊藤　正子］春学期授業/Spring …… 1296
【N7012】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岩田　美香］春学期授業/Spring …… 1297
【N7013】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岡田　栄作］春学期授業/Spring …… 1298
【N7015】ソーシャルワーク演習Ⅱ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring …… 1299
【N7016】ソーシャルワーク演習Ⅱ［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1300
【N7017】ソーシャルワーク演習Ⅱ［岩田　千亜紀］春学期授業/Spring …… 1301
【N7018】ソーシャルワーク演習Ⅱ［山崎　禎広］春学期授業/Spring …… 1302
【N7021】ソーシャルワーク演習Ⅲ［安西　美咲］春学期授業/Spring …… 1303
【N7022】ソーシャルワーク演習Ⅲ［小野田　由実子］春学期授業/Spring …… 1304
【N7023】ソーシャルワーク演習Ⅲ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring …… 1305
【N7024】ソーシャルワーク演習Ⅲ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1306
【N7031】ソーシャルワーク演習Ⅳ［安西　美咲］春学期授業/Spring …… 1307
【N7032】ソーシャルワーク演習Ⅳ［小野田　由実子］春学期授業/Spring …… 1308
【N7033】ソーシャルワーク演習Ⅳ［島谷　綾郁］春学期授業/Spring …… 1309
【N7034】ソーシャルワーク演習Ⅳ［西田　ちゆき］春学期授業/Spring …… 1310
【N7035】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1311
【N7036】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1312
【N7037】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1313
【N7038】ソーシャルワーク演習Ⅴ［髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1314
【N7091】ソーシャルワーク実習［伊藤　正子］年間授業/Yearly …… 1315
【N7092】ソーシャルワーク実習［岩田　美香］年間授業/Yearly …… 1316
【N7093】ソーシャルワーク実習［岡田　栄作］年間授業/Yearly …… 1317
【N7095】ソーシャルワーク実習［佐藤　繭美］年間授業/Yearly …… 1318
【N7096】ソーシャルワーク実習［宮城　孝］年間授業/Yearly …… 1319
【N7097】ソーシャルワーク実習［岩田　千亜紀］年間授業/Yearly …… 1320
【N7098】ソーシャルワーク実習［山崎　禎広］年間授業/Yearly …… 1321
【N7501】臨床心理実習指導Ⅰ［金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵］春学期授業/Spring 1322
【N7502】臨床心理実習指導Ⅱ［金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵］秋学期授業/Fall 1323
【N7503】臨床心理実習［金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、関谷　秀子、服部　環、小田　友理恵、久保田　幹子］年間授業/Yearly …… 1324
【N8001】ケアマネジメント論［柴崎　祐美］春学期授業/Spring …… 1325
福祉社会専攻_専門共通科目【S0001】福祉社会研究法Ⅰ［野田　岳仁、土肥　将敦、岡田　栄作、金　慧英］春学期授業/Spring …… 1326
福祉社会専攻_専門共通科目【S0003】地域共生社会特論［水野　雅男、佐野　竜平、図司　直也、布川　日佐史、宮城　孝、眞保　智子］秋学期授業/Fall …… 1328
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0005】ソーシャルワーク特論Ⅰ［佐藤　繭美］春学期授業/Spring 1329
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0007】ソーシャルワーク理論研究特論［伊藤　正子］秋学期授業/Fall …… 1330
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0009】ソーシャルワーク・スーパービジョン［佐藤　繭美、岩田　美香、伊藤　正子、髙良　麻子］秋学期授業/Fall …… 1331
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0010】地域福祉特論［宮城　孝］春学期授業/Spring …… 1332
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0011】児童福祉特論［岩田　美香］春学期授業/Spring …… 1333
福祉社会専攻_専門展開科目（ソーシャルワーク系）【S0013】障害者福祉特論［眞保　智子］春学期授業/Spring …… 1334
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0021】地域経営特論［土肥　将敦］秋学期授業/Fall …… 1335
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0022】都市・住宅政策特論［水野　雅男］春学期授業/Spring …… 1336
福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0025】地域環境特論［野田　岳仁］春学期授業/Spring 1337

福祉社会専攻_専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）【S0026】アジア地域開発特論［佐野　竜平］春学期授業/Spring 1338
福祉社会専攻_専門共通科目【S0031】福祉社会研究法［野田　岳仁、土肥　将敦、岡田　栄作、金　慧英］春学期授業/Spring 1339
福祉社会専攻_演習科目【S0101】論文研究演習Ⅰ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1341
福祉社会専攻_演習科目【S0102】論文研究演習Ⅰ［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1342
福祉社会専攻_演習科目【S0103】論文研究演習Ⅰ［岩田　美香］年間授業/Yearly 1343
福祉社会専攻_演習科目【S0105】論文研究演習Ⅰ［髙良　麻子］年間授業/Yearly 1344
福祉社会専攻_演習科目【S0106】論文研究演習Ⅰ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1345
福祉社会専攻_演習科目【S0107】論文研究演習Ⅰ［佐野　竜平］年間授業/Yearly 1346
福祉社会専攻_演習科目【S0108】論文研究演習Ⅰ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1347
福祉社会専攻_演習科目【S0110】論文研究演習Ⅰ［土肥　将敦］年間授業/Yearly 1348
福祉社会専攻_演習科目【S0111】論文研究演習Ⅰ［野田　岳仁］年間授業/Yearly 1349
福祉社会専攻_演習科目【S0113】論文研究演習Ⅰ［水野　雅男］年間授業/Yearly 1350
福祉社会専攻_演習科目【S0114】論文研究演習Ⅰ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1351
福祉社会専攻_演習科目【S0121】論文研究演習Ⅱ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1352
福祉社会専攻_演習科目【S0122】論文研究演習Ⅱ［佐野　竜平］年間授業/Yearly 1353
福祉社会専攻_演習科目【S0123】論文研究演習Ⅱ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1354
福祉社会専攻_演習科目【S0126】論文研究演習Ⅱ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1355
福祉社会専攻_演習科目【S0201】実践研究演習Ⅰ［伊藤　正子］年間授業/Yearly 1356
福祉社会専攻_演習科目【S0202】実践研究演習Ⅰ［岩崎　晋也］年間授業/Yearly 1357
福祉社会専攻_演習科目【S0203】実践研究演習Ⅰ［岩田　美香］年間授業/Yearly 1358
福祉社会専攻_演習科目【S0205】実践研究演習Ⅰ［髙良　麻子］年間授業/Yearly 1359
福祉社会専攻_演習科目【S0206】実践研究演習Ⅰ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1360
福祉社会専攻_演習科目【S0207】実践研究演習Ⅰ［佐野　竜平］年間授業/Yearly 1361
福祉社会専攻_演習科目【S0208】実践研究演習Ⅰ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1362
福祉社会専攻_演習科目【S0210】実践研究演習Ⅰ［土肥　将敦］年間授業/Yearly 1363
福祉社会専攻_演習科目【S0211】実践研究演習Ⅰ［野田　岳仁］年間授業/Yearly 1364
福祉社会専攻_演習科目【S0213】実践研究演習Ⅰ［水野　雅男］年間授業/Yearly 1365
福祉社会専攻_演習科目【S0214】実践研究演習Ⅰ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1366
福祉社会専攻_演習科目【S0221】実践研究演習Ⅱ［佐藤　繭美］年間授業/Yearly 1367
福祉社会専攻_演習科目【S0222】実践研究演習Ⅱ［佐野　竜平］年間授業/Yearly 1368
福祉社会専攻_演習科目【S0223】実践研究演習Ⅱ［眞保　智子］年間授業/Yearly 1369
福祉社会専攻_演習科目【S0226】実践研究演習Ⅱ［宮城　孝］年間授業/Yearly 1370
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1002】臨床心理学特論［金築　優］年間授業/Yearly 1371
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1003】臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）［末武　康弘］春学期授業/Spring 1372
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1004】臨床心理面接特論Ⅱ［末武　康弘］秋学期授業/Fall 1373
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1007】臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）［金築　優、丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 1374
臨床心理学専攻_専門基幹科目【S1008】臨床心理実習Ⅱ［金築　優、丹羽　郁夫］年間授業/Yearly 1375
臨床心理学専攻_専門展開科目（関連専門領域科目）【S1018】精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）［関谷　秀子］秋学期授業/Fall 1376
臨床心理学専攻_専門展開科目（関連専門領域科目）【S1021】児童福祉特論［岩田　美香］春学期授業/Spring 1377
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1023】教育分野に関する理論と支援の展開［谷　由紀子］春学期集中 1378
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1027】心の健康教育に関する理論と実践［金築　優］春学期授業/Spring 1379
臨床心理学専攻_専門展開科目（専門技能科目）【S1028】力動的心理療法特論［中　康］春学期授業/Spring 1380
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1101】論文研究指導［金築　優］年間授業/Yearly 1381
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1104】論文研究指導［末武　康弘］年間授業/Yearly 1382
臨床心理学専攻_研究指導科目【S1105】論文研究指導［関谷　秀子］年間授業/Yearly 1383
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses【S5030】スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)［木下　訓光、瀬戸　宏明］春学期授業/Spring 1384
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses【S9316】スポーツ健康学演習Ⅳ［苅部　俊二］秋学期授業/Fall 1386
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論［今村　創平］秋学期授業/Fall 1387
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論［今村　創平］秋学期授業/Fall 1388

修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0101】近現代デザイン概論［今村　創平］秋学期授業/Fall 1389
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0102】環境工学概論［田中　俊彦］春学期授業/Spring 1390
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0102】環境工学概論［田中　俊彦］春学期授業/Spring 1391
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0102】環境工学概論［田中　俊彦］春学期授業/Spring 1392
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論［荻原　知子、福島　秀哉］春学期前半/Spring(1st half) 1393
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論［荻原　知子、福島　秀哉］春学期前半/Spring(1st half)..... 1394
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0103】景観デザイン概論［荻原　知子、福島　秀哉］春学期前半/Spring(1st half)..... 1395
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1396
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)... 1397
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1398
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語［大友　敬三］春学期授業/Spring 1399
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語［大友　敬三］春学期授業/Spring 1402
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語［大友　敬三］春学期授業/Spring 1405
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論［宮武　久佳］秋学期後半/Fall(2nd half) . 1408
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論［宮武　久佳］秋学期後半/Fall(2nd half) 1409
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論［宮武　久佳］秋学期後半/Fall(2nd half) 1411
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論［今橋　隆］秋学期前半/Fall(1st half) .. 1412
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論［今橋　隆］秋学期前半/Fall(1st half)..... 1413
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論［今橋　隆］秋学期前半/Fall(1st half)..... 1414
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1317】建築プロフェッショナル総合演習１［赤松　佳珠子、志賀　良和、坂田　泉、藤澤　百合］春学期授業/Spring 1415
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1318】建築プロフェッショナル総合演習２［赤松　佳珠子、石渡　智秋、鈴木　研一、畠中　克弘］秋学期授業/Fall 1416
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1332】建築構造デザイン［浜田　英明］春学期授業/Spring 1417
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2001】都市環境デザイン工学基礎２［高見　公雄、酒井　久和、内田　大介］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1418
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2002】災害リスクマネジメント概論［竹末　直樹、細川　雅則、真下　義章、泉　千年、加古　聡一郎、溝口　宏樹］春学期授業/Spring..... 1419
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2004】材料科学概論（２０２０年度休講）［羽原　俊祐］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1420
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2102】比較都市環境デザイン［高見　公雄、伊藤　香織、橋本　圭央］秋学期後半/Fall(2nd half) 1421
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2109】社会基盤施設の資産管理［丸山　明］春学期授業/Spring 1422
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2110】鋼橋の点検・診断・対策技術［杉本　一朗］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1424
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2111】複合材料構造解析［山本　佳士］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1425
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2300】サステイナブル都市デザイン［高見　公雄］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1426
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2302】構造解析と設計［奥井　義昭］春学期前半/Spring(1st half)..... 1427
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3000】テクニカルライティング［豊島　純子］春学期授業/Spring .. 1428
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3002】ヒューマンサイエンス論［森　健治］秋学期授業/Fall..... 1430
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3006】身体表現論［山中　玲子、觀世　暁夫、観世　喜正、中司　由起子］秋学期授業/Fall..... 1431
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3100】ソシオシステムデザイン論［廣田　尚子］春学期前半/Spring(1st half)..... 1432
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3102】インタフェースデザイン論［土屋　雅人］秋学期授業/Fall... 1434
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3114】品質マネジメント論［池庄司　雅臣］春学期授業/Spring 1435
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3115】ヒューマニティデザイン論［安積　伸］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1436

修士課程_システムデザイン専攻_スタジオ科目【U3300】システムデザインワークショップ（ＰＢＬ）［野々部　宏司、安積　伸、田中　豊］春学期授業/Spring 1437
博士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3500】デザイン創生学特論［土屋　雅人、安積　伸、大西　景太］春学期授業/Spring 1438
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5403】建築学修士研修１(2014 年度以降入学者用)［小堀　哲夫］春学期授業/Spring 1439
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5411】建築学修士研修１(2014 年度以降入学者用)［浜田　英明］春学期授業/Spring 1440
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5418】建築学修士研修 2(2014 年度以降入学者用)［山道　拓人］春学期授業/Spring 1441
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5426】建築学修士研修 2(2014 年度以降入学者用)［浜田　英明］春学期授業/Spring 1442
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5433】建築学修士プロジェクト１［山道　拓人］秋学期授業/Fall 1443
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5441】建築学修士プロジェクト１［浜田　英明］秋学期授業/Fall 1444
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5448】建築学修士プロジェクト２［山道　拓人］秋学期授業/Fall 1445
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5456】建築学修士プロジェクト２［浜田　英明］秋学期授業/Fall 1446
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5903】修士論文（建築）［山道　拓人］秋学期授業/Fall 1447
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5911】修士論文（建築）［浜田　英明］秋学期授業/Fall 1448
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6404】都市環境デザイン工学研究１（2014 年度以降入学生）［高見　公雄］春学期授業/Spring 1449
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6407】都市環境デザイン工学研究１（2014 年度以降入学生）［福島　秀哉、渡邉　竜一］春学期授業/Spring 1450
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6408】都市環境デザイン工学研究１（2014 年度以降入学生）［酒井　久和］春学期授業/Spring 1451
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6414】都市環境デザイン工学研究２（2014 年度以降入学生）［高見　公雄］秋学期授業/Fall 1452
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6417】都市環境デザイン工学研究２（2014 年度以降入学生）［福島　秀哉、渡邉　竜一］秋学期授業/Fall 1453
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6418】都市環境デザイン工学研究２（2014 年度以降入学生）［酒井　久和］秋学期授業/Fall 1454
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6423】都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）［内田　大介］春学期授業/Spring 1455
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6424】都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）［高見　公雄］春学期授業/Spring 1456
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6427】都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）［福島　秀哉、渡邉　竜一］春学期授業/Spring 1457
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6428】都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）［酒井　久和］春学期授業/Spring 1458
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6429】都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）［山本　佳士］春学期授業/Spring 1459
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6433】都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）［内田　大介］秋学期授業/Fall 1460
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6434】都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）［高見　公雄］秋学期授業/Fall 1461
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6437】都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）［福島　秀哉、渡邉　竜一］秋学期授業/Fall 1462
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6438】都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）［酒井　久和］秋学期授業/Fall 1463
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6439】都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）［今井　龍一］秋学期授業/Fall 1464
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6600】都市環境デザイン工学特別研究１_2014 年度以降入学［今井　龍一］春学期授業/Spring 1465
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6610】都市環境デザイン工学特別研究 2_2014 年度以降入学［今井　龍一］秋学期授業/Fall 1466
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6902】修士論文（都市）［今井　龍一］秋学期授業/Fall 1467
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6905】修士論文（都市）［溝渕　利明］秋学期授業/Fall 1468
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6906】修士論文（都市）［鈴木　善晴］秋学期授業/Fall 1469

修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7401】システムデザイン修士研修１［安積　伸］春学期授業/Spring 1470
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7406】システムデザイン修士研修１［姜　理恵］春学期授業/Spring 1471
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7412】システムデザイン修士研修２［安積　伸］秋学期授業/Fall 1472
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7417】システムデザイン修士研修２［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1473
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7423】システムデザイン修士研修３［安積　伸］春学期授業/Spring 1474
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7428】システムデザイン修士研修３［姜　理恵］春学期授業/Spring 1475
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7434】システムデザイン修士研修４［安積　伸］秋学期授業/Fall 1476
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7439】システムデザイン修士研修４［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1477
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7445】システムデザイン修士プロジェクト１［安積　伸］春学期授業/Spring 1478
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7456】システムデザイン修士プロジェクト２［安積　伸］秋学期授業/Fall 1479
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7461】システムデザイン修士プロジェクト２［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1480
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7467】システムデザイン修士プロジェクト３［安積　伸］春学期授業/Spring 1481
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7472】システムデザイン修士プロジェクト３［姜　理恵］春学期授業/Spring 1482
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7478】システムデザイン修士プロジェクト４［安積　伸］秋学期授業/Fall 1483
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7483】システムデザイン修士プロジェクト４［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1484
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7901】修士論文（SD）［安積　伸］秋学期授業/Fall 1485
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7906】修士論文（SD）［姜　理恵］秋学期授業/Fall 1486
基礎科目【W0001】経営イノベーション体系［玄場　公規、坂本　和子、高田　朝子、丹下　英明、豊田　裕貴、松本　敦則、山田　久］春学期前半/Spring(1st half) 1487
基礎科目【W0003】中小企業戦略論［丹下　英明］春学期授業/Spring 1488
基礎科目【W0004】マーケティング［坂本　和子］春学期授業/Spring 1490
基礎科目【W0007】ファイナンスⅠ［山﨑　泰明］春学期前半/Spring(1st half) 1491
基礎科目【W0008】ファイナンスⅡ［山﨑　泰明］春学期後半/Spring(2nd half) 1493
基礎科目【W0012】財務会計論（M 特必修）［石島　隆］春学期後半/Spring(2nd half) 1494
基礎科目【W0014】管理会計論［石島　隆］秋学期後半/Fall(2nd half) 1495
基礎科目【W0015】ビジネスと租税法［金田　勇］春学期後半/Spring(2nd half) 1496
基礎科目【W0017】企業倫理［德山　誠］秋学期後半/Fall(2nd half) 1497
基礎科目【W0018】ロジカル・シンキング［村上　健一郎］春学期前半/Spring(1st half) 1498
基礎科目【W0019】コンサルティング技法［岩瀬　敦智］春学期前半/Spring(1st half) 1499
基礎科目【W0020】エスノグラフィのビジネス応用［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half) 1500
基礎科目【W0021】経営情報戦略［大塚　有希子］春学期授業/Spring 1501
基礎科目【W0023】消費者行動論［坂本　和子］春学期後半/Spring(2nd half) 1503
専門科目【W0101】創業・ベンチャー起業論［丹下　英明］秋学期前半/Fall(1st half) 1504
専門科目【W0104】プロジェクト・デザインマネジメント Ⅰ［大塚　有希子］秋学期前半/Fall(1st half) 1506
専門科目【W0104】Project Design Management (Japanese curriculum)［大塚　有希子］秋学期前半/Fall(1st half) 1507
専門科目【W0105】プロジェクト・デザインマネジメントⅡ［大塚　有希子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1509
専門科目【W0106】リスクマネジメント概論［指田　朝久］春学期前半/Spring(1st half) 1510
専門科目【W0107】事業リスクマネジメントと内部統制［石島　隆］秋学期前半/Fall(1st half) 1511
専門科目【W0108】生産マネジメント［藤川　裕晃］春学期授業/Spring 1512
専門科目【W0109】サプライチェーンマネジメント［藤川　裕晃］秋学期前半/Fall(1st half) 1514
専門科目【W0112】プラットフォーム戦略［長谷川　純一］春学期後半/Spring(2nd half) 1515

専門科目【W0114】フィンテックと企業経営［遠藤　正之］秋学期後半/Fall(2nd half) 1516
専門科目【W0115】コミュニケーションマネジメント［浦上　早苗］秋学期前半/Fall(1st half) 1517
専門科目【W0116】ヘルスケアマネジメント［山田　敦弘］秋学期前半/Fall(1st half) 1518
専門科目【W0202】コンテンツビジネス論［岩崎　達也］夏期集中/Intensive(Summer) 1520
専門科目【W0203】中小企業総合経営論Ⅰ［佐藤　　裕弥］秋学期前半/Fall(1st half) 1521
専門科目【W0204】中小企業総合経営論Ⅱ［藤川　裕晃］秋学期後半/Fall(2nd half) 1522
専門科目【W0205】リテール・マネジメント［花畑　裕香］春学期前半/Spring(1st half) 1523
専門科目【W0206】MBA 特別講義（マクロ経済と人材経営）［山田　久］春学期後半/Spring(2nd half) 1524
専門科目【W0207】サービスマネジメント［斎藤　　隆行］夏期集中/Intensive(Summer) 1525
専門科目【W0208】流通・マーケティング戦略論［岩瀬　敦智］春学期後半/Spring(2nd half) 1526
専門科目【W0210】公共・非営利・社会的企業経営論［佐藤　　裕弥］秋学期後半/Fall(2nd half) 1527
専門科目【W0211】収益モデルの構築［山﨑　泰明］秋学期後半/Fall(2nd half) 1528
専門科目【W0212】事業再生・経営革新［栗本　興治］秋学期後半/Fall(2nd half) 1529
専門科目【W0301】デジタル・マーケティング［村上　健一郎］秋学期前半/Fall(1st half) 1530
専門科目【W0302】ITC ケース研修［大塚　有希子］秋学期授業/Fall 1531
専門科目【W0303】デジタル広告論［高田　勝裕］秋学期後半/Fall(2nd half) 1533
専門科目【W0304】データマイニング［豊田　裕貴］秋学期前半/Fall(1st half) 1536
応用科目【W1002】ビジネスイノベータ育成セミナー［坂本　和子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1537
基礎科目【W3001】データベースの基礎［五月女　健治］秋学期前半/Fall(1st half) 1538
基礎科目【W3002】マネージャーのための WEB 構築［五月女　健治］春学期後半/Spring(2nd half) 1539
基礎科目【W3003】会計入門［石島　隆］春学期前半/Spring(1st half) 1540
専門科目【W3004】クラウドコンピューティング［五月女　健治］秋学期後半/Fall(2nd half) 1541
専門科目【W3005】モバイルプログラミング［五月女　健治］春学期前半/Spring(1st half) 1543
Specialized Courses【W7052】Financial Management ［関　雄太］秋学期後半/Fall(2nd half) 1544
（修士課程）基本科目_必修【XW001】政策分析の基礎［高尾　真紀子、石山　恒貴、柿野　成美、橋本　正洋、増淵　敏之、井上　善海、小方　信幸、北郷　裕美］春学期後半/Spring(2nd half) 1546
（修士課程）基本科目_必修【XW002】政策ワークショップ［柿野　成美、石山　恒貴、橋本　正洋、増淵　敏之、高尾　真紀子、井上　善海、小方　信幸、上山　肇、北郷　裕美］春学期前半/Spring(1st half) 1547
（修士課程）基本科目_選択必修【XW003】調査法［高尾　真紀子］秋学期前半/Fall(1st half) 1548
（修士課程）基本科目_選択必修【XW004】研究法［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) 1549
（修士課程）基本科目_選択必修【XW007】人的資源管理論［石山　恒貴］秋学期前半/Fall(1st half) 1550
（修士課程）基本科目_選択必修【XW008】地域活性化システム論［高尾　真紀子］春学期後半/Spring(2nd half) 1551
（修士課程）基本科目_選択必修【XW009】文化地理学［増淵　敏之］秋学期前半/Fall(1st half) 1552
（修士課程）基本科目_選択必修【XW010】都市空間論［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) 1553
（修士課程）基本科目_選択必修【XW011】観光社会学［北郷　裕美］秋学期前半/Fall(1st half) 1554
（修士課程）基本科目_選択必修【XW012】地域産業論［橋本　正洋］秋学期前半/Fall(1st half) 1555
（修士課程）基本科目_選択必修【XW013】中小企業論［井上　善海］秋学期前半/Fall(1st half) 1556
（修士課程）基本科目_選択必修【XW014】CSR 論［小方　信幸］春学期前半/Spring(1st half) 1557
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW101】少子高齢化と社会保障［高尾　真紀子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1558
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW102】ウェルビーイング論［高尾　真紀子］春学期前半/Spring(1st half) 1559
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW103】実証分析入門［柿野　成美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1560
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW104】雇用政策研究（マクロ）［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half) 1561
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW106】キャリア政策研究［岸田　泰則］秋学期前半/Fall(1st half) 1562
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW107】地域雇用政策事例研究［石山　恒貴］秋学期後半/Fall(2nd half) 1563
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW108】人材育成論［石山　恒貴］春学期後半/Spring(2nd half) 1564
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW109】地域コミュニティ論［中島　由紀］秋学期後半/Fall(2nd half) 1565
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW110】消費者政策論［柿野　成美］春学期後半/Spring(2nd half) 1566
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW111】生活政策論［柿野　成美］秋学期前半/Fall(1st half) 1567

（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW112】男女共同参画政策論［池永　肇恵］春学期後半/Spring(2nd half) 1568
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW113】実践地方行政論［池永　肇恵］秋学期後半/Fall(2nd half) 1569
（修士課程）プログラム科目_経済・社会・雇用創造群【XW114】地域社会論［上山　肇］秋学期前半/Fall(1st half) 1570
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW115】まちづくり事例研究［上山　肇］春学期後半/Spring(2nd half) 1571
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW116】文化基盤形成論［増淵　敏之］秋学期後半/Fall(2nd half) 1572
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW117】コミュニティーメディア論［北郷　裕美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1573
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW118】都市文化論［増淵　敏之］春学期前半/Spring(1st half) 1574
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW120】コンテンツツーリズム論［増淵　敏之］春学期後半/Spring(2nd half) 1575
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW121】観光開発論［北郷　裕美］春学期前半/Spring(1st half) 1576
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW122】フィールドワーク論［北郷　裕美］春学期後半/Spring(2nd half) 1577
（修士課程）プログラム科目_文化・都市・観光創造群【XW123】観光マーケティング論［青木　洋高］春学期集中/Intensive(Spring) 1578
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW124】地域経営戦略論［橋本　正洋］春学期後半/Spring(2nd half) 1579
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW125】地域イノベーション論［橋本　正洋］春学期前半/Spring(1st half) 1580
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW126】商店街活性化論［井上　善海］秋学期後半/Fall(2nd half) 1581
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW127】新産業創出論［井上　善海］春学期後半/Spring(2nd half) 1582
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW128】アントレプレナーシップ論［田中　克昌］秋学期後半/Fall(2nd half) 1583
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW129】経営戦略論［井上　善海］春学期前半/Spring(1st half) 1584
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW130】ESG 投資と企業経営［小方　信幸］秋学期前半/Fall(1st half) 1585
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW131】SDGs と企業経営［小方　信幸］秋学期後半/Fall(2nd half) 1586
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW133】コーポレートガバナンス［林　順一］秋学期後半/Fall(2nd half) 1587
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW134】企業活動と社会Ⅰ［小方　信幸］春学期後半/Spring(2nd half) 1588
（修士課程）プログラム科目_地域産業・企業創造群【XW135】地域活性特論Ⅰ［橋本　正洋］秋学期後半/Fall(2nd half) 1589
（修士課程）関連科目【XW136】経済学［梅溪　健児］春学期後半/Spring(2nd half) 1590
（修士課程）演習科目【XW201】プログラム演習［柿野　成美］春学期授業/Spring 1591
（修士課程）演習科目【XW202】プログラム演習［柿野　成美］秋学期授業/Fall 1592
（修士課程）演習科目【XW203】プログラム演習［石山　恒貴］春学期授業/Spring 1593
（修士課程）演習科目【XW204】プログラム演習［石山　恒貴］秋学期授業/Fall 1594
（修士課程）演習科目【XW205】プログラム演習［高尾　真紀子］春学期授業/Spring 1595
（修士課程）演習科目【XW206】プログラム演習［高尾　真紀子］秋学期授業/Fall 1596
（修士課程）演習科目【XW207】プログラム演習［増淵　敏之］春学期授業/Spring 1597
（修士課程）演習科目【XW208】プログラム演習［増淵　敏之］秋学期授業/Fall 1598
（修士課程）演習科目【XW209】プログラム演習［上山　肇］春学期授業/Spring 1599
（修士課程）演習科目【XW210】プログラム演習［上山　肇］秋学期授業/Fall 1600
（修士課程）演習科目【XW211】プログラム演習［北郷　裕美］春学期授業/Spring 1601
（修士課程）演習科目【XW212】プログラム演習［北郷　裕美］秋学期授業/Fall 1602
（修士課程）演習科目【XW213】プログラム演習［橋本　正洋］春学期授業/Spring 1603
（修士課程）演習科目【XW214】プログラム演習［橋本　正洋］秋学期授業/Fall 1604

（修士課程）演習科目【XW215】プログラム演習［井上　善海］春学期授業/Spring 1605
（修士課程）演習科目【XW216】プログラム演習［井上　善海］秋学期授業/Fall 1606
（修士課程）演習科目【XW217】プログラム演習［小方　信幸］春学期授業/Spring 1607
（修士課程）演習科目【XW218】プログラム演習［小方　信幸］秋学期授業/Fall 1608
（博士後期課程）基本科目【XW301】研究法［石山　恒貴、増淵　敏之、北郷　裕美、柿野　成美、井上　善海、高尾　真紀子、小方　信幸、橋本　正洋］春学期前半/Spring(1st half) 1609
（博士後期課程）基本科目【XW302】合同ゼミ［増淵　敏之］秋学期授業/Fall 1610
（博士後期課程）研究指導科目【XW314】雇用政策特殊研究Ⅰ［石山　恒貴］集中・その他/intensive・other courses 1611
（博士後期課程）研究指導科目【XW315】雇用政策特殊研究Ⅱ［石山　恒貴］集中・その他/intensive・other courses 1612
（博士後期課程）研究指導科目【XW316】雇用政策特殊研究Ⅲ［石山　恒貴］集中・その他/intensive・other courses 1613
（博士後期課程）研究指導科目【XW317】文化政策特殊研究Ⅰ［増淵　敏之］集中・その他/intensive・other courses 1614
（博士後期課程）研究指導科目【XW318】文化政策特殊研究Ⅱ［増淵　敏之］集中・その他/intensive・other courses 1615
（博士後期課程）研究指導科目【XW319】文化政策特殊研究Ⅲ［増淵　敏之］集中・その他/intensive・other courses 1616
（博士後期課程）研究指導科目【XW320】都市政策特殊研究Ⅰ［上山　肇］集中・その他/intensive・other courses 1617
（博士後期課程）研究指導科目【XW321】都市政策特殊研究Ⅱ［上山　肇］集中・その他/intensive・other courses 1618
（博士後期課程）研究指導科目【XW322】都市政策特殊研究Ⅲ［上山　肇］集中・その他/intensive・other courses 1619
（博士後期課程）研究指導科目【XW326】企業経営特殊研究Ⅰ［井上　善海］集中・その他/intensive・other courses 1620
（博士後期課程）研究指導科目【XW327】企業経営特殊研究Ⅱ［井上　善海］集中・その他/intensive・other courses 1621
（博士後期課程）研究指導科目【XW328】企業経営特殊研究Ⅲ［井上　善海］集中・その他/intensive・other courses 1622
（博士後期課程）研究指導科目【XW329】CSR 特殊研究Ⅰ［小方　信幸］集中・その他/intensive・other courses 1623
（博士後期課程）研究指導科目【XW330】CSR 特殊研究Ⅱ［小方　信幸］集中・その他/intensive・other courses 1624
（博士後期課程）研究指導科目【XW331】CSR 特殊研究Ⅲ［小方　信幸］集中・その他/intensive・other courses 1626
（博士後期課程）研究指導科目【XW332】地域社会政策特殊研究Ⅰ［高尾　真紀子］集中・その他/intensive・other courses 1627
（博士後期課程）研究指導科目【XW333】地域社会政策特殊研究Ⅱ［高尾　真紀子］集中・その他/intensive・other courses 1628
（博士後期課程）研究指導科目【XW334】地域社会政策特殊研究Ⅲ［高尾　真紀子］集中・その他/intensive・other courses 1629
（博士後期課程）専門領域科目【XW351】経済政策特殊講義（実証分析入門）［柿野　成美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1630
（博士後期課程）専門領域科目【XW352】経済政策特殊講義（消費者政策論）［柿野　成美］春学期後半/Spring(2nd half) 1631
（博士後期課程）専門領域科目【XW353】経済政策特殊講義（生活政策論）［柿野　成美］秋学期前半/Fall(1st half) 1632
（博士後期課程）専門領域科目【XW354】雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））［石山　恒貴］春学期前半/Spring(1st half) 1633
（博士後期課程）専門領域科目【XW355】雇用政策特殊講義（人的資源管理論）［石山　恒貴］秋学期前半/Fall(1st half) 1634
（博士後期課程）専門領域科目【XW356】雇用政策特殊講義（人材育成論）［石山　恒貴］春学期後半/Spring(2nd half) 1635
（博士後期課程）専門領域科目【XW357】雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）［石山　恒貴］秋学期後半/Fall(2nd half) 1636
（博士後期課程）専門領域科目【XW358】地域社会政策特殊講義（ウェルビーイング論）［高尾　真紀子］春学期前半/Spring(1st half) 1637
（博士後期課程）専門領域科目【XW359】地域社会政策特殊講義（少子高齢化と社会保障）［高尾　真紀子］秋学期後半/Fall(2nd half) 1638
（博士後期課程）専門領域科目【XW360】地域社会政策特殊講義（地域活性化システム論）［高尾　真紀子］春学期後半/Spring(2nd half) 1639
（博士後期課程）専門領域科目【XW361】都市政策特殊講義（地域社会論）［上山　肇］秋学期前半/Fall(1st half) 1640
（博士後期課程）専門領域科目【XW362】都市政策特殊講義（都市空間論）［上山　肇］春学期前半/Spring(1st half) 1641
（博士後期課程）専門領域科目【XW363】都市政策特殊講義（まちづくり事例研究）［上山　肇］春学期後半/Spring(2nd half) 1642
（博士後期課程）専門領域科目【XW364】文化政策特殊講義（都市文化論）［増淵　敏之］春学期前半/Spring(1st half) 1643
（博士後期課程）専門領域科目【XW365】文化政策特殊講義（コンテンツツーリズム論）［増淵　敏之］春学期後半/Spring(2nd half) 1644
（博士後期課程）専門領域科目【XW366】文化政策特殊講義（文化地理学）［増淵　敏之］秋学期前半/Fall(1st half) 1645
（博士後期課程）専門領域科目【XW367】文化政策特殊講義 (文化基盤形成論) ［増淵　敏之］秋学期後半/Fall(2nd half) 1646
（博士後期課程）専門領域科目【XW368】観光政策特殊講義（観光社会学）［北郷　裕美］秋学期前半/Fall(1st half) 1647

（博士後期課程）専門領域科目【XW369】観光政策特殊講義（フィールドワーク論）［北郷　裕美］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1648
（博士後期課程）専門領域科目【XW370】観光政策特殊講義（コミュニティ-メディア論）［北郷　裕美］秋学期後半/Fall(2nd half) 1649
（博士後期課程）専門領域科目【XW371】観光政策特殊講義（観光開発論）［北郷　裕美］春学期前半/Spring(1st half) 1650
（博士後期課程）専門領域科目【XW372】産業政策特殊講義（地域産業論）［橋本　正洋］秋学期前半/Fall(1st half) 1651
（博士後期課程）専門領域科目【XW373】産業政策特殊講義（地域経営戦略論）［橋本　正洋］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1652
（博士後期課程）専門領域科目【XW374】産業政策特殊講義（地域イノベーション論）［橋本　正洋］春学期前半/Spring(1st half)..... 1653
（博士後期課程）専門領域科目【XW375】産業政策特殊講義（地域活性特論Ⅰ）［橋本　正洋］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1654
（博士後期課程）専門領域科目【XW376】企業経営特殊講義（中小企業論）［井上　善海］秋学期前半/Fall(1st half) 1655
（博士後期課程）専門領域科目【XW377】企業経営特殊講義（経営戦略論）［井上　善海］春学期前半/Spring(1st half) 1656
（博士後期課程）専門領域科目【XW378】企業経営特殊講義（新産業創出論）［井上　善海］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1657
（博士後期課程）専門領域科目【XW379】企業経営特殊講義（商店街活性化論）［井上　善海］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1658
（博士後期課程）専門領域科目【XW380】CSR 特殊講義（CSR 論）［小方　信幸］春学期前半/Spring(1st half) .. 1659
（博士後期課程）専門領域科目【XW381】CSR 特殊講義（企業活動と社会Ⅰ）［小方　信幸］春学期後半/Spring(2nd half)..... 1660
（博士後期課程）専門領域科目【XW382】CSR 特殊講義（ESG 投資と企業経営）［小方　信幸］秋学期前半/Fall(1st half)..... 1661
（博士後期課程）専門領域科目【XW383】CSR 特殊講義 (SDGs と企業経営) ［小方　信幸］秋学期後半/Fall(2nd half)..... 1662

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅲ

宮城　孝

配当年次／単位数：3 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成を目標として、特に先行研究のレビュー、仮説の設定、オリジナル・データの収集と分析方法等進行状況に応じて適宜研究指導を行う。

【到達目標】
得られたデータを適切な研究方法を用いて分析し、論理的・体系的に論文を執筆することができる。
自らの研究の意義と今後の課題を自覚できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
個別的な研究指導による。研究指導では、研究方法の内容、データの収集・分析の方法と結果、論理化などの妥当性、信頼性などについて研究テーマに応じて研究を進めるための助言指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の目標とスケジュールについて
第 2 回	研究指導	先行研究のレビューの再確認
第 3 回	研究指導	先行研究のレビューの中間報告
第 4 回	研究指導	先行研究のレビューのまとめについて
第 5 回	研究指導	仮説の設定について
第 6 回	研究指導	仮説の設定の検証
第 7 回	研究指導	仮説の設定の総括
第 8 回	研究指導	オリジナルデータの分析について
第 9 回	研究指導	オリジナルデータの分析の枠組みについて
第 10 回	研究指導	オリジナルデータの分析のまとめ（妥当性・信頼性）
第 11 回	研究指導	オリジナルデータの分析の総括
第 12 回	研究指導	論文の文章化について
第 13 回	研究指導	論文の文章化についての中間報告
第 14 回	春学期の総括	研究の到達点の振り返りと中間的総括
第 15 回	オリエンテーション（秋学期の目標とスケジュール）	秋学期の目標の明確化
第 16 回	研究指導	論理の体系化について
第 17 回	研究指導	論理の体系化の中間まとめについて
第 18 回	研究指導	論理の体系化の総括
第 19 回	研究指導	総合的な考察の視点と内容について
第 20 回	研究指導	総合的な考察の中間まとめ
第 21 回	研究指導	総合的な考察の理論化について
第 22 回	研究指導	総合的な考察のまとめについて
第 23 回	研究指導	総合的な考察の文章化について
第 24 回	研究指導	博士論文の文章化の留意点について
第 25 回	研究指導	博士論文の文章化についての中間まとめ
第 26 回	研究指導	博士論文の文章化についての最終まとめ
第 27 回	研究指導	研究発表について
第 28 回	秋学期の総括	研究の到達点の振り返りと今後の課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の研究指導までに、課題について事前にレポート等にまとめておくこと。
本授業の準備、復習時間は、各回４時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、研究の報告内容 60 %によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表）、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
For its own research subject,it guide an advice in the setting subject,the research way and so on appropriately.Then it create the research paper.of the necessary article and data.It makes sentences as the research paper.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting,student will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on research paper(60 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %)

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

土肥　将敦

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

【到達目標】
研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、リサーチ・クエスチョンを構築していく。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第 2 回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第 3 回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第 4 回	調査手法の設定と確認①	調査手法を確認する①
第 5 回	調査手法の設定と確認②	調査手法を確認する②
第 6 回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第 7 回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第 8 回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第 9 回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第 10 回	RQ の創出①	問いをたてる①
第 11 回	RQ の創出②	問いをたてる②
第 12 回	フィールド調査報告①	フィールド調査を踏まえた研究報告①
第 13 回	フィールド調査報告②	フィールド調査を踏まえた研究報告②
第 14 回	フィールド調査報告③	フィールド調査を踏まえた研究報告③
第 15 回	前期の振り返り	前期の達成度を確認し課題を抽出する
第 16 回	ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する
第 17 回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況の報告①
第 18 回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況の報告②
第 19 回	RQ 再設定と仮説導出①	RQ の再設定と仮説の導出①
第 20 回	RQ 再設定と仮説導出②	RQ の再設定と仮説の導出②
第 21 回	RQ 再設定と仮説導出③	RQ の再設定と仮説の導出③
第 22 回	調査報告①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第 23 回	調査報告②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第 24 回	調査報告③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第 25 回	調査報告④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第 26 回	章立て案の作成	章立て案を作成する
第 27 回	追加フィールド調査①	追加のフィールド調査報告①
第 28 回	追加フィールド調査②	追加のフィールド調査報告②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【参考書】
受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の研究報告内容（100 %）をもとに判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ー　CSI の推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline (in English)】
This course will provide not only the basic skills to produce a high-quality research paper, but also a better understanding of the interpretation of these ethnographic method.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

関谷　秀子

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究目的と方法および研究対象に関すること、データ収集に関すること、データの解析に関すること、得られたデータの解釈に関すること、解釈に関する考察および研究の結論に関することが博士課程レベルに到達する必要がある。

【到達目標】
研究の諸段階の各目標が達成されると次の目標を目指す作業に入ることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
到達目標及びテーマに必要な質問と議論を 1 対 1 形式で行なう。オフィス・アワーで、課題に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの選び方①	展望論文の選択①
第 2 回	研究テーマの選び方②	展望論文の選択②
第 3 回	研究テーマの選び方③	展望論文の選択③
第 4 回	研究テーマと研究目的の決定	十分な先行論文検索から研究の流れと最先端を知る。現在の最先端の状況把握をする。
第 5 回	フィールドの選び方①	先行研究論文を検索①
第 6 回	フィールドの選び方②	先行研究論文を検索②
第 7 回	フィールドの選び方③	十分な先行研究展望から、どのようなフィールドでデータは取りえるか、また、それぞれのメリット・ディメリットを考察する。
第 8 回	研究フィールドの決定	理想的な研究フィールドと現実
第 9 回	研究方法の選び方①	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。①
第 10 回	研究方法の選び方②	先行研究展望から可能な方法を選択、必要があれば、論文原著者に連絡して問い合わせる。②
第 11 回	研究方法の決定①	対象群と比較対照、分析方法の決定。
第 12 回	研究方法の決定②	評価者間信頼性チェックの必要性がある場合、その方法を決定する。
第 13 回	倫理委員会申請準備	研究倫理委員会規定を踏まえて、誰からどのような研究協力の承諾を得るべきか検討する。
第 14 回	研究倫理委員会申請	必要な書式を準備して申請する
第 15 回	研究実施の最終チェック	必要な書類の準備と研究フィールド準備
第 16 回	研究実施①	データ収集上の問題点のチェック①
第 17 回	研究実施②	データ収集上の問題点のチェック②
第 18 回	研究実施③	データ収集上の問題点のチェック③
第 19 回	研究実施④	データ収集上の問題点のチェック④
第 20 回	研究実施⑤	データ収集上の問題点のチェック⑤
第 21 回	研究実施⑥	データ収集上の問題点のチェック⑥
第 22 回	研究実施⑦	データ収集上の問題点のチェック⑦
第 23 回	研究実施⑧	データ収集上の問題点のチェック⑧
第 24 回	研究実施⑨	データ収集上の問題点のチェック⑨
第 25 回	研究実施⑩	データ収集上の問題点のチェック⑩
第 26 回	研究実施⑪	データ収集上の問題点のチェック⑪
第 27 回	論文作成①	目的（実証すべき作業仮説に至る先行研究の展望を含む）
第 28 回	論文作成②	研究方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究検索本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは専門雑誌に掲載されている先行研究論文である。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、日々の学習意欲と研究への取り組みの姿勢によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度には担当していないため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
Analysis and study of theory at a doctoral level concerning research objective methods and study, and data collection and analysis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class .Final grade will be calculated according to the contribution in class .

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 I

関谷　秀子

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、乳児期から幼児期、児童期、思春期青年期そして初期成人期に至る精神分析的発達論の基礎を形成するところにある。

【到達目標】
情緒発達の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書または論文をあらかじめ指定する。発表の分担を定めてレジメを作成、30 分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの 60 分はディスカッションに用いる。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	妊娠中	妊娠中の胎児への幻想
第 2 回	乳児期	乳児期の発達と母親の幻想、愛着
第 3 回	幼児期前期①	母子の分離と幼児の個体化
第 4 回	幼児期前期②	自律性の発生と個体化、自己保存
第 5 回	幼児期後期①	エディプスコンプレクス
第 6 回	幼児期後期②	男児の去勢不安
第 7 回	幼児期後期③	女児の分離不安
第 8 回	児童期（潜伏期）	超自我の内在化、対象関係の拡大、昇華チャンネルの発生と拡大
第 9 回	思春期①	前、初期、中期（固有の）、後期思春期、思春期後
第 10 回	思春期②	親表象からの脱備給と自我理想の改訂、禁止系超自我の緩和、対象関係の拡大
第 11 回	青年期①	アイデンティティの確立
第 12 回	青年期②	サイコソーシャル・モラトリアム、孤独感の男女差と種の保存
第 13 回	青年期③	対象の発見と再発見
第 14 回	初期成人期	性器統裁とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フロイト著作集に親しむこと本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
精神分析的発達論の統合①　岩崎学術出版社

【参考書】
モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）：子どもの心理療法，創元社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
We will learn the basics of psychoanalytic development through the period of infantile, childhood, adolescence, and early adulthood. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　Final grade will be calculated according to the following process ： In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 Ⅱ

末武　康弘

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を検討します。

【到達目標】
心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
主にジェンドリンの『パターンを超えて思考する（Thinking beyond patterns）』の講読を通して、クライアント中心療法やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を探求します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	パーソンセンタードセラピーやフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を概説します。
第 2 回	Thinking beyond patterns の背景	ジェンドリンの Thinking beyond patterns の背景を考察します。
第 3 回	Thinking beyond patterns 講読①	Thinking beyond patterns, ChapterA-1 を検討します。
第 4 回	Thinking beyond patterns 購読②	Thinking beyond patterns, ChapterA-2 を検討します。
第 5 回	Thinking beyond patterns 購読③	Thinking beyond patterns, ChapterA-3 を検討します。
第 6 回	Thinking beyond patterns 講読④	Thinking beyond patterns, ChapterA-4 を検討します。
第 7 回	Thinking beyond patterns 講読⑤	Thinking beyond patterns, ChapterA-5 を検討します。
第 8 回	Thinking beyond patterns 講読⑥	Thinking beyond patterns, ChapterB-1 を検討します。
第 9 回	Thinking beyond patterns 講読⑦	Thinking beyond patterns, ChapterB-2 を検討します。
第 10 回	Thinking beyond patterns 講読⑧	Thinking beyond patterns, ChapterB-3 を検討します。
第 11 回	Thinking beyond patterns 講読⑨	Thinking beyond patterns, ChapterB-4 を検討します。
第 12 回	Thinking beyond patterns 講読⑩	Thinking beyond patterns, ChapterB-5 を検討します。
第 13 回	Thinking beyond patterns 講読⑪	Thinking beyond patterns, ChapterB-6 を検討します。
第 14 回	まとめ	まとめとふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト Thinking beyond patterns および、関連文献（英語文献を含む）の読解と分析が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Gendlin, E. T. (1991) Thinking beyond patterns. New York: The Focusing Institute. http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『ロジャーズ主要著作集 1〜3』（共訳、岩崎学術出版社、2005 年)
③『プロセスモデル―暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023 年）

【Outline (in English)】
You learn the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.
The goals of this course are to understand the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 Ⅱ

金築　優

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法の技法や理論について、知覚制御理論の観点から、専門的な理解を深めます。

【到達目標】
知覚制御理論について理解を深めた上で、認知行動療法の技法や理論を、自らの臨床活動や研究活動に活かすことができることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
知覚制御理論に関する論文等を講読しながら、認知行動療法の技法や理論をどのように解釈し、活用できるかをディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話し合います。
第 2 回	認知行動療法と知覚制御理論	認知行動療法と知覚制御理論の関連を学びます。
第 3 回	制御について 1	制御という現象について学びます。
第 4 回	制御について 2	制御という現象について、負のフィードバックループの観点から学びます。
第 5 回	葛藤について 1	葛藤のメカニズムについて考えます。
第 6 回	葛藤について 2	葛藤という視点から心理的障害を考えます。
第 7 回	再組織化について 1	再組織化という原理を学びます。
第 8 回	再組織化について 2	再組織化という原理から変化のメカニズムを考えます。
第 9 回	メソッド・オブ・レベル認知療法 1	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法を概説します。
第 10 回	メソッド・オブ・レベル認知療法 2	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法の特徴を学びます。
第 11 回	メソッド・オブ・レベル認知療法 3	知覚制御理論に基づく心理療法であるメソッド・オブ・レベル認知療法の技法を学びます。
第 12 回	被制御変数のテストという研究法 1	知覚制御理論に基づく研究法としての被制御変数のテストを概説します。
第 13 回	被制御変数のテストという研究法 2	知覚制御理論に基づく研究法としての被制御変数のテストの特徴を学びます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことを振り返り、今後の認知行動療法と知覚制御理論の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布する資料を読み、自らの理解や疑問点を明確にした上で、授業に臨むことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）
＜研究テーマ＞
認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究

【Outline (in English)】
The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to effective cognitive behavior therapy. This course will review perceptual control theory. Perceptual control theory is a self-regulatory framework based on control system engineering which explains human behavior. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on discussions (50%), and in-class contribution (50%).

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 Ⅱ

関谷　秀子

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
乳幼児期から初期成人期に至る発達の内的過程とそれに影響する環境要因との関係を理解して、力動的心理療法の基礎知識を得る。

【到達目標】
情緒発達とそれに影響する環境要因との関係の詳細をライフサイクル全体に渡って理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用いる。発表の分担を定めてレジメを作成、30 分で要点を発表する。発表者だけでなく、参加者すべてが熟読の上授業に参加する。そして残りの 60 分はディスカッションに用いる。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	口唇期①	口唇期の欲動と対象、目的
第 2 回	口唇期②	口唇期の防衛、すなわち、現実歪曲、否認、投影、投影性同一視
第 3 回	口唇期③	欲求充足水準の対象関係
第 4 回	肛門期①	欲動満足か母親の愛情か → 自律性の発生
第 5 回	肛門期②	反動形成、理性化、合理化、隔離、取り消しやり直し
第 6 回	肛門期③	肛門期の対象関係
第 7 回	幼児性器期①	幼児性器期の対象は全体対象である。幼児期対象の性愛化と同性の親との葛藤
第 8 回	幼児性器期②	男児の去勢不安と女児の分離不安
第 9 回	幼児性器期③	性別同一性の確立と両親の役割
第 10 回	潜伏期	超自我の内在化と自我の発達
第 11 回	思春期	親表象からの脱備給、同性仲間による集団形成と禁止系超自我の緩和・自我理想の改訂
第 12 回	不安の増大と退行	欲動退行と自我退行
第 13 回	神経症病理	精神神経症と退行
第 14 回	パーソナリティ病理	自我親和的な防衛配置（パーソナリティ形成）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フロイト著作集に親しむこと本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
精神分析的発達論の統合②　岩崎学術出版社

【参考書】
モートン・チェシック（斉藤久美子ほか訳）：子どもの心理療法、創元社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度には担当していなかったため、授業アンケートを実施していない。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
We will learn the way environmental factors influence the process of internal development from infancy to early adulthood and acquire basic knowledge of psychodynamic psychotherapy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process ： In-class contribution (60%), presentation about the thesis(40%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅱ

末武　康弘

配当年次／単位数：2 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP7」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
特別演習Ⅰに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年度目標と課題の確認	博士論文作成のために今年度達成すべき目標と課題を確認します。
第 2 回	先行研究の探索と検討 1	最新の先行研究を探索します。
第 3 回	先行研究の探索と検討 2	最新の先行研究を収集します。
第 4 回	先行研究の探索と検討 3	最新の先行研究を分析します。
第 5 回	先行研究の探索と検討 4	最新の先行研究を検討します。
第 6 回	先行研究の探索と検討 5	最新の先行研究を精査します。
第 7 回	研究デザインと研究方法の検討 1	特別演習Ⅰで確定した研究デザインを再検討します。
第 8 回	研究デザインと研究方法の検討 2	特別演習Ⅰで確定した研究デザインを洗練します。
第 9 回	研究デザインと研究方法の検討 3	特別演習Ⅰで確定した研究方法を再検討します。
第 10 回	研究デザインと研究方法の検討 4	特別演習Ⅰで確定した研究方法を洗練します。
第 11 回	研究デザインと研究方法の検討 5	特別演習Ⅰで確定した研究デザインと研究方法を洗練します。
第 12 回	論文投稿の準備 1	博士論文提出の条件となる学会誌あるいは大学院紀要への論文投稿について、その準備を指導します。
第 13 回	論文投稿の準備 2	大学院紀要や学会への投稿論文のデータ収集ついて指導します。
第 14 回	論文投稿の準備 3	大学院紀要や学会への投稿論文のデータの分析について指導します。
第 15 回	研究倫理の指導	大学院紀要や学会への投稿論文の研究倫理について指導します。
第 16 回	論文執筆の指導 1	大学院紀要や学会への投稿論文の書き方について指導します。
第 17 回	論文執筆の指導 2	大学院紀要や学会への投稿論文の目的の書き方について指導します。
第 18 回	論文執筆の指導 3	大学院紀要や学会への投稿論文の方法の書き方について指導します。
第 19 回	論文執筆の指導 4	大学院紀要や学会への投稿論文の結果の書き方について指導します。
第 20 回	論文執筆の指導 5	大学院紀要や学会への投稿論文の考察の書き方について指導します。
第 21 回	論文執筆の指導 6	2 本目以降の投稿論文執筆の指導を行います。
第 22 回	論文執筆の指導 7	2 本目以降の投稿論文の目的の書き方について指導します。
第 23 回	論文執筆の指導 8	2 本目以降の投稿論文の方法の書き方について指導します。
第 24 回	論文執筆の指導 9	2 本目以降の投稿論文の結果の書き方について指導します。
第 25 回	論文執筆の指導 10	2 本目以降の投稿論文の考察の書き方について指導します。
第 26 回	博士論文執筆の指導 1	博士論文作成に向けたスケジュールの指導を行います。
第 27 回	博士論文執筆の指導 2	博士論文の構成の組み立て方について指導します。
第 28 回	博士論文執筆の指導 3、まとめ	博士論文の展開について指導し、指導のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、投稿論文の執筆、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
博士論文の執筆過程（70 %）と投稿論文の内容（30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline (in English)】
You learn the knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義Ⅰ

土肥　将敦

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェース (境界領域) にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、ゼミナール の大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。この他にも、環境、福祉、教育、都市再開発、途上国支援など多様な 社会的課題の解決をミッションとしてビジネスを立ち上げる社会的企業家の台頭の背景やその意義についても議論する。

【到達目標】
企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業家が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。また、テーマ設定、問い・仮説を立てる、既存研究 を読む、考える、書く、という一連の作業を辛抱強く取り組むことで企業社会に関する思考をより深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮設やリサーチ・クエスチョンの導出を行う。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックについても学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第 2 回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第 3 回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第 4 回	候補文献についての検討	輪読文献を持ち寄り検討する
第 5 回	文献輪読①	文献内容の把握・理解①
第 6 回	文献輪読②	文献内容の把握・理解②
第 7 回	文献輪読③	論点の整理と問題提起①
第 8 回	文献輪読④	論点の整理と問題提起②
第 9 回	文献輪読⑤	関連する国内外の事例検討①
第 10 回	文献輪読⑥	文献内容の把握・理解③
第 11 回	文献輪読⑦	文献内容の把握・理解④
第 12 回	文献輪読⑧	論点の整理と問題提起③
第 13 回	文献輪読⑨	論点の整理と問題提起④
第 14 回	文献輪読⑩	関連する国内外の事例検討②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　 50 %, 研究報告　 50 %
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ー CSI の推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房,2022 年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline (in English)】
Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies.　The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than FOUR HOURS for a class.Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(50%), in class contribution(50%).

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義 I

佐野　竜平

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「アジアにおける障害インクルーシブな国際協力・開発」を具体化した事例について、循環型・双方向型の強みやチャレンジに関する分析を行いつつ、持続可能性の観点から検討する。

【到達目標】
曖昧な観点を指標化するなど、見えないものを見えるようにする観点から分析する仕組みづくりを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容およびスタイルは、受講生の関心に沿いつつ柔軟に対応する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの現代福祉と課題
第 3 回	カンボジア・ベトナムの最新事情	カンボジア・ベトナムの現代福祉と課題
第 4 回	ミャンマー・フィリピンの最新事情	ミャンマー・フィリピンの現代福祉と課題
第 5 回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの現代福祉と課題
第 6 回	その他アジアの最新事情	その他アジアの現代福祉と課題
第 7 回	持続可能なアプローチ（労働）	循環・双方向型の国際協力（労働）
第 8 回	持続可能なアプローチ（教育）	循環・双方向型の国際協力（教育）
第 9 回	持続可能なアプローチ（保健）	循環・双方向型の国際協力（保健）
第 10 回	障害インクルーシブな事例（農林水産業）	アジアの農林水産業の分析・考察
第 11 回	障害インクルーシブな事例（人材産業）	アジアの人材産業の分析・考察
第 12 回	障害インクルーシブな事例（サービス産業）	アジアのサービス産業の分析・考察
第 13 回	障害インクルーシブな事例（その他産業）	アジアのその他産業の分析・考察
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50 %、課題・発表： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する院生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】The cases that demonstrate the concept of disability-inclusive development in Asia are expected to be examined from the perspective of sustainability, with an analysis of their cyclical and interactive strengths and challenges.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to learn a set of analysis methods such as by converting ambiguous perspectives into indicators.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), report and presentation (50%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークにおけるクライエント理解の視点を学ぶ。

【到達目標】
グローバル時代における生活問題の特質を説明できる。
クライエントの人格発達に影響を及ぼす諸要因を理解し、援助モデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、生活を規定する諸要因ごとに、それらが人間発達および生活問題に及ぼす影響について検討し、次に資本主義社会における現代生活の一般的な問題状況の把握を試みる。さらに、グローバリゼーションという視点から再度現代社会における社会問題、およびそれによる生活問題という視点を、マジョリティの視点とマイノリティの視点の双方から、正義の原理、ケアと責任の原理およびポストコロニアル・社会構成主義、それぞれの特質を捉え、社会福祉的観点から課題を考察する。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインまたはハイブリッドでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第 2 回	生活問題論①	経済的規定性
第 3 回	生活問題論②	生活と人格発達
第 4 回	生活問題論③	集団と人格発達
第 5 回	生活問題論④	障害と人格発達
第 6 回	生活問題論⑤	病と人格発達
第 7 回	生活問題論⑥	文化、宗教、エスニシティとこころ
第 8 回	グローバリゼーション時代の生活問題①	資本と労働の国際移動と資本主義的世界システム
第 9 回	グローバリゼーション時代の生活問題②	新自由主義、マネジリアリズムと個人化
第 10 回	グローバリゼーション時代の生活問題③	世界都市における生活問題とまとめ
第 11 回	クライエント理解の視点①	正義の原理とケアと責任の原理
第 12 回	クライエント理解の視点②	ポストコロニアル・社会構成主義
第 13 回	クライエント理解の視点③	特権集団による抑圧・排除
第 14 回	まとめ	クライエント理解の理論的変遷と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．講義内発表と討議参加（50 %）
２．課題の提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces the perspectives of social work practices for understanding client reality. At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding client condition. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution(20%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

伊藤　正子

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士学位論文の作成に向けて、論文構想を固めることを目的とする。

【到達目標】
テーマにそって必要な先行研究のレビュー、研究方法を確定し、研究計画書を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
まず、各自の研究関心を明確することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面を基本としつつ、オンラインまたはハイブリッドでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第 3 回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第 4 回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第 7 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第 8 回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第 9 回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第 10 回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第 14 回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第 15 回	中間総括	明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第 18 回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第 22 回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第 23 回	研究構想の基盤作り③	データ収集方法の検討
第 24 回	研究構想の基盤作り④	データ分析方法の検討
第 25 回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第 26 回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第 27 回	研究計画書の作成③	研究対象者の確認
第 28 回	まとめ	データ収集のスケジュール検討とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．演習への積極的参加（20%）
2．演習内課題（50%）
3．博士論文構想発表会 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
< 研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline (in English)】
This course enhances the development of student's skills in consolidation the paper conception to prepare a dissertation. Students will be expected to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), presentation(30%),and in-class contribution (20%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

髙良　麻子

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆に向けて、研究デザインを構築する。

【到達目標】
・博士論文を執筆するために必要な研究方法を理解できる。
・自分の研究デザインを構築できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、フィードバックしながら次の授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報取集：定義
第 3 回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報取集：実態
第 4 回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報取集：文献
第 5 回	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの構築
第 6 回	リサーチクエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第 7 回	リサーチクエスチョンに関する先行研究②	先行研究のレビュー：研究成果の確認
第 8 回	リサーチクエスチョンに関する先行研究③	先行研究のレビュー：先行研究の課題
第 9 回	研究目的の明確化①	研究目的と仮説の検討
第 10 回	研究目的の明確化②	研究目的と仮説の決定
第 11 回	研究方法の決定①	研究デザインと研究方法の検討
第 12 回	研究方法の決定②	研究デザインと研究方法の決定
第 13 回	博士論文構想発表会準備	研究計画の策定
第 14 回	中間総括	構想発表会後の振り返りと夏季休暇中の計画
第 15 回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究成果の報告
第 16 回	研究計画の策定①	研究計画の見直し
第 17 回	研究計画の策定②	研究計画の決定
第 18 回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査検討
第 19 回	調査計画の策定②	調査計画の検討
第 20 回	調査計画実施の準備①	実施に必要な準備
第 21 回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第 22 回	パイロット調査の実施①	調査結果の報告と課題対応検討
第 23 回	パイロット調査の実施②	調査結果の報告と調査方法の見直し
第 24 回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第 25 回	研究計画書の見直し①	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第 26 回	研究計画書の見直し②	研究計画の再検討
第 27 回	研究計画書の見直し③	論文構成の検討
第 28 回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に博士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各６時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 30%
・課題提出 30%
・博士論文構想発表会 40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル−「制度からの排除」への対処』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54, 日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students use the seminar format to learn how to build a research design for writing a doctoral dissertation. Before/after each class meeting, students will be expected to spend six hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), in-class contribution (30%), and presentation in the doctoral dissertation proposal presentation meeting (40%).

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義Ⅱ

野田　岳仁

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

【到達目標】
「地域・文化系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、地域政策全般に対して、現場の人びとの立場から有効性のある政策論を構想する力を養い、水準の高い学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスチョンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生活論という方法	生活論の系譜とその発展
第 2 回	生活論からみた現代社会	生活論の有効性
第 3 回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第 4 回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第 5 回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第 6 回	社会学における課題論文の討議	社会学における研究の位置付けの確認
第 7 回	民俗学分野における課題論文の輪読	民俗学における課題論文について論点整理
第 8 回	民俗学における課題論文の討議	民俗学における研究の位置付けの確認
第 9 回	文化人類学における研究論文の輪読	文化人類学における課題論文について論点整理
第 10 回	文化人類学における研究論文の討議	文化人類学における研究の位置付けの確認
第 11 回	観光学における研究論文の輪読	観光学における課題論文について論点整理
第 12 回	観光学における研究論文の討議	観光学における研究の位置付けの確認
第 13 回	生活論からみた地域政策	地域政策の課題と展望
第 14 回	まとめ	議論の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

岩田　美香

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉援助実践を深めていくために、その背景にある理論を実践に展開し、また実践の積み重ねを理論化していくための検討を行う。

【到達目標】
本年度は、福祉臨床においても重要となる貧困問題について、セーフティーネットの機能をもつ生活保護制度を通して考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
・履修者は順番でレポーターを担当して発表すると同時に、レポーター以外の履修者も事前にテキストを読み、各自の研究関心との関連で論点を書き出したペーパーを全員が用意し、討論を進めていく。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、各自の問題関心の紹介
第 2 回	最低生活保障の新たなかたち 1	パンデミックと「最後のセーフティーネット」、誤解とマイナスイメージ
第 3 回	最低生活保障の新たなかたち 2	「必要な人」にどのくらい利用されているのか、これまでの改革案
第 4 回	生活保護とは 1	古い「貧困理解」と生活保障としての不徹底、運営の二重原則
第 5 回	生活保護とは 2	生活扶助の「加算」と住宅扶助基準、何が社会扶助の保障機能を弱めているのか
第 6 回	もう一つの「社会扶助」 1	社会保険と社会扶助、国民皆保険と「低所得者対策」
第 7 回	もう一つの「社会扶助」 2	国民皆保険の保険料免除・軽減制度と福祉年金、低所得基準と生活保護基準
第 8 回	「原理問題」を整理する 1	基礎的生活ニーズと扶助のグループ化、保険と扶助の区別
第 9 回	「原理問題」を整理する 2	「選別的普遍主義」、時代の変化に対応した制度へ
第 10 回	生活保護の解体と再編 1	医療・介護サービスニーズの「標準」保障、住宅手当の新設
第 11 回	生活保護の解体と再編 2	教育扶助の解体と子ども養育費の保障、高齢期・障害のあるときの生活扶助
第 12 回	生活保護の解体と再編 3	失業時の生活保障と就労支援、多様な方法による最低生活保障
第 13 回	生活の「最低限」をどう決める	「最低限」の意味と保障水準、「資産ベース」の福祉、ベーシック・インカムの検討
第 14 回	総括：文献全体を通してのディスカッション	自らの研究との関連での検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前にテキストを読み、各自の研究関心との関連で論点を書き出したペーパーを用意すること。
・本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
岩田正美（2021）『生活保護解体論　セーフティーネットを編みなおす』岩波書店

【参考書】
履修者の関心も含めて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内発表と討議参加（50 %）、課題の提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉1．子育て・子育ちの社会的不平等
2．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the theoretical framework for social work practice. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking about social issues related to poverty.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 I

末武　康弘

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文等で学びます。

【到達目標】
心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文を受講者の要望をとり入れながら検討します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法概説	主要な心理療法の歴史や理論について概説します
第 2 回	心理療法におけるクライアント中心療法の位置づけ	心理療法の分野全体におけるクライアント中心療法の位置づけを考察します
第 3 回	クライアント中心療法の歴史	クライアント中心療法の歴史を考察します
第 4 回	クライアント中心療法の理論①	クライアント中心療法のパーソナリティ理論を考察します
第 5 回	クライアント中心療法の理論②	クライアント中心療法のセラピー理論を考察します
第 6 回	体験過程と体験的心理療法①	体験過程の理論を考察します
第 7 回	体験過程と体験的心理療法②	体験的心理療法の理論を考察します
第 8 回	フォーカシングと FOT ①	フォーカシングとについて考察します
第 9 回	フォーカシングと FOT ②	フォーカシングの実際を体験し、議論します
第 10 回	フォーカシングと FOT ③	フォーカシング指向心理療法について考察します
第 11 回	困難ケースとクライアント中心療法	対応が困難ケースへのクライアント中心療法の適用について考察します
第 12 回	プリセラピー	困難ケースへの対応方法としてのプリセラピーについて考察します
第 13 回	パーソンセンタードセラピー①	パーソンセンタードセラピーの展開について考察します
第 14 回	パーソンセンタードセラピー②	パーソンセンタードセラピーの各種の方法について考察します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連する文献（英語文献を含む）を読んで分析し、自分の臨床的見解と照らし合わせる作業が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『ロジャーズ主要著作集 1〜3』（共訳、岩崎学術出版社、2005 年)
③『プロセスモデル―暗在性の哲学』（共訳、みすず書房、2023 年）

【Outline (in English)】
You learn theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.
The goals of this course are to understand theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on presentation (50%), and in-class contribution (50%)

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 I

金築　優

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義を通して、認知行動療法の理論や技法に関する諸問題について専門的な理解を深めます。

【到達目標】
認知行動療法の理論や技法に関する諸問題について専門的な知識を身につけて、自らの臨床活動や研究活動に活かすことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法の理論や技法に関する最新の論文等を講読することを通して、知識を深めていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話し合います。
第 2 回	認知行動療法の歴史	認知行動療法の歴史を学びます。
第 3 回	第一世代の認知行動療法について 1	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第 4 回	第一世代の認知行動療法について 2	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第 5 回	第一世代の認知行動療法について 3	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の理論を学びます。
第 6 回	第一世代の認知行動療法について 4	行動療法等の様々な第一世代の認知行動療法の技法を学びます。
第 7 回	第二世代の認知行動療法について 1	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第 8 回	第二世代の認知行動療法について 2	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第 9 回	第二世代の認知行動療法について 3	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の理論を学びます。
第 10 回	第二世代の認知行動療法について 4	認知療法等の様々な第二世代の認知行動療法の技法を学びます。
第 11 回	第三世代の認知行動療法について 1	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の歴史を学びます。
第 12 回	第三世代の認知行動療法について 2	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の哲学を学びます。
第 13 回	第三世代の認知行動療法について 3	メタ認知療法等の様々な第三世代の認知行動療法の理論・技法を学びます。
第 14 回	まとめ	これまで学んだことを振り返り、今後の認知行動療法の課題を議論します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布する資料を読み、自らの意見を持って、授業に臨むことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）とディスカッションの内容（50%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）
＜研究テーマ＞
認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究
＜主要研究業績＞
『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年）
『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年）

【Outline (in English)】
The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to effective cognitive behavior therapy. This course will review current cognitive behavior therapy such as Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on discussions (50%), and in-class contribution (50%).

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義Ⅰ

野田　岳仁

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、環境社会学・地域社会学の方法論をもとに、博士後期課程の研究に必要な分析視角の検討や論文執筆の技法をマスターすることを目的とする。

【到達目標】
地域づくり、地域ツーリズム、環境政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を構想する力を養い、学術論文として表現する技法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では担当教員の専門分野をもとに、受講生の関心に合わせて扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・討議を行っていく。受講生の研究報告に対して、問いの設定や先行研究との接続など論文執筆につなげるためのサジェスチョンを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生活環境主義の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第 2 回	生活環境主義の方法論	方法論的特徴とその有効性
第 3 回	受講生の問題関心についての発表	受講生の関心をふまえて取り扱うテーマについて検討する
第 4 回	受講生の問題関心についての討議	受講生の関心をふまえて取り扱う文献について検討する
第 5 回	社会学における課題論文の輪読	社会学における課題論文について論点整理
第 6 回	社会学における課題論文の討議	社会学における課題論文について議論
第 7 回	環境社会学における課題論文の輪読	環境社会学について論点整理
第 8 回	環境社会学における課題論文の討議	環境社会学における研究の位置史付けの確認
第 9 回	地域社会学における課題論文の輪読	地域社会学について論点整理
第 10 回	地域社会学における課題論文の討議	地域社会学における研究の位置史付けの確認
第 11 回	観光社会学における課題論文の輪読	観光社会学について論点整理
第 12 回	論文の方法論的立場と構成の検討	研究論文の知見および有効性について検討
第 13 回	分析視角の設定と論文執筆の技法	本講義の立場からの検討と討議
第 14 回	まとめ	議論の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けて課題論文の読み込みや関連分野の論文にも目を通すなど入念な準備を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義Ⅱ

水野　雅男

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「成熟化社会における文化多様性を享受できる創造都市」
経済効率を追い求めた 20 世紀を経て、21 世紀は個々の多様性を尊重し、文化が生み出す新しい価値を求める「創造都市」を世界各都市が標榜している。創造都市とはどういうものか、その経済的な側面も考察しながら、取り組まれている政策について国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】
21 世紀の新しい都市の在り方としての「創造都市」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第 2 回	創造都市の文化戦略①	文化多様性と社会包摂に向かう創造都市
第 3 回	創造都市の文化戦略②	都市の創造的縮小の時代
第 4 回	創造都市の文化戦略③	創造都市の文化ブランド戦略
第 5 回	創造都市の文化戦略④	アジアの創造産業と都市政策
第 6 回	創造都市への戦略①	アートによるイノベーション
第 7 回	創造都市への戦略②	都市のアイデンティティ創出、創造的産業創生
第 8 回	創造都市への戦略③	文化の空間戦略と都市計画
第 9 回	創造都市への戦略④	国内の創造都市の事例
第 10 回	創造都市への戦略⑤	海外の創造都市の事例
第 11 回	創造都市と観光振興①	地方都市の観光振興
第 12 回	創造都市と観光振興②	観光客を惹きつける街
第 13 回	創造都市と観光振興③	景観まちづくりと交通政策
第 14 回	創造都市と観光振興④	創造都市と雇用創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「創造都市と社会包摂」佐々木雅幸・水内俊雄編、水曜社、2009 年
「創造性が都市を変える」横浜市・鈴木伸治編、学芸出版社、2010 年
「創造都市のための観光振興」宗田好史、学芸出版社、2009 年

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
討論への参加（50 %）とレポート（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、創造都市構築に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire that comparing domestic and overseas policies being undertaken, considering what a creative city is and its economic aspects.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understanding the role of a "creative city" as a new city in the 21st century from the perspective of "policy"
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義Ⅰ

水野　雅男

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ「成熟化社会における豊かな地域社会を創造するための景観政策のあり方」
成熟化社会において、生活の豊かさを醸し出すとともに、地域の個性を演出する上で重要な景観政策への取り組みについて、その歴史的な変遷と近年の取り組みについて、国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】
豊かさを享受できる地域社会を標榜する上での「景観」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第 2 回	我が国の風景の変遷①	異邦人がみた風景
第 3 回	我が国の風景の変遷②	風景の乱れ・歪み
第 4 回	我が国の風景の変遷③	明治から大正時代の風景論
第 5 回	我が国の風景の変遷④	風景づくりの作法
第 6 回	海外の風景づくり①	英国でのユートピア
第 7 回	海外の風景づくり②	西欧でのアメニティ論
第 8 回	海外の風景づくり③	イタリアの小都市
第 9 回	海外の風景づくり④	イタリアの農山村
第 10 回	海外の風景づくり⑤	イタリアの景観政策
第 11 回	生活景①	中心市街地と郊外住宅地
第 12 回	生活景②	景観を育む取り組み　金沢大野
第 13 回	生活景③	景観を育む取り組み　伊勢河崎
第 14 回	生活景④	生活景と都市計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「都市をつくる風景」中村良夫、藤原書店、2010 年
「イタリア小さなまちの底力」陣内秀信、講談社、2000 年
「生活景」日本建築学会編、学芸出版社、2009 年

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
討論への参加（50 %）とレポート（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire that the historical transition and recent efforts of landscape policy, which is important for creating affluence of life and directing the individuality of the region, while comparing domestic and overseas.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:understanding the role of "landscape" in advocating a community that can enjoy affluence from the perspective of "policy"
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

末武　康弘

配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。提出された課題や論文等へのフィードバックは個別指導（対面、場合によっては学習支援システムやズーム等のオンライン）によって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の概要の検討 1	オリエンテーション
第 2 回	研究計画の概要の検討 2	研究の意図を検討
第 3 回	研究計画の概要の検討 3	研究の背景を検討
第 4 回	研究計画の概要の検討 4	研究の目的を検討
第 5 回	研究計画の概要の検討 5	研究の社会的な意義を検討
第 6 回	研究計画の概要の検討 6	研究のオリジナリティを検討
第 7 回	研究計画の概要の検討 7	研究のグローバル性を検討
第 8 回	研究計画の概要の検討 8	研究のアップトゥーデイトな意義を検討
第 9 回	研究計画の概要の検討 9	研究の臨床的な意義を検討
第 10 回	研究計画の概要の検討 10	研究の倫理性を検討
第 11 回	先行研究の探索と検討 1	研究テーマに関連する先行研究の概要を検討
第 12 回	先行研究の探索と検討 2	研究テーマに関連する先行研究の探索
第 13 回	先行研究の探索と検討 3	研究テーマに関連する先行研究の探索と検討
第 14 回	先行研究の探索と検討 4	研究テーマに関連する先行研究の分析
第 15 回	研究デザインと研究方法の検討 1	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法の概要を検討
第 16 回	研究デザインと研究方法の検討 2	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法のバリエーションを検討
第 17 回	研究デザインと研究方法の検討 3	研究テーマに沿った研究デザインを検討
第 18 回	研究デザインと研究方法の検討 4	研究テーマに沿った研究方法を検討
第 19 回	研究デザインと研究方法の検討 5	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法を検討
第 20 回	研究デザインと研究方法の検討 6	研究テーマに沿った研究デザインと研究方法をさらに検討
第 21 回	研究デザインと研究方法の確定 1	研究デザインと研究方法の確定に向けた検討
第 22 回	研究デザインと研究方法の確定 2	研究デザインと研究方法を確定
第 23 回	データ収集と処理検討 1	データ収集の方法を検討
第 24 回	データ収集と処理検討 2	データ処理の方法を検討
第 25 回	データ収集と処理検討 3	データ収集と処理の方法を検討
第 26 回	論文執筆の指導 1	大学院紀要等の論文執筆について指導
第 27 回	論文執筆の指導 2	学会投稿論文等の執筆について指導
第 28 回	論文執筆の指導 3、まとめ	博士論文作成の目的と方法の書き方を指導、指導のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
博士論文の執筆過程（70 %）と投稿論文等の内容（30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline (in English)】
You learn the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.
The goals of this course are to acquire the knowledge, research methodology, skill to write a doctoral dissertation in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on process of writing doctoral dissertation (70%), and contributing activity at academic associations (30%).

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

佐野　竜平

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
先行研究のレビューを重ねつつ、研究テーマを絞り込む。また、研究仮説の構築と研究方法を明らかにする。

【到達目標】
観察、仮説、調査、考察等の研究プロセスに沿いながら研究テーマを掘り下げつつ、論文執筆に欠かせない知見を蓄積していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
履修生との間で研究スケジュールに沿ったタイムリーなやり取りの仕組みを確立する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。学習支援システムやその他オンラインツールを利用して課題等のフィードバックを行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション前半	年間および春学期の計画・方針を確認
第 2 回	テーマの検討	研究テーマを検討
第 3 回	テーマの設定	研究テーマを設定
第 4 回	調査手法の検討	テーマに基づく調査手法を検討
第 5 回	調査手法の確立	テーマに基づく調査手法を確認
第 6 回	先行研究のレビュー総論	先行研究の見直し（総論）
第 7 回	先行研究のレビュー国内	先行研究の見直し（国内関連）
第 8 回	先行研究のレビュー海外	先行研究の見直し（海外関連）
第 9 回	先行研究のレビュー方法	先行研究の見直し（研究方法）
第 10 回	研究課題の整理	研究課題を整理
第 11 回	フィールド調査準備	フィールド調査の準備
第 12 回	フィールド調査計画	フィールド調査の計画
第 13 回	フィールド調査実施	フィールド調査の実施
第 14 回	これまでの振り返り	達成度の確認と課題の明確化
第 15 回	オリエンテーション後半	秋学期の計画・方針を確認
第 16 回	進捗状況の報告準備	課題への対応の整理
第 17 回	進捗状況の報告	課題への対応に関する意見交換
第 18 回	章立て	章立て案の作成
第 19 回	仮説の検討	研究仮説を検討
第 20 回	仮説の整理	研究仮説を設定
第 21 回	研究方法の検討	課題解決の研究方法を検討
第 22 回	研究方法の具体化	課題解決の研究方法を設定
第 23 回	データ分析の検討	研究テーマに沿ったデータ分析の検討
第 24 回	データ分析の準備	研究テーマに沿ったデータ分析の準備
第 25 回	データ分析の実施	研究テーマに沿った調査の実践と検証
第 26 回	データ分析の再確認	研究テーマに沿ったデータ分析をレビュー
第 27 回	草案作成	表出した内容のアレンジ
第 28 回	草案の見直し	内容の確認と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
研究成果の報告（ペーパー）50 %、報告（プレゼン）50 %

【学生の意見等からの気づき】
院生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Based on literature review and preceding studies, the theme of the proposed research will be elaborated. In addition, research hypotheses will be developed while research methods are clarified.
【Learning Objectives】The goals of this course are expected to accumulate knowledge necessary for the research by following the research process of observation, hypothesis, investigation, and discussion.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), report and presentation (50%).

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義Ⅱ

土肥　将敦

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業と社会のインターフェース (境界領域) にかかわる新しい問題について、国内外の具体的な事例を取り上げながら考察する。例えば、企業の社会的責任、企業と NPO/NGO のコラボレーションのあり方、企業の地域社会への関わり方などが研究トピックとして考えられる。特に、CSR は近年世界的に重要視されており、多くの企業が多様な取り組みを行っているので、講義の大きな研究テーマの 1 つになる。また、企業社会を理解する上で NPO や NGO の存在は年々大きなものとなっており、その意義や役割についても考察する。

【到達目標】
「地域・政策系特殊講義Ⅰ」をさらに発展させ、企業と社会の関係性を理解するとともに、CSR のグローバルな潮流や、社会的企業者が生み出すソーシャル・ビジネスの意義や課題等について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、担当教員の専門分野をもとに、受講生の研究テーマに合わせて、取り扱うテーマを設定し、それに関連する文献や論文を収集し輪読・議論を行っていく。またインタビュー調査を実施した上で、新たな仮説やリサーチ・クエスチョンの導出を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究内容について共有し、進め方を決定する
第 2 回	受講生の研究発表・議論①	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する①
第 3 回	受講生の研究発表・議論②	受講者の研究内容を発表し、本講義の観点から議論する②
第 4 回	候補文献についての検討	輪読する文献を持ち寄り、検討する
第 5 回	文献輪読①	文献の論点を確認し、自らの研究との関係性を捉える
第 6 回	文献輪読②	文献の論点を確認し、自らの研究のリサーチクエスチョンを明確にする①
第 7 回	調査報告①	各自のインタビュー調査の中間報告を行う①
第 8 回	調査報告②	各自のインタビュー調査の中間報告を行う②
第 9 回	文献輪読③	文献の論点を確認し、自らの研究のリサーチクエスチョンを明確にする②
第 10 回	文献輪読④	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する①
第 11 回	文献輪読⑤	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する②
第 12 回	文献輪読⑥	先行研究のサーベイから理論的覚書を作成する③
第 13 回	調査報告③	先行研究のまとめとインタビュー調査の報告①
第 14 回	調査報告④	先行研究のまとめとインタビュー調査の報告②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究発表や輪読の順番に応じて準備を行う。自分が報告する時以外も、課題文献に予め目通しして議論に備えておく。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　50 %, 研究報告　50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義アンケートは非実施であるが、受講生からの意見に耳を傾けながら、授業内容がより良いものになるように努めていく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ー CSI の推進プロセスにおける正統性』（単著、千倉書房）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline (in English)】
Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies.　The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(50%), in class contribution(50%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

髙良　麻子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会問題とは何かについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題とは何かを説明できる。
・社会問題を構造的に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、担当者がテキストをまとめて発表し、全員で議論することで、社会問題とは何かを検討する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第 3 回	社会問題とは何か②	活動からの理解 SDGs(持続可能な開発目標)　社会問題の連鎖
第 4 回	第１章　社会問題過程	クレイム申し立て活動の過程
第 5 回	第２章　クレイム	クレイムとは何か
第 6 回	第３章　クレイム申し立て者としての活動家	クレイム申し立て者としての活動家の役割
第 7 回	第４章　クレイム申し立て者としての専門家	クレイム申し立て者としての専門家の役割
第 8 回	第５章　メディアとクレイム	社会問題過程のおけるメディア
第 9 回	第６章　大衆の反応	世論の測定
第 10 回	第７章　政策形成	政策形成の流れ
第 11 回	第８章　社会問題ワーク	政策の実施
第 12 回	第９章　政策の影響	政策評価にもとづく新たなクレイム
第 13 回	第１０章　時空をかけるクレイム	クレイム申し立てのサイクル
第 14 回	第１１章　構築主義スタンスの使い方	社会問題過程の活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジュエル・ベスト、赤川学監訳（2020）『社会問題とは何かー なぜ、どのように生じ、なくなるのか？』筑摩書房

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデルー「制度からの排除」への対処』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54, 日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is designed to explore social problems from the perspective of social work.Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークにおける死別ケアに関する研究を理解する

【到達目標】
本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係を理解した上で、人が生きるということの線上にある「死」について、専門職としてのアプローチの仕方について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
死生にかかわるテーマを設定し、受講者の関心と合わせながら、輪読・議論を行っていく。具体的には、担当教員の専門領域やこれまでの研究から導出されたことを明らかにし、本講義の基盤を形成して行く。その上で、受講者の関心に合わせたテーマを定め、関連する文献等を収集し、報告を行っていく。報告された内容・文献について、提起された課題について議論して行く。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、文献紹介
第 2 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際①	死別に関する研究
第 3 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際②	悲嘆に関する研究
第 4 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実際③	グリーフケアに関する研究
第 5 回	成年後見と尊厳死①	ドイツにおける事前指示書の概要
第 6 回	成年後見と尊厳死②	事前指示書の法的概要
第 7 回	意思決定支援と尊厳死①	意思決定支援の方法
第 8 回	意思決定支援と尊厳死②	意思決定支援の課題
第 9 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究①	文献読み込み
第 10 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究②	課題検討
第 11 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究③	ディスカッション
第 12 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究④	死生をめぐる感情とケア
第 13 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究⑤	専門職の死生観
第 14 回	研究の動向についてのまとめと議論	秋学期を通して学んだことを議論しまとめとする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】
清水哲郎・島薗進（2010）『ケア従事者のための死生学』

【成績評価の方法と基準】
・授業内報告　50%
・課題提出　50%

【学生の意見等からの気づき】
受講生とコミュニケーションをとることが評価されているので、その点を意識して取り組みたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】This course introduces the bereavement care in social work practices to students taking this course.
【到達目標（Learning Objectives）】The goal is to understand death in social work and acquire approach methods.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】The grades are the content of the presentation (50 %) and the term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：2 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成を目標として、特に先行研究のレビュー、仮説の設定、オリジナル・データの収集と分析方法等進行状況に応じて適宜研究指導を行う。

【到達目標】
得られたデータを適切な研究方法を用いて分析し、論理的に論文を執筆することができる。
研究の意義と今後の課題を自覚できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
個別的な研究指導による。研究指導では、研究方法の内容、データの収集・分析の方法と結果、論理化などの妥当性、信頼性などについて研究テーマに応じて研究を進めるための助言指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期の目標とスケジュール
第 2 回	研究指導	先行研究のレビュー①(目的・対象)
第 3 回	研究指導	先行研究のレビュー②(研究方法)
第 4 回	研究指導	先行研究のレビュー③(データ関連)
第 5 回	研究指導	仮説の設定①（目的ｔｐ対象）
第 6 回	研究指導	仮説の設定②（オリジナリティ）
第 7 回	研究指導	仮説の設定③（妥当性）
第 8 回	研究指導	研究方法の検討①（先行研究のレビュー）
第 9 回	研究指導	研究方法の検討②（分析枠組み）
第 10 回	研究指導	研究方法の検討③（分析方法）
第 11 回	研究指導	研究方法の検討④（結果の分析）
第 12 回	研究指導	データの収集方法①（サンプリング）
第 13 回	研究指導	データの収集方法②（方法と内容）
第 14 回	研究指導	データの収集方法③（具体的な方法）
第 15 回	前期総括	データの収集方法④
第 16 回	オリエンテーション（後期の目標とスケジュール）	データの分析方法①
第 17 回	研究指導	データの分析方法②
第 18 回	研究指導	データの分析方法③
第 19 回	研究指導	データの分析方法④
第 20 回	研究指導	論理化①
第 21 回	研究指導	論理化②
第 22 回	研究指導	論理化③
第 23 回	研究指導	論理化④
第 24 回	研究指導	文章化①（研究の背景）
第 25 回	研究指導	文章化②（研究の目的と方法）
第 26 回	研究指導	文章化③（先行研究のレビュー）
第 27 回	研究指導	文章化④（分析結果）
第 28 回	研究指導	文章化⑤（結果と考察）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の研究指導までに、課題について事前にレポート等にまとめておくこと。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %と研究の報告内容 60 %によって評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019 年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018 年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性に挑む－』編著、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』(共著）編集代表, 中央法規,2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）, 中央法規,2015 年
・『ソーシャルワークと社会開発』（監訳）丸善出版,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
It adovices the creating of reserch paper.specially,the way of reserch such as
the setting of hypothesis,the analysis of the approprate data,

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

眞保　智子

配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士学位論文作成にむけて、課題の設定や分析枠組みの検討を含めた、研究デザインを行います。

【到達目標】
これまでの研究成果および今後の研究課題について、報告会での報告と研究成果報告書を作成し、博士論文執筆につなげることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、仮説の検討、研究方法の検討などを通して、学位博士論文の構想をもとに学術論文の執筆を個別指導の中で進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第 2 回	領域・テーマの提示	関心テーマにそった課題設定の検討
第 3 回	課題設定	課題設定の検討と仮説
第 4 回	仮説の構築	仮説の検討
第 5 回	仮説と作業仮説	作業仮説の検討
第 6 回	先行研究のレビュー	研究課題に関する先行研究の探索
第 7 回	先行研究の検討	研究課題に関する先行研究の選定
第 8 回	先行研究の考察	研究課題に関する先行研究の検討
第 9 回	先行研究と仮説	研究課題に関する先行研究と仮説の検討
第 10 回	先行研究と作業仮説	研究課題に関する先行研究と作業仮説の検討
第 11 回	研究テーマの明確化	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討
第 12 回	研究テーマと仮説検討	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を検討し発表
第 13 回	研究テーマと仮説修正	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説の修正
第 14 回	研究テーマへのアプローチ	自らの研究テーマを明確にすると共に仮説を修正し発表
第 15 回	中間総括	春学期での総括を発表
第 16 回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認
第 17 回	研究方法の検討	論文で用いる研究方法の検討と課題の抽出
第 18 回	研究方法の実践	論文で用いる研究方法の実践
第 19 回	研究方法の修正	論文で用いる研究方法の検討と修正
第 20 回	研究方法の整理	論文で用いる研究方法の検討と発表
第 21 回	分析枠組み検討	論文で展開する分析枠組を検討する
第 22 回	分析枠組み報告	論文で展開する分析枠組の発表
第 23 回	先行研究の分析枠組み修正	論文で展開する分析枠組の修正
第 24 回	分析枠組み決定	論文で展開する分析枠組の決定
第 25 回	論文構想の明確化	博士論文を構成する学術論文を執筆
第 26 回	論文執筆	学術論文の執筆と報告・検討
第 27 回	論文要旨の報告	学術論文の執筆と報告・議論
第 28 回	論文要旨の修正	学術論文の執筆と報告・修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、計画的に博士論文執筆を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジメや資料を用意して演習に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【参考書】
履修者の研究テーマに即して適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
研究成果報告書 50 %、報告会 50 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar builds on the skills learned in other seminar and applies them to writing of a degree paper. Students are expected to take responsibility in choosing a theme and thoroughly researching it for the final paper. This seminar content includes essay organization, research strategies (collecting and evaluating references, conducting web searches, using electronic databases), bibliographic organization, and citation styles: footnotes, end notes. The goal of this seminar is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on reports (50 %) and in-class presentation (50%).

SOW500J3

福祉社会系特殊講義Ⅱ

眞保　智子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的な問題状況、福祉課題について、その問題解決のための研究動向を講義する。

【到達目標】
社会福祉系特殊講義Ⅰをふまえ、障害者福祉を含む学際的研究の視点や方法、知見から障害者雇用・就労制度・政策論と実践論とを関連させて理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
障害者雇用・就労制度・政策論と実践論との関連文献をもとに講義し、ディスカッションします。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらいとスケジュールについて
第 2 回	職業リハビリテーション学とは	障害者の職業リハビリテーション研究の意義
第 3 回	職業リハビリテーションのアプローチ	学際的知見を整理する
第 4 回	職業リハビリテーションの現状	わが国および海外の研究の現状を理解する
第 5 回	職業リハビリテーション学の理論	職業リハビリテーションの理論と実践
第 6 回	障害者雇用・就労の学際的視点　障害学	障害学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第 7 回	障害者雇用・就労の学際的視点　社会学	社会学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第 8 回	障害者雇用・就労の学際的視点　経済学	経済学の知見から障害者雇用・就労を学ぶ
第 9 回	障害者の雇用・就労と人的資源管理論	人的資源管理論で障害者の雇用・就労を考える
第 10 回	障害者の雇用・就労と企業	企業の視点で障害者の雇用・就労を考える
第 11 回	社会福祉行政と労働行政	社会福祉行政と労働行政の連携（労働者の生活支援）
第 12 回	社会福祉行政と労働行政のあり方	社会福祉行政と労働行政の連携（就労移行支援）
第 13 回	わが国の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と合理的配慮提供から障害者雇用・就労の将来を展望する
第 14 回	海外の障害者雇用・就労制度・政策の現状と課題	差別禁止法制と割当雇用制度から障害者雇用・就労の将来像を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
障害者雇用・就労に関わる研究論文および労働研究論文（日本語、英文を問わず）を事前に読んでいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜、紹介します。

【参考書】
適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加準備と発言:５０％、レポート提出：５０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of vocational rehabilitation and the perspective of social work. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50 %) and in-class presentation (50%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

髙良　麻子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
制度や分野ごとの縦割りによる弊害への対処を目指した、地域共生社会の実現に向けて、包括的な相談支援体制と地域住民による地域課題への対応のための体制構築に必要なソーシャルワークを理解する。

【到達目標】
・地域共生社会とは何かを説明できる。
・ジェネラリスト・ソーシャルワークを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、文献や事例の分析およびディスカッションを通して、様々な視点から地域共生社会の実現に向けたジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する。また、授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	地域共生社会と背景	地域共生社会とは
第 3 回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク①	システム理論
第 4 回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク②	生態学理論
第 5 回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク③	ストレングスモデル
第 6 回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク④	エンパワメントアプローチ
第 7 回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク⑤	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程: エンゲージメント、アセスメント、プランニング
第 8 回	ジェネラリスト・ソーシャルワーク⑥	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開過程：計画の実施、モニタリング・評価、終結、フォローアップ
第 9 回	事例分析①	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：交互作用に注目して
第 10 回	事例分析②	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ストレングスに注目して
第 11 回	事例分析③	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：エンパワメントに注目して
第 12 回	事例分析④	ジェネラリスト・ソーシャルワーク実践事例分析：ミクロ・メゾ・マクロの循環に注目して
第 13 回	地域ケア会議	地域ケア会議の機能と方法
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト、参考書、配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から地域共生社会等に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各３時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワーク － 社会福祉士による実践事例から－ 』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために－ スクールソーシャルワーカーの事例から－ 』かもがわ出版.
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処 』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54, 日本社会福祉学会.

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for generalist social work practice.Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士学位論文の作成に向けて、専門的な研究手法、先行研究のレビュー、研究課題や研究対象の設定など、論文執筆に向けた研究指導を行う。

【到達目標】
博士論文作成に必要な知識や専門的技術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
各自の関心領域、研究テーマに応じて、先行研究のレビュー、仮説および研究方法の検討などについて個別指導を行う。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けたスケジュールの検討
第 2 回	関心領域・テーマの検討 1	関心に沿った課題の探索
第 3 回	関心領域・テーマの検討 2	研究課題設定に関する報告
第 4 回	関心領域・テーマの検討 3	研究課題の検討
第 5 回	関心領域・テーマの検討 4	研究課題の設定
第 6 回	先行研究のレビュー 1	先行研究の探索
第 7 回	先行研究のレビュー 2	先行研究の検討
第 8 回	先行研究のレビュー 3	先行研究に関する報告
第 9 回	先行研究のレビュー 4	先行研究の整理
第 10 回	先行研究のレビュー 5	近接領域の先行研究の検討
第 11 回	研究テーマの仮設検討 1	先行研究の精査
第 12 回	研究テーマの仮設検討 2	先行研究の精査と問題の明確化
第 13 回	研究テーマの仮設検討 3	近接領域の先行研究との比較検証
第 14 回	春学期の総括	春学期の内容を総括し、夏季のフィールドワークや調査に関する指導
第 15 回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第 16 回	夏季課題報告	夏季に行ったフィールドワーク及び調査結果についての報告
第 17 回	研究方法の検討 1	論文で用いる研究方法の探索
第 18 回	研究方法の検討 2	論文で用いる研究方法の検討
第 19 回	研究方法の検討 3	論文で用いる研究方法の設定
第 20 回	研究方法の検討 4	研究方法の妥当性の検討
第 21 回	探索的調査の検討	調査に向けての課題整理
第 22 回	探索的調査の実施 1	調査の実施
第 23 回	探索的調査の実施 2	調査結果のまとめ
第 24 回	調査結果の検証 1	調査の実施と成果の検証
第 25 回	調査結果の検証 2	調査の実施と成果の報告
第 26 回	調査結果の検証 3	成果のまとめ方と分析方法の検討
第 27 回	論文構想の明確化	探索的調査をふまえた研究内容の修正と論文執筆に向けた研究内容の明確化
第 28 回	1 年間の成果まとめ	これまでの総括と今後の展望の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマに関連する国内外の先行研究について丁寧に整理し、各回の指導において報告できるよう準備すること本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
①演習への参加姿勢　20 %　②課題提出　40 %　③論文構想発表会　40 %
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
論文の完成に向け、受講生の困りごとや研究の方向性について話し合いながら、授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses especially on to examine the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.
【Learning Objectives】The goal of this lecture is to acquire the skills necessary for writing a doctoral dissertation.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】： Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), in-class contribution（20 %）,Doctoral dissertation presentation（40 %）.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

宮城　孝

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成のための研究デザインを作成し、テーマに関する先行研究のレビューを体系的に行うとともに、自らの研究の目的、対象、研究方法を構築することを目標とする。

【到達目標】
自らの研究テーマについて適切にデザインできる。
研究の内容に対し、適切な研究方法が選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
　研究テーマを明確にするために、先行研究のレビューを体系的に行うなどの作業、必要なデータの収集方法などについて指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の目的	明確化の検討
第 2 回	研究の対象	明確化の検討
第 3 回	研究テーマの設定	主題の明確化の検討
第 4 回	研究テーマの設定の具体化	主題の具体化
第 5 回	研究方法の明確化	研究方法の検討
第 6 回	研究方法の具体化	研究方法の具体的検討
第 7 回	先行研究のレビュー	対象の明確化
第 8 回	先行研究のレビューの作業	対象の探索と検討
第 9 回	先行研究のレビューの振り返り	対象の探索と振り返り
第 10 回	先行研究のレビューのまとめ方	レまとめ方まとめ方
第 11 回	研究仮説の検討	視点と仮説の検討
第 12 回	研究仮説の設定	視点と具体化具体化
第 13 回	データの収集の対象	データの収集の対象の検討
第 14 回	データの収集方法	具体的な収集方法の検討
第 15 回	データの収集方法の具体化	具体的な収集方法の検討
第 16 回	データの収集内容	具体的な収集内容の検討
第 17 回	データの具体的な内容	具体的な内容の明確化
第 18 回	データの収集と分析	分析方法の検討
第 19 回	データの収集と分析	分析方法の検討
第 20 回	データの収集と分析	分析方法の検討
第 21 回	データの収集と分析	分析方法の検討
第 22 回	考察の視点と枠組み	視点と枠組みの検討
第 23 回	考察の骨子	視点と枠組みの明確化
第 24 回	考察の内容	内容の検討
第 25 回	論文の構成	論文の構成の検討
第 26 回	論文の中間報告の構成の具体化	内容の構成の具体化
第 27 回	論文の中間報告・指導	中間報告の内容の検討
第 28 回	論文の中間報告のまとめ	中間報告について完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、課題を設定してレポートや仮論文としてまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、レポートの提出と報告、その内容 60 %により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』（単著）明石書店,2022 年
・『仮設住宅　その 10 年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2021 年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー』（編著）中央法規、2019 年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018 年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表）、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規,2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年
・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル-』（監訳）丸善出版,2012 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Ｔ o create research paper,it sets research design.It does the review of the past research paper systematically about the own research subject.Then,it makes to build the purpose,the object,the way of its research.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to A and B,C
Ａ. To complete a research paper.
Ｂ. Students can search of the necessary article and data.
Ｃ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Student will be expected to spend four hours after each supervision.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on research paper(60 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %）.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

宮城　孝

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、また将来の福祉問題に対応する地域を基盤としたソーシャルワーク実践、地域福祉のシステム、計画策定に関して、先行研究や先進事例をとおして検討する。履修希望者の関心領域に応じてテーマを変えることもある。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワーク、地域福祉のシステム形成において、理論的、応用的なレベルで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
先行研究に関する文献のレビューや、先進事例の分析に関してレポートを作成し報告を行う。レポートの報告と個別指導による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域福祉領域の研究法について	研究テーマに関する研究法の検討
第 2 回	テーマに関する研究法について	研究テーマに適合した研究法の選択
第 3 回	レポートによる報告①	研究対象と研究法の検討
第 4 回	レポートによる報告②	研究法の選択とデータの収集方法
第 5 回	地域福祉に関する先行研究について	先行研究の検討
第 6 回	レポートによる報告③	先行研究の選択とその概要
第 7 回	レポートによる報告④	先行研究のレビューについての検討
第 8 回	前半のまとめ	まとめと今後の目標
第 9 回	地域福祉領域の先進事例について	先進事例の分析の視点
第 10 回	レポートによる報告⑤	先進事例の分析についての検討
第 11 回	地域福祉領域におけるデータ分析について	データの分析の視点と方法
第 12 回	レポートによる報告⑥	具体的なデータ分析と検討
第 13 回	まとめに向けて	中間的なまとめに向けた検討
第 14 回	レポートによる報告⑦	中間的なまとめの検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、課題を課したり、自ら課題を設定し、レポートにまとめて報告できるように準備すること。本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、レポートの提出と報告内容 60%により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行う。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会における地域のチカラ－』（単著）2021 年
・『仮設住宅　その 10 年　陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020 年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019 年
・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規,2018 年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表）中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture,it attempts to understand the concept,theory of the community social work,also,it improve to analyze the case of the community social work.
【Learning Objectives】
The goals of this course A and B.
A To understanding about the practical contents and skills of Community
social work.through the case analysis.
B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding and thinking skills of Community Social work.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on Short report(60%),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %）.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

岩田　美香

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代家族の多様性を原書講読を通して考察する。

【到達目標】
・諸外国、主にアメリカの家族の現状について家族に関する神話も含めて理解する。
・日本の現状も踏まえて、家族の多様性と社会について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
・主にアメリカにおける現代家族のペーパーを読み、日本の現状も踏まえた上で討論を進める。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介、講義の進め方
第 2 回	Images, Ideals, and Myths	家族をめぐるイメージや神話に関する文献
第 3 回	Family Diversity 1	家族内の多様性に関する文献
第 4 回	Family Diversity 2	社会における家族の多様性に関する文献
第 5 回	Class, Race, and Gender 1	主に階層、人種に関する文献
第 6 回	Class, Race, and Gender 2	主にジェンダーに関する文献
第 7 回	Cohabitation and Marriage	同棲と結婚に関する文献
第 8 回	Parents and Children 1	親子関係に関する文献 (乳幼児・学齢期)
第 9 回	Parents and Children 2	親子関係に関する文献 (思春期以降)
第 10 回	Foster Parent and Adoption	里親と養子縁組に関する文献
第 11 回	Violence in Families 1	家庭内暴力に関する文献 (子どもの虐待と DV)
第 12 回	Violence in Families 2	家庭内暴力に関する文献 (高齢者虐待)
第 13 回	Divorce and Remarriage	離婚と再婚に関する文献
第 14 回	Family Policy	家族政策に関する文献

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・履修者は順番でレポーターを担当して発表すると同時に、レポーター以外の履修者も、事前にペーパーを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で指定する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内発表と討論参加（50 %）、課題の提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉
1．子育て・子育ちの社会的不平等
2．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
In this course, we will examine family diversity through reading American research papers. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking about family diversity and society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

伊藤　正子

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
移民、エスニックマイノリティの現状と反抑圧的実践を学ぶ。

【到達目標】
カルチュラル・コンピテンスおよび反抑圧的実践の重要概念を説明できる。
マジョリティ側の特権や抑圧について意識し、説明できる。
移民、エスニックマイノリティの生活問題と援助者の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
エスニックマイノリティを中心としつつ、マイノリティとよばれる人びとのおかれた状況とそれに対する社会福祉実践について、アメリカを中心として概観し、その上で、近年のマイノリティ援助理論の動向を検討し、その特徴を整理する。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインまたはハイブリッドでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第 2 回	マイノリティについて	マイノリティとは何かー社会・経済的システム、偏見・差別、文化的背景からの検討
第 3 回	マジョリティについて	マジョリティの特権と抑圧
第 4 回	社会福祉実践におけるマイノリティ①	アメリカにおけるマイノリティ援助の歴史的変遷
第 5 回	社会福祉実践におけるマイノリティ②	アメリカにおける黒人問題とソーシャルワーク
第 6 回	社会福祉実践におけるマイノリティ③	日本におけるオールドカマーとニューカマーの生活問題
第 7 回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論①	ラディカルソーシャルワーク
第 8 回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論②	エンパワメントアプローチ
第 9 回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論③	エスニックセンシティブソーシャルワーク
第 10 回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論④	反抑圧的ソーシャルワーク
第 11 回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論⑤	カルチュラル・コンピテンス
第 12 回	マイノリティに関する最近の実践動向①	アメリカの事例
第 13 回	マイノリティに関する最近の実践動向②	日本の事例
第 14 回	まとめ	ソーシャルワークにおけるマイノリティ支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、必要に応じて資料を配布し、後半の文献研究は受講者の関心に沿って文献を選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．講義内発表と討論参加 (50%)
2．課題の提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces the realities of migrants and ethnic minorities issues in Japan and anti-oppressive practice of social work. At the end of the course, students are expected to enhance their necessary knowledge and critical thinking for understanding the reality of ethnic minorities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), and in-class contribution(50%).

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

佐藤　繭美

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの中核をなす「当事者性」について考究する。

【到達目標】
授業では、受講者とソーシャルワークにおける当事者性の基本事項について共有したうえで、関連する知識を学習し、理論的な側面を含め、当事者理解を深めていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のテーマと受講生の研究テーマを合わせながら、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献を収集し、輪読、議論を行います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介と講義の進め方
第 2 回	ソーシャルワークに関する研究動向	論文をとおして学習する
第 3 回	ソーシャルワークに関する最近の研究動向	最近の論文をとおして学習する
第 4 回	当事者性とは何か	当事者とは何かを理解する
第 5 回	セルフヘルプ・グループに関する研究	先行研究のレビュー
第 6 回	セルフヘルプ・グループに関する最新の研究	近接領域における先行研究のレビュー
第 7 回	セルフヘルプ・グループに関する文献を用いた検討	先行研究をレビューしながらの討議
第 8 回	セルフヘルプ・グループに関する解釈	先行研究のレビューと課題の探求
第 9 回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の検討	課題について、討議を行う
第 10 回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の設定	先行研究の検討と研究課題設定
第 11 回	セルフヘルプ・グループに関する研究内容の報告	これまでの議論を踏まえた研究内容の報告
第 12 回	当事者と専門職者との関係性	援助関係の検討
第 13 回	当事者と専門職者の関係性とその課題	援助関係とその課題に関する検討を行う
第 14 回	春学期のまとめと議論	「援助」「支援」についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】
・石川到覚・久保紘章（1998）『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規
・石川到覚・久保紘章（1998）『セルフヘルプ・グループ活動の実際』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・授業内報告　50%
・課題提出　50%　具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の課題や研究の方向性について、積極的にコミュニケーションを図りながら授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、グリーフケア
＜研究テーマ＞ソーシャルワークにおける死別ケア研究、セルフヘルプグループ研究

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with the basic concepts and principles of social work practices for people with difficulties.
【Learning Objectives】 The goal is to understand social work practice theory and ownership
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】 Grading is based on report (50%) and presentation performance (50 %).

ARSk500J3

地域・政策系特殊講義Ⅱ

佐野　竜平

配当年次／単位数：1〜3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「国内外のコミュニティに根ざした持続可能なインクルーシブな開発」を具体化した事例について、循環型・双方向型の強みやチャレンジに関する分析を行いつつ、持続可能性の観点から検討する。

【到達目標】
国内外で実践されている様々な取り組みのステークホルダーを可視化し、新たな現場実践につなげる実力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP5」と「DP6」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容およびスタイルは、受講生の関心に沿いつつ柔軟に対応する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	コミュニティの状況①	保健と開発課題①分析
第 3 回	コミュニティの状況②	保健と開発課題②考察
第 4 回	コミュニティの状況③	教育と開発課題①分析
第 5 回	コミュニティの状況④	教育と開発課題②考察
第 6 回	コミュニティの状況⑤	生計と開発課題①分析
第 7 回	コミュニティの状況⑥	生計と開発課題②考察
第 8 回	コミュニティの状況⑦	社会と開発課題①分析
第 9 回	コミュニティの状況⑧	社会と開発課題②考察
第 10 回	コミュニティの状況⑨	エンパワメントと開発課題①分析
第 11 回	コミュニティの状況⑩	エンパワメントと開発課題②考察
第 12 回	コミュニティの状況⑪	アップサイクルの基礎
第 13 回	コミュニティの状況⑫	アップサイクルの応用
第 14 回	発表・講義の振り返り	発表と学びのレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50 %、課題・発表： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する院生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。講義は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】The cases that demonstrate the concept of community-based inclusive development in and out of Japan are expected to be examined from the perspective of sustainability, with an analysis of their cyclical and interactive strengths and challenges.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to visualize various initiatives being implemented in Japan and abroad, and acquire the ability to connect them to new field practices.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), report and presentation (50%).

SOW500J3

福祉社会系特殊講義Ⅰ

眞保　智子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
障害者政策における社会的な課題とそれに対応する制度等のあり方に関する近年の研究動向について講義します。

【到達目標】
障害者雇用に関わる制度・政策論と就労支援について、障害者福祉制度を踏まえ、障害者の雇用・就労について、障害者の労働参加のあり方を考える視点から、障害者雇用・就労に関する研究方法の展開と課題を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」と「DP7」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
障害者雇用・就労に関する制度・政策論と支援実践について、関連文献をもとに障害者雇用・就労研究方法の展開と課題を講義し、ディスカッションを行います。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュールの説明
第 2 回	近代社会と労働	近代思想と労働について、その認識や発見について整理する
第 3 回	近代社会と障害者の生活世界	障害者福祉の位置づけについて
第 4 回	障害者福祉制度・政策体系	歴史的変遷から特質を学ぶ
第 5 回	障害者福祉制度・政策体系（障害別制度の体系）	障害者福祉制度の特質と課題について
第 6 回	障害者の就労に関する制度・政策体系（福祉的就労制度）	所謂福祉的就労制度の特質と課題について
第 7 回	障害者雇用に関する制度・政策体系（雇用促進法と雇用率制度）	雇用促進法の体系と雇用率の特質と課題について
第 8 回	障害者雇用に関する制度・政策体系（特例子会社制度）	特例子会社制度の特質と課題について
第 9 回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（福祉サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（障害者総合支援法等による支援）
第 10 回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（労働サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について（労働施策における支援）
第 11 回	障害者就労とソーシャルワーク	IPS の理論と実践
第 12 回	障害者就労とソーシャルワークの理論	ストレングスモデルの理論と実践
第 13 回	障害者就労支援とソーシャルワークの実践	「比較優位」の視点による就労支援の実践
第 14 回	差別禁止法制と割当雇用制度	わが国と諸外国の障害者雇用制度の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外の文献や諸状況を事前に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加準備および発言：５０％課題レポート：５０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業領域における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course provides lecture on the current problems of persons with disabilities and the progress of policies. Students mainly learn the framework of disability studies and the perspective of social work. This course discusses the well-being of all people, including people with disabilities and without disabilities. The goal of this course is to prepares for writing degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (50 %) and in-class presentation (50%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

金築　優

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関する博士論文を作成するために必要なスキルについて指導します。

【到達目標】
博士論文を最終提出することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の作成段階に応じて、必要なスキルを指導します。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	博士論文の指導の進め方について説明します。
第 2 回	博士論文のテーマについて１	博士論文のテーマについて個人発表してもらいます。
第 3 回	博士論文のテーマについて２	博士論文の問題意識について個人発表してもらいます。
第 4 回	先行研究について１	博士論文のテーマに関連した先行研究を展望します。
第 5 回	先行研究について２	博士論文のテーマに関連した先行研究の課題を展望します。
第 6 回	研究デザインについて１	博士論文の研究デザイン（例、研究参加者等）を検討します。
第 7 回	研究デザインについて２	博士論文の研究デザイン（例、用いる質問紙等）を検討します。
第 8 回	研究デザインについて３	博士論文の研究デザイン（例、手続き等）を検討します。
第 9 回	研究デザインについて４	博士論文の研究デザイン（例、教示等）を検討します。
第 10 回	研究デザインについて５	博士論文の研究デザイン（例、データの分析方法等）を検討します。
第 11 回	データ収集のための準備１	データ収集の仕方（例、調査法等）について確認を行います。
第 12 回	データ収集のための準備２	データ収集の仕方（例、実験法等）について確認を行います。
第 13 回	データ収集のための準備３	データ収集の仕方（例、面接法等）について確認を行います。
第 14 回	データ収集とデータの処理１	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について検討します。
第 15 回	データ収集とデータの処理２	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について検討します。
第 16 回	データ収集とデータの処理３	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について指導します。
第 17 回	データ収集とデータの処理４	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について指導します。
第 18 回	データ収集とデータの処理５	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理を検討します。
第 19 回	データの分析と結果のまとめ１	データの分析（例、基本統計量等）を進め、結果をまとめます。
第 20 回	データの分析と結果のまとめ２	データの分析（例、分散分析等）を進め、結果をまとめます。
第 21 回	データの分析と結果のまとめ３	データの分析（例、相関分析等）を進め、結果をまとめます。
第 22 回	データの分析と結果のまとめ４	データの分析（例、多変量解析等）を進め、結果をまとめます。
第 23 回	データの分析と結果のまとめ５	データの分析（例、質的分析）を進め、結果をまとめます。
第 24 回	考察について１	研究結果を踏まえ、考察を進めます。
第 25 回	考察について２	研究結果を踏まえ、どのように考察をするか検討します。
第 26 回	考察について３	研究結果を踏まえ、考察を深めます。
第 27 回	博士論文の本文の推敲	論文の構成を確認します。
第 28 回	博士論文の本文の推敲	論文の文章表現を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では、随時博士論文の進捗状況の報告を求めますので、その際には、資料を用いて説明するようにしてください。本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終的に提出された博士論文の内容で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）
＜研究テーマ＞
認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究
＜主要研究業績＞
『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年）
『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年）

【Outline (in English)】
The goal of this seminar is to undertake doctoral project about cognitive behavior therapy. Students will acquire enhanced research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' doctorial thesis (100%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

岩田　美香

配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文執筆に向けて、基礎的な研究、研究計画の検討など、論文構想を練り上げる。

【到達目標】
博士論文研究テーマを決定し、さまざま研究方法論（歴史研究、理論研究、政策研究、比較研究など）ならびに、先行研究をレビューし、仮説の設定、フィールドワークなど実証研究の方法を用いて、博士論文執筆にむけての研究デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
・博士論文を執筆するための先行研究レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討などについて、個別指導を行う。また、博士論文構想発表会が予定されていることから、それに向けての指導・支援を行う。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究指導の説明
第 2 回	関心領域・テーマ検討１	関連領域の研究動向の整理
第 3 回	関心領域・テーマ検討２	関連領域の研究動向を報告
第 4 回	関心領域・テーマ検討３	海外論文の動向を整理
第 5 回	関連領域・テーマ検討４	海外論文の動向を報告
第 6 回	先行研究のレビュー１	先行研究の検索と整理
第 7 回	先行研究のレビュー２	先行研究の報告
第 8 回	先行研究のレビュー３	先行研究の検討
第 9 回	研究仮説の検討１	研究課題と仮説の設定
第 10 回	研究仮説の検討２	研究課題と仮説の検討
第 11 回	研究仮説の検討３	研究課題と仮説の明確化
第 12 回	研究方法の検討	研究デザインと研究方法の明確化
第 13 回	博士論文構想発表会準備	研究目的、背景、研究計画の明確化
第 14 回	中間総括	構想発表会後の反省、研究課題再検討
第 15 回	秋学期の研究指導の概要	秋学期の計画の検討・確定
第 16 回	夏季中の課題報告	夏季中に実施したプレ調査の成果報告
第 17 回	調査研究構想の明確化１	研究テーマと調査検討
第 18 回	調査研究構想の明確化２	研究テーマと調査の確定
第 19 回	探索的調査の検討	研究調査に向けての課題設定
第 20 回	探索的調査の実施１	研究テーマに基づく調査研究実施
第 21 回	探索的調査の実施２	研究テーマに基づく調査研究まとめ
第 22 回	調査結果の検証１	調査結果の報告
第 23 回	調査結果の検証２	調査結果の分析
第 24 回	調査結果の検証３	調査結果の考察
第 25 回	研究計画書の明確化１	調査研究と論文章構成の検討
第 26 回	研究計画書の明確化２	調査研究と論文章構成の報告
第 27 回	研究計画書の明確化３	調査研究と論文章構成の再検討
第 28 回	総括	１年間の総括と今後の研究課題検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・計画的に博士論文作成を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメを用意して演習に臨むこと。
・本授業の準備・復習時間は各回８時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究テーマに即して適宜紹介する。

【参考書】
履修者の研究テーマに即して適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（20 %）、演習内課題（50 %）、博士論文構想発表会（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉
１．子育て・子育ちの社会的不平等、
２．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course focuses especially on the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their doctoral dissertation.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), presentation (30%), and in-class contribution (20%).

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

水野　雅男

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。
各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】
博士論文作成の技術を習得するようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文作成計画の検討①	論文作成の流れの確認
第 2 回	論文作成計画の検討②	論文の構成案の検討
第 3 回	論文作成計画の検討③	研究作業スケジュールの確認
第 4 回	先行研究のレビュー①	関連テーマ①に関する検索結果
第 5 回	先行研究のレビュー②	関連テーマ①の主要論文の概要
第 6 回	先行研究のレビュー③	関連テーマ②に関する検索結果
第 7 回	先行研究のレビュー④	関連テーマ②の主要論文の概要
第 8 回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の概要整理
第 9 回	研究仮説の検討①	先行研究から導き出された研究課題の提示
第 10 回	研究仮説の検討②	研究仮説案の確認
第 11 回	研究仮説の検討③	研究仮説の修正
第 12 回	研究方法の検討①	文献調査・参与観察の検討
第 13 回	研究方法の検討②	量的調査手法の検討
第 14 回	研究方法の検討③	質的調査手法の検討
第 15 回	研究構成の検討①	研究のフローの確認
第 16 回	研究構成の検討②	研究の章立て案の確認
第 17 回	研究構成の検討③	研究の章立ての修正
第 18 回	データ収集分析①	調査データの分析
第 19 回	データ収集分析②	調査データの図表作成
第 20 回	データ収集分析③	調査データの分析
第 21 回	データ収集分析④	分析結果の考察
第 22 回	論文執筆の指導①	序章に関する指導助言
第 23 回	論文執筆の指導②	調査対象・研究の方法に関する指導助言
第 24 回	論文執筆の指導③	調査結果分析に関する指導助言
第 25 回	論文執筆の指導④	考察素案に対する指導助言
第 26 回	論文執筆の指導⑤	考察修正に関する指導助言
第 27 回	論文投稿の指導①	学会への投稿に向けた技術的な指導
第 28 回	論文投稿の指導②	同上に向けた構成内容の吟味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire practically learn the ideas and methods necessary for writing a doctoral dissertation according to the field in which each person is interested.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Learn the skills of writing a doctoral dissertation.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

宮城　孝

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の概念、理論、先進的事例の分析を交えて講義する。
また、地域福祉に関するネットワーク、システムについて、地域福祉計画の策定方法を交えて講義する。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワークについて、理論的に説明できる
地域福祉のシステムや計画策定の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP7」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
前半では、コミュニティソーシャルワークについての講義と文献解読、先進事例の分析について中心に取り組む。
後半では、地域福祉のネットワーク、システム、地域福祉計画の策定方法について、理論や先進事例についての分析に取り組む。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コミュニティソーシャルワーク	概念と今日的意義
第 2 回	コミュニティソーシャルワーク	理論
第 3 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス①）	個別課題アセスメント
第 4 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス②）	地域アセスメント
第 5 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス③）	アセスメントの統合
第 6 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス④）	プランニング
第 7 回	チームアプローチ	理論と実践
第 8 回	ネットワーク形成	理論と実践
第 9 回	地域福祉システム	内容と事例分析
第 10 回	地域福祉計画①	今日的意義
第 11 回	地域福祉計画②	ニーズ把握の方法
第 12 回	地域福祉計画③	課題の明確化
第 13 回	地域福祉計画④	目標の設定と資源化
第 14 回	地域福祉計画⑤	関連公共施策との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業までに、先行研究や事例に関するレポートをまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）と提出課題の内容（40 %）により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019 年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の理論と先進事例ー』（中央法規）2018 年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』中央法規,2018 年
・『地域福祉とイノベーション』編集代表、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉　－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規　2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
In this lecture,it attempts to understand the concept,theory of the community social work,also,it improve to analze the case of the community sociai work

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

岩崎　晋也

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文作成にむけた研究指導を行う。

【到達目標】
博士論文にむけて研究計画を明確にする。
先行研究の検討を行う。
第一次調査の設計を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」とに関連

【授業の進め方と方法】
個別指導により，研究テーマの深化と，研究方法論の検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の概要の検討 1	研究計画の概略をたてる
第 2 回	研究計画の概要の検討 2	研究目的の明確化をはかる
第 3 回	研究計画の概要の検討 3	基本的な研究動向を整理する
第 4 回	研究計画の概要の検討 4	基本的な研究動向を発表する
第 5 回	研究計画の概要の検討 5	自らの研究のオリジナリティを検討する
第 6 回	研究計画の概要の検討 6	自らの研究のオリジナリティを発表する
第 7 回	研究計画の概要の検討 7	研究方法を検討する
第 8 回	研究計画の概要の検討 8	研究方法を発表する
第 9 回	研究計画の概要の検討 9	研究対象を検討する
第 10 回	研究計画の概要の検討 10	研究対象を発表する
第 11 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 1	先行研究（歴史）を検討する
第 12 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 2	先行研究（現状）を検討する
第 13 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 3	先行研究（課題）を検討する
第 14 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 4	先行研究（関連領域）を検討する
第 15 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 5	先行研究（隣接領域）を検討する
第 16 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 6	先行研究（研究方法）を検討する
第 17 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 7	先行研究（解釈枠組み）を検討する
第 18 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 8	先行研究（国際比較アメリカ）を検討する
第 19 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 9	先行研究（国際比較ヨーロッパ）を検討する
第 20 回	博士論文に関連した先行研究の探索と学習 10	先行研究（国際比較アジア）を検討する
第 21 回	調査研究の内容の検討 1	データクリーニングを行う
第 22 回	調査研究の内容の検討 2	記述統計を検討する
第 23 回	調査研究の内容の検討 3	多変量解析を行う
第 24 回	調査研究の内容の検討 4	解析結果を検討し、仮説との適合性を検討する
第 25 回	調査研究の内容の検討 5	追加の解析について検討する
第 26 回	調査研究の内容の検討 6	追加の解析結果を検討する
第 27 回	調査研究の内容の検討 7	改めて仮説との適合性を検討する
第 28 回	調査研究の内容の検討 8	調査結果の全体を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示された課題を行い、考察すること。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) による 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Research guidance for doctor dissertation preparation.
The goals of this course are to improve doctor dissertation preparation ability.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

DES200ND

ブランディングデザイン（２０２３年度以降入学生）（２０２４年度開講）

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブランディングのデザインに必要な様々な要素をグループワークの演習によって実践的に学びます。
提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

【到達目標】
ブランド・プロデュースのための一連のデザインプロセスを通じ、今日デザイナーやアートディレクターに求められるブランディングデザインの能力獲得を目指します。
また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、デザイン思考の方法論も同時に学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。
参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 第 1 テーマ 情報収集・情報整理・発案に関するスキル習得 ワークショップ	全体概要説明 情報収集・情報整理・発案プロセスに関する有用なスキルをワークショップ形式で習得する。
2	第 2 テーマ　課題説明 グループ分け ワークショップ	課題概要説明 アイスブレイク 分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有
3	第 2 テーマ ワークショップ	企画テーマ設定 アイデア展開 プロトタイプ・プレゼンテーション制作
4	第 2 テーマ 最終プレゼンテーション	第 2 テーマ　最終案発表会 まとめ
5	第 3 テーマ　課題説明 グループ分け 定性調査予備調査 ワークショップ	課題概要説明 顧客の検討・選択 視察調査（個人） 観察まとめ 企画の検討
6	第 3 テーマ フィールドワーク 現地調査 インタビュー	定性調査セッション（グループ） 情報共有・準備 インタビュー 定性調査結果・考察 プロトタイプ・最終プレゼンテーション準備
7	第 3 テーマ 最終プレゼンテーション 総評	第 3 テーマ　最終案発表会 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
博報堂デザインのブランディング（永井 一史：誠文堂新光社）
事例で学ぶブランディング（ランドーアソシエイツ：ピー・エヌ・エヌ新社）
デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕(ティム ブラウン：早川書房)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度の平常点評価を４０点、最終プレゼンテーション内容を５０点、提出レポートを１０点、とする。
総合点が９０点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D とする。
１コマ欠席－ 10 点、遅刻－ 5 点。ただし、５コマ以上欠席した者は D とする。
病欠、忌引き、SSI 大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に必要なソフトウエアを各自の PC に入れておく。

【その他の重要事項】
ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.
The course cultivates the ability to accurately target and deeply understand the value of the products and services, to understand the intended users and customers, to scrutinize the content to be conveyed from the information obtained, to build new appeal and present it in the most effective way, and to create designs that move people's hearts in a comprehensive manner.

MAN200TG

経営学特講 [ロジスティクス論](春期スクーリング)

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2 単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロジスティクスは、経営戦略の一つであり、企業成長を図るうえで重要なシステムです。したがって、最近の企業では、調達・生産・物流システムの有機的連携を図った事例が多く見られます。これらの事例を通して、これまでの物流の概念とは異なるロジスティクスの概念を学ぶことができます。

【到達目標】
授業の終了時には、以下のことが修得できる。
①ロジスティクスは経営戦略であることを説明できる。
②収益性劣化率の計算式を使用して、どの輸送手段が最善なのか判断できる。
③ロジスティクスの重要性についてレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科： DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な授業のほかに、統計資料や写真等を採用し、理解しやすいように工夫して授業を勧めます。さらに、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジスティクスの概要	ロジスティクスの定義 棚卸資産粗利益率の考え方
2	ロジスティクスと物流の相違	ロジスティクス管理 物流管理
3	物流管理の問題点とABC 分析手法	物流管理の問題点 ABC 分析
4	ロジスティクス管理手法（1）	収益性劣化率の概要 収益性劣化率の計算
5	ロジスティクス管理手法（2）	収益性劣化率の利用事例
6	ロジスティクス管理手法（3）	収益性劣化率から輸送手段の選択手法 海上、国際複合、航空輸送
7	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（1）	仕出し弁当企業の事例紹介
8	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（2）	仕出し弁当企業の調達、製造、配達システムの概要
9	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（3）	仕出し弁当企業と他企業との企業分析比較
10	自動車メーカーの生産システムの概要	自動車メーカーの販売・生産計画策定 自動車メーカーの部品調達システム
11	自動車メーカー物流システムの概要	自動車メーカーの物流システムの概要 ミルクラン輸送 中継地物流
12	ロジスティクスの類型	1 PL, 2 PL, 3 PL, 4 PL の相違と具体例
13	3PL の現状と課題	3PL 市場規模 3PL 企業動向の特徴 3PL ビジネスの課題
14	3PL 事業の事例研究	国際物流事業者による 3 PL 事業への取り組みの現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要なパワーポイントのスライドを提供する。

【参考書】
自前テキストを提供する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】
オンライン授業により、学生と直接触れることがなくなり、授業の理解度について確認できすにいたが、学生とメールで連絡を取れることになり、随分解消されたと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約 20 年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
Logistics is one of the management strategies, and it is an important system to promote corporate growth. Therefore, recent companies often see examples of organically coordinating procurement, production, and distribution systems. Through these examples, we can learn the concept of logistics different from the concept of physical distribution so far.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN300TG

演習 [貿易概論](春期スクーリング)

恩田　登志夫

カテゴリー：**春期**　｜　予備登録の有無：
授業形態：　｜　単位数：**2 単位**
期間：**春期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講手続き等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル経済が進展すると海外との貿易取引が活発になります。米国と中国の貿易戦争のように保護主義の主張と TPP のように貿易を活発化させる取組みも進展しています。この講義では、貿易取引の基礎的な物の流れやお金の流れを理解することにより、貿易ビジネスの実態を学ぶことができます。

【到達目標】
貿易取引に関係する国際ビジネスの観点から国際物流、輸出入通関に関係する基礎的知識を習得することができる。さらに、秋期スクーリングにて開講される国際物流を履修することにより、国際流通全般を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「経済学科： DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的な授業のほかに、統計資料や写真等を採用し、理解しやすいように工夫して授業を勧めます。さらに、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全般の説明と貿易取引の全体像の理解	貿易取引と国内取引の相違
2	日本の貿易の現状	日本の貿易収支 産業組織の変化 輸出入の流れ
3	貿易取引全体の理解	貿易取引のしくみ 貿易取引と関係機関 貿易取引の種類
4	貿易保険	貨物海上保険 貿易保険 製造物賠償責任保険（PL 保険）
5	貿易取引契約条件	取引交渉の全体像 各種取引条件
6	貿易条件とトレードタームズ（1）	インコタームズ 2000 と インコタームズ 2010 の比較
7	貿易条件とトレードタームズ（2）	インコタームズの具体例 FOB,CFR,CIF 等
8	取引一般条件	取引一般条件と契約書の概要 ウィーン売買条約の概要
9	貿易代金決済	信用状決済の概要と仕組み
10	通関手続きと関税	通関制度の概要 AEO 制度の概要 保税制度の概要
11	貨物輸送と船積書類（1）	海上貨物の船積み手続きの概要
12	貨物輸送と船積書類（2）	航空貨物の積み込み手続きの概要
13	貨物輸送と船積書類（3）	国際複合輸送の概要と国際複合輸送の国際ルール
14	貿易書類の概要	インボイス パッキングリスト 船積依頼書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。
復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回授業時に自前テキストを配布いたします。

【参考書】
『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024 円（税込）
『ジェトロ貿易ハンドブック』ジェトロ、2022 年、1650 円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回、熱心に講義を聴講している学生が多く、質問等も適切な内容が多かった。質問を受けた件で、講師からの回答に時間がかかるケースもあったが、学生に要望に応えられるように講義の質を高めていきたい。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」
航空会社に約 20 年勤務していたことから、貿易と国際輸送に関する内容において実務経験を踏まえて説明する。

【Outline (in English)】
Trade transactions with overseas will become active as the global economy progresses. As in the trade war between the United States and China, protectionism advocacy and efforts to activate trade like TPP are progressing as well. In this lecture, you will be able to learn the realities of trading business by understanding the flow of basic trade transactions and the flow of money.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

ECN100TG

経済学入門Ⅰ／経済学入門 A(前期メディア)

平田　英明

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2 単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【到達目標】
現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP3,DP5」「日本文学科： DP1,DP2」「史学科： DP1」「地理学科： DP1,DP2,DP3」「経済学科： DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】
ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	市場における需要と供給 1	需要の基礎を学びます。
第 2 回	市場における需要と供給 2	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第 3 回	市場における需要と供給 3	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第 4 回	市場における需要と供給 4	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第 5 回	弾力性とその応用 1	需要の価格弾力性について学びます。
第 6 回	弾力性とその応用 2	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第 7 回	需給と政府の政策 1	価格規制の基礎を学びます。
第 8 回	需給と政府の政策 2	課税の基礎を学びます。
第 9 回	消費者、生産者、市場の効率性 1	余剰分析の基礎を学びます。
第 10 回	消費者、生産者、市場の効率性 2	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第 11 回	課税の応用 1	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第 12 回	課税の応用 2	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第 13 回	国際貿易 1	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。
第 14 回	国際貿易 2	貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー経済学 I ミクロ編（第 4 版）』N. グレゴリ・マンキュー著　（東洋経済新報社）
第 3 版をベースに授業は作成していますので、入手できるようでしたら第 3 版を使って頂いて全く問題ありません。基礎的な理論がメインのテキストですので、両版に大差はありません。

【参考書】
『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著　（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】
中間リポート 40%、リポート試験 60%で評価する予定です。いずれも 4 択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。

【学生の意見等からの気づき】
中間試験（中間レポート）、リポート試験後、模範解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いしています（お一人、最大で 3 問程度までとします）。
中間試験がよくても、リポート試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】
過去に試験について、Yahoo 知恵袋や Line 等で質問や共同作業をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間リポート、リポート試験ともにきわめて限定した期間（２日間程度＜毎年、『法政通信』に記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。
担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えます。

【Outline (in English)】
This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

MAN200TG

マーケティング論Ⅰ (前期メディア)

竹内　淑恵

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2 単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】

・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP3,DP5」「日本文学科： DP1,DP2」「史学科： DP1」「地理学科： DP1,DP2,DP3」「経済学科： DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義形式で授業を進めます。
・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
・中間課題に対しては、システム上で採点を実施し返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	第 1 章　マーケティング発想法 －ニューコークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第 02 回	第 2 章　マーケティング・ミックスによる顧客創造 －ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの 4P(製品、価格、流通、プロモーション) によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第 03 回	第 3 章 製品による顧客創造　－カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第 04 回	第 4 章 価格による顧客創造　－サントリーザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第 05 回	第 5 章 チャネルによる顧客創造 －ネスレ日本 ネスカフェ アンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。
第 06 回	第 6 章 コミュニケーションにおける顧客創造　－ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定 (焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第 07 回	第 7 章 顧客理解　－ライオン株式会社「Ban 汗ブロックロールオン」	Ban 汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第 08 回	第 8 章 関係構築 －ガンホー・オンライン・エンターテイメント パズドラ	パズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第 09 回	第 9 章 デジタル・マーケティング　－ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第 10 回	第 10 章 ディマンドチェーン　－カルビーポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2 つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第 11 回	第 11 章 ブランド構築　－マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第 12 回	第 12 章 営業活動　－カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第 13 回	第 13 章 マーケティングの戦略展開　－花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第 14 回	第 14 章 社会共生　－トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第 15 回	第 15 章 マーケティング 3.0　－ P&G	P&G のマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。
・今年度の配布資料には、新しいデータ等を参考資料として追加します。これらの資料は、企業が投資家向けに毎年公表している IR 情報である「統合報告書」に基づいています。講義の中では言及しませんが、追加資料も各自で確認してください。また、出所を URL で明示しますので、企業の経営戦略やマーケティング戦略等を「統合報告書」で一読するのも大変良い学習になります。チャレンジしてみてください。
・関連科目としてマーケティング論Ⅱがあります。あわせて履修することをお勧めします。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【参考書】

・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣 (2016 年)。
・コトラー, P., G. アームストロング, 恩藏 直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【成績評価の方法と基準】
・中間テスト 1,2 は各々 25 %、トータル 50 %を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
・最終課題であるレポート試験を 50 %として扱い、平常点と加算して評価します。
・平常点 50 点＋レポート課題 50 点、計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になる、大変だという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いします。
・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】
メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

【Outline (in English)】
Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and trading objective, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we will learn the basics of marketing through case studies.
Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: two mid-term examinations 25%+25%, and term-end report 50%.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

ECN300TG
ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンス A(前期メディア)

山嵜　輝

カテゴリー：**前期メディア**　｜　予備登録の有無：
授業形態：**スクーリング**　｜　単位数：**2 単位**
期間：**前期**
受講可能な学科・学年：**『法政通信』受講申込み等関連頁を参照**
備考（履修条件等）：
その他属性：**〈実〉**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析がテーマとなります。

【到達目標】
本授業では、初めてファイナンスを学ぶ学生を対象にファイナンス理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、金融・証券市場の基礎知識と債券・株式の計量分析です。授業の到達目標は、①金融・証券市場の基礎知識を習得する、②株式と債券のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③初等的な確率論をもちいて不確実な将来キャッシュフローの評価手法を説明することができる、の 3 つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「法律学科： DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科： DP1」「地理学科： DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】
金融・証券市場の概観や基礎用語を紹介した後に、金融商品の現在価値の考え方や株式・債券の基本的な分析手法を解説します。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2 次方程式、1 次関数や 2 次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。
中間課題に対しては、①採点もしくは個別評価・添削、②全体講評、③模範解答や優秀リポート等の掲示、のうちいずれかを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	「金融・証券市場の概観」	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足などについて概説します。
第 02 回	「本邦の債券市場」	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場などについて講義します。
第 03 回	「本邦の株式市場」	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場などについて講義します。
第 04 回	「キャッシュフローと現在価値 (1)」	キャッシュフローの概念を矢印図をもちいて把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念について講義します。
第 05 回	「キャッシュフローと現在価値 (2)」	付利期間、連続複利、割引率の概念、連続複利でもちいられるネイピア数について講義します。
第 06 回	「債券分析入門 (1)」	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートの概念について講義します。
第 07 回	「債券分析入門 (2)」	スポットレートとフォワードレートの概念について講義します。
第 08 回	「債券分析入門 (3)」	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブの間の関係について講義します。
第 09 回	「債券分析入門 (4)」	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デュレーションによる債券価格の近似方法について講義します。
第 10 回	「債券分析入門 (5)」	債券の信用リスクと格付けについて概説した後に、社債分析で必要な確率の基礎知識（事象、確率測度、確率変数、期待値など）について講義します。
第 11 回	「債券分析入門 (6)」	社債価格の評価手法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率について講義します。
第 12 回	「株式分析入門 (1)」	株価評価モデルである配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）について講義します。
第 13 回	「株式分析入門 (2)」	株価評価のための財務分析を概説した後に、配当割引モデルによる株式分析について講義します。
第 14 回	「株式分析入門 (3)」	株価評価モデルであるフリーキャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルについて講義します。
第 15 回	「株式分析入門 (4)」	PER、PBR、配当利回り、益利回り、企業価値 EBITDA 比率などの株式投資尺度について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スライド資料の復習を十分に行って下さい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
スライド以外には特に指定しません。

【参考書】
『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は中間リポート 40 %、リポート試験 60 %の合計 100 %です。ただし、単位取得のためには中間リポートの提出は必須となります。リポートの内容によってメディアの授業（小テストを含む）の理解度を確認し、成績評価を決定します。したがって、メディア授業の理解と小テストへの取り組みが何よりも肝要となります。

【学生の意見等からの気づき】
「ファイナンスは難しい学問である」との印象を持っている学生が多いようですが、基礎からしっかりと学べる講義となっています。現代の経済・経営を理解するためには必須の内容なので、みなさんの積極的な受講を期待しています。

【その他の重要事項】
担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
This course offers an introduction to finance theory to students who start learning finance. It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To give students basic tools for analyzing securities such as government bonds, corporate bonds, and stocks. (3) To provide students with an introductory asset pricing theory for evaluating the present values of uncertain future cash flows.

【実務経験のある教員による授業科目】
○

LAW300AB

憲法訴訟論

大津　浩

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法訴訟論は、実体法と訴訟法の双方を系統的に学び、裁判をフィールドにした法解釈の専門的能力の習得を目指す「裁判と法」コースおよび、現代的な法を学ぶ「行政・公共政策と法」に分類されていることに鑑みて、本授業では、実際の日本の憲法判例の分析を通じて、日本国憲法の違憲審査制の特質並びにそこから導かれる憲法訴訟の特質と法技術を理解することを目指す。

【到達目標】

付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質に由来する憲法訴訟の諸特徴と限界について理解できるようになること、こうした限界の中でも、権利の実効的保障のために試みられている様々な新たな憲法訴訟の手法や法理について理解できるようになること、さらに、新しい憲法判例の中でもこのような手法や法理がより一層取り入れられるようになるうえで必要な条件は何かについて、自ら考える力を身に着けることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

初めに外国の違憲審査制と対比しつつ、付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質を講義する。次に、この違憲審査制の特質から導き出される憲法訴訟の諸理論、諸法理について講義し、そのうえで、それぞれの憲法訴訟論に関わる具体的な憲法判例の分析を行う。

学部生の授業であることを念頭に置き、あまり難解で高度な授業にはしないつもりである。

対面式を予定しているが、新型コロナ感性の再拡大などで大学の方針が変更された場合は、オンデマンド式のオンライン授業を行う（詳細は秋学期開始時の第 1 回授業のガイダンスにおいて説明する）。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料（資料は対面式が可能な場合は教室で配布する）を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて、授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、オンデマンド方式のビデオによるオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	憲法訴訟に関する受講生の知識を確認するアンケートを実施した後に、授業の進め方を解説する。
第 2 回	違憲審査制の諸類型と日本の違憲審査制の特質	アメリカ、ドイツ、フランスの違憲審査制と対比しつつ、日本の違憲審査制の特質を講義する。
第 3 回	事件性と客観訴訟	司法権概念の分析から、適法な訴訟となるための訴訟要件を講義する。
第 4 回	憲法訴訟の当事者適格	実際の訴訟において違憲性を争点とするための要件について講義する。第三者の権利援用についても説明する。
第 5 回	憲法判断回避の準則・合憲的限定解釈	具体的な判例の分析を通じて、付随審査制の特質に由来する憲法判断回避の準則と合憲的限定解釈について講義する。
第 6 回	違憲判断の方法と違憲判決の効力（1）	具体的な判例の分析を通じて法令違憲について講義する。
第 7 回	違憲判断の方法と違憲判決の効力（2）	具体的な判例の分析を通じて適用違憲、処分違憲、違憲判決の効力について講義する。
第 8 回	立法行為の違憲訴訟	立法行為、とりわけ立法の不作為の違憲訴訟について講義する。
第 9 回	合理的期間論と事情判決の法理（1）	選挙訴訟を例に挙げて違憲・無効判断の回避手法の展開について講義する。
第 10 回	合理的期間論と事情判決の法理（2）	前回に引き続き、選挙訴訟を例に挙げて合理的期間論の新たな展開について講義する。
第 11 回	立法者の合理的意思推定と部分無効の法理	郵便法事件判決と国籍法事件判決を分析し、権利救済のための司法による事実上の立法の意味と限界を探る。
第 12 回	司法権の限界と部分社会の法理	具体的な判例を紹介しつつ、統治行為論や部分社会の法理の意味と限界を解説する。
第 13 回	裁判を受ける権利と対審・公開の原則	憲法 32 条と 82 条が保障する裁判を受ける権利の意味について、具体的な判例を通じて解説する。
第 14 回	違憲審査基準の現状と本授業のまとめ	二重の基準論、規制目的二分論などの従来の違憲審査基準論のあり方を概観したのちに、最近の最高裁判所の違憲審査の状況や「三段階審査」論について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについて、学部の憲法の授業（憲法Ⅰ～Ⅳ）で用いた教科書の該当部分を参照し予習しておくこと。また、各回の授業で扱った憲法判例について、判例集や参考書の当該部分を参照し、自分で判決内容をまとめ直すことで、理解をより深めること。1 回の授業につき最低でも 4 時間の予習復習を行うことが推奨される。

対面式授業の場合には、Hoppii に事前にアップされた各回の授業内容のビデオ（オンデマンド式）を事前ないし事後に視聴し、また同じくアップされている各回の小テストに授業後に解答するよう努めること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はせず、代わりにオンデマンド方式のビデオで授業内容を解説する予定である。

【参考書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』(岩波書店、2017 年)、3,800 円（＋税）

初宿正典他共著『憲法 Case and Materials 憲法訴訟』（有斐閣、第 2 版、2013 年）7,150 円

芦部信喜（高橋和幸補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019 年）3,520 円

ＬＳ憲法研究会編『プロセス演習・憲法』（信山社、第 4 版、2012 年）5,800（＋税）円

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80 %）、各回の小テストの合計（15 %）、及び授業参加の積極度（5 %）により評価する。

なお、対面式試験の実施が不可能になった場合や履修者が少なかった場合は、各回の小テストの合計（50 %）、授業アンケートや期末レポート（45 %）、その他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的であり、難解な講義となりがちなので、具体例を多く用いつつ、十分な時間をかけて分かりやすい講義に努める。時間配分に気を付けて、最終テーマまで到達できるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

事前や事後の学習、学習準備のため、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

【その他の重要事項】

弁護士として訴訟実務も行っているので、憲法訴訟論の中で、必要に応じて実際の訴訟との関連性を考慮した授業を行う。

授業で用いるレジュメや資料は Hoppii に事前にアップしておくので、各自で事前にダウンロード、プリントアウトして、特に対面式授業の場合は授業に持参すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Lecture of Japanese constitutional litigation theories through analysis of some constitutional precedents in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to be able to understand the proper character of Japanese constitutional litigation system and the actualities of its constitutional decisions.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination:80%, Total of short tests:15%, and in-class contribution;5%.

LAW300AB

親族法

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この科目は「他学部公開科目」でもあります。
●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
【授業の概要と目的】：
●民法典の「第 4 編　親族」の法解釈と、法改正論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正論を含めた法制度を論じられる能力を身につけます。
●法学部生、他学部生とも、必ず人生で 1 度は深く考える「婚姻」や「夫婦別氏」、そして日本で比率がどんどん高まっている「離婚」を含む「民法・親族法」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・親族法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」

【到達目標】
●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。
●また 21 世紀に入って、同じ民法の第 3 編「債権法」と第 5 編「相続法」の大改正が、まさに行われました。
　それに伴い、第 1 編の「総則」も　部分的に改正されています。
　こうした「民法大改正」のうねりの中で、第 4 編「親族法」も民法改正と無縁ではありえません。
そこで、どのような親族法改正が必須か、例えば旧くて新しい問題としては「（選択的）夫婦別氏」、新しい課題では「同性婚の立法」、さらに憲法との関連では以上の他にも、「離婚後の未成年の子と、嫡出でない未成年の子の、片方の親のみによる『単独親権制度』は憲法違反で改正すべきか？」などを含めて、「民法、その中でも『親族編』の諸問題を、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。
●学生皆さんが生きていく 21 世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「親族法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・民法立法過程（1）	現行民法改正過程の前半（主に 1946 年）に関する講義＆質疑応答
第 2 回	民法立法過程（2）・家族法概論	現行民法改正過程の前半（主に 1947 年）に関する講義＆質疑応答
第 3 回	婚姻法（1）成立要件	民法中の婚姻、特に婚姻の成立要件に関する講義＆質疑応答
第 4 回	婚姻法（2）夫婦財産制度	民法中の婚姻、夫婦財産制度に関する講義＆質疑応答
第 5 回	離婚法（1）成立要件	民法中の離婚、特に離婚の成立要件に関する講義＆質疑応答
第 6 回	離婚法（2）財産分与	民法中の離婚、特に離婚の際の財産分与に関する講義＆質疑応答
第 7 回	婚外関係の法的処理	旧くは判例で「内縁」、現在社会では「事実婚」と呼ばれる（法律婚では無い）関係の保護に関する講義＆質疑応答
第 8 回	実親子関係の発生（1）：嫡出推定制度	法的夫婦間にできた子どもの法的地位の発生に関する講義＆質疑応答
第 9 回	実親子関係の発生（2）：認知制度	法的婚姻関係に無い女性・男性の間の子どもの法的地位の発生に関する講義＆質疑応答
第 10 回	実親子関係の発生（3）：人工生殖	不妊治療や、そうではない人工生殖により出生した子の実親子関係の発生に関する講義＆質疑応答
第 11 回	養親子関係；子の親権；扶養	養親子関係、特に「特別養子縁組」、および子全般の親権、親子や夫婦の間の扶養に関する講義＆質疑応答
第 12 回	授業内試験【とその振り返り：第 13，14 回】	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第 13 回	本授業の総括；および授業内試験の振り返り (1)	本授業「親族法」の内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括＆質疑応答
第 14 回	授業内試験の講評; 授業内試験の振り返り (2)	本授業「親族法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】
教科書は以下を使用する【秋学期の「相続法」でも同一の教科書を使用する】：
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法 7　親族・相続』第 6 版 有斐閣アルマ ￥2,400+税

【参考書】
必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】
【予定】

［1］平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ［グループ 1, 2, 3, 4, 5］に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
　以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：
　全員：第 1 回、第 13 回　グループ 1 ：第 2 回、第 7 回　グループ 2 ：第 3 回、第 8 回
　グループ 3 ：第 4 回、第 9 回　グループ 4 ：第 5 回、第 10 回
　グループ 5 ：第 6 回、第 11 回
［2］期末の「授業内試験」【配点 50 点】。
［3］試験採点後の第 14 回「授業内試験の講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】
●期末の「授業内試験」では、到達目標である：
1）親族法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより、親族法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
2) 親族法の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
以上 2 点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、日本民法の特徴を踏まえた「親族法」を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
　「親族法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「親族法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、秋学期の「相続法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】： To learn the Japanese Family Law, the fourth book of the Japanese Civil Code.
【Learning Objectives】： To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Family Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB

相続法

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この科目は「他学部公開科目」でもあります。
●この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（労働法中心）」「国際社会と法」および「文化・社会と法」の各コースに属します。
【授業の概要と目的】：
●民法典の「第 5 編　相続」の法解釈と、法改正を含む法制度論を取り上げます。学生各自が履修後には独自の解釈論を展開して論証できる能力と、法改正を含む法制度論を論じられる能力を身につけます。
●法学部生、他学部生とも、必ず人生で 1 度は深く考える「相続」の諸問題などを、法学が必ずしも身近ではないであろう他学部生にも解りやすく解説し、学生は教師と一緒に「対話」をしながら考えていきます。
●「何を学ぶか」つまり授業の目的のキーワード：解釈・対話・相続法と法改正、そして「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）。正しい答は一つではない。」

【到達目標】
●学生は、学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考による考察（自分の頭で考えること）」により、相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力を身につけます。
●また 21 世紀に入って、同じ民法の第 3 編「債権法」の大改正が、まさに行われました。
　それに伴い、第 1 編の「総則」も　部分的に改正されています。
　こうした「民法大改正」の一環として、第 5 編「相続法」にも改正が行われたことを学びます。
そこで、どのような相続法改正が必須としてすでに行われたかと合わせて、さらに「民法、その中でも『相続編』の諸問題を、独自の思考で考察し（自分の頭で考え）、今後必要となるであろう法改正論も含めて法制度論を論じ、根拠を明示した上で論述する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●講義形式に加えて講義内容の質疑応答（ディスカッション）形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問が必須です。
●学生は、学期中に数回、「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●学生は、指定された教科書の箇所を、次回の授業までに必ず予習します。
●学生は、法の解釈を学ぶには、一に条文、二に判例、三に学説を参照し、教師との対話を通して独自の説を建てる姿勢が大切です。法解釈でも、人生でも、正しい答は一つではありません。
●学生皆さんが生きていく 21 世紀の日本では、国内外、実務・生活、どこでも、他文化との接触に際し、紛争解決の手段としての「法」は、必要不可欠です。
●学生の皆さんが授業で学ぶ民法の「相続法」が、ただのテスト勉強に終わらず、卒業後の実務や生活でも役立つように、教員が工夫して授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	全体的な授業計画	開講にあたって、シラバスの説明も含めて、この授業で学ぶこと及び教科書や成績評価方法などの確認＆質疑応答
第 2 回	相続法総論	相続法総則 相続の開始　法定相続と遺言相続　相続回復請求権。加えて相続法改正の要点と今後の改正の展望＆質疑応答
第 3 回	相続人（1）	1．胎児と相続 2．相続人の範囲 ＆質疑応答
第 4 回	相続人（2）	3．相続権の喪失・相続欠格と廃除 4．同時死亡の推定 ＆質疑応答
第 5 回	相続の効力 (1)	1．相続財産の範囲 2．法定相続分 ＆質疑応答
第 6 回	相続の効力（2）	3．指定相続分 4．具体的相続分・特別受益、寄与分 ＆質疑応答
第 7 回	遺産分割	1．遺産の共有 2．分割協議と利益相反 3．分割の効力 4．遺産分割の指定または禁止 ＆質疑応答
第 8 回	相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在	1．相続の承認と放棄 2．相続財産の分離 3．相続人の不存在 ＆質疑応答
第 9 回	遺言	1．遺言の要式性 2．遺言能力 3．共同遺言の禁止 4．普通方式遺言と特別方式遺言 ＆質疑応答
第 10 回	遺言の効力	1．効力発生時期 2．公序良俗違反の内容を含む遺言の効力 3．遺贈 4．遺言の執行 5．遺言の撤回 ＆質疑応答
第 11 回	遺留分	1．遺留分制度の趣旨 2．遺留分権利者の範囲と遺留分の分割 3．遺留分算定の基礎になる財産 4．遺留分侵害額請求権 5．遺留分の放棄 ＆質疑応答
第 12 回	授業内試験【とその振り返り：第 13，第 14 回】	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第 13 回	本授業の総括；および授業内試験の振り返り (1)	本授業「相続法」の内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括＆質疑応答
第 14 回	授業内試験の講評；授業内試験の振り返り (2)	本授業「相続法」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】
教科書は以下を使用する【春学期の「親族法」と同一の教科書】：高橋朋子・床谷文雄・棚村政行『民法 7　親族・相続』第 6 版 有斐閣アルマ ￥2,400+税

【参考書】
必要に応じて指示する。【購入は必須ではありません。】

【成績評価の方法と基準】
【予定】
[1] 平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ［グループ 1, 2, 3, 4, 5］に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
　以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：
　全員：第 1 回、第 13 回　グループ 1 ：第 2 回、第 7 回　グループ 2 ：第 3 回、第 8 回
　グループ 3 ：第 4 回、第 9 回　グループ 4 ：第 5 回、第 10 回
　グループ 5 ：第 6 回、第 11 回
[2] 期末の「授業内試験」【配点 50 点】。
[3] 試験採点後の第 14 回「授業内試験の講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】
●期末の「授業内試験」では、到達目標である：
1）相続法の学説や判例を覚えるだけではなく、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」ことにより相続法の説得的な解釈論を法的根拠を明示した上で展開できる能力
2) 相続法の改正と今後の改正論を含む諸問題を、「正しい答えは一つではない」との大前提の下に、独自の思考で考察し、法制度として論じ、根拠を明示した上で論述する能力
以上 2 点を身につけたかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●【動画教材】「目からも学ぶ」ことを重視し、ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。
●時々、【教科書】にもないが、法解釈や、民法・法学・法そのものの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業に参加しやすくします。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して財産法とも関連の深い相続法を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。
　「相続法」履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科の学生は、民法の「総則」「物権」「債権」「親族」をなるべく履修していることが望まれます。義務ではありません。
●法学部政治学科・国際政治学科の学生は、無理に他の民法科目を事前に履修する必要はありません。しかし、この「相続法」では「法学を学ぶ」という姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、春学期の「親族法」との合わせての履修を、強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】： To learn the Japanese Law of Inheritance (Inheritance Law), the fifth book of the Japanese Civil Code.
【Learning Objectives】： To learn, to think on your own, and further to express your own interpretations of Articles of and court precedents on Inheritance Law and of and on current issues of institutions set forth therein, all showing your reasoning.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB

社会安全政策論Ⅰ

篠崎　ほし江

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介します。講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】
人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。
また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。
その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
グラフや画像を活用したわかりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。
出席した皆さんから講義に関する質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。
講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とし、メールで返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察概要、社会安全政策論の定義等
第 2 回	犯罪情勢	日本の犯罪情勢に係る統計、安心と安全の違い等
第 3 回	犯罪予防	犯罪予防総論・各論
第 4 回	犯罪捜査	捜査の概要、司法制度改革、捜査の高度化のための取組等
第 5 回	犯罪被害者支援	犯罪被害者を取り巻く状況、日本における被害者等施策の推移等
第 6 回	女性等を守る施策	性犯罪対策、ストーカー対策、DV 対策等
第 7 回	子どもを守る施策	児童虐待対策、児童ポルノ対策等
第 8 回	少年非行対策	少年法の概要、少年非行情勢、少年非行への対策等
第 9 回	特別講義	実務の現状
第 10 回	特殊詐欺対策	特殊詐欺の発生状況、手口の詳細、対策等
第 11 回	サイバー犯罪対策	サイバー犯罪の現状、対策等
第 12 回	組織犯罪対策	暴力団とは、暴力団による犯罪情勢、対策等
第 13 回	薬物対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等
第 14 回	汚職・企業犯罪対策	贈収賄等の汚職事件、企業による不正活動、対策等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018年）、警察白書、犯罪白書等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイトに、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。
その他、講義ごとに参考資料を明示します。

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度を平常点として評価します。
また、学期末にレポートを提出してもらいます。
成績評価に当たっては、それぞれ 50 %を配分します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容について概ね肯定的な評価をいただいたことから、新年度の授業についても、基本的な構成は踏襲しつつ、学生の関心に応えられるよう、最新の情勢を反映するなど、さらなる改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
講義で使用する資料は、原則として、事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷し、事前に目を通しておいてください。

【その他の重要事項】
講師は現役の警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。
刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

【Outline (in English)】
This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.
(Learning Objectives)
People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.
Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society. In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.
(Learning activities outside of classroom)
Please pay attention to media reports on security events.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)
The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.
The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.
50% will be allocated to each grade evaluation.

LAW300AB

法と遺伝学 I

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★この授業は、「他学部公開科目」でもあります！
●テーマ： 21 世紀の遺伝学・医学・細胞学と 法・法学・政策
そこの人！　ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。
【授業の概要】
①デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもって法的・政策的にアリでしょうか？ 2018 年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド 3 人はどうなったのでしょうか？
②同性婚の法制度が議論されています。それとは別に「同性間の実子」つまり女性 2 人の遺伝子を､あるいは男性 2 人の遺伝子を継ぐ子どもってありえるのでしょうか？
③イギリスでは 2015 年に既に「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が法制度上認められました。日本ではどうなっているのでしょうか？
【授業の目的・意義】
以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの 3 つの問に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」のです。論理的に､法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業「法と遺伝学 I 」の内容は、21 世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、遺伝学・医学・細胞学という自然科学の発展を踏まえ､「法と遺伝学」の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。
★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】
学生は、21 世紀の遺伝学・医学・細胞学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を､「正しい答えは一つではない」という大前提の下に､「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち､「DP2」､「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い遺伝学・医学・細胞学の分野を、まず解りやすく解説します。
●講義形式に加えて講義内容のディスカッション形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の「掲示板」を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。
●学生は、学期中に数回､「掲示板」にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は 21 世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「法と遺伝学」を学ぶに当たっての「遺伝学入門」	テーマに基づく講義＆質疑応答・ビデオ動画教材による遺伝学入門；および最新遺伝学に基づく過去の遺伝学の誤解と現在の理解；さらに 21 世紀社会を生き抜く我々にとって、特に法学を学ぶ学生にとって、なぜ「遺伝学の基礎的知識」が必須か、そして「法と遺伝学」の学びが必要か、の解説とディスカッション
第 2 回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (1)	2001-02 年の国際連合の「ヒトクローン禁止条約」の試みで、デザイナーチャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？ を解説した上で、ディスカッションを行う。
第 3 回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (2)	2003-05 年の日本で、デザイナー・チャイルド問題はどのように取り上げられていたか？ を解説した上で、ディスカッションを行う。
第 4 回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの是非 (3)	2015-17 年の中国における研究で、デザイナー・チャイルド問題は、どのように取り上げられていたか？ そして 2018 年、ついに中国でも規程違反とされたデザイナー・チャイルドの現実での誕生に世界はどう応じたか？ を解説した上で､ディスカッションを行う。
第 5 回	デザイナー・チャイルド：ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる「理想的な？」子どもの人権・法的権利	2018 年に中国において現実に誕生したデザイナー・チャイルド 3 人が日本国籍を取得し、日本在住である事例を想定し、子の人権・法的権利､特に「出自を知る権利」､その父・母の「出自を知らせる権利・義務」について考え、ディスカッションを行う。
第 6 回	同性間の実子 (1)	多くの国で同性婚が立法化され、日本を含む諸国でも立法が検討される中、本授業「法と遺伝学 I 」は近未来のテーマとして ≪ 同性 2 者から精子と卵子が細胞学により作成可能となり､同性間の実子誕生があり得る場合 ≫ を想定し、法的・倫理的・社会的問題を考察する｡関連するビデオ動画教材も見て､ディスカッションを行う。
第 7 回	同性間の実子 (2)	現時点で既に哺乳類で可能となっている ≪ 同性 2 者から精子と卵子が細胞学により作成され､同性間の実子が誕生している ≫ マウス (ネズミ) 、試行中のサイ (絶滅危惧種) 、政府の委員会でも議論中のヒトの現実を解説する。その法的・倫理的・社会的問題についてディスカッションを行う。
第 8 回	同性間の実子 (3)	法的に同性婚をした 2 者の ≪ 遺伝子を受け継いだ子の姿をデジタルアーティストがシミュレーション ≫ した例 (動画) を見て､「人工主体」の観点も交えて解説し､解説を踏まえたディスカッションを行う。

第 9 回	「人工主体」と「法と遺伝学」	ブレイン・マシン・インターフェース (Brain Machine Interface; BMI) を超えて、自己・各自の脳の記憶が死後も完全に「人工主体」として保存される「新たな遺伝」の可能性を解説し、その法的・倫理的・社会的問題についてディスカッションを行う。
第 10 回	3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (1)	2015 年 2 月、イギリスで改正されたこの法律が及ぼした波紋の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコで、法改正に先行して「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が出生した意味・意義・法的諸問題の解説と、ディスカッションを行う。日本政府の対応も検討する。
第 11 回	3 人の DNA を受け継ぐ子どもの正当性と法的・倫理的・社会的諸問題：イギリスの新「ヒト受精及び胚研究法」2015 年改正とアメリカ・メキシコでの初出産例 (2)	2015 年 2 月、イギリスで改正されたこの法律の模範性の評価の解説と、ディスカッション；アメリカ・メキシコで、法改正に先行して「3 人の DNA を受け継ぐ子ども」が出生した諸問題、および日本政府の対応の適否についてディスカッションを行う。
第 12 回	授業内試験【その振り返り：第 13，14 回】	本授業「法と遺伝学 I」「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第 13 回	本授業「法と遺伝学 I」の総括；および授業内試験の振り返り (1)	デザイナー・チャイルド、同性間の実子、「人工主体」、3 人の DNA を受け継ぐ子ども等のトピックを通じ、「法と遺伝学 I 」の分野を通じて「独自の思考で考察」した内容を、授業内試験の出題意図と合わせて総括し、ディスカッションを行う。
第 14 回	授業内試験の講評; 授業内試験の振り返り (2)	本授業「法と遺伝学 I」「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず教科書の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。
●学生は、授業で扱った教科書の箇所と授業内容を必ず復習すること。
●準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

●【教科書】経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021 年刊、1,400 円＋税
●【教材】追加的に、必須の教材文献を初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上の URL を教示、または PDF 化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。【教材の例】の PDF 配布は以下の通り：
★和田幹彦著『法と遺伝学』2005 年より、抜粋した教材。
★和田幹彦著「『デザイナー・ベビー』『同性間の実子』再訪：実現性高まる――『ゲノム編集』『男性 iPS 細胞からの卵子作製』の新技術と法規制・立法の要否：同性婚認容のアメリカ連邦最高裁判決」2015 年
★和田幹彦著「３人の DNA を継ぐ子を認める法改正――英国の新『ヒト受精及び胚研究法』」2015 年
★ほかに、2020-2023 年の「内閣府生命倫理専門調査会」の最新公表資料など

【参考書】

必要に応じて指示する。【購入は必須では無い。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：
[1] 平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回参照：初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ［グループ 1, 2, 3, 4, 5］に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。
以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：
全員：第 1 回、第 13 回　グループ 1 ：第 2 回、第 7 回　グループ 2 ：第 3 回、第 8 回
グループ 3 ：第 4 回、第 9 回　グループ 4 ：第 5 回、第 10 回
グループ 5 ：第 6 回、第 11 回
[2] 期末の「授業内試験」【配点 50 点】。
[3] 試験採点後の第 14 回「授業内試験の講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】
●［2］の期末試験では、到達目標である：≪21 世紀の遺伝学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的・社会的な解決法を、「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する（自分の頭で考える）」能力を身につけた ≫ かどうかを基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。
●ビデオ、DVD、ブルーレイ教材を多用する予定です。
●時々、教科書や参考書にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・遺伝子操作・最先端医学・細胞学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度・政策・政治が本科目のテーマにどのように対応しているかを、実務の観点からもこの授業で取り上げます。
●法学部以外の学生は、誰でも履修ができます。この科目を履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。
●法学部法律学科生は、通常の選択必修科目・選択科目を適正に履修していれば、準備は十分です。
●法学部政治学科・国際政治学科生は、他の法律科目履修の必要はありません。本授業で「政策と同時に、法学も学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。
●全学部生に、同じく私による秋学期の「法と遺伝学 II」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】： To learn the new issues of "Law and Genetics" which emerged in our domestic and international society of 21st Century.
【Learning Objectives】： To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the new issues of "Law and Genetics" with the backdrop of most recent developments of genetics, medicine and cytology.
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam for 50/100 points.

LAW300AB

法と遺伝学Ⅱ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【前年度と比べ､本 2023 年度の本授業は 2022 年新刊の｢教科書｣を使うため､大幅に内容が更新され､学習しやすくなっています。】
★この授業は「他学部公開科目」でもあります！
★そこの人！　ハイ、この頁に目をとめたあなたです。ちょっと考えてみて下さい。
【授業の概要】
人間の法と行動って、どこまで遺伝子・生物進化､そしてその産物である脳・思考の影響があるのでしょう？ 例えば：
　①なぜ民法の「親族法」には、そもそも結婚についての法律があるの？　その根源的な理由って何？　ヒトの進化と関係があるの？（あります！　第 8 回授業【人類進化でなぜ家族は重要か､そこから｢家族法｣がいかに進化したか】を参照）
　②なぜ民法の「相続法」により相続はできるのか？　その根源的な理由って何？　　ヒトの進化と関係があるの？（あります！　第 9 回授業【｢家父長制・相続の起源｣|｢現代の個人相続｣の解説】を参照）
　③憲法や民法の詳しい法律の根底には、他の生物と共通の「法の根源的基盤」があるのか？（あります！　第 5 回授業【｢法の進化的基盤｣の解説】を参照）
【授業の目的・意義】
以上の中の一つでも関心があれば…これらの問いを解明するのが本授業の目的・意義です。ただ、ちょい待ち…正しい答は一つではない。世界中で誰もこの 3 つの問に絶対的な答を出した人はいないのです。答は一人一人が｢独自の思考で考察する（自分の頭で考える）｣のです。論理的に､法学的に。法学部生以外の方も市民の目線で。本授業｢法と遺伝学 II ｣の内容・到達目標の 1 つ｢進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか｣は、21 世紀の人類社会の構図を決める問題なのです。ならば、自然科学の発展を踏まえ、｢法と遺伝学｣ の関係を、法学の専門家だけでなく、市民が自ら考察し、理解を深めましょう。それこそがこの授業の問いかけであり、目的・意義なのです。
★この科目は「文化・社会と法コース」に属します。

【到達目標】
【1】学生は、21 世紀の遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の発展の基礎を学び、これらの自然科学と連動して、新たに「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合います。そして「正しい答えは一つではない」という大前提の下に､｢独自の思考で考察する（自分の頭で考える）｣ことにより「この問いに『応える』」能力を身につけること。
【2】さらに「生物とヒトとヒトの法がこのように進化した」結果は決して「現代の人間集団と国際社会」を束縛するのでは無いのであるから、逆に「進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきか」という考察に繋げること。
以上の【1】【2】がこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、｢DP2｣、｢DP4｣ に関連。

【授業の進め方と方法】
●法学部生・他学部生の皆さんには馴染みが薄い科学の分野を、まず解りやすく解説します：行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の基礎と､さらに法・法学との関係を解説していきます。
●講義形式に加えて講義内容のディスカッション形式を取ります。教室で、そして学習支援システム上の｢掲示板｣を用いた学生の自由な発言・質問・投稿を歓迎します。
●学生は、学期中に数回､｢掲示板｣ にリアクションペーパー提出の方法で、授業の質問、感想、批判、自分の説などを書き、提出します（匿名です）。次回の授業でこれを教員が発表し、質問には応え、その他にはコメントします。
●リアクションペーパー提出の方法については【成績評価の方法と基準】も参照してください。
●授業の進め方の基本方針：「自分の頭で考える：正しい答は一つではない！」日々の生活で実践できる、論理的・法学的思考を訓練します。＜法と遺伝学＞の問題には、いまだに世界中のどこにも「一つの正しい答」はありません。だから「誤った発言」はありえない。安心して自分の心の中で議論して下さい。その中で、法学的思考が少しずつ身に付くように、教師が工夫します。発言・掲示板投稿が恥ずかしいという学生も、毎年、皆すぐ慣れて発言・投稿しています。それに「モノ言う能力」は 21 世紀を生きていく中で必須です！これこそ国際市場と日本の社会で、今、求められている技能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「法とは何か？」の自然科学による再分析・定義の可能性の解説とディスカッション; 動画教材による人類 400 万年史の解りやすい紹介【リアクションペーパー全員提出】
第 2 回	法の新たな定義と新たな法源	「法」の再定義に先立つ、遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学の基礎的解説とディスカッション；動画教材の人類 400 万年史視聴 (続き)【｢成績評価の方法｣欄のグループ 1 はリアクションペーパー提出】
第 3 回	ヒト集団・社会に法が進化した要因 (1)［(2) は第 11 回］	教科書欄の【教材 1】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した｢機能｣|｢進化史｣|｢しくみ｣|｢発達｣の概要解説とディスカッション【グループ 2 はリアクションペーパー提出】
第 4 回	遺伝学モデルに基づく｢文化進化論｣による｢法の進化｣	教科書 13 章｢ヒトに於ける文化の重要性｣に基く｢文化としての法｣の｢文化進化｣の解説とディスカッション【グループ 3 はリアクションペーパー提出】
第 5 回	｢遺伝学｣による｢生物進化学」の解説：｢自然淘汰｣の基礎 (1)	教科書 1,2,3 章+【教材 2】に基き｢遺伝学は生物進化に直結する｣ことと｢法の進化的基盤｣の解説；動画教材視聴；テーマのディスカッション【グループ 4 はリアクションペーパー提出】
第 6 回	｢遺伝学｣による｢生物進化学」の解説：｢自然淘汰｣の基礎 (2)	教科書 1,2,3 章に基き｢生物進化の遺伝学上のしくみ｣の解説；テーマのディスカッション【グループ 5 はリアクションペーパー提出】
第 7 回	ヒト属集団・社会の 200 万年史における｢法の進化｣	教科書 4,5,6 章【+河田雅圭・動画教材】に基き｢人類史上の進化の中で法はどのように進化し得たか｣の解説；テーマのディスカッション【グループ 1 はリアクションペーパー提出】
第 8 回	ヒト属集団・社会における｢家族・家族法｣の重要性；及び｢家族以外との協力行動｣としての｢法の進化｣	教科書 7, 8, 9 章に基き｢人類進化でなぜ家族は重要か､そこから｢家族法｣がいかに進化したか；家族以外との協力行動こそ｢法の進化｣の中核であることの解説；テーマのディスカッション【グループ 2 はリアクションペーパー提出】

第 9 回	「遺伝学」による「生物進化学」の解説：「性淘汰」の基礎	教科書 10,11 章に基き「生物とヒトにおける性淘汰」と性差・「家父長制・相続の起源」「現代の個人相続」の解説；それがジェンダー・性的志向・性自認ほかに基づく「差別の根拠とならない」ことの学び；テーマのディスカッション【グループ 3 はリアクションペーパー提出】
第 10 回	ヒトの心の進化と「法の進化」の結びつき	教科書 12 章に基き「ヒトの心の進化」が「法の進化」にいかに結びつくかの考察・解説；テーマのディスカッション【グループ 4 はリアクションペーパー提出】
第 11 回	ヒト集団・社会に法が進化した要因 (2)［(1) は第 3 回］	教科書欄の【教材 1】【教材 4】に基づき、ヒト集団・社会に法が進化した「機能」「進化史」「しくみ」「発達」「言語進化と法の進化の連動性」の詳細解説とディスカッション【グループ 5 はリアクションペーパー提出】
第 12 回	授業内試験またはレポート【とその振り返り：第 13，第 14 回】	本授業「法と遺伝学 II」の「到達目標」に達したかを、問題を通じて考え、論述する。
第 13 回	「法と遺伝学 II」総括：進化を通じて「法」の本質を探る	この授業の第 12 回目までを通じて、「進化」を手掛かりに、「法」の機能と本質がどこまで解明できたかの解説と、ディスカッション【リアクションペーパー全員提出】
第 14 回	授業内試験またはレポートの講評	本授業「法と遺伝学 II」の「到達目標」に達したかを、問題の模範解答・解答例の講評・採点基準を通じて考え、振り返る。【リアクションペーパー全員提出】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●学生は、各回に必ず【教科書】と【教材】の予習箇所を指定するので、各自自宅で予習をすること。

●学生は、授業で扱った【教科書】と【教材】の箇所と授業内容を必ず復習すること。

●準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。

【テキスト（教科書）】

●【教科書】長谷川寿一・長谷川眞理子・大槻久『進化と人間行動』第 2 版（2022 年）東京大学出版会 (2,500 円+税）：多用するので、必ず入手すること。

●【教材】追加的に、最新の文献を含めて初回および各回の授業で指示する。教員の和田がネット上の URL を教示、または PDF 化して学習支援システムの「教材」にアップロード・配布する予定。

【例】【教材 1】和田幹彦 (2021 刊)「律する」『進化で゛わかる人間行動の事典』234-238 頁.pdf

【教材 2】河田雅圭［東北大学教授・進化生物分野］(2021 版；学術的内容)「ヒトはいつ出現し、どう進化をたどってきたのか」
https://note.com/masakadokawata/n/n79991282d860

【教材 3】河田雅圭［同上］『多様性と異文化理解』（東北大学出版会/2021 年）の第 1 章「進化的視点からみる人間の『多様性の意味と尊重』」（購入は不要；以下の公式サイトを用いる）
https://note.com/masakadokawata/n/nb758462b63fb

【教材 4】和田幹彦 (2023 年刊行予定)「『法の進化』研究・素描」.pdf

【参考書】

●経塚淳子（監修）『遺伝のしくみ』新星出版社、2021 年刊、1,400 円＋税【春学期の「法と遺伝学 I」で使う本と同一；秋学期「法と遺伝学 II」のみの履修者は購入する義務はない。】

【成績評価の方法と基準】

【予定】：

［1］平常点【配点 40 点上限】：【授業計画】の各回も参照。初回授業で指示するとおり、履修者を約 5 グループ［グループ 1, 2, 3, 4, 5］に分け、学習支援システム上の「掲示板」でリアクションペーパーとして各指定回の授業内容についての「独自の考察」を書いて提出してもらう。1 回 10 点満点で評価；ただし病気その他やむを得ない事情で欠席した学生にも予習・復習指定内容について同様に書けば評価する。以下のように全履修者に少なくとも 4 回の提出機会を与えるが、病気欠席者などの例外は初回の授業で詳しく説明する。

以下の回には【必ず】指定の履修者はリアクションペーパーを提出すること：

全員：第 1 回、第 13 回　グループ 1 ：第 2 回、第 7 回　グループ 2 ：第 3 回、第 8 回

グループ 3 ：第 4 回、第 9 回　グループ 4 ：第 5 回、第 10 回

グループ 5 ：第 6 回、第 11 回

［2］期末の「授業内試験」または「レポート課題」提出【配点 50 点】。

［3］「授業内試験」または「レポート課題」採点後の「講評」1 回出席で【講評の平常点 10 点】

●［2］の期末試験またはレポートでは、到達目標である：≪ 遺伝学・行動遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学・文化進化論の発展の中で、これらの自然科学と連動して、「法とは何か？」という法学の根源的な問いと向き合い、この問いへの「正しい答えは一つではない」という大前提の下に、「独自の思考で考察する」ことにより「この問いに『応える』」能力が身についた ≫ か、≪ 進化の結果を踏まえて人間集団・国際社会での不当な差別をどのように解消すべきかという考察に繋げられたか ≫ を基準として、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

●質問をしやすい環境をより良く整備します。

●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついていきやすいように工夫します。

●【動画教材】ビデオ、DVD、ブルーレイ、ネット上の内容・質の良い動画などの教材を多用する予定です。

●時々、【教科書】【教材】【参考書】にもないが、法学・法そのものの理解、遺伝学・進化生物学・進化心理学・脳科学などの理解に役に立つ「手がかり」を挿入し、授業を聞きやすくします。

【その他の重要事項】

●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して、各国の法・法律・法制度の共通点に着眼し、「法とは何か？」という主題を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

●法学部以外の学生も、誰でも履修ができます。

この科目履修以前の、他の法律科目の履修も必要ありません。

●法学部法律学科の学生は、通常の選択必修科目、選択科目を適正に履修していれば、準備としては十分です。

●法学部政治学科・国際政治学科生は「法学を学際的に学ぶ！」姿勢をしっかり持って下さい。

●全学部生に、同じく私による春学期の「法と遺伝学 I」との合わせての履修を強く勧めます。義務ではありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】： To learn the new issues of "Law, Behavioral Genetics, Evolutionary Biology & Psychology, and Neuroscience".

【Learning Objectives】： To learn and to think on your own, further to express your own understanding of the evolutionary foundations of law, and law's evolution itself.

【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.

【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 50/100 points. Final exam or paper for 50/100 points.

LAW200AB

演習

高須　順一

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
民法財産法についてのケーススタディです。民法の解釈能力の向上を目指し、法科大学院への進学や各種法律試験の受験に有意義と思っています。「裁判と法コース」に直結する演習と理解しています。
本年度は、昨年度に引き続き、2020 年４月１日施行の改正債権法の習得に比重を置いた演習にしたい。

【到達目標】
２年間のゼミを通じて民法財産法の主要な争点について、ひととおり学習することを目標とします。とりわけ、121 年ぶりの抜本改正となった改正債権法の内容を十分に理解してもらえるようなゼミを行い、新民法の実像を理解することを目指します。また、ゼミ受講によって主体的に勉強するというスキルを身につけることができるにようします。法律の知識の習得はもちろんのこと、法的なものの考え方を体得することもできるようにします。
また、１２月に京都で実施される予定のインターカレッジ民法討論会に参加し、プレゼンテーション能力の向上にも務めることも検討しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
予め設例として提示された紛争事例の当事者の立場に立ってもらい、紛争の解決を目指すシミュレーション方法を採用しています。このような方式を取る関係上、毎回のゼミについて予習を行うことが不可欠です。そして、ゼミ当日は自分の頭で考え、対立当事者に対して自分の考えを主張し説得することを心がけてもらいます。また、私のゼミは単位の取得のみを目的とすることなく、卒業後も付き合っていけるような人間関係を作っていきたいと考えています。「元気一杯、高須ゼミ」のキャッチフレーズのもと、勉強以外の活動も活発に行います。
なお、教室での対面授業を想定しているが、新型コロナウィルスの感染状況によっては、ｚｏｏｍ等を利用したオンライン遠隔授業になる場合もあります。
ゼミ課題に関するフィードバックは、毎回の授業においてその都度、行うこととします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	１年間のゼミの運営方法等を説明する。
第 2 回	シミュレーション問題の実例	実際にシミュレーション問題を利用してゼミを行ってみる。
第 3 回	総則法を中心とする問題の検討その 1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。権利の濫用及び公序良俗則を扱う。
第 4 回	総則法を中心とする問題の検討その 2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。意思表示の問題を取り上げ、虚偽表示や詐欺等を扱う。
第 5 回	総則法を中心とする問題の検討その 3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。代理人の権限濫用及び表現代理等を扱う。
第 6 回	総則法を中心とする問題の検討その 4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。消滅時効を扱う。
第 7 回	物権法を中心とする問題の検討その 1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不動産物権変動論、とりわけ所有権の移転時期に関する議論を扱う。
第 8 回	物権法を中心とする問題の検討その 2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不動産対抗問題を扱う。
第 9 回	物権法を中心とする問題の検討その 3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。動産の即時取得を扱う。
第 10 回	物権法を中心とする問題の検討その 4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。抵当権に基づく物上代理を扱う。
第 11 回	物権法を中心とする問題の検討その 5	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。抵当権に基づく不法占拠者等への明渡請求の問題を扱う。
第 12 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。履行障害法のうち特定物売買をめぐる問題を扱う。
第 13 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。履行障害法のうち動産売買（種類売買）をめぐる問題を扱う。
第 14 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。履行障害法のうち請負契約をめぐる問題を扱う。
第 15 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。債権者代位権を扱う。
第 16 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 5	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。詐害行為取消権を扱う。
第 17 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 6	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不動産賃借権をめぐる問題を扱う。
第 18 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 7	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。債権譲渡をめぐる問題を扱う。
第 19 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 8	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。差押えと相殺の問題を扱う。
第 20 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 9	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。契約不適合責任のうち追完請求の問題を扱う。
第 21 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 10	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。契約不適合責任のうちの代金減額請求権等の問題を扱う。
第 22 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 11	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。不法行為責任を扱う。
第 23 回	改正債権法の検討その 1	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。４大論点のうちの保証法制の改正を扱う。
第 24 回	改正債権法の検討その 2	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。４大論点のうちの定型約款の改正を扱う。
第 25 回	改正債権法の検討その 3	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。履行障害法の改正を扱う。
第 26 回	改正相続法の検討その 1	相続法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。対抗要件主義の導入に関する改正を扱う。
第 27 回	改正相続法の検討その 2	相続法改正に関する資料等を使用してゼミを行う。配偶者居住権の新設に関する改正を扱う。
第 28 回	改正所有権法の検討	物権編の中の所有権に関する改正法に関して資料等を使用して概括的なゼミを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私のゼミでは他大学のゼミとの合同ゼミの実施や、毎年、関西で行われるインターカレッジ民法討論会への参加などの対外的な活動を積極的に行っています。昨年度は早稲田大学のゼミとの間で合同ゼミを行いました。また、インカレ民法は多くの年度において上位入賞を果たしています。これらのイベントについても積極的に参加してもらい、民法の実力を付けてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
私が作成したゼミ教材（問題集）をテキストとして使用します。その他にも、私が法科大学院の民事法演習で使用している教材や、債権法改正に関して法務省が作成した法制審議会資料等についても適宜、利用する予定です。

【参考書】
必要があれば、その都度、指摘します。

【成績評価の方法と基準】
１年を通じたゼミにおける平常点で成績を評価します（１００％）。ただし、ゼミ内においてレポート等を提出してもらうこともあります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート該当科目ではありませんので、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用する予定はありません。

【その他の重要事項】
私は本学の昭和 56 年度卒業生であり、永年、弁護士を行ってきたものです。司法改革が現実のものとなった今、法曹養成制度も大きく変わろうとしています。このような時代にあって、私は、法律家をめざす後輩の皆さんのために、少しでもお役に立ちたいと考えております。平成 16 年度に設立された本学法科大学院の実務家教員に就任したのも、そのような考えからです。若い皆さんにとって、勉強よりも大切な何かがあることは、私自身の学生時代の実感からも理解できるところです。しかし、それと同時に自分自身の将来を自分自身の力で切り開くために努力することの大切さも分かって欲しいと思います。熱気あふれるゼミにしたいと考えています。元気な皆さんの参加を期待します。
なお、インターカレッジ民法討論会への参加等の諸事情の発生により 11 月以降のスケジュール等が変更になる場合もありますので、その際には改めて学習計画を指示します。

【副題】
民法・改正債権法

【聴講について】
基本的には聴講は予定していません。

【Outline (in English)】
【Course outline】
It is a case study about civil law property law. Aiming at the improvement of the ability for interpretation of the civil law, I think it to be significant for the examination of the entrance into a school of higher grade to the law school and various law examinations. It is understood with practice to be connected directly with "a trial and the law course". This year, I want to make it the practice that placed more weight on the acquisition of the enforcement planned revised credit law on April 1, 2020.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand of contents of the revised credit law, understand the way of thinking of the legal thing, and it is independent and obtains a technique to study.
【Learning activities of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content
Experiment/Practice(one-credit)
【Grading Criteria/Policies】
Grading will be decided based on the normal points in class (100%).

LAW200AB

演習

和田　幹彦

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**年間授業**/Yearly
単位数：**8 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・「法・生命工学・法解釈学 ― 家族と民法特に『親族・相続法』、『法と遺伝学』を素材として ―」【それ以外の法的問題の検討も、学生の希望により歓迎する】
・この科目は、６つのコースすべてに属する。

【到達目標】
１）家族法：学説や判例を覚えるだけではなく、「答えは一つではない」との大前提の下に、「自分の頭で考え」、親族法・相続法の説得的な解釈論を展開できる実力を身につける。
２）「法と遺伝学・神経科学（脳科学）」：21 世紀の遺伝学・脳科学・医学の発展の中で、新たな法的問題を発見し、その法的・政策学的な解決法を、「答えは一つではない」という大前提の下に、「自分の頭で考える」能力を養う。
３）学生は【授業の概要と目的】の枠外でも、家族・生命工学・生命倫理に直接関わらないテーマならすべて、法的観点から研究テーマとすることが可能。自由に自分の頭で考えたテーマについて、自力で図書館やデータベース、インターネットでリサーチを行い、ゼミ生と教員の前でレジュメをまとめ、口頭発表する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
●キーワード：【ワクワクするテーマ】 について【自分の頭で考える】！　ゼミのネライは、教育の最終ステージ の大学だからこそ可能な【好きなことをやる！】　【自由にモノを考える！】というチャンスを最大限に活かすこと。これを家族法と「法と遺伝学・脳科学」他の自由テーマの理解の深化につなげます。
●課題・報告等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。
●概要：授業計画に示します。でも、この概要もテーマも過去の和田ゼミの例に過ぎません。今年度のゼミの方法も、ディベート・模擬裁判（やるとして）も、テーマは皆で話し合って決めます！
●「ディベートなんかできない」と当初言ったゼミ生も、半年後には「やって良かった」という感想が多々出ています。
●私は日本とスイスで 6 年間銀行勤務し、ドイツに 5 年、アメリカに 3 年住みました。「自国の文化・他文化・多文化」を反映した日本法・諸国の法の理解は、教員の私にとっても、21 世紀を生きる学生にとっても、ヒトゴトではありません。ディベートの論題や、個人/グループ研究のテーマに値する、「自分が当事者の課題」です。
● 2001-03 年、2020 年にアメリカで「法と遺伝学/法と進化生物学・心理学」を研究しました。遺伝子操作によるデザイナー・ベビー出生は、遂に 2018 年 11 月中国で実現しましたが、事後的に法的対処がなされました。21 世紀を生きる諸君に他文化・多文化との接触・紛争解決は日常茶飯事。激動の時代を生きるのに、法・遺伝学・脳科学・生命工学への取り組みも必須。ゼミでの法と文化、法と生命工学、そして法解釈学の研究は、在学中かぎりの「机上の空論」ではなく、諸君の人生に深く関連しり、役に立つことに目覚めてほしいです。
●「親族法」「相続法」と、「法と遺伝学Ⅰ＆Ⅱ」の同時履修を勧めますが、義務ではありません。
●【重要】2-3 年生、または 3-4 年生の 2 年間を続けて履修することが前提です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミ生と教員の自己紹介、今後の予定の打ち合わせ
第 2 回	ゼミ研究方法の選定	春学期～夏合宿にかけて、ディベートをやるかどうか選定
第 3 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得 (1)	ディベートを行う場合、指定する「ディベートの教科書」を少しずつ読み進め、ディベートの技術を身につける。質疑応答を歓迎する（次回以後も同様。）
第 4 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得 (2)	全員で取組むテーマの絞り込み
第 5 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得 (3)	全員で取組むテーマのさらなる絞り込み
第 6 回	ゼミの研究テーマの選定とディベート技術の習得 (4)	全員で取り組むテーマの決定
第 7 回	ディベートの論題（全体テーマ）についての発表 (1)	決定されたテーマについて、資料収集、発表
第 8 回	全体テーマについての発表 (2)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第 9 回	全体テーマについての発表 (3)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第 10 回	全体テーマについての発表 (4)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第 11 回	全体テーマについての発表 (5)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第 12 回	全体テーマについての発表 (6)	決定されたテーマについて、さらに詳しい資料収集、発表
第 13 回	全体テーマについての討論 (1)	ディベートを行う場合、練習試合：第 1 試合
第 14 回	全体テーマについての討論 (2)	ディベートを行う場合、練習試合：第 2 試合
第 15 回	全体テーマについての討論 (3)	ディベートを行う場合、練習試合：第 3 試合
第 16 回	［ゼミ合宿］	ディベート本番試合 3 ラウンドを行う
第 17 回	ゼミ合宿ディベートの成果発表	ディベートの「決勝戦」を行う
第 18 回	個人・グループ研究発表 (1)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。
第 19 回	個人・グループ研究発表 (2)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。
第 20 回	個人・グループ研究発表 (3)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。
第 21 回	個人・グループ研究発表 (4)	3 年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために 3 年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第 22 回	個人・グループ研究発表 (5)	3 年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために 3 年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第 23 回	個人・グループ研究発表 (6)	3 年生は、翌年の進入ゼミ生にディベートを教えるため、研鑽のために 3 年生だけでディベートのテーマを決め、試合を行うことも可能。
第 24 回	個人・グループ研究発表 (7)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。

第 25 回	個人・グループ研究発表 (8)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。
第 26 回	個人・グループ研究発表 (9)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。
第 27 回	個人・グループ研究発表 (10)	各自興味のあるテーマについて発表を行う。個人でも、2 人以上のグループでも OK。
第 28 回	ゼミ総括・総合討論	教材として、映像教材を用いる（予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は必須である。
●準備（予習）・復習時間は、1 回の授業につき各々 2 時間（合計 4 時間）である。
●春学期は、各回とも、ディベート行う場合は、教員が教科書を指定する。指示されたら必ず予習して、質問を考えてくること。
●秋学期は、個人・グループ・研究発表の 1 週間前に、発表者は簡単なレジュメを配布する。発表者以外のゼミ生は、これを読んで自分の意見＆質問を形成して、翌週の本番の個人発表に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
ディベートを行うことをゼミ生自身が決定した場合の教科書：
西部直樹『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける ― しくみから試合の模擬練習まで』あさ出版、2009 年刊、1,575 円（あくまで予定なので、ゼミ開講前には、絶対に買わないこと。）

【参考書】
個人・グループ研究発表を行うゼミ生には、必要に応じて参考書・文献・資料を教員からも紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30 %) と、授業のディスカッション・ディベートへの参加 (40 %)、そして各自・各グループが取組んだ研究発表 (30 %；初年度ゼミ生の秋学期は 2 度目のディベート等も可能) を、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
●質問をしやすい環境をより良く整備する。
●授業のスピードを速くしすぎず、ゆったりしたテンポで、学生がフォローし、ついてきやすいように工夫する。
●時々、教科書や、参考書にもないが、法解釈や、「家族法」・「法と遺伝学」・「法と脳科学」・「家族に関わる諸問題」・法学・法そのものの理解に役に立つエピソードを挿入し、授業をに参加しやすくする。
●ゼミは、憲法と、民法の「総則」「物権」「債権」をなるべく履修済み、または履修中であることが望まれます。義務ではありません。
●オフィスアワーはアポイントメントが必要です。ゼミ生も、誰でも質問や相談に来ることを歓迎します。

【その他の重要事項】
●「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して主に日本の法学を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【【副題】】
「民法、特に親族法・相続法」「法と遺伝学」

【【聴講について】】
許可していません。

【Outline (in English)】
Seminar of approximately 20-25 students only,
【Course outline】： We focus on "Law, Life Technology, Legal Interpretation: Family Law, Laws of Inheritances of Japan; 'Law, Genetics & Neuroscience'" (Other topics are welcome to be discussed or debated on, provided that the students choose to.)
【Learning Objectives】： To learn, to think on your own, and further to express your own understandings/opinions/assertion through debate and/or academic presentations on "Law, Life Technology, Legal Interpretation: Family Law, Laws of Inheritances of Japan; 'Law, Genetics & Neuroscience'" (or other topics, which are welcome to be discussed, provided that the students choose to.)
【Learning activities outside of classroom】: Read the class material in advance and as review, taking 2 hours each, making the activity 4 hours per a weekly class.
【Grading Criteria/Policy】: Class participation for 30/100 points; class presentation through debate and/or of academic research for 70/100 points.

ECN100AC

経済原論Ⅰ

水野　和夫

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済原論は、経済の根本原理を解明することを目的とする科目であり、「政治学基本科目群」の分野に属する。個々の企業の生産活動と家計の消費行動の法則を明らかにするのが、ミクロ経済学である。
ミクロ経済の基本的なフレームワークを学んだうえで企業と消費者の行動メカニズムを考察する（秋学期にはマクロ経済学を学ぶ）。そして 1990 年にバブルが崩壊しその後巨額の財政赤字を解消できず、生活水準が上がらない理由を学ぶことができる。
従来の常識にとらわれることなく日本が今様々な困難を抱えている状況にいかに対処するかを考える力を身につけることができる。

【到達目標】
この授業では、政治と経済は表裏一体であること、および経済活動がどのようなメカニズムの上で成り立っているのかを理解し、自ら日本経済が抱える問題や課題を見つけることができるようになることを目標とする。
その上でどうすればいいのかを考える力を取得することが到達目標である。また、この授業のテーマは日本の望ましい経済の姿を考えることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業形態は原則対面で行う（大学の規定に従う）。
数回リアクションペーパーを配り、質問を次回の授業の冒頭で回答するとともに、全体に向けてフィードバックを行う予定である。経済原論Ⅰ（春学期）は企業の投資行動や家計の消費行動などミクロ経済学を学び、経済原論Ⅱ（秋学期）は日本の生産額がどのように決まってくるのかなどマクロ経済学を学ぶ。経済原論ⅠとⅡの両方を受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション－経済学の十大原理（テキスト 第１章）、経済学者らしく考える（テキスト 第２章）	人々はどのように意思決定するか、人々はどのように影響しあうのか、経済は全体としてどのように動いているか 科学者としての経済学者、政策アドバイザーとしての経済学者、なぜ経済学者の意見は一致しないのか
2	十大原理のなかの第一原理（人びとはトレードオフの関係に直面する）について	第１原理を現在社会における利子率に適応すると何が浮かび上がってくるのかを考察する
3	イントロダクション②－相互依存と交易からの利益（テキスト第３章）、相互依存と交易からの利益（テキスト 第３章	現代経済の寓話、比較優位 比較優位の応用例、結論
4	比較優位の理論（第５原理）を用いて国際関係を考える	国際収支発展段階説と、20 世紀の支配・被支配の理論を重ね合わせて、米中関係を読み解く
5	ミクロ経済学：市場における需要と供給の作用①（テキスト 第４章）	市場と競争、需要、供給
6	ミクロ経済学：市場における需要と供給の作用②（テキスト 第４章）	需要と供給を組み合わせる、結論（価格はどのようにして資源を配分するか）
7	ミクロ経済学：需要、供給、および政府の政策①テキスト 第５章）	価格規制、税金
8	ミクロ経済学：需要、供給、および政府の政策②（テキスト 第５章）	付論　弾力性、結論
9	ミクロ経済学：消費者、生産者、市場の効率性①（テキスト 第６章）	消費者余剰と生産者余剰
10	ミクロ経済学：消費者、生産者、市場の効率性②（テキスト 第６章）	市場の効率性、結論（市場の効率性と市場の失敗）
11	ミクロ経済学：税と効率・公平①（テキスト第６章付論）	税と効率、税と公平、結論（効率と公平のトレードオフ）
12	ミクロ経済学：外部性①（テキスト 第７章）	外部性と市場の効率性、外部性に対する公共政策、外部性に対する当時者間による解決法、結論
13	ミクロ経済学の現実への適用例－貨幣数量説	異次元金融緩和政策と物価、為替レート
14	ミクロ経済学の現実への適用例－消費と貯蓄の選択理論	21 世紀にまって日本で生じたゼロ金利はどういった意味を持っているのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義のパワーポイント資料（授業支援システムに掲載）を参照しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくに復習をしっかりすること。

【テキスト（教科書）】
『マンキュー　入門経済学［第 3 版］』（東洋経済新報社、2019 年）
https://str.toyokeizai.net/books/9784492315217/

【参考書】
『次なる 100 年　歴史の危機から学ぶこと』（水野和夫、東洋経済新報社、2022 年）
https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/
『ミクロ経済学入門の入門』（坂井豊貴、岩波新書、2017 年）
https://www.iwanami.co.jp/book/b285381.html

【成績評価の方法と基準】
受講態度 40 %+期末レポート（感染状況次第では期末レポート）60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価（リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択）

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムやリアクションペーパーの配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】
事前に PC などで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】
内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する。

【Outline (in English)】
This course introduces the Principles of Micro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

Why should you,as a student in the 21st century ,embark on the study of ecomics? There are three reason.The first reason to study economics is that is will help you understand the world in which you live.The second reason to study economics is that it will make you a more astute particpant in the economy.The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

ECN100AC

経済原論Ⅱ

水野　和夫

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済原論は、経済の根本原理を解明することを目的とする科目であり、「政治学基本科目群」に属する。個々の企業の生産量や家計の消費量などの集計量がどのように決まるのか、その法則を明らかにするのが、マクロ経済学である。

その基本的なフレームワークを学んだうえで資本主義の生成とそのメカニズムを考察する。そして 21 世紀になって世界的に広がった格差や不平等問題について考察する。

従来の常識にとらわれることなく日本が今様々な困難を抱えている状況にいかに対処するかを考える力を身につけることができる。マクロ経済学はミクロ経済学の単なる積み上げではないことを理解することによって、現在の様々な経済的問題への対処方法を学ぶことができる。

【到達目標】

この授業では、政治と経済は表裏一体であること、および経済活動がどのようなメカニズムの上で成り立っているのかを考察し、自ら日本経済が抱える問題や課題を見つけることができるようになることを目標とする。

その上でどうすればいいのかを考える力を取得することが到達目標である。また、テーマは日本の望ましい経済の姿を考えることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形態は原則対面で行う（大学の規定に従う）。

数回リアクションペーパーを配り、質問を次回の授業の冒頭で回答するとともに、全体に向けてフィードバックを行う予定である。経済原論Ⅰ（春学期）は企業の投資行動や家計の消費行動などミクロ経済学を学び、経済原論Ⅱ（秋学期）は日本の生産額がどのように決まってくるのかなどマクロ経済学を学ぶ。経済原論ⅠとⅡの両方を受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済学：国民所得の測定①－経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDP の構成要素（テキスト 第８章）	経済学とはいかなる学問か、経済学でいう「進歩」とは、マクロ経済学とミクロ経済学について
2	マクロ経済学：国民所得の測定②－実質 GDP と名目 GDP,GDP は経済厚生のよい尺度か、結論（テキスト 第８章）	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDP の構成要素実質 GDP と名目 GDP の関係、GDP デフレーター、三面等価の法則
3	マクロ経済学：生計費の測定①－消費者物価指数（テキスト 第９章）、生計費の測定②－インフレーションの影響に対する経済変数の補正（テキスト 第９章）	消費者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変動の補正、実質金利と名目金利の関係、実質金利と潜在成長率の関係
4	第 9 章をうけて、何が日本の物価を決めているのかについて考察する	インフ・デフレは貨幣現象か、フィリップス曲線で説明可能か
5	マクロ経済学：生産と成長①－世界の国々の経済成長、生産性：その役割と決定要因（テキスト 第１０章）	世界の国々の経済成長、生産性（その役割と決定要因）と実質賃金の関係、全要素生産性（イノベーション）の現状（20 世紀初頭と 20 世紀末以降の IT 革命の比較）
6	マクロ経済学：生産と成長②－経済成長と公共政策、結論：長期的成長の重要性（テキスト 第１０章）	経済成長と公共政策、結論（長期的成長の重要性）、成長の「収斂仮説」、人口規模と豊かさの関係
7	マクロ経済学：貯蓄、投資と金融システム①－国民所得勘定における貯蓄と投資（テキスト 第１１章）	アメリカ経済における金融機関、日本との比較、国民所得勘定における貯蓄と投資 貯蓄投資バランスと資金過不足の関係
8	マクロ経済学：貯蓄、投資と金融システム②－貸付資金市場、結論（テキスト 第１１章）	貸付資金市場、結論
9	マクロ経済学：付論 1、2 テキスト 第１１章）	貨幣システム、貨幣の需給とインフレーションの古典派理論、リアルエコノミーとシンボルエコノミーの乖離が何をもたらしているのか（ドラッカー）
10	マクロ経済学：総需要と総供給①（テキスト 第１２章）	経済変動に関する三つの重要な事実、短期の経済変動の説明
11	マクロ経済学：総需要と総供給②－（テキスト 第１２章）	総需要曲線、総供給曲線、経済変動の二つの要因、結論
12	マクロ経済学：開放マクロ経済学①（テキスト 第１３章）	財と資本の国際フロー、国際取引にとっての価格（実質為替相場と名目為替相場）、為替相場決定の理論：購買力平価説と金利平衡説
13	マクロ経済学の現実への適用－国際収支発展段階説	日本の貿易収支構造、経常収支と対外純資産（NIIP）の関係、米中新冷戦について、
14	マクロ経済学の現実への適用－財政の持続性について	プライマリーバランス、IS バランス、ドーマー定理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義のパワーポイント資料（授業支援システムに掲載）を参照しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくに復習をしっかりすること。

【テキスト（教科書）】

『マンキュー　入門経済学［第 3 版］』（東洋経済新報社、2019 年）
https://str.toyokeizai.net/books/9784492315217/

【参考書】

『次なる 100 年　歴史の危機から学ぶこと』（水野和夫、東洋経済新報社、2022 年）
https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/
『経済学の考え方』（宇沢弘文、岩波新書、1989 年）
https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html

【成績評価の方法と基準】
受講態度 40 %+期末レポート（感染状況次第では期末レポート）60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価
（リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択）

【学生の意見等からの気づき】
チャットや「学習支援システム」の授業内掲示板を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】
感染状況次第で対面と Zoom の併用となった場合には、Zoom で授業を受けられる環境を整え、事前に PC などで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】
内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】
This course introduces the Principles of Macro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.
Why should you,as a student in the 21st century ,embark on the study of ecomics?There are three reason.The first reason to study economics is that is will help you understand the world in which you live.The second reason to study economics is that it will make you a more astute particpant in the economy.The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

POL100AC

政治過程論Ⅰ

田中　信一郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は，政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり，現代の民主政治において政策が立案，決定，実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み，概念を理解することを目指す。

【到達目標】
現代政治の基本的な構図を理解すること。テレビ，新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き，批判的に理解すること。市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義，意見表明，動画視聴，新聞記事等の読解等を組み合わせた授業形態である。レポートへのフィードバックは，ポータルサイトを通じて行う。
講義マナーを重視し，私語，居眠り，無関係の作業等は禁じる。正当な事由がない限り，遅刻・早退を認めない。指示に従わない場合は退出等を求め，成績に反映させる。出席に際しての不正行為，いわゆる代返行為やそれを助ける行為をした場合，理由の如何を問わず，単位を認めない。質問がある場合は，話の途中でも結構なので挙手すること。
中間レポートの提出を求める。課題は教科書（山口二郎『いまを生きるための政治学』岩波書店）の要約である。
期末試験を必須とする。期末試験を受けなければ，単位を認めない。期末試験の詳細は，第１回講義で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	講義の趣旨と受講方法を説明する。レポート等の課題も説明する。
第２回	民主主義とは何か	民主主義，人権，国家，憲法等について考察する。
第３回	日本の政治システム	議会制民主主義，政治参加，国会，内閣等について考察する。
第４回	公共政策と財政	政策，法律，財政，税金等について考察する。
第５回	中央政府と地方自治	国・地方関係，自治制度，住民参加等について考察する。
第６回	政治と司法	政治・行政と司法との関係，相互作用等について考察する。
第７回	政治と企業・団体	政治・行政と企業・団体との関係，相互作用等について考察する。
第８回	政治と市民・メディア	政治・行政と市民・メディアとの関係，相互作用，選挙等について考察する。
第９回	政治と国際社会	政治・行政と国際社会との関係，相互作用等について考察する。
第10回	政策決定過程	政策決定過程，それに対するアクターの動き等について考察する。
第11回	戦前日本の政治過程	アジア・太平洋戦争に至る戦前の政治過程について考察する。
第12回	現代日本の政治システムの成立過程	日本国憲法，国会，戦後民主主義等の成立過程について考察する。
第13回	戦後日本の政治過程	高度経済成長，バブル経済期を中心とする政治過程について考察する。
第14回	現代の政治課題	SDGs を手掛かりに現代の日本が抱える政治課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を毎日読むこと。各講義で紹介される参考図書を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口二郎『今を生きるための政治学』岩波書店，2013 年

【参考書】
講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への貢献 42 %，中間レポート 16 %，期末試験 42 %（必須）である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
PC（ノートブックパソコン）を持参すること。保有していない場合は，スマートフォンでも構わない。

【その他の重要事項】
本年度に限り非常勤教員の担当となるため，オフィスアワーはない。講義時間外に教員と連絡を取る場合は，第１回講義で説明する教員のメールアドレスへ行うこと。

【Outline (in English)】
1 Aim
This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand the modern democracy. It also explains how democracy works and how we should engage in democratic politics.
2 Requirement
Students are required to read assigned articles, and submit an mid-term essay.
3 Grading
Grading will be made based on contribution to the class(42%), mid-term essay(16%) and essential term-end essay(42%).

POL100AC

政治過程論Ⅱ

田中　信一郎

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は，政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案，決定，実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み，概念を理解することを目指す。

【到達目標】
現代政治の基本的な構図を理解すること。テレビ，新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き，批判的に理解すること。市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義，意見表明，動画視聴，新聞記事等の読解等を組み合わせた授業形態である。レポートへのフィードバックは，ポータルサイトを通じて行う。
講義マナーを重視し，私語，居眠り，無関係の作業等は禁じる。正当な事由がない限り，遅刻・早退を認めない。指示に従わない場合は退出等を求め，成績に反映させる。出席に際しての不正行為，いわゆる代返行為やそれを助ける行為をした場合，理由の如何を問わず，単位を認めない。質問がある場合は，話の途中でも結構なので挙手すること。
中間レポートの提出を求める。課題は「憲政記念館の見学」である。（憲政記念館：千代田区永田町 1-1-1）
期末試験を必須とする。期末試験を受けなければ，単位を認めない。期末試験の詳細は，第１回講義で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の趣旨と受講方法を説明する。レポート等の課題も説明する。
第 2 回	人口と日本政治	人口の増減と日本政治の関係について考察する。
第 3 回	なぜ人口が減少しているのか？	人口減少の原因と政府の対応について考察する。
第 4 回	経済成長と日本政治	経済成長と日本政治の関係について考察する。
第 5 回	経済成熟と日本政治	経済成熟の原因と政府の対応について考察する。
第 6 回	経済政策と日本政治	経済政策の決定過程について考察する。
第 7 回	経済をめぐる日本政治の課題	与党・野党の構造的な課題について考察する。
第 8 回	社会の課題と日本政治	社会課題と政治との関係について考察する。
第 9 回	政治の行き詰まりと民主主義	政治の機能不全と民主主義の可能性について考察する。
第 10 回	国家方針をめぐる政治潮流	明治から現代に至るまでの政治潮流について考察する。
第 11 回	権威主義と民主主義	現代の国内外における政治システムについて考察する。
第 12 回	新自由主義と社会的共通資本	現代の国内外における経済システムについて考察する。
第 13 回	工業先進国と発展途上国	現代のグローバルな政治経済システムについて考察する。
第 14 回	炭素文明と脱炭素文明	文明のあり方と現代政治の関係について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
田中信一郎『政権交代が必要なのは、総理が嫌いだからじゃない―私たちが人口減少，経済成熟，気候変動に対応するために』現代書館，2020 年
田中信一郎『国家方針を転換する決定的十年―新自由主義から社会的共通資本へ』現代書館，2021 年

【参考書】
講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への貢献 42 %，中間レポート 16 %，期末試験 42 %（必須）である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
PC（ノートブックパソコン）を持参すること。保有していない場合は，スマートフォンでも構わない。

【その他の重要事項】
「政治過程論Ⅰ」を予め履修することが望ましい。
本年度に限り非常勤教員の担当となるため，オフィスアワーはない。講義時間外に教員と連絡を取る場合は，第１回講義で説明する教員のメールアドレスへ行うこと。

【Outline (in English)】
1 Aim
This lecture aims at providing basic knowledge about post-war Japanese politics. It deals with the development of post-war Japanese politics, dynamics of policy process and participation. It also covers such current issues as deterioration of democratic politics in advanced countries.
2 Requirement
Students are required to read assigned articles and try to read recommended books as much as possible. Mid-term essay is requirement for credits.
3 Grading
Grading will be made based on contribution to the class(42%), mid-term essay(16%) and essential term-end essay(42%).

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）

半田　滋

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシビリアンコントロール（文民統制）の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。

【到達目標】
日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業とします。仮登録すれば、授業支援システムの「政治学特殊講義Ⅰ(安全保障政策)」にアクセスできます。仮登録後の授業は教科書の『変貌する日本の安全保障』（半田滋著・弓立社）や「学習支援システム」にアップする「お知らせ」「教材」を活用して授業を進めます。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、回答します。またメールなどでいただいた疑問についても回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（日本国憲法と自衛隊）	戦争放棄を明記した日本国憲法のもと、政府は自衛隊を合憲としています。自衛隊とはどのような存在なのでしょうか。また国民は自衛隊をどうみているのでしょうか。自衛隊の全体像を勉強します。
第 2 回	日米安全保障体制とは	日米安全保障条約により、米国は日本に基地を置くことが認められています。基地の存在が日本の主権侵害につながる例もあります。米軍駐留の意味について学びます。
第 3 回	沖縄の米軍基地の現状と問題点	国土面積の０．６％に過ぎない沖縄県に米軍専用施設の７割が集中しています。米海兵隊のための辺野古新基地の建設をめぐり、沖縄県は政府と鋭く対立しています。米軍基地の現状と問題点を学びます。
第 4 回	多様化する自衛隊の活動	自衛隊は、日本が他国から侵略されたことがないので防衛出動をゼロ。その一方で災害派遣や福島第一原発の事故には出動し、災害救援隊の色彩が強まっています。自衛隊の国内における実像に迫ります。
第 5 回	国連平和維持活動（ＰＫＯ）の現実	冷戦後、自衛隊はＰＫＯへの参加を開始しました。すでに１４回の派遣実績があります。南スーダンＰＫＯでは「違憲」との批判がある安保法制が適用されました。憲法との整合性と活動の実態をみます。
第 6 回	ソマリア沖の海賊対処／拡大するジブチの自衛隊海外拠点	現在、自衛隊の海外活動はソマリア沖の海賊対処が典型例です。海賊対処のために初めてアフリカのジブチに恒久施設を持った自衛隊の活動とその狙いは何でしょうか。
第 7 回	テロ、イラク特別措置法による海外派遣	米国のアフガニスタン攻撃、イラク戦争に合わせて自衛隊は対米支援を実施しました。初の戦地派遣です。このうち憲法違反の判決を受けた活動もあるのです。何が起きていたのか検証します。
第 8 回	中国の軍事力強化とその狙い	巨大経済圏・安全保障構想「一帯一路」を進める中国。海軍力を強め、外洋進出を図る一方で、米軍の南シナ海進出は阻止する構えです。中国の狙いは何か。日本の安全に影響があるのか学びます。
第 9 回	北朝鮮の核・ミサイル開発の狙いと朝鮮半島情勢	核とミサイル開発を進める北朝鮮。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、朝鮮半島情勢は変化したといえるのでしょうか。北朝鮮の核・ミサイルが日本の安全保障にどのようにかかわるのか学習します。
第 10 回	弾道ミサイル迎撃システムの問題点	自衛隊は米国以外では唯一、米国製のミサイル防衛システムを導入しています。導入を断念したイージス・アショアに代わり、イージス・システム搭載艦２隻の建造が決まりました。問題点を探ります。
第 11 回	首都圏に配備されたオスプレイ	防衛省は千葉県にオスプレイ１７機を配備します。米軍と合わせると日本を飛ぶオスプレイは合計５３機に。欠陥機と呼ばれるオスプレイ配備の理由とその問題点を探ります。
第 12 回	安全保障関連法と「敵基地攻撃能力の保有」による自衛隊の変化・その１	安倍晋三政権は安全保障関連法を成立させ、自衛隊の活動に集団的自衛権行使を含めました。多くの憲法学者から違憲との指摘もある活動の中身をみていきます。
第 13 回	安全保障関連法と「敵基地攻撃能力の保有」による自衛隊の変化・その２	前の授業に続き、安全保障関連法による自衛隊の変化を勉強します。中国による台湾の武力統一への警戒を強める米国と日本の敵基地攻撃能力の保有を考えます。
第 14 回	テスト	これまで学んできた自衛隊や米軍の現状、日本を取り巻く安全保障環境などについて幅広く出題します。書籍、資料は持ち込み可とし、スマホ、パソコンなどの電子機器類は不可とします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本を取り巻く安全保障環境はこの四半世紀の間に大きく変わりました。政府は昨年１２月、国家安全保障戦略、国家防衛戦略 (旧防衛計画の大綱)、防衛力整備計画 (旧中期防衛力整備計画) の３文書を改定し、「敵基地攻撃能力の保有」「防衛費のＧＤＰ比２％増」を打ち出し、日本の安全保障政策は大転換しました。一方、中国は台湾を武力で統一するのか、核・ミサイル開発を進めてきた北朝鮮は今後、どうなるのか。新聞、テレビを通じて、日々の動きを追い、日本の安全がどのような形で維持されていくのか注視してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
半田滋『変貌する日本の安全保障』（弓立社）＝授業やテストに活用します。

【参考書】
防衛省『令和３年版防衛白書　日本の防衛』＝あくまで参考資料です。

【成績評価の方法と基準】
テストにより、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
政治の動きと自衛隊の活動は一体化しているので、「新聞が参考になる」との学生の意見がありました。本授業では、新聞のみならず、テレビ、インターネット情報も積極的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
資料はポータルサイト（Hoppii の学習支援システム）にアップします。そのために必要な機材（パソコン、スマートフォン、プリンターなど）を準備してください。

【その他の重要事項】
東京新聞記者として防衛省・自衛隊、在日米軍の取材を３０年以上、続けてきました。現在も防衛ジャーナリストとして、安全保障に関する論考を書籍や雑誌、インターネット番組（デモクラシータイムス『半田滋の眼』など）で発表しています。現場から見える安全保障の実像をみなさんと共有していきます。

【Outline (in English)】
I will examine Japanese security policy. It is the Self Defense Force who uniquely plays Japan defense. U.S. military roles are required by the Japan-US Security Treaty. Without exercising force abroad, the Self Defense Force, which has dedicated itself to exclusive defense, began working overseas after the Cold War. Furthermore, by the security-related law, we are trying to step into the exercise of collective self-defense rights and backward support to other national forces. Since Japan is a country of civilian control , of course, it is decision by politics. We will learn about the way the SDF and the US military are determined by politics based on concrete examples.

POL300AC

演習

水野　和夫

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の現在、世界で起きていること、たとえば、ゼロインフレ・ゼロ金利、長期停滞、そしてエイズ、SARS、MARS、新型インフルなどの「新種の感染症新時代」などどれも、近代にとってみれば「例外」的現象が顕在化しているで。例外状況においてこそ物事（ここでは資本主義）の本質が現れるのだから、21 世紀の現在はまさに研究テーマとしてふさわしいといえよう。同時に、近代の本質をとらえるには政治と経済を一体化して考察が必要となる。

資本主義とグローバリゼーションや民主主義の関係を考え、資本主義が高度に発達した 21 世紀におきてなぜ貧困や不平等問題が生じるかなどについて研究し、現実の世界で見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかと学ぶことができる。

演習の目的は春学期、秋学期とも同じ。

【到達目標】

ゼミの 2 年間での到達目標は、「近代とはいかなる時代か？」を理解することによって、近代の次に来るであろう 21 世紀のシステムはどの方向に向かうかをある程度予想することが可能となる。

目に見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかに関して、説明できる唯一の理論は存在しないものの、筋道をたてて考察することによって、その構造変化を引き起こしている原動力は何かを見つけることができる。そうすることで、新しい時代にどう対処すればいいのか判断能力を養うことができる。

到達目標は春学期・秋学期を通じて同じ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。講義とグループごとの発表、そして活発な質疑応答。

まず、『次なる 100 年　歴史の危機から学ぶこと』（東洋経済新報社）を読んで、21 世紀の経済現象をとらえるための基本的な枠踏みを把握する。その後、利子および資本の本質を考え、現在のゼロ金利は何を意味しているのかを考察する。

春学期は、『次なる 100 年』の「はじめに」、「序章」（長い 16 世紀と長い 21 世紀）、「第 3 章」（資本と利子）の第 2 節までを教材に、20 世紀末から現在にかけて起きている様々な現象が近代が想定していなかったこと（例外状況）が起きていることを学び、それが何を意味しているかを考える。

授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの進め方を説明	『次なる 100 年』の「はじめに」についてグループに分かれて議論し、発表する。
第 2 回	『次なる 100 年』の「はじめに」のなかで、述べている「蒐集」（コレクション）の概念について	蒐集の目的はなにか―秩序の安定、世界史は「蒐集」の歴史である（「収拾つかぬ方へ（序論）」、『蒐集』ジョン・エルスナー/ロジャー・カーディナル編）
第 3 回	利子率とはなにか、利子と利潤の違いについて	利子に関する学説ー時差説、搾取説、流動性選好説など
第 4 回	「序章」①－「長い 16 世紀」と現在の比較	21 世紀と、過去 3 回の「歴史の危機」との比較、「長い 16 世紀」は二度目の「歴史の危機」（「歴史における危機（第 4 章）」、『世界史的考察』ヤーコプ・ブルクハルト）
第 5 回	「序章」②－「常態」と「例外」の転倒、資本主義の起源	シュミットの『政治神学』から例外と常態について学ぶー例外状況と「ショック・ドクトリン」 三つの起源： 13 世紀説、15 － 16 世紀説、18-19 世紀説の根拠
第 6 回	第 1 章ゼロ金利と「蒐集」、第 1 節蒐集とゼロ金利	利子と利潤の相違点 利子とは現在と将来の選択に関わる尺度 利潤率低下の法則（古典派経済学）
第 7 回	第 1 章ゼロ金利と「蒐集」、第 2、3 節「長い 16 世紀」VS.「長い 21 世紀」	ビリオネアの台頭と中間層の没落、OXFAM レポート
第 8 回	第 2 章グロリゼーションと帝国、第 1、2 節中世のグローバリゼーション	21 世紀のグローバリゼーションとの比較
第 9 回	「現代帝国主義のカール・シュミット（2007）「現代帝国主義の国際法的諸形態」	キリスト教対非キリスト教徒、文明国対野蛮国、債権国対債務国
第 10 回	第 2 章グロリゼーションと帝国、第 3 節支配と被支配の関係	対外純資産（NIIP）と所得収支、国際収支発展段階説、米国 VS. 中国
第 11 回	第 3 章「利子と資本」第 1 節－利潤をいかにして「中心」に集めてきたか	「私的な利益こそ、すべての人間を導く主である」ダンテ・アリギエーリ（1483-1540）の意味することについてー私的利益の追求が善となった近代社会 進歩とはなにか－近代になって進歩の意味が変化
第 12 回	第 3 章「利子と資本」④第 2 節－「不正なものは公平である」	ケインズの「わが孫たちの経済的可能性」で 2030 年についてケインズが指摘したこと 都市文明の頂点にたつメガロポリス文明－資本は文明の別名にすぎない」（マルクス）
第 13 回	資本とはなにか－シェイクスピアの『ベニスの商人』から学ぶ イーグルトン「ヴェニスの商人」『シェイクスピア　言語・欲望・貨幣』	『ベニスの商人』と『世界の果てからこんにちは』（DVD 鑑賞） 本橋哲也「シャイロックの財産はどこへ」（第 2 章）『本当はこわいシェイクスピア　〈性〉と〈植民地〉の渦中へ』
第 14 回	岩崎宗治「〈運命の女神〉と資本主義の結婚」（第 3 章）『シェイクスピアの文化史　社会・演劇・イコノロジー』名古屋大学出版会、2002 年 春学期のまとめ	シャイロックとポーシャ・アントニオーニについて議論―契約重視（市場一本鎗）か慈悲か 夏合宿の準備、計画と合宿での課題を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくにプレゼンの準備をしっかりすること。

【テキスト（教科書）】

『次なる 100 年　歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022 年
https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/

【参考書】
『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書）
『閉じてゆく帝国と逆説の 21 世紀経済』（水野和夫、集英社新書）
「収拾つかぬ方へ（序論）」、『蒐集』ジョン・エルスナー/ロジャー・カーディナル編、原書 1994、高山宏/富島美子/浜口稔訳、1998、研究社）
「現代帝国主義の国際法的法的諸形態（1932）」、『カール・シュミット著作集　Ⅰ』（2007）長尾龍一訳、慈学社出版
『政治神学』（1922）、『カール・シュミット著作集　Ⅰ』（2007）長尾龍一訳、慈学社出版
「歴史における危機（第 4 章）」、『世界史的考察』（ヤーコプ・ブルクハルト、1868 年、ちくま学芸文庫、新井靖一訳、2009）
「わが孫たちの経済的可能性」（1930 年）『ケインズ全集　9　説得論集』宮崎義一訳、東洋経済新報社、1981）
『21 世紀の資本』（ピケティ、みすず書房）
イーグルトン「ヴェニスの商人」（第 3 章）『シェィクスピア　言語・欲望・貨幣』大橋洋一訳、平凡社、2013 年
本橋哲也「シャイロックの財産はどこへ」（第 2 章）『本当はこわいシェィクスピア　〈性〉と〈植民地〉の渦中へ』　講談社選書メチエ、2004 年
岩崎宗治「〈運命の女神〉と資本主義の結婚」（第 3 章）『シェイクスピアの文化史　社会・演劇・イコノロジー』名古屋大学出版会、2002 年

【成績評価の方法と基準】
プレゼンの発表内容（50 %）と、質問の頻度（50 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎時間、最後の 15 分間程度使って、ゼミの望ましいあり方を議論し、改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて、レジメをダウンロードできる機器を準備。

【その他の重要事項】
内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】
This course introduces the cause of zero inflation 、zero interest rate、Secular Stagnation and effect of globalization, and the problem of poverty to students taking this course.
Student can consider the pluses and minuses of Capitalism in the 21st century and a subject modern society.

POL300AC

演習

水野　和夫

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の現在、世界で起きていること、たとえば、ゼロインフレ・ゼロ金利、長期停滞、そしてエイズ、SARS、MARS、新型インフルなどの「新種の感染症新時代」などどれも、近代にとってみれば「例外状況」である。例外状況においてこそ物事（ここでは資本主義）の本質が現れるのだから、21 世紀の現在はまさに研究テーマとしてふさわしいといえよう。同時に、近代の本質をとらえるには政治と経済を一体化して考察が必要となる。

資本主義とグローバリゼーションや民主主義の関係を考え、資本主義が高度に発達した 21 世紀におきてなぜ貧困や不平等問題が生じるかなどについて研究し、現実の世界で見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかと学ぶことができる。

演習の目的は春学期、秋学期とも同じ。

【到達目標】

ゼミの 2 年間での到達目標は、「近代とはいかなる時代か？」を理解することによって、近代の次に来るであろう 21 世紀のシステムはどの方向に向かうかを理解できる。

目に見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかに関して、説明できる唯一の理論は存在しないものの、筋道をたてて考察することによって、その構造変化を引き起こしている原動力は何かを見つけることができる。

3 年生はゼミ論の作成にとりかかり、論文を書く能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。講義とグループごとの発表、そして活発な質疑応答。

まず、『次なる 100 年』の第 3 章第 3 節と終章を読んで、消費と投資の概念を学び、近代社会がこのまま持続するのか、ポスト近代に向かうのかについて考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の目標について	秋学期について学ぶこと、および春学期で疑問だったことについて学習
第 2 回	『次なる 100 年』第 3 章「利子と資本」第 3 節「消費と投資」について－投資と消費	今を楽しむか（消費）VS. 将来に備えるか（投資）
第 3 回	『次なる 100 年』第 3 章「利子と資本」第 3 節「消費と投資」について－利子率ゼロ	利子率ゼロは理論的にありうか
第 4 回	『次なる 100 年』第 3 章「利子と資本」第 3 節「消費と投資」について－ 13 世紀の数量革命	数字（利益）が嘘をつくとどうなるか
第 5 回	終章「財政の持続性と経常収支」	貯蓄投資バランスについて
第 6 回	終章「金融資産と内部留保金」	「石」となった金融資産－ラ・フォンテーヌの『寓話』「財産を失った守銭奴」
第 7 回	終章「私的所有権について」	資本は「石か種子か」―「私のもの」トルストイ「ホルストメール」
第 8 回	終章「21 世紀の行動原理と近代の行動原理」	21 世紀の行動原理「よりゆっくり、より近く、より寛容に」は可能か
第 9 回	『次なる 100 年』春学期、秋学期を通じてのまとめ	疑問点と意見の発表
第 10 回	ゼミ論の中間発表（第 1 回）	ゼミ論のテーマを選定と研究動機
第 11 回	ゼミ論の中間発表（第 2 回）	ゼミ論の構成（目次）
第 12 回	ゼミ論の中間発表（第 3 回）	ゼミ論の概要発表
第 13 回	ゼミ論の中間発表（第 4 回）	ゼミ論の最終発表
第 14 回	年間のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくにプレゼンの準備をしっかりすること。

【テキスト（教科書）】

『次なる 100 年　歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022 年
https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/

【参考書】

『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書）
『閉じてゆく帝国と逆説の 21 世紀経済』（水野和夫、集英社新書）
「『帝国』とは何か」（第 1 章）『帝国の研究　―原理・類型・関係―』（山本有造編、名古屋大学出版会、2003 年）
「帝国の表彰」（松浦寿輝）山内昌之他編（1997）『帝国とは何か』岩波書店
「序論」『近代とはいかなる時代か？　モダニティの帰結』（アンソニー・ギデンズ、而立書房、松尾 精文/小幡 正敏訳、原著 1990、1993）
「グローバリゼーションと領域民主主義（第 1 章）、『変容する民主主義　グローバル化の中で』（A. マッグルー【編】、1997 原著、松下 冽【監訳】、日本経済評論社、2003）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンの発表内容（50 %）と、質問の頻度（50 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、最後の 15 分間程度使って、ゼミの望ましいあり方を議論し、改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じて、レジメをダウンロードできる機器を準備。

【その他の重要事項】

内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

This course introduces the cause of deflation and zero interest rate, and effect of globalization, and the problem of poverty to students taking this course.
Student can consider the pluses and minuses of Capitalism in the 21st century and a subject modern society.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅰ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

【到達目標】
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的文献な英語の読解力の向上。
★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。
★英語の新たな表現、（たとえば「法と遺伝学」といった）学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
　概略以下のとおり予定
★初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること（電子辞書・スマホも可）。
★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。
　事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布――参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。
　授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読　意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）
　　②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。
●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。
★本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教材①の配信・配布・講読	英和・和英辞典（電子辞書・スマホも可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション
第 2 回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 3 回	教材①の講読（2）	教材①の英文の特徴の把握とディスカッション
第 4 回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 5 回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第 6 回	教材①の講読（5）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第 7 回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 8 回	教材②の講読（2）	教材②の英文の特徴の把握とディスカッション
第 9 回	教材②の講読（3）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 10 回	教材②の講読（4）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第 11 回	教材②の講読（5）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第 12 回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 13 回	教材③の講読（2）	教材③の英文の特徴の把握とディスカッション
第 14 回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★次回の授業以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布するので、授業参加者（履修者）は、事前にダウンロード・持ち帰り、予習する。
★予習に際しては、教材の英語のみならず、【内容】を理解できるように、解らない新出の単語・熟語・表現、そして英文テキストの内容に関連する疑問点を、（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくること。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「教材」で配信・配布します。
【以下の具体的例は 2022 年度の例を含む； 2023 年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】
　①国際的政策に関する法的・倫理的・社会的諸問題に関する英語文献。具体的例としては：
　★国連関連の条約や付随文書：国連憲章；国連人権規約；最新の国連総会議決:
　"Resolution adopted by the General Assembly on 26 April 2022"
　"Optional Protocol to the International Covenant on Civil and Political Rights"
https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/optional-protocol-international-covenant-civil-and-political
　★ The International Society for Stem Cell Research (ISSCR), "ISSCR Guidelines for Stem Cell Research and Clinical Translation"
https://www.isscr.org/guidelines
　②先端的法分野：「医事法」「人工生殖」「法と遺伝学」等。具体的例としては：
　★イギリスの代表的新聞 The Guardian, "Chinese scientist who edited babies' genes jailed for three years," 31 Dec 2019
https://www.theguardian.com/world/2019/dec/30/gene-editing-chinese-scientist-he-jiankui-jailed-three-years

★同上紙 "Scientist who edited babies' genes says he acted 'too quickly'," 4 Feb 2023
https://www.theguardian.com/science/2023/feb/04/scientist-edited-babies-genes-acted-too-quickly-he-jiankui

③ SOGI (sexual orientation and gender identity) 関連。具体的例としては：
★ 2015 年 6 月のアメリカ連邦最高裁の、同性婚を全国で合憲とした判決文。
★ CBS NEWS の書き起こし記事："Diving into the debate over trans athletes," MARCH 27, 2022
https://www.cbsnews.com/news/diving-into-the-debate-over-trans-athletes/
★ BBC NEWS 記事："What Singapore's move to legalise egg freezing says about its society," 28 April, 2022
https://www.bbc.com/news/world-asia-61076349
★同上："Toronto professor Jordan Peterson takes on gender-neutral pronouns," 4 November 2016
https://www.bbc.com/news/world-us-canada-37875695
④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業での質問や議論への参加（平常点： 50 点）と、事前の予習準備の程度（50 点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】
●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。
●英語の教材や、映画を DVD、ブルーレイも見ます。
●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。
●春学期の「法と遺伝学 I」、秋学期の「法と遺伝学 II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。
●持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】
和英・英和辞書を所持していない場合は、それに代わるスマホ。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】
【Course outline】: To learn how to read English text on legal, political and international issues.
【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, both
【Learning activities outside of classroom】: Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.
【Grading Criteria /Policy】: attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

和田　幹彦

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

【到達目標】
★法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的文献な英語の読解力の向上。
★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。
★英語の新たな表現、（たとえば「法と進化生物学・進化心理学・脳科学」という）学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
　概略以下のとおり予定
★初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること（電子辞書・スマホも可）。
★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。
　事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布――参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。
　授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読　意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）
　　②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。
●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。
★本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教材①②の配信・配布	英和・和英辞典（電子辞書・スマホも可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎の解説と、ディスカッション
第 2 回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 3 回	教材①の講読（2）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 4 回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第 5 回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく ≪ この論文が例えば「サイエンス誌 (Science)」「ネーチャー誌 (Nature)」に掲載された意味 ≫ の英語による学習とディスカッション
第 6 回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 7 回	教材②の講読（2）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 8 回	教材②の講読（3）	教材②における法学と、法学に直結する科学の専門的英語・熟語の学び方の解説と、ディスカッション
第 9 回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 10 回	教材③の講読（2）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 11 回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第 12 回	教材③の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく ≪ この論文が例えば一流新聞の「ガーディアン紙 (The Guardian」「ニューヨークタイムズ紙 (New York Times)」に掲載された意味 ≫ の英語による学習とディスカッション
第 13 回	教材④の講読（1）	教材④テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 14 回	教材④の講読（2）	教材④における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の発展性の理解と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書（スマホで使える辞書でも良い）とグーグルで予習して調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「教材」で配信・配布します。
【以下の具体的例は 2022 年度の例を含む； 2023 年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】
　①国際的生命政策 関連:「デザイナー・ベビーの是非と国際的な規制の要否（ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる子どもに関する法的・倫理的・社会的諸問題）」。具体的例としては：
　Rosario Isasi et al. (2016), "Editing policy to fit the genome?" in “Science”
　②先端的法分野：「法と進化生物学・進化心理学・脳科学」。具体的例としては：
　Frank Krueger and Morris Hoffman (2016), “The Emerging Neuroscience of Third-Party Punishment” in “Trends in Neurosciences”
　Keelah E.G.Williams et al. (2019), "Capital and punishment: Resource scarcity increases endorsement of the death penalty"
　③質の高い時事英語ニュース記事。具体的例としては：
　Nature 誌："The effects of overturning Roe v. Wade in seven simple charts," 10 August 2022
https://www.nature.com/articles/d41586-022-02139-3

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト。例えば日本語ではほとんど紹介されない諸外国の文化に関する記事。具体的例としては：
"Inclusion for All in Bengkala, Bali's Deaf Village"
https://www.ashleyderrington.com/blog/post-9

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
毎週の授業での質問や議論への参加（平常点： 50 点）と、事前の予習準備の程度（50 点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】
●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。
●英語の教材や、映画を DVD、ブルーレイも見ます。
●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。
●春学期の「法と遺伝学 I」、秋学期の「法と遺伝学 II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。
●持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】
和英・英和辞書を所持していない場合は、それに代わるスマホ。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】
【Course outline】: To learn how to read English text on legal, political and international issues.
【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, both
【Learning activities outside of classroom】: Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.
【Grading Criteria /Policy】: attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

POL200AC

都市政策

杉崎　和久

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】
1）都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
2）都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・オンデマンド教材を用いて行う。
・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日１８時までに提出する。
・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第 2 回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設１	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設２	公園緑地
第 6 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地域特性に相応しい土地利用規制１	補助的地域地区、地区計画
第 9 回	地域特性に相応しい土地利用規制２	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第 10 回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第 11 回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第 12 回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第 13 回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第 14 回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。授業では、オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】
澤木昌典・嘉名光市　編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70 %）、「②レポート課題」（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・また、①については提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
・「①授業ごとに出題する課題」の評価は下記になる。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
・「②レポート課題」について
出題は、６月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】
背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】
複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

まちづくり論

杉崎　和久

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】
1）地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
2）現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
3）都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・オンデマンド教材を用いて行う。
・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日１８時までに提出する。
・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第 2 回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第 3 回	防災まちづくり 1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第 4 回	防災まちづくり 2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第 5 回	商業・流通政策とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第 6 回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第 7 回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する
第 8 回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第 9 回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第 10 回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第 11 回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。
第 12 回	草の根まちづくり概論	地域住民、当事者等によるボトムアップによる都市空間改善の経緯を理解する。
第 13 回	草の根まちづくりの事例 1	地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。
第 14 回	草の根まちづくりの事例 2	地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】
澤木昌典・嘉名光市　編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本　第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70 %）、「②レポート課題」（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・また、①については提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
・「①授業ごとに出題する課題」のについて
・評価は下記とする。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
・「②レポート課題」について
出題は、１１月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】
背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料
等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要な環境が必要となる。

【その他の重要事項】
・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

ECN100AC

財政と金融Ⅰ

島澤　諭

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】
市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融資、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則
第 14 回	租税の原則と経済効果（2）	公平な税とは、課税と経済効率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第 4 版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）小黒一正等『財政学 15 講』新世社
（5）林宜嗣等『財政学（第 4 版）』新世社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.
To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.
At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.
Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.
Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN100AC

財政と金融Ⅱ

島澤　諭

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】
日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題 I（1）	超高齢社会と社会保障
第 3 回	社会保障の財政問題 I（2）	最低生活の保障、年金問題
第 4 回	社会保障の財政問題 II（1）	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題 II（2）	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策（1）	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策（2）	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策（3）	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策（1）	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策（2）	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担（1）	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担（2）	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担（3）	中立命題
第 14 回	世代会計	世代会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
（1）井堀利宏『財政学（第 4 版）』新世社
（2）畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
（3）釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
（4）小黒一正等『財政学 15 講』新世社
（5）小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論
（6）島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.
The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.
At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.
Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.
Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

POL300AD

国際ＮＧＯ論Ⅰ

渡部　カンコロンゴ　清花

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGO を含めた非営利組織の役割が必要と言われる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えてきている。
この授業では、実際に NPO の実務に関わる講師と共に、世界の NGO・NPO、日本の NGO・NPO の発展と歴史について学ぶ。
また、NGO・NPO に直接携わる外部講師を招き、質問や議論を通して現場の経験や葛藤から今後私たちが考えるべき論点を探る。
これらを通して、現代社会、未来における NGO・NPO の可能性と課題を学ぶ。

【到達目標】
１、社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる
２、非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる
３、非営利組織の存在を身近なものと捉え、自分の意見をもてるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
実際に現役で NPO の代表を務める講師が、テキストを使用しながら、スライドや映像を使って具体的事例なども組み込んで実践的に学びます。皆さんと世代が近い分、経験のみならず葛藤や課題についても、率直に共有・議論したいと思います。講義だけではなく、なるべくグループワークや議論、発表などを通して学生が参加する機会も設けます。グループディスカッションに参加する姿勢を持って授業に臨んでください。
授業後には「テスト/アンケート機能」を使い、毎回振り返りのコメントを提出してもらいます。それを次回の授業での材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の狙いおよび春学期の授業計画の説明
第 2 回	NGO・NPO とは何か	民間組織における NGO・NPO の位置付け、株式会社との違い、NGO と NPO の違い
第 3 回	NGO・NPO の法人制度	組織に人格を与えるとは？ 1998 年に成立した NPO 法の背景と成立過程、税制優遇制度の導入
第 4 回	非営利組織のアカウンタビリティ	NGO・NPO の組織運営、財源、組織運営、ガバナンス
第 5 回	ＮＰＯの状況と支援組織	自治体や民間企業との違いや協働関係、市民参加、特徴について
第 6 回	実際のＮＰＯの組織及び活動の事例（外部講師①）	第５回を受けて具体事例を聞く＆質問・議論
第 7 回	ＮＧＯの状況とネットワーク組織	第６回の講義を受けてのディスカッション、国際協力、SDGs、ソーシャルビジネスについて
第 8 回	実際のＮＧＯの組織及び活動の事例（外部講師②）	第７回を受けて具体事例を聞く＆質問・議論
第 9 回	講師が NPO に携わる中での意義と課題	第８回の講義を受けてのディスカッション、講師による現場からの考察についてレクチャー
第 10 回	当事者の話を聞く（外部講師③）	日本に暮らす難民の方から話を聞く、質問・議論
第 11 回	NGO・NPO と政策提言	ルール形成、アドボカシー、政策起業
第 12 回	NGO・NPO で働くには？	関心のあるテーマ、領域、組織のリサーチ、発表。
第 13 回	プロジェクト立案（ワークショップ）	グループワーク発表、質疑応答、講評
第 14 回	まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義において、適時次回授業までの課題および予習がある際には内容を指示します。
また、期末にレポート提出があります。
本授業の準備学習・復習時間は計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『NPO・NGO の世界』大橋 正明/利根川 佳子。放送大学教育振興会、2021 年、価格￥ 3,410
上記に挙げたテキストについては、こちらで準備します。
授業にて使用するスライドはシステムにアップします。

【参考書】
『開発ＮＧＯとパートナーシップ　南の自立と北の役割』（コモンズ　2007）下澤嶽
『国境を超える市民ネットワーク』（東洋経済新報社、2003）目加田説子
『アメリカの NPO ：日本社会へのメッセージ』（第一書林、2000）NPO サポートセンター編
『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 01 ソーシャルイノベーションの始め方』（SSIR Japan, 2022）

【成績評価の方法と基準】
「テスト/アンケート機能」での振り返りコメント提出（40 %）
期末レポート（40%）
議論への参加姿勢（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使えるようにしておいてください

【その他の重要事項】
授業後 10 分を、オフィスアワーとします。質問等がある方は、有効活用してください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In order for society to function soundly, there is a role for the government (administration) to provide "public goods" such as social capital and public services, and there are companies that provide products and services and grow in pursuit of profit. In addition to these roles, it is said that the roles of non-profit organizations, including NGOs, are necessary.In recent years, notable activities of non-profit organizations have increased in areas such as education, environment, disasters, poverty, human rights, welfare, and medicine.
In this class, students will learn about the development and history of NGOs and NPOs in the world and in Japan with a lecturer who is actually involved in NPO practice.
In addition, external lecturers directly involved in NGOs and NPOs will be invited to explore, through questions and discussions, the issues we should consider in the future based on their experiences and struggles in the field.

Through these activities, students will learn about the possibilities and challenges of NGOs and NPOs in today's society and in the future.
（Learning Objectives）
1、To be able to understand the significance/role of non-profit organizations in society
2, To be able to understand the structural and institutional challenges of nonprofit organizations
3、 Become familiar with non-profit organizations and be able to have your own opinion
Instructors who are actually active representatives of NPOs use textbooks and use slides and videos to proceed with the lessons. I would like to share and discuss frankly not only my experiences, but also my conflicts and challenges, as my generation is somewhat similar to yours.
（Grading Criteria /Policy）
In addition to lectures, there will be opportunities for student participation through group work, discussions, and presentations. Please come to class with an attitude of participation in group discussions.
After each class, students are asked to submit comments on their reflections using the "test/survey function". This will be used as material for the next class.
Submission of reflection comments via the "test/survey function" (40%)
Final report (40%)
Attitude toward participation in discussions (20%)

POL300AD

アジア国際政治概論

水野　孝昭

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ウクライナ侵攻の影響もあってアジアの国際情勢は険しくなる一方です。米中対立は外交・安全保障から経済・技術に広がっています。台湾海峡や朝鮮半島、南シナ海など緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続いています。日本外交も北朝鮮や中国だけでなく、日韓関係も打開の途がなかなか見えません。冷戦後の「平和の配当」を享受して「東アジア共同体」を目指していたアジアが、冷戦時代の対立の再現に様変わりしたのはなぜでしょう。どうしたら紛争を予防できるでしょう。日米中のトライアングル関係を軸に領土問題や歴史認識などの争点を取り上げて、日本のパワーが衰えつつある現実をリアルに把握しつつ、「他者との共存」を図るトランスナショナルな視点をもつことを目指します。

【到達目標】
21 世紀のアジアを理解するために
①アジアの戦争と和平の経験を学んで、国際政治の基礎を把握する
②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムという「分断国家」の現状を比較してアジア特有のナショナリズムの意味を理解する
④日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
参考にするべき動画や資料を事前に提供したうえで対面授業と討論を行います。
前半は戦後アジアの国際紛争の事例を欧州などと比較しつつ「戦後処理」を軸に考察する。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など個別争点を取り上げて、その原因と和解の方策を考える。毎回のテーマごとに受講生から「討論者」を募集して授業を進める。ニュースの背景解説もふくめて国際問題をファクトに基づいて「議論する力」を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・「冷戦後から新冷戦へ」	ウクライナ戦争の余波は？ ／リアリズムとリベラリズム／アジアと米国／「インド太平洋」と「一帯一路」
第 2 回	「冷戦の終わり方」欧州とアジアの経験	欧州とアジアの冷戦の違い／「封じ込め」と熱い戦争／アジアの「分断国家」とドイツ統一の教訓
第 3 回	対立の原型①：「二つの中国」と台湾の地位	国共内戦と「中国の喪失」／毛沢東と蒋介石／中ソ対立と米中接近／共産党の世界観
第 4 回	対決の原型②：イデオロギーの対決　朝鮮戦争と日米安保	「民族解放」と朝鮮国連軍／米韓同盟と日米同盟／日韓基本条約と植民地支配の清算
第 5 回	対決の原型③　ベトナム戦争と「グローバルサウス」	内戦と代理戦争／第 3 世界のナショナリズム／メディアと反戦運動／
第 6 回	冷戦後①中国の「平和的台頭」とその変質	天安門事件と鄧小平／ APEC と WTO 加盟／香港返還と「一国二制度」／海洋強国路線へ
第 7 回	冷戦後②韓国の民主化と南北関係	軍服からシビリアンへ／金大中というカリスマ／米朝交渉の経緯
第 8 回	冷戦後③カンボジア和平と米越和解	ドイモイと市場経済／日本の和平努力／国連 PKO の役割／
第 9 回	冷戦後④ＡＳＥＡＮ：地域機構の意義と限界	ベトナムの加盟と ARF 外交／アジア金融危機と開発独裁／ APEC の迷走／ TPP と「一帯一路」
第 10 回	民主化と関与政策：フィリピン、ミャンマー、タイ	「開発独裁」から民主化したフィリピンやインドネシア、民主化から逆戻りしたタイ、ミャンマー
第 11 回	習近平体制の中国	「歴史決議」と「中華民族の偉大なる復興」／「共同富裕」と市場経済／ロシア、インド、日本の位置づけ
第 12 回	米中関係の展開	米国の大統領選挙と中国政策／経済安全保障と台湾／ウクライナ戦争と核抑止
第 13 回	日本の選択は	日米同盟の深化とは／台湾海峡と尖閣問題／朝鮮半島有事と日韓関係／歴史認識問題への姿勢
第 14 回	まとめ：日本の選択は？	「平和国家」のアイデンティティー／「経済大国」のパワーと国家安全保障戦略／日本の「抑止力」とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回に配る参考文献リストから毎回の参考文献や資料を紹介するので、事前に目を通して下さい。アジアで日々起きる問題について、国際政治の視点から背景、現状、対応を説明できるようにニュースを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しません。授業支援システムや google クラスルームを使ってレジュメや資料などを配布します。
参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】
小原雅博『戦争と平和の国際政治』（ちくま新書）
千々和泰明『戦後日本の安全保障』（中公新書）
千々和泰明『戦争はいかに終結したか』（中公新書）
佐橋亮『米中対立』（中公新書）
毛利和子　『日中漂流』（岩波新書）
服部龍二　『外交ドキュメント　歴史認識』（岩波新書）
同『日中国交正常化』（中公新書）
阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）
五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』（創元社）
ジョン・ダワー　『敗北を抱きしめて』（岩波書店）
イアン・ブルマ　『戦争の記憶　日本人とドイツ人』
若宮啓文　『和解とナショナリズム』（朝日新書）
波多野澄雄『日本の歴史問題』（中公新書）
朴裕河『帝国の慰安婦』（朝日新聞出版）
木宮正史『日韓関係史』（岩波書店）
ドン・オーバードーファー　『二つのコリア』（共同通信）
吉田文彦『核のアメリカ』（岩波書店）
加納雄大『東南アジア外交』（信山社）

【成績評価の方法と基準】
最終レポート（3000 字）を７０％、授業参加を３０％で評価します。レポートのテーマ選択については授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業内容や順序はできるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく。必ずアジアに関する日々の国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】
ipad などネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】
朝日新聞での 30 年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

【Outline (in English)】
This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD

国際協力論Ⅰ

志賀　裕朗

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確実となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい “Something New” を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！ と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウィルスのパンデミックは途上国に急速に広がりつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。
3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO 等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした 違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本の ODA にはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本の ODA の代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の 新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の 新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するア クター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO 等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？ 日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
西垣昭、下村恭民、辻一人、2009 年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本の ODA』、 有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013 年、『開発政治学の展開: 途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018 年、『開発政治学を学ぶための 61 冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】
授業中に提出を求める課題（40 %）と最終試験（60%）で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。
■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.
This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀　裕朗

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたうえで、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい “Something New” を創造して皆に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 %という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。

12	日本の政府開発援助（ODA）の特徴②	日本の ODA は借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助（ODA）の特徴③	2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱（1992 年制定、2003 年改訂）」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー（A4 サイズで 2 枚以内）を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する（シラバス通りとは限らない）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
近藤康太郎、2020 年、『三行で撃つ―< 善く、生きる> ための文章塾』、CCC メディアハウス。
小坂井敏晶、2017 年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】
授業で提出を求める課題（60 %）およびディスカッションへの積極的参加の度合い（40 %）によって成績を評定する予定（最終試験は行わない）であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】
各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】
■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。
■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論Ⅰ」を併せて受講することを推奨する。
■本講義は決して「ラクタン」（楽に単位が取れる科目）ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。
■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】
How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際社会の法Ⅰ

新垣　修

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会における法の役割について学びます。具体的には、毎回取り上げる様々なトピックを通じ、国際法や国内法が果たす機能について理解を深めます。

【到達目標】
1　国際社会における国際法や国内法の意味について理解します。
2　メディアで取り上げられる国際時事問題を法的視点から捉え、これについて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
1　講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
2　アウトライン集（添付）に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
3　授業内で適宜、クイズに対する答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法とは何か？	1　はじめに 2　法とは何か？ 3　国際法の法源 4　国際法の変化 5　まとめ
2	国際社会における法と政治	1　はじめに 2　国際法の法的性質 （1）否定説 （2）肯定説 3　法と社会の構造 4　国際社会における法と政治の関係 5　まとめ
3	法政大学は独立国家になれるか？	1　国家であるということ：主権 2　国家承認 （1）　法政大学は独立国家になれるか？ （2）　国家承認とは？ （3）　国家承認の法的性質 （4）　国家と認められるための要件 （5）　国家承認の方法 3まとめ
4	戦争と平和について考えよう	1　はじめに 2　正戦論 3　無差別戦争観 4　国際連盟の時代：戦争の違法化 5　国際連合の時代：武力行使禁止 6　平和のための結集決議と国連平和維持活動（PKO） 7　冷戦時代の PKO 8　冷戦終結後の PKO 9　まとめ
5	ウクライナ戦争	1　はじめに 2　背景事情 3　プーチョン大統領の根拠 4　国連憲章と国連安保理理事会 5　国連はどうあるべきか？ 6　まとめ
6	国籍と無国籍	1　はじめに 2　国籍とその決定 3　国籍の得喪 4　国際法の機能：国籍の調整 5　無国籍 6　まとめ
7	ツアーでみるニュージーランド	1　はじめに 2　ニュージーランドの概 3　異文化の衝突と共存 4　ニュージーランドの難民保護制度 5　ニュージーランドでの体験：自分の発見と発掘 6　まとめ
8	授業内試験（1）	第1回− 第 7 回までの範囲の試験
9	人道支援と法：救済と正義	1　はじめに 2　国際赤十字の誕生 3　その後のデュナン 4　国際人道法の発展 5　人道支援とは何か？ 6　人道支援のジレンマ 7　まとめ
10	気候変動で海に沈む国々？	1　はじめに 2　気候変動・海水面上昇と適応策 3　ツバル 4　国外移住政策と外交 5　開発と適応策 6　まとめ
11	ルワンダとジェノサイド	1　はじめに 2　ルワンダ略史 3　ルワンダと植民地政策 4　ウガンダにおけるツチ難民 5　ジェノサイド 6　国際社会の対応 7　まとめ
12	フリチョフ・ナンセン	1　はじめに 2　極北探検と科学 3　外交官 4　国際連盟 5　現代の国際難民法の礎 6　おわりに
13	予備日	その時に話題となっている時事問題を法の観点から取り上げる
14	エピローグ＆授業内試験（2）	本講義全体のまとめ＆授業内試験（2）（第 8 回ー第 13 回）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
アウトライン集（添付）にしたがって予習を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
アウトライン集（添付）に記載しています。

【成績評価の方法と基準】
授業内クイズ　20%
授業内試験（１）の成績　30%
授業内試験（２）の成績　50%

【学生の意見等からの気づき】
「ディスカッションや意見共有の機会が多くて良かった」との趣旨の意見がありました。

【その他の重要事項】
アウトライン集 (添付) を参照してください。
教員は国連機関と開発援助機関での実務経験を有しており、実践を批判的視点から考察します。

【Outline (in English)】
This course explores to seek out the role of law in international society. Examining various topics, participants of the course will learn functions both of international law and municipal law.

POL100AD

国際社会の法Ⅱ

新垣　修

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。

【到達目標】
1　国際人権法の基本的概念を理解します。
2　国際社会における人権の価値や意義について考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
1　講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
2　アウトライン集（添付）に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
3　授業内で適宜、クイズへの答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法と何か？	1　コースオリエンテーション 2　法とは何か？ 3　国際社会と法 4　まとめ
2	人間とは何か、人権とは何か？	1　はじめに 2　人間である条件 3　人権と人間 4　人間と他の境界 5　人間という不確実な存在 6　変化する人間の概念 7　人間と人権 8　おわりに
3	国際人権法の始まりと世界人権宣言	1　はじめに 2　国際人権法の萌芽 3　国際人権法の誕生と展開 （1）国際連盟と人権：労働と少数者保護 （2）国際連合と人権：平和と人権の連結 4　世界人権宣言 5　国際人権法の拡張
4	国際人権規約	1　はじめに 2　市民的及び政治的権利に関する国際規約 （1）内容 （2）性質 （3）実施制度 3　経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約 （1）内容 （2）性質 （3）実施制度 4　その後の展開 5　まとめ
5	第三世代の人権論	1　はじめに 2　第三世代の人権論 （1）背景 （2）人権としての発展の権利 （3）概念 （4）批判 3　地域的取組み （1）欧州 （2）米州 （3）アフリカ 4　まとめ
6	第 1 回授業内テスト	第 1 回～第 5 回までの内容
7	子ども（1）	1　はじめに 2　子どもの権利の歴史 （1）第一次世界大戦後：ジュネーブ宣言（1924 年） （2）第二次世界大戦後：子どもの権利宣言（1959 年） （3）子どもの権利条約（Convention on the Rights of the Child: 1989 年国連総会で採択、1990 年発効） 3　子どもの権利条約：性質と内容 （1）「親によって保護される対象」から「権利の主体」へ ① 保護思想と解放思想の対立 ② 生きる権利、意見表明権、表現・情報の自由、良心、宗教の自由、結社・集会の自由、プライバシー・通信・名誉の保護、参加する権利 （2）「発達するもの」としての子ども ① 家庭環境の重視、差別禁止、親に養育される権利 ② 親と国家の責任 （3）子どもの最善の利益 4　子どもの権利条約：実施措置
8	子ども（2）	1　はじめに 2　子ども兵（少年兵・少女兵：child soldier）とは？ （1）定義 （2）歴史 2　子ども兵の実態 （1）子どもの徴兵：貧困と恐怖の背景 （2）紛争で消費される子ども達 （3）子どもを兵士に仕立てる方法 3　紛争における子ども消費の構造 （1）洗脳と訓練 （2）武器の変化 （3）冷戦構造の崩壊と地域紛争の変化 4　子ども兵の心の傷の回復と社会復帰
9	ジェンダー（1）	1　はじめに 2　国際社会における女性 （1）国連憲章 （2）世界女性会議：Mankind から Humankind へ 3　女性差別撤廃条約（女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約：1979 年） （1）権利の内容 （2）条約の特徴 （3）条約の実施措置 4　貧困の中の女性 5　まとめ

10	ジェンダー（2）	はじめに 1　セックスとジェンダー 2　女性の排除 3　FGM（Female Genital Mutilation ：女性器切除） 4　FGM と国際人権法 おわりに
11	人種差別	1　はじめに 2　人種差別撤廃条約 （1）背景 （2）国連と条約締結 （3）実施制度 3　人種差別撤廃委員会 4　「人種化」する沖縄人 5　沖縄の基地と差別効果 6　プラグマティズムとしてのレイシズム禁止規範 7　おわりに
12	難民（1）	1　はじめに 2　第一次世界大戦後 3　第二次世界大戦後の難民問題と米国、国連 4　難民条約 5　難民議定書 6　まとめ
13	難民（2）	1　はじめに 2　難民認定 3　武力紛争と難民
14	エピローグ＆第２回授業内試験	第 7 回～第 13 回までの範囲のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスと添付のアウトラインにしたがい、予習を行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
アウトライン集（添付）参照。

【成績評価の方法と基準】
授業内クイズ 20%
授業内試験 (1) の成績 30%
授業内試験 (2) の成績 50%

【学生の意見等からの気づき】
「具体的な事例を通して学んだことが良かった」との趣旨のフィードバックが多かったです。

【その他の重要事項】
教員は国連機関と開発援助機関での実務経験を有しており、実践を批判的視点から考察します。

【Outline (in English)】
This course will explore history of international law and global policy concerning human rights. It deals with thematic areas including child, gender, refugees and so on.

POL300AC

演習

杉崎　和久

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属する科目である。演習を通じて、都市空間に関わる現代的な課題について、文献資料や現地調査等を通じて、社会的背景、システム等の課題等の構造を理解する。

【到達目標】
1）都市空間に関する現代的課題について、その社会的拝見、システム等の課題を理解すること
2）現代的課題に関する先駆的な取組事例をケーススタディし、さらなる改善方策を提案すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は原則対面で行う予定であるが、一部リアルタイムオンライン授業などで行うこともある。
・東京を対象としたフィールドワーク等を通じて、現代の都市空間における課題の把握、夏期調査に向けた事前学習、秋学期以降のゼミ論文作成のための準備を行う。
・課題等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方を説明します。
第 2 回	現代東京に関するフィールドワーク 1	現代の東京のおける特徴的な地域の現地踏査をする。
第 3 回	現代東京に関するフィールドワーク 2	現代の東京のおける特徴的な地域の現地踏査をする。
第 4 回	フィールドワーク振り返り	フィールドワークの知見を共有する。
第 5 回	文献探索方法	図書館利用に関するガイダンス等の方法を理解する。
第 6 回	現代の都市課題 1	関心ある都市課題について発表する。
第 7 回	現代の都市課題 2	関心ある都市課題について発表する。
第 8 回	夏季調査企画検討／ゼミ論文テーマ案検討	夏季調査の候補地の選定をする。
第 9 回	ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関係する文献を講読し、その内容を紹介する。
第 10 回	夏季調査企画検討／ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関係する文献を講読し、その内容を紹介する。
第 11 回	ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関係する文献を講読し、その内容を紹介する。
第 12 回	夏季合宿調査	夏期合宿地に関する事前調査を行う。
第 13 回	ゼミ論文テーマ検討	ゼミ論文テーマを検討する。
第 14 回	夏期調査準備	調査実施に向けた準備作業を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で指示した文献の通読、担当文献の要約作成、夏期調査の企画検討等は演習以外の時間での準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習のなかで適宜指示します。

【参考書】
演習のなかで適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 点）、ゼミ内での発言や課題提出などゼミへの貢献度（40 点）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
演習では、情報共有のために PC あるいはタブレットを使用します。

【その他の重要事項】
複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、演習を行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this seminar, through literature survey and field work, we understand the background etc for solving the problem in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Usual performance score（60 %） and in-class contribution（40 %）.

POL300AC

演習

杉崎　和久

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属する科目である科目である。演習を通じて、都市空間に関わる現代的な課題について、文献資料や現地調査等を通じて、社会的背景、システム等の課題等の構造を理解する。

【到達目標】
1）都市空間に関する現代的課題について、その社会的拝見、システム等の課題を理解すること
2）現代的課題に関する先駆的な取組事例をケーススタディし、さらなる改善方策を提案すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
・授業は原則対面で行う予定であるが、一部リアルタイムオンライン授業などで行うこともある。
・ゼミ論文の作成のための、研究企画作成、調査実施、論文執筆を進めながら、演習での指導を行います。
・課題等については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	夏期調査報告書発表	夏期調査報告書内容を共有します
第 2 回	ゼミ論文作成にむけたオリエンテーション	ゼミ論文作成のための説明をします
第 3 回	ゼミ論文テーマ検討	ゼミ論文のテーマを決めます
第 4 回	既往研究の収集	テーマに関連する既往研究を収集します
第 5 回	ゼミ論文に関係する論点整理	既往研究からテーマに関する論点を整理する
第 6 回	研究企画	研究企画を検討する
第 7 回	調査企画	調査企画を検討する
第 8 回	調査実施	調査を実施する（必要に応じて調査等の相談をうけます）
第 9 回	調査実施	調査を実施する（必要に応じて調査等の相談をうけます）
第 10 回	中間発表報告	調査状況の報告をします
第 11 回	論文相談（論文作成）	論文執筆をします（必要に応じて相談をうけます）
第 12 回	論文相談（論文作成）	論文執筆をします（必要に応じて相談をうけます）
第 13 回	ゼミ論文提出、発表 1	論文を提出し、発表します
第 14 回	ゼミ論文発表 2	提出した論文の発表をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で指示した文献の通読、担当文献の要約作成、夏期調査の企画検討等は演習以外の時間での準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習のなかで適宜指示します。

【参考書】
演習のなかで適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
学年ごとに評価は下記のようになります。
＜2年生＞
平常点（60 点）、ゼミ内での発言や課題提出などゼミへの貢献度（40 点）
＜3年生＞
第 1 回提出、最終提出を期限内に行うことを単位取得の必須条件とする。最終提出された論文を対象に下記の評価を行う。
・S ：論文の内容が優れている。
・A ：形式に不備がなく、論文の内容も不備がない。
・B ：形式に不備はないが、論文の内容が不整合であるなど、課題がみられる。
・C ：指定された期間内に提出しているが、形式等の不備がみられる。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【学生が準備すべき機器他】
演習では、情報共有のために PC あるいはタブレットを使用します。

【その他の重要事項】
複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、演習を行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this seminar, through literature survey and field work, we understand the background etc for solving the problem in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
To research advanced examples of solutions to local issues and propose improvements
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
< second year >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Normal point: 60%、in class contribution: 40%
< third year >
Submission of a paper is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on the content of the submitted paper.

POL300AC

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木　寛也

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが学んでいる法制度は、天賦のものでも不動不変でもなく、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。本科目は、立法学の全体像を法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】
政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第 2 回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第 3 回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第 4 回	政策形成過程総論	テーマに沿った講義
第 5 回	政府における政策形成過程（1）	テーマに沿った講義
第 6 回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第 7 回	政府における政策形成過程（2）	テーマに沿った講義
第 8 回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義
第 9 回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第 10 回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第 11 回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第 12 回	日本の選挙制度の実態（1）	テーマに沿った講義
第 13 回	日本の選挙制度の実態（2）	テーマに沿った講義
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第２版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（５０％）、学期末レポート（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
教員は、衆議院法制局で勤務しており、20 年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.
The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course cotents.
Students will be graded on:
Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木　寛也

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが学んでいる法制度は、天賦のものでも不動不変でもなく、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。本科目は、立法学の全体像を法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかにして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】
政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第 2 回	「選挙」とは何か	テーマに沿った講義
第 3 回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第 4 回	比較選挙制度論	テーマに沿った講義
第 5 回	選挙制度と二院制	テーマに沿った講義
第 6 回	日本の選挙制度改革の歴史と方向性	テーマに沿った講義
第 7 回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第 8 回	二院制と立法過程	テーマに沿った講義
第 9 回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義
第 10 回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第 11 回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第 12 回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第 13 回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第２版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（５０％）、学期末レポート（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
教員は、衆議院法制局で勤務しており、20 年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline (in English)】
In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.
The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.
Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course cotents.
Students will be graded on:
Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC

演習

土山　希美枝

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【地域から公共政策を考える】
いま日本社会は、構造的な変化を経験しつつある。急速な高齢化と人口減少時代の到来、社会経済構造の変化、グローバル化、情報化などの、社会の全体的な規模での変化が、一人一人の生活の場での政策課題を浮上させている。福祉政策や環境政策はもちろん、近い将来諸君が直面する労働市場の変容への対応もその一例である。
このゼミでは、身近な地域社会という場を対象として、今日的な政策課題について考える。単にそこにある政策的取り組みを調べて来るだけではなく、具体的な課題解決の方法について自らの手と足を使って提案したり試作したりする「作業」を通して、法や制度、そしてまた政治が公共政策にどのように関わっているのかについての理解を深めていきたい。
自分の足で歩き、手を動かしながら、具体的な現実から地域社会の政策課題を考えていきたい。フットワークと、好奇心にあふれた人の参加を期待したい。

【到達目標】
学生は地域課題の構造的な分析を通して政策課題の理解ができる。
学生は文献や調査をつうじて政策を分析、検討、評価し、政策作成の基礎的な技法を身につけている。
学生は自分の考察を言語化して意見とし、互いに対話し議論してその考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
2021 年度の廣瀬の総長就任にともない、2020 年度までの廣瀬ゼミを継続させるかたちで、土山希美枝と廣瀬克哉が共同で担当して運営する。主担当者は土山となる。
対面を基本として授業を行う予定だが、感染状況によっては一時 Zoom によるオンラインに切りかえる場合がある。
文献講読、授業内でのグループワーク、授業外でのグループ作業にもとづいた政策構想や意見の発表、関係学会主催の学生政策コンペ参加のための準備作業などをおこなう予定である。
課題に対するフィードバックは、主として授業におけるコメントとして行い、当事者への直接的な返答だけでなく、ゼミ員共通の学びとなるようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自己紹介とアイスブレイキング	自己紹介とアイスブレイキング
第 2 回	導入とテキスト選定	3 年生による前年度のゼミ論文の発表
第 3 回	導入テキスト講読　1 回め	導入段階の文献を分担して 1 回めの担当者が論評、意見交換
第 4 回	導入テキスト講読　2 回め	導入段階の文献を分担して 2 回めの担当者が論評、意見交換
第 5 回	導入テキスト講読　3 回め	導入段階の文献を分担して 3 回めの担当者が論評、意見交換
第 6 回	導入テキスト講読　4 回め	導入段階の文献を分担して 4 回めの担当者が論評、意見交換
第 7 回	グループワーク準備	春学期グループワークの具体化のための企画検討
第 8 回	導入テキスト講読 5 回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを行う
第 9 回	導入テキスト講読 6 回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを続ける
第 10 回	テキスト選定・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマで集約のためのグループワークを行う
第 11 回	フィールドワーク報告	テーマに関連したフィールドワークを行った結果を報告する
第 12 回	テキスト講読 1・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第 13 回	テキスト講読 2・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第 14 回	グループワーク発表	グループワークの成果を発表し、相互に批評検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、現場に赴いての調査、ゼミ全体への報告のための資料作成。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時参加者と相談の上決めていく。

【参考書】
随時参加者と相談の上決めていく。

【成績評価の方法と基準】
授業での報告、討論などでの貢献度を総合的に評価する。
現場から政策課題についての論点を発見し、実地調査、文献調査と、遠州参加者間での討議を通して、政策課題についての検討を行い、その成果を他者に伝達可能な形で発表する力が身についていればＳ。以下、その達成度によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を反映して、報告担当者の分担決定方法を変更した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
Study public policy through local government policy such as town planing, area management, platform building for revitalization of local industry and so on in Japan and other countries.

POL300AC

演習

土山　希美枝

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【地域から公共政策を考える】
いま日本社会は、構造的な変化を経験しつつある。急速な高齢化と人口減少時代の到来、社会経済構造の変化、グローバル化、情報化などの、社会の全体的な規模での変化が、一人一人の生活の場での政策課題を浮上させている。福祉政策や環境政策はもちろん、近い将来諸君が直面する労働市場の変容への対応もその一例である。
このゼミでは、身近な地域社会という場を対象として、今日的な政策課題について考える。単にそこにある政策的取り組みを調べて来るだけではなく、具体的な課題解決の方法について自らの手と足を使って提案したり試作したりする「作業」を通して、法や制度、そしてまた政治が公共政策にどのように関わっているのかについての理解を深めていきたい。
自分の足で歩き、手を動かしながら、具体的な現実から地域社会の政策課題を考えていきたい。フットワークと、好奇心にあふれた人の参加を期待したい。

【到達目標】
学生は地域課題の構造的な分析を通して政策課題の理解ができる。
学生は文献や調査をつうじて政策を分析、検討、評価し、政策作成の基礎的な技法を身につけている。
学生は自分の考察を言語化して意見とし、互いに対話し議論してその考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
2021 年度の廣瀬の総長就任にともない、2020 年度までの廣瀬ゼミを継続させるかたちで、土山希美枝と廣瀬克哉が共同で担当して運営する。主担当者は土山となる。
対面を基本として授業を行う予定だが、感染状況によっては一時 Zoom によるオンラインに切りかえる場合がある。
文献講読、授業内でのグループワーク、授業外でのグループ作業にもとづいた政策構想や意見の発表、関係学会主催の学生政策コンペ参加のための準備作業などをおこなう予定である。
課題に対するフィードバックは、主として授業におけるコメントとして行い、当事者への直接的な返答だけでなく、ゼミ員共通の学びとなるようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自己紹介とアイスブレイキング	自己紹介とアイスブレイキング
第 2 回	導入とテキスト選定	3 年生による前年度のゼミ論文の発表
第 3 回	導入テキスト講読　1 回め	導入段階の文献を分担して 1 回めの担当者が論評、意見交換
第 4 回	導入テキスト講読　2 回め	導入段階の文献を分担して 2 回めの担当者が論評、意見交換
第 5 回	導入テキスト講読　3 回め	導入段階の文献を分担して 3 回めの担当者が論評、意見交換
第 6 回	導入テキスト講読　4 回め	導入段階の文献を分担して 4 回めの担当者が論評、意見交換
第 7 回	グループワーク準備	春学期グループワークの具体化のための企画検討
第 8 回	導入テキスト講読 5 回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを行う
第 9 回	導入テキスト講読 6 回め・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマでグループワークを続ける
第 10 回	テキスト選定・グループワーク	導入段階の文献を分担して報告、関連テーマで集約のためのグループワークを行う
第 11 回	フィールドワーク報告	テーマに関連したフィールドワークを行った結果を報告する
第 12 回	テキスト講読 1・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第 13 回	テキスト講読 2・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第 14 回	グループワーク発表	グループワークの成果を発表し、相互に批評検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、現場に赴いての調査、ゼミ全体への報告のための資料作成。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時参加者と相談の上決めていく。

【参考書】
随時参加者と相談の上決めていく。

【成績評価の方法と基準】
授業での報告、討論などでの貢献度を総合的に評価する。
現場から政策課題についての論点を発見し、実地調査、文献調査と、遠州参加者間での討議を通して、政策課題についての検討を行い、その成果を他者に伝達可能な形で発表する力が身についていればＳ。以下、その達成度によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を反映して、報告担当者の分担決定方法を変更した。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
Study public policy through local government policy such as town planing, area management, platform building for revitalization of local industry and so on in Japan and other countries.

POL300AD

演習

弓削　昭子

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**4 単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this seminar on International Development and Peacebuilding, the students will examine the various issues related to economic, social and human development as well as peacebuilding, focusing on developing countries. They will learn about Agenda 2030 on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) and issues related to its implementation. The students will learn about the different roles and activities of various actors in this field, including governments, international organizations, civil society, the private sector, and others, and how they interact to achieve the SDGs.

【到達目標】
The students will deepen their understanding of the range of international development and peacebuilding issues including the SDGs and the roles and activities of various actors in this field and their respective strengths and limitations. They will enhance their understanding of different approaches in tackling development problems, including poverty, inequality, gender issues, human development, vulnerability, human rights, environment and climate change, and peacebuilding. The students will also develop a deeper understanding on various collaborative partnerships among different actors. Through presentations and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
The course offers a blend of theory and practice on issues related to international development and peacebuilding. The course will also cover discussions that are taking place at the UN and other global forums, and the students will examine how their outcome apply to various development situations in different countries. Students are expected to read the assigned materials, make presentations, and actively participate in class discussions. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials related to international development and peacebuilding, produced by UN as well as other international organizations and global actors.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction and expectations
2	2030 Agenda and Sustainable Development Goals (SDGs)	Status of SDGs and related issues
3	SDGs implementation issues	Operational issues related to SDGs
4	Approaches to development	Presentation and discussion
5	Poverty reduction	Presentation and discussion
6	Reducing inequality	Presentation and discussion
7	Human development	Presentation and discussion
8	Health and development	Presentation and discussion
9	Education and development	Presentation and discussion
10	Gender equality and women's empowerment	Presentation and discussion
11	Discrimination and human rights	Presentation and discussion
12	Humanitarian assistance	Presentation and discussion
13	Environment protection and climate change	Presentation and discussion
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】
· David Holme, Should Rich Nations Help the Poor?, Polity Press, 2016.
· Jeffrey Sachs, The End of Poverty - How We Can Make It Happen in Our Lifetime, Penguin Books, 2005.
· United Nations, Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development, 2015.
· United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】
· Dean Karlan and Jakob Appel, More Than Good Intentions - Improving the Ways the World's Poor Borrow, Save, Farm, Learn and Stay Healthy, Plume, 2012.
· Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development, Thirteenth Edition. Pearson Education Limited, 2020.
· 紀谷昌彦・山形辰史.『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』、日本評論社、2019.
· 南博・稲場雅紀.『SDGs 危機の時代の羅針盤』、岩波新書、2020.
· 蟹江憲史、『SDGs（持続可能な開発目標）』、中央新書、2020.
· マイケル・P・トダロ、ステファン・C・スミス『トダロとスミスの開発経済学、原著第 10 版』森杉壽芳 監訳、OCDI 開発経済研究会訳、ピアソン桐原、2010 年

【成績評価の方法と基準】
Presentation and participation in class discussions as well as participation in other Seminar activities (special Seminar sessions, study tour, etc.)

【学生の意見等からの気づき】
The outcome of the class evaluation from last semester will be reflected in this year's class.

【その他の重要事項】
As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to international development and peacebuilding.

【Outline (in English)】
As written above.

POL300AD

演習

弓削　昭子

授業形式：**演習**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
単位数：**4 単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this seminar on International Development and Peacebuilding, the students will examine the various issues related to economic, social and human development as well as peacebuilding, focusing on developing countries. They will learn about Agenda 2030 on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) and issues related to its implementation. The students will learn about the different roles and activities of various actors in this field, including governments, international organizations, civil society, the private sector, and others, and how they interact to achieve the SDGs.

【到達目標】
The students will deepen understanding of the range of international development and peacebuilding issues including the SDGs and roles and activities of various actors and their respective strengths and limitations. They will enhance understanding of different approaches in tackling development problems, including poverty, inequality, gender, human development, human rights, environment and climate change, and peacebuilding. The students will also develop a deeper understanding on collaborative partnerships among different actors. Through presentations and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】
The course offers a blend of theory and practice on issues related to international development and peacebuilding. The course will also cover discussions that are taking place at the UN and other global forums, and the students will examine how their outcome apply to various development situations in different countries. Students are expected to read the assigned materials, make presentations, and actively participate in class discussions. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials related to international development and peacebuilding, produced by UN as well as other international organizations and global actors.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and review of spring semester materials	Orientation and expectations of fall semester
2	Approaches to nation building	Presentation and discussion
3	Democratic governance	Presentation and discussion
4	Poverty reduction and peace	Presentation and discussion
5	Socio-economic development and peace	Presentation and discussion
6	Inequality and social stability	Presentation and discussion
7	Human rights and development	Presentation and discussion
8	Sustainable livelihoods	Presentation and discussion
9	Conflict prevention	Presentation and discussion
10	Post-conflict reconstruction	Presentation and discussion
11	Peacebuilding	Presentation and discussion
12	Fragile states	Presentation and discussion
13	Global partnerships for sustainable development	Presentation and discussion
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】
· Jeffrey Sachs, The End of Poverty, How We Can Make it Happen in Our Lifetime, Penguin Books, 2005.
United Nations, Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development, 2015.
United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】
· Paul Collier, The Bottom Billion, Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It, Oxford University Press, 2008.
· Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo. Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty, PublicAffairs, 2012.
· Craig Zelizer(ed), Integrated Peacebuilding - Innovative Approaches to Transforming Conflict. Westview Press, 2013.
· Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development, Thirteenth Edition. Pearson Education Limited, 2020.
·マイケル・P・トダロ、ステファン・C・スミス『トダロとスミスの開発経済学、原著第 10 版』森杉壽芳 監訳、OCDI 開発経済研究会訳、ピアソン桐原、2010 年.
·紀谷昌彦・山形辰史.『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』、日本評論社、2019.
·南博・稲場雅紀.『SDGs 危機の時代の羅針盤』、岩波新書、2020.
·蟹江憲史、『SDGs（持続可能な開発目標）』、中央新書、2020.

【成績評価の方法と基準】
Presentation and participation in class discussions as well as participation in other Seminar activities (special Seminar sessions, study tour, etc.). For third year students, Seminar Report submission is required at the end of the semester (40%).

【学生の意見等からの気づき】
The outcome of the class evaluation from last semester will be reflected in this course.

【その他の重要事項】
As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to international development and peacebuilding.

【Outline (in English)】
As written above.

BSP100AB

法学入門

金子　匡良

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定科目　※法律 1 年 L-N**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、法律学科の新入生を対象に、法学の基本的な用語や概念を学び、法学的なものの考え方（これを「リーガル・マインド」という）を身につけることを目的とする。法学の基礎を学ぶがゆえに、法律学科のすべてのコースに関連する科目である。

【到達目標】
①法学に関する基本的な用語や概念を理解し、それらを「自分の言葉」として使えるようになる。
②法や法学の歴史的な発展過程を理解する。
③法令や判例の検索方法及び読解方法を習得する。
④立法過程や裁判制度など、法の定立・実行に関わる制度の概要を理解する。
⑤上記①～④に基づいて、現代社会の法的問題を分析する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
Hoppii にアップロードしたプリントを教材として、原則として対面の講義形式で授業を進める。ただし、感染状況の推移によっては、ZOOM などを用いたオンライン授業に変更することもある。
質問等に対する回答は、適宜、授業の中でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：法学とは？　法学部とは？	法学が何を対象とする学問であり、法学部とは何を学ぶ学部なのかを考える。
第 2 回	法とは何か？	社会規範としての法の位置づけ、法と道徳の相違、法の特色などについて学ぶ。
第 3 回	法の目的	法の目的としての正義について学ぶ。
第 4 回	法の内容－権利と義務	法の主たる内容としての権利・義務の種類について学ぶ。
第 5 回	法の分類	成文法と不文法の違いとそれぞれの内容・特質について学ぶ。
第 6 回	法の根拠	法の根拠としての自然法の意義、および法実証主義による自然法批判について学ぶ。
第 7 回	法の歴史と系統	大陸法と英米法の成立経緯および両者の特徴について学ぶ。
第 8 回	日本法の歴史	日本における法の歴史、特に近代法の継受の過程について学ぶ。
第 9 回	裁判制度	裁判制度の意義と種類、裁判所の組織について学ぶ。
第 10 回	裁判手続	裁判の過程と訴訟手続上の原則について学ぶ。
第 11 回	法解釈の方法	法解釈の方法と基本的な法令用語の意味について学ぶ。
第 12 回	法解釈の目的	概念法学と自由法論の違いと特徴について学ぶ。
第 13 回	法の効力	法の効力の種類と原則について学ぶ。
第 14 回	現代法の課題	授業全体のまとめをするとともに、現代における法的諸問題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Hoppii にアップロードするプリントを用いる。特定のテキストは指定しないが、授業は概ね下記の「参考書」の内容に沿って進める。

【参考書】
伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理〔第 4 版〕』（北樹出版、2015 年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
上記「到達目標」の達成度を学期末に実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
初年次配当の授業であるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】
This lecture aims to learn fundamental terms and concepts of jurisprudence, targeting freshmen of legal department, and to acquire the ability to think based on legal logic − this ability is called "legal mind".
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LIT200BC

日本文章史Ａ

中沢　けい

授業コード：A2441　｜　曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文章の変遷を学びます。言葉は時代とともに変化しています。言葉の変化とともに文章もまた変化していきます。その変化を文章を表現する技術の変化と並行させながら学んで行きます。

【到達目標】
文章の変化と表現技術の変化を理解する。とくに現在は従来の活版印刷からデジタル技術への転換期にあるので、過去の変化をもとに将来的な変化を想像する手がかりを得ることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業中に発言を求める場合があります。また映像資料を用いる場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	日本語文章の変化の概略を辿ります。
第 2 回	原稿用紙について	原稿用紙と活版印刷の関係、現代の日本語の正書法についてお話します。
第 3 回	活版印刷の登場	デジタル技術は活版印刷登場以来の革命と言われました。出は活版印刷は何をもたらしたのでしょう。
第 4 回	グーテンベルグ登場当時の日本	グーテンベルクが活版印刷を普及した時代は日本の鎌倉時代から室町時代にあたります。日欧の比較をお話します。
第 5 回	宗教改革から大航海時代へ。	活版印刷は欧州に新旧のキリスト教による宗教戦争をもたらしました。それが後の大航海時代へとつながります。
第 6 回	大航海時代と日本の戦国時代。	日本が最初に欧州と出会うのは戦国時代末期です。日本語文章の変化の視点から日本と諸外国との関係を辿り直します。
第 7 回	ちょっとお休み。毎月の本だな。	毎月１回程度、本を紹介する回をもうけます。同時に私が文学上どのような興味を持っているかをお話します。
第 8 回	古代から中世末期までの日本の文章変化　1	中国からの文字（漢字）の輸入から中古の文字の変化（かな、カタカナ）中世の倭館混交文まで大急ぎで振り返ります。
第 9 回	古代から中世末期までの日本の文章変化　2	漢文と和文の二系統の文章が継続的に存続したことをお話します。
第 10 回	古代から沖積末期までの日本の文章変化　3	漢文脈、和文脈の２系統の文章が現代の文章にも影響を与えていることをお話いたします。
第 11 回	町人の文化形成とプレ口語文の時代	近世の出版文化と、近代の口語文の前身となる町人の話言葉を反映させた文章の登場についてお話いたします。
第 12 回	福沢諭吉と口語文の工夫 活版印刷の登場と造本の変化	幕末から明治にかけて膨大な文章を口語文で書いた福沢諭吉についてお話します。
第 13 回	樋口一葉は原稿用紙を使っていた。	活版印刷の登場によって、日本語の正書法が変化をしたことをお話いたします。
第 14 回	表現のための技術と文章の関係	最終回はみなさんのご意見をうかがう回といたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考察するようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】
授業時に随時お示しします。また「今月の本だな」の項目で新しい本をご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
授業への意欲的な参加４０パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート４０パーセント、期末レポート２０パーセント

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture surveys the history of written Japanese and transitions in the forms that those written texts have taken.
Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand changes in the written language and in techniques for its expression, with a view to anticipating changes that the digital revolution may bring.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC

日本文章史Ｂ

中沢　けい

授業コード：A2443　｜　曜日・時限：木 3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語文章の変化を近代から現代までを技術変化に着目しながら考察します。

【到達目標】
活版印刷から出版文化の隆盛、デジタル技術の登場とそれによる表現の変化について各自が考察できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と質疑応答。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	近代とはどのような時代でしょうか。	文語文から口語文への変化を近代と言う社会背景から概略を説明します。
第 2 回	産業革命から市民革命と日本の近世　1	欧州で産業革命と市民革命が起きた時代と日本の近世を並行的に考察します。
第 3 回	産業革命と市民革命と日本の近世　2	欧州に登場した市民と日本の近世に登場した町人の比較を試みます。
第 4 回	近代口語文の登場	春学期でお話した福沢諭吉の登場がもたらした日本語文章の改革について再度、お話をします。
第 5 回	近代に登場した数々の表現技術と出版文化。	写真、映画、ラジオなどが登場します。また新聞が社会の中で大きな役割を占めることをお話します。
第 6 回	近代の映像を見てみましょう。	HNK で放送された「映像の世紀」から近代初期の映像を視聴します。
第 7 回	近代のイメージ	受講生の皆さんが近代についてどのようなイメージを持ったのかを質問しながら質疑応答いたします。
第 8 回	戦争と映画。戦争と新聞、雑誌報道	日清、日露、第一次世界大戦、日中戦争、日米戦争での主要メディアについてお話します。
第 9 回	テレビの登場、週刊誌の登場	マスメディアについてお話します。マスメディアは後に頂上するパーソナルなメディアとの比較を試みます。
第 10 回	デジタル技術の登場	デジタル技術とインターネットは文章を変化させるのか？ この疑問について、現在、考えていることをお話します。
第 11 回	世論形成とフェイクニュース	デジタル技術はパーソナルな情報発信を可能にしました。一方で、フェイクニュースの流布などの問題をもたらしたことをお話します。
第 12 回	アジア諸国の台頭と新しい比較文学	アジア諸国の経済発展は神話学や物語の比較文学に新しい研究成果をもたらしています。
第 13 回	大航海時代以来形成された価値観の問い直しと、文章への影響。	大航海時代以来、世界に形成された価値観の構造的な問い直しが進んでいます。価値観の問い直しは文章へどのような影響を与えるでしょうか。
第 14 回	これからの文章	これからどのような文章が創造されて行くのか、受講生に皆さんと質疑応答をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
考デジタル技術やネット関連のニュースを新聞などで読んでおいてください。文学作品を読む時、時代背景を考えるようにこころがけてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントをお渡しします。

【参考書】
授業内の随時ご紹介します。また「今月の本だな」の項目を使って私の興味関心のある本を紹介してゆきます。

【成績評価の方法と基準】
授業への意欲的な参加４０パーセント、授業後コメントシートの提出とレポート４０パーセント、期末レポート２０パーセント

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
小説家。代表作に「海を感じる時」「女ともだち」「楽隊のうさぎ」などがある。実際の創作の観点から授業を行う。

【Outline (in English)】
Course Outline: This lecture surveys transitions in the forms that written Japanese texts have taken in the modern and contemporary periods.
Learning Objectives: The goal of this lecture is to understand the boom in print culture brought about by type printing, and the changes and challenges presented by the introduction of digital technology.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students should make efforts to keep up with news of new developments in digital techniques, and take care to understand the historical background of literary works that they read.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on: active participation in the class (40%); contents of reaction papers written after each lecture (40%); and an end-of-semester report (20%).

LIT200BC

文章表現論 A

伊東　祐吏

授業コード：A2445　｜　曜日・時限：水 4/Wed.4
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どういう行為なのか。
私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】
自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とは何か	文章を書くうえでの心得
第 2 回	メモと設計図	構想の練り方
第 3 回	書き出しと書き終わり	冒頭と末尾の決め方
第 4 回	テーマと題名	書く内容と方向性を定める
第 5 回	文章の呼吸と運動	文章の生命はどこから来るのか
第 6 回	詩と散文	その性質と違い
第 7 回	書きやすさと書きにくさ	文章への力の入れ方
第 8 回	紋切型と一般論	自分だけの言葉を書く
第 9 回	批評という酵母	批評的要素の働きについて
第 10 回	読者の想定	人に届く文章のあり方
第 11 回	物語と小説	両者の違いと関係性
第 12 回	執筆と感情	執筆時の感情との向き合い方
第 13 回	熱意と体力	執筆の肉体労働性について
第 14 回	小説を書く理由	人はなぜ小説を書くのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
梅田卓夫・清水良典・服部左右一・松川由博『新作文宣言』（ちくまライブラリー）、加藤典洋『言語表現法講義』（岩波テキストブックス）

【成績評価の方法と基準】
800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規につき該当なし

【Outline (in English)】
Basic practice for writing novels, criticism, and essays.
Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.
Learning Activities Outside of the Classroom:
Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)
Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT200BC

文章表現論 B

伊東　祐吏

授業コード：A2447　｜　曜日・時限：水 4/Wed.4
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どういう行為なのか。
私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】
自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「書く」までのアプローチ	その道のりと空白を楽しむ
第 2 回	「書く」ことの楽しみ	書くなかでの発見を待つ
第 3 回	「読む」と「書く」	自分の読書方法を点検する
第 4 回	疑問を育てる	論点の見極めとテーマの設定
第 5 回	論を書く	学問の仕組みを知る
第 6 回	学問と文学	「頭のよさ」と「頭の強さ」の違い
第 7 回	描写と比喩	言葉による描写の特徴
第 8 回	事実とフィクション	両者の違いと共通点
第 9 回	リアリティの正体	人は文章のどこに真実味を感じるか
第 10 回	一人称と三人称	人称と小説の関係
第 11 回	フィクションの力	その必要性と可能性
第 12 回	小説への道のり	「私」ではない人物として文章を書く
第 13 回	取材と調査	書き手に必要な準備とは
第 14 回	オリジナルと模倣	独創への近道と回り道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（課題の準備には、毎回、数時間を要する。）

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、井上ひさし『自家製文章読本』（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規につき該当なし

【Outline (in English)】
Basic practice for writing novels, criticism, and essays.
Course Outline: Why do people write? What kind of act is writing? I believe that writing is not only a means or technique of expressing one's thoughts, but also the act of thinking itself. This is true not only of literature (novels and criticism) but also of academia (essays, papers and research). Through writing, students confront their themes, interact with themselves, and discover their own ideas. This class is a place to learn to experience the essence of writing. Experience the joy and pain of writing with your whole body.
Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. discover what they want to write; 2. develop their own writing style; and 3. deepen their understanding of literature and scholarship.
Learning Activities Outside of the Classroom:
Students will be given instructions as needed, but mainly they will be asked to prepare essays after having presented a theme in advance. (Preparation of the assignment will take several hours each time.)
Grading Criteria/Policy: Students will be asked to submit four 800-word essays. The overall evaluation will be based on the evaluation of their content (50%) and the effort that went into their preparation (50%).

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤　裕之

夜間時間帯
授業コード：A2584　｜　曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作者人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した実例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られ、情報の比較ができにくい中にあって、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】
知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りと認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。
どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権の視点から、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループデイスカッションを講座のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権２	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作者人格権
第 5 回	知的財産権とトラブル①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての実例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発信、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	SNS 時代の新たな危険と総括	違法アップロード、リーチサイト、知らぬ間に著作権侵害。編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。
本授業の準備学習・復習時間として、各メディアのいずれかに一日合計 2 時間程度接し、社会情勢について常識的な知識を持つことを標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。
ただしオンライン授業となった場合、各回にコメントや感想を求める可能性があります。その際は、このコメント提出を以て出席とし、平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ｵﾝﾗｲﾝになったときは、携帯電話ではなく、PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】
出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline (in English)】
Course Outline: This course aims for an understanding of intellectual property rights. We live while taking advantage of various rights. It is necessary to understand the intellectual property rights around you and confirm your stance of protecting them. Based on examples I have experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field as it differs from the law.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the protection of intellectual property.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the newspaper, and/or watched TV while thinking about the issue of intellectual property.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤　裕之

夜間時間帯
授業コード：A2586　｜　曜日・時限：木 5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】
同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」を理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。名作からスタンダードに。
第 10 回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数、コロナ流行状況によって形式を変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	ＳＮＳ時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けのため、今現実に起きている社会事象や事件について、最低限の情報を持つようにする。
本授業の準備学習・復習時間は、新聞を読む、テレビを見るなど、現実社会の情報に遅れないため、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。
ただしオンライン授業となった場合、各回にコメントや感想を求める可能性があります。その際は、このコメント提出を以て出席とし、平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】
自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】
出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　総合出版の講談社において、文芸分野（フィクション）を統括する元文芸局長。
日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。
＜主要研究業績（社歴）＞
群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline (in English)】
Course Outline: If you think the news is the same in all of the media, you would be wrong. Each media has its own stance. Newspaper articles are not neutral, and neither is television. Students learn the difference between the news on each media, how different they are, and why such differences exist.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have gained the ability to understand the essence of incidents by selectively choosing media.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read several newspapers, to be familiar with the headlines, and to have watched a number of current affairs programs.
Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT300BC

ゼミナール１７Ａ

中沢　けい

授業コード：A2647　｜　曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。
Literature creation

【到達目標】
創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第 4 回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表 発表内容に対する質問を考えましょう。	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生よる発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましょう。	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといいのですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「東京百年物語」（岩波文庫）ロバート キャンベル (編集), 十重田 裕一 (編集), 宗像 和重 (編集)2018 年 11 月 17 日刊行　891 円
ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】
「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三
テキストを読みながら東京の地形について学なびます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】
原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となることがあります。あしからずご了解ください。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.
Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール１７Ｂ

中沢　けい

授業コード：A2648　｜　曜日・時限：木 4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】
ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生に発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	受講生による発表	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	人によって読み方はさまざまです。
第 11 回	受講生による発表	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第 12 回	受講生による発表	作品はイメージ通りに書けましたか。
第 13 回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できるだけたくさんの本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌

【参考書】
ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】
　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止となります。あしからずご了解ください。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】
Course Outline: Students will produce a seminar journal during the summer vacation period. The seminar journal will be the textbook for the second semester classes, in which we will undertake joint critiques of each student's work.
Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. This will help students to understand that even the same work can be read in different ways by different people. Through this process, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.
Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール１８Ａ

中沢　けい

夜間時間帯

授業コード：A2649　｜　曜日・時限：金 6/Fri.6

春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

　創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

　後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる講読で批評の方法を学びます。
第 4 回	受講生による発表 他の学生の発表を聞きましょう。	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表 発表者に質問する前に、おとなりの人と少し相談するといいかもしれません。	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表 レジュメの作り方を研究してみましょう。	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生よる発表 レジュメの作り方受講生にを研究してみましう。	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生による発表 発表に機材が必要な場合は申し出てください。	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	受講生による発表 ときには脱線してお喋りをするのもおもしろいものです。	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	受講生による発表 夏季休暇が近づいてきました。ゼミ誌の作品制作は進んでいるでしょうか？ という時期になります。	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	受講生による発表 ゼミ誌作品制作の進行具合をお尋ねするかもしれません。	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表 最終授業日までにゼミ誌の制作にめどがたっているといいのですけど。	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「東京百年物語」（岩波文庫）ロバート キャンベル (編集), 十重田 裕一 (編集), 宗像 和重 (編集)2018 年 11 月 17 日刊行　 891 円

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

「地形で見る江戸・東京発展史」（ちくま新書）鈴木浩三

テキストを読みながら東京の地形について学なびます。地形とテキストの文章を引き比べながら空間表現、時間表現などについて探求します。

【成績評価の方法と基準】

　配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿は中止といたします。あしからずお許しください。

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. This will help students learn how to critique. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The goal is to be able to critically read creative works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール１８Ｂ

中沢　けい

夜間時間帯

授業コード：A2650　｜　曜日・時限：**金** 6/Fri.6

秋学期授業/Fall・2 **単位**　｜　配当年次：**2〜4 年**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	講読作品の選定とスケジュール作り	講読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第 4 回	受講生による発表	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	受講生による発表	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	受講生による発表	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	受講生による発表	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	受講生による発表	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	受講生による発表	読みかたは人によって異なります。
第 10 回	受講生による発表	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第 11 回	受講生による発表	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第 12 回	受講生による発表	作品の修正の方法を考えてみましょう
第 13 回	受講生による発表	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第 14 回	受講生による発表	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさんの本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50 %。　評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。新型コロナの感染状況によっては合宿が中止となることがあります。あしからず。

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Students will learn about creative writing. First, we will carefully read a variety of works. During the summer vacation, students will produce a seminar journal. This will be the textbook for the second semester, the object of joint critiques. A camp is also scheduled during the summer.

Learning Objectives: The seminar students will critique each other's work. Students will understand that even the same work can be read in different ways by different people. In this way, you will learn to distinguish necessary critiques of your own work. You will become aware of what form of work you would like to write yourself.

Learning Activities Outside of the Classroom: Read as many books as possible, including poetry, criticism, plays, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: active participation in class (50%), seminar journal work (50%). The evaluation criterion is good taste in creative writing.

LIT300BC

ゼミナール１９Ａ

藤谷　治

授業コード：A2651　｜　曜日・時限：水 3/Wed.3
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	長篇を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	長篇を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	長篇を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	長篇を読む（4）	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	長篇を読む（5）	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	長篇を読む（6）	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	長篇を読む（7）	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	長篇を読む（8）	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	長篇を読む（9）	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	長篇を読む（10）	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	長篇を読む（11）	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	長篇を読む（12）	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	長篇を読む（13）	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】
Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.
Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.
Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading Criteria/Policy: Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC

ゼミナール１９Ｂ

藤谷　治

授業コード：A2652　｜　曜日・時限：水 3/Wed.3
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】
Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.
Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.
Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC

ゼミナール２０Ａ

藤谷　治

夜間時間帯

授業コード：A2653　｜　曜日・時限：月 6/Mon.6

春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	長篇を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	長篇を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	長篇を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	長篇を読む（4）	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	長篇を読む（5）	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	長篇を読む（6）	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	長篇を読む（7）	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	長篇を読む（8）	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	長篇を読む（9）	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	長篇を読む（10）	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	長篇を読む（11）	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	長篇を読む（12）	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	長篇を読む（13）	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. The students will then improve their language skills by challenging themselves to write original works, not only through imitation.

Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write during the summer vacation. Take time to prepare, and work on your writing style and content from the spring semester. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: Evaluation will be based on research presentations (30%), participation in seminar activities (20%), and the content of creative work (50%).

LIT300BC

ゼミナール２０Ｂ

藤谷　治

夜間時間帯

授業コード：A2654　｜　曜日・時限：月 6/Mon.6

秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

現役小説家として創作を続けている者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: Choose the form of expression that suits you for creative writing in Japanese.

Learning Objectives: Any genre of creative writing is acceptable, but students should determine the form of expression they create on the condition that they like to read works in that form. Students will also learn to understand literary works internally from the author's point of view, as a prerequisite for literary creation. Students will then challenge themselves to write original works and improve their language skills.

Learning Activities Outside of the Classroom: I will give you instructions as necessary, but it is especially important that you write works to be submitted in the fall semester. Take time during the summer vacation to complete your work to your satisfaction. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

Grading Criteria/Policy: Students will be evaluated based on the content of their creative work in seminar activities (50%), and their performance in class (50%).

LIT300BC

ゼミナール２１Ａ

山口　和人

授業コード：A2655　｜　曜日・時限：月 6/Mon.6
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！　という“会心の作”を書いてみたいですよね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。
同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。
また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。
※本ゼミは原則として 2 年連続で受講されることを想定しています。
したがって、「創作のヒント」については、本年度（1 年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トポス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2 年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティヴ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり 1 年目と 2 年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】
・ひとつの小説作品を書けるようになる。
・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。
楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。
春学期では既存の有名作家の作品を読みます。
夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。
秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。
授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＆オリエンテーション　および自己紹介	ゼミ概要、講読テキスト指定と作品批評発表の割り当て
第 2 回	現代日本の小説読解・批評その１	名作短篇小説を合評。創作のヒント① 優れた小説とは？
第 3 回	現代日本の小説読解・批評その２	名作短篇小説を合評。創作のヒント② テーマ
第 4 回	現代日本の小説読解・批評その３	名作短篇小説を合評。創作のヒント③ プロット（ストーリー）
第 5 回	現代日本の小説読解・批評その４	名作短篇小説を合評。創作のヒント④ 小説構造
第 6 回	現代日本の小説読解・批評その５	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑤ 書き出し
第 7 回	現代日本の小説読解・批評その６	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑥ 登場人物
第 8 回	現代日本の小説読解・批評その７	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑦ 場所（セッティング・トポス）
第 9 回	現代日本の小説読解・批評その８ ゼミ誌制作の準備	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑧ 場面（シーン） 創作は「本」になって初めて原稿ではなく「作品」になります。
第 10 回	現代日本の小説読解・批評その９	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑨ 描写
第 11 回	現代日本の小説読解・批評その１０	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑩ 会話
第 12 回	現代日本の小説読解・批評その１１	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑪ 文体
第 13 回	現代日本の小説読解・批評その１２	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑫ 視点
第 14 回	現代日本の小説読解・批評その１３	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑬ 推敲 ※創作のヒントの各項目の扱い順は変動します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
・リアクションペーパー執筆と事前提出。
・創作作品執筆とゼミ誌制作。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定・配布します。

【参考書】
特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】
クラス参加への積極性・貢献度５０％、提出創作作品の評価５０％
無断欠席は 3 回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください）。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
Word ソフトを搭載した PC を使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】
【プロフィール】
講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萠、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は 28 年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.
Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.
【Learning Objectives】
· Students will be able to write a novel.
· Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
· Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
· Students will acquire accurate and rich writing expression.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT300BC

ゼミナール２１Ｂ

山口　和人

授業コード：A2656　｜　曜日・時限：月 6/Mon.6
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説の書き方について学びます。誰でも、これは傑作！ という“会心の作”を書いてみたいですよね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香、東野圭吾、西尾維新ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。
同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。
また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。
※本ゼミは原則として 2 年連続で受講されることを想定しています。
したがって、「創作のヒント」については、本年度（1 年目）はテーマ、プロット（ストーリー）、小説構造、書き出し、登場人物、場所（セッティング・トポス、場面（シーン）、描写、会話、文体、視点、推敲などに焦点を当てますが、次年度（2 年目）はアナロジー、喩え（直喩・暗喩・メタファー）、伏線、小道具、声（ヴォイス）、引用、語り方（ナラティヴ）、タイトル、校正、社会・歴史・哲学的事象（大きな問題）への接続、風俗への接続、エンジンとしての”謎・ミステリー”、どうしても書きあぐねた場合、既存小説構造の解体・脱臼などを取り上げたいと思います。つまり 1 年目と 2 年目で扱う項目を別立てにして交互に論じます。

【到達目標】
・ひとつの小説作品を書けるようになる。
・小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
・自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
・正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。
楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。
春学期では既存の有名作家の作品を読みます。
夏休み開始直後には創作を提出していただき、夏休み中にゼミ誌を制作します。
秋学期ではこのゼミ誌を使って自分たちの作品を合評します。
授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＆オリエンテーション	ゼミ誌の配布。 批評をリアクションペーパーとして提出しましょう。
第 2 回	創作作品の相互鑑賞	以降毎回、春学期で学んだ下記のポイント（創作のヒント）に着目して作品を読んでみましょう。
第 3 回	創作作品の相互鑑賞	テーマ（以下順不同）
第 4 回	創作作品の相互鑑賞	プロット（ストーリー）
第 5 回	創作作品の相互鑑賞	小説構造
第 6 回	創作作品の相互鑑賞	書き出し
第 7 回	創作作品の相互鑑賞	登場人物
第 8 回	創作作品の相互鑑賞	場所（セッティング・トポス）
第 9 回	創作作品の相互鑑賞	場面（シーン）
第 10 回	創作作品の相互鑑賞	描写
第 11 回	創作作品の相互鑑賞	会話
第 12 回	創作作品の相互鑑賞	文体
第 13 回	創作作品の相互鑑賞	視点
第 14 回	創作作品の相互鑑賞	推敲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察。
・リアクションペーパー執筆と事前提出。
・創作作品執筆とゼミ誌制作。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時指定・配布します。

【参考書】
特にありませんが、より多くの文学作品、映画、コミック、絵画、音楽等に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】
クラス参加への積極性・貢献度５０％、提出創作作品の評価５０％
無断欠席は 3 回目から減点の対象とします（欠席するときは必ず当日授業前までにご連絡ください）。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんからの意見・感想等のフィードバックを随時歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
Word ソフトを搭載した PC を使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】
【プロフィール】
講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萠、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は 28 年に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline (in English)】
We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. Reading excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips: theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.
Students will edit and make a small literary magazine consisting of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.
【Learning Objectives】
· Students will be able to write a novel.
· Students will be able to read novels in a multifaceted and critical manner.
· Students will be able to objectively critique their creations through the eyes of readers.
· Students will acquire accurate and rich writing expression.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Creative works: 50%, in class contribution: 50%

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷　治

授業コード：A2687　｜　曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】
文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマ―新書）

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】
講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】
Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現 B

藤谷　治

授業コード：A2688　｜　曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】
表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びポルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】
職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】
Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.
Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

編集理論 A

福江　泰太

夜間時間帯
授業コード：A2709　｜　曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちはテクストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web 空間におけるテクストについては秋学期に扱います）。まず、テクストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】
これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現在の書籍や雑誌の制作過程を追体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テクスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際的・具体的な授業内容となるよう心がけます。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	出版・編集の現在	現在の出版界がおかれている状況を概観し、ガイダンスとします。
第 2 回	日本の出版流通の特殊性①	再販売価格維持制度について考えます。
第 3 回	日本の出版流通の特殊性②	委託制度について考えます。
第 4 回	日本の出版流通の特殊性③	出版取次の役割について考えます。
第 5 回	日本の出版流通の歴史的変遷	明治以降、出版物の流通制度がどのように変わったかを概観します。
第 6 回	定価の構成要素	書籍や雑誌の定価はどのように決まるのか、その構成要素から考えていきます。
第 7 回	印税という制度	著作権およびその使用についての基礎的知識を概観していきます。
第 8 回	編集の流れ	8 回からは、実際の編集制作過程について講義します。その初回は「ゲラ」の流れから編集の流れを概観します。
第 9 回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要さを学びます。校正作業の詳細については、編集理論 B で扱い、ここでは全体像を示します。
第 10 回	文字と組版①	本文に使われている文字はどのように選ばれるのか、印刷文字の基礎を学びます。
第 11 回	文字と組版②	本文の読みやすく、美しい版面はどのように構成すればよいのか、組版の基礎を学びます。
第 12 回	折と台割	本文はどのようにして印刷されるのか、「折」という単位について考えます。
第 13 回	紙について①	書籍・雑誌の素材としていちばん大切な「紙」についての基礎知識を概観します。
第 14 回	紙について②	A 判、B 判、四六判など、色々な印刷用紙からどのような書籍・雑誌が作り出されるのか、概観します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くリアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢 50%　期末のレポート内容 50%　を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】
編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」學藝書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: We often receive texts in the form of books and magazines (web-based texts will be covered in the fall semester). First, we will gain a solid understanding of the process by which texts are transformed into books and magazines.
Learning Objectives: Students will acquire knowledge to appreciate books and magazines not only from the perspective of "reading" but also from the perspective of "creating," or editing and producing.
Learning Activities Outside of the Classroom: Please carefully think about what makes a book or magazine attractive to you, as if you were the editor of the book or magazine, by visiting real bookstores frequently. Key words for the next class will be presented beforehand, so please get as much prior knowledge as possible. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: The evaluation of your performance will be based on your participation in class (50%) and the contents of your final report (50%).

LIT200BC

編集理論 B

福江　泰太

夜間時間帯

授業コード：A2710　｜　曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半は、日本語の表記法と校正について学びます。基本的な校正記号は使えるようにします。後半は、書物の歴史を振り返りながら、書物の姿がどのように変容してきたのか、その歴史の中に現在の電子書籍や Web 上のコンテンツを位置づけ、書物の将来を考えていきます。

【到達目標】
編集理論 A は、実際の書物や雑誌の編集制作過程を順に講義しましたが、編集理論 B では、A で詳論できなかった「校正」や「表記法」について学びます。皆さんの中には、組版ソフトの InDesign を使って雑誌作りを経験した人も多いと思います。InDesign を使えば誰でも簡単に組版ができます。しかし組版のもとになる表記法の知識がなければ、美しく正確な組版ができません。当たり前と思っていた日本語表記法を編集の視点から見直します。また後半では書物の歴史をラフスケッチし、その歴史の中にデジタル書籍を新しい書物像として位置づけます。しかし現在の電子書籍はまだまだ未完成です。電子書籍、紙媒体の書籍、それぞれを自由に見るための視点を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な校正記号の理解にはテキストを使います。テキストに準じ、20 程度の校正記号を使えるようにします。書物史の講義では、DVD 視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語の表記法はどのように変わったか	編集者は日本語の表記法について考える最前線に立っています。編集という視点から見た日本語の表記法を考えます。
第 2 回	組版の特性と表記法	原稿用紙に書く場合、ワードで入力する場合、印刷組版の場合、それぞれに表記法のズレが生じます。その違いを理解することが大切です。
第 3 回	約物について	文字以外の句読点や様々な括弧の類を「ヤクモノ」と言います。約物は新たに日本語表記に付与された記号です。約物について概観します。
第 4 回	漢字について①　当用漢字・常用漢字・人名漢字	漢字行政の変遷を概観します。当用漢字と常用漢字、人名漢字、それぞれがもたらした問題について考えていきます。
第 5 回	漢字について②　拡張新字体	新たに生み出された拡張新字体がもたらした問題について考えます。
第 6 回	校正記号について①　テキスト 1〜5	下記に示したテキストを使って、基礎的な校正記号を学び、練習問題を解いていきます。4 回の授業で全篇仕上げます。
第 7 回	校正記号について②　テキスト 6〜10	字間や行間の訂正など。
第 8 回	校正記号について③　テキスト 11〜15	中つきルビ、肩つきルビ、グループルビについて。
第 9 回	校正記号について④　テキスト 16〜20	校正記号のまとめ。
第 10 回	書物の歴史①　巻子本から冊子本へ	百万塔陀羅尼から和本の形が成立するまでを概観します。
第 11 回	書物の歴史②　江戸から明治へ	江戸時代の書物文化と洋装本の成立について概観します。
第 12 回	書物の歴史③　活版印刷と写真の誕生	書物文化にとっての革命、活版印刷と写真について考えます。
第 13 回	書物の歴史④　活版印刷以降	写真植字、電子組版、オフセット印刷などについて概観します。
第 14 回	書物の歴史⑤　デジタル書物へ	書物が紙という支持体から解放される過程を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
校正練習帳（1）校正記号を使ってみよう　タテ組編　日本エディタースクール　550 円

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢 50%　期末のレポート内容 50%　を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】
編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」學藝書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline (in English)】
Course Outline: In the first half of the course, students will learn about how written Japanese is laid out and proofread. Students will learn to use basic proofreading symbols. The second half of the course will look back at the history of the book and how the form of the book has transformed, situate current e-books and web-based content within that history, and consider the future of the book.
Learning Objectives: In the spring semester, we dealt with the process of editing and producing books and magazines. In the fall semester, students will learn about “proofreading” and “layout,” which could not be discussed in detail in the spring semester. Many of you may have used the typesetting software InDesign to create magazines, and anyone can use InDesign to create typesetting easily. However, without knowledge of the norms of layout that form the basis of typesetting, it is impossible to create beautiful and accurate typesetting. This lecture will review how written Japanese is laid out, a subject that we take for granted, from an editorial point of view. In the second half of the course, we will do a rough survey of the history of books and situate digital books as a new image of books within that history. However, the current digital book is still in its infancy. Students will acquire perspectives to view and appreciate both e-books and paper books.
Learning Activities Outside of the Classroom: Students are encouraged to use catalogs available in libraries and other institutions to investigate the various forms of books from the past and present. For the history of books, knowledge of Japanese and world history is required as background. Students should study the historical background of the period applicable to the class content in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: The evaluation of your performance will be based on your participation in the class (50%) and the contents of your final report (50%).

PRI100BC

情報メディア演習 A

武田　俊

夜間時間帯
授業コード：A2717　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：1〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアとは何か、編集とは何か。この 2 つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします。

【到達目標】
座学と実践的なワークショプを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義では PC を活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDrive やその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、講師のプロフィールと過去の代表的な仕事を紹介します。
第 2 回	現代メディア論：人類とメディア	メディアとはそもそも何か。人類とメディアの関わりについて、その歴史を旅するように眺めます。
第 3 回	現代メディア論：現代のメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web …現代の主要メディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第 4 回	記事制作 ワークショップ 1 ： WEB メディアにはどのような記事があるか	実在する WEB メディアを参照に、記事のタイプや特徴などをリサーチします。
第 5 回	記事制作ワークショップ 2 ：取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。
第 6 回	記事制作ワークショップ 3 ：記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように扱い記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第 7 回	講評	できあがった記事について、発表と講評を行います。
第 8 回	現代編集論：現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがおり、どのような仕事の仕方をしているかお話します。
第 9 回	編集者とクリエイター：ライター／小説家の場合	ライターや小説家とはどのような仕事なのか？　ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 10 回	編集者とクリエイター：デザイナーの場合	デザイナーとはどのような仕事なのか？　ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 11 回	編集者とクリエイター：フォトグラファーの場合	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？　ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 12 回	企画制作ワークショップ 1 ：企画のつくり方	企画はどのようにうまれるのか。よい企画と悪い企画では、何が異なるのか、事例をもとに学びます。
第 13 回	企画制作ワークショップ 2 ：企画書のつくり方	アイディアを実現させるために、企画書には何を盛り込むべきなのか。実際に企画書を制作します。
第 14 回	講評／まとめ	企画書課題の講評を行い、春学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】
講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
講義では PC を活用します。情報実習室の備品を利用することができますが、使い慣れている自前のデバイスを持ち込むことも歓迎します。

【その他の重要事項】
講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

【Outline (in English)】
Course Outline: What are media and what is editing? Based on these two questions, students will learn practically about our relationship with the media, as well as the state of the media business today. The course is designed as a seminar, using a variety of tools to have each student not only think, but also practice. In addition, as an active editor, I will provide specific examples of recent media topics as needed. The purpose of this workshop is to find out the questions each student has about how to handle “information,” which is inevitable in our information-oriented society.
Learning Objectives: Through a program that combines classroom lectures and practical workshops, students will gain an understanding of the characteristics of media and editing, and acquire the skills to deal with them with creative intent.
Learning Activities Outside of the Classroom: There will be workshops within the lectures and hands-on assignments. Students will have time to work in the lectures, but may be asked to work outside of the lectures to prepare presentations of their work.
Grading Criteria/Policy: Course evaluation will consist of 70% for assignments in the lecture and 30% for submitted reaction papers. In addition, students’ participation in classes will be taken into account and evaluated comprehensively.

PRI100BC

情報メディア演習 B

武田　俊

夜間時間帯

授業コード：A2718　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：1〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアとは何か、編集とは何か。この 2 つの問いをベースに、人類とメディアの関係から、現代のメディアビジネスのあり方までを実践的に学ぶことができます。演習形式のため、様々なツールを使い受講生一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。また、現役編集者という立場から近年のメディアトピックについて、具体的例も随時取り上げます。情報化社会を生きる上で避けて通れない「情報」の扱い方について、それぞれの問いを見つけ出すことを目的とします

【到達目標】

座学と実践的なワークショプを組み合わせたプログラムを通して、メディアや編集の持つ特性を理解し、クリエイティブな意図を持って扱う技術を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ではスライドを用いた座学だけでなく、グループワークなど実際に手を動かすワークショップの時間を設けています。講義では PC を活用（情報演習室の備品でも自前のものでも可）し、GoogleDrive やその他、様々なツールを使用します。また数回、外部のクリエイターを招いたゲスト回も予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいとカリキュラムについての説明のほか、講師のプロフィールと過去の代表的な仕事を紹介します。
第 2 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第 3 回	現代編集論：編集とはどんな技術か	編集とはどのような技術なのか。歴史と具体例を用いてお話します。
第 4 回	デジタルメディアワークショップ 1 ：リサーチ	グループに分かれ、デジタルメディアの特徴やマネタイズモデルをリサーチしてもらいます。
第 5 回	デジタルメディアワークショップ 2 ：アイディアメイク	生まれたアイディアを元に、具体的に企画書を制作してもらいます。
第 6 回	デジタルメディアワークショップ 3 ：企画化	生まれたアイディアを元に、具体的に企画書を制作してもらいます。
第 7 回	プレゼン／講評	グループごとに企画書をプレゼンしてもらい、講評します。
第 8 回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的にお話します。
第 9 回	編集者とクリエイター：Web デザイナーの場合	Web デザイナーとはどのような仕事なのか？　ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 10 回	編集者とクリエイター：映像ディレクターの場合	映像ディレクターとはどのような仕事なのか？　ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 11 回	編集者とクリエイター：イラストレーターの場合	イラストレーターとはどのような仕事なのか？　ゲストをお招きしお話を聞きながら、受講生にも実践してもらいます。
第 12 回	PR ワークショップ 1 ：PR とはなにか	デジタルメディアを使った PR（パブリックリレーション）の仕方について、具体例を交えて学びます。
第 13 回	PR ワークショップ 2 ：PR 企画のつくり方	お題に対して、デジタルメディアを使った PR 企画を実際につくってもらいます。
第 14 回	講評／まとめ	課題の講評を行い、秋学期の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

講義では PC を活用します。情報実習室の備品を利用することができますが、使い慣れている自前のデバイスを持ち込むことも歓迎します。

【その他の重要事項】

講師の武田俊は、本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした、ゼミのような双方向的な講義を目指します。春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、通年で受講することでより深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。

【Outline (in English)】

Course Outline: What are media and what is editing? Based on these two questions, students will learn practically about our relationship with the media, as well as the state of the media business today. The course is designed as a seminar, using a variety of tools to have each student not only think, but also practice. In addition, as an active editor, I will provide specific examples of recent media topics as needed. The purpose of this workshop is to find out the questions each student has about how to handle “information,” which is inevitable in our information-oriented society.

Learning Objectives: Through a program that combines classroom lectures and practical workshops, students will gain an understanding of the characteristics of media and editing, and acquire the skills to deal with them with creative intent.

Learning Activities Outside of the Classroom: There will be workshops within the lectures and hands-on assignments. Students will have time to work in the lectures, but may be asked to work outside of the lectures to prepare presentations of their work.

Grading Criteria/Policy: Course evaluation will consist of 70% for assignments in the lecture and 30% for submitted reaction papers. In addition, students’ participation in classes will be taken into account and evaluated comprehensively.

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2719　｜　曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
備考（履修条件等）：2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）
Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2720　｜　曜日・時限：金 4/Fri.4
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
備考（履修条件等）：**2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）
Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯
授業コード：A2721　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
備考（履修条件等）：**2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。
What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）
Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】
Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.
Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.
Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2722　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年

備考（履修条件等）：**2015 年度以降 2018 年度以前入学者は年間科目として履修。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）

②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）

適時レポート（２０％）

Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline (in English)】

Course Outline: From the viewpoint that "calligraphy is expression through writing," the class will take the form of practical exercises to enhance the students' expressive power of calligraphy, but will also take care to cultivate their basic appreciation of and love for calligraphy. This is a course on the basics of calligraphy.

Learning Objectives: What are good characters? How can they be written? Students should explore ways of thinking, writing procedures and methods, with the ultimate goal of producing calligraphy that follows their heart's desire but does not ignore the rules.

Learning Activities Outside of the Classroom: Viewing of designated exhibitions and submission of reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on active contribution to the class, clean copy assignments, and summer vacation homework (80%), as well as timely submitted reports (20%).

HIS100BE

日本史概説Ⅰ

古庄　浩明

授業コード：A3101　｜　曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：1〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では考古学の成果から復元された日本の原始・古代社会について概観する。
受講者には当該期の大要をつかみ、考古学から見た日本の原始古代を大観してもらうことを目的とする。具体的には、旧石器時代から律令国家の成立までを概観して講義する。

【到達目標】
旧石器時代から律令国家の成立までを概観して講義とする。受講者は考古資料を中心として、日本の成り立ちを考古資料に加え『記紀』や当時の国際情勢も考慮して概観し、原始・古代の日本の社会像を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業です。ただし社会情勢などにより、学習支援システムを利用したビデオ配信を行う場合もあります。
・授業形態（講義）対面授業は教科書とビデオを見ながら講義ノートを作成していきます。
・講義ノートは「古庄浩明の講義ノート http://wacoffee.blogspot.jp/」でダウンロードできます。データにはプロテクトがかけられています。プロテクトキーは授業中にお知らせします。
・教科書は大学指定の生協でご購入できます。お早めに入手なさってください。
・質問等に対するフィードバックは授業中に行います。また、学習支援システムによっても受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	先土器時代（旧石器時代）1	日本の人骨化石 石器の特徴と編年
第 2 回	先土器時代（旧石器時代）2	人々の生活 先土器時代の終わり
第 3 回	縄文時代 1	縄文時代の始まり
第 4 回	縄文時代 2	縄文時代の生活基盤
第 5 回	縄文時代 3	精神文化と埋葬
第 6 回	弥生時代 1	農耕のはじまり
第 7 回	弥生時代 2	鉄器と青銅器
第 8 回	弥生時代 3	ムラからクニへ 邪馬台国と卑弥呼
第 9 回	古墳時代 1	古墳とは何か 前方後円墳体制の背景
第 10 回	古墳時代 2	前期古墳 中期古墳 後期古墳
第 11 回	古墳時代 3	前方後円墳体制の終焉
第 12 回	飛鳥時代 1	東アジアの動向
第 13 回	飛鳥時代 2	聖徳太子と推古 大化の改新と天智
第 14 回	飛鳥時代 3	飛鳥時代の終わりと「日本」のはじまり 試験（60 分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや参考文献などを事前に読んで予習・復習することが望ましい。「古庄浩明の講義ノート」から所定の講義ノートを事前にダウンロードして予習・復習に活用することが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。
「古庄浩明の講義ノート」https://wacoffee.blogspot.com/

【テキスト（教科書）】
古庄浩明 2013『「日本」のはじまり』（第 2 回改訂発行）和出版　3000 円＋税（生協で販売）＊必ず改訂版をご購入ください。

【参考書】
古庄浩明 2012『朝日おとなの学びなおし日本史　考古学が解き明かす古代史』朝日新聞出版社　1400 円＋税（出版社では売り切れになったそうです。amazon で購入できます。できたら入手なさってください。）
その他、教科書の参考文献欄を参照。皆さんの学習に役立つ参考文献を多く掲載しています。Hiroaki FURUSHO 2022『Beginning of Japan』wasyuppan ISBN978-9906476-7-4 英語・ロシア語版です。Amazon　kindle でデータ版 1446 円・プリント版 3185 円（ドル円レートにより変動）を購入できます。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 パーセント、テスト（またはレポート）50 パーセント、合計 100 パーセントで採点する。
・講義への集中度や参加度・学習状況によって授業の平常点をつけます。
・本授業の最終授業時間に 60 分の期末試験を行います。試験は教科書・ノートは持ち込み可ですが、スマホ・PC などの電子デバイスは特別の事情がない限り持ち込み不可です。詳しくは授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
・プリントを配布して授業を進めるが、すこし作業しないと眠くなるという意見が出たので、穴埋め部分を作った。
・対面授業での説明漏れ、解説の間違いを極力減らすため、事前に収録した授業の YouTube を対面授業でも活用する。

【学生が準備すべき機器他】
教科書・講義ノートのプリントアウト・ネット環境
Printout of textbooks and lecture notes, Internet environment

【その他の重要事項】
世界史的視野に立った日本史を心がけて授業を進める。高校の世界史・日本史の教科書を理解していることが必要です。
1. 教科書を購入し、下記のアドレスからノートをダウンロードしてください。教科書は大学の生協で購入できます。英語・ロシア語版は kindle で購入してください
2. ノートは{http://wacoffee.blogspot.com/}にアクセスしてダウンロードしてください。プロテクトがかかっています。パスワードは授業中におしらせします。
考古学者。1960 年、熊本県生まれ。法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了。東京国立博物館有史室事務補・土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム学芸員などを歴任。法政大学通信教育部・駒澤大学文学部・国士舘大学 21 世紀アジア学部講師などをつとめる。弥生時代から歴史時代までの、考古学からみる社会構造の研究を進める。近年では中央アジア・ウズベキスタン共和国でシルクロードの調査研究・遺跡保存も行っている。
著作・論文に『Beginning of Japan』wasyuppan 2022、『玄奘とシルクロード』三恵社 2020、『中央アジアの歴史と考古学』三恵社 2019、『考古学の世界』三恵社 2018、『文化財学の基礎』三恵社 2018、『「日本」のはじまり』和出版 2013、『朝日おとなの学びなおし 考古学が解き明かす古代史 日本の始まりに迫る』朝日新聞出版 2012、「古代における鉄製農工具の所有形態」『考古学雑誌』79-3 1994、「土井ヶ浜遺跡の祭祀と社会」『原始・古代日本の祭祀』同成社 2007、「中央アジア・ウズベキスタンにおける遺構保存の現状と課題」『21 世紀アジア学会紀要』 7 2009 など、多数。

【Outline (in English)】
In this lecture, the primitive and ancient history of Japan is explained through archaeology. The aim of the lecture is to learn when and how Japanese society was formed.
The lecture will give an overview of the period from the Paleolithic Age to the founding of the Ritsuryo State. Students will be able to survey the formation of Japan by considering archaeological data as well as the chronicle of Japan and the international situation at that time, and understand the picture of the society of primitive and ancient Japan.
It is advisable to prepare for and follow up the lecture by reading the textbook and references. It is advisable to download the prescribed lecture notes from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" in advance and use them for preparation and follow-up. The standard preparation and review time for this course is 4 hours each. Lecture Notes by Hiroaki Furusho" https://wacoffee.blogspot.com/
Grading is based on 50 percent of the regular grade and 50 percent of the test (or report), for a total of 100 percent.
Students will receive a regular grade based on their level of concentration, participation, and progress in the lecture.
A 60-minute final exam will be given during the last class period of this course. Students may bring textbooks and notebooks for the exam, but no electronic devices such as smartphones or personal computers unless there are special circumstances. Details will be explained in class.

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄　浩明

授業コード：A3113, A3856　｜　曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本考古学の歴史について理解することを目的とする。日本考古学がどのような学史をたどって成立してきたかを理解し、日本考古学の現状と課題を理解する。

【到達目標】
日本考古学の成り立ちを理解し、現在の考古学の学問的位置と状況について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は授業中および学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムで行う。授業では資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」（https://wacoffee.blogspot.com/）からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。プリントを授業中に配布する場合もある。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	近代以前の考古学	考古学以前
	近代日本考古学の誕生	大森貝塚とモース
第 3 回	民族論	コロボックルと先住民族
第 4 回	実証主義の萌芽	層位学 弥生土器の発見 古墳時代
第 5 回	大正時代の考古学	鳥居龍蔵 喜田貞吉
第 6 回	型式学のはじまり	濱田耕作 松本彦七郎
第 7 回	実証的研究	加曽利貝塚 姥山貝塚
第 8 回	旧石器論争	国府遺跡 直良信夫と明石原人
第 9 回	弥生文化の研究	様式論
第 10 回	科学的歴史研究	ひだびと論争 社会構成体論
第 11 回	縄文土器と弥生土器の編年研究	山内清男 森本六爾
第 12 回	戦後の日本考古学	岩宿遺跡と登呂遺跡 相沢忠洋
第 13 回	ニューアーケオロジー（プロセス考古学）と考古学の現在	ルイス・ビンフォード
第 14 回	総括 期末試験（60 分）	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料やノート・参考書等をよく読み、各時代の研究の流れを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
勅使河原彰 1995『日本考古学の歩み』名著出版
古庄浩明 2013『「日本」のはじまり－考古学から見た原始・古代』和出版
Hiroaki FURUSHO 2022『Beginning of Japan』kindle

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 %とし、期末試験による評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料やノートをよく読み、時代背景も鑑みて学史を理解してほしい。現代の学史的解釈だけではなく、できるだけその時代の論文や図録を使って、当時の研究者の文章や図版に触れ、時代背景とともに解説するようにした。

【学生が準備すべき機器他】
ネット環境とディバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to understand the history of Japanese archaeology. To understand how Japanese archaeology has been established through its academic history, and to understand the current status and issues of Japanese archaeology.
Understand the origins of Japanese archaeology and be able to explain the current academic position and status of archaeology.
Classes will be conducted in lecture format. On-demand lectures may be given depending on the situation. Distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be conducted in class and through the learning support system. Specifically, students will be asked to submit assignments to the learning support system, and feedback will be sent back to each student via the learning support system. Questions and answers will be provided in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (https://wacoffee.blogspot.com/). They are protected, and the protection key will be provided in class. Printed materials may be distributed in class. Students are required to submit a small report after each class.
Students should carefully read the distributed materials, notes, and reference books to understand the flow of research in each period.
Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅰ

松本　剣志郎

授業コード：A3124　｜　曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世史研究において、くずし字の解読能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】
①くずし字の読解能力を身につける。
②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で解読に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書解読入門	近世史料学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】
本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.　Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅱ

松本　剣志郎

授業コード：A3125　｜　曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】
①くずし字を解読することができる。
②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は日本近世史料学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ペリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
筆の動きをみることが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】
本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本考古学演習

小倉　淳一

授業コード：A3128　｜　曜日・時限：月 4/Mon.4
年間授業/Yearly・4 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】
2 年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。
3 年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、リポートの研究発表も実施する。
毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。
レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第 2 回	論文講読発表（1）	文献解題と討論（1）
第 3 回	論文講読発表（2）	文献解題と討論（2）
第 4 回	論文講読発表（3）	文献解題と討論（3）
第 5 回	論文講読発表（4）	文献解題と討論（4）
第 6 回	論文講読発表（5）	文献解題と討論（5）
第 7 回	研究発表（1）	卒業論文に関連する研究発表（1）
第 8 回	研究発表（2）	卒業論文に関連する研究発表（2）
第 9 回	研究発表（3）	卒業論文に関連する研究発表（3）
第 10 回	論文講読発表（6）	文献解題と討論（6）
第 11 回	論文講読発表（7）	文献解題と討論（7）
第 12 回	論文講読発表（8）	文献解題と討論（8）
第 13 回	論文講読発表（9）	文献解題と討論（9）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
第 15 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
第 16 回	論文講読発表（10）	文献解題と討論（10）
第 17 回	論文講読発表（11）	文献解題と討論（11）
第 18 回	論文講読発表（12）	文献解題と討論（12）
第 19 回	論文講読発表（13）	文献解題と討論（13）
第 20 回	論文講読発表（14）	文献解題と討論（14）
第 21 回	研究発表（4）	卒業論文に関連する研究発表（4）
第 22 回	研究発表（5）	卒業論文に関連する研究発表（5）
第 23 回	研究発表（6）	卒業論文に関連する研究発表（6）
第 24 回	論文講読発表（15）	文献解題と討論（15）
第 25 回	論文講読発表（16）	文献解題と討論（16）
第 26 回	論文講読発表（17）	文献解題と討論（17）
第 27 回	論文講読発表（18）	文献解題と討論（18）
第 28 回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）、コリン・レンフルー，ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学　理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2 年生から 4 年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.
The new students will be able to read and understand archaeological papers, explain their findings to others, and participate in discussions. They will also be able to understand the scope of archaeology and its research methods.
Advanced students will be able to explain technical papers on archaeology, examine them based on their own points of view and awareness of the issues, and lead discussions. In addition, students will be able to acquire themes and practical methods for writing graduation theses, and to give presentations on their research concepts.
The standard preparation and review time by students is 2 hours each.
The final grade will be calculated based on the mid-term report and final report (30%), and the presentation and questions (70%).

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄　浩明

授業コード：A3152, A3855　｜　曜日・時限：月 2/Mon.2
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】
日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックは学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムを利用して行う。授業には資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」（https://wacoffee.blogspot.com/）から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。
毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	考古学とは何でしょう	考古学の定義
第 2 回	世界考古学の大まかな歴史	世界考古学史
第 3 回	日本考古学の大まかな歴史	日本考古学史
第 4 回	考古学の資料収集 1	遺跡の発見
第 5 回	考古学の資料収集 2	遺跡の発掘
第 6 回	何が残っているか	考古資料とその種類
第 7 回	時代決定法 1	層位学
第 8 回	時代決定法 2	型式学
第 9 回	科学的年代測定法	放射性炭素年代測定法 年輪年代測定法 磁気年代測定法
第 10 回	分布論 1	ミクロの研究
第 11 回	分布論 2	マクロの研究
第 12 回	製作技法	石器の製作技法 土器の製作技法
第 13 回	用途論 遺跡の保存	機能と用途 遺跡保存の実例 文化財保護
第 14 回	授業の総括	期末テスト 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、教科書・参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古庄浩明 2021『第 2 版　考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020　定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 %とし、期末試験による評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】
ネット環境とディバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.
To be able to explain the process of academic development of archaeology, especially in Japan.
To be able to understand the process of development of archaeological methods.
To be able to understand the relationship between archaeology and related sciences.
Students will understand the methods and ideas of archaeology mainly from the perspective of academic history, and consider the broad historical picture that can be assembled from material culture.
The class will be conducted in a face-to-face lecture format. The class may be conducted on-demand depending on the situation. The distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be done through the learning support system and other means. Specifically, students will be asked to submit assignments to the Learning Support Office system, and feedback will be sent back to each student via the Learning Support System. Questions and answers to them will be given in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (https://wacoffee.blogspot.com/). They are protected, and the protection key will be provided in class.
Students will be asked to submit a small report after each class.
50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.
An internet environment and a terminal (computer, smart phone, pad, etc.) are required. I will use a learning support system or other means to distribute materials and submit assignments.

GEO200BF

地球科学概論Ⅰ

宍倉　正展

授業コード：A3412　｜　曜日・時限：火 3/Tue.3
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：1〜4 年
備考（履修条件等）：「地球科学概論Ⅰ」の受講者は原則として秋学期授業/Fall の「地球科学概論Ⅱ」も連続して受講し、1年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか，またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し，地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】
我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から宇宙や地球，地震，火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】
西本昌司「改訂新版　地球のはじまりからダイジェスト–地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊 次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容　戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】
この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 80 名程度とし、第 1 回の授業において 80 名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、合否は第 2 回授業までに教員より連絡する。
また地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.
[Learning Objective]
The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policies]
1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

宍倉　正展

授業コード：A3413　｜　曜日・時限：火 3/Tue.3
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：1〜4 年
備考（履修条件等）：**この授業は原則として春学期授業/Spring の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球表層の気圏，水圏・地圏それぞれで生じる現象は，我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】
我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 8 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 9 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 10 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第 11 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第 12 回	侵食と堆積 3	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。
第 13 回	グループワーク（気象災害）	水害や土砂災害など気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 14 回	防災教育と地球科学	地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】
杉村　新「大地の動きを探る」岩波書店
https://www.iwanami.co.jp/.BOOKS/11/7/1151980.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション　災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】
この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Phenomena occurring in the aerosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.
[Learning Objective]
The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.
[Learning activities outside of classroom]
Students are expected to collect information on recent topics related to tsunamis, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policies]
1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO300BF

地質・岩石学及び実験

宇津川　喬子

授業コード：A3416　｜　曜日・時限：月 2/Mon.2
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地質学の中でも岩石学と堆積学に関する基本的な知識や理論について体系的に学ぶ。

【到達目標】
1）地球科学の基礎を岩石学や堆積学と関連づけて理解し、自分の言葉で説明することができる
2）岩石の成因やその理論の基礎を理解し、岩石の種類をおおよそ判別することができる
3）堆積学の基礎を理解し、堆積構造からおおよその堆積環境を推定することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めつつ、授業内で標本観察やスケッチ等の簡単な実習・実験作業を授業内課題として行う。課題へのフィードバックは次回の授業で行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・導入：映像から捉える地質学	授業概要と注意事項
第 2 回	地質学史	地質学の歴史（一部，英文テキストを用いる）
第 3 回	鉱物	鉱物の基礎（結晶系や造岩鉱物）
第 4 回	マグマと火成岩	火成岩の成因と種類
第 5 回	続成作用と堆積岩	堆積岩の形成過程と種類
第 6 回	変成作用と変成岩	変成岩の形成過程と種類
第 7 回	日本列島と地質図	日本列島の地質，地質図の読み方
第 8 回	岩石の利用と社会	身の回りの石材利用
第 9 回	堆積学の基礎	堆積物とは，堆積学の基礎用語
第 10 回	陸域〜河口の堆積学	陸域〜河口の堆積構造
第 11 回	浅海〜深海の堆積学	浅海〜深海の堆積構造
第 12 回	シークェンス層序学	気候変動を堆積学的に捉える
第 13 回	地層観察実習	大学近隣で，あるいは剥ぎ取り標本を用いた地層観察
第 14 回	偏光顕微鏡実習	偏光顕微鏡の使い方，岩石剥片

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
岩石学や地質学を中心とした地質学や地球科学をめぐる動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない（適宜レジュメを配布）

【参考書】
主要な参考書は以下の通り．その他にも授業中に適宜紹介する．
黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と岩石鉱物　第 2 版』1983 年．共立出版．
日本堆積学会監修・伊藤 慎総編集『フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界』2022 年．朝倉書店．

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、レポート（30 %）、授業内課題（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
This course focuses on the basis knowledge of Petrology and Sedimentology in Geology.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A) understand the basics of Earth Science in relation to Petrology and Sedimentology, and be able to explain them in own words,
− B) understand the origin of rocks and the basics of their theory, and be able to roughly distinguish the type of rocks,
− C) understand the basics of Sedimentology, and be able to roughly estimate the sedimentary environment from the sedimentary structure.
Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the quality of the student's performance and presentation (20%) , report (30%) and short tasks (50%).

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅰ

山口　隆子

授業コード：A3422　｜　曜日・時限：水 1/Wed.1
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学　第 4 版』．古今書院, 144p．￥2,600 ＋税
今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる! 世界の気候と天気のしくみ』．産業編集センター，208p．￥1,600 ＋税
稲津　將（2022）：『気象学の教科書』．成山堂書店，203p．￥2,200 ＋税

【成績評価の方法と基準】
小テスト・筆記試験： 70 %、課題： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を２年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。なお、実験等があるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.
The goals of this course are to understand atmospheric phenomena from a climatological perspective.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena.
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口　隆子

授業コード：A3423　｜　曜日・時限：水 1/Wed.1
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学　第 4 版』．古今書院，144p．￥2,600 ＋税
今井明子（2022）：『面白いほどスッキリわかる! 世界の気候と天気のしくみ』．産業編集センター，208p．￥1,600 ＋税
稲津　將（2022）：『気象学の教科書』．成山堂書店，203p．￥2,200 ＋税

【成績評価の方法と基準】
小テスト・筆記試験： 70 %、課題： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。履修選抜は本科目「Ⅰ」の初回授業（4 月 1 回目）で実施する。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.
The goals of this course are to understand today's issues such as global warming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In addition to daily weather forecasts, please consciously seek out information about climate and weather, including seasonal phenomena. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(30%), and term-end examination(70%).

GEO400BF

自然地理学演習（1）

山口　隆子

授業コード：A3434　｜　曜日・時限：木 4/Thu.4
年間授業/Yearly・4 単位　｜　配当年次：3〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。３年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。４年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】
本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあって、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生を中心に運営していきます。４年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取組んでいくとともに、３年生にアドバイスすることを通して、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第１回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に研究室で指導を行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	１年間のゼミ運営について説明・決定
第 2 回	卒論構想発表	４年生の卒論構想発表
第 3 回	卒論構想発表	４年生の卒論構想発表
第 4 回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第 5 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 6 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 7 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 8 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 9 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 10 回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第 11 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 12 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 13 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 14 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 15 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 16 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 17 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 18 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 19 回	グループ発表	グループごとに中間発表
第 20 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 21 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 22 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 23 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 24 回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第 25 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 26 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 27 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 28 回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、２週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3 もしくは A4　1 枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】
泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』. 古今書院，120 p.

【成績評価の方法と基準】
ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」（30 %)、「討論への参加と応答」（30 %)、「発表内容」（40 %）などを重視します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションの時間を増やします。

【その他の重要事項】
地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline (in English)】
Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment.　Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.
The aim and positioning of this seminar is to enhance each student's ability to think and be creative through the exchange of opinions and presentations in a small group, unlike a mere lecture course in the learning environment of a university. In addition, the ultimate goal is to complete an original "graduation thesis" and obtain a bachelor's degree.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Each student or group is expected to prepare for the exercises in each class. Students are expected to decide and submit their papers at least two weeks prior to the presentation/introduction.
Final grade will be calculated according to the following process presentation(50%), and Discussion(50%).

GEO300BF

自然地理学特講（3）

丸本　美紀

授業コード：A3453　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、気候変動と日本の気象災害の歴史について扱います。特に、日本の奈良・平安時代にあたる中世気候異常期と現在深刻さを増している地球温暖化を取り上げ、これらの２つの温暖化の時代の気象災害について、地理学の観点から学んでいきます。また、これらを通して、地理学における役割についても考えていきます。

【到達目標】
１．気候変動と日本の気象災害の歴史について理解することができる。
２．地球温暖化に対して、どのような気象災害が起こるのかを予測し、行動することができる。
３．地理学、気候学の理解に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
初回はオンライン、2 回目以降は対面で行う予定です。パワーポイントと配布資料で講義を行い、各回ミニレポートを授業内に提出してもらいます。提出してもらったミニレポートは翌授業以降にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要紹介 地理学における気候学の視点
第 2 回	気候の構造	気候のスケールと複合構造 気象災害の構造、モデル
第 3 回	気候変動の歴史	気候変動の歴史と気候の復元方法
第 4 回	歴史時代の気候	中世気候異常期（MCA）の特徴
第 5 回	日本の歴史時代の気候①	奈良・平安時代の気象災害と瀬戸内気候
第 6 回	日本の歴史時代の気候②	奈良時代の干ばつと奈良の自然環境
第 7 回	日本の歴史時代の気候③	平安時代の大雨・洪水害と京都の自然環境
第 8 回	歴史時代の気候④	貞観時代の自然災害と人びとの生活
第 9 回	地球温暖化	地球温暖化の現状とメカニズム
第 10 回	地球温暖化と極端現象①	地球温暖化と猛暑
第 11 回	地球温暖化と極端現象②	地球温暖化と集中豪雨
第 12 回	地球温暖化と極端現象③	地球温暖化と台風
第 13 回	地球温暖化のその他への影響	地球温暖化と都市気候
第 14 回	まとめ	気候変動と気象災害についてまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】
各回の講義内で紹介します

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 60 %＋ミニレポート（平常点）40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
防災士の資格を生かして、防災の観点も取り入れて授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】
This course deals with climate change and climatic disasters in Japan. And we will consider the significance of climatology in geography.
At the end of the course, students are expected to understand histories of climate change and climatic disasters in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and short reports in each class(40%).

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅰ

菅　富美男

授業コード：A3461　｜　曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅰ」を履修する場合は、「測量学及び測量実習Ⅱ」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である．位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である．この授業では，測量に関する基礎理論を学ぶとともに，実習を行い，測量の基礎的技術の習得を目指す．特に，測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う．

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する．測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる．距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
測量法及び測量の資格と社会との関係，測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義，測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習，測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う．教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ．測量結果に基づき計算を行い，最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する．
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び講義中に適宜，講評・解説を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	測量とは	写真測量や地図作成・編集を含む測量の概要と歴史について講義する
第 2 回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格，法律に定められた作業規程について講義する
第 3 回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ，形と測量の原理について講義する
第 4 回	誤差の種類	誤差の種類と対処方法について講義する
第 5 回	最確値の計算法	誤差を除去し最も確からしい値を計算する方法の計算実習を行う
第 6 回	各種測量とその原理	角測量，距離測量，GPS 測量，トータルステーションを用いた測量，簡易測量の原理と方法について講義する
第 7 回	水準測量の原理	水準測量の原理，使用する機器について講義する
第 8 回	水準測量の機器の使用方法	レベルの使用方法を習得する
第 9 回	水準測量の観測方法	観測方法の習得と観測方法による誤差の除去方法を学ぶ
第 10 回	水準測量の往路観測	構内において水準測量の往路の観測実習を行う
第 11 回	水準測量の復路観測と観測値の点検方法	構内において水準測量の復路の観測実習及び観測値の点検方法を習得する
第 12 回	水準測量の観測データの整理法	観測データの整理方法について講義する
第 13 回	水準測量実習データを用いたデータ整理	実習で行った観測データの整理する
第 14 回	標高の最確値の計算	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等を計算する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂第３版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量　第２版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度 (30%) を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅰを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅱも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅰだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．
また，使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．また，測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する．
コロナ感染症拡大状況次第によって，授業がオンライン実施に変更となった場合は，Zoom を使用してリアルタイムで実施する．なお，実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする．

【Outline (in English)】
This course introduces land surveying, that is the method used to get geo-spacial information regarding position, especially focusing on levelling survey.
In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports and the results of practices:　50%、in class contribution: 50%.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅱ

菅　富美男

授業コード：A3462　｜　曜日・時限：金 4/Fri.4
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
備考（履修条件等）：「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は、「測量学及び測量実習Ⅰ」も同時に履修すること。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き，測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い，測量に関する基礎的技術の習得を目指す．特に，トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量である GNSS 測量を中心に講義・実習する．

【到達目標】
基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる．GNSS 測量の原理，方法を理解できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び，実習を行う．実習で得られたデータに基づいて誤差処理，計算を行う．また，GNSS 測量などについても簡単な実習を行う．この授業では，教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせて測量の方法について学ぶ．
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第 2 回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第 3 回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第 4 回	基準点測量の観測 1	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第 5 回	基準点測量の観測 2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第 6 回	基準点測量の実習 1	構内においてトータルステーションを用いた観測点 1 の観測を実習する
第 7 回	基準点測量の実習 2	構内においてトータルステーションを用いた観測点 2 の観測を実習する
第 8 回	基準点測量の実習 3	構内においてトータルステーションを用いた観測点 3 の観測を実習する
第 9 回	基準点測量データの処理 1	観測データ整理を行う
第 10 回	基準点測量データの処理 2	距離補正計算を行う
第 11 回	基準点測量データの処理 3	標高計算を行う
第 12 回	基準点測量データの処理 4	座標計算を行う
第 13 回	GNSS 測量 1	GNSS 測量の原理及び測量について講義する
第 14 回	GNSS 測量 2	GNSS 受信機を用いてネットワーク型 RTK 測量を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．また，授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までに各自終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂第３版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程　TS-GPS による基準点測量　三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度 (30%) を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．
また，使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．
また，測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓（度分秒単位の 60 進法の角度入力による三角関数の使用ができる機種を推奨。スマートフォンなどの標準の関数電卓にはない機能なので対応アプリを導入するなど注意）および直定規を必ず持参すること．三角関数を用いた計算を行う．

【その他の重要事項】
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する．
コロナ感染症拡大状況次第によって，授業がオンライン実施に変更となった場合は，Zoom を使用してリアルタイムで実施する．なお，実習についてはサンプルデータを使用した測量計算の演習とする．

【Outline (in English)】
In succession of [surveying and survey training Ⅰ], this course introduces land surveying, especially focusing on the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end reports and the results of practices: 50%、in class contribution: 50%.

GEO100BF

地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）

加藤　美雄

授業コード：A3511　｜　曜日・時限：火 3/Tue.3
秋学期授業/Fall・1 単位　｜　配当年次：1〜4（2023 年度以降入学者は 2〜4）年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の１つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】
次の３つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行なう。
授業内容の１例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。
気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、１〜３回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。
なお、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第 2 回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第 3 回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第 4 回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第 5 回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第 6 回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第 7 回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第 8 回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第 9 回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第 10 回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第 11 回	アイソプレスの作成	２次元上での３変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第 12 回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成し、考察する。
第 13 回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第 14 回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。
テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編　気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習してくることで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
地理調査法（自然編）. 東郷正美・佐藤典人・ 井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】
実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。
評価の配分は、各実習課題の報告物が 70 %、平常点が 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】
実験・実習には、色鉛筆（12 色程度の硬質が望ましい）、定規（15〜30 ㎝程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】
講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールで受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。
実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので充分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。
観測や作業は２〜３人１組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので充分に注意すること。
なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。
本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、天気などを分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】
Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.
The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.
The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.
The following three goals are to be achieved.
To acquire the knowledge for understanding natural phenomenons by creating charts which are used in studies of climatology.
To acquire the skills to express the results of observational surveys conducted in climatological research.
To develop the required attitude to engage in observation practice, such as cooperating with co-observers to ensure successful observations and obtaining accurate data.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 70%、in Class Participation: 30%

EDU200BF

理科教育法（1）

狩野　真規

授業コード：A3527　｜　曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】
教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらうし、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第 2 回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 5 回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第 6 回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第 7 回	中学理科の科目研究・その 1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第 8 回	中学理科の科目研究・その 2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第 9 回	中学理科の科目研究・その 3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。また、ICT 教育に関する内容について、文科省の動画などを通じて考えていく。
第 10 回	中学理科の科目研究・その 4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第 11 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第 12 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 1 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第 13 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の実践(第 2 回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。
第 14 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の実践(第 3 回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
基本的には各回ごとに課題等に取り組んでもらうので、それらの客観評価で 50%、期末に実施してもらう模擬授業で 50%とする。特に模擬授業については受講者同士の相互評価も実施し、担当教員と受講者同士の相互評価で 25%ずつの割合で評価する予定である（ただし、受講者の人数によってはその限りとはならないこともある）。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているので、検討してみたい。

【学生が準備すべき機器他】
事態が変化すれば、オンラインに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppii については必ず利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

【Outline (in English)】
The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(15%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（2）

狩野　真規

授業コード：A3528　｜　曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT 教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第 2 回	地学分野の発展的学習内容について（1）	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第 3 回	地学分野の発展的学習内容について（2）	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第 4 回	地学分野の発展的学習内容について（3）	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR 図を中心に天文の話題をみていく。
第 5 回	地学分野の発展的学習内容について（4）	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの 3 法則について扱っていく。
第 6 回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業出席に伴う要素（議論への参加姿勢などで 20%）、授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）と模擬授業の内容 (25%)、模擬授業についての他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii は必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline (in English)】
The main aim is to acquire the ability to teach science as a subject, but the goal to be achieved is, in conjunction with grasping the overall purpose and contents of the science curriculum guidelines in junior high school and high school, to learn how to design lesson plans that presume various classroom situations.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（3）

狩野　真規

授業コード：A3530　｜　曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。また、ICT 教育の導入についても担当教員の実践例などを紹介しつつ、考えていく。
第 2 回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 5 回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第 6 回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第 7 回	中学理科の発展的学習・その 1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 8 回	中学理科の発展的学習・その 2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 9 回	中学理科の発展的学習・その 3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 10 回	中学理科の発展的学習・その 4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 11 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 1 回)	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 12 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 2 回)	生徒の実態 (認識力・思考力・学力など) に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 13 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 3 回)	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第 14 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 4 回)	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。
また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法（1）及び同（2）の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同（1）〜（4）の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】
The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

EDU200BF

理科教育法（4）

狩野　真規

授業コード：A3531　｜　曜日・時限：月 4/Mon.4
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第 2 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ ICT 教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第 3 回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第 4 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第 5 回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第 6 回	SSH について	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール (SSH) について、その取り組みから実態を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対処法を考える。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。
また本科目は発展的内容を主とする科目であることから理科教育法（1）及び同（2）の履修を済ませている、ないしは履修中であることが望ましい科目であるので、同（1）〜（4）の履修の順についてはよく考えるように。

【Outline (in English)】
The students not only will understand the goals and contents of the guidelines of science curriculum in junior high school and high school but will also acquire the knowledge and abilities necessary for providing practical guidance of the subject in the educational settings. Specifically, the students will acquire teaching methods for science courses in the educational settings through the creation of learning guidance plans and plans for board writings, the use of ICT equipment, and by studying the teaching materials for lesson plans that incorporate active learning.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).
Learning activities outside of classroom:In preparations learning, the review time for this class, I assume for each two hours a standard.
The teaching materials study is necessary for contents.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class attendance and attitude in class(20%)
Reports and tests (15%)
Teaching plan (25%)
Contents of the simulated class(25%)
Mutual evaluations between the student attending a lectures for the simulated class(15%)

PSY100BG

脳の科学

高橋　敏治

授業コード：A3619　｜　曜日・時限：木 5/Thu.5
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：1〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
神経伝達物質から脳の高次脳機能まで，心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし，心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や，認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】
健康や臨床との関わりの中で，脳の役割の重要性を説明できるようにします。心，身体，自律神経，脳の各部位がそれぞれどのように結びつき，どのように反応するのかを概略し，説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖，脳の生理的な働き，神経細胞の機能，最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では，初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り，新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます。授業内で行った試験，課題の模範解答や主な質疑応答は授業内でできる限り紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史，授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉，頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉，側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳，橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳，延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能，構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害，ストレス障害，統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み，ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り，脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説，グリンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 2 回〜14 回　達成度テストで成果を確認するので復習してください。
数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】
リタ・カーター（著） 養老孟司 (監修)（2022）ブレインブック (原書第 3 版) みえる脳　南江堂

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い，復習します．また期末に試験を行い，評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】
91 人の受講者のうち 30 名から回答者を頂きました。授業の工夫では 4-5 の段階が、75 %近くの評価でした。毎回課題を課しましたが、課外学習時間はほとんど行っていなかった人が 25 %と多く認められました。自由記述では、「脳に関するビデオを見た授業は興味深かった。今後も脳に関する動画を見たりできると嬉しい。」「他の学部だったら学ぶ機会がなかなかなかった内容だったのでとても面白かったです。」、「脳については難解なイメージがあったが、想像以上に面白くてさらに興味が湧いた」「脳の機能や役割について基礎的なところを学ぶことが出来て面白かった。」「実際に経験された患者さんの例やご自身の研究などに言及してくださって、とても興味深いお話で勉強になりました。」などのコメントの一方で、「5 限だとお腹が空くので 5 限より前の時間にしてほしい。」「学生同士のディスカッションがあると嬉しい。」「心理学とのかかわりがなど具体的なイメージがしにくく、何のために聞いているのか見失うことがあった。」のコメントも寄せられました。脳についてはこの授業で初めて接する専門用語が多く、知識内容も多く取りつき難かったかもしれません。少しでも復習などに役立つように達成度テスト、Hoppii への録画の掲載などを行っています。最後の授業で、脳の科学と他の心理学の科目の関連について触れました。もう少し講義形式を少なくし、友達とのディスカッションや動画視聴などを多くします。時限については、なかなか他の科目の関係や大学の方針で受講生の多い科目の教室をとるのが難しいのですが、検討してみます。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を使用して，パワーポイントを使用します．学習支援システムを利用して，授業内配布のプリントや資料を掲載します。また，学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメイルを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】
【重要】初回の授業には必ず出席して下さい。
実施の順序については変更することがあるため，学習支援システムや授業の中で案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】Web 上の【在学生用】文学部授業関連情報まとめ内，3. 授業関係の 02. オフィス・アワーをご覧下さい。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし，脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline (in English)】
From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.
To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation each class .on to health and clinical practice.
It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.
Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY300BG

研究法Ⅰ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3643　｜　曜日・時限：水 2/Wed.2
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒論を含めた心理学研究の方法（問題提起，目的・仮説設定，方法，統計分析，結果の表示，考察の仕方など）について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

【到達目標】
教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し，できるだけ早い時期に研究テーマを設定し，実際の調査や実験を行い，論文の執筆に結び付けられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい，それを討論するということを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて，自分の考えを整理して，そこで提出されたコメントを参考にしながら，客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また，質問紙や実験方法の作成，実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。授業時間内に，必ず質疑応答の時間を設け，生じた疑問や問題を討論します。発表後には，振り返りレポートを提出してもらい，疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究計画発表【1-1】	順番を決めた上で各自の計画の検討 1
第 3 回	研究計画発表【1-2】	順番を決めた上で各自の計画の検討 2
第 4 回	研究計画発表【1-3】	順番を決めた上で各自の計画の検討 3
第 5 回	研究計画発表【1-4】	順番を決めた上で各自の計画の検討 4
第 6 回	研究計画吟味 1	予備研究の実施 1
第 7 回	研究計画吟味 2	予備研究の実施 2
第 8 回	研究計画吟味 3	予備研究の実施 3
第 9 回	研究計画発表【2-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 10 回	研究計画発表【2-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 11 回	研究計画発表【2-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 12 回	研究計画発表【2-4】	順番を決めた上で計画の吟味検討 4
第 13 回	研究計画実施 1	手順や方法の確立
第 14 回	研究計画実施 2 総括・まとめ	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 1
第 2 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回　予備研究の実施要領作成
第 6 回　予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
第 7 回　予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
第 8 回　予備研究実施による問題点のレポート作成
第 9 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成
第 10 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 11 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 12 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 13 回　研究計画の手順や方法のレポート作成
第 14 回　研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成
卒論問題提起を夏休み前に完成し提出

【テキスト（教科書）】
特に，テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %），発表（40 %），レポート課題（20%）によって総合的に評価します。発表については，発表原稿だけでなく，発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ，発表後に振り返りレポートとして提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
15 名の受講者中 1 名の回答を頂きました。新型コロナの流行の問題がありますが、もっと交流する機会や時間を設けることを検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC，パワーポイントを使用しますので，ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます。授業支援システムを利用して，資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメイルを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席して下さい。
【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は，必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また，卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は，必ず精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わってきています。この経験を生かし，一緒に考えていきます。

【Outline (in English)】
We will study psychology research methods (raising questions, setting purpose/hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).
The goals of this course are to set research themes at an early stage through free and lively discussions between the teacher and students and to like them to the writing of dissertations.
It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.
The final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY300BG

研究法Ⅱ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3651　｜　曜日・時限：水 2/Wed.2
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：3〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに，卒業研究を実施する上での必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を，ゼミ形式で検討します。

【到達目標】
実際の調査や実験を行い，論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。まとめに至る段階で何回か，議論し，修正し，卒論を準備します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい，それを討論するということを繰り返します。 各自の発表の準備および実際の発表を通じて，自分の考えを整理して，そこで提出されたコメントを参考にしながら，客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。 また，質問紙の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。授業時間内に，必ず質疑応答の時間を設け，生じた疑問や問題を討論します。発表後には，振り返りレポートを提出してもらい，疑問点などを次回以降の授業内でフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 3 回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 4 回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 5 回	データ整理	Excel の使い方、データの扱い方など
第 6 回	研究相談 1	問題点や疑問点の整理
第 7 回	データ処理	データ処理，統計分析など
第 8 回	研究相談 2	問題点や疑問点の整理
第 9 回	図表のまとめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第 10 回	研究相談 3	論文の記載上の問題
第 11 回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 12 回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2，卒論仮提出
第 13 回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 14 回	よく見かける論文記載上の間違い（実例） 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　3 回目研究発表の原稿作成 1
第 2 回　3 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回　3 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回　3 回目研究発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回　卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成 1
第 6 回　卒論データの統計上の問題点レポート作成
第 7 回　卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
第 8 回　卒論図表作成上の問題点レポート作成
第 9 回　卒論作成上の問題点レポート作成 1
第 10 回　4 回目研究発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 11 回　4 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 12 回　4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 13 回　4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 14 回　卒論仮提出用原稿修正版の作成
　　要旨原稿の作成

【テキスト（教科書）】
特に，テキストは用いません。 各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %），発表（40 %），レポート課題（20%）によって総合的に評価します。 発表については，発表原稿だけでなく，発表時に議論された問題点や修正点を反映した振り返りレポートとして，それを提出して下さい。必要に応じて，次の授業で議論します。

【学生の意見等からの気づき】
15 名の受講者中 2 名から回答を頂きました。4-5 の段階は授業の工夫ではほとんどがここに回答してくれていました。授業外学習は週 3 時間以上の人がほとんどでした。3 年は卒論の準備、4 年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を別々に進行しました。自由記述では、「大変でしたがとてもやりがいのあるゼミでした！」のコメントがありました。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC，パワーポイントを使用しますので，ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます。授業支援システムを利用して，資料配布やお知らせします. 必ずファイルが添付できるメイルを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席して下さい。
【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は，生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また，卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は，精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かして，一緒に考えて行きます。

【Outline (in English)】
Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.
Lively discussions will be held on problems and corrections based on actual survey and experimental data. Discuss and modify it many times to complete your bachelor thesis.
It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (40%), presentations (40%), and reports (20%).

PSY200BG

精神生理学特講

高橋　敏治

授業コード：A3659　｜　曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。専門医として臨床経験を活かし，睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます。

【到達目標】
健康や臨床との関わりの中で，睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学的領域の研究を再現し，論文作成に活用できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら，精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら，睡眠の基礎から，睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠，過眠，リズム障害をキーワードにして，24 時間社会の問題点を最新の論文，トピックスなどから取り上げます。授業内で行った試験，課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第 2 回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM 睡眠・NREM 睡眠の違い
第 3 回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第 4 回	睡眠測定法 1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第 5 回	睡眠測定法 2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際
第 6 回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第 7 回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）
第 8 回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第 9 回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第 10 回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第 11 回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当に REM 睡眠に関係するのか？
第 12 回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第 13 回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群，むずむず脚症候群，REM 睡眠行動障害など
第 14 回	睡眠とメンタルヘルス 総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　睡眠に関した精神生理学的基礎知識確認レポート作成
第 2 回〜第 10 回　授業内容で扱う睡眠全般に関関したレポート作成
第 11-13 回　期末レポートに関する質問や参考事項
第 14 回　期末試験（時期は授業内で指示）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いませんが，事前に文献・プリントを配布します。

【参考書】
堀忠雄（2008). 睡眠心理学　北大路書房
福田一彦，他 (2022). 心理学と睡眠　金子書房

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題提出を含む平常点（50 %），期末試験（50 %）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
20 人の受講者のうち 8 名から回答を頂きました。自由記述では、「毎回の、課題のフィードバック (得点) が知りたかったです。授業内容はとても面白く参加出来ました。」「hoppii に上がるファイル名を統一してほしいと感じました。」があり、課題のフィードバックや、授業のごとのファイルの統一した提示を心がけします。また、「一般的な睡眠の知識を学べただけでなく，自分自身の睡眠についても考え直すことができました。」「日常生活に活かしやすい授業内容で学んでよかったです。また資料に図が多く分かりやすかったです。」など、自分の生活習慣を見直すきっかけとしてくれた意見が多くありました。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンや学習支援システム（資料配布，課題提出，お知らせのため）を使用します。学習支援システムには，必ず普段よく使用するメイルを登録してください。

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】Web 上の【在学生用】文学部授業関連情報まとめ内，3. 授業関係の 02. オフィス・アワーをご覧下さい。
担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】
In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.
To be able to explain the importance of the role that sleep should play in daily life. It is to reproduce research in the field of psychophysiology so that it can be used for writing a article.
It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and final exmination(50%).

PSY200BG

言語心理学

菊池　理紗

授業コード：A3667　｜　曜日・時限：火 1/Tue.1
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，人間が「ことば」を使うときにどのような処理をしているのかについて，言語心理学・認知心理学・教育心理学などで培われた知見・考え方を理解することを目的とします。また，学んだことを踏み台に，どうすれば自分の「言語力」をさらに育てていけるのかを考えていきましょう。

【到達目標】
(1) 言語がどのように理解・産出されるのかを理解し，その概要を説明することができる。
(2) 言語がどのように発達するのかを理解し，その概要を説明することができる。
(3) 日常生活における経験を，授業で理解した考え方で捉え，適切な例を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義が中心で，適宜，近くの席の人とグループワークを行います。授業では，毎回，Hoppii を使った課題の提出と授業後の小テストへの解答を求めます。提出された課題や小テストについては，次の授業の最初に全体に向けてフィードバックを行います。また，教科書は毎時間使用しますので，必ず購入し，持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，「言語心理学」とは	授業の進め方および成績評価に関する説明，言語心理学の研究目的
第 2 回	コミュニケーションを考える	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション，コミュニケーションの難しさ
第 3 回	話し言葉の発達	子どもが話し言葉を身に着けていく様子
第 4 回	書き言葉の発達	子どもが書き言葉を身に着けていく様子
第 5 回	心的辞書とは 1	知識の多様性，単語の意味の構造
第 6 回	心的辞書とは 2	心的辞書の活用事例，単語の認知処理，頻度と親密度
第 7 回	文の理解	ガーデンパス理論，ワーキングメモリの働き
第 8 回	文章の理解 1	文章を読むときの認知プロセス，推論
第 9 回	文章の理解 2	文章の理解に影響するもの（スキーマ，スクリプト，視点）
第 10 回	文章の産出 1	文章を書くときの認知プロセス，書き言葉の特徴
第 11 回	文章の産出 2	コミュニケーションの中の文章，「伝える」文章を書くには
第 12 回	第二言語学習	第二言語学習に関する理論，第二言語学習過程
第 13 回	言語力の育成	「言語力」とは何か，書き言葉と話し言葉の違い，「言語力」を育てるには
第 14 回	期末テストと解説	期末テストの実施とその解説，授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，次の授業の内容に関連する簡単な課題を出します。Hoppii で解答を提出してください。その解答の提出と，教科書の関連ページを読んでくることが事前学習になります。
授業後には，Hoppii で授業内容に関する小テストを出題しますので，解答してください。また，第 14 回の試験に向けて，随時，教科書で学習を行ってください。
本授業の準備・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
福田由紀（編著）(2012)「言語心理学入門―言語力を育てる―」ISBN：978-4-563-05231-7，2,970 円（税込）

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出＋毎回の小テスト 20%，第 14 回の期末テスト 80%の合計点で評価します。なお，期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行います。期末テストでは，授業で紹介した内容だけでなく，自分で教科書を読んで学習する内容と，応用問題も出題します。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は Hoppii を通して行います。また，メモを取れるようにノートやルーズリーフを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】
質問は，授業の前後に直接話しに来るか，第 1 回の授業で伝える連絡先に連絡してください。

【実験参加へのお願い】
授業の前後に心理学の実験や調査の参加者を募集する学生が来ることがあります。授業で知識を学ぶだけでなく，他の人の実験や調査をぜひ積極的に体験してみてください。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to enable students to acquire knowledge of the Psychology of Language and relate it to their own daily life. Also, using what you have learned as a stepping stone, think about how you can further develop your own “language skills.” We will be using textbooks, so be sure to bring them with you to class. In the 14th class, there will be a final exam. In addition to working on preparation and review assignments, please study the contents of the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades are evaluated at 20% for submission of assignments and answers to quizzes, and 80% for final exams. If you are absent more than 5 times, no credit will be given.

PSY200BG

行動分析学特講

島宗　理

授業コード：A3669　｜　曜日・時限：木 3/Thu.3
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行動分析学は「人はなぜそのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード A3670）の上級コースとして，実験的行動分析学，応用行動分析学，理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し，掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って，人の複雑な行動を理解し，社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。

【到達目標】
以下の 3 つを目標とします。
(1) 発達，記憶，言語などに関する，人や動物の認知的な現象について，行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
(2) 日常生活における行動問題に対し，ABC 分析や AB 分析を駆使して，原因推定し，解決策を立案できるようになる。
(3) 日常場面における行動の測定，記録，データの視覚化，シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
発達臨床（自閉症や ADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。
授業に関する連絡，課題の配布，課題へのフィードバックは Google クラスで行います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom（Google クラス）： https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。
第 3 回	発達臨床 II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。
第 4 回	“理解” の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係フレーム理論。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。
第 7 回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。
第 9 回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。
第 10 回	“記憶” の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。
第 11 回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。
第 12 回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。
第 13 回	“動機づけ” の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。
第 14 回	まとめ	・学期を振り返り，質疑応答をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業中に取り組む課題を出します。授業時間では終わらなかった課題を，講義や参考書を参考にして，授業後に宿題として取り組んで下さい。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定するテキストはありません。

【参考書】
○『ワードマップ：応用行動分析学』島宗 理（著）2019 年 新曜社

【成績評価の方法と基準】
○授業参加（40%）および授業課題の遂行度（60 %）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生は少なかったですが，そのぶん色々な演習を時間をかけて実施でき，楽しかったという感想をいただきました。教科書を読んで学ぶ課題は負担が大きそうなので，来年度は減らし，授業中の演習にかける時間を増やします。

【その他の重要事項】
○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○ オフィスアワーは春学期，秋学期ともに火曜日の 2 限，場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students should be able to do the followings:
1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) interpret "cognition" as behaviors, and 4) read literature in behavior analysis.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).
【Grading Criteria /Policy】
Final grade in this class will be decided based on the following: Class particpiation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG

行動分析学

島宗　理

授業コード：A3670　｜　曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。
また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】
○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC 分析、AB 分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
○日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。
授業に関する連絡，課題の配布，課題へのフィードバックは Google クラスで行います。Google クラスの授業コードは学期開始時に学習支援システムで案内します。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom（Google クラス）： https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。
第 2 回	「問題」とは？ 心と行動の区別	・個人攻撃の罠について学びます。 ・じぶん実験の標的行動を決定します。
第 3 回	好子と嫌子	・生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第 4 回	強化と弱化	・基本的な行動随伴性について学びます。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第 5 回	課題分析	・標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第 6 回	シェイピング	・新しい行動レパートリーを教えるシェイピングの技法を学びます。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第 7 回	ABC 分析#1	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。
第 8 回	ABC 分析#2	・行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第 9 回	AB 分析#1	・オペラントとレスポンデントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。
第 10 回	AB 分析#2	・情動の条件づけや知覚学習について学びます。 ・じぶん実験で介入の効果を視覚化し、検証します。
第 11 回	ABC 分析#3	・ABC 分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第 12 回	観察法	・インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。 ・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。
第 13 回	行動分析学の実験計画法	・じぶん実験の結果を発表します。
第 14 回	まとめ	・授業で学んだ行動分析学の考え方を使って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、web クイズに取り組んで予習してきます。
最終回までに、行動分析学を用いた「じぶん実験」の演習に取り組み、レポートを提出します。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○『パフォーマンス・マネジメント―問題解決のための行動分析学― 第 2 版』島宗 理（著）2022 年 米田出版
*教科書は第 2 版を使います。ご注意ください。

【参考書】
○『使える行動分析学―じぶん実験のすすめ―』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房
○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか―素朴な疑問から考える「行動の原因」―』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
○『行動の基礎―豊かな人間理解のために―』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】
○課題の遂行度（60 %）およびテストの得点（40%）から成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「じぶん実験」の演習を復活させました。それぞれ色々なテーマに楽しみながら取り組めたようで嬉しかったです。ABC 分析をもっと学びたかったという声もいただきましたので，来年度は演習を少し増やします。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Google クラスへのアクセスや課題の作成、提出などに PC やスマホ/タブレットを多用します。

【その他の重要事項】
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期，秋学期ともに火曜日の 2 限，場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.
The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students should be able to do the followings:
1) focus on behaviors, 2) conduct ABC/AB analyses, and 3) measure target behaviors, and 4) visualize data.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 3 hours).
【Grading Criteria /Policy】
Final grade in this class will be decided based on the following: Class particpiation (40%) and task completion (60%).

PSY200BG

精神保健学 I

高橋　敏治

授業コード：A3685　｜　曜日・時限：火 6/Tue.6
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに，学生が知っておくべき臨床の知識，対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】
メンタルヘルスの基礎，重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律，実例を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また，どのような種類の異常な状態があるのかを，なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。適宜，視聴覚教材などを用います。できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説しきます。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験，課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	精神保健の基礎知識	ICD-10 と DSM-IV など診断基準，心理の正常異常
第 3 回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題（幼児，青年期，成人，老人）
第 4 回	精神保健主要症候学 1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第 5 回	精神保健主要症候学 2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第 6 回	精神保健主要症候学 3	意識のレベルの問題の種類（せん妄など）
第 7 回	精神保健主要症候学 4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第 8 回	自殺	自殺の種類，日本の現状や問題点，予防法
第 9 回	ターミナルケア	がん患者の心理，そのケアの方法
第 10 回	法律と精神保健	精神保健福祉法，触法精神障害の歴史や問題点
第 11 回	精神保健治療学総論 1	薬物療法の概観（種類，副作用など）
第 12 回	精神保健治療学総論 2	非薬物療法の概観（心理療法，リハビリテーション技法など）
第 13 回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第 14 回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
第 2 回　ICD と DSM による診断課題
第 3 回　達成度の確認（診断基準）
第 4 回　達成度の確認（ライフサイクル精神保健）
第 5 回　達成度の確認（幻覚妄想）
第 6 回　達成度の確認（気分）
第 7 回　達成度の確認（せん妄など）
第 8 回　達成度の確認（自殺）
第 9 回　達成度の確認（ターミナルケア ）
第 10 回　達成度の確認（精神保健福祉法）
第 11 回　達成度の確認（薬物療法の種類，副作用）
第 12 回　達成度の確認（心理療法など）
第 13 回　達成度の確認（リハビリテーション技法）
第 14 回　達成度の確認（春学期期全般）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
尾崎 紀夫 (2021). 標準精神医学 (第 7 版) 医学書院

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します。平常点（30 %）, 数回の課題レポート（20 %）, 期末試験（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年は開講時間を 3 限から 6 限に移したことで、受講者が 23 名に減りました。受講者のうち 5 名から回答を頂きました。自由記述では、「時々マイクを使わずに授業されていることがあり、聞き取りづらく困りました。」などがあり、この点は改善します。「ただ、授業資料がわかりやすかったので、おそらくついていくことはできたのかなと思います。」「専門的な内容にもかかわらず、自分ごととして聞けるように内容が組まれていて、受講していて面白かったです。」などの意見を頂きました。今後も、次回の授業の予習になるような課題や多種類のメデイアの活用などの工夫を継続して行きたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して, 授業内配布のプリントや資料を掲載します。また, 学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメイルを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります.
担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】
In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.
The goals of this course are to understand the importance of mental health and to be able to explain examples related to mental disorders.
It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contibution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG

精神保健学Ⅱ

高橋　敏治

授業コード：A3686　｜　曜日・時限：火 6/Tue.6
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では, いろいろな種類の精神障害を, 他の障害と比べながら, 症状の特徴, 治療法を学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに, 学生が知っておくべき臨床の知識, 対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】
メンタルヘルスの各論を通して, 人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が, どのような特徴を持ち, どのように診断を受けるのかを理解しながら, 精神保健の実態を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式です。適宜, 視聴覚教材を用い, 最新の知見を紹介します。春学期と同じく, できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したいと思います。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験，課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	症状性を含む器質性精神障害（F0-1）	脳の感染症, 外傷、身体障害時の精神症状
第 3 回	老人性器質性障害（F0-2）	アルツハイマー型, 脳血管性の痴呆
第 4 回	薬物使用による精神および行動の障害（F1-1）	大麻, 覚せい剤, 麻薬, コーヒー, ニコチンなど
第 5 回	アルコールによる精神および行動の障害（F1-2）	アルコール依存やその周辺の障害, 家族問題
第 6 回	統合失調症とその関連障害（F2-1）	統合失調症の歴史, 原因や診断の基準
第 7 回	統合失調症とその関連障害（F2-2）	統合失調症の症状や主な病型, 予後, 問題点
第 8 回	統合失調症とその関連障害（F2-3）	統合失調症の治療法（薬物療法, リハビリテーション）
第 9 回	気分障害とその関連障害（F3-1）	気分障害の症状（そうとうつ）, 病型, 原因
第 10 回	気分障害とその関連障害（F3-2）	気分障害の治療（薬物療法, 認知行動療法）
第 11 回	神経症障害, ストレス関連障害（F4）	ストレスに関連した病態の種類, 原因, 治療法
第 12 回	摂食障害と睡眠障害（F5）	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類, 原因
第 13 回	人格の障害（F6）	人格障害の歴史, 種類, 問題点
第 14 回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　精神保健学に関する基礎知識レポート作成
第 2 回　達成度の確認 (摂食障害)
第 3 回　達成度の確認（器質性精神障害）
第 4 回　達成度の確認（老人性痴呆）
第 5 回　達成度の確認（物質常用障害）
第 6 回　達成度の確認（アルコール精神障害）
第 7 回　達成度の確認（統合失調症 1）
第 8 回　達成度の確認（統合失調症 2）
第 9 回　達成度試験の勉強（統合失調症 3）
第 10 回　達成度の確認（気分障害 1）
第 11 回　達成度の確認（気分障害 2）
第 12 回　達成度の確認（ストレス関連障害）
第 13 回　達成度の確認（摂食障害と睡眠障害）
第 14 回　達成度の確認（人格障害および全体のまとめ）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
尾崎 紀夫 (2021). 標準精神医学 (第 7 版) 医学書院

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します。平常点（30 %, 数回の課題レポート（20 %）, 期末試験（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
15 名の受講者のうち 2 名から回答を頂きました。授業外の学習時間は 72 % の人が 1 時間から 3 時間実施していたようでした。この授業を履修してよかったかについては、ほとんどの人が大変良かったと回答してくれていました。自由コメントでは、「実際の体験談は、大変勉強になりました。」「実用的な知識を学ぶことが出来た。」などの一方で、「遅い時間すぎる」（6 限に実施）と開講時間の問題の意見も出されました。時限については、検討してみます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して, 授業内配布のプリントや資料を掲載します。また, 学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメイルを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】
初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援を用いて案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。
担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神神経学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline (in English)】
In this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn characteristics of symptoms and treatment.
The goals of this course is to be able to explain how to understand the mystery of human heart through various pathology of mental disorders.
It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.
Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (30%), several reports (20%), final examination (50%).

PSY200BG

犯罪心理学／心理学３（犯罪心理学）２

越智　啓太

授業コード：A3691, A2259　｜　曜日・時限：月 3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪者の行動を科学的に分析する
犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBI の捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

【到達目標】
(1) 犯罪についての科学的研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
(2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
(3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回 Hoppii でリアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時、あるいは掲示板内で追加解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第 2 回	連続殺人（1）	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第 3 回	連続殺人（2）	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第 4 回	連続殺人（3）	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第 5 回	大量殺人 (1)	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第 6 回	大量殺人（2）	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第 7 回	テロリズム（1）	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第 8 回	テロリズム（2）	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第 9 回	テロリズム（3）	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第 10 回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第 11 回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第 12 回	子どもに対する性犯罪（3）	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第 13 回	非行	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割、非行の原因に関する諸理論
第 14 回	司法心理学	離婚、養育権、ハーグ条約、子どもの面会交流、子どもの奪い合い裁判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ、テキスト（プログレスのほう）の該当する章の予習問題をやっておく。復習としては、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておく。授業とは別に課題の動画を視聴する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
越智啓太　ケースで学ぶ犯罪心理学　北大路書房
越智啓太　progress and application　司法犯罪心理学　サイエンス社

【参考書】
法と心理学会（編）　入門司法犯罪心理学　有斐閣
越智啓太ほか（編著）　法と心理学の事典　朝倉書店
越智啓太　ワードマップ　犯罪捜査の心理学　新曜社
越智啓太　桐生正幸（編著）　テキストブック司法犯罪心理学　北大路書房

【成績評価の方法と基準】
レポート（８０％）＋授業コメント（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、要望に応え、本年は新しい事例をくわえました。また、動画、配付コンテンツなどを充実させ、これを hoppii より利用できるようにしてあります。さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にパワーポイントを使用する。印刷資料は hoppii 等で配布する。

【その他の重要事項】
（1）本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるので、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
（2）例年、５％～１０％が D 評価になります。他の教員に比べて S,A+はつきにくいので楽勝科目ではありません。
（3）講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどと関連付けながら講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, we will give an overview of criminal and forensic psychology. In particular, I will explain issues criminal behavior, For example, serial murderer, mass murderer, terrorist, domestic violence offender.
【Learning Objectives】
(1) To be able to explain the definition of the basic concept of forensic psychology and basic research related to the concept.
(2) To be able to explain these concepts in connection with real crimes.
(3) To be able to discuss crime scientifically
【Learning activities outside of classroom】
Each lesson requires 2 hours of preparation and 2 hours of review.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Report (80%) + comment & discussion (20%)

PSY200BG

産業組織心理学

島宗　理

授業コード：A3721　｜　曜日・時限：木 4/Thu.4
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】
企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。
講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。
毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。
新型コロナ感染拡大状況にもよりますが、2023 年度は授業内演習を取り入れることを計画しています。授業計画に変更がある場合には，Google Classroom を使って連絡します。学習支援システムのこの授業科目のトップページで Google Classroom の登録コードなどを案内しますので確認し，登録してからこの授業を受講してください。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom ： https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1 ：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2 ：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1 ：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析
第 5 回	テーマパークその 2 ：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS ： Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES ： Employee Satisfaction）、ロイヤルティー
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介します。これに関連して、経営目標（売上，利益，粗利，利益率などなど），目標管理制度（MBO），バランス・スコアカード（BSC），PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。５大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力ー報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合 (連合) と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム (EAP)、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンズ、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱： QSP、マーケティング・チャネル、コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメン、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告 (/質問紙法) の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値 (プロダクト)、無形価値 (ブランド)、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

第 13 回	グローバリゼーションとローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャネル（コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
第 14 回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので，自習を含めた復習をしてください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学―なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?― 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
○島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
○毎回行われれるクイズ（50%）と授業内演習の得点（50%）で成績を評価します。
○授業を欠席したときには授業内演習を補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内演習の得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は対面授業を再開しましたが，オンデマンド型の動画や教材も配信したせいか，教室に来る受講生の数が少なかったように感じました。この授業ではビジネスとビジネスにおける心理学の基礎知識を学ぶことを目標にしているため，どちらかというと用語を覚える形態の学習が多くなってしまうのですが，来年度はもう少し「考える」活動を増やそうと考えています。

【その他の重要事項】
○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
○ オフィスアワーは春学期，秋学期ともに火曜日の 2 限，場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students should be able to do the followings:
1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).
【Grading Criteria /Policy】
Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

PSY200BG

心理学特殊講義 I

島宗　理

授業コード：A3722　｜　曜日・時限：火 1/Tue.1
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる，刺激提示や行動測定，データの視覚的分析の方法を学びます。言語としては Python（パイソン）を用い，プログラミングの基本を学びます。

【到達目標】
Python を使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。
①画像や文字，音声などの刺激をディスプレイに提示する。
②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
③その他の外部入力装置を用い，より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画，音声データを測定して数量化するなど）。
④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。
さらに，プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や，困ったときに他の人に相談したり，困っている人に助言したりするスキルなど，研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要となる知識や技術を練習する機会も提供します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はオンラインで実施します。毎週プログラミングの課題を用意しますので，各自で自主的に取り組んでください。課題に関する質問や相談，課題へのフィードバックは Slack を使って行います。随時，質問や相談を書き込んでください。
プログラミングの習得や実技にかかる時間には大きな個人差があります。人によっては課題を完成させるために週 6 時間以上かかることもあります。全ての課題を事前に公開していますから，ゆっくり，じっくり時間をかけて取り組みたいと思う人，どうしても時間がかかってしまう人は，あらかじめ計画をして時間を確保した上で履修してください。
課題#10 以降はプログラムを自作するか，それまでと同様に課題に取り組んでプログラミングをさらに学ぶかを選択してもらいます。以下の授業計画には自作する場合のスケジュールを記載しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Python の基本と開発環境	○課題と課題の進め方，提出方法，評価について説明します。 ○ Python と PyCharm をインストールし，開発環境をセットアップします。
第 2 回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第 3 回	刺激制御	○ Kivy をインストールし，ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第 4 回	刺激制御	○ Kivy を使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。
第 5 回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第 6 回	刺激制御	○音源データを提示し，キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第 7 回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第 8 回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第 9 回	データの視覚化	○ Matplotlib をインストールし，データからグラフを作成するプログラムを作成します。
第 10 回	プログラム開発 (1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し，開発計画を立案します。
第 11 回	プログラム開発 (2)	○自作プログラムを開発します。
第 12 回	プログラム開発 (3)	○自作プログラムを開発します。
第 13 回	プログラム開発 (4)	○自作プログラムを開発します。
第 14 回	プログラム開発 (5)	○自作プログラムを発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○全 14 回ぶんの課題を学期開始前に公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。ただし、プログラミングには，予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまって時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
何冊か例示しますが，図書館や書店に足を運んで，自分でページをめくり，読みやすそうなもの，必要な情報の例が多い本を選びましょう。
○プログラミング演習 Python 2019 喜多一（2020）https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698 からダウンロードできます(無料)。
○東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Python で手を動かして学ぶデータ分析~　塚本ら　マイナビ出版 (2019)
○エキスパート Python プログラミング 改訂 2 版　Jaworski　ら　ドワンゴ (2018)
○入門 Python 3 (日本語) Lubanovic　オライリージャパン (2015)
○独学プログラマー ~Python 言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経 BP (2018)
○ Python 実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~　陶山 技術評論社 (2020)

【成績評価の方法と基準】
○全 14 課題の課題得点中の獲得割合（%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度はプログラムを自作することを選択した受講生も，課題に取り組むことを選択した受講生も，ほぼ全員コースを完走できました。来年度は完全オンライン制になります。時間割上のコマがなくなるので，課題の提出期限を守れるように支援できるかどうかが鍵になると考えています。提出前日にリマインドを送るなどの方法を検討します。

【学生が準備すべき機器他】
○大学のノート PC には管理者権限がなく，自分でソフトなどをインストールできないので，自分の PC を使うことをお勧めします。マイ PC を持っていなかったり，用意できなければ事前に相談してください。

【その他の重要事項】
○本授業では民間のソフトウエア開発会社でプログラマー・SE として勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
○オフィスアワーは春学期，秋学期ともに火曜日の 2 限，場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.”
【Learning Objectives】
At the end of the course, students should be able to do the followings:
1) write and debug codes in python, 2) read/write data files, 3) use python libraries, and 4) visualize data.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).
【Grading Criteria /Policy】
Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly assignments (100%) .

CAR200BA

文学部生のキャリア形成

荒井　弘和、川﨑　貴子、小寺　浩二

授業コード：A3813　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話しいただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。
＊この授業は, 就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】
以下の３つが到達目標です。
① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行ないます。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。
　授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行ないます。そのための時間を十分に確保します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/7)
第 2 回	ゲスト講師の講演（1）	ホテル業務 (4/14)
第 3 回	ゲスト講師の講演（2）	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/21)
第 4 回	ゲスト講師の講演（3）	中学校教員 (4/28)
第 5 回	Workshop（1）	キャリアセンター職員によるワークショップ (5/12)
第 6 回	ゲスト講師の講演（4）	中高校教師 (5/19)
第 7 回	ゲスト講師の講演（5）	教育 (5/26)
第 8 回	ゲスト講師の講演（6）	人事関係 (6/2)
第 9 回	ゲスト講師の講演（7）	鉄道会社（経営企画）(6/9)
第 10 回	Workshop (2)	キャリアセンター職員によるワークショップ (6/16)
第 11 回	ゲスト講師の講演（8）	外資系サービス業 (6/23)
第 12 回	ゲスト講師の講演（9）	民間放送業（総合職）(6/30)
第 13 回	ゲスト講師の講演 (10)	法人向け地図商材の企画 (7/7)
第 14 回	まとめ	総括レポート作成 (7/14)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。この講義の予習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】
適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
①毎回の小レポート（10 〜 15 分程度でまとめるもの）の成績（80 %）
②学期末レポートの成績（20 %）
※①②は成績評価のために必須とします。
・①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。出席をしないで小レポートのみを提出することや、指定時間帯以外の提出は原則的に認められません。
・また、４回以上の欠席がある場合にはＥ評価とします。10 分以上の遅刻は欠席扱いとし、遅刻２回で欠席１回とカウントします。
・Zoom への接続時間には十分気を付け、午後 4 ： 50 までに接続して出席してください。
※第１回のガイダンスには必ず出席し、２回目から慌てないように、授業の進め方、操作方法、課題提出方法について理解し、慣れておいてください。

【学生の意見等からの気づき】
「今後の人生・生活」における働き方や働くことの意義を考えるために、各ゲスト講師に「働き方」や「働くこと」に関連したいくつかのキーワードをふまえてご講演をお願いし、半期の授業全体を通して受講生が自らのライフプランを描くことが可能となるよう授業内容に配慮しました。
　多様な職種の多様なゲスト講師それぞれのワーク・ライフバランスとワーク・ライフヒストリーを学生のみなさんは各自の視点から、また多様な関心の次元で受け止め、評価していることが、各回のレポートや学期末のレポートから読み取れました。そうした面でこの科目が学生のみなさんのキャリア形成、またワーク・ライフプランの形成過程に少なからず貢献できていると感じています。
　そうした多様性（diversity）を今後も大事にしていきたいと思っています。
　また、出席の取り方について、指示が細かいのではないかとの意見をもらいました。オンライン授業で、講師の先生方の支援をしながら、約 200 名の出欠を管理するのは、なかなか大変です。皆さんに多少の負担はかかってしまうかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願いします。

【その他の重要事項】
☆ 2023 年度はオンラインで実施します。
①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
②定員は 200 名程度です。受講希望者多数の場合には、第１回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第１回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。
③担当教員が全授業に同席し、担当します。
④本学学部を卒業し、公務員、教員、銀行、教育、放送などでの勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をします。
⑤写真撮影、録画および無断転載・無断アップロードを禁止します。

【Outline (in English)】
This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.
This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.
Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short reports at each class meeting (80%), term-end report (20%).

MAN100FA

組織論入門

小川　憲彦

専門入門科目 100 番台　1〜4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
営 1 年 F〜K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の企業経営は組織によって成り立っています。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠です。組織、ここでは特にヒトの労働力を統合し、方向づけ、活用する仕組みとその過程について、基本的な知識を習得することを目的とします。
This class aims to provide students with fundamental knowledge of organization and business administration theories including the terms, the themes, and an overview of the field.

【到達目標】
大まかに言えば、組織論がどういった学問であるのかを理解します。そのためには経営学という学問体系の中において、それがどのような位置づけにあるのか知る必要があります。つまり他の専門領域との関係の中で組織論はどういう領域なのかを知ってほしいと思います。また、その歴史的な発展の流れについて学びながら、組織論の基本的な用語についても知ってほしいと思います。これらは経営学を学ぶ上でのイロハになりますので、半期を通じて慣れて行って下さい。
具体的には以下を目標とします。
①経営学の中で組織論がどのような位置づけにある領域かを説明できること
と
②組織論における二つのアプローチについて説明できること
③組織論の基本的な言葉・概念を知っておりその意味が説明できること
④主要な理論について概要を知っていること
Students who complete this course will be expected to:
(1) understand where the organization theories could be placed in the business administration academic field,
(2) understand two major approaches in the organization theories,
(3) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field and be able to explain the meaning of those terms.
(4) have an overview of major organization theories.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
・初回の授業を除き、基本的に対面講義を実施します。それが難しい状況の場合は Zoom を用いたリアルタイムのオンライン授業を行います。
・リアクションペーパー等を適宜課します。
・グループでの話し合いなども適宜行う予定です。
· The format for conducting the class is basically in person except the first class by online. However, the format (in person, online, or hybrid of them) depends on situations such as COVID-19.
· Students are required submit reaction paper and/or some assignments as necessary.
· Group discussions might be held in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義概要や参加要件について
第 2 回	経営学と組織論	経営学はどんな学問か、その中の組織論はどんな領域か
第 3 回	組織とは何か	組織の定義について
第 4 回	組織構造	官僚制、有機的組織、マトリクス型組織など
第 5 回	組織と外部環境、戦略	オープンシステムとしての組織と環境との関係
第 6 回	組織のライフサイクル	組織の発展過程
第 7 回	組織過程（個人①）	モチベーションの内容理論
第 8 回	組織過程（個人②）	モチベーションの過程理論
第 9 回	組織過程（集団①）	リーダーシップの古典理論
第 10 回	組織過程（集団②）	近年のリーダーシップ論
第 11 回	組織文化①	企業文化論
第 12 回	組織文化②	組織文化と適合
第 13 回	意思決定論	合理的意思決定
第 14 回	近年の組織論	ポストモダンの組織論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を課すことがありますが、入門科目ですから、あまり難しい事は求めません。新聞、ニュース、アルバイトやインターンなどをきっかけにして、興味のある業界・会社について調べたりしながら参加すると理解が深まるでしょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion.

【テキスト（教科書）】
坂下昭宣 (2014)『経営学への招待 新装版』白桃書房。（分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。）

【参考書】
金井壽宏 (1999)『経営組織―経営学入門シリーズ』日経文庫。（分かりやすい良い教科書ですが購入の必要は必ずしもありません。授業は配布資料に沿って行います。）

【成績評価の方法と基準】
提出物やディスカッション、発言等を含む平常点 50%、期末試験 50%。ただしコロナの蔓延状況等により期末試験の実施の可否などが不明ですので、流動的です。
完全にオンライン授業になった場合は、各回のリアクション・ペーパーが評価の対象になると思います。それが 100 %換算されるか、試験もしくはレポート（50 %）を実施し平常点として 50 %になるかは、今後次第です。
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】
可能な範囲で時々復習しながら進めたいと思います。

【その他の重要事項】
・配られた資料を見るだけでなく、ノートを取る癖をつけて下さい。
・具体例を新聞等で探しながら復習をすると理解が深まります。
・出席状況は評価に加味しませんが、出席せずにリアクション・ペーパーのみ
を提出することは不正とみなします。

【関連科目】
経営管理論、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】
This class aims to provide students with fundamental knowledge of organization and business administration theories including the terms, the themes, and an overview of the field.
Learning objectives

Students who complete this course will be expected to:
(1) have an overview of major themes in organization theories,
(2) understand where the organization theories could be placed in the academic field of business administration,
(3) understand two major approaches in the organization theories,
(4) have the knowledge of the basic concepts and terms in this field.
Learning activities outside of classroom
Assignments which include reaction papers to the lectures will be given at the instructor's discretion.
Grading criteria/policy
Grading will be based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN100FA

マーケティング入門

竹内　淑恵

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。
本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】
・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
・毎週授業前日の木曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス 第 1 章　マーケティング発想法	講義の進め方について説明します。 ニュークークとタイドを事例に、マーケティングの定義や目的、発想法を学びます。
第 2 回	第 2 章　マーケティング・ミックスによる顧客創造	キットカットを事例に、STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学びます。
第 3 回	第 3 章　製品による顧客創造	マスキングテープ「mt」を事例に、新製品開発による顧客創造を学びます。
第 4 回	第 4 章　価格による顧客創造	ザ・プレミアムモルツを事例に、価格戦略による顧客創造を学びます。
第 5 回	第 5 章　チャネルによる顧客創造	ネスカフェ　アンバサダーを事例に、流通チャネルの構築による顧客創造を学びます。
第 6 回	第 6 章　コミュニケーションにおける顧客創造	ヒートテックを事例に、消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学びます。
第 7 回	第 7 章　顧客理解	Ban 汗ブロックロールオンを事例に、顧客理解のためのマーケティング・リサーチ (市場調査) を学びます。
第 8 回	第 8 章　関係構築	パズドラを事例に、企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学びます。
第 9 回	第 9 章　デジタル・マーケティング	ウコンの力を事例に、マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学びます。
第 10 回	第 10 章　ディマンドチェーン	カルビー　ポテトチップスを事例に、在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学びます。
第 11 回	第 11 章　ブランド構築	マンダム　ギャツビーを事例に、ブランドを構築・維持・強化する方法を学びます。
第 12 回	第 12 章　営業活動	カゴメ　瀬戸内レモンを事例に、企業における営業戦略、営業活動の多様性を学びます。
第 13 回	第 13 章　マーケティングの戦略展開	花王　ヘルシア緑茶を事例に、市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学びます。
第 14 回	第 14 章　社会共生	トヨタ　プリウスを事例に、マーケティングと社会との関わりを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
私たち消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、マーケターの視点を持ってください。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解が進むと思います。

【テキスト（教科書）】
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2020）。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016)。
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007)。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
①中間レポート
・提出締め切り日の 1 ヵ月前にはテーマを発表します。
・40 点満点で採点します。
＜レポート提出の注意事項＞
・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。
・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
②学期末テスト
・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第、お知らせします。
・すべて 3 択形式、60 点満点ですが、設問数等の詳細は未定です。

【学生の意見等からの気づき】
この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。多くの受講生から、次回レポートを書くときに役立てたい、参考にしますという反応がありました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】
・本科目は、マーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。下記の関連科目を次年度以降履修することを予定している学生や、マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

【関連科目】
・マーケティング・マネジメント論 I/II
・マーケティング・リサーチ論 I/II
・消費者行動論 I/II
・流通論 I/II
・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】
Course outline: Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN100FA

マーケティング入門

竹内　淑恵

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
営 1 年 F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化等、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。
本講義では、顧客創造に焦点を当て、企業の現場で直面するマーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、皆さんもよくご存知の事例を取り上げ、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】
・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割を説明できるようになる。
・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品・新サービスの情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
・毎週授業前日の木曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス 第 1 章　マーケティング発想法	講義の進め方について説明します。 ニュークークとタイドを事例に、マーケティングの定義や目的、発想法を学びます。
第 2 回	第 2 章　マーケティング・ミックスによる顧客創造	キットカットを事例に、STP マーケティングとマーケティング・ミックス（製品、価格、チャネル、コミュニケーション）の基礎を学びます。
第 3 回	第 3 章　製品による顧客創造	マスキングテープ「mt」を事例に、新製品開発による顧客創造を学びます。
第 4 回	第 4 章　価格による顧客創造	ザ・プレミアムモルツを事例に、価格戦略による顧客創造を学びます。
第 5 回	第 5 章　チャネルによる顧客創造	ネスカフェ　アンバサダーを事例に、流通チャネルの構築による顧客創造を学びます。
第 6 回	第 6 章　コミュニケーションにおける顧客創造	ヒートテックを事例に、消費者とのコミュニケーションによる顧客創造を学びます。
第 7 回	第 7 章　顧客理解	Ban 汗ブロックロールオンを事例に、顧客理解のためのマーケティング・リサーチ (市場調査) を学びます。
第 8 回	第 8 章　関係構築	パズドラを事例に、企業と顧客間の継続的な関係構築の方法を学びます。
第 9 回	第 9 章　デジタル・マーケティング	ウコンの力を事例に、マーケティング活動におけるデジタルの活用方法を学びます。
第 10 回	第 10 章　ディマンドチェーン	カルビー　ポテトチップスを事例に、在庫の管理方法とサプライチェーン・マネジメントを学びます。
第 11 回	第 11 章　ブランド構築	マンダム　ギャツビーを事例に、ブランドを構築・維持・強化する方法を学びます。
第 12 回	第 12 章　営業活動	カゴメ　瀬戸内レモンを事例に、企業における営業戦略、営業活動の多様性を学びます。
第 13 回	第 13 章　マーケティングの戦略展開	花王　ヘルシア緑茶を事例に、市場分析とマーケティング戦略の立案方法を学びます。
第 14 回	第 14 章　社会共生	トヨタ　プリウスを事例に、マーケティングと社会との関わりを学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
私たち消費者は、日々の暮らしの中で企業が提供するさまざまな製品やサービスを使っています。これは使用者としての立場ですが、授業では提供者の側、すなわち、マーケターの視点を持ってください。マーケティングは身近な学問です。自分がいつも使っている製品やサービスのマーケティングを通じて、理解が進むと思います。

【テキスト（教科書）】
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編著『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎（2016）

【参考書】
・石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎（2020）。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016)。
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007)。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
①中間レポート
・提出締め切り日の 1 ヵ月前にはテーマを発表します。
・40 点満点で採点します。
＜レポート提出の注意事項＞
・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。
・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
②学期末テスト
・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第、お知らせします。
・すべて 3 択形式、60 点満点ですが、設問数等の詳細は未定です。

【学生の意見等からの気づき】
この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。多くの受講生から、次回レポートを書くときに役立てたい、参考にしますという反応がありました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】
・本科目は、マーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。下記の関連科目を次年度以降履修することを予定している学生や、マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・メーカーのマーケティング本部広告制作部、広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの本質について解説します。

【関連科目】
・マーケティング・マネジメント論 I/II
・マーケティング・リサーチ論 I/II
・消費者行動論 I/II
・流通論 I/II
・サービス・マネジメント論 I/II

【Outline (in English)】
Course outline: Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objectives, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs. In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and solve them.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

ECN100FA

ファイナンス入門

山岩　輝

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
営 1 年 A～F

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部の多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、資産形成や老後資金確保のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、主に（1）金融取引や証券市場の仕組み、（2）将来価値と現在価値の概念、（3）債券と株式の初歩的な分析手法、について学びます。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】
次の 4 つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
（3）債券のしくみを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
（4）株式のしくみを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式の対面授業ですが、初回のみオンライン授業となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。初回オンライン授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第 4 回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第 5 回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第 6 回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第 7 回	債券入門（1）	債券の基本的なしくみと用語
第 8 回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第 9 回	債券分析の基礎	信用リスクと社債分析
第 10 回	株式入門（1）	株式の基本的なしくみと用語
第 11 回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第 12 回	株式分析の基礎	同業他社間比較による株式分析の実際
第 13 回	デリバティブ入門	先物取引とオプション取引のしくみ
第 14 回	現代ポートフォリオ理論の紹介	効率的市場仮説、ポートフォリオのリスクとリターン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
（2）講義資料（配付方法は初回授業で説明します）

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ファナンス特有の概念や理論の解説は特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【関連科目】
投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. [Learning objectives] It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN100FA

ファイナンス入門

岸本　直樹

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
営 1 年 O～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ファイナンスの入門的な内容を講義します。一部の学生にとってこの授業の内容は馴染みがないものかもしれません。しかし，ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資の知識は，社会に出る皆さんにとって必須です。なぜならば，ひとつには，金融機関あるいは企業の財務部門においてファイナンスの知識が必須だからです。また，個人としても，債券，株式，投資信託等への投資のほか，年金のタイプによってはその運用のための投資の知識が欠かせないからです。本講義で皆さんは，金融取引や証券市場の仕組み，将来価値と現在価値の概念と計算方法，債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに，デリバティブ，リスクとリターンのトレードオフ，効率的市場仮説についても初歩的な内容を学習します。

【到達目標】
受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。
①金融・証券の基礎知識に基づき，金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率や将来価値，現在価値の概念を理解し，それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し，利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し，配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
⑤主要なデリバティブである先渡取引と先物取引，さらにオプションの基本的な仕組みと初歩的な利用方法を理解する。
⑥リスクとリターンのトレードオフという考え方を理解する。
⑦情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説と呼ばれる仮説に基づいて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。授業中にパソコン上で Excel を使った計算を説明します。したがって，Excel がインストールされたパソコンを持参するか，大学から借りてください。もちろん，Excel はタブレットやスマートフォンでも利用できるので，パソコンの代わりにタブレットかスマートフォンを持参してもよいです。ただし，タブレットやスマートフォン上における Excel の操作は，パソコンのそれと，若干異なります。時間の制約があるため，授業では，それらの点について説明しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションおよび金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。さらに，金融市場を概観する。
第 2 回	利子率，将来価値，現在価値（1）	将来価値，現在価値の計算ほか，複利と単利の違いを学習する。
第 3 回	利子率，将来価値，現在価値（2）	将来価値，現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
第 4 回	債券市場と債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。また，債券市場を概観する。
第 5 回	債券入門（2）	最終利回りの定義式を学習する。
第 6 回	債券入門（3）	最終利回りの性質を学習する。
第 7 回	債券入門（4）	債券投資のリスクを学習する。
第 8 回	株式市場の概観および株式入門（1）	株式市場を概観した後，株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
第 9 回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
第 10 回	デリバティブ入門（1）	先渡取引と先物取引の仕組みのほか，これらの取引の利用方法を学習する。
第 11 回	デリバティブ入門（2）	オプションの仕組みや初歩的なオプションの利用方法を学習する。
第 12 回	リスクとリターンのトレードオフ	Capital Asset Pricing Model を学習する。
第 13 回	効率的市場仮説と資産の評価方法の概観	効率的市場仮説を学習した後に，資産の価格付けを概観する。
第 14 回	期末テスト	この科目で学習した内容全般についてテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣（製本されたもののほか，e-book もある）

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価では，期末テストが 70%，授業中に実施するクイズと授業参加が 30%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
さらに分かりやすい授業になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン，タブレット，あるいは，スマートフォンを用意してください。

【その他の重要事項】
授業中は私語等を控え，講義に集中してください。なお，担当教員は，博士課程に入学する前に，東京およびニューヨークにおいて日系証券会社の調査部門で日米の証券市場の調査に従事した。

【関連科目】
夜間コースのファイナンス基礎，コーポレート・ファイナンス，経営学部のポートフォリオ理論入門，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ。

【Outline (in English)】
Outline: This course provides an introduction to finance. Its content may be unfamiliar to some students. However, the knowledge taught in this course is essential for those who will enter the workforce. This is because, for one thing, finance theory is essential for both financial institutions and finance departments of nonfinancial corporations. In addition, the knowledge on finance is essential for individuals to invest in bonds, stocks, mutual funds, and pension funds. In this course, you will learn the basics of financial transactions and securities markets, the concepts and calculation methods of future value and present value, and elementary analysis for bonds and stocks. In addition, you will learn the rudiments of derivatives, risk and return tradeoff, and efficient market hypothesis.
Objectives: Students will learn the following knowledge and skills.
(1) To be able to understand financial news properly based on essential knowledge of financial markets and securities.
(2) Concepts of interest rates and the basic calculations of future values and present values.
(3) Institutional knowledge of bonds and elementary analysis of bonds.
(4) Institutional knowledge of stocks and elementary analysis of stocks based on dividend discount model.
(5) Basic institutional knowledge of forwards/futures contracts and options.
(6) Risk and return tradeoff.
(7) Relationship of information and asset prices in terms of what is called the efficient market hypothesis.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to read the designated sections of the textbook before class and review the contents covered in class after class. The standard preparation and review time for each class is 2 hours.
Grading Criteria: The final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

PRI100FA

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト（Microsoft Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Micsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門Ⅰ（表計算）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト（Microsoft Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Micsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（表計算）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。
この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【授業の概要（Course outline）】
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
【授業の方法】
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

専門入門科目 100 番台　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。
この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
[補足]
各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト（Microsoft Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Micsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（a コース）（2018 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト（Microsoft Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Micsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（a コース）（2018 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（b コース）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。
この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【授業の概要（Course outline）】
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
【授業の方法】
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（b コース）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。
この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
[補足]
各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト（Microsoft Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Micsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本操作	コンピュータの仕組みを理解し、Windows の基本操作を学習する。
第 2 回	キーボード入力	英字・日本語の入力を練習する。
第 3 回	電子メール	インターネットの仕組みを理解し、電子メールの送受信の操作を学ぶ。
第 4 回	インターネット検索	各種の Web サイトから情報を効果的に検索・収集する方法を学習する。
第 5 回	文書の入力	日本語ワープロソフト（Microsoft Word）での文字の入力操作、各種文字への効率的な変換操作を学ぶ。
第 6 回	文書編集の基本操作	Word による基本的な文書編集操作を学習する。
第 7 回	効率的な文書編集	各種の編集機能を学び、効果的に文書を構成できるようにする。
第 8 回	ビジュアル文書の作成	図形・画像・表などを挿入した文書の作成方法を学ぶ。
第 9 回	文書の応用的な編集	段組み、文書スタイルなどを利用したレポートや論文、長文などの作成方法を学習する。
第 10 回	表計算の基礎知識	表計算ソフト (Micsoft Excel) を利用したデータ集計の考え方を理解する。
第 11 回	データの入力と編集	セルへのデータの入力方法と編集方法を学ぶ。
第 12 回	簡単な表の作成	データを入力して簡単な表を構成する方法を学習する。
第 13 回	行・列の編集	行単位や列単位での効率的なデータ編集の方法を学ぶ。
第 14 回	ワープロと表計算の連携	表計算ソフトと連携して文書を作成する方法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習します。表計算コース及び a コースでは特に文書処理と表計算に重点を置き、ワープロを利用して効率的に文章を構成する方法や、表計算で作成した表やグラフなどを利用して、より表現力の高い文書やプレゼンテーションを構成する方法を学びます。また、授業内では関連する IT パスポート・基本情報技術者試験の出題内容についても触れます。

【到達目標】
専門領域の各科目を学ぶ上で必要となる各種のコンピュータの基本スキルや、種々の問題の分析や解決といった場面でコンピュータを活用するための基本的な方法を身に着けることを目標とします。より具体的には、表計算、文書作成、インターネット、プレゼンテーションなどの処理に関する情報ツールを十分に利用して、基礎的な情報の収集・編集等ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
PC を用いて実習を行いながら必要なスキルと知識を習得して行きます。さらに、授業内ではいくつかの小さな課題にあたることで、自ら問題に取り組み考える力を養います。
本科目の授業は主として実習室の PC を用いて行いますが、具体的な方法については各授業時間の担当者が示します。授業に関する諸連絡や授業計画に一部変更がある場合は学習支援システム (Hoppii) で提示することがあります。
課題等に対するフィードバックは各担当者が授業時間内や学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プレゼンテーションの基礎	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を学ぶ。
第 2 回	プレゼンテーションの各種表現	図形やイラスト等を挿入した効果的なプレゼンテーションの作成法を学習する。
第 3 回	ワークシート編集の基礎	Excel での複数のワークシートの利用方法や編集機能を理解する
第 4 回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第 5 回	セルの参照方法	相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第 6 回	応用的な関数の利用	if 関数や lookup 関数を利用した集計処理を学習する。
第 7 回	データ集計の応用	複数項目を対象としたクロス集計などの応用的な集計方法を学ぶ。
第 8 回	グラフの基礎	基本的なグラフの作成方法を習得する。
第 9 回	グラフの編集	グラフの各部分（軸や凡例等）の編集について学習する。
第 10 回	グラフの応用	応用的なグラフ（複合グラフ、散布図、レーダーチャートなど）の作成について学ぶ。
第 11 回	表計算ソフトのデータベース機能	データの並べ替え、検索、抽出などのデータベース機能を学習する。
第 12 回	統計的なデータ処理の基礎	各種のデータの統計的な集計方法の基礎を学ぶ。
第 13 回	表計算と他のソフトとの連携	ワープロやプレゼンテーションで利用する表の作成方法について学ぶ。
第 14 回	総合演習	ワープロ・表計算の様々な編集方法を活用して課題に対する報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの操作練習や課題作成においては、各担当教員の指示に沿って予習・復習を行ってもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教材については授業内で適宜提示します。授業で使用する資料等を適宜配布します。

【参考書】
参考書については授業の進度に合わせて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
原則として期末テストあるいは課題演習（60%）を行い、平常点・授業に対する積極度 (20%)、定期的な課題提出 (20%) を考慮して評価します（テストや演習の実施方法や評価の配分については担当教員により若干異なる場合があります）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方、使用教材、難易度等について担当教員毎にアンケートの回答に基づいた改善を行います。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式の実習は情報実習室の PC を使用して行います。オンライン形式の場合に関しては各担当者から説明します。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
(Course outline) Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on word processing and spreadsheet calculations, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations based on spreadsheet techniques.
(Learning Objectives) The goal of this course is to acquire the basic computer skills necessary for learning the various subjects in the specialized fields, as well as the basic methods for using computers in situations such as analyzing and solving various problems.
(Learning activities outside of classroom) Students will be required to prepare and review for computer practice according to the instructions of each instructor.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on term-end examination or assigned exercise (60%), in-class contribution (20%), and mid-term report (20%). The evaluation method may vary slightly depending on each instructor.

PRI100FA

情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。
この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
【授業の概要（Course outline）】
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
【授業の方法】
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
担当教員により、実習の実施方法が異なるので、学習支援システム（hoppii）を参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

PRI100FA

情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

専門基礎科目 A 群　1・2 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】
学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方を学ぶ。より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解する。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例について学習する。
この授業を通して、学問を学ぶときに必要なコンピュータの使い方から簡単な分析手法、実践的なプログラミング手法を取得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
[授業の概要]
情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く (日本語ワードプロセッサの使い方)、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。
さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。
[授業の方法]
コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。
[補足]
各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の使い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングについて学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教材については開講時に指示する。

【参考書】
参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
テスト (レポート提出や授業中の小テストに代えることもある) を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクタなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】
問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。
〔関連科目〕
情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】
実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】
情報学に関する基礎科目

【Outline (in English)】
[Course Outline]
Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrieval. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.
[Learning Objectives]
The goal is to understand programming for more expressive problem-solving from the mechanism of computers and how to use computers necessary for learning academics. In addition, we will learn some statistical analysis methods and introduce examples of problem solving necessary for practical work.
[Learning Activities outside of classroom]
It is necessary to prepare and review so that you can understand the basic operation of computers and programming. The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
A test will be given once each in the spring and fall semesters (which may be replaced by a report submission or a quiz in class), and will be evaluated in consideration of attendance and assignment submission.

MAN200FA

マーケティング論Ⅰ

竹内　淑恵

専門基礎科目 B 群　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの 4 P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義では主にテーマ 1～3 を取り上げ、テーマ 3～5 はマーケティング・マネジメント論Ⅱで学びます。

【到達目標】
・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 1 章　マーケティングの本質①	授業ガイダンスを行います。あわせてマーケティングの定義について学びます。
第 2 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 1 章　マーケティングの本質②	マーケティングの 5 つのステップについて学びます。
第 3 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について学びます。
第 4 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について学びます。
第 5 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について学びます。
第 6 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について学びます。
第 7 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 4 章　マーケティングの基本枠組み①	STP の S(市場細分化) と T(ターゲティング) について学びます。
第 8 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 4 章　マーケティングの基本枠組み②	STP の P(ポジショニング) と差別化について学びます。
第 9 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出、カスタマー・インサイトについて学びます。
第 10 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング情報の分析と利用、マーケティング・リサーチについて学びます。
第 11 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプについて学びます。
第 12 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動②	購買者の意思決定プロセスについて学びます。
第 13 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド①	製品とは何か、サービス・マーケティングについて学びます。
第 14 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著　『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
①中間レポート
・提出締め切り日の 1 ヵ月前にはテーマを発表します。
・40 点満点で採点します。
＜レポート提出の注意事項＞
・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。
・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
②学期末テスト
・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FA

マーケティング論Ⅱ

竹内　淑恵

専門基礎科目 B 群　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの 4 P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義はマーケティング・マネジメント論Ⅰに続いて開講します。Ⅱからの履修も可能ですが、扱うテーマは 3 以降になります。

【到達目標】
・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセス、マネジメントについて、また製品ライフサイクル学びます。
第 2 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクルの戦略について学びます。
第 3 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供①	サプライ・チェーンと価格提供ネットワーク、チャネル・コンフリクトについて学びます。
第 4 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・システム、チャネル設計に関する意思決定について学びます。
第 5 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 10 章　価格設定①	市場状況と価格設定戦略について学びます。
第 6 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 10 章　価格設定②	価格調整戦略、価格変更について学びます。
第 7 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得①①	統合型マーケティング・コミュニケーションについて学びます。
第 8 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算設定について学びます。
第 9 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ①	広告戦略の展開について学びます。
第 10 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ②	広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学びます。
第 11 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 13 章　人的販売と販売促進①	人的販売、セールス・フォースの管理について学びます。
第 12 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 13 章　人的販売と販売促進②	販売促進について学びます。
第 13 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングの捉え方と形態について学びます。
第 14 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングの実施について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著　『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
①中間レポート
・提出締め切り日の 1 ヵ月前にはテーマを発表します。
・40 点満点で採点します。
＜レポート提出の注意事項＞
・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。
・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
②学期末テスト
・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。

詳細は決まり次第お知らせします。
・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅠ（2019 年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目 200 番台　2〜4（経営学科）3〜4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・初回は Zoom を用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
①他人の迷惑になる行為を行わないこと
②授業に関係のないことをしないこと
③その他については、教員の指示に従うこと
　Zoom の場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。
①音声は指示がない場合は原則としてオフ
②動画カメラは原則オン
　（ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたうえで
　　オフを許可します）
③表示する氏名は漢字
（仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベットでも可）
・適宜リアクションペーパーを課します。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 9 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 10 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 11 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験ないしレポート（50 %）、平常点（50 %：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】
平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】
Ⅰは理論編、Ⅱは事例偏です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。Ⅱは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1 回 1 回の授業が OBOG 訪問のような場になりますので、2，3 年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはⅡのシラバスを見てください（22 年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】
Outline
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.
Learning activities outside of classroom
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion. Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2019 年度以降入学者）

小川　憲彦

経営学科専門科目 200 番台　2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

【到達目標】
①社会人との交流が適切に行えること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
Students who complete the course will be expected to:
(1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
(2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第 2 回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第 3 回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第 4 回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と３０代の女性職員の方のキャリア
第 5 回	ゲスト（非営利組織職員）	新卒 1 年目で非営利組織（フードリボン等を展開）で働く若手 OB
第 6 回	ゲスト（野村証券）	証券会社３年目の若手 OB
第 7 回	ゲスト（ベンチャー企業）	化粧品などを扱っている広報畑の OG
第 8 回	ゲスト（物流）	世界各地で事業展開をしている物流会社の初級管理職 OB
第 9 回	ゲスト（IT）	楽天の常務執行役員。上場企業の社長などの経歴があります。
第 10 回	ゲスト（中小企業）	印刷会社の 40 代の経営者です。
第 11 回	ゲスト（クリエイティブ産業）	現在はアニメプロデューサーをしていますが、ゲーム会社でのシナリオライターなどの経験もあります。
第 12 回	ゲスト（鉄道）	鉄道会社の管理職 OB です。
第 13 回	境界なきキャリア	転職等の効果について
第 14 回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験か期末レポート（50 %）、平常点（50 %：リアクションペーパーや小レポート等含む）
・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。
・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありえます。
・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。
・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。
・詳細は授業で指示します。
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
①各回の内容は前年度のものです。ゲストは毎年変更しています。
②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。なお、携帯電話の電源を切って鞄にしまう、写真や動画をとったり UP したりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
(2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.
Learning activities outside of classroom
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

ECN300FB

組織経済学

奥西　好夫

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン（1）	・組織構造
第 10 回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある（コロナの収束状況等による）。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。
・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。
・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.
・The final grade depends on the total points of the assignments.

ECN300FB

組織経済学Ⅰ　（2018 年度以前入学者）

奥西　好夫

経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理（2）	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン（1）	・組織構造
第 10 回	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある（コロナの収束状況等による）。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。
・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。
・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】
・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.
・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.
・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.
・The final grade depends on the total points of the assignments.

MAN200FD

マーケティング・マネジメント論Ⅰ

竹内　淑恵

市場経営学科専門科目 200 番台　2〜4（市場経営学科）3〜4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
営 2 年 Q〜U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの 4 P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義では主にテーマ 1〜3 を取り上げ、テーマ 3〜5 はマーケティング・マネジメント論Ⅱで学びます。

【到達目標】
・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 1 章　マーケティングの本質①	授業ガイダンスを行います。あわせてマーケティングの定義について学びます。
第 2 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 1 章　マーケティングの本質②	マーケティングの 5 つのステップについて学びます。
第 3 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略①	顧客主導型マーケティング戦略の設計について学びます。
第 4 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 2 章　企業とマーケティング戦略②	マーケティング・プログラムの設計について学びます。
第 5 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造①	競合他社の明確化と競合他社の分析、競合他社に対する自社のポジションの規定について学びます。
第 6 回	テーマ 1 ：マーケティングの本質と市場競争 第 3 章　競争優位の創造②	特定の市場における競争優位を得るための競争的マーケティング戦略について学びます。
第 7 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 4 章　マーケティングの基本枠組み①	STP の S(市場細分化) と T(ターゲティング) について学びます。
第 8 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 4 章　マーケティングの基本枠組み②	STP の P(ポジショニング) と差別化について学びます。
第 9 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト①	マーケティング情報の抽出、カスタマー・インサイトについて学びます。
第 10 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 5 章　マーケティング情報とカスタマー・インサイト②	マーケティング情報の分析と利用、マーケティング・リサーチについて学びます。
第 11 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動①	消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプについて学びます。
第 12 回	テーマ 2 ：顧客価値の発見と理解 第 6 章　消費者の購買行動②	購買者の意思決定プロセスについて学びます。
第 13 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド①	製品とは何か、サービス・マーケティングについて学びます。
第 14 回	テーマ 3 ：第 3 部：顧客価値の創造と提供 第 7 章　製品、サービス、ブランド②	ブランド・エクイティ、ブランディングについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著　『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
①中間レポート
・提出締め切り日の 1 ヵ月前にはテーマを発表します。
・40 点満点で採点します。
＜レポート提出の注意事項＞
・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。
・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
②学期末テスト
・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FD

マーケティング・マネジメント論Ⅱ

竹内　淑恵

市場経営学科専門科目 200 番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
営 2 年 Q～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マーケティング・マネジメントについて学びます。STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）やマーケティングの 4 P（製品、価格、プロモーション、流通）などの伝統的なマーケティング概念、および先進的なマーケティング戦略を習得します。内容は 5 つの主要なテーマで構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

なお、本講義はマーケティング・マネジメント論Ⅰに続いて開講します。Ⅱからの履修も可能ですが、扱うテーマは 3 以降になります。

【到達目標】
・マーケティングの知識とスキルを習得し、マーケティングの重要性と役割を説明できるようになる。
・今日のマーケティングの本質を捉えた、顧客価値と顧客関係のための革新的なフレームワークを理解する。
・課題に取り組むことにより、文章作成力、情報収集と分析力を身につける。
・マーケティング理論やそれに関連したケーススタディを通じて企業経営に対して関心を持つ。
・生活者トレンドや新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」と「DP-5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は 1 回目はオンラインで、2 回目以降は対面で実施します。オンラインに切り替える場合には学習支援システムでお知らせします。
・毎週授業前日の火曜日に、講義資料を学習支援システムの「教材」にアップします。教室での資料配布は行いません。各自ダウンロードしてください。
・授業の進め方と方法については初回授業 (オンラインで実施) で説明します。こちらの資料も上記と同様に「教材」に「ガイダンス資料」というファイル名で掲載する予定です。
・中間レポート課題のテーマは Google Classroom に掲載します。提出先も Google Classroom です。
・Google Classroom への登録が別途必要となります。クラスコード等の詳細は学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。
・ゲストスピーカーによるマーケティング実務の講義を検討していますが、対面ではなく、オンラインによる講義になる可能性が高いです。なお、講演者名、テーマ、日程等の詳細は未定です。決まり次第、お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略①	新製品開発のプロセス、マネジメントについて、また製品ライフサイクル学びます。
第 2 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 8 章　新製品開発と製品ライフサイクル戦略②	製品ライフサイクルの戦略について学びます。
第 3 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供①	サプライ・チェーンと価格提供ネットワーク、チャネル・コンフリクトについて学びます。
第 4 回	テーマ 3 ：顧客価値の創造と提供 第 9 章　マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供②	マーケティング・システム、チャネル設計に関する意思決定について学びます。
第 5 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 10 章　価格設定①	市場状況と価格設定戦略について学びます。
第 6 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 10 章　価格設定②	価格調整戦略、価格変更について学びます。
第 7 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得①①	統合型マーケティング・コミュニケーションについて学びます。
第 8 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 11 章　コミュニケーションによる顧客価値の説得②	マーケティング・コミュニケーションの開発プロセス、予算設定について学びます。
第 9 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ①	広告戦略の展開について学びます。
第 10 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 12 章　広告とパブリック・リレーションズ②	広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学びます。
第 11 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 13 章　人的販売と販売促進①	人的販売、セールス・フォースの管理について学びます。
第 12 回	テーマ 4 ：顧客価値の説得と伝達 第 13 章　人的販売と販売促進②	販売促進について学びます。
第 13 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング①	ダイレクト・マーケティングの捉え方と形態について学びます。
第 14 回	テーマ 5 ：マーケティングの革新 第 14 章　ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング②	オンライン・マーケティングの実施について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・教科書には、基本的な理論の説明やそれに関連する事例の紹介があります。マーケティングを知るには、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどの情報に敏感になること、また、実際の売り場を見ることも大切です。教科書による学習だけでなく、「今、市場で起こっていること」に興味を持ち、自分の目と耳で確認するよう心掛けてください。

【テキスト（教科書）】
・フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人著　『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【参考書】
・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦　『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣アルマ (2016 年)。
・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文編集『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、①+②の合計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。
①中間レポート
・提出締め切り日の 1 ヵ月前にはテーマを発表します。
・40 点満点で採点します。
＜レポート提出の注意事項＞
・レポート課題を作成する際の剽窃行為は厳に慎んでください。web などから文章や図表、画像を引用する場合は URL、記事タイトル、アクセス日を明記してください。
・提出物のファイル名、本文の冒頭に学生証番号と氏名を記載してください。本科目には受講生が多数います。他の受講生の提出物と識別できるよう、各自このルールを守ってください。
・レポート課題は基本的に書かれた内容で評価しますが、指定文字数よりも少ない場合には減点の対象になります。
・中間レポート未提出の場合、成績評価に大きく影響しますので、必ず提出してください。
・一人ひとりにコメントを戻す予定ですが、コメントに基づいて修正・再提出の必要はありません。
②学期末テスト

・学期末テストの期間中に教室にて実施するか、あるいは学習支援システムの「テスト／アンケート」にて実施するかについては現時点では確定できません。詳細は決まり次第お知らせします。
・3 択形式と穴埋め形式、60 点満点です。設問数等の詳細についても上記同様決まり次第お知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
この 3 年間、提出されたレポート課題については、一人ひとりに良い点、改善点などをフィードバックしました。提出したレポートが褒められると励みになった、という声が寄せられました。一人ひとりにコメントを書くのはとても時間がかかりますが、頑張ってフィードバックしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンでは画面が小さく、視聴しづらいので、タブレットやノート PC などを準備の上、受講するようお願いします。

【その他の重要事項】
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱは、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱなどマーケティング系の専門科目の基盤となる科目です。マーケティングに興味のある学生、マーケティング系のゼミに所属する、あるいは所属したいと考えている学生は受講することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論をわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objectives of this course are to learn marketing management. Students will learn the traditional marketing concepts such as STP (segmentation, targeting, positioning), marketing 4P's (product, price, promotion, place), and advanced marketing strategies. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (40%), and term-end examination (60%).

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019 年度以降入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目 200 番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。
なお、マーケティング・リサーチ論Ⅰ（春学期）はインタビュー法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の 2 点である。
①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
＜授業の進め方＞
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

＜教科書による事前学習＞
事前に教科書を読み、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムの「テスト/アンケート」の項目から提出する（採点対象： 3 点 x9 回分=27 点満点）。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する（1 点）。
さらに、講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなる。
そのため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。なお、こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。

＜授業中の課題＞
授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する（採点対象：2 点 x14 回=28 点満点）。

＜事後の課題＞
授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師はいくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、次の授業でフィードバックを行う。なお、授業で紹介し、発言された場合は加点する（1 点）。

＜レポート＞
定性調査を用いた商品企画について、パワーポイントやキーノート等を用いて企画書を作成して、PDF 形式で提出する（採点対象： 45 点満点）。詳細は授業の中で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	テキスト第 1 章：ライオン「トップナノックス」の商品企画プロセス＋教科書について
第 2 回	リサーチの最前線（ゲスト講師①）	「日清食品のマーケティングとリサーチ」深澤 勝義氏（日清食品ホールディングス株式会社　執行役員・CMO 兼欧州総代）講演
第 3 回	インタビュー法	テキスト第 2 章：資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法
第 4 回	観察法	テキスト第 3 章：デザイン企業 IDEO による ATM 開発の観察法
第 5 回	リード・ユーザー法	テキスト第 4 章：フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法
第 6 回	アイデア発想	テキスト第 5 章： TOTO「クラッソ」のアイデア創出 ＋最終レポートの詳細説明
第 7 回	コンセプト開発	テキスト第 6 章：エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発
第 8 回	リサーチの最前線（ゲスト講師②）	「ワークマンの商品企画とリサーチ」林 知幸氏（株式会社ワークマン営業企画部 広報部 部長）講演
第 9 回	プロトタイピング（試作品）	テキスト第 7 章： IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第 10 回	コンセプトテスト（定量調査）	テキスト第 10 章：ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の顧客ニーズの確認
第 11 回	企画書作成	テキスト第 14 章：フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成
第 12 回	プレゼンテーション	テキスト第 15 章：グリコ「メンズポッキー」のプレゼンテーション
第 13 回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート作成者によるプレゼンテーション
第 14 回	優秀レポートの報告	優秀レポート作成者によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、電子テキストの次回の章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムに提出する。また、授業終了後は、授業の感想や質問を学習支援システムに提出する。さらに、レポートを授業時間外に作成して、学期末に提出する。

【テキスト（教科書）】
教科書として、『1 からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012 年）の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト（税別生協定価 2,000 円）を購入のこと。なお、紙版（税別定価 2,400 円）もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキストを購入後に、以下の URL からログインして、電子テキスト（EDX UniText）を利用する。
https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku
なお、組織コードは、10035 である。ログイン ID、パスワードは、購入後に設定できる。

【参考書】
ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティン グ・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・事前学習（教科書を読んでのコメント）： 27% 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）： 28%
・レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）： 45%
・授業中の発言：加点（1 点）あり。
・授業後の課題（学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出）：授業で紹介時に、発言された場合には加点（1 点）する。
・早期レポートの提出者・報告者：全体のレポートの質向上のために、早期提出者には全員加点（10 点）ありだが、その目的のため、当日参加（授業中課題の提出）が条件。教員の指名した優秀レポートの報告者には 2 点加点。
・最終レポートの報告者：教員の指名した優秀レポートの報告者には 2 点加点。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、2 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
　複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

Grades will be determined by prior study (27%), in-class exercises (28%), and a final report (45%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019 年度以降入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目 200 番台　2〜4（市場経営学科）3〜4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方向の講義と簡単な演習を行う。
なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の 2 点である。
①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
＜授業の進め方＞
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。
演習は、無料統計ソフト R を用いるが、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。難しい数式は、使いませんので安心ください。

＜授業中の課題＞
授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する（採点対象 56%）。講 師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜事後課題＞
授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講 師は、いくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜レポート＞
主に定量調査を用いた商品（サービス）の調査書を、パワーポイントやキーノート等を用いて作成して、PDF 形式で提出する。詳細は授業の中で説明する（採点対象 44%）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	**定量調査の概要** ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第 2 回	リサーチデザイン	**リサーチプロセスを知ろう！** ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方
第 3 回	データの特徴	**お弁当の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう！** ・「平均」 ・「標準偏差」
第 4 回	データの関係①	**SNS のフォロワー数と投稿数の関係を知ろう！** ・相関分析 ・無相関検定
第 5 回	データの関係②	**バナー広告とクリック有無の関係を調べよう！** ・独立性の検定 ・適合度の検定
第 6 回	データの差	**クーポン配信前後の購入数を比較して、クーポンの効果があるかを検証しよう！** ・t 検定
第 7 回	因果関係	**ドリンクの売上に影響を与えている要因は何だろうか！** ・回帰分析
第 8 回	データの集約	**ノートパソコンの価値を要約しよう！** ・因子分析
第 9 回	報告書	**SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書など** ・レポートの説明
第 10 回	アンケート	**アンケートのつくり方** ・尺度、グーグルアンケート
第 11 回	サンプリング	**大学生対象時のサンプルの選び方** ・サンプリング
第 12 回	**リアルタイム講義** リサーチの最前線（ゲスト講演）	**高垣敦郎氏（元ハウス食品 お客様生活研究センター長）** ・講演と質疑 ・高垣氏の著書は参考文献に記載
第 13 回	**リアルタイム講義** 早期優秀レポートの報告	**早期レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有
第 14 回	**リアルタイム講義** 優秀レポートの報告	**優秀レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】
恩藏直人・冨田健司『1 からのマーケティング分析 (第２版)』碩学舎、2022 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年
高垣敦郎『「おいしい」のマーケティングリサーチ』碩学舎、2015 年

【成績評価の方法と基準】
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）： 56%
・レポート（いずれかの定量調査と分析結果）： 44%
・授業中の発言：加点あり
・授業後の課題（学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出）：教員が紹介したコメントには加点あり。
・早期レポートの提出・報告者：全員加点あり（早期レポート制度）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。
③基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】
第 2 回以降は、統計ソフト R を利用するため、パソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.
(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (56%) and reports (44%).

MAN200FD

製品開発論Ⅰ

田路　則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】
以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。
ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
ハイテク製品の構造
・統合される多様な技術知識
・コスト構造
製品開発のプロセス
・研究、開発、製造、販売までのプロセス
・コンセプト・デザインの重要性
・マニュファクチャリング（製造）
イノベーション
・市場と技術の関係
・イノベーションの定義
・ドミナント・デザインの決定
製品開発戦略
・競争戦略論と資源蓄積論
・ライセンシング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
製品開発組織
・研究所と事業部
・プロジェクト・マネージャーの仕事
・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。
ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。
春学期はラディカルイノベーション、コモディティ化、技術蓄積のテーマを扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	時計 (セイコーのクオーツ 1)	ラディカル・イノベーションとインクリメンタル・イノベーション
第 2 回	時計 (セイコーのクオーツ 2)	コモディティ化と統合型企業のジレンマ
第 3 回	時計 (セイコーのクオーツ 3)	コモディティ化の考察解説とその後のイノベーション
第 4 回	時計 (カシオの G-Shock1)	製品開発と事業化
第 5 回	時計 (カシオの G-Shock2)	グローバルブランドの構築
第 6 回	スイッチ (NKK1)	技術蓄積
第 7 回	スイッチ (NKK2)	海外展開と新市場創出
第 8 回	アライアンスとオープン・イノベーション	戦略的提携と外部資源の活用
第 9 回	医療機器 (テルモ 1)	組織改革
第 10 回	医療機器 (テルモ 2)	技術蓄積
第 11 回	医療機器 (テルモ 3)	事業ドメインの構築
第 12 回	炭素繊維 (東レ 1)	素材の製品開発と市場開拓
第 13 回	炭素繊維 (東レ 2)	川上から川下に広がる事業ドメイン
第 14 回	液晶テレビ (シャープ)	電子半導体産業におけるコモディティ化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2 時間程度の予習と、受講後の復習に 2 時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①「イノベーション・マネジメント」近能善範・高井文子　新世社　2010 年
②『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子　東洋経済新報社　2010 年
③『MOT“技術経営” 入門』延岡健太郎 日経新聞社 2006 年

【成績評価の方法と基準】
全部で 4 回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計 (50%) と最終課題（50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】
なじみのない製品を扱う回もあるが、映像や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンドであるため、PC と wifi 環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】
関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号,pp172-184,2017 年.
③「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30 巻,pp.312-325,2016 年
④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014
⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著　白桃書房,pp.133 ～ 159,2013 年.
⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774.2011 年
⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年
⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年
⑨『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】: About four small reports and a final report/ test

MAN200FD

製品開発論Ⅱ

田路　則子

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC、TV、スマートフォン等ハイテク製品の進歩は目覚しく、我々の生活に便益を与えている。そのハイテク製品とは、どのような技術知識が統合されているのか、製品として世に出るまでにどのようなプロセスをたどるのか、どのような組織で製品開発は行われているのかを学ぶ。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である。

【到達目標】
以下に関する知識を習得し、将来、製品開発に携わる職務に就いた際に役立つ考察力と判断力の基礎を固めることが目標である。
ハイテク製品を生み出す製品開発を学ぶ意義
・サイエンスとビジネスの関係、ハイテク製品がもたらす便益、製品開発を文科系が学ぶ意義
ハイテク製品の構造
・統合される多様な技術知識
・コスト構造
製品開発のプロセス
・研究、開発、製造、販売までのプロセス
・コンセプト・デザインの重要性
・マニュファクチャリング（製造）
イノベーション
・市場と技術の関係
・イノベーションの定義
・ドミナント・デザインの決定
製品開発戦略
・競争戦略論と資源蓄積論
・ライセンシング、アウトソーシング、アライアンス、ハイテク・スタートアップ
製品開発組織
・研究所と事業部
・プロジェクト・マネージャーの仕事
・グローバル市場への対応

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
原則、オンデマンド形式の講義となる。解説をする講義の映像を試聴しながら、ビジネスケースを読んだり、ビジネス映像を見て理解を深める。製品の感覚や製品開発の仕事のイメージが持てるようなメニューを用意している。
ほとんどの事例は、ビジネスケースが用意されているので、指示に従って、事前または事後に読むことが望ましい。ケースは大学院レベルのものを使用しているので、かなり難解である。ビジネス映像と解説講義を試聴した後に、受講生は設問に対する考察を考え、提出する必要がある。
秋学期はビジネスプラットフォーム、グローバル化、日米のスタートアップの事例を扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	カメラ (コダック)	イノベーションとドミナント・デザイン
第 2 回	カメラ (コダックと富士フィルム	イノベーターのジレンマ
第 3 回	イメージセンサー (ソニー)	イノベーターズ・ジレンマと統合型企業のジレンマ
第 4 回	PC(Apple)	ＰＣの誕生と進化
第 5 回	PC&スマートフォン (Apple)	ビジネス・プラットフォームの構築
第 6 回	ビジネスプラットフォーム	ビジネス・プラットフォーム
第 7 回	空調機 (ダイキン工業 1)	欧州におけるローカリゼーション一
第 8 回	空調機 (ダイキン工業 2)	ダイキンのグローバル展開と人材育成・中国展開
第 9 回	スタートアップとは	スタートアップとは
第 10 回	シリコンバレーのスタートアップ 1	シリコンバレーの起業エコシステム
第 11 回	シリコンバレーのスタートアップ 2	シリコンバレーの IT ビジネス
第 12 回	日本のスタートアップ 1	IT ビジネスの起業プロセスーグラモ
第 13 回	日本のスタートアップ 2	半導体ビジネスの起業プロセスー RAYTEX
第 14 回	シリコンバレーのスタートアップ 3	半導体ビジネスの連続起業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前または事後にビジネスケースを読む必要がある。事前にケースを読んだり、課題提出のために、2 時間程度の予習と、受講後の復習に 2 時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
②『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子　東洋経済新報社　2010 年

【成績評価の方法と基準】
全部で 4 回程度の課題の提出及び最終課題（またはテスト）によって評価する。毎回の課題の合計 (50%) と最終課題（50%)。なお、映像とビジネスケースを理解しなければ、課題に答えることは難しいので、すべてを習得してほしい。

【学生の意見等からの気づき】
なじみのない製品を扱う回もあるが、VTR や写真等を使うことにより、「製品を理解することができた」という意見は多かった。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンドであるため、PC と wifi 環境がなければ、学習できない。

【その他の重要事項】
関連科目は、技術管理論Ⅰ/Ⅱ、経営戦略論Ⅰ/Ⅱ、国際経営論Ⅰ/Ⅱ等

【教員の研究テーマ】
「イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「グローバル戦略」
「ハイテク・スタートアップの成長」

【主要研究業績】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
②「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント･半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄･田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号,pp172-184,2017 年.
③「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30 巻,pp.312-325,2016 年
④ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014
⑤『ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著　白桃書房,pp.133 ～ 159,2013 年.
⑥「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774.2011 年
⑦『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年
⑧「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年
⑨『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】: Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.
【Learning activities outside of classroom】: Students have to read business cases before or after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】: About four small reports and a final report/test

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）

山嵜　輝

市場経営学科専門科目 200 番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第 4 回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第 5 回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第 6 回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第 7 回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第 8 回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第 9 回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第 10 回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第 11 回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第 12 回	債券と金利の関係（1）	スポットレート、パーレート、短期金利
第 13 回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第 14 回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）

山嵜　輝

市場経営学科専門科目 200 番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門 I の復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引（1）	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論（1）	１期間２項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論（4）	２期間２項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門 I 、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I /Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論 I /Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD

投資入門（2019 年度以降入学者）

岸本　直樹

市場経営学科専門科目 200 番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では，債券および株式について，「ファイナンス入門」で学んだ内容を定着させるだけでなく、さらに発展した内容を学習します。たとえば，債券については，仮に利子率がほんの少し変化したとき，分析対象の債券の価格がどの程度変化するのかを表す指標（デュレーションと呼ばれます）を学習します。また，株式については，実務家に多用される様々な指標を，実際に存在する企業を例にとって学びます。さらに，海外の債券市場や株式市場についても言及します。
　ちなみに，債券や株式の価格は，それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか，経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きます。したがって，ファイナンスでは，それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば，効率的市場仮説と呼ばれる仮説は，それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では，効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

【到達目標】
次の 5 つを到達目標に掲げます。
①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を促し，それを的確に適用することができる。
②デュレーション，イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を促し，それを複雑な問題に対して適用することができる。
④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によって授業を進めます。ただし，授業中に学生が公式を数値例に適用する時間を設けます。さらに，学生が Excel を利用できる環境が整っていれば，授業中に学生が Excel を使って計算問題を解く時間を設けます。なお，授業内容がしっかり理解できているかどうかを確認するために，学期の中途に簡単なクイズを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習。
第 2 回	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
第 3 回	金利計算の実例	住宅ローンや年金に関して種々の金利計算を学ぶ。
第 4 回	債券の基礎知識（1）	債券に関する基本用語，債券の種類，債券市場の概説。
第 5 回	債券の基礎知識（2）	債券の利回り計算，利回りと債券価格の関係。
第 6 回	債券の基礎知識（3）	債券投資のリスクと債券属性。
第 7 回	利子率に対する債券価格の感応度（1）	デュレーションの導出，計算方法，性質。
第 8 回	利子率に対する債券価格の感応度（2）および金利の期間構造（1）	デュレーションの性質の続き。さらに，イールドカーブの概説。
第 9 回	金利の期間構造（2）	イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算。
第 10 回	株式と株式市場	株式と株式市場の概説。
第 11 回	株式評価	配当割引モデルの計算，性質，拡張。
第 12 回	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法，株式投資のリスクとリターンについて解説する。
第 13 回	効率的市場仮説	効率的市場仮説を介した情報と証券価格の検討。
第 14 回	復習	この科目で扱った内容全体を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。この授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
評価は，期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
学生との Q&A をさらに活性化する。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン，タブレット，あるいは，スマートフォンのいずれかを用意してください。ちなみに，iPhone 用の Excel は無料です（他のスマートフォンについては知りません）。

【その他の重要事項】
授業中の私語は厳禁です。

【関連科目】
ファイナンス入門（必須），ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ，Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ，金融論Ⅰ/II

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, students not only review the materials taught in Introduction to Finance but also learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students learn how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios that are widely used by practitioners. Furthermore, students study bond and stock markets in foreign countries.
In general, prices of bonds and stocks change abruptly as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.
Learning objectives: The following five objectives are set for this course.
(1) To reinforce the understanding of the knowledge about bonds learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it effectively.
(2) To acquire the knowledge of duration and yield curve analysis.
(3) To reinforce the understanding of stock valuation methods learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it to more complex problems.
(4) To learn major investment strategies for stocks.
(5) To learn the efficient market hypothesis.
Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on them for each class.
Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN200FD

ポートフォリオ理論入門（2019 年度以降入学者）

岸本　直樹

市場経営学科専門科目 200 番台　2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざる得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では，投資に当たって，投資対象である資産のどの点に注目し，どのような方法で意思決定すればよいのかについて，学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に，「ポートフォリオ理論入門」の後半では，CAPM と呼ばれるモデルを使って，様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を学習します。

【到達目標】
「ポートフォリオ理論入門」の前半では，資金をどのように資産に配分するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また，後半では，CAPM と呼ばれる，資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。
①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
②ポートフォリオ理論の概要を理解し，第三者に説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト（クイズ）を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	収益率の期待値，分散，標準偏差	収益率，確率変数を説明した後、期待値，分散，標準偏差の計算方法を学習します。
第 2 回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し，計算方法を学びます。
第 3 回	相関係数	相関係数について学習します。
第 4 回	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第 5 回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値，分散，標準偏差を計算する公式を学習します。
第 6 回	ポートフォリオ理論（3）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第 7 回	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第 8 回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第 9 回	ポートフォリオ理論（6）	ポートフォリオの最適化について学習します。
第 10 回	ポートフォリオ理論（7）	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
第 11 回	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
第 12 回	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習したあと，資本資産評価モデルの導出について学習します。
第 13 回	効率的市場仮説	情報が資産価格に及ぼす影響を，効率的市場仮説の観点から検討します。
第 14 回	授業内容全体の復習	この授業で学習した内容を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業ごとに 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
評価は，期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
〔予備知識〕
授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお，「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。
なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets dto look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.
Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.
(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.
(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.
(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.
Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

MAN300FD

マーケティング・リサーチⅠ（2018 年度以前入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。本授業は、インタビュー法や観察法など、定性的調査の理論と実践を学ぶことを目的としている。
なお、マーケティング・リサーチ論Ⅰ（春学期）はインタビュー法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の 2 点である。
①ケースをもとに、インタビュー法や観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
＜授業の進め方＞
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

＜教科書による事前学習＞
事前に教科書を読み、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムの「テスト/アンケート」の項目から提出する（採点対象 28%）。講師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。
さらに、講師が、授業の補足情報を、電子テキストにアップするので、予習や復習がしやすくなる。
そのため、教科書は、大学生協の電子テキストを購入すること。なお、こうした双方向型の授業をおこなうために、講師は生協より電子テキストへのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうける場合がある。

＜授業中の課題＞
授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する（採点対象 28%）。

＜事後の課題＞
授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講師はいくつか選び、匿名（ニックネーム）にして、次の授業でフィードバックを行う。なお、授業で紹介し、発言された場合は加点する。

＜レポート＞
定性調査を用いた商品企画について、パワーポイントやキーノート等を用いて企画書を作成して、PDF 形式で提出する（採点対象 44%）。詳細は授業の中で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	テキスト第 1 章：ライオン「トップナノックス」の商品企画プロセス＋教科書について
第 2 回	リサーチの最前線（ゲスト講師①）	「日清食品のマーケティングとリサーチ」深澤 勝義氏（日清食品ホールディングス株式会社　執行役員・CMO 兼 欧州総代）講演
第 3 回	インタビュー法	テキスト第 2 章：資生堂「マジョリカマジョルカ」のインタビュー法
第 4 回	観察法	テキスト第 3 章：デザイン企業 IDEO による ATM 開発の観察法
第 5 回	リード・ユーザー法	テキスト第 4 章：フェリシモ「生活雑貨大賞」のリード・ユーザー法
第 6 回	アイデア発想	テキスト第 5 章： TOTO「クラッソ」のアイデア創出 ＋最終レポートの詳細説明
第 7 回	コンセプト開発	テキスト第 6 章：エースコック「JANJAN ソース焼きそば」のコンセプト開発
第 8 回	リサーチの最前線（ゲスト講師②）	「ワークマンの商品企画とリサーチ」林 知幸氏（株式会社ワークマン営業企画部 広報部 部長）講演
第 9 回	プロトタイピング（試作品）	テキスト第 7 章： IDEO「ショッピング・カート」のプロトタイピング
第 10 回	コンセプトテスト（定量調査）	テキスト第 10 章：ハウス「C1000 ビタミンレモンコラーゲン」の顧客ニーズの確認
第 11 回	企画書作成	テキスト第 14 章：フジッコ「フルーツセラピー」の企画書作成
第 12 回	プレゼンテーション	テキスト第 15 章：グリコ「メンズポッキー」のプレゼンテーション
第 13 回	早期優秀レポートの報告	早期優秀レポート作成者によるプレゼンテーション
第 14 回	優秀レポートの報告	優秀レポート作成者によるプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として、電子テキストの次回の章を読んで、該当章の重要なキーワードや、その理由を学習支援システムに提出する。また、授業終了後は、授業の感想や質問を学習支援システムに提出する。さらに、レポートを授業時間外に作成して、学期末に提出する。

【テキスト（教科書）】
教科書として、『1 からの商品企画』（西川英彦・廣田章光編著、碩学舎 2012 年）の大学生協の電子テキストを使用する。大学生協にて、電子テキスト（税別生協定価 2,000 円）を購入のこと。なお、紙版（税別定価 2,400 円）もあるが、授業やフィードバックは電子テキストをもとに進めるので注意すること。

法政大学生協のホームページを確認して、早めに購入すること。
https://www.univcoop.jp/hosei/order/order_66.html

電子テキストを購入後に、以下の URL からログインして、電子テキスト（EDX UniText）を利用する。
https://app.d-text-service.jp/api/v2/soshiki-cd-nyuryoku
組織コードは、10035 です。ログイン ID、パスワードは、購入後に設定できます。
https://app.d-text-service.jp/browser/start?uneidantai_ryakugo=UC&soshiki_cd=10035

【参考書】
ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・事前学習（教科書を読んでのコメント）： 28% 授業で紹介時に、発言された場合には加点する。
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）： 28%
・レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）： 44%
・授業中の発言：加点あり。
・授業後の課題（学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出）：授業で紹介時に、発言された場合には加点する。
・早期レポートの提出・報告者：全員加点あり（早期レポート制度）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、2 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
電子テキストを利用するため、パソコンあるいはタブレットを用意すること。スマホでも閲覧可能だが、パソコンやタブレットを推奨する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through many empirical examples of product development. In order to make it easier for students who learn marketing research for the first time to understand, the lecture will be based on actual cases and specific examples of research on the theme of "product development" where marketing research is often used.

The purpose of this class is to learn the theory and practice of qualitative research, such as interview and observation methods. Students are required to read the textbook before the class, submit comments after the class, and submit a report (a proposal for product planning) at the end of the semester.

Grades will be determined by prior study (28%), in-class exercises (28%), and a final report (44%).

In Marketing Research I (spring semester), students will learn qualitative research such as interview methods, and in Marketing Research II (fall semester), students will learn quantitative research such as questionnaire creation and data analysis. By studying both, a synergistic effect can be expected.

MAN300FD

マーケティング・リサーチⅡ（2018 年度以前入学者）

西川　英彦

市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。
はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方向の講義と簡単な演習を行う。
なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】
到達目標は、以下の 2 点である。
①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量調査のスキルを身につける。
②簡単な定量調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
＜授業の進め方＞
授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。
演習は、無料統計ソフト R を用いるが、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。講義では、学生アシスタントの操作画面を映しつつ、説明する。難しい数式は、使いませんので安心ください。

＜授業中の課題＞
授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に簡単な課題に回答する（採点対象 56%）。講 師は、重要なコメントをいくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜事後課題＞
授業後に、学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出する。講 師は、いくつか選び、匿名 (ニックネーム) にして、電子テキストにアップする。授業で紹介時に、発言された場合には加点する。

＜レポート＞
主に定量調査を用いた商品（サービス）の調査書を、パワーポイントやキーノート等を用いて作成して、PDF 形式で提出する。詳細は授業の中で説明する（採点対象 44%）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	定量調査の楽しさ	**定量調査の概要** ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第 2 回	リサーチデザイン	**リサーチプロセスを知ろう！** ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方
第 3 回	データの特徴	**お弁当の売上の「平均」と「標準偏差」を知ろう！** ・「平均」 ・「標準偏差」
第 4 回	データの関係①	**SNS のフォロワー数と投稿数の関係を知ろう！** ・相関分析 ・無相関検定
第 5 回	データの関係②	**バナー広告とクリック有無の関係を調べよう！** ・独立性の検定 ・適合度の検定
第 6 回	データの差	**クーポン配信前後の購入数を比較して、クーポンの効果があるかを検証しよう！** ・t 検定
第 7 回	因果関係	**ドリンクの売上に影響を与えている要因は何だろうか！** ・回帰分析
第 8 回	データの集約	**ノートパソコンの価値を要約しよう！** ・因子分析
第 9 回	報告書	**SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書など** ・レポートの説明
第 10 回	アンケート	**アンケートのつくり方** ・尺度、グーグルアンケート
第 11 回	サンプリング	**大学生対象時のサンプルの選び方** ・サンプリング
第 12 回	**リアルタイム講義** リサーチの最前線（ゲスト講演）	**高垣敦郎氏（元ハウス食品 お客様生活研究センター長）** ・講演と質疑 ・高垣氏の著書は参考文献に記載
第 13 回	**リアルタイム講義** 早期優秀レポートの報告	**早期レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有
第 14 回	**リアルタイム講義** 優秀レポートの報告	**優秀レポートの報告とフィードバック** ・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】
恩藏直人・冨田健司『1 からのマーケティング分析 (第２版)』碩学舎、2022 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年
高垣敦郎『「おいしい」のマーケティングリサーチ』碩学舎、2015 年

【成績評価の方法と基準】
・授業中の課題（授業中に、学習支援システムの「テスト/アンケート」への回答）： 56%
・レポート（いずれかの定量調査と分析結果）： 44%
・授業中の発言：加点あり
・授業後の課題（学習支援システムの「テスト/アンケート」に感想や質問を提出）：教員が紹介したコメントには加点あり。
・早期レポートの提出・報告者：全員加点あり（早期レポート制度）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。
①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。
②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。
③基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】
第 2 回以降は、統計ソフト R を利用するため、パソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline (in English)】
Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

The goals are as follows.

(1) To acquire skills in quantitative research, such as questionnaire creation and data analysis, based on specific examples.
(2) To be able to conduct simple quantitative research and create a report to verify a hypothesis for product planning.

In addition to the class time, students are expected to review this class and prepare a final report. The standard preparation and review time for this class is one hour each.

Grades will be determined by in-class exercises (56%) and reports (44%).

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018 年度以前入学者）

山岩　輝

市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
(1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
(2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
(3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
(4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第 4 回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第 5 回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第 6 回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第 7 回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第 8 回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第 9 回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第 10 回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第 11 回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第 12 回	債券と金利の関係（1）	スポットレート、パーレート、短期金利
第 13 回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第 14 回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
(1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
(2) フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
(3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018 年度以前入学者）

山岩　輝

市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の 4 つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門 I の復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引（1）	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論（1）	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論（4）	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門 I 、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I /Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論 I /Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

証券経済論Ⅰ（2018 年度以前入学者）

岸本　直樹

市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では，債券および株式について，「ファイナンス入門」で学んだ内容を定着させるだけでなく、さらに発展した内容を学習します。たとえば，債券については，仮に利子率がほんの少し変化したとき，分析対象の債券の価格がどの程度変化するのかを表す指標（デュレーションと呼ばれます）を学習します。また，株式については，実務家に多用される様々な指標を，実際に存在する企業を例にとって学びます。さらに，海外の債券市場や株式市場についても言及します。
ちなみに，債券や株式の価格は，それらを発行する企業あるいは組織に関するニュースのほか，経済・社会全般に関するニュースによって大きく動きます。したがって，ファイナンスでは，それらの情報と価格との関係に強い関心を持っています。たとえば，効率的市場仮説と呼ばれる仮説は，それらの情報は債券あるいは株式の価格に瞬時にかつ正確に織り込まれると主張します。この科目では，効率的市場仮説を介して情報が証券価格に及ぼす影響を検討します。

【到達目標】
次の 5 つを到達目標に掲げます。
①「ファイナンス入門」で学んだ債券に関する基礎的知識の定着を促し，それを的確に適用することができる。
②デュレーション，イールドカーブについて基礎的な知識を習得する。
③「ファイナンス入門」で学んだ株式評価の手法の定着を促し，それを複雑な問題に対して適用することができる。
④株式に対する主な投資方法について基礎的な知識を習得する。
⑤効率的市場仮説について基礎的な理解を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によって授業を進めます。ただし，授業中に学生が公式を数値例に適用する時間を設けます。さらに，学生が Excel を利用できる環境が整っていれば，授業中に学生が Excel を使って計算問題を解く時間を設けます。なお，授業内容がしっかり理解できているかどうかを確認するために，学期の中途に簡単なクイズを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	将来価値と現在価値	将来価値と現在価値の復習。
第 2 回	様々な複利期間に関する金利計算	様々な複利期間に関して将来価値と現在価値を解説する。
第 3 回	金利計算の実例	住宅ローンや年金に関して種々の金利計算を学ぶ。
第 4 回	債券の基礎知識（1）	債券に関する基本用語，債券の種類，債券市場の概説。
第 5 回	債券の基礎知識（2）	債券の利回り計算，利回りと債券価格の関係。
第 6 回	債券の基礎知識（3）	債券投資のリスクと債券属性。
第 7 回	利子率に対する債券価格の感応度（1）	デュレーションの導出，計算方法，性質。
第 8 回	利子率に対する債券価格の感応度（2）および金利の期間構造（1）	デュレーションの性質の続き。さらに，イールドカーブの概説。
第 9 回	金利の期間構造（2）	イールドカーブに基づいた債券の理論価格の計算。
第 10 回	株式と株式市場	株式と株式市場の概説。
第 11 回	株式評価	配当割引モデルの計算，性質，拡張。
第 12 回	株式評価と株式投資	マルチプル・メソッドの概説とその適用のほか、投資家に多用される株式投資の方法，株式投資のリスクとリターンについて解説する。
第 13 回	効率的市場仮説	効率的市場仮説を介した情報と証券価格の検討。
第 14 回	復習	この科目で扱った内容全体を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。この授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
評価は，期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
学生との Q&A をさらに活性化する。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン，タブレット，あるいは，スマートフォンのいずれかを用意してください。ちなみに，iPhone 用の Excel は無料です（他のスマートフォンについては知りません）。

【その他の重要事項】
授業中の私語は厳禁です。

【関連科目】
ファイナンス入門（必須），ポートフォリオ理論入門，コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ，Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ，金融論Ⅰ/II

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, students not only review the materials taught in Introduction to Finance but also learn more advanced topics about bonds and stocks than taught in Introduction to Finance. For example, students learn how a bond price changes relative to a small change in market interest rates, which is measured by what is called duration. Or students study financial ratios that are widely used by practitioners. Furthermore, students study bond and stock markets in foreign countries.
In general, prices of bonds and stocks change abruptly as new information about the companies or institutions that have issued those bonds and stocks enters into the market. A hypothesis called efficient market hypothesis claims that information will be incorporated into the prices of bonds and stocks immediately and correctly. The efficient market hypothesis is the last topic covered in this course.
Learning objectives: The following five objectives are set for this course.
(1) To reinforce the understanding of the knowledge about bonds learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it effectively.
(2) To acquire the knowledge of duration and yield curve analysis.
(3) To reinforce the understanding of stock valuation methods learned in "Introduction to Finance" so that students can apply it to more complex problems.
(4) To learn major investment strategies for stocks.
(5) To learn the efficient market hypothesis.
Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on them for each class.
Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD

証券経済論Ⅱ（2018 年度以前入学者）

岸本　直樹

市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざる得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では，投資に当たって，投資対象である資産のどの点に注目し，どのような方法で意思決定すればよいのかについて，学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に，「ポートフォリオ理論入門」の後半では，CAPM と呼ばれるモデルを使って，様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を学習します。

【到達目標】
「ポートフォリオ理論入門」の前半では，資金をどのように資産に配分するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また，後半では，CAPM と呼ばれる，資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。
①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
②ポートフォリオ理論の概要を理解し，第三者に説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP1-4」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト（クイズ）を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	収益率の期待値，分散，標準偏差	収益率，確率変数を説明した後、期待値，分散，標準偏差の計算方法を学習します。
第 2 回	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し，計算方法を学びます。
第 3 回	相関係数	相関係数について学習します。
第 4 回	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法(ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
第 5 回	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値，分散，標準偏差を計算する公式を学習します。
第 6 回	ポートフォリオ理論（3）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
第 7 回	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
第 8 回	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
第 9 回	ポートフォリオ理論（6）	ポートフォリオの最適化について学習します。
第 10 回	ポートフォリオ理論（7）	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
第 11 回	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
第 12 回	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習したあと，資本資産評価モデルの導出について学習します。
第 13 回	効率的市場仮説	情報が資産価格に及ぼす影響を，効率的市場仮説の観点から検討します。
第 14 回	授業内容全体の復習	この授業で学習した内容を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業ごとに 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
評価は，期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
〔予備知識〕
授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお，「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。
なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets dto look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.
Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.
(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.
(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.
(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.
Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN300FD

Excel で学ぶファイナンス理論 I

山岩　輝

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、Microsoft 社の Excel を分析ツールとして使いながら、ファイナンスの実践的な分析手法を学びます。実際の金融取引や証券投資では、知識や理論を熟知しているだけでは不十分であり、実際のデータに基づく様々な計算が必要になります。Excel を使うことで、ファイナンスに関連する計算が簡単に出来るだけでなく、難しい理論でも直感的に理解できるという利点があります。本授業の目的は、リアルデータを取得して、ファイナンスに関する諸々の計量分析ができるようになることです。今回は（1）企業や株式の計量分析、（2）株式投資の意思決定、（3）債券価格と利回り計算、（4）不動産投資への応用、などをテーマに扱います。金融業界を志す学生はもちろんのこと、株式投資や個人の資産運用などに興味のある学生に履修をお薦めします。個人の資産形成における投資理論の役割についても詳しく解説し、近年話題となっている老後 2,000 万円問題や FIRE（Financial Independence, Retire Early）、つみたて NISA の活用方法なども考察します。初歩から始まりますが、授業後半には本格的な分析に取り組む予定です。

【到達目標】
次の 4 つを到達目標に掲げます。
（1）ファイナンス理論を正確かつ直感的に説明できる。
（2）金融データの特徴を理解し、分析に必要なデータを取得することができる。
（3）Excel を使って債券と金利に関する分析ができる。
（4）Excel を使って株式投資の意思決定に関する分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施しますが、初回のみオンライン授業となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。初回オンライン授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。講義と Excel 演習を交互に行うことで授業を進めます。資料を用意しますが、黒板（ホワイトボード）にも板書するので、必要に応じてノートをとってください。授業内で Excel 演習の課題のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	将来価値と現在価値（講義）	キャッシュフローと矢印図、将来価値と現在価値、割引因子と連続複利
第 3 回	将来価値と現在価値（Excel 演習）	Excel による将来価値と現在価値の計算
第 4 回	債券と金利の関係（講義）	割引債と利付債の価格、複利最終利回りと所有期間利回り
第 5 回	債券と金利の関係（Excel 演習）	Excel による債券価格と利回りの計算
第 6 回	スポットレートとフォワードレート（講義）	スポットレート、フォワードレート、パーレート、ブートストラップ法
第 7 回	スポットレートとフォワードレート（Excel 演習）	Excel によるスポットレート、フォワードレート、パーレートなどの計算
第 8 回	不動産投資と REIT（講義）	マンション投資と内部収益率、REIT（Real Estate Investment Trust）とは？
第 9 回	不動産投資と REIT（Excel 演習）	Excel によるマンション投資の利回り計算、REIT と不動産投資の比較分析
第 10 回	配当割引モデルによる株式分析（講義）	配当割引モデルによる理論株価と株式分析
第 11 回	配当割引モデルによる株式分析（Excel 演習）	Excel による理論株価や期待収益率の計算、同業他社の比較分析
第 12 回	残余利益モデルによる株式分析（講義）	残余利益モデルによる理論株価と株式分析
第 13 回	残余利益モデルによる株式分析（Excel 演習）	Excel による理論株価や期待収益率の計算、同業他社の比較分析
第 14 回	株式分析の総合演習（Excel 演習）	Excel による株式投資分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Excel 演習の課題をしっかりと完成させてください。指定した参考書を併用すると授業の理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。学習支援システムから授業資料を配付します。

【参考書】
（1）藤林宏 他、『エクセルで学ぶファイナンス 証券投資分析 第 3 版』、2009 年、金融財政事情研究会
（2）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
（4）伊藤敬介 他、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
Excel 演習の課題（70 %）と平常点（30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生は楽しんで授業の課題に取り組んでいるようなので、引き続き実践的で楽しい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業時間外の学習のために、Excel の使える PC を用意してください。PC を所有していない学生は大学の施設や機器を利用してください。

【その他の重要事項】
「Excel で学ぶファイナンス理論」はⅠとⅡを毎年交互に開講しています。今年度はⅠの開講となります。

【関連科目】
ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a practical theory of finance with Microsoft Excel as an analytical tool. [Learning objective] The objective of the course is to analyze financial markets based on real market data by using Excel. The four major subjects are: (1) quantitative analysis of individual firms and stocks; (2) rational decision making on stock investments; (3) computation of bond prices and yield to maturity; and (4) measuring the profitability of property investment. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises with Excel: 70%, in class contribution: 30%.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

秋友　一広

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】

本授業終了後は下記の能力が備わる:

1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、“Your Career in Business”（教科書第１７章 P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケテイング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Business の説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q & A, Discussion ＊チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today‘s Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers‘ Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第 9 回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括

第 10 回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q & A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendix の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点：
毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと
カメラ・マイク付き PC とハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。

実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。 2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor‘s years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

秋友　一広

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】
本授業終了後は下記の能力が備わる:
1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、"Your Career in Business"（教科書第１７章 P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケテイング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Business の説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q & A, Discussion ＊チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today's Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第 9 回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 10 回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q & A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendix の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点：毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと
カメラ・マイク付き PC とハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。 2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor‘s years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

岡本　慶子

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】
日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2 回目以降の授業は対面を基本とします。
毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。
内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますが、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 対面・オンライン 選抜（予定）	Course overview Self Introduction
第 2 回	An Appreciation Asset vs A Depreciation Asset	A Letter from CEO of J.P Morgan to A Pretty Girl 「第 2 外国語としての英語」
第 3 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 1	Vineyard Vines Markets the Good Life
第 4 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	Vineyard Vines Markets the Good Life AI 翻訳
第 5 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	"High Context vs Low Context"
第 6 回	Solving an Ethical Controversy 1	Banning Sugary Drinks
第 7 回	Solving an Ethical Controversy 2	Justify your ideas
第 8 回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	Pepsio Brands Target Different Markets
第 9 回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo vs Coca Cola
第 10 回	Global Marketing 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第 11 回	Global Marketing 2	Video by Kellogg CEO
第 12 回	Kellogg Group Project 1	Kellogg Group Project
第 13 回	Kellogg Group Project 2	Kellogg Group Project Video recording 期末小レポート（日本語）
第 14 回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前々日の 23:59 までに授業支援システムで提出
宿題１．課題の予習、復習、グループワークの準備
宿題２．単語帳、質問
宿題３．数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等は Hoppi で配布します。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.
2 冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、予習、宿題の提出　40 %
グループワークと個人ワーク（プレゼン、宿題含む）　40 %
期末テスト、小レポート　20 %
評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
AI 翻訳のレベルが向上しているため活用を許可しましたが、頼りすぎてしまったという学生さんがいました。利用方法を検討する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、課題、宿題、資料配布等は Hoppi を利用します。
授業履修を考えている人は初回授業までに Hoppi に仮登録してください。
Hoppi で配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
Google の辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】
授業定員が 30 名となりますので、選抜になる可能性が大きいです。履修希望者は秋学期開始日までに Hoppi に登録して、初回の ZOOM 授業に参加してください。（ZOOM アドレスは Hoppi でお知らせします）
（重要）欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。
授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアや NPO での活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI 翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。
この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりませんが、単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

【Outline (in English)】
[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.
[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.
[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours before the class and about 30 minutes after the class.
[Grading Criteria/Policy]
Class participation & homework/preparation - 40%
Group project & Individual works (including homework) - 40%
Final exam & essay - 20%

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

依田　光広

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車（モビリティ）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略（つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。
評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級のビジネス英会話を実践する。
Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.
Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.
Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.
Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.
Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は、教師による日本語でのＣＡＳＥ戦略に関する講義（技術戦略も含む）を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。
講義資料や動画は Automotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークラインズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。
In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.
Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.
In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車（BEV 等）の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background
第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier Ⅳ
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設（Toyota Motor's facility）
第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。
Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。
Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】
木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』（2022）日経 BP 社 → 購入は任意
中西孝樹 Takaki Nakanishi（2018）『CASE 革命』日本経済新聞出版社 → 購入は任意

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（50%）、宿題の内容（35%）、講義での発表と質疑（15%）などにより総合的に評価します。
Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】
最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。
I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。
Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】
None.

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.
Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

依田　光広

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車（モビリティ）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略（つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。
評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級のビジネス英会話を実践する。
Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.
Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.
Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.
Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.
Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は、教師による日本語でのＣＡＳＥ戦略に関する講義（技術戦略も含む）を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。
講義資料や動画は Automotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークラインズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。
In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.
Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.
In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車（BEV 等）の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background
第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier Ⅳ
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設（Toyota Motor's facility）
第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。
Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。
Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】
木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』（2022）日経 BP 社 → 購入は任意
中西孝樹 Takaki Nakanishi（2018）『CASE 革命』日本経済新聞出版社 → 購入は任意

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（50%）、宿題の内容（35%）、講義での発表と質疑（15%）などにより総合的に評価します。
Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】
最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。
I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。
Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】
None.

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.
Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

鴨志田　晃

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版,2016 年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点
・期末レポート　40 点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than two hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decidedbased upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work "(50%).
Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

鴨志田　晃

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版,2016 年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点
・期末レポート　40 点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than two hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decidedbased upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work "(50%).
Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学（2019 年度以降入学者）

鴨志田　晃

グローバル・ビジネス/GBP 科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版,2016 年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点
・期末レポート　40 点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than two hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decidedbased upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work "(50%).
Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

秋友　一広

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】
本授業終了後は下記の能力が備わる:
1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、“Your Career in Business”（教科書第１７章 P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケテイング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Business の説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q & A, Discussion ＊チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today‘s Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers‘ Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第 9 回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 10 回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q & A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendix の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点：毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと
カメラ・マイク付き PC とハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。 2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor‘s years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

秋友　一広

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は米国の経営学専攻の学部学生が、入学初年度に履修する基礎的かつ網羅的な教科書を活用し、企業経営の全体像ならびに経営に影響を与える外部環境を学習することを目的とする。企業経営における専門用語は米国由来が大半を占める為、英語で経営学の基礎を習得することは、グローバル化した企業活動の現場で実際に活用でき、非常に有用な知識となりうる。学生諸君にチームを組んでもらい、テキストの章毎に毎週チームでの内容発表を英語で行い、他チームからの活発な質問と議論により、現代のグローバル企業経営に必須の専門用語の意味を体得してもらう。また、このコースでは、ロジックと内容がしっかりしたプレゼンテーションの作成方法と英語で効果的に発表を行う訓練も行い、将来グローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成も目的とする。

【到達目標】
本授業終了後は下記の能力が備わる:
1. 辞書無しで大量の英文を読み、ポイントとなる内容を理解する為の方法を習得
2. プレゼンテーションの資料を作成する過程で、パラフレージングの方法を習得
3. 聞き手を納得させ、聞き手が共感する説得性を持ったロジカルなプレゼン力を習得
4. プレゼンテーションの間のつなぎ言葉を自然に活用できる為の方法を習得
5. 経営学で頻出する単語の意味、定義を体得する（中間、期末試験で理解度を確認）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
履修登録完了日以降の授業は、履修登録者を何組かのグループに分け、各グループに割当てられた各章の要約と関連分野の課題に関する発表を英語で行ってもらう。　第一回目の授業で、"Your Career in Business"（教科書第１７章 P655 – P684）、ならびに企業経営に不可欠な職能別組織の説明を講師が行う（例：経営企画、財務・経理、人事、調達、営業企画・マーケティング（含むグローバル展開）、物流、IT　他を含む）ので、各自卒業後の進路を念頭に置き、興味のある分野を選択しておくこと。グループ編成は、可能な限り同じ分野に興味を持つ者同士で組むこととし、プレゼンテーションの割当ては、そのチームが興味を持つ分野を説明した章を可能な限り割当てる。第三回目からの授業は、割当てられた章のチームがその章の要約、その章での現代社会における課題とその解決策等を発表し、他チームからの質問と議論、講師による解説と総括を行う流れとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	＊本授業の概要、進め方 ＊講師による教科書の第１７章 Your Career in Business の説明 ＊一般企業の職能別組織説明
第 2 回	第 1 章 Understanding Economic Systems & Business 第４章 Forms of Business Ownership	＊講師による第１章と第４章の説明、Q & A, Discussion ＊チーム編成
第 3 回	第 14 章 Using Financial Information & Accounting と 第 16 章 Understanding Financial Management and Securities Market	＊チームによる第１４章、第１６章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 4 回	第 6 章 Management and Leadership in Today's Organizations 第 2 章 Making Ethical Decisions and Managing a Socially Responsible Business	＊チームによる第６章、第２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 5 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 6 回	第 7 章 Designing Organizational Structures 第 8 章 Managing Human Resources and Labor Relations 第 9 章 Motivating Employees	＊第５回からの継続：チームによる第７章、第８章、第９章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 7 回	第 11 章 Creating Products and Pricing Strategies to Meet Customers' Needs 第 12 章 Distributing and Promoting Products and Services	＊チームによる第１１章、第１２章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 8 回	中間テスト / Mid-term exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊残りの時間はデイスカッション
第 9 回	第３章 Competing in the Global Marketplace 第５章 Entrepreneurship	＊チームによる第３章、第５章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括
第 10 回	第１０章 Achieving World-Class Operations Management	＊チームによる第１０章の説明、Q & A、Discussion、 ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーションの方法について
第 11 回	第１３章 Using Technology to Manage Information	＊チームによる第１３章の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊英語でのプレゼンテーションに使われる繋ぎの言い回し、表現について。
第 12 回	第１５章 Understanding Money and Financial Institutions Appendix: Understanding the Legal and Tax Environment	＊チームによる第１５章、Appendix の説明、Q & A、Discussion ＊講師総括 ＊効果的なプレゼンテーション資料作成方法
第 13 回	MBA 授業の英語で書かれたケース・スタディーに挑戦してみよう	＊実際の MBA 授業で使われるケース・スタディーを使って議論してみる ＊講師はファシリテータとして学生諸君の議論を深め、最後に総括を行う
第 14 回	期末テスト / Final Exam	＊テスト時間は 1 時間 ＊コース全体の振り返りと Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 毎回シラバスで指定されている章を精読のうえ、質問を英語で準備のこと
2. 発表チームは内容を MS パワーポイントに英語でまとめ、英語で発表する
3. 発表チームは担当の章に関連する現代の企業経営における課題一つを探し、その解決策も含めて必ず発表に入れること
4. 各自その章に出てくる主要な経営学関連用語の単語帳を作成し英語で定義を書くこと
5. 本授業の準備学習時間・復習時間は、それぞれ２時間とする
6. 辞書は予習、復習の際にどうしてもわからない頻出単語のみ引くこと、速読を重視

【テキスト（教科書）】
Introduction to Business, OpenStax, Rice University.

【参考書】
Principles of Management、 OpenStax, Rice University.
Entrepreneurship, ibid.

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループワーク・プレゼンテーション含む）20%– 遅刻は減点：毎回出席を確認し、3 回以上欠席した学生は単位取得不可。
中間テストの点数: 40%
期末テストの点数: 40%

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの担当講師につき該当しない

【学生が準備すべき機器他】
教科書も参考書もダウンロード版があるので、毎回ダウンロードした PC を持参のこと
カメラ・マイク付き PC とハイスピードインターネット（オンラインの場合）
MS Word, PPT, エクセル搭載の PC。

【その他の重要事項】
1. 履修希望者が多い場合は、エントリー期間中に Web 抽選を行う。
2. 早い段階で TOEIC を受験し各自の英語のレベルを把握しておくこと。
実務経験のある講師による授業。講師は日本の製造業者（海外ビジネス売上比率 60 %）に 41 年勤務している。米国にて自社製品の市場や顧客開拓で通算 11 年間駐在しただけでなく、同社の欧州地域統括会社社長として 6 年間ドイツに駐在した。 2018 年からは、同社の内部監査部門にて、主に同社の海外子会社の内部監査時の監査長として勤務している。

【関連科目】
無し。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide undergraduate freshman students majoring in business administration with an opportunity to learn the essentials of corporate management itself, as well as the external environment that influences it, by using a basic and comprehensive textbook commonly assigned to U.S. college freshmen with business majors. Most of the terminology used in business management is of U.S. origin, making learning the basics of business administration in the English language a highly useful endeavor that can be applied to globalized business activities. Students will be asked to form teams and present in English the contents of each chapter of the textbook each week. Through active questioning and discussion with other teams, as well as seasoned guidance from the instructor‘s years of global business experience, students will learn the meaning and real-world application of technical terms that are essential for modern global business management. In addition to its other objectives, this program seeks to nurture future Japanese businesspersons who are not only equipped with logic and substance but also are able to effectively deliver presentations in English.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

岡本　慶子

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語からだけでなく、英語からも情報を集められるようにし、集めた情報をもとに、理解を深め、さらに考え、自分の考えを理論的に述べることを学ぶ。そして、それを英語で話す、書くために、日本語と英語の違いを知って、考えることを繰り返し実践する。

【到達目標】
日本語と英語の違いを理解し、違う文化背景を持つ人たちとのコミュニケーションを取れるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
このクラスは選抜となる可能性があります。初回授業はオンラインで行い、課題で選抜の予定です。2 回目以降の授業は対面を基本とします。
毎回、リーディング、リスニング等の宿題があり、授業は学生さんからの質問に答える形で進めます。質問できるレベルまで自習してください。
内容を理解した後、授業ではその情報をもとに、自分の考えをまとめグループでディスカッションします。ディスカッション、まとめは日本語で行いますが、英語の構文で考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 対面・オンライン 選抜（予定）	Course overview Self Introduction
第 2 回	An Appreciation Asset vs A Depreciation Asset	A Letter from CEO of J.P Morgan to A Pretty Girl 「第 2 外国語としての英語」
第 3 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 1	Vineyard Vines Markets the Good Life
第 4 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	Vineyard Vines Markets the Good Life AI 翻訳
第 5 回	Marketing: The Art and Science of Satisfying Customers 2	”High Context vs Low Context"
第 6 回	Solving an Ethical Controversy 1	Banning Sugary Drinks
第 7 回	Solving an Ethical Controversy 2	Justify your ideas
第 8 回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 1	Pepsio Brands Target Different Markets
第 9 回	Market Segmentation, Targeting, and Positioning 2	PepsiCo vs Coca Cola
第 10 回	Global Marketing 1	Does Kellogg Have the Tiger by the Tail?
第 11 回	Global Marketing 2	Video by Kellogg CEO
第 12 回	Kellogg Group Project 1	Kellogg Group Project
第 13 回	Kellogg Group Project 2	Kellogg Group Project Video recording 期末小レポート（日本語）
第 14 回	Final exam	wrap up Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前々日の 23:59 までに授業支援システムで提出
宿題１．課題の予習、復習、グループワークの準備
宿題２．単語帳、質問
宿題３．数学の問題
宿題の詳細は、授業中に逐次説明します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。課題、ワークシート、参考ウェブリンク等は Hoppi で配布します。

【参考書】
Kurtz, David L. 2016. Contemporary Marketing. Boston. Cengage Learning.
Hitt, Michael A., Ireland R. Duane, and Hoskisson, Robert E. 2017. Strategic Management: Competitiveness & Globalization. Boston, Cengage Learning.
2 冊とも図書館蔵書

【成績評価の方法と基準】
授業への参加、予習、宿題の提出　40 %
グループワークと個人ワーク（プレゼン、宿題含む）　40 %
期末テスト、小レポート　20 %
評価については初回授業で詳細に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
AI 翻訳のレベルが向上しているため活用を許可しましたが、頼りすぎてしまったという学生さんがいました。利用方法を検討する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、課題、宿題、資料配布等は Hoppi を利用します。
授業履修を考えている人は初回授業までに Hoppi に仮登録してください。
Hoppi で配布したもの、及び自分の宿題、予習、単語帳は授業中に参照できるようにご用意ください。
辞書または電子辞書は毎回授業に持参してください。
Google の辞書機能はお勧めしません。

【その他の重要事項】
授業定員が 30 名となりますので、選抜になる可能性が大きいです。履修希望者は秋学期開始日までに Hoppi に登録して、初回の ZOOM 授業に参加してください。（ZOOM アドレスは Hoppi でお知らせします）
（重要）欠員を避けるため、選抜後に履修中止の可能性のある方は、選抜へ参加しないでください。
授業の課題、内容、テストの期日等は、授業の進捗によって変更になる場合があります。

【関連科目】
なし

【実務経験のある教員による授業】
アメリカ留学中にボランティアや NPO での活動経験があり、国内外のファッション業界で勤務経験を持つ教員の授業です。
英語が上手でも言いたいことが相手に通じるとは限りません。AI 翻訳機を使っても、頭の中が整理されていなければ、伝わる英語になりません。伝えるために、どうするか、それをどうやって身につけるか。いろいろ実践してみる授業を行います。
この授業を受けてもすぐに、英語を話せるようにも書けるようにもなりませんが、単語、文法、慣用表現の記憶や参考書、テスト対策アプリ、過去問以外の勉強方法を模索している方、受講してみませんか。

【Outline (in English)】
[Course outline] This class is designed for Japanese students to learn English as a second language. Students will learn English through marketing & strategic management materials and middle school mathematics.
[Learning objectives] The goal of this class is to learn how to think logically for English speaking and writing.
[Learning activities outside of class room] Students are required to study at home about two hours before the class and about 30 minutes after the class.
[Grading Criteria/Policy]
Class participation & homework/preparation - 40%
Group project & Individual works (including homework) - 40%
Final exam & essay - 20%

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

依田　光広

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車（モビリティ）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略（つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。
評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級のビジネス英会話を実践する。
Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.
Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.
Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.
Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.
Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は、教師による日本語でのＣＡＳＥ戦略に関する講義（技術戦略も含む）を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。
講義資料や動画は Automotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークラインズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。
In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.
Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.
In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車（BEV 等）の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background
第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier Ⅳ
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設（Toyota Motor's facility）
第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。
Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。
Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】
木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』（2022）日経 BP 社 → 購入は任意
中西孝樹 Takaki Nakanishi（2018）『CASE 革命』日本経済新聞出版社 → 購入は任意

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（50%）、宿題の内容（35%）、講義での発表と質疑（15%）などにより総合的に評価します。
Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】
最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。
I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。
Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】
None.

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.
Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

依田　光広

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、世界の中核産業であり最近の変革が著しい自動車（モビリティ）産業とその中の注目企業を対象に、日本語での教師による講義資料、英語での宿題を使用し、クルマの CASE 戦略（つながるクルマ Connected、自動運転 Autonomous、シェアリング・サービス Shared & Service、電動車 Electric）の先端動向を学びます。同時に基礎レベルながら、実際にビジネスの現場や海外生活でも役立つ英語のリーディング、ヒアリング、スピーキング、そして日本語でのディスカッション能力の向上をはかります。こうした勉強を通じて、就活の際や社会人・教師になってからも役立つ知見やものの見方を習得することを目指します。
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。
評価は、各回の講義への出席、宿題、講義での発表などにより総合的に評価します。

【到達目標】
理解力：教師による日本語での CASE 戦略の講義を一定程度理解する。
読む力：日本語のビジネス文書・図表を正しく理解する。英語のビジネス文書を正しく理解し、要点を日本語で整理することを目指す。
聞く力：英語のニュース動画を大まかに把握し、日本語で整理する力を身につける。
書く力：授業で学習した内容をもとに日本語や英語のビジネス文書を作成することを目指す。
話す力：初級のビジネス英会話を実践する。
Comprehension ability: Students will understand to some extent the teacher's lecture on CASE strategy in Japanese.
Reading ability: You aim to understand Japanese business documents and business English correctly, and summarize the points in Japanese.
Listening ability: Students will acquire the ability to roughly grasp the explanation of English news videos and summarize the points in Japanese.
Writing ability: You aim to write Japanese and English business documents based on what you learn in the class.
Speaking ability: Students will acquire the skills of introductory English conversation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業は、教師による日本語でのＣＡＳＥ戦略に関する講義（技術戦略も含む）を中心に実施します。宿題が与えられた時は、学生は講義前までに「課題」フォルダーに提出、講義では数名が英語で発表を行います。
講義資料や動画は Automotive News 、教師執筆のレポート、専門研究者の論文、日本経済新聞、マークラインズ社のデータベース、日経 XTech などから引用します。
第一回講義で、授業の進め方と評価などについてオリエンテーションを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。
In the class, the teacher gives lecture about "CASE" including technical strategy in Japanese. When homework is given, students have to upload it to an assignment folder and several students should present it in English in the class.
Materials and videos are quoted from Automotive News, reports written by the teacher or other researchers, Nikkei Newspaper, database of Marklines Co., Ltd, Nikkei XTech, etc.
In the first lecture, students will be given an orientation on the class, so please be sure to attend if you wish to take the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Lecture	授業の概要と進め方の説明（Outline and objectives）、グローバル自動車市場（Global Automotive Market）← 任意
第 2 回	Electric (1)	電動車（BEV 等）の Trend & Background
第 3 回	Electric (2)	対象企業：日 Nissan, Toyota
第 4 回	Electric (3)	対象企業：米 Tesla
第 5 回	Connected (1)	つながるクルマの Trend & Background
第 6 回	Connected (2)	対象企業：独 Daimler etc.
第 7 回	Autonomous (1)	自動運転の Trend & Background
第 8 回	Autonomous (2)	対象企業：米 Waymo(Google)
第 9 回	Autonomous (3)	対象企業：日 Tier Ⅳ
第 10 回	Field Work	訪問先：トヨタ自動車の施設（Toyota Motor's facility）
第 11 回	Shared & Service (1)	シェアリング/サービス（MaaS）の Trend & Background
第 12 回	Shared & Service (2)	対象企業：米 Uber
第 13 回	Shared & Service (3)	対象企業：日 Toyota
第 14 回	Conclusion, Discussion	総括講義 Lecture、グループ討議 Group Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は、宿題が出された時の英語の資料や動画の日本語訳などです。復習は、講義資料と宿題のレビューです。準備学習と復習の時間は各 2 時間を標準とします。
Preparatory study is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework. The standard time for preparatory study and review is two hours each.

【テキスト（教科書）】
講義資料は、教師がビジネスでの経験と調査研究を通じ独自に作成したものを使用します。
Lecture materials used in the class are written by the teacher.

【参考書】
木村将之 Masayuki Kimura 他 2 名『モビリティ X』（2022）日経 BP 社 → 購入は任意
中西孝樹 Takaki Nakanishi（2018）『CASE 革命』日本経済新聞出版社 → 購入は任意

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（50%）、宿題の内容（35%）、講義での発表と質疑（15%）などにより総合的に評価します。
Comprehensive evaluation will be made based on in class contribution(50%), homework(35%) and presentation/Q&As(15%), etc.

【学生の意見等からの気づき】
最先端の CASE 戦略の動向を解説し、フィールドワークを充実します。学生の意見や希望を考慮したいと思いますので、学期内のいつでも積極的なフィードバックをお願いします。
I will explain trends in cutting-edge CASE strategies and enhance the fieldwork. I would like to consider opinions and wishes of all students, so give me your positive feedback anytime.

【学生が準備すべき機器他】
PC、Tablet、Smart Phone のいずれかを用意しておいてください。授業への持ち込みは自由です。
Get your PC, Tablet, or Smart Phone ready. Feel free to bring it to a class.

【その他の重要事項】
担当教師はトヨタ自動車 Toyota Motor Corp.（海外営業部門）ならびにトヨタ自動車子会社の国際経済研究所（Instituted for International Economic Studies）での勤務経験を有します。研究所での専門分野は、Global 経営、自動車産業・企業、CASE 戦略、IoT 戦略（Internet of Things）、コーポレートガバナンスなどです。現在は自社 Yoda Group Limited での調査研究を中心に、医療系サービス会社 Nihon Visca Co., Ltd. の相談役、自動車問題研究会の幹事、産官学団体 Robot Revolution & Industrial IoT Initiative の会員などを兼務しており、自らのビジネス経験や調査研究の成果を活かした授業を心がけます。

【関連科目】
None.

【Outline (in English)】
This class is aimed at studying the automobile (or mobility) industry, which is the core industry of the world and has been rapidly evolving recently, and its notable companies, using Japanese lecture materials and English homework. You can learn the advanced trends of CASE strategy (Connected, Autonomous, Shared & Service, Electric) and improve reading, listening and speaking skills in English, and discussion skills in Japanese. Getting in touch with the latest technologies and services of the automobile industry and English skills, you can deepen knowledge and thinking that will be useful during job seeking and after getting a job at a company or a teacher.
Preparatory learning is a Japanese translation (summary) of pre-distributed English papers and videos. You should review the teacher's lecture materials and homework.

Comprehensive evaluation will be made based on n class contribution, homework, and presentation.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

鴨志田　晃

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版,2016 年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点
・期末レポート　40 点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than two hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decidedbased upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work "(50%).
Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

鴨志田　晃

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版,2016 年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点
・期末レポート　40 点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than two hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decidedbased upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work "(50%).
Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN100FA

入門外国語経営学Ⅰ（2018 年度以前入学者）

鴨志田　晃

選択_外国語経営学科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

※本授業では、受講希望者が教室定員を超えてしまった場合、初回授業で選別を行います。必ず、初回授業に出席してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では英語教材を用いて経営学の基本トピック、とりわけ起業とビジネス育成、マーケティング理論について学びます。毎回の授業では、テキストのなかの担当トピックの内容について学生が発表し、全体討議、総括を行って、経営学の専門用語を学び、経営学の理解を深めます。授業では、適宜、参考文献、記事等を取り上げ、ビジネスの最新トピックスへの関心と理解を深めます。

【到達目標】
本授業は、経営学における著名なテキストを用いて英語文献を読む語学力を身につけ、英語文献から得た経営学の知識を応用する力をつけることを目標とします。具体的には、経営学領域を網羅したテキストである"The Business Book: Big Ideas Simply Explained"を用いて、基礎知識をつけ、専門書を読解する力、英語で専門講義を受けるための基礎力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2-1」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
受講者には（何組かのグループを設定し）、担当部分の発表をしてもらいます。毎回の授業の流れは、担当グループが発表、各グループによる質問、報告に対する教員からのコメントおよび解説、ディスカッション、総括の順番で進めます。授業の後半ではビジネスに関わる原書や記事を読んで発表と議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要、進め方の説明
第 2 回	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 3 回	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 4 回	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 5 回	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 6 回	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 7 回	Making Money Work ① /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 8 回	Making Money Work ② /Managing Finances	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 9 回	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 10 回	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 11 回	Successful Selling ① /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 12 回	Successful Selling ② /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 13 回	Successful Selling ③ /Marketing Management	学生による概要の発表、全体討議、まとめ（講評, 講義）
第 14 回	総括	本授業で学習したトピックを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、テキストの指定箇所について精読し、予習を行う。
・担当個所の概要をまとめスライドにて発表する。
・最終レポートを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【参考書】
・「実践ＭＢＡ式経営学の教科書」鴨志田晃著, ぱる出版,2016 年,￥1,400
上記のほか、授業にて適宜、参考文献や記事を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（グループワーク・発表を含む）60 点
・期末レポート　40 点
成績評価は、授業での発表および参加、ならびにレポート（宿題）の成績によって総合的に評価します。毎回出欠を確認し、5 回以上欠席した学生は単位を認められません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の講義にテキストと辞書、PC を必ず持参してください。
英語の文献を読むのは大変ですので、毎回講義に出席し、2 時間程度の予復習を欠かさずに行うようにしてください。
・カメラ・マイク付き PC（オンラインの場合）
・ある程度の速度が確保されたネット環境（オンラインの場合）

【その他の重要事項】
エントリー期間に Web 抽選を行う。詳細は、経営学部 Web 掲示板に掲載されている案内を確認し、エントリーすること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acuire basic knowledge of business administration,especially start Up and business development, and marketing theory using English teaching materials.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to do the followings:
・Acquire the ability to express own opinion to others by reading English books on business management.
・Acquire the basic knowledge about business management theory and understand tools for business analysis
・Arouse students' awareness and interest in business management theory and business topics.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have read and completed the required assigned part of the text and prepare the slides for it. (Presentation slides would be prepared by each group.)
Your study time will be more than two hours for a class
（Grading Criteria/Policy）
Grading will be decidedbased upon based on "Group work/presentation and in-class contribution"(50%), "final report and other home work "(50%).
Students who are absent more than 3 times will be fail after checking attendance every time.

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅠ（2018 年度以前入学者）

小川　憲彦

選択_キャリアプログラム科目　2〜4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるよう、適宜ディスカッション等を行います。
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

【到達目標】
①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・初回は Zoom を用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。
①他人の迷惑になる行為を行わないこと
②授業に関係のないことをしないこと
③その他については、教員の指示に従うこと
　Zoom の場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。
①音声は指示がない場合は原則としてオフ
②動画カメラは原則オン
　（ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたうえでオフを許可します）
③表示する氏名は漢字
（仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベットでも可）
・適宜リアクションペーパーを課します。
・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動（1）	採用側の理論について
第 5 回	企業の新卒採用活動（2）	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動（3）	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介（1）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介（2）	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました（業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります）
第 9 回	職場適応の理論（1）	入社した後の会社への適応について（概要）
第 10 回	職場適応の理論（2）	入社した後の会社への適応について（人間関係）
第 11 回	キャリア発達の理論（1）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論（2）	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポート等）を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験ないしレポート（50 %）、平常点（50 %：参加態度、リアクションペーパー、課題等含む）

【学生の意見等からの気づき】
平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメントⅡのようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】
Ⅰは理論編、Ⅱは事例偏です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。Ⅱは現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1 回 1 回の授業が OBOG 訪問のような場になりますので、2，3 年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかはⅡのシラバスを見てください（22 年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界業種の方をお呼びしています。）

【Outline (in English)】
Outline
The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
(2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.
Learning activities outside of classroom
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2018 年度以前入学者）

小川　憲彦

選択_キャリアプログラム科目　2〜4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

【到達目標】
①社会人との交流が適切に行えること
②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めること
Students who complete the course will be expected to:
(1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
(2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第 2 回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第 3 回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第 4 回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と３０代の女性職員の方のキャリア
第 5 回	ゲスト（非営利組織職員）	新卒 1 年目で非営利組織（フードリボン等を展開）で働く若手 OB
第 6 回	ゲスト（野村証券）	証券会社３年目の若手 OB
第 7 回	ゲスト（ベンチャー企業）	化粧品などを扱っている広報畑の OG
第 8 回	ゲスト（物流）	世界各地で事業展開をしている物流会社の初級管理職 OB
第 9 回	ゲスト（IT）	楽天の常務執行役員。上場企業の社長などの経歴があります。
第 10 回	ゲスト（中小企業）	印刷会社の 40 代の経営者です。
第 11 回	ゲスト（クリエイティブ産業）	現在はアニメプロデューサーをしていますが、ゲーム会社でのシナリオライターなどの経験もあります。
第 12 回	ゲスト（鉄道）	鉄道会社の管理職 OB です。
第 13 回	境界なきキャリア	転職等の効果について
第 14 回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

【参考書】
大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門〈1〉基礎力編』・『キャリアデザイン入門〈2〉専門力編』日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
・期末試験か期末レポート（50 %）、平常点（50 %：リアクションペーパーや小レポート等含む）
・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。
・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もありえます。
・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。
・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。
・詳細は授業で指示します。
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】
①各回の内容は前年度のものです。ゲストは毎年変更しています。
②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。
③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。なお、携帯電話の電源を切って鞄にしまう、写真や動画をとったり UP したりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。
関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.
Learning objectives
Students who complete the course will be expected to:
(1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
(2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.
Learning activities outside of classroom
Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.
Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.
Grading criteria/policy
Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA

演習 1

小川　憲彦

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、 4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが
自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点５割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイト（７割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、やるときはやるという姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN200FA

演習 2

小川　憲彦

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN300FA

演習 3

小川　憲彦

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが
自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点５割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイト（７割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、やるときはやるという姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN300FA

演習 4

小川　憲彦

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN400FA

演習 5

小川　憲彦

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点５割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイト（７割）を占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、やるときはやるという姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。
⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。

⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN400FA

演習 6

小川　憲彦

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織行動論（ミクロ組織論あるいは組織心理学）のゼミナールです。ゼミという場は皆さんが学問研究を実際に行う（＝演習の）場、そのための訓練の場というのが本来的な意味であると考えています。この考えを原則に運営しており、具体的には卒業研究論文の完成を最終的なアウトプットとみなしています。（したがって卒論を書きたくないという方は原則として応募・履修をしないで下さい。）
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.

【到達目標】
初年度の目標は三つあります。第一の学習目標は、研究の基礎を学ぶことです。他大学との合同ゼミでの研究発表と学内懸賞論文の提出に向けたグループ研究を進めることを通じて研究のイロハを学びます。
第二の目標は、発表準備、レポート作成、議論等を通じて、調べた結果や自分の考えを伝えること、つまり基本的なコミュニケーションの力を養うことです。
第三の目標は、公式・非公式な場を問わず、集団での取り組みを通じて目標を達成できる協働関係を形成すること、そのための基本的姿勢や集団スキルを養うことです。
次年度は、卒業研究の実施と卒業論文の執筆を行います。初年度の学習内容を踏まえながら、より深く各自のテーマを追求し自分の研究に取り組み、その進捗の報告を行います。身に付けた知識を踏まえて、自分で取り組む課題を設定し、実際に調べ、他人に伝える能力を身に付け、それを示すこと、その集大成が卒業論文です。
また先輩や後輩としての役割もしっかりと担ってもらいたいと思います。
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループごとにテーマを定め、先行研究や調査内容について発表し、それに関連する議論を行います。また、ゼミ生の選抜その他もゼミ活動の一環として行ってもらいます。各自が何らかの小委員会に所属し、相応の役割を担ってもらう予定です。
4 年生は後輩指導と支援、および卒業研究の進捗報告が中心となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（シラバスの配布、各種委員の紹介など）	グループ等の決定
第 2 回	目標設定と活動案のためのディスカッション	グループや役割ごとの目標設定
第 3 回	MBO 発表とフィードバック	個人別および委員会別で実施
第 4 回	共同研究計画の発表と卒業研究進捗報告	3 年生はグループごと、4 年生は数人程度で進捗報告を行う
第 5 回	Kotter(1982) の発表と卒業研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 6 回	Schein(1990) の発表と研究進捗報告	課題発表とフィードバック
第 7 回	研究とは何か	研究活動の説明
第 8 回	研究計画書	書くべき項目と書き方の説明
第 9 回	研究テーマについて	良い研究テーマとは何か
第 10 回	先行研究の渉猟方法	図書館などの使い方
第 11 回	先行研究の読み方（量的実証研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 12 回	先行研究の読み方（質的経験的研究）	具体の研究論文を読むことで読み方を学ぶ
第 13 回	360 度フィードバック	評価と振り返り
第 14 回	MBO 中間報告と夏休みの抱負、合宿について	全員、全班が実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・研究テーマを決定したら、それについて各個人・グループが自主的に、文献を探し、まとめ、発表準備等をする必要があります。
・必要に応じてサブゼミ等を行う必要があります。
・本授業の準備学習・復習時間は各回につき 2-4 時間程度を標準とします。
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて指示します。

【参考書】
Robbins, S P. & Judge, T. A. (2008). Essentials of Organizational Behavior 9th. NJ: Pearson Prentice Hall.

【成績評価の方法と基準】
・初年度は、平常点 5 割（社会的常識、発表や準備のレベル、議論やその他ゼミ関連活動への参加度等）とレポートなどの提出物 5 割で総合的に評価します。
・次年度の評価は、上記に加え、卒論の評価が大きなウエイトを占めます。
・参加する際の注意事項が守られない場合、単位を認定しないことがあります（その他参照）。
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ授業時間内での終了を目指しますが、必要に応じて、やるときはやる、という姿勢を貫徹します。

【学生が準備すべき機器他】
・ディスカッションなどしやすい形式への机の移動、PC、スクリーン等の事前セッティング
・個人やグループごとの提出資料は共有サイトへ事前アップロード、教員へのハードコピーでの提出

【その他の重要事項】
① 2 年間の登録を基本単位と考えてください。
②私が担当するキャリア・マネジメントⅠ/Ⅱの履修が前提です。未履修の場合は即座に履修し A-以上の成績で単位修得してください。
③多くの注意事項がありますので、登録後、別途シラバスをお渡しします。そのシラバスは必ず毎回持ってきてください。
④年間のうち個人的事情による欠席 2 回でゼミを除籍とし D 評価とします。
⑤不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定、ゼミの除籍を言い渡すことがあります。

⑥スケジュール等はあくまで暫定のものです。
⑦このシラバスとゼミで配布するシラバスの内容に食い違いがある場合は、ゼミでの配布シラバスの記述が優先されます。
　履修者は以上を了解したうえで参加しているとみなします。

【Outline (in English)】
This seminar aims to develop your fundamental academic skills to study the Organizational Behaviors (OB; the field on human behaviors in organizations) in order to write your graduation thesis.
Juniors (third year students) are expected to work actively on various seminar assignments and related group activities that consist of functional committees (e.g., recruitment committee of seminary prospective students, feedback committee, IT committee, etc.).
Seniors (fourth year students) are expected to explore your own theme independently or with co-researchers as well as to give helpful support to juniors' activities.
Learning objectives
Juniors who complete the course will be expected to:
(1) master fundamental skills for academic study (e.g., reading articles, writing reports, giving presentations, analysis methods, etc.). You will acquire those skills through cooperative research activities in order to give presentations on your study at joint-seminars with other universities' students.
(2) be an effective member who can cooperate in groups or organizations that pursue common purposes or objectives. In order to complete tasks in cooperative context (research projects and committee activities) in a limited term, you will be required to master group skills and attitudes for cooperation as well as technical/functional skills.
Seniors who complete the course will be expected to:
(1) write a graduate thesis. Based on the academic skills and attitudes acquired in the previous school year, you should study your subjects more initiatively and independently.
(2) be a model elder student for juniors. Giving instructions, advice, and support to juniors on various activities in the seminar are also needed. You are required to be a real leader as well as to be a reliable member for the cooperative activities in the seminar.
Learning activities outside of classroom
At first, study teams need to explore, read, understand, and summarize the articles concerning their study field, and prepare to make presentations at the seminar, reporting their research progress. After developing themes and research questions through critical literature reviews, you have to specify and find research subjects or targets for your research to start field study or experiments. Self-acquired data should be analyzed in an adequate way, and the results should be presented.
Your team or group may usually need at least two or three days per week to prepare for group tasks.
Grading criteria/policy
Grading of juniors will be based on regular short reports and assignments for each student (50%) and in-class attitudes and group activities (preparation, etc.) outside of class (50%).
Grading of seniors will be based on attitudes in and out of seminars and contributions to overall seminar activities (30%), and on the outcomes of your research, cooperative ones, or alternatives (70%).
The details of grading will be gives in class.

MAN200FA

演習 1

奥西　好夫

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナ感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第 2 回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第 3 回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第 4 回	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 8 ・同 Case 11
第 5 回	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 12 ・同 Case 13
第 6 回	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 14 ・同 Case 15
第 7 回	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 25 ・同 Case 26
第 8 回	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 27 ・同 Case 34
第 9 回	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 35 ・同 Case 36
第 10 回	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 37 ・同 Case 38
第 11 回	英文ケースの報告と議論（9）	・同 Case 39 ・同 Case 51
第 12 回	英文ケースの報告と議論（10）	・同 Case 52 ・同 Case 53
第 13 回	英文ケースの報告と議論（11）	・同 Case 54 ・同 Case 59
第 14 回	英文ケースの報告と議論（12）	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 3 版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性がある。また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA

演習 2

奥西　好夫

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナ感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第 2 回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 66 ・同 Case 67
第 3 回	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 76 ・同 Case 77
第 4 回	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 78 ・同 Case 85
第 5 回	入ゼミ関係（1）	・入ゼミ選考準備
第 6 回	入ゼミ関係（2）	・入ゼミ面接、選考
第 7 回	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 88 ・同 Case 89
第 8 回	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 90 ・同 Case 98
第 9 回	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 99 ・同 Case 103
第 10 回	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 104 ・同 Case 105
第 11 回	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 106
第 12 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告（1）	・研究経過報告（グループ 1）
第 13 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告（2）	・研究経過報告（グループ 2）
第 14 回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性があること、また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA

演習 3

奥西　好夫

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナ感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第 2 回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第 3 回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第 4 回	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 8 ・同 Case 11
第 5 回	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 12 ・同 Case 13
第 6 回	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 14 ・同 Case 15
第 7 回	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 25 ・同 Case 26
第 8 回	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 27 ・同 Case 34
第 9 回	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 35 ・同 Case 36
第 10 回	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 37 ・同 Case 38
第 11 回	英文ケースの報告と議論（9）	・同 Case 39 ・同 Case 51
第 12 回	英文ケースの報告と議論（10）	・同 Case 52 ・同 Case 53
第 13 回	英文ケースの報告と議論（11）	・同 Case 54 ・同 Case 59
第 14 回	英文ケースの報告と議論（12）	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 3 版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性がある。また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN300FA

演習 4

奥西　好夫

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナ感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第 2 回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 66 ・同 Case 67
第 3 回	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 76 ・同 Case 77
第 4 回	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 78 ・同 Case 85
第 5 回	入ゼミ関係（1）	・入ゼミ選考準備
第 6 回	入ゼミ関係（2）	・入ゼミ面接、選考
第 7 回	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 88 ・同 Case 89
第 8 回	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 90 ・同 Case 98
第 9 回	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 99 ・同 Case 103
第 10 回	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 104 ・同 Case 105
第 11 回	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 106
第 12 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告（1）	・研究経過報告（グループ 1）
第 13 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告（2）	・研究経過報告（グループ 2）
第 14 回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性があること、また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA

演習 5

奥西　好夫

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナ感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
第 2 回	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」 ・スティーブ・ジョブズのプレゼンなど
第 3 回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
第 4 回	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 8 ・同 Case 11
第 5 回	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 12 ・同 Case 13
第 6 回	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 14 ・同 Case 15
第 7 回	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 25 ・同 Case 26
第 8 回	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 27 ・同 Case 34
第 9 回	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 35 ・同 Case 36
第 10 回	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 37 ・同 Case 38
第 11 回	英文ケースの報告と議論（9）	・同 Case 39 ・同 Case 51
第 12 回	英文ケースの報告と議論（10）	・同 Case 52 ・同 Case 53
第 13 回	英文ケースの報告と議論（11）	・同 Case 54 ・同 Case 59
第 14 回	英文ケースの報告と議論（12）	・同 Case 60 ・同 Case 65

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 3 版）』（日本経済新聞出版、2020）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性がある。また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN400FA

演習 6

奥西　好夫

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろ学生がプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】
①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
③学生は、②の結論を他人に伝えるとともに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
・4 年生は、それに加えゼミ卒論（またはレポート）を作成する。
・その他の内容は、その都度決める。
・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う（新型コロナ感染が収まった場合）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 年生卒業ゼミ論文計画報告	・テーマ、研究計画の報告
第 2 回	英文ケースの報告と議論（1）	・Nkomo et al.(2011) の Case 66 ・同 Case 67
第 3 回	英文ケースの報告と議論（2）	・同 Case 76 ・同 Case 77
第 4 回	英文ケースの報告と議論（3）	・同 Case 78 ・同 Case 85
第 5 回	入ゼミ関係（1）	・入ゼミ選考準備
第 6 回	入ゼミ関係（2）	・入ゼミ面接、選考
第 7 回	英文ケースの報告と議論（4）	・同 Case 88 ・同 Case 89
第 8 回	英文ケースの報告と議論（5）	・同 Case 90 ・同 Case 98
第 9 回	英文ケースの報告と議論（6）	・同 Case 99 ・同 Case 103
第 10 回	英文ケースの報告と議論（7）	・同 Case 104 ・同 Case 105
第 11 回	英文ケースの報告と議論（8）	・同 Case 106
第 12 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告（1）	・研究経過報告（グループ 1）
第 13 回	4 年生卒業ゼミ論文中間報告（2）	・研究経過報告（グループ 2）
第 14 回	ゼミのまとめ	・時事的テーマの講義、議論など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう十分意識するとともに、それを共有、伝承する仕組みを工夫すること。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（ただし、司会者の準備時間はこの数倍以上）。

【テキスト（教科書）】
・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】
・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト　人事管理入門（第 2 版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。
・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】
・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは 100%）。
・なお、4 年生の場合は、ゼミ卒論（レポート）の内容、質も重視する（平常点が 70%、卒論が 30%）。ゼミ卒論（レポート）が未提出の場合は、平常点に関わらず E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生主導のゼミ運営、議論中心のスタイルは評価が高いようなので継続する。ただ、時にマンネリ化の傾向も見られるので、必要に応じ工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・コロナの感染状況によって Zoom 授業の可能性があること、また、ゼミの報告や議論でオンライン接続が可能な PC（ないしタブレット）を使う場合があることからその準備が必要。

【その他の重要事項】
・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手が容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。
・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【【関連科目】】
・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学、人的資源管理など。

【Outline (in English)】
・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.
・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.
・All participants should read the cases before the class. Presenters also need to prepare relevant handouts and to think about the design of discussion.
・The grade is based on the participation and quality of discussion among others. The 4th year students also need to submit the final reports.

MAN200FA

演習 1

岸本　直樹

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から，春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また，秋学期は，各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第 2 に、専門書あるいは教科書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員が LINE でゼミ生に連絡します。そして，担当のゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに，担当部分のレジュメを LINE 等でゼミ生に配布します。そして，ゼミでそれに基づいて発表し，その後，他のゼミ生から，疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には，各ゼミ生が，選んだ会社について投資家の立場から分析をし，その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は，教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は，それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 7 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
第 8 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
第 9 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
第 10 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
第 11 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
第 12 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
第 13 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義する。
第 14 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義するほか，企業分析に有用なデータの利用法を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A-以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが著しく芳しくない学生は、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や Word 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読，投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to get students aquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.
Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.
Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.
Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.
Grading criteria/policy:
[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.
[Evaluation of senior students]
Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.
(Note for both 3rd and 4th year students)
This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN200FA

演習 2

岸本　直樹

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを実習します。その観点から，春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また，秋学期は，各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い，その結果をレジュメにまとめます。そして，ゼミでレジュメに基づいて発表し，それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして，ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には，各ゼミ生が選んだ会社について，投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ，それをゼミで発表してもらいます。次に，その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに，発表で使った資料は，岸本ゼミのウェブページで公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学生による企業分析（1）	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	学生による企業分析（2）	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	学生による企業分析（3）	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	学生による企業分析（4）	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	学生による企業分析（5）	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	学生による企業分析（6）	第 1 回と同様 (1 を 6 と読み替え)
第 7 回	学生による企業分析（7）	第 1 回と同様 (1 を 7 と読み替え)
第 8 回	学生による企業分析（8）	3 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 9 回	学生による企業分析（9）	第 8 回と同様 (8 を 9 と読み替え)
第 10 回	学生による企業分析（10）	第 8 回と同様 (8 を 10 と読み替え)
第 11 回	学生による企業分析（11）	第 8 回と同様 (8 を 11 と読み替え)
第 12 回	学生による企業分析（12）	第 8 回と同様 (8 を 12 と読み替え)
第 13 回	学生による企業分析（13）	第 8 回と同様 (8 を 13 と読み替え)
第 14 回	学生による企業分析（14）	第 8 回と同様 (8 を 14 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが著しく芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.
Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.
Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.
Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.
Grading criteria/policy:
[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.
[Evaluation of senior students]
Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.
(Note for both 3rd and 4th year students)
This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN300FA

演習 3

岸本　直樹

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から，春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また，秋学期は，各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第 2 に、専門書あるいは教科書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員が LINE でゼミ生に連絡します。そして，担当のゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに，担当部分のレジュメを LINE 等でゼミ生に配布します。そして，ゼミでそれに基づいて発表し，その後，他のゼミ生から，疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には，各ゼミ生が，選んだ会社について投資家の立場から分析をし，その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は，教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は，それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 7 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
第 8 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
第 9 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
第 10 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
第 11 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
第 12 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
第 13 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義する。
第 14 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義するほか，企業分析に有用なデータの利用法を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが著しく芳しくない学生は、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や Word 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読，投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to get students aquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.
Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.
Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.
Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.
Grading criteria/policy:
[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.
[Evaluation of senior students]
Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.
(Note for both 3rd and 4th year students)
This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN300FA

演習 4

岸本　直樹

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを実習します。その観点から，春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また，秋学期は，各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い，その結果をレジュメにまとめます。そして，ゼミでレジュメに基づいて発表し，それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして，ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には，各ゼミ生が選んだ会社について，投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ，それをゼミで発表してもらいます。次に，その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに，発表で使った資料は，岸本ゼミのウェブページで公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学生による企業分析（1）	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	学生による企業分析（2）	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	学生による企業分析（3）	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	学生による企業分析（4）	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	学生による企業分析（5）	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	学生による企業分析（6）	第 1 回と同様 (1 を 6 と読み替え)
第 7 回	学生による企業分析（7）	第 1 回と同様 (1 を 7 と読み替え)
第 8 回	学生による企業分析（8）	3 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 9 回	学生による企業分析（9）	第 8 回と同様 (8 を 9 と読み替え)
第 10 回	学生による企業分析（10）	第 8 回と同様 (8 を 10 と読み替え)
第 11 回	学生による企業分析（11）	第 8 回と同様 (8 を 11 と読み替え)
第 12 回	学生による企業分析（12）	第 8 回と同様 (8 を 12 と読み替え)
第 13 回	学生による企業分析（13）	第 8 回と同様 (8 を 13 と読み替え)
第 14 回	学生による企業分析（14）	第 8 回と同様 (8 を 14 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが著しく芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.
Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.
Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.
Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.
Grading criteria/policy:
[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.
[Evaluation of senior students]
Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.
(Note for both 3rd and 4th year students)
This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN400FA

演習 5

岸本　直樹

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることの実習を目指しています。その観点から，春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また，秋学期は，各ゼミ生が選んだ企業について投資家の立場から分析します。そして、それらの結果はゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションをした上、その成果を岸本ゼミのウェブサイトで公表しています。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実際の企業に適用することができること。第 2 に、専門書あるいは教科書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果をレジュメにまとめて演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業では経営に関する専門書あるいは教科書を輪読します。輪読する本および輪読の担当は、事前に教員が LINE でゼミ生に連絡します。そして，担当のゼミ生は、ゼミの直前の金曜日の夜までに，担当部分のレジュメを LINE 等でゼミ生に配布します。そして，ゼミでそれに基づいて発表し，その後，他のゼミ生から，疑問点あるいは意見を受けます。秋学期には，各ゼミ生が，選んだ会社について投資家の立場から分析をし，その結果をゼミで発表します。そして、他のゼミ生は，教員が指定するチェックポイントに関してコメントします。発表したゼミ生は，それらのコメントに沿ってレジュメを改訂し、岸本ゼミのウェブページに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業分析に有用な輪読	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	企業分析に有用な輪読	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	企業分析に有用な輪読	3 年次のゼミ生のうち第 6 回の授業に割り当てられた学生 2 名が専門書の担当箇所についてレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 7 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 7 と読み替え)
第 8 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 8 と読み替え)
第 9 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 9 と読み替え)
第 10 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 10 と読み替え)
第 11 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 11 と読み替え)
第 12 回	企業分析に有用な輪読	第 6 回と同様 (6 を 12 と読み替え)
第 13 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義する。
第 14 回	企業分析の手法	教員が企業分析の手法を講義するほか，企業分析に有用なデータの利用法を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する専門書あるいは教科書の事前学習、担当企業の分析およびレジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
輪読する書籍は、上で説明した方法で指定します。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A-以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが著しく芳しくない学生は、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や Word 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読，投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to get students aquainted with the fundamental analysis, which a method for analyzing corporations from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, strategic management, finance, accounting, marketing, and operations management. But the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.
Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken so far at the Faculty of Business Administration. For this reason, we spend the Spring semester on the reading of textbooks in one or two of these areas. In the Fall semester, each student chooses a company and analyzes it from the point of view of investors and presents his or her analysis in class as well as on a Web site set up for this seminar.
Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender. Second, students are expected to learn how to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.
Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.
Grading criteria/policy:
[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.
[Evaluation of senior students]
Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.
(Note for both 3rd and 4th year students)
This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN400FA

演習 6

岸本　直樹

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、ファンダメンタル分析と言って、投資家の観点から企業を分析し、その結果に基づいて株式や債券に対する投資を検討することにあります。一般に、企業活動は、その機能によって、狭義の経営学、経営戦略論、ファイナンス、会計学、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントの観点から分析することができますが、企業活動のパーフォーマンスは、それらすべての機能に依存します。したがって、この演習では、経営学部で学ぶ様々な科目の知識を総動員して企業分析に当たることを実習します。その観点から，春学期に上記の専門分野のいずれかの専門書あるいは教科書を輪読します。また，秋学期は，各ゼミ生が自ら選んだ企業についてファンダメンタル分析を行い，その結果をレジュメにまとめます。そして，ゼミでレジュメに基づいて発表し，それに対して他のゼミ生とディスカッションをします。そして，ディスカッションに沿って改訂したレジュメを岸本ゼミのウェブサイトで公表します。

【到達目標】
演習での主要な到達目標は次の 3 点です。まず第 1 に、履修者が株式や債券等への投資家、あるいは、資金の貸手の立場から特定の企業を分析する手法を習得し、それを実在する企業に当てはめることができること。第 2 に、経営学の専門書をしっかり読むことができること。第 3 に、履修者が分析したり読んだりした結果を演習で分かりやすく発表することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
春学期の授業は主に輪読をします。秋学期には，各ゼミ生が選んだ会社について，投資家の立場から分析をした結果をレジュメにまとめ，それをゼミで発表してもらいます。次に，その発表について他のゼミ生とディスカッションをします。さらに，発表で使った資料は，岸本ゼミのウェブページで公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	学生による企業分析（1）	4 年次のゼミ生のうち第 1 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 2 回	学生による企業分析（2）	第 1 回と同様 (1 を 2 と読み替え)
第 3 回	学生による企業分析（3）	第 1 回と同様 (1 を 3 と読み替え)
第 4 回	学生による企業分析（4）	第 1 回と同様 (1 を 4 と読み替え)
第 5 回	学生による企業分析（5）	第 1 回と同様 (1 を 5 と読み替え)
第 6 回	学生による企業分析（6）	第 1 回と同様 (1 を 6 と読み替え)
第 7 回	学生による企業分析（7）	第 1 回と同様 (1 を 7 と読み替え)
第 8 回	学生による企業分析（8）	3 年次のゼミ生のうち第 8 回の授業で発表することが割り当てられた学生 2 名がレジュメを作成し、それをゼミで発表して他のゼミ生とディスカッションする。
第 9 回	学生による企業分析（9）	第 8 回と同様 (8 を 9 と読み替え)
第 10 回	学生による企業分析（10）	第 8 回と同様 (8 を 10 と読み替え)
第 11 回	学生による企業分析（11）	第 8 回と同様 (8 を 11 と読み替え)
第 12 回	学生による企業分析（12）	第 8 回と同様 (8 を 12 と読み替え)
第 13 回	学生による企業分析（13）	第 8 回と同様 (8 を 13 と読み替え)
第 14 回	学生による企業分析（14）	第 8 回と同様 (8 を 14 と読み替え)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読する文献の事前学習、担当企業の分析、レジュメの作成等。本授業の準備学習・および復習時間は、合計して各回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業中に適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】
〔3 年次生に対する評価方法〕
評価の対象は多岐にわたります。具体的には、レジュメの内容と発表、ディスカッションへの参加の頻度と内容、授業時間以外のゼミ活動への貢献等。目安としては、これらの点をおおよそクリヤした学生に A 評価を与えます。他方、これらの点に関して全体的にパフォーマンスが芳しくない学生には、A- 以下の評価をつけますし、さらに、パーフォーマンスが著しく芳しくない学生については、4 年次へ進級する際ゼミ参加を断ることがあります。即ち、本演習においては、進級時のゼミ継続を自動的に認めていません。
〔4 年次生に対する評価方法〕
4 年次生の評価は、3 年生の評価対象と同じ点で評価します。ただし、当然のことながら、4 年次生に対しては、3 年次生より高いパフォーマンスを要求します。
〔3、4 年次生の両方に対する注意事項〕
岸本ゼミでは、出席、遅刻、早退について厳格なルールを設けています。さらに、発表をタイムリーに行うことについても厳格なルールを適用します。したがって、万が一これらのルールに抵触すると、進級時にゼミの参加を遠慮してもらうことがありますし、場合によっては年度途中に退ゼミ勧告をすることもあります。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの活性化。

【学生が準備すべき機器他】
発表に PowerPoint や WORD 等のパソコンソフトを利用することを義務付けています。

【その他の重要事項】
本演習の参加者には、高い学習意欲を維持することと、努力を惜しまないことを奨励しています。また、本演習に参加する過程で、初歩的なコンピューターの基礎知識が身に付くよう指導します。さらに、社会人として生きていく上で重要なファクターである、責任感、積極性、協調性、コミュニケーション能力を養うことを心がけることを指導しています。
上で説明したように、本演習の活動は、輪読、投資家の観点からの企業分析の二つで構成されています。このうち、企業分析には、本学部で開講されている科目の大部分のものが何らかの意味で有用です。特に有用なのは、財務諸表を読む力を養う科目と証券の性質を学習する科目です。具体的には、前者の科目として簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ、財務会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析論Ⅰ/Ⅱ、企業評価論 I/II があります。また、後者の科目としてファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 I/II、コーポレートファイナンス入門 I/II があります。したがって、本演習の履修を希望する者は、これらの科目の履修を強く勧めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to get students acquainted with the fundamental analysis, which is a method for analyzing stocks and bonds from the point of view of investors. In general, corporations can be analyzed with respect to each of functional areas, such as management, management strategy, finance, accounting, marketing, and operations management. And the performance of a corporation depends on the performance in all of these functional areas.
Therefore, students in this seminar are encouraged to apply all the knowledge and skills they have acquired in the courses they have taken at the Faculty of Business Administration. In the Spring semester, students in this seminar present summaries of assigned chapters of textbooks in one of the aforementioned areas. In the Fall semester, students analyze corporations they choose and present their analysis in the seminar. The summaries of these analysis will be posted on the Web page set up for this seminar.
Learning objectives: This course has three main objectives. First, students should be able to learn how to analyze a specific company from the standpoint of an investor or a lender and be able to apply the techniques to actual companies. Second, students should be able to read technical books effectively. Third, students should be able to summarize the results of their analysis in a resume and present it in an easy-to-understand manner in the seminar.
Learning activities outside of the classroom: Prior study of the textbook, analysis of the chosen company, and preparation of presentation. A student is expected to spend about four hours every week to read the text, analyze the chosen company or prepare for the presentation.
Grading criteria/policy:
[Evaluation of junior students]

Grading will be based on several factors, including the quality of resumes, presentations, participation in discussions, and contributions to seminar activities outside of class. As a rule of thumb, a grade A will be given to students who have satisfactorily performed these activities. On the other hand, students who do not perform well in these activities will receive a grade of A- or lower, and a junior who performs poorly may not be allowed to participate in this seminar when he or she become a senior. In other words, students are not automatically allowed to continue to participate in this seminar in their second year.
[Evaluation of senior students]
Senior students will be evaluated in the same way as junior students. Note, however, that senior students are expected to perform better than junior students.
(Note for both 3rd and 4th year students)
This seminar has strict rules regarding attendance, tardiness, and leaving early. In addition, strict rules will be applied to preparing presentation materials in a timely manner. Therefore, in the unlikely event where you violate any of these rules, you may be asked to refrain from participating in the seminar at the time of advancement to the senior year, and in some cases, you may be advised to withdraw from the seminar in the middle of the academic year.

MAN200FA

演習 1

竹内　淑恵

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面で水曜 4，5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (1)	テキスト第 1 章「マーケティング発想の経営」、R 実習第 1 章「マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン」
第 2 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (2)	テキスト第 2 章「マーケティング論の成り立ち」、R 実習第 2 章「データの取得と整理」
第 3 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (3)	テキスト第 3 章「マーケティングの基本概念」R 実習第 3 章「サンプリング」
第 4 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (4)	テキスト第 4 章「製品のマネジメント」、R 実習第 4 章「質問紙の作成と測定尺度」
第 5 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (5)	テキスト第 5 章「価格のマネジメント」、R 実習第 5 章「市場反応分析：回帰モデル」
第 6 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (6)	テキスト第 6 章「広告のマネジメント」、R 実習第 6 章「市場の発見と知覚マップ：因子分析」
第 7 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (7)	テキスト第 7 章「チャネルのマネジメント」、R 実習第 7 章「市場セグメンテーション：クラスター分析」
第 8 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (8)	テキスト第 8 章「サプライチェーンのマネジメント」、R 実習第 8 章「製品開発：コンジョイント分析」
第 9 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (9)	テキスト第 9 章「営業のマネジメント」、R 実習第 9 章「新製品の普及：バスモデル」
第 10 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (10)	テキスト第 10 章「顧客関係のマネジメント」、R 実習第 10 章「顧客の管理：RFM 分析、分散分析、ロジスティック回帰分析」
第 11 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (11)	テキスト第 11 章「ビジネスモデルのマネジメント」、R 実習第 11 章「市場反応分析：離散選択モデル」
第 12 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (12)	テキスト第 12 章「顧客理解のマネジメント」、R 実習第 12 章「ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析」
第 13 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (13)	テキスト第 13 章「ブランド構築のマネジメント」、R 実習第 13 章「マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析」
第 14 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (14)	テキスト第 14 章「ブランド組織のマネジメント」、R 実習第 14 章「定性調査データの分析：潜在変数の構造分析」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2，3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2，3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020)『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013)『現代マーケティング・リサーチ　市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、担当発表内容 (30 %)、研究論文 (30 %)、授業貢献度 (40 %) により成績評価を行います。ただし、2，3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2，3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30 %)
・質疑応答への貢献度 (30 %)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40 %)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30 %)、
・質疑応答への貢献度 (40 %)
・卒論研究 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%,) and in class contribution (40%).

MAN200FA

演習 2

竹内　淑恵

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面で水曜 4，5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究の進捗報告 (1)	2，3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	グループ研究の進捗報告 (2)	2，3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 3 回	グループ研究の進捗報告 (3)	2，3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
第 4 回	グループ研究の進捗報告 (4)	2，3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 5 回	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。 ※オンラインで実施する可能性もある。
第 6 回	グループ研究の進捗報告 (5)	2，3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 7 回	グループ研究の進捗報告 (6)	2，3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
第 8 回	グループ研究の進捗報告 (7)	2，3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
第 9 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
第 10 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
第 11 回	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
第 12 回	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
第 13 回	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
第 14 回	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2，3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2，3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020)『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013)『現代マーケティング・リサーチ　市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、担当発表内容 (30 %)、研究論文 (30 %)、授業貢献度 (40 %) により成績評価を行います。ただし、2，3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2，3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30 %)
・質疑応答への貢献度 (30 %)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40 %)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30 %)、
・質疑応答への貢献度 (40 %)
・卒論研究 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%,) and in class contribution (40%).

MAN300FA

演習 3

竹内　淑恵

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面で水曜 4，5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (1)	テキスト第 1 章「マーケティング発想の経営」、R 実習第 1 章「マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン」
第 2 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (2)	テキスト第 2 章「マーケティング論の成り立ち」、R 実習第 2 章「データの取得と整理」
第 3 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (3)	テキスト第 3 章「マーケティングの基本概念」R 実習第 3 章「サンプリング」
第 4 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (4)	テキスト第 4 章「製品のマネジメント」、R 実習第 4 章「質問紙の作成と測定尺度」
第 5 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (5)	テキスト第 5 章「価格のマネジメント」、R 実習第 5 章「市場反応分析：回帰モデル」
第 6 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (6)	テキスト第 6 章「広告のマネジメント」、R 実習第 6 章「市場の発見と知覚マップ：因子分析」
第 7 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (7)	テキスト第 7 章「チャネルのマネジメント」、R 実習第 7 章「市場セグメンテーション：クラスター分析」
第 8 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (8)	テキスト第 8 章「サプライチェーンのマネジメント」、R 実習第 8 章「製品開発：コンジョイント分析」
第 9 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (9)	テキスト第 9 章「営業のマネジメント」、R 実習第 9 章「新製品の普及：バスモデル」
第 10 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (10)	テキスト第 10 章「顧客関係のマネジメント」、R 実習第 10 章「顧客の管理：RFM 分析、分散分析、ロジスティック回帰分析」
第 11 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (11)	テキスト第 11 章「ビジネスモデルのマネジメント」、R 実習第 11 章「市場反応分析：離散選択モデル」
第 12 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (12)	テキスト第 12 章「顧客理解のマネジメント」、R 実習第 12 章「ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析」
第 13 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (13)	テキスト第 13 章「ブランド構築のマネジメント」、R 実習第 13 章「マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析」
第 14 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (14)	テキスト第 14 章「ブランド組織のマネジメント」、R 実習第 14 章「定性調査データの分析：潜在変数の構造分析」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2，3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2，3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020)『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013)『現代マーケティング・リサーチ　市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、担当発表内容 (30 %)、研究論文 (30 %)、授業貢献度 (40 %) により成績評価を行います。ただし、2，3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2，3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30 %)
・質疑応答への貢献度 (30 %)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40 %)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30 %)、
・質疑応答への貢献度 (40 %)
・卒論研究 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%,) and in class contribution (40%).

MAN300FA

演習 4

竹内　淑恵

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面で水曜 4，5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究の進捗報告 (1)	2，3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	グループ研究の進捗報告 (2)	2，3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 3 回	グループ研究の進捗報告 (3)	2，3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
第 4 回	グループ研究の進捗報告 (4)	2，3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 5 回	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。 ※オンラインで実施する可能性もある。
第 6 回	グループ研究の進捗報告 (5)	2，3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 7 回	グループ研究の進捗報告 (6)	2，3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
第 8 回	グループ研究の進捗報告 (7)	2，3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
第 9 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
第 10 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
第 11 回	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
第 12 回	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
第 13 回	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
第 14 回	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2，3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2，3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020)『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013)『現代マーケティング・リサーチ　市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、担当発表内容 (30 %)、研究論文 (30 %)、授業貢献度 (40 %) により成績評価を行います。ただし、2，3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2，3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30 %)
・質疑応答への貢献度 (30 %)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40 %)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30 %)、
・質疑応答への貢献度 (40 %)
・卒論研究 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%,) and in class contribution (40%).

MAN400FA

演習 5

竹内　淑恵

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面で水曜 4，5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (1)	テキスト第 1 章「マーケティング発想の経営」、R 実習第 1 章「マーケティング意思決定とリサーチ・デザイン」
第 2 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (2)	テキスト第 2 章「マーケティング論の成り立ち」、R 実習第 2 章「データの取得と整理」
第 3 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (3)	テキスト第 3 章「マーケティングの基本概念」R 実習第 3 章「サンプリング」
第 4 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (4)	テキスト第 4 章「製品のマネジメント」、R 実習第 4 章「質問紙の作成と測定尺度」
第 5 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (5)	テキスト第 5 章「価格のマネジメント」、R 実習第 5 章「市場反応分析：回帰モデル」
第 6 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (6)	テキスト第 6 章「広告のマネジメント」、R 実習第 6 章「市場の発見と知覚マップ：因子分析」
第 7 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (7)	テキスト第 7 章「チャネルのマネジメント」、R 実習第 7 章「市場セグメンテーション：クラスター分析」
第 8 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (8)	テキスト第 8 章「サプライチェーンのマネジメント」、R 実習第 8 章「製品開発：コンジョイント分析」
第 9 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (9)	テキスト第 9 章「営業のマネジメント」、R 実習第 9 章「新製品の普及：バスモデル」
第 10 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (10)	テキスト第 10 章「顧客関係のマネジメント」、R 実習第 10 章「顧客の管理：RFM 分析、分散分析、ロジスティック回帰分析」
第 11 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (11)	テキスト第 11 章「ビジネスモデルのマネジメント」、R 実習第 11 章「市場反応分析：離散選択モデル」
第 12 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (12)	テキスト第 12 章「顧客理解のマネジメント」、R 実習第 12 章「ブランドと属性の同時マップ：コレスポンデンス分析」
第 13 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (13)	テキスト第 13 章「ブランド構築のマネジメント」、R 実習第 13 章「マーケットバスケットとクロスセリング：アソシエーション分析」
第 14 回	テキスト輪読とデータ解析の実習 (14)	テキスト第 14 章「ブランド組織のマネジメント」、R 実習第 14 章「定性調査データの分析：潜在変数の構造分析」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2，3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2，3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020)『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013)『現代マーケティング・リサーチ　市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、担当発表内容 (30 %)、研究論文 (30 %)、授業貢献度 (40 %) により成績評価を行います。ただし、2，3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2，3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30 %)
・質疑応答への貢献度 (30 %)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40 %)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30 %)、
・質疑応答への貢献度 (40 %)
・卒論研究 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%,) and in class contribution (40%).

MAN400FA

演習 6

竹内　淑恵

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本ゼミは、マーケティング、特に広告、コミュニケーション、ブランディングについて理解することを目的にしています。 春学期には、基本的な教科書を輪読し、ケーススタディ、新聞、雑誌の記事を使用して、グループ討議を行います。あわせて、統計分析ができるようになるため、フリーソフトウェア R の実習も行います。秋学期には、データを収集して分析し、最終的に研究論文として仕上げます。

【到達目標】
・マーケティング関連のテーマに関して、①論文を読んで理解する、②関連情報を調べる、③自分の意見・考えを持つ、④それらを取りまとめて、プレゼンする。
・文章作成力、情報収集・分析・発信力、状況判断・行動力など就業力に関わる総合力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
対面で水曜 4，5 限に行います。
・グループに分かれて文献やテキスト、リサーチの内容を報告し、それをもとに全員で議論します。
・サブゼミも実施します。合宿については現時点では未定ですが、新型コロナウイルス感染状況等を総合的に見て実施可否を判断します。
・大教室での授業と異なり、ゼミへは受け身ではなく主体的な参加が必須です。毎回、皆さんの発表や報告に対して、直接フィードバックを行います。ゼミ生の皆さんも学年に関係なく、積極的に発言し、意見交換をしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グループ研究の進捗報告 (1)	2，3 年生の各班はアンケート調査票を作成し、報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 2 回	グループ研究の進捗報告 (2)	2，3 年生の各班は前週の指摘を踏まえて、修正した調査票を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 3 回	グループ研究の進捗報告 (3)	2，3 年生の各班とも調査票を確定し、実査を行う。
第 4 回	グループ研究の進捗報告 (4)	2，3 年生の各班は収集したデータの分析を始め、その一部を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 5 回	次年度入ゼミ試験	次年度入ゼミ生の面接試験を行う。一緒に勉強するゼミ生を担当教員とともに責任をもって選考する。 ※オンラインで実施する可能性もある。
第 6 回	グループ研究の進捗報告 (5)	2，3 年生の各班は引き続きデータ分析の結果を報告する。卒論班は研究の進捗状況を報告する。
第 7 回	グループ研究の進捗報告 (6)	2，3 年生の各班は仮説検証の結果を報告する。
第 8 回	グループ研究の進捗報告 (7)	2，3 年生の各班は分析結果に基づいて、インプリケーションを含め、研究の全体について報告する。
第 9 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (1)	関東学生マーケティング大会の発表に向け、練習を行う。
第 10 回	関東学生マーケティング大会の発表準備 (2)	前回発表で指摘のあった点を修正し、再度発表練習を行う。
第 11 回	関東学生マーケティング大会の振り返り	発表について振り返り、成果と反省点を報告する。
第 12 回	卒論グループによる研究発表 (1)	分析結果を報告する。
第 13 回	卒論グループによる研究発表 (2)	再分析の結果、結論、考察等、卒論全体について報告する。
第 14 回	1 年間のゼミ総まとめ	自分が興味を持ったマーケティング事例を分析し、その事例のマーケティング戦略について報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・2，3 年生はサブゼミや関東学生マーケティング大会に積極的に参加し、貢献しましょう。4 年生は関東学生マーケティング大会に向け、各グループのメンターとして 2，3 年生をサポートしてください。
・論文の書き方を学び、テーマを決め、文章化します。2，3 年生は論文の事前チェックを担当する 4 年生とコミュニケーションを密に取り、論文の完成度を高めましょう。
・毎年学内懸賞論文に応募し、成果を上げているので、今年度も応募します。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①マーケティングのテキスト：石井淳蔵・廣田章光・清水信年編著 (2020)『1 からのマーケティング 第 4 版』碩学舎。
②統計分析の入門書：照井伸彦・佐藤忠彦 (2013)『現代マーケティング・リサーチ　市場を読み解くデータ分析』有斐閣。
上記を春学期に使用します。

【参考書】
参考書については、ゼミ開講時あるいは適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
基本的には、担当発表内容 (30 %)、研究論文 (30 %)、授業貢献度 (40 %) により成績評価を行います。ただし、2，3 年生と 4 年生では上記ウエイトが若干異なります。
2，3 年生の場合
・輪読や R 実習を担当する章の資料作成、プレゼン内容 (30 %)
・質疑応答への貢献度 (30 %)
・関東学生マーケティング大会に向けた研究論文 (40 %)
4 年生の場合
・輪読や R 実習の資料作成、プレゼンのサポート (30 %)、
・質疑応答への貢献度 (40 %)
・卒論研究 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】
・例年スケジュール管理が甘くなり、せっかく進めた研究が仕上げの段階で時間不足になるので、関東学生マーケティング大会のスケジュールを厳格に守り、余裕をもって研究を進めましょう。
・4 年生の卒論も同様にスケジュール管理を徹底しましょう。
・4 年生は前年度の経験を踏まえ、2，3 年生のグループワークのメンターとしてアドバイスを行い、全面的に支援してあげてください。

【学生が準備すべき機器他】
・ゼミでの報告・プレゼンは PC を用い、パワーポイントで行います。
・レポートや卒論の作成には、ワードとエクセルが必要です。また、統計分析ではフリーソフトウェアの R を用います。

【その他の重要事項】
・ゼミでは、失敗を恐れずに、積極的に発言するようにしましょう。
・報告・連絡・相談 (報・連・相＝ホウレンソウ) をキチンとできることがすべての基本です。これを忘れずに実践してください。
・欠席の場合は事前に連絡する必要があります。欠席が多い場合は単位取得ができないので注意してください。
・マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、マーケティング・リサーチⅠ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ等マーケティング関連の専門科目を履修してください。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しています。実務的な視点から研究テーマを設定し、仮説設定・検証等研究へのアプローチを指導します。

【Outline (in English)】
Course outline: The objective of this seminar is to understand marketing, especially advertising, communication and branding. In the spring semester, students will read basic textbooks and discuss in groups using case studies, newspapers, and magazine articles. In addition, they will practice Free Software R. In the fall semester, they will collect and analyze their data, and finally write a research paper.
Learning Objectives: The students will acquire marketing knowledge and skills, and will be able to explain the significance and role of marketing. They will understand the characteristics of consumer behavior and develop the ability to carry out marketing activities systematically and rationally from the customer's perspective.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: content of the presentation in charge (30%), term-end research paper (30%,) and in class contribution (40%).

MAN200FA

演習 1

西川　英彦

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.
③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
④ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.
⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.
① To be able to explain the basic theories of marketing.
② To be able to apply practical marketing research methods.
③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows
・Individual and group report 50%.
・Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA

演習 2

西川　英彦

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.
③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
④ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.
⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.
① To be able to explain the basic theories of marketing.
② To be able to apply practical marketing research methods.
③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows
・Individual and group report 50%.
・Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA

演習 3

西川　英彦

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.
③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
④ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.
⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.
① To be able to explain the basic theories of marketing.
② To be able to apply practical marketing research methods.
③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows
・Individual and group report 50%.
・Contribution to the exercise activities 50%.

MAN300FA

演習 4

西川　英彦

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.
③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
④ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.
⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.
① To be able to explain the basic theories of marketing.
② To be able to apply practical marketing research methods.
③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows
・Individual and group report 50%.
・Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA

演習 5

西川　英彦

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.
③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
④ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.
⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況により、事前に説明の上、変更する可能性がある。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.
① To be able to explain the basic theories of marketing.
② To be able to apply practical marketing research methods.
③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows
・Individual and group report 50%.
・Contribution to the exercise activities 50%.

MAN400FA

演習 6

西川　英彦

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。
①マーケティングの基礎理論を説明できる。
②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
演習では、主には 5 つのことを実施する。
①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/
⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自またはグループの研究＆企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古川一郎・上原渉『1 からのデータ分析』碩学舎、2022 年.

【参考書】
①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
②松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年.
③山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
④ラッセル ベルク ・アイリーン　フィッシャー・ロバート V コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
⑤マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.
⑥西川英彦・澁谷覚編著『1 からのデジタル・マーケティング』碩学舎、2019.

【成績評価の方法と基準】
個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】
計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】
適宜利用する。

【その他の重要事項】
関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】
複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline (in English)】
The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

The objectives of the course can be summarized in the following three points.
① To be able to explain the basic theories of marketing.
② To be able to apply practical marketing research methods.
③ To be able to write proposals and papers.

Each student’s or group’s research & planning assignments are basically to be done outside of class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grades will be as follows
・Individual and group report 50%.
・Contribution to the exercise activities 50%.

MAN200FA

演習 1

山岩　輝

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft 社の Excel を使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

【到達目標】
以下の 3 つを到達目標に掲げます。
(1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
(2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
(3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表１
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表２
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
(2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
(1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
(4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN200FA

演習 2

山嵜　輝

演習選択_演習　2 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター（R&I）、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

【到達目標】
以下の 3 つを到達目標に掲げます。
(1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
(2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
(3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 2 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 3 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 4 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 5 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 6 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 7 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 8 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 9 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第 10 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 11 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 12 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
(2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
(1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
(4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA

演習 3

山嵜　輝

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft 社の Excel を使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

【到達目標】
以下の 3 つを到達目標に掲げます。
(1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
(2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
(3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表１
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表２
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
(2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
(1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
(4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN300FA

演習 4

山嵜　輝

演習選択_演習　3 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター（R&I）、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

【到達目標】
以下の 3 つを到達目標に掲げます。
(1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
(2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
(3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 2 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 3 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 4 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 5 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 6 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 7 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 8 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 9 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第 10 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 11 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 12 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
(2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
(1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
(4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA

演習 5

山岩　輝

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、Microsoft 社の Excel を使用して、ファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）を行います。実際の金融データを取得して活用する方法も学びます。

【到達目標】
以下の 3 つを到達目標に掲げます。
(1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
(2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
(3) 表計算ソフトを利用してファイナンスに関する実践的な計量分析や数値実験（シミュレーション）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスの知識や理解を確固たるものにします。さらには、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析を行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り
第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプッタブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バックト証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表１
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表２
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の研究計画発表会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
(2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
(1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
(4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の研究計画の発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) using Microsoft Excel for introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

MAN400FA

演習 6

山嵜　輝

演習選択_演習　4 年次／ 3 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は目覚ましく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論のなかには難解な部分もありますが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルを招いて、実務家講演会を開催します。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メリルリンチ日本証券、日本銀行、格付投資情報センター（R&I）、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、投資コンサルタントが講演しています。

【到達目標】
以下の 3 つを到達目標に掲げます。
(1) ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
(2) 自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション、レポート作成）ができる。
(3) 実務家などの専門家と金融の様々な話題について対話することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面形式の授業となります。本演習は 3 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。毎回の授業で宿題等のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 2 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 3 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 4 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 5 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 6 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 7 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 8 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 9 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際証券投資の意義
第 10 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ
第 11 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利パリティ、カバーなし金利パリティ、国際パリティ関係の現実
第 12 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 13 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 14 回	卒業レポートおよび卒業論文の報告会	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
(1) 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
(2) 小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】
(1) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(2) 佐野三郎、『2022 年版 パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(3) ジョン・ハル、『フィナンシャルエンジニアリング　第 9 版』、2016 年、金融財政事情研究会
(4) 木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】
学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】
発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【前提知識】
関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説します。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides students with a wide range of knowledge to understand financial markets and modern finance business. [Learning objective] The three major objectives of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) understanding principles of modern finance theory; and (3) understanding advanced topics lectured by an invited business person. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Presentation: 50%, exercises: 30%, in class contribution: 20%.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
つまずきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course Outline].
Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.
[Learning Objectives].
The objectives of this course are as follows.
(1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) To be able to create simple programs by oneself.
[Learning outside the class]
After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policies]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
授業は，実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.
[Goal]
The objectives of this course are as follows
(1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) Be able to create simple programs on their own.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
つまずきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course Outline].
Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.
[Learning Objectives].
The objectives of this course are as follows.
(1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) To be able to create simple programs by oneself.
[Learning outside the class]
After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policies]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
授業は，実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.
[Goal]
The objectives of this course are as follows
(1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) Be able to create simple programs on their own.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
つまずきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course Outline].
Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.
[Learning Objectives].
The objectives of this course are as follows.
(1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) To be able to create simple programs by oneself.
[Learning outside the class]
After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policies]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
授業は，実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.
[Goal]
The objectives of this course are as follows
(1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) Be able to create simple programs on their own.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅰ（JAVA）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
つまずきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course Outline].
Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.
[Learning Objectives].
The objectives of this course are as follows.
(1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) To be able to create simple programs by oneself.
[Learning outside the class]
After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policies]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（JAVA）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
授業は，実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.
[Goal]
The objectives of this course are as follows
(1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) Be able to create simple programs on their own.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
つまずきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course Outline].
Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.
[Learning Objectives].
The objectives of this course are as follows.
(1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) To be able to create simple programs by oneself.
[Learning outside the class]
After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policies]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016〜2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1〜4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
授業は，実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.
[Goal]
The objectives of this course are as follows
(1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) Be able to create simple programs on their own.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅰ（2016〜2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1〜4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を学習する。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成する。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認する。この学習と演習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Java の基礎知識	基本的なプログラムの記述方法や変数の利用について学びます。
第 2 回	図形の描画	図形を描画する方法について学びます。
第 3 回	繰り返しと条件判断	処理の繰り返しと条件を判断し処理を分岐する方法について学びます。
第 4 回	アニメーション	繰り返し処理を利用してアニメーションを作成する方法について学びます。
第 5 回	クラス・オブジェクト	効率良くアニメーションを作成する方法について学びます。
第 6 回	配列・Vector	効率良くたくさんの図形をアニメーションする方法について学びます。
第 7 回	継承	似たような図形を効率良く描画する方法について学びます。
第 8 回	イベント	キーボードからのイベント処理について学びます。
第 9 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 10 回	ゲームを作ろう（プレイヤーの作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。自機であるプレイヤーを作成していきます。
第 11 回	ゲームを作ろう（敵の作成 1）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 12 回	ゲームを作ろう（敵の作成 2）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。敵を作成していきます。
第 13 回	ゲームを作ろう（衝突判定）	今までの応用でシューティングゲームを作成していきます。弾丸や自機と敵の衝突判定を行います。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初級 Java ―やさしい Java, 長 慎也 (著), 飯塚 康至 (著), 実教出版 (2012/10/1),4407325860

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
つまずきやすいポイントを解説しながら演習を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（データ可視化）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course Outline].
Students will learn Java, a leading object-oriented language. The goal is to be able to create simple programs on your own, and to be able to explain what object-oriented programming is using the Java language.
[Learning Objectives].
The objectives of this course are as follows.
(1) To understand and be able to explain the basic functions and syntax of the Java language.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) To be able to create simple programs by oneself.
[Learning outside the class]
After understanding the examples and basic programs in the lecture, students will create programs for exercises by applying the examples. Students will actually use a PC to create programs and check their operation. Through this study and exercises, students will learn the basics of Java.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policies]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

PRI100FA

プログラミング言語Ⅱ（2016〜2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　1〜4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要なオブジェクト指向言語である Java 言語を文法を中心に学ぶ。自力にて簡単なプログラムを作成できることを目標とし、Java 言語を利用してオブジェクト指向とはどのようなものか説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】
本講座の到達目標は次の通り。
(1) 基本的な Java 言語の機能と文法を理解し説明できる。
(2) クラスを定義し利用できる。
(3) オブジェクト指向でプログラミングを行うことができる。
(4) 自力にて簡単なプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
授業は，実習室において講義と実習を行います。講義にて、例題や基本的なプログラム例を理解した後、それを応用した練習問題のプログラムを作成します。実際に PC を使用してプログラミングを行い、動作を確認します。この学習によって Java の基礎を身につけていきます。
なお、受講にあたってはプログラミングに関しての予備知識は必要としませんが、Windows の一般的な利用スキルは必要とします。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラス定義とオブジェクトの生成、使用	クラスを定義し別のクラスから生成、使用する方法について理解する。
第 2 回	オーバーロードメソッドの作成と使用	メソッドのオーバーロードを実装し、利用し理解する。
第 3 回	コンストラクタの定義	コンストラクタとは何かを理解し、定義し利用する。
第 4 回	アクセス修飾子の適用とカプセル化	アクセス修飾子について理解し、カプセル化を実装する。
第 5 回	static 変数および static メソッドの定義と使用	static とは何かを理解し、定義し利用する。
第 6 回	API の利用	API(Application Programming Interface) を利用してプログラミングする方法について理解する。
第 7 回	オブジェクト指向コンセプト	オブジェクト指向とはどのようなものか概念について理解する。
第 8 回	サブクラスの定義と使用	サブクラスの役割について理解し、実装する。
第 9 回	インターフェースと抽象クラス	インターフェースや抽象クラスがどのようなものか理解し、実装する。
第 10 回	ポリモフィズムについて説明と適用	ポリモフィズム（多態性）がどのようなものか理解し、実装する。
第 11 回	入出力と例外処理、ガベージコレクション	ストリームを利用した入出力について理解する。実行時のエラーである例外と例外処理について理解する。
第 12 回	パッケージ宣言とインポート	パッケージとは何か理解し、インポート部分の実装について理解する。
第 13 回	スレッドの定義と利用	並列処理であるスレッドについて理解し、利用する。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常的にパソコンを触る時間を作りましょう。分からない部分は質問したりインターネットで調べましょう。調べた内容は実際にプログラミングし検証しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
授業中適時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
前期はグラフィカルなプログラムを作成しプログラムの理解に努め、後期は文法中心に解説しプログラムの理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
関連資格： OCJP:Oracle Certified Java Programmer（オラクル認定 Java プログラマー）
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。

【関連科目】
データ処理論Ⅰ（コンピューターグラフィックス）

【実務経験のある教員による授業】
鉄道および製造業の大規模 Java システムの開発に長らく従事してきました。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
Learn the grammar of the Java language. Java language is the main object-oriented. The goal is to create a simple program on its own. And purpose is you can to be able to explain what is object-oriented.
[Goal]
The objectives of this course are as follows
(1) Understand and explain basic Java language functions and syntax.
(2) To be able to define and use classes.
(3) To be able to perform object-oriented programming.
(4) Be able to create simple programs on their own.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Make time to touch the computer on a daily basis. Ask questions and research on the Internet if you don't understand something. Program and verify what you have researched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

情報学応用Ⅰ（データ可視化）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データの可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの基礎を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
第 2 回	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
第 3 回	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
第 4 回	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
第 5 回	たくさんの図形を効率よく動かす	繰返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
第 6 回	【シューティングゲームの作成】キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
第 7 回	【シューティングゲームの作成】敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
第 8 回	【シューティングゲームの作成】弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
第 9 回	【シューティングゲームの作成】ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
第 10 回	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰返し文、配列などの 文法を学びます。
第 11 回	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
第 12 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（1）	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。
第 13 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（2）	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, we will learn how to visualize the following items.
(1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
(2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
(3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows: 1.
1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（データ可視化）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データ可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの起訴を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
第 2 回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
第 3 回	PPM 分析	エクセルで PPM 分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
第 4 回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
第 5 回	相関関係	2 つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
第 6 回	ABC 分析	構成の偏りを ABC 分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
第 7 回	Python でできること	AI や機械学習で利用される Python の概要について学ぶ。
第 8 回	Matpliotlib を利用したグラフの作成（1）	Python のライブラリである Matpliotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Matpliotlib を利用したグラフの作成（2	Matpliotlib を利用しデータを可視化する方法について学ぶ。
第 10 回	機械学習 (1)	機械学習の概要について学ぶ。
第 11 回	機械学習 (2)	K 近傍法を利用した分類手法について学ぶ。
第 12 回	深層学習 (1)	画像認識ライブラリの利用方法について学ぶ。
第 13 回	深層学習 (2)	画像認識ライブラリに学習を行い独自の AI を作る方法について学ぶ。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, we will learn how to visualize the following items.
(1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
(2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
(3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows: 1.
1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅰ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅱ（プレゼンテーション）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

情報学応用Ⅰ（空間情報）（2019 年度以降入学者）

沼尻　治樹

情報関係科目　2〜4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，配付資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが，Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
なお本授業は応用科目であるから，Windows の基本操作については解説しない。充分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】
授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅱ（空間情報）

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.
[Learning objectives]
Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

情報学応用Ⅱ（空間情報）（2019 年度以降入学者）

沼尻　治樹

情報関係科目　2〜4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，操作資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 2 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 3 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 4 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 5 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第 6 回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第 7 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 8 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 9 回	空間解析の実践 1	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第 10 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 11 回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第 12 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 13 回	空間情報の作成・分析と考察 2	課題に対してデータ処理を実践する
第 14 回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが，Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
なお本授業は応用科目であるから，Windows の基本操作については解説しない。充分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】
授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.
[Learning objectives]
Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論Ⅰ（CG）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データの可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの基礎を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
第 2 回	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
第 3 回	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
第 4 回	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
第 5 回	たくさんの図形を効率よく動かす	繰返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
第 6 回	【シューティングゲームの作成】キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
第 7 回	【シューティングゲームの作成】敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
第 8 回	【シューティングゲームの作成】弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
第 9 回	【シューティングゲームの作成】ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
第 10 回	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰返し文、配列などの 文法を学びます。
第 11 回	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
第 12 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（1）	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。
第 13 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（2）	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, we will learn how to visualize the following items.
(1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
(2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
(3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows: 1.
1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（CG）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データ可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの起訴を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
第 2 回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
第 3 回	PPM 分析	エクセルで PPM 分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
第 4 回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
第 5 回	相関関係	2 つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
第 6 回	ABC 分析	構成の偏りを ABC 分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
第 7 回	Python でできること	AI や機械学習で利用される Python の概要について学ぶ。
第 8 回	Matpliotlib を利用したグラフの作成（1）	Python のライブラリである Matpliotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Matpliotlib を利用したグラフの作成（2	Matpliotlib を利用しデータを可視化する方法について学ぶ。
第 10 回	機械学習 (1)	機械学習の概要について学ぶ。
第 11 回	機械学習 (2)	K 近傍法を利用した分類手法について学ぶ。
第 12 回	深層学習 (1)	画像認識ライブラリの利用方法について学ぶ。
第 13 回	深層学習 (2)	画像認識ライブラリに学習を行い独自の AI を作る方法について学ぶ。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, we will learn how to visualize the following items.
(1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
(2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
(3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows: 1.
1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・You Can give a logical presentation that understands the situation.
・You can Create accurate content and create clear materials.
・You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
・It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
・If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（プレゼンテーション）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（空間情報システム）（2018 年度入学者）

沼尻　治樹

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，配付資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが，Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
なお本授業は応用科目であるから，Windows の基本操作については解説しない。充分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】
授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅱ（空間情報）

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.
[Learning objectives]
Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論Ⅱ（空間情報システム）（2018 年度入学者）

沼尻　治樹

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，操作資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 2 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 3 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 4 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 5 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第 6 回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第 7 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 8 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 9 回	空間解析の実践 1	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第 10 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 11 回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第 12 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 13 回	空間情報の作成・分析と考察 2	課題に対してデータ処理を実践する
第 14 回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが，Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
なお本授業は応用科目であるから，Windows の基本操作については解説しない。充分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】
授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.
[Learning objectives]
Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データの可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの基礎を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。授業の詳細は開講時に学習支援システム Hoppii にて公開します。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラミングの基本	変数等プログラムの基本を学び可視化します。
第 2 回	図形の描画～制御構造～	図形描画を行いながら制御構造について学びます。
第 3 回	独自の図形描画～関数とランダムな数値～	独自の図形を描画しながら効率よくプログラムを作成する方法について学びます。
第 4 回	図解を動かす (アニメーション)	プログラミングで図形を描画しアニメーションさせる方法について学びます。
第 5 回	たくさんの図形を効率よく動かす	繰返し文を使い図解を効率よくアニメーションさせる方法について学びます。
第 6 回	【シューティングゲームの作成】キーボードからの動きとプレイヤーの作成	キーボードの入力値を受け付ける方法について学びます。
第 7 回	【シューティングゲームの作成】敵の描画とあたり判定	敵の描画方法と当たり判定について学びます。
第 8 回	【シューティングゲームの作成】弾の描画とあたり判定	弾の描画と当たり判定について学びます。
第 9 回	【シューティングゲームの作成】ゲームを完成させよう	得点の表示やランキングなどそのほかのゲームの要素について学びます。
第 10 回	プログラムの基本 (その 2-1)	そのほかの条件分岐や繰返し文、配列などの 文法を学びます。
第 11 回	プログラムの基本 (その 2-2)	ポインターといった C 言語特有の文法について学びます。
第 12 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（1）	ソートアルゴリズムを可視化しアルゴリズムによる動作の違いを確認します。
第 13 回	アルゴリズムと関数の再帰呼び出し（2）	関数の再帰呼び出しを可視化しフラクタル図形を作成します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
楽しく学ぶ C 言語, 飯塚 康至、長 慎也, 技術評論社 (2020/1/18), 4297110571

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習系の授業になるので遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, we will learn how to visualize the following items.
(1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
(2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
(3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows: 1.
1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では次の項目を可視化する方法について学ぶ。
1）プログラミングの可視化（C 言語を利用してプログラミングを可視化する方法について学ぶ）
2）データ可視化・分析（エクセルを利用してデータを可視化し分析する方法について学ぶ）
3）グラフ化・機械学習・深層学習（AI や機械学習で利用する数式やモデルの可視化の方法について学ぶ。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. C 言語を利用し簡単な可視化プログラミングを行うことができるようになる
2. エクセルを利用しデータを可視化し分析できるようになる
3. Python を利用し数式等を可視化できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
前期は C 言語を利用してプログラムを可視化する方法について学びます。これにより C 言語のプログラミングの起訴を身につけます。
後期はエクセルを利用しデータをグラフ化し分析する手法と AI や機械学習で利用されることが多い Python を利用し、数式の可視化や機械学習のためのモデルの作成を行い。データの可視化の手法について学びます。
演習形式で授業を行なっていきます。説明から演習の繰り返しで授業を進めていきます。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ビジネスデータ分析とは	ビジネスデータ分析とはエクセルを利用したビジネスデータ分析の概要について学ぶ。
第 2 回	表の使いこなしとピボットテーブル	表を使いデータを可視化する手法と集計の手法を学ぶ。
第 3 回	PPM 分析	エクセルで PPM 分析を行い製品や会社の立ち位置を可視化する方法について学ぶ。
第 4 回	ファンチャート	エクセルでファンチャートを作成し基準点からの変化の具合を可視化する方法について学ぶ。
第 5 回	相関関係	2 つの独立した値の関係の強さを示す相関関係を可視化する方法について学ぶ。
第 6 回	ABC 分析	構成の偏りを ABC 分析を利用し可視化する方法について学ぶ。
第 7 回	Python でできること	AI や機械学習で利用される Python の概要について学ぶ。
第 8 回	Matpliotlib を利用したグラフの作成（1）	Python のライブラリである Matpliotlib を利用し数式等を可視化する方法について学ぶ。
第 9 回	Matpliotlib を利用したグラフの作成（2	Matpliotlib を利用しデータを可視化する方法について学ぶ。
第 10 回	機械学習 (1)	機械学習の概要について学ぶ。
第 11 回	機械学習 (2)	K 近傍法を利用した分類手法について学ぶ。
第 12 回	深層学習 (1)	画像認識ライブラリの利用方法について学ぶ。
第 13 回	深層学習 (2)	画像認識ライブラリに学習を行い独自の AI を作る方法について学ぶ。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
キー入力や基本的な PC の操作はできる前提で授業が進みます。操作が苦手な人は空いた時間に身につけるようにしてください。データ分析や AI は身近な領域になりつつあります。就職活動や自身の活動と結びつけて考えるようにしてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
後期は独自の資料にて授業を行います。

【参考書】
後期参考書は開講時にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
可視化をキーワードにさまざまなことを学びます。難易度高めの授業になる見込みです。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習系の授業になるので、遅刻しないようにお願いします。

【関連科目】
プログラミング言語Ⅰ／Ⅱ [Java コース]

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, we will learn how to visualize the following items.
(1) Visualization of programming (learn how to visualize programming using C language)
(2) Data analysis (learn how to visualize and analyze data using Excel)
(3) Graphing, Machine Learning, and Deep Learning (Learn how to visualize formulas and models used in AI and machine learning.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows: 1.
1. To be able to perform simple visualization programming using the C language
2. To be able to visualize and analyze data using Excel
To be able to visualize mathematical expressions using Python
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises. The class will be conducted in an exercise style, with repetition of explanations and exercises.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習 （グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習 （個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習（グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習（個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You can clearly grasp the situation of the presentation.
· You can give a logical presentation that understands the situation.
· You create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■春学期
(1) 表現能力を高めるため、Word での文書作成の機能を学ぶ
(2) 資料に必要なコンテンツ作成のための技術を習得するために Excel の機能を学ぶ
(3) プレゼンテーションソフトの基本操作方法、動画や音声、アニメーション効果の利用方法など、PC を利用したプレゼンテーションの基本的操作技術を学習する。
(4)A4 文書で自己紹介、動画で自己紹介など表現方法を学ぶ
(5) ストーリーを伝える表現、連続性のあるストーリーをどう表現するか理解し、相互評価する
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポート提出
第 2 回	Word 復習	Word 機能の復習 （文字列段落の修飾、ワードアート、2 段組、ルビ、脚注、図形描画、その他）
第 3 回	Excel 復習 1 回目	計算式、関数の利用 連続データの入力 効率的な操作法
第 4 回	Excel 復習 2 回目	簡単な統計 IF 関数の応用 相対参照、絶対参照、複合参照
第 5 回	Excel 復習 3 回目	目的に合わせたグラフ作成
第 6 回	Excel 復習 4 回目	集計、分類、抽出 ウィンドウ枠の設定など
第 7 回	PowerPoint 復習	動画や音声、アニメーション効果の利用方法など
第 8 回	図形描画前編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 9 回	図形描画後編	デザイン性の高い スライド作成のための演習 1
第 10 回	自己 PR	Word の機能を駆使して、 自己 PR 文書の作成
第 11 回	プレゼン発表企画書作成	何をどんなふうに 何を目的に プレゼンするかを企画する
第 12 回	プレゼン資料作成	プレゼンテーションソフトの概要、基本操作
第 13 回	プレゼン発表	各自、 制限時間内で発表
第 14 回	相互評価 レポート作成	相互評価の結果を受けて 最終レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
· You Can give a logical presentation that understands the situation.
· You can Create accurate content and create clear materials.
· You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
· It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
· If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC 等を活用したプレゼンテーション能力 (表現能力) を高めるための科目である。
本科目では特に、プレゼンテーションソフトを活用したオンスクリーンプレゼンテーションにおける表現能力を対象とする。

【到達目標】
聴衆の身になったプレゼンテーションを行えること。そのために、
・プレゼンテーションの状況を明確にとらえることができる
・状況を理解した論理的なプレゼンテーションを行える
・的確なコンテンツを作成し、明確な資料を作成する
・実践的なプレゼンテーションを行える
ことを、より具体的な目標として設定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
■秋学期
(1) 比較的簡単な状況を設定したプレゼンテーション演習を数回行う。この演習を通じて、プレゼンテーションすることに慣れ、プレゼンテーションの状況を明確にとらえられるようにする。
(2) 聞き手を巻き込むための表現、聞き手に話の目的や概要を伝える必要性を理解する。
(3) わかりやすく伝える表現、説明のための補助手段としての表現方法を理解する。
(4) 印象づける表現、色や文字、データを強調する方法、話す内容を強調する方法を理解する。
(5) プレゼンテーションのための活動として、その準備と実施活動、知識・技術を定着・応用するための活動について理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説 ガイダンスレポートの提出
第 2 回	失敗しないプレゼンテーション 1 －導入－	聞き手をつかむ　結論から見せる 目標を示す　序論で動機づけ
第 3 回	失敗しないプレゼンテーション 2 －可視化－	百聞は一見に如かず　見える形に具現化する 喩えてみせる　表現の段階化
第 4 回	失敗しないプレゼンテーション 3 －内容に適した表現素材－	スライドデザイン
第 5 回	失敗しないプレゼンテーション 4 －構造や関係－	分類と包含　階層構造　流れの構造 連続的な関係　合流・複合の関係
第 6 回	失敗しないプレゼンテーション 5 －伝え方－	感動を与えることば 印象に残るコンテンツのコツ
第 7 回	比較的簡単な演習 （グループ演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 8 回	比較的簡単な演習 （個人演習）	指定のプレゼン資料の作成・提出
第 9 回	プレゼンテーション作成演習 1	プレゼン用スライドの鑑賞 計画・要素収集
第 10 回	プレゼンテーション作成演習 2	プレゼンテーション作成
第 11 回	プレゼンテーション作成演習 3	プレゼンテーション作成、提出
第 12 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 1	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 13 回	プレゼンテーション聴講と相互評価 2	各人のプレゼンテーションを様々な観点から評価
第 14 回	秋学期まとめ	レポート作成、提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Office 系のアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作が身についていることが前提である。
資料作成や、課題作成など授業時間内で終了できない場合は、宿題となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
オリジナル資料を授業支援システムで提供。

【参考書】
「心をつかみ人を動かす　説明の技術」　木田知廣（日本実業出版）
「伝え方が９割」佐々木圭一（ダイアモンド社）
「分かりやすい説明」の技術　最強のプレゼンテーション１５のルール　藤沢浩司（ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、授業の中で行う演習 50%を基本とする。演習に関しては相互評価も採用する。定期試験期間内の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
実践的演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
PC を使用した実習形式の授業を行う。

【その他の重要事項】
演習はグループ方式を採用する場合もある。

【関連科目】
特になし。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The subject to improve the presentation ability for which PCs were utilized (expressive ability).
Learning Objectives
・ You can clearly grasp the situation of the presentation.
・ You can give a logical presentation that understands the situation.
・ You create accurate content and create clear materials.
・ You can give a practical presentation.
Learning activities outside of classroom
It is assumed that you have mastered the basic operations of Office application software (Word, Excel, PowerPoint).
If you cannot finish the lesson, such as creating materials or assignments, you will have to do your homework.
Grading Criteria /Policy
Basically, 50% of normal points and 50% of exercises performed in class. Mutual evaluation is also adopted for the exercises. Written exams will not be conducted during the regular exam period.

COT200FA

データ処理論Ⅰ（2016〜2017 年度入学者）

沼尻　治樹

選択_情報関係　2〜4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，配付資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	空間情報システムとは何か？	空間情報システムについて具体的な事例を交えながら紹介する
第 2 回	空間情報システムの歴史と応用事例	空間情報システムの歴史を簡単に述べ事例とともに解説する
第 3 回	空間情報（デジタルデータ）について	空間情報システムで取り扱うデジタルデータについて解説する
第 4 回	空間情報のマッピング 1	国土数値情報を利用しながらアプリケーションの操作を学ぶ
第 5 回	空間情報のマッピング 2	基盤地図情報を利用しながらアプリケーションでのレイアウトを変更・編集する
第 6 回	空間情報と統計データ 1	統計データに合致したレイアウトの考え方を学ぶ
第 7 回	空間情報と統計データ 2	レイアウトの応用と主題図作成を学ぶ
第 8 回	空間情報の統計演算 1	統計データの新規追加を学ぶ
第 9 回	空間情報の統計演算 2	統計データの変換を学ぶ
第 10 回	空間情報の統計演算 3	統計データの演算を学ぶ
第 11 回	空間情報の保存・変換	空間情報の保存と投影（座標系）変換
第 12 回	ジオプロセシングと空間解析	簡単な空間解析法（バッファリング・空間結合・属性結合・距離と面積の測定）を学ぶ
第 13 回	空間情報の分析と考察 1	課題に対して空間情報を選択する
第 14 回	空間情報の分析と考察 2	空間情報の処理を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが，Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
なお本授業は応用科目であるから，Windows の基本操作については解説しない。充分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】
授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅱ（空間情報）

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.
[Learning objectives]
Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

データ処理論Ⅱ（2016〜2017 年度入学者）

沼尻　治樹

選択_情報関係　2〜4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，G 空間と呼ばれるような空間情報の基礎的な知識と空間情報の処理法およびその分析法を習得することを目的とする。
空間情報システムの発達とともに，商圏分析や立地分析，災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく，地図アプリケーションなども web を通して日常生活に普及してきた。一方，地理空間情報活用推進基本法の制定により，行政機関などによる空間情報の整備が進められることになった。それに伴って，空間情報に関わる知識を備えた人材の育成がさらに望まれるようになってきている。また，東日本大震災後，行政機関だけでなく一般市民も自ら集めた情報を空間情報として集成し利用していることから，「既存の空間情報を利用する」から「空間情報を自作する」ことが一般的になり始めている。

【到達目標】
社会的・学術的な課題に対して空間情報を選択・利用，また空間情報を自作し問題解決に向けた基礎的な空間情報の処理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
本授業は，基本的に対面で実施する。学習支援システムを通して，資料の配付，課題の提出，質疑の受け付けを行う。実習は，操作資料と解説で進める。また，適宜動画資料も利用する。
授業では，初めて空間情報システムに触れる受講生に合わせ，まず空間情報システムの構造や考え方，空間情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーション，データを使用して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アドレスマッチングの利用	ジオコーディングを学びポイントデータを自作する
第 2 回	GNSS（GPS）を用いた位置情報の取得と表示	GNSS で取得した座標からポイントデータを自作する
第 3 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 1	オルソ化空中写真の表示を学びラインデータを自作する
第 4 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 2	ポリゴンデータを自作しさらにラインデータおよびポリゴンデータの形状を編集する
第 5 回	ラスタデータの利用とベクトルデータの作成 3	地理院地図を使いながらベクトルデータを作成しラスタデータへ変換する
第 6 回	ジオリファレンス（幾何補正）の実施	位置情報を持たない画像データに位置情報を与え空間情報を取得する
第 7 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 1	DEM について解説し簡単な地形解析を行う
第 8 回	数値標高モデル（DEM）による空間分析 2	地形解析を行い空間情報を取得する
第 9 回	空間解析の実践 1	空間補間（空間内挿）を行い空間情報の推定を行う
第 10 回	空間解析の実践 2	リモートセンシングデータを利用する
第 11 回	空間情報プログラミング超入門	Python3 (PyQGIS) を使った空間情報処理の基礎
第 12 回	空間情報の作成・分析と考察 1	課題とデータ処理の方法を設定する
第 13 回	空間情報の作成・分析と考察 2	課題に対してデータ処理を実践する
第 14 回	空間情報の作成・分析と考察 3	データ処理の結果を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は空間情報の取得などの宿題を行う。また，使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから，受講生は自宅での復習・自習を必要に応じて行う。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
自作テキストを利用する。

【参考書】
「地理情報学入門」（野上道男ほか，東京大学出版会，2001 年）
「国土を測る技術の基礎　―地理空間情報技術者を目指す人のために―」（高木方隆，（公社）日本測量協会，2014 年）
その他，適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
本授業は実習科目であることから，平常点を重視する。その他，学期末に実施するレポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に空間情報を処理しているか評価する。
成績評価の配分は，平常点を 60 %，レポート課題を 40 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
質問しやすい環境作りを心がけている。また空間情報システムの知識と処理法を同時に身につけることを目指している。さらに，空間情報システムの実社会での最新の動向を紹介し，授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では，学習支援システムを積極的に使用する。主に資料配布，課題提出，受講生向けの連絡，掲示板での質問対応である。また，PC を使って実習を行う。私物のポータブル PC を利用してもよい。Windows 環境での実習を想定しているが，Linux 環境等の PC での実習も認める。ただし，十分なサポートが受けられない可能性もあるので注意が必要である。
課題やデータの保存に USB メモリ等の外部記憶装置があるとよい。

【その他の重要事項】
本授業では，講義・実習を通して空間情報の理解を深めつつ，コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する実践的な知識を学ぶ。無料のアプリケーションソフトウェア，無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。
なお本授業は応用科目であるから，Windows の基本操作については解説しない。充分に Windows の操作を理解している必要がある。

【オフィス・アワー】
授業時に質問を受け付ける。また，学習支援システムの掲示板にて随時受け付ける。

【関連科目】
コンピュータ・リテラシーに関連する科目
情報学応用Ⅰ（空間情報）

【Outline (in English)】
[Course outline]
The purpose of this lesson is to understand the spatial information system and to learn the spatial analysis method. We use the space information system for site analysis and natural environment analysis. Spatial information systems are becoming part of our daily life.
[Learning objectives]
Students will be able to select, use, and create their own spatial information for social and academic issues. Students will be able to use them to perform basic information processing for problem solving.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least two hour for each class meeting.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、in class contribution: 60%

COT200FA

情報学発展Ⅰ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2〜4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
講義前半では主にコンピューターネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第 2 回	コンピューターの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピューターの構成について理解します。
第 3 回	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第 4 回	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
第 5 回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第 6 回	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
第 7 回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第 8 回	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 9 回	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 10 回	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
第 11 回	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
第 12 回	ホームページ作成の基礎①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第 13 回	ホームページ作成の基礎②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.
You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.
[Goal]
The objectives of this class are as follows
1. To understand how the Internet works.
2. To understand the major technologies that support the Internet.
3. To understand information security.
4. To understand the current state-of-the-art ICT technologies.
5. To understand basic web technologies.
6. To understand client-side dynamic technologies.
7. To understand server-side dynamic technologies
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to prepare for the class by imagining themselves as the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（情報通信ネットワーク）（2019 年度以降入学者）

飯塚　康至

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
前期に学んだネットワークや HTML の技術を生かし、サーバーサイド技術を中心に Web サイトの構築方法やスマートフォンアプリ作成について学習します。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第 2 回	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
第 3 回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第 4 回	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
第 5 回	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
第 6 回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
第 7 回	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
第 8 回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第 9 回	画像アップローダーの作成 1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第 10 回	画像アップローダーの作成 2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
第 11 回	画像アップローダーの作成 3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
第 12 回	スマートフォンアプリの作成 1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第 13 回	スマートフォンアプリの作成 2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this course, students will learn about the structure of computer networks, especially the Internet, and how to create web applications using HTML and PHP. This course also aims to help students understand information security and acquire the skills to take appropriate measures.
Students will also learn how to develop applications for smart phones (iPhone/Android) using Monaca, an Internet service.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows
Understand the structure of the Internet.
Understand the major technologies that support the Internet.
To understand information security.
To understand the latest ICT technologies.
To understand the basic web technologies.
To understand the dynamic technologies on the client side.
To understand the dynamic technologies on the server side.
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises with actual creation and confirmation.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と便利なフォーム機能	form の基本構造を理解するふりがな、パスワード、検索ワード、日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展Ⅰ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

情報学発展Ⅱ（ホームページ）（2019 年度以降入学者）

上野　京子

情報関係科目　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と便利なフォーム機能	form の基本構造を理解するふりがな、パスワード、検索ワード、日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅰ（通信ネットワーク）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
講義前半では主にコンピューターネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第 2 回	コンピューターの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピューターの構成について理解します。
第 3 回	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第 4 回	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
第 5 回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第 6 回	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
第 7 回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第 8 回	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 9 回	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 10 回	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
第 11 回	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
第 12 回	ホームページ作成の基礎①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第 13 回	ホームページ作成の基礎②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.
You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.
[Goal]
The objectives of this class are as follows
1. To understand how the Internet works.
2. To understand the major technologies that support the Internet.
3. To understand information security.
4. To understand the current state-of-the-art ICT technologies.
5. To understand basic web technologies.
6. To understand client-side dynamic technologies.
7. To understand server-side dynamic technologies
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to prepare for the class by imagining themselves as the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（通信ネットワーク）（2018 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
前期に学んだネットワークや HTML の技術を生かし、サーバーサイド技術を中心に Web サイトの構築方法やスマートフォンアプリ作成について学習します。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第 2 回	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
第 3 回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第 4 回	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
第 5 回	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
第 6 回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
第 7 回	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
第 8 回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第 9 回	画像アップローダーの作成 1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第 10 回	画像アップローダーの作成 2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
第 11 回	画像アップローダーの作成 3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
第 12 回	スマートフォンアプリの作成 1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第 13 回	スマートフォンアプリの作成 2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this course, students will learn about the structure of computer networks, especially the Internet, and how to create web applications using HTML and PHP. This course also aims to help students understand information security and acquire the skills to take appropriate measures.
Students will also learn how to develop applications for smart phones (iPhone/Android) using Monaca, an Internet service.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows
Understand the structure of the Internet.
Understand the major technologies that support the Internet.
To understand information security.
To understand the latest ICT technologies.
To understand the basic web technologies.
To understand the dynamic technologies on the client side.
To understand the dynamic technologies on the server side.
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises with actual creation and confirmation.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）(2018 年度入学者)

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と便利なフォーム機能	form の基本構造を理解するふりがな、パスワード、検索ワード、日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅰ（ホームページ）(2018 年度入学者)

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（ホームページ）（2018 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
講義前半では主にコンピューターネットワークの基本的な知識と技術と情報セキュリティについて学びます。授業は演習形式で実際に作成や確認を行いながら進めていきます。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	通信技術の発展と現在	情報通信技術の変遷と現在の姿について理解します。
第 2 回	コンピューターの構成	ネットワークの理解に入る前にネットワークに利用するコンピューターの構成について理解します。
第 3 回	IP ネットワークの理解	インターネットを支えるインターネットプロトコルについて理解します。
第 4 回	LAN の仕組みと構成	LAN の仕組みと構成を理解します。
第 5 回	ドメインの理解	名前解決であるドメインの仕組みについて理解します。
第 6 回	TCP とパケットの理解	インターネット上のサービスを実現するための TCP とパケットについて理解します。
第 7 回	インターネットサービスとアプリケーション	主要なインターネットのサービスとアプリケーションについて理解します。
第 8 回	情報セキュリティ 1	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 9 回	情報セキュリティ 2	インターネットを利用した情報セキュリティについて学びます。
第 10 回	HTML の基礎知識	Web ページを作成するための HTML の歴史や現在の基礎知識について理解します。
第 11 回	HTML の基本文法	HTML の基本的な文法について理解します。
第 12 回	ホームページ作成の基礎①	見出を作成したり文字装飾を行う方法を理解します。
第 13 回	ホームページ作成の基礎②	リスト、テーブル、リンク等を作成する方法を理解します。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
大学内のコンピューターおよび中間モニタを利用します。課題のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
The theme of this lesson is to understand the computer network system and web applications and information security.
You will also learn how to develop applications for smartphone (iPhone / Android) using Monaca.
[Goal]
The objectives of this class are as follows
1. To understand how the Internet works.
2. To understand the major technologies that support the Internet.
3. To understand information security.
4. To understand the current state-of-the-art ICT technologies.
5. To understand basic web technologies.
6. To understand client-side dynamic technologies.
7. To understand server-side dynamic technologies
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
The use of computer networks is indispensable in today's personal and corporate activities. Students are encouraged to prepare for the class by imagining themselves as the person in charge after they actually find a job. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading criteria]
Grading will be based on the assignments and reflection sheets for each class, with a maximum score of 100 points, 50 points for each reflection sheet and 50 points for each in-class assignment.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

飯塚　康至

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組と HTML や PHP を利用した Web アプリケーションの作成手法についても学びます。また情報セキュリティについても理解し適切な対応がとれるスキルを身につけることを目標とします。
インターネットのサービスである Monaca を利用してスマートフォン（iPhone/Android）向けのアプリケーション開発手法も学びます。

【到達目標】
本授業の到達目標は次の通りです。
1. インターネットの仕組みを理解する。
2. インターネットを支える主要技術を理解する。
3. 情報セキュリティについて理解する。
4. 現在の最新 ICT 技術について理解する。
5. 基本的な Web 技術について理解する。
6. クライアント側の動的な技術について理解する。
7. サーバー側の動的な技術について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
初回授業はオンラインにて行います。アクセス情報は Hoppii に記載します。
授業はハイフレックス方式を予定しています。
インターネットを中心としたコンピューターネットワークはすでにインフラとなりわれわれの生活に深く浸透しています。
前期に学んだネットワークや HTML の技術を生かし、サーバーサイド技術を中心に Web サイトの構築方法やスマートフォンアプリ作成について学習します。
授業毎に演習課題の提出と振り返りシートの記述を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フォームと画像の貼付け	フォームや画像を扱う方法について理解します。
第 2 回	CSS とデザイン	CSS を利用したデザインについて学びます。
第 3 回	サーバーサイド技術の概念	サーバーサイド技術である PHP を利用しサーバーサイド技術の概念を学びます。
第 4 回	PHP の基本文法（変数、関数）	PHP の基本的な文法について学びます。
第 5 回	PHP の基本文法（条件分岐、繰り返し）	PHP の基本的な文法について学びます。
第 6 回	練習用フォームの作成	練習用フォームを作成し POST や GET データを送信します。
第 7 回	メールフォームの作成	メールフォームを作成し Session でデータを保持します。
第 8 回	メールフォームからのメールの送信	メールフォームからメールを送信する方法について学びます。
第 9 回	画像アップローダーの作成 1	画像をサーバーにアップロードするフォームを作成します。
第 10 回	画像アップローダーの作成 2	画像をサーバーにアップロードするロジックを作成します。
第 11 回	画像アップローダーの作成 3	アップロードした画像を表示する方法について学びます。
第 12 回	スマートフォンアプリの作成 1	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第 13 回	スマートフォンアプリの作成 2	Monaca を利用してスマートフォンアプリケーションの開発手法を学びます。
第 14 回	春学期復習	春学期の復習を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現在の個人活動や企業活動ではコンピューターネットワークの利用は欠かせません。実際に就職した後に自分が担当者になった場合をイメージしながら授業に望んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint 等で資料を作成しながら授業を行います。特にテキストを購入しなくても済むように進めます。

【参考書】
授業中に適時お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業毎の課題と振り返りシートをもとに 100 点満点とし振り返りシートの記述内容 50 点、授業内課題 50 点で決定します。60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
極力演習を行い実際に動かしてみるを重視していきたいと思います。座学であるインプットと演習であるアウトプットをバランスよく講義を組み立てていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題等のやりとり等は Google クラスルームを利用します。

【その他の重要事項】
演習形式の授業ですので、遅刻をしないようにしてください。
授業終了前に振り返りシートを作成します。

【関連科目】
情報科学実習Ⅰ／Ⅱ（f コース）

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this course, students will learn about the structure of computer networks, especially the Internet, and how to create web applications using HTML and PHP. This course also aims to help students understand information security and acquire the skills to take appropriate measures.
Students will also learn how to develop applications for smart phones (iPhone/Android) using Monaca, an Internet service.
[Learning Objectives]
The objectives of this class are as follows
Understand the structure of the Internet.
Understand the major technologies that support the Internet.
To understand information security.
To understand the latest ICT technologies.
To understand the basic web technologies.
To understand the dynamic technologies on the client side.
To understand the dynamic technologies on the server side.
[Learning activities outside of classroom]
The class will be conducted in the form of exercises with actual creation and confirmation.
In order to acquire the skills, 2 hours of preparation and 2 hours of review are required outside the class.
[Grading Criteria/Policy]
Grading will be based on a 100-point scale, with 50 points for ordinary points and 50 points for in-class and final assignments. 60 points or more is considered a passing grade.

COT200FA

ネットワーク論Ⅰ（2016〜2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2〜4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅰ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポートの提出
第 2 回	ホームページと HTML の仕組み	Web ページが見える仕組み、HTML の基本構造、公開時に必要な事柄など基本的な知識を習得する
第 3 回	基本のテキストの入力と様々な文字表現	日記や読書メモを作成する強調、略語・定義語、ルビ・下付き・上付き文字などの知識を学習する
第 4 回	画像の表示	画像ファイルを利用するための知識を学習する
第 5 回	リンクの指定	基本的なリンクの指定方法を学習する
第 6 回	相対パスと絶対パス	相対パス、絶対パスを理解してリンクを張る技術を習得する
第 7 回	CSS の役割	CSS の必要性を学び、基本的な記述方法を習得する
第 8 回	背景・文字の装飾	背景色・文字色の変更、位置の変更、文字のサイズ変更、囲み線、余白の調整などの知識を習得する
第 9 回	リストを作る	箇条書きリスト、順番のついたリスト、定義リストを作成する
第 10 回	ファイルの埋め込み	HTML ファイルや PDF ファイルの埋め込み、動画や音声の取り扱いの知識を習得する
第 11 回	テーブルの作成 (1)	テーブルの基本構造を理解する
第 12 回	テーブルの作成 (2)	表のヘッダーとフッター、見出しセルの方向と列のグループ化などの知識を習得する
第 13 回	テーブルの作成 (3)	表に罫線や色をつけ、見やすく整える
第 14 回	春学期のまとめと、課題 A	HTML と CSS を使って、課題 A で示されたホームページを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

COT200FA

ネットワーク論Ⅱ（2016～2017 年度入学者）

上野　京子

選択_情報関係　2～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］
※　原則春学期、秋学期連続で受講してください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットを中心としたコンピュータネットワークの仕組みを理解し、コミュニケーションツールとしての Web サイト作成に関する知識や技能を習得する。さらに、実際に作成した Web サイトをインターネットにアップし、動作させる。

【到達目標】
インターネットの仕組みを理解し、ホームページや簡単な Web システムの作成ができることを目標とする。
(1) インターネットの基本的な仕組みを理解する。
(2)Web を支える技術を理解する。
(3) ホームページの作成を行う。
(4)Web システムの設計・作成を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】
授業では、現在の社会生活で必要不可欠なインフラであるインターネットについて、その利用方法や技術に関する概要を学ぶ。また、Web 関連では、ホームページ・Web システムの作成を中心に、最新の技術も併せて学ぶ。
授業は、講義と実習を実習室で行う。実習ではパソコンを用いて実際にホームページ、Web システムを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の解説とガイダンスレポート提出
第 2 回	フォームの作成と便利なフォーム機能	form の基本構造を理解する ふりがな、パスワード、検索ワード、日付入力欄を作成する
第 3 回	課題 B	HTML と CSS、フォームを使って、課題 B で示されたホームページを作成する
第 4 回	カテゴリーとコンテンツモデル	カテゴリーとコンテンツモデルを理解する
第 5 回	アウトラインとセクション	文章を内容で分割する
第 6 回	ナビゲーション	ナビゲーションを追加する
第 7 回	課題 C	HTML と CSS、フォーム、セクション、ナビゲーションを使って、課題 C で示されたホームページを作成する
第 8 回	ページの設計	要素を上下や左右に並べたり、位置を調整する方法を習得する
第 9 回	ページを飾る	CSS を利用して、動きのある表現の方法を習得する
第 10 回	課題 D(1)	課題 D では、与えられた要件を満たす Web サイトを設計・作成する
第 11 回	課題 D(2)	課題 D の Web サイトを完成する
第 12 回	スマートフォンや SNS の対応	スマートフォン向けの CSS を設定する方法を習得する
第 13 回	課題 E(1)	各自、自由なテーマで Web サイトを作成する
第 14 回	課題 E(2)	課題 E の Web サイトを授業内で発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で残ってしまった課題は、次の授業までに完成させておくこと。また、理解できなかった点はあいまいにせず、講師への質問や、学生間でのグループ学習、独習などで解決しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
開講時に示す。

【参考書】
必要に応じて授業中に示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点を 40 %、授業中の課題の結果を 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
小さなことでも、初めて学習することでわからないことがあると解決できずに悩んでしまうことが多い。そのような様子が見られたら、TA の力も借りて積極的に声をかけ、挫折しないように気を付けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使って実習しながら学習する。

【その他の重要事項】
Web システムに興味があり、自分で作成してみたいと思っていれば、ネットワークやホームページに関する前提知識は不要。

【関連科目】
「情報学入門Ⅰ/Ⅱ」などで基礎的学習を終えている、または、同等の知識技能を有することを前提に授業を進める。

【オフィス・アワー】
授業後に質問を受け付けます。

【Outline (in English)】
This subject learns a mechanism of the internet and a computer network.
A skill of knowledge necessary to Web page production is acquired.
Learning Objectives
The goal is to understand how the Internet works and to be able to create homepages and simple Web systems.
Learning activities outside of classroom
The tasks left in the previous lesson should be completed by the next lesson.
Also, do not obscure the points that you did not understand, and solve them by asking questions to the instructor, group learning among students, and self-study.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation is made with a normal score of 40% and the results of assignments during class as 60%.

MAN100FA

寄附講座・日本の物流と企業経営

李　瑞雪

特殊講義選択_特殊講義　1～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は一般社団法人日本物流団体連合会の寄付講座で、物流・ロジスティクスに関する概論的授業です。日本通運や日立物流、ヤマト運輸などの日本の代表的な物流企業の上級マネジャー、国土交通省の企画官、物流団体連合会の常任役員によるオムニバス方式をとります。レクチャーの受講によって物流・ロジスティクスの機能と活動を理解し、日本物流の実態と重要性を認識するのが主たる狙いです。

【到達目標】
本講義の受講によって、日本の物流産業を構成する海運業、宅配業、航空輸送業、陸運業、鉄道輸送業、倉庫業、システム物流業（3PL)、国際物流業などの各業界の特徴や概況、基礎知識を学習し理解します。また、製造企業や流通企業のロジスティクス・マネジメントに関する基礎概念や原理を知り、国の物流政策を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
物流企業、国交省、物流団体連合会から 10 名以上の講師を招いて講義をしていただきます。講師の所属企業・組織は以下の予定です（登壇順）。社団法人日本物流団体連合会、ヤマト運輸株式会社、株式会社商船三井内航、SG ホールディングス株式会社、株式会社 ANA カーゴ、株式会社日新、株式会社日立物流、三菱倉庫株式会社、株式会社ニチレイロジグループ、日本郵船株式会社、国土交通省総合政策局、日本貨物鉄道株式会社。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要やスケジュールについての説明。授業で使われる重要な概念や専門用語の解説。
第 2 回	物流総論	日本物流団体連合会の役員による講演。日本の物流産業、企業経営と物流・ロジスティクス機能の関係についての全般的解説。
第 3 回	鉄道貨物輸送	日本貨物鉄道株式会社（JR 貨物）の役員による講演。鉄道貨物輸送の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来の展望などについて解説。
第 4 回	外航海運	外航海運大手企業の上級マネジャーによる講演。外航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 5 回	内航海運	内航海運企業の上級マネジャーによる講演。内航海運の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 6 回	トラック運送	大手陸運企業の経営者による講演。陸運の仕組み、特徴、現状、課題、将来展望などについて解説。
第 7 回	航空貨物輸送	航空貨物大手企業の上級マネジャーによる講演。航空貨物輸送の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 8 回	宅配便	宅配便大手企業の上級マネジャーによる講演。宅配便の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 9 回	国際物流	大手国際フォワーダー企業の上級マネジャーによる講演。国際物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 10 回	サードパーティロジスティクス（3PL)	大手 3PL 企業の上級マネジャーによる講演。企業経営とロジスティクス機能との関係、日本におけるシステム物流（3PL）の仕組み、特徴、現状、国際比較、将来展望などについて解説。
第 11 回	倉庫	大手倉庫企業の上級マネジャーによる講演。営業倉庫の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 12 回	食品物流	低温物流大手企業の上級マネジャーによる講演。食品物流の仕組み、特徴、現状、将来展望などについて解説。
第 13 回	物流政策	国土交通省の企画官による講演。日本政府の物流政策について解説。
第 14 回	物流と環境問題	大手物流企業の CSR 担当上級マネジャーによる講演。物流活動と環境問題の関係、モーダルシフトや共同物流といった環境にやさしい取組みについて解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当内容および授業システムにアップロードされた講義資料を事前に予習しておきます。
物流・ロジスティクスに関連する新聞記事に留意し、授業で学んだ知識と結びつけながら、記事の内容を理解し思考します。

【テキスト（教科書）】
『業界別 物流管理と SCM の実践』ミネルヴァ書房、2022 年

【参考書】
教科書の巻末付録を参照されたい。

【成績評価の方法と基準】
課題レポートなどの平常点（40 %）、期末試験（60 %）、授業参加（+ α ）を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答など講師との交流時間が作れるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムでの配布資料は必ず各自印刷して授業に持参すること。

【関連科目】
『経営戦略論』、『日本経済論』、『中小企業論』、『流通論』

【Outline (in English)】
This course is a basic lecture on the logistics industry and logistics management sponsored by Japan Association for Logistics and Transport (JALoT). The main objectives include understanding the importance, structure, functions, and basic activities of the logistics industry. Senior managers coming from more than ten big logistics firms will serve as lecturers, delivering basic and practical knowledge related to main logistics sectors including ocean freight, coastal freight, courier, warehousing, railway freight, air freight, packaging, 3PL, etc. Students will be expected to have completed the required assignments and feedback after each class meeting. Questions and active participation in the class will be welcomed. Your overall grade in the class will be determined based on the following: Term-end examination (50%), Short tests (30%), Class contribution (20%).

MAN200FA

寄附講座・上場会社におけるディスクロージャー制度

谷口　義幸

特殊講義選択_特殊講義　2～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講座では、上場会社による企業情報の開示（ディスクロージャー）の主要なツールである有価証券報告書に代表される金融商品取引法に基づくディスクロージャー制度を中心に、会社法に基づくディスクロージャーや証券取引所規則に基づくディスクロージャーのほか、上場会社による自主的なディスクロージャーの趣旨・概要等について、事例を見ながら学習する。

【到達目標】
金融商品取引法・会社法に基づくディスクロージャー制度の趣旨・概要、証券取引所のディスクロージャー・ルールの趣旨・概要及びサスティナビリティ報告書、統合報告書等による自主的なディスクロージャー（IR）の現状等について理解するとともに、実際の開示書類・開示情報を分析することによって、上場会社におけるディスクロージャー実務について理解を深めることを目標とする。加えて、上場会社に関する情報収集・分析・活用能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
授業は対面での講義形式で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	上場会社によるディスクロージャー概観	上場会社によるディスクロージャーの意義や各制度の概要について学ぶ。
第 2 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（継続開示制度①）	有価証券報告書の提出義務・記載内容等について学ぶ。
第 3 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（継続開示制度②）	有価証券報告書の開示事例の分析を行う。
第 4 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（継続開示制度③）	有価証券報告書以外の継続開示書類の提出義務・記載内容等について学ぶ。
第 5 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（発行開示制度）	有価証券の発行時のディスクロージャーについて学ぶ。
第 6 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（公開買付制度・大量保有報告制度）	M&A の一手段である公開買付制度及び上場株券の大量保有に関する報告制度について学ぶ。
第 7 回	金融商品取引法に基づくディスクロージャー（開示不正・エンフォースメント）	開示不正事例（粉飾決算等による有価証券報告書の虚偽記載等）の分析を行うとともに、開示不正に対するエンフォースメントについて学ぶ。
第 8 回	会社法に基づくディスクロージャー（株主総会招集通知①）	株主総会招集通知に関する制度の趣旨・概要について学ぶ。
第 9 回	会社法に基づくディスクロージャー（株主総会招集通知②）	株主総会招集通知の事例の分析を行う。
第 10 回	証券取引所規則に基づくディスクロージャー（タイムリーディスクロージャー）	東京証券取引所が上場会社に義務づけるタイムリーディスクロージャーの制度概要について学んだ上で、事例について分析を行う。
第 11 回	証券取引所規則に基づくディスクロージャー（上場要件）	東京証券取引所の上場審査制度の概要を学ぶとともに、上場に際しての金融商品取引法上のディスクロージャーについても学ぶ。
第 12 回	上場会社のインベスター・リレーションズ（IR）	上場会社が自主的に行うＩＲ (Investor Relations) について、その目的、具体的な開示方法、開示内容等を学んだ上で、IR の事例について分析を行う。
第 13 回	海外のディスクロージャー制度	海外（米国・英国）のディスクロージャー制度について、我が国のディスクロージャー制度との違いを踏まえながら学ぶ。
第 14 回	企業情報の入手方法とその活用	企業情報の入手方法について学んだ上で、実際の上場会社を取り上げ、開示情報をもとにその上場会社のビジネスモデルを分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：事前に配付するレジュメを授業前に読んでおくことが望ましい。
・復　　習：授業において学習したディスクロージャー制度における複数の上場会社の開示情報を自ら入手し、比較・分析等を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、事前にレジュメを配布する。

【参考書】
第 1 回目の授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業での学習状況や参加度による平常点（20 点）及び第 7 回・第 14 回の授業において提示するレポート課題の成績（各 40 点）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎授業終了後に「授業感想・質問等」の提出を求め、その内容を踏まえて授業内容の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【なし】
なし

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
This course introduces the purpose and outline of disclosures of corporate information by listed companies to students taking this course. It includes the disclosure system under the Financial Instruments and Exchange Act, represented by the securities report; the disclosure system under the Companies Act; the disclosure system under the stock exchange regulations; and voluntary disclosures by listed companies.
【到達目標（Learning Objectives）】

The objective of this course is to deepen understanding of disclosure practices of listed companies through analysis of actual disclosure documents and information, as well as understanding the purpose and outline of disclosure systems under the Financial Instruments and Exchange Law and Companies Act, the purpose and outline of disclosure rules of stock exchanges, and the current status of voluntary disclosure (IR) through sustainability reports, integrated reports, and other forms of disclosure. In addition, the course aims to improve students' ability to collect, analyze, and utilize information on listed companies.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to read the resume distributed prior to the class.
After the class, students will be expected to obtain, compare, and analyze the disclosure information of multiple listed companies under the disclosure system studied in the class.
The standard preparation and review time for this class is one hour each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on in class contribution (20%) and short reports assigned twice (80%).

ECN100FB-A5504

Introduction to Finance

Naoki KISHIMOTO

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：月 3/Mon.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Students are given an introduction to interest rate computation and investment analysis of bonds and stocks.

【Goal】
(1) Students can compute present values and future values.
(2) Students can use basic terms of bonds and bond investments.
(3) Students can compute bond prices based on yields to maturity. Conversely, students can compute yields to maturity based on bond prices.
(4) Students understand major sources of risk in bond investments.
(5) Students can use basic terms of stocks and stock investments.
(6) Students can compute fair values of stocks using the dividend discount model.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-3" policy.

【Method(s)】
This class consists of a series of lectures. Yet, the instructor intends to make them as interactive as possible by throwing questions to students and earmarking class time for students to apply formulae to exercise problems.
Also,I will try to speak slowly, so that well-motivated Japanese students can understand my lectures.
Furthermore, I will provide students with feedback on additional exercise problems that students are supposed to solve at home.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
なし / No

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview of this course, corporations and stock market	I will give an overview of this course. In addition, I will explain basic organizational structures of corporations.
2	Interest rates, future values, and present values	I will explain how to compute future values and present values.
3	Interest rates, future values, and present values	I will explain the FV and PV computation of a perpetuity.
4	Interest rates, future values, and present values	I will explain how to compute the FV and PV of an annuity and a growing perpetuity. In addition, I will explain how to solve loan payments and the internal rate of return.
5	Internal rate of return and interest rate quotes	I will explain internal rate of return more. In addition, I will interest rate quotes.
6	Interest rate quotes and discount rates	I will explain interest rate quotes more. In addtion, I will discuss discount rates and loans.
7	IDeterminants of interest rates	I will discuss determinants of interest rates.
8	Introduction to bonds	I will explain basic terms of bonds and bond investment.
9	Yield to maturity	I will explain how to compute the yield to maturity.
10	Basic terms for stock investments	I will explain basic terms of stocks and stock investments.
11	Stock valuation	I will explain basic valuation methods for stocks. Specifically, I will explain dividend discount model.
12	Financial statements	I will discuss major items on balance sheets.
13	Financial statements	I will discuss major items on income statements.
14	Final examination	I will give a final examination in class.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete reading assignments before class. In addition, students are given exercise problems to solve at home, which will prepare them for in-class quizzes. Correct answers for the exercise problems will be distributed later in class and some of the problems are explained in class. Students are expected to spend about four hours on preparatory study and review of each class.

【Textbooks】
Jonathan Berk, Peter DeMarzo, and Jarrad Harford, Fundamentals of Corporate Finance, latest edition (Global Edition), Pearson Education.

【References】
Richard Brealey and Stewart Myers, Principals of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).
Richard Brealey, Stewart Myers and Alan Marcus, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).
Stephon Ross, Randolph Westerfield and Jeffrey Jaffee, Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).
Stephon Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Fundamentals of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).
Stephen Ross, Randolph Westerfield and Bradford Jordan, Essentials of Corporate Finance, McGraw Hill (any recent edition).
Thomas Copeland, Fred Weston, and Kuldeep Shastri, Financial Theory and Corporate Policy, Addison Wesley (any recent edition).

【Grading criteria】
80% on quizzes and final examination and 20% on class participation.

【Changes following student comments】
I will cover less topics this year than last year to spend more time to each topic to be covered.

【Others】
To gain better understanding of finance courses, including this course, you are strongly encouraged to take Introduction to Accounting and Introduction to Statistics in your first year at Global Business Program. In addition, you need to have basic knowledge in arithmetics to comprehend the contents of this class.
Please note that this course is held face to face and in a small classroom which accommodates only twenty plus students.
Therefore, the number of students to be admitted to this class is limitted to twenty plus.
Note, however, that because this class is offered for GBP, GBP students are guaranteed a seat in this class,if they choose to register for it.

【Prerequisites】
None

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5506

Introduction to Operations Management

Kiyoko YOSHIMURA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金 4/Fri.4 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course introduces the concepts, principles, problems, and practices of operations management. Emphasis is on managerial processes for effective operations in both goods-producing and service-rendering organizations. Topics include operations strategy, process design, capacity planning, facilities location and design, forecasting, production scheduling, inventory control, quality assurance, and project management. The topics integrate using a systems model of the operations of an organization.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:
- Develop an understanding of and an appreciation for the production and operations management function in any organization.
- To understand the importance of productivity and competitiveness to both organizations and nations.
- To understand the importance of an effective production and operations strategy to an organization.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
Since this course is Introduction to Operations Management, it will be delivered mainly through lectures so the students can grab the basic knowledge of Operations Management. However, we have several case discussions. When the case is discussed, we are less concerned with “right” or “wrong” answers. Therefore, students are expected to participate in building their discussion skills. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	NTRODUCTION – Getting started	Course Introduction What is operation management?
2	COMPETITIVENESS and PRODUCTIVITY	Production Planning Competitive Priorities
3	FORECASTING	Demand Characteristics Forecasting and Operations Management
4	PRODUCT / SERVICE DESIGN	Product or Service Design Considerations Reliability
5	CAPACITY PLANNING	Capacity Planning for goods and services Decision Theory
6	PROCESS / FACILITY / LAYOUT DESIGN	Type of Processing Need for Layout Planning Facilities Layout
7	WORK DESIGN AND MEASUREMENT	Job design Quality of Work life Measurement
8	QUALITY MANAGEMENT	What is quality? Quality as a competitive advantage
9	MASTER PRODUCTION SCHEDULING	Master Production Scheduling MRP/ERP
10	SUPPLY CHAIN	Supply chain management Global Supply
11	PROJECT SCHEDULING AND CONTROL	Managing Project Network modeling with PERT/CPM
12	JIT AND LEAN OPERATIONS	JIT LEAN
13	SIMULATION	Conduct simulations in class Group discussion
14	OPERATION AS A COMPETITIVE WEAPON	Wrap up (Review the entire course)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Will supply course material (PowerPoint) in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 250 points(46%)
Case report1: 100 points (18%)
Case report2(simulation): 200 points(36%)
Total: 550 points (100%)

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

ECN100FB-A5507

Introduction to Japanese Economy

Hideaki HIRATA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水 3/Wed.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to (1) the Japan's macroeconomic characteristics, (2) the Japan's current economic issues, and (3) the basic economic principles and methods.
After learning a brief history of the Japanese economy and the basic analytical tools of economics, we focus on Japan's labor markets, financial markets, corporate finance and capital investments, international transactions, and economic policies from the 1980s onward. Comparison with the other economies is frequently done.
By the end of the semester, you are expected to be able to utilize the theoretical and empirical tools practiced in this class to generate practical policy recommendations for Japan's major economic problems.

【Goal】
This course is designed to provide students with opportunities to gain a basic understanding of the Japanese economy. The particular goals can be summarized as follows:
1. To learn the history of the Japanese economy after WWII
2. To learn the basic features of Japanese households, firms, and the government and to apply conventional economic theory to understand their behaviors
3. To strengthen analytical skills by discussing the strengths and limitations of Japan's corporate system, labor markets, economic policy, and so forth

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-3", "DP2-1", "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP1-2", "DP1-4" and "DP5" policies.

【Method(s)】
This course mainly comprises lectures, slideshows, in-class activities, and discussions. All class materials are distributed through the LMS. Note that the order of the lectures might be changed from the below suggested schedule but what we will cover would not change very much. Regarding lecture style (in-person and/or online), I am flexible so that the suggested in-person and/or online style is just tentative and is subject to change.
I will give feedback on class assignments during the lecture and/or through Hoppii (i.e., LMS).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Syllabus guidelines; an overview of the Japanese economy's postwar macroeconomic performance.
2	Japanese economy and the World economy	The Japanese economy's postwar macroeconomic performance; basic economic statistics, such as GDP and its components.
3	Principles of Markets 1	Understanding what demand, supply and equilibrium are. Use various cases to theoretically see what happens in the market.
4	Principles of Markets 2	Understanding what would shift (=make changes in) demand and supply. Studying cases of what happened in the actual markets.
5	Labor 1	Characteristics of Japanese labor markets and firms; Understanding Japanese labor market.
6	Labor 2	Characteristics of Japanese labor markets and firms; Understanding the relationship between labor and firms.
7	Labor 3 Money and Finance 1	The relationship economic fluctuations and the labor markets. The role of money circulating in the economy.
8	Money and Finance 2	The role of money & banking in the Japanese economy
9	Money and Finance 3	Fundraising of firms and investors in the financial markets. Financial conditions of economic agents and their roles in the Japanese economy.
10	Bubble and the balance sheet problems International Trade 1	Understanding the bubble economy in the late 80s and the scars of that. Basic characteristics of exports and import between Japan and the rest of the world.
11	International Trade 2 International Finance	The determinants of Japan's exports and imports; the role of cross-border financial transactions with the rest of the world.
12	Firms 1	The characteristics of Japanese firms and their corporate governance.
13	Firms 2	Agency problem and its importance in Japan.
14	Review	Q & A sessions and extra issues to strengthen students' understandings of lectures 1-13.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to read the assigned materials and contribute to class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Greg Mankiw (2020) Principles of Economics, Cengage.
Ito and Hoshi (2020) The Japanese Economy, MIT Press.
You SHOULD NOT buy these textbooks before the first class meeting since a special instruction will be provided for the students of this class.

【References】
1. Papers and newspaper articles will be assigned throughout the semester.
2. Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance.
3. David Flath (2014), The Japanese Economy (3rd Edition), Oxford University Press. ISBN: 9780198702405.

【Grading criteria】
Final exam: 100%. (1) Solving and submitting non-mandatory problem sets and (2) class participation (including non-mandatory problem sets) will give you extra points.
Final exam will be offered in-person. In some special cases, online exam will be prepared and you should have good access to the Internet. You need PC (no smartphone or tablet) to take the exam properly.
The fail rate was less than 5% for the last 5 years.

【Changes following student comments】
I tried to design this course to motivate students to be interested in learning economic ideas and to understand why those ideas are powerful.

【Equipment student needs to prepare】
You need a computer/tablet. Most of the materials would be distributed electrically by using PDF.

【Others】
This course has no prerequisites. I strongly encourage students to take Principles of Macroeconomics, Principles of Microeconomics, Business Management in Japan, Japanese Innovation Management, Human Resource Management Ⅰ/Ⅱ, and Corporate Finance AFTER taking this course.
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

【Prerequisites】
None

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

PRI100FB-A5509

Introduction to Informatics

Yasushi KODAMA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木 2/Thu.2 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course is aimed at students with little or no prior knowledge for operating computers but a desire computational approaches to problem solving. You can learn any basic computational operations using Microsoft Office software but also any theoretical meanings of informatics.

【Goal】
One of the goals of this course is to become familiar with basic operations for personal computers. Also you should learn how to solve the problems related to social sciences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP2-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP1-4", "DP4" and "DP5" policies.

【Method(s)】
Mostly you can use the computers in the class room and you can learn any operations of computer software especially for Office software. At first you should learn how to login Windows operating system on the university's computers. After this course has started, the contents of the lesson will be provided on the Web site.
Use Google Classroom to answer questions, explain the assignment in detail, and give feedback to students on Google Classroom.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
なし / No

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1st	Introduction	Introduction to this course. The goal of this course is specified. You can learn how to operate university's computers.
2nd	Word processing practice	Using Word Processing software, you can learn the basic operation of this software.
3rd	Electrical mail practice and networking theory	You can learn the network system and how to write e-mail scripts.
4th	Methodologies for presentation using software	Using the presentation software, you can learn the technical operations of it.
5th	Spreadsheet practice (1)	You can learn the basic operations of spreadsheets.
6th	Spreadsheet practice (2)	It will test your ability of creating spreadsheets for the business documents.
7th	Spreadsheet practice (3)	It will test your ability of creating spreadsheets using business graphs.
8th	VBA practice(1)	You can learn about VBA(Visual Basic for Applications) as spreadsheet macro programs.
9th	VBA practice(2)	You can learn about VBA programming using the variables.
10th	How to build your home pages (1)	You can learn how to start to build a page as your home pages.
11th	How to build your home pages (2)	You can learn how to build your home pages using some tags.
12th	How to build your home pages (3)	You can learn how to build your home pages using the CSS (Cascading Style Sheets).
13th	How to build your home pages (4)	You can learn how to build your home pages using new style files and new pages.
14th	Workshop for solving problem	At the workshop of classroom, you should make a plan to present how to solve the problems.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
You should autonomously learn the basic operations of personal computers. If you can not understand the contents of the lecture, you should ask us it in the classroom or investigate it by yourself. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Specified in the lecture.

【References】
Specified in the lecture.

【Grading criteria】
Participation rate (80%) and reports to present in the lecture (20%).

【Changes following student comments】
We devise lectures so that students can solve problems autonomously.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

【Prerequisites】
We will adopt practical use cases that are useful in the business field and devise to develop problem solving skills.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5516

Human Resource Management Ⅱ

Yoshio OKUNISHI

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火 2/Tue.2 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is intended to introduce students to the field of human resource management (HRM). Students learn theories and applications involved in effectively managing people in organizations.
Unlike many other fields in business and economics, policies and practices of HRM are influenced greatly by country-specific factors such as labor law, social customs, economic development stage and workforce structure of a country. So, I will spend most time in explaining Japanese cases. But some common theories and international comparative perspectives are explained as well.
More specifically, students learn such topics as dismissal, job design, and labor-management relations. Furthermore, they learn some current topics such as effects of aging and diminishing workforce, non-regular workers, diversity management, work/life balance and globalization as well.

【Goal】
Successful students will acquire basic knowledge of HRM in Japanese firms, as well as problem-solving and critical-thinking skills in the field of human resources and organizations, both of which are applicable to all types of organizations and jobs in which students will eventually work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-1" and "DP1-3" policies.

【Method(s)】
Assuming that it is feasible to have face-to-face lectures in a real classroom, my lecture and the discussion among students will be the main method. I count on "Hoppii" to distribute course materials and occasionally ask students to submit written assignments.
Students will have feedback individually and in class for the written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Review of HRM I and Introduction to HRM II	Review of HRM I and the overview of HRM II
2	Separation (1)	Economic and legal perspectives
3	Separation (2)	More practical aspects
4	Separation (3)	Mandatory retirement in Japan
5	External Workforce	Outsourcing and temp agency workers in Japan
6	Job Design	Theory and practices
7	Tips for Case Studies in HRM	Useful knowledge to discuss cases in HRM
8	Discussion on a Case Study	A case on work-life balance
9	Diversity Management	Theory and empirical evidence in Japan
10	Working Hours	Situations in Japan and its regulations
11	Industrial Relations (1)	Union activities in Japan
12	Industrial Relations (2)	Labor disputes and the resolution systems in Japan
13	High-Commitment HRM	Theory and practices
14	HRM as a System	The wrap-up of the course and future directions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Before each class, read through course materials and find places where you have questions. During and after the class, you should clarify all the questions, and submit occasional assignments diligently.

【Textbooks】
I do not use any textbooks which students need to purchase. Instead, I will use my own handouts and data sets. But just for your reference, many of my course materials are based on the followings.

【References】
· Baron, James N. and David M. Kreps (1999) Strategic Human Resources. John Wiley & Sons, Inc. This is an excellent MBA-level textbook of HRM, whose methodology is blend of economics and organizational behavior.
· Lazear, Edward P. (1998) Personnel Economics for Managers. John Wiley & Sons, Inc.
· Lazear, Edward P. and Michael Gibbs (2015) Personnel Economics in Practice (3rd edition). Wiley. These two are readable textbooks of "personnel economics" by its pioneers.
· Although contents written in English are limited, you could find useful information in the following site of the Japan Institute for Labor Policy and Training:
http://www.jil.go.jp/index.html
· Some important Japanese laws are translated into English. See the following site:
http://www.japaneselawtranslation.go.jp/

【Grading criteria】
The final grade will be based on writing assignments during the semester (80%). The participation in the class is counted as well (20%), so active and thoughtful voices and questions are encouraged. I will not conduct an in-class final exam separately.

【Changes following student comments】
I will encourage students to participate more actively in class.

【Equipment student needs to prepare】
I regularly use Hoppii to upload course materials and to direct course assignments.

【Others】
HRM I (Fall) and II (Spring) are taught in a sequential manner. So, it is recommended to take both courses in this order if that is possible. Some basic knowledge of economics and organizational behavior is preferred, but not required.

【Prerequisites】
Among GBP subjects, the followings are closely related to this subject although they are not prerequisites: Introduction to Organizational Management, Introduction to Japanese Economy, Organizational Management I/II and Organizational Behavior I/II.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

ECN300FB-A5528

Investments A

Mitsuru Katagiri

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金 3/Fri.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
First, students will be given an easy and concise overview of basic statistics concepts, including expectation, standard deviation, and correlation coefficient. Building on these concepts, students will learn an introductory modern portfolio theory, which proposes a method for building an optimal portfolio for a particular investor based on the expectation and the standard deviation of his or her portfolio. Furthermore, students will learn what is called the Capital Asset Pricing Model, which is a theoretical model about the tradeoff between risk and return on investments.

【Goal】
1. Students can compute the expected value and the standard deviation of returns of a security or a portfolio.
2. Students can describe how to construct the best portfolio for a particular investor.
3. Students can describe the differences between common and idiosyncratic risk.
4. Students can explain how diversified portfolios remove idiosyncratic risk.
5. Students can understand the tradeoff between risk and return for large portfolios.
6. Students can measure systematic risk.
7. Students can explain the Capital Asset Pricing Model (CAPM).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-3" and "DP1-4" policies.

【Method(s)】
This course consists of a series of lectures with a few quizzes. Students get feedback on quizzes in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
なし / No

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and an overview	Administrative business. In addition, students will be given an overview of this course.
2	Exptected returns	Students will learn how to compute the expected return on a security.
3	Standard deviation	Students will learn how to compute the standard deviation of returns on a security.
4	Expected return on a portfolio	Students will learn how to compute the expected return on a portfolio based on the expected returns of securities that are invested in the portfolio.
5	Standard deviation of the return of a portfolio	Students will learn how to compute the standard deviation of the return of a portfolio based on the standard deviations of securities contained in the portfolio.
6	Investment opportunity set when there is no riskless asset.	Delineate the investment opportunity set when there is no riskless asset.
7	Diversification in stock portfolios	Students will learn how diversification affects the expectation and the standard deviation of the return on a portfolio.
8	Common and idiosyncratic risk	Students will see how the total risk of a portfolio is decomposed into common and idiosyncratic risk. In addition, they will understand the significance of this decomposition.
9	Investment opportunity set when there is a riskless asset.	Delineate the investment opportunity set when there is a riskless asset.
10	CAPM1	Introduction to CAPM
11	Measuring systematic risk	Students will learn how the systematic risk of a security or a portfolio is measured.
12	CAPM2	Students will learn the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
14	Practical application of the CAPM	Students will see practical applications of the CAPM.
14	In-class exam	An examination is given that covers the entire topics covered in this course.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are expected to review the slide after each class to prepare for quizzes.

【Textbooks】
No textbook. Instead, readings will be distributed to students in advance.

【References】
Sharpe and Alexander, Investments, Prentice Hall.
Bodie, Kane, and Marcus, Investments, McGrow Hill.
Bodie, Kane, and Marcus, Essentials of Investments, McGrow Hill.
Elton, Gruber, Brown, and Goetzmann, Modern Portfolio Theory and Investment Analysis, Wiley.

【Grading criteria】
Participation in class discussions (20%), quizzes (40%), and the final exam (40%).

【Changes following student comments】
NA (New lecturer from this year)

【Equipment student needs to prepare】
None.

【Others】
Introduction to Finance is a prerequisite. Introduction to Statistics is not a prerequisite but a course the instructor strongly recommends students take before or concurrently with Investment A.

ECN300FB-A5529

Investments B

Yongjin KIM

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金 2/Fri.2 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
A derivative, or derivative security is an agreement between two counterparties whose payoff depends on the value of an underlying asset. Forwards, futures, options, and swaps are representative derivatives. Derivatives are actively traded throughout the world and their market is exceedingly large. This course aims to help students understand the basic structures of derivative securities and how to value them. Comprehension of derivatives will come in very useful in case you work in the financial industry in the future. Due to time constraints, swaps will be briefly discussed only if we get ahead of schedule.

【Goal】
Upon completing this course, students will be able to
1) understand the characteristics of various types of derivatives.
2) understand how to value forwards and futures.
3) understand how to value call and put options.
4) intuitively understand what the famous Black-Scholes model says
5) solidify an understanding of business and economic news about financial markets.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-3", "DP1-4", "DP2-1", and "DP2-2" policies.

【Method(s)】
This course is basically lecture-based, but wide open to active participation in class. The lecturer encourages students to ask and answer questions in an interactive manner. By reviewing assignments, feedback will be provided.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Illustrating concrete examples of derivatives, Introduction to Forwards and Futures	-forward contract characteristics -long (short) forward payoff, and profit and loss, and its diagram -counter party credit risk -futures contract
2	Introduction to Call Options: Part 1	-call option characteristics -long (short) call payoff, and profit and loss
3	Introduction to Put Options: Part 2	-call option moneyness -early exercising -comparison of call options and forwards/futures
4	Introduction to Put Options	-put option characteristics -long (short) put payoff, and profit and loss -put option moneyness -early exercising -comparison of put options, call options, and forwards/futures
5	Useful Quantitative Concepts for Pricing and Valuation: Part 1	-compounding conventions -calculating future value and present value -identifying continuously compounded interest rates
6	Useful Quantitative Concepts for Pricing and Valuation: Part 2	-volatility and historical standard deviation -interpretation of standard deviation -annualized standard deviation
7	Useful Quantitative Concepts for Pricing and Valuation: Part 3	- understanding the standard normal cumulative distribution function - z-score
8	Introduction to Pricing and Valuation: Part 1	-concepts of price and value of a forward contract -forward price -forward value
9	Introduction to Pricing and Valuation: Part 2	-option value: Black-Scholes model -calculating the Black-Scholes model -Black-Scholes model assumptions -implied volatility
10	Understanding Pricing and Valuation: Part 1	-review of payoff, price, and value equations -risk-neutral valuation -probability and expected value concepts
11	Understanding Pricing and Valuation: Part 2	-understanding the Black-Scholes equation for call and put values -understanding the equation for forward and futures price
12	The Binomial Option Pricing Model: Part 1	-option valuation based on one-period binomial model
13	The Binomial Option Pricing Model: Part 2	-two-period binomial model -multi-period binomial model
14	Wrap-up and In-Class Final Exam	-brief summary -final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students should read course materials before class and should not miss the deadline for homework assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Gottesman, Aron, Derivatives Essentials: An Introduction to Forwards, Futures, Options, and Swaps, John Wiley & Sons, Inc., 1st edition, 2016.

【References】
Hull, John C., Fundamentals of Futures and Options Markets, Pearson Education Limited, 9th and global edition, 2022 (previous versions would be okay as well).

【Grading criteria】
Grading will be decided based on the following:
in-class contribution (20%),
homework assignments (30%),
and final examination (50%).

【Changes following student comments】
Topics covered in every lesson are connected and get more complicated in ascending order. Whenever possible, the lecturer will try to make explanations much easier and more intuitively to understand so that students won't get lost.

【Equipment student needs to prepare】
The Microsoft Excel will be often used during class. Please make yourself familiar with the basic usage of it.

【Prerequisites】
It is advisable that students have taken the Introduction to Finance and/or Introduction to Statistics, or have equivalent knowledge. Those prerequisites would be helpful for getting right to the point, although the lecturer will explain useful quantitative concepts including compounding and discounting of cash flows, and some descriptive statistics for pricing derivatives, from the basics.

MAN300FB-A5533

Operations Management Ⅰ

Kiyoko YOSHIMURA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金 5/Fri.5 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Operations Management I reviews the Operations Management in terms of the decisions corporates face in aligning operations with their competitive strategy. Topics include examining the activities and responsibilities of positioning and design decisions.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:
-Develop an understanding of how corporate strategy defines a company's missions.
-To understand the trade-offs companies face in choosing between critical aspects of process design and operating decisions.
-To understand how product planning encompasses all the activities leading up to introducing, revising, or dropping the products.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
The course will be delivered mainly through lectures with case discussions on real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of Operations Management basics. There will be no "right" or "wrong" answers for the case discussion. Therefore, Students' contribution is expected to move the class discussion in a new direction. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Getting started Course Introduction Overall Operations Management
2	Product Planning and competitive priorities	Product planning Competitive priority
3	Service Operations Management	What are service operations? Key challenges
4	Customer relationship	Understanding your customer in service industry
5	Designing Customer Experience	What is customer experience? Why is service process design important?
6	Quality Management	Quality as a competitive advantage Six sigma 7-Quality Management tool
7	Process Design	What is process design? Facets of process design Process analysis
8	New Technology	New technology and tools for Operations Management
9	Capacity and Maintenance	Capacity Planning Maintenance
10	Location	Trends Factors affecting location decisions
11	Layout	Layout planning Strategic Issues Process layout
12	Simulation	How to organize your team Team building
13	Case discussion	Factors affecting Operations Management
14	Course review	Wrap up (Review the entire course)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Will supply course material (PowerPoint) in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 275 points (55%)
Case report1: 100 points (20%)
Case report2(simulation): 125points(25%)
Total: 500 points (100%)

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

MAN300FB-A5534

Operations Management Ⅱ

Kiyoko YOSHIMURA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金 3/Fri.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Operations Management II reviews the management of operations in terms of operating decisions. Topics include a review of the activities and responsibilities of operations management, the tools and techniques available to assist in running the operation, and the factors considered in the system's design.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices. After completing this course, students should be able to:
- Develop an understanding of forecasting and materials management, functions tied to most operation decisions.
- Look at approaches to production/staffing plans and master production schedules.
- Necessary inputs to the workforce, operations, and project schedules.
- To understand the importance of project management.
- To understand what is happening in the organizations and the importance of an effective way of working.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP3", "DP4" and "DP5" diploma policies.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
This course follows Operations Management I. However, students can take this course separately. The course will be delivered mainly through lectures with case discussions on real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of Operations Management basics. There will be no "right" or "wrong" answers for the case discussion. Therefore, students' contribution is expected to move the class discussion in a new direction. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	INTRODUCTION – Getting started	Course Introduction Overall Operations Management
2	Materials Management	Importance of Materials Management Function of Materials Management Purchasing and Distributions
3	Inventory Management	Importance of inventory Economic Order Quantity Periodic Review system
4	Production and Staffing Plans	Production and Staffing Plans Managerial Importance
5	Master Production Scheduling	MPS MRP ERP
6	Supply chain Management	Supply Chaing Management Global Supply
7	Queue Management	Waiting Lines Management
8	Driving Continuous Improvement	Main approaches to continuous improvement Sustain continuous improvement
9	Learning from Problems	Why problem occur? Dealing with issues Organizational culture
10	Project Management I	Project management and organization What is project management?
11	Project Management II	AJAIL/SCRUM Lean operation
12	SIMULATION I	Conduct simulations in class with various settings Group discussion / Presentation
13	SIMULATION II	Conduct some simulations in class with various settings Group discussion / Presentation
14	Course Review	Wrap up (Review the entire course)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Will supply course material (PowerPoint) in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately.
Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 250 points (46%)
Case report1: 100 points (18%)
Case report2(simulation): 200 points (36%)
Total: 550 points (100%)
At the end of the course, students will be required the group work. The group work results should be presented in class.

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.

ECN300FB-A5535

Principles of Macroeconomics

Mitsuru Katagiri

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：月 2/Mon.2 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course gives students an overview of macroeconomic issues: economic growth, unemployment, inflation, interest rates, and exchange rates. Topics include policy issues such as government expenditures, taxation, and monetary policy.

【Goal】
Macroeconomics is a necessary and helpful tool for understanding economic issues and policies. The goal of this course is to acquire basic knowledge of macroeconomics and to understand how to use the knowledge of macroeconomics to resolve challenges in business.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-3", "DP2-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP3", "DP4" and "DP5" policies.

【Method(s)】
The lectures are based on slides and "MyLab," an e-learning platform by Pearson. Also, in the class, recent economic issues in newspapers, magazines, etc., are introduced to learn how to use macroeconomics to deal with real economic and business problems. Feedback on class assignments will be given in the class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Class 1	Introduction	This lecture provides several key points for using economics to resolve real economic issues and explains the purpose of studying macroeconomics.
Class 2	A Brief Introduction to Microeconomics	This lecture covers the knowledge of microeconomics for studying macroeconomics, particularly the price mechanism to balance supply and demand.
Class 3	The Wealth of Nations	This lecture provides the concept of GDP and inflation and explains why it is an important measure to assess economic activity.
Class 4	Aggregate Incomes	This lecture focuses on very large differences across countries in income and explains that technology and the efficiency of production are key to accounting for the cross-country differences.
Class 5	Economic growth	This lecture explains why economic growth is important for everyone's economic activity and what encourages long-term economic growth (education, population growth, etc.).
Class 6	Why Isn't the Whole World Developed?	This lecture asks: What has prevented poor countries from catching up to the level of prosperity of developed countries? We examine various factors for economic development.
Class 7	Employment and Unemployment	This lecture covers labor market issues including unemployment rates and wages and explains the effects of government labor market policies.
Class 8	Credit Markets	This lecture explains the role of financial markets and banks in encouraging long-term investment for economic growth.
Class 9	The Monetary System	This lecture explains the role of central banks (i.e., the Bank of Japan in Japan and FRB in the U.S.) such as issuing currencies and conducting monetary policy.
Class 10	Short-Run Fluctuations	This lecture explains what we observe in economic booms and recessions, including the global financial crisis in 2008-2009, and what causes those short-term fluctuations.
Class 11	Countercyclical Macroeconomic Policy	This lecture covers fiscal and monetary policies by the government and the central bank and describes their effects on economic activity and inflation.
Class 12	Macroeconomics and International Trade	This lecture covers recent trends in international trade across countries and explains what a key driving force for the trade pattern under globalization is.
Class 13	Open Economy Macroeconomics	This lecture covers exchange rates and their determinants and explains their relationship with trade and international capital flows.
Class 14	Final Exam	We have an in-class examination.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to briefly read the corresponding chapter of the textbook before each class. Also, after the class, students are expected to review what they learned in the class and read articles in newspapers and magazines assigned in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
Macroeconomics (Global Edition, 3rd edition), by Daron Acemoglu, David Laibson, and John List. You can access the textbook via MyLab, provided by Pearson.

【References】
Other teaching materials, including articles in newspapers and magazines, will be provided in the class.

【Grading criteria】
The grades are based on (1) the final exam (70%) and (2) the assignments (30%). The students can discuss with other classmates and refer to textbooks when working on the homework, but all students should individually write the answers in their own words.

【Changes following student comments】
I will try to have more transactions with students by asking questions etc.

【Equipment student needs to prepare】
All students must purchase MyLab, a computer-based e-learning platform by Pearson, to access the assignments and the textbook. However, students who bought MyLab for "Principles of Microeconomics" do not need to buy it again.

【Prerequisites】
None

【Related Subjects】
Principles of Microeconomics

【Related Subject】
Introduction to Japanese Economy

MAN300FB-A5538

Entrepreneurship

Noriko TAJI

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火 4/Tue.4 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
The class aims to learn how to found a startup and expand its business. The operation is conducted on the basis of interactive discussions with classmates, a teacher, and guests.
This lecture covers the following:
1. To learn the basic theory of entrepreneurship known globally
2. To experience the method of idea generation and business planning
3. To learn resource assembly, organizational design and strategy from business cases and a guest speaker

【Goal】
Students will understand the process of entrepreneurship from opportunity recognition to execution.
Students will learn the method of idea generation.
Students will practice business planning.
Students will confirm the theory and knowhow of entrepreneurship by reading business cases.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP1-2", "DP2-1" and "DP3" policies.

【Method(s)】
This class is a mix of lecture and action learning.
Students make presentations of business ideas and discuss them with each other.
Students cultivate their business plans for several weeks and hand in final presentations.
Beside final presentation, students have to submit small assignments every two weeks. During the class, they get feedback from the teacher and classmates.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of entrepreneurship	Entrepreneur's voice video
2	Entrepreneur's impact on the economy and society	Introducing favorite entrepreneur
3	Lean Startup1	Idea generation & Minimum Viable Product
4	Lean Startup2	One minute idea pitch & Understanding business model canvas
5	Lean Startup3	Using business model canvas
6	Notion of Entrepreneur and Startup	Definitions by Schumpeter, Kirzner, etc.
7	Real entrepreneurship 1	Guest speaker talk
8	Entrepreneruial process	Opportunity Recognition & Exploitation, Execution
9	Entrepreneurial ecosystem	Understanding Silicon Valley
10	Management team	LinkedIn case 1 & Using business model canvas
11	Venture finance	LinkedIn case 2
12	Effectuation	LinkedIn case 3
13	Real entrepreneurship	Guest speaker talk
14	TBD	Final presentation of business model, etc.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
1) Considering a business idea and making a business plan
2) Reading business cases
Regarding the above, preparatory study and review time will be 2 hours each.

【Textbooks】
No specified textbooks

【References】
A General Theory of Entrepreneurship,Scott Shane,Edgar Elgar,2003.
Entrepreneurship, William Bygrave and Andrew Zacharakis, John Woley & Sons,2008.

【Grading criteria】
assignments (50%), class participation (20%) and final report (30%)

【Changes following student comments】
Students can get a lot of essence and tips from talks of entrepreneurs and investors while improving their own idea.

【Equipment student needs to prepare】
PC

【Recommended Classes】
Introduction to Strategic Management, Introduction to Marketing, Strategic Management, International Business, Principles of Marketing

【Career background of the lecturer】
Industrial experience working for a large company and startup, and experiencing external directors of public companies in Japan.

【interest】
Innovation Management
High-tech startups
Entrepreneurship

【Representative English papers】
"Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies" Noriko Taji,*Technology,Innovation,Entrepreneurship and Competitive Strategy*, Emerald Publishing Group,Vol.14,pp.263-287,2014
"Guesss Country Report, Japan," Noriko Taj,et.al.,Global University Entrepreneurial Spirit Students' Survey, University of St.Gallen,2012,2014,2016.
"Psychological Predictors of Entrepreneurial Interest in Japan," Noriko Taji & Yu Niiya, *Innovation management*,Hosei University,No.9,pp.61-72,2012

MAN300FB-A5539

Special Topics in Management A

Akira KAMOSHIDA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：月 5/Mon.5 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Now that the need for DX (digital transformation) has been pointed out, society as a whole is undergoing a major transformation. Since the end of the 20th century to today in the 21st century, new service and software IT companies such as GAFA have rapidly emerged in the United States, leading to the formation of a huge group of companies.
It has been a long time since the Japanese economy stagnated after lost 20 years, but recently digitalization has progressed in various fields, and existing business transformations and new digital services are rapidly emerging.
The purpose of this class is to understand the current situation of DX, especially the efforts and issues of Japanese companies. We will also discuss the transformation of the digital society and the direction of innovation as the background for DX to attract attention. In class, case studies and presentations will be conducted by group work, and the method of discussion throughout the class will be used.

【Goal】
· Understand the transformation of the society surrounding DX and the background in which DX is required.
· Understand the outline of DX and understand its purpose
· Acquire knowledge about DX promotion issues and success measures through research on company cases that promote DX

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1","DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./Introduction of DX course
2	What is DX? ①	Outline of DX/The purpose of DX/The value created by DX/Class discussion
3	What is DX? ②	Class Discussion/ the current state and issues of management, problems in the digital age, and future prospects for DX
4	Text Reading ①/The Five Domains of Digital Transformation Customers, Competition, Data, Innovation, Value	Group Presentation & Class discussion & Wrap up lecture
5	Text Reading ② Harness Customer Networks/ Build Platforms, Not Just Products	Group Presentation & Class discussion & Wrap up lecture
6	Text Reading ③/Turn Data Into Assets	Group Presentation & Class discussion & Wrap up lecture
7	Text Reading ④ /Innovate by Rapid experimentation /Adapt Your Value Proposition	Group Presentation & Class discussion & Wrap up lecture
8	Text Reading ⑤ /Mastering Disruptive Business Models	Group Presentation & Class discussion & Wrap up lecture
9	Group Work ①/Class Discussion	Case study(the distribution and retail industry, manufacturing industry, tourism and hotel industry in Japan.)
10	Group Work ②/Class Discussion	Case study(the distribution and retail industry, manufacturing industry, tourism and hotel industry in Japan.)
11	Group Work ③/Class Discussion	Case study(the distribution and retail industry, manufacturing industry, tourism and hotel industry in Japan.)
12	Group Work ④/Class Discussion	Case study(the distribution and retail industry, manufacturing industry, tourism and hotel industry in Japan.)
13	Group Work ⑤/Class Discussion	Case study(the distribution and retail industry, manufacturing industry, tourism and hotel industry in Japan.)
14	Group Presentation	Group Presentation/Class Discussion/Wrap Up/

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
· David L. Rogers,The Digital Transformation Playbook: Rethink Your Business for the Digital Age (Columbia Business School Publishing),2016

【References】
· Thomas M. Siebel,Condoleezza Rice,Digital Transformation: Survive and Thrive in an Era of Mass Extinction(Rosetta Books),2019

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
50% Class Contribution (Frequency and quality of remarks, presentation, Participation in the class discussion, etc.)
50% Homework Assignments, and Final Report（individual essay)
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5540

Special Topics in Management B

Akira KAMOSHIDA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木 3/Thu.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
This course is aimed to learning Strategic Marketing, Consumer Behavior theory and its framework that is mainly focused both domestic and global business, and understanding strategic marketing and consumer behavior principles and way of thinking through case study and discussions.
This course focuses on lectures and case discussions on strategic marketing and consumer behavior.
The course will be conducted with lectures and discussions from various perspectives on marketing and consumer behavior theory. Students are expected to actively participate in the class.

【Goal】
· Understand the main basic theories of strategic marketing, consumer behavior.
· To foster awareness of issues regarding strategic marketing, consumer behavior.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-1","DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay. I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Marketing and consumer behavior theory, what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is Marketing?
2	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Marketing Case study/Group work	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
6	Marketing Case study/Group work	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Customer Strategy/Customer satisfaction theory, Customer Loyalty	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
8	Customer Strategy/ Customer Value analysis	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
9	Customer Strategy/ premium price theory, WTP, CLTV analysis	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Luxury strategy/ luxury brand management theory	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Luxury strategy/ Group work	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
12	Luxury strategy/ Group work/case study	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
13	Luxury strategy/ Group work/case study	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business
Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand − outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
50% Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, Presentation, etc.)
50% Homework Assignment and Final Report
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5542

Workshop Ⅰ

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火 3/Tue.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
The purpose of this workshop is to focus on social innovation to achieve the SDGs (Sustainable Development Goals), which have been attracting attention in recent years, and to learn about social business to achieve them. What is a social business ? After systematically understanding the theory of management science, learn about social innovation toward the achievement of the SDGs goal and the social business that realizes it.
The workshop will invite guest speakers from the relevant fields of the 17 SDGs goals to give talks and discussions, followed by these sessions, group exercises and presentation discussions will be held by students with the aim of deepening their understanding more practically.

【Goal】
· Understand the purpose and content of SDGs
· Understand the definition and characteristics of social enterprises.
· Understand the purpose and various methods of social innovation, and understand social enterprises to achieve the SDGs from various angles.
· Foster a background in understanding and discussing topics related to the SDGs in English.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP2-1", "DP2-2" and "DP3" diploma policies and fairly related to the "DP1-1", "DP4" and "DP5" policies.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation / Guidance of Workshop	Explain the purpose and method of the workshop, how to proceed / Explain group exercises, grade evaluation, etc./Overview the SDGs and social business
2	SDGs and Social Business ① /Sustainable Development Goals What are SDGs?	What are the SDGs adopted at the United Nations Summit in September 2015? Explain the social issues facing the world and Japan and their efforts.
3	SDGs and Social Business ② / Role of Social Business in SDGs	An overview of the efforts of the Japanese government and local governments in the SDGs. Discuss the role how social business can play.
4	SDGs and social business ③/ Case study of global collaboration in SDGs	Group exercises: Case study of global collaboration (industry-government-academia-civil)and social business in the SDGs
5	Guest talk and discussion ①	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
6	Guest talk and discussion ②	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
7	Guest talk and discussion ③	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
8	Guest talk and discussion ④	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
9	Guest talk and discussion ⑤	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
10	Guest talk and discussion ⑥	Guest speaker talks about the relevant topics/Discussion(Q&A include)/Comment report
11	Group Work ① /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ① Group discussion / Class discussion
12	Group Work ② /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ② Group discussion / Class discussion
13	Group Work ③ /Case studies of social business to solve various issues in SDGs and social innovation	Group Work ③ Group discussion / Class discussion
14	Wrap Up / Group Presentation	Group Presentation/Class Discussion/Wrap Up/

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No specific textbook is used.

【References】
Introduce as appropriate during class.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
60% Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)
40% Comment report, Presentation and Final Report（individual essay)
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
Please feel free to request additional explanations and ask questions as necessary.

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5543

Workshop Ⅱ

Azusa Ebisuya

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火 3/Tue.3 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Many international workers in Japan are tackling issues related to adapting to the corporate culture, building interpersonal relationships at work, and maintaining their work-life balance. This course will provide students with opportunities to learn how to maintain the joy of working and succeed as international workers in Japanese companies through hearing real-life scenarios from practitioners.

【Goal】
The students are expected to obtain understanding on critical issues faced by international employees in Japanese companies, and how these issues are being tackled. The students will be able to effectively blend in with the Japanese community and/or work environments based on the knowledge obtained through this course.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the "DP1-1", "DP2-2" and "DP4" diploma policies and fairly related to the "DP1-4" and "DP3" policies.

【Method(s)】
This course will comprise meaningful talks by practitioners, question and answer sessions, and discussions. The guest speakers will be invited from Japanese companies located in Tokyo and surrounding area, which include both big and small-to-medium-sized enterprises (SMEs). The students will be assigned to give a presentation as well as to write a term-paper at the ending of the course. Feedback on class assignments will be given through the Hosei University Course Management Support System (Hoppii).
Due to the epidemic of COVID-19, classes might be provided through the online system (Zoom). The detailed information will be updated.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction to the course	• Overview of the list of speakers • How to prepare for each class
Week 2	Guest Talk and discussion (1)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 3	Guest Talk and discussion (2)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 4	Guest Talk and discussion (3)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 5	Guest Talk and discussion (4)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 6	Guest Talk and discussion (5)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 7	Guest Talk and discussion (6)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 8	Guest Talk and discussion (7)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 9	Guest Talk and discussion (8)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 10	Guest Talk and discussion (9)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 11	Guest Talk and discussion (10)	• Guest lecture • Class discussion including Q&A • Comment sheet
Week 12	Students' presentations and review (1)	• Individual presentation • Review and discussion based on the topics brought by presenters
Week 13	Students' presentations and review (2)	• Individual presentation • Review and discussion based on the topics brought by presenters
Week 14	Students' presentations and review (3)	• Individual presentation • Review and discussion based on the topics brought by presenters

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to read the materials and prepare a few questions for the guest speaker. The materials for each week will be shared through the web-system. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
None

【References】
Supplementary reading materials and/or websites will be shared through the web-system.

【Grading criteria】
Preparing questions for the speaker: 20%
Sheet Submission: 60%
Course-ending Presentation: 20%

【Changes following student comments】
Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】
We'll use the Hosei University Course Management Support System for sharing reading materials and handouts, and submitting papers.

【Others】
This course will invite practitioners as guest lecturers from Japanese big and small-to-medium-sized enterprises. Guests will include CEOs of international companies, team managers having international colleagues, and non-Japanese team-managers who are training international workforces.

【Prerequisites】
None

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary due to the threat level we are at: Level 1, this course will be held on campus. Level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5545

Special Topics in Global Business B

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：月 4/Mon.4 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is aimed to learn service management framework that for customer centric corporate management systematically, and understand service marketing /innovation through case study and discussions in groups and in workshops.
The advanced countries such as Japan, the United States, and European countries have achieved economic growth of service sector closed up to 70% of each GDP, and in order to sustain the growth and stimulate it, every government and various kinds of sector have accelerated to promote an innovation in servicing field. Even in the manufacturing sector, a commoditizing of the traditional technology has made it more important to differentiate individual organization from their rivals by the individual characteristic services than before ages.
Service innovation is an effort to continually create customer values which is indispensable for corporate management both in servicing sector and in manufacturing sector.
One of the models involving a factor of customer oriented service is the “Service Triangle”, in which service is composed of three cores ; “service strategy”, “service providing system”, and “human resources”.(Karl Albrecht)

【Goal】
Students will learn service management framework that for customer centric corporate management systematically, and understand service marketing /innovation through case study and discussions.
In addition, students will conduct case studies of service businesses in various industries to deepen their understanding of management issues and strategies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP3" and "DP4" policies.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Rising service economy	Course overview Grading Criteria Why service is so important?
2	Service Management Framework 1	What is Service? How Service is defined to be?
3	Service Management Framework 2	Service Taxonomy Service Profit Triangle
4	Service Management Framework 3	What is Service Innovation?
5	Service Management Framework 4	What is Customer Satisfaction? Customer Loyalty
6	Service Management Framework 5	Customer Experience Metrics CLV Analysis
7	Service Business 1	Hotel Industry The Ritz Carlton Case KPI,Value Creation Cycle
8	Service Business 2	The Ritz Carlton Discussion
9	Service Business 3	Consulting Business What is a professional service? Discussion
10	Service Business 4	Service Intensity Matrix Service Gap Analysis
11	Service Business 5	Service Value Creation Cycle Service Business Model
12	Service Business Project 1	Group Work Service Business Study
13	Service Business Project 2	Group Presentation Class Discussion
14	Service Business Project 3	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No specific textbook is used.

【References】
· James Teboul,Service is Front Stage,INSEAD Business Press,2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)
· Joe Tidd and Frank M Hull,Service Innovation, Imperial College Press,2003
(ISBN-13 978-1-86094-367-6).
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand − outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
60% Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)
40% Comment report, Presentation and Final Report（individual essay)
Late submission of assignments will result in a lowering of a student’s grade.

【Changes following student comments】
Please feel free to request additional explanations and ask questions as necessary.

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Prerequisites】
It is desirable to take basics such as corporate strategy theory and marketing theory.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting firm and an IT company in the United States. This class focuses on the practice and theory of service management.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN100FB-A5546

Special Topics in Global Business C

Kazuhiro AKITOMO

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：水 5/Wed.5 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
The course is built around basic Global Business Expansion Strategies and is designed to enable students to familiarize themselves with all the critical variables which business leaders must consider in making global business management decisions.
The emphasis is on practical approaches so that after entering the corporate world, students will be ready to be global business specialists in corporate enterprises or consulting firms.

【Goal】
Students will be prepared to create business case proposals centered on entering new geographical markets, with compelling reasons for a firm to expand its businesses.
1. Understanding critical variables to be considered for a firm to go global
2. Acquiring knowledge of entry strategies and methodologies for location choice
3. Learning tasks and challenges which modern global companies are facing

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1" and "DP2-2" diploma policies and fairly related to the "DP3" and "DP4" policies.

【Method(s)】
For the first half of the semester, 50% lectures and 50% active learning. Active learning requires the students to take the lead in the learning process with the instructor acting as a facilitator. This will particularly be the case in the second half of the semester. Some examples of active learning are group work, case studies with discussions and debates, team presentations, etc. This course provides students with a series of live presentations including Q&A sessions on specific topics related to global business expansion from experienced, globally active business leaders. The presentations by guest speakers are online. Before each presentation, the instructor will give necessary frameworks to facilitate understanding of the subject. Students are expected to prepare questions in advance so that the Q & A sessions will be fruitful for the students. After the presentation, any remaining time will be devoted to discussions among students and the instructor.
The plan is to conduct this course in a classroom. However, depending on the pandemic situation, the course may be held remotely via Zoom or equivalent software.
Instructor will give students his oral and written feedback on their assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction to the course	*Ice-breaking session *Students feedback of the instructor‘s previous course and changes following the feedback
Week 2	Understanding Economic Systems and Business	*What is management study? *GDP vs GNP/ Per capita GDP *International vs Global *Development of Emerging Economies *Japan‘s challenge
Week 3	Why do firms go abroad?	*Reasons for going abroad *Pros and Cons for Business Globalization *Risks associated with Global Businesses *Refutation to Cons for Business Globalization
Week 4	Entry Modes and Stages of Globalization	*Seven Approaches to Foreign Markets *Frameworks vs Theory *The PEST/The CAGE/The AAA *Stages of Transnational Development of a Firm *Born-Global & BAG firms *Cross-border investment & Transaction Types
Week 5	Modes of Entry-1	*Indirect Exporting/Importing *Types of Channels *Consignment production/OEM/ODM *Licensing/Franchising *FDI (Foreign Direct Investment) *Risks & Rewards
Week 6	Modes of Entry-2	*Green Field Operations *M&A, and JV *Risks and Rewards *Why do firms choose FDI? *OLI-Paradigm
Week 7	Modes of Entry-3	*OLI Paradigm vs Dynamic OLI-Paradigm *What is a Strategic Alliance? *What is an International JV? *Fabless, OEM revisited
Week 8	Globalization and CSR/Challenges for Japan‘s Multinational Corporations	*SDGs *ESG *CSV *HR management in MNCs
Week 9	Mid-term examination: 60 minutes Explanation of the Team Presentations	The exam.: closed books written test.
Week 10	Review of the Mid-term exam. Preparation for online guest speaker	*Instructor explanation on the correct answers for the mid-term exam. *Students preparation for Q&As for the upcoming guest speaker session.
Week 11	Online guest speaker Q & A	Challenges for Japan‘s Multinational Corporations
Week 12	Team presentations-1	Each student has to be a presenter by taking turns. After each team presentation, Q&A session will be conducted.
Week 13	Team presentations-2	Each student has to be a presenter by taking turns. After each team presentation, Q&A session will be conducted
Week 14	Course wrap-up	Instructor will give either new topics for class discussions or revisit topics that the course covered.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are requested to complete reading assignments prior to class.
· Students are required to spend 4 hours of study time each week to prepare for class activities.
· Students are expected to allot time outside of class to meet with their team members for discussion and preparation of team presentations.

【Textbooks】
· Slides and additional reading materials will be provided via Hoppii (Hosei portal site).

【References】
· Cornelis A. de Kluyver and John A. Pearce II Global Business Strategy. New York Business Expert Press, LLC 2021
· Howard Thomas, Richard R. Smooth, Fermin Diez Human Capital and Global Business Strategy. Cambridge UK, Cambridge University Press, 2013
· Lawrence J. Gitman, Carl McDaniel, Amit Shah and et.al Introduction to Business. Houston, Texas OpenStax Rice University,

【Grading criteria】
Student grades will be based on the following:
50% Mid-term test score
30% In-class Participation
20% Contribution to Team Presentation

【Changes following student comments】
Students feedback of the instructor‘s previous course and changes following the feedback will be presented at the first class.

【Equipment student needs to prepare】
A personal computer with MS PPT, Excel, and Word software
High speed internet connection

【Others】
Please note that if the number of students attending the first class significantly exceeds expectations, in order for the instructor to effectively manage the class, the number of students who are allowed to register for the course may be limited.
The instructor has been working for a Japanese manufacturing company for 41 years. He not only worked in the U.S. to develop markets of the company‘s products and customers for nearly 11 years, but also worked in Germany for 6 years as President of European Regional Headquarters of the company.

【Prerequisite】
Students should at least be knowledgeable of basic business terminologies; therefore, being sophomores or juniors with a business major or equivalent is advisable.

MAN300FB-A5554

Seminar

Kiyoko YOSHIMURA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：金 4/Fri.4 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course focuses on Operations Management efficiency/productivity, especially improvement in day-to-day activities. The course introduces the tools and techniques available to assist the operation and the factors considered in the job process design.

【Goal】
This course aims to improve students' understanding of operations management's concepts, principles, problems, and practices by learning tools and cases in the real world.
After completing this course, students should be able to understand what is happening in society, especially.
- Productivity support tools
- Automation
- DX
- SCRUM/AJAIL
- Ethics/Compliance

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
Face to Face (except #1 session)
Each seminar session consists of discussions following the lectures with the case, process, and/or tool introduction of real-world industries. In addition, some simulation works are planned. Thus, the students can have a better understanding of how Operations Management works or contributes to the real world. Assignment feedback will be made in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction of Seminar Objective and course
2	Operation Management in corporation 1	Introduction of some examples of Operations management. Case Discussion
3	Operation Management in corporation 2	Introduction of some examples of Service Operations management. Case Discussion
4	Efficiency and Productivity by Automation1	Automation success factors and considerations
5	Efficiency and Productivity by Automation 2	Introduction of several Automation tools
6	Efficiency and Productivity by Ajail1	Consideration of Scrum and Ajail in the corporate life
7	Productivity by Ajail2	Corporate case Success factor and pitfalls
8	Efficiency and Productivity by DX1	What does DX mean?
9	Efficiency and Productivity by DX2	Corporate case Success factor and pitfalls
10	Project Ethics / Compliance	Consideration factors of Ethics and Compliance for the project planning
11	Corporate critical decisions I	Case discussion on Firms' Operations
12	Corporate critical decisions II	Case discussion on Service Operations
13	Presentation	Pick up the case and make a presentation.
14	Wrap up	Revier the entire course.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
The students are expected to read the uploaded materials (course materials and cases) for each class beforehand and prepare for discussions during the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no textbook required for this course.
Course material (PowerPoint) will be supplied in the class.

【References】
Will notice Course References/Books on the bulletin board separately. Reading should be completed before class.

【Grading criteria】
In-class-Quiz: 60 points (60%)
Case presentation: 40 points (40%)
Total: 100 points (100%)
In each of the courses, students may be required the group work. The group work results should be presented in class.

【Changes following student comments】
Will conduct feedback survey questions for student feedback.

【Equipment student needs to prepare】
None. The instruction will be given at the course if any.

MAN300FB-A5553

Seminar

Akira KAMOSHIDA

Term：春学期授業/Spring ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火 4/Tue.4 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is designed so that students who often come into contact with familiar business topics on a daily basis can learn with interest the basics of business theory. All the students are expected to learn about strategic management theory, marketing theory etc.with interest by linking it with concrete examples. In the class, students will hold group exercises and discussions with the aim of deepening their understanding in a more practical manner.

【Goal】
· Understand the main basic theories of management science.
· To foster awareness of issues regarding management science.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Management science and what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is management science?
2	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
6	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Making Money Work ① /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
8	Making Money Work ② /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
9	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
12	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
13	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
· Strategic Management in 100 Minutes: In sprint with fun to the point for all, Marc Opresnik, Svend Hollensen, Opresnik Management Guides Book 36,2021
· James Teboul,Service is Front Stage,INSEAD Business Press,2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)
· Joe Tidd and Frank M Hull,Service Innovation, Imperial College Press,2003
(ISBN-13 978-1-86094-367-6).
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand − outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
50% Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, Presentation, etc.)
50% Homework Assignment and Final Report
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

MAN300FB-A5551

Seminar

Akira KAMOSHIDA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：火 2/Tue.2 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：2〜4
Notes：

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course is designed so that students who often come into contact with familiar business topics on a daily basis can learn with interest the basics of business theory. All the students are expected to learn about strategic management theory, marketing theory etc.with interest by linking it with concrete examples. In the class, students will hold group exercises and discussions with the aim of deepening their understanding in a more practical manner.

【Goal】
· Understand the main basic theories of management science.
· To foster awareness of issues regarding management science.
· To be able to analyze cases of Japanese and overseas companies from the perspective of management science.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
This course is strongly related to the"DP1-1", "DP2-1", "DP2-2", "DP4" and "DP5" diploma policies and fairly related to the "DP3" policy.

【Method(s)】
The entire course will be delivered in an interactive manner, facilitating you to get involved in the class actively. You will have to work with your team members on discussions and tasks. You will have a comment report to submit at some classes and several team-presentations during the course. After the course ends, you will have to submit an essay.
I will give you my oral and/or written feedback on your assignments in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation /Management science and what to learn	Lecture method, explanation of grade evaluation, etc./What is management science?
2	Start Small, Think Big ① /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
3	Start Small, Think Big ② /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
4	Start Small, Think Big ③ /Starting and Growing the Business	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
5	Lighting The Fire ① /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
6	Lighting The Fire ② /Leadership and Human Resources	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
7	Making Money Work ① /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
8	Making Money Work ② /Managing Finances	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
9	Working With a Vision ①/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
10	Working With a Vision ②/Strategy and Operations	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
11	Successful Selling ① /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
12	Successful Selling ② /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
13	Successful Selling ③ /Marketing Management	Student presentation, class discussion, lecture & Wrap up
14	Group Presentation / Wrap Up	Group Presentation Class Discussion Wrap Up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Homework: preparations & reviews. Readings, Summarizing, Internet searching. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Several students will make presentation on the topic assigned previous week.

【Textbooks】
· Atkinson, S., O'Hara, S., & Sturgeon, A. (Eds.). (2014). The Business Book: Big Ideas Simply Explained. Dorling Kindersley Ltd.

【References】
· Strategic Management in 100 Minutes: In sprint with fun to the point for all, Marc Opresnik, Svend Hollensen, Opresnik Management Guides Book 36,2021
· James Teboul,Service is Front Stage,INSEAD Business Press,2006 (ISBN 978-0-230-00660-7)
· Joe Tidd and Frank M Hull,Service Innovation, Imperial College Press,2003
(ISBN-13 978-1-86094-367-6).
We will use supplementary materials from time-to-time, which will be made available as hand − outs and/or put on reserve at the university library.

【Grading criteria】
Students will be graded based on the following criterions.
60% Class Contribution (Frequency and quality of remarks ,Participation in the class discussion, etc.)
40% Comment report, Presentation and Final Report（individual essay)
Late submission of assignments will result in a lowering of a student's grade.

【Changes following student comments】
Please feel free to request additional explanations and ask questions as necessary.

【Equipment student needs to prepare】
PowerPoint may be used for the class presentation.

【Others】
The instructor worked as one of the management teams at a consulting fi rm and an IT company in the United States.

【Upon threat level change】
Please note that the teaching approach may vary according to which threat level we are at: at level 1, this course will be held on campus, though at level 2, it will be held online.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 1/Mon.1

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider both the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2023 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】
At the completion of this course, students should be able to:
1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing your group's destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future, including post-COVID
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice.* Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach.* London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis through peer assessment.

【Changes following student comments】
N/A

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s)：2　|　Semester：秋学期授業/Fall　|　Year：1〜4
Day/Period：火 3/Tue.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2022 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】
At the completion of this course, students should be able to:
1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the Course Content and Class Format
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy
8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future, including post-COVID
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice.* Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach.* London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
N/A

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

MAN200ZA

Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：月 3/Mon.3

その他属性：〈グ〉〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic / advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】
The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.
Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand’s presence in the consumer’s mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】
Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.
Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.
Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】
Class participation（20%）
Assignment（20%）
Final exam（60%）

【Changes following student comments】
The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】
This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】
None

TRS200ZA

Event Management

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：2〜4
Day/Period：火 5/Tue.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
For millennia, humans have found ways to mark important events in their lives: the changing of the seasons, the phases of the moon and the renewal of life each spring. Today, events are playing an increasing role in people's lives and culture. More leisure time and better standards of living have led to a proliferation of public and private events. More recently, governments and businesses have recognised the incredible power of events to help with economic development and destination marketing. The wide array of events, from community to international level, makes event management a hugely exciting field of study.

【Goal】
The purpose of this course is to acquire an in-depth knowledge about the field of event management. Students will learn both important theoretical considerations as well as applied knowledge relating to the factors for the successful planning, promotion, implementation and evaluation of events within different contexts.
Upon completion of this course, you should be able to:
1) Understand the range of factors behind the successful conceptualization and design of events
2) Understand the range of socio-cultural, economical & environmental impacts events can have on host destinations & inhabitants
3) Understand different sources of event funding and support and apply appropriate risk management practices
4) Understand the role and management of event volunteers
5) Appreciate the varied aims and objectives of different events and consider strategies to achieve a positive longer-term legacy

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is lecture-based, though you will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A range of case studies can help you consolidate your learning by illustrating the lecture content with real examples.
In groups, students will design a unique event, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	Event Conceptualization	The various influences on developing an event concept and the issues to be included in the planning process
3	The Event Environment	Examining the unique context and stakeholder networks that events must negotiate and how this influences the event design and management process
4	Designing the Event Experience	Developing the attendee experience (theme, program, venue, etc.) to best achieve an event's particular objectives
5	Event Funding & Support	Analyzing how events can utilize various forms of support (e.g. grants and sponsorship) to more effectively realize aims and objectives
6	Event Marketing and Promotion	Analyzing contemporary approaches to event marketing and the challenges of marketing an intangible experience
7	Human Resource/Volunteer Management	Managing human resources for the event including volunteer recruitment, motivation and retainment
8	Event Case Study 1	Analysing event impacts from an international case study
9	Risk Management, Licensing and Health and Safety	Planning and preparing for negative incidents to ensure the safe and smooth delivery of the event
10	Financial Management and Budgeting	Financial management processes including sourcing funding, managing cashflow and evaluation
11	Event Case Study 2	Analysing aspects of event management from an international case study
12	Event Case Study 3	Analysing aspects of event management from an international case study
13	Group Presentations	Groups will give a presentation on their original event
14	Post Event Evaluation and the Event Legacy & Wrap-up	Considering the importance of planning for an event's legacy and strategies to achieve this

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Groups will be assigned selected case studies and tasked with developing discussion questions and leading group & class discussions.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set text for this course. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
The reference books are available in the university library.
Allen, J, O'Toole, W, McDonnell, I. and Harris, R. (2011) *Festival and Special Event Management.* (5th edition) Brisbane: Wiley
Bowdin, G., McDonnell, I., Allen, J. and O'Toole, W. (2001) *Events Management.* Oxford: Butterworth-Heinemann
Brittain, I., Bocarro, J., Byers, T. and Swart, K. (eds) (2017) Legacies and Mega Events: Fact or Fairy Tales? London: Routledge

【Grading criteria】
Evaluation will be based on:
1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Term paper (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
To enhance students' group working and analytical skills, groups will be given more responsibility for leading discussions on assigned case studies.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
There are no prerequisites, though students are recommended to have taken, or concurrently take, the 100-level Introduction to Tourism Studies course.
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

TRS200ZA

Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：2〜4

Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
Up until the end of 2019, inbound tourism to Japan was experiencing unparalleled growth. An increasingly diverse range of tourists had brought opportunities and challenges to tourism managers, yet from 2020 there has been a refocus on domestic tourism due to the global coronavirus pandemic.
After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2023 and beyond.

【Goal】
Upon completion of this course students should be able to:
1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
2) Appreciate some of the key stakeholders involved in planning tourism in Japan
3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at prefectural level
4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing campaigns

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.
In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Destination Management	Analysis of destination management theory, and an introduction to some of the key organizations involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as Economic and Social Lifeline	Exploring destination management and tourism sustainability. Also the economic potential of tourism for local and regional development ’off the beaten track’ to tackle serious demographic problems.
5	Tourism Marketing	Consider different approaches to tourism marketing and analyzing examples of prefectural marketing
6	Japan and Asia. Case Study: Japan and South Korea	Examining the current & historical connections with some of Japan’s close neighbors, with a particular focus on South Korea. We will also consider how Japan is differentiating itself amid growing international competition for inbound tourists.
7	Tourism Resources: Events	Analysing how Japan’s rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites and how they are utilized for tourism purposes
9	Inbound Tourism	Historical and current trends in inbound tourism. Also a consideration of the management challenges of varying motivations and behaviors of different visitor groups.
10	Case Study	In-depth focus on sustainable destination management through a case study
11	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the potential recovery from the coronavirus pandemic.
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomical tourism and cultural tourism related to anime, movies and TV shows
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:
Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures.* Berghahn: New York
Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility).* Routledge: London

【Grading criteria】
1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. To improve students’ group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
In light of greater interest and awareness, the course will have a greater focus on sustainable tourism management.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.
Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level ’Introduction to Tourism Studies’ course.

【Prerequisite】
None.

MAN300ZA

Services Marketing

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4

Day/Period：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
What are services? The service sector, which includes finance, education and tourism, now accounts for around 80% of developed countries' economies and today's graduates are highly likely to be employed in such organizations. The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by more demanding customers and advances in technology, organizations are pursuing closer and more interactive relationships with their customers, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.
This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by technological developments. Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

【Goal】
This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.
From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
3	The Experience Economy	Analyzing the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
4	Managing the Consumer Experience	Exploring different influences on the service experience, and the various stages of service delivery
5	Service Systems and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption & customer satisfaction
6	Buyer Decision Making	Examining the influences on decision-making and how organizations can manage these
7	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services
8	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation from a destination's perspective
9	Service Quality	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy
10	Service Delivery	Examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity
11	Case Study	An in-depth analysis of service marketing & management through an international case study
12	Group Presentations	Student group presentations
13	Marketing, Sustainability & Corporate Social Responsibility (CSR)	Analyze organizational approaches towards sustainability and more responsible business approaches
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge
Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing.* London: McGraw Hill
Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy.* Harvard: Harvard University Press

【Grading criteria】
Evaluation will be based on
1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30% - individually assessed)
3. Exam (40%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.
To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
In light of greater consumer interest, there will be more focus on sustainability and its importance on services marketing.

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
Although not essential, students are strongly encouraged to have taken/concurrently take at least one other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None.

TRS300ZA

Cultural Tourism

John Melvin

Credit(s)：2 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：月 1/Mon.1

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
The phenomenon of cultural tourism exists in many forms and is regarded as one of the oldest forms of tourism. Defined as "*A form of tourism that relies on a destination's cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.*" (du Cros & McKercher, 2015: p.6), this course will analyze the 4 elements within the definition: (i) Tourism, (ii) Utilization of Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.
We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people's ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO & ICOMOS.

【Goal】
Upon completion of this course students should be able to:
1) Understand the various forms of cultural tourism
2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
4) Understand the role of cultural resources in forming people's national and local identity, and how these are preserved and managed
5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.
In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism (CT)	Introduction to cultural tourism (CT)
2	People: Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community's perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an 'authentic' experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the economic and socio-cultural impacts of CT on host communities
5	Culture & Nation Branding	Consider the strategic role of culture for developed & developing countries' tourism portfolios
6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Consider the role of socio-political attitudes in influencing how culture is interpreted and the subjectivity of history: whose version of history prevails?
7	World Heritage Sites 1	Consider concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources
8	World Heritage Sites 2	Consider the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Consider the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Consider the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Food Tourism	Consider the role of food & drink as cultural resources, and using tourism to preserve local heritage
12	Group Presentations	Presentations on group case study destinations
13	Film- and TV-inspired Tourism	Consider the role of movies, TV and other media content as cultural resources; also the importance of accurate & artistic representations of local culture
14	Future of Cultural Tourism & Course Wrap Up	Considering how CT has evolved, and possible future trends

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Please note, as a 300-level class the reading load is heavy.

【Textbooks】
Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge
Students can purchase the paperback version or the e-book; alternatively, the e-book may be rented more cheaply for a fixed time from the publisher's website (more details to be provided in class). Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】
du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge
Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI

【Grading criteria】
1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)
Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.
To improve students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】
N/A

【Equipment student needs to prepare】
N/A

【Others】
Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses. As such, students are strongly recommended to have taken/concurrently take one or more of the following: 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management or Tourism Development in Japan courses.
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
None

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s)：4 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4

Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. From 2021, the gradual post-coronavirus recovery offers a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices.
Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, overtourism and niche tourism development.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develope a firm research proposal.
In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.
While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students’ own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with the other students.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism impacts
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: destination management
8	Research Project	Discussion on students’ topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study: niche tourism and differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students’ research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students’ own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students’ own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher’s website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class.
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students’ interests. Hopefully the situation in 2023 will allow us to take both a summer trip and undertake field work during the semester.
Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.
Seminar students must concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

【Prerequisite】
Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s)：4 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4

Day/Period：火 5/Tue.5

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. From 2021, the post-coronavirus recovery offers a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices.
Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be the completed during the second year of the seminar.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develope a firm research proposal.
In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.
While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students’ own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with the other students.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism marketing
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: destination management
8	Research Project	Discussion on students’ topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study: differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students’ research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students’ own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students’ own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher’s website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class.
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students’ interests. While our 2021 summer trip was cancelled, hopefully the situation in 2022 will improve and we will be able to take both a trip and undertake field work.
Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
Seminar students should have taken some of the following Business & Economy courses: Introduction to Tourism Studies; Introduction to Business; Principles of Marketing; Marketing in Japan; Tourism Development in Japan; Event Management; Marketing Management.
Seminar students must concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s)：4 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.
Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.
In the second year of the seminar, senior students will research and write their extended research paper.
In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Considering second case study: tourism management
10	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism management
11	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: tourism management
12	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: tourism management
13	Discussions on Students' Research Projects	Discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class.
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students' interests. Hopefully the situation in 2023 will allow us to take both a summer trip and undertake field work during the semester.
Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help pro- vide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s)：4 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：3〜4
Day/Period：月 5/Mon.5

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be the completed during the second year of the seminar.
Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests.

【Goal】
The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.
Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.
In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.
In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.
Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Considering second case study: tourism management
10	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism management
11	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: tourism management
12	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: tourism management
13	Presentations on Students' Research Projects 1	Presentations and discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations and discussions on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams.* London: Routledge.
Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class.
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】
Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism.* London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing.* London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses.* London: Goodfellow Publishers

【Grading criteria】
Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).
Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).
Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

【Changes following student comments】
Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2021 summer trip was cancelled, hopefully the situation in 2022 will improve and we will be able to go on a trip and undertake field work.
Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

【Equipment student needs to prepare】
Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】
I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help pro- vide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】
Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：4 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4

Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】
By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager’s perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.
In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries.Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitive approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
· Students need to make good preparations for individual / group study.
· Students are encouraged to join the summer training camp.
· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】
Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】
Participation (presentation / discussion etc.)（40%）
Assignment（20%）
Individual Report (3rd year students)（40%）
Final Report (4th year student)（40%）

【Changes following student comments】
N/A

【Others】
This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】
None.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s)：4 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：3〜4

Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】
This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】
By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn "practical wisdom" by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】
To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager’s perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.
In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries.Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitive approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
· Students need to make good preparations for individual / group study.
· Students are encouraged to join the summer training camp.
· Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】
Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】
Participation (presentation / discussion etc.)（40%）
Assignment（20%）
Individual Report (3rd year students)（40%）
Final Report (4th year student)（40%）

【Changes following student comments】
N/A

【Others】
This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】
None.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 4/Mon.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 4/Mon.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Thomas Rapsey

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 5/Fri.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Tom Rapsey is from England and majored in Physical Geography. He has been teaching English to university and Japanese companies for over 16 years. He has extensive experience in Presentation, Discussion and Writing courses. Tom creates a relaxed, friendly atmosphere in group lessons, an atmosphere in which students grow in confidence by working together and supporting each other. As a result, students often remark that they have really enjoyed the course, are much more confident and feel highly motivated to continue studying and improving their skills.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Wendy Horikoshi

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Wendy is from Australia and majored in Social Sciences. She also holds a Diploma to teach English as a second language. Wendy has lived in Japan for 23 years and has had experience teaching in both universities and Business English in Japanese companies. She aims to create lessons that meet her students' needs and ensures their content are up-to-date and engaging.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on “Culture and Identity”
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on “Performing”
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on “Water”
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on “Opportunities”
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on “Well-being”
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
し / No

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 5/Tue.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 3/Mon.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 5/Mon.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 5/Thu.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on “Culture and Identity”
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on “Performing”
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on “Water”
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on “Opportunities”
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on “Well-being”
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 5/Thu.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 4/Mon.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left … behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 – 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 – 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left … behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 – 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 – 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Wendy Horikoshi

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Wendy is from Australia and majored in Social Sciences. She also holds a Diploma to teach English as a second language. Wendy has lived in Japan for 23 years and has had experience teaching in both universities and Business English in Japanese companies. She aims to create lessons that meet her students' needs and ensures their content are up-to-date and engaging.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 5/Tue.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 5/Mon.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
Check the schedule

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
M/A

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
See the Outline and objectives

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】
Check the schedule

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
N/A

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
See the Outline and objectives

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Thomas Rapsey

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 5/Fri.5

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Tom Rapsey is from England and majored in Physical Geography. He has been teaching English to university and Japanese companies for over 16 years. He has extensive experience in Presentation, Discussion and Writing courses. Tom creates a relaxed, friendly atmosphere in group lessons, an atmosphere in which students grow in confidence by working together and supporting each other. As a result, students often remark that they have really enjoyed the course, are much more confident and feel highly motivated to continue studying and improving their skills.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Joe Trujillo

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】
N/A

【Others】
Joe Trujillo is from California, USA and majored in Creative Writing at the University of California. He has been teaching English in Japan for over 10 years in both university and corporate settings. Before teaching he gained experience working at Apple and as part of the Story Team for Final Fantasy XV. Joe creates an engaging lesson environment where he encourages students to communicate effectively. He sees every lesson as a chance for students to develop their own voice and to practice practical English they will use on a day-to-day basis.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

【Outline (in English)】
See the Outline and objectives

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Intensive English 1

Credit(s)：1 ｜ Semester：スプリングセッション/Spring Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course aims to support and strengthen students' existing English skills by focusing on integrating the four skills of Reading, Writing, Speaking and Listening and building a solid foundation of skill strategies and language structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for collaboration in brainstorming and planning of ideas, writing short essays, discussions, presentations and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (Approx. 250 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, listening, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• develop listening skills (gist, detail and note-taking) using authentic speakers discussing level-appropriate subjects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation CEFR self-evaluation (Initial) Pre-Course Task Presentations, Pre-Course Task Presentations cont. Reading Skills: Skimming/Scanning, Read and discuss Article 1: The Dream of Flight, Writing Skills: The 5Cs of Good Writing, Paragraphs	Write 250 words about Article 1
2	Share Writing and Discuss, Listening Skills: Note Taking, Listen and Discuss Article 2: The Story of Chilli, Presentation Skills: Structure	Prepare a 3-minute Speech on Article 2
3	Short Speeches and Discussion, Reading Skills: Summarizing, Reading Skills: Read and Discuss Article 3: Mission to Mars, Debate Skills: ORE	Prepare for a Debate on Article 3
4	Debate and Feedback, Listening Skills: Listening for Details, Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals, Writing Skills: Linking Ideas	Write 250 Words About Article 4
5	Share Writing and Discuss, Reading Skills: Building Vocabulary, Read and Discuss Article 5: Mood Music, Presentation Skills: Language	Prepare a 3-minute Speech on Article 5
6	Short Speeches and Discussion, Listening Skills: Listening for Facts and Opinions, Listen and Discuss Article 6: Edge of Extinction, Debate Skills: Strong Reasons	Prepare a Debate on Article 6
7	Evaluated Debate and Feedback, Reading & Listening Test, Presentation Skill: Delivery, Final Presentation Preparation	Practice Final Presentation
8	Final Presentation Preparation/Practice, Final Presentation and Feedback, CEFR Self Evaluation (Final) Review and Wrap-up	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing for short speeches, discussions and writing tasks). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Four Skills English Intermediate/Academic Edition/ALC Press Inc./2018.

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade (exceptions in the case of proven reason); 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20% (Message, Structure, Delivery, Visuals), Reading Comprehension 10%, Listening Test 10%.

【Changes following student comments】

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Intensive English 2

Credit(s)：1 ｜ Semester：スプリングセッション/Spring Session ｜ Year：1〜4
Day/Period：集中・その他/intensive・other courses
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course aims to support and strengthen students' existing English skills by focusing on integrating the four skills of Reading, Writing, Speaking and Listening and building a solid foundation of skill strategies and language structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for collaboration in brainstorming and planning of ideas, writing short essays, discussions, presentations and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (Approx. 250 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, listening, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• develop listening skills (gist, detail and note-taking) using authentic speakers discussing level-appropriate subjects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation CEFR self-evaluation (Initial) Pre-Course Task Presentations, Pre-Course Task Presentations cont. Reading Skills: Skimming/Scanning, Read and discuss Article 1: The Dream of Flight, Writing Skills: The 5Cs of Good Writing, Paragraphs	Write 250 words about Article 1
2	Share Writing and Discuss, Listening Skills: Note Taking, Listen and Discuss Article 2: The Story of Chilli, Presentation Skills: Structure	Prepare a 3-minute Speech on Article 2
3	Short Speeches and Discussion, Reading Skills: Summarizing, Reading Skills: Read and Discuss Article 3: Mission to Mars, Debate Skills: ORE	Prepare for a Debate on Article 3
4	Debate and Feedback, Listening Skills: Listening for Details, Listen and Discuss Article 4: Fantastic Festivals, Writing Skills: Linking Ideas	Write 250 Words About Article 4
5	Share Writing and Discuss, Reading Skills: Building Vocabulary, Read and Discuss Article 5: Mood Music, Presentation Skills: Language	Prepare a 3-minute Speech on Article 5
6	Short Speeches and Discussion, Listening Skills: Listening for Facts and Opinions, Listen and Discuss Article 6: Edge of Extinction, Debate Skills: Strong Reasons	Prepare a Debate on Article 6
7	Evaluated Debate and Feedback, Reading & Listening Test, Presentation Skill: Delivery, Final Presentation Preparation	Practice Final Presentation
8	Final Presentation Preparation/Practice, Final Presentation and Feedback, CEFR Self Evaluation (Final) Review and Wrap-up	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a day completing homework assignments (preparing for short speeches, discussions and writing tasks). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Four Skills English Intermediate/Academic Edition/ALC Press Inc./2018.

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade (exceptions in the case of proven reason); 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 20% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 20% (Message, Structure, Delivery, Visuals), Reading Comprehension 10%, Listening Test 10%.

【Changes following student comments】

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
CE2: TOEFL ® iBT 52+, TOEFL ® ITP 470+, TOEIC ® 550+, IELTS 5.5+

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sam Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 4/Mon.4
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 3/Mon.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 3/Mon.3
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 3/Tue.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left … behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 – 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 – 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 3/Fri.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left … behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 – 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 – 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 4/Mon.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Glenn Torrens

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Glenn is from the USA and majored in Fine Arts at The School of Visual Arts in New York. He has been in Japan since 2013 and has taught at both universities and Japanese companies. Glenn has experience of teaching lively and engaging communicative classes allowing students to communicate openly and confidently in order to achieve their goals of improving their language ability.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Sandor Dome

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Sandor Dome was born in Hungary and grew up in various countries including going to school in the US and University in Italy. He has also worked in England and has worked in Japan for 8 years. Before joining ALC, he had been working with university students, helping them with their studies and language exam preparation, also taking part in exchange programs and international workshops. Sandor Dome aims to create an inspiring environment where learners can find comfort and achieve their goals.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 3/Mon.3

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II

Jonathan Docherty

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on “People”
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on “Possessions”
5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on “Places”
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on “Free Time”
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on “Food”
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I

Wendy Horikoshi

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest-level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first … second …" etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Wendy is from Australia and majored in Social Sciences. She also holds a Diploma to teach English as a second language. Wendy has lived in Japan for 23 years and has had experience teaching in both universities and Business English in Japanese companies. She aims to create lessons that meet her students' needs and ensures their content are up-to-date and engaging.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Wendy Horikoshi

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Wendy is from Australia and majored in Social Sciences. She also holds a Diploma to teach English as a second language. Wendy has lived in Japan for 23 years and has had experience teaching in both universities and Business English in Japanese companies. She aims to create lessons that meet her students' needs and ensures their content are up-to-date and engaging.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：春学期授業/Spring ｜ Year：1〜4

Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 – 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 – 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing for discussions, and writing draft and final writing assignments). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
• build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II

Wendy Horikoshi

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 2/Fri.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left … behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
• write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
• build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
• engage in and lead simple discussions on a range of topics
• manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
• confidently express opinions supported by simple reasoning
• work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order	Prepare a discussion topic based on Chapter 4
3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 – 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 – 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 2); Paragraphs SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0136769996)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Wendy is from Australia and majored in Social Sciences. She also holds a Diploma to teach English as a second language. Wendy has lived in Japan for 23 years and has had experience teaching in both universities and Business English in Japanese companies. She aims to create lessons that meet her students' needs and ensures their content are up-to-date and engaging.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200+ or English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Ryan Olimer

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：月 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
• engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
• build analysis and decision-making skills through group discussion activities
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Work; parts a-b	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"
7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on "Products"
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on "History"
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Ryan Olimer is originally from Toronto, Canada. He studied Psychology at university as well as TESOL/TESL before coming to Japan. While in Japan, Ryan has worked as an English Instructor for more than 20 years teaching students of all ages, from children all the way up to university and businesspeople. In his lessons he aims to be creative, flexible and to always to provide enjoyable atmosphere where the students can learn.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Wendy Horikoshi

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：金 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
• write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
• expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
• build understanding of the difference between spoken and written English
• improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 10 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (paragraphs and essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 3); Paragraphs to Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources,
4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838531)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Wendy is from Australia and majored in Social Sciences. She also holds a Diploma to teach English as a second language. Wendy has lived in Japan for 23 years and has had experience teaching in both universities and Business English in Japanese companies. She aims to create lessons that meet her students' needs and ensures their content are up-to-date and engaging.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5 or EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Bridget Kim

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：木 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest-level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
• expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
• engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
• manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
• expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1
4	Presentation 1 – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"
7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2
8	Presentation 2 – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 2 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3
12	Presentation 3 – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3
13	Presentation 3 continued – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches on topics related to the textbook units, preparing and practicing evaluated presentations, and completing textbook unit review pages. They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Presentation 30% (Message, Structure, Delivery, Preparation/Effort)

【Changes following student comments】

【Others】
Bridget Kim is from New York City, USA. She majored in Criminal Justice, and has a Baccalaureate in Psychology, minoring in Asian Studies. Prior to working at Hosei University, she has been an Assistant Educator, a Teaching Assistant and a Student Tutor in the United States. In addition, she has also been a Translator and a Japanese Liaison Officer at Comic and Anime conferences. Her experience as a University Instructor includes classes on Presentations, Discussions, Essay Writing and Listening. Bridget's educational background combined with her experience teaching a variety of subject matters, ensure learners are always actively engaged and fulfilled during her lessons.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II

Andrew Finegan

Credit(s)：1 ｜ Semester：秋学期授業/Fall ｜ Year：1〜4
Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking. In class, students will receive verbal feedback individually from both their instructor and classmates to help them identify and improve their weak areas. For assigned tasks, students will receive verbal and/or written feedback from their instructor on general progress and points to improve.

【Goal】
By the end of this course, students will be better able to:
• write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
• be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
• learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
• deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
• develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
• engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
• communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
• confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
• work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students will be expected to spend 2 hours a week preparing short speeches and discussion topics related to the textbook units, and writing draft and final (evaluated) writing assignments (essays). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】
● Longman Academic Writing Series (Level 4); Essays with Online Practice & Digital Resources,
5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0136838630)

【References】
● Supplementary in-class handouts (free)

【Grading criteria】
Attendance: Five or more absences will result in a failing grade; 30 minutes late arrival or early leave equals absence
Participation: 40% (Involvement & Improvement, Homework Completion); Discussion 30% (Message, Language, Clarity, Contribution); Writing 30% (Message, Structure, Accuracy, Evidence)

【Changes following student comments】

【Others】
Andrew Finegan is from Brisbane, Australia. He received a Bachelor of Arts, majoring in Japanese Language and Culture, from the University of Queensland, and a Graduate Diploma in Tax, from the University of New South Wales, Australia. He worked for the Australian Tax Office while in Australia. His experience in Japan includes English Instruction as well as legal interpretation, which allows him to effectively provide communication and business skills courses from beginner to advanced levels. He is particularly skilled at assisting students in expressing themselves clearly in a variety of situations.

【Prerequisites】
English proficiency requirement:
TOEFL ® iBT 61+, TOEFL ® ITP 500+, TOEIC ® 625+, IELTS 6.0+ or EIKEN ® CSE2.0 2400+ or English Placement Test α 730+

LAW100NA

知的財産権

加納　昌彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】
・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	○	○	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回レジメを配布する講義形式を基本としつつ、随時課題や小テストのほか、Zoom の双方向性機能（チャットなど）を活用してリアルタイムでの演習も実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS 利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法 (1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法 (2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法 (3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法 (4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法 (5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法 (6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018 年）、990 円（税込）

【参考書】
関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDF ファイルは各自 PC にダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和 4 年度）（文化庁著作権課、2022 年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93736501_01.pdf
はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2019 年）
http://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1_201906.pdf
知的財産権制度入門 2022 年度（特許庁、2022 年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2022_nyumon/all.pdf
特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40 %）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】
・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】
This course is intended for providing students with basic principles of intellectual property rights, including copyright, patent, industrial design and trademark as well as protection of information. It is recommended to those who have keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and movie.

LAW100NA

知的財産権

加納　昌彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】
・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
・この授業は zoom を用いたオンライン形式で開講します。
・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoom の双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS 利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法 (1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法 (2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法 (3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法 (4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法 (5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法 (6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018 年）、990 円（税込）

【参考書】
関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDF ファイルは各自 PC にダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和 4 年度）（文化庁著作権課、2022 年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93736501_01.pdf
はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2019 年）
http://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1_201906.pdf
知的財産権制度入門 2022 年度（特許庁、2022 年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2022_nyumon/all.pdf
特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40 %）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】
・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】
This course is intended for providing students with basic principles of intellectual property rights, including copyright, patent, industrial design and trademark as well as protection of information. It is recommended to those who have keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and movie.

LAW100NA

知的財産権

加納　昌彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これにより、かつては一部の専門家やプロの道具だった知的財産に関する知識について、一般の市民や学生も正確に理解することが求められています。また、こうした知的活動による成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観・検討し、目標とする「総合的デザイン」と将来のモノ作り・創作活動のための基盤を作ります。知的活動に関心のある方、現在デザイン・建築・美術・音楽・文学など創作活動に関わっている方、将来これらの分野に就職を希望している方に受講をおすすめします。

【到達目標】
・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	5%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	5%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・この授業は zoom を用いたオンライン形式で開講します。
・毎回レジメを事前配布する講義形式を基本として、課題や復習の小テストも行います。また、zoom の双方向性機能（チャットなど）を活用して受講者全員参加によるリアルタイムでの演習も随時実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS 利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法 (1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法 (2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法 (3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法 (4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法 (5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法 (6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する（演習を含む）
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する（演習を含む）
13	不正競争防止法	行為規制型の法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018 年）、990 円（税込）

【参考書】
関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料・ウェブサイト（PDF ファイルは各自 PC にダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと。文化庁と特許庁発行の資料は毎年夏頃までに更新されます。最新版は授業にて改めてお知らせします）。
著作権テキスト～初めて学ぶ人のために（令和 4 年度）（文化庁著作権課、2022 年）
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93736501_01.pdf
はじめての著作権講座―著作権って何？（著作権情報センター、2019 年）
http://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1_201906.pdf
知的財産権制度入門 2022 年度（特許庁、2022 年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2022_nyumon/all.pdf
特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)
https://www.j-platpat.inpit.go.jp/

【成績評価の方法と基準】
・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（40 %）、および期末に提出するレポート（60%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記したご自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】
・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】
・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline (in English)】
This course is intended for providing students with basic principles of intellectual property rights, including copyright, patent, industrial design and trademark as well as protection of information. It is recommended to those who have keen interest in human intellectual activities ranging from architecture and product design to art, literature, music, dance and movie.

POL100NA

開発と国際協力

浅川　英理子、小野澤　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA) を中心として解説する。また、グループで国際協力機構 (JICA) が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に着けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】
1．開発途上国の現状と我国の政府開発援助 (ODA) の実施機関である国際協力機構 (JICA) の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2．海外留学の実態について理解する。
3.6～8 人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である３つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4．グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立って学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。
授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、ＭＤＧｓを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs) について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の実例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】
報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】
講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs) についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】
This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川　英理子、小野澤　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA) を中心として解説する。また、グループで国際協力機構 (JICA) が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に着けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】
1．開発途上国の現状と我国の政府開発援助 (ODA) の実施機関である国際協力機構 (JICA) の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2．海外留学の実態について理解する。
3.6～8 人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である３つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4．グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立って学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。
授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、ＭＤＧｓを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs) について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の実例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】
報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】
講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs) についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】
This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川　英理子、小野澤　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA) を中心として解説する。また、グループで国際協力機構 (JICA) が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に着けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】
1．開発途上国の現状と我国の政府開発援助 (ODA) の実施機関である国際協力機構 (JICA) の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2．海外留学の実態について理解する。
3.6～8 人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である３つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4．グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立って学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。
授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、ＭＤＧｓを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs) について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の実例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】
報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】
講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs) についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】
This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

SES100NA

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動 (人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動) は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響 (大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など) は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○	◎	○	○	◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA(国際エネルギー機構) の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動 (人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動) は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響 (大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など) は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA(国際エネルギー機構) の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA

環境とエネルギー

下田　昭郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動 (人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動) は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動を特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響 (大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など) は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。
この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】
人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA(国際エネルギー機構) の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回分の資料を提供します。

【参考書】
特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内容全般の総合的確認（８０％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（２０％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】
環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.
(Learning Objectives)
The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.
(Learning activities outside of classroom)
None.
(Grading Criteria/Policy)
Submission of assignments and attendance in each class.

MAN100NA

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。
＊オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。
＊学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。
＊授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ．Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート提出（配点 90 %）、平常点（配点 10 %）とします。詳細は次の通りです。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
２．言語：日本語
３．字数、フォント、ポイント：400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
４．提出期間：第 14 回授業日の午前 10 時 30 分から翌週水曜日の午前 10 時 30 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
５．提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
６．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（３）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（４）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（５）レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
（６）レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
＜平常点＞
意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1 つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】

This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
Final grading will be decided based on term-end report (100%).

MAN100NA

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力　25%
（H）継続的学習能力　25%
（I）業務遂行能力　25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。
＊オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。
＊学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。
＊授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション

Ｐ．Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート提出（配点 90 ％）、平常点（配点 10 ％）とします。詳細は次の通りです。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
２．言語：日本語
３．字数、フォント、ポイント： 400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
４．提出期間：第 14 回授業日の午前 10 時 30 分から翌週水曜日の午前 10 時 30 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
５．提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
６．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（３）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（４）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（５）レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
（６）レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
＜平常点＞
意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1 つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
Final grading will be decided based on term-end report (100%).

MAN100NA

マーケティング

林　奈生子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
優れた技術や新規のアイディアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイディアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とでも議論が可能になります。
授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】
本授業では次の２つの到達目標を設定します。
１．企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語　②企業活動　③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。２．マーケティングの実践力の習得。そのために、研究課題やケーススタディを実施し、自身の考えを　①まとめる力　②表現する力　③伝える力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、研究課題、ケーススタディ、レポート、事例紹介により進めます。
＊オンライン授業の場合は zoom の URL・ID・パスコード、授業運営などにかかわる情報を学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。
＊学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】にて回答します。
＊授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。
2	マーケティングの歴史	マーケティングの歴史を概観する。あわせて、顧客志向の萌芽を説明する。
3	マーケティングと企業	企業活動におけるマーケティングの重要性を事例から学ぶ。
4	マーケティング・ツール	マーケティングの４Ｐ（製品、価格、流通、販売促進）を学ぶ。
5	研究課題①　新製品・サービスの発案	研究課題の取り組み方、発表について説明する。新製品・サービスのアイディアを出し概略を考える。
6	研究課題②　新製品・サービスのアイディアを深める	前回考えたアイディアを深め、わかりやすい形にする。
7	研究課題③　新製品・サービスの具体化	新製品・サービスのアイディアを具体化する。また、プレゼンテーションの準備を行う。
8	新製品・サービスの発表①	新製品・サービスのプレゼンテーションを行い意見交換をする。
9	新製品・サービスの発表②	引き続き新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。前回と今回の意見交換を参考に改めて自身のアイディアを深める機会とする。
10	マーケティング・ミックスと情報	マーケティング・ツールとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。（プレゼンテーションが終わらない場合は本回にもその場を設けます）
11	市場の細分化	ＳＴＰ（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
12	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。あわせて、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自身の得た情報をマーケティングの観点で考え、分析する努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
石井淳蔵　廣田章光編著『１からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー　ケビン・レーン・ケラー著『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
Ｐ．Ｆ．ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート提出（配点 90 %）、平常点（配点 10 %）とします。詳細は次の通りです。
＜レポート提出＞
１．レポートのテーマ：学習支援システム【課題】に掲示します。
２．言語：日本語
３．字数、フォント、ポイント： 400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
４．提出期間：第 14 回授業日の午前 10 時 30 分から翌週水曜日の午前 10 時 30 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
５．提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて学習支援システムを通して提出
６．留意事項
（１）レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（２）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（３）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（４）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（５）レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。
（６）レポート提出後の誤記などによる修正・訂正の申し出は受け付けません。レポート提出は十分に見直したうえで行ってください。
＜平常点＞
意見発表などを積極的に行った学生に配点します。

【学生の意見等からの気づき】
研究課題において受講生から「価値観が違う人の意見を聞くことで新たなアイディアが生まれた」「1 つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「最初は不安だったが勇気を出して発表していろんな意見を聞けたことがよかった」などの感想が寄せられた。研究課題が受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的に研究課題を授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is an introductory lecture on marketing. Learn the theory of traditional marketing and consider what good design is in marketing through some examples of modern business units. This lecture focuses on understanding marketing concepts and meanings of basic terms, business activities, and information transmitted from companies. This course promotes student learning through lectures, group discussions and presentations, and writing reports.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the basic concepts of marketing.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
Final grading will be decided based on term-end report (100%).

SOC100NA

日本文化論

井波　真弓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では日本の年中行事について学びます。日本には古来から続く通過儀礼が存在します。子供が健やかに成長していくことは子供を育てる人にとって重要です。さらに成人してからは健康で長生きできるように様々な行事が行われます。
一年間を通じて年中行事が行われますが、皆さんの国ではどの行事が一番重要ですか。またそれはなぜですか。行事の意味や歴史を知るとともにそれらの行事が現在まで続いている理由について探りたいと思います。

【到達目標】
日本文化を諸外国の文化と比較することで、双方の文化の違いを明確に認識し、相互理解を容易にすることを目的としています。
また、理解したことを文章で表現できるようにします。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	20%
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】
年中行事や通過儀礼を中心に学習をしますが、日本文化を知ることは日本や日本人について知ることです。また自分の国を客観的に知る手立てとなります。
また、授業では今まで通過儀礼と年中行事にどのようにかかわってきたか自国での体験を交えて、文章にしていきます。
最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習、レポート対する講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容についての説明をします。また、自己紹介を行います。
2	日本の中に見る自国文化	授業の内容についての説明をします。また、自己紹介を行います。世界は交流が盛んになってますます小さくなっています。皆さんは日本の中に自分の国のものや影響されたものを見つけるのではないでしょうか。なぜ、どのようなかたちで受け入れられているか発表しましょう。
3	自国にみる日本文化	自分の国の中ではどんな形で日本文化が存在しましたか。日本にはどんなイメージを持っていたか発表します。
4	通過儀礼　① 誕生からお食い初めまで	子供の誕生にはどのようなお祝いをしますか。どような祈りを込めて皆さんの名前が付けられましたか。
5	通過儀礼　② 初節句、七五三	子供の成長を願う行事ですが、男の子と女の子ではどのように違うのでしょうか。皆さんの国では男女の違いがありますか。
6	通過儀礼　③ 結婚、厄年、長寿の祝い	日本では結婚相手を探すサービスがあります。年齢によって結婚形態も変化しています。どのような結婚が望まれていますか。
7	通過儀礼　④ 葬式	日本の葬式は他国に見られない形で行われます。あまり触れることのない儀式から人間関係や死生観について触れます。
8	年中行事　① 大晦日、正月、鏡開き	年末年始には日本で大移動が行われます。静かな正月から慌ただしい正月への変化について考えます。
9	年中行事　② バレンタインデー ホワイトデー 雛祭り	女の子の健やかな成長を願う雛祭りと西洋の影響を受けたバレンタインデー。女性は変化したのでしょうか。また、なぜホワイトデーが誕生したのでしょうか。
10	年中行事　③ 母の日、父の日 特別な祝日	日本にある祝日と自国の祝日を比較します。また、両親は子供にとってどのような存在でしょうか。
11	年中行事　④ クリスマス	欧米では宗教行事ですが、日本では宗教とは異なる形のクリスマスが行われています。なぜでしょうか。
12	レポートの作成	今まで取り組んだ４～１１までの中から関心のあるテーマを一つ選び自国の文化と比較しながら 2000 字程度のレポートを書きます。途中経過のレポートを提出します。
13	レポートの作成・提出	前回１２回目のレポートを加筆訂正し、レポートを完成させます。
14	レポートについての フィードバック	提出されたレポートのまとめと解説を行います。振り返りシートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の行事や生活を自分の国と比べてよく観察してください。疑問があったらなぜなのかその理由を考えてください。次の回のテーマをあらかじめ調べておいてください。
授業中に予習、復習、課題を指示しますから、次回までに必ず行ってください。
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本の伝統文化　https://japan-trad.net/culture.html
日本の行事・暦　http://koyomigyouji.com/nenchugyouji.htm
年中行事　https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/
日本文化いろは事典　http://iroha-japan.net/

【参考書】
日本文化　https://japanese-culture-info.com/annual-event/

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 30%、課題の提出 30%、最終レポート 40%などで総合的に評価します。
出席は 3 分の２以上必要です。

【学生の意見等からの気づき】
留学生科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等

【その他の重要事項】
在日大使館秘書としての経験を有する教員が、経験を活かし日本文化に関する講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this class, students will learn about Japanese annual events. In Japan, there are rites of passage that have continued since ancient times. It is important for those who raise children to ensure that they grow up healthy. In addition, various events are held to help them live long and healthy lives after they reach adulthood.
Which event is the most important in your country?　And why?
Students learn about the meaning and history of these events, and the reasons for their continuation.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goal of this class is to compare Japanese culture with that of other countries in order to clearly recognize the differences between the two cultures and to facilitate mutual understanding.
Students will also be able to express their understanding in writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on class participation (30%), assignment submission (30%), and final report (40%).
Attendance of at least 2/3 of the class is required.

SOC100NA

日本文化論

井波　真弓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では日本の年中行事について学びます。日本には古来から続く通過儀礼が存在します。子供が健やかに成長していくことは子供を育てる人にとって重要です。さらに成人してからは健康で長生きできるように様々な行事が行われます。
　一年間を通じて年中行事が行われますが、皆さんの国ではどの行事が一番重要ですか。またそれはなぜですか。行事の意味や歴史を知るとともにそれらの行事が現在まで続いている理由について探りたいと思います。

【到達目標】
　日本文化を諸外国の文化と比較することで、双方の文化の違いを明確に認識し、相互理解を容易にすることを目的としています。
　また、理解したことを文章で表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】
　年中行事や通過儀礼を中心に学習をしますが、日本文化を知ることは日本や日本人について知ることです。また自分の国を客観的に知る手立てとなります。
　また、授業では今まで皆さんが通過儀礼と年中行事にどのようにかかわってきたか自国での体験を交えて、文章にしていきます。
　最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習、レポート対する講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容についての説明をします。また、自己紹介を行います。
2	日本の中に見る自国文化	世界は交流が盛んになってますます小さくなっています。皆さんは日本の中に自分の国のものや影響されたものを見つけるのではないでしょうか。なぜ、どのようなかたちで受け入れられているか発表しましょう。
3	自国にみる日本文化	自分の国の中ではどんな形で日本文化が存在しましたか。日本にはどんなイメージを持っていたか発表します。
4	通過儀礼　① 誕生からお食い初めまで	子供の誕生にはどのようなお祝いをしますか。どような祈りを込めて皆さんの名前が付けられましたか。
5	通過儀礼　② 初節句、七五三	子供の成長を願う行事ですが、男の子と女の子ではどのように違うのでしょうか。皆さんの国では男女の違いがありますか。
6	通過儀礼　③ 結婚、厄年、長寿の祝い	日本では結婚相手を探すサービスがあります。年齢によって結婚形態も変化しています。どのような結婚が望まれていますか。
7	通過儀礼　④ 葬式	日本の葬式は他国に見られない形で行われます。あまり触れることのない儀式から人間関係や死生観について触れます。
8	年中行事　① 大晦日、正月、鏡開き	年末年始には日本で大移動が行われます。静かな正月から慌ただしい正月への変化について考えます。
9	年中行事　② バレンタインデー ホワイトデー 雛祭り	女の子の健やかな成長を願う雛祭りと西洋の影響を受けたバレンタインデー。女性は変化したのでしょうか。また、なぜホワイトデーが誕生したのでしょうか。
10	年中行事　③ 母の日、父の日 特別な祝日	日本にある祝日と自国の祝日を比較します。また、両親は子供にとってどのような存在でしょうか。
11	年中行事　④ クリスマス	欧米では宗教行事ですが、日本では宗教とは異なる形のクリスマスが行われています。なぜでしょうか。
12	レポートの作成	今まで取り組んだ４～１１までの中から関心のあるテーマを一つ選び自国の文化と比較しながら 2000 字程度のレポートを書きます。途中経過のレポートを提出します。
13	レポートの作成・提出	前回１２回目のレポートを加筆訂正し、レポートを完成させます。
14	レポートについてのフィードバック	提出されたレポートのまとめと解説を行います。振り返りシートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　日本の行事や生活を自分の国と比べてよく観察してください。疑問があったらなぜなのかその理由を考えてください。次の回のテーマをあらかじめ調べておいてください。
　授業中に予習、復習、課題を指示しますから、次回までに必ず行ってください。
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本の伝統文化　https://japan-trad.net/culture.html
日本の行事・暦　http://koyomigyouji.com/nenchugyouji.htm
年中行事　https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/
日本文化いろは事典　http://iroha-japan.net/

【参考書】
日本文化　https://japanese-culture-info.com/annual-event/

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 30%、課題の提出 30%、最終レポート 40%などで総合的に評価します。
出席は 3 分の２以上必要です。

【学生の意見等からの気づき】
留学生科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等

【その他の重要事項】
在日大使館秘書としての経験を有する教員が、経験を活かし日本文化に関する講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
　In this class, students will learn about Japanese annual events. In Japan, there are rites of passage that have continued since ancient times. It is important for those who raise children to ensure that they grow up healthy. In addition, various events are held to help them live long and healthy lives after they reach adulthood.
　Which event is the most important in your country?　And why? Students learn about the meaning and history of these events, and the reasons for their continuation.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goal of this class is to compare Japanese culture with that of other countries in order to clearly recognize the differences between the two cultures and to facilitate mutual understanding.
　Students will also be able to express their understanding in writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on class participation (30%), assignment submission (30%), and final report (40%).
Attendance of at least 2/3 of the class is required.

SOC100NA

日本文化論

井波　真弓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では日本の年中行事について学びます。日本には古来から続く通過儀礼が存在します。子供が健やかに成長していくことは子供を育てる人にとって重要です。さらに成人してからは健康で長生きできるように様々な行事が行われます。
　一年間を通じて年中行事が行われますが、皆さんの国ではどの行事が一番重要ですか。またそれはなぜですか。行事の意味や歴史を知るとともにそれらの行事が現在まで続いている理由について探りたいと思います。

【到達目標】
　日本文化を諸外国の文化と比較することで、双方の文化の違いを明確に認識し、相互理解を容易にすることを目的としています。
　また、理解したことを文章で表現できるようにします。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎			○	○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】
　年中行事や通過儀礼を中心に学習をしますが、日本文化を知ることは日本や日本人について知ることです。また自分の国を客観的に知る手立てとなります。
　また、授業では今まで皆さんが通過儀礼と年中行事にどのようにかかわってきたか自国での体験を交えて、文章にしていきます。
　最終授業で、それまでの講義内容のまとめや復習、レポート対する講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容についての説明をします。また、自己紹介を行います。
2	日本の中に見る自国文化	世界は交流が盛んになってますます小さくなっています。皆さんは日本の中に自分の国のものや影響されたものを見つけるのではないでしょうか。なぜ、どのようなかたちで受け入れられているか発表しましょう。
3	自国にみる日本文化	自分の国の中ではどんな形で日本文化が存在しましたか。日本にはどんなイメージを持っていたか発表します。
4	通過儀礼　① 誕生からお食い初めまで	子供の誕生にはどのようなお祝いをしますか。どような祈りを込めて皆さんの名前が付けられましたか。
5	通過儀礼　② 初節句、七五三	子供の成長を願う行事ですが、男の子と女の子ではどのように違うのでしょうか。皆さんの国では男女の違いがありますか。
6	通過儀礼　③ 結婚、厄年、長寿の祝い	日本では結婚相手を探すサービスがあります。年齢によって結婚形態も変化しています。どのような結婚が望まれていますか。
7	通過儀礼　④ 葬式	日本の葬式は他国に見られない形で行われます。あまり触れることのない儀式から人間関係や死生観について触れます。
8	年中行事　① 大晦日、正月、鏡開き	年末年始には日本で大移動が行われます。静かな正月から慌ただしい正月への変化について考えます。
9	年中行事　② バレンタインデー ホワイトデー 雛祭り	女の子の健やかな成長を願う雛祭りと西洋の影響を受けたバレンタインデー。女性は変化したのでしょうか。また、なぜホワイトデーが誕生したのでしょうか。
10	年中行事　③ 母の日、父の日 特別な祝日	日本にある祝日と自国の祝日を比較します。また、両親は子供にとってどのような存在でしょうか。
11	年中行事　④ クリスマス	欧米では宗教行事ですが、日本では宗教とは異なる形のクリスマスが行われています。なぜでしょうか。
12	レポートの作成	今まで取り組んだ４～１１までの中から関心のあるテーマを一つ選び自国の文化と比較しながら 2000 字程度のレポートを書きます。途中経過のレポートを提出します。
13	レポートの作成・提出	前回１２回目のレポートを加筆訂正し、レポートを完成させます。
14	レポートについてのフィードバック	提出されたレポートのまとめと解説を行います。振り返りシートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　日本の行事や生活を自分の国と比べてよく観察してください。疑問があったらなぜなのかその理由を考えてください。次の回のテーマをあらかじめ調べておいてください。
　授業中に予習、復習、課題を指示しますから、次回までに必ず行ってください。
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本の伝統文化　https://japan-trad.net/culture.html
日本の行事・暦　http://koyomigyouji.com/nenchugyouji.htm
年中行事　https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/
日本文化いろは事典　http://iroha-japan.net/

【参考書】
日本文化　https://japanese-culture-info.com/annual-event/

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 30%、課題の提出 30%、最終レポート 40%などで総合的に評価します。
出席は 3 分の２以上必要です。

【学生の意見等からの気づき】
　留学生科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等

【その他の重要事項】
在日大使館秘書としての経験を有する教員が、経験を活かし日本文化に関する講義を行います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
　In this class, students will learn about Japanese annual events. In Japan, there are rites of passage that have continued since ancient times. It is important for those who raise children to ensure that they grow up healthy. In addition, various events are held to help them live long and healthy lives after they reach adulthood.
　Which event is the most important in your country?　And why? Students learn about the meaning and history of these events, and the reasons for their continuation.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goal of this class is to compare Japanese culture with that of other countries in order to clearly recognize the differences between the two cultures and to facilitate mutual understanding.
　Students will also be able to express their understanding in writing.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the class will be decided based on class participation (30%), assignment submission (30%), and final report (40%).
Attendance of at least 2/3 of the class is required.

SEE200NB

技術者倫理

山内　裕之

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「技術者」は「科学技術」を用いて社会の発展に貢献してきたが、近年「技術者の倫理観」が原因となる問題が発生し「社会問題化」してきている。技術者の置かれる状況が高度化・複雑化してきた中で、「技術者」が本来の職責を全うするためには「専門的知識」とその「生かし方」を学ぶことが必要である。ある事例を学びながら、その事例が示唆するものを「自ら」考えることにより「倫理的行動」とは何かを考える。

【到達目標】
講義で基本的なことを学ぶとともに、事例を通して「技術者倫理問題」について学び、演習を通して「技術者倫理問題」への対処方法の訓練をすることにより、「技術者倫理問題」に直面したときに決して誤った判断をしないようにするために必要な判断を「自ら」できる素養となる「倫理観」および関連する「知識」を修得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の目標を達成するために、基本的な知識等について学び、実際に発生した「技術者倫理問題」事例について解説する。また演習を通して「技術者倫理問題」を自分のこととして考え、リポートにまとめる（提出）。
課題の提出・ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ等は基本的には授業内にて行う予定です。
（状況に応じて『学習支援ｼｽﾃﾑ』を通じて行う予定です）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	技術者倫理ガイダンス・技術者倫理とは	技術者倫理講座の進め方、注意事項 など 技術者倫理の必要性 コミュニティ、モラル、倫理、規範 法と倫理 倫理的な行動 技術者倫理とは など
第 2 回	技術者と責任	注意・過失・欠陥 責任とは 事故の責任 責任のレベル 技術者の責任を果たす妨げとなるもの 技術者の特別な責任 技術者の資格 倫理綱領についてなど
第 3 回	技術者と組織	組織と技術者 技術者の相反する立場 企業論理と技術者倫理 忠実と不服従 事故や不祥事の発生要因 組織の倫理問題 内部告発と公益通報者制度 など
第 4 回	技術者と社会	社会と企業コミュニティ 組織風土の劣化と組織事故 健全な組織風土の形成と維持 企業の社会的責任 消費者保護の動き など
第 5 回	技術者とリスク	科学技術のリスク 安全とリスクの定義 安全性の向上の考え方 リスクマネジメント 受け入れ可能なリスク リスク評価のギャップとコミュニケーション 安全に対する考え方 など
第 6 回	技術者と環境	環境倫理とは 持続可能な社会 生物多様性 循環型社会 低炭素社会 など
第 7 回	倫理問題への取り組み方	問題解決の流れ 倫理問題解決に必要な能力 倫理的な意思決定を妨げる要因と促進要因 人間尊重の倫理 など
第 8 回	建築と技術者倫理	建築の特殊性 建設業が抱える問題とその対応 建築技術者の役割と倫理 など
第 9 回	建築と知的財産	知的財産権 建設業の知的財産 建築の著作権 建築意匠の模倣 など
第 10 回	建築と環境	建築環境問題と倫理 建築と地球温暖化 建設廃棄物問題 持続可能な建築 など
第 11 回	建築の事故・欠陥	建設業をとりまく現況 建築生産プロセスと参加者 建築の事故・欠陥 建設技術者の倫理 など
第 12 回	建築のライフサイクル	建築の寿命 建築のライフサイクル 建築のライフサイクルコスト 不適切保全による事故 予防保全 耐震改修 など
第 13 回	建築と文化財	文化財保護法と建築物の保存 建築物の保存と都市開発 最近の歴史的建築物保存 など
第 14 回	技術者倫理まとめ	まとめ理解度確認リポート 技術者倫理の実践について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞や雑誌の記事等で技術者倫理に関係しそうな問題を拾い上げ、「自分なら」何ができ、どのように行動するかを考える。また自発的に学生同士でディスカッションを行い倫理問題について考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
必要に応じて、講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（平常点）	28%
各講義時に提出するリポート（まとめ理解度確認リポート含む）	72%

【学生の意見等からの気づき】
学生がわかりやすいように『講義内容』について更なる工夫・改善をする

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、パソコンや情報機器。

【その他の重要事項】
総合建設会社で建築施工管理から本社管理部門までの経験を持つ教員が、複雑な背景を持つ技術者倫理問題について解説する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
There is a problem due to "engineers ethics".
As the situation surrounding engineers becomes more sophisticated and complex,
By learning "expert knowledge" and "how to use it," think about "ethical behavior of engineers."
【Learning Objectives】
Learning "ethics" and "knowledge" as an engineer
【Learning activities outside of classroom】
Consider the ethics of engineers from newspaper and magazine articles.
The standard preparation and review time is two hours each.
【Grading Criteria /Policies】
Engagement in class　28%
Report submitted at each lecture 72%

MAT100NB

数学 1

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学の様々な問題を考える上で登場する微分法および積分法について学び，技術者としてそれらを応用できるだけの教養を身につけることを目的とする。

【到達目標】
初等関数の導関数や不定積分を理解した上で，関数の展開法，微分方程式の意味と解法，2 変数関数についての微分と積分の概念について把握することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では微積分に関する非常に幅広い内容を扱っており，高校数学の微積分の知識は必須である。そのため，まずは高校数学の内容を簡単に復習しながら，次第に大学で扱うより高度な微積分につなげていく。
積み上げ式の授業であり，常に授業内容を復習してもらうため，毎回演習課題が課される。基本的な 1 回の授業は，前回演習課題の解説 → 講義 → 小テスト → 演習課題発表 → 自宅での演習 → 次回授業での演習課題提出という流れである。小テストの解答では，数名をその場で指名し解答を板書してもらう。
授業進度はかなり速いが，予習復習をして，しっかりついてきてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	関数 高校学校の関数の復習	基本的な関数 三角関数、指数関数、対数関数、逆関数
2	微分法 高等学校の微分の復讐	基本的な微分
3	微分法 微分係数と導関数 導関数の性質 関数の導関数	微分係数と導関数、積と商の導関数、 三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の導関数、高次導関数
4	微分法 平均値の定理 微分法の応用	平均値の定理、ロピタルの定理、極大・極小
5	積分法 高校学校の積分の復習	不定積分、不定積分の公式、定積分と不定積分の関係
6	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
7	積分法 いろいろな不定積分積分法の応用	有利関数、無理関数、三角関数の不定積分、面積・体積・曲線の長さ・面積分
8	関数の展開	１次近似式、高次の近似式、テイラー展開、マクローリン展開、テイラーの定理
9	微分方程式-1 階微分方程式	微分方程式と解、変数分離形、同次形、１階線形
10	微分方程式-2 階微分方程式	２階線形、斉次２階線形、非斉次２階線形
11	偏微分	２変数関数と偏導関数、全微分と合成関数の微分、高次導関数
12	偏微分 偏微分の応用	極大・極小、条件付き極値問題
13	重積分	２重積分の定義、２重積分の計算、２重積分と累次積分
14	重積分 ２重積分の応用	極座標と２重積分、積分変数の変換、 ２重積分の広義積分と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業内容に応じて作成された演習問題に解答し提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
理科系の基礎　微分積分（高遠節夫・石村隆一他共著、培風館）

【参考書】
やさしく学べる微分積分（石村園子著、共立出版）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題： 50 %（各 100 点満点）
定期試験： 50 %（試験の際，各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし，定期試験で 85 点以上の者は，演習 30%試験 70%での評価とも比較して，よい方を評価素点とする。
また，連続 3 回欠席，通算で 5 回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
授業内で扱えない定理やその証明等はあとで確認できるように，プリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特に必要としない

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn about differential and integral calculus, which appear in the consideration of various engineering problems, and acquire the education necessary to apply them as engineers.
Learning Objectives:
The goal of this course is to grasp the derivatives and indefinite integrals of elementary functions, the expansion method of functions, the meaning and solution method of differential equations, and the concepts of differentiation and integration for two-variable functions.
Learning activities outside of classroom:
Students will answer and submit the exercises prepared for each class content.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

CST100NC

工業力学及演習 X

山本　佳士

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面 2 次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

【到達目標】
力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	50%
（D）専門基礎学力	30%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では 2 年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習する．第 1 回～第 5 回の授業は構造模型の製作と載荷試験の実施を通じて力学的センスを身に付ける．第 6 回以降の授業は教科書、配布資料、PPT を用い、講義の前半にその回の授業内容を説明する。後半には、授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じて各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
3	模型の製作（1）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
4	模型の製作（2）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
5	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
6	断面諸量（1） 断面 1 次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2 次元物体の重心、断面と線分の図心、断面 1 次モーメント、合成断面や不等式で表される領域の図心についての講義と演習
7	断面諸量（2） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量（3） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	平行軸の定理を用いた合成断面の断面 2 次モーメントの求め方の講義と演習
9	弾性体の変形（1） 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
10	弾性体の変形（2） 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習
11	弾性体の変形（3） 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
12	弾性体の変形（4） 材料力学の基礎	はりに生じる曲げ応力とたわみについての講義と演習
13	弾性体の変形（5） 材料力学の基礎	せん断応力，ねじり，継手についての講義と演習
14	弾性体の変形（6） 材料力学の基礎	2 次元物体の変形と応力ひずみ、傾いた面に作用する応力についての講義と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～5 回：設計製作についての予習とその復習
6～14 回：教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

【参考書】
プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】
模型製作（20 %）、毎回の演習問題（10 %）、期末試験（70 %）による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特にない

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を持参すること．
レポート作成時には貸与 PC を使用してもよい．

【その他の重要事項】
橋梁メーカーに勤務した経験を有する教員が，力学の基礎を講義する．

【Outline (in English)】
This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation are presented. Students can learn basic idea of structure design through making bridge model and testing its load carrying capacity.
· Learning Objectives
To be able to solve and explain basic problems related to members that receive external force.
· Learning activities outside of classroom
1st to 5th classes ： Preparation and review of model design and production
6th to 14th classes ： Prepare with a textbook and review lessons.
Standard study time is two hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Model making practice ： 20%, Each class exercises :10%

CST100NC

工業力学及演習 Y

内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面 2 次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

【到達目標】
力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	50%
（D）専門基礎学力	30%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では 2 年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習する．第 1 回～第 5 回の授業は構造模型の製作と載荷試験の実施を通じて力学的センスを身に付ける．第 6 回以降の授業は教科書、配布資料、PPT を用い、講義の前半にその回の授業内容を説明する。後半には、授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じて各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
3	模型の製作（1）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
4	模型の製作（2）	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
5	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
6	断面諸量（1） 断面 1 次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2 次元物体の重心、断面と線分の図心、断面 1 次モーメント、合成断面や不等式で表される領域の図心についての講義と演習
7	断面諸量（2） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量（3） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	平行軸の定理を用いた合成断面の断面 2 次モーメントの求め方の講義と演習
9	弾性体の変形（1） 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
10	弾性体の変形（2） 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習
11	弾性体の変形（3） 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
12	弾性体の変形（4） 材料力学の基礎	はりに生じる曲げ応力とたわみについての講義と演習
13	弾性体の変形（5） 材料力学の基礎	せん断応力，ねじり，継手についての講義と演習
14	弾性体の変形（6） 材料力学の基礎	2 次元物体の変形と応力ひずみ、傾いた面に作用する応力についての講義と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1～5 回：設計製作についての予習とその復習
6～14 回：教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

【参考書】
プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】
模型製作（20 %）、毎回の演習問題（10 %）、期末試験（70 %）による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特にない

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を持参すること．
レポート作成時には貸与 PC を使用してもよい．

【その他の重要事項】
橋梁メーカーに勤務した経験を有する教員が，力学の基礎を講義する．

【Outline (in English)】
This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation are presented. Students can learn basic idea of structure design through making bridge model and testing its load carrying capacity.
· Learning Objectives
To be able to solve and explain basic problems related to members that receive external force.
· Learning activities outside of classroom
1st to 5th classes ： Preparation and review of model design and production
6th to 14th classes ： Prepare with a textbook and review lessons.
Standard study time is two hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, Model making practice ： 20%, Each class exercises :10%

CST100NC

図学及演習

山田　裕貴、髙栁　誠也、金城　正紀、今井　裕久

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半は、物体や空間を表現する手段としての図学の基礎的知識を都市環境デザインにおける具体的な活用法を踏まえて学習する。また、図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。後半は、コンピュータを用いたＣＡＤやドローイングソフトによるさまざまな図面の作成について学ぶ。

【到達目標】
[前半] 図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。
[後半]CAD ソフトの習得。ドローイングソフトの習得。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　60%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は手書きによる作図を基本として、図法の説明とその作図課題により授業を進める。後半は、パソコンを活用した作図システムについて操作の基本を習得するとともに、情報の共有化、送受信など、電子化された図面の新たな機能・効果についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	技術者の言語としての図面 都市環境デザイン分野の図面 作図用具とその使用法
2	作図法の基礎 正投影法	図面表現の基本 平面図・立面図の表現と作図
3	読図の基礎 透視図法 (1)	図面情報の読み取り 投影図・透視図の体系
4	透視図法 (2)	透視図作図の原理 1 点透視図の表現と作図
5	透視図法 (3)	2 点透視図の表現と作図 点景の表現
6	前半まとめ (1)	1 点透視図による空間イメージの表現
7	前半まとめ (2)	1 点透視図作品の相互講評と評価
8	描画ソフト利用ガイダンス	システムの起動・操作・入力・出力・データ保管・終了
9	CAD ソフト (1)	基本機能/支援機能の活用
10	CAD ソフト（2）	作図/出力の基礎
11	CAD ソフト（3）	作図/出力の習得
12	ドローイングソフト (1)	基本機能/支援機能の活用 土地利用現況図のトレース
13	ドローイングソフト (2)	地区開発イメージ図の制作
14	ドローイングソフト (3)	地域の略図の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示する
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】
各回の作図課題により評価する（100 %）。なお、4 回以上の欠席または演習課題未提出者は単位取得を認めない (D 判定)。

【学生の意見等からの気づき】
指示事項を一度で理解しにくい学生のために，動画による説明を作成し，必要に応じて複数回視聴できるようにした.

【学生が準備すべき機器他】
［前半］作図のための製図用具が必要となる。最小限必要な用具セットは年度始めに案内する。
［後半］ドローイングソフトの演習には貸与パソコンを使用する。CAD ソフトの演習には情報教室を使用する。

【その他の重要事項】
都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして、設計における作図技術につながる内容を指導する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to learn the fundamental knowledge and skills of drawing for expressing objects and spaces in the field of civil and environmental engineering design. Students will learn basic methods of graphical representation and plotting skills through several exercises in handwriting and CAD.
【Learning Objectives】
[First half] Learn the basic techniques of graphic expression. Learn drawing techniques with drawing challenges.
[Second half] Learn how to use CAD software and drafting software.
【Learning activities outside the classroom】
Instruct if necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be each submission and task as grade (100%). If you are absent 4 or more times or do not submit your assignments, you will not be granted credit (D grade).

CST100NC

ジオロジカルエンジニアリング

中谷　匡志

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】
1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　60%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
地質情報概論（0.5 回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。
地質の基礎知識（1.5 回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。
特別講義（2 回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。
地質調査・試験（1 回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1 回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。
ダムと地質情報（2 回）、トンネルと地質情報（2 回）、構造物基礎と地質情報（1 回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をＤＶＤなどで紹介し、理解を深める。
のり面と地質情報（2 回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
地すべりと地質情報（1 回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。
最終の講義では、上記 14 回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。
授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識 (1) 社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関わりの理解と地質の基礎知識を習得する。	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識 (2) 地質の基礎知識を習得する。	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	特別講義 (1) 「地球の動き／地震」の解釈の歴史的変遷、現状を理解する。	地震・活断層、津波、プレートテクニクス、地震予知。
4	地質調査・試験 代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
5	地盤の分類（岩盤分類） 岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
6	ダムと地質情報 (1) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
7	ダムと地質情報 (2) ダムの設計と施工方法を理解する。	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
8	特別講義 (2) 「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	原子力発電所の地震対策、津波対策、再稼働方法。
9	トンネルと地質情報 (1) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、切羽前方探査。
10	トンネルと地質情報 (2) トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
11	構造物基礎と地質情報 橋梁の歴史的変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
12	のり面と地質情報 (1) 掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
13	のり面と地質情報 (2) のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	掘削のり面の安定対策、直線すべりの安定計算。
14	地すべりと地質情報 地すべり地形の見方と安定計算方法を習得する。講義全般をまとめる。	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 教科書全体の通読、教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
2. 教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
4. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
5. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
6. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
7. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
9. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
10. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
11. 教科書 6 章基礎と地盤地質の予習・復習
12. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
13. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
14. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤　光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義で実施する演習問題 (記述・作図・計算など) の提出により習得度を評価し、その合計から評価点 (100 点満点) を算出する。
合否の基準は、100-90 点を S、89-87 点を A+、86-83 点を A、82-80 点を A-、79-77 点を B+、76-73 点を B、72-70 点を B-、69-67 点を C+、66-63 点を C、62-60 点を C-とし合格とする。59-0 点または欠席 4 回以上を D、未受講、採点不能を E とし不合格とする。
期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】
三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】
現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。

【Outline (in English)】
Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the fundamentals of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.
At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

SEE100ND

技術者倫理

北原　義典

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザイン工学技術者は、個人としての倫理こそ身につけているはずであるが、専門家としての倫理も身につけることが求められる。本講義は、科学技術に関わる倫理問題にはどんなものがあるか、また、技術者がもつべき倫理についてケーススタディを交えながら体系的に学ぶことを目的とする。特に、自分のデザインや技術が将来、社会や環境に及ぼす影響を推察することの重要性を認識する。

【到達目標】
（1）デザイン工学の技術者がもつべき倫理の概念と重要事項を体系的に理解する
（2）過去に起こった実事例から、内在する倫理問題を摘出する能力を身につける
（3）技術者倫理に基づき情報デザイン、システムデザイン、環境デザイン、安全建築設計等各分野の研究開発を推進できる技術を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
デザイン工学系技術者がもつべき倫理事項を、文化や歴史、政治や経済、科学技術、自然環境など多角的な観点から、様々なケーススタディを織り込みながら、学習していく。倫理に関する意識づけのみならず、安全に関する具体的なスキルも併せて習得する。教科書を軸に、質問を投げかけながら答えてもらう問答法的なアプローチで講義を進める。また、各回事前課題を課し、授業の初めに、課題に対する解答例を示しフィードバックを行う。また、良い回答やコメントは授業内で紹介する。本年度については、対面講義を基本とするが、大学の通達に従う。対面講義の場合は感染防止対策を施した教室で、オンライン講義の場合は Zoom により行う。詳細は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究者・技術者の社会的責任と倫理	研究者・技術者にとっての倫理とは何かについて、どういう歴史的経緯があるのか、技術者の行動規範などについて学ぶ。さらに、倫理と法の関係についても考える。
2	リスクマネジメント	リスクとは何か、その大きさはどうやって測るのか、スクマネジメントはどう進めたらいいのかなどについて学ぶ。
3	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーを知覚、認知、社会行動等、ユーザ側要因の観点から学び、精神論ではなく、工学的・科学的観点に基づくヒューマンエラーの予防的・対処的対策について考える。
4	説明責任・製造物責任	社会に対して技術者の果たすべき説明責任について考える。また、製品を開発する側に生じる製造物責任の特徴や使う側との関係などについて考える。
5	技術情報と知的財産の保護	まず、技術情報とは何かを知る。創出したアイデアや技術、デザインを守る知財権保護制度について学ぶ。さらに、特許の対象についても学習する。
6	化学倫理	化学物質、化学技術、ナノテクノロジーへの期待とリスク、およびその倫理について考える。さらに、放射性物質のリスクと取り扱いについても学ぶ。
7	生命倫理	ゲノム解析・遺伝子操作、クローン技術等における倫理を通し、生命や生死に対しどう関わるべきかについて考える。
8	ユニバーサルデザイン	バリアフリーからユニバーサルデザインへの流れについて知る。さらに、ユーザエクスペリエンス設計について学ぶ。
9	情報ネットワーク社会と倫理	個人情報漏えい、ネットワーク犯罪、ソーシャルメディアでのトラブル等、情報化社会における様々な倫理問題について学ぶ。
10	ロボット・人工知能等新技術と倫理	ロボット、人工知能、ビッグデータ、個人認証、AR 等、情報新技術に関わる倫理について考える。
11	環境保全と倫理	環境・資源問題、エネルギー問題、さらに、環境保全に対する技術者取り組みについて考える。
12	デザイン工学における倫理	デザイン工学専攻学生が就き得る職業とその倫理について考える。
13	多様性社会と技術者倫理	科学技術の進展によりクローズアップされてきた人権問題、社会のグローバル化、科学的と見せかけて実は科学論理的根拠がないいわゆる疑似科学等について、倫理の側面から考える。
14	技術者倫理の諸課題	ユニバーサルデザインにおいて生じるコンフリクトなど倫理に関して残されている諸課題について考える。また、各人の理解度測定も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容を事前に確認し、教科者掲載ケーススタディを読んでおくこと。毎回の講義についての予習・復習時間は 4 時間ずつを標準とする。

【テキスト（教科書）】
北原義典「はじめての技術者倫理」講談社　を使用。その章立てにしたがって進めるので、毎回持参のこと。その他、講義支援システムにアップされた資料を書き込み用に持参してもらう場合もある。

【参考書】
中村昌允「技術者倫理とリスクマネジメント」　オーム社
林真理、宮澤健二、小野幸子「技術者の倫理」　コロナ社　　など

【成績評価の方法と基準】
技術者倫理の習得度に関する期末試験点数（80 点）と平常の講義取り組み姿勢（20 点）の合計をもって評価点とする。評価点 60 点以上を合格とする。ただし、出席率が 70 %以上であることを評価前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
ケーススタディについては、「具体的な事例を知ることができてよい」「非常に考えさせられる」など好評であり、今後も、引き続き、各回ケーススタディを採り上げつつ講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】
本年度、基本は対面授業ですが、全学的にオンライン講義実施との通達があった場合には、Zoom を利用するため、PC もしくはスマートフォンを準備し、開講日時にアクセス、入室してください。また、連絡事項や資料は学習支援システムにアクセスし確認のこと。

【その他の重要事項】
討論を重視するため、必ず出席し、積極的発言をすることが大切。なお、本講義の担当教員は、33 年にわたる企業での実務経験をもち、その経験からの倫理問題も紹介する。

【Outline (in English)】
Every design engineer must acquire ethics that reflects not only their position as an individual but also as an expert in the field. In this course, we study ethical issues concerning technology with case studies, understanding ethical attitudes that engineers should come to systematically incorporate in their workflow.

DES100ND

色彩論

大高　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が受け取る情報の８割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が１日に触れる色の数は１０００万色とも言われる。
光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色がもたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】
講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。
講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。
・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。
・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。
・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。
・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。
・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。
・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回析などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論したゲーテの色彩論
3	色の成り立ちと HVC 表現	光と色の三原色 色の三属性 HVC（色相・明度・彩度） 色相環
4	色彩の尺度	様々なカラーオーダーシステムと様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比
6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコニュニケーションの歴史
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンポジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンポジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の周りの色彩観察
・各回ごとの授業の復習
・手作業による課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】
特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40 %）、および各課題の完成度（60 %）を考慮し総合的に評価する。
※未提出物がある学生、4 回以上欠席した学生は評価の対象としない（D 評価）。遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】
講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。
課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

【学生が準備すべき機器他】
・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。
・提出物は学習支援システムを利用する。
・提出物の内容によりスキャンすることがある。

【その他の重要事項】
・初回ガイダンスで発想練習、アンケートを実施する。
・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。
・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.
From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensible for describing the implications, effect, information and design of color.

PHL100NC

哲学（２０１９年度以降入学生）

大西　悟、横山　奈那

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学を学ぶ上で，環境をどのようにとらえ，どのように向き合うかを哲学的に思索することは，とても重要である．本授業では，そのための素養を習得することを目指す．また，後半７回では，デザイン，環境，戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として，1960 年代以降の「環境芸術」を取りあげる．

【到達目標】
1) 人間と環境の関係および工学の影響について，自分の言葉で思索し，言語化できること．
2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること．
3) 環境芸術と呼ばれる作品群について，自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと．
4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること．

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半７回は，授業時間（100 分）を 2,3 のテーマに分けて，講義し，それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう．加えて，最後に，レポートを課す．後半７回は，講義形式ではあるが，毎回小課題を通じて，質問や意見を募る．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして，パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら，環境を哲学する意義を問いかける。
第 02 回	工学と環境	工学は，環境から便宜を得るための学問である。人間は，工学を活用することで豊かさを享受できるが，同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動，生物多様性の喪失などの事例から，工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第 03 回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し，先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し，環境について自身の立ち位置を問いかける。
第 04 回	循環と共生という戦略 (1)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第 05 回	循環と共生という戦略 (2)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第 06 回	地域が主体	気候変動，生物多様性喪失などグローバルな課題に対して，地域が主体となり，環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第 07 回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ，生活者の視点で暮らしから見直すことから，より複層的なものの見方を学習する。そのうえで，最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第 08 回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが，果たしてそうなのかを，自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで，考察する．
第 09 回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか．具体例に即しながら，その射程を学ぶ．
第 10 回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ，重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える．
第 11 回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ，芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える．
第 12 回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが，それらを踏まえたうえで，日本における環境と芸術の関連について，具体例を参照しつつ考える．
第 13 回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている．そこで，大阪万博を取り上げ，「技術」，「開発」，「環境」，「芸術」のかかわりについて考える．
第 14 回	現在の環境芸術	現在，日本や欧米で活躍するアーティストの作品を紹介し，現代の環境問題をアーティストがどのように芸術に反映しているのかを考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う．復習として毎回の授業を見直し，参考文献を読むこと．レポートを課すことがある．
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50 %）と毎回の小課題と最終課題レポート（50 %）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し，より言語化しやすくするように工夫しようと思います．
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ，論理的に思考する方法を提示していきます．

【その他の重要事項】
NPO，国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし，多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます．

【Outline (in English)】
[Course outline]
Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.
The latter seven lectures (No.8～14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policies]
(No.1～7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)

(No.8～14) Final grade will be calculated according to following process
Reaction paper 20 %, Term-end report 30 %, and in-class contribution.

PHL100NC

哲学（２０１９年度以降入学生）

大西　悟、横山　奈那

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学を学ぶ上で，環境をどのようにとらえ，どのように向き合うかを哲学的に思索することは，とても重要である．本授業では，そのための素養を習得することを目指す．また，後半７回では，デザイン，環境，戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として，主に 1960 年代以降の「環境芸術」を取りあげる．

【到達目標】
1) 人間と環境の関係および工学の影響について，自分の言葉で思索し，言語化できること．
2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること．
3) 環境芸術と呼ばれる作品群について，自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと．
4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半７回は，授業時間（100 分）を 2,3 のテーマに分けて，講義し，それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう．加えて，最後に，レポートを課す．後半７回は，講義形式ではあるが，毎回小課題を通じて，質問や意見を募る．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして，パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら，環境を哲学する意義を問いかける。
第 02 回	工学と環境	工学は，環境から便宜を得るための学問である。人間は，工学を活用することで豊かさを享受できるが，同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動，生物多様性の喪失などの事例から，工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第 03 回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し，先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し，環境について自身の立ち位置を問いかける。
第 04 回	循環と共生という戦略 (1)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第 05 回	循環と共生という戦略 (2)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第 06 回	地域が主体	気候変動，生物多様性喪失などグローバルな課題に対して，地域が主体となり，環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第 07 回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ，生活者の視点で暮らしから見直すことから，より複層的なものの見方を学習する。そのうえで，最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第 08 回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが，果たしてそうなのかを，自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで，考察する．
第 09 回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか．具体例に即しながら，その射程を学ぶ．
第 10 回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ，重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える．
第 11 回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ，芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える．
第 12 回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが，それらを踏まえたうえで，日本における環境と芸術の関連について，具体例を参照しつつ考える．
第 13 回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている．そこで，大阪万博を取り上げ，「技術」,「開発」,「環境」,「芸術」のかかわりについて考える．
第 14 回	現在の環境芸術	現在，日本や欧米で活躍するアーティストの作品を紹介し，現代の環境問題をアーティストがどのように芸術に反映しているのかを考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う．復習として毎回の授業を見直し，参考文献を読むこと．レポートを課すことがある．
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50 %）と毎回の小課題と最終課題レポート（50 %）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し，より言語化しやすくするように工夫しようと思います．
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ，論理的に思考する方法を提示していきます．

【その他の重要事項】
NPO，国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし，多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます．

【Outline (in English)】
[Course outline]
Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.
The latter seven lectures (No.8～14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.
[Learning activities outside of classroom]
Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policies]
(No.1～7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)
(No.8～14) Final grade will be calculated according to following process Reaction paper 20 %, Term-end report 30 %, and in-class contribution.

PHL100NC

哲学（２０１９年度以降入学生）

大西　悟、横山　奈那

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工学を学ぶ上で，環境をどのようにとらえ，どのように向き合うかを哲学的に思索することは，とても重要である．本授業では，そのための素養を習得することを目指す．また，後半７回では，デザイン，環境，戦後社会のかかわりを考えるための具体的事例として，1960 年代以降の「環境芸術」を取りあげる．

【到達目標】
1) 人間と環境の関係および工学の影響について，自分の言葉で思索し，言語化できること．
2) 環境哲学に関する用語を正しく理解できること．
3) 環境芸術と呼ばれる作品群について，自ら考えることで論理的に思考する力を養うこと．
4) 環境芸術に関する基礎知識を習得すること．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重　45%
（B）技術者倫理　30%
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力
（F）総合デザイン能力　25%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半７回は，授業時間（100 分）を 2,3 のテーマに分けて，講義し，それを受けて授業中に小レポートを作成してもらう．加えて，最後に，レポートを課す．後半７回は，講義形式ではあるが，毎回小課題を通じて，質問や意見を募る．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	環境を哲学する意義	ガイダンスとして，パリ協定やサステイナビリティなどの環境に関する時流の解説を行いながら，環境を哲学する意義を問いかける。
第 02 回	工学と環境	工学は，環境から便宜を得るための学問である。人間は，工学を活用することで豊かさを享受できるが，同時に負の影響ももたらす。公害から気候変動，生物多様性の喪失などの事例から，工学が環境に及ぼす影響を問いかける。
第 03 回	西洋の倫理と東洋の知恵	人間がもたらす環境への負の影響に対し，先人たちがどのように対峙したのかを講義する。西洋（特に北米）で発展した環境倫理と足るを知るやもったいないといった東洋の知恵を対比的に提示し，環境について自身の立ち位置を問いかける。
第 04 回	循環と共生という戦略 (1)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第 05 回	循環と共生という戦略 (2)	工学を基盤とした都市と産業は，環境への悪影響を最小限にしながら，人間の豊かさを確保していく必要がある。そのための戦略として循環と共生を基盤とした考え方，取り組みを解説し，自身が大学生活で身に着けておきたいスキルを問いかける。
第 06 回	地域が主体	気候変動，生物多様性喪失などグローバルな課題に対して，地域が主体となり，環境との関係性を再構築しようとする取り組みを解説する。自身が地域の環境を改善するために何ができるかを問いかける。
第 07 回	実践知としての環境哲学	工学的な視点から離れ，生活者の視点で暮らしから見直すことから，より複層的なものの見方を学習する。そのうえで，最終的な問い（レポート）を課題として提示する。
第 08 回	哲学から環境芸術へ	環境芸術は「自然」と関連する「芸術」のように思われるが，果たしてそうなのかを，自然や芸術という概念を哲学的に概観したうえで，考察する．
第 09 回	環境芸術の動向とその射程	「環境芸術」と呼ばれる芸術にはどのようなものがあるのか．具体例に即しながら，その射程を学ぶ．
第 10 回	アメリカの環境芸術	アメリカで展開された初期の環境芸術を取り上げ，重機を使用した大掛かりな作品が果たしてエコなのかを考える．
第 11 回	ヨーロッパの環境芸術	ヨーロッパの環境芸術を取り上げ，芸術の創作活動と自然環境を保つことが共存可能かを考える．
第 12 回	日本の美意識と環境芸術	日本には多様な美意識があるが，それらを踏まえたうえで，日本における環境と芸術の関連について，具体例を参照しつつ考える．
第 13 回	大阪万博から考える環境と芸術	大阪万博では当時の最先端のテクノロジーを取り入れた芸術が紹介されている．そこで，大阪万博を取り上げ，「技術」,「開発」,「環境」,「芸術」のかかわりについて考える．
第 14 回	現在の環境芸術	現在，日本や欧米で活躍するアーティストの作品を紹介し，現代の環境問題をアーティストがどのように芸術に反映しているのかを考える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に紹介した参考図書等を通じて復習を行う．復習として毎回の授業を見直し，参考文献を読むこと。レポートを課すことがある．
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
なし．

【参考書】
適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
授業中の小レポートと随時出される授業時間外のレポート（50 %）と毎回の小課題と最終課題レポート（50 %）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
（環境哲学）小レポートの出し方を工夫し，より言語化しやすくするように工夫しようと思います．
（環境芸術）伝統的な哲学の概念などをより詳しく紹介しつつ，論理的に思考する方法を提示していきます．

【その他の重要事項】
NPO，国立研究所で環境・サステイナビリティ教育に従事した経験を活かし，多文化的な視点で環境哲学をともに考えていきます．

【Outline (in English)】
[Course outline]
Philosophical thinking can be particularly significant for engineers when grasping and facing various “environments”. This lecture provides participants with knowledge and opportunities to consider “environments” deeply. Topics include: 1) Meaning of environmental philosophy, 2) Engineering and environment, 3) Western ethics and Oriental wisdom, 4) Power of locality, 5) Circulation and symbiosis part 1, 6) Circulation and symbiosis part 2, 7) Practical application of environmental philosophy.
The latter seven lectures (No.8～14) will focus on "environmental art" since the 1960s to consider the relationship between design, environment, and postwar society.
[Learning Objectives]
The goals of this course are to develop philosophical thinking skills, and to learn fundamentals of environmental philosophy and environmental art.
[Learning activities outside of classroom]

Before/after each Class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policies]
(No.1～7) Two or three small reports during each lecture and a final report will be submitted. (50 %)
(No.8～14) Final grade will be calculated according to following process Reaction paper 20 %, Term-end report 30 %, and in-class contribution.

ADE200NA

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1〜4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第 7 回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1〜4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第 7 回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1〜4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第 7 回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

CST200NA

都市・地域政策

土屋　愛自

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】
政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎	○	○	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な３つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各３回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（１）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（１）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（２）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（３）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（２）	演習（１）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（２）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ﾆｭｰﾖｰｸ､ﾎﾞｽﾄﾝ）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（３）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能の都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成２６年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A(ぎょうせい) 都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法については、下記のとおりとする。
①課題レポート（１）：調査地区の設定と現状分析：３０％
②課題レポート（２）：調査地区の定量評価：　３０％
③課題レポート（３）：調査地区での政策提案：　４０％

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】
成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is not only knowledge acquisition,
but also cultivating policy issues and feeding logical thinking
and planning ability for policy judgment.
【Learning activities outside of classroom】
Confirm a syllabus before an entry of this class.
Presentation of the result of exercises need in this class.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA

都市・地域政策

土屋　愛自

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】
政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　40%
（D）専門基礎学力　40%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な３つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各３回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（１）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（１）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（２）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（３）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（２）	演習（１）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（２）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ﾆｭｰﾖｰｸ､ﾎﾞｽﾄﾝ）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（３）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能の都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成２６年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A(ぎょうせい) 都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】
成績評価方法は、下記のとおりとする。
①課題レポート（１）：調査地区の設定と現状分析：３０％
②課題レポート（２）：調査地区の定量評価：　３０％
③課題レポート（３）：調査地区での政策提案：　４０％

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】
成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is not only knowledge acquisition,
but also cultivating policy issues and feeding logical thinking
and planning ability for policy judgment.
【Learning activities outside of classroom】
Confirm a syllabus before an entry of this class.
Presentation of the result of exercises need in this class.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA

都市・地域政策

土屋　愛自

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】
政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な３つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各３回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（１）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（１）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（２）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（３）	エリアマネジメントの必要性と先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性と具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（２）	演習（１）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ﾆｭｰﾖｰｸ､ﾎﾞｽﾄﾝ）、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴
14	演習課題（３）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能の都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成２６年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A(ぎょうせい) 都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法は以下の通り
①課題レポート（１）：調査地区の設定と現状分析：３０％
②課題レポート（２）：調査地区の定量評価：　３０％
③課題レポート（３）：調査地区での政策提案：　４０％

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】
成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義をする。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is not only knowledge acquisition,
but also cultivating policy issues and feeding logical thinking
and planning ability for policy judgment.
【Learning activities outside of classroom】
Confirm a syllabus before an entry of this class.
Presentation of the result of exercises need in this class.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST300NA

公共空間デザイン及演習

竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

DES300NA

公共空間デザイン及演習

竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

DES300NA

公共空間デザイン及演習

竹内　豪、下吹越　武人、高見　公雄、杉浦　榮、伊藤　登

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３学科共通の学部科目であり、３学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.
Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

ADE100NB

デザインスタジオ２（建築）W

小堀　哲夫

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。
[建築研究] 自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）
[ウォッチャー] 普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱] 建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺 5m 立方の空間の設計] 一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m 立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m 立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m 立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m 立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m 立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m 立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．
コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．
コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015.

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．
コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科課程を円滑に開始できるように，基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする．具体的には，学科課程の学修から資格取得，さらにキャリアアップへ向かうために，都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション，コンピュータリテラシー，図書館利用ガイダンス，技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより，専門課程への効果的な導入を図る．

【到達目標】
在学期間の受講計画を策定し，自らの技術者としてのキャリアパスを設計する．授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ，都市環境デザイン工学への理解を深める．自らが課題を設定し，かつ解決する能力を開発する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業で目指す目標に到達するために，座学，討議，現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する．大学での学習生活が円滑に開始し，キャリア形成への第 1 歩を順調に踏み出すためにも，授業への出席は不可欠である．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンピュータリテラシー～学内システム等～	インターネット・メール使用上の注意，エチュードの適正な使用方法
2	教員紹介＋系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容，研究室で進める活動，就職等を紹介する
3	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
4	見学会（3～4 時限連続）	防災センター，隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学
5	学科説明，大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容
6	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解
7	コンピュータリテラシー～ソフトウェア～	授業で使用する基本アプリケーションの理解
8	コンピュータリテラシー～ソフトウェア演習～	基本アプリケーションを使用した課題作成と演習
9	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
10	講演内容の発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
11	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
12	講演内容の討議・発表	講演について，グループでディスカッションを行い，その内容を発表する
13	ディベート大会第 1 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする
14	ディベート大会第 2 回	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ，ディベートする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスの事前確認と学習準備，配布教材の講読・理解．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ようこそドボク学科へ，佐々木葉編，学芸出版社，2015．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
時間割上は，3 時限と 4 時限であるが，見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため，該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと．
コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，製作現場に勤務した経験を有する教員が，学科の基礎について解説する．
コロナ禍等の状況によってはオンラインで開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.
Grading will be decided based on reports.

CST100NC

国土・地域概論

堀川　洋子、高見　公雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学科の学生が学ぶべき国土・地域・都市に係わる事項は多い。当科目は 1 年生の必修科目として、国土から都市に係わる基本的な事柄、技術の入口を学ぶ。

【到達目標】
わが国の国土が形成されてきた経緯とその概要を理解する。
国土・地域・都市に係わる常識、並びに関連する基礎知識を習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力　50%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国土・地域・都市に係わる基礎を学ぶ前半部 (1〜7 回) と、国土形成の歴史を学ぶ後半部 (8〜14 回) から構成される。
新型感染症の状況を踏まえつつ対面方式を基本に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、国土と都市・地域の概々論	国土・地域・都市にまつわる多様な視点と話題の提示。ディスカッション。
2	国土計画・地域計画総論	わが国の現行の国土計画から都市計画、身近な環境づくりに関わる諸制度のアウトライン。
3	計画立案のための統計情報と演習	様々な計画作業の基本となる指定統計を中心とした統計データの所在、背景と、代表的指標を使った演習。
4	現下の課題	震災復興など現在問題となっている国土形成、都市整備に関わる諸課題整理とこれに対する所見。
5	道路構造基準と演習	市街地の根幹をなす都市施設である道路の構造基準解説と構造基準に準拠した道路の設計演習 。
6	地域計画の視点、地域資源	国土から地域レベルの計画を行う上で知っておくべき関連する基礎知識の学習。
7	国土・地域概論の確認	前半に学んだことの確認。
8	ガイダンス	社会的共有財（公共性）としての社会基盤工学と開発・整備の意義。国土整備・都市建設の特徴。国土・地域・都市の地理・気候・風土的特性に対する理解。
9	古代〜中世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて古代〜中世〜戦国時代までの国土整備の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
10	近世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて近世の国土、藩領と城下町の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
11	近代西欧の社会基盤	明治期の社会基盤工学
12	大正・昭和期〜第二次世界大戦後の社会基盤形成と国土形成	日本の近代化の中で自立する社会基盤の構築技術と国土整備事業を学ぶ。戦後復興期の国土整備事業、エネルギーと水資源の確保。
13	高度経済成長期の国土開発から持続可能な発展／開発と保全の並立	高度経済成長期以降の全国総合開発計画と交通網・都市基盤の整備を学ぶ。リオの環境宣言（1992）〜京都議定書（1997）〜IPCC（2007 気候変動に関する政府間パネル）に至る経緯と持続的な発展。
14	まとめ	リポートの提出、発表と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認
配布資料の復習
レポートの作成
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布する。

【参考書】
共著、「都市および地方計画」、海山堂、高橋裕著、「現代日本土木史」、彰国社、松浦茂樹、「明治の国土開発史」、鹿島出版会ほか多数

【成績評価の方法と基準】
1〜7 回は演習課題 (10 %)、期末試験または期末レポート (40 %) で評価。8〜14 回は各回のレポート課題で評価 (50 %) また 4 回以上の欠席、演習課題の未提出者は D 判定とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
統計の演習時にはノートパソコンが必須となる。道路構造令の演習では製図器具が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、国土・地域に関する実務の現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of three sections. The first includes lectures about engineering practices in Japan's modern history . The second is an introduction of land planning policy. The last includes lectures about fundamental issues which are essential for students of the Department of Civil and Environmental Engineering.
Term end examination : 50 %, Short reports : 50%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC

都市計画法と政策

土橋　悟

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市のありようや都市計画・設計の系譜を踏まえ、都市の諸課題とその要因を理解し、対処の考え方や手段としての都市計画政策について学習する。

【到達目標】
都市計画における主要課題とその構造について理解する。都市計画制度の系譜や考え方、具体的な手法について理解する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	60%
（E）専門知識の活用・応用能力	20%
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アクティブラーニング手法により授業を進める。授業時間（100 分）ごとにテーマを定め、内容について実務上の実践内容を含めながら概論を解説する（プロジェクター使用）。基本的に写したものは全て配布する。従って原則としてノートは不要。解説後、ワークを出題もしくはディスカッションの議題を提示するので、学生同士の協力（3-4 名程度のグループ）で実施する。授業の最後には、リアクションペーパーを記入して提出する。リアクションペーパーに記載の質問については次の週の冒頭に補足説明・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・都市の歴史と都市計画	全 14 講の進め方を説明するとともに、西欧都市の歴史及びイギリス近代都市運動を通じて発達していく近代都市計画の概要について解説する。
2	日本の都市計画制度概要	我が国の都市計画制度の沿革とその制度体系、制度内容の概要等について解説する。
3	土地利用と施設配置	土地利用計画や施設配置計画の歴史やそれを支える制度、プランニング技術等について解説する。ゲスト講師を交えて、実務上の取り組みを紹介する。
4	都市交通	交通計画の考え方や公共交通施設の計画、道路計画、交通結節点計画、TDM 等、都市交通にまつわる計画について解説する。
5	都市基盤施設	都市を支える上下水道、電気、情報通信施設、廃棄物処理施設等のインフラストラクチュアについて解説する。
6	住環境	生活の三大要素の一つである「住」環境について、住宅・空き家問題、住宅需給計画、住宅地計画、住環境計画について解説する。
7	公園・緑地・オープンスペース	公園・緑地・オープンスペースの機能、制度、計画の考え方について解説する。
8	都市防災	都市災害を軽減し、安全で快適な都市を創造するために必要な計画のあり方について解説する。ゲスト講師を交えて、実務上の取り組みを紹介する。
9	アーバンデザイン	快適で豊かな都市空間を形成するための諸行為であるアーバンデザインの基本的考え方、歴史的変遷、手法等について解説する。
10	ボトムアップ型まちづくり	住民、地域団体、民間主体もしくは発意で進められるボトムアップまちづくりを支える仕組みとその取り組みについて解説する。ゲスト講師を交えて、実務上の取り組みを紹介する。
11	広域計画	拡大・変化する都市圏の一体的な発展のために望まれる広域計画の概念、役割、その内容の歴史的変遷について解説する。
12	市街地整備	土地区画整理事業や市街地再開発事業等の市街地整備を図るための事業や制度の概要について解説する。
13	持続可能なまちづくり	超高齢社会への対応、低炭素・環境共生の実現、景観・地域資源の活用等、持続可能なまちづくりのあり方について解説する。
14	欧米諸国の都市計画	イギリス、ドイツ、フランス、アメリカ等の欧米諸国の都市計画制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回：授業後、配布資料にもとづく復習
13 回：レポートの作成
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
磯部友彦, 松山明, 服部敦, 岡本肇:「都市計画総論」, 鹿島出版会
中島直人, 村山顕人, 高見淳史, 樋野公宏, 寺田徹, 廣井悠, 瀬田史彦:「都市計画学　変化に対応するプランニング」, 学芸出版社
川上光彦:「都市計画 第 3 版」, 森北出版
前田英寿, 遠藤新, 野原卓, 阿部大輔, 黒瀬武史:「アーバンデザイン講座」, 彰国社
東京大学 cSUR-SSD 研究会:「世界の SSD100 ―都市持続再生のツボ」, 彰国社
フランチェスカ・ミアッツォ（編）, トリス・キー（編）:「We Own The City 世界に学ぶ「ボトムアップ型の都市」のつくり方」, フィルムアート社

【成績評価の方法と基準】
レポートの内容にて評価する。レポートの提出を行わない者及び欠席 4 回以上の者は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容を受けて学生相互で行うディスカッションが好評であったが、この時間を取れない回もあったため、授業の時間配分を調整する。

【その他の重要事項】
具体的な都市プランニングに携わる実務経験を持つ教員が、その経験を活かして都市プロジェクトや法制度の考え方について講義する。

担当講師略歴
土橋悟（つちはし・さとる）
都市デザイナー
株式会社都市環境研究所　主任研究員
1980 年生まれ。2004 年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻修了後、（株）日建設計シビルにて、広場・公園設計、海外マスタープラン業務に従事。英国ロンドンの Claudio Silvestrin Architects 勤務を経て、2009 年より現職。土木・建築・都市計画各分野を横断的に都市デザインに取り組む。一級建築士。2019 年より芝浦工業大学非常勤講師、2022 年より法政大学兼任講師。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to understand the problems and factors of modern cities and to learn how urban planning policies deal with them.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to
- understand the key issues of urban planning.
- understand the history of urban planning and design.
- learn about various urban planning policies.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to
- review after each class meeting.
- draw up the final report after class meeting #13.
Your study time will be more than 2 hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on the final reports only.
If you are absent from class meeting more than 4 times, you cannot earn the cresit.

CST200NC

地盤力学及演習 X

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する．

【到達目標】
土の物理量，地下水流動，圧密，土の強度，土圧について講義と演習を通じて学び，実務に応用できる基礎力を身に着ける．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力　50%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている．授業では，まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く．ついで，地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ．以後は，地盤と地下水の力学的・流体力学的関係，地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する．さらに，講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを，多くの例題を用いて解説した後，学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う．授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性，構造物の安定，建設に関する諸問題
2	土の基本物理量と SI 単位 土の 3 相構成の理解と単位の重要性	土の相構成と基本物理量の定義，各物理量間の実用的関係式，SI 単位の基本事項と重要性，例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤，粗粒土と細粒土，土の構成成分と工学的性質の関係，コンシステンシー，例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義，Darcy 則と透水係数の定義，透水試験と透水係数の評価，例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数，フローネットによる流量と間隙水圧分布，例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係，土被り圧の理解	有効応力と全応力，間隙水圧の関係，土被り圧の計算法，例題解説と演習
7	中間試験 1〜6 回までの理解度確認と総復習	1〜6 回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験，模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下，圧密沈下による社会問題，一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル，先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密，圧縮指数と圧密沈下量，例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算，実際問題への適用，例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulomb の破壊規準，例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験と Mohr-Coulomb の破壊規準，一軸圧縮試験の応力状態，３軸圧縮試験の種類と適応性，例題解説と演習
12	地盤内応力 地中部の応力状態と簡易的算定法	地盤内応力の簡易計算法，Boussinesq の式，長方形分割法，影響円法，Osterberg 法，圧力球根，例題解説と演習
13	土圧論 壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	土圧と土圧係数の定義，主働状態と受働状態，Coulomb と Rankine の土圧論，地下水面の存在と土圧，例題解説と演習
14	総復習	8 回〜13 回の範囲の演習，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習をかねた演習問題への取り組み
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 中間試験問題に沿って総復習
8. 復習をかねた演習問題への取り組み
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
石原研而：土質力学，丸善

【参考書】
地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】
定期試験 70 %＋レポート 30 %＝ 100 %
欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D).

【学生の意見等からの気づき】
理解状況を確認しながら講義を進め，そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方，難しすぎるとの意見もあった．
自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから，100 分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓または PC

【その他の重要事項】
元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う．

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST200NC

地盤力学及演習 Y

澤田　俊一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する．

【到達目標】
土の物理量，地下水流動，圧密，土の強度，土圧について講義と演習を通じて学び，実務に応用できる基礎力を身に着ける．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　20%
（D）専門基礎学力　50%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている．授業では，まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く．ついで，地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ．以後は，地盤と地下水の力学的・流体力学的関係，地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する．さらに，講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを，多くの例題を用いて解説した後，学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う．授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建設と地盤 建設的観点からの地盤	地盤の理解の重要性，構造物の安定，建設に関する諸問題
2	土の基本物理量と SI 単位 土の 3 相構成の理解と単位の重要性	土の相構成と基本物理量の定義，各物理量間の実用的関係式，SI 単位の基本事項と重要性，例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質 土の分類と工学的性質の理解	混合体としての地盤，粗粒土と細粒土，土の構成成分と工学的性質の関係，コンシステンシー，例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	水頭・動水勾配の定義，Darcy 則と透水係数の定義，透水試験と透水係数の評価，例題解説と演習
5	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数，フローネットによる流量と間隙水圧分布，例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧 全応力と有効応力の関係，土被り圧の理解	有効応力と全応力，間隙水圧の関係，土被り圧の計算法，例題解説と演習
7	中間試験 1〜6 回までの理解度確認と総復習	1〜6 回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験，模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下，圧密沈下による社会問題，一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル，先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密，圧縮指数と圧密沈下量，例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算，実際問題への適用，例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulomb の破壊規準，例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験と Mohr-Coulomb の破壊規準，一軸圧縮試験の応力状態，３軸圧縮試験の種類と適応性，例題解説と演習
12	地盤内応力 地中部の応力状態と簡易的算定法	地盤内応力の簡易計算法，Boussinesq の式，長方形分割法，影響円法，Osterberg 法，圧力球根，例題解説と演習
13	土圧論 壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	土圧と土圧係数の定義，主働状態と受働状態，Coulomb と Rankine の土圧論，地下水面の存在と土圧，例題解説と演習
14	総復習	8 回〜13 回の範囲の演習，解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習をかねた演習問題への取り組み
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 中間試験問題に沿って総復習
8. 復習をかねた演習問題への取り組み
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
石原研而：土質力学，丸善

【参考書】
地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】
定期試験 70 %＋レポート 30 %＝ 100 %
欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D).

【学生の意見等からの気づき】
理解状況を確認しながら講義を進め，そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方，難しすぎるとの意見もあった．
自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから，100 分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓または PC

【その他の重要事項】
元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う．

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

ADE100NB

デザインスタジオ２（建築）X

小池　ひろの

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。
[建築研究] 自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）
[ウォッチャー] 普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱] 建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺 5m 立方の空間の設計] 一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m 立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m 立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m 立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m 立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m 立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m 立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

OTR100ND

デザインスタジオ２（SD)

相川　真実、山田　泰之、飯村　武志、西岡　靖之、安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「デザインスタジオ２」は、【マネジメント系】【クリエーション系：対面】【テクノロジー系】の三つの系を各 4 回づつ、３クラスに分けて授業をうける事ができる。自分のクラスを間違わないように授業を受ること。クラス分けは、A,B,C クラスに最初のガイダンスで行う。
デザイン工学では、製品を製作するときのあらゆる場面で自分の制作しようとしている不可視な状態（想像されている状態）の人工物を第三者に的確かつスピーディーに可視化しその情報を視覚伝達技術の基礎が学べる。
マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな “問題” とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を学び理解する基礎が学べる。
クリエーション系では、手書きによるスケッチ技術の習得を基本としながら、発案から実作まで活用可能な絵の描き方を学ぶ。またアイデアスケッチから実制作を行い、手書きスケッチと立体造形の関係を実践的に学ぶ。
テクノロジー系講義では 3 次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現方法，「かたち」や「しくみ」に取り入れられている力学的な関係と，工学的見地からデザインをとらえる基礎知識を身につけることが出来る。

【到達目標】
【マネジメント系】
身の回りにあるさまざまな “問題” の解決のための基本構造を学ぶ。意識して行っていなかった “発想” および “問題発見” の方法を学び実践できるようにします。問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法の基礎を習得する事を目標とする。
【クリエーション系】対面演習授業です。
手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学ぶ。また後半ではアイデアスケッチを基に実作を行い、絵と立体の差異を理解する。
【テクノロジー系】
3 次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現，物体の変形，流体の流れの関係，あるいは「ちから」と「かたち」や「しくみ」の基本的な関係を習得する事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【マネジメント系】
マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな “問題” とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を理解できる。これまではおそらく意識して行っていなかった “発想” および “問題発見” の方法を学び実践できる。そして、さらに、問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法を学ぶ事が出来る。演習は、４～５名からなるグループワークで実施できる。
【クリエーション系】対面演習授業です。
この授業は、AB 期でのデザインスタジオ 1 の継続に位置すると考えてください。
手書きによるアイデアスケッチの基礎を学び、発案から実作までのプロセスで活用できる絵の描き方を学びます。
前半ではアイデアスケッチの基礎的なトレーニングを行い、発案を素早く他者と共有するするための絵の描き方を学びます。
後半ではテーマに沿い、実寸スケッチによる発案から、3 面レンダリングを経て、実物の制作を行います。また実物と絵を比較しその差異を理解します。
ここで得られる技術は各自の固有の技術となりますので予習、復習をしっかり行ってください。また専門技術の基礎となりますので真剣に取り組む必要があります。
【テクノロジー系】
2 次元、3 次元のモノの構造とそれらのつくり方を学ぶ。図学、構造力学、材料力学、材料工学等の基礎を実習課題を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デザインスタジオ２総合 ガイダンス及びクリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系、各系の対面、またはオンライン授業、対面の場合のコロナ対策等の説明を含む。	「デザインスタジオ２」授業概要の説明。この授業で得られる知識について。 クラス別の説明、クラス別日程説明。 対面、またはオンライン授業の説明。 対面使用教室説明及びコロナ対策説明。
2	クラス別①マネジメント系ガイダンス 問題解決の基本形 発散的な思考法	授業概要、目標の説明 ブレーンストーミングを行う KJ 法により問題を深化させる
3	クラス別②問題解決の基本形	ブレーンストーミングを行う 連関図法、系統図法による問題の整理
4	クラス別③ 問題分析と構造化 問題解決の手段と実施	連関図法、系統図法による問題の整理
5	クラス別④ マネジメント系まとめ	グループ別プレゼンテーション
6	クラス別①クリエーション系 ガイダンス アイデアスケッチの作成	授業概要、目標の説明 アイデアスケッチの基礎的手法を学ぶ。発案したアイデアを絵と文字で説明する。
7	クラス別②クリエーション系 アイデアスケッチから三面レンダリングへの展開	アイデアスケッチを経て、原寸で 3 面レンダリングを描く。製品制作のためのアイデアを実寸で検討する。
8	クラス別③クリエーション系 原寸で検討したアイデアスケッチを基に、実素材で製品を制作する。	原寸三面レンダリングをもとに木材を切削して、プロダクトを制作する。
9	クラス別④クリエーション系 具現化した形状と、事前に制作した原寸図を比較し、差異を理解する。	木切削によるプロダクトを完成させる。完成品をもとに３面レンダリングを修正する。
10	クラス別①テクノロジー系 ガイダンス 図学 ものづくり実習	授業概要、目標の説明。ものづくりに欠かせない図学の基礎を学ぶ。簡単な立体構造の立体図面と展開図面を作成する。 これらの図面をもとに、1 つだけ作る場合と、同じモノを複数個つくる場合を対比したものづくり実習を実施する。設計から大量生産を模擬的に体験することで理解を深める。
11	クラス別②テクノロジー系 材料力学入門	材料力学の基礎を学ぶ。応力ひずみ曲線，断面二次モーメント等、材料力学の基礎知識を学ぶ。 切り欠き効果や、両端支持梁の比較実験を実施する。これらの実習を通して材料力学への理解を深める。
12	クラス別③テクノロジー系 構造力学入門	構造力学の基礎を学ぶ。部の拘束条件、自由体図、ラーメン構造、トラス構造等、構造力学の基礎知識を学ぶ。 トラス構造を用いた大小の橋を制作する実習を実施する。これらの実習を通して構造力学への理解を深める。
13	クラス別④テクノロジー系 材料工学入門	金属材料について鉄系材料，非鉄系材料を学ぶ。非金属材料では例えば熱可塑性樹脂や熱硬化性樹脂などテクノロジにかかわる様々な材料を実物を見ながら学ぶ。 これらの体験を通して材料工学への理解を深める
14	デザインスタジオ２ 総合評価	各系からの総合評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習、復習
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
クリエーション系は毎回宿題を課します。最終課題は完成に向けてかなりの制作時間が必要となりますので、計画的に進めてください。

【テキスト（教科書）】
使用しない.

【参考書】
【マネジメント、クリエーション、テクノロジー系】
学習支援システム「教材」にアップロード。
必要に応じてプリントを配布する.

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
■成績は，マネジメント系 100 点，クリエーション系 100 点、テクノロジ系 100 点とし，合計平均で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
各系の基礎となる授業です．毎回必ず授業に出席する事。
うるさく制作に没頭できないという苦情が出ています。
クリエーション系制作実習中の私語は慎んでください。
教室が汚いという苦情が出ています。
授業終了時は必ず自席のテーブル、椅子、床周辺を掃除をしたのち退席してください。
この演習授業終了後、他の演習が始まります。お互いに整理整頓された教室で演習できるよう努めましょう。

【学生が準備すべき機器他】
【クリエーション系】
デザインスタジオ 1 で使用したスケッチ道具セットを一式持参してください。PM パッドやインクなどを使い果たした人は、各自で補充し準備してください。
【テクノロジー系】
ノート PC を持参すること。

【その他の重要事項】
【クリエーション系】
日本で第一線で活躍するプロダクトデザイナー、実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザインの基礎知識・手法の基礎を演習を通して指導が受けられる。

【Outline (in English)】
"Design Studio 2" comprises of three different subjects in management, creation and technology, each held 4 times and divided into three classes.

DES100ND

図形科学基礎演習 X

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの基本となる立体と 2 次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

【到達目標】
立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CAD システムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは 3 次元の立体を対象にデザイン（総合計画設計）しますが、3 次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3 次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として 2 次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱かわれており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はＣＡＤ（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、ＣＡＤでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎 1	平面から立体、立体から平面の往来 図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎 2	図形を通して立体を第三者に伝達する 平面から立体、立体から平面の往来
4	三角法の基礎-1 ：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習 1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
5	三角法の基礎-2 ：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習 2 ： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3 ：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習 3 寸法記入法、断面図
7	CAD による三角法作図の基礎演習-1	CAD による作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解 1。
8	CAD による三角法作図の基礎演習-2	CAD による作図。図形描画ツールの理解 2。
9	CAD による三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解 3、数値入力基本操作、演習課題 1 ：三角法による幾何形体の作図。
10	CAD による三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題 2 ：三角法による幾何形体の作図。
11	CAD による三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題 3 ：三角法による幾何形体の作図。
12	CAD による三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（基本レイアウトの作成）
13	CAD による三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CAD による三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を必ずすること。
CAD の基本操作を自主的に学習しておく事。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JIS にもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
2 次元と 3 次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回授業で指示します。

【その他の重要事項】
活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting .

DES100ND

図形科学基礎演習 Y

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの基本となる立体と 2 次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

【到達目標】
立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CAD システムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは３次元の立体物を対象にデザイン（総合計画設計）しますが、３次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3 次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として 2 次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱かわれており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はＣＡＤ（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、ＣＡＤでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎 1	平面から立体、立体から平面の往来 図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎 2	図形を通して立体を第三者に伝達する 平面から立体、立体から平面の往来
4	三角法の基礎-1 ：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習 1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
5	三角法の基礎-2 ：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習 2 ： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3 ：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習 3 寸法記入法、断面図
7	CAD による三角法作図の基礎演習-1	CAD による作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解 1。
8	CAD による三角法作図の基礎演習-2	CAD による作図。図形描画ツールの理解 2。
9	CAD による三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解 3、数値入力基本操作、演習課題 1 ：三角法による幾何形体の作図。
10	CAD による三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題 2 ：三角法による幾何形体の作図。
11	CAD による三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題 3 ：三角法による幾何形体の作図。
12	CAD による三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（基本レイアウトの作成）
13	CAD による三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CAD による三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を必ずすること。
CAD の基本操作を自主的に学習しておく事。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JIS にもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
2 次元と 3 次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回授業で指示します。

【その他の重要事項】
活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting .

DES200ND

クリエーション基礎論

土屋　雅人、大西　景太

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
クリエーション基礎論は、講義形式の授業となります。
前半、後半各７回ずつで教員が変わります。
本授業では、海外の文化を柔軟に取り入れながら発展してきた日本の美の要素に関る知識と、現代のものやサービスのデザインに必要な普遍的な美の表現形式に関する知識を習得します

【到達目標】
ものやサービスのデザインに必要な美的表現に関する基礎知識が習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は対面を基本に行います。
講義全体は二部構成となり、第一部は１回目より７回目までを大西教授、第二部は８回目から１４回目までを土屋教授の講義となります。１回目はガイダンスが含まれます。
それぞれの講義概要は次の通りです。
第１部は、日本美術史にみる古典表現と現代美術・デザインの関りについて
第２部は、視覚情報伝達と情報価値、認知工学について

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、および日本美術のクリエーション１	本講義の概要、注意点、および縄文・弥生・古墳／飛鳥・奈良時代の美について解説します。
2	日本美術のクリエーション２	平安時代の美について解説します。
3	日本美術のクリエーション３	鎌倉・南北朝／室町時代の美について解説します。
4	日本美術のクリエーション４	桃山・江戸時代①の美について解説します。
5	日本美術のクリエーション５	江戸②／明治時代の美について解説します。
6	日本美術のクリエーション６	大正・戦前戦後の美について解説します。
7	日本美術のクリエーション７、授業内試験	現代の美について解説します。 授業内試験を行います。
8	ビジュアルシンキング	思考のための視覚表現を学びます。
9	グラフィックデザイン	印刷媒体とグラフィックデザインの働きを学びます。
10	情報伝達と認知	情報の分類と理解の仕組みを学びます。
11	ピクトグラムデザイン	情報の記号化とピクトグラムの役割を学びます。
12	サイン計画	情報伝達とサイン計画を学びます。
13	ダイアグラムデザイン	メディアの変遷とダイアグラムの機能を学びます。
14	情報価値の創造	情報の構造化とメディア、情報価値の創造を学びます。 授業内試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本の美や美の表現形式に関する多くの知識を学ぶので、講義ノートをしっかりと取ることが重要です。
予習復習を行い、授業内容の理解を促すための課題は指示通りに提出してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて・授業内で配布
学習支援システムの教材にテキストを掲示

【参考書】
「増補新装 カラー版日本美術史」、辻 惟雄 (監修)、美術出版社
「日本美術史 JAPANESE ART HISTORY」、山下裕二 (監修)、美術出版
「グラフィックデザイン基礎講座」、大里浩二 (監修)、美術出版
「情報デザインのワークショップ」、山崎 和彦他 (著)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】
課題、試験の他、学習態度を平常点として評価します。
各課題合計（30 %）、試験（40 %）、平常点（30 %）
２名の教員の成績の平均より評価判定します。

【学生の意見等からの気づき】
授業評価アンケートの結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
In this class, we will study about the elements of Japanese beauty which have been evolved while incorporating foreign cultures, and knowledge about the beauty of expression necessary for the design.

OTR200ND

プレゼンテーション技術 X

豊島　純子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイディアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルやテクニックを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、"Audience First"を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358、B3846 は同一内容) からなり、対面とオンラインで行います。Face to Face の対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションに対応するための効果的なスキルを学び、練習します。オンライン授業時の URL は学習支援システムの「お知らせ」を通じて 9 月半ば以降に周知しますので、受講者は忘れずにチェックしてください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージを学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。そして総まとめに三種類のプレゼンの中から再演したいものを選び、発表していただきます。

オンライン・プレゼンテーション実習では Zoom と ICT を活用したツールで相互評価を行い、発表者は教員、TA とほかの受講者の feedback（FB）を受けます。発表者は FB とプレゼンの録画ビデオを参考にして省察し、プレゼンテーションの改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは将来の研究発表へとつながる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本である Tell Them Three Times Approach を使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントーネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者は PC やスマホを使って発表者に FB します。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のビデオ映像を視聴し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからの FB を参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次回のプレゼンテーションに反映させ改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積みます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自らのプレゼンテーションを向上させるだけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回のガイダンスで説明します。授業の進捗具合、受講者数、COVID-19 感染状況によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効な Tell Them Three Times Approach を学びます。
3	プレゼンテーションの三要素 (Visual & Physical Messages) についての講義	PPT スライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	・第二回日本語プレゼンテーションの説明と準備 ・英語プレゼンテーションの準備 (1)	授業の前半は第二回日本語プレゼンテーション (問題解決型プレゼンテーシ）の趣旨と取り組み方を学習します。 後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・英語プレゼンテーションの準備 (2)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。 後半は英語プレゼンテーションの実施方法を学習後、各自作成してきた英語プレゼンテーション原稿をピア・レビューし原稿を修正します。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備 (3)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。 後半は英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行い、英語プレゼンテーションに備えます。

9	英語プレゼンテーション実習 (1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習 (2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
11	第二回日本語プレゼンテーション実習 (1)	第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます
12	第二回日本語プレゼンテーション実習 (2)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
13	Second Chance Presentation	総まとめのプレゼンテーションです。実演済みの 3 種類のプレゼンテーションの中から再演したいものを選び、発表します。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表のフィードバックをします。発表者はビデオとフィードバックを参考に省察レポートを書きます
14	まとめ	よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（Final Reflection) を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を練習します。受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備をして実演にのぞみます。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を参照し自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

· Garr Reynolds「プレゼンテーション ZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション
·Harrington,D.,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse
· Jonathan Schwabish 著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション　50%、課題　40%、授業への取り組み（出席含む）10%
· 4 回のプレゼンテーションすべてを実施することを単位取得の要件とします。
· 不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告すること。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
· 3 分の 1 を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。
· 課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
· プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題は〆切を守って期限内に提出するようにしてください。
· 発表者に対して的確な相互評価とフィードバックができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「とても有意義な授業だと思います。システムデザイン学科では発表の機会が多いですが、発表のフィードバックを得る機会がなかなかないです。大切な練習機会になりました」、「Tell Them Three Times Approach を実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった」、「自分の特徴がつかめ、目指すべきプレゼンテーションのスタイルがわかった」、「発表後の質疑応答のやり方がわかり、練習できてよかった」、「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って、プレゼンだけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（ＵＢ）で理工系学生（STEM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学修を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。

【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

OTR200ND

プレゼンテーション技術Ｙ

豊島　純子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイディアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルやテクニックを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、"Audience First"を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358、B3846 は同一内容) からなり、対面とオンラインで行います。Face to Face の対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションに対応するための効果的なスキルを学び、練習します。オンライン授業時の URL は学習支援システムの「お知らせ」を通じて 9 月半ば以降に周知しますので、受講者は忘れずにチェックしてください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージを学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。そして総まとめに三種類のプレゼンの中から再演したいものを選び、発表していただきます。

オンライン・プレゼンテーション実習では Zoom と ICT を活用したツールで相互評価を行い、発表者は教員、TA とほかの受講者の feedback（FB）を受けます。発表者は FB とプレゼンの録画ビデオを参考にして省察し、プレゼンテーションの改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは将来の研究発表へとつながる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本である Tell Them Three Times Approach を使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントーネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者は PC やスマホを使って発表者に FB します。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のビデオ映像を視聴し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからの FB を参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次回のプレゼンテーションに反映させ改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積みます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自らのプレゼンテーションを向上させるだけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回のガイダンスで説明します。授業の進捗具合、受講者数、COVID-19 感染状況によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効な Tell Them Three Times Approach を学びます。
3	プレゼンテーションの三要素 (Visual & Physical Messages) についての講義	PPT スライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	・第二回日本語プレゼンテーションの説明と準備 ・英語プレゼンテーションの準備 (1)	授業の前半は第二回日本語プレゼンテーション (問題解決型プレゼンテーシ）の趣旨と取り組み方を学習します。 後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・英語プレゼンテーションの準備 (2)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。 後半は英語プレゼンテーションの実施方法を学習後、各自作成してきた英語プレゼンテーション原稿をピア・レビューし原稿を修正します。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備 (3)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。 後半は英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行い、英語プレゼンテーションに備えます。

9	英語プレゼンテーション実習 (1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習 (2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
11	第二回日本語プレゼンテーション実習 (1)	第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます
12	第二回日本語プレゼンテーション実習 (2)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
13	Second Chance Presentation	総まとめのプレゼンテーションです。実演済みの 3 種類のプレゼンテーションの中から再演したいものを選び、発表します。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表のフィードバックをします。発表者はビデオとフィードバックを参考に省察レポートを書きます
14	まとめ	よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（Final Reflection) を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を練習します。受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備をして実演にのぞみます。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を参照し自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

· Garr Reynolds「プレゼンテーション ZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション
·Harrington,D.,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse
· Jonathan Schwabish 著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション　50%、課題　40%、授業への取り組み（出席含む）10%
· 4 回のプレゼンテーションすべてを実施することを単位取得の要件とします。
· 不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告すること。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
· 3 分の 1 を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。
· 課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
· プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題は〆切を守って期限内に提出するようにしてください。
· 発表者に対して的確な相互評価とフィードバックができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「とても有意義な授業だと思います。システムデザイン学科では発表の機会が多いですが、発表のフィードバックを得る機会がなかなかないです。大切な練習機会になりました」、「Tell Them Three Times Approach を実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった」、「自分の特徴がつかめ、目指すべきプレゼンテーションのスタイルがわかった」、「発表後の質疑応答のやり方がわかり、練習できてよかった」、「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って、プレゼンだけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（ＵＢ）で理工系学生（STEM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学修を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。

【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

ADE200NB

材料の力学

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築材料の物理的性質と建築の基本部材である梁の力学的基礎

【到達目標】
材料の基礎的な力学理論からいかにして簡潔で美しい線材理論が導かれるかを学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人類は，生活圏内で手に入れることのできる材料を用いて，雨風を凌ぐための建築空間を作ってきた。遺構を含め今日までの建築空間はそれぞれ用いた材料の性質に制約を受けながらも，その可能性を最大限に引き出したものと言える。そこには材料に対するあまたの経験と理解に基づく人類の創意工夫がある。これを物理学の視点から整理統合し，予測可能な技術として発展させた設計のための経験科学が材料の力学である。本講では建築空間を構成する基本的な構造部材である梁や柱などの 1 次元部材を対象に材料の力学を論じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	授業ガイダンス スケジュール 成績評価方法
2	応力度とひずみ度（1）	力のつり合いと応力 応力度と強度 ひずみ度 構成方程式
3	応力度とひずみ度（2）	構成方程式 ポアソン比 せん断ひずみ度 せん断弾性係数
4	はりの応力度（1）	曲げを受けるはり はりの曲げ応力 中立軸 断面係数
5	はりの応力度（2）	曲げモーメントとせん断力の関係 せん断応力度の分布 せん断流理論 せん断中心とねじり
6	軸力と曲げモーメントの組み合わせ	軸力と曲げの連成 重ね合わせの原理 偏心軸力 断面の核
7	総合演習（1）：応力度とひずみ度	授業内演習
8	はりの基本式	はりの基本式の導出 はりの基本式の応用
9	断面の性質	断面 1 次モーメントと図心 断面 2 次モーメントと断面係数 断面相乗モーメントと断面の主軸
10	はりの変形 モールの定理	はりの変形の求め方 モールの定理
11	総合演習（2）：はり理論	授業内演習
12	座屈（1）	オイラー座屈 座屈応力度，許容圧縮応力度 初期たわみ
13	座屈（2）	有効座屈長さ ラーメンの座屈
14	総合演習（3）：座屈	授業内演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの講義板書内容を復習，実施された演習プリントの反復。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
Stephen P. Timoshenko: History of Strength of Materials, Dover, 1983, Paperback.

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題： 50 %（各 100 点満点）
定期試験： 50 %（試験の際，各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし，定期試験で 85 点以上の者は，演習 30%試験 70%での評価とも比較して，よい方を評価素点とする。
また，連続 3 回欠席，通算で 5 回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓

【その他の重要事項】
この授業と，春学期に同時開講される「部材の力学」で学んだ知識をもとに，秋学期必修科目として開講される「骨組の力学」は展開されるため，非常に重要である。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn about the physical properties of building materials and the basic mechanical theory of beams, which are the basic members of architecture.
Learning Objectives:
Learn how a concise and beautiful wire theory can be derived from the fundamental mechanical theory of materials.
Learning activities outside of classroom:
Review of previous lecture board content and repetition of exercises printed in the conducted exercises.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB

骨組の力学

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の基本原理であるエネルギー原理を用いて，様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法について学ぶ。

【到達目標】
様々な静定構造物の変形および不静定構造物の応力を求める解法の修得と基本的な構造形式の力学性状の把握を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「部材の力学」では，力のつりあいについて学習し，静定構造物の応力を求めた。また，「材料の力学」では，構造部材に働く応力度とひずみ度の関係，断面の性質について学習した。
この授業では，物理学の基本原理であるエネルギー原理を用いて，様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法を主に学習する。
理論や解析手法を修得するだけではなく，基本的な構造形式が持つ力学的特性についても把握するため，数多くの演習問題に挑戦してもらう。
基本的な 1 回の授業は，前回演習課題の解説 → 講義 → 演習課題発表 → 自宅での演習 → 次回授業での演習課題提出という流れである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概説	授業概要
		構造物の安定・不安定
2	静定構造物の応力（復習）	片持ち梁
		単純梁
		静定ラーメン
		静定トラス
3	直線部材の変形（復習）	はりの基本式（弾性曲線方程式）
		モールの定理
4	総合演習（1）	授業内試験
5	エネルギー原理	仕事とエネルギー
		熱力学の基本法則
		ひずみエネルギー
		仕事の原理
6	仮想仕事の原理	仮想仕事の原理
		重ね合わせの原理
		相反定理
		単位仮想荷重法
7	静定トラスの変位	軸力部材の変位
	静定はりの変位	静定トラスの変位
		強制変形による変位
		はり部材の変位
		片持梁の変位
		単純梁の変位
		変断面梁の変位
8	静定ラーメンの変位	ラーメン構造の変位
		片持梁型ラーメンの変位
		単純梁型ラーメンの変位
		3 ヒンジラーメンの変位
9	Castigliano の定理	Castigliano の定理の導出
		Castigliano の第 2 定理の応用
		最小仕事の定理の応用
10	総合演習（2）	授業内試験
11	不静定構造物の応力	不静定構造物の解法
		不静定構造物の例題 1
		不静定構造物の例題 2
12	たわみ角法（1）	たわみ角法とは
		たわみ角法の基本式
		不静定ラーメンの解法
13	たわみ角法（2）	剛度と剛比
		層方程式
14	総合演習（3）	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等による予習と授業後の復習，宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題： 50 %（A ～ D の 4 段階評価で，未提出は D 評価）
期末試験： 50 %（試験の際，各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
ただし，定期試験で 85 点以上の者は，演習 30%試験 70%での評価とも比較して，よい方を評価素点とする。
なお，演習課題の提出率が 80 %未満のものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に応じて，授業進度を調整することに心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
「材料の力学」および「部材の力学」で学んだ知識を用いるため，これらの授業の復習は必ず行っておくこと。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Learn how to determine the stress and deformation states of various structures using the energy principle, a fundamental principle of physics.
Learning Objectives:
The goal is to master solution methods for determining deformation of various static structures and stresses in non-stationary structures, and to understand the mechanical properties of basic structural forms.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE100NB

デザインスタジオ２（建築）Y

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。
[建築研究] 自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）
[ウォッチャー] 普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱] 建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺 5m 立方の空間の設計] 一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m 立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m 立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m 立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m 立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m 立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m 立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

CST300NC

交通計画

今井　龍一

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
交通計画の役割とその領域，関連分野を認識しつつ，人・物の動きとその特性および各種交通手段の特性を把握する。また，それらの特性把握のためパーソントリップ調査等による交通需要予測を通じ，各種交通手段と交通施設の相互関係を把握（土地利用形態，密度と交通ネットワーク，交通結節施設）するとともに，交通施設の構造基準，交通流特性，交通容量等について解説し，交通網計画および交通管理計画の策定手法習得を目標とする。

【到達目標】
・交通の意義、交通の発展の歴史を理解する
・交通政策の変遷を理解する
・交通の性質、運用技術の基礎を理解する
・都市交通問題解決のための考え方を身につける
・交通量調査、交通実態調査および交通需要推計（段階推計法）を理解する

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な交通計画の概念を把握するとともに、ネットワーク計画や解析、簡単な交通需要予測計算が算定できるような能力を身につける。また、モビリティマネージメントなどの新たな交通計画の概念を理解する。
今年度の授業はオンライン形式で行う。アクセスする URL は、学習支援システムの当該科目のお知らせメニューを参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	交通計画の概論	交通の定義、日本の道路交通政策の推移
2	交通調査（車両）	全般、交通・輸送調査
3	交通調査（PT）	パーソントリップ調査
4	自動車交通流（QKV）	交通量、速度、密度
5	自動車交通流（容量等）	交通容量、サービス水準
6	自動車交通流（渋滞）	渋滞
7	理解度の確認	第 1 回～第 6 回の総括
8	都市交通計画（政策）	計画策定方法、都市経営方法
9	都市交通計画（需要）	交通需要予測の役割と手法の種類
10	都市交通計画（推計法）	四段階推計手法
11	都市交通計画の評価	ITS の役割、サービス内容
12	高度道路交通システム	分布交通量・機関分担交通量の算定
13	将来の都市交通計画	最新の都市交通分野の動向
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを web により配付する。

【参考書】
・交通工学研究会：交通工学ハンドブック，丸善出版，2014 年
・交通工学研究会：道路交通技術必携 2013，丸善出版，2018 年
・久保田尚，大口敬，高橋勝美：読んで学ぶ交通工学・交通計画，理工図書，2010 年

【成績評価の方法と基準】
欠席 4 回以上の物には単位の取得を認めない（評価 D）。期末試験の成績 60 %、レポート・授業時の課題発表 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な統計解析は習得しておくこと。
交通インフラは社会の要望および時機の政策に大きく影響される「社会工学」である。「工学」としての普遍的な基本を習得するとともに、発展する社会の発するサインに敏感になることにも意識すること。

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
This course allows students to learn the aims, roles, and formulation methods of transportation plans. For this purpose, students will understand motion characteristics of persons and objects, characteristics of different means of transportation, transportation demand forecasting using person trip surveys, structure standards of transportation facilities, characteristics of traffic flow, and traffic capacity.
Understand the significance of transportation and the history of transportation development
To understand the transition of transportation policy.
Understand the nature of transportation and the basics of operational technology
To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology ・To learn how to solve urban transportation problems
To understand the traffic volume survey, actual traffic condition survey and traffic demand estimation (stepwise estimation method)
Understand the significance of transportation and the history of transportation development
To understand the transition of transportation policy.
Understand the nature of transportation and the basics of operational technology
To understand the nature of transportation and the basics of its operation technology ・To learn how to solve urban transportation problems
Term end examination : 60 %, Short reports : 40%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

ADE300NC

建築設計基礎

瀬戸　健似、今井　裕久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は建築物等の建築工事を実施するために必要となる図面等の作成を行うことができるようにするため、建築物等の形態、建築材料及び構造等を決め、それを図面に表示する技術を講義及び演習を通して、修得することを目標とする。建築士を目指す学生は必ず受講すること。

【到達目標】
二級建築士試験に出題される木造建物の製図技術の獲得を目標に、最新の建築物等の動向や特徴を紹介しながら、建築物がどのように計画され、どのように図面化されていくのかを、実際の演習を通して学習する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の建築士試験と同様に与えられた敷地条件や建築条件を満足する建築構造物の設計・製図を行い、中間発表、最終評価を通じて他の受講生の評価・講評を実施する。
毎回の講義を通じて設計・製図を実施することから、進捗に応じて時間外での作業が発生する可能性があるので、継続的・積極的に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション 建築物等の現在 製図の準備・基礎	設計製図の目的、講義スケジュール 、建築士の概要、建築士試験の概要 今日の建築物等の動向、特徴的・代表的な建築物の分類 用具の確認、用具の使い方、線の練習・その他ユニットの練習
2 回	建築物等の形態 建築材料・構造・設備 木造建築物の製図基礎（1）	建築の形態、条件の把握、行為の分類、空間イメージ、スケール感 敷地条件・方位と建築、調査・法規・計画の事例紹介 建築材料と構造種別（木造、S造、SRC造、RC造）、建築設備と役割 図面の表現（配置兼 1 階平面図と 2 階平面図）その 1
3 回	木造建築物の製図基礎（2）	図面の表現（配置兼 1 階平面図と 2 階平面図）その 2
4 回	建築構造物の設計（1） 木造建築物の製図基礎（3）	図面作成上のポイント（図面の構成と関係性） 課題設計スケジュールの作成、条件整理とエスキス 図面の表現（立面図、伏図、矩計図）
5 回	建築構造物の設計（2）	設計コンセプト、エスキス（平面図）
6 回	建築構造物の設計（3）	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図）
7 回	建築構造物の設計（4）	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図・立面図）
8 回	中間発表	エスキスの確認
9 回	建築構造物の製図（1）	製図（配置図兼 1 階平面図、2 階平面図）
10 回	建築構造物の製図（2）	製図（断面図・立面図）
11 回	建築構造物の製図（3）	製図（その他）
12 回	CAD 製図（1）	配置図兼 1 階平面図及びプレゼーテーションその 1
13 回	CAD 製図（2）	配置図兼 1 階平面図及びプレゼーテーションその 2
14 回	最終講評	優秀作品の選出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義において実施される演習は期限内に必ず仕上げて提出すること。特に、講義後半に実施する課題分による作図演習については、講義時間内でのエスキス作成ができない場合は、時間を確保し中間審査を経てから作図作業に入る必要がある。
また CAD 製図についても同様に、手書きによる平面図作成が終了している必要がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
建築デザインの製図法から簡単な設計まで―建築設計演習基礎編, 武者 英二 他 (著), 彰国社

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
課題提出６０％、授業への参加４０％、欠席４回以上はD評価
演習が主体の授業であり、授業参加が単位取得の前提となります。授業時間内での課題提出は必須となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
A２製図板以外の基本的な製図用具は各自で準備する必要がある。基本的には１年生の図学及演習で購入した製図用具セットで対応が可能である。初回講義で必要なものを提示するので各自で準備すること。

【その他の重要事項】
一級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて木造住宅から公共施設等、様々な建築設計の経験を持つ教員が、実際の資格試験の概要、設計実務を踏まえた製図知識、実際の設計作業を通じたプレゼンテーション、CAD を用いた図面によるプレゼンテーションなどを指導する。

【Outline (in English)】
Students will learn skills for the drawing of building construction plans through lectures and exercises. Students will determine the type, structure and material of buildings, and learn how to indicate them in drawings. Students aspiring to become architects should attend this class.

CST300NC

鋼構造デザイン実習

鈴木　泰之、山下　修平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**2018 年度以前入学者は選択必修科目**
都市：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鋼構造デザイン実習では、鋼構造の設計方法について、「鋼構造学及び演習 X」で習得した知識を具体な橋の設計に応用する。鋼構造デザイン実習では、まず、鋼構造設計法の基礎を講義ならびに演習を通して習得した後、これらの知識を活用して鋼構造のデザインを行う。デザイン実習は、鋼橋（歩道橋）を対象として個別に与えられた設計条件に基づき、設計計算、作図および数量算出を行う。講義は、実務で行われている実際の橋梁設計の手順に沿って実習形式で進められる。これにより学生は、構造力学の基礎と鋼構造設計との関連について習得することができ、かつ、実務で行われている「橋梁設計」という行為の手順やポイントを身に着けることができる。また、本授業に引き続き開講される「橋のデザイン実習」では、本授業で設計された歩道橋の模型の製作が予定されている。

【到達目標】
はじめに、鋼構造の主材料である鋼の性質や鋼構造の設計方法について演習問題を通して習得する。次に、これらの知識を活用して鋼橋（歩道橋）の設計計算を行い、その結果に基づき施工性を考慮した図面を作成することにより、鋼橋の設計計算法や図面の読み方を取得する。
この講義の受講後、学生が「設計という行為がどのようなものであるか」について、および、「１、２年次で学んだ構造力学が、実務の鋼構造設計において、どのように使われているのか」について、理解することを目標とする。さらに、鋼橋の設計について、一通り手順を追って学習していることから、「学生が実社会においても抵抗なく鋼橋の設計を理解する能力を身に着けること」を到達目標とする。各講義で出題される演習問題の提出、設計計算書、設計図面、数量計算書の成果を提出することにより、単位が与えられる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力

（E）専門知識の活用・応用能力	10%
（F）総合デザイン能力	40%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた課題に対して各々が問題に対する解答の作成、与えられた設計条件に対する設計計算書の作成、製図、数量の算出を行う。製図は手書き・CAD いずれでもよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼構造の特徴について、鋼橋を例に取り説明する。 鋼橋の構成要素と要素の役割および鋼橋設計に必要な基本事項について説明する。
2	鋼構造演習（構造力学の設計への応用　荷重）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。
3	鋼構造演習（構造力学の設計への応用　荷重強度）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。
4	鋼構造演習（作用・断面力の算出）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。作用（断面力）の算出に関する演習課題を行う。
5	鋼構造演習（断面諸元・抵抗）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。断面諸元および抵抗の算出に関する演習を行う。
6	鋼構造演習（添接・補剛設計）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。添接の考え方、部材の補剛方法、補剛材の設計方法について演習を行う。
7	鋼橋設計計算書の作成（設計条件・荷重・荷重強度）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、荷重・荷重強度を取り纏める
8	鋼橋設計計算書の作成（断面力・断面決定・添接）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、断面力算出・断面計算・添接計算を扱う
9	鋼橋設計計算書の作成（補剛設計・横桁・支点上補剛材）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、補剛設計・横桁・支点上補剛材を扱う。
10	鋼橋の製図（構造一般図）	設計計算書を基にした製作図面の作成方法の説明を行う。設計計算書が完成した学生は教員による確認を受けた後、製図作業に着手する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、構造一般図の作図を行う。
11	鋼橋の製図（主桁）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、主桁の作図を行う
12	鋼橋の製図（構造詳細図）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・ＣＡＤいずれでも可とする。この実習では、構造詳細図の作図を行う。
13	材料の算出	作成された製作図面を基に、鋼橋製作に必要な材料を算出する。 算出結果は、数量計算書として取りまとめる。
14	成果品の提出、講評	設計計算書、製作図面、数量計算書を教員に提出し、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１～６　構造力学の復習
７～１３　進捗が遅い学生は、授業時間外で成果の作成進捗を補うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を配布

【参考書】
道路橋示方書・同解説　（公）日本道路協会　平成 29 年 11 月
合成桁の設計例と解説　（一）日本橋梁建設協会　平成 30 年 2 月
大倉一郎：鋼構造設計学の基礎、（株）東洋書籍
中井・北田・山口・事口・平城：例題で学ぶ橋梁工学、共立出版（株）
田島富男、徳山昭：絵とき鋼構造の設計、（株）オーム社
中井博、北田俊行：新編　橋梁工学、共立出版 (株)

【成績評価の方法と基準】

演習問題の提出および採点結果	４０点
鋼歩道橋他の設計計算	４０点
鋼歩道橋他の製図	１５点
鋼歩道橋他の数量計算	５点

【学生の意見等からの気づき】
教える側が「当然理解しているであろう、あるいは、理解したであろう」と考えている事項を質問にくる学生が多い。教える側にとって「当然」であることも、実は、「学生にとって、理解されていなかったこと」が多いことに、改めて気づく。懇切丁寧に分かり易い説明に心がける。また、学生の理解を深めるために、基礎演習に力を入れるとともに、個別指導に力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、電卓、定規

【その他の重要事項】
同分野での実務経験を有する教員が担当する。
橋梁設計の流れが理解され、歩道橋の設計ができるようになることを目指す。
設計計算に必要な表計算ソフト（EXCEL）、設計図面作成に必要なソフト（AUTO CAD）の習得も同時に行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline)】

Learn how to design steel structures through practical training. In this training, the basis of steel structure design will be studied through lectures and exercises, after which students will perform designs of practical steel structures utilizing this knowledge. In the design training, design calculation, drawing and quantity calculation for steel pedestrian bridges are carried out based on individually assigned design conditions.
【到達目標（Learning Objectives）】
Students can learn how to design steel structures
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Preparation and review each design step 1 hour
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Report in class 40points
Design Calculation 40points
Design Drawing 15points
Material Calculation Sheet 5points

CST300NC

工学実験２

鈴木　善晴、酒井　久和、鈴木　弘明、池田　勇司、道奥　康治、北條　幸雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境システム系の実験（水圏環境実験および土質環境実験）を実施して計測技術を習得する．実験データを的確に図表化・分析し，実験値と理論値との整合性や違いの原因を考察する．以上の実験結果を反映したレポートをわかりやすく作成することにより，これまでの学習内容を実証的に理解するとともに実験で得た新たな発見を通して水圏・土質環境に発現する実現象への理解を深めることを目的とする．

【到達目標】
実験の目的と方法を正しく理解した上で，グループのメンバーと協力しながら自ら実験作業に従事して業務遂行能力の向上を図る（G，I），実験結果をレポートとしてわかりやすく明快にまとめる力を養うとともに，これまでに習得した専門知識と関連づけながら実験結果を適切に考察できるように応用力や科学的思考力を身につける（E，H），などが本授業の主な学習到達目標である．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	40%
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	30%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」
に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は，水圏環境実験および土質環境実験の 2 つからなる．いずれにおいても自ら実験に参加して，実験データを取得して分析・整理し，実験結果に対する深い考察を反映したレポートを作成・提出することが不可欠である．
水圏環境実験では，水理現象の観察・測定，実験と理論との比較・検証を通して，水理特性を理解することを目的とする．また，土質環境実験では，ふるい分けなどの実験を通して土と接することにより，その物理的・力学的性質を体感し土質特性を理解すること，および水質に関する浄化・分析の手法を理解することを目的とする．
各実験はいずれもグループに分かれて実施するが，水圏環境実験は，グループによって実験 A と B の実施日が異なる．また，土質環境実験は，午前と午後で実験 A と B のグループを入れ替えて実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	実験概要・実験方法およびレポートの作成・提出方法の説明
(2)	水圏環境実験 A-1	変水位透水試験に関する講義および演習：ダルシーの法則，変水位透水試験と定水位透水試験の理論
(3)	水圏環境実験 B-1	浮体の安定実験に関する講義および演習：静水圧解析の復習，アルキメデスの原理，浮体の重心・浮心，浮体の安定条件の基礎理論
(4)	水圏環境実験 A-2	変水位透水試験の実施：土壌試料三種類を鉛直カラムに充填して水位低下量を計測，変水位透水試験の理論式より飽和透水係数を算出
(5)	水圏環境実験 A-3	変水位透水試験に関するデータ整理とレポート作成
(6)	水圏環境実験 B-2	浮体の安定実験の実施：浮体模型の重量・重心・断面 2 次モーメントを変化させながら浮体の安定性を観察・考察，アルキメデスの原理の確認
(7)	水圏環境実験 B-3	浮体の安定実験に関するデータ整理とレポート作成
(8)	土質環境実験 A-1	土の含水比試験と粒度分析の実施：湿潤状態と乾燥状態の土の質量から含水比を算出し，ふるい分け試験により土の粒度分布を把握
(9)	土質環境実験 A-2	一軸圧縮試験の実施：土の円柱供試体に対して鉛直力のみを載荷し，ひずみと荷重との関係から土の一軸圧縮強度，変形係数，鋭敏比等を算出
(10)	土質環境実験 B-1	排水の浄化実験の実施：簡易廃液処理装置を用いた，六価クロムを含む原水の水処理
(11)	土質環境実験 A-3	土の最大密度・最小密度試験の実施：乾燥砂に対して最も密な状態としての最大密度と最も疎な状態の最小密度を測定し，土の相対密度を算出
(12)	土質環境実験 B-2	原水・浄化水や環境水等の水質分析の実施：簡易水質分析キットや分光光度計を用いた水素イオン濃度指数，電気伝導率，化学的酸素要求量，六価クロム等の測定
(13)	土質環境実験 A-5	地盤環境実験 A に関する質疑応答、レポート作成
(14)	土質環境実験 B-3	水質分析に関するデータ解析，解析結果の口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験データの取りまとめやレポートの作成に取り組み，指定された期限までにレポートを提出する．原則として期限後のレポート提出は認めない．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて授業の際にプリントを配付する．

【参考書】
必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する．

【成績評価の方法と基準】
水圏環境実験および土質環境実験をそれぞれ 50 点満点，合計 100 点満点とし，各実験に対する取り組み状況，提出されたレポートの内容等により評価を行う．60 点以上を合格とする．ただし，提出すべきレポートのいずれか 1 件でも未提出の場合（あるいは 0 点の場合）には不合格とする．また，全 28 コマの講義のうち欠席回数が 6 コマを超えた場合にも不合格（評価 D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
実験結果の取りまとめやレポートの作成を行う際に「ノートパソコン」を使用することがあるので，教員からの指示があった場合は忘れずに持参すること．

【その他の重要事項】
実験データの整理等を行う際に「関数電卓」が必要となる場合があるので，各自で忘れずに持参すること（持参し忘れた場合には貸与しない）．
建設コンサルタントおよび土質試験所において，水質，土質試験を行った経験を有する教員が試験の指導を行う．

【Outline (in English)】
(Course outline)
The objective of this course is to learn measurement techniques that are necessary in hydrospheric- and geo-environmental engineering. By graphically displaying and analyzing experimental data based on theoretical background, students will understand theories and mechanisms involved in the phenomena. The results should be briefly and properly reported in a paper so that students enrich their understanding of environmental systems in the hydrosphere and geosphere.
(Learning Objectives)
Having a correct understanding of the purpose and methods of experiments, students extend and develop their ability to work on experiments in cooperation with group members (Goals G and I). Students also develop the ability to apply scientific thinking and knowledge in properly summarizing the experimental results in reports by appropriately relating the results to specialized knowledge that they have acquired so far (Goals E and H).
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the students' performance of experiments and the quality of students' reports in hydrospheric field (50%) and geo-environmental field (50%).

CST300NC

メンテナンス工学

溝渕　利明、臼井　則生

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
重要な社会資本である構造物（鋼構造、コンクリート構造）を適切に維持管理して長期間安全に使用するための方策・技術についての基礎知識を身につける。

【到達目標】
橋梁の維持管理方法に関する基礎知識を身につけることを本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力
（E）専門知識の活用・応用能力　80%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
21 世紀の建設業界は，新設の時代から維持管理の時代へと移行していくこととなる。特に高度成長期に整備された社会資本は建設後 50 年近く経過しており，その多くが老朽化してきており，早急に調査・点検を行っていく必要がある。
　本講義では，社会資本の一つである橋梁を中心に維持管理の基本的な考え方，手法などについて概説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メンテナンスとは何か 維持管理の原則とメンテナンスの重要性について理解する	維持管理の原則とメンテナンスの重要性について概説
2	ライフサイクルを考える ライフサイクルエンジニアリングやライフサイクルコスト，ライフサイクルマネジメントについてその内容を理解する	ライフサイクルエンジニアリングやライフサイクルコスト，ライフサイクルマネジメントについて概説
3	コンクリートの劣化 コンクリートの劣化の代表的な塩害，中性化，凍害，アルカリ骨材反応についての劣化メカニズムを理解する	コンクリートの劣化の代表的な塩害，中性化，凍害，アルカリ骨材反応について概説
4	コンクリートの劣化予測手法 コンクリートの劣化予測手法の現状技術について理解する	コンクリートの劣化予測手法の現状技術について概説
5	維持管理の方法 維持管理計画と診断方法について理解する	維持管理計画と診断方法について概説
6	点検について 点検の種類と点検方法の概説，点検における調査について理解する	点検の種類と点検方法の概説，点検における調査について概説
7	評価・判定，対策 診断結果に基づく評価・判定，対策の種類と選定，補修・補強について理解する	診断結果に基づく評価・判定，対策の種類と選定，補修・補強について概説
8	鋼構造物の特徴とメンテナンス メンテナンスを行う上での鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本的な考え方を理解する．	鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本
9	鋼構造物の疲労損傷と対策技術 鋼道路橋に発生する疲労のメカニズムと対策技術を理解する．	疲労の要因とメカニズム 疲労損傷の事例と対策 疲労部材の評価
10	鋼構造物の腐食損傷と対策技術 鋼構造物に発生する腐食のメカニズムと対策技術を理解する．	腐食の要因とメカニズム 腐食損傷の事例と対策 腐食部材の評価
11	鋼構造物の点検と診断技術 鋼構造物の点検・調査方法と診断技術を理解する．	点検と診断の目的と実際 健全度評価，劣化予測手法
12	鋼構造物の補修・補強技術 鋼構造物の補修・補強の考え方および補修・補強技術を理解する．	補修・補強方法の基本的な考え方 補修・補強技術 補修・補強の実例
13	鋼構造物のメンテナンスマネジメント 鋼構造物メンテナンスマネジメント手法を理解する．	マネジメント導入の背景・効果・課題 マネジメントの事例，予防保全・事後保全とライフサイクルコストの関係
14	過去から学ぶメンテナンス技術 鋼構造物に関する過去の重大事故からメンテナンスの重要性とメンテナンスエンジニアのあり方について学ぶ．	過去の重大事故におけるメンテナンス上の問題 これからのメンテナンスエンジニア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】
社会基盤メインテナンス工学：東京大学出版会
コンクリート標準示方書 (維持管理編) ：土木学会
必要に応じて講義中に配付する．
コンクリート崩壊： PHP 新書
よくわかるコンクリート構造物のメンテナンス：日刊工業新聞社
朽ちるインフラ：日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
レポートによる。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。
レポート課題 100 %

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
高速道路会社で長くメンテナンス部門に勤務した教員が、鋼構造物のメンテナンスについて指導する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to acquire basic knowledge on measures and techniques for long-term safe use of structures (steel, concrete structures) and their appropriate maintenance and management vital for social capital.
Learning Objectives
The goal of this class is to acquire basic knowledge about bridge maintenance methods.
Learning activities outside of classroom
Review of lecture content
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy

Report assignment 100%

ADE100NB

デザインスタジオ２（建築）Z

塩田　能也

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】
・模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
・空間に対する分析力・考察力を養う
・日常や社会活動を捉え直す視点を養う
・各種構造の特性を理解する
・行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
・周辺環境との関係を理解し，敷地の特徴を活かす技術を身につける
● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。
[建築研究] 自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）
[ウォッチャー] 普段目にしている風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。
[光の箱] 建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。
[一辺 5m 立方の空間の設計] 一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。
建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をかたちにするとはどのようなことか。建築空間を考えるとはどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り替えすことから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究　発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱　エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー　発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー　発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー　発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱　エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー　発表と講評
6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱　プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー　発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
7	『5m 立法の空間』	○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。
8	『5m 立法の空間』	○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。
9	『5m 立法の空間』	○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。
10	『5m 立法の空間』	○中間講評で指摘された事柄を反映しスタディを深める。
11	『5m 立法の空間』	○敷地や家具類を含めた模型を製作する。
12	『5m 立法の空間』	○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『空間練習帳』小嶋一浩, 小池ひろの, 高安重一, 伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】
『住まいの空間　独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】
課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取とったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのように取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】
授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】
製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】
初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。
現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline (in English)】
[Outline]
In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication communication skills.
[Learning Objectives]
Students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.
Cultivate the ability to analyze and think about space.
Cultivate the ability to rethink everyday life and social activities.
To understand the characteristics of various structures.
Acquire skills to design while imagining the scene of action.
To understand the relationship with the surrounding environment and acquire techniques to make the most of the characteristics of the site
To develop "Design Studio 1" in AB.
[Architectural Research] After researching the architectural space and environment of their choice, students will visit the space, experience it, and summarize their findings in a report, thereby developing their ability to analyze and consider the space. (The report will consist of two parts: a preliminary research report and a report on the experience of the space.)
[Watcher: Students will develop the ability to gain a new perspective on everyday life by reexamining the scenery and things they see in the city through a certain theme and expressing it in a single photograph.
[Light Box] Through assignments on the theme of "light," the most basic and important element of architectural space, students will learn how to handle light in a space.
[Design of a 5m cubic space] Design a 5m cubic space. Here, students will think in three dimensions and draw them to understand the relationship between three-dimensional objects and drawings. In addition to understanding the drawings, students will also design their "dream for space" as a form. This is especially important as a step toward Design Studio 3 and 4.
[Learning activities outside of classroom]
Experiencing a good space is the best way to learn about architecture. It is desirable to develop the habit of actually visiting and experiencing excellent architectural spaces. And observing why a space is excellent is the first step to designing it.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Grades will be given for each assignment, and all works will be evaluated.
The students are required to research architectural structures of interest and submit a two-part report: a preliminary research report and a report on their experience in the space.
Preliminary research report: First, students will analyze the architectural space and its relationship to the surrounding environment based on drawings, photographs, architects' descriptions, etc.
The report will include a comparison with the analysis conducted in the pre-research and a discussion of the impressions gained from the experience of the space.
What kind of subject will be taken up? How did you read and understand the architect's thoughts and ideas? What considerations did you make based on your experience of the actual space? How did you analyze the architect's ideas and thoughts through the experience of the actual space?
Watcher〉 Submit a photograph in line with a theme set each week. Comprehensive evaluation will be made on how the theme is perceived, the expression of the photograph, composition and organization, and the presentation of a new point of view.
(1) "Box of Light": How did the photographer capture and spatialize light by making holes in a single box, selecting materials, and using them in different ways? (2) The student's work on his/her esquisse in class and his/her ability to express himself/herself in the model and drawings. Comprehensive evaluation will be made based on the students' skills in composing presentation panels and other factors.
How did you spatialize your dream? Expression by model. Evaluation will be based on the plan composition using drawings and photographs, and the presentation. Evaluation will be based on the work of the student's esquisse in class and the work submitted for the assignment.
(Assessment distribution: 15% architectural research, 5% watcher, 30% light box, 50% space of 5m cubic feet)
(However, students who have not submitted even one assignment may not receive credit.)

DES200ND

デザインシンキング（2019 年度以降入学生用）

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブランディングのデザインに必要な様々な要素をグループワークの演習によって実践的に学びます。
提供するモノ、サービスの価値を的確に捉え深く掘り下げる力、想定するユーザーや顧客を理解する力、得られた情報から伝えるべき内容を精査する力、新たな魅力を構築し最も効果的な方法で提示する力、そして総合的に人の心を動かすデザインを創出する力を養います。

【到達目標】
ブランド・プロデュースのための一連のデザインプロセスを通じ、今日デザイナーやアートディレクターに求められるブランディングデザインの能力獲得を目指します。
また構築的なクリエイティブ・プロセスを通じ、デザイン思考の方法論も同時に学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
デザインシンキングのプロセスを基本としながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。
参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 第 1 テーマ 情報収集・情報整理・発案に関するスキル習得 ワークショップ	全体概要説明 情報収集・情報整理・発案プロセスに関する有用なスキルをワークショップ形式で習得する。
2	第 2 テーマ　課題説明 グループ分け ワークショップ	課題概要説明 アイスブレイク 分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有
3	第 2 テーマ ワークショップ	企画テーマ設定 アイデア展開 プロトタイプ・プレゼンテーション制作
4	第 2 テーマ 最終プレゼンテーション	第 2 テーマ　最終案発表会 まとめ
5	第 3 テーマ　課題説明 グループ分け 定性調査予備調査 ワークショップ	課題概要説明 顧客の検討・選択 視察調査（個人） 観察まとめ 企画の検討
6	第 3 テーマ フィールドワーク 現地調査 インタビュー	定性調査セッション（グループ） 情報共有・準備 インタビュー 定性調査結果・考察 プロトタイプ・最終プレゼンテーション準備
7	第 3 テーマ 最終プレゼンテーション 総評	第 3 テーマ　最終案発表会 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
博報堂デザインのブランディング（永井 一史：誠文堂新光社）
事例で学ぶブランディング（ランドーアソシエイツ：ピー・エヌ・エヌ新社）
デザイン思考が世界を変える〔アップデート版〕(ティム ブラウン：早川書房)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度の平常点評価を４０点、最終プレゼンテーション内容を５０点、提出レポートを１０点、とする。
総合点が９０点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D とする。
１コマ欠席－ 10 点、遅刻－ 5 点。ただし、５コマ以上欠席した者は D とする。
病欠、忌引き、SSI 大会、公式練習等は欠席対象から除外するが、当該証明書を提出する事。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に必要なソフトウエアを各自の PC に入れておく。

【その他の重要事項】
ブランディングデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
Students learn the various methods required for branding design in a practical way through group work workshop.
The course cultivates the ability to accurately target and deeply understand the value of the products and services, to understand the intended users and customers, to scrutinize the content to be conveyed from the information obtained, to build new appeal and present it in the most effective way, and to create designs that move people's hearts in a comprehensive manner.

DES300ND

プロダクトデザイン理論

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
AB 期 14 回の授業で、オンラインによる開講を基本とする。（金曜日 5 限）
この授業では、プロダクトデザイン（以下 PD）の創造性にとって重点な要件の基礎理論を学ぶことが出来る。
人間の創造行為としての PD の歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PD と人間工学、PD に多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解することができる。

【到達目標】
インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD 企画の理解。PD の形状・造形の理解。PD と素材、素材表面処理の理解。PD の量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
AB 期１４回でオンラインによる講義を基本とする。（金曜日 5 限）
講義ノートを必ずとる事。
プロダクトデザインと基礎技術：
PD 設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。
プロダクトデザインの基礎歴史的文脈：
現代のプロダクデザインが成立するまでの近代デザインの歴史の文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プロダクトデザインとは何か
2	デザイン・建築・現代美術史　概論	デザインの黎明から現在までを俯瞰する
3	家具のデザイン　①	家具デザインの歴史
4	家具のデザイン　②	家具デザインを支える技術
5	生活機器のデザイン　①	生活のためのデザイン
6	生活機器のデザイン　②	地場産業・伝統技術とデザイン
7	工業製品のデザイン　①	工業デザインの歴史
8	工業製品のデザイン　②	工業生産の素材と技術
9	歴史文化の文脈とデザイン　①	地域のためのデザイン
10	歴史文化の文脈とデザイン　②	日本人のためのデザイン
11	人間とデザイン　①	人間のためのデザイン
12	人間とデザイン　②	デザインの価値・デザインの意味
13	プロダクトデザインの隣接領域　①	工芸とデザイン
14	プロダクトデザインの隣接領域　②	現代美術とデザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義ノートを取り、内容について復習する
各回の講義ノートをまとめ講義ノートを充実させる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】
「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリージャパン
心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版
プロダクトデザイン 101 のアイデア、スン・ジャン　マシュー・フレデリック著、フィルムアート社
世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社
他

【成績評価の方法と基準】
講義全体で 4 回以上の欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。欠席一回につきー 4 点、遅刻-2 点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）
評価：　出席（30%）筆記試験（70%)

【学生の意見等からの気づき】
説明をよりゆっくりと進める

【その他の重要事項】
英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn basic theory behind fundamental requirements in product design (PD) creativity.

DES200ND

プロダクトデザイン１（２０１９年度以降入学生）

安積　伸、秋山　かおり、林　登志也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】
ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面形式の実習です。
「プロダクトデザイン 1」の履修者は必ず「プロダクトデザイン 2」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。
「プロダクトデザイン 1、2」の授業では、３～４人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく５つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。
また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握　課題説明
2 週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3 週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4 週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5 週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6 週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7 週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備・復習時間は、約２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
「誰のためのデザイン？」増補・改訂版　D. A. ノーマン (著)　新曜社
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ (著)　太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著)　実務教育出版

【成績評価の方法と基準】
授業回数の 1/3　(5 コマ) 欠席および連続 3 日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15 分以上の遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D とする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
PC　必要なソフトウェアー（プレゼンテーション・CAD・グラフィック 等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】
欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】
In this program, students will acquire basic knowledge, skills and ways of thinking for product design.　This project-based learning course provides opportunities for students to develop their abilities to create viable proposals with fresh points of view, and create truly original designs of their own. Students will understand the significance behind repetitive processes in prototyping and verification in creative processes whilst acquiring their necessary skills.

DES200ND

プロダクトデザイン２（２０１９年度以降入学生）

安積　伸、秋山　かおり、林　登志也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。
クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】
ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面形式の実習です。
「プロダクトデザイン 1」の履修者は必ず「プロダクトデザイン 2」も履修しなければなりません。どちらか片方だけの履修はできません。
「プロダクトデザイン 1、2」の授業では、３～４人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく５つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。
また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 週	ガイダンス 色彩と木工①	全プロセスの俯瞰と把握　課題説明
2 週	色彩と木工② 蝋燭と鋳造と香り①	最終発表 課題説明
3 週	蝋燭と鋳造と香り② 金属とアップサイクリング①	最終発表 課題説明
4 週	金属とアップサイクリング② メッシュを用いたデザイン①	最終発表 課題説明
5 週	メッシュを用いたデザイン② 食とデザインとブランディング①	最終発表 課題説明
6 週	食とデザインとブランディング②	ワークショップ チュートリアル
7 週	食とデザインとブランディング① 無意識の行動①	最終発表 課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備・復習時間は、約２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
「誰のためのデザイン？」増補・改訂版　D. A. ノーマン (著)　新曜社
「考えなしの行動?」ジェーン・フルトン・スーリ (著)　太田出版
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著)　実務教育出版

【成績評価の方法と基準】
授業回数の 1/3　(5 コマ) 欠席および連続 3 日欠席の受講生は成績評価対象外となります。15 分以上の遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
制作成果（70%）提出書類（15%）出席（15%）
総合点が９０点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D とする。
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】
PC　必要なソフトウェアー（プレゼンテーション・CAD・グラフィック 等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】
欧州・日本でプロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline (in English)】
In this program, students will acquire basic knowledge, skills and ways of thinking for product design.　This project-based learning course provides opportunities for students to develop their abilities to create viable proposals with fresh points of view, and create truly original designs of their own. Students will understand the significance behind repetitive processes in prototyping and verification in creative processes whilst acquiring their necessary skills.

DES200ND

プロダクトデザイン３（２０１９年度以降入学生）

梶本　博司、宮沢　哲、谷口　武司、安積　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習教室は SD スタジオと、都市スタジオまたは建築スタジオで対面で実習制作します。各スタジオの学生配分、主担当教員はガイダンスの時にお知らせします。
プロダクトデザイン (製品デザイン) の造形デザインの開発プロセスの基本を学べる。課題となる製品デザイン開発の対象物 (課題) の立体形状を「理解し実験開発対象物の造形、使用性の完成度を上げるプロトタイプ（スタディーモック）という手法でデザインの開発を進める技術、手法を 演習を通して学ぶことができます。

【到達目標】
製品デザイン開発の基本として、基礎的なデザインコンセプトの立案方法、アイディアの展開方法、基礎的なデザイン製品制作方法をデザインモックアップ（模型）をスチレンボードやスタイロを使ってプロトタイプ（デザイン形態の試作）制作方法等製品のデザインを進める考え方、プロトタイプ制作方法を 学ぶことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習教室は SD スタジオにて対面で実習制作します。
この授業は、インダストリアルデザイン領域の中のプロダクトデザイン (製品デザイン) の機器・設備デザイン開発プロセスを実習を通して学習します。課題１～３の実習で重要なことは、立体形状を「手」で理解し実験開発対象物のフォルムのトライ&エラーを繰り返しは，発想の柔軟性を重視した造形と機能の関係を探る制作を行います．デザイン開発する対象物はガイダンスのときに指示します。対象物 の現状調査（ここでは基本構造）を行うことより現在の対象製品の実態を理解できます。対象物の改善点を洞察し、自己のコンセプト（考え方）からラフスケッチから完成予想デザインと機能に関係を学ぶことができます。 各開発ステップは記録しておくと役に立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１演習教室、教室分け、座席確認、主担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく 理解し積極的にデザインする準備 を行います。
2	ガイダンス PD3 第 1 課題 課題１「テープカッターデザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題１説明 この授業での制作プロセスの説明。 テープカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テープカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスッケチで表現できるようになる。
4	モックアップ（模型）制作材料スチレンボードについて　モックアップ（模型）制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイディアスケッチについてわかるようになる。 必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作（スチレンボード）	機構モデルの制作
6	機構モデル制作 各自制作物評価	スチレンボードで制作したテープカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題１提出、プレゼン、評価	課題１提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題１プレゼン、評価 課題２：制作材料２、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題２の説明。 課題 2 ：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用方法、基本制作造形の説明
9	課題２用材料の準備（スタイロの切り出：各自で行う）	ヒートカッターの使用方法がわかるようになる。
10	モデル制作治具についてフィレット C 面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレット C 面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題２提出	プロトタイプ２の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題３：テープカッターデザイン 2	スチレンボードとスタイロとで「テープカッター」プロトタイプの制作　アイデアスケッチから始める。
13	課題３デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題３ プレゼンテーション, 講評	プレゼンテーション, 講評からプロトタイプ（モックアップ）の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行えるようにする。主担当教員を割り当てます。 デザインコンセプトをワードで文章化し、提出し、チェックを受け ます。 プロトタイプ（モックアップ・スタディーモック）制作は、製品を生み出す基本の考え方をしっかりと自分の中で確立しとく必要があることがわかるようになります。自主的に複数のプロトタイプを制作し造形検証をするとより良い造形が生まれてくることがわかってきます。 自分の制作プロセスは、プレゼンで使用しますので、必ずドキュメントを画像で撮影しておくとプデザインのプロトタイプ発表の時にとても役に立つことがわかってきます。

【テキスト（教科書）】
授業支援システム「教材」にアップロードします。

【参考書】
「アイデア＆プロセスの法則」IDSA, リン・ハラー、チェルリ・ダングル・カレン編
出版：毎日コミニケーションズ、2005 年初版、￥3480

【成績評価の方法と基準】
より優れた完成度の高い各課題の成果を評価します。（評価基準を説明します）
課題の提出 :(100 %)
課題１ (15 %)
課題２ (15 %)
課題 3(70 %)

【学生の意見等からの気づき】
制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。
洞察、観察レベルの指導強化。

【その他の重要事項】
欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn the basics of model design development process in product design. They will study three-dimensional shapes used in product design development technology and methods to advance design development and usability including prototyping (study mock) techniques.

DES200ND

プロダクトデザイン４（２０１９年度以降入学生）

梶本　博司、安積　伸、宮沢　哲、谷口　武司

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習教室は SD スタジオと、都市スタジオまたは建築スタジオで対面で実習制作します。各スタジオの学生配分、主担当教員はガイダンスの時にお知らせします。
プロダクトデザイン (製品デザイン) の造形デザインの開発プロセスの基本を学べる。課題となる製品デザイン開発の対象物 (課題) の立体形状を「理解し実験開発対象物の造形、使用性の完成度を上げるプロトタイプ（スタディーモック）という手法でデザインの開発を進める技術、手法を 演習を通して学ぶことができます。

【到達目標】
製品デザイン開発の基本として、基礎的なデザインコンセプトの立案方法、アイディアの展開方法、基礎的なデザイン製品制作方法をデザインモックアップ（模型）をスチレンボードやスタイロを使ってプロトタイプ（デザイン形態の試作）制作方法等製品のデザインを進める考え方、プロトタイプ制作方法を 学ぶことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習教室は SD スタジオにて対面で実習制作します。
この授業は、インダストリアルデザイン領域の中のプロダクトデザイン (製品デザイン) の機器・設備デザイン開発プロセスを実習を通して学習します。課題１～３の実習で重要なことは、立体形状を「手」で理解し実験開発対象物のフォルムのトライ&エラーを繰り返しは，発想の柔軟性を重視した造形と機能の関係を探る制作を行います．デザイン開発する対象物はガイダンスのときに指示します。対象物 の現状調査（ここでは基本構造）を行うことより現在の対象製品の実態を理解できます。対象物の改善点を洞察し、自己のコンセプト（考え方）からラフスケッチから完成予想デザインと機能に関係を学ぶことができます。 各開発ステップは記録しておくと役に立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	１演習教室、教室分け、座席確認、主担当教員	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく 理解し積極的にデザインする準備 を行います。
2	ガイダンス PD3 第 1 課題 課題１「テープカッターデザイン」説明 構造体の調査方法 制作プロセス概要	演習授業概要説明 課題１説明 この授業での制作プロセスの説明。 テープカッター基本構造体の調査方法がわかる。
3	「テープカッターデザイン」基本構造体調査まとめ	基本構造体調査をスッケチで表現できるようになる。
4	モックアップ（模型）制作材料スチレンボードについて　モックアップ（模型）制作道具の使い方	スチレンボードモックアップ制作事例でスチレンボードの使い方がわかるようになる。 スチレンボードで構造制作、カット方法説明。基本デザインアイディアスケッチについてわかるようになる。 必要な道具の使い方がわか流ようになる。
5	機構モデル制作（スチレンボード）	機構モデルの制作
6	機構モデル制作 各自制作物評価	スチレンボードで制作したテープカッターの基本構造体を説明し評価をもらい指摘されたところを直し完成度を高めることができます。
7	課題１提出、プレゼン、評価	課題１提出、デザインプレゼンの仕方がわかるようになる。評価基準がわかるようになる。
8	課題１プレゼン、評価 課題２：制作材料２、スタイロモックアップ説明	評価の後の課題２の説明。 課題 2 ：フィレット、カット面による造形変化：ジグの使用方法、基本制作造形の説明
9	課題２用材料の準備（スタイロの切り出：各自で行う）	ヒートカッターの使用方法がわかるようになる。
10	モデル制作治具について フィレット C 面での造形制作	ジグの説明。 ジグを使った制作デモ、フィレット C 面取り方デモを見ることで制作方法がわかる。
11	課題２提出	プロトタイプ２の制作進捗を見ながら随時個別に具体的な製作手法を学ぶことができる。
12	課題３：テープカッターデザイン 2	スチレンボードとスタイロとで「テープカッター」プロトタイプの制作　アイデアスケッチから始める。
13	課題３デザインモックアップ制作 プレゼンテーション	デザインモックアップ制作 プレゼンテーション
14	課題３ プレゼンテーション, 講評	プレゼンテーション, 講評からプロトタイプ（モックアップ）の制作までの考え方がわかるようよになる。評価基準よりモックアップの完成度で重要なことがわかる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行えるようにする。主担当教員を割り当てます。 デザインコンセプトをワードで文章化し、提出し、チェックを受け ます。 プロトタイプ（モックアップ・スタディーモック）制作は、製品を生み出す基本の考え方をしっかりと自分の中で確立しとく必要があることがわかるようになります。自主的に複数のプロトタイプを制作し造形検証をするとより良い造形が生まれてくることがわかってきます。 自分の制作プロセスは、プレゼンで使用しますので、必ずドキュメントを画像で撮影しておくとプデザインのプロトタイプ発表の時にとても役に立つことがわかってきます。

【テキスト（教科書）】
授業支援システム「教材」にアップロードします。

【参考書】
「アイデア＆プロセスの法則」IDSA, リン・ハラー、チェルリ・ダングル・カレン編
出版：毎日コミニケーションズ、2005 年初版、￥3480

【成績評価の方法と基準】
より優れた完成度の高い各課題の成果を評価します。（評価基準を説明します）
課題の提出 :(100 %)
課題１ (15 %)
課題２ (15 %)
課題 3(70 %)

【学生の意見等からの気づき】
制作プロセスの説明強化。制作プロセスチャート作成の方法論指導 強化します。
洞察、観察レベルの指導強化。

【その他の重要事項】
欧州、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn the basics of model design development process in product design. They will study three-dimensional shapes used in product design development technology and methods to advance design development and usability including prototyping (study mock) techniques.

DES200ND

３ DCAD デザインＸ（２０１９年度以降入学生）

渡辺　仙一郎

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のデザイン・エンジニアリング及びマルチメディア表現において不可欠な要素である３次元モデリング表現を理解し、ソフト（サーフェス系 3D-CAD ： Rhinoceros）の基本操作を学びます。
また、工業デザインにおける外観形態（外観設計）とそれを稼動させる個々の実装ディバイス形態（実装設計）との密接な関係を３Ｄシミュレーションにより理解しながら個々の作品を完成させることを目的としています。

【到達目標】
3D モデリングソフトの基本操作を習得しながら造形デザインへの適用方法を学び、今後の制作活動におけるスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業前半では、講義で使用するサーフェス系 3D-CAD（Rhinoceros）の演習を行い、基本操作を習得します。
授業中盤以降は習得した技術を用いて、個人によるデジタル作品制作（課題 1、課題 2）を実習形式にて行います。講義前後の調査、研究も積極的に行ってください。
その他、造形デザイン（工業デザイン）のポイントや、コンセプト設定、デザインプレゼンテーションのレクチャー等も適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義内容ガイダンス	3D モデリング演習内容の説明。演習場の注意事項。」 デザイン開発実務上での事例説明。 機材取り扱い，および注意事項説明
2	3D モデリング実習-1	本講義で使用するサーフェス系 3D-CAD「Rhinoceros」の概要説明。 サーフェイス３ D とソリッド３ D の違いについて。 および演習を行う。拡大、縮小、回転等
3	3D モデリング実習-2	3D モデリングソフトの演習 ３ D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
4	3D モデリング実習-3	3D モデリングソフトの演習 ３ D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
5	課題 1 動物の 3D モデリング-1	任意の動物をデザインする ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリング化する
6	動物の 3D モデリング-2	任意の動物をデザインする ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリング化する
7	動物の 3D モデリング-3	課題 1 の 3D モデリング化　背景の作成
8	課題 1 ：提出、発表、講評	コンセプト概要、ラフ原案、三面図、背景を含むパース図 ※データ（USB メモリー）にて提出
9	課題 2 工業製品のデザイン-1	工業製品の外装，実装（機構）とデザインの関係性を講義し 基本的な工業製品の 3D モデリング実習を行う
10	工業製品のデザイン-2	実際の工業製品を参考に任意の外装デザイン及び実装計画を立てる ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリングを行う
11	工業製品のデザイン-3	課題 2 の 3D モデリング化。 各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。
12	工業製品のデザイン-4	課題 2 の 3D モデリング化 作品の背景を作成
13	工業製品のデザイン-5	課題 2 の 3D モデリング化 プレゼン資料の作成
14	課題 2 ：提出、発表、講評	コンセプト、ラフ原案、三面図、実装構成図、 背景を含むパース図 ※データ（USB メモリー）にて提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロダクトデザインの基本となる、製品コンセプトのたて方、コンセプトチャート作成、ラフスケッチの練習等を自主的に行ってください。
わからない事は、教員が指導しますので、積極的に質問してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布します。

【参考書】
Rhinoceros で極める 3D デジタル・デザイン、中島淳雄著、株式会社ラトラズ発行、2013 年、￥4,280+税
Rhinoceros+Grasshopper 、ノイズ・アーキテクツ編著、彰国社発行、2011 年、￥2,600+税

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品評価（70 %）
※ 2 課題配点（課題 1 ： 30 %、課題 2 ： 40 %）
3D モデリングソフトの習熟度、作品完成度
小テスト評価（20 %）—理解度
制作プロセス評価（10 %）—平常点
課題未提出は D

【学生の意見等からの気づき】
製品デザインプロセスの中でのデジタル機器の活用方法を紹介し、柔軟で多彩な 3D スキルの重要性と表現方法の具体的事例を演習に取り込んでいきます。

【学生が準備すべき機器他】
PC
USB メモリ
配布資料用クリアーファイル

【その他の重要事項】
様々な素材表現に挑戦してください。日常気になる素材を画像で収集しておくと、自作の素材集ができます。
■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
As one of today's essential components in design, engineering and multimedia, 3D modeling will be studied together with basic operations of the Rhinoceros 3D CAD surface software. In addition, through simulation studies of the close relation between appearance in industrial design and the implemented devices which motivate it, students aim to successfully create their own designs.

DES200ND

３ DCAD デザインＹ（２０１９年度以降入学生）

村田　桂太

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のデザイン・エンジニアリング及びマルチメディア表現において不可欠な要素である３次元モデリング表現を理解し、ソフト（サーフェス系 3D-CAD ： Rhinoceros）の基本操作を学びます。
また、工業デザインにおける外観形態（外観設計）とそれを稼動させる個々の実装ディバイス形態（実装設計）との密接な関係を３Ｄシミュレーションにより理解しながら個々の作品を完成させることを目的としています。

【到達目標】
3D モデリングソフトの基本操作を習得しながら造形デザインへの適用方法を学び、今後の制作活動におけるスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業前半では、講義で使用するサーフェス系 3D-CAD（Rhinoceros）の演習を行い、基本操作を習得します。
授業中盤以降は習得した技術を用いて、個人によるデジタル作品制作（課題 1、課題 2）を実習形式にて行います。講義前後の調査、研究も積極的に行ってください。
その他、造形デザイン（工業デザイン）のポイントや、コンセプト設定、デザインプレゼンテーションのレクチャー等も適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義内容ガイダンス	3D モデリング演習内容の説明。演習場の注意事項。」 デザイン開発実務上での事例説明。 機材取り扱い，および注意事項説明
2	3D モデリング実習-1	本講義で使用するサーフェス系 3D-CAD「Rhinoceros」の概要説明。 サーフェイス３ D とソリッド３ D の違いについて。 および演習を行う。拡大、縮小、回転等
3	3D モデリング実習-2	3D モデリングソフトの演習 ３ D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
4	3D モデリング実習-3	3D モデリングソフトの演習 ３ D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
5	課題 1 動物の 3D モデリング-1	任意の動物をデザインする ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリング化する
6	動物の 3D モデリング-2	任意の動物をデザインする ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリング化する
7	動物の 3D モデリング-3	課題 1 の 3D モデリング化　背景の作成
8	課題 1 ：提出、発表、講評	コンセプト概要、ラフ原案、三面図、背景を含むパース図 ※データ（USB メモリー）にて提出
9	課題 2 工業製品のデザイン-1	工業製品の外装，実装（機構）とデザインの関係性を講義し 基本的な工業製品の 3D モデリング実習を行う
10	工業製品のデザイン-2	実際の工業製品を参考に任意の外装デザイン及び実装計画を立てる ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリングを行う
11	工業製品のデザイン-3	課題 2 の 3D モデリング化。 各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。
12	工業製品のデザイン-4	課題 2 の 3D モデリング化 作品の背景を作成
13	工業製品のデザイン-5	課題 2 の 3D モデリング化 プレゼン資料の作成
14	課題 2 ：提出、発表、講評	コンセプト、ラフ原案、三面図、実装構成図、 背景を含むパース図 ※データ（USB メモリー）にて提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プロダクトデザインの基本となる、製品コンセプトのたて方、コンセプトチャート作成、ラフスケッチの練習等を自主的に行ってください。
わからない事は、教員が指導しますので、積極的に質問してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布します。

【参考書】
Rhinoceros で極める 3D デジタル・デザイン、中島淳雄著、株式会社ラトラズ発行、2013 年、￥4,280+税
Rhinoceros+Grasshopper 、ノイズ・アーキテクツ編著、彰国社発行、2011 年、￥2,600+税

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品評価（70 %）
※ 2 課題配点（課題 1 ： 30 %、課題 2 ： 40 %）
3D モデリングソフトの習熟度、作品完成度
小テスト評価（20 %）—理解度
制作プロセス評価（10 %）—平常点
課題未提出は D

【学生の意見等からの気づき】
製品デザインプロセスの中でのデジタル機器の活用方法を紹介し、柔軟で多彩な 3D スキルの重要性と表現方法の具体的事例を演習に取り込んでいきます。

【学生が準備すべき機器他】
PC
USB メモリ
配布資料用クリアーファイル

【その他の重要事項】
様々な素材表現に挑戦してください。日常気になる素材を画像で収集しておくと、自作の素材集ができます。
■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
As one of today's essential components in design, engineering and multimedia, 3D modeling will be studied together with basic operations of the Rhinoceros 3D CAD surface software. In addition, through simulation studies of the close relation between appearance in industrial design and the implemented devices which motivate it, students aim to successfully create their own designs.

DES300ND

インクルーシブデザイン（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）

安積　伸、三浦　秀彦

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。
世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンのユーザーをターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。
これまで極端なユーザーとして切り離されていた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。
インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】
本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は、３～４人のグループワークで行う。
各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的な問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。
また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査 - 問題定義 - 解決方の考案 - 試作 - フィードバック - 改良 - 完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作　テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作　テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作　テスト・フィードバック ビデオレポート　発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。
授業時間外に調査・試作・検証等を行い、翌週その様子を映像で発表してもらいます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「インクルーシブデザイン」という発想　ジュリア・カセム (著), 平井康之 (監修) ホートン・秋穂 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
課題提出作品７０点、制作プロセスの評価を３０点とします。
総合点が９０点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D とする。
最終作品が未提出な者は評価外とします。

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自の PC に入れ、習熟しておくこと。
また、ビデオ映像を撮りためておく大容量の外付 HDD を準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】
この授業は主に対面形式で行う。
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design.　Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough.　In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

DES300ND

デザイン・バックキャスティング（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）

松山　祥樹

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
問題解決や価値創造といった社会に対するデザインの役割は近年さらなる拡大を見せ、取り扱われるテーマや求められるアプローチも、その複雑性を増しています。
本授業では、日常生活での課題や環境問題などに加え、ジェンダーや人種に関する人権問題や、貧困や教育における社会格差など様々な事例を取り扱いながら、より良い未来に向けた問題解決のためのデザインの在り方を学びます。
一律に何が正しいと定義できない複雑なテーマに対し、あらゆる人々や物事に与える影響を考慮・検討しながら価値創出を模索する過程を通し、多角的な視点から物事の本質を見極め、解決に導く力を養います。

【到達目標】
本授業では、グループワークによる 2 つのテーマを通し、リサーチ、問題定義、解決提案とその具体化までを行う。
それぞれの提案はプロセスからアプトプットまでを動画もしくは冊子の形に美しくまとめ、自身の考えや提案を他者に正しくかつ魅力的に伝え、共感を導くツールにまで仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
第一課題では、共通のテーマに対しグループワークでの提案を行います。第二課題ではそれぞれのグループごとに課題選定を行い、その解決提案を行います。
各課題のプレゼンテーションの後、講義時間内にて講評によるフィードバックを行います。またディスカッションの時間を設けることで、設定したテーマや提案に対しての考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 講義 グループ分け 第１課題説明　(グループワーク)	全体概要の説明 講義 (SDGs とは、関連するデザイン事例) アイスブレイク 第 1 課題　概要説明 提案検討
2	第１課題 プレゼンテーション ディスカッション 講義 第 2 課題　概要説明 (グループワーク)	第 1 課題　チームごとによる提案発表 第 1 課題に関するディスカッション 講義 (ジェンダー、人権に関連するデザイン事例) 第２課題　概要説明 テーマ決定 リサーチ計画検討
3	第２課題 中間共有 リサーチまとめ、提案内容検討 講義	テーマ及びリサーチ状況の共有 講義 (貧困、衛生に関連するデザイン事例) 第２課題 リサーチ内容まとめ
4	第２課題　リサーチ内容の中間プレゼンテーション ディスカッション 講義	第２課題　チームごとによる中間発表 ディスカッション 講義 (環境、資源に関連するデザイン事例)
5	第２課題 進捗共有とディスカッション 試作やプロトの確認 講義	進捗共有とディスカッション 調査計画の立案（視察、インタビュー、デスクリサーチ） 試作及び実験計画の確認 講義 (メッセージの訴求や発信に関連するデザイン事例)
6	第２課題 進捗共有とディスカッション 試作やプロトの確認 講義	進捗共有（調査及び試作、実験状況） 提案ブラッシュアップ作業 アウトプット計画の立案
7	第２課題 最終プレゼンテーション 総評	第２課題 最終提案発表 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にまとまりきらない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。
日常生活を注意深く観察し、暮らしの不便や困りごとを見出すことに加え、自身とは違う環境や価値観の人々、世界で起きている出来事やニュースについても積極的に情報収集し、見識や考察を深めて下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「Design as an Attitude -姿勢としてのデザイン-」　アリス・ローソーン (著), 石原薫 (翻訳) フィルムアート社

【参考書】
授業内で必要に応じ適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度の平常点評価を 30 点、課題プレゼンテーション内容を 40 点、最終成果物を 30 点とした計 100 点満点で評価する。
総合点が９０点以上を A+、９０点未満８０点以上を A、８０点未満７０点以上を B、７０点未満６０点以上を C、６０点未満を D とする。
ただし、１点でも提出レポートが欠けている者は D とする。
１コマ欠席− 10 点、遅刻− 5 点。ただし、５コマ以上欠席した者は D とする。
（なお、病欠、忌引き、SSI 大会、公式練習等は欠席対象から除外、ただし当該証明書を提出する事。）

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
提案作成及びプレゼンテーションに必要なソフトウエアを各自の PC に入れておく。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
The role of design in society has been expanding further in recent years, and the problems and approaches which designers deal with have become complex.

This course teaches how design can be used to solve problems for a better future. Various themes are used in this course that cannot be defined as being right : daily-life problems, discrimination and human rights related to gender and race, and social disparities in poverty and education.
In Design Backcasting, you develop your ability of identifying complex problems by design considering the impact on people and societies from multiple perspectives.

DES300ND

サービスＵＸデザイン（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）

平田　昌大

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人々の価値観の多様化、技術の発展などを背景に、製品・サービスに求められる価値はより複雑多様化している。「サービスデザイン」とは、そういった製品・サービス (または取り組み) を開発するために、テクノロジー・クリエイティブ・ビジネスを包含した総合的な視点でアプローチするデザイン領域である。本授業では、顧客体験 (UX) を重点とした新規サービスの企画を行い、調査からアイデア発想、プロトタイプ、プレゼンテーションまでの一連の過程のなかで、サービスデザインの基本的な視座を獲得する。
今年度は「Intrinsic Motivation(内発的動機)」をテーマに、自身の興味関心のある領域を基軸としたサービスを企画し、投資家へのプレゼンテーションを想定した演習課題を行う。

【到達目標】
- テーマ課題を通して、基本的なサービスデザインプロセスを学び、考案したサービスを第三者へ魅力的に伝えることを目標とする。
- 成果物として、考案したサービスのプレゼンテーション及びプロトタイプの制作を行う。なお、UI(アプリケーションやウェブサイトなど) は必須ではないが、授業内で UI デザインの基礎について触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
原則としてチーム制作（受講人数により 1 チーム 3 〜 5 名程度）とする。課題制作とその指導を行う演習を中心とし、必要に応じて関連する知識や方法を伝えるための講義を行う。課題制作の進捗に合わせて、プレゼンテーションや内容に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体説明	・全体概要の説明 (本授業の目的・意義・スコープ) ・講義 (「サービスデザイン・UX デザイン」とは) ・アイスブレイク (既存サービスのリバースエンジニアリング) ・好き語りによるチームビルディング
2	テーマ探索 リサーチ計画・実施	・講義 (リサーチの目的・手法・プロセスについて) ・個人/グループワーク (テーマの探索・仮説立案) ・グループワーク (リサーチ計画・リサーチ)
3	リサーチ結果の共有・分析	・講義 (リサーチ分析・インサイト発掘・アイディエーション) ・個人/グループワーク (リサーチ結果共有・分析・インサイト発掘)
4	アイディエーション）	・個人/グループワーク (アイディエーション) 解説：ペルソナ、ジャーニーマップづくりの紹介と実践
5	アイデア中間発表	・アイデア全体発表 (リサーチ結果にもとづくアイデアの発表) ・講義 (UX 検討・ビジネスモデリング・フィジビリティ検証)
6	UX 検討 ビジネスモデリング フィジビリティ検証	・個人/グループワーク (アイデアブラッシュアップ・コンセプトアップ)
7	プロトタイピング ユーザーテスト (UX 課題点の抽出)	・講義 (プロトタイピング・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク (プロトタイピング・ユーザーテスト)
8	サービスアイデアのブラッシュアップ	・グループワーク (アイデアブラッシュアップ・ユーザーテスト)
9	UI デザイン ユーザーテスト (UI 課題点の抽出)	・講義 (UI デザイン・ユーザーテスト) ・個人/グループワーク (UI デザイン・ユーザーテスト)
10	サービス詳細化	・グループワーク (UI デザイン・サービス詳細化)
11	プレゼンテーション作成	・講義 (サービス提案のプレゼンテーション) ・個人/グループワーク (最終提案骨子制作)
12	提案のブラッシュアップ	・グループワーク (最終提案資料作成)
13	最終プレゼンテーション	・最終プレゼンテーション
14	最終プレゼンテーション 総評	・最終プレゼンテーション ・総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき各 2 時間を標準とする。日常生活で感じる課題や不満を内省的に観察すると共に、身辺の製品・サービスの意図や構造を考察すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜、授業内で参考資料、文献、サイト等を紹介する。

【参考書】
1.「This is Service Design Thinking 日本語版」マーク・スティックドーンほか編著/ビー・エヌ・エヌ新社
2.「This is Service Design Doing サービスデザインの実践」マーク・スティックドーンほか 編, ビー・エヌ・エヌ新社
3.「デザインリサーチの教科書」木浦幹雄 著, ビー・エヌ・エヌ新社
4.「リーン・スタートアップ」伊藤穣一ほか著, 日経 BP
5.「起業の科学 スタートアップサイエンス」田所雅之著, 日経 BP
6.「ビジネスモデル図鑑 2.0」近藤哲郎著, KADOKAWA

【成績評価の方法と基準】
出席・授業態度（40 点）
提出物（20 点）
プレゼンテーション内容（40 点）
総合点が 90 点以上を S とし、
89〜87 点を A+、86〜83 点を A、82〜80 点を A-
79〜77 点を B+、76〜73 点を B、72〜70 点を B-
69〜67 点を C+、66〜63 点を C、62〜60 点を C-
60 点未満を D とする。
5 コマ欠席および連続 3 日欠席の受講生は成績評価対象外とする。なお 15 分以上の遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなる。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
PC（プレゼン資料作成）、必要に応じてプロトタイピングツール（AdobeXD など）や、オンラインホワイトボードツール（Miro など）、授業内で紹介する無料のアプリなど。必要に応じてプロトタイプ制作用の素材（紙や画材など）や加工道具が必要となる。

【その他の重要事項】
サービスデザイナー/UIUX デザイナーとしての経験を有する教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Service design is a design field that approaches the development of complex products and services from a holistic perspective that encompasses technology, creativity, and business. In this class, we will plan a new service with an emphasis on user experience , and acquire a basic perspective on service design through a series of processes from research to idea generation, prototyping, and presentation.
This year's theme is "Intrinsic motivation," and the students will plan a service based on their own area of interest, and conduct an exercise in preparation for a presentation to investors.
【Learning Objectives】
The goal is to learn the basic service design process through thematic assignments and to communicate the devised service in an attractive manner.
Students will be required to make a presentation and a prototype of their service. In addition, UI (applications, websites, etc.) is not required, but the basics of UI design will be covered in class.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is two hours each.
Students should observe the frustrations they feel in their daily lives and consider the intentions and structures of the products and services around them.
【Grading Criteria /Policy】
Attendance and class attitude (40 points)
Submission of work (20 points)
Presentation content (40 points)
A total score of 90 or higher is considered an S.
A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80
A+ for 89-87, A for 86-83, A- for 82-80, B+ for 79-77, B for 76-73, B- for 72-70, C+ for 69-67, and C- for 69-67.
A score of 69 to 67 is C+, 66 to 63 is C, 62 to 60 is C-.
A score of less than 60 is considered a D.
Students who are absent for 5 classes or 3 consecutive days will not be graded. Students who are tardy for more than 15 minutes will be counted as one absence. (However, if there is a valid reason, both absences and tardies will not be counted as one absence.)

DES300ND

映像制作演習（２０１９年度以降入学生）（２０２１年度開講）

北村　拓司

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、プロモーション映像の制作を通し、プロダクトの “魅力の伝え方” を学びます。
消費者が製品を知るきっかけは「映像（ビジュアル）」です。そのためビジネス/産業界では映像の重要性が高まり、質の高い映像による情報提供が喫緊の課題のひとつとなっています。
本演習では、製品のプロモーション映像を制作します。ストーリー構築・撮影・編集を各自で行い、1 本の映像作品を完成させます。 映像のクオリティを高め、人に伝わる映像の完成を目指します。
最も大切なコアコンセプトを抽出し、言語化し、ストーリーに組み立てます。ストーリーが完成した後は、それを元に映像化を行います。また、撮影のクオリティを高めるための方法に関しても演習を行います。映像クオリティの大切さを理解し、視覚のデザインに対する意識を高めます。
※題材となるのは、各自が授業で創作した「目覚まし時計」のプロモーション映像となります。

【到達目標】
質の高いプロモーション映像を制作するために必要な、以下の力を身につける事を目標とする。
①製品を魅力的に伝える映像制作技術を習得する。
②製品に込めた “想い” や “機能” を伝えるストーリーテリングの能力を身につける。
③映像に関する知見を深め、映像のクオリティに対する意識を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各自がこれまで制作した「目覚まし時計」を題材に、プロモーション映像を制作します。
ムービーは各自で制作を行い、授業ではアイデアを開発し発表し、そのレビューを行います。
授業はワークショップ形式で進行していきます。
「キャッチコピー開発」「ストーリー開発」「撮影」「編集」と、本講義は４つのステージに区分されます。
最終制作物として１本のプロモーション映像作品を完成させ、講評会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロモーション映像とは キャッチコピーの作り方	プロモーション映像の役割について学び、キャッチコピーを開発する。
2	ステートメント開発 コンセプトをストーリー化する	自身のプロダクトのコアコンセプトを言語化する。 発表 → 講評 → 修正を行う。
3	企画コンテ（ストーリー）について ストーリーを可視化する	ストーリーの構造解説（課題～解決）。 プロモーション映像事例を見ながら学ぶ。
4	企画コンテ開発	プロダクトのストーリーを、4 コマの絵コンテに描く。それを８コマに増やし、発表、講評、 修正の工程で構築する。
5	演出コンテとは ストーリーを表現に落とし込む	演出コンテに関する解説。表現に関して学ぶ。ストーリーを最適な “表現” に落とし込んだ絵コンテ（16 コマ）を作成する。
6	演出コンテ実習 16 コマのストーリー作成	演出コンテを発表。講評、修正を行いながら構築する。
7	撮影に関して 撮影に関する講義	撮影がどの様に行われるかを解説。 感情を表現する撮影を実施で体験する。
8	プロダクトの撮影について	撮影の方法論（静物描写） プロダクトの表現方法、撮影技術を学ぶ。
9	編集実習１	ナレーションを考案し、自身の PC で編集を行う。
10	編集実習２	ナレーションを考案し、自身の PC で編集を行う。
11	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
12	中間発表	自身で撮影した素材をもとに各自で編集し、授業で発表を行う。
13	作品発表	最終作品の発表を行い、講評を行う。
14	最終講評	最終作品に関する講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業回数の 1/3（5 回）欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績対象外となります。10 分以上の遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。
（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。
授業参加・態度（35%）企画開発段階での評価（30%）映像作品の評価（35%）

【学生の意見等からの気づき】
進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ（自前のモノを使用/一眼でも携帯でも可）/ PC（学校 or 自身の PC を使用）。
自身の PC で編集を行う場合、事前に編集ソフト（各自が使いやすい動画編集ソフトを使用して下さい。インストールしていない人は、無料動画編集ソフト『iMovie』などを PC に入れて使用できる状態にしておいて下さい）。
授業では、Adobe プレミアを使用して編集を行います。

【その他の重要事項】
CM ディレクターとして豊かな経験を持つ教員が、実務で必要な知識・経験・考え方に関する指導を行います。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn how to communicate and appeal the character of product and the design through the practical exercise of the making promotional video.
“Visual Image” is always the catalyst for consumers to know about products.

Today, it is extremely important to communicate with high quality visual message in business / industry, and it is a big issue to improve it.
The story of the promotional video of each students' will be based on the concept of their own products. We extract the core of the concept, and translate it into language and build it into a story. The students will make their own video works based on the story.
In this course, every student will produce their own promotional video for their product. They will be responsible for the planning, shooting and editing their storyline. Improving the quality of the video works, student will produce a film that can communicate with wide range of audience.
The course is also including the exercise of shooting photograph / cinematograph. The exercise will cultivate the mindset to create high standard visual image and to improve the awareness of the quality standard of visual design.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曽　裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに，ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で，ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】
本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び，都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で講義と演習を行う予定ですが，状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し，講義関連 7 回，演習関連 7 回で構成します。
なお，講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として，敷地・環境・地割りについて説明をして，知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い，知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明て，知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に，造園材料の説明を行い，知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性と価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し

【参考書】
学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】
講義に関するレポート（30 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50 %），平常点（20 %）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】
独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が，その経験を活かして，ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また，登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】
（Course outline） and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape designIn addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.
・（Learning Objectives） goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space. Is to understand.
・（Learning activities outside of classroom）understand.
Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want. In addition, I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曽　裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに，ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で，ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】
本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び，都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で講義と演習を行う予定ですが，状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し，講義関連 7 回，演習関連 7 回で構成します。
なお，講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として，敷地・環境・地割りについて説明をして，知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い，知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明て，知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に，造園材料の説明を行い，知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性と価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し

【参考書】
学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】
講義に関するレポート（30 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50 %），平常点（20 %）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】
独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が，その経験を活かして，ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また，登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】
（Course outline） and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape designIn addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.
・（Learning Objectives） goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space. Is to understand.
・（Learning activities outside of classroom）understand.
Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want. In addition, I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曽　裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに，ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で，ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】
本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び，都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で講義と演習を行う予定ですが，状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し，講義関連 7 回，演習関連 7 回で構成します。
なお，講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として，敷地・環境・地割りについて説明をして，知見を高める。
(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い，知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明て，知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に，造園材料の説明を行い，知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性と価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のや戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し

【参考書】
学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】
講義に関するレポート（30 %）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50 %）, 平常点（20 %）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】
独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が，その経験を活かして，ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また，登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】
（Course outline） and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape designIn addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.
・（Learning Objectives） goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space. Is to understand.
・（Learning activities outside of classroom）understand.
Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want. In addition, I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を６回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で６回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90 %）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10 %）として加点される。合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 6 名の講師を選定し招聘している。2021 年度よりデザイン工学部 3 学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

LANe200NA

テクニカルライティング X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct ：正確に書く，Clear ：明確に書く，Concise ：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第 2 回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 3 回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびに be 動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 4 回	remain 等のＳＶＣ と万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 5 回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 6 回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 7 回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 8 回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 9 回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 10 回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 11 回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 12 回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 13 回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第 14 回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回～第 13 回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」，2020 年 10 月 30 日初版，研究社，定価 1,800 円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．→　平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
④複数文を適切に組み立てできる．→ 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス： keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA

テクニカルライティング X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct ：正確に書く，Clear ：明確に書く，Concise ：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第 2 回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 3 回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびに be 動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 4 回	remain 等のＳＶＣ と万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 5 回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 6 回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 7 回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 8 回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 9 回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 10 回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 11 回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 12 回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 13 回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第 14 回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回～第 13 回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」，2020 年 10 月 30 日初版，研究社，定価 1,800 円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．→　平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
④複数文を適切に組み立てできる．→ 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス： keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA

テクニカルライティング X

大友　敬三

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct ：正確に書く，Clear ：明確に書く，Concise ：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第 2 回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 3 回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびに be 動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 4 回	remain 等のＳＶＣ と万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 5 回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 6 回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 7 回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 8 回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 9 回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 10 回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 11 回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 12 回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 13 回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第 14 回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回～第 13 回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」，2020 年 10 月 30 日初版，研究社，定価 1,800 円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．→　平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
④複数文を適切に組み立てできる．→ 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス： keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA

テクニカルライティング Y

浅川　英理子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct ：正確に書く，Clear ：明確に書く，Concise ：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第 2 回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 3 回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびに be 動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 4 回	remain 等のＳＶＣ と万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 5 回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 6 回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 7 回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 8 回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 9 回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 10 回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 11 回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 12 回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 13 回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第 14 回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回～第 13 回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」，2020 年 10 月 30 日初版，研究社，定価 1,800 円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．→　平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
④複数文を適切に組み立てできる．→ 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス： keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA

テクニカルライティング Y

浅川　英理子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct ：正確に書く，Clear ：明確に書く，Concise ：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第 2 回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 3 回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびに be 動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 4 回	remain 等のＳＶＣと万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 5 回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 6 回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 7 回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 8 回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 9 回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 10 回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 11 回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 12 回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 13 回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第 14 回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回～第 13 回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」，2020 年 10 月 30 日初版，研究社，定価 1,800 円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．→　平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
④複数文を適切に組み立てできる．→ 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス： keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LANe200NA

テクニカルライティング Y

浅川　英理子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化の進展に伴い，日本人にとっても英語による国際社会に向けた情報発信スキル，特に「書く英語」の重要性が増している．本科目では，技術系業務で必要となる技術英文作成技術（テクニカルライティング）修得に役立つよう，技術英語の決まりごとや文法事項の分析，英作文演習を通じて，正確・簡潔・明解な英文を書く基礎力を身につける．

【到達目標】
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．
④複数文を適切に組み立てできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・指定教科書に基づく解説については，パワーポイントスライドを使用する．
・指定教科書を使い，Stage 1（基本的な英文の組み立て）⇒Stage 2（英文表現の幅の広げ方）⇒Stage 3（長文・複数文の組み立て）の順で，正確，簡潔，明確に英作するためのポイントを例文を交えて解説する．
・英作練習のため，授業中には学生に簡単な口頭発表を求める．
・毎回の授業では，技術英語の単語や英作に関する理解度の定着を図るための小テストを課す．
・小テストについては，学習支援システムのテスト機能または課題機能を使う予定とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・シラバスに基づき，授業計画，授業運営方法，評価方法等を把握する．また，技術英文作成に必要となる３Ｃ（Correct ：正確に書く，Clear ：明確に書く，Concise ：簡潔に書く）を理解する． ・実例演習（小テスト）
第 2 回	ＳＶＯ	・主語が動作や無生物の場合のＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 3 回	ＳＶとＳＶＣ	・主語と動詞だけで構成されるＳＶ文ならびに be 動詞を使うＳＶＣ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 4 回	remain 等のＳＶＣ と万能動詞	・簡潔で明確な動詞を使うＳＶＣ文ならびに簡潔で便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 5 回	効果的・具体的な他動詞，便利な他動詞	・ＳＶＯ文を作る上で効果的な動詞ならびに「～を可能にする」「～を許可する」「～を引き起こす」等の便利な動詞を使うＳＶＯ文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 6 回	時制と受け身	・英語の時制を明確に表す動詞変化ならびに受け身文（受働態）の効果的な使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 7 回	数・冠詞と助動詞	・英語の細かいニュアンスを表す前置詞ならびに助動詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 8 回	命令形と前置詞	・具体的な動作を表す動詞を使う命令形ならびに複数の語を関係づける前置詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 9 回	分詞と関係代名詞	・形容詞の役割，文全体に説明を加える分詞・分詞構文，ならびに２つの文の共通部分を関係づける関係代名詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 10 回	to 不定詞と副詞	・未来志向の to 不定詞ならびに動詞や文全体にニュアンスを加える副詞を使う英文表現を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 11 回	比較と略語・句読点	・形容詞や副詞の比較級を使う英文表現ならびに英文を読みやすくする略語・句読点の使い方を学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 12 回	複文構造と文の接続	・接続詞（等位接続詞，従属接続詞）を使う複文の組み立てを学ぶ． ・実例演習（小テスト）
第 13 回	技術英文作成のポイント	・これまでに学んだ技術英語作成におけるポイントを振り返る． ・実例演習（小テスト）
第 14 回	まとめ	・期末試験により，技術英文の組み立てや表現等に関する理解度の定着を確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回～第 13 回授業に共通して，以下の（準備学習），（復習）が必要となります．
（準備学習）
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「習得項目」の説明を読んで各回で学ぶ英作のポイントを把握しておきましょう．
・各回授業に対応する教科書の Stage ごとの「例文」を自分で英作してみましょう．
・「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語の意味を確認しましょう．
（復習）
・各回の授業の実例演習（小テスト）で誤った点を教科書等で確認しましょう．
・各回の「習得項目」や「例文」で使われている単語のうち必須英単語暗記しましょう．
・授業で取り上げなかった「例文」について，自分で英作しましょう．
・例文について音声がダウンロードできる．これにより音声を再生して視聴したり，あるいは口に出して練習して例文を覚えましょう．ダウンロードのサイトは．研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」のサイトから音声データがダウンロードできます．
（学習時間）
・毎回の授業に関する（準備学習）と（復習）に要する学習時間は，それぞれ２時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
・中山裕木子著「技術英文の基本を学ぶ例文 300」，2020 年 10 月 30 日初版，研究社，定価 1,800 円＋税

【参考書】
・参考書は特に指定しません．
・研究社ホームページ（http://www.kenkyusha.co.jp/）の「音声・各種資料ダウンロード」にアクセスして指定教科書の 300 例文の音声をダウンロードして，音声を聞いて口に出して発音する練習が英文作成技術の修得に効果的です．

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末試験の配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
（到達目標と評価の対応）
①技術英語に必須な単語を理解（和 → 英，英 → 和）できる．→　平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
②主語，動詞，必要な要素で構成する英文を組み立てできる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
③文法項目を理解して英文表現の幅を広げることができる．→　平常点 15 点＋期末試験 20 点＝小計 35 点
④複数文を適切に組み立てできる．→ 平常点 5 点＋期末試験 10 点＝小計 15 点
・平常点には，小テストと発表等が含まれる．
・期末試験とは，テキストやノートを参照しない筆記試験を指す．
・４回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・英作については，基本となる文法事項の役割や英文組立てのプロセス等に重点を置いた説明を子心がける．英作の練習について，学生から解答案を発表してもらう等，学生同士や学生と教員との間でコミュニケーションを図る．

【学生が準備すべき機器他】
・教材配布や小テスト等については，学習支援システムを使うので同システムの操作に充分に慣れておくこと．
・授業中に学習支援システムを使うこともあるので，PC，タブレット，スマートフォン等の機器を携行することが望ましい．
・その他，授業に関わる連絡は学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
・X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．
・英文法の基礎事項（少なくとも，動詞の単・複数形変化、時制変化）について復習しておくことが望ましい．
・質問等については，授業終了後に教室で，あるいは電子メイルで受付ける．担当教員のメイルアドレス： keizo.ohtomo.td@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises on practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required in their careers.
1) You will acquire technical terms in Japanese as well as English.
2) You will develop an English sentence including a subject, a verve, and other terms.
3) You will digest crucial grammars to improve your technical expression in English.
4) You will organize multiple English sentences with technical terms and/or sentence structure for technical English.
【Learning activities outside of classroom】
You are required to tackle the following preparations and reviews through the second to the thirteenth classes in the schedule.
< Preparation >
1) You should examine specified learning items in the textbook according to the class schedule to identify crucial issues for technical English.
2) You should independently attempt to develop English sentences listed as example sentences.
3) You should analyze technical terms specified in the learning items and the example sentences.
< Review >
1) You should review your mistakes in the small test with reference to the textbook.
2) You should memorize technical terms involved in example sentences using word lists in the textbook.
3) You should independently practice English composition for untouched example sentences in the class.
4) You can download audio files for example sentences employed in the textbook from http://www.kenkyusha.co.jp/. This will help you to practice phonetical reading and acquire the example sentences.
< Learning Hours >
1) You should consume generally about two hours for both preparations and reviews.
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Acquisition of technical terms in Japanese as well as English: class participation 5%+final examination 10%= total 15%
2) Development of an English sentence: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
3) Improvement of technical expression in English: class participation 15%+final examination 20%=total 35%
4) Organization of multiple English sentence: class participation 5%+final examination 10%=total 15%
A mark in class participation includes small tests, responses, and others.
Final examination will be conducted without any references notes.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

PRI200NA

数理統計学

牧野　倫子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し，データ解析を行うことによって，現状の把握，推測，そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】
・統計学の基本を習得でき，主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
・標本データの分析手法を習得し，実際に主な統計量を求め，分析をすることによって状況把握をすることができる。
・中心極限定理の内容を理解する。
・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し，実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　30%
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　40%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡，講義教材掲示，課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し，課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い，理解する。
3	確率	集合と事象，確率と確率空間，確率の基本性質，加法定理など，もとになる確率の基本を復習確認し，事象の独立性及び従属性，ベイズの定理について学習し，演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，二項分布，ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，指数分布，正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	２変数確率変数について理解する。
7	テスト1，まとめと解説	第１～６回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し，中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し，データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ 2 乗分布，t 分布，F 分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト２，まとめと解説	第８～１３回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
★講義中に講義内容と確認演習を確認し，課題を行う。
★課題の解答を確認し，質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし，考察の仕方を学習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】
・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編　東京大学出版会　2004 年）
★統計学演習（村上正康，安田正實　共著　培風館　2010 年）
★統計学基礎（統計検定３級・２級対応）　日本統計学会
★統計学の基礎　（栗栖　忠　他　裳華房　2017 年）

【成績評価の方法と基準】
テスト１：４０パーセント
テスト２：４０パーセント。
課題・レポート課題：２０パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で，具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンにてエクセルの関数計算ができ，統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は，学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】
今まで学習した確率統計および，微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って，実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が，その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.
Learning Objectives:
At the end of the course, students are expected to A and B.
Learning activities outside of classroom:
Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination:40%、Term-end examination: 40%、Short reports and in class contribution: 20%.

PRI200NA

数理統計学

牧野　倫子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し，データ解析を行うことによって，現状の把握，推測，そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】
・統計学の基本を習得でき，主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
・標本データの分析手法を習得し，実際に主な統計量を求め，分析をすることによって状況把握をすることができる。
・中心極限定理の内容を理解する。
・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し，実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎					◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡，講義教材掲示，課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し，課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い，理解する。
3	確率	集合と事象，確率と確率空間，確率の基本性質，加法定理など，もとになる確率の基本を復習確認し，事象の独立性及び従属性，ベイズの定理について学習し，演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，二項分布，ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，指数分布，正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	２変数確率変数について理解する。
7	テスト1，まとめと解説	第１～６回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し，中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し，データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ 2 乗分布，t 分布，F 分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト２，まとめと解説	第８～１３回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
★講義中に講義内容と確認演習を確認し，課題を行う。
★課題の解答を確認し，質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし，考察の仕方を学習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】
・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編　東京大学出版会　2004 年）
★統計学演習（村上正康，安田正實　共著　培風館　2010 年）
★統計学基礎（統計検定３級・２級対応）　日本統計学会
★統計学の基礎　（栗栖　忠　他　裳華房　2017 年）

【成績評価の方法と基準】
テスト１：４０パーセント
テスト２：４０パーセント。
課題・レポート課題：２０パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で，具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンにてエクセルの関数計算ができ，統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は，学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】
今まで学習した確率統計および，微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って，実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が，その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA

数理統計学

牧野　倫子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し，データ解析を行うことによって，現状の把握，推測，そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】
・統計学の基本を習得でき，主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
・標本データの分析手法を習得し，実際に主な統計量を求め，分析をすることによって状況把握をすることができる。
・中心極限定理の内容を理解する。
・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し，実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡，講義教材掲示，課題提出等を行う。
※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し，課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い，理解する。
3	確率	集合と事象，確率と確率空間，確率の基本性質，加法定理など，もとになる確率の基本を復習確認し，事象の独立性及び従属性，ベイズの定理について学習し，演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，二項分布，ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布，指数分布，正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	２変数確率変数について理解する。
7	テスト1，まとめと解説	第１～６回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し，中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し，データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ 2 乗分布，t 分布，F 分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2，まとめと解説	第８～１３回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
★講義中に講義内容と確認演習を確認し，課題を行う。
★課題の解答を確認し，質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし，考察の仕方を学習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】
・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編　東京大学出版会　2004 年）
★統計学演習（村上正康，安田正實　共著　培風館　2010 年）
★統計学基礎（統計検定３級・２級対応）　日本統計学会
★統計学の基礎　（栗栖　忠　他　裳華房　2017 年）

【成績評価の方法と基準】
テスト１：４０パーセント
テスト２：４０パーセント。
課題・レポート課題：２０パーセント。

【学生の意見等からの気づき】
モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で，具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンにてエクセルの関数計算ができ，統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は，学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】
今まで学習した確率統計および，微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って，実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が，その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】
In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤　浩子、土屋　愛自

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の１つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー (NPO 等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】
市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○					◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は実社会で活躍されている２人の講師を加えて進める．住民参加，NPO 活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし，住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念とその必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI 等によるマネジメント制度について理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて 3 つのケーススタディに取り組む
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO 法人によるタウンマネジメントについて	NPO 法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネージメント概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	タウンマネージメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版 BID の概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの線的な事例と課題について	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市、長岡市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度，拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HP などで事例検索
4. 演習課題をまとめる
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する

【参考書】
・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】
２つのテーマに関する提出レポートにより評価する．演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
・レポート 85 %
・演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO 法成立以前から主に NPO 支援分野で活動を続け、現在も複数の NPO で役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
To acquire management method of citizen participation for urban development.
【Learning activities outside of classroom】
1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤　浩子、土屋　愛自

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、持続可能な都市を構築するための政策の１つであるタウンマネジメントについて学ぶことを狙いとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO 等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】
市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は実社会で活躍している２人の講師を加えて進める．住民参加，NPO 活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし，住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについて概略について	タウンマネージメントの概念とその必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI 等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて 3 つのケーススタディに取り組む
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO 法人によるタウンマネジメントについて	NPO 法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	タウンマネジメント事例（都市施設とインフラの視点）について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメントについて理解する。
9	タウンマネジメントの先進的な取り組みについて	日本版 BID の概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネージメントの先進的な取り組みとその課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市の事例）
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）について	タウンマネージメントを補完する国の制度，拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）について	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HP などで事例検索
4. 演習課題をまとめる
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する

【参考書】
・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】
２つのテーマに関する提出レポート、発表により評価する．
・レポート 85 %
・演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO 法成立以前から主に NPO 支援分野で活動を続け、現在も複数の NPO で役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
To acquire management method of citizen participation for urban development.
【Learning activities outside of classroom】
1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤　浩子、土屋　愛自

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は持続可能な都市を構築するための政策の１つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー (NPO 等)、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】
市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は実社会で活躍されている２名の講師を加えて進める．住民参加，NPO 活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし，住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネージメントについての概略	タウンマネージメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI 等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3 つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO 法人によるタウンマネジメント総括	NPO 法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版 BID の概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネージメントを補完する国の制度，拠点開発型タウンマネージメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネージメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HP などで事例検索
4. 演習課題をまとめる
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を配布する

【参考書】
・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】
２つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する．演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート 85 %
演習課題　15 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO 法成立以前から主に NPO 支援分野で活動を続け、現在も複数の NPO で役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.
【Leaning Objectives】
To acquire management method of citizen participation for urban development.
【Learning activities outside of classroom】
1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.
This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.
【Grading Criteria/Policy】
To be evaluated by a report and 3 exercises.
Report 85%
Exercises 15%

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３ D プリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50 %
２．レポート　　50 %
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３ D プリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50 %
２．レポート　　50 %
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎　健晴

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に着け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
　企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鋳鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンプラ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成成形から３ D プリンターまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり６～７名で１０グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第１回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】
WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】
第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。
１．プレゼンテーション（発表）
１３，１４回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。　　50 %
２．レポート　　50 %
　グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

ADE200NB

デザインスタジオ４

下吹越　武人、榮家　志保、岩佐　明彦、山﨑　健太郎、池田　賢、青木　弘司

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、図面・模型の製作を通じて、具体的な課題に取り組み、設計のプロセスを体験的に学んでいく。また、グループ課題を通して、チームワークにおけるコミュニケーション能力を培う。

【到達目標】
・抽象的な概念を空間化する能力を養う
・想定される行動場面に対して適正な空間を作り出す技術を身につける
・空間的アイデアを構法計画に還元して検討する
・環境負荷低減の観点から建築を検討する
・空間の特徴を定性的・定量的に評価する技術を身につける
・敷地周辺地域の特徴を抽出しレイヤー的に理解する
・グループワークを効果的・効率的に行う方法を身につける
・空間を表現・伝達する技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインスタジオ 3 に引続き、2 つの設計課題を通じて、図面と模型による建築設計を学ぶ。第 1 課題はグループリサーチを行い、第 2 課題は個人課題とする。毎週のエスキスから得られるフィードバックを積み重ねながら案を発展させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課題出題 「現代建築ビジターセンター」	・全体ガイダンス ・課題説明、グループディスカッション
2	リサーチ中間報告 （クラス毎）	・各グループの進捗状況を発表 ・グループ間でリサーチ内容の共有化を図る
3	リサーチ発表 （全体）	・リサーチ結果の報告および空間デザインの構想を発表
4	エスキース 1	・模型、図面によるスタディチェック ・空間構想、イメージをスケッチや模型にまとめる コンセプトスタディ 配置・平面、断面検討
5	エスキース 2	・デザインデベロップメント ・エスキースを図面にまとめる ・プレゼンテーション検討
6	・合同講評会 ・第 2 課題出題 「都市の文化拠点」	・選抜者が自案の発表を行い、これを題材に共通の問題点などの講評を行う ・第 2 課題出題と説明
7	企画のプレゼンテーション	・現地視察報告と提案及び企画シート作成
8	エスキース 1	・構想案をつくる ・模型、スケッチによるスタディチェック
9	エスキース 2	・エスキースを図面にまとめる ・平面、断面、スタディ模型
10	第 2 課題中間提出	・クラス発表および講評
11	エスキース 3	・中間発表の講評をフィードバックし、案の更なる発展を試みる ・プレゼンテーションの検討
12	クラス内レビュー	・図面チェック ・クラス内発表
13	ファイナルレビュー	・第 2 課題の選抜作品の発表、講評 ・各スタジオの代表作品を持寄り、講評会を公開で行う
14	卒業設計演習（1 月後半）	・4 年生の卒業設計に参加することで卒業設計の意味や大きなプロジェクトの制作進行に伴う問題点などを実体験の中で理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
敷地に立ち、調査し考えを深める。
自らのスケッチブックの上でエスキースを重ねる―建築をまとめ上げる試行錯誤の繰り返し―。
適切な視覚的表現方法を探る。
チーム内や友人とのディスカッションを重ね、提案の強度を高める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示する。

【参考書】
建築設計資料集成（丸善），建築製図 (朝倉書店)，各種建築専門雑誌。

【成績評価の方法と基準】
エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。エスキースによる案の深化、発展度合いは重要な評価対象となる。
配分：第 1 課題 30 %、第 2 課題 70 %。
4 回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will experience the process of design while developing their field of study, through the creation of diagrams and models. In addition, during group classes students will gain communication skills through teamwork.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· Cultivate the ability to spatialize abstract concepts
· Acquire techniques to create appropriate spaces for expected behavioral situations
· Think about space ideas by going back to architectural plans
· Consider architecture from the perspective of reducing environmental impact
· Learn how to qualitatively and quantitatively evaluate the characteristics of space
· Extract the characteristics of the area around the site and understand it hierarchically
· Learn how to do group work effectively and efficiently
· Acquiring the ability to express and convey space
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. The degree of development of the design by Esquisse are important evaluation targets.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
First assignment: 30%、Second assignment : 70%
Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB

デザインスタジオ５

下吹越　武人、山道　拓人、山田　紗子、御手洗　龍

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年 AB 期のデザインスタジオでは A 期と B 期に分けて 2 つの課題に取り組む。A 期は集住について、B 期は次世代型図書館に関連したテーマを元に 4 ユニットからそれぞれ課題が出題され、スタジオワークにより少人数教育を行う（原則として各ユニット 15 人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】
・コンセプチュアルに考える方法を身につける
・都市の成り立ちからコンテクストを読み取る技術を身につける
・都市の一部として建築を構想する
・社会的問題群を認識し，建築的回答を構想する
・デジタルツールの基本操作を身につける
・空間の特性をエンジニアリング的着想から創造する

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポロシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の概要＜ 1）デザインスタジオ 5 ＋ 6 の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ 5 ＋ 6 はデザインスタジオ 1 から 4 で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合 3 年生の作品までなので, 今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4 年生には卒業設計という大きな関門が控えているが、大学 3 年でこの科目を履修せずに 1 年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないのはいうまでもないことである。
2）これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった 2 年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。毎週のエスキスの積み重ねが案を飛躍させる最良の策であることは言うまでもない。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。
3）それぞれのユニット・インスタラクターによって敷地や課題の詳細は異なるから、自分が興味あるインストラクターについて自分の興味のある課題にチャレンジする機会が与えられる（ユニット選択は抽選となる）。各インスタラクターがそれぞれの課題の趣旨を説明するガイダンスには必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、前半課題課題説明、ユニット分け	・第 1 課題は「居住」をテーマとした複数課題から選択して取り組む。 ・事前調査のポイントやコンセプトの作り方などについて指導する。
2	前半課題クラス別指導（エスキース 1）	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。設計イメージはビジュアルな表現で製作する。
3	前半課題クラス別指導（エスキース 2）	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの自律性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画の検討。
4	中間講評会	・平面図、断面図、立面図という基本図面を描いてみることで、コンセプトやイメージを具体化する。
5	前半課題クラス別指導（エスキース 3）	・中間講評会の指摘を踏まえたデザインの展開とその確認。 ・設計図面の正確な描き方を学ぶ
6	前半課題クラス別指導（エスキース 4）	・最終のエスキスチェックを行う。プレゼンテーションを行うにあたってのコンセプトの表現を検討。
7	全体講評会	・優秀作品の発表を通じてこれを題材に共通の問題点などの講評を受ける。
8	後半課題課題説明、ユニット分け、関連特別講義	・第 1 課題と同様に、複数の設計課題の中から、それぞれの学生の希望でひとつのユニットを選択する。・関連特別講義によって課題主旨の理解を深める。
9	後半課題クラス別指導（エスキース 1）	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。
10	後半課題クラス別指導（エスキース 2）	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの自律性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画、構造計画の検討。
11	中間講評会 Pinboard Review	・図面と模型を用いて設計中の建物を説明することで、自分の設計アイデアに客観性をあたえる。 ・Pinboard を用いて、学生主体の第 1 課題講評会を行う。
12	後半課題クラス別指導（エスキース 3）	・中間講評時の講評を踏まえたデザインの展開とその確認。 ・詳細図と基本図の違いなどを学ぶ。
13	後半課題クラス別指導（エスキース 4）	・最終のエスキスチェックを行う。プレゼンテーションを行うにあたってのコンセプトの表現を検討。
14	最終講評会	・優秀作品の発表を通じて、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているので、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
建築設計資料集成（丸善），建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）。

【成績評価の方法と基準】
エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかが評価の対象となる。
配分：第 1 課題 50 %、第 2 課題 50 %。
4 回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
3 年生からは図面の CAD 提出も認められるので、CAD や CG の自己学習が求められる。

【その他の重要事項】
現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline (in English)】
The 3rd year A/B semester Design Studio course is separated into A and B semesters. The theme of the A semester is “Collective housing + α”, while B is a centered around the theme “libraries of the future”, following the subjects introduced in Unit 4. Studio work classes will have a limited number of participants (as a rule no more than 15 per unit). Students who wish to attend seminars for project-based subjects must enroll in this course.

[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· Learning how to think conceptually
· Acquire the skill to read the context from the origin of the city
· Conceive architecture as part of the city
· Recognize social problems and conceive architectural solutions
· Acquire basic operation of digital tools
· Creating spatial characteristics from engineering ideas
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Comprehensive evaluation of final presentation work based on esquisse and interim presentations. Each week, students will be evaluated on how they worked on their work under the discussion with each studio instructor.
Final grade will be calculated according to the following process First assignment (50%), Second assignment (50%).
Four or more unexcused absences will not be considered for grade.

ADE300NB

デザインスタジオ６

赤松　佳珠子、渡邉　健介、仲　俊治、平井　政俊

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
3 年 CD 期のデザインスタジオはデザインスタジオの最終段階と位置づけられる。そのため建築だけでなく建築と既存の都市、建築とランドスケープなどのように建築と他分野との接点をもつような課題設定も含まれている。大きく前半と後半に分けているが、1 学期間を通じてひとつの設計テーマを継続的に追求する。今年度は学校が周囲の地域の核となることを意図して、地域の拠点としての学校をテーマとする。ただしこの課題では自己の母校をテーマにするので個人ごとの問題解決が求められる。この学期ではスタディ模型やスケッチ作成によりザイン・コンセプトを短時間で作り出す能力を育成するだけでなく、正確な図面を描く方法や詳細図についても学ぶ。学生は自分の興味や関心に合ったクラスを希望選択することができる。クラス分けのあとではスタジオワークにより少人数教育を行う（各クラス 15 人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】
・社会的問題群を認識し，建築的回答を構想する
・地域の物理的・社会的資源を理解する.
・既存建築の機能を変更しプログラムを再編する技術を身につける
・環境の質を定量化し形態にフィードバックする
・配置やファサードデザインで環境負荷を低減する技術を身につける
・設計意図を的確に表現する技術を身につける
・短期間でアイデアを形にまとめる技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
●デザインスタジオ 5 + 6 の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ 5 + 6 はデザインスタジオ 1 から 4 で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合 3 年生の作品までなので, 今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4 年生では卒業設計という大きな関門が控えているが、大学 3 年でこの科目を履修せずに 1 年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないのはいうまでもないことである.
●これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった 2 年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、課題説明、ミニレクチャー	・ガイダンス ・ミニレクチャー ・前半クラス分け
2	エスキス 1	・学校事例研究 1 ・敷地リサーチ及び分析
3	エスキス 2	・学校事例研究 2 ・敷地リサーチ及び分析
4	エスキス 3	地域施設機能と学校の規模について
5	エスキス 4	・全体の配置計画 ・新しい学校空間の可能性について
6	中間講評	・中間講評 ・後半スタジオクラス分け
7	エスキス 5	・中間講評からの気づき、フィードバック ・設計スタディ 1 ＝設計内容を俯瞰する
8	エスキス 6	・設計スタディ 2 ＝設計内容をより詳細に検証
9	エスキス 7	・設計スタディ 3 ＝設計内容をより詳細に検証
10	エスキス 8	・設計スタディ 4 ・設計内容の確定
11	・プレゼンテーションについてのレクチャー ・エスキス 9	プレゼンテーションにあたってのコンセプトの表現法の研究。
12	スタジオ講評会	スタジオ内課題提出、発表、討論を行なう。全員発表し講評を受ける。
13	最終講評会	クラスの代表者が自案の発表を行ない、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。なお、1 月後半には 4 年生の卒業設計に関与する卒業設計演習を行なう。
14	ポストレビュー	再提出者及びビハインド提出者の検収・指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているので、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
建築設計資料集成（丸善），建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）など。

【成績評価の方法と基準】
エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかは重要な評価対象となる。
4 回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
課題の前半と後半でスタジオ・インストラクターがチェンジすることで 2 名の教員の異なる視点と異なる教員から共通の評価があることを体験的に学んでほしい。主観的評価と客観的評価が同居するのが建築デザインの特徴なのである。

【学生が準備すべき機器他】
3 年生からは図面の CAD 提出も認められるので、CAD や CG の自己学習が求められる。

【その他の重要事項】
DS6 の作品は自分のポートフォリオにぜひ入れておきたい。卒業設計の前哨戦として重要なステップである。
実務経験との関係：担当教員は現役の建築家であり、一級建築士でもあるので、デザイン力の鍛錬だけでなく、建築士としての視点からも指導を受けることができる。

【Outline (in English)】
【Course outline】The design studio in the 3-year CD term is positioned as the final stage of the design studio. Therefore, it includes not only architecture, but also tasks that bring architecture into contact with other fields, such as architecture and existing cities, architecture and landscape, and so on. The course is divided into two parts, the first half and the second half, and students continuously pursue a single design theme throughout the semester.
This year's theme is the school as a hub of the community, with the intention of the school becoming the nucleus of the surrounding community. However, since the theme of this project is our own alma mater, we are required to solve problems on an individual basis. In this semester, students will not only develop the ability to quickly create a design concept by making study models and sketches, but will also learn how to draw accurate plans and details. Students can choose the class that best suits their interests. After class placement, students are taught in small groups through studio work (no more than 15 students per class). Students who wish to take a seminar in the planning field must take this course.
【Learning Objectives】
・Recognize social problems and envision architectural answers.

· Understand the physical and social resources of the community.
· To understand the physical and social resources of the community.
· Quantify the quality of the environment and provide feedback on form.
· To acquire skills to reduce environmental impact through layout and façade design.
· To acquire skills to accurately express the design intent.
· Acquire skills to put ideas into shape in a short period of time
【Learning activities outside of classroom】
The University uses a "studio" system where students work in the drafting room during class, rather than in a "studio" style with individual desks, except for the graduate studio, so students are required to make drawings and models at home.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The final presentation of the work will be evaluated comprehensively, based on the esquisse and midterm presentations. How students work with their studio instructor each week is an important part of the evaluation.
More than 4 unexcused absences will not be graded.

ADE200NB

建築材料

網野　禎昭

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な建築材料の工学的特質はもとより、様々な建築材料が開発されるに至った歴史・社会的な背景、とくに各時代の資源事情などもあわせて解説する。また、この授業では、構法スタジオ１の演習課題を進める上で理解すべきコンクリート基礎や木造軸組構造、仕上工法についても講義する。

【到達目標】
建築材料に技術者として接するだけではなく、これまで諸文明が限りある資源をもとに建設され、数多の問題を乗り越えた結果として現代があるという事実を、現代文明の住人として捉える。実際の建物において建築材料がどのように使われているのか具体的に理解する。
Understanding the application of materials to buildings. Discussing the historical natural resource depletions to understand the importance of symbiosis between our civilization and natural resource application.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主要建築材料の開発背景、加工製造方法、特性、そして、各材が応用された代表的な建築物を紹介する。また、現代で多用される材料については、建築物への応用上の留意点について重点的に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンクリート１	水硬性セメント・鉄筋コンクリートの発明、コンクリートの種類と基本特性
2	コンクリート２	鉄筋コンクリートの施工と管理、基礎工法
3	木材１	森林と林産業、木材の基本特性
4	木材２	木造軸組、木質材料、接合具
5	鋼・非鉄金属	製鉄のしくみ、鋼の基本特性、鋼の加工、鋼の腐食、鋼の生産、非鉄金属
6	断熱	断熱の原理、気体・固体・液体の熱伝導、各種断熱材、ガラスの断熱性
7	防水	防水材料、防水・防湿工法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で説明のあった建築材料の使われ方を、実際の建築物の観察により確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Observe real buildings to review the application of building materials presented in the lecture. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる 1 木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果（100%）
Evaluate the final exam result.

【学生の意見等からの気づき】
実際の材料サンプルの活用。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
Starting with studies of fundamental engineering characteristics of architectural materials, students will understand the history/social background of various developed materials, particularly looking at information on resources in each period.

ADE300NB

施工管理

三上　孝明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
施工管理とは、「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」などの行為（四大任務）の総称である。将来どのポジションでキャリアを積むかに関わらず、建築業界に身を置く者にとって知っておくべき各種工事とその流れに沿って、材料、構造等にも触れながら「施工管理」のポイントを解説する。
施工管理業務従事者（主に現場監督）が建築生産の中でどのように位置付けられ、その役割はどのようなものであるか概観することが出来、また協業による「ものつくり」の視点を持つための知識の習得を目的とする。また、一級建築士試験に対応できる知識習得の目的も有する。

【到達目標】
大きく二つの目標を持つ。
① 施工管理の四大任務を理解し、管理における PDCA サイクルが概観出来る。
② 施工の流れを知り、各種工事の管理に必要な材料および構造知識を持った施工管理知識を得ることが出来る。
なお、建築物をつくるという目的は一つだが、「建築生産」における上流工程である「設計」と、下流工程となる「施工」では役割が異なる。この異なる役割から手戻り等、非効率的な現場運営となることが問題視さることがしばしばある。こうしたことの回避の為に、施工図の重要性に触れて建築生産システムにおいて何が必要であるか考察するきっかけを得ることが出来るようにする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は対面授業に置くがオンライン授業を第 6 講と第 12 講の 2 回行う（ただし大学の判断に準じて変更の可能性もある）。
進め方の詳細は初回授業開始までに Hoppii の施工管理「お知らせ」「授業内掲示板」でも説明する。
授業資料は事前、事後に配布する。テキストと授業シートに必ず目を通して受講する。
①事前配布資料
・テキスト　　：その日の講義テーマごとに公開（配布）する
・サブテキスト：基本的には講義毎に必要な場合の配布とするが固定的なものではない。テーマを超えてコマに関係なく配布する場合もある
＊授業シート　：その日の講義のアジェンダ/レジュメ
②授業時間内、もしくは授業日配布資料
＊カルテ（確認テスト）講義終了後に提出
③授業終了後配布資料
＊回答解説　講義終了後公開、復習
1 回の講義の流れは以下となる。
授業前＜テキスト、授業シートの受理、予習＞ → 授業 [PPT による授業]→ 授業後＜カルテへの回答と提出＞＜回答解説の受理、復習＞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	施工計画・管理概説	日本の建設産業の概要と現状と今後について解説する。また、施工管理の四大任務である「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」のアウトラインを知り、「請負」、「現場代理人」など施工管理に関わる基本用語の意味を理解する。なお「建築生産」における生産設計（施工図）についても触れる。 確認テスト 1
2	品質管理（Q）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである品質管理とは何かを解説する。また、QC 活動、ISO9000 に触れながら、施工の品質管理の考え方とそのプロセス管理を理解する。 確認テスト 2
3	原価管理（C）	施工管理に必要な経営の知識、原価管理の考えか方と手順並びに施工と VE（Value Engineering）の基礎知識を解説する。また、施工管理にける見積り、発注、請求、稟議、決裁などの用語を知り、原価管理の PDCA サイクルの大枠の流れと実行予算を中心とした管理の概要を理解する。 確認テスト 3
4	安全管理（S）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである安全管理と、労務管理の概要を解説する。また、管理における新しい課題である環境問題についても解説する。 確認テスト 4
5	工程管理（D）	工程管理とは何か、ネットワーク工程表等の工程表種類と基本的な用語を解説し、実務における工程管理の考え方を理解し、特に工事遅延が他の管理項目に及ぼす影響について実例を挙げて解説する。 確認テスト 5
6	ネットワーク工程表と施工管理の四大任務のまとめと中間試験	第 5 講で行ったネットワーク工程表作成演習の解説を行う。また、全 5 回の講義内容の理解度を確認するため、オンラインで中間試験を行う。
7	施工管理と施工計画	着工前に必要な確認事項、準備工事の内容について解説し、工事期間、予算、安全等施工管理全般に大きく影響する「施工計画」の実例をもとに解説する。 確認テスト 6
8	仮設工事	施工効率、建物品質、安全などに影響する仮設工事について、たわみや座屈などの構造力学知識の必要性に触れ、動画を示しながら仮設工事の概要を解説する。 確認テスト 7

9	基礎・地下工事	杭、地盤改良などの地業工事、地下躯体工事のための土工事、山留工事など基礎工事および地下工事について解説する。 確認テスト８
10	鉄筋工事・型枠工事	鉄筋コンクリート構造の躯体工事における鉄筋工事について、鉄筋種類、発注方法、製品検査等、および組み方を実際の工事の模様を動画で示し、解説する。 鉄筋コンクリート構造の躯体工事における型枠工事について、一般的な型枠材料である型枠合板の組み方とその手順、および組み立てに必要な補助材料の種類と取り扱いと施工上の注意点を動画を交えて解説する。 確認テスト９
11	コンクリート工事の概要、材料と品質および品質管理	鉄筋コンクリート工事におけるコンクリート工事について概要とコンクリート材料の特徴と品質について、またその品質管理の方法を解説する。 確認テスト１０
12	コンクリート工事　打設	鉄筋が組まれ、型枠が組み上げられたのち、品質管理されたコンクリートを打ち込むが、打設の仕方の不備による不具合が生じる場合がある。不具合を起こさない打設方法について解説する。 確認テスト１１
13	鉄骨工事　鉄骨造の生産システムの特徴と鋼材種類とその特徴及び部材の接合	鉄骨造の施工の特徴は部材を組み上げる前の段階において建設現場以外で各部材を制作して現場に搬入される点にある。ファブリケーターと呼ぶ生産業者への発注方法と制作における原寸チェック等その特徴を解説する。また、ファブリケーターによって制作された各部材の代表的接合方法を解説する。 確認テスト１２
14	その他の工事の紹介 施工管理について考える	施工管理における他の工事についてその種別を示す。 後半授業の重要ポイントについて見直しを行う。 確認テスト１３（受講確認シート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習は、授業開始前に配布する資料、特に授業シートにて講義を概観すること。
・授業は事前配布資料を投影して解説していくので予習を活かすこと。
・カルテの問題は授業の重要ポイントを示してあり、各自が授業時間外の復習に活用してもらうことを目的としている。各自の理解不足を発見して、配布された資料を再度見直すことで復習になる。授業毎に配布するので、その日のうちに再読して学習すること。
なお、カルテ（確認テスト）の提出は成績における平常点として扱う。
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は使用しない。以下の４点を配布する。
① その日の授業シート
② オリジナルテキスト（A4 版 Word テキストもしくは PPT プリントテキスト）
③ 確認テスト（指定時間内提出）
④ 確認テストの解答解説

【参考書】
以下資料を各自が適宜参考にすること。
① 国土交通省「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」WEB 公開資料
https://www.mlit.go.jp/gobuild/kenchiku_hyoushi.html
② 構造用教材（日本建築学会）

【成績評価の方法と基準】
大きく二つの到達目標があるが、それぞれ独立したものではない。煩雑さを避けるため目標を区分している。それぞれの理解度を試験にて判断する。なお、履修判定には確認テストの点数は直接はカウントしない。しかし、平常点として配点する。
① 中間試験　施工管理の四大任務の理解
② 期末試験　各種工事と施工プロセスの理解
③ 平常点　　授業参加度と理解度
試験成績　70 %　(中間試験＋期末試験) ／２
平常点　　30 %
＜成績評価＞
□不合格
　未受験・採点不可＝ E　　0～59 点＝ D
□合格
　60 点～62 点＝ C-　63 点～66 点＝ C　67 点～69 点＝ C+
　70 点～72 点＝ B-　73 点～76 点＝ B　77 点～79 点＝ B+
　80 点～82 点＝ A-　83 点～86 点＝ A　87 点～89 点＝ A+
　90 点～100 点＝ S

【学生の意見等からの気づき】
・履修判定基準に対する平常点の重要性の解説並びに中間・期末試験との関連を授業毎に注意喚起して目標達成の一助とする。
・講義中の学生への質問（指名想定として）は（事前整理）精査して行い、100 分を有効に使うように過度の時間配分とならない様に注意する。（効果的な質問の精査と整理を行う）

【学生が準備すべき機器他】
・PC 等端末機器
講義資料は授業支援システム（Hoppii）にて公開する。各自情報端末にて確認すること。

【その他の重要事項】
設計事務所経営経験を有する一級建築士が、設計監理の経験から建設業者との施工管理実務を通じて得た施工管理に必要な基本姿勢と、現在所属する「生産設計企業」での社員教育、また施工会社における安全大会等での講義経験を活かして「管理」のポイントを講義する。また、建築士受験関連参考図書の執筆経験から建築士試験受験要件を満たす最低限必要な知識を概説する。
本科目は建築士試験受験認定に必要な「指定科目（建築生産カテゴリ）」の一つである。カテゴリ内での選択が可能な科目ではあるが受講可能な全学生が科目登録して全員が履修し単位を取得することが望ましい。充分な復習を行って中間テスト、期末テストに臨んでいただきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Construction management is a generic term for actions (within four major missions) such as process control, safety management, quality control and cost management. The ideas of "construction management" will be explained while touching on materials, structure, etc, in line with various constructions types, along with trends which must be known to all those in the construction industry, regardless of future career position.
An overview will be given of how the workers in construction management (mainly field supervisors) are positioned in building production, what their roles are, and see the process of "making things" through collaboration.
The goal is to gain the knowledge to support Class 1 architect exams.
【Learning activities outside of classroom】
Have two major goals.
① To understand the four major duties of implementation management and to have an overview of the PDCA cycle in management.
②　Be able to know the construction flow and acquire construction management knowledge with materials and structural knowledge necessary for the management of various construction works.
[Learning outside class hours]
The standard time for preparation and review is one hour each.

・For preparatory study, review the materials distributed before the start of class, especially class sheets.
・For review, find your lack of understanding in the confirmation test and review the distributed materials again.
【Grading Criteria /Policy】
There are two major goals, but they are not independent of each other. The goals are segmented to avoid clutter. Each level of understanding will be judged by examination. Please note that confirmation test scores are not directly counted in course registration. However, points will be allocated as normal points.
①　Intermediate exam Understand the four major duties of construction management
②　Final exam Understanding of various construction and construction processes
③　Normal score　Class participation and understanding
Examination score ： 70% (mid-term exam + final exam) / 2
Normal score ： 30%

ADE300NB

木造建築の構法

網野　禎昭

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】
日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。
Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベイティヴな実例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家１	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家２	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家３	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋１	グルーベンマン、パラーディオの橋他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋２	グルーベンマン、パラーディオの橋他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋１	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋２	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋３	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築１	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築２	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構造システム
12	非戸建木造１	木造集合住宅
13	非戸建木造２	木造によるオフィス、学校建築などの最新実例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
木造建築の挙動を実感するために、「壁－ 1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Observing “Kabe-1 grand prix” is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】
期末試験結果（100 %）による
Evaluate the final exam result.

【学生の意見等からの気づき】
写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB

空間の構造デザイン

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史的変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】
建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎		○		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらを応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2 次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、プラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンショニングリング
10	シェル構造	曲面の分類、EP シェル、HP シェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力撹乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B. フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1 方向、2 方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム，超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川口衞 他：建築構造のしくみ　力の流れとかたち　第 2 版（建築の絵本），彰国社

【参考書】
授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題： 40 %（A ～ D の 4 段階評価で，未提出は D 評価）
定期試験： 60 %（試験の際，各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお，５回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】
模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form.　In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important.　This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.
Learning Objectives:
The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.
Learning activities outside of classroom:
Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.
Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations.　Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB

鉄筋コンクリートのデザイン

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鉄筋コンクリート構造に関して，その特性および基本理論，構造設計手法，最新の技術動向について学ぶ。

【到達目標】
基本的な専門用語，コンクリートおよび鉄筋の性質を整理した上で，鉄筋コンクリート構造を含む各種コンクリート系構造の原理を理解すること，鉄筋コンクリート部材の曲げおよびせん断挙動を把握すること，鉄筋コンクリート部材の構造設計の基本的な考え方を修得すること，この 3 点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
鉄筋コンクリートは，現在極めて広範囲に使用されている建築主要材料であり，圧縮には強いが引張に弱いコンクリートを，引張に強い鉄筋で補強した複合材料である。
この授業では，まず，鉄筋コンクリートの主要材料たりうる長所と注意すべき短所について整理する。その後，複合材料としての基本的な力学理論および設計手法について解説していく。
理解の定着を図るために，演習課題や演習・復習授業を適宜実施する。
また，鉄筋コンクリート構造以外の各種コンクリート系構造についても解説し，最新の技術動向について触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリート概論	授業ガイダンス 鉄筋コンクリートの原理と特徴 コンクリート系構造の基礎知識
2	コンクリートの性質	コンクリートの種類， 応力－ひずみ曲線， 強度，その他の性質
3	鉄筋の性質 鉄筋とコンクリートの付着	鉄筋の種類，強度， 応力－ひずみ曲線 鉄筋とコンクリートの付着のしくみ
4	鉄筋コンクリートの力学の基本概念	曲率と平面保持仮定 中心軸圧縮柱の応力計算 付着・定着と配筋の原則
5	梁部材の曲げ設計 1 （ひび割れモーメント，許容曲げモーメント）	無筋梁の曲げ挙動 単筋梁の曲げ挙動 複筋梁の曲げ挙動 釣合鉄筋比
6	梁部材の曲げ設計 2 （終局曲げモーメント，曲げ変形能力）	単筋梁，複筋梁の終局曲げモーメント モーメント－曲率曲線
7	柱部材の曲げ設計 1 （ひび割れモーメント，許容曲げモーメント）	無筋柱の曲げ挙動 鉄筋コンクリート柱の設計基本式 N-M 相関曲線
8	柱部材の曲げ設計 2 （終局曲げモーメント，曲げ変形能力）	終局曲げモーメント Nu-Mu 相関曲線 柱の変形能力に関わる要因
9	演習および復習	梁・柱部材の曲げ設計演習 専門用語の整理 ひび割れと配筋方法
10	鉄筋コンクリート部材のせん断挙動	せん断破壊形式 せん断力の伝達メカニズム せん断補強筋の役割
11	梁・柱部材のせん断設計	せん断補強設計の要点 梁・柱の許容せん断耐力 設計用せん断力
12	柱梁接合部のせん断設計	柱梁接合部の種類 接合部まわりの応力状態 柱梁仕口部の設計
13	スラブの設計 壁部材の設計	スラブの種類と力学 スラブの応力計算 たわみと振動障害 耐震壁の役割と力学 許容応力度設計 終局強度
14	各種コンクリート系構造と最新の技術動向	コンクリート系構造の種類 プレストレストコンクリートの特徴と原理 最新の技術動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書等による予習と授業後の復習，宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で印刷物を適宜配布するが，下記参考書のうち，自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】
谷川恭雄 他：鉄筋コンクリート構造　理論と設計，森北出版
市之瀬敏勝：鉄筋コンクリート構造，共立出版
福島正人 他：鉄筋コンクリート構造，森北出版
西谷章：鉄筋コンクリート構造入門，鹿島出版会
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010，丸善

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題： 40%（A～D の 4 段階評価で，未提出は D 評価）
定期試験： 60%（試験の際，各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお，5 回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】
板書を消すまでの時間をもう少し長くするとともに，学生が説明を十分聞けるように時間配分を調節する。

【その他の重要事項】
この授業とともに「材料のデザイン」「構造計算プログラミング」「エンジニアリングスタジオ」を履修することでさらに理解が深まるので，その履修を強く勧める。
また，建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will learn about reinforced concrete structure, including their characteristics and fundamental theory, structural planning process and recent technological developments.
Learning Objectives:
The objectives of this course are threefold: to understand the principles of various concrete structures including reinforced concrete structures, to grasp the flexural and shear behavior of reinforced concrete members, and to master the basic concepts of structural design of reinforced concrete members, after organizing basic terminology and the properties of concrete and steel bars.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for the class by using reference books, review after class, and actively work on homework exercises and assignments.The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE300NB

構造計算プログラミング

浜田　英明

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表計算アプリケーションソフトを用いてプログラミングを行い，構造計算方法およびプログラミング技術の修得を授業テーマとする。

【到達目標】
表計算アプリケーションソフトでのプログラミング演習を通して，1) 鉄筋コンクリート（RC）造の柱・梁部材の断面検定方法を理解すること，2) 基本的なプログラミング技術を修得すること，3) 表計算アプリケーションソフトの扱いに慣れ，論文作成等での応用力をつけること，これら 3 点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			○		◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
これまでの授業で鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算について一通り学習してきたことを，今度はコンピュータにプログラミングという形で学習させて，構造計算させる方法について学ぶ。
コンピュータは大量のデータを瞬時に正確に処理してくれるが，正確にプログラムを記述しなければ，正解を導いてはくれない。
「コンピュータに学習させる」ことを通して，鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算に対する自分自身の理解の深化と復習を図る。
また，表計算アプリケーションソフトの扱いについて慣れ，論文作成等に応用できるようになることも目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Excel マクロ (VBA) の基本的な使い方	コンピュータ言語 アルゴリズム，プログラミング Sub プロシージャ，Function プロシージャ For Next 文，If 文
2	演習課題 1	Sub プロシージャ，Function プロシージャを用いた例題の演習
3	ユーザーフォームの利用と鋼材断面性能の算出	ユーザーフォーム 鋼材断面性能
4	演習課題 2	ユーザーフォームを用いた鋼材断面性能算出アプリケーションの作成演習
5	RC 梁の断面検定方法の復習（曲げに対する断面検定）	鉄筋，コンクリートの許容応力度 曲げに対する断面検定の復習
6	Excel によるグラフの作図 演習課題 3	グラフ作図演習 RC 長方形梁の許容曲げモーメント算出プログラムの作成
7	RC 梁の断面検定方法の復習（せん断に対する断面検定）	せん断に対する断面検定の復習
8	演習課題 4	RC 長方形梁の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形梁の断面検定シートの作成
9	RC 柱の断面検定方法の復習（軸力と曲げ，せん断に対する断面検定）	軸力と曲げに対する断面検定の復習 せん断に対する断面検定の復習
10	演習課題 5	RC 長方形柱の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 RC 長方形柱の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形柱の断面検定シートの作成
11	人工知能による構造設計	最適化アルゴリズムによる構造設計
12	演習課題 6	トラス断面の最適化 人間による構造設計 最適化アルゴリズムによる構造設計
13	コンピュータの発展と人類	建築構造設計におけるコンピュータの利活用とその弊害 今後に向けて まとめ，総括
14	小レポート	総括レポートを各自作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書やノート等による予・復習や宿題の演習課題，これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で印刷物を適宜配布するが，Excel VBA に関する書物のうち自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010，日本建築学会（丸善）
日本建築学会：鋼構造設計規準－許容応力度設計法－，日本建築学会（丸善）
その他，「鋼のデザイン」および「鉄筋コンクリートのデザイン」の授業で使用したテキストやノート

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
演習課題： 100%（授業内で指示された演習課題に対する作成状況）
なお，5 回以上欠席したものは評価しない

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報教室の機器

【その他の重要事項】
この授業は「鉄筋コンクリートのデザイン」と密接な関係があるため，先にその履修をしておくことを勧める。
また，「鋼のデザイン」とも関係が深いため，同時に履修することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course provides students with skills in structural calculations and programming via an introduction to programming using spreadsheet software.
Learning Objectives:
Through programming exercises using spreadsheet application software, the objectives of this course are: 1) to understand the cross-sectional verification method of reinforced concrete (RC) column and beam members, 2) to master basic programming techniques, and 3) to become familiar with the use of spreadsheet application software and to develop application skills for writing papers, etc.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to prepare for and review the course using reference books and notebooks, and to actively engage in the homework exercises and assignments.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of exercises.

ADE200NB

設備入門（２０１９年度以降入学生）

石川　裕司

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境を加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素でもある。太古の昔から人は水辺に居を構え集落を造り、時の経過、更に時代の変遷と共に、利便性・快適性を追求し、人為的に室内環境の創造と調整を行ってきた。将来も技術の進歩につれてこれが継承されて行かなくてはならない。これらのことを、建築設備の学習テーマとし授業を進める。

【到達目標】
＜授業の到達目標＞
建築設備の学習項目である、「①空気調和・換気設備、②給排水・衛生設備、③電力・通信情報設備」のうち、適切な室内環境を創る「①空調・換気」と生命の根源である「②の水（給排水）」と利便性の代表である「③の電気（あかりと動力及び通信情報）」について学習する。将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「本授業は、対面授業を基本として、実施を予定しています。」
変更等があった場合には、履修本登録期間までにデザイン工学部事務より、Web 掲示板でお知らせいたします。Web 掲示板を随時ご確認ください」
＜授業の概要＞
授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩により変更する場合もある。
＜授業の方法＞
授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用するが、進め方として画像や映像（PPT 又は DVD 等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の要所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習テストを実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	建築設備ガイダンス	快適で安心、健康的で文化的、建物に必要なもの。 ・給排水設備 ・電気設備 ・空気調和設備
2	建築設備	（設備て何） ・設備の歴史（必要から生まれた人工的環境の創造。現在に受け継がれる古人知恵）
3	給水設備・給湯設備	（安全な水・湯） ・水・湯の基礎的知識 ・生活と水・湯 ・給水・給湯計画法 ・給水方式と系統 ・水系汚染防止等
4	排水設備 衛生器具設備	（どこに流れる） ・排水、通気方式と系統 ・排水トラップ ・雨水 （きれいな排水） ・汚水処理
5	電気設備	（ビルの電気） ・電気の基礎知識
6	照明設備	（いろんな灯り） ・照明の基礎 ・照明計画法 ・ＬＥＤ、Ｈｆ蛍光灯 ・明視照明と雰囲気照明 ・システム天井照明 ・照度計算
7	防災設備	（火事だ） ・自動火災報知と避難
8	消火設備	（火の消し方） ・消火方式
9	熱負荷の種類	（室温と外気温） ・室内外条件 ・負荷の種類 ・熱負荷計算
10	空調方式・熱源方式	（室を冷やす、暖める） ・空調機器 （冷水・温水を作る） ・ビル用一般冷温熱源
11	監視・制御	（室温一定） ・制御機器の種類 ・中央監視設備の概要 ・ＢＥＭＳについて
12	空気搬送設備・水搬送設備	（空気で快適） ・ダクト設備 （冷水・温水で快適） ・配管設備
13	換気・機械排煙と防煙	（空気は汚れる） ・空気清浄度保持のための換気計算法 （火災と避難） ・排煙方式と目的
14	エネルギー消費	（省エネ） ・省エネルギーと設備 ・ビル消費エネルギーと地球温暖化 ・省エネルギー計算法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
１．既存の建物の環境・設備をよく観察することから始まる。
２．家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。
例えば、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・冷暖房の使用状態の把握…。
３．学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗・病院…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。
４．上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモにしておく。

【テキスト（教科書）】
建築設備（市ヶ谷出版）　監修：井上宇一・著者：前島他 2 名。3200 円
必要に応じプリントを配布。

【参考書】
『図説　やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賛弼、2800 円
『最新　建築環境工学』（井上書院）　監修：田中俊六・著者：田尻他 5 名。3000 円

【成績評価の方法と基準】
成績評価に関して、
定期試験成績を最重点基準事項とする。
評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、、以下の各項についてポイントの加減を行う。
①期末試験（60 %）小テスト・レポート（30 %）平常点（10 %）により評価する。
②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。
③時間内テストなどで不正行為があると認めた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。
④学生諸氏が、TA を含む教員との間に万一不信行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。その他は、前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、システムでは省エネの重要性、機器類では、CGS(Co-Generation System)、Hf 蛍光灯、LED 燈等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓等を持参すること。

【その他の重要事項】
建築技術者としての基礎知識を身につけるためには、秋学期の空気調和設備を合わせて履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。
現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。

【Outline (in English)】
Course outline
In this course, students will be introduced to "water, air, and electricity," which are essential to life.
The goal of this course is to acquire the basic knowledge as a building facility engineer.
It begins with a careful observation of the environment and facilities of the existing building.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%

ADE300NB

建築デザイン論１（２０１９年度以降入学生）

下吹越　武人、今村　創平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代建築のデザイン潮流を建築家の思想や作品、近代都市計画や現代都市理論を通して学びます。代表的な建築家や作品、論考を学ぶことに加えて、その社会的背景、それらを支える都市理論について考察します。

【到達目標】
近代および現代はどのような時代であり、そこにいる私たちはどのような存在であるのか。建築家は何を生み出し、私たちはどのようにして都市に住むのか。
近現代の建築の多様な表現と思想を学び、現代都市の状況と課題を理解し、それを自らの創作や思考の糧とすることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎		○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は建築デザインとその理論について、後半は都市理論が主題となります。レポート課題について授業内で適宜指示があり、授業内でフィードバックも行います。また、授業のなかで参考図書を紹介しますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 法政建築について	授業内容の説明 大江宏の作品と「アーキテクト・マインドとは何か？」の読解を試みる
第 2 回	抽象と日常	篠原一男と坂本一成の作品と著作を中心に住宅から建築を思考することの意義と可能性を探る
第 3 回	建築の公共性	山本理顕、伊東豊雄、槇文彦の作品と著作から建築と社会の関係性について思考する
第 4 回	建築の自律性 ［研究発表１］	磯崎新による実践を通して建築による自律的、批評的な試みを横断する
第 5 回	風土の継承、場所性の回復 ［研究発表２］	批判的地域主義を学び、アルヴァ・アアルトとアルヴァロ・シザの作品を読み解く
第 6 回	［研究発表３］	レポート発表をベースに現代建築の展望をディスカッションする。
第 7 回	［研究発表４］	レポート発表をベースに現代建築の今日的課題をディスカッションする。
第 8 回	近代都市への変貌、近代都市計画	近代初頭の都市改造： ロンドン、交通の拡張、都市の膨張、田園都市 パリ（オスマン）、バルセロナ（セルダ）　など
第 9 回	近代都市計画とその限界	ジードルング（ドイツ） ル・コルビュジエ：輝く都市 CIAM 近代都市計画 TEAM X の批判、ポストモダニズムによる批判
第 10 回	丹下健三とメタボリズム	東京の変遷 廃墟と瓦礫 明治の東京計画、関東大震災復興計画、同潤会 丹下健三　広島、東京計画 1960 メタボリズム
第 11 回	前衛的都市ヴィジョン、都市の理論	アーキグラム、アーキズーム、シチュアシオノニスト アレグザンダー「都市はツリーではない」 コーリン・ロウ「コラージュシティ」
第 12 回	都市と文脈	アルド・ロッシ「都市の建築」 陣内秀信「東京の空間人類学」、イタリア都市研究 ヴェンチューリ＆スコットブラウン「ラスベガス」
第 13 回	レム・コールハースと現代都市	「デリリアス・ニューヨーク」/ニューヨークの歴史 レム・コールハウスの現代都市批判 グローバルシティ
第 14 回	今日の都市空間の課題	都市空間におけるパブリック/コモン 商業空間と現代都市 情報都市

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のなかで参考図書の紹介を行うので、あなたが関心を持った本を熟読することを勧めます。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『現代都市理論講義』今村創平　オーム社

【参考書】
『住宅の空間原論』遠藤政樹＋小泉雅生＋佐藤光彦＋下吹越武人　彰国社
『住宅論』篠原一男　SD 選書
『住宅に内在する言葉』坂本一成
『『権力の空間／空間の権力』山本理顕　講談社
『風の変様体』伊藤豊雄　青土社
『漂うモダニズム』槇文彦　左右社
『建築の解体』磯崎新　鹿島出版会
『現代建築史』ケネス・フランプトン　TOTO 出版
『錯乱のニューヨーク』レム・コールハース　筑摩書房
『都市のエージェントはだれなのか』北山恒　TOTO 出版
『東京の空間人類学』陣内秀信 ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
前半部（1 － 7 回）は 2 回のレポート (20%) と研究発表 (30%) により評価、後半部（8 － 14 回）は毎回のミニレポートにより評価 (50 %）を行う。

【学生の意見等からの気づき】
デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

【その他の重要事項】
一級建築士として豊富な実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【Outline (in English)】
This course will deal with subjects on representative modern and contemporary architectures and architects, and modern urban planning and contemporary urban theories.
[Learning Objectives]
What kind of era is the modern and the present age, and what kind of existence are we in it? What do architects create and how do we live in cities?
The goal is to learn the diverse expressions and ideas of modern architecture, understand the situation and issues of modern cities, and use them for your own creation and thinking.
[Learning activities outside of classroom]
Reference books will be introduced in class, so we recommend that you carefully read the books that interest you.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following,
the first half (1-7 times); two reports(20%) and reserch puresentation (30%)
the second half (8-14 times); short reports by each times (50%)

ADE300NB

建築デザイン論２（２０１９年度以降入学生）

赤松　佳珠子、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築デザイン論 1 で修得した近現代建築や近代都市計画、現代都市理論をベースに、より具体的な事例を通して知識を深めます。授業を担当する教員が実務を通して得た知見から、より実践的なアプローチ・思考能力を養う方法論を学びます。

【到達目標】
少子高齢化、情報化社会に加えて新たな感染症が一瞬にして世界的流行となるなど、現代社会はめまぐるしい速度で変化しています。都市や地方に於けるコミュニティの在り方や日常生活、働き方、学校に於ける学びなど多くの価値観の変容が迫られている中、実践的な取り組みを学ぶことで、自らの設計手法の幅を広げると共に、デザインに対する思考を深めることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○	○	◎	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回主題を掲げて講義を行います。前半は都市、地域と公共建築の実践について、後半は市民活動や民間の実践が主題となります。レポート課題や簡単な復習小試験など授業内で適宜指示があります。また、授業の中で参考図書の紹介を行いますので、興味のある学生は購入して学習することを勧めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／設計とは	授業の紹介／ 社会に於いて設計者が果たすべき役割と建築の構想・企画から竣工するまでの流れに於ける設計者の位置づけ
2	地域と学校 1	地域における学校の役割、地域に開かれた学校について
3	地域と学校 2	地域施設と複合化された、地域の拠点となる学校建築について
4	コミュニティと公共空間	地域のコミュニティと公共空間を考える
5	建築設計のプロセス	建築設計のプロセス
6	行政と公共建築	自治体に於ける公共建築の議論について
7	都市と建築	都市のコンテクストと建築の関係性を考える
8	セルフビルド	「セルフビルド」を介した社会構築や公共性について
9	パブリック	公共的空間」を支える建築と福祉に繋がる実践について
10	ケア	「福祉」の系譜と、地域に開く福祉的実践について
11	シェア	建築を地域に開く「シェアスペース」と活動について
12	マネジメント	活動が持続するための「マネジメント」について
13	ハウスメーカー	「商品化住宅」の歴史と建築家とのコラボレーションについて
14	コラボレーション	設計者との「コラボレーション」や、ソーシャル・テクトニクス・デザインについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のなかで参考図書の紹介を行う。興味のある学生は購入して学習することを勧めます。
本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定は特になし

【参考書】
『PUBLIC PRODUCE 「公共的空間」をつくる 7 つの事例』
　　西田司、山道拓人他 ユウブックス
『シェア空間の設計手法』猪熊 純, 成瀬 友梨, 山道拓人他　学芸出版
『クロノデザイン-空間価値から時間価値へ-』内藤廣編／彰国社
『学校建築ルネサンス』上野淳　鹿島出版会
『SHIBUYA』ハーバード大学院生が 10 年後の渋谷を考える
　　ハーバード大学デザイン大学院／太田佳代子　　CCC メディアハウス
『楽しい公共空間を作るレシピ』プロジェクトを成功に導く 66 の手法
　　平賀達也・山崎亮・泉山塁威・樋口トモユキ・西田司　編著　ユウブックス
『都市理解のワークショップ－商店街から都市を読む－』
　　九州大学大学院アーバンデザイン学コース編　　九州大学出版会

【成績評価の方法と基準】
レポート 60%、授業の取り組み 40 %として採点する。

【学生の意見等からの気づき】
デザインスタジオのエスキスに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

【その他の重要事項】
一級建築士として実務経験を有する教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【IAE サーバー／ Hoppii の活用】
課題の提出はＩＡＥサーバーもしくは Hoppii のいずれか（教員からの指示）により行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Students will deepen the perspective thorough the examples and case studies based on the knowledge of modern architecture, city planning and modern city theory in Architecture Design Theory-Ⅰ. From the professor's view which got various experiences, students can learn how to develop the more practical approach and thinking ability.
【Learning Objectives】
Modern society is changing at a dizzying pace, with a declining birthrate, an aging population, an information-oriented society, and new infectious diseases becoming global pandemics in an instant. As we are forced to change many values, such as the nature of communities in urban and rural areas, daily life, work styles, and learning in schools, our goal is to broaden our own design methods and deepen our thinking about design by learning about practical approaches.
【Learning activities outside of classroom】
Reference books will be introduced in class. Interested students are encouraged to purchase and study the books.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be 60% for the report and 40% for class work.

ADE200NB

構法スタジオ１（２０１９年度以降入学生）

永野　尚吾、網野　禎昭、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構法スタジオ１、構法スタジオ２では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
木造軸組構造による小型の建築物を設計課題として、構法スタジオ１では、空間計画と架構計画について習得する。エスキスでは描画力を養うために図面は手描きとし、図面の内容を立体的に理解するために軸組模型の作成も行う。
By designing a small sized wooden building, the students learn the living space planning and the structural planning in parallel. To acquire the drawing skills, all plans and sketches must be drawn by hand. Model construction is also required for the three-dimensional understanding of construction.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化あるいは模型化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、基本図・骨組模型・構造図・詳細図などの提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題説明	設計課題の解説
	基本構想１	基本的な空間構想に着手する
2	基本構想２	基本的な空間構想を固める
3	架構設計１	柱位置・主梁方向の検討
4	架構設計２	屋根・床など平面架構の検討
5	架構設計３	耐震壁・ブレースの検討
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や自主的な実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
必要に応じ資料を配布。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる 1 木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
最終提出物の評価（100 %）による。正当な理由なく授業を 4 回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。
Evaluate the final submission. Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".

【学生の意見等からの気づき】
木材や接合部の実物サンプルを提示する。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE200NB

構法スタジオ２（２０１９年度以降入学生）

永野　尚吾、網野　禎昭、溝部　公寛、飯塚　豊、鍋野　友哉

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構法スタジオ１、構法スタジオ２では、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
構法スタジオ１で設計した軸組構造に対して、構法スタジオ２では、断熱や防水、通気、仕上げを設計し、建築物として完成させる。構法スタジオ１と同様に、描画力を養うために手描き図面によりエスキスを進めるが、提出図面に関してはＣＡＤソフトを利用し、実務に即した作図方法を習得する。
Following Building Construction Studio 1, Building Construction Studio 2 requires the students to design the heat isolation, water proof, ventilation and finishing to complete the building design. As with BCS1, hand drawings are recommended.

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、各種詳細図の提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	屋根・壁・床の断面設計１	屋根・壁の一般断面の検討／内・外装の検討
2	屋根・壁・床の断面設計２	床の一般断面の検討／床・天井仕上の検討
3	開口部の断面設計	開口部と外壁の取り合い
4	屋根・壁・床の取り合い設計１	基礎・床・外壁の取り合い
5	屋根・壁・床の取り合い設計２	屋根・外壁・庇の取り合い
6	図面のまとめ	図面の最終チェックを受ける
7	最終講評	課題を提し講評を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
Reference research and site visits are helpful to find the solution for matters in question and complete the plans. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】
必要に応じ資料を配布。

【参考書】
「ぜんぶ絵でわかる１木造住宅」飯塚豊（エクスナレッジ）

【成績評価の方法と基準】
最終提出物の評価（100 %）による。正当な理由なく授業を４回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。
Evaluate the final submission.　Unjustifiable absence more than four times results in evaluation "E (failure)".

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、実際の施工現場の見学や、縮尺の大きな部分模型製作を取り入れる。

【その他の重要事項】
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】
This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

ADE300NB

ビルディングワークショップ（２０１９年度以降入学生）

浜田　英明

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い，「形と力」の関係について学ぶ。また，技術者（Professional Engineer）としての，エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】
実験を通して，1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力，2) チーム内で協調して作業する能力，3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力，これら 3 点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた実験課題に対して，5〜6 人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し，その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第 1・第 2 ラウンドの 2 つあり，それぞれのラウンドごとで順位に応じた点数を付与し，最終的にその合計点で総合順位を決める。また，ラウンドごとに，設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第 1 実験課題 （課題説明，設計製作作業）	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第 1 実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第 1 実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験，議論）	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第 2 実験課題 （課題説明）	課題説明
6	第 2 実験課題 （設計作業）	構造作品の設計
7	第 2 実験課題 （製作作業）	試作作品の製作
8	第 2 実験課題 （試作作品実験）	試作作品の実験と考察
9	第 2 実験課題 （改良案の提示と議論）	改善案の検討と議論
10	第 2 実験課題 （改良案の設計作業）	改良作品の設計
11	第 2 実験課題 （改良案の製作作業）	改良作品の製作
12	第 2 実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第 2 実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験）	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第 2 実験課題 （講評，レポート作成）	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習，レポート整理
5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習，レポート整理
9.10.11.12.13. トラスの力学の復習，レポート整理
14. レポート整理
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
日本建築学会：構造入門教材　ちからとかたち，日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
実験演習結果： 40%（実験の総合順位を加味する）
実験レポートの提出： 60%（未提出のものは成績評価しない）
出席： 5 回以上欠席した者は成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【学生が準備すべき機器他】
配布ノートパソコン

【その他の重要事項】
この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。
また，使用する教室の都合により，受講者数の制限を行う場合もある。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.
Learning Objectives:
Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.
Learning activities outside of classroom:
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB

ビルディングワークショップ（２０１９年度以降入学生）

宮田　雄二郎

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い，「形と力」の関係について学ぶ。また，技術者（Professional Engineer）としての，エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】
実験を通して，1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力，2) チーム内で協調して作業する能力，3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力，これら 3 点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた実験課題に対して，5〜6 人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し，その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第 1・第 2 ラウンドの 2 つあり，それぞれのラウンドごとで順位に応じた点数を付与し，最終的にその合計点で総合順位を決める。また，ラウンドごとに，設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第 1 実験課題 （課題説明，設計製作作業）	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第 1 実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第 1 実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験，議論）	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第 2 実験課題 （課題説明）	課題説明
6	第 2 実験課題 （設計作業）	構造作品の設計
7	第 2 実験課題 （製作作業）	試作作品の製作
8	第 2 実験課題 （試作作品実験）	試作作品の実験と考察
9	第 2 実験課題 （改良案の提示と議論）	改善案の検討と議論
10	第 2 実験課題 （改良案の設計作業）	改良作品の設計
11	第 2 実験課題 （改良案の製作作業）	改良作品の製作
12	第 2 実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第 2 実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験）	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第 2 実験課題 （講評，レポート作成）	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習，レポート整理
5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習，レポート整理
9.10.11.12.13. トラスの力学の復習，レポート整理
14. レポート整理
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
日本建築学会：構造入門教材　ちからとかたち，日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
実験演習結果： 40%（実験の総合順位を加味する）
実験レポートの提出： 60%（未提出のものは成績評価しない）
出席： 5 回以上欠席した者は成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【学生が準備すべき機器他】
配布ノートパソコン

【その他の重要事項】
この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。
また，使用する教室の都合により，受講者数の制限を行う場合もある。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.
Learning Objectives:
Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.
Learning activities outside of classroom:
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE300NB

ビルディングワークショップ（２０１９年度以降入学生）

中山　翔太

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い，「形と力」の関係について学ぶ。また，技術者（Professional Engineer）としての，エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力，プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】
実験を通して，1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力，2) チーム内で協調して作業する能力，3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力，これら 3 点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
与えられた実験課題に対して，5〜6 人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し，その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第 1・第 2 ラウンドの 2 つあり，それぞれのラウンドごとで順位に応じた点数を付与し，最終的にその合計点で総合順位を決める。また，ラウンドごとに，設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第 1 実験課題 （課題説明，設計製作作業）	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第 1 実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第 1 実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験，議論）	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第 2 実験課題 （課題説明）	課題説明
6	第 2 実験課題 （設計作業）	構造作品の設計
7	第 2 実験課題 （製作作業）	試作作品の製作
8	第 2 実験課題 （試作作品実験）	試作作品の実験と考察
9	第 2 実験課題 （改良案の提示と議論）	改善案の検討と議論
10	第 2 実験課題 （改良案の設計作業）	改良作品の設計
11	第 2 実験課題 （改良案の製作作業）	改良作品の製作
12	第 2 実験課題 （製作作業，レポート作成）	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第 2 実験課題 （プレゼンテーション，載荷実験）	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第 2 実験課題 （講評，レポート作成）	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学の復習
2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習，レポート整理
5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習，レポート整理
9.10.11.12.13. トラスの力学の復習，レポート整理
14. レポート整理
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】
日本建築学会：構造入門教材　ちからとかたち，日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】
評価項目：配分（評価基準等）
実験演習結果： 40%（実験の総合順位を加味する）
実験レポートの提出： 60%（未提出のものは成績評価しない）
出席： 5 回以上欠席した者は成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】
特にありません

【学生が準備すべき機器他】
配布ノートパソコン

【その他の重要事項】
この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。
また，使用する教室の都合により，受講者数の制限を行う場合もある。
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.
Learning Objectives:
Through the experiments, students will acquire the following three skills: 1) the ability to understand stress and deformation in structures, 2) the ability to work cooperatively in a team, and 3) the ability to make logical presentations through reports and other means.
Learning activities outside of classroom:
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on the results of laboratory exercises and laboratory reports.

ADE400NB

エンジニアリングスタジオＸ（２０１９年度以降入学生）

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
要求される構造性能を満足する建築物を構想し，その性能を工学的に検証する方法を学ぶ。

【到達目標】
構造計画立案のための基本的な工学原理を理解し応用するための能力の涵養をめざすとともに，卒業研究および卒業制作に取り組むための下地を形成することを目標とする。また，その過程で構造デザインの真髄の一端に触れることも目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに，設計事例を調査し，その拠り所となっている工学原理を整理・研究し，簡単なモデル化によって性能検証する方法を学ぶ。その後，実際に自らが演習を通して要求性能を満足する建築物を構想，検証し，プレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	構造デザイン
	現代の設計環境	有限要素法
第 2 回	構造解析の方法（1）	構造解析モデリング
		境界条件および荷重条件の設定
第 3 回	構造解析の方法（2）	構造解析と構造設計
第 4 回	構造解析の方法（3）	時刻歴応答解析
第 5 回	見学会	実建築物の見学
第 6 回	事例研究（1）	著名建築物の構造システムの把握
第 7 回	事例研究（2）	著名建築物の構造システムの検証
第 8 回	事例研究（3）	発表会
第 9 回	構造計画演習（1）	基本構想立案
		エスキス
第 10 回	構造計画演習（2）	構造計画立案
		仮定断面
第 11 回	構造計画演習（3）	性能検証
		改善策の検討
第 12 回	構造計画演習（4）	さらなる改善策の検討
第 13 回	構造計画演習（5）	プレゼンテーションの準備
第 14 回	最終講評会	プレゼンテーション
		講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査やモデル作成，発表会のための資料作成など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では，これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（30%），期末レポート（設計図書）（40%），最終プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】
新規開講授業のため，現在のところなし。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will learn how to conceptualize a building that satisfies the required structural performance and how to evaluate its performance using engineering methods.
Learning Objectives: The course aims to cultivate the ability to understand and apply basic engineering principles for structural planning, and to form the basis for students to engage in graduation research and graduation projects. The course also aims to expose students to the essence of structural design in the process.
Learning activities outside of classroom: Independent study outside of class time, such as research, modeling, and preparation of materials for presentations, is very important. In class time, the main focus is on explaining the progress of the work to date and confirming any questions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on in-class presentations, final reports (design documents) and final presentations.

ADE400NB

エンジニアリングスタジオＹ（２０１９年度以降入学生）

川久保　俊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築環境工学の基礎的知識を既に身に着けていることを前提としつつ、その知識を活かしながらサステナブル建築の構築方法に関する方法論を実践形式で学ぶ。

【到達目標】
室内環境シミュレーション、屋外環境シミュレーション、エネルギーシミュレーション、ライフサイクルアセスメントなどを実行できるような応用力を身に着ける。最終的に、シミュレーションの結果を踏まえて初期設計案を改良しつつ、よりサステナブルな建物を提案できるような技能を身に着ける。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実習（各種シミュレーションの実行）を通じた、実践形式の講義を展開する。一人一人異なる課題に取り組むことになるため、環境工学の基礎知識を十分に身に着けた状態で履修すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要説明
第 2 回	環境工学の復習	温熱環境、空気環境、光環境、音環境など
第 3 回	中間課題発表	敷地選定、解析条件の提示など
第 4 回	室内環境シミュレーションの基礎	室内の数値流体解析（CFD）
第 5 回	室外環境シミュレーションの基礎	室外の数値流体解析（CFD）
第 6 回	エネルギーシミュレーション	ES ツール、エネルギー消費量、省エネ、創エネ
第 7 回	ライフサイクルアセスメント	ライフサイクル思考、建築物の LCA 指針
第 8 回	最終課題発表	敷地選定、解析条件の提示など
第 9 回	フィールドワーク	現地調査、ローカル環境の測定
第 10 回	環境シミュレーション（1）	モデル作成
第 11 回	環境シミュレーション（2）	条件設定
第 12 回	環境シミュレーション（3）	解析実行、ポスト処理
第 13 回	総合性能評価	建築環境総合性能評価システム（CASBEE）
第 14 回	ファイナルレビュー	プレゼンテーション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内にシミュレーションが終わらない場合は、授業時間外に解析を回して最終発表に間に合わせること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。講義中に適宜参考情報を提示する。

【参考書】
特に指定しない。講義中に適宜参考情報を提示する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（100%）によって評価する。なお、課題未提出の者の成績評価は実
施しない。

【学生の意見等からの気づき】
シミュレーションを回すための時間が足りない様子だったので、今年度は課題提示を早期化する予定。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will learn methodologies on how to design sustainable buildings in a practical format, while assuming that they already have a basic knowledge of architectural environmental engineering.
Learning Objectives: Students will acquire the applied skills to perform indoor environmental simulations, outdoor environmental simulations, energy simulations, and life cycle assessments. Finally, the students will acquire the skills to propose a more sustainable building while improving the initial design proposal based on the simulation results.
Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. If the simulation cannot be completed during the lecture, the analysis should be conducted outside of class time to make it in time for the final presentation.
Grading Criteria /Policy: The evaluation will be based on the report (100%). No grade will be given to students who have not submitted their assignments.

ADE400NB

エンジニアリングスタジオＺ（２０１９年度以降入学生）

宮田　雄二郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
要求される構造性能を満足する建築物を構想し，その性能を工学的に検証する方法を学ぶ。

【到達目標】
構造計画立案のための基本的な工学原理を理解し応用するための能力の涵養をめざすとともに，卒業研究および卒業制作に取り組むための下地を形成することを目標とする。また，その過程で構造デザインの真髄の一端に触れることも目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに，設計事例を調査し，その拠り所となっている工学原理を整理・研究し，簡単なモデル化によって性能検証する方法を学ぶ。その後，実際に自らが演習を通して要求性能を満足する建築物を構想，検証し，プレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	構造デザイン
	現代の設計環境	有限要素法
第 2 回	構造解析の方法（1）	構造解析モデリング
		境界条件および荷重条件の設定
第 3 回	構造解析の方法（2）	構造解析と構造設計
第 4 回	構造解析の方法（3）	時刻歴応答解析
第 5 回	見学会	実建築物の見学
第 6 回	事例研究（1）	著名建築物の構造システムの把握
第 7 回	事例研究（2）	著名建築物の構造システムの検証
第 8 回	事例研究（3）	発表会
第 9 回	構造計画演習（1）	基本構想立案
		エスキス
第 10 回	構造計画演習（2）	構造計画立案
		仮定断面
第 11 回	構造計画演習（3）	性能検証
		改善策の検討
第 12 回	構造計画演習（4）	さらなる改善策の検討
第 13 回	構造計画演習（5）	プレゼンテーションの準備
第 14 回	最終講評会	プレゼンテーション
		講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査やモデル作成，発表会のための資料作成など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では，これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（30%），期末レポート（設計図書）（40%），最終プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】
新規開講授業のため，現在のところなし。

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will learn how to conceptualize a building that satisfies the required structural performance and how to evaluate its performance using engineering methods.
Learning Objectives: The course aims to cultivate the ability to understand and apply basic engineering principles for structural planning, and to form the basis for students to engage in graduation research and graduation projects. The course also aims to expose students to the essence of structural design in the process.
Learning activities outside of classroom: Independent study outside of class time, such as research, modeling, and preparation of materials for presentations, is very important. In class time, the main focus is on explaining the progress of the work to date and confirming any questions.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy: Grading will be based on in-class presentations, final reports (design documents) and final presentations.

ADE400NB

卒業制作２

宮田　雄二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom: Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

安藤　直見

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

下吹越　武人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

網野　禎昭

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

赤松　佳珠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

川久保　俊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

高村　雅彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

岩佐　明彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

ADE400NB

卒業制作２

小堀　哲夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年間の集大成として、指導教員からの指示を受けながら、卒業制作をまとめあげ、提出し、合格することが到達目標となる。各自のテーマは、指導教員との討議のうえで設定する。

【到達目標】
テーマに沿って、独自の調査、実験、分析、研究などに基づき提案を構想し、制作を行う。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を養う。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎			◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
概要と方法は、各指導教員からの指示に従う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計画案の経過報告	夏休み中に進めたスタディの発表をし、ディスカッションを行う
2	計画案の決定事項のまとめ	この時点で決定しているコンセプト・ダイアグラム・選定敷地等についてのプレゼンテーションをまとめ、指導を行う
3	計画案の発展（1）	計画案をさらに発展させるためのスタディを行い、構造と意匠の整合を図るよう指導する
4	計画案の発展（2）	部分計画に関わる検討を行い指導する
5	計画案の発展（3）	詳細表現に関わる検討を行い指導する
6	中間発表に向けて（1）	中間発表に必要な素材を検討する
7	中間発表に向けて（2）	各図面、模型について指導する
8	中間発表に向けて（3）	中間発表に向けてプレゼンテーションの練習を行う
9	中間発表をうけて	発表時に指摘された箇所のブラッシュアップを検討し指導する
10	図面指導（1）	卒業設計完成に向けて指導を行う
11	図面指導（2）	必要図面の確認を行い、指導する
12	図面指導（3）	各図面、模型の表現方法について指導を行う
13	プレゼンテーションチェック	提出図面のプレゼンテーションに対して指導を行う
14	総括	ポストレビューを行い、各作品の長所や問題点などについて講評する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
以下に卒業制作として設計を行うことをイメージした場合の学習の進め方を示す。なお、設計以外の制作を行う場合は各指導教員と卒業制作の進め方に関してディスカッションを十分に行うこと。
1. 提出までのスケジュールを検討する
2. ディスカッションの準備
3. プレゼンテーションの資料つくり
4. 計画案の構造と意匠の面からアプローチを考える
5. 図面・模型等の準備
6. 図面・模型等の準備
7. 図面・模型等の準備
8. 図面・模型等の準備
9. プレゼンテーションの準備
10. 図面や模型の作成
11. 提出予定の図面や模型の製作を進める
12. 提出予定の図面や模型の製作を進める
13. 提出予定の図面や模型の製作を進める
14. 提出予定の図面や模型の製作を進める
15. 作品のブラッシュアップやプレゼンテーションの練習をしておく
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【参考書】
各ゼミの担当教員から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
提出された卒業制作の内容を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: The goal is to compile a graduation project as the culmination of the four years of study, with instructions from the supervisor.　Each student's theme is set after discussion with their supervisor.
Learning Objectives:　Create original productions while carrying out independent research, experimentation, analysis and study in accordance with the theme. Develop the ability to understand problems from a wide range of perspectives and to find solutions independently and continuously.
Learning activities outside of classroom:　Proceed in consultation with the supervisors in charge of each seminar.　The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:　Grade evaluation is performed comprehensively on the content of the submitted graduation project.

CST100NC

生態学概論（２０２３年度以降入学生）ＳＤ

山田　由美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】
生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。
また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ.（税込 3,025 円）　をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】
鷲谷いづみ. (2017). 大学 1 年生の なっとく!生態学（税込 2,420 円）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　小テスト 30 %、期末レポート 40 %
上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。
平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。
小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】
鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。
ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course introduces fundamental knowledge on ecology.Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment.Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.
Learning Objectives:
The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.
Learning activities outside of classroom:
Your required study time is at least one hour for each class.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

CST100NC

生態学概論（２０２３年度以降入学生）建築

山田　由美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】
生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。
また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ.（税込 3,025 円）　をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】
鷲谷いづみ. (2017). 大学 1 年生の なっとく!生態学（税込 2,420 円）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　小テスト 30 %、期末レポート 40 %
上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。
平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。
小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】
鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。
ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course introduces fundamental knowledge on ecology.Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment.Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.
Learning Objectives:
The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.
Learning activities outside of classroom:
Your required study time is at least one hour for each class.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

DES100ND

図学設計基礎演習Ｘ（２０２３年度以降入学生）

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの基本となる立体と 2 次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

【到達目標】
立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CAD システムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは３次元の立体を対象にデザイン（総合計画設計）しますが、３次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3 次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として 2 次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱かわれており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はＣＡＤ（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、ＣＡＤでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎 1	平面から立体、立体から平面の往来 図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎 2	図形を通して立体を第三者に伝達する 平面から立体、立体から平面の往来
4	三角法の基礎-1 ：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習 1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
5	三角法の基礎-2 ：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習 2 ： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3 ：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習 3 寸法記入法、断面図
7	CAD による三角法作図の基礎演習-1	CAD による作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解 1。
8	CAD による三角法作図の基礎演習-2	CAD による作図。図形描画ツールの理解 2。
9	CAD による三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解 3、数値入力基本操作、演習課題 1 ：三角法による幾何形体の作図。
10	CAD による三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題 2 ：三角法による幾何形体の作図。
11	CAD による三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題 3 ：三角法による幾何形体の作図。
12	CAD による三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（基本レイアウトの作成）
13	CAD による三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CAD による三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を必ずすること。
CAD の基本操作を自主的に学習しておく事。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JIS にもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
2 次元と 3 次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回授業で指示します。

【その他の重要事項】
活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting .

DES100ND

図学設計基礎演習Ｙ（２０２３年度以降入学生）

梶本　博司、石橋　忠人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ものづくりの基本となる立体と 2 次元図形との関係性を把握し、プロダクトデザインや製品シミュレーションに必要な作図を学ぶ事が出来る。また、製図におけるデジタル化の基礎が学べる。

【到達目標】
立体と図形を往来する能力を高め、「設計図面：三角法」の基本を習得することで、CAD システムによる基礎的な作図が出来ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、ものづくりの過程において重要な作図の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは３次元の立体物を対象にデザイン（総合計画設計）しますが、３次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3 次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として 2 次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱かわれており、ＩＳＯ規格、国内でのＪＩＳ規格に則って作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法をベースに作図を学びます。また、図面はＣＡＤ（ Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、ＣＡＤでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	図学設計基礎 1	平面から立体、立体から平面の往来 図形を通して立体を第三者に伝達する
3	図学設計基礎 2	図形を通して立体を第三者に伝達する 平面から立体、立体から平面の往来
4	三角法の基礎-1 ：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習 1 三角法の作図法、基礎概念の理解。
5	三角法の基礎-2 ：三角法の作図法 線種と図面記号、図面の配置計画、投影図	手描きによる幾何形体－演習 2 ： 線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。
6	三角法の基礎-3 ：三角法の作図法 寸法記入、断面図	手描きによる幾何形体－ 演習 3 寸法記入法、断面図
7	CAD による三角法作図の基礎演習-1	CAD による作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解 1。
8	CAD による三角法作図の基礎演習-2	CAD による作図。図形描画ツールの理解 2。
9	CAD による三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解 3、数値入力基本操作、演習課題 1 ：三角法による幾何形体の作図。
10	CAD による三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題 2 ：三角法による幾何形体の作図。
11	CAD による三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題 3 ：三角法による幾何形体の作図。
12	CAD による三角法作図の応用演習-1	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（基本レイアウトの作成）
13	CAD による三角法作図の応用演習-2	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（断面図、寸法記入、（定義づけ）整合性の検証）
14	CAD による三角法作図の応用演習-3	身近な立体物を計測し、三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を必ずすること。
CAD の基本操作を自主的に学習しておく事。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

【参考書】
「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者　山田　学
「JIS にもとづく標準製図法」
発行：オーム社

【成績評価の方法と基準】
出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
2 次元と 3 次元を往来することの演習機会を増やします。
基礎の習得を徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回授業で指示します。

【その他の重要事項】
活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, you can understand the relationship between solids and figures, which are the basis of manufacturing, and learn the drawing necessary for product design and product simulation. You can also learn the basics of digitization in drafting .

CST200NC

測量実習 X

今井　龍一

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】
距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　30%
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の測量機器を用いて計測方法を習得する．また，得られたデータによる精度検証を行い，実務に利用できる能力を身につける．なお，測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し，選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器機等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い，多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器機の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数機器による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】
講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点，取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。
取組姿勢・平常点（60 %），個人実習（20 %），班別成果（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
初めて機器に触れるため、丁重な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
計算には関数付電卓か PC を持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】
授業を 4 回以上欠席した場合は、単位取得を認めない (評価 D)。
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.
The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying.
Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.
Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST200NC

測量実習 Y

大山　容一、渡辺　一博

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】
距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力　30%
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　20%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の測量機器を用いて計測方法を習得する．また，得られたデータによる精度検証を行い，実務に利用できる能力を身につける．なお，測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し，選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器機等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
6	距離測量 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
7	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断測量 水準測量の計算、誤差配分
8	多角測量 測角を行い，多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
9	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器機の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
10	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
11	レーザ測量（固定型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
12	レーザ測量（可搬型）	器機の説明、取扱い、測量、計算
13	レーザ測量（合成）	複数機器による測量と計算
14	まとめ	不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施 成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】
講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点，取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する。
取組姿勢・平常点（60 %），個人実習（20 %），班別成果（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
初めて機器に触れるため、丁重な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
計算には関数付電卓か PC を持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】
授業を 4 回以上欠席した場合は、単位取得を認めない (評価 D)。
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.
The goal is to learn techniques to measure distances, angles, and elevation differences, and learn how to do flat-plate surveying.
Evaluation will be made on the basis of normal points, attitude and individual reports, and group achievements.
Attitude and normal score (60%), individual practice (20%), group achievement (20%)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

CST300NC

都市調査解析

今井　龍一

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化の先進諸国における都市空間の計画・設計・開発・経営に対するニーズはますます多様化、複雑化している。一方、都市空間そのものに加えて、ヒト・モノ・コトの活動の実態を網羅的に常時観測できる技術も日進月歩である。
本講義では、都市空間の計画・設計・開発・経営に必要な地図や統計データの特性および分析手法を習得する。

【到達目標】
土木計画学に必要な各種統計データを分析する能力を習得する

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　50%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間や都市活動（ヒトモノコトの交通・流通）の統計データや分析に利用する地図の特徴を理解し、それらを使った分析手法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市調査解析の概論	講義計画、概論
2	解析に利用する地図（基本）	ICT を活用した国土管理、地図の基礎
3	解析に利用する地図（種類）	地図の種類
4	解析に利用する地図（ジオメトリ）	ジオメトリ
5	解析に利用する地図（NW）	ネットワーク
6	解析に利用する地図（トポロジ）	トポロジ
7	統計（基本）	統計データの種類と所在
8	統計（応用）	統計データの活用
9	ビッグデータ（基本）	ビッグデータの種類と所在
10	ビッグデータ（応用）	ビッグデータの活用
11	解析手法（モデリング基礎）	モデリングの基礎
12	解析手法（モデリング応用）	モデリングの応用
13	解析手法（応用）	多変量解析等
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】
新田保次監修「図説わかる土木計画学」学芸出版，吉川和広編著「土木計画学演習」森北出版，日本建築学会編「建築・都市計画のための調査・分析方法」

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (70%) 及び演習課題・レポート (30%) により評価する。ただし，授業を 4 回以上欠席した場合は、単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
・基礎的な統計解析は習得しておくこと。
・GIS や Microsoft Excel の基礎は学んでおくこと。

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
This course allows students to learn theories for research, analysis, planning, and evaluation related to urban and transportation planning, as well as methods for implementing plans. Students will also learn about existing maps and statistics, as well as analysis methods using diverse urban data.
The goal is to acquire the ability to analyze various statistical data necessary for civil engineering planning studies.
Assessments will be based on each report and the final report.
Students who are absent four or more times will not be allowed to receive credit (grade D).
Term end examination :70%, Short reports : 30%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC

構造力学２

小笠原　照夫

開講時期：**秋学期前半/Fall(1st half)**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，構造力学 1 及演習を引き継ぐ科目である．構造計算に必要な基本的項目を理解し，実際の問題を解ける能力を身に付けることを目的とする．

【到達目標】
不静定構造の断面力図が思い浮かぶようになる．剛性マトリクス法による構造解析の基本的な考え方が理解できる．

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主な学習内容は，「構造力学１の復習とはりの影響線の応用，応力とひずみの関係，仮想仕事の原理とエネルギー法による弾性体の解析手法，マトリクス構造解析の考え方」の４項目である．授業はプロジェクタを使用して行うことを基本とし，資料配布も行う．また，理解を高めるために，授業のはじめに前回演習問題の解説を，授業の途中では例題の解説を，授業のおわりに演習を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	連行荷重 連行荷重による断面力が求められること．	構造力学（1）の復習，はりの影響線の応用，連行荷重による断面力の求め方・利用法
2	応力とひずみ 構造材料の力学的性質と 2 次元応力状態の主応力について理解すること． 主応力と Mohr の応力円の関係を理解すること．	構造力学（1）の復習，弾性・塑性，等方性・異方性、応力とひずみの関係，Mohr の応力円と最大・最小主応力
3	仮想仕事の原理（１） 仮想仕事の基本的な考え方を理解すること．	剛体の仮想仕事の原理，弾性体の仮想仕事の原理
4	仮想仕事の原理（２） 仮想仕事の原理を用い，弾性体の変形量を算出できること．	弾性体の仮想仕事の原理，仮想仕事の原理を用いたはりとトラスの変形の算出
5	エネルギー法（１） ひずみエネルギーの考え方を理解すること．	ひずみエネルギーを用いた解法，Castigliano の第 2 定理
6	エネルギー法（２） ひずみエネルギーを用いた弾性体の解法を理解すること．	最小仕事の定理，Castigliano の第 1 定理
7	余力法（１） 不静定はりの断面力図を描画できること．	不静定構造，連続はり，余力法
8	余力法（２） 不静定はりの断面力図を描画できること．	不静定構造，連続はり，余力法
9	剛性マトリクス（１） 剛性マトリクス法による構造解析の考え方とトラスの解法を理解すること．	剛性マトリクス，行列，軸方向力部材の剛性マトリクス
10	剛性マトリクス（２） 剛性マトリクス法による構造解析の考え方とトラスの解法を理解すること．	剛性マトリクス，行列，軸方向力部材の剛性マトリクス
11	剛性マトリクス（３） 剛性マトリクス法によるラーメンの解法を理解すること．	有限要素法，軸方向力と曲げを受ける棒要素の剛性マトリクス
12	相反定理 仮想仕事の原理を用い，はりの影響線を描画できること．	相反作用の定理，Betti の法則，Maxwell の法則，Müller-Breslau の原理
13	構造力学２まとめ 講義の振り返り	影響線の応用，主応力，不静定構造の各種解析手法のまとめ
14	定期試験	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 構造力学（1）の復習、テキスト [上]4,9 章の復習
2. テキスト [上]7.7 と付録（もっと立ち入った応力の話）の予習
3. テキスト [下]1 章の予習
4. テキスト [下]2 章の予習
5. テキスト [下]4.1-3 の予習
6. テキスト [下]4.4-6 の予習
7. テキスト [下]5.1-3 の予習
8. テキスト [下]5.4-5 の予習
9. テキスト [下]6.1-5 の予習
10. テキスト [下]6.6-7 の予習
11. テキスト [下]7 章の予習
12. テキスト [下]3 章の予習
13. テキスト [上]1-7 章の振り返り
14. 定期試験
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
崎元達郎：構造力学 第 2 版（上）静定編
構造力学 第 2 版（下）不静定編　(第 2 刷以降)
（森北出版）

【参考書】
必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
レポート（配点 30 点）と期末試験（配点 70 点）による．欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D).

【学生の意見等からの気づき】
講義内容を整理して，例題・演習の時間を増やす．

【その他の重要事項】
橋梁構造等に関する設計・施工の実務経験から，「理論と計算」を考慮した構造力学を講義する．

【Outline (in English)】
The content of this course takes over from Structural Mechanics 1 and Practice.
It aims to understand the basic aspects necessary for structural calculation and to acquire the ability to solve actual problems.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− You will be able to imagine the sectional force diagram of the statically indeterminate structure.
− Understand the basic concept of structural analysis by the stiffness matrix method.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする．卒業研究の実施状況や現場を視察し，研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	10%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない．この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など．
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し，発表と審査を傍聴する．数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．
なお，１年生春学期から３年生春学期までの達成度自己評価システム（全５回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットへの接続が必要な場合には貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木構造物の計画，設計，建設（施工），調査・研究に携わった経験のある教員が，専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Submission of the self-evaluation system for achievement (for all five sessions) is a condition for credit approval.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST300NC

インターンシップ（都市）

山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学科カリキュラムと密接に関連する研究開発、調査・分析、計画・設計、施工管理等に関連する実業務を体験することにより、環境システムのデザイン、施設のデザイン、都市プランニングの実務者に必要な基礎能力を身につける。

【到達目標】
役所や企業の活動内容を理解し、これまで修得してきた専門知識を踏まえ、実習先の指導担当者と十分な意思疎通を図って業務を体験する。これらを通じて業務遂行能力を修得する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	20%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	30%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実習する事業所、業務形態と内容により異なるが、① 研究開発業務の手順・手法・検証評価および報告書のとりまとめ、② 現地調査と調査データの解析・評価および報告書のとりまとめ、③ 計画の立案と事業主体や住民への説明、④ 設計計算書・図面の作成と積算、⑤ 施工・安全・出来高管理等の実際業務を官・民の事業所で体験学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1・2	オリエンテーション 実習先の決定・実習における注意	実習先の希望聴取・実習先の説明・実習先の決定・実習先での諸注意を行う
3〜13	実習先でのインターンシップ	インターンシップの実施 （1）実施期間は原則として２週（実働 10 日間）以上 （2）実習先で業務日誌を作成すること。 （3）実習終了時に指導担当者の方に指導報告書を記入していただくこと。
14	結果の報告とレポートの提出の提出	作成したレポートをもとに担当教員に報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1・2. 実習希望先の調査・履歴書などの準備
3〜13. 業務日誌・レポート等の作成
学科ガイダンス（年度当初）およびインターンシップガイダンス（５月中旬）を実施する。
学科が斡旋する企業等の割り当てについては５月下旬に調整を行うので必ず上記ガイダンスに参加すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて配布

【成績評価の方法と基準】
レポートおよび実習先指導担当者による報告書により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップの目的は職業体験であり、社会人としての仕事への取り組み方について実感を得るとともに、都市環境デザイン工学が担う幅広い職種に対する理解を深めることが狙いである。将来の就職活動の際に幅広い視野を得るため、特定の企業のみを考えることなく参加することが重要である。

【その他の重要事項】
都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして派遣先のコーディネイトを行う。
実習にあたり、Word・Excel 等の基本的な操作ができることが前提である。また CAD 等についても基本的な操作ができることが望ましい。

【Outline (in English)】
In this course, students will experience business, research and development, survey/analysis, planning and design, and construction management in civil and environmental engineering fields at companies and government offices in order to acquire basic skills as practical engineers.

CST300NC

上下水道システム

島田　裕康

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水の循環は、自然系の水循環と社会活動に必要不可欠な上下水道システムによる人工系の水循環が混在している。
本講義では、都市の上下水道による水循環に焦点を当て、社会基盤を支えるインフラの一つとして、上下水道システムにおける発展の歴史や求められる役割、システムの構成と機能、設計や施工方法及びシステムの運営・管理等日本の実社会での取組み事例等をベースに学ぶ。
また、持続可能な社会構築にむけてインフラの共通課題である、施設の老朽化や耐震化問題を始めとした上下水道分野における課題と対応策についても学ぶ。
上下水道システムの全体像や構成技術、現在の課題及び対応策について理解を深めることにより、卒業後上下水道分野の職場を希望する学生のみならず、街づくりに携わる分野を希望する学生にとっても必要な基本能力の向上を目的とする。

【到達目標】
上下水道システムの
・役割（生命・社会生活の維持、水環境の保全、持続的社会にむけて）
・仕組み（上水道システム、下水道システム、運営・維持管理）
・課題（地球温暖化による影響、インフラの老朽化、大規模災害リスクの増大等）
・対応策（高度処理、雨水利用と貯留、浸透、新技術の開発、官民連携等）
について学ぶ。特に上下水道技術分野における課題、今後の方向性を十分理解するとともに、厳しい社会経済状況のなかで、市民としての「自助」活動のあり方を理解するとともに、工学エンジニアとしての社会における技術者貢献をめざして、上下水道技術分野の基本的な知識習得を目標とする。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントによる講義とし、毎回テキストを配布し進める。各授業毎に授業内容の理解度を確認するためのミニテスト（確認テスト）を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体概要の紹介と世界・日本の水事情	この授業で何を学ぶのか・水が持つ機能とは・人体と水・世界と日本での水を取り巻く環境・都市の水循環とは
2	上水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例・水道普及の要因と現状・水道の役割と法律
3	水道水ができるまで	水道の水源から蛇口まで・日本の浄水処理・美味しい水とは
4	日本で水道水を直接飲むことができるのは	水道の水質基準とは・水質検査と安全管理の実態
5	水道事業の民営化とは	水道事業とは・全国の水道料金が違うのは・水道事業の現状と課題・水道事業民営化
6	地球温暖化による水道への影響と離島での水道事情	温暖化による今後の予測、節水対策、雨水利用の現状と動向。離島における水道の現状
7	下水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例・下水道の役割とその変遷
8	下水道の水質基準と普及状況を示す指標	BOD と COD とは・基準の使われ方・下水道の普及状況は・下水道類似施設とは
9	下水道施設の計画から施工まで	下水道の収集方法（分流・合流）様々な下水管きょの種類・マンホールの役割・下水道の施工方法
10	下水道の課題とは	河川や海の水質保全・下水道の老朽化問題・下水道の地震対策
11	都市型水害とは	急増する集中豪雨の現状と対策・都市化と都市の地理的特性・河川、下水道でのハード対策とソフト対策
12	雨水の流出をコントロールする貯留と浸透とは	貯留・浸透工法の仕組みと効果及び街づくりと一体となった取組み
13	下水はどのように浄化されるのか	浄化技術の変遷・重要な微生物の働き・標準活性汚泥法・高度処理とは
14	試験・まとめ	第 1 回から第 13 回授業での重要なポイントの理解度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
市民生活を支える「上水道」「下水道」について自分の身近な水を学習することから始める。
例えば、「水道料金はいくら払っているのか？」「自宅の水道水は、どこの浄水場から給水されているのか？ そもそも、その水源はどこなのか？」「使用した水は、どのように処理されているのか？ また下水処理場は？ 処理水の放流先は？」「自宅の屋根や敷地に降った雨水はどのように処理されているのか？」など各自の生活の周りにある「水」を理解しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定するテキストはない。毎回テキスト及び関連資料を配布する。

【参考書】
指定する参考書はない。上下水道の基礎知識を備えておくことが望ましいことから、インターネット等の情報を十分活用し、各授業での内容や社会での事例等を自ら確認すること。

【成績評価の方法と基準】
授業の理解度を確認するため、授業毎に実施するミニテスト（確認テスト）と期末試験を実施する。
・両試験での評価は、ミニテスト 40 %期末テスト 60 %合計 100 %とする。
・ミニテストは授業に関連した内容（重要なポイント等）を確認するため実施し、教員が授業毎に回収する。提出状況と記入内容により評価する。
・期末試験は、授業全体の理解度を記入内容から評価する。
授業は連続授業（1 日 2 時限で 7 日間全 14 回授業）となるが、全 14 回授業のうち欠席 4 回以上は原則単位の取得を認めない（この場合評価は D）

【学生の意見等からの気づき】
幅広いテーマの授業となることから、各テーマへの関心と理解を深めるため、具体的な事例を取り入れ、本授業のテーマが机上での知識だけでなく、学生自らの日常生活に密接に係るものであることを十分認識できる授業を目指す。

【その他の重要事項】
都市再生機構職員として、団地建替事業や市街地再開発事業に携わった経験を持つ教員が、街づくりとの関係を含め上下水道全般について講義する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, you will learn the history and role of the development of water supplies and sewer systems, in addition to their composition, function, design, construction, operation and management.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to get an overview of the water and sewer system, current issues and countermeasures.
（Learning activities outside of classroom）
Before each class meeting, students will be expected to understand the things related to the water and sewer system that is close to you. your required study time is at least four hour each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be calculated according to the following process short reports in each meeting (40%), term-end examination (60%).

CST200NC

PC 構造デザイン

酒井　秀昭

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プレストレストコンクリート（Prestressed-Concrete）（以下、PC という）について、主に PC 橋梁を事例としその力学的特性と設計の基本を学ぶ。PC とは、コンクリートに予め圧縮力を与えたコンクリートをいい、引張に弱いコンクリートに予め圧縮力を与えることで、従来の鉄筋コンクリートの概念を飛躍的に向上させた構造である。PC 構造は、社会インフラとしての橋梁に広く採用されており、ライフサイクルコストの削減や効率的整備に大きく貢献している。この PC 構造のデザインを学習することにより、今後の技術者としての将来に大きく貢献できるものと期待される。

【到達目標】
「PC 構造デザイン」では、PC の原理、力学的特性、設計法、維持管理法について、基礎的な内容やその適用事例などを幅広く学習する。到達目標は、構造力学の復習も含め、学生諸君が社会において PC 技術に携わる際、躊躇無く取組めるよう、基礎的見識の習得及び PC 構造のデザインの基礎習得を目指す。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初にプレストレストコンクリート（ＰＣ）の概要を掴むため、その概念、歴史・変遷、近年の適用事例について学ぶ。その後、PC 構造物のライフサイクルマネジメント手法およびデザインの基本的考え方を学ぶ。さらに、プレストレスの作用・仕組み、プレストレスを作用させた PC 構造物の設計方法ならびに維持管理手法について具体的に学習する。授業は、パワーポイント（PPT）と黒板を用いて説明する。PPT の内容については、授業支援システムに登録する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	PC 構造の概要	授業の目的や進め方を説明する。また、PC 構造の特徴を把握する。
2	PC 構造の発展と構造物	PC 構造の開発の経緯と活用例を知ることにより、PC 構造の特性を理解する。
3	ＰＣ構造の橋梁への適用	PC 構造の橋梁への適用例を学習することにより、PC 構造の利点を理解するとともに PC 構造のデザインの基礎を理解する。
4	PC 構造の技術・材料	PC 構造を可能とするための基本的な技術および構成材料の種類や特徴を理解する。
5	PC 橋の種類・架設工法	近年の PC 橋の形式や架設工法について、鋼構造との複合構造も含めて理解する。
6	ＰＣ橋のライフサイクルマネジメント	PC 橋の計画・設計・施工・維持管理のライフサイクルマネジメントを理解することにより、PC 構造のデザインの基本的考え方を理解する。
7	ＰＣ橋のプランニング	PC 橋の設計供用期間、維持管理区分および要求性能の設定方法を学習して、構造形式や構造形状の計画方法を理解する。
8	PC 橋のデザインの概要	PC 橋の性能照査型設計による性能確保に関する基本概念および性能照査型設計の手順を理解する。
9	PC 橋のデザイン (作用と限界値)	PC 橋の死荷重、活荷重および環境作用などの作用の設定方法および材料等の限界値の設定方法を理解する。
10	PC 橋のデザイン (応答値と性能照査)	PC 橋の応答値の算定方法および要求性能に対する性能の照査方法を理解する。
11	PC 橋のデザイン計算 (作用と限界値)	PC 橋の活荷重作用の算定、環境作用の算定に関する事例および性能照査の事例により、PC 橋の設計方法を理解する。
12	PC 橋のデザイン計算 (応答値と性能照査)	PC 橋の活荷重作用、環境作用による応答値の算定に関する事例および性能照査の事例により、PC 橋の設計方法を理解する。
13	PC 橋の保全方法	PC 橋の維持管理における維持管理計画の策定、診断、記録および対策の基本概念および手順を理解する。
14	全体のまとめ	全体の復習を行って、PC 構造のデザイン方法の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講する前に、構造力学、鉄筋コンクリートおよび鋼・コンクリートなどの材料に関する今までの関連授業の内容を再確認したうえで、授業に臨む。授業の中でレポートを１回提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業は、PPT と黒板説明を中心とする。
PPT の資料は、全て、授業支援システムに登録するので準備のこと。

【参考書】
・コンクリート標準示方書　基本原則編、設計編、維持管理編（公益社団法人土木学会）
・道路橋示方書・同解説　Ⅰ共通編、Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編（社団法人日本道路協会）
・コンクリート構造設計施工規準 (公益社団法人プレストレストコンクリート工学会)

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績を重視（７０％）するが、レポート提出も考慮（３０％）する。

【学生の意見等からの気づき】
図や写真等をなるべく多く活用し、わかりやすい授業内容とする。

【その他の重要事項】
橋梁の計画・設計・施工・維持管理の経験を有する者が、プレストレストコンクリート構造及びプレストレストコンクリート橋梁のデザインについて具体的に講義する。

【Outline (in English)】
This course is on prestressed concrete (“PC”) taught by the civil engineering department. It features subjects on bridge and buildings utilizing PC structure. PC structure is made up of concrete with compressive force applied and drastically improves the concept of conventional reinforced concrete by applying compression force in advance to concrete which is weak against tension. PC structure is widely adopted in bridges for social infrastructure, and contributes greatly to efficient construction and the reduction of life cycle cost. It is expected that students will greatly contribute as engineers in the future by learning the design of PC structure.

ADE300NC

建築法規（都市）

飯田　直彦

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では建築物の単体規定及び集団規定さらにこれらのファミリーともいえる耐震防火改修、バリアフリー、省エネ、リサイクル、景観・みどり・屋外広告物、宅地防災などの基準・手続きからなる多様多彩な建築関連法令の概要や目的をその社会的背景とあわせて学び、君の都市デザインや建築設計をより合理的かつ実行可能なものにする上で必要な基本的な姿勢や考え方を身につけていく。

【到達目標】
1．建築関連法令の読み方と解釈力を習得できる
2．建築関連法令の内容と趣旨を説明できる力を習得できる
3．法令の本旨を織り込んだプランニングやデザインをする力を習得できる
4．建築士試験受験の基礎を習得できる

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
一般に長文で複雑な建築法規の理解には、これを節や句に分解して条文の構造を把握した上で、その条文の時代における、社会経済的な背景を知り、かつ各種工学や都市計画や行政法学などの理論で補うことが欠かせない。
そこで、まず、授業のおおよそ第 1 回から第 8 回にかけては建築基準法に定める単体規定及び集団規定ほかをそれらの要点、背景そして目的を、テキスト（教科書）や授業資料を用いて、その実例を示し、例題を解きながら、学ぶ。次におおよそ第 9 回から第 14 回にかけてはこれらを応用あるいは展開するような建築法規について、その実例を示し、それらの要点や背景や意義を学ぶ。なお、これら学んだ法規を、他者に図解などして平易に説明でき、かつ、君らしいデザインの姿勢や方針をスケッチやイメージや文章を通じて表明することによって身につけていくことができるよう、君は後述する計２回の課題レポートを作成・改良する。以上の進め方と方法の具体詳細については講義や Hoppii において紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	まちやいえでみかける建築法規	・建築物の特徴からみた建築法規。 ・まちやいえでみかける建築法規。 ・この講義全体の編成とねらい。 ・最低の水準を示す基準 vs 推奨する水準を示す基準 (index と criteria)。
2	室内環境に関する建築法規（建築基準法単体規定１）	居室 vs 室, 屋内 vs 屋外からとらえた室内環境や屋内移動安全に関する建築法規。 ・室内環境や移動を支える建築設備。 ・ビル衛生法との関連性。
3	構造強度安定に関する建築法規（建築基準法単体規定２）	・質量 vs 力。 ・構造躯体に加わる外力と生じる反力そして部材断面や基礎や基盤に生じる応力度。 ・建築物を構成する部材の特性。 ・骨組みにおける力の伝達。 ・構造方法規定と構造計算規定の工学的意味。
4	防火避難に関する建築法規（建築基準法単体規定３）	・火災時の火熱煙ガス等拡大と在館者の行動特性とに応じた防火避難規定（特殊建築物，建築物の構造や階数など）。 ・消防活動を支える防火避難規定（消防法を含む）。 ・建築火災と市街地火災 (集団規定との相補)。
5	建築物と各種インフラ・公共公益サービスとを関係づける建築法規（都市計画関連法規との連携）	道路，上下水道，河川，公園，電気ガス，廃棄物処理などと建築物との関わり。 ・開発許可制度や都市計画制限。 ・土地利用規制と税負担他と公共財の整備経営。
6	建築物と敷地・道路に関する建築法規（建築基準法集団規定１）	・敷地の定義と接道義務。 ・様々な道路（道路位置指定、２項道路、３項道路、都市計画道路、私道、敷地内通路など）。 ・道路幅員に応じての沿線建築物の用途や規模の制限 ・木造密集市街地での防災や居住環境そして空地。
7	建築物の用途や高さ等に関する建築法規（建築基準法集団規定２）	・用途や高さ等を制限する理由（相性悪い用途と補いあう用途、影響力ある用途と影響受けやすい用途、その建築用途が必要とする公共公益サービス、高さや壁面後退等による相隣調整）。 ・相隣調整する他の法規（営業開設許可制や他の環境公害法令）との相補。 ・用途の純化 vs 異種用途との共生。
8	建築物群の密度に関する建築法規（建築基準法集団規定３）	・容積率制限・建蔽率制限・最低敷地面積制限などの趣旨とその展開。 ・一敷地一建築物原則と一団地認定。 ・地域特性に応じた地区計画制度。 ・地区計画制度。
9	住まいをめぐる市民と専門家に関する建築法規（住宅・宅地関係法ほか）	・すまいとライフステージ (含む住宅金融や税制)。 ・区分所有という仕組みと意思決定 (専用部分と共用部分)。 ・性能表示制度、瑕疵担保責任、宅地建物取引、契約と登記。
10	着工前、工事中及び使用中の手続きに関する建築法規（建築基準法総則手続き規定ほか）	・建築確認と検査する仕組み。 ・指定材料や型式適合判定という仕組み。 ・工程や品質の管理と工事監理。 ・維持保全や定期報告制度。 ・違反建築物対策。 ・不服申し立てと裁決。
11	設計や施工や維持保全や改修などを担う職業専門家に関する建築法規（建築士法ほか）	・資格登録制と業務請負契約。 ・違反建築物対策 ・監督処分や罰則 ・継続的職能開発制度 (CPD 制度) ・損害賠償保険という仕組み。 ・つくる責任とつかう責任
12	人口減少・少子高齢社会における良質な建築ストックづくり（その１：再生）	・既存不適格建築物とは何か？ ・バリアフリー法・耐震改修促進法・建築物省エネ法・建設物リサイクル法ほか ・義務付ける基準と推奨する基準 ・仕様書風の記述と性能を規定する記述
13	人口減少・少子高齢社会における良質な地域づくり（その２：アメニティ）	・景観法、緑・屋外広告物関連法ほか ・Incentive Bonus という考え方、 ・空き家の再生と空き地の活用など ・地域のめざす計画とその制限・誘導そして経営（すまう・働く・学ぶ・憩う・癒す・育む・動く・集うほか）。
14	人口減少・少子高齢社会における良質な地域づくり（その３：各種災害）	・浸水被害や土砂災害などへの宅地防災、地震・火災などへの建築防災など各種災害のおそれある区域における公共財と私有財 ・自助・共助・公助の仕組みづくり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習ではテキスト（教科書）の該当する文章や図表を一読する。復習では該当する条文をインターネットや法令集で再確認するほか、建築法規の実際をまちやいえでみつける。関係する建築法規の条文を法令集などから見つけ出し、その図表化などを通じて読み、理解する。このうち、面白い、気になる、将来の自分に役立つ等と感じた建築法規を後述するノートにメモすることで、課題レポートの題材の一候補とする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
五條渉　有田智一　石崎和志　萩原一郎　監修： First Stage シリーズ　建築法規概論三訂版、実教出版、2021 年 9 月、2,400 円+税。このほか関連する法令や、過去や最近、改訂された歴史や法令、諸外国での法令などを適宜、紹介する。

【参考書】
建築基準法、建築基準法施行令などは、法令集のほか、法令データ提供システム　電子政府の総合窓口ー eGov をたどると、また、都道府県や市区町村の定める建築基準条例、建築基準条例施行規則などはその都道府県や市区町村のホームページの例規集や GIS 都市計画情報システムをたどると、ダウンロードできる。このほか、都市計画やまちづくりのネット上の記事は豊富で、まちでみかける道路、建築物、屋外広告物、地形、水、緑などのほか、事故や災害を伝える新聞記事、郷土資料館や博物館などに展示された写真や模型などから関係する建築法規に気づき、その理解を深める。

【成績評価の方法と基準】
２回の課題レポート（100%）。
課題レポートでは、自分が今後の都市デザインあるいは建築設計に特に役立つと考えた建築法規についてその読み手を後輩または将来の自分を想定して作成し、上記の到達目標への自分の到達点を確認する。第１回分はその企画書、第２回分は完成版とし、その建築法規は第１回と第２回とで変更してもいいし、第２回分では、関連させるべきではないかとあらたに気付いた建築法規を増補してもいい。

【学生の意見等からの気づき】
建築物が他の講義で学ぶ道路・上下水道などインフラと結びついていることに気付く、との声をきいた。建築法規（都市）を君が学ぶ都市プランニング・施設デザインあるいは環境システムにも役立てて欲しいので、他の講義、演習、実験などをしっかりと学んでいって欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせや教材を”学習支援システム”（法政ポータルサイト:Hoppii）を通じて入手し、テキスト（教科書）とともに身近において欲しい。また、ノートを一冊、用意して、テキスト（教科書）や教材にある建築法規の要点や図表（ないしは教科書該当頁）を添えたメモ風に書き込み、受講やレポート作成に備えて欲しい。

【その他の重要事項】
国・県・市の都市・建築指導行政に携わり、そして建築構造技術者からなる団体での役員としての勤務経験を有する教員が建築法規の立法、執行及び遵守における考え方や姿勢を講義する。

【Outline (in English)】
1)　General
In this course, we will learn about various legal rules and procedures for the regulation of buildings such as building, zoning, aesthetic, sign and green codes and so on. This course aims to provide you with key concepts to make your plan or design works reasonable and practical.
2) Objectives
The goal of this course are to A, B, C and D for your career development;
-A: to find related development/building codes to interpret correctly;
-B: to illustrate your design works to get consent for your clients or stakeholders;
-C: to skill up your design in harmony with the code;
-D: to lay the basis for your Kenchikushi-Exams.
3) Activities besides class room
Before/after each class meeting, you wlll be expected to do more than two hours activities such as;
-A: to find out your worthy-deserving code in the textbook or other reference materials on the "Hoppii and in the Hosei Library;
-B: to refer to such-deserving code through the Internet or on related references;
-C: to take notes actual cases for such worthy-code in your house or neighborhood;
-D: to prepare for your Interim/Final Report.
4) Grading Criteria
Grading will be done with both Interim(draft)　Report (50%) and Final Report (50%) on your worthy explaining code.
See you again in ”Hoppii”in detail.

CST300NC

海洋環境工学

東　博紀、越川　海

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海洋に関する基礎的な知識から最新の科学的知見まで幅広に学習するとともに、工学・環境学の技術者に必要な基礎理論と数理モデルを習得する。

【到達目標】
①沿岸・内湾～全球スケールにおける海の流動や循環、海洋の生態系など、海岸工学・海洋学に関する基礎知識を幅広く習得する。
②津波・高潮、富栄養化、気候変動など、海にまつわる災害・環境問題を理解する。
③海洋環境の保全・改善に向けた日本と世界の取組みを理解する。
④波の基礎理論および赤潮・貧酸素水塊の数理モデルを習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料を用いた講義・問題演習を行う。第 1～10 回および第 13・14 回では、奇数回目において海洋学の基礎や海の災害・環境問題について総合的理解を深め、偶数回目で前講義内容に関わる基礎理論の解説・問題演習を行う。第 11・12 回では、海の環境保全・改善に関する日本と世界の取組みについて学習する。リアクションペーパーの配布・提出を毎回行い、次の授業のはじめに寄せられたコメント・質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、海の構造と観測	海の深さ・海底地形、海の色、水温・塩分・海水密度の鉛直構造、海の流れと種類、潮汐の発生メカニズム、海洋観測
2	波の基礎理論 1(演習)	長波と深水波、微小振幅波理論の解説と問題演習
3	海にまつわる災害～津波と高潮～	津波・高潮の発生メカニズム、災害事例、災害に伴って発生する環境問題
4	波の基礎理論 2(演習)	微小振幅波理論 (第 2 回の続き)、分散関係式、津波の伝播速度・到達時間の解説と問題演習
5	沿岸・内湾の富栄養化問題 1	海洋生態系の基礎、生命の起源、水生生物の種類と食物網、海洋の一次生産、赤潮の発生メカニズム
6	生態系の数理解析 1(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 1)
7	沿岸・内湾の富栄養化問題 2	干潟の種類、底生生物の種類、二枚貝 (アサリ) の生活史、貧酸素水塊の発生メカニズム、底生生物の水質浄化作用
8	生態系の数理解析 2(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 2)
9	わが国の沿岸環境の現状と保全	環境基本法、水質汚濁防止法、排水基準、環境基準、総量規制制度、生活排水対策
10	生態系の数理解析 3(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 3)
11	海洋環境保全のための国際的取組み	海洋汚染防止に関する国際条約とわが国の取り組み
12	海洋資源開発と環境保全	海底鉱物資源の基礎知識、海底鉱物資源開発の現状、海底鉱物資源開発による環境影響
13	地球規模の大気・海洋循環と温暖化の影響	水の状態変化、地球の水・熱循環、地球規模の大気循環、海洋の風成循環と熱塩循環、気候変動・地球温暖化の影響
14	海洋循環の基礎理論 (演習)	コリオリ力、地衡流の解説・問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で使用したスライド資料、配布資料、問題演習 (全てエチュードにアップする) を復習する。第 2・4・14 回の問題演習では水理学が、第 6・8・10 回では Excel の表計算が基礎になるため、関連科目を復習してから授業に臨む。第 6・8・10 回で構築した赤潮・貧酸素水塊予測モデルを用いたレポート課題に取組む。本授業の準備・復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業の際に資料や演習ファイルを配布する。

【参考書】
海洋学 (Paul R. Pinet 著、東京大学大気海洋研究所監訳、東海大学出版会)、海岸工学 (木村、森北出版)、沿岸の海洋物理学 (宇野木、東海大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
波 (第 1～4 回) と海洋循環 (第 13・14 回) の基礎理論に関する単元課題 30 %、授業 (第 5～10 回) で作成する赤潮・貧酸素水塊の Excel モデルを用いたレポート 70 %を標準的な配点として、その合計点で評価する。なお、4 回を超える欠席は単位取得を認めない (評価 D または E)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業では、毎回出席票 (リアクションペーパー) を配布・回収し、授業で分からなかったところや授業の改善要望などを自由形式で記述してもらい、学生の理解度の把握や意見の収集に努めた。寄せられた質問については次回の講義で補足説明を行うなど、授業にフィードバックさせた。引き続き、今年度も可能な限り学生からの質問や要望を集め、分かりやすい授業に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
● 毎回ノートパソコンを持参すること（特に、第 6・8・10 回は演習で Excel を使用するため必須）。忘れても貸し出しはしない。
● レポート課題の提出には学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
現役の研究者が、海洋学と環境保全に関する基礎理論から最新の科学的知見までを幅広に紹介・解説するとともに、人間活動が海域環境に及ぼす影響を予測する数値シミュレーションモデルについて指導する。

【Outline (in English)】
This course deals with the oceanography for civil and environmental engineering. The goals of this course are to understand basic knowledge of oceanography, especially mathematical physical theories, numerical modelling for coastal biogeochemical cycles, and national/international environmental management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on term-end report (70%) and short reports (30%).

CST400NC

卒業研究 1 （都市）

溝渕　利明

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Learning Objectives
The Learning Objectives is to acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the execution of graduation research and to understand the issues, clarify the background, support the issues with indicators, predict the future of the problems and issues, etc., using objective explanatory materials, and have the ability to explain them at a level that anyone can easily understand.
Learning activities outside of classroom
It is to proceed with graduation research in the laboratory.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and Graduation Research 1 Report.
Graduation research 1 implementation record: 80% Graduation research 1 report: 20%

CST400NC

卒業研究 1 （都市）

今井　龍一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
· Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
· Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC

卒業研究 1 （都市）

内田　大介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
· Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
· Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%,

CST400NC

卒業研究１（都市）

高見　公雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新型感染症の状況を踏まえつつ、積極的にリモート方式を採り入れる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
· Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
· Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Attitude to study on a daily basis:80%, Graduation Research 1 Report:20%

CST400NC

卒業研究１（都市）

福島　秀哉、荻原　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室での作業やフィールドにおける調査等によって、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
Outline:The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Objectives:To acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the execution of graduation research.
To understand the issues, clarify the background, corroborate with indicators, and predict the future of the issues through logical explanations using objective materials.
Learning activities outside of classroom:Research will be conducted through work in the laboratory and surveys in the field.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
Grading Criteria /Policy:The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and graduation research report.
Graduation Research Record: 80%, Graduation Research Report: 20%.
However, students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC

卒業研究 1 （都市）

山本　佳士

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.

CST400NC

卒業研究 1 （都市）

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their senior thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
The students will be evaluated comprehensively on the basis of their research efforts and the Graduation Research 1 Report as follows;
Graduate Research 1 Implementation Record: 80%, Graduate Research 1 Report: 20%, provided that students who have spent less than 90 hours on research will fail.

CST400NC

卒業研究 1 （都市）

道奥　康治

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，3 年次までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
対面形式を基本として，状況に応じてオンラインを含めながら授業を実施する．授業計画の変更がある場合にはその都度，関係学生に周知する．
各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。
定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める。
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る。
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる。
14	研究の実施	研究成果をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
下記の評価基準を基本としながら成績評価の方法と基準を随時調整する．具体的には研究室ゼミなどを通して別途示す．
研究への取り組み状況，卒業研究 1 報告書により総合的に評価する．
卒業研究 1 実施記録： 80 %，卒業研究 1 報告書： 20 %
ただし，研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
なし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the third year. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
（Learning Objectives）
Acquire the ability to identify problems, the ability to solve problems, and the ability to communicate through the performance of graduation research. Understand engineering issues and background, predict the problems and issues in future, etc..
（Learning activities outside of classroom）
Carry out graduation research in the laboratory and at home. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Based on the following evaluation criteria, the method and criteria for grade evaluation will be adjusted as needed. Specifics will be shown separately through laboratory seminars. Comprehensive evaluation will be made based on the status of research efforts and graduation research 1 report. Graduation Research 1 implementation record: 80%, Graduation Research 1 report: 20%. However, applicants who have engaged in research for less than 90 hours will be disqualified.

CST400NC

卒業研究２（都市）

溝渕　利明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
The Learning Objectives is to acquire basic knowledge, including related fields, by carefully reading reference materials such as books and academic papers related to individual research themes. And, students acquire basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students will deepen their awareness and understanding of specific problems and issues in their research themes and improve their level (problem-solving ability) so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.
Learning activities outside of classroom
A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
Intermediate Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the Intermediate review of the Intermediate report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation).

The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%).

CST400NC

卒業研究２（都市）

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).
The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50% for the graduation research paper, 25% for the research outline, and 25% for the research presentation.
Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC

卒業研究２（都市）

内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
· Learning Objectives
Acquire the ability to find, solve, and communicate problems through the performance of graduation research.
· Learning activities outside of classroom
Conduct graduation research in the laboratory. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Graduation thesis and Attitude to study on a daily basis:50%, Summary of research:25%, research presentation:25%

CST400NC

卒業研究２（都市）

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は，4 年前期までに得られた専門知識を基礎とし，技術者・研究者としての資質の向上, 問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり，各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し，審査を受けることになる。その過程で，論文をまとめ，かつ発表する能力を培う。

【到達目標】
卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。
課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	研究テーマの理解と多面的検証	AB 期までに確定した研究テーマについて，中間まとめを踏まえ一層多角的観点からの確認を行う
②	論文の構成展望	様々に収集した研究テーマに即した情報を整理し，論文構成にどのように活用していくかの展望を整理する
③	研究の実施、深度化 (1)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
④	研究の実施、深度化 (2)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑤	研究の実施、深度化 (3)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑥	研究の実施、深度化 (4)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑦	研究の実施、深度化 (5)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑧	研究の実施、深度化 (6)	とりまとめに向け，深度化を図る項目を抽出し，一層の情報収集または分析を進める
⑨	論文構成の再点検 (1)	これまでの情報収集，分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し，必要な修正を行う
⑩	論文構成の再点検 (2)	これまでの情報収集，分析を踏まえ想定していた論文の構成を再点検し，必要な修正を行う
⑪	取りまとめへの取り組み (1)	取りまとめへの取り組み着手，指導教員とのディスカッション
⑫	取りまとめへの取り組み (2)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション
⑬	取りまとめへの取り組み (3)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション
⑭	取りまとめへの取り組み (4)	取りまとめの深度化，指導教員とのディスカッション，プレゼンテーションの観点からの点検と修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最低限の学習時間は規定されているものの，効率的により深く意義ある成果を得ることを目標に，授業時間という概念よりも，研究に向かう時間管理が重要となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
豊富な実務経験を有する専任教員が，専門内容の研究指導を行う．

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to improve the qualifications as an engineer / researcher and to improve the ability to organize and solve problems based on the specialized knowledge acquired by the previous term. The course format is different from other subjects, and each student conducts research on issues according to the specialized field of the academic advisor. The results will be submitted as a graduation thesis and will be examined. In the process, cultivate the ability to compile and publish treatises.
Students who have passed the mid-term examination of the mid-term report will be evaluated on the basis of their commitment to the research and the final examination (graduation thesis, research outline, and research presentation).
The evaluation will be based on the status of research efforts and a weighting of 50% for the graduation research paper, 25% for the research outline, and 25% for the research presentation.
Students who work less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC

卒業研究２（都市）

福島　秀哉、荻原　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
Outline:
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
Objectives:
To acquire basic knowledge of related fields by reading books, academic papers, and other reference materials related to their own research themes. In addition, students will acquire basic skills related to computers and programming by working on exercises. Furthermore, the learning goal of this class is to deepen students' understanding of specific problems and issues in their research themes and to improve their problem-solving skills so that they can formulate and implement their own research plans for writing their graduation theses.
Learning activities outside of classroom:
A wide range of continuous learning outside of class time is required, including acquisition of basic knowledge of each student's research theme, acquisition of basic skills related to computers and programming, etc., and work on specific research problems.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
Grading Criteria /Policy:

Students who have passed the interim review of their interim presentation and interim graduation research report will be evaluated based on their research efforts and the final review (graduation research paper, research outline, and research presentation). The evaluation will be based on the weighting of the student's research efforts, graduation research thesis (50%), research outline (25%), and research presentation (25%). However, students who have spent less than 180 hours on research will fail the examination.

CST400NC

卒業研究２（都市）

山本　佳士

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.

CST400NC

卒業研究２（都市）

酒井　久和

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.
The students will be evaluated comprehensively as follows;
Presentation: 25%, Abstract: 25%, Thesis: 50%, provided that students who have spent less than 180 hours on research will fail.

CST400NC

卒業研究２（都市）

道奥　康治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】
各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，卒業論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
（B）技術者倫理	5%
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	30%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	15%
（H）継続的学習能力	10%
（I）業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習，各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】
研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表，卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して，研究への取り組み状況，最終審査（卒業研究論文，研究概要，研究発表）により評価する．評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%，研究概要 25%，研究発表 25%の重み付けとする．ただし，研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
土木分野に関する計画，設計，製作，施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が，研究指導を行う．

【Outline (in English)】
(Course outline)
By acquiring basic knowledge about the research theme selected from the specialized field and basic skills related to computers, programming, etc., and by tackling specific issues related to each research theme, the student improves the level of knowledge and skills necessary for writing graduation thesis.
(Learning Objectives)
Acquire basic knowledge in the assigned theme by reading literatures related to individual research themes. Students develop basic skills related to computers and programming through working on exercises. In addition, students deepen their understanding of specific issues in their research themes, and improve their problem-solving ability so that they can formulate and implement their own research plan for writing their graduation thesis.
(Learning activities outside of classroom)
A wide range of continuous learning outside of class is required, such as acquiring basic knowledge related to individual research themes, acquiring basic skills related to computers and programming, and working on specific research issues. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)

Interim Presentation, Graduation Research 2 Applicants who pass the interim review of the interim report will be evaluated based on their research efforts and final review (graduation thesis, research summary, research presentation). The evaluation will be based on the status of research efforts, graduation thesis (50%), research summary (25%), and research presentation (25%). However, applicants who have engaged in research for less than 180 hours will be disqualified.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（２０１９年度以降入学生）

山田　由美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】
生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。
また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ.（税込 3,025 円）　をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】
鷲谷いづみ. (2017). 大学 1 年生の なっとく!生態学（税込 2,420 円）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　小テスト 30 %、期末レポート 40 %
上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。
平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。
小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】
鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。
ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course introduces fundamental knowledge on ecology.Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment.Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.
Learning Objectives:
The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.
Learning activities outside of classroom:
Your required study time is at least one hour for each class.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（２０１９年度以降入学生）

山田　由美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】
生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。
また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。
その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
鷲谷いづみ. (2016). 生態学-基礎から保全へ.（税込 3,025 円）　をベースに講義を進める。手元にあれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。（必要箇所は資料配布する）

【参考書】
鷲谷いづみ. (2017). 大学 1 年生の なっとく!生態学（税込 2,420 円）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　小テスト 30 %、期末レポート 40 %
上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。
平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。
小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。
期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】
鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。
ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course introduces fundamental knowledge on ecology.Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment.Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.
Learning Objectives:
The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.
Learning activities outside of classroom:
Your required study time is at least one hour for each class.
Grading Criteria /Policies:
Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】

土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

OTR200NC

基礎ゼミナール（２０１９年度以降入学生）

溝渕　利明、高見　公雄、鈴木　善晴、酒井　久和、道奥　康治、今井　龍一、山本　佳士、内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに専門科目着手への準備をする．学習の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに，レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する．キャリアデザインセミナーによる技術者の役割を学びキャリアパスを考える．卒業生など社会で活躍する技術者や建設業界職員から提供される体験談や建設業界の情報に基づいて自らの進路を考える．ディベート形式の討論によりプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養成する．

【到達目標】
調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	10%
（D）専門基礎学力	10%
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	
（G）コミュニケーション能力	20%
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員別ゼミナールについては，学生の希望を考慮したグループ分けを行い，少人数で行う．キャリアデザイン・ディベートについては全体で行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス 研究室紹介（都市プラニング）	教員別ゼミナールのための班分け，授業のガイダンス，教員ごとの当授業の進め方の説明 都市プラニングの研究室の取り組み説明
(2)	研究室紹介（施設デザイン）	施設デザインの研究室の取り組み説明
(3)	研究室紹介（環境システム）	環境システムの研究室の取り組み説明
(4)	キャリアデザインセミナー (国家公務員)	国土交通省の支援を得て国家公務員の詳細な内容を説明する。
(5)	キャリアデザインセミナー (地方公務員)	地方公共団体の支援を得て地方公務員の詳細な内容を説明する。
(6)	キャリアデザインセミナー (技術士)	技術士会等の支援を得て技術士の詳細な内容を説明する。
(7)	キャリアデザインセミナー (建設コンサルタント)	建設コンサルタンツ協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(8)	キャリアデザインセミナー (ゼネコン、橋梁メーカ)	日本建設業連合会や日本橋梁建設協会の支援を得てゼネコンや橋梁メーカの詳細な内容を説明する。
(9)	キャリアデザインセミナー (測量調査)	日本測量調査技術協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(10)	キャリアデザインセミナー (土木デザイン)	エンジニアアーキテクト協会等の支援を得て建設コンサルタントの詳細な内容を説明する。
(11)	キャリアデザインセミナー (大学院)	大学院生の支援を得て大学院生活の詳細な内容を説明する。
(12)	教員別ゼミナール（都市プラニング系）	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(13)	教員別ゼミナール (施設デザイン系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.
(14)	教員別ゼミナール (環境システム系)	卒業研究の内容説明・模擬体験，現場視察，文献購読など.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認．配布資料の復習．レポートの作成．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
参照すべき書籍などを講義中に随時，紹介する．

【成績評価の方法と基準】
テーマに関するレポートによる．欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与ノート PC を持参する．

【その他の重要事項】
土木分野における計画，設計，製作，施工等に係る実務経験を有する専任教員が，専門知識について解説する．
また，現役技術者を招いた講演会を複数回開催し，最新の技術動向を解説いただく．
コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this seminar, students will learn the technical knowledge of their field, and prepare for working on their graduation theses. Specifically, students observe a state of implementation of measures to write thesis and join a tour of construction site in order to learn how to proceed with their studies, how to use practical technique. In addition, students will train their composition ability by writing reports. From a seminar of career design, students will study the role of engineer and then consider their career paths. Students will consider their course to take the career to pursue after graduation by using the experience stories instructed by the graduate, engineer, or staff in civil engineering industry who plays an active part in society. Furthermore, a debate will be held in this class to develop presentation skills and communication skills. Through this debate, students will analyze, examine, arrange the points at issue of recent social problems and they collect their thoughts on each problem. These experiments can bring up student' communication ability.
The goal is to acquire research and analysis skills and communication skills.
Grades will be based on reports on the theme.

Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC

鋼構造学及演習 X（２０１９年度以降入学生）

内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】
鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については 3 年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。
　授業は教科書、配布資料、PPT を用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法，冶金的性質，機械的性質 鋼材の破壊形式 (延性破壊，脆性破壊，疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁，合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学（1）	引張部材の設計，応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈 (偏心荷重，元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学（2）	非弾性座屈，溶接組立柱の座屈，平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学（1）	全塑性モーメント，横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学（2）	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力 (せん断流理論) せん断耐力，ウェブの座屈，ウェブの設計，せん断遅れ
7	鋼橋の製作	橋ができるまで（鋼橋製作工場の見学）
8	溶接継手とその設計（1）	溶接の種類，溶接継手の種類，溶接入熱，溶接変形，溶接残留応力，溶接きず
9	溶接継手とその設計（2）	溶接継手の強度，溶接記号
10	溶接継手とその設計（3）	疲労とは，疲労強度に影響を与える因子，鋼橋の疲労設計
11	高力ボルト接合とその設計（1）	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法
12	高力ボルト接合とその設計（2）	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手，引張接合継手
13	鋼橋の点検と維持管理	実橋の点検，非破壊検査
14	総合実力確認	総合実力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1，2～14 回：講義の復讐
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
舘石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

【参考書】
必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配点は各回の演習問題を 30 点、総合実力確認を 70 点とする。4 回以上欠席した場合には D 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
橋梁製作会社の工場見学が好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】
授業には PPT を使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

【その他の重要事項】
鋼橋の設計・施工・維持管理に関する研究開発に携わった教員が、実務経験を織り交ぜながら講義する。教材、演習問題と試験の解答は Hoppii に掲載する。

【Outline (in English)】
Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.
・Learning Objectives
Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.
・Learning activities outside of classroom
Review lessons.　Standard study time is two hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%,　Each class exercises :30%

CST200NC

鋼構造学及演習 Y（２０１９年度以降入学生）

平山　繁幸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】
鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
橋梁などの鋼構造物を設計する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については 3 年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。
　授業は教科書、配布資料、PPT を用いて行う。授業の基本的な順序としてまず、前半にその回の授業内容を説明し、後半には、その授業内容に関係する演習課題を課し、解答作業を通じての各自の理解を促す。演習課題のフィードバックは必要に応じて次の回の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼材の製造法，冶金的性質，機械的性質 鋼材の破壊形式 (延性破壊，脆性破壊，疲労破壊) 鋼橋の腐食と防食方法 鋼橋の概要
2	合成桁の応力度	設計の基本的な考え方 合成桁，合成桁の応力度の算出
3	引張を受ける部材の力学 圧縮を受ける部材の力学（1）	引張部材の設計，応力集中 長柱のオイラー座屈 不完全さのある柱の座屈 (偏心荷重，元たわみ)
4	圧縮を受ける部材の力学（2）	非弾性座屈，溶接組立柱の座屈，平板の座屈
5	曲げを受ける部材の力学（1）	全塑性モーメント，横ねじれ座屈
6	曲げを受ける部材の力学（2）	曲げに伴う梁のせん断応力 薄肉構造のせん断応力 (せん断流理論) せん断耐力，ウェブの座屈，ウェブの設計，せん断遅れ
7	鋼橋の製作	橋ができるまで（鋼橋製作工場の見学）
8	溶接継手とその設計（1）	溶接の種類，溶接継手の種類，溶接入熱，溶接変形，溶接残留応力，溶接きず
9	溶接継手とその設計（2）	溶接継手の強度，溶接記号
10	溶接継手とその設計（3）	疲労とは，疲労強度に影響を与える因子，鋼橋の疲労設計
11	高力ボルト接合とその設計（1）	高力ボルトの種類 高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム すべり耐力 ボルトの締め付け方法
12	高力ボルト接合とその設計（2）	高力ボルト摩擦接合継手の設計 支圧接合継手，引張接合継手
13	鋼橋の点検と維持管理	実橋の点検，非破壊検査
14	総合実力確認	総合実力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1，2～14 回：講義の復讐
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
舘石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

【参考書】
必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配点は各回の演習問題を 30 点、総合実力確認を 70 点とする。4 回以上欠席した場合には D 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
橋梁製作会社の工場見学が好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】
授業には PPT を使用する。関数電卓使用。他の機器等は必要に応じて指示。

【その他の重要事項】
鋼橋の設計・施工・維持管理に関する研究開発に携わった教員が、実務経験を織り交ぜながら講義する。教材、演習問題と試験の解答は Hoppii に掲載する。

【Outline (in English)】
Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.
・Learning Objectives
Explain the basics of steel properties, fracture, joining method, and strength of joints.
・Learning activities outside of classroom
Review lessons.　Standard study time is two hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%,　Each class exercises :30%

DES100NC

デザインスタジオ（２０１９年度以降入学生）

高見　公雄、袴田　喜夫、金城　正紀、佐多　祐一、上條　慎司

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デザインスタジオは都市環境デザイン工学科における実技系の基礎的授業として重要な位置を占める。当授業は複数の課題から構成され、基礎造形に係る演習、図面制作技術の習得、そして模型製作の技法、これらを統合した造形表現など。これらにより、都市環境デザイン工学に係る計画づくりの初歩を学ぶ。

【到達目標】
基礎造形に関しては、紙、布などの加工を通じて、重力が働く世界における材料の特性を学ぶ。図面を用いた作業により作図検討の基礎を学ぶ。後半では都市、建築模型製作の基礎的な技術、観点を学ぶ。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　70%
（E）専門知識の活用・応用能力　30%
（F）総合デザイン能力
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
第一課題は紙の造形であり、個人課題として重力に耐えうる紙の構築物を制作する。第二課題は土木構築物が備えるべき美しさを念頭に素材特性と重力それぞれに向かい合い、造形物を制作する。第三・第四課題は個人課題として、手書き図面による図面作成技術、小空間設計を学ぶ。第五課題、第六課題は模型製作の基礎を学ぶ。
新型感染症対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業を実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎造形課題	全体の進め方や狙いを説明する。造形物の美しさ、合理性、工夫などを狙いとして、紙を使った構築物を制作する。課題説明、グループ分け。
2	立体造形 (基礎検討)	グループごとに設定したテーマの立体造形物への展開について検討し、エスキスを受ける。
3	立体造形 (試作)	立体造形物の制作。試行錯誤をへて、意図した造形物の姿を捉えていく。
4	立体造形発表、講評	立体造形物を完成させ、発表し、講評を受ける。
5	住宅のトレース	高名な住宅の平面、立面、断面図を手書きによりトレースする。
6	人の入る空間	人の入る小空間を設計する。その基本的な構想をたてスタディする。
7	人の入る空間、講評	スタディした内容に則した成果図面を制作し、講評を受ける。
8	模型製作の基礎	模型製作の材料や用具の使い方について学ぶ
9	広場空間の模型製作（1）	実在の広場空間模型を作成する。図面や写真で空間の把握を行う。
10	広場空間の模型製作（2）	実在の広場空間模型を作成する。空間を表現し添景の作成を行う。
11	広場空間の模型製作（3）	作成した模型について講評をうける。模型の写真を撮影し、提出シートを作成する。
12	街路空間の観察と模型製作（1）	現地調査に基づき、ベースとなる地形部分を作成する。
13	街路空間の観察と模型（2）	現地調査に基づき、街路沿いの建物を作成する。
14	街路空間の観察と模型製作（3）	模型の写真を撮影し、提出シート作成する。模型の講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバス内容の事前確認
配布資料の復習
レポートの作成
演習課題の制作
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布する。

【参考書】
講義において適宜指示するとともに補充資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
各演習課題により評価する。4 回以上の欠席または演習課題の未提出は D 評価となる。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
前半は直定規、三角定規、三角スケール、製図用筆記具、色鉛筆など製図器具、カッターなどが必要となる。学科で紹介する製図用品セットを購入すれば、秋学期の図学及演習を含め対応可能である。後半は模型制作のための工作用器具が必要であるが、これも製図用品セットで概ね対応可能である。その他、模型制作のための材料が必要になる場合がある。

【その他の重要事項】
計画・設計演習の基礎演習は順を追って構成されているため、授業を休むとそれを取り返すのが難しい。極力出席すること。
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実務家として最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This is the first practical subject in the Department of Civil and Environmental Engineering program to study skills.
Each exercise will be evaluated.　Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST200NC

プロジェクトスタジオ（都市）（２０１９年度以降入学生）

高見　公雄、袴田　喜夫、椿　真吾

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市プランニング系の演習科目で唯一の必修科目である。都市整備に係わる法令や基礎知識を活かし、エンジニアリング・デザインの観点から具体的な地区を捉え、条件に応じた課題に応えていくことで都市プランニングの考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】
与えられた場所の特性を現地調査や各種計画や地図等、また歴史的経緯から読みとくことができるようになる。その場において解決すべき課題を自ら設定することができ、これについて合理的な解決案の提案とその表現ができる。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　30%
（E）専門知識の活用・応用能力　50%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は図面上での作業、図面・模型の制作、それらのプレゼンテーションからなる。エスキスは手書きを主に教員と議論を行い、個人課題の成果品フィニッシュは模型並びにデジタルツールを用いた図と説明からなるプレゼンテーション・シートとする。図面と模型の制作に関しては、その作業量から授業時間外での対応が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要説明、第１課題出題、模型と設計の基礎知識	第１課題の趣旨と条件を説明する。この課題を考える上で留意すべき点を説明する。
2	第１課題エスキス（１）	現地調査に基づく設計の基本方針を検討する。
3	第１課題エスキス（２）	設計方針を具体化する。
4	第１課題エスキス（３）	発表に向けて図面や模型の製作方針を検討する。
5	第１課題講評、第２課題出題	第１課題について図面と模型で発表する。第２課題の趣旨と条件を説明する。
6	第２課題現地分析発表	第２課題の対象地について文献調査や現地調査の結果を発表する。
7	第２課題参考事例発表	第２課題の検討にあたり参考となる国内外の事例を調査し、発表する。
8	都市開発事業と建築設計に関する知識、第２課題エスキス（１）	都市開発事業や建築設計の実例を理解し、自らの設計に活かす。設計対象とする敷地と設計テーマを選定する。
9	第２課題エスキス（２）	選定した敷地の設計方針を検討する。
10	第２課題エスキス（３）	設計方針に基づいて具体的な計画を検討する。
11	第２課題エスキス（４）	設計方針に基づき、計画内容の改善について指導を受ける。
12	第２課題エスキス（５）	発表に向けて図面や模型の製作方針について指導を受ける。
13	個人課題提出、講評会	個人課題である図面、模型を完成させ提出する。講評を始める。
14	講評会・その２	講評をつづけ、総評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
私たちが暮らす都市空間がどのようにできているか興味を持ち、町を見る。道路の幅員、橋の高さ、建物の大きさなどを寸法として考えてみる。好きな場所、嫌いな場所の要因を考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要な資料を配布する。

【参考書】
アーバンデザインの現代的展望（渡辺定夫、鹿島出版会）
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）
コンパクト建築設計資料集成 [都市再生]（日本建築学会編、丸善）
世界の SSD100-都市持続再生のツボ（東京大学 cSUR-SSD 研究会、彰国社）
など

【成績評価の方法と基準】
中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）
欠席４回以上は単位取得を認めない (評価D)

【学生の意見等からの気づき】
最終提出物のイメージを意識して作業するよう指導する。

【学生が準備すべき機器他】
図面の仕上げにおいて、貸与ＰＣを用いてＣＡＤまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。
三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる（１年次のデザインスタジオ用に購入したものがあれば可。）模型制作にあたっては、カッターなどの道具の他、模型材料を自ら調達する必要がある。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた専任教員、またわが国の第一線で建築、都市整備の実務に就いている兼任教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
As the only compulsory course in this program, students will locate problems in their target field and make suggestions for improvements using plan views, sectional views and models.
Each exercise will be evaluated.　Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NC

景観とデザイン（２０１９年度以降入学生）

西村　亮彦

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公共空間に関する景観デザインがどのように進められているのか、多数の事例紹介を通じて理解するとともに、まちづくりの現場で求められる調査、計画、デザイン、マネジメントに係る知識と技術について学ぶ。

【到達目標】
公共空間に関する景観デザインの流れを理解するとともに、まちづくりの現場で求められる調査、計画、デザイン、マネジメントに係る基本的な知識と技術を習得する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン形式を中心に授業を進める。一部グループワークによる課題やワーキングを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・まちとは？	景観デザインの舞台となる「まち」について、人々の暮らしと都市空間・社会基盤との関係等についての基本的な理解を深める。
2	まちづくりと景観デザイン	都市の成り立ちや発展の歴史を理解した上で、具体的な事例の紹介を通じて、現在、全国各地のまちが抱える様々な課題とその解決に向けた多様な取り組みについての理解を深める。
3	まちの見方を知る	土地利用や施設配置、交通ネットワーク、地形、場所の性格等、まちの空間的な構造を把握する上で必要となる地図の見方、フィールドワークにおけるまちの見方についての理解を深める。
4	まちの状態を知る	ヒアリング調査や観察調査をはじめとするフィールドワーク、アンケート調査、データ分析等、様々な角度からまちの状態を把握するための調査・分析手法についての理解を深める。
5	まちの将来ビジョンを描く	まちの課題発見から具体的な課題解決の提案に至る、計画・検討のプロセスを理解した上で、具体的な事例の紹介を通じて、まちづくり計画の戦略についての理解を深める。
6	グループワーク 1	グループに分かれて、身近なまちの性格・特徴を様々な角度から分析するとともに、より良いまちの実現にむけたまちづくり上の課題を共有し、景観デザインの方向性を検討する。
7	公共空間のデザイン１：広場編	景観デザインを通じたまちづくりの取り組みについて、具体的な広場デザインの事例のレビューを通じて、デザイン上の留意事項についての理解を深める。
8	公共空間のデザイン２：街路編	景観デザインを通じたまちづくりの取り組みについて、具体的な街路デザインの事例のレビューを通じて、デザイン上の留意事項についての理解を深める。
9	公共空間のプロジェクトマネジメント	公共事業をはじめとする景観デザインやまちづくりのプロジェクトについて、構想・計画から管理・運営に至る事業の大まかな流れ、事業の種類、お金の流れ等についての理解を深める。
10	合意形成の方法	地域住民、民間事業者、自治体、デベロッパー等、利害の異なる関係者の合意形成の基本的な考え方を理解するとともに、具体的な事例のレビューを通じてワークショップ等の意思決定・合意形成の手法についての理解を深める。
11	公共空間の利活用	公共事業と民間事業の連携や、道路、公園・緑地、河川等、民間主体による公共空間の多目的利用を通じたまちづくりの進め方についての理解を深める。
12	エリアマネジメント	民間まちづくり会社や NPO 法人、アーバンデザインセンター等、エリアマネジメントの体制について、具体的な事例のレビューを通じて継続的なまちづくりの進め方を理解する。
13	まちづくりの効果	景観デザインによるまちづくり上の効果について、評価の基本的な考え方と具体的な計測手法、及びＰＤＣＡサイクルの回し方についての理解を深める。
14	グループワーク２	グループワーク１の成果を踏まえながら、具体的な課題解決のための取り組みを提案するとともに、組織体制や事業スキーム、合意形成の方法等、具体的な事業の進め方について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
該当箇所について予習・復習を行う。グループワークに関する事前準備や事後のレポート作成がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
「景観用語事典 増補改訂第二版」篠原修編，彰国社，2021，3600 円＋税
その他必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と課題内容の成果（60%）に基づいて評価を行う。
平常点は①授業の参加状況、②授業コメントの内容、③グループワークの活動状況の３点に基づいて評価する。
欠席４回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】
今年度からの担当のため該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ付きのパソコンによりインターネットに接続して zoom を使って授業に参加できる環境が必要である。スマートフォンからの接続は画面情報の読み取りが困難なため不可とする。

【その他の重要事項】
景観デザイン・まちづくりについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。

【Outline (in English)】
Outline:
The course provides an understanding of how landscape design in relation to public space is promoted through case studies, as well as the knowledge and skills required for research, planning, design and management in the field of town planning.
Objectives:
To understand the process of landscape design with regard to public spaces and to acquire the basic knowledge and skills required for research, planning, design and management in the field of urban development.
Learning activities outside of classroom:
Preparation and review of the relevant sections. There will be advance preparation and post-work reports on the group work. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Evaluation will be based on the normal marks (40%) and the results of the assignment content (60%).
Ordinary marks will be based on (1) class participation, (2) the content of class comments and (3) group work activities.
Credit will not be granted for more than four absences (grade D).

CST300NC

ジオテクニカルデザイン（２０１９年度以降入学生）

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地盤調査，地盤災害，基礎，地盤改良，地盤掘削について学習するとともに，様々な構造物の設計演習を通じて総合的デザイン能力を高め，設計の考え方を習得する．

【到達目標】
①インフラ建設時の調査法，設計法，地盤災害について理解する．
②建設工事に必要な地盤調査法や建設時の地盤災害を理解し，ボーリング柱状図から事前に問題点を抽出する力を養成する．
③浅い基礎，深い基礎の設計方法と構造物の支持力機構を理解する．
④地盤改良や掘削の方法について理解する．

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	
（B）技術者倫理	
（C）工学基礎学力	
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	60%
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「地盤環境工学」の発展として，インフラ建設時の調査法，設計法，地盤災害について講義を行う．前半では，建設時の地盤災害，浅い基礎の設計方法，液状化のメカニズムについて学び，後半は，深い基礎の設計方法，地盤改良や掘削の方法について学習する．構造物設計上の要点を把握した状態でボーリング柱状図を読むことで事前に問題点を抽出する力を養成する．
授業は学年暦通り実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，地盤調査法	－サウンディング，サンプリングによる地盤構造の把握
2	建設時の地盤災害	ボイリングの現象，検討方法，対策法
3	建設時の地盤災害	ヒービング，盤膨れの現象，検討方法，対策法
4	浅い基礎の概説	浅い基礎の種類と施工法
5	浅い基礎の設計法	浅い基礎の支持力の考え方
6	浅い基礎の設計演習	浅い基礎の設計演習と解説
7	液状化現象	メカニズム，液状化対策と液状化判定
8	深い基礎の概説	支持力機構，基礎に要求される性能，杭の工法，材質，形状による分類
9	深い基礎の概説	工法の特徴と施工法の概要
10	深い基礎の検討	検討方法，鉛直支持力の計算法の概説
11	深い基礎の設計法	鉛直支持力，負の摩擦力の計算演習
12	地盤改良・掘削方法	地盤改良工法の概説，適用例．各種掘削工法の概説，特徴．
13	地盤特性値の解釈調査と留意点	設計地盤定数の求め方と留意点，ボーリング柱状図の読み方
14	期末まとめ	第 1 回～13 回の理解の確認と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 今回授業内容の復習
2. 同　上
3. 同　上
4. 同　上
5. 同　上
6. 同　上
7. 同　上
8. 同　上
9. 同　上
10. 同　上
11. 同　上
12. 同　上
13. 同　上
14. 同　上

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし．
プリントを適宜配布する

【参考書】
地盤工学会：地盤調査法
日本道路協会：杭基礎設計便覧（平成 18 年度）
吉見吉昭，福武毅芳：地盤液状化の物理と評価・対策技術，技報堂出版
日本道路協会：道路土工構造物技術基準・同解説

【成績評価の方法と基準】
定期試験 70 %，レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
授業中，理解度を確認しながら進めているにも拘らず，アンケートで全く分からないと回答する学生が複数いた．アンケート評価の極めて低い学生数と単位が取得できていない学生数とが整合している．大多数の学生の授業評価が極めて高いことから，受講意欲のない学生に対しては，早めに履修を辞めさせ，興味のある学生の受講環境を高めたい．

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓,PC

【その他の重要事項】
建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う．

【Outline (in English)】
The main objectives of the Geological Environmental Engineering 2 Program are the following:
1) Graduates will acquire fundamental knowledge on geotechnology: ground survey, ground disaster, foundation;, ground improvement and excavation methods.
2) Graduates will enhance their ability of general design by design practices of several types of infrastructure.
This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Periodic examination 70% + Report 30% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

CST300NC

環境マネジメント（２０１９年度以降入学生）

弘末　文紀

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２０世紀以降の科学技術の飛躍的な発展は、地球環境の破壊と人口爆発を生じさせ、もはや人類はもちろん様々な生物の生存にとって危機的状態をもたらしている。地球環境の改善と保全は、今世紀に人類が解決しなければならない緊急で最優先の課題である。我が国においても特定の産業活動が環境汚染を引き起こした過去の公害問題とは異なり、通常の事業および生活活動に起因する環境への負荷が増大しているため、自主的な環境への負荷の低減が求められている。
本授業では，上記課題を解決するための一手段として「環境マネジメント」に着目し、企業および市民が遵守すべき環境法規、さらに社会的な責任を意識して自主的、能動的に環境保全のための行動を計画・実行・評価する手順（環境マネジメントシステム）およびその行動に必要な技術を学ぶ。本授業の内容は、社会人（民間企業、公務員ほか）の基礎知識として是非とも覚えておくべきこと、そしてシビルエンジニアの基盤技術として知っておくべきことであり、将来の業務の様々な局面で役立つものである。

【到達目標】
環境マネジメントの活動は、環境基本法の基本理念のもとに成り立つものであることから、我が国における環境にかかわる近代から現代の出来事と関連する法規制の歴史を概観することで環境基本法の成立に至る過程とその理念を理解する。そして、環境マネジメントの活動手順である「環境マネジメントシステム」の構成を理解するとともに、個別の環境（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、廃棄物処理等）法の概要および規制基準等について学ぶとともに、建設産業において規制基準を満足するための対処技術を事例に基づき習得する。さらに、企業活動を行うために必須の倫理観と企業責任（コンプライアンス，CSR，SDG ｓ，ESG）など、今、世の中で求められている環境経営の考え方についても概説するのでこれらを理解する。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はオリジナルのパワーポイントを用いて講義形式で実施する。
資料は講義当日までに授業支援システムにアップロードされるので、ここから各自ダウンロード出来る。
講義（1 回～12 回）の終了前に小課題を出すので、基本的に講義終了までに提出する（受け付けは当日いっぱいまで。解答は次回講義開始時に確認する）。13 回目日は小課題なし。14 回目は把握度確認となるため解答合わせは行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境マネジメントと環境基本法	環境マネジメントの対象である環境問題の歴史と環境政策の推移及び基本理念の誕生 小課題①
2	環境マネジメントシステム	システムの概要とその効果 小課題②
3	水質環境の保全（その１）	水質汚濁と公害，有害化学物質による生物への影響，発生源と環境基準 小課題③
4	水質環境の保全（その２）	水質汚濁の事例と対策および効果 小課題④
5	大気環境の保全（その１）	大気汚染物質の法的規制と技術的対応 小課題⑤
6	大気環境の保全（その２）	今日的な大気汚染問題（ヒートアイランド，温室効果ガスなど） 小課題⑥
7	土壌環境の保全（その１）	土壌汚染物質と土壌汚染対策法 小課題⑦
8	土壌環境の保全（その２）	汚染土壌の浄化技術とその実例 小課題⑧
9	廃棄物とリサイクル（その１）	廃棄物処理法とリサイクル法 小課題⑨
10	廃棄物とリサイクル（その２）	一般廃棄物と産業廃棄物の現況と処理・処分および不法投棄問題 小課題⑩
11	環境経営 SDG ｓおよび ESG 投資と建設業界	CSR と持続的成長および環境活動 小課題⑪
12	騒音と振動および悪臭とその対策	騒音と振動および悪臭の規制と防止 小課題⑫
13	土壌環境の保全（その３）	豊洲市場土壌汚染問題とその対策
14	2023 年度講義の把握度確認	１～１３回の講義内容における重要事項の把握度を記述式にて確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配信するテキスト（パワーポイント）等と参考書による予習および講義の復習をし、特に重要な事項については講義時に指摘するので、これらについて把握する。
小課題は当日の講義内容から出題するので講義資料および関連情報を検索することで基本的に時間内に回答することが可能と考える。さらに、最終講義の把握度確認の課題は、各講義にて特に重要と指摘した項目から出題するので復習していれば対応可能。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
独自のパワーポイント資料を使用（同 pdf ファイルを授業支援システムにて配信する）。

【参考書】
事前予習のための参考書は特に必要としないが、より深い理解を得たい場合、環境マネジメントシステムに関する資料は、
「図解即戦力 ISO 14001 の規格と審査がこれ 1 冊でしっかりわかる教科書」福西義晴，技術評論社，2019.11.20
「一番やさしい・一番くわしい 最新版 図解でわかる ISO14001 のすべて」大浜庄司，日本実業出版社，2017.8.31
などがある。
環境法および建設関連法規に関する資料は、
「図解 環境 ISO 対応 まるごとわかる環境法」見目善弘，産業環境管理協会，2017.12.1
「建設工事の環境法令集」（社）日本建設業団体連合会監修，（株）富士グローバルネットワーク発行（なお、最新版は 2023 年 6 月頃発行予定）
などがある。

【成績評価の方法と基準】
評価点は 100 点満点で評価し，90 点以上 S，87 点以上 A+，83 点以上 A，80 点以上 A-，77 点以上 B+，73 点以上 B，70 点以上 B-，67 点以上 C+，63 点以上 C，60 点以上 C-，59 点以下または欠席 4 回以上 D とする．
評価点＝把握度確認の成績 64%＋小課題 12 回分の成績 36 %
各小課題は、期限内提出して正解であれば 3 点、不正解は 2 点。期限遅れで提出した場合は正解で 2 点、不正解は 1 点。よって、全小課題を期限内提出して全問正解であれば 36 点の持ち点となる。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は 3 年ぶりに全講義を対面にて実施した。小課題および課題確認の結果で判断すると学生諸君の理解は十分されていたと思う。
ちなみに、一昨年度講義からレポート課題を無くしているが、小課題において様々な考え方を提示した回答を得ているので今年度もユニークな回答に期待する。

【学生が準備すべき機器他】
講義は教室のプロジェクターを使用するため情報機器を持参する必要はありません。ただし、講義内容をより具体に把握するため、特にシステム・法規・基準などを PC でリアルタイムに検索することは有効であるので PC の持込を推奨します。

【その他の重要事項】
ゼネコンの技術研究開発部門で、技術者として地下水解析からはじまり土壌汚染、水質汚濁、廃棄物処理、災害瓦礫、除染などを対象とした環境関連技術の開発と実施に３０年以上携わるとともに、管理者として品質管理および環境管理を推進した者が、その経験を活かして環境関連の法規と技術、さらには環境を考慮した企業経営の在り方を総括した環境マネジメントについて講義する。

【Outline (in English)】
The rapid development of science and technology since the 20th century has resulted in the destruction of the global environment and a population explosion, and has brought about a state of crisis for the survival of various living organisms, not to mention the human race. The improvement and conservation of the global environment is an urgent and top-priority issue that mankind must resolve in this century. In Japan, unlike past pollution problems in which specific industrial activities caused environmental pollution, the burden on the environment caused by ordinary business and daily life activities is increasing, and voluntary reduction of the burden on the environment is required.
In this course, we focus on "environmental management" as a means to solve the above issues, and learn about environmental laws and regulations that companies and citizens should comply with, as well as procedures (environmental management systems) and technologies necessary for voluntary and active planning, execution, and evaluation of actions for environmental conservation with an awareness of social responsibility. The contents of this course are things that working people (private companies, civil servants, etc.) should learn as basic knowledge, and things that civil engineers should know as fundamental technologies, which will be useful in various aspects of their work in the future.
Since environmental management activities are based on the basic principles of the Basic Environmental Law, this course provides an overview of the history of modern and contemporary environmental events and related laws and regulations in Japan in order to understand the process leading to the enactment of the Basic Environmental Law and its principles. The course will also provide an overview of the individual environmental laws (air pollution, water pollution, soil contamination, noise, vibration, waste disposal, etc.), their regulatory standards, and techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will learn techniques to meet the regulatory standards in the construction industry based on case studies. In addition, students will also learn about the concept of environmental management, such as ethics and corporate responsibility (compliance, CSR, SDGs, and ESG), which are essential for conducting corporate activities and are now in demand in the world.
Students are expected to prepare for and review the lecture using the textbook (PowerPoint presentation) and reference books provided in advance, and to grasp particularly important issues as they will be pointed out during the lecture.
The quiz will be based on the content of the day's lecture, so students should be able to answer the quiz in time by searching for lecture materials and related information. In addition, the final assignment to check the level of understanding is based on the items pointed out as particularly important in each lecture, so it can be answered if the student has reviewed the material.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading is based on a 100-point scale: 90 or higher S, 87 or higher A+, 83 or higher A, 80 or higher A-, 77 or higher B+, 73 or higher B, 70 or higher B-, 67 or higher C+, 63 or higher C, 60 or higher C-, 59 or lower or 4-times or more absences D.
Evaluation points = 64% of the grade for checking the grasp level + 36% of the grade for the 12 quizzes
Each quiz is worth 3 points if it is submitted on time and correct, and 2 points for incorrect. If submitted late, 2 points will be given for a correct answer and 1 point for an incorrect answer. Therefore, if all the quizzes are submitted on time and all the questions are answered correctly, 36 points will be carried.

ADE100NA

風土と建築（都市）（２０１９年度以降入学生）

高見　公雄、金城　正紀、桂　有生

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市は人が集まって暮らす器であり，様々な理由によって現在の市街地が形成されてきている。この授業では都市・建築が現状の様相を呈するに至った背景としての風土に着目し，それを理解する。この場合風土とは，気候・地味・地勢などいわゆる気候風土を軸とした条件と，一方で人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境といった側面の二面性がある。現実にはこの二面は複雑に複層化して作用しているものであるが，ここでは分かりやすくするために，主として前者からのアプローチを取る都市・建築の見方と，同様に後者からのアプローチをとる都市形成・建築活動といって観点からこの課題を説いていき，今後の都市のあり方を学ぶ学生が知っておくべき風土の理解を進める。

【到達目標】
和辻が言う風土の考え方の基本を理解する。山本が言う素材と造形の関係性を理解する。そして，都市・建築と風土の関係性についての基本や枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，①都市と風土に関する古典的な基礎知識を習得と，②わが国が持つ気候風土を背景とする都市・建築形成の特徴並びに，③わが国の社会変化による都市形成・建築活動の変容などをそれぞれ専門の教員の講義，課題に基づく自主研究により進める。基本的には講義と課題レポートの形式を取る。新型感染症の状況を踏まえつつリモート形式または対面とリモートが選択できるハイブリッド方式で授業をする可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市・建築を学ぶ際の風土，素材，造形への視点	和辻哲郎による「風土」，山本学治による「素材と造形の歴史」の内容を紹介しつつ，都市・建築を学ぶ際の風土，素材，造形に関する基本概念を知る
2	気候，地勢等と都市・建築の形成・１	集落の形成，建築様式の生成などと気候，地味，地勢などとの関係性に関わる基本論を学ぶ
3	気候，地勢等と都市・建築の形成・２	わが国の特徴的な地域を捉え，気候風土と建築，集落形成の過程等に関わる事例を学習する（その１）
4	気候，地勢等と都市・建築の形成・３	わが国の特徴的な地域を捉え，気候風土と建築，集落形成の過程等に関わる事例を学習する（その２）
5	気候，地勢等と都市・建築の形成・４	わが国と海外との気候風土の違いに着目した建築・集落等を学ぶ際の視点を整理する
6	気候，地勢等と都市・建築の形成・５	前回までの視点に基づき，自らの研究材料，視点を整理し，調査・研究を行う
7	気候，地勢等と都市・建築の形成・まとめ	気候，地勢等と都市・建築の形成に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
8	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・１	都市形成，建築活動を社会変化・地域文化などとの関係性を踏まえ，わが国の都市形成の過程の基本論を学ぶ
9	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・２	わが国の特徴的な地域を捉え，社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する（その１）
10	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・３	わが国の特徴的な地域を捉え，社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する（その２）
11	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・４	わが国と海外と社会変化・地域文化などの違いに着目した都市形成・建築活動を学ぶ際の視点を整理する
12	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・５	前回までの視点に基づき，自らの研究材料，視点を整理し，調査・研究を行う
13	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・６	社会変化・地域文化と都市形成・建築活動に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
14	都市・建築を学ぶ際の風土に関する理解	以上の学習を取りまとめ，都市・建築を学ぶ際に理解しておくべき風土に関する事項を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提起された課題に対する調査，フィールドワークなどが授業外に必要となることがある。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて教員より配布する。

【参考書】
【復刻版】和辻哲郎の「風土―人間学的観察」(響林社文庫) Kindle 版
素材と造形の歴史 (1966 年) (SD 選書〈9〉) 山本 学治 (著)

【成績評価の方法と基準】
授業内のレポートにより評価（100 %）する。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価D)

【学生の意見等からの気づき】
予想を超え、深い意識で風土を捉えており、さらに深度化できる可能性がある。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実社会の最前線で活動している兼任教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
The climate has two aspects: a condition based on a so-called climate, and a mental environment that affects the formation of human culture. Here you will learn city and architecture from both approaches.
Evaluate by each report. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE100NA

風土と建築（都市）（２０１９年度以降入学生）

高見　公雄、金城　正紀、桂　有生

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市は人が集まって暮らす器であり，様々な理由によって現在の市街地が形成されてきている。この授業では都市・建築が現状の様相を呈するに至った背景としての風土に着目し，それを理解する。この場合風土とは，気候・地味・地勢などいわゆる気候風土を軸とした条件と，一方で人間の文化の形成などに影響を及ぼす精神的な環境といった側面の二面性がある。現実にはこの二面は複雑に複層化して作用しているものであるが，ここでは分かりやすくするために，主として前者からのアプローチを取る都市・建築の見方と，同様に後者からのアプローチをとる都市形成・建築活動といって観点からこの課題を説いていき，今後の都市のあり方を学ぶ学生が知っておくべき風土の理解を進める。

【到達目標】
和辻が言う風土の考え方の基本を理解する。山本が言う素材と造形の関係性を理解する。そして，都市・建築と風土の関係性についての基本や枠組みを理解する。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
（B）技術者倫理	30%
（C）工学基礎学力	20%
（D）専門基礎学力	
（E）専門知識の活用・応用能力	
（F）総合デザイン能力	20%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」

【授業の進め方と方法】
この授業は，①都市と風土に関する古典的な基礎知識を習得と，②わが国が持つ気候風土を背景とする都市・建築形成の特徴並びに，③わが国の社会変化による都市形成・建築活動の変容などをそれぞれ専門の教員の講義，課題に基づく自主研究により進める。基本的には講義と課題レポートの形式を取る。新型感染症の状況を踏まえつつリモート形式または対面とリモートが選択できるハイブリッド方式で授業をする可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市・建築を学ぶ際の風土，素材，造形への視点	和辻哲郎による「風土」，山本学治による「素材と造形の歴史」の内容を紹介しつつ，都市・建築を学ぶ際の風土，素材，造形に関する基本概念を知る
2	気候，地勢等と都市・建築の形成・１	集落の形成，建築様式の生成などと気候，地味，地勢などとの関係性に関わる基本論を学ぶ
3	気候，地勢等と都市・建築の形成・２	わが国の特徴的な地域を捉え，気候風土と建築，集落形成の過程等に関わる事例を学習する（その１）
4	気候，地勢等と都市・建築の形成・３	わが国の特徴的な地域を捉え，気候風土と建築，集落形成の過程等に関わる事例を学習する（その２）
5	気候，地勢等と都市・建築の形成・４	わが国と海外との気候風土の違いに着目した建築・集落等を学ぶ際の視点を整理する
6	気候，地勢等と都市・建築の形成・５	前回までの視点に基づき，自らの研究材料，視点を整理し，調査・研究を行う
7	気候，地勢等と都市・建築の形成・まとめ	気候，地勢等と都市・建築の形成に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
8	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・１	都市形成，建築活動を社会変化・地域文化などとの関係性を踏まえ，わが国の都市形成の過程の基本論を学ぶ
9	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・２	わが国の特徴的な地域を捉え，社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する（その１）
10	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・３	わが国の特徴的な地域を捉え，社会変化・地域文化などとの関係性に関わる事例を学習する（その２）
11	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・４	わが国と海外と社会変化・地域文化などの違いに着目した都市形成・建築活動を学ぶ際の視点を整理する
12	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・５	前回までの視点に基づき，自らの研究材料，視点を整理し，調査・研究を行う
13	社会変化，地域文化と都市・建築の形成・６	社会変化・地域文化と都市形成・建築活動に関わる学習を踏まえた成果をまとめる
14	都市・建築を学ぶ際の風土に関する理解	以上の学習を取りまとめ，都市・建築を学ぶ際に理解しておくべき風土に関する事項を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
提起された課題に対する調査，フィールドワークなどが授業外に必要となることがある。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて教員より配布する。

【参考書】
【復刻版】和辻哲郎の「風土―人間学的観察」(響林社文庫) Kindle 版
素材と造形の歴史 (1966 年) (SD 選書〈9〉) 山本 学治 (著)

【成績評価の方法と基準】
授業内のレポートにより評価（100 %）する。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価D)

【学生の意見等からの気づき】
予想を超え、深い意識で風土を捉えており、さらに深度化できる可能性がある。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員、また現在実社会の最前線で活動している教員が、現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
The climate has two aspects: a condition based on a so-called climate, and a mental environment that affects the formation of human culture. Here you will learn city and architecture from both approaches.
Evaluate by each report. Four or more absences or non-submission of exercises will result in a D grade.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MEC200ND

メカトロニクス

木村　文信

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メカトロニクスとは，機械工学（メカニズム）と電気電子工学（エレクトロニクス）の合成語で，機械を電気回路で賢く制御するシステムのことである．メカトロニクスを修学するにあたり，機械のしくみ，電気回路の動作だけでなく，ソフトウェアによる制御やシステム全体としての設計や運用など，広い専門知識が必要とされる．本授業では，メカトロニクスの各要素技術に関して，その概念を理解し，分野全体のイメージを把握することを目的とする．

【到達目標】
授業終了時点で以下のことを理解することを目標とする．
1）メカトロニクスシステムの構成を把握する方法．
2）機械要素の種類と用途．
3）電気・電子回路部品の種類と用途．
4）アクチュエータ・センサの原理．
5）コンピュータ上での信号処理と計算．
6）制御工学の基礎．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は，対面式・オンラインのどちらかで実施する．
【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション，板書および口述によって進められる．授業の内容が理解できているかを確認するため，各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある．
【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション（スライド）によって進められる．授業内容の理解度の確認のため，各回で課題が出される．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を解説し，それを踏まえ，メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する．
第 2 回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスの各要素を理解する上で必要となる数学や物理（力学・電磁気学）を解説する．
第 3 回	アナログ電子回路－受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を解説する．主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする．
第 4 回	アナログ電子回路－能動素子	能動素子を用いた，特定の機能を持った回路について解説する．各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて解説する．
第 5 回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムで用いられるアクチュエータの概要と分類を解説する．また，システムを構成する際の選定基準について説明する．
第 6 回	アクチュエータの原理	主に電磁アクチュエータを対象として，動作原理について解説する．加えて，駆動に必要な信号などの計算方法を述べる．
第 7 回	センサの概要	メカトロニクスシステムを構成するために必要なセンサについて，概要と分類を説明し，システム構築のためのセンサの選定方法について述べる．
第 8 回	各種センサの計測原理	様々なセンサの紹介を行い，どのような原理で計測を行っているかを，出力信号の処理方法とともに解説する．
第 9 回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する．また，デジタル信号の通信方法を説明する．
第 10 回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と，コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて解説する．
第 11 回	機構の基礎	機械を構成する要素部品（機構部品）について，その種類と仕組み，用途について説明する．
第 12 回	機械の設計	機構部品を組み合わせて，機械的なシステムを構築する手法について説明し，そのシステムの運動伝達の計算方法を解説する．
第 13 回	制御工学の基礎	制御の基本概念，フィードバック制御の意味，古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴等を説明する．
第 14 回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する．また総まとめとして，学習範囲の要点を再確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校レベルの物理学（特に力学，電磁気学分野）を復習して望むとよい．本授業の準備・復習時間は，各２時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
・三浦宏文（監修）「ハンディブック メカトロニクス」オーム社
・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
・松本潔「設計者に必要なメカトロニクスの基礎知識」日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】
平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を４０％，期末試験もしくは最終課題の評価を６０％として総合評価点を算出して評価する．総合評価点を１００点満点とし，６０点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
講義の進行（板書等）が速いために理解が追いつけなくなることが無いよう，説明などの時間を多く取るとともに，講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする．

【学生が準備すべき機器他】
筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】
メカトロニクスに関する研究に従事している教員が，実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める．

【Outline (in English)】
"Mechatronics" is a multidisciplinary engineering field that includes mechanical engineering and electrical engineering to produce intelligent systems that control machines via electronic and information technologies. To understand mechatronics, a wide range of disciplines are required. In this lecture, students will acquire knowledge of each of the fundamental technologies of mechatronic systems and skills to apply it to real systems.

ELC300ND

システム工学

森　健一郎

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1 つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウエア設計、ソフトウエア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステマチックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本の Society5.0, ドイツの Industrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical Systems などの System of Systems を、一から設計し構築できる柔軟な能力である。これからの社会的要求に応え、それらの課題の解決のために、システム工学の習得は必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

A. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
B. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
C. 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
D. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	**システム工学とは何か**	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。
2	**システムの計画と評価**	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 < 課題演習 (1) >
3	**システムの要求定義**	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	**システムアーキテクチャの構築**	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 < 課題演習 (2) >
5	**システムの安定性**	システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。
6	**システム制御のモデリング**	フィードバック制御器の 1 つとして PID コントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振子装置のシステム制御をモデリングしてみる。 < 課題演習 (3) >
7	**システムの安全性**	システムの安全性の概念の 1 つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	**システムの最適化**	システム設計・構築において、プロジェクトリーダーは、常に問題解決を迫られる。その合理的な意思決定を支援するのが数理最適化である。その手法として連続最適化と離散最適化の計算モデルの初歩を学ぶ。 < 課題演習 (4) >
9	**確率システム**	様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布、ポアソン分布、指数分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	**統計的データ解析**	Internet of Things によるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。 < 課題演習 (5) >
11	**システムの信頼性**	信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
12	**信頼性解析**	システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。 < 課題演習 (6) >
13	**ネットワークの性質**	ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。
14	**ネットワークの構造**	ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。 < 課題演習 (7) >

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみること。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

木村英紀著「現代システム科学概論」(2021 年) 東京大学出版会
橋本、石井、小林、大山共著「Scilab で学ぶシステム制御の基礎」(2007 年) オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木曽共著「システム工学　第２版」(2006 年) 森北出版
大橋、鳥海、白山共著「システム理論Ⅱ」(2016 年) 丸善出版

【成績評価の方法と基準】

１．授業に対する意欲・態度などの平常点を重視する。平常点は、授業への取組み姿勢や質問票の提出を反映する。

２．どのくらい理解できたのか、課題演習の得点を総合評価する。（期末試験は無し）
３．決められた提出日までに課題を提出すること。
４．成績評価は 100 点満点とし、平常点と課題演習の得点は各 50 %の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】
　モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】
１．パソコンで Excel やシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
２．講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。
３．課題演習は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】
　メーカーの研究開発・商品開発部門に、35 年を超える勤務経験のある教員が、実社会での多数のシステム設計および開発プロジェクト遂行の経験に基づき、システム工学の基礎を講義する。

【Outline (in English)】
Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization, etc.
In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification, etc. before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that the acquisition of system engineering is an indispensable item in order to meet the social demands of the future and solve those problems.
In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.
The goals of this course are to A,B,C and D:
- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.
Final grade will be calculated according to the following process: Assignments or short reports (50%) and in class contribution (50%).

MTL300ND

素材と機能

堀井　辰衛

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PET やゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。
本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】
素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に座学で高分子材料に関する知識を深めていただきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類や構造について説明します。
2	高分子の物性	熱的、力学的な性質について説明します。
3	汎用プラスチック	ガス管、水道管、ポリタンクなど身の回りで頻繁に用いられている汎用プラスチックについて紹介し、それぞれの特徴について説明します。
4	エンジニアリングプラスチック	自動車や家電など、より高い耐久性、耐熱性が求められる用途に用いられる高分子について紹介し、それぞれの特徴について説明します。
5	電気を流す高分子（その１）	導電性高分子とは何か？ そのメカニズムについて実応用例を踏まえて説明します。
6	電気を流す高分子（その２）	導電性高分子の先端技術・研究について紹介します。
7	光学技術に貢献する高分子（その１）	液晶ディスプレーや光学レンズなどに用いられる高分子について紹介します。
8	光学技術に貢献する高分子（その２）	感光性高分子の種類や用途、研究例について紹介します。
9	高分子ゲル（その１）	高分子ゲルの特徴と、その実応用例について説明します。
10	高分子ゲル（その２）	高分子ゲルの先端技術・研究例について紹介します。
11	生化学・医療へ貢献する高分子（その１）	生体適合性を有する高分子材料について、実応用例と共に説明します。
12	生化学・医療へ貢献する高分子（その２）	生体適合性を有する高分子材料について、研究例について説明します。
13	環境にやさしい高分子・関連技術（その１）	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について，２週に分けて説明します。
14	環境にやさしい高分子・関連技術（その２）	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について，２週目について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に課題を出すので、翌週の授業開始時間前までに電子媒体で提出していただく予定です。

【テキスト（教科書）】
教科書は基本的には授業用のスライドを用います。

【参考書】
松浦和夫，尾崎邦弘，「高分子材料が一番わかる」，技術評論社，２０１１．
井上和人，清水秀信，岡部勝，「基礎からわかる高分子材料」，森北出版株式会社，2015.
東信行，松本章一，西野孝，「高分子科学 合成から物性まで」，講談社，2016.

【成績評価の方法と基準】
1. 授業参加への貢献度　20%
2. 各講義での課題　80%

【学生の意見等からの気づき】
担当講師は本講義が初回講義であるため、なし。

【学生が準備すべき機器他】
現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】
担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉（ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発）、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、前年度と比較して高分子材料の基礎に偏った内容となることが予想されます。

【Outline (in English)】
Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli.　Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.
Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.
The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には Taguchi Methods として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。
一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして SN 比で評価することができる。SN 比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】
技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である SN 比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点： 40%、演習レポート： 60%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】
データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】
The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には Taguchi Methods として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして SN 比で評価することができる。SN 比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である SN 比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザイン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○		○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの課題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点： 40%、演習レポート： 60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司　雅臣

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には Taguchi Methods として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして SN 比で評価することができる。SN 比を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。
特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である SN 比の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。
本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合
的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

（A）歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
（B）技術者倫理	20%
（C）工学基礎学力	30%
（D）専門基礎学力	20%
（E）専門知識の活用・応用能力	10%
（F）総合デザイン能力	10%
（G）コミュニケーション能力	
（H）継続的学習能力	
（I）業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習、討論を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

1）矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
2）田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
3）田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
4）矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
（平常点： 40%、演習レポート： 60%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".
In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

SSS300ND

プロジェクトマネジメント（ＳＤ）

村上　季史、永田　義昭

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
システムデザイン学科では「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を学びます。「創造」には、共通のゴールに向かって、複数の人間が協力し合って未知の分野に挑戦する行為が必要です。これが「プロジェクト」です。この授業では、そうしたプロジェクトの計画立案と遂行・コントロールについて、また繰返し行われる日常業務の進め方との違いについて、演習を交えて理解していきます。

【到達目標】
プロジェクト・マネジメントの基本概念と、コミュニケーション・ファシリテーションなどの基本スキル、ならびに Activity List・WBS・CPM・EVM などの技法について初歩を理解し、自分なりにプロジェクトを組み立てリードしていける能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
この授業は全部で 14 回で構成します。
第 1 回－第 2 回　プロジェクト・マネジメントの概要について解説します
第 3 回－第 6 回 プロジェクトを遂行するヒューマンスキルを学びます
第 7 回－第 13 回　プロジェクト計画の立案方法と実行・監視・コントロールの仕方を理解します
第 14 回　グループ課題の発表と相互評価を行います
なお、授業には演習を取り入れます。また、授業と並行してグループを組み、課題「プロジェクト計画演習」を 7 週間かけて進める宿題の形とします。
授業を通して、クラスメイトと協力しながら、プロジェクト・マネジメントの手法を身につけ、演習とグループ課題で実践に結びつけて、本当に「使える」スキルとして身につけてもらいたいと期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (プロジェクトとは何か)	この授業の目標と全体のプロセスを理解します ・プロジェクトとは何か ・プロジェクトの進め方の全体像
2	ゴール・目的・目標	プロジェクトのゴール設定と「プロジェクト CHARTER」を学びます ・プロジェクトの成功と失敗 ・ゴール、目的、目標の違い ・演習　プロジェクト CHARTER をつくる
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントの違い、また、プロジェクトマネージャーについて学びます。 ・リーダーシップとマネジメント ・プロジェクトマネージャーに求められるもの
4	コミュニケーション	日常生活の中でも実践できる、コミュニケーション力を上げるためのポイントを学びます。 ・プロジェクト遂行上のコミュニケーション ・コミュニケーションの目的とは？ ・コミュニケーション力の高い人とは？ ・コミュニケーション上手になるためには？ ・演習
5	ファシリテーション	ファシリテーションは話す力、聴く力、論理的思考力などのヒューマンスキルの総合技術であり、チームの成果を最大限引き出すことができます。グループ演習を通じてファシリテーションを活用した議論、意思決定を体験します。 ・ファシリテーションとは ・演習
6	モチベーション	他者と協働し、意欲を持って動いてもらうための動機づけについて理解します。 ・動機づけ理論 ・人は何で動くか
7	スコープ・WBS	プロジェクト・マネジメントの基礎であるスコープと WBS 作成について学びます。 ・スコープとは何か ・WBS の作成手順 ・演習　Activity List と WBS をつくる
8	組織と要員	複数の人間が協力し合うために必要な組織のデザインを学びます。 ・企業の組織とは ・プロジェクト組織の分類 ・チームと役割
9	スケジュールプラニング	プロジェクトの納期を守るためのタイム・マネジメントの基礎を学びます。 ・ロジックネットワークスケジュールの基礎 ・演習　納期短縮アイデアを考えよう
10	リスク	プロジェクト・マネジメントにとって最も難しい課題であるリスクについて考えます。 ・リスクとは何か ・リスクへの対応戦略
11	コスト	予算を守るためのコスト計画とコントロールについて学びます。 ・予算とはそもそも何か ・人のコスト ・見積の方法 ・演習　入札ゲーム
12	品質	顧客のニーズや期待に応える商品・サービスを提供するために、品質という観点で重要なポイントを学びます。 ・品質とは ・品質目標を実現するための３つのポイント
13	進捗管理とアクション	プロジェクトの進捗管理と必要なアクションについて、実践的なテクニックを学びます ・プロジェクトの進捗管理 ・EVM ・変更管理
14	グループ課題発表	「プロジェクト計画演習」課題のグループ発表 ・動画・パワーポイントによる課題のグループ発表会 ・各グループによる相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習に重点を置いてください。個人課題は 1 時間程度要する内容を基準とします。
また、グループで取り組む「プロジェクト計画演習」の際に時間外の準備が必要となります。
なお、それ以外にも、研究でもサークル活動でも、あるいはバイトでもかまいませんから、人と共同して何かを達成する経験をなるべく積んでおくことをお勧めします。これは本授業のみならず、卒業後にも必ず役に立つことです。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありませんが、講義資料は PDF で授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】
(1)「世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書」佐藤知一・著 (技術評論社)
若手エンジニアを主人公に、プロジェクトマネジメントの基本を解説しています。
(2)「改訂 3 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」　日本プロジェクトマネジメント協会・著 (日本能率協会マネジメントセンター)
日本の団体が中心となり、プロジェクトとプログラムのマネジメントについて解説した書です。
(3)「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第 6 版」Project Management Institute 著 (PMI 東京支部)
現在最も世界的に影響力のある標準体系の解説書です。PMP（Project Management Professional）資格受験のための必須の教科書です。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業課題と演習 (60%)
授業の課題提出や教室内・オンラインでのグループ演習を行います。プロジェクト・マネジメントは演習なしで理解することはほとんと不可能です。講義と演習への積極的な参加を成績評価の対象とします。
また、講義に関する質問やコメントを記したリアクションペーパーの提出も講義への貢献として成績評価の対象とします。
(2) グループ課題の発表 (40%)
この授業で学んだことをもとに、グループを作成し、各グループでプロジェクト構想を作り、その内容と遂行計画について発表してもらいます。実現可能性それ自体は問いませんが、実行手順についてはできるだけ具体的にイメージして作成してください。
「プロジェクト成果物の構想説明」、「プロジェクト計画書作成」、「プレゼンテーション」に合計 40 点を配点します。グループ課題は受講生全員が相互に採点する方式で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。
授業の初めに、前回の授業で受講生から提出されたリアクションペーパーの質問や意見を取り上げ、フィードバックします。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料は PDF の形で授業支援システムに事前にアップします。閲覧可能な機器を授業に持ってきてください。

【その他の重要事項】
種々のプラント建設プロジェクトを経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。

【Outline (in English)】
In this course on system design, students will learn the engineering involved in creating and designing new innovative systems. Creating involves challenging undiscovered areas by facing common problems and collaborating with people. Students will understand how to plan, execute, and control such creating projects as well as how they differ from real world duties through classes and practice.

OTR200ND

プレゼンテーション技術（2023 年度以降入学生）

豊島　純子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイディアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。

この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルやテクニックを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、"Audience First"を常に意識しながら聴衆の心に響くプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され共感してもらえるか?」を聴衆の立場にたって考え、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習（B2357、B2358、B3846 は同一内容) からなり、対面とオンラインで行います。Face to Face の対面プレゼンテーションとオンライン・プレゼンテーションに対応するための効果的なスキルを学び、練習します。オンライン授業時の URL は学習支援システムの「お知らせ」を通じて 9 月半ば以降に周知しますので、受講者は忘れずにチェックしてください。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアル、効果的なフィジカルメッセージを学習後、三種類のプレゼンテーション（日本語二回、英語一回）に取り組んでいただきます。そして総まとめに三種類のプレゼンの中から再演したいものを選び、発表していただきます。

オンライン・プレゼンテーション実習では Zoom と ICT を活用したツールで相互評価を行い、発表者は教員、TA とほかの受講者の feedback（FB）を受けます。発表者は FB とプレゼンの録画ビデオを参考にして省察し、プレゼンテーションの改善をはかります。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」、第二回日本語プレゼンテーションは将来の研究発表へとつながる「問題解決型プレゼンテーション」を行います。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本である Tell Them Three Times Approach を使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントーネーションを練習後に実演します。また学会発表等に備え、発表後に質疑応答の練習やディスカッションも行います。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者は PC やスマホを使って発表者に FB します。発表者のプレゼンテーションをよく観察し、的確なアドバイスや建設的なコメントができるように練習してください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は自分のビデオ映像を視聴し、講義で学習した内容、教員、TA、クラスメートからの FB を参考に自らのプレゼンテーションを振り返って自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次回のプレゼンテーションに反映させ改善させていきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積みます。ありのままの自分を直視することは苦しくも楽しい作業で、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。半期の授業を受講後、受講者は自分の「強み」と「課題」を十分理解し、より高度なプレゼンテーションを行うべく次のステージに進んでいきます。一人では難しい省察も、共に学ぶ仲間がいれば実現しやすくなります。

この授業は受講者同士が助け合いながら、それぞれの課題を乗り越えていきますので、自らのプレゼンテーションを向上させるだけでなく、仲間のプレゼンテーションの上達をサポートできるように積極的かつ真摯に授業に取り組んでください。

尚、詳しい授業計画は初回のガイダンスで説明します。授業の進捗具合、受講者数、COVID-19 感染状況によって日程、内容を変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方針と進め方を説明し、プレゼンテーション概説を学びます。
2	プレゼンテーション概説とプレゼンテーションの三要素（Story Message）についての講義	明快なストーリーを組立てる際に有効な Tell Them Three Times Approach を学びます。
3	プレゼンテーションの三要素 (Visual & Physical Messages) についての講義	PPT スライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションを実演するために有効なフィジカルメッセージを学びます。
4	第一回日本語プレゼンテーション実習（1）	テーマにそって第一回日本語プレゼンテーションを行います。発表はビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表後、発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
5	第一回日本語プレゼンテーション実習（2）	第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
6	・第二回日本語プレゼンテーションの説明と準備 ・英語プレゼンテーションの準備 (1)	授業の前半は第二回日本語プレゼンテーション (問題解決型プレゼンテーシ）の趣旨と取り組み方を学習します。 後半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。
7	・第一回日本語プレゼンテーションの振り返りと総括 ・英語プレゼンテーションの準備 (2)	授業の前半は第一回日本語プレゼンテーションの講評を行います。 後半は英語プレゼンテーションの実施方法を学習後、各自作成してきた英語プレゼンテーション原稿をピア・レビューし原稿を修正します。
8	・第二回日本語プレゼンテーションの準備（テーマ検討） ・英語プレゼンテーションの準備 (3)	授業の前半は各自が考えてきた第二回日本語プレゼンテーションのテーマを検討しあいます。 後半は英語口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行い、英語プレゼンテーションに備えます。

9	英語プレゼンテーション実習 (1)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者はプレゼンテーションの録画ビデオを視聴し、相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。
10	英語プレゼンテーション実習 (2)	オンライン・英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
11	第二回日本語プレゼンテーション実習 (1)	第二回日本語プレゼンテーションの初日です。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオ録画と相互評価結果を参考に省察レポートを書きます
12	第二回日本語プレゼンテーション実習 (2)	第二回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。
13	Second Chance Presentation	総まとめのプレゼンテーションです。実演済みの 3 種類のプレゼンテーションの中から再演したいものを選び、発表します。プレゼンテーションはビデオ撮影します。発表者以外は発表のフィードバックをします。発表者はビデオとフィードバックを参考に省察レポートを書きます
14	まとめ	よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（Final Reflection) を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に三種類のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を練習します。受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備をして実演にのぞみます。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を参照し自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

· Garr Reynolds「プレゼンテーション ZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ピアソン・エデュケーション
·Harrington,D.,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse
· Jonathan Schwabish 著、高橋佑磨・片山なつ監訳、小川浩一約、「できる研究者のプレゼン術」(2020)、講談社

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション　50%、課題　40%、授業への取り組み（出席含む）10%
· 4 回のプレゼンテーションすべてを実施することを単位取得の要件とします。
· 不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告すること。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
· 3 分の 1 を超える授業を欠席の場合、単位は不可とします。
· 課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習を消化するだけではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
· プレゼンテーション実習をすべて完了しても省察レポート等の課題が未提出の場合、単位取得が難しくなる場合があります。課題は〆切を守って期限内に提出するようにしてください。
· 発表者に対して的確な相互評価とフィードバックができているかを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「とても有意義な授業だと思います。システムデザイン学科では発表の機会が多いですが、発表のフィードバックを得る機会がなかなかないです。大切な練習機会になりました」、「Tell Them Three Times Approach を実践したら、自分でもプレゼンが組み立てやすく、聴いていてもわかりやすいプレゼンができるようになった」、「自分の特徴がつかめ、目指すべきプレゼンテーションのスタイルがわかった」、「発表後の質疑応答のやり方がわかり、練習できてよかった」、「他の人の発表を見ることで勉強になった。また、クラスメートのコメントを読んで、自分では気づいていなかった長所がわかって嬉しかったし自信になった」等のコメントをいただきました。受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って、プレゼンだけでなく人間としても大きく成長されているのがわかり、大変頼もしく感じました。相互評価とビデオ録画の有用性に関するコメントをたくさんいただいたので、今後も大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（ＵＢ）で理工系学生（STEM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、相互評価とビデオによる自己点検を組み合わせた協働学修を通して、効果的なプレゼンテーションを行うためのスキルとテクニックを指導します。

【Outline (in English)】

Communication skill is vital to thrive in the global community. Above all, presentation skill is one of the greatest career boosters for engineers. This presentation course offers students opportunities to improve their presentation skills and techniques by integrating video self-reflection and peer evaluation. The 14-week course consists of the instructor's lectures and the students' presentation sessions. The students deliver their speeches in Japanese and English after learning to structure presentations using compelling visuals and powerful body language. Their presentations will be video-recorded, and they will receive constructive feedback from the instructor, teaching assistants, and classmates. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the students will reflect on their performances and write a self-reflection report for each presentation, which enhances their presentation skills.

BSP200GA

国際文化情報学の展開

和泉　順子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、1 年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである（ただし必修ではない）。本学部の４つの科目群「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「"異文化"とその境界 - 文化を分かつ 境界の再考 - 」。今年度のコーディネーターは国際文化学部教員の和泉順子が担当する。

【到達目標】
１．本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
２．SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
３．諸問題により異文化交流が困難な状況であっても、国際文化情報学（intercultural communication）を多角的に捉えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
■本授業は一部「オンデマンド」形式となるが、基本的には「対面」形式で行う。ただしコロナウイルスの感染状況が悪化するなどした場合は Zoom による授業に切りかえることがある。
■フィードバック：質問に対しては、学習支援システムの掲示板を通じて可能なかぎり回答する。あわせて、次回授業のなかでもフィードバックを行なう予定。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にフィードバックすることはしない。
■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4/13 和泉順子（国際文化学部教員・本科目コーディネータ）この授業で何を学ぶか	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明する。
2	4/20 北岡元（元駐エストニア日本国特命全権大使）エストニアの文化に学ぶ「デジタルをもってデジタルを制す！」	デジタル化の結果過剰になったインフォメーションに溺れて、人や組織が判断・行動出来なくなりつつある現代を乗り切るには、インフォメーションが一瞬で縦横に共有されるデジタル化が逆に特効薬になる点を、「デジタル最先進国」を可能にしたエストニアの文化を参考にしつつ学ぶ。
3	4/27　今泉裕美子（国際文化学部教員）太平洋島嶼の人びとの歴史経験から考える “文化 “と “境界 “	太平洋のとある島嶼国の憲法前文には、”The seas bring us together, they do not separate us” と謳われています。日本は島国と言われますが、海との関係、そこに育まれる文化に、太平洋島嶼の人びとと同じような認識を持っているのでしょうか。とある島嶼国ってどこ？ から出発し、太平洋島嶼の人びとの歴史経験から “文化 “と “境界 “を考えます。
4	5/11　佐藤千登勢（国際文化学部教員）東西冷戦そしてソ連崩壊：東西陣営と民族の分断は映画でどう描かれてきたか	東西陣営の壁やソ連崩壊に伴う民族間の分断の表象やモチーフは、ときにドラマを動かす原動力となる。複数の映画作品を例に、「社会体制、文化、民族」の分断についてともに考えていきたいと思う。
5	5/18　佐藤雅明（東海大学観光学部准教授）インターネットが実現する移動の自由 - グローバル・ツーリズム -	我々の生活に欠かすことができない移動=モビリティは、人間がもつ能力（アビリティ）の一つであり、社会を支える基盤でもある。歴史的に旅行や自由な移動は「贅沢」だったが、技術発展と幾多の苦難を乗り越え手に入れた社会の安定により、現在では誰もが移動の自由を享受できる。COVID-19 によって社会全体の DX が加速する今、これからも移動の自由やグローバルな社会を健全に発展させるために重要なポイントについて広く議論する。
6	5/25 竹内晶子（国際文化学部教員）『菊と刀』が描く「我々」と「他者」	欧米における日本人論の古典、『菊と刀』を取り上げ、この書が描く「他者」（＝日本人）像と自己（＝アメリカ人）幻想の相互補完的な関係を分析する。
7	6/1　林志津江（国際文化学部教員）闘争の音、ベルリンの壁	ふたつの共和国と「ベルリンの壁」、闘争と連帯の大通り、ドイツ再統一と「オスタルギー」、本物の連帯と統合に向けて。
8	6/8 島野智之（国際文化学部教員）種の絶滅と生物多様性〜動物分類学が種の保全に貢献出来ることはなにか	地球には総計約 870 万種の生物が生息していると推定されているが、およそ 86 %の地球上の生物種には未だに学名がついていない。学名のない生物は地球にまだ約 750 万種も残されていることになる。しかし、現在の生物の絶滅速度からすると、その 870 万種のうち 100 万種が絶滅危惧種である。生物多様性の現在の論点と、絶滅していく動物の現状について動物分類学の立場から説明する。
9	6/15 中和彩子 （国際文化学部教員）イギリス小説におけるコンタクト・ゾーンとしての南海	現代においてもなお、文明から遠く離れた「楽園」のイメージで語られることの多い、ハワイや南太平洋の島々であるが、実は 19 世紀中に急速に欧米化が進んでいた。世紀末の欧米の作家たちは、南海を旅し、すみかとし、あるいは引用と想像により、南海の人々と文化をさまざまに描き出した。本講義では、イギリスの作家、R. L. Stevenson、Somerset Maugham、Sylvia Townsend Warner の南海小説における「文明」と「野蛮」のせめぎあいを考察する。
10	6/22 石森大知（国際文化学部教員）自／他の境界について考える	人間はどのように自己と他者を認識してきたのか。また、自文化と異文化を分かつ境界はどのように創られ、争われてきたのかなどについて人類学的に考察します。
11	6/29　佐々木直美（国際文化学部教員）＜ことばの壁＞は無い方がいい？	異文化理解の障壁だと考えられがちな＜ことばの壁＞について取りあげる。スペイン語に加えて先住民の言語を公用語としている南米ペルーの歴史的出来事や現在の教育政策、さらには文化的事象を紹介しながら、＜文化としての言語＞や＜文化を翻訳する＞ことについて再考する。
12	7/6 松本悟（国際文化学部教員）開発援助と境界——線引きが作る弱者	開発援助では様々な線引きが行なわれます。土地の境界、貧しさと豊かさの境界、民族の境界・・・そうした線引きは開発援助とどんな関係にあるのか、人々をどのように仕向けるのかを考えます。
13	7/13 村井純（慶應義塾大学教授）グローバル社会と国際社会におけるインターネット	国の関係で構成される「国際空間」に加えて、インターネット前提とする「グローバル空間」の２つの空間がインターネットの発展とともに両立しはじめた。Covid-19 やウクライナ侵攻という歴史的な経験を経て、極めて急速にこの二つの空間の融合は誰にとっても現実となった。インターネットの役割と関連する技術を踏まえ、その未来への責任について議論する。
14	7/20 和泉順子（国際文化学部教員・本科目コーディネータ）国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える	国際文化学部の学びの本質とは何か、この授業全体の講義を振り返りながら考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・担当講師によっては事前課題を前提に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
・授業後課題を毎回課す。授業日当日を締め切りとし、短い文章で提出する。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。

●理念・目的
https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/
●ディプロマポリシー
https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/

【参考書】
・事前に学習支援システムに掲示するか、授業の中で各講師が紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業後課題の提出 60%、最終レポート 40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14回の講義について論じるものである。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを用いるので初回授業の 3 日前には登録すること。
・講義内容の入替や変更等の可能性があるため、毎回授業前に「お知らせ」などを確認すること。
・コロナウイルス感染状況により、Zoom による授業に切りかえる場合があるため、パソコン等のインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】
本授業の一部は、外部講師がその専門分野に応じて講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

【Outline (in English)】
This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures. The theme of this course is for this year 'Interculturality' and its boundaries - Reconsideration the boundaries that divide cultures -.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Short reports : 60 %、term-end reports 40%

HUM200GA

国際文化協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：100 **名前後が望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、１、２年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】
（1）国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
（2）国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
（3）「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマついて説明できる。
（4）基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル１以下の場合は対面で実施する。なおレベル２以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200 字〜800 字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から３日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。
■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は 1-2 年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―国際文化協力とは―	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力―期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・最初の授業で具体的に指示する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標４に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力―イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】
毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業後課題への回答などの平常点 50%、期末レポート 50%
・授業後課題は毎回設問に 200 字〜800 字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
・法政大学の教育活動における行動方針レベル２以上の場合はリアルタイムオンライン授業を行うため、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
・教科書は春学期の前半（5 月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】
NHK 記者や、開発協力分野の NGO として実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】
【Course outline】
What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to;
1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international
cooperation.
2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA

平和学

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】
（1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って実例を説明できる。
（2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
（3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル 1 以下の場合は対面で実施する。なおレベル 2 以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200 字〜800 字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から 3 日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。
■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は 1-2 年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとすることについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	２つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から 13 回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後課題は、法政大学の図書館 HP のデーターベース等から文献を検索して論じるなど、思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業後課題）50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
・授業後課題は最初のうちはかなり負担が重く感じているようだが、続けているうちに大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと肯定的なフィードバックが多くなった。そのような授業だと思って取り組んで欲しい。
・履修者が多いため、過去 2 年間はオンデマンド形式だったが、2023 年度から対面で実施する。毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを行う。

【学生が準備すべき機器他】
・法政大学の教育活動における行動方針がレベル２以上になった場合は、オンライン授業に切り替えるため、パソコン、および動画（もしくは音声入りパワーポイント）を視聴できるネット環境が必要。

【その他の重要事項】
・国際開発協力ＮＧＯやＮＨＫ記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

COT200GA

メディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう
PC を使ってのマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつもの課題制作に取り組む。見やすい作品つくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】
Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、ディジタルマルチメディアの特性を活かした**中級以上の作品制作**ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- レイヤー、マスク、フィルタの技法
- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論
- DTP に向けてのスキャナ、プリンタの利用法
●クリティーク（合評）と制作メモの提出
各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・デジタル写真のリタッチ
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・自由なテーマによる最終課題（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
●大事にしたいこと
・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。
なお，毎回の授業で小テストを実施し，質問を受け付ける．次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理 (近接、反復、整列、コントラスト) を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前２回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのディジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB, CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。
自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでディジタルカメラやスマートフォンを携行し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）： Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）： Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、
ISBN 4895630072

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア　IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット　タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,30%)、クリティーク (課題作品の相互批評,15%)、課題ならびにマルチメディア作品制作 (35%)、ePortfolio(個人の作品集づくり, 20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2022 年度は PC 実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（ディジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるディジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。

提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。
情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。
写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique and review: 15%
Homework and in-class assignment: 35%
Individual e-Portfolio: 20%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう
本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Proessing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】
メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に着け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。
IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を拡げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
情報実習室において講義と実習を行う。
●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）
Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
なお，毎回の授業で小テストを実施し，質問を受け付ける．次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（１）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（２）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（３）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース【制作課題１】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。【課題１】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出【制作課題 2 ：学習成果のまとめと Web 化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。
10	オブジェクト【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるので、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Proessing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「Processing をはじめよう 第 2 版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】
【Processing】
Daniel Shiffman (著), 尼岡 利崇 (翻訳)、「初めての Processing」、オライリージャパン (2018)、ISBN-13 : 978-4873118611
【p5.js プログラミング】
Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之 (監修)「Generative Design with p5.js ―ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974
【メディアアートのためのプログラミング】
Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design ― Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134
【ジェネラティブ・アート】
マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修), 沖 啓介 (翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アート― Processing による実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性,20%)、中間課題 (30%)、最終課題 (40%)、相互批評（10%）を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。
ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】
自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。
情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する。**

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。
関連科目：「ディジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in
contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA

道具のデザイン学

甲　洋介

サブタイトル：**ユーザの体験を魅力あるものにする 、という考え方**
配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：**ヒューマンインターフェイス論**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい< br /> 旧：ヒューマンイタンーフェイス論の修得者は履修不可**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
●　デザイナーだけではない。利用者の視点がデザインに役立つ！
日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。
　利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、公共サービス等の面倒な利用手順で不快になった体験もあることだろう。
●　うまくデザインすると、暮らしはもっと快適になる
暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザからの視点が非常に役立つことが分かってきた。
●　ユーザの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方
ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすく、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。
「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。
　文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】
UX デザインの基礎が身につく
・使いやすく魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
・デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス (experience=体験) の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。
●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイディアがさらに得られるように工夫する。
●「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する
特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。
※大学の行動方針レベルが２となった場合は原則としてオンラインで行います。新型コロナ感染状況により進め方を変更する場合があります。その際も学習効果が得られるように工夫します。変更は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① *User Experience (UX) Design*	ユーザの特性を理解し、体験 *(experience)* をデザインする、という考え方
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	*UX Design* の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①商品の企画	魅力ある商品の企画書を作るために
11	道具のデザイン実習②ユーザー分析	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③デザインプロセス	ユーザの快適な体験 *(experience)* をデザインする
13	道具のデザイン実習④評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習を兼ねて、課題練習を少しづつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）2015
・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013
他については適宜指示する。

【参考書】
・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017
・「ユーザビリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社)2014
・「UX デザインの教科書」（安藤昌也著、丸善出版）2016
・NPO 人間中心設計推進機構：　http://www.hcdnet.org/

【成績評価の方法と基準】
・レスポンスシート、授業・討議における積極性な貢献度合い (50 %)
・発表とレポート (50 %)
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】
いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【履修条件】
・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】
・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。
・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせて受講すると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・本科目の主題は、「文化情報空間論」においてさらに発展される。

【情報機器・視聴覚設備の活用】
ＰＣ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】
This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋　良明

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。 本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方とコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、 Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようになる。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】DTMF トーン（プッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】パッチ（Pd のプログラム）を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。
7	リズムマシン (2)	【講義と実習】リズムマシン基本形を発展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】人間の歌声のモデル化を学。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】シンセサイザーの出力音にポルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。MIDI 信号による制御を付加する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報リテラシー、メディア情報基礎、ディジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】
参考書・参考資料等
【Pure Data】
美山千香士、『Pure Data チュートリアル＆リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424
松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804
中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821
【音響モデリング】
Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、課題（30 %）、最終課題の評点（40 %）で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。
期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なポピュラー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な楽典知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC（Mac 版、Linux 版もある）にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。
実務経験のある教員による授業：
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理（特にディジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識）、マルチメディア処理（音楽音響、電子透かし）分野の経験がある。

【Outline (in English)】
This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 40%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA

マルチメディア表現法

大嶋　良明

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**人数制限あり（15 名）。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。**
備考（履修条件等）：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は、**少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習**です。
わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】
写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。
●作品制作の理論と技法 (講義と実習)
・デザインの基礎
・ポスター作り（Photoshop・Web）
・多様な出力形態（大判プリンタ、レーザーカッター）
・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・映像制作技法： Jingle、絵コンテ、ショートフィルム
●クリティーク
各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。
● ePortfolio による学習成果の公開
総合的な情報公開の場として活用する。
●課題
・ポスター作り（Photoshop ＋大判プリンタ・Web）
・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
・写真表現の作品化（アルバム・Web）
・Jingle (短い 15 秒程度の CM 的映像)
・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。
●大事にしたいこと
・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【写真課題： line、pattern、texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク： line、pattern、texture　各自の写真作品を合評する。 【写真課題：モノクロ、ライティング】
3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド　　実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：モノクロ、ライティング 【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法－ Web	Web の特性とデザインについて理解する。 【写真課題（承前）：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（CD, DVD など）の構成法を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習： Premiere による短いビデオ 【課題： Premiere オンライン教材の学習】 【学期末課題：ショートムービー】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習： Prezi によるオンライン・プレゼンテーション 【課題： Web 写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。 クリティーク：各自の Web ポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク： Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】 【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】
9	多様な出力形態 (1): DTP	印刷についての知識を学、DTP 作業のワークフローを理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Maker ムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。 クリティーク：広告 【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態 (2): レーザー加工	レーザー加工機による 【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工 【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。 【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・コモンズの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。**長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。**本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて紹介する。

【参考書】
【マルチメディア全般】
参考書（1）CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8
参考書（2）CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記 2 冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

【デザイン技法】
Robin Williams (著), 吉川 典秀 (翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ (1998)、ISBN-13: 978-4895630078
【写真技法】
キット　タケナガ（著）　東京写真学園（監修）、「デジタル 写真の学校」、雷鳥社 (2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3
【ショートムービー制作】
ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社 (2006)、ISBN:978-4845906956

【DTP、印刷】
松田 哲夫 (著), 内澤 旬子 (イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社 (2002)、ISBN: 978-4794965011
【オンライン・プレゼンテーション】
吉藤 智広 (著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Prezi デザインブック」、日経 BP (2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点 (20%)、中間課題 (30%) ならびに最終課題 (20%) を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
2011 年度までは 3〜4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】
本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PC を必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびに ePortfolio に提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】
学生へのメッセージ： Premiere、Photoshop などを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PC やソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため 20 名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。**作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。**
情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、
高度な ICT の活用実習、ならびに作品制作を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援します。**
受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】
前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）
Photoshop の応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。
関連科目：基幹科目「ディジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】
担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のディジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】
This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.
Grading policy is as follows:
In-class contribution: 30%
Critique: 20%
Homework and in-class assignment: 30%
Final assignment: 20%
Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.
The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA

空間デザイン論

前田　尚武

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**選抜　定員 20 名**
備考（履修条件等）：**2023 年 9 月に履修希望者の受付を行う。定員超過の場合は選抜を実施する。詳細は 、学習支援システムのお知らせを参照すること（2023 年 8 月以降に掲載予定）。**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】
本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは講師とともに建築を巡り、空間を読み解き、その魅力を感じ取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワーク先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回授業で提出されたリアクションペーパーからのコメントを紹介し、受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義 ガイダンス	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第 2 回	講義 アートと空間：美術館・博物館空間論	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察するとともに、現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第 3 回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	講師が設計を担当した六本木ヒルズを巡り、都市の成り立ちや空間構成、都市とアートの関係を学ぶ。
第 4 回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	第２回で学んだ美術館の展示空間を美術館で観察し、現代美術の展示手法、展示空間のデザインなどの理解を深める。
第 5 回	講義 都市と空間：都市デザインの萌芽から未来へ	戦後復興都市計画から、建築運動メタボリズム、70 年大阪万博、六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第 6 回	講義 アートと空間：エリアマネジメントとアート	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第 7 回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	国内最古の美術館建築で、2020 年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わっている講師が対面とオンラインのハイブリッドでその革新的なリノベーションについて解説。
第 8 回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館の空間を対面とオンラインのハイブリッドでツアーを実施し、第２回で学んだ理論を実践しているアートのための空間を観察する。
第 9 回	フィールドワーク 建築鑑賞：上野公園	重要文化財や世界遺産など明治から現代に至る数多くの大規模建築が集積する上野公園を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第 10 回	フィールドワーク 建築鑑賞：新橋・銀座	戦前のモダン建築からメタボリズム建築、ハイブランドの現代建築まで世界的建築家が競演する新橋・銀座エリアの建築を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第 11 回	講義 伝統と空間：日本建築の発見	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第 12 回	講義 伝統と空間：日本建築のグローバリズムと多様性	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第 13 回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第 14 回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習としてフィールドワークの訪問先について、事前に公式 HP 等で十分に理解しておくこと。また、復習として各回コメントシートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
・『モダン建築の京都 100』石田潤一郎・前田尚武編著　発行： Echelle-1　2021 年
・その他必要に応じて授業時に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、コメント・シートの記述内容）と、レポートの合計。講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。評価基準は平常点 50 %、レポート 50 %とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
フィールドワーク先の美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】
◉講義日程
土曜日３-４限 2 コマ連続開講（原則隔週）を予定。詳細日程は、2022 年夏に、学習支援システムで周知する。
◉講師略歴
前田尚武（まえだ なおたけ）
一級建築士／学芸員。１９９４年、早稲田大学大学院修了。２００３年から１５年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」（２０１１年）、「建築の日本展」（２０１８年）など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター、「モダン建築の京都」（２０２１年）を企画。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で２０１９年度日本建築学会文化賞ほか受賞多数。２０２２年より建築公開イベント「京都モダン建築祭」実行委員を務める。

【Outline (in English)】
【Course outline】
“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.
Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.
【Learning Objectives】
The goal of this course is not to master design production techniques, but to enhance literacy in manipulating spatial design and to develop the ability to understand the social and cultural background and context that a space bears. Students will learn theory through lectures, and in fieldwork, they will tour architecture with the instructor to acquire the ability to read spaces and sense their appeal.
【Learning activities outside of classroom】

As preparatory study, students are required to fully understand the fieldwork destinations in advance through official websites, etc. In addition, students are required to submit a comment sheet for each session as a review. The standard preparation and review time for this class is about 1 hour each.
【Grading Criteria /Policy】
The sum of regular marks (active participation in class, written comments and sheets) and reports. Students will be required to submit a report on a theme developed through lectures and fieldwork during the lecture period. Evaluation will be based on 50% of regular points and 50% of reports. Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives of this class will be considered to have passed the course.

POL200GA

国際関係研究Ⅰ

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にＮＧＯや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】
（1）授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
（2）「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
（3）関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル１以下の場合は対面で実施する。なおレベル２以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。
■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200 字〜800 字程度で書いてもらう。アカデミックスキルを維持・向上することも目的としている。提出期限は授業日から３日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。
■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は 2-4 年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ 4 つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	ＮＧＯとは何か	ＮＧＯの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのＮＧＯ	国際社会におけるＮＧＯの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	ＮＧＯは国家を補完しているのか、国家を「脱している」（trans）のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずにＮＧＯが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のＮＧＯ活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ（プライベートレジーム）	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後課題は、法政大学の図書館 HP のデーターベース等から文献を検索して論じるなど、思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGO から見た世界銀行―市民社会と国際機構のはざま―』ミネルヴァ書房。

【参考書】
毛利聡子（2011）『NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業後課題）50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・学部長職にあった過去 2 年間は代講を立てていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】
・長年ＮＧＯとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくＮＧＯの現状を交えて講義する。
・2021 年度と 22 年度は代講の教員が担当した。3 年ぶりに松本が担当するため、授業の内容や進め方は大きく変化する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSf200GA

国際関係研究Ⅱ

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：**国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））**
旧科目との重複履修：×
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】
（1）「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
（2）メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
（3）反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル 1 以下の場合は対面で実施する。なおレベル 2 以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で行う。
■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。第 3 回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第 1 回授業で説明する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに 200 字〜400 字で書く。授業後 3 日以内に学習支援システムに投稿。
■発表担当者：履修人数にもよるが複数の履修者で毎回担当してもらう予定。事前に準備し共同で発表する。なお、発表用のパワーポイントもしくはレジュメは授業前日までに教員にメールで提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジューム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の 30 年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。
12	重複の機能（メコン全体）	メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
13	歴史から考えるメコン開発（メコン全体）	ここまで取り上げた事例を解釈学、系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
14	開発と責任（メコン全体）	開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってくること。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。また、授業後課題は授業後 3 日以内に学習支援システム（Hoppii）に投稿する。本授業の準備学習・復習時間は各 1-2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（授業直後のリアクションペーパー 10%、授業後課題 20%）30%、発表 10%、グループ討議への参加度 20%、期末レポート 40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学部長職にあった過去 2 年間は代講を立てていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録すること。

【その他の重要事項】
■第 1 回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第 1 回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。
■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の演習（ゼミ）とは異なる学びがある。
■メコン河流域国で 30 年以上にわたって NGO 活動に従事してきた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

SOS200GA

実践国際協力

松本　悟

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学教育で「実践」から学ぶことには 2 つの意義があると考える。1 つは体系立った学習の応用として、もう 1 つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】
（1）国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
（2）国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
（3）実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル 1 以下の場合は対面で実施する。なおレベル 2 以上の場合はリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。
■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で行う。万が一教室定員を超えた場合は、2-4 年生の履修を優先して抽選する。
■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の 3 つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。
■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに書く。授業後 3 日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース１　保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース１を受けたグループ発表・討議	ケース１に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース２　少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース２を受けたグループ発表・討議	ケース２に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース３　参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース３を受けたグループ発表・討議	ケース３に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース４　緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース４を受けたグループ発表・討議	ケース４に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13 回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】
W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。
その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後課題 20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度 40%、授業内試験 40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
■遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。
■ 100 分では討議と発表が終わらないという声が多いので、最初の 2〜3 ケースは 1 つのケースに授業 2 回分を充てることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】
授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】
■国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。
■グループは第 3 回授業から事前に固定して作る。グループ替えは 3 回行う。第 1 回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第 1 回授業終了後 3 日以内に履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[アットマーク]hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.
【Learning activities outside of classroom】
-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.
-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
-Totally, your study time will be at least four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

岩下　弘史

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部に親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師ら登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中は、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が大きいものであることを理解するでしょう。

本授業では、そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

1）国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
2）実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
3）国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。
・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。
・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は学習支援システムの授業内掲示板に質問を書き込んでください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第 2 回	シムカート・ビョルン氏（アムネスティ・インターナショナル日本、キャンペーナー）	世界を変える力を見つける
第 3 回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、所長代理）	総合商社とは何か
第 4 回	山崎はずむ氏（株式会社 Empath、代表取締役）	スタートアップと Empath ：科学と人文知で「共感」に基づくテクノロジーを創造する
第 5 回	三木陽介氏（毎日新聞社、人事本部、採用研修担当部長）	記者の仕事について
第 6 回	田中義樹氏（株式会社テレビ朝日、広報局お客様フロント部、部長）、吉平将英氏（株式会社テレビ朝日、広報局お客様フロント部）	テレビを取り巻く環境の変化、そこに生まれるビジネスチャンス
第 7 回	松山匡延氏（M-wing 合同会社、代表）	国際協力事業における教育分野での活動について
第 8 回	代島裕世（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長）	SARAYA の SDGs ビジネス
第 9 回	畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG 部門 ESG 戦略部、ESG 戦略スペシャリスト）	Kirei Lifestyle Plan ：花王の ESG 戦略と具体的取組
第 10 回	藤下超氏（NHK、国際放送局、専任局長）	テレビの未来
第 11 回	水野義弘氏（株式会社 ANA 総合研究所、執行役員 産学連携事業部長）	ポストコロナの航空業界
第 12 回	神野斉氏（株式会社明石書店、編集部、部長）	出版の今――縮む世界と広がる世界
第 13 回	片貝悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、プロフェッショナルサービス第一本部、リードエンジニア）	ネット社会を支えるネットワークエンジニアのお話
第 14 回	大城勝浩氏（株式会社朝日広告社 、DX メディア本部長）	広告業界研究会『広告のホンシツ』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回の配布資料については、しっかりと再読すること。
・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・「平常点（出席＆コメントシート）60 %」と「期末レポート 40 %」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。
・第 14 回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。
・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団体で勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】
This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

ECN300HA

国際環境政策Ⅱ

久谷　一朗、土井　菜保子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火 4/Tue.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：経, グ, サ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内外の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。環境およびエネルギー問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球温暖化問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】
各種統計資料等に基づいた国内外の状況や国際比較への理解を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題や環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようになること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった環境およびエネルギー問題について、スライドを利用しながら講義形式で解説します。第 1 回の授業で、環境・エネルギー問題に関する受講生の関心を聴取します。聴取した結果は、第２回以降の授業で取り扱うテーマや解説の軽重に反映します。最終回の授業では、各回の授業で示した材料をもとに自由な質疑、議論を行います。本授業は２名の講師が前半と後半で分担しますが、各２回、すなわち計２回のリアクションペーパーを提出してもらいます（1000 文字程度）。
講義は対面を原則としますが、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の狙い、構成、成績評価など
2	エネルギー安全保障とは	概念と歴史的経緯、日本のエネルギー安全保障問題
3	今日のエネルギー安全保障問題１	至近の情勢、注目点（エネルギー需給、国際情勢など）
4	今日のエネルギー安全保障問題２	至近の情勢、注目点（再エネ、原子力、など）
5	途上国のエネルギー安全保障問題	途上国固有の課題と対策
6	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス	政策の選択肢、国際協力
7	グループ討議	ある国のデータをもとに安全保障対策を議論
8	エネルギー市場１	国内のエネルギー市場
9	エネルギー市場２	エネルギー・環境政策と市場
10	環境政策１	地球温暖化とエネルギー
11	環境政策２	省エネ、日本の取り組みと世界動向
12	環境政策３	脱炭素政策、EV 化、デジタル化
13	環境政策４	ビジネス界の取り組み
14	まとめ	質疑、フリーディスカッションなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業に用いるスライドは事前に配布するので、予め目を通しておくことで理解が深まります。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて関心を持ったトピックスについて関連情報を収集し問題意識の醸成に努めることで、主体的に課題を発掘する力が養われることが期待できます。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

【参考書】
特定の参考書はありません。担当教員が作成した個々のテーマの資料（スライド）に参考とすべき書籍・論文があれば個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加率（３０％）、および合計２回のレポート提出（７０％）をもとに総合判断します。定められたレポートの提出期限をまもること。また、積極的な意見表明や議論への参加を加点評価します。

【学生の意見等からの気づき】
第１回授業における学生からの関心表明を踏まえて、２回目以降の授業にメリハリを付けます。
質問を受け付ける方法、機会をしっかりと提供します。
レポート課題の内容や回数・提出期限などの周知を、講義を通じて徹底します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【関連の深いコース】
春学期開講の「国際環境政策Ⅰ」の履修を推奨します。ただし必須ではありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員２名は（一財）日本エネルギー経済研究所でエネルギー経済に関する研究活動に従事する現役の研究者です。本授業では、その研究活動を通じて得た最新かつ実践的な知見や考え方、分析方法などが反映されています。

【Outline (in English)】
Course outline;
Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the environment and energy challenges including global governance and international cooperation.
Learning Objectives;
The objectives of this lecture series are:
• to objectively understand the current environment and energy issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
• to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and
• to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/bilateral approaches as well as Japan's approaches.
Learning activities outside of classroom;
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy;
Grading will be based on class participation (30%) and submission of two short reports (70%).

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田　太郎

配当年次／単位：**1〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**定員制 RSP 履修不可**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・第 1 回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第 2 回〜第 4 回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第 5 回〜第 11 回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第 12 回〜第 13 回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第 14 回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第 1 回〜第 13 回は、各授業時間の最後の 10 分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
11	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
12	ファシリテーション実践①	参加型の場（対話型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
13	ファシリテーション実践②	参加型の場（討議型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
・第 2 回〜第 4 回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各 120 分程度）
・第 5 回〜第 11 回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各 120 分程度）
・第 12 回〜第 13 回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各 120 分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021 年、1,600 円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009 年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した 3 点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約 40%）、レポート課題（授業内試験）（約 30%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約 30%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度はハイフレックス型の変則的な授業形態であったが、その中で採用した「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約 3 分の 1 が前回学習内容の深耕、約 3 分の 2 が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、2022 年度の対面授業においては、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行うようにしたが、こちらも好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システム（Hoppii）を使用します。

【その他の重要事項】
◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第 1 回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第 1 回授業に出席してください（第 1 回授業はオンラインで実施します）。
◎ RSP 生は、本科目は履修不可です。火曜 2 限のファシリテーション論（C2240）を受講してください。

【実務経験のある教員による授業】
2003 年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

坂本　昭夫

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：火 5/Tue.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
悪化する海洋環境、地球環境。その原因を一つづつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。海洋漂着ゴミ、プラスチック、マイクロプラスチック、干潟や海藻の役目、農薬問題、日常の生活に潜む環境汚染等　そして人体への影響等を解析。

【到達目標】
海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、またどのように我々に影響するのか。そしてその結果　現在どうなっているのかを探り出します。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤（添加剤）、農薬等の問題点を探り、これからの時代、自分の未来環境をどう思慮するかを勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
主に PPT を使用し　DVD 視聴等で進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。また　動画配信にリアルタイムのディスカッションなどを組み合わせる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物体系を知る	生物の状態、そして問題点を探ります。
3	海洋ゴミ問題①	現状に海洋ゴミに関し探ります。『概要』
4	海洋ゴミ問題②	講義３に続き、海洋ゴミ問題に関しますが、深く掘り下げデータ共有いたします。
5	震災ゴミ	2011 年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？ を探ります。
7	マイクロプラスチック	５ｍｍ以下に小さくなったプラスチックの現状を探ります。
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります。
9	海草　アマモ	海草の役目と海洋環境改善策を探ります。
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には『ゴミ特番』を視聴します。
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります（コロナ対策の場合には市民団体の 1 年の活動を振り返ります。
12	海藻　ワカメ	海藻　その役目と海洋環境改善策を探ります。
13	農薬	農薬がどのように地球環境、生物環境を破壊しているかを探ります。
14	総括	１〜１３までの総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『授業前・授業後に各 2 時間ずつ』復習に関しては、講義内で使用した PPT 等を参考の上、改めて見直しする必要があり、最後のレポート提出には、各講義における見直しは不可欠と判断いたします。ただし講義毎に講義テーマが変わり、多岐にわたる内容から講義一つ一つをすべて完全理解することはかなり難しいと判断しております。

【テキスト（教科書）】
ありません。

【参考書】
ありません。

【成績評価の方法と基準】
13 回目の講義において、レポート課題を発表し、最終講義（第 14 回）にレポートを回収し評価といたします。　成績評価はこのレポートのみ。レポートで 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
ありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、海洋環境改善活動を 40 年以上行ってきた経験があり、他校においても講師の経験を保有している。
平成 24 年（2012 年）長年にわたり社会に奉仕する活動に授与される緑綬褒章を受章している。
平成 20 年（2008 年）〜平成 23 年（2011 年）　横浜国立大学教育学部付属横浜小学校「海洋環境教育」臨時講師
平成 25 年（2014 年）〜平成 26 年（2015 年）＆平成 28 年（2017 年）横浜国立大学教育人間科学部「理科教育講座」兼任講師

【Outline (in English)】
Deteriorating marine environment, global environment.　I would like to analyze the causes one by one, identify the current problems, and draw out ideas for leaving a clean and affluent earth and ocean for the future.　Analyzes marine debris, plastics, microplastics, the role of tidal flats and seaweed, pesticide problems, environmental pollution hidden in daily life, and the effects on the human body.（Learning Objectives）Countless micro plastics floating in the ocean.
How the plastic affects living things
How will it affect us?
And as a result, we will find out what is happening now.　Explore the problems of marine debris, garbage, plastics, plasticizers (additives), pesticides, etc., and learn how to think about your future environment in the future.（Learning activities outside of classroom）Regarding the review of "2 hours each before and after class", it is necessary to review it again with reference to the PPT etc.　used in the lecture, and it was judged that the review in each lecture is indispensable for the final report submission.　increase.　However, the theme of the lecture changes from lecture to lecture, and we judge that it is quite difficult to fully understand each lecture from a wide variety of contents.（Grading Criteria /Policy）In the 13th lecture, the report assignment will be announced, and the report will be collected and evaluated in the final lecture (14th).　Grade evaluation is only for this report.　100% rated in the report

SSS300HA

災害政策論

中川　和之

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
備考（履修条件等）：**環コア：ロ**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるために Zoom も利用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第 3 回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。ＧＷ期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第 4 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第 5 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第 6 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第 7 回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第 8 回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第 9 回	近年の地震災害から、課題を考える	2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。
第 10 回	近年の風水害から、課題を考える	令和 2 年 7 月豪雨、2020 年 7 月豪雨や台風 10 号、2019 年台風 15 号や 19 号 (東日本台風)、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。
第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 14 回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでもＯＫ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。

【テキスト（教科書）】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリアペで授業内容の理解を評価）40 %、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20 %、期末試験（試験レポート）評価 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoom のブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。

【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】
通信社記者として、1984 年の長野県西部地震や 1995 年の阪神大震災などを取材。2005 年から 2011 年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメント Web」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として 20 世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を 10 年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.
【Learning Objectives】
1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.
【Grading Criteria /Policy】
Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田　太郎

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火 2/Tue.2
備考（履修条件等）：定員制 RSP 優先

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・第 1 回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第 2 回〜第 4 回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第 5 回〜第 11 回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第 12 回〜第 13 回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第 14 回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第 1 回〜第 13 回は、各授業時間の最後の 10 分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
11	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
12	ファシリテーション実践①	参加型の場（対話型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
13	ファシリテーション実践②	参加型の場（討議型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
・第 2 回〜第 4 回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各 120 分程度）
・第 5 回〜第 11 回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各 120 分程度）
・第 12 回〜第 13 回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各 120 分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021 年、1,600 円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009 年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した 3 点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約 40%）、レポート課題（授業内試験）（約 30%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約 30%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度はハイフレックス型の変則的な授業形態であったが、その中で採用した「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約 3 分の 1 が前回学習内容の深耕、約 3 分の 2 が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、2022 年度の対面授業においては、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行うようにしたが、こちらも好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システム（Hoppii）を使用します。

【その他の重要事項】
◎グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第 1 回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第 1 回授業に出席してください（第 1 回授業はオンラインで実施します）。
◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生（含む RSP 生）を優先的に受け入れます。

【実務経験のある教員による授業】
2003 年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

SOC200HA

ファシリテーション論

徳田　太郎

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：火 4/Tue.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】
・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。
・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。
・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育んでいくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・第 1 回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。
・第 2 回〜第 4 回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。
・第 5 回〜第 11 回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。
・第 12 回〜第 13 回：それまでに学んだスキルとこころを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。
・第 14 回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。
＊第 1 回〜第 13 回は、各授業時間の最後の 10 分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。
＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）
6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③意見の吟味	意見の集約方法を学ぶ（講義・演習）
11	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
12	ファシリテーション実践①	参加型の場（対話型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
13	ファシリテーション実践②	参加型の場（討議型ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
・第 2 回〜第 4 回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各 120 分程度）
・第 5 回〜第 11 回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各 120 分程度）
・第 12 回〜第 13 回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各 120 分程度）

【テキスト（教科書）】
徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』（北樹出版、2021 年、1,600 円＋税、978-4-7793-0652-5）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】
・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・冨岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとこころ』（岩波書店、2009 年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に記した 3 点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約 40%）、レポート課題（授業内試験）（約 30%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約 30%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度はハイフレックス型の変則的な授業形態であったが、その中で採用した「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約 3 分の 1 が前回学習内容の深耕、約 3 分の 2 が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、2022 年度の対面授業においては、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行うようにしたが、こちらも好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出に、学習支援システム（Hoppii）を使用します。

【その他の重要事項】
グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第 1 回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第 1 回授業に出席してください（第 1 回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】
2003 年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.
（Learning Objectives）
1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
short reports: 40%, term-end report: 30%, in class contribution: 30%.

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田　雅之

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木 3/Thu.3
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】
以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①野生生物の生活と生存戦略
②生物の進化と適応
③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第 2 回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第 3 回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第 4 回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第 5 回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第 6 回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第 7 回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第 8 回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第 9 回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第 10 回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第 11 回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカの生態
第 12 回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第 13 回	生物多様性 1	3 つの生物多様性、レジリエンスとは
第 14 回	生物多様性 2	日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA

自然環境政策論Ⅰ

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金 2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：ロ, サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】
以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。
①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	ワイルドライフマネジメント
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	自然公園、自然環境保全地域など
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。
旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】
履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：金 2/Fri.2
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ, サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】
以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。
①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
②諸外国における取組みの事例とその仕組み
③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第 2 回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第 3 回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第 4 回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第 5 回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第 6 回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのビオトープ
第 7 回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第 8 回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第 9 回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約
第 10 回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第 11 回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第 12 回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第 13 回	生物多様性と政策	生物多様性条約、生物多様性オフセット、ビオトープ
第 14 回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりに生かす試み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA

環境科学 I

浦野　真弥

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木 5/Thu.5
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題には様々な形、構成要素がありますが、それらを捉える上で科学的な視点が極めて重要です。
この授業では、過去から現在の環境問題を俯瞰し、環境科学の役割を学んだ後、私たちの生活に関連の深い個別の分野について、環境科学の視点から学びます。
学生は、本授業によって、身のまわりの種々の環境問題が何故起きているのかを理解し、それらがどの様な要素を含むかを学ぶことができます。その学びの過程で、環境問題の捉え方や解決のための視点を身につけることを目指します。

【到達目標】
環境科学の基礎として、大気や室内環境、水環境、土壌環境、廃棄物、悪臭、騒音、振動、化学物質について学びます。
授業では特に身近な環境問題を取り巻く要素を理解し、問題が相互に関係し、多面的であることを学びます。
環境科学は環境問題解決の礎であり、学生は、この授業を履修することにより、身のまわりの環境について理解し、過去の問題がどの様に解決されたのか、また現在の状況と課題を理解できます。
過去の問題と解決のためのアプローチを理解することで、新たな問題を捉える方法や解決するための視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では環境に関わる諸問題について、分野を分けて一コマもしくは二コマを目途にパワーポイントを用いて説明します。なお、講義の内容は進行状況によって、変更になることがあります。
資料は前日の夕方までに Hoppii にアップします。
その授業に関連した問題について、授業終盤で小テストを行います。その回答について、その授業中、もしくは次の授業の冒頭に一部を紹介するなどして、問題の捉え方の幅の存在を学び、さらなる学びに繋げます。
最終講義は試験とまとめとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の背景と環境科学の位置づけ、環境管理の方法、基準、環境技術
第 2 回	大気汚染	歴史、大気汚染物質の原因、健康影響、対策
第 3 回	大気汚染と室内汚染	その他の大気汚染物質、室内汚染、健康影響、対策
第 4 回	水環境、上水道	水資源、水循環、水道水の製造、水質と健康、費用
第 5 回	下水道	下水道、下水処理、富栄養化
第 6 回	水質汚染と管理	有害物質による汚染と管理
第 7 回	土壌汚染	土壌地下水汚染、調査、浄化
第 8 回	悪臭、騒音、振動	基礎、測定、対策
第 9 回	廃棄物	一般廃棄物の実態と処理
第 10 回	廃棄物	産業廃棄物の実態と処理
第 11 回	資源利用とリサイクル	資源利用、リサイクル法、リサイクル技術
第 12 回	化学物質の利用と影響	化学物質の利用と健康影響、生態系影響
第 13 回	化学物質の利用と管理	化学物質による環境汚染と管理
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備：次回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して概要を掴み、どこかに問題があるか、その原因はどこにあるかを考えてみてください。
前回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して、今から出来る対策や改善策を考えてみてください。
調査では必ず複数の情報に当たる。考察では他の要素（例えば、経済活動や他の環境要素への影響）についても考えてください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
藤倉良、藤倉まなみ著、文系ための環境科学入門　新版、有斐閣
浦野紘平、浦野真弥著、地球環境問題がよくわかる本　改訂版、オーム社

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業内容の区切りで小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行います。
評価は項目の基礎的な理解度、テーマに対する多角的視点からの要点整理と考察の程度によって行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【関連の深いコース】
環境科学 II
自然環境科学の基礎
自然環境論

【実務経験のある教員による授業】
環境に関連したコンサルティング業務を行った経験を有しており、科学的、基礎的な内容に加えて、適宜、事例を交えた講義を行い、理解の向上を図る。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
Environmental problems come in various shapes and components, and a scientific perspective is extremely important in understanding them.
In this class, we will look at environmental problems from the past to the present, and after learning the role of environmental science, we will learn about individual fields that are deeply related to our lives from the perspective of environmental science.
Through this class, students will be able to understand why various environmental problems are occurring around them and learn what elements they contain. In the process of learning, we aim to acquire perspectives for understanding and solving environmental problems.
【到達目標 (Learning Objectives)】
As the basis of environmental science, students will learn about the atmosphere, indoor environment, water environment, soil environment, waste, odors, noise, vibration, and chemical substances.
In class, students will understand the factors surrounding environmental issues that are particularly familiar to them, and will learn that issues are interrelated and multifaceted.
Environmental science is the foundation of solving environmental problems. By taking this class, students will be able to understand the environment around them, how past problems were solved.

By understanding past problems and approaches to solving them, we aim to acquire perspectives for understanding and solving new problems.
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
For the next class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about whether there is a problem somewhere and where the cause lies.
For the previous class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about what you can do from now on.
【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】
Grading will be done by quizzes (30%) and final exams (70%) according to class content.
Evaluation is based on the degree of basic comprehension of the item, and the degree of summary and consideration of the theme from multiple perspectives.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉　良

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：土 1/Sat.1
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会
・越境大気汚染の原因と対策
・プラスチックごみ対策
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。授業に用いたパワーポイントは，PDF にして Hoppii にアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

課題提出後の授業、または Hoppii において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その１（第７章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その２（第７章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その１（第８章）	ＩＰＣＣ、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その２（第８章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第 6 回	気候変動・その３（第８章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第 7 回	気候変動・その４（第８章）	化石燃料
第 8 回	気候変動・その５（第８章）	緩和策
第 9 回	気候変動・その６（第８章）	適応策
第 10 回	越境汚染（第９章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント
第 11 回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第 12 回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第 13 回	環境国際協力	事例研究
第 14 回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席 (30%) と期末試験（70%) で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China (This is learning objectives). Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz (method to be determined) will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. The evaluation will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA

環境科学Ⅲ

石渡　幹夫

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：サマーセッション/Summer Session ｜ 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は、自然資源を活用してさまざまな社会経済活動をしています。自然資源の不適切な利用は環境破壊を引き起こし持続不可能な開発へとつながります。自然資源が抱える問題、その管理政策や手法について論じ、環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。

【到達目標】
水、土壌、森林、水産などさまざまな資源について、利用と保全の歴史的な経緯から始まり、その性質、持続的な利用と管理についての基礎知識を習得します。これにより
・自然資源の問題について説明できるようになります。
・自然資源の利活用の意義について説明できるようになります。
・自然資源の持続的な利用と保全のための政策や管理方法について説明できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
グループワークを行います。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資源論の社会科学	授業のテーマや到達目標及び授業の方法についての解説
2	水資源の問題	世界はどういった水問題を抱えているか？
3	水関連災害	世界と日本の災害の現状と対策は？
4	土壌管理	土壌を保全し土砂災害を減らすには？
5	気候変動	気候変動は水資源にどう影響を与えるか
6	水資源管理（1）	日本の水資源管理の経験とは何か
7	水資源管理（2）	水資源を統合して管理するには
8	水関連施設訪問（1）	「東京都水道資料館（文京区本郷）に視察（水道橋駅より徒歩：交通費は自己負担）」　水道整備の歴史
9	水関連施設訪問（2）	近代水道
10	森林資源管理（1）	森林資源は社会や人々の生活にどのように影響するか？
11	森林資源管理（2）	森林保全の問題は何か？ どう管理するのか？
12	水産資源管理	自然資源の消費を抑制し、環境負荷を減らす社会はどうすれば作れるか？
13	循環型社会	自然資源の消費を抑制し、環境負荷を減らす社会はどうすれば作れるか？
14	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回 Hoppii で配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布します

【参考書】
日本の防災、世界の災害: 日本の経験と知恵を世界の防災に生かす
石渡幹夫
2016　鹿島出版会

【成績評価の方法と基準】
出席（３０％）
グループワーク（３０％）
レポート（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】
履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
国土交通省、世界銀行、アジア開発銀行、国際協力機構にて、水資源管理、防災、都市管理などに従事。プロジェクトの実例を使って授業を行います。

【Outline (in English)】
Course outline
Modern society uses natural resources for a variety of socioeconomic activities. Excessive use of natural resources leads to environmental destruction and unsustainable development. This course aims to discuss the issues of managing natural resources, their management policies and methods, and to learn the scientific basis for mechanisms and strategies to deal with environmental issues.
Learning Objectives
Students will learn about basic resources such as water, soil, forests, and fisheries, starting with the historical background of their use and conservation, and their sustainable use and management. This will enable students to
- explain the problems of natural resources.
- explain the background and necessity of utilizing and conserving natural resources. and
- explain policies and management methods for sustainable use and conservation of natural resources.
Learning activities outside of the classroom
Please review using the resume distributed in Hoppii each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
- attendance (３０％)
- group work（３０％）
- report (４０％)

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川　路子

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：木 4/Thu.4
備考（履修条件等）：環ｺｱ：文, サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。
現在、我が国においては、年間の自殺者数が 1998 年から 14 年間連続して３万人を超えていた。その後減少傾向となりり、2019 年には 2 万人を切ったが、2020 年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。
　本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】
精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を変えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。
栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。
精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義とオンラインによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜 Hoppi で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第 2 回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第 3 回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第 4 回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第 5 回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと
第 6 回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第 7 回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第 8 回	精神障害④	摂食障害について
第 9 回	精神障害⑤	不安障害
第 10 回	精神障害⑥	統合失調症
第 11 回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第 12 回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第 13 回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第 14 回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
こころの「超」整理法　宮川路子　中央経済社　2012 年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。
オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】
産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】
The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status.
In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.
Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends.
Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.
Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.
Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.
Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.
Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田　雅之

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：秋学期授業/Fall　｜　曜日・時限：木 3/Thu.3
備考（履修条件等）：環ｺｱ：グ, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然環境と人間活動との持続的な調和を探求するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通した共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】
以下の 4 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。
①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第 2 回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 3 回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 4 回	北米の自然 1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 5 回	北米の自然 2	北米の国立公園と生態系
第 6 回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 7 回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 8 回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 9 回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 10 回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 11 回	南〜東南アジアの自然	南〜東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 12 回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第 13 回	その他の世界の自然	これまでの補足、海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第 14 回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】
基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.
The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ENV300HA

環境管理論 I

大岡　健三

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5
備考（履修条件等）：環コア：経, サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】ディズニー、コカ・コーラ、ユニリーバのように、地球温暖化などの気候変動に対応できESGやSDGsに対応したサステナビリティを理解する必要があります。したがって、このコースでは、水の浄化技術、リサイクル、環境法など、持続可能な環境管理の基本的な知識を学びます。
授業は、学生が環境管理と水質汚濁防止の基本的な方法を学び、理解できるように設計されています。また、河川、湖沼、海、土壌/地下水に関するさまざまな環境問題についても学びます。内容は、排水処理技術に加えて、環境法規制や公害事件についても扱います。
【到達目標】企業の環境経営、環境行政、各種国際活動に必要な実践的な環境知識を学びます。文系の一般学生が興味を持って学べるよう授業内容は分かりやすい内容にします。授業終了までに、学生は廃水を物理化学的および生物学的に浄化するための主要なスキルを学びます。このコースを受講する学生は、企業の環境管理者が使用するBOD/CODやサーキュラー エコノミーなど、多くの専門用語やコンセプトを理解することが期待されます。
【授業時間外の学習】講義/演習: 各クラスのミーティングの前後に、学生はコースの内容を理解するために4時間を費やすことが期待されます。 さらに、学生は学習支援システムで提供する教科書や関連記事を読むことが期待されています。
【採点基準・方針】
最終成績は、以下に基づいて計算されます。
期末試験： 70%、レポート： 30%

【到達目標】
脱炭素社会やGX（グリーントランスフォーメーション）、循環型社会などに関連する新しいコンセプトや用語も習得します。環境コンプライアンスの面から興味深い汚染事故も解説し公害防止の重要性を理解します。受講者は、水環境や環境汚染の原理原則をマスターし、環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化技術の基礎を習得します。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスは非常に興味深いです。
授業では米国大学の環境科学の知見や汚染事故、カナダ、アメリカ、ドイツ、マレーシア、ネパールなど海外情報も学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指します。実社会で役立つ環境技術と法令の理解を深めます。授業終了段階では, 公害防止管理者国家試験や民間検定などの技術と法規の専門用語や基本概念を問う基本問題が解けるよう目指します。これらは就職や公務員試験にも役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を原則としますが学習支援システムで要確認。毎回テーマに関するパワーポイントスライド等を使用、ビジュアルを多く利用します。講師は新聞や専門誌に毎月記事を掲載しているので、その記事なども教材にして学習し、マスコミ報道でよく耳にする環境キーワードを十分理解できるようにします。各論のテーマでは、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の環境管理や汚水処理の実際、汚染メカニズム等も解説します。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法も学びます。

テーマは各授業単位でなるべく完結させるので、1コマ飛ばしても（欠席しても）次回授業がスムーズに理解できるようにします。重要事項や難解かつ苦手なテーマは繰り返し説明します。授業は5月から教科書も使用する予定（生協で取扱い予定）で、学生からの建設的なコメントや要望などは次回講義等に可能な限り反映します。リアクションペーパーや課題なども授業中および学習支援システムでフィードバックします。（大学からの授業方針変更がありえるので適宜学習支援システムで確認してください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	全体の授業計画説明。国内外の環境事情。SDGs と ESG に関連する環境管理。	当講座の概要について説明。国内外の映像などを見ながら環境汚染など国内外の環境事情。環境 SDGs と ESG と環境管理の関係など解説。
第 2 回	東京ディズニーリゾートなどの環境管理、環境法令全般、水質環境基準	生物多様性など含む実際の企業における環境管理を解説。環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。
第 3 回	コカ・コーラやビール会社の環境管理。法令の読み方、水質汚濁防止法と排水規制、水田の水質悪化事件	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の解説。具体的事例の説明。
第 4 回	ダイオキシン騒動。水質汚濁防止法の誕生秘話。日本の水質汚濁の現状と原因	ダイオキシンの土壌汚染など。水濁法の誕生の裏話。水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水の汚染メカニズムを理解する。有機溶剤による汚染事例を解説。
第 6 回	ドイツ工場を例にして、物理化学的処理法	排水処理の全体像、終末沈降速度、傾斜版、凝集沈殿など物理処理法をわかりやすく解説。海外の技術にも触れる。
第 7 回	ろ過法を中心とした物理処理法	ろ過メカニズムと急速ろ過、アンスラサイトとザクロ石（ガーネット）、逆流洗浄、浸漬型膜分離活性汚泥法（MBR）などの原理を学ぶ。
第 8 回	物理化学的処理法	酸化還元、pH 調整、酸化還元の原理などの基本及び逆浸透 RO など高度な技術を解説。
第 9 回	生物処理法の概要と基礎	異化と同化、排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法の好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。
第 11 回	活性炭による高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理について学ぶ。
第 12 回	汚泥脱水、処理装置の維持管理。	活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術を学ぶ。物理化学的処理の維持管理。
第 13 回	確認テストを実施。BOD と COD、溶存酸素 DO など用語解説。環境法令など授業の復習	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

第 14 回　水質管理のパラメータと水質測定の基礎　河川水質調査の写真解説、時間があれば授業内テストの解説　環境測定で使用する汚濁指標など知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習と全体のまとめ。また、最終テストのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。Web 公開されている公害防止管理者等国家試験などの過去問を授業中に時々使用することがある。
テキストは「ケーススタディで学ぶ環境管理の基礎」日刊工業新聞社 2023（4 月発行）。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
毎回 PP スライドで解説。５月からは教科書を併用します。
「ケーススタディで学ぶ環境管理の基礎」日刊工業新聞社 2023 年４月発刊予定

【参考書】
「新・公害防止の技術と法規　水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題　正解とヒント　水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」
上記３冊の発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
授業中の課題提出に対し、その記載内容を評価する (30%)。択一式中心の簡単な最終テスト（70%）で評価。60 点以上が合格。大学方針により対面授業が中止になった場合は hoppii で代替策を通知する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の共通する質問や意見は可能な限り次回授業の資料に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要。
パソコンで週に 1 回以上は必ず資料をダウンロードして学習すること。

【その他の重要事項】
高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業を進める。
環境法令は理屈でなく、製造工場など事業者の視点で実務的内容を解説する。
（過去に経済・経営など他学部の学生が数多く受講しているが受講後の満足度は高い。）

【実務経験のある教員による授業】
講師は米国企業で長年の勤務経験があり、国内で環境コンサルタントや大規模な汚水処理事業所の責任者も経験している。その実務経験と知識により複数の海外政府向けに環境教育を実施している。米国勤務や JICA 専門家海外派遣などの経験をベースに、世界レベルのトピックスや教材も授業で時々利用する。

【Outline (in English)】
Like Disney, Coca-Cola and Unilever, it is necessary for students to understand sustainability that is compatible with ESG and SDGs and that can respond to climate changes such as global warming. Therefore, in this course, you will learn basic knowledge of sustainable environmental management, including water purification technology, recycling and environmental laws.
This course is designed to help students learn and understand the environmental management and the basic methods on water pollution control. You will also learn the various environmental issues on lakes, streams, ocean and soil/groundwater. In addition to wastewater treatment techniques, this course deals with the environmental laws and regulations as well as pollution incidents.
[Learning objectives] You can learn practical environmental knowledge required for corporate environmental management, environmental administration, and various international activities. The content of the class should be easy to understand so that liberal arts students can learn with interest. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically.
By this course, students taking this course are expected to understand a number of technical terms and environmental concepts including BOD/COD and Circular Economy, that are used by the environmental managers.
[Learning activities outside of classroom] Lecture/Exercise: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Further, students are expected to read textbooks and/or relevant articles provided by Hoppii.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated based on the followings.
Term-end examination:70%, Short reports: 30%.

MAN400HA

研究会 A

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：火 4/Tue.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR 論Ⅰ・Ⅱで習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する答えを見出すため、持続可能な社会で求められる企業とは何かについて考えます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定（脱炭素）、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステナブル社会で人々から共感される理想の企業像とは何かを学びます。

【到達目標】
SDGs や ESG 投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、４年生は研究会修了論文、２・３年生は日経ストックリーグのレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、SDGs および ESG 投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得を図りディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは SDGs への取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの ESG 投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日経ストックリーグ 研究会修了論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	企業と社会に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性についての報告と全体討議
第 7 回	ESG 投資に関する文献購読①	日経ストックリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資に関する文献購読②	日経ストックリーグ優秀論文のレビュー 担当者による報告と全体討議
第 9 回	コーポレートガバナンスに関する文献購読①	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と全体討議
第 10 回	コーポレートガバナンスに関する文献購読②	コーポレートガバナンスに関する主要論点のレビュー 担当者による報告と全体討議
第 11 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告と全体討議
第 12 回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読①	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と全体討議
第 13 回	証券投資・財務分析に関する基礎的文献の購読②	証券投資・財務分析に関する基本知識の習得 担当者による報告と全体討議
第 14 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第 15 回	ストックリーグ グループ中間報告①-1	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告①-2	これまでの分析結果の報告と課題の整理
第 17 回	研究会修了論文の中間報告＜ 1 ＞	論文テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動① （データ分析）	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動② （データ分析）	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③ （企業訪問）	企業ヒアリングの結果報告
第 21 回	ストックリーグ グループ中間報告②	ポートフォリオ選定作業の状況報告
第 22 回	ストックリーグ活動④ （企業訪問）	企業ヒアリングの結果報告
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ （企業訪問）	企業ヒアリングの結果報告
第 24 回	ストックリーグ活動⑥ （企業訪問）	企業ヒアリングの結果報告
第 25 回	ストックリーグ グループ中間報告③	ポートフォリオの完成 レポート内容の報告
第 26 回	研究会修了論文の中間報告＜ 2 ＞	論文構成・内容の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート執筆状況の報告
第 28 回	ストックリーグ活動⑧	レポート完成稿の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業の SDGs 活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉編著『SX と事業構造改革』文眞堂,2023 年
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
日本経営協会／長谷川直哉著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会,2019 年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文眞堂，2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂，2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016 年
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社，2017 年

【参考書】
必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容
日経ストックリーグレポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】
参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】
【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【Outline (in English)】
Based on the knowledge acquired in Contemporary Corporate Theory, Business History, and CSR I and II, students will discuss the ideal company in a sustainable society.
Students will build a portfolio and prepare a stock league report on themes such as SDGs (Sustainable Development Goals), Paris Agreement(Decarbonization), CSR (Corporate Social Responsibility), and Business Ethics.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA

研究会 A

高田　雅之

配当年次／単位：**2〜4 年／ 4 単位**
開講セメスター：**年間授業**/Yearly　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**定員制**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりの視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】
以下の 4 点を身に付けます。
①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
なお、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 ：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 ：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 ：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 ：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 ：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 ：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 ：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 ：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 ：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 ：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 ：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 ：ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 1	事前学習
第 23 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 6	発表と総括講義
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.
The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

MAN400HA

研究会 B

長谷川　直哉

配当年次／単位：2〜4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：火 5/Tue.5
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、スチュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG 投資（サステナブル投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値の構成要素について学びます。

【到達目標】
証券投資理論、ESG 投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、CSR および Business Ethics（企業倫理）に関する文献の輪読を行いストックリーグに必要な知識を習得し、学外の懸賞論文に応募します。秋学期は CSR 構想インターゼミナール、日経ストックリーグに参加します。ESG 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルデータに基づく論文執筆やファンドの組成を行います。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ゼミスケジュール	ゼミの進め方 学外の懸賞論文への応募 と CSR 構想インターゼミナール への参加方針
第 2 回	サステナビリティ経営に関する文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	サステナビリティ経営に関する文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	サステナビリティ経営に関する文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	サステナビリティ経営に関する文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	懸賞論文の中間報告①	論文テーマの方向性と問題意識ついての報告と全体討議
第 7 回	コーポレートガバナンスに関する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 8 回	デジタルトランスフォーメーションに関する基本文献の講読	担当者による報告と全体討議
第 9 回	経営戦略論に関する基本文献の購読	担当者による報告と全体討議
第 10 回	懸賞論文の中間報告②	論文の進捗状況報告と全体討議
第 11 回	証券投資論に関する基本文献の購読①	担当者による報告と全体討議
第 12 回	証券投資論に関する基本文献の購読②	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析に関する基本文献の購読	担当者による報告と全体討議
第 14 回	懸賞論文の中間報告③	論文の進捗状況報告と全体討議
第 15 回	懸賞論文の最終報告	完成論文の発表と討議
第 16 回	CSR 構想インターゼミナール中間報告①	発表テーマの方向性と問題意識ついての報告と全体討議
第 17 回	企業ヒアリング報告①	ヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 18 回	企業ヒアリング報告②	ヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 19 回	CSR 構想インターゼミナール中間報告②	発表内容の説明と全体討議
第 20 回	企業ヒアリング報告③	ヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 21 回	企業ヒアリング報告④	ヒアリング調査の結果報告と全体討議
第 22 回	CSR 構想インターゼミナール中間報告③	完成稿の説明とプレゼンテーションの予行演習
第 23 回	日経ストックリーグ中間報告①	テーマとスクリーニングプロセスの報告と全体討議
第 24 回	日経ストックリーグ中間報告②	テーマとスクリーニングプロセスの報告と全体討議
第 25 回	日経ストックリーグ中間報告③	ポートフォリオ企業の報告
第 26 回	同志社大学とのインターゼミの発表準備①	発表内容の報告と全体討議
第 27 回	同志社大学とのインターゼミの発表準備②	発表内容の報告と全体討議
第 28 回	懸賞論文／ CSR インゼミ／日経ストックリーグの結果報告	1 年間のゼミ活動の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回のゼミで紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナビル報告書を読み、企業の SDGs 活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長谷川直哉編著『SX と事業構造改革』文眞堂,2023 年
長谷川直哉著『SDGs とパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂，2021 年
Naoya.HASEGAWA （2020）“Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition),Palgrave Macmillan
日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会，2019 年
長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文眞堂，2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂，2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂，2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文眞堂，2016 年
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社，2017 年

【参考書】
必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）
ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容
レポート（70%）
学外の懸賞論文および日経ストックリーグレポートの内容

【学生の意見等からの気づき】
参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてパソコンを使用します。

【実務経験のある教員による授業】
【実務経験】
損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証 プライム上場企業の社外取締役として企業経営に参画しています。
【関連資格】
日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【最近の主要業績】
＜研究テーマ＞
企業と社会のサステナビリティ
＜主要研究業績＞
「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」（2021 年 9 月 28 日）』2021 年
「SDGs と企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学（2020 年 3 月 2 日～12 日）』2020 年
「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報 319 号』2021 年

【Outline (in English)】
This seminar focuses on the importance of non-financial information on corporate activities, such as SDGs (Sustainable Development Goals), CSR (Corporate Social Responsibility), stewardship code, corporate governance code, and ESG investment (sustainable investment), to learn about the corporate image required in a sustainable society and the components of corporate value.
Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.
Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on the final report (70%) and presentation (30%).

ENV400HA

研究会 A

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：金 4/Fri.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】
以下の 4 点を身に付けます。
①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
③他者との議論を通して、異なる観点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。
①グループワークをとおして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います
④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1 ：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1 ：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1 ：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2 ：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2 ：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2 ：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2 ：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2 ：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2 ：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3 ：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3 ：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3 ：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3 ：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3 ：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3 ：ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 1	事前学習
第 23 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4 ：個人・グループ研究 6	発表と総括講義
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。
また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】
グローバル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。

本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.
The goals of this class are to acquire wide and deep knowledge of the above-mentioned matters, and enhance abilities for information analysis, discussions and presentations.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

MAN400HA

研究会 B

永野　秀雄

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：春学期授業/Spring　｜　曜日・時限：金 4/Fri.4
備考（履修条件等）：定員制

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】
受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい個所は、担当教員が解説いたします。
なお、この授業は、対面授業として実施される予定です。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習･復習をすること。教科書で指定された小テストの個所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本郷貴裕『はじめてでも読みこなせる英文契約書』　（明日香出版社、(2018）2，640 円。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
成績は、小テストの合計点（70 %）と班による発表評価（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【実務経験のある教員による授業】
大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起案してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要となる事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.
< Learning Objectives >
This course aims to equip students with the basic skills to read English contracts. This ability will be required for students to play an active role internationally in the future.
< Learning Activities outside of Classroom >
Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture. Students should remember the quiz points (some legal words and sentences) specified in the textbook before attending each class. Each student group should prepare for a report of the translation of the actual English contract. Your required preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in this course will be decided based on your in-class quiz points (70%) and your group report (30%).

ENV400HA

研究会 B

高田　雅之

配当年次／単位：2〜4 年／ 4 単位
開講セメスター：年間授業/Yearly　｜　曜日・時限：木 2/Thu.2
備考（履修条件等）：定員制 CES ゼミ

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。
①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
③環境教育・コミュニティ・企業活動・市民活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらを関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】
本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力（コンサルタント力・デザイン力）を高めます。
併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムである CES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①グループ研究…半期に 2〜3 テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定 → 情報収集 → 分析評価 → 伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
②個人研究 1 …共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
③個人研究 2 …個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベントに参加する等の活動を行います。
⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせて持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。
また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	基礎学習 1（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 3 回	基礎学習 2（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 4 回	基礎学習 3（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 5 回	基礎学習 4（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 6 回	フィールド学習 1	現地調査 1
第 7 回	グループ研究 1	緑地に関するグループ討議
第 8 回	グループ研究 2	緑地に関するグループ討議・発表
第 9 回	グループ研究 3	水辺に関するグループ討議
第 10 回	グループ研究 4	水辺に関するグループ討議・発表
第 11 回	フィールド学習 2	現地調査 2
第 12 回	グループ研究 5	生物に関するグループ討議
第 13 回	グループ研究 6	生物に関するグループ討議・発表
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	グループ研究 7	認証と評価に関するグループ討議
第 17 回	グループ研究 8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第 18 回	グループ研究 9	計画とデザインに関するグループ討議
第 19 回	グループ研究 10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第 20 回	フィールド学習 3	現地調査 3
第 21 回	個人研究 1	テーマ検討と意見交換
第 22 回	個人研究 2	研究構成の検討と意見交換
第 23 回	個人研究 3	研究のブラッシュアップ
第 24 回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第 25 回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第 26 回	個人研究成果の発表 1	研究結果の発表と討論 1
第 27 回	個人研究成果の発表 2	研究結果の発表と討論 2
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をします。
各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】
講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外のイベント活動への貢献、ゼミ運営への率先と貢献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】
「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連する講義科目の履修を推奨します。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn practically the following themes mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the entire urban area.
① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.
② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, citizen activity, landscape creation and maintenance activities.
④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

The goals of this class are to acquire wide/ deep knowledge and practical thinking ability of the above-mentioned matters.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.
Grading will be decided based on comprehensive evaluations including qualities of presentations, participation in discussions, motivation for learning, contribution to seminar activities(100%).

ENV200HA

Environmental Science

Ryo FUJIKURA

Term：秋学期授業/Fall ｜ Credit(s)：2 ｜ Day/Period：木 5/Thu.5 ｜ Campus：市ヶ谷 / Ichigaya ｜ Grade：1〜4
Notes：

その他属性：〈グ〉〈実〉

【Outline and objectives】
Environmental problems are the physical, chemical, and/or biological consequences of human activities on nature. Scientific knowledge is crucial to understand what is happening and to think about what we can do. In this class, I will present the basic science of global environmental problems and resource issues.

【Goal】
Students will acquire the basic knowledge of the environment and resource problems.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Among diploma policies, "DP3" is related

【Method(s)】
The class will be conducted using PPT. A copy of the PPT will be uploaded to Hoppii in PDF format prior to class. A short quiz will be given at the end of each class. Feedback on the quiz will be provided in the next class. The details will be announced through the Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
なし / No

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
Week 1	Introduction	Contents of the course.
Week 2	Climate science (1)	The Earth has been warmed. Greenhouse gases lead the warming. Humans are increasing atmospheric greenhouse gases.
Week 3	Climate science (2)	Global warming since the late 20th century is not natural but due to anthropogenic. Impact of climate change.
Week 4	Climate policy	International policy and Japanese policy.
Week 5	Mitigation	Economic instrument, alternative energy, energy saving, and other measures.
Week 6	Adaptation	Various measures and climate refugees.
Week 7	International Agreements.	UNFCCC and Paris Agreement.
Week 8	Energy resources	Fossil fuels, hydro, nuclear, and alternative energy.
Week 9	Water resource	Availability and demend of water in the world.
Week 10	Water resource	International waters.
Week 11	Soil	Soil as resource. Nitrogen and phosphate.
Week 12	Biodiversity (1)	Definition of biodiversity. International agreements relating to biodiversity. CITES, Ramsar, and IWC.
Week 13	Biodiversity (2)	Genetic resources and Nagoya Protocol
Week 14	Wrap up	How should we address environmental and resource issues?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students need to prepare for and review each session by using material provided through the Hoppii.
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No specific textbooks are assigned.

【References】
A copy of assigned paper will be distributed in class.

【Grading criteria】
Grades will be based on the result of the weekly quiz and (30%) and final exams (70%).

【Changes following student comments】
Be aware that the lecturer is not a native English speaker. If you do not understand what the teacher says well, simply make a question.

【Equipment student needs to prepare】
None

【Prerequisite】
None

【Selected lecturer's publications (books and special issues)】
1. Ryo Fujikura and Mikiyasu Nakayama (Editor) (2015) Resettlement Policy in Large Development Projects, Routledge, Oxford
2. Ryo Fujikura and Tomoyo Toyota (Editor) (2012) Climate Change Mitigation and International Development Cooperation, (p.264) Earthscan, London
3. Ryo Fujikura (Guest Editor) (2011) Environmental Policy in Japan: From Pollution Control to Sustainable Environmental Management, Special Issue, Environmental Policy and Governance, Vol. 21, No.5
4. Ryo Fujikura and Masato Kawanishi (Editor) (2010) Climate Change Adaptation and International Development – Making Development Cooperation More Effective, Earthscan, London

【Career background of the lecturer】
The lecturer has working experience at Japanese Environment Agency (currently Minister of the Environment) as a national officer. He also participated in Japanese official development assistance and formulation of Convention on Biodiversity Conservation. He will give lectures with the experience.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門D　基幹科目

酒井　理

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3　｜　配当年次：1〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための知識を学びます。ビジネスを理解することによって自らが生きていく社会を理解していく重要な視点を獲得します。

【到達目標】
本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点を持つこと
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解すること
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができること以上、3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
14 回の授業を通して自分が考えたビジネスのプランを作成する課題に取り組みます。大きく 3 つのパートに分かれます。①こんなサービスがあったらいいなから、ビジネスアイデアにしていくアイデア発想のパート (1-1 〜 1-4)、②ビジネスアイデアをビジネスとしてどのように競争に勝って収益をあげていくか戦略を考えるパート (2-1 〜 2-4)、③継続的にビジネスとして成立しそうか収支を考えるパート (3-1 〜 3-4)、です。
受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提としていますので、配布資料を学習することによって、ビジネスアイデアの発想の方法、経営戦略の立て方、ビジネスモデルや収益モデルの作り方が理解できるように進めます。それをベースにビジネスを学んだことのない初心者でもスムースに課題に取り組めるように配慮します。また、わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていきますし、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきますので安心してください。
課題については、授業のなかで相談の回、講評の回を設けていますので、その際にみなさんの課題の進捗をきいてアドバイスや相談を行って、講評時に優秀な課題に関するコメントをすることでフィードバックをします。
楽しみながら（わくわくしながら）ワークに取り組めるような仕掛けをしていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザイン学部においてビジネスを学ぶ意味を考えます。 キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのについて話します。 学びに先行して、まず体験からはじめる意義について説明します。
2	(1-1) キャリアデザインを考えるセッション	やりたいことはあるか、何をしたいのか、やりたいビジネスはあるか、組織に属さない生き方、やりたいことを仕事にするキャリアデザインなどをテーマにディスカッションします。
3	(1-2) ビジネスアイデアの創出	やりたいことをビジネスにすることを考えます。 課題の提示：学生生活をもっと楽しく、エキサイティングなものにするサービスを考えます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
4	(1-3) ビジネスアイデアのブラッシュアップ	課題の途中経過をみながらいくつかのアイデアを取り上げてアドバイスをおこないます。 学生がお互いに協力して自分のアイデアをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
5	(1-4) ビジネスアイデアに関するアドバイス	ビジネスアイデアの課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 提出されたビジネスアイデア課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
6	(2-1) アントレプレナーシップを考えるセッション	日本におけるスタートアップ企業、アントレプレナーシップをテーマに、これからのビジネス社会におけるキャリアデザインについて考えを深めます。 起業の実際、経営の実際を知る機会を提供します。
7	(2-2) ビジネスモデルを考える	ビジネスを展開していくうえで重要なビジネスモデルを解説して、パート 1 で考えた自分のアイデアをビジネスとして形にしていきます。 競争や市場を考慮しつつ、ビジネスを展開していく戦略について解説します。
8	(2-3) ビジネスモデルと戦略に関するブラッシュアップ	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをおこないます。 学生がお互いに協力して自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
9	(2-4) ビジネスモデルと戦略に関するアドバイス	ビジネスモデルと戦略の課題講評とアドバイス（相談）をおこないます。 相談された課題の改善点などの解説を行います。
10	(3-1) ビジネスプランの考え方を知る	ビジネスアイデアからビジネスの仕組み（ビジネスモデル）を考えて、展開する戦略を練った次のステップとして、アイデアがちゃんとビジネスとして成立するかどうかを考えていきます。 ビジネスプランをどのようにつくっていくかを解説します。
11	(3-2) ビジネスプランを作る	いくつかの課題を取り上げてアドバイスをおこないます。
12	(3-3) ビジネスプランのブラッシュアップ	学生がお互いに協力しながら自分のビジネスモデルをブラッシュアップしていきます。 グループディスカッションで学生相互で意見を交えます。
13	(3-4) ビジネスプランの講評	パート 1 のアイデア創出、パート 2 のビジネスモデルと進めてきた課題を最終的にビジネスプランにしたものの講評をおこないます。 提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
14	web 試験・まとめと解説	ここまでの総括として web 試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。 まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？ 新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？ など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指示はしません。

【参考書】
特に必要とはしませんが、授業の中で参考資料として示すものを適宜参照してもらうといいと思います。
フィリップ・コトラー他『マーケティング原理』2014、丸善出版株式会社。
(『Principles of Marketing 14th edition』)
和田充夫他『マーケティング戦略 第 4 版 (有斐閣アルマ)』2012、有斐閣。
石井淳蔵他『1 からのマーケティング（第 4 版）』2019、碩学舎。
スタンフォード大学ハッソ・プラットナー・デザイン研究所『スタンフォード流デザイン思考を実践する人の 38 の技法』2018、アイリーニマネジメントスクール。
デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済,
沼上幹『新版わかりやすいマーケテイング戦略』有斐閣，2000 年。
伊丹敬之『経営戦略の論理 3 版』日本経済新聞社，2003 年。
エーベル『事業の定義』千倉書房，1992 年。
H. ミンツバーグ『戦略計画　創造的破壊の時代』産業能率大学出版部, 1997 年。
梶井厚志『戦略的思考の技術　ゲーム理論を実践する』中公新書，2002 年。
森岡毅，今西聖貴『確率思考の戦略論』KADOKAWA,2016 年。

【成績評価の方法と基準】
①経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析できる視点が備わったか
②ビジネスがどのような仕組みで成立しているのかを理解できたか
③ビジネスを自分なりに理解して自分のアイデアをビジネスとして考えることができたか
以上 3 点について、Web 試験とビジネスプラン課題によって評価します。
web 定期試験 40%、ビジネスプラン課題 60%の割合で評価します。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】
資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppii、googleclasroom などを使用します。
クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。
実社会を随所に感じられるような授業にするつもりです。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.
In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.
[Learning Objectives]
The objective of the class is to acquire the basic knowledge necessary to understand management. Specifically, the following three goals will be pursued
(1) To understand the many frameworks related to management strategy and to acquire a perspective that enables us to analyze the various actions of a company
(2) Understanding business systems
(3) To be able to apply original ideas to business
Throughout the course of the class, students will work on an assignment to create a plan for their own business. The 14 lessons will be divided into three parts.
(1) Idea generation part
(2) Strategy building part
(3) Business plan preparation part
[Learning activities outside of classroom]
Think about how companies operate, what it means for a company to compete, and with what intentions new products are launched. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The following three points will be evaluated through a web-based examination and business plan assignment.
(1)Understanding of frameworks related to business strategy
(2)Understanding of business systems
(3)To turn your idea into a business.
The evaluation ratio is 40% for the web-based periodic exam and 60% for the business plan assignment. The total score is 100 points, and a score of 60 points or higher is required to pass the course.

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木　まり子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 6/Tue.6　｜　配当年次：1〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】
この授業では、会議、話し合いなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができる対話や議論のスキルを身につけることができます。また、話し合いのファシリテーションにとどまらず、社会的課題の解決に向けた事業や組織の支援・促進において、どのような知恵と技術が必要となるのか事例を通して理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面での授業となる。指定した教科書に従って、講義と演習を組み合わせて進む。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。リアクションペーパー等における気づきや問いかけは授業内で共有し、お互いから学べるプロセスをつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】オンラインで参加型の場が求められる背景。ファシリテーションとは。 【演習】チェックイン
2	「ともに社会をつくる関係」を育むソーシャル・ファシリテーションとは	【講義】ソーシャル・ファシリテーションについて。 【演習】 ファシリテートされた体験を振り返る
3	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」空間のデザイン：「しつらえ」を意識し、工夫する	【講義】空間のデザイン：フォーメーションン、グループサイズ 【演習】 多様な場づくりから学ぶ
4	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」オリエンテーション、チェックイン	【講義】オリエンテーション：話し合いを方向づける 【演習】 事例をもとに、オリエンテーションを考える
5	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」発問	【講義】発問：「答え」ではなく「問い」を考える 【演習】 考えを深める/広める「問いかけ」をし合う
6	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」可視化	【講義】可視化：書きながら、見ながら話し合う 何をどう可視化するのか 【演習】 議論を可視化する
7	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」意見の吟味を促す	【講義】意見の吟味：合意形成に向けての基本的な働きかけ 【演習】 グループでの合意形成を体験
8	話し合いのファシリテーション：オンライン・ファシリテーション	【講義】オンラインならではの特徴を理解したうえでのスキルとは 【演習】オンライン・ファシリテーター体験
9	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン③ ワークショップを開催する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク③ グループで考えたワークショップを実践する
12	ソーシャル・ファシリテーションに必要な働きかけ	【講義】ソーシャル・ファシリテーションに必要な「話し合いのファシリテーション」以外の働きかけとは
13	キャリア・デザインとファシリテーション：実践事例から学ぶ	【講演と質疑応答】 ソーシャル・ファシリテーターからリアルに実践事例を学ぶ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）また、授業で学んだファシリテーションのスキルと考え方を実践し、その気づきや疑問を次の授業に持ってきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法
共著：徳田太郎、鈴木まり子
北樹出版
2021 年
1600 円（消費税別）

【参考書】
「ファシリテーション〜実践から学ぶスキルとこころ」　共著鈴木まり子他
岩波書店
「深い学びを促進する：ファシリテーションを学校に！」青木将幸　ほんの森出版、2018 年
「はじめてのファシリテーション」鈴木康久他、昭和堂、2019 年
「オンライン会議の教科書：意思決定のスピードをあげるファシリテーション・スキル」朝日新聞出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】
演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。
　演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
　実際にゼミやサークル活動、就職活動などでのファシリテーションの実践から生まれた疑問にもテキストと照らし合わせながら解決策を探る時間も確保する予定です。

【学生が準備すべき機器他】
リアルタイムのオンライン事業を予定しているので、通信環境が良いことが望ましい。また、グループでの話し合いが多いため、講義以外はカメラ on、マイク on を求めるため、PC の場合もカメラ（外付けウェブカメラなど）機能が必要である。

【その他の重要事項】
◎演習を中心にした授業です。オンラインでリアルタイムに開催します。
◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】
Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.
Learning Objectives
The purpose of this class is to acquire knowledge and techniques for facilitation in meetings, discussions, and other participatory settings. Students will become to understand the definition and effects of facilitation, and acquire skills in dialogue and discussion that will enable meetings, workshops, and discussions to proceed in a meaningful way. In addition, students are expected to understand, through case studies, what kind of wisdom and skills are necessary not only in facilitating discussions, but also in supporting and promoting projects and organizations to solve social issues.
The class will be conducted face to face. The class will proceed through a combination of lectures and exercises according to the designated textbook. Assignments will be submitted and feedback will be provided through the "Learning Support System". The students will share their findings and questions in reaction papers and other materials in the class to create a process where they can learn from each other.
Learning activities outside of classroom

Please be aware of how the kinds of discussions (in club activities, seminars, etc.) and workshops you are currently involved in (fun, meaningful, boring, etc.) are conducted. Also, practice the facilitation skills and ideas you learned in class, and bring your insights and questions to the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy
The evaluation will be based on the overall evaluation of participation in the exercises, review sheets, reports, and final examinations. In the former case, students will be asked to write their opinions and impressions on the review sheet as well as their attitude, which will also be evaluated.
Participation in the exercise: 30%, review sheet: 10%, report: 20%, final exam: 40%

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計）　基幹科目

林　奈生子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3　｜　配当年次：1〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人生 100 年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道のりで重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の想像する未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大です。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのようにライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのかを考えます。

【到達目標】
本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために、①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義　②それらと「お金」の関係性　③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識　④仕事を選ぶ際の留意事項　⑤未来社会の予測 ― などについて考え学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。
＊授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。教材は各自で授業に持参してください。
＊学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】でも回答します。
＊オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報と zoom の URL・ID・パスコードを学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
＊授業での資料の閲覧、プレゼンテーションには zoom の共有画面を使用します。
＊授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 〜未来の自身を想像してみる〜	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、将来のなりたい自身の姿を考えてみる。
2	生活設計の考え方と必要性 〜自分らしく、納得できる人生を歩む〜	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
3	ライフプランとファイナンシャルプランの関係 〜人生にも計画が必要な理由〜	人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
4	ライフイベントとお金 〜人生設計図を作る〜	自身のライフプランから実際にどのくらいのお金が必要になるのかを算出する。
5	お金の使い方と価値観の関係性 〜今の自分を映す家計簿〜	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にして行動しているのか、価値観がどのようにお金の使い方に反映されるのかを知る。
6	予算の立て方とお金の基本知識 〜何もしなければお金は奔放（ほんぽう）に動く〜	予算を立てることの重要性について学ぶ。お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際の留意事項を知る。
7	貯蓄型金融商品 〜お金管理のスタートライン〜	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
8	リスクとリターン 〜損得の分かれ道〜	具体的な金融商品を使って自身で計算し考えることを通してリスクとリターンの基礎知識を学ぶ。
9	自身を守る金融知識 〜後悔しないためのポイント〜	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法、トラブルに合わないために知っておきたいことなど、自身を守るための金融知識を学ぶ。
10	仕事選びと幸福感 〜自身と仕事のマッチングはどこで見るのか〜	仕事と幸福感の関係性やどのように仕事を選べば自身の幸福感が増すのかを「組織と組織目標」の観点から考える。
11	企業活動と消費者 〜わたしたちはなぜ衝動買いをするのか〜	企業目的とわたしたちの消費の関係を消費者購買行動の観点から学ぶ。
12	研究課題「未来予測 2040」	過去、どのように私たちは未来社会を予測してきたのか。いくつかの事例を紹介した後、自身で未来予測を考える。
13	研究課題のプレゼンテーション	第 12 回の研究結果を発表し意見交換をする。
14	「未来予測 2040」と自身のライフプラン、まとめとレポート提出の説明	「未来予測 2040」のプレゼンテーションを通して自身が目指すべきライフプランとは何かを再考し本授業全体のまとめとする。また、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。なお、大学より『大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上』とのことですので、準備学習・復習各 2 時間とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】
必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価はレポート提出： 70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）： 30 %とします。
レポート提出の詳細は次の通りです。
1．レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。
2．言語：日本語
3．字数、フォント、ポイント： 400 字以上 600 字以内、フォント指定なし、ポイント 10.5
4．提出期間：第 14 回授業日の 14 時 50 分から翌週木曜日の 14 時 50 分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5．提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出。
6．留意事項
（1）レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
（2）レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
（3）なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので充分に注意してください。
（4）テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
（5）レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の本授業への率直な意見をまとめた結果が以下です。
＜講義や演習について＞
＊〝ザ・キャリアデザイン学部の講義"という感じだった。
＊本当に必要なものが何かを考えるようになった。
＊お金の知識はリスクや問題から自分を守ることにつながり大切だと感じた。
＊自分の価値観と企業目的の関係を考えたことは就職に対し新しい観点を得られた。
＊就職活動で自分の 5 年後、10 年後のキャリアを考える機会が増えたので、未来予測の課題がとても身近に感じた。
＜授業運営について＞
＊ストレスのない授業だった。
＊オンライン授業でも前のめりで受講できた。
＊他人の意見を聴くことで自分だけでは気づかないような発見があった。
本結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそうような授業内容、運営にしたいと考えています。加えて引き続き受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
zoom の共有画面を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】
＜講師について＞
修士（経営学）、博士（公共政策学）
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの実務経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture focuses on the significance of modern life design, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. It covers issues of job selection, teamwork and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.
In addition, since the Hosei university says, "In view of the university establishment standards, the preparation / review time is 4 hours or more for each lecture and practice (2 credits)", so the preparation / review time is 2 hours each.
【Learning Objectives】
In this class, the goal is to formulate your own life plan after understanding the relationship between "money," "work," and "values."
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria/policy】
70% for report submission, 30% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

BSP200MA

キャリア体験事前指導（インターン）

展開科目

松浦　民恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 3/Thu.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、企業や団体におけるキャリア体験（インターンシップ）に向けた受講生の皆さんの自主的な取り組みを支援することを通じて、キャリア体験の学習効果を高めることです。授業の内容は、インターンシップの意義や目的の理解、インターンシップ先の開拓・選定に向けた情報の共有、インターンシップに向けた事前準備から構成されます。

【到達目標】
（インターンシップ準備期間）
①インターンシップの意義や目的の理解
②インターンシップ先の開拓、選定に向けた実践的な情報の共有
③インターンシップのための事前準備
（インターンシップ中）
①インターンシップ先で好感を持って受け入れられること
②働くことを通じて、何らかの気付きを得ること（働く人の仕事に対する思い、働く上での自分の得手不得手や好き嫌い等）
③経験を振り返り、教訓にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、教員の指導のもとで、インターンシップ先を原則として自分自身で開拓する「Ｂコース」（国内）のみを募集します。インターンシップは５日以上、原則として夏休み期間中に体験して頂きます。
開拓に向けた支援（ヒントとなる情報の提供や選考に向けたアドバイス等）は惜しみませんので、この機会に是非、自分自身で未知の世界に踏み込み、新しい出会いや経験を獲得する醍醐味を味わってみてください。なお、応募人数等によっては選考する場合がありますので、予めご了承ください。
グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイング等を織り交ぜた実践的な参加型授業です。主体的、積極的な参加が必須条件だとお考え下さい。
受講の状況、ゲストのスケジュールに応じて、授業計画の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。
課題発表の回それぞれに、良かった点、改善点などをフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①授業の目的と概要、インターンシップとは ②自己紹介
第 2 回	インターンシップ先開拓経路に関する情報共有とグループワーク	①インターンサイト等に関する情報の共有と交換 ②インターンシップサイトのグループワーク発表
第 3 回	先輩の事例発表	先輩のインターンシップ開拓事例の紹介
第 4 回	自己分析ワーク	①自己分析の実践 ②インターンシップ先開拓に向けたES の書き方
第 5 回	開拓に向けたグループワーク①意見交換と資料作成	①インターンシップの目的、開拓の手段についての意見交換 ②自身の方針の決定 ③プレゼン資料の作成
第 6 回	開拓に向けたグループワーク②発表	①グループメンバーそれぞれの方針と、グループワークでの気付きや考察に関する発表 ②意見交換
第 7 回	新卒求人広告の提案グループワーク①説明とグループ分け	①グループワークの目的の共有とグループ分け ②開拓の進捗確認
第 8 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク②企業招聘	新卒求人広告コンテンツ提案に向けた、企業の方との情報交換
第 9 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク③提案資料の作成	①提案資料の作成と中間報告準備 ②開拓の進捗確認
第 10 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク④中間報告	①提案の中間プレゼンと意見交換 ②開拓に進捗確認
第 11 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク⑤提案資料の改訂	①中間プレゼンのフィードバックを踏まえた提案資料の改訂 ②最終報告の準備
第 12 回	新卒求人広告のコンテンツ提案グループワーク⑥最終報告と企業による講評	提案の最終プレゼンと企業による講評
第 13 回	最終報告の振り返りとインターンシップに向けた留意点の共有	①最終報告の振り返り ②インターンシップに向けた留意点
第 14 回	インターンシップに向けた進捗確認と所信表明	①開拓の進捗確認 ②インターンシップに向けた所信表明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターンシップの候補となる企業・団体等の情報収集や、企業・団体等へのコンタクト・やりとりが必要になります。インターンシップは、基本的には申込みだけではなく選考を伴いますので、企業・団体等に出向いて面接等を受けることになります。
加えて、授業におけるグループワークやディスカッション・発表のための準備が必要になります。特に新卒求人広告のコンテンツ提案に関するグループワークは、提案先の企業訪問や企業とのやりとり、コンテンツや資料の作成など、授業時間外でも準備が必要となります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。授業の資料は当日投影しますが、基本的には紙での配布は行いません（手元でご覧になりたい方はノートパソコンなどで見られるようにご準備をお願いいたします）。資料ファイルは必要に応じて、学習支援システムにアップします。

【参考書】
授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内での発言やリアクションペーパー、提出物の期限内提出、インターンシップ先の開拓の進め方等）、グループワークの発表（発表内容だけでなく、発表準備への関与の程度や内容を含む）により評価します。
平常点が 50 %、グループワークの発表が 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
参加型のスタイルは好評でしたので、今年度も続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン、パソコン等の情報機器。
原則として対面で実施しますが、ゲストの都合でオンライン対応が必要になる場合などについては、ご相談の上、オンラインで実施する場合があります。発表等に必要な準備については、事前の指示に従って行ってください。

【その他の重要事項】
この授業は、キャリア体験（インターンシップ）の事前指導として位置づけられ、夏休み中のキャリア体験（インターンシップ）を受講条件として行う秋学期の「キャリア体験学習」の単位取得とセットで、選択必修科目である体験型科目の履修を完了したこととなります。
この授業では、インターンシップ先を自分自身で開拓することを前提に指導を行います。必要な情報やアドバイスの提供は教員が行い、困った時にも教員が相談に乗りますが、インターンシップ先の開拓や選定、最初のコンタクトからインターンシップ終了後のフォローまで、企業・団体とのやりとりは全てご自身で行って頂きます。インターンシップ終了後には、完了確認の書類をインターンシップ先から回収・提出いただきます。
相手の企業・団体等の事情によって、想定通りに物事が進まないケース、原則通りにいかないケースもあり得ますので、予めご了承ください。
企業・団体とのやりとりは、自分だけの問題ではなく、法政大学の学生としての信用・評価に影響することに留意してください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【キャリアデザイン学部より】
本科目を履修するには 3 月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜（原則として書類審査、必要な場合は面接）に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course will support students'active preparation for their career experience (internship) and aid them to obtain better learning outcomes from the internship.
＜ Learning Objectives ＞
1.Learn the significance and purpose of internship
2.Gain practical knowledge about choosing companies to apply for internship
3.Preparation for internship
＜ Learning activities outside of classroom ＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜ Grading Criteria /Policy ＞
Grading will be decided based on in-class contribution(50%), and the group work presentation(50%).

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅰ

展開科目

土屋　弥生

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育相談をおこなう上で必要となる基本的な知識，児童生徒理解の手法を学ぶ。また，教育現場における問題，課題について理解を深め，現場での教育相談のあり方について考える。

【到達目標】
（1）教育相談をおこなう上で必要な基本的知識を習得する。
（2）教育相談をおこなう上で基盤となる児童生徒理解の手法を習得する。
（3）教育現場における問題・課題について理解し，主体的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要，到達目標，授業の進め方について確認する。
2	人間の発達と課題①：乳幼児期から児童期	乳幼児期・児童期の発達と課題について学ぶ。
3	人間の発達と課題②：青年期から成人期以降	青年期から成人期以降の発達と課題について学ぶ。
4	教育相談とは何か	教育相談の対象，位置づけ，目的について学ぶ。
5	教育相談における児童生徒理解の手法①：心理学的理解と現象学的理解	教育相談の現場で用いられる心理学的手法・現象学的手法について学ぶ。
6	教育相談における児童生徒理解の手法②：人間学的理解	教育相談の現場で用いられる人間学的理解の方法について学ぶ。
7	教育相談における児童生徒とのコミュニケーション	教育相談の現場でのコミュニケーションについて、心理学的立場・現象学的立場について学ぶ。
8	教育現場の諸問題と教育相談①：発達障害の理解	教育相談の臨床で必要となる発達障害についての基礎的知識を身に着ける。
9	教育現場の諸問題と教育相談②：発達障害の児童生徒の現状	教育現場における発達障害の児童生徒の現状を理解する。
10	教育現場の諸問題と教育相談③：不登校の児童生徒の現状	教育現場における不登校の児童生徒の現状を理解する。
11	教育現場の諸問題と教育相談④：メンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状	教育現場におけるメンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状を理解する。
12	教育現場の諸問題と教育相談⑤：いじめ問題	教育現場におけるいじめ問題について理解する。
13	教育相談における連携の重要性：児童虐待，家庭の諸問題，保護者との連携	家庭の諸問題、児童虐待などについて学び、教育相談において重要となる保護者との連携について考える。
14	まとめ・振り返り：教育相談のあり方について	13 回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（2 時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2 時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】
土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023 年、八千代出版

【参考書】
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with the basic knowledge and methods of understanding students that are necessary for educational consultation.
The aim of this course is understanding of problems and issues in the field of education and to think about practical educational consultation.
【Learning Objectives】By the end of the cource,students should be able to the followings:
-A,To acquire the basic knowledge necessary for providing educational consultation.
-B,To acquire the methods of understanding students which are the basis of educational consultation.
-C,Understand and think independently about problems and issues in the educational field.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

土屋　弥生

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実際に現場で教育相談をおこなうことを想定して，実践的な内容を学ぶ。児童生徒，保護者との教育相談において留意するべきことを習得し，教育相談のケーススタディを通して具体的な実践について理解する。

【到達目標】
（1）児童生徒理解に基づく教育相談について主体的に考え，実践に役立つ態度を身につける。
（2）保護者との教育相談について主体的に考え，実践に役立つ態度を身につける。
（3）ケーススタディを通して教育相談の実践について具体的にイメージし，理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要，到達目標，授業の進め方について確認する。
2	教育相談におけるアセスメントと倫理	教育相談におけるアセスメント，プライバシーの保護，守秘義務について学ぶ。
3	児童生徒理解に基づく教育相談①：児童生徒を「見る」（観察）	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒を「見る」ことについて学ぶ。
4	児童生徒理解に基づく教育相談②：児童生徒との対話	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒との対話について学ぶ。
5	保護者の理解：保護者とはどのような存在か	教育相談の基盤をなす保護者理解について学ぶ。
6	保護者との教育相談：児童生徒の成長のための協働を目指す	教育相談において重要な保護者との協働について学ぶ。
7	学校教育現場における諸問題・課題と教育相談	学校教育現場における教育相談の重要性について学ぶ。
8	特別支援教育の現状：通級指導と教育相談	特別支援教育の現状について、おもに通級指導学級と教育相談の関係について学ぶ。
9	現象学的児童生徒理解と教育相談	教育相談の実践において重要な現象学的児童生徒理解について学ぶ。
10	教育相談のケーススタディ①：不登校の児童生徒の理解と対応	不登校の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
11	教育相談のケーススタディ②：発達障害の児童生徒の理解と対応	発達障害の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
12	教育相談のケーススタディ③：緘黙傾向の児童生徒の理解と対応	緘黙傾向の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
13	教育相談のケーススタディ④：いじめについての教育相談	いじめに関する教育相談の実践について事例から学ぶ。
14	まとめ・振り返り：教育相談の実践について	13 回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習（2 時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2 時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】
土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023 年、八千代出版

【参考書】
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with practical contents assuming that they actually conduct educational consultation in the field. The aim of this course is o learn what to keep in mind in educational consultation with students and parents, and to understand specific practices through case studies of educational consultation.
【Learning Objectives】By the end of the cource,students should be able to the followings:
-A,To think independently about educational consultation based on understanding children and to acquire an attitude that is useful in practice.
-B,To think independently about educational consultation with parents and acquire an attitude that is useful in practice.
-C,Through case studies, to deepen understanding of the practice of educational consultation by imagining it concretely.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ（ケーススタディ）

展開科目

宮脇　優子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 3/Fri.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景・ニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】
・キャリアカウンセリングの基礎的事項について理解できる
・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
①現代の産業組織の様相や働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できる
②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義を中心として適宜グループワークをおりまぜて進め、ケーススタディ（事例検討）ではケースの見立てのワーク、グループでの意見交換、グループ発表を行います。
・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の初めに前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ全体共有します。また、質問に対するフィードバックも行います。
・第 10 回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、希望者はアセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	働く人を取り巻く環境変化とキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化の経緯を知り、なぜキャリア支援が必要とされているのか、支援者であるキャリアカウンセラーの果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）・要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な進め方（プロセス）、実践方法を学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ①	キャリアカウンセリングのケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ②	C.R. ロジャーズの理論を学び、若者への就職支援のケースを検討する。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第 9 回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状とキャリア支援のあり方について学ぶ。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義・心理検査の効果的な活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、それらへの理解を深める。
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。
第 12 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑦	ストレス、ストレス・コーピングを学び、職場不適応のケース（管理職編）を検討する。
第 13 回	キャリアカウンセリングのケーススタデイ⑧	職場におけるメンタルヘルス問題への対応、組織開発とキャリアカウンセリングについてケースを通して学ぶ。
第 14 回	まとめと振り返り	これまでの授業の振り返り及び総括のフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義に該当するテキスト部分の予習・講義の復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「働く人へのキャリア支援－働く人の悩みに応える２７のヒント」
宮脇優子編著　金剛出版　2015

【参考書】
「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス－基礎知識と実践」宮脇優子・廣　尚典著　金子書房　2021

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習状況及び参加度）５０％
期末レポート課題　５０％

【学生の意見等からの気づき】
リアルの双方向コミュニケーション等、対面授業の利点を活かし、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

【その他の重要事項】
担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての２０年の経験で支援してきた人は 5,000 人を超える。
これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.
The first phase is to understand the basics of career counseling.
The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field.
Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases.
By the end of the course, students should be able to do followings:
－ Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.
－ Through case studies of career counseling,
① Understand aspects of modern industrial organizations , especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.
② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.
Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋　弥生

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 1 回「ガイダンス」
事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」
事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」
事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」
事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」
事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「非行に関する相談」
事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」
事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「不登校に関する相談」
事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
土屋弥生『教師と保護者のための子ども理解の現象学』（八千代出版）
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とする。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
【Learning Objectives】The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋　弥生

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校における教育相談の意義と理論
・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】
教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこないます。小テストや課題等の提出は「学習支援システム」を通じておこなう予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った小テスト、課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 11 回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 13 回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第 14 回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・第 1 回「ガイダンス」
事前学習（2 時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。
事後学習（2 時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。
・第 2 回「幼児期、児童期の発達」
事前学習（2 時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 3 回「青年期の発達」
事前学習（2 時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 4 回「成人期の発達」
事前学習（2 時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。
・第 5 回「カウンセリングの基礎」
事前学習（2 時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。
・第 6 回「カウンセリングの技法」
事前学習（2 時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。
・第 7 回「教育相談の進め方」
事前学習（2 時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。
事後学習（2 時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。
・第 8 回「非行に関する相談」
事前学習（2 時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 9 回「いじめに関する相談」
事前学習（2 時間）いじめの現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 10 回「不登校に関する相談」
事前学習（2 時間）不登校の現状について、文部科学省の HP 等で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 11 回「発達障害に関する相談」
事前学習（2 時間）発達障害について、厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 12 回「ひきこもりに関する相談」
事前学習（2 時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 13 回「虐待に関する相談」
事前学習（2 時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。
・第 14 回「外部機関との連携」
事前学習（2 時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。
事後学習（2 時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
土屋弥生『教師と保護者のための子ども理解の現象学』（八千代出版）
文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html
内閣府「子供・若者白書」https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html

【成績評価の方法と基準】
小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とする。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートにおける意見・要望を踏まえ、授業で使用するプリントについて、学生の皆さんの学習がより進めやすいように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定ですので、各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.
【Learning Objectives】The goals of this course are to acquire the basic knowledge necessary to appropriately understand and support individual psychological characteristics and educational issues of infants, children, and students while responding to their developmental situations.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise（two-credits）
【Grading Criteria /Policies】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

教育心理学

展開科目

輕部　雄輝

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，子どもの健全な成長と発達，および人格形成を援助する教育場面に関わる心理学的理論と方法について学ぶ。具体的には，下記に関するトピックについて扱う。
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行うが、適宜グループディスカッションを取り入れる。各回授業内で出席確認を行うとともに、授業の最後に簡単な課題を提示する。当該課題は google form 等を用いて、基本的に教場で回答することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容、到達目標、授業形式などを紹介する。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育場面における発達を理解することの意義を取り上げ、理解する。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児期から青年期における対人関係の発達と課題について理解する。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を中心として、乳幼児期から青年期における認知発達を理解する。
第 5 回	アイデンティティ	乳幼児期から青年期の各時期における発達課題と，アイデンティティとの関連について紹介する。
第 6 回	学習の理論	幼児、児童及び生徒の学習の過程を扱う。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する。
第 7 回	学習の指導	学習指導・生徒指導のあり方を理解する。
第 8 回	動機づけ	主体的学習を支える動機づけを紹介し、やる気のメカニズムについて理解する。
第 9 回	学習の評価	学習評価・教育評価のあり方を理解する。
第 10 回	記憶の種類	記憶の構造や種類を説明し、認知の特徴と関連づけて理解する。
第 11 回	性格の理解	パーソナリティ研究の観点から、幼児、児童及び生徒の特徴を理解する。
第 12 回	性格の様々な測定方法	性格テストを体験する。心理学的な測定として、質問紙法、作業検査法、投影法を紹介する。
第 13 回	発達障害の理解	発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についてその特徴を紹介する。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達を踏まえた学習支援や生活指導についての基礎的な考え方を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容に関するレポート及び演習問題等の課題が課されることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員が適宜指定する。

【参考書】
櫻井茂男（監修）黒田祐二（編著）　2012　『実践につながる教育心理学』　北樹出版
櫻井茂男（編）　2017　『改訂版たのしく学べる最新教育学―教職に関わるすべての人に―心理学』　図書文化
吉川成司・関田和彦・鈎治雄（編著）　2010　『はじめて学ぶ教育心理学』　ミネルヴァ書房
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %）、授業への積極的参加（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのグループディスカッションや体験学習等を取り入れ，受講生間の意見交換や実践的な疑似演習の機会を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを利用する。
講義では、教員はパワーポイントを用いて説明する。
授業の最後に提示する課題については、web 媒体を通じての回答を求めるため、PC 等の電子端末を持参してください。

【その他の重要事項】
担当者は，適応指導教室でのスクールカウンセラーの実務経歴を有する。関連して，本授業では理論のみならず，可能な限り具体的な実践場面への応用についても受講生とともに検討する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.
The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内　明子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PC を利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PC を利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppi で毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第 2 回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第 3 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第 4 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (2)	電子展示会ほか
第 5 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第 6 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (2)	歴史的音源、WARP ほか
第 7 回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第 8 回	海外のデジタルアーカイブ	Europeana ほか
第 9 回	OPAC の比較	大学図書館と公共図書館
第 10 回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第 11 回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第 12 回	情報ユニバーサルデザイン (1)	Web アクセシビリティ
第 13 回	情報ユニバーサルデザイン (2)	カラーユニバーサルデザイン
第 14 回	情報ユニバーサルデザイン (3)	マルチメディア DAISY 図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppi で、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題 70 %（1 回 5 点 ×14 回），学期末レポート 30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC 教室で実施します。オンライン授業の回は PC を使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting. Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly
assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70 %
2) Term-end report:30%
Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
· Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
· Ability to explain information technology assuming users with special needs.
· Ability to operate information devices in order to create reports.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

竹之内　明子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：火 5/Tue.5　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では、貴重な情報資源を長期間保存し多くの人がインターネットを通じて利用できるようにしたデジタルアーカイブをはじめとして、図書館が機能的に情報提供サービスを行うための仕組みについて学習します。現在、インターネットを通じて様々な情報資源が活用できるようになっています。司書はその利用法を熟知していなくてはなりません。授業では、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業内では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PC を利用して調べたことをまとめる演習を行います。

【到達目標】
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
1) 図書館に関わる各種の情報技術とその背景にある思想を理解する
2) 図書館業務に関わる情報検索、情報発信、情報管理の技術を身につける
3) 情報技術のこれまでの歴史や思想をふまえて、今後の図書館や図書館員のあるべき姿について論じることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ネットワーク情報資源の種類や成り立ちなどを概観した後、コンピュータを利用して、OPAC、データベース、デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源を実際に比較検討して理解を深めていきます。授業では司書としての情報リテラシーの涵養、すなわち、自ら調べまとめる力の育成を重視して、PC を利用して調べたことを小レポートにまとめる形式で進めます。Hoppi で毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国立国会図書館「レファレンス協同データベース」（レファ協）の解説と事例のまとめ
第 2 回	検索検定	情報科学技術協会（INFOSTA）検索技術者検定の過去問に見る情報技術の論点
第 3 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (1)	絵本ギャラリーの解説と事例のまとめ
第 4 回	国際子ども図書館デジタルアーカイブ (2)	電子展示会ほか
第 5 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (1)	国立国会図書館デジタルコレクション
第 6 回	国立国会図書館デジタルアーカイブ (2)	歴史的音源、WARP ほか
第 7 回	公共図書館のデジタルアーカイブ	都道府県立・市町村立図書館が提供する地域資料のデジタルアーカイブ
第 8 回	海外のデジタルアーカイブ	Europeana ほか
第 9 回	OPAC の比較	大学図書館と公共図書館
第 10 回	情報検索の基礎知識	論理演算と検索の評価指標
第 11 回	オンラインデータベースの種類と概要	地域資料の組織化 絵本の組織化 学校図書館における組織化
第 12 回	情報ユニバーサルデザイン (1)	Web アクセシビリティ
第 13 回	情報ユニバーサルデザイン (2)	カラーユニバーサルデザイン
第 14 回	情報ユニバーサルデザイン (3)	マルチメディア DAISY 図書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppi で、毎週、教材と課題をアップロードするので、期日までに取り組んで提出してください。
本授業のための予習・復習の時間は各回 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価の方法：毎回のまとめ課題 70 %（1 回 5 点 ×14 回），学期末レポート 30%
評価の基準：
1) デジタルアーカイブなどのネットワーク情報資源の特徴を説明できるか
2) 特別な配慮が必要な利用者を想定した情報技術について説明できるか
3) レポート作成に必要な情報機器の操作スキルが身についているか

【学生の意見等からの気づき】
調査とまとめの作業を通じて知識形成を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
PC 教室で実施します。オンライン授業の回は PC を使用できる環境で取り組んでください。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当します。
中央大学図書館，東京大学駒場図書館，東海大学付属図書館での勤務経験から，図書館において必要とされる情報技術の知見を教授します。
本科目は対面授業を基本としながら、オンライン授業も取り入れるハイブリッド形式で実施予定です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will learn about the mechanisms for the functional provision of information services by libraries, such as digital archives, which preserve valuable information resources for a long period of time and make them available to many people through the Internet.
【Learning Objectives】
In this course, students are expected to use computers to actually compare and examine network information resources such as OPACs, databases, and digital archives to deepen their understanding.
At the end of the course,students expected to acquire the information literacy as a librarian.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to spend
at least two hours for each class meeting.Everyweek on the Hoppi,students are required to complete weekly
assignments.
【Grading Criteria】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Weekly short reports:70 %
2) Term-end report:30%
Grades will be decided based on the contents of weekly assignments.
3)Evaluation criteria
· Ability to explain the characteristics of network information resources such as digital archives.
· Ability to explain information technology assuming users with special needs.
· Ability to operate information devices in order to create reports.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ　展開科目

松本　真尚

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**火 5/Tue.5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナーシップをもった人材 (大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など) の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ (課題) を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。
※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。
※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。
　[過去授業にご参加頂いた参加企業]
■ 2019 年度 (前期/後期)
・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 Smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールス株式会社、株式会社空色
■ 2020 年度 (前期/後期)
・株式会社コーセー、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ
■ 2021 年度 (前期/後期)
・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 Stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)
■ 2022 年度 (前期/後期)
・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】
①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット (アントレプレナーシップ) を理解し、体験する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)
授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。
テーマ (課題) を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー (予定)
第 3 回	講義 (テーマ１)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ (課題) の提供１
第 4 回	グループワーク１− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 5 回	グループワーク１− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り (テーマ１)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイディアを発表する (プレゼンテーション)
第 7 回	講義 (テーマ２)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ (課題) の提供２
第 8 回	グループワーク２− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク２− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り (テーマ２)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイディアを発表する (プレゼンテーション)
第 11 回	講義 (テーマ３)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ (課題) の提供３
第 12 回	グループワーク３− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク３− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り (テーマ３)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイディアを発表する (プレゼンテーション) アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。
※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】
１：自分用 PC を持っていること
〜スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
２：自宅等で WiFi 環境があること
〜動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
３： Google アカウントを作ること
〜授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。
※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.
*This class will be run completely online using ZOOM, etc.
*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.
[Participating companies that have attended classes in the past]
■ FY2019 (1st/ 2nd semester)
Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.
■ FY2020 (1st/ 2nd semester)
KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.
■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuhodo Group).
■ FY2022 (1st/ 2nd semester)
Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPEN8 Inc. , Hakuhodo/Hakuhodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.
【Learning Objectives】
(i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
(ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
(iii) Be able to think and express their own views during group work.
(iv) Be able to present their own plans.
【Learning activities outside of classroom】
Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.
Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.
For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.
【Grading Criteria /Policy】
(i) Attendance and participation in discussions 60%
(ii) Mini-report 20%
(iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ　展開科目

松本　真尚

単位数：**2 単位**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
曜日・時限：**火 5/Tue.5**　｜　配当年次：**2〜4 年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではアントレプレナーシップをもった人材 (大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など) の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ (課題) を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。
※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。
※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。
　[過去授業にご参加頂いた参加企業]
■ 2019 年度 (前期/後期)
・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールス株式会社、株式会社空色
■ 2020 年度 (前期/後期)
・株式会社コーセー、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ
■ 2021 年度 (前期/後期)
・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)
■ 2022 年度 (前期/後期)
・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】
①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット (アントレプレナーシップ) を理解し、体験する。
②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)
授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。
テーマ (課題) を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。
講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー (予定)
第 3 回	講義 (テーマ１)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ (課題) の提供１
第 4 回	グループワーク１− １	グループでのディスカッションで個人のアイディアを共有する
第 5 回	グループワーク１− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディアをブラッシュアップする
第 6 回	発表・振り返り (テーマ１)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイディアを発表する (プレゼンテーション)
第 7 回	講義 (テーマ２)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ (課題) の提供２
第 8 回	グループワーク２− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク２− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り (テーマ２)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイディアを発表する (プレゼンテーション)
第 11 回	講義 (テーマ３)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ (課題) の提供３
第 12 回	グループワーク３− １	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク３− ２	グループでのディスカッションで個人のアイディア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り (テーマ３)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイディアを発表する (プレゼンテーション) アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。
※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】
① 出席と議論への参加状況 60 %
② ミニレポート 20 %
③ ビジネスプラン（発表・資料） 20 %

【学生の意見等からの気づき】
授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】
【履修の条件】
１：自分用 PC を持っていること
〜スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
２：自宅等で WiFi 環境があること
〜動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
３： Google アカウントを作ること
〜授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】
履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。
※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】
This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.
*This class will be run completely online using ZOOM, etc.
*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.
[Participating companies that have attended classes in the past]
■ FY2019 (1st/ 2nd semester)
Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.
■ FY2020 (1st/ 2nd semester)
KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.
■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuhodo Group).
■ FY2022 (1st/ 2nd semester)
Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPEN8 Inc. , Hakuhodo/Hakuhodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.
【Learning Objectives】
(i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
(ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
(iii) Be able to think and express their own views during group work.
(iv) Be able to present their own plans.
【Learning activities outside of classroom】
Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.
Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.
For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.
【Grading Criteria /Policy】
(i) Attendance and participation in discussions 60%
(ii) Mini-report 20%
(iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並　利博

単位数：2 **単位**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
曜日・時限：**水** 4/Wed.4　｜　配当年次：**2〜4 年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバリゼーションやスーパー資本主義をますます加速し、GAFA などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
・地域や社会における課題の発見方法を身につける
・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行っていきます。ただし、新型コロナの影響によって指針に変更があった場合はそれに従います。
・なお第 1 回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっていますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。
・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの課題レポート提出機能を使って行います。そのため授業で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことになりますのでご留意ください。具体的には授業内で提示した課題についてコメントを記入してもらう（授業終了後 30 分まで）かたちを考えています。
・また、学習支援システムについては、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバリゼーション、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第 2 回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第 3 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）
第 4 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第 5 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第 6 回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第 7 回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第 8 回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3 つの成功事例と 2 つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化 5 段階モデルとエクイティ文化の関係
第 9 回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第 10 回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第 11 回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第 12 回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第 13 回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第 14 回	新しい動き： AI/IoT や Society5.0、スマートシティ、web3・メタバースなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の学習時間は準備・復習を含め、各回 2 時間を標準とします。
・なお、第 3 回から第 6 回は『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第 8 回から第 10 回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト（教科書）】

※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。

・『社会変革する地域市民―スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者： D. ヘントン, K. ウォレシュ, J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規　2005 年 1 月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規　2014 年 8 月

【参考書】

・『サステイナブル・コミュニティ―持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版　1995 年
・『エンジェル・ネットワーク―ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社　1996 年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口 典夫、ダイヤモンド社　2007 年
・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社　2006 年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシュ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社　2002 年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008 年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS ブリタニカ 1986 年

そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。
※平常点（授業での学習状況）は出席点で評価します。出席をカウントするため、授業内で課題レポート提出機能を使ってコメントを記入してもらいますので、PC 等の準備をお願いします。
※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が 60 点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。（最終レポートの提出は、同じく課題レポート提出機能を使って行います）

【学生の意見等からの気づき】
最終レポートの提出は、学習支援システムから課題レポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」）のみです。形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえ、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
課題レポート提出機能を使って授業の出席をカウントするため、授業内で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等で PC を使用します。

【その他の重要事項】
シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話しします。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline (in English)】
【Course outline】 In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.
【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.
· To understand the citizenship
· To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
· To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world
【Learning activities outside of classroom】This course requires 2-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.
【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40 % learning attitude and 60 % term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

ECN200MA

産業論

展開科目

青木　成樹

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：金 2/Fri.2　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働力が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働力が新たな価値を生む出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】
本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。
①我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
②我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 3 回（第 1 回〜第 3 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 4 回〜第 6 回）では、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 4 回（第 7 回〜第 10 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 3 回（第 11 回〜第 13 回）は、イノベーションについて学ぶ。そして最後の 14 回は全体のまとめとする。
なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設け Q&A に充てる (対面型の場合)、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形 (オンラインの場合) とし、学生との対話に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。 なお、第 1 回の授業はオンラインで実施する。
2	少子高齢化、情報化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）と情報化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	グローバル化	我が国の産業に影響を与えるもう一つの大きな要素であるグローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表 (Input-Output Tables) について学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」の概要を学ぶとともに、都道府県表を活用し、地域の比較優位産業の抽出方法について学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
8	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	イノベーションの概要	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型について学ぶ。
12	イノベーションの担い手	イノベーションの担い手として、特徴ある中小企業群やベンチャー企業を取り上げ、具体的な事例を学ぶ。
13	身近にあるイノベーション	我々の身の回りにあるイノベーションの代表的な事例として、AED を取り上げ、多様な観点からその特徴を学ぶ。
14	まとめ	第 1 回から 13 回の各回における皆さんからの意見等も踏まえ、各テーマのポイントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメ（PPT) を配布致します。

【参考書】
以下、順不同 (五十音順)
①入山章栄『世界標準の経営理論』　ダイヤモンド社（2019 年）
②岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
③大竹文雄『行動経済学の使い方』岩波新書（2019 年）
④経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
⑤経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
⑥小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社 (2010 年)
⑦小室直樹『危機の構造』　ダイヤモンド社（1982 年）
⑧ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
⑨冨山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014 年）

⑩中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016 年）
⑪中村良平　『まちづくり構造改革』日本加除出版（2014 年）
⑫中室・津川『「原因と結果」の経済学』　ダイヤモンド社（2017 年）
⑬西山圭太『DX の思考法』文芸春秋（2021 年）
⑭日本経済新聞社編『日経業界地図』（毎年８月発刊）
⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017 年）
⑯牧兼充　『イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学』　東洋経済新報社　（2022 年）
⑰宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018 年）
⑱三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012 年）
⑲宮沢健一、編『産業連関分析入門』　日本経済新聞社（1979 年）
⑳吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点　50 %、定期試験　50 %

【学生の意見等からの気づき】
今年で本講義は 12 年目である。昨年度の授業改善アンケート（有効回答 18 人）において「この授業を履修してよかったと思いますか」に対する評価 (5 段階）の平均は 4.22 であり、学部の全科目の平均（4.29）を若干下回っている。授業の工夫についての評価は 4.39 で学部平均（4.21）を上回る一方、授業内容の理解（3.94）は学部平均（4.29）を下回る。
また、授業の最終回に実施した「自分にとって最も役に立った授業テーマ」については（有効回答 42 人）、意見はかなり分散した。
このようなことから、1 回 1 回の授業（テーマ）をより分かりやすく説明し、授業の最後には質疑応答の機会を設けるとともに、第 14 回の授業テーマを「まとめ」とし、全体の内容を俯瞰できる工夫をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方の産業政策の調査に係ってきております。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思います。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。
①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えています。
②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline (in English)】
＜ Course　outline ＞
I think there are two main meanings for you to graduate from university and work. One is to supply one's own labor force, get wages and salaries as compensation, and use it as a means of living. The other is that one's labor creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful to individuals, businesses, and society.
In this class, you will learn about Japanese industry, which is the foundation where your labor force creates new value, from various perspectives such as (1) the overall picture and changes in the industrial structure, (2) the characteristics and changes of major industries, and (3) the characteristics of major companies.
＜ Learning Objectives ＞
Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.
① Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure
② Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure
③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.
④ Understand the interdependence between manufacturing (manufacturing) and services in Japanese industry.
⑤ Understand the meaning and significance of innovation
＜ Learning activities outside of classroom ＞
In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy.In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
＜ Grading Criteria/Policy ＞
Normal point 50%,Term-end examination 50%

MAN200MA

流通・サービスビジネス論　展開科目

村田　茂

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：木 5/Thu.5　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX 化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、滅びゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けた産業の中で、メディア産業と流通産業を取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】
本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予見する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。
①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
インターネットの普及について、その発展とそれにともなう社会（ビジネス）への影響を学びます。なぜ、GAFAM が巨大企業に成長し得たのか？　あらゆるビジネスに影響を与えている構造的な変化を理解し、メディアと流通の 2 つの産業の事例をもとに学んでいきます。出版業界、新聞業界、放送業界、e コマース業界、インターネット広告業界を解説します。具体的なビジネスモデルや重要な用語解説などを理解し、ビジネスマインド、リテラシーの向上を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力　②本質を見抜く力　③問題意識を持つ力　④未来を予想する力
第 2 回	流通・サービスビジネス業界研究①	第 1 回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第 3 回	流通・サービスビジネス業界研究②	第 2 回目は、新聞業界。
第 4 回	流通・サービスビジネス業界研究③	第 3 回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）。
第 5 回	web1.0、web2.0、web3.0 の理解	流通・サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりから NFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。
第 6 回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	SNS の普及による個人発信の時代が到来。UGC サイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第 7 回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？　ゲストスピーカーとともに、流通・サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第 8 回	流通・サービスビジネス業界研究④	第 4 回目は、e コマース業界。
第 9 回	流通・サービスビジネス業界研究⑤	第 5 回目は、インターネット広告業界。
第 10 回	デジタルマーケティング	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第 11 回	流通・サービスビジネス研究のまとめ（ワークショップの前に）	ワークショップの前に、これまでの学習について総括します。
第 12 回	ワークショップ（小課題）	それぞれの課題をシェアしながら相互にアドバイスしてブラッシュアップするミーティングを開催します。
第 13 回	研究成果のプレゼンテーションと講評	研究の成果を全体で共有し、講評します。
第 14 回	試験・課題レポートとまとめ	試験と課題レポートを実施します。授業全体のまとめを行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。流通・サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分はなぜ、このアプリを活用しているのか？　このビジネスはどのように成り立っているのか？　を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】
毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、以下の 3 点を評価します。
①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができているか
授業でおこなう小課題　10%
試験　40%
課題　50%
成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、ＰＣなどインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】
＜実務経験のある教員による授業＞
出版・放送メディアや各種コンテンツ制作などのエンタテインメントビジネスと、e コマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.
【Learning Objectives】
The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
【Learning activities outside of classroom】
Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the following three points.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
Small assignments in class 10%
Test 40%
Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

今井　道子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作れる人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

【到達目標】
労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じて多様なジョブ、これから注目される業界について理解します。④演習を通じて実社会で生きていくためのさまざまなスキルトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験 (オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可) を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、第 2 回目以降の授業内容、成績評価方法についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概要を紹介します。
第 2 回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。演習を通じて興味がある企業のエンプロイアビリティについて考えます。
第 3 回	自己理解 1 (特性因子理論より)	演習を通じて RIASEC の理論 (ホランド) を体感し、自己理解・自己開示への啓発的体験を得ます。
第 4 回	自己理解 2 (発達理論より)	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが重要かを理解し、演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験を得ます。
第 5 回	自己理解 3 (トランジションへの対応として)	4S 理論 (シュロスバーグ) を背景に、具体的事例を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解と自己肯定感を高める啓発的体験を得ます。
第 6 回	職業理解 1 (採用)	採用に際して重要視されていることを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通してインターン先企業の決め方について考えます。
第 7 回	職業理解 2 (職務)	ジョブ (職務) の概念を会得し、ジョブ (職務) を中心として人事制度ができあがっていることを把握します。また、企業で導入が進むジョブ型人事制度での働き方について考えます。
第 8 回	職業理解 3 (職場コミュニケーション)	職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解します。また、多様なジョブについて学び、演習を通してジョブごとの課題解決手法について考えます。
第 9 回	職業理解 4 (起業)	起業を志す人の特性について思索します。また、「起業とキャリア」に関する経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通して、興味がある起業分野のビジネスモデルについて考えます。
第 10 回	成長できる仕事選び 1 (やりたいジョブ)	自分のやりたいジョブについて思索し、演習を通してジョブごとの課題解決手法について考えます。
第 11 回	成長できる仕事選び 2 (業界理解)	業界の構造を知り、各業界の特徴、これから注目される業界について考えます。演習を通して、興味がある業界について理解を深めます。
第 12 回	成長できる仕事選び 3 (就活のプロセス)	就活のプロセスについて理解し、相手に伝わる ES(エントリーシート) の文章の書き方、直前対策について学びます。
第 13 回	成長できる仕事選び 4 (面接の意義)	自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。
第 14 回	振り返り	13 回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティが高まったか、興味をもつ業界、ジョブについて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ときどき簡単なレポートを出します。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『キャリア開発論（改訂版）』（武石恵美子著:中央経済社、2023 年 4 月発行予定）

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験 (25)、レポート (25)、リアクションペーパーのコメント (50) を基準とします。質問・発表などによる積極的な授業参加を重視します。期末試験はオープンブック方式 (電子機器以外は持ち込み可) で、到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
「就活で、グループディスカッションの経験が少ないことが不安です」というフィードバックを多数いただきましたので、グループ全体で議論をまとめる力、それを元に時間内でプレゼンを行う力が自然に身に付くように授業内で訓練します。ディスカッション力は、就活のみならず、就職後、日々の仕事の中で生きてきます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料等を配布します。

【その他の重要事項】
ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたってビジネス社会を取材し見つめてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様な仕事に携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえてエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める方法について考察し、今後のキャリアについて思索する機会をつくります。その上で、いま起きている変化に対応し、今後実社会で生きていくためのさまざまな力を身に付けます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to create opportunities to enhance your own employability and entrepreneurship by considering "what makes the difference between those who increase employment opportunities and those who do not" and "who can create business opportunities."
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Creating an opportunity to understand methods to deepen your understanding of the labour market and the times.
2.Promoting and checking your self-understanding, and increasing your awareness of social role and employability.
3.Providing time for contemplation on what it means to be a 'people expert', which is one of the greatest strengths of being a career design graduate.
Occasionally a brief report will be given. Your study time will be more than 4 hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination(25%), Reports(25%), Comments on reaction papers(50%),and in-class contribution. The final examination will be open-book (students may bring in all but electronic equipment) and will include questions to see whether the achievement objectives have been met.

SOC200MA

ＮＰＯ論

展開科目

山口　佳子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 2/Thu.2　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ＮＰＯは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて 大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのＮＰＯが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに問題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、ＮＰＯ活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】
ＮＰＯ／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、ＮＰＯの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に一部変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。今期より対面での講義に戻りますが、引き続き授業支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ＮＰＯの基礎知識	ＮＰＯの意味や意義、ＮＰＯとＮＧＯの違い、非営利の意味などについて理解する。
第 3 回	ＮＰＯの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるＮＰＯの社会的役割について理解する。
第 4 回	ＮＰＯの具体的事例①	ＮＰＯの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 5 回	ＮＰＯの具体的事例②	実際にＮＰＯで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、ＮＰＯの社会的役割を考える。
第 6 回	ＮＰＯの組織と運営について	ＮＰＯの組織運営について学び、その課題について理解する。
第 7 回	ＮＰＯと行政との協働	ＮＰＯと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	市民活動やＮＰＯの現在	市民活動やＮＰＯ、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第 9 回	ＮＰＯと雇用	ＮＰＯの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第 10 回	中間振り返り	前半の知識の整理、質疑応答、ディスカッションなど。
第 11 回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第 12 回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第 13 回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第 14 回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
参考文献は、授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験（５０％）と、小レポート（１０％）、授業への積極的貢献（２０％）、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度（２０％）によって成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
この３年間オンデマンド型での講義となってしまったため、リルタイムでゲストを呼ぶ機会が持ちにくかったのですが、久しぶりの対面での実施になりますので、ゲストを招いての講義も行いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
２００９年に特定非営利活動法人アルファルファを設立し、以降代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのＮＰＯの在り方について考えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
· Course outline ： In this course, we will examine how and how to improve management to develop NPO activities through concrete examples. · Learning Objectives ： The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them. · Learning activities outside of the classroom ： Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. · Grading Criteria /Policies ： Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports ： 10 %、 in-class contribution: 20%、Group work and presentations contribution ： 20 %

CUM200MA

ミュージアム経営論

展開科目

杉長　敬治

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、博物館の経営上の課題を解決していくためのスキルを習得することを目的に、博物館経営についての基本知識と日本の博物館の経営の現状と課題について学習します。

【到達目標】
博物館の根拠法である博物館法が制定された 1951 年、博物館が急増し始めた 1970 年代・80 年代とグローバル化が進み、社会構造が大きく変化しつつある現在とでは、博物館の経営環境は大きく変化しています。経営環境の変化に伴い、博物館に求められている役割や期待は、大きく変わってきました。受講生は、博物館の経営環境の変化と博物館に期待されている社会的役割について理解を深め、環境の変化に対応し、社会の期待に応える博物館となるために必要な博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の考え方を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
博物館経営に関する基本事項について講義し、受講生には、博物館を視察した成果を踏まえてレポートを提出してもらいます。受講生のリアクションペーパー等でのコメントは、講義内容の理解を深めるために活用します。また、受講生の質問には、授業内又は学習支援システムを活用して回答します。
新型コロナウイルス感染症により授業をオンラインで行うことになった場合には、学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス－博物館経営の基本概念と博物館の業種特性、博物館の経営資源を中心に	博物館の経営（マネジメント）の重要性が強調されるようになった背景、博物館経営の基本概念、博物館の業種特性、博物館の経営資源について学習する。
2	博物館の目的・使命（ミッション）・事業計画、評価・改善の取組について	博物館の目的・使命がどのように設定されているかについて学習する。また、目的・使命を達成する上で、事業の計画・実施・評価・改善からなる PDCA サイクルを機能させることの重要性について理解を深める。
3	経営資源から見た日本の博物館の現状	博物館の経営資源（ヒト・モノ・カネ・経営力）に着目して、我が国の博物館の現状（経営資源が乏しい館が多いこととその背景）について学習する。
4	博物館の課題と国の博物館政策の動向	日本の博物館の抱える課題と国の博物館政策の動向について学習する。
5	国立博物館の経営－現状と課題	独立行政法人制度の下で運営されている国立博物館を中心に、国立博物館の現状について学習する。外国の代表的な博物館と日本の国立博物館の経営状況を比較し、国立博物館の経営上の課題について学習する。
6	公立博物館の経営－現状と課題	指定管理者制度、地方独立行政法人制度を中心に、公立博物館の現状と課題について学習する。
7	私立博物館の経営－現状と課題	私立博物館の成立事情に触れながら、私立博物館の特徴と課題、国の支援策について学習する。
8	博物館におけるマーケティングについて	マーケティングは、博物館の経営戦略を構築する上で基本的なツールである。マーケティングの基本概念とマーケティングを活用した博物館経営について学習する。
9	博物館の広報活動－現状と課題	博物館の広報活動の現状と求められている広報戦略（ブランド戦略を含む）について学習する。
10	博物館の支援組織と他の組織との連携・協力－現状と課題	博物館の支援組織（友の会・後援会）とボランティア）について学習する。経営資源を豊かにするために必要な他の組織との連携・協力の現状と課題について学習する。
11	博物館経営におけるイノベーションについて	博物館経営には、イノベーションが求められている。博物館のイノベーションの事例を取り上げ、イノベーションが可能となる条件を探る。
12	博物館の利用者サービス施設と施設設備の諸問題について	利用者サービス施設（ミュージアムショップ、レストラン・カフェ）と施設設備に係わる諸問題（老朽化対策、バリアフリー）について学習する。
13	博物館の倫理規程・行動規範について	博物館活動において倫理上問題になった事例を取り上げ、博物館の倫理規程・行動規範の意義・内容について学習する。
14	博物館における危機管理について・授業のまとめ	博物館が直面する様々な危機と危機への対応の在り方（危機管理）について学習する。最後に、授業のまとめとして、授業と課題を通して受講生が考えたことを共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。受講生は、学習支援システムに掲載した資料や教科書の関連部分、参考書に目を通して講義を受講してください。参考書は、他の学芸員資格科目の学習にも役に立つものを選んでいます。受講生は、授業期間中博物館をできるだけ視察し、博物館を見る眼を鍛えてください。

【テキスト（教科書）】
教科書「転換期における博物館経営」（金山喜昭篇、同成社、2020 年 4 月 22 日発行、価格 2,700 円+税）を使用します。教科書で扱っていない内容は、学習支援システムに資料を掲載します。

【参考書】
①ミュージアム・マーケティング、F・コトラー、N・コトラー、第一法規、②マネジメント、P．F．ドラッカー、ダイヤモンド社、③ミュージアムが都市を再生する、上山信一、稲葉郁子、日本経済新聞社、④文部科学省の社会教育調査（https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/）、⑤博物館学・美術館学・文化遺産学基礎概念事典、フランソワ・メレス他、東京堂出版、⑥ザ・ミュージアム；世界の知と美の殿堂、O・ホプキンズ、河出書房新社、⑦その他（授業内で適宜紹介します。）

【成績評価の方法と基準】
博物館経営についての理解の度合いを判定するため、レポートにより評価します。配点は、①授業期間中に提出す課題レポート（授業時に示す課題から受講生が５題を選択して提出）が 50%、②学期末（第 14 回授業時）に提出するレポートが 50 %です。②のレポートは、ｉ受講生が博物館を調査（実地調査を含む）し、経営分析を行うもの、ii 教科書と講義内容を踏まえて日本の博物館について考察するものから選択してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容に関する質問には、授業時又は学習支援システムを使って回答します。受講生が、授業環境に問題があると感じた場合には、その都度指摘してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する諸連絡は、学習支援システムで行います。各回の授業の前後に必ず学習支援システムにアクセスしてください。

【その他の重要事項】
この科目は、学芸員資格を取得する上で必要な科目のひとつです。学芸員資格の取得は目指さないが、博物館の経営に関心のある方の受講も念頭に置きながら、授業を進行していきます。①質問やご意見は、授業への参画のための重要なツールで、授業より興味深いものにする上で重要な役割を果たします。②博物館を理解する上では、“歩く・見る・聞く”そして“考える”がセットになった行動が必要不可欠です。皆さんの博物館体験を深化させてください。講義は、博物館現場や生涯学習・文化行政での実務経験を踏まえて、博物館や国の博物館政策・文化政策の状況を伝えていきたいと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline) Students will learn basic knowledge about museum management and the current state and issues of museum management in Japan, and aim to acquire skills to solve the management issues of museums.The goal of this subject is to acquire the basic management knowledge that museums need to meet the expectations of society.
(Learning Objectives) The aim of this course is to acquire the basic knowledge necessary for museum management.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on term-end report (50%)、short reports(50%).

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ【2022 年度以降入学者用】

展開科目

島村　泰子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022 年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
2021 年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋げます。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日３限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	３つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回〜第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。
本授業は、2022 年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021 年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
Basic career skills Ⅰ
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.
【Learning Objectives】
The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice（one-credit）
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅠ【2021 年度以前入学者用】

展開科目

島村　泰子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022 年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
2021 年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業人・社会人としての基本となる力を習得します。ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーを中心に、異なる年齢の方とのコミュニケーションスキルや社会に出るまでに身につけておくとよい基本的な行動・考え方など、今からすぐに役立つ知識やスキルの習得を目指します。
基本的なスキルとして、①ビジネスコミュニケーション（話す、聴く、文章で伝える、メールの基本）、②ビジネスマナー（挨拶、敬語、礼儀）、③人間関係の築き方（報連相、多様性を受け入れる、コンセンサス）、④プレゼンテーション等（個人の発表及びチーム発表）をとりあげます。
学生の理解力を向上させるためにも、意欲をもって参加して下さい。

【到達目標】
本授業の目標です。
①職業人・社会人のコミュニケーション、マナーなどビジネススキルの基本を理解し、実践できるようになる。
②主体性を持ち、自分で考え、伝え、行動すること、チームワークの重要性を習得し、行動できる。
③インターンシップ活動、就職活動に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は、講義と実習（各自の確認、ペア・レビュー、チーム・レビュー）形式で進めます。実習やディスカッションを多く取り入れ、「わかる」だけでなく「できる」を目指します。
初対面の人とのコミュニケーションに慣れ、緊張感をもって実習に取り組めるように、演習単位にチーム編成をします。
フィードバック方法は、授業単位にリアクションペーパーや宿題を提出してもらい、よい内容やコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
演習実施では、チームでの発表や受講者間のコメントによる双方向評価を行い、受講者間での気づきや成長に繋げます。
全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日３限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 授業概要と受講上の注意 受講動機の確認	受講概要（ビジネスコミュニケーションとマナー）と目標、授業の進め方、注意事項の説明。受講動機の確認。
第 2 回	社会人と学生の違い	ビジネスコミュニケーション、ビジネスマナーが必要な理由について考えて理解を深める。
第 3 回	意思を伝える話し方	話す目的は？ 相手の立場にたって、伝わるように話すポイント、敬語について学ぶ。
第 4 回	状況にあわせたききかた	３つの「きく」。状況にあわせた使い方、聞き上手になるためのポイント、人間関係を築くききかたを学ぶ。
第 5 回	スピーチ実習	第 2 回〜第 4 回の成果として 1 分間スピーチの実施。
第 6 回	情報伝達	報・連・相とは？ 指示の受け方とメモの取り方。 情報の収集方法。事実と自分の考えを切り分けることの重要性を学ぶ。事例検討。
第 7 回	読み手に伝わる文章	わかりやすい文章の書き方について学ぶ（よくある間違いやビジネス文書とメールの書き方）。
第 8 回	挨拶と身だしなみと態度	第一印象の重要性、挨拶のしかた、敬語の使い方など基本動作とＴＰＯに合わせた身だしなみについて学ぶ。
第 9 回	面談、訪問、電話のマナー	インターンシップや就職活動を意識して、面談時、訪問時のマナー、電話でのマナーとアポイントの取り方等を学ぶ。
第 10 回	人間関係のマナー	目上の人への対応、失敗したときの対応など、人間関係を築くためのマナーを学ぶ。また、事例を通して議論を行う。
第 11 回	コンセンサスを得る	【グループワーク】テーマについて話し合い、コンセンサスを得る体験学習で、理解を深める。
第 12 回	プレゼンテーション資料作成と準備	【グループワーク】構成・話し方などポイントを理解して第 11 回で話し合った結果をプレゼンテーションするための資料作成・準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーションスキルを身につける	【グループワーク】第 12 回で作成した資料で、プレゼンテーションをおこない、プレゼンテーション力を身につける。
第 14 回	試験・まとめ	授業全体のまとめと理解度を試験で確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
授業中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①単位取得に必要な出席回数は出席してください。「出席票」での確認及びコメントを提出してもらいます。コメントの内容や習得度合 20 %
②受講態度（積極的に参加しているか・宿題の提示・発表内容等）50 %、最終回に実施する理解度テスト 30 %
授業に集中できない人や積極的に参加できない人は受講希望しないでください。授業中もマナーを注意しますので、遵守してください（授業に関係のない雑談、スマホ使用、理由のない遅刻等禁止）。
注）資料や連絡事項は、事前に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
企業のインターンシップ、人事・採用担当情報などを取り入れます。演習時間を増やし、受講者同士の相互理解も深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで実施する時には、情報機器（パソコン・ネットワーク環境）を整備してください。授業時間は演習が多いので、静かな場所で受講し、発言できる環境にしてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験のある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、IT 企業等に携わっています。それに伴い、業界の特徴や企業側に立った視点を含めて情報提供を行います。
本授業は、2022 年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021 年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。

【Outline (in English)】
Basic career skills Ⅰ
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic skills as a business person or a member of society. You can learn immediately useful knowledge and skills like basic manner and way of thinking you should get before you enter the world of work. Lesson contents are 1)Business Communication - speaking, listening, writing, and so on, 2)Business Manner, 3)Developing Personal Relationships, 4)Presentation Skills ,etc.
Students who want to take this course should take the first lesson.
【Learning Objectives】
The goal of this course are to be able to understand and practice the basic business skills of communication manner and so on, to understand the importance of teamwork and act accordingly, and to put this course to use in activities of internships and job search.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content Experiment/Practice（one-credit）
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、Short reports : 20%、in class contribution: 50%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ【2021 年度以前入学者用】

展開科目

島村　泰子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022 年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
2021 年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
２年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期〜大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日３限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業にこにおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度とレポート 40 %、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接 40%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、ＩＴ企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。
また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。
本授業は、2022 年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021 年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。
2021 年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

【Outline (in English)】
Basic career skills Ⅱ
【Course outline】
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person
【Learning Objectives】
The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content
Experiment/Practice（one-credit）
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40% 、Term-end examination: 20%

BSP200MA

職業能力ベーシックスキルⅡ【2022 年度以降入学者用】

展開科目

島村　泰子

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年
備考（履修条件等）：入学年度によって科目の認定区分が異なります。

2022 年度以降入学者 → 選択必修科目（体験型）
2021 年度以前入学者 → 展開科目（総合）

詳細は履修の手引きをご確認ください。

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、就職活動やインターンシップ活動に必要な実践的な職業能力を育むことです。【自己理解】【仕事理解】【OB・OG・社会人の講話】を通して、自分の社会人・職業人生をイメージし、インターンシップや就職活動に結びつけます。
【自己理解】では、職業興味検査や、自己の棚卸（強み・弱み）、アピールポイントを見出します。【仕事理解】では、興味がある業界や企業の実態を知り、インターンシップ活動や就職活動に役立てるための調査のポイントを学びます。【OB・OG・社会人の講話】では、就活方法や働く意義、女性の働き方など企業の実態を知り、社会人との交流を行います。
２年次から本格化するインターンシップや就職活動を「シミュレーション」として先取ることで、その経験に基づいて多様な人たちのキャリア形成を理解することも狙いです。

【到達目標】
本授業の目標です。
①業界・職種・企業の調査方法を習得できる。
②自己分析や職業興味検査を通して、自己理解を深めることができる。
③社会人の講話を通して、質問の仕方の習得と社会人の職業意識やキャリアの考え方を学ぶことができる。
④プレゼンテーション力や文章力を身につける。
⑤チームで協力する重要性や、主体的に行動できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、講義（情報提供）と実習形式で実施します。
【仕事理解】実習では、グループに分かれて、「就職希望先」を仮定し業界・企業についてキャリア・センターなどを利用し調査した結果を発表します。自分が興味がある業界や企業の理解が深まります。また聴講する学生は、他の業界理解を拡げることができます。
【自己理解】の実習は、キャリア・プランシート（自分の幼少期〜大学生活、強み・弱み）を丁寧に作成することで、自己の能力や特徴を知る機会になります。
上記の実習を元に、企業に対する「志望動機」「履歴書・自己紹介書」の作成を行い、第 13 回の模擬面談を臨場感をもって体験できます。
学生同士、学生と講師のコミュニケーションを密にするため少人数制の授業となります。
フィードバック方法は、宿題や授業中の発表や生産物に対してコメントを行います。全体発表の場では、授業内でフィードバックを行います。
実施方法は、原則「対面」で実施します。（状況に応じて月曜日３限目に Zoom で「リアルタイム型・オンライン授業 」で行います。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 受講動機の確認	自己紹介・授業内容、身につけておくとよいスキルについて理解する。 就職活動までのキャリア・デザインの流れを理解する。
第 2 回	【仕事理解】 「業界・職種・企業」の情報収集方法 各業界の内容と求められる職業能力について	業界・職種・企業情報の集め方・調べ方を理解する。文系・理系に関わらずの活躍する職場や、多様な採用経路とその後のキャリア形成についても理解する。
第 3 回	【仕事理解】 希望の「業界・職種・企業」の検討	第 2 回の講義から、希望する業界を決めてグループに分かれる。研究する業界・企業の絞込みと計画を立てる。業界の企業間競争、人員構成や雇用区分について検討する。
第 4 回	自己理解と職業興味	職業興味検査を通して、自分の興味がある職業を確認する。職業の興味から業界を拡げて考えてみる。
第 5 回	【仕事理解】 キャリアセンター活用スキル	【グループワーク】 第 3 回に検討した企業の調査を開始する。キャリアセンター訪問して、キャリアセンターの利用方法を学ぶ。 また、個別に企業の情報を調べ分析する。
第 6 回	【仕事理解】 発表準備	【グループワーク】 「業界・職種・企業」の発表資料作成、プレゼン準備を行う
第 7 回	【OB・OG・社会人の講話】①	社会人から、就職活動の方法やポイントを学ぶ。社会人への質問の仕方、対話をを通して業界を理解する。
第 8 回	「業界・職種・企業」研究の発表	役割分担を決めてプレゼンテーションを実施する。他グループの発表も参考にし、他業界に興味を拡げることや調査の視点を学ぶ。
第 9 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの作成	自己理解を深める方法を学ぶ。幼少期から現在に至るまでの出来事や転機から、自分の強みや弱みの分析、アピールポイントを探す。
第 10 回	【OB・OG・社会人の講話】②	社会人から、企業にこにおけるキャリアデザインの考え方を学び、自己の棚卸に活用する。
第 11 回	【自己理解】 キャリア・プランシートの完成と履歴書作成	第 9 回で作成したキャリア・プランシートを元に模擬面談の準備を行う。 「履歴書・自己紹介書」を作成する。
第 12 回	志望動機作成 エントリーシート作成	志望企業の選定と志望動機作成ポイントを学ぶ。 業界研究と自己分析を深め、志望動機、エントリーシートを作成する。
第 13 回	模擬面接	「履歴書・自己紹介書」「志望動機」を用いて、模擬面接を体験する。面接する側、される側を体験することで、面接のポイントや書類の書き方の重要性を理解する。
第 14 回	試験・まとめ	社会人に必要な権利と義務の理解。授業全体のまとめと確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分が興味を持っているインターンシップ先や業界・企業の研究を行うので、授業外でも調査、話し合いの時間を取ってもらいます。
自己理解においては、内省することや文章化、模擬面談の準備の時間は各自必要になります。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要な資料をその都度配布します。

【参考書】
『就職四季報』（東洋経済新聞社）授業内で使用します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度とレポート 40 %、「業界・職種・企業」研究の発表および模擬面接 40%、最後の確認試験 20 %を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
インターンシップや就職活動に活用できる情報の提供（社会人の講話）を行います。自己理解の時間を増やし、就職活動やインターンシップに必要な職業能力の実践を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
業界研究をする場合は各自 PC の持参、またはキャリアセンターを利用してください。
グループに分かれて調査研究も実施しますので、Zoom 等を活用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】
本授業は実務経験がある教員が担当します。情報通信企業でシステムエンジニア、人事・採用・教育の実務経験者であり、キャリアコンサルタルタントとして、放送業界、広告代理店、銀行、製造業、ＩＴ企業等に携わっています。業界の特徴や企業側の視点を含めて情報提供を行います。
また、本授業は受講生に主体的に行動してもらう授業です。
本授業は、2022 年度以降入学生（体験型科目として履修）・2021 年度以前入学生（展開科目・総合として履修）ともに、授業に参加するには春学期授業開始前に申込みが必要です（選抜・抽選を行います）。必ず学部掲示板の案内を確認し、指示に従って下さい。
2021 年度以前入学生に限り「職業能力ベーシックスキルⅡ」からの受講も可能ですが、申込みは春学期授業開始前に行う必要がありますので、留意して下さい（秋学期になってからの申込みはできません）。

【Outline (in English)】
Basic career skills Ⅱ
【Course outline】
The purpose of this course is to develop practical career skills which are necessary for job-hunting and internship activity. Through activities like Self-understanding, Job-understanding, Lecture given by old boy, old girl and working person, you can get the images of your working-life or occupational life and link these images to job-hunting.

Self-understanding : vocational interest test, self-inventory(strong-point, weak-point), presentation of yourself.
Job-understanding : knowing actual condition of industry segments or businesses in which you are interested
Lecture given by old boy, old girl and working person : way of job-hunting, meaning of work, having a true figure of business like way of work of woman, having an interaction with working person
【Learning Objectives】
The goal of this course are to learn method of investigating business field, type of business and enterprises, to deepen self-understanding through self-analysis and vocational interest test, to learn line of questioning, vocational consciousness and philosophy of career, to get the ability of presentation and writing, and to be able to work together as a team and be proactive in doing.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content
Experiment/Practice（one-credit）
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 40%、Class attendance and attitude in class:40% 、Term-end examination: 20%

MAN200MA

演習（ビジネス）

松浦　民恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 5/Wed.5　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３・４年次の演習に向けて、２年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】
①働き方に関する基礎的な知識を身につける
②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。
まずは基礎知識をつけることを目的として、課題図書を使って議論を行っていただきます（アクティブブックダイアローグ： Active Book Dialogue を参考に）。
３年生の共同研究、４年生の卒論発表会などについては２年生にもご参加いただきます。５限のみならず６限も使って３年生や４年生と合同でゼミ活動を実施することもございますので、水曜５・６限は他の予定を入れないようにしてください。学期全体のスケジュール（予定）は最初の授業で配布します。
ゼミは原則として対面で実施しますが、外部有識者の招聘や個別指導の回などについては、事前連絡の上オンラインで実施する場合があります。
また、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。
なお、フィードバックは演習の時間内にその都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ＜２・３・４年生合同＞	①自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換 ② 3 年生共同研究、4 年生卒論の進捗共有
第 2 回	課題図書とアクティブブックダイアローグの説明とグループ分け	①課題図書とアクティブブックダイアローグの説明 ②グループ分け
第 3 回	校外学習 (予定)	校外学習（予定）
第 4 回	校外学習の振り返り	校外学習の振り返りと議論
第 5 回	課題図書（１）	課題図書（１）に関するアクティブブックダイアローグ
第 6 回	課題図書（２）	課題図書（２）に関するアクティブブックダイアローグ
第 7 回	課題図書（３）	課題図書（３）に関するアクティブブックダイアローグ
第 8 回	３年共同研究＜中間＞発表 ＜２・３・４年生合同＞	①３共同研究＜中間＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第 9 回	問いの設定に関する概説	①問いの設定に関する概説とグループワーク ②３年共同研究＜最終＞発表の進め方相談
第 10 回	調査方法に関する概説	①調査方法に関する概説 ②３年共同研究＜最終＞発表の当日運営の確認
第 11 回	３年共同研究＜最終＞発表 ＜２・３年生・社会人合同＞	①３年共同研究＜最終＞発表 ②発表に関する質疑・意見交換
第 12 回	発表の振り返りと今後の進め方	①共同研究発表の振り返り（ロジと内容） ②共同研究の準備に向けた説明 ③ゼミ活動に関する意見交換
第 13 回	４年生卒論発表（１） ＜２・３・４年生・社会人合同＞	①卒論の発表（前半） ②質疑と社会人・教員コメント
第 14 回	４年生卒論発表（２） ＜２・３・４年生・社会人合同＞	①卒論の発表（後半） ②質疑と社会人・教員コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書のアクティブブックダイアローグの準備、研究テーマ案の作成とそのための先行研究サーベイ等が必要になります。ゼミの時間の大部分は発表・コメントや意見交換の場となりますので、準備はゼミの時間外に実施頂くことが多くなります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
課題図書については授業で候補を提示します。

【参考書】
必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブ・ブック・ダイアローグと校外学習を継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【その他の重要事項】
基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。
2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイディアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。
不定期で３・４年生との合同ゼミがあり、その場合原則として５・６限またがって実施することになりますので、ゼミの日は５・６限とも他の予定を入れないようにしてください。
教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed for students to obtain basic knowledge about work styles and also the fundamental skills of collection and presentation of information.
＜ Learning Objectives ＞
1.Obtain basic knowledge on work styles
2.Compile a broad range of information about a given topic and deliver it with clarity
3.Consider a variety of perspectives without believing accepted opinions
＜ Learning activities outside of classroom ＞
The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.
＜ Grading Criteria /Policy ＞
Grading will be decided based on in-class contributions(70%) and contributions to seminar activities and management(30%).

CAR300MA

就業応用力養成Ⅰ

鈴木　美伸

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 3/Wed.3　｜　配当年次：3〜4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。
この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。
企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】
修得すべき７つのチカラ
１．社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
　⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
　⇒ 社会規範となる倫理観
２．他者を説得できるロジカルシンキング
　⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
　⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
　⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
３．他者を動かすコミュニケーション力
　⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
　⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
４．組織を動かすコミュニケーション力
　⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
　⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
５．組織を活性化するリーダーシップ
　⇒ モチベーション・マネジメント
　⇒ ４つの状況対応型リーダーシップ
６．社会で未知の道を拓くチカラ
　⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
　⇒ 自分自身の２０代のキャリアプランの作成
７．社会を生き抜くための実践知
　⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
　⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。
大学行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部のアイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とパラ認知の理解	グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレーンストーミング
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは
5	商社事例研究－１ 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力
6	商社事例研究－２ 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力
7	社会人ケーススタディ－１ 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 企業からの課題提示	・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディ－２ 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 課題討議	授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒ ３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ ３０点
・グループワークでの貢献度　⇒ ３０点
・期末レポート　⇒ １０点
上記配点は原則として加点方式で行います。
授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。
この他に、1000〜2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
ＰＣは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】
法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Contribution in group work ⇒ 30 points
・ Term-end report ⇒ 10 points
As a general rule, the above points will be added.
Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.
In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木　美伸

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3　｜　配当年次：3〜4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。
未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。
同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。
アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。
＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。
つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】
どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の８つの力を修得します。
１．事実をベースに語る提言力　（事実と意見を峻別する）
２．３つの分析手法力　（時間・空間・実験分析）
３．知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
４．問題解決の視点力　（What? Why? How?）
５．構造分析の要素考察力
６．マクロとミクロの視点を統合力　（定量と定性調査力）
７．一次情報に触れる取材力　（但、百聞一見を盲信しない）
８．上記のスキルを統合・応用する力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。
ＰＢＬ（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。
履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション＆レポート）を行います。
公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。
授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	８つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには （ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－１ 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ ２１世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20 代、30 代、40 代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－２ パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート＆プレゼンテーション－１ 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究－３ 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画語学力と提案力 （ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－１ 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－２ 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート＆プレゼンテーション－２ 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会学的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（ＰＢＬ）－３ 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊春学期「就業応用力養成Ｉ」の履修が望ましいですが、
　事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。
　但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】
授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績配点
・受講態度（発言数・発言内容）　⇒ ３０点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ ３０点
・グループワークでの貢献度　⇒ ３０点
・期末レポート　⇒ １０点
上記配点は原則として加点方式で行います。
授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。
この他に、1000〜2000 字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。
総合評点が６０点以上を合格とします。
（欠席が３回以上の者は成績評価対象外）
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】
他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのことです。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。
大学用意のＰＣを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】
法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
　楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.
・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.
・It is effective if you have a background in statistics and social research.
* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.
However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grade score
・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points
・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points
・ Contribution in group work ⇒ 30 points
・ Term-end report ⇒ 10 points
As a general rule, the above points will be added.
Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.
In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.
A passing score of 60 or higher is considered as a pass.
(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)
* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

FRI200MA

図書館サービス概論

栗原　智久

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 5/Mon.5　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図書館サービスとは？　みなさんの思いうかべるものは？
この授業では、図書館サービスの意義・種類・目的・方法・目標・評価などについて学習します。
実例をもとに、また図書館の種別・属性によるところからもみてみます。
みなさんのアイデアもグループディスカッションなどを通じて掲げてもらい、考察します。

【到達目標】
①図書館サービスを理解する。
②学習したことをもとに、自ら図書館サービスをこなすことができる知識、また図書館サービスを考案できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業による講義が基本ですが、みなさんに能動的に考えてもらう時間、アイデアを出してもらう時間も設けます。（提出・発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図書館におけるサービス	イントロダクションとして、みなさんが思いつくサービスを掲げてもらいます。その上で、図書館サービスの意義・種類・目的・方法などについて考えます。
第 2 回	情報サービス	図書館における情報サービスについて、レファレンスサービス・レフェラルサービス・カレントアウェアネスサービスをはじめとして、説明します。
第 3 回	閲覧サービス	資料提供サービスとしての閲覧サービスについて学習します。閲覧のための空間提供についてもふれます。
第 4 回	複写サービス	資料提供サービスとしての複写サービスについて学習します。複写に関連する著作権についてもふれます。
第 5 回	貸出サービス	資料提供サービスとしての貸出サービスについて学習します。自館と他館における館間貸借についてもふれます。
第 6 回	情報提供サービス	レファレンスサービスをコアに、情報を提供するとはどういうことか、学習し、考えます。
第 7 回	児童・生徒・学生サービス	調べ学習、総合的な学習の時間などに応えるサービスについて、実例をもとに、具体的にみていきます。
第 8 回	発信型サービス	受動的ではなく能動的なサービスとしての発信型サービスについて、アナログ型・デジタル型ともにみていきます。
第 9 回	アウトリーチサービス	通常サービスを利用するのがむずかしい人（ところ）へのサービスについて考えます。
第 10 回	講座・セミナー	実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第 11 回	連携・協力サービス	博物館など類縁機関との連携・協力、内部連携・協力について、実例をもとに、具体的にみていきます。評価します。
第 12 回	図書館（情報）利用教育	図書館を、図書館の情報を、利用するに際しての情報リテラシーについて学習し、考えます。
第 13 回	図書館サービスのこれから	実例をもとに、ユニークなサービスをみてみます。評価します。これからの図書館サービスについて考えます。
第 14 回	まとめと試験	まとめと試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前後にプリントをよく読んで、準備・復習します。自分で気になる図書館を、訪問したり、ホームページで確認したりするなどして、授業で学習したことと照らし合わせて知識としての定着をはかってください。
実際に、宿題（課題レポート）で、図書館サービスを調査します。（提出）
毎回、準備学習に２時間、復習に２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回テキストプリントを配布します。

【参考書】
授業時に複数紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)　提出物 (30%)　期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが図書館に関心があり、そのサービスに興味があることはわかっています。自らそれを積極的に調べたくなるような学習内容を目指します。

【その他の重要事項】
図書館司書課程必修科目です。
博物館図書室、公共図書館協議会での実務経験を示せればと思っています。

【Outline (in English)】
Course outline ： The aim of this course is to help students understand Library Service.
Learning Objectives ： By the end of the course, students should be able to do Library Service and plan for Library Service.
Learning activities outside of classroom ： Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria / Policies ： In-class performance(20%) Report(30%)　Term-end examination(50%)

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅰ

鈴木　悌遍

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：水 3/Wed.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域と企業　と「職場における学び」の関係性について本授業では学ぶ。
授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。
その後、日本各地の地域企業の具体的な事例を毎回の授業にて紹介し、学ぶ。授業では学生同士の討論の時間を設ける。
福島県会津若松市に工場を構える株式会社羅羅屋とランドセル業界の変遷については特に詳しく紹介し、学ぶ。会津若松市における事例は講師が所属する組織の実践である。
学期には学生各位が興味を持った地域企業の事例についてそれぞれ調べ、発表を行ってもらう。
希望者にはランドセル工場見学等のフィールドワークを行う。昨年度は神奈川県川崎市にある大師線と川崎大師にてフィールドワークをおこなった。フィールドワークは自由参加あり、対象は学生自身が選んだ。

【到達目標】
・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。
・ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。
・特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、詳述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。
・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。
・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう（参加の有無によって評価は変わらない）。
毎週提出してもらうリアクションペーパーに対して毎回フィードバックし、また授業内でも積極的に取り上げる。
学期末の発表については授業内で議論し、また個々へもフィードバックもする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的関係性のためには「職場における学び」が重要であることを授業スケジュールとともに紹介する。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育	業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域と企業と社会教育 1	地域企業の事例研究 1（地域企業の事例について学び、議論する）
第 4 回	地域と企業と社会教育 2	地域企業の事例研究 2（地域企業の事例について学び、議論する）
第 5 回	地域と企業と社会教育 3	地域企業の事例研究 3（地域企業の事例について学び、議論する）
第 6 回	期末発表・レポートに向けての指導 1	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第 7 回	地域と企業と社会教育 4	地域企業の事例研究 4（地域企業の事例について学び、議論する）
第 8 回	地域と企業と社会教育 5	地域企業の事例研究 5（地域企業の事例について学び、議論する）
第 9 回	地域と企業と社会教育 6	地域企業の事例研究 6（地域企業の事例について学び、議論する）
第 10 回	期末発表・レポートに向けての指導 2	期末発表・レポート対象の見つけ方とまとめかたについて学ぶ。個別相談の時間も設ける。
第 11 回	地域と企業と社会教育 7	地域企業の事例研究 7（地域企業の事例について学び、議論する）
第 12 回	地域と企業と社会教育 8	地域企業の事例研究 8（地域企業の事例について学び、議論する）
第 13 回	地域と企業と社会教育 9	地域企業の事例研究 9（福島県会津若松市にある地域企業であるランドセル製造・販売会社である羅羅屋について学び、議論する）
第 14 回	期末発表会	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の標準的な予習・復習時間は各 2 時間である。予習とは、学期末のプレゼンテーションの準備のための時間である。復習とは、リアクションペーパーの作成のための時間である。
評価は、授業中のプレゼンテーション、コメントペーパー等（80 %）、発表用レポート（20 %）で行う。
実習は別途、希望者のみ参加でおこなう（参加の有無によって評価は変わらない）。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
授業内の発表やリアクションペーパー等（80%）、発表用レポート（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
座学のあとにグループワークをおこない、講師の一方的な授業進行は行わない。
リアクションペーパーは毎回各自へ返信する。
学部、学年の境を超えた交流の機会を多く設ける。

【その他の重要事項】
外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。
実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について授業を進める。
授業を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努る。
授業で使用したスライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。
提出してもらったリアクションペーパーには毎回返信する。

【Outline (in English)】
This class will study the relationship between regions, companies, and "learning at work".
The class will first explain the relationship between the community, local resources, and corporate activities. Then, the role of "learning in the workplace" for the sustainable activities of companies will be studied.
Specific examples of regional companies from around Japan will then be introduced and studied in each class. Time for discussion among students will be provided in class.
Raraya Corporation, which has a factory in Aizuwakamatsu City, Fukushima Prefecture, and the evolution of the school bag industry will be introduced and studied in particular detail. The case study in Aizuwakamatsu is the practice of the organization to which the lecturer belongs.
In the second semester, each student will be asked to research and present a case study of a local company of interest to them.
Those who wish to do so will be given fieldwork, such as a visit to a school bag factory. Last year, fieldwork was conducted at the Daishi Line and Kawasaki Daishi in Kawasaki City, Kanagawa Prefecture. The fieldwork was free, and students chose their own fieldwork subjects.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Preparation time is for the presentation at the end of the semester. Review time is for the preparation of a reaction paper.
Evaluation will be based on class presentations, comment papers, etc. (80%) and presentation reports (20%).

MEC200XB

機械製図

五嶋　裕之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 与えられた機械要素の構成・機能や JIS 規格を理解し，設計仕様に適した正しい形状および寸法を選ぶ。
2. 部品図，組立図の目的を理解し，関連する規格を詳しく調べ製図に反映する。
3. JIS 機械製図規格に適合した製図法により製図する。
4. 図面がなぜ必要なのか，生産の現場や研究・開発の場面でどのように必要になるのか，なども学ぶ。
5. 機械製図では，手描きによって製図を行う。『今時，手描きなんて』と思うかも知れないが，手描きによる製図は，以下のような非常に重要な要素を含んでいる。

①手描きによる機械製図は，機械要素や部品の理解に役立つ。
②手描きによる製図はアイディアスケッチの能力を向上させ，新しいアイディアの創発に役立つ。（創造力が鍛えられる、脳トレ）
③ 2D CAD や 3D CAD は非常に便利であるが，あくまでも道具・ツールである。
④ 2D CAD，3D CAD ソフトウェアは，定期的に使用方法が変更されたり，CAD ソフト自体が消滅することがあるが，手描きによる機械製図の技能は身に付ければ一生ものであり廃れない。
⑤企業に就職後に開発部隊や設計部隊に配属された場合，手描きによるスケッチは，開発アイディアや設計アイディアの創発に役立つ。
⑥企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，顧客との設計打ち合わせや顧客のニーズ抽出の場では手書きがメインとなり，CAD ソフトを使用した打ち合わせは困難。手描きスケッチが基本となり，手描きによってスピーディな打ち合わせが可能である。
⑦企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，⑥の内容を開発部隊や設計部隊へ報告する際に，手描きスケッチを交えた打ち合わせが行われることが多い。（CAD よりも手描きの方がスピーディ，かつ，意図も伝わりやすい）
⑧出張などで新幹線や飛行機，自動車に乗車中にアイディアを思いついた時，手描きスケッチの方が素早く，アイディアを忘れないうちに記録できる。（『PC 開いて →CAD ソフトを立ち上げ → マウスで描画』の流れではアイディアを忘れてしまう）
⑨絵を描くことや字を書くことが苦手な人でも，機械製図による演習で格段に上達する。（他の授業のレポート作成や日常生活でも役立つ）
⑩人によっては字も上手くなる。（就職活動の手書きの履歴書・志望動機などで，丁寧な字で書けるようなる）
⑪早稲田大学においても手描きの機械製図の重要性が再認識され，手描きによる機械製図の授業が重要視されている。千葉工業大学と芝浦工業大学では，4 年間で 6 コマの機械製図を行なっている。明治大学に至っては，4 年間で 12 コマもの手描きの機械製図を行っている。このことからも手描きによる製図の講義の重要性が分かる。
⑫設計，開発，研究，アイディアは，イメージ力である。
⑬イメージ力を鍛える最善の方法は，脳と身体と五感を連動させフルに働かせるのが良い。人間も動物である。脳と身体と五感は一体であり，連動している。
⑭マウスをクリックしながら CAD モデリングする時代は終わりかけている。タッチパネルやタブレット PC の画面を，タッチペンや指先でデザインする時代に来ている。⇒ もはや手描き。
⑮上記の⑭から更に進んだ近未来では，頭でイメージしたものが CAD データ化される時代が近付いている。⇒ CAD の操作スキルは不要になり，イメージ力が求められる。⇒ 手描きによるイメージ力の強化が重要。

【到達目標】
機械設計・製図に必要な JIS の製図規則を中心に，機械設計の基礎および基本的な機械要素とその図面の表し方などを講義および実技を通じて習得する。さらに，複数の部品で構成された機械の製図に必要な部品図および組立図の役割を理解し，機械部品の製作・組立に関する製図法を習得し，機械設計に必要な基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の前半では機械設計・製図に必要な JIS の製図規則および基本的な機械要素部品とその図面の表し方について講義を行う。後半では講義に関連する内容の理解を深めるために手描きによる製図を行う。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。本授業の最終段階においては，複数の部品から構成された機械を題材として，各部品の規格を調べ，またそれを反映させた部品図および組立図の製図を行い，機械設計関連科目や企業における機械設計業務への展開へつなげる。
中間・期末テストは，授業内容の理解の状況や進捗に合わせ，適時実施する。

新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，製図入門	本授業の実施方法の説明および資料の配布，製図入門
2	図形の表わし方 1	投影図の表し方の講義および線の種類および用途についての実技
3	図形の表わし方 2	断面図の表わし方の講義およびＶブロックと部分投影図の作図
4	図形の表わし方 3	図形の省略および特殊な図示法の講義および回転投影図と補助投影図に関する作図
5	寸法の記入法 1	寸法記入の基本に関する講義およびプレート図面とパッキン押さえの製図
6	寸法の記入法 2	穴やキー溝の寸法記入方法に関する講義およびコンロッドの製図
7	ねじの製図法	ねじに関する製図についての講義およびボルト，ナットの製図
8	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい 1	サイズ公差（旧・寸法公差）に関する講義および回転軸の設計製図
9	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい 2	サイズ公差（旧・寸法公差）とはめあいに関する講義および回転軸の設計製図
10	幾何公差および表面の粗さ	幾何公差と表面の粗さに関する講義および回転軸の設計製図
11	フランジ形固定軸継ぎ手 1	材料記号に関する講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
12	フランジ形固定軸継ぎ手 2	講義内容に関する中間テストおよびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
13	フランジ形固定軸継ぎ手 3	総合講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
14	総合課題の設計製図	講義内容に関する総合試験およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各授業テーマに関する資料の予習・復習および課題図面の製図

【テキスト（教科書）】
教科書については，初回のガイダンスで説明する。
1. JIS にもとづく 標準製図法 (第 15 全訂版)，大西 清，オーム社，2019 年初版，2,200 円（税込）.
2. これだけは知っておきたい !機械設計製図の基本，米田完，太田祐介，青木岳史，講談社，2016 年初版，2,420 円（税込）.
3. 初心者のための機械製図 (第 5 版)，藤本元，御牧拓郎，植松育三，高谷芳明，松村恵理子，森北出版，2020 年初版，2,750 円（税込）.
4. 配布資料.

【参考書】
1. JIS の各種規格表.
2. 新・演習機械製図―グローバル化に対処する製図リテラシー，塚田忠夫，金田徹，数理工学社，2015 年初版，2,200 円（税込）.

【成績評価の方法と基準】
成績評価は，授業中の課題： 80 %，定期試験： 20% の配分とする（ただし，中間・期末試験を実施しない場合は，課題・レポート： 100 %となる。中間・期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。
1. 評価方法：各課題の図面の提出とその評価，および，中間テスト・期末テストの結果を総合的に判断し成績評価する。
2. 各課題の図面：全ての課題の提出が必須である。
3. 各課題の図面：課題の提出期限は厳守すること。
4. 実習科目である機械製図では，中間・期末テストの受験は必須である。
5. 評価基準：本科目において設定した達成目標の 60 %未満は不合格とする。
6. 欠席数 4 回以上は不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
1. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
2. 配布資料などの改善を行う。
3. 本授業では，機械製図の実習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】
1. 機械製図用品セット　購入必須（法政大学理工学部機械工学科専用 製図セット：法政大学生協で販売）
2. ケント紙（授業の製図において必須であるため，必ず購入しておくこと。法政大学生協や画材店などで販売）

【その他の重要事項】
本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また，大学においては 1990 年代後半から手書き製図・設計と CAD/CAM/CAE に触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。

これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・製図・CAD/CAM/CAE に関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAE のソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・製図・CAD/CAM/CAE の経験と考察に基づいたものである。

1. 各授業テーマに関する資料の予習・復習は必須である。また，課題図面の製図も必ず必要である。

2. 各課題の図面については，全ての課題提出を基本とする。

3. 大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1. The students understand the composition / function of the given machine element and the JIS standard, and acquires the ability to select the correct shape and dimension suitable for the design specification.
2. The students should understand the purpose of the parts diagram and assembly drawing, and reflect the related standards in detail to reflect on the drawing.
3. The students draw on drawing methods complying with JIS mechanical drawing standards.
4. The students learn why the drawing is necessary, how the drawings are needed at production fields, R&D fields, and so on.
5. In this course, students draw the mechanical drawing by hand-drawing. Some students may think that "In nowadays, the hand-drawing is nonsense," however the hand-drawn mechanical drawings include many very important elements for all students.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn the mechanical drawing and to acquire a hand drawn mechanical drawing.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
1. Drawings for each assignment: Students are required to submit all assignments.
2. Submission of each assignment: Students are required to adhere to the deadline for submitting assignments.
3. Mid-term and final exams: Students are required to take the mid-term and final exams.
4. Attendance: Absences of 4 times or more are the failing grade.
5. The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable, provided that above 1 to 4 are adhered to.

MEC200XB

機械製図

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1. 与えられた機械要素の構成・機能や JIS 規格を理解し，設計仕様に適した正しい形状および寸法を選ぶ。
2. 部品図，組立図の目的を理解し，関連する規格を詳しく調べ製図に反映する。
3. JIS 機械製図規格に適合した製図法により製図する。
4. 図面がなぜ必要なのか，生産の現場や研究・開発の場面でどのように必要になるのか，なども学ぶ。
5. 機械製図では，手描きによって製図を行う。『今時，手描きなんて』と思うかも知れないが，手描きによる製図は，以下のような非常に重要な要素を含んでいる。
①手描きによる機械製図は，機械要素や部品の理解に役立つ。
②手描きによる製図はアイディアスケッチの能力を向上させ，新しいアイディアの創発に役立つ。（創造力が鍛えられる、脳トレ）
③ 2D CAD や 3D CAD は非常に便利であるが，あくまでも道具・ツールである。
④ 2D CAD，3D CAD ソフトウェアは，定期的に使用方法が変更されたり，CAD ソフト自体が消滅することがあるが，手描きによる機械製図の技能は身に付ければ一生ものであり廃れない。
⑤企業に就職後に開発部隊や設計部隊に配属された場合，手描きによるスケッチは，開発アイディアや設計アイディアの創発に役立つ。
⑥企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，顧客との設計打ち合わせや顧客のニーズ抽出の場では手書きがメインとなり，CAD ソフトを使用した打ち合わせは困難。手描きスケッチが基本となり，手描きによってスピーディな打ち合わせが可能である。
⑦企業に就職後，技術営業や営業に配属された場合，⑥の内容を開発部隊や設計部隊へ報告する際に，手描きスケッチを交えた打ち合わせが行われることが多い。（CAD よりも手描きの方がスピーディ，かつ，意図も伝わりやすい）
⑧出張などで新幹線や飛行機，自動車に乗車中にアイディアを思いついた時，手描きスケッチの方が素早く，アイディアを忘れないうちに記録できる。（『PC 開いて →CAD ソフトを立ち上げ → マウスで描画』の流れではアイディアを忘れてしまう）
⑨絵を描くことや字を書くことが苦手な人でも，機械製図による演習で格段に上達する。（他の授業のレポート作成や日常生活でも役立つ）
⑩人によっては字も上手くなる。（就職活動の手書きの履歴書・志望動機などで，丁寧な字で書けるようなる）
⑪早稲田大学においても手描きの機械製図の重要性が再認識され，手描きによる機械製図の授業が重要視されている。千葉工業大学と芝浦工業大学では，4 年間で 6 コマの機械製図を行なっている。明治大学に至っては，4 年間で 12 コマもの手描きの機械製図を行っている。このことからも手描きによる製図の講義の重要性が分かる。
⑫設計，開発，研究，アイディアは，イメージ力である。
⑬イメージ力を鍛える最善の方法は，脳と身体と五感を連動させフルに働かせるのが良い。人間も動物である。脳と身体と五感は一体であり，連動している。
⑭マウスをクリックしながら CAD モデリングする時代は終わりかけている。タッチパネルやタブレット PC の画面を，タッチペンや指先でデザインする時代に来ている。⇒ もはや手描き。
⑮上記の⑭から更に進んだ近未来では，頭でイメージしたものが CAD データ化される時代が近付いている。⇒ CAD の操作スキルは不要になり，イメージ力が求められる。⇒ 手書きによるイメージ力の強化が重要。

【到達目標】
機械設計・製図に必要な JIS の製図規則を中心に，機械設計の基礎および基本的な機械要素とその図面の表し方などを講義および実技を通じて習得する。さらに，複数の部品で構成された機械の製図に必要な部品図および組立図の役割を理解し，機械部品の製作・組立に関する製図法を習得し，機械設計に必要な基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の前半では機械設計・製図に必要な JIS の製図規則および基本的な機械要素部品とその図面の表し方について講義を行う。後半では講義に関連する内容の理解を深めるために手描きによる製図を行う。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。本授業の最終段階においては，複数の部品から構成された機械を題材として，各部品の規格を調べ，またそれを反映させた部品図および組立図の製図を行い，機械設計関連科目や企業における機械設計業務への展開へつなげる。
中間・期末テストは，授業内容の理解の状況や進捗に合わせ，適時実施する。
新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，製図入門	本授業の実施方法の説明および資料の配布，製図入門
2	図形の表わし方 1	投影図の表し方の講義および線の種類および用途についての実技
3	図形の表わし方 2	断面図の表わし方の講義およびVブロックと部分投影図の作図
4	図形の表わし方 3	図形の省略および特殊な図示法の講義および回転投影図と補助投影図に関する作図
5	寸法の記入法 1	寸法記入の基本に関する講義およびプレート図面とパッキン押さえの製図
6	寸法の記入法 2	穴やキー溝の寸法記入方法に関する講義およびコンロッドの製図
7	ねじの製図法	ねじに関する製図についての講義およびボルト，ナットの製図
8	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい 1	サイズ公差（旧・寸法公差）に関する講義および回転軸の設計製図
9	サイズ公差（旧・寸法公差）およびはめあい 2	サイズ公差（旧・寸法公差）とはめあいに関する講義および回転軸の設計製図
10	幾何公差および表面の粗さ	幾何公差と表面の粗さに関する講義および回転軸の設計製図
11	フランジ形固定軸継ぎ手 1	材料記号に関する講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
12	フランジ形固定軸継ぎ手 2	講義内容に関する中間テストおよびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

13	フランジ形固定軸継ぎ手 3	総合講義およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図
14	総合課題の設計製図	講義内容に関する総合試験およびフランジ形固定軸継ぎ手の設計製図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
各授業テーマに関する資料の予習・復習および課題図面の製図

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。
1. JIS にもとづく 標準製図法 (第 15 全訂版)，大西 清，オーム社，2019 年初版，2,200 円（税込）.
2. これだけは知っておきたい !機械設計製図の基本，米田完，太田祐介，青木岳史，講談社，2016 年初版，2,420 円（税込）.
3. 初心者のための機械製図 (第 4 版)，藤本元，御牧拓郎，植松育三，高谷芳明，森北出版，2015 年初版，2,750 円（税込）.
4. 配布資料.

【参考書】

1. JIS の各種規格表.
2. 新・演習機械製図―グローバル化に対処する製図リテラシー，塚田忠夫，金田徹，数理工学社，2015 年初版，2,200 円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題： 80 %，定期試験： 20% の配分とする（ただし，中間・期末試験を実施しない場合は，課題・レポート： 100 %となる。中間・期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。
1. 評価方法：各課題の図面の提出とその評価，および，中間テスト・期末テストの結果を総合的に判断し成績評価する。
2. 各課題の図面：全ての課題の提出が必須である。
3. 各課題の図面：課題の提出期限は厳守すること。
4. 実習科目である機械製図では，中間・期末テストの受験は必須である。
5. 評価基準：本科目において設定した達成目標の 60 %未満は不合格とする。
6. 欠席数４回以上は不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

1. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
2. 配布資料などの改善を行う。
3. 本授業では，機械製図の実習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】

1. 機械製図用品セット　購入必須（法政大学理工学部機械工学科専用 製図セット：法政大学生協で販売）
2. ケント紙（授業の製図において必須であるため，必ず購入しておくこと。法政大学生協や画材店などで販売）

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の五嶋は，電機・機械メーカで計約８年間，ソフトウエアおよびハードウエアの開発・設計の実務経験がある。また，研究機関（機械振興協会技術研究所）において、27 年間、国内・海外外企業との共同研究、技術指導、産学連携支援業務等を行ってきた。学生時代に手書き製図・設計と 2D-CAD、その後 3D-CAD/CAM/CAE に触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。

現在企業のグローバル化が急速に進展しており、日本語を母国語としないスタッフとの業務では、不慣れな外国語による認識の相違を防ぐため、機械製図による世界共通語である機械図面をベースとしたコミュニケーションが必須である。機械工学を学ぶ学生は、外国語（特に英語）とともに、機械製図のスキルをぜひとも身につけなければならない。

その他、授業にあたっての注意事項は下記である。
1. 各授業テーマに関する資料の予習・復習は必須である。また，課題図面の製図も必ず必要である。
2. 各課題の図面については，全ての課題提出を基本とする。
3. 大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1. The students understand the composition / function of the given machine element and the JIS standard, and acquires the ability to select the correct shape and dimension suitable for the design specification.
2. The students should understand the purpose of the parts diagram and assembly drawing, and reflect the related standards in detail to reflect on the drawing.
3. The students draw on drawing methods complying with JIS mechanical drawing standards.
4. The students learn why the drawing is necessary, how the drawings are needed at production fields, R&D fields, and so on.
5. In this course, students draw the mechanical drawing by hand-drawing. Some students may think that "In nowadays, the hand-drawing is nonsense," but the hand-drawn mechanical drawings include many very important elements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn the mechanical drawing and to acquire a hand drawn mechanical drawing.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】
1. Drawings for each assignment: Students are required to submit all assignments.
2. Submission of each assignment: Students are required to adhere to the deadline for submitting assignments.
3. Mid-term and final exams: Students are required to take the mid-term and final exams.
4. Attendance: Absences of 4 times or more are the failing grade.
5. The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable, provided that above 1 to 4 are adhered to.

MEC200XB

設計工学

吉田　一朗

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械設計は，機械工学の知識を活用して新しい機械製品を創りだす重要な活動であり，設計業務だけでなく研究部門や開発部門でも必須の内容である。また，設計工学の知識や考え方は，さらに進んだ高度な機械工学の知識を学ぶための方向付けやモチベーションとしても重要である。
設計工学は，機械系出身の技術者として社会に出た際に重要な内容であり，早稲田大学においてはデザインエンジニアリングとして 2 コマ，明治大学は設計工学系として 3 コマ，芝浦工業大学に至っては設計工学系として 6.5 コマもの時間を割いている。このように重要な設計工学を 1 コマの時間で十分に学べるよう，多くの課題と効率的な学習効果を意図した授業方法で講義を実施する。
本科目では，履修学生は，基礎的な工学的知識を統合・総合して新しい製品を創造する設計活動の概要を理解する。加えて，様々な事例に基づいて機械設計の基本的な考え方と設計方法を理解することを目指す。
上記のような素養が身につけられれば，機械工学の王道系企業に限らず，電機メーカや食品メーカ，医薬品メーカ，建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けるだろう。

【到達目標】
履修学生は，設計/デザイン一般や機械設計/メカニカルデザインについての基礎的な知識を身につける。機械設計において考慮すべき各種事項（安全率，はめあい，表面粗さなど）の考え方も理解し，各種機械要素の設計計算法などについての実践力も身につけることを目指す。現代の製品の設計に関する複雑な課題を理解するとともに，機械工学科で学ぶ様々な科目の重要性と必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
機械要素，力学をはじめとする機械工学科の各科目の知識は，設計工学を理解する上で非常に重要であり，また，設計を具体的に行う上で不可欠である。
まず，基本的な機械の構造とその構成要素について学び，標準的な機械設計の手順を理解する。また，機械設計のプロセスや設計プロセスに対する工学的アプローチなどを学ぶことで，概念設計，詳細設計，生産設計，設計評価などの設計の各段階における基本的概念を理解する。加えて，基本事例により設計の手順を具体的に学び，設計工学の必要性を理解する。
理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。適時，課題の解説や質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。また，授業の順序は指定した教科書のページ構成と異なるが，これは効率的な理解を図るため意図されたものである。

新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，秋学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	設計とは：機械設計のプロセス	機械設計のプロセスと設計の考え方について学ぶ。 また，他の科目も含めた授業の内容が，機械工学科卒業の機械系技術者として社会に出た際に，如何に重要で必要になるかも学ぶ。
2	材料：その種類と選択法	材料について，その種類と選択の考え方について学ぶ。
3	強度と剛性	強度と剛性について，および，その計算法について学ぶ。
4	軸の設計：機構と機能設計	軸の機構と機能設計について学ぶ。
5	軸の設計：機械要素	軸の機械要素について学ぶ。
6	軸受：種類，寿命設計	軸受の種類と寿命設計，寿命計算について学ぶ。
7	軸受：選定と活用の方法	軸受の選定方法と活用手法について学ぶ。
8	歯車：機構，機能設計	歯車の機構設計と機能設計について学ぶ。
9	歯車：強度設計	歯車の強度設計について学ぶ。
10	歯車：精度設計	歯車の精度設計について学ぶ。
11	復習および中間テスト	ここまでの復習および中間テスト。
12	慣性設計：駆動系	駆動系の慣性設計について学ぶ。
13	ねじ：種類，強度設計，および，幾何特性仕様：公差，はめあい	1．ねじの種類と強度設計について学ぶ。2．幾何特性仕様の一つである，公差とはめあいについて学ぶ。
14	幾何特性仕様：公差，はめあい，および，まとめと評価	1．幾何特性仕様の一つである，公差とはめあいについて学ぶ。2．まとめと評価，試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】機械要素，力学基礎，材料，機械製図，CAD 入門などの機械工学に関する基礎科目を十分に復習し，身につけておくことが重要である。4 年間で 1 コマという少ないコマ数でも確実に身につけるために，レポート課題を確実に行ってくることと，予習復習，受け身ではない自発的な学習意欲が必要である。
また，身近にある機械を観察し，その本質的機能は何か，なぜそのような構造になっているのか，もっと良い構造は考えられないか，などを考え，問題意識を持って授業に臨むことが期待される。

【テキスト（教科書）】

機械工学入門シリーズ「機械設計入門（第 4 版）」，大西清，オーム社，2015 年，2,530 円（税込）．

この教科書は，研究活動や企業へ就職後に配属されるであろう設計・開発部署の業務においても有効に使える書籍である。
また，授業の理解を支援する資料を，授業支援システムにアップロードして配布する。ただし，本資料は授業の理解を支援するだけの資料であって，教科書は必ず購入し予習・復習すること。試験では，この教科書に記載された内容を活用する問題も出題される。

【参考書】
機械設計に関する書籍はかなり多くあるが，下記は良書である。

1．機械設計工学，村上 存，柳澤秀吉，コロナ社（2020），2,420 円（税込）．

2．機械設計：機械の要素とシステムの設計（第 2 版），吉本成香，下田博一，野口昭治，岩附信行，清水茂夫，オーム社（2017），3,740 円（税込）．
3．機械設計法，塚田忠夫，吉村靖夫，黒崎茂，柳下福蔵，森北出版（2015 年），2,860 円（税込）．
4．機械設計・製図の基礎 [第 2 版]，塚田忠夫，数理工学社（2010 年），2,156 円（税込）．

【成績評価の方法と基準】
成績評価は，授業中の課題： 50 %，定期試験： 50% の配分とする（ただし，中間・期末試験を実施しない場合は，課題・レポート： 100 %となる。中間・期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。
1．講義中に設定された課題の提出，中間テストおよび期末試験などを総合して成績をつける。
2．課題の提出は必須である。また，課題の提出期限は厳守のこと。
3．中間テストおよび期末試験の受験は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
1．設計の手法について説明を聞くだけでは，身について実践できる力は養えない。授業中の課題などを参考にして、身近な機械を設計する練習を行うことが有効である。
2．学生からの意見の反映：『設計工学』は，社会に出てからも必ず使用し，また，難易度の高い授業科目である。このような科目であるが，ほぼ毎回のレポート課題を設定することで，非常に少ないコマ数でも効率的に学ぶことを可能にした。
3．授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで，いつでもどこでも設計工学を学ぶことを可能とした。

【学生が準備すべき機器他】
1．必要に応じて貸与ノート PC や関数電卓が必要になる。
2．レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示するので厳守のこと。

【その他の重要事項】
本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・見積り，および，研究開発における超精密機器の設計の実務経験がある。また，大学においては 1990 年代後半から設計と CAD/CAM/CAE を用いた力学解析に触れ，研究開発業務において実際に使用してきた。

これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・CAD/CAM/CAE に関する社内教育の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAE のソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・CAD/CAM/CAE 解析の経験と考察に基づいたものである。

1. 授業支援システムにアップロードした資料は，授業開始前までに必ず予習すること。この資料は，授業前までに印刷しておくことを強く推奨する。
2. レポート課題は，授業開始前までに必ず終わらせていること。
3. 上記の 2 点は厳守のこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, the professor will make students understand the outline and activity of design engineering that integrate basic design engineering knowledge to create new products. In addition, the lecturer aim to let understand students basic concept and methodology of mechanical design by exercises based on various case examples.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand and acquire the basic concept and methodology of mechanical design.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
The total score of the two instructors is calculated, and a score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC300XB

宇宙工学

矢野　創

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国境を越えて地球環境と直接繋がった現代社会は、宇宙技術の恩恵なしに一日も営むことができません。また宇宙そのものや生命の起源や原理など、今世紀最大の謎を探求する舞台も、宇宙空間に広がっています。本科目では、宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割を学ぶとともに、宇宙工学全体を俯瞰した基礎知識を理解し、実際の宇宙プロジェクトを立案・実施するうえで必要な基本的技能を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
1.　宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割について理解します。
2.　宇宙工学全般に関する基礎知識を習得します。
3.　宇宙輸送系、人工衛星、宇宙探査機の基本原理およびシステム構成を理解し、実際の宇宙プロジェクトを立案・実施するうえで必要な基本的技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の概要】
本科目では、「新時代の教養」として宇宙の基礎概念および現代社会における宇宙工学の役割を学ぶとともに、学術と実学の両面から宇宙を目指す学生諸君には入門編となる「宇宙工学全体を俯瞰した基礎知識」と、他業務にも応用可能な実践知としての「宇宙プロジェクトの立案・運用に必要な基本的技能」について習得します。
【授業の進め方】
対面授業を過半数設定しているものの、新型コロナウィルス対策として、全１４回の授業をオンラインでも受講できるようにシラバスを設計しています。そのため、対面授業、オンラインのみのいずれの場合でも、授業支援システムを毎回活用できることを前提とします。
【授業方法】
＞講義：　対面授業がある日程でも、Zoom による同時双方向通信を行う予定です。授業開始時間より Zoom 接続を始め、おおむね 10 分後から講義を開始します。なお各回の受講方式の変更や補講日が設定される場合は、授業支援システムの「お知らせ」欄にて告知しますので、各自ご確認ください。
＞　初回アンケート：　初回には受講者全体の宇宙工学の基礎知識に関する理解度を確認する「アンケート」を、必ずお答えください。これは今後の授業レベルを適切に計ることを目的とし、各人の成績には反映しません。
＞　クイズ：　第二回以降の講義では毎回授業支援システムを使って「クイズ」を一問、「テスト/アンケート」ページにて実施しますので、必ず答えてください。クイズとは、主に前回授業の内容の振り返りを目的とした、選択肢形式の短い質問のことです。
＞課題や考課等については、「授業時間外の学習」と「その他の重要事項」にてご確認ください。また上記の授業の進め方は、今後変更される可能性がありますので、授業時や「お知らせ」欄の告知にご注意ください。
＞ なお提出された課題、学習等の実施内容、 質疑応答によって出された受講生の疑問については、適宜フィードバックを行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概論 (2022/09/22)	（1）本授業の構成・オンライン授業の進め方・成績考課、 （2）基礎知識調査、 （3）宇宙とは何か、 （4）宇宙開発史、 （5）宇宙業界における世界のステークホルダー [参考図書：　宇宙工学概論]
2	宇宙工学と現代社会 (2022/09/29)	（1）現代の宇宙産業、 （2）日常生活を支える宇宙技術、 （3）社会の問題解決に貢献する宇宙技術 [参考図書：　宇宙工学概論、エンジニアリングの神髄、宇宙探査機はるかなる旅路へ、宇宙工学入門 II]
3	宇宙工学と宇宙科学・探査 (2022/10/06)	（1）宇宙探査の世界潮流、 （2）現代宇宙科学の最先端、 （3）宇宙科学・探査を実現するための宇宙工学の挑戦 [参考図書：　星のかけらを採りにいく、宇宙探査機はるかなる旅路へ、宇宙工学入門 II]
4	システム工学 (2022/10/13)	（1）システムの概念と特性、 （2）システム工学の目的とアプローチ、 （3）モデリングと解析、 （4）部分最適と全体最適、 （5）システム思考の応用 [参考図書：　基礎システム工学]
5	軌道力学 (2022/10/15: 補講日程)	（1）三次元空間での軌道要素とケプラー方程式、 （2）二体問題・制限三体問題・摂動・軌道遷移、 （3）人工衛星の運動、 （4）惑星間航行の軌道計画、 （5）軌道決定 [参考図書：　天体と軌道の力学、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門 II]
6	宇宙輸送システム (2022/10/20)	（1）ロケット推進原理、 （2）ロケットエンジンの種類・機構・特性、 （3）航法系、 （4）誘導制御系、 （5）世界のロケット [参考図書：　宇宙工学概論、宇宙工学入門]
7	人工衛星システム (2022/11/10)	（1）衛星システム構成・コンフィギュレーション・運用、 （2）重力安定化衛星、 （3）スピン衛星、 （4）姿勢決定・姿勢制御、 （5）超小型衛星とコンステレーション [参考図書：　衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門]

8	宇宙探査機システム (2022/11/17)	（1）探査天体と探査手法、 （2）探査機システム構成・コンフィギュレーション・運用、 （3）着陸機・ローバ・カプセル、 （4）惑星間航行の軌道計画・決定 [参考図書：　人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門 II、宇宙探査機はるかなる旅路へ、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、はやぶさ 2 最強ミッションの真実]
9	衛星・探査機サブシステム（A） (2022/12/08)	（1）構造系、 （2）熱制御系、 （3）電源系 [参考図書：　宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ]
10	衛星・探査機サブシステム（B） (2022/12/15)	（4）通信系・地上系、 （5）データ処理系、 （6）姿勢・軌道制御系 [参考図書：　宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ]
11	衛星・探査機サブシステム（C) (2022/12/22)	（7）推進系（化学・非化学)、 （8）ミッション系（地球周回・片道探査・往復探査） [参考図書：　宇宙工学概論、衛星設計入門、人工衛星と宇宙探査機、宇宙工学入門、宇宙探査機はるかなる旅路へ、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術]
12	プロジェクトマネジメント (2023/01/12)	（1）プロジェクトの特徴、 （2）PMBOK の基礎、 （3）WBS・スケジュール、 （4）QCD トライアングル、 （5）S&MA 管理、 （6）プログラムマネジメント [参考図書：　よりよくわかるプロジェクトマネジメント、エンジニアリングの神髄]
13	宇宙プロジェクト実践 (2023/01/14: 補講日程)	（1）ミッション目標と成功基準、 （2）全体スケジュール、 （3）選抜～基本設計～詳細設計、 （4）開発・検証、 （5）打上げ・運用・成果創出、 （6）解散・延長 [参考図書：　宇宙プロジェクト実践、小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、星のかけらを採りにいく]
14	仮想宇宙探査プロジェクト報告 (2023/01/19 ：補講日程)	（1）仮想宇宙探査プロジェクト最終報告 （2）授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【復習教材】

毎回、講義で使用したパワーポイント等の資料を用いて復習することを推奨します。資料は、授業後に授業支援システムの「宇宙工学　教材」フォルダからダウンロード可能にします。

【課題】

本科目では、各学生が主体的に調査・分析を行う課題レポートを、10 月、11 月それぞれ一本ずつ提出していただきます。各回のテーマは各月最初の授業で発表し、締切りは各月末日 23:59 までとします。提出方法は授業支援システムによるアップロードを標準としますが、情報インフラ等の事情により難しい場合は、講師まで事前に個別相談してください。

【アクティブラーニング（掲示板ディスカッション)】

本科目では 12 月~1 月に約一か月半の参加期間を設けて、授業時間外のアクティブラーニングとして、仮想宇宙探査プロジェクトの構築に関する「掲示板ディスカッション」を行います。授業の最終回には、クラス全体を一つのチームとして、プロジェクト検討に関する最終報告をプレゼンテーションして頂きます。

【テキスト（教科書)】

必須テキストは設けませんが、参考書リストを参照のうえ、各講義に関連する項目の予習を推奨します。オンライン授業時の講義資料は、授業支援システムを用いて提示します。

【参考書】

浅居喜代治著：　基礎システム工学、オーム社
川口淳一郎監修：　小惑星探査機「はやぶさ」の超技術、講談社
木田隆、小松敬治、川口淳一郎著：　人工衛星と宇宙探査機、コロナ社
木下宙著：　天体と軌道の力学、東京大学出版会
栗木恭一著：　宇宙プロジェクト実践、日本ロケット協会
小林繁夫著：宇宙工学概論　丸善株式会社
茂原正道著：宇宙工学入門、培風館
茂原正道、木田隆著：宇宙工学入門 II、培風館
津田雄一著：　はやぶさ 2 最強ミッションの真実　NHK 出版
日本プロジェクトマネジメント協会編：　よりよくわかるプロジェクトマネジメント、オーム社
ヘンリー・ペトロスキー著、安原和見訳：　エンジニアリングの真髄、筑摩書房
室津義定編著: 航空宇宙工学入門、森北出版
矢野創著：　星のかけらを採りにいく-宇宙塵と小惑星探査-、岩波書店
山川宏著：　宇宙探査機はるかなる旅路へ、化学同人

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業について、以下の配分と評価基準に即して成績考課を行う予定です。ただし秋学期中にコロナ禍等の理由により、当初の受講方法が変更される場合は、授業方法とともに考課についても見直す場合がございますので、ご注意ください。

＞　初回アンケート（1 回）　0%
(提出必須・開始時点の理解度の把握)
＞　クイズ　（12 回）　18%
(各授業のポイントの理解)
＞　課題レポート（2 本）　22%
(宇宙工学の役割の理解、宇宙輸送系・人工衛星・宇宙機の基本の習得)
＞　掲示板ディスカッション参加 (1 回) 10%
(宇宙プロジェクト基本技能の習得)
＞期末試験（1 回）　50%
(宇宙の概念、宇宙工学の役割、宇宙工学全般の基礎知識、宇宙プロジェクト基本技能の習得)

上記の合計を 100%としたとき、本科目が設定した到達目標を 60 % 以上達成している履修登録学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業シラバスは現講師によって 2020 年度より全面的に刷新されて以来、3 年度目になります。2020 年度、2021 年度の受講学生を対象に行ったアンケート結果によると、コロナ禍下で全授業をオンラインで行ったにもかかわらず、本講義は「受講開始前に期待していない学習内容を教授できていた」とする評価が 8 割を超え、7 割以上が「宇宙工学への関心がさらに高まった」と答えました。一方、授業支援システムの各種機能を使ったアクティブラーニングや期末考査に一部の技術的課題が明らかになりました。本年度の授業は、過去二か年度の教訓を生かして、より深い学びを対面とオンライン双方で実現すべく、一層の工夫を試みていきます。なお、授業レベルについては、必ずしも宇宙工学を専門としない理工学系学部生の受講に配慮しつつも、宇宙理工学の研究を志す学部生や一部大学院生に必須となる学識もカバーします。

【学生が準備すべき機器他】

資料閲覧、課題提出、ディスカッション参加等のため、授業支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】

【この科目を要件とする履修科目】

ありません。ただし高校卒業程度の物理及び数学を学習していることを想定します。

【期末試験】
試験期間に実施します（2023 年 1 月 26 日予定）。オンラインにて実施する場合の要項は、後日周知します。
【オフィスアワー】
原則として、対面・オンラインともに授業終了直後に最大 30 分間、オフィスアワーを設けます。また、学習支援システムを経由したテキストによる質問も受け付けます。
【実務経験のある教員による授業】
講師は過去四半世紀以上にわたって、日欧米で 1 ダース以上の宇宙実験および宇宙探査プロジェクトを実践してきた経験を有しており、現在も太陽系探査科学の学術研究および大学院教育に従事しています。本科目では、そうしたバックグランドを生かして、学術的な基礎知識と、宇宙プロジェクトの実践知の初歩の両方を、意欲ある学生諸君にお伝えしたいと思います。なお法政大学大学院理工学研究科では、JAXA との連携協定に基づく客員准教授として、大学院生の研究指導にも当たっています。

【Outline (in English)】
【Course Outline】 The modern society is directly connected with the global environment beyond national borders and thus our every-day life heavily depends upon benefits from space technology. The most challenging quests in science of this century such as origins and principals of life and the Universe itself also require deep exploration of space. This class aims students to learn fundamental concepts of space and role of space engineering in our modern society, to understand introductory knowledges in the whole disciplines of space engineering, and to acquire basic skills for planning and executing actual space projects, which will be applicable to many other disciplines.
【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to achieve the following three objectives:
1. To understand fundamental concept of the Universe and role of space engineering in the modern society
2. To master basic knowledge of major disciplines within space engineering
3. To understand principals and system structure of space transportation, artificial satellites, and spacecraft in order to master basic skill sets necessary for mission planning and execution of an actual space project
【Learning Activities outside of Classroom】 Before/after each class meeting, students are expected to generally spend 4 hours outside the class to master the course content.
【Grading Criteria /Policy】 Students will pass this course when he/she achieves the learning objectives defined the above more than 60 % out of 100 % in total, based on the following criteria.
> Initial questionnaire (x1) 0 % (Required)
> Quiz (x12) 18 %
> Study Reports (x2) 22 %
> Online Discussion Contribution (x1) 10 %
> Final Exam (x1) 50 %

MEC300XB

製品開発工学

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
製品開発は，多様な組織が密接に協調しながら，製品を企画し指定された期間内に要求される品質の製品を生産するまでの複雑で組織的な活動である。機械工学科の各科目の知識を基礎に，製品開発プロセスの全体を理解する。
また，社会での実践経験（実戦経験）の豊富な方々を招き，開発事例や経験を講義して頂く。これらを通し，製品企画や仕様決定，製品アーキテクチャ，製品プロトタイピング，製品開発管理などの基礎手法を学ぶ。また，産業界の事例により製品開発や研究活動の流れを具体的に把握する。
以上の内容を通し，自発的に学ぶ意識や問題を発見できる意識を自ら養い，製品開発，研究活動や問題設定を具体的に進められる基本的な能力をつける。（この能力や意識は，3 年後期の PBL や 4 年の卒業研究，博士前期課程（修士）での研究活動に役立つ）
上記のような素養が身につけられれば，機械工学の王道系企業に限らず，電機メーカや食品メーカ，医薬品メーカ，建設業界などの企業への就職を目指しても魅力的な人材として高い評価を受けるだろう。
授業担当者は，本講義を通して企業人の視点を学び・感じ取ってもらい，今後の進路や就職活動に役立ててもらいたいと思っている。

【到達目標】
複雑な実務活動である製品開発の基本的考え方を学び，事例を通じて現代の製品開発の様相を理解する。機械工学の他の関連科目の役割りや重要性を理解し，製品開発や研究の流れを理解する。
以上の理解によって，自ら進んで自発的に学ぶ意識や自ら問題を発見できる意識を養い，製品開発や研究活動，課題設定を具体的に進められる基本的な能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
製品開発工学に関連する機械工学の科目は多い。また，必要な基礎知識を復習しながら，製品開発工学に必要となる手法を学んでもらいたい。授業計画では大きく分けて，製品開発工学の概要，企業の製品開発で必ず必要となる特許，最新の製品開発事例，研究や製品開発での実験，検証おいて重要な計測学の基礎，研究，製品開発において多用される手法などについて学ぶ。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。また，ほぼ毎回レポート課題を課す。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。
本授業では，海老裕介氏（伊藤・海老国際特許事務所，代表弁理士），梶原優介氏（東京大学，教授），後藤智徳氏（㈱ミツトヨ，執行役員，Ph.D.），田中秀岳氏（上智大学，准教授），圓谷寛夫氏（現・精密工学会・事務局長，元・㈱ニコン・ゼネラルマネージャ），西村公男氏（日産自動車㈱パワートレイン生産技術本部パワートレイン技術企画部，エキスパートリーダー），橋本信幸氏（元・シチズン時計㈱・研究開発センター・上席研究員，Ph.D.），藤井章弘氏（現・㈱エビデント（旧・オリンパス㈱・イノベーション推進部・フェロー），Ph.D.），藤嶋 誠氏（DMG 森精機株式会社・取締役副社長，博士（工学）），宗像令夫氏（㈱ＰＱＭ総合研究所，代表取締役社長，元リコー），山本和久氏（マツダ株式会社，元・人事室，現・商品戦略本部），湯島 彰（株式会社東芝，元東芝デザインセンター長）（五十音順）ら，研究・開発経験の豊かな方々をお招きし，企業・大学での開発現場における実践的な事例を学ぶ。
以上の方々と授業担当者の講義を通し，研究開発に加え人々の役に立つことや社会貢献の精神・考えを学び，将来の就職活動や自己実現にも役立ててもらいたいと考える。

新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	製品開発プロセス，研究，開発について	製品開発とそのプロセスの全貌，研究・開発について講義する。
2	特許入門（1）	弁理士の方を招いて特許の基礎から出願の仕方，特許につながるアイディアの出し方まで講義いただく。
3	特許入門（2）	担当教員の 2016 年 3 月迄の企業経験や企業での特許実績を踏まえた特許の基礎や事例，コツについて講義する。
4	企業における製品開発事例（1）	大手自動車メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における大事なポイントや求められる人材について講義いただく。 大学における学び方や姿勢は，高校までとは全く異なること，また，就職活動を有利にするためにも，学生時代に意識改革をしておくことが良いことなどを講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
5	企業における製品開発事例（2）	大手光学機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
6	企業における製品開発事例（3）	大手光学機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例について講義いただく。また，企業における製品開発や設計業務において，大学の講義内容がいかに重要であるかを講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
7	企業における製品開発事例（4）	大手計測機器メーカの方を招いて，企業における製品開発の事例や製品開発における姿勢について講義いただく。 また，所属される企業の求める人材などについても紹介いただく。
8	企業における製品開発事例（5）	担当教員の 2016 年 3 月迄の約 8 年間の企業における研究・製品開発経験を交えた製品開発の考え方や製品開発事例，大学との共同研究などについて講義する。
9	大学における研究・開発の事例（1）	東京大学の教員の方を招いて，大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
10	大学における研究・開発の事例（2）	上智大学の教員の方を招いて，大学における研究・開発の事例や企業との共同研究などについて講義いただく。
11	計測学の基礎	製品開発には計測が必要不可欠である。その絶対不可欠な計測について講義する。 計測における考え方や必要性，事例，測定機の種類などを講義する。 計測分野は，機械工学系出身の者にとって，もっともノーベル賞に近い分野の一つであるほど重要である。
12	統計学の基礎（1）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計処理を行う。統計処理を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計処理は重要である。 統計学の基礎中の基礎から，表，グラフによるデータ処理，度数分布表やヒストグラムの作成方法，企業の現場で使用する統計学などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。

13	統計学の基礎（２）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計処理を行う。統計処理を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計処理は重要である。 統計学の基礎として，ヒストグラムの分析の仕方，累積度数分布の作成方法，数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。
14	統計学の基礎（３）	製品開発には計測が必要不可欠であるが，測定データは必ず統計処理を行う。統計処理を誤れば，間違った分析をしてしまい，製品開発も研究も暗礁に乗り上げる。それほど統計処理は重要である。 統計学の基礎として，数値による統計処理の種類・計算方法などについて講義する。 ３回の講義で統計学の概要がつかめるように，毎回のレポート課題とその答え合わせを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

１．身近にある機械を観察し，その本質的機能は何か，なぜそのような構造になっているのか，もっと良い構造は考えられないか，などを考え，問題意識を持って授業に臨むことが期待される。

２．大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

３．機械工学に関する基礎的な科目および設計工学について，よく復習し身につけておくことが重要である。製品開発のための実用的な設計手法は多いが，授業で学んだだけでは真の理解には至らない。自ら課題を設定し，自発的に学ぶ学習態度が望まれる。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

１．必要に応じて授業資料を配布する。

２．トリーズ (TRIZ) の発明原理 40 あらゆる問題解決に使える [科学的] 思考支援ツール，高木芳徳，ディスカヴァー・トゥエンティワン社（2014 年），2,640 円（税込）.

３．『生産性革命のためのプロジェクト型品質マネジメント手法 PQM: お客様ファーストの新製品開発から商品化までのプロセス変革』，宗像 令夫，リコーテクノロジーズ (株)PQM 推進チーム，日科技連出版社 (2018)，3,080 円（税込）.

【参考書】

１．『101 デザインメソッド―革新的な製品・サービスを生む「アイデアの道具箱」』，ヴィジェイ・クーマー，Vijay Kumar，渡部典子（翻訳），英治出版（2015 年），2,750 円（税込）.

【成績評価の方法と基準】

成績評価は，授業中の課題： 80 %，定期試験： 20% の配分とする（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート： 100 %となる。期末試験を実施しない場合は，実施の２週間前までにアナウンスする）。

講義中に設定される課題についてのレポート提出状況，レポートの内容および期末試験の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

① 授業を聞くだけでなく，自ら具体的な製品開発課題を想定し，授業で学ぶ考え方や手法を積極的に実践し深く理解していくことが望まれる。

② 大学の授業は高校までの授業と異なり，授業の内容を勉強するだけでなく，教師がいなくても自分で学ぶことのできる能力：勉強の仕方を身につける場です。この能力を身に付けて，養えている学生は，卒業研究を含む３・４年生科目で能力を発揮し，更に，企業に勤めてからも活躍しています。

③ 授業の理解を支援する資料を授業支援システムにアップロードすることで学びの自由度を向上させ，授業内容の理解を深めることを可能とした。

【学生が準備すべき機器他】

１．必要に応じて貸与ノート PC や関数電卓が必要になる。

２．レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示するので厳守のこと。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の開発および最先端の超精密機器の研究開発の実務経験がある。また，特許・知財管理業務の実務経験，および，研究開発者として特許出願経験や登録特許も保有する。

加えて，企業人として大学・研究機関への共同研究の依頼・契約締結の経験，および，逆に大学人として企業・研究機関への共同研究の依頼・受託・契約締結の業務経験を有する。

フィールドワークについては，課題を課す。具体的には，学生本人が興味のある製品や商品，サービスについて市場で流通しているものと比較して考察・発案する課題を課す。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The product development is a complex and organizational activity, and various organizations should cooperate closely to plan products and produce products of required quality within a specified period. In order to understand such product development, in this lecture, students understand the whole product development process based on the knowledges of each lecture of Mechanical Engineering Department.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the processes and concepts of product development.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable.

MEC300XB

ＣＡＤ／ＣＡＭ／ＣＡＥ

平野　元久、吉田　一朗

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CAD(Computer Aided Design)/CAM(Computer Aided Manufacturing)/CAE(Computer Aided Engineering) の概要を理解し，製品のモデリングやエンジニアリングシミュレーションなどの基礎的手法を学ぶ。

【到達目標】

汎用の CAD/CAM/CAE 統合ソフトウエアを使用して，基礎的な課題を実習により解決し，まとまった設計解析事例を経験することにより，実務的な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では，CAD ソフト「Solid Works」および CAM ソフトウェアを利用した実習をとおして以下の技術を学ぶ．

（１）３Ｄ（ソリッド）モデリング

（２）機械加工シミュレーション

（３）工学シミュレーション

（1）（2）は吉田が担当し，（3）は平野が担当する。実習は２クラスに分けて行う。学生は，下記の計画に従って，吉田の実習を７回，平野の実習を７回受講する。前半に吉田の授業を受けたクラスの学生は，後半，平野の授業を受ける。前半，平野の授業を受けたクラスの学生は，その逆となる。適時，課題の解説などや質疑応答やアクティブラーニングなどを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，秋学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1（合同）	CAD/CAM/CAE 概論	「ものつくり」と CAD/CAM/CAE，事例紹介
1（吉田）	２次元スケッチ	① SolidWorks の基本機能の理解と実習 ②２次元スケッチ機能の理解と実習 課題１：２次元スケッチにおける拘束条件の活用
2（吉田）	３次元モデリング	①３次元モデリング基本機能の理解と実習 ② ToolBox 等を利用した複雑形状のモデリング実習 ③３次元複雑形状のモデリング
3（吉田）	アセンブリモデリング	①アセンブリモデリング基本機能の理解と実習 ②複雑なアセンブリモデリングの実習 ③リンク機構のモデリング
4（吉田）	モーションシミュレーション	①モーションシミュレーション基本機能の理解と実習 ②様々な拘束条件や運動条件の与え方の実習 ③リンク機構の様々な運動状態の解析
5（吉田）	CAM の基礎（１）	①機械加工・工作機械・CAM の基本知識の学習 ② CAM ソフトウェアのインストールと基本機能の理解 ③ 3D CAD 自由課題プレゼンテーション
6（吉田）	CAM の基礎（２）	① CAM ソフトウェアによる加工情報生成実習 ② CAM ソフトウェアによる工作機械の加工パスシミュレーション ③ 3D CAD 自由課題プレゼンテーション
1（平野）	1.SolidWorks 基本操作	(1)SolidWorks Simulation 解析手順 (2)SolidWorks Simulation の操作 (3) 解析結果の評価 課題 1 集中荷重が作用する片持ち梁のたわみ変形
2（平野）	2. 静力学解析	課題 2 片持ち梁の断面形状と変形・応力
3（平野）	3. 静力学解析における最適設計	(1) 最適化の目的・設計変数・制約条件の設定 (2)SolidWorks Simulation による寸法最適化の実施手順 課題 3 分布集中荷重が作用する I 型断面の片持ち梁の最適設計
4（平野）	4. 振動モード解析	(1)SolidWorks Simulation による固有値解析の手順 (2) 解析結果（アニメーション）の評価 課題 4 拘束条件と振動特性
5（平野）	5. 熱伝導解析	(1)SolidWorks Simulation による熱伝導解析の手順 (2) 解析結果の評価（温度等高線図の作成） 課題 5 丸棒の熱伝導解析
6（平野）	6. 流体解析	(1)SolidWorks Flow Simulation の設定 (2)SolidWorks Flow Simulation の操作 (3) シミュレーション結果の評価（ベクトル図，流跡線） 課題 6 空力特性を考慮した車のデザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

１．配付資料を，授業支援システムにアップするので，各自，事前にダウンロードし持参すること。事前に実習内容を確認し，教科書や配付資料に記載されている操作方法に目をとしておくこと。

２．各授業テーマに関する資料の予習・復習。

３．あらゆる科目で共通であるが，授業で学んだだけでは真の理解に至らない。自発的に学ぶ学習態度が望まれる。

【テキスト（教科書）】

【吉田担当分： CAD/CAM についての教科書】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

１．門脇 重道，藤本 浩，高瀬 善康，黒田 浩晟： SolidWorks による３次元 CAD，実教出版（2012），2,310 円（税込）．

２．アドライズ：よくわかる 3 次元 CAD システム SOLIDWORKS 入門―2017/2018/2019 対応，日刊工業新聞社（2019），3,520 円（税込）．

【参考書】

【CAE についての参考書】

１．竹内・樫山・寺田：計算力学，森北出版

２．金田： SolidWorks アドオン解析ツール利用入門，技術評論社

【CAD/CAM についての参考書】

３．水越紀弥：やさしく学ぶ SOLIDWORKS (特別付録 DVD-ROM 手順動画+練習用ファイル)，エクスナレッジ（2017），3,520 円（税込）．

４．浅川直紀，他：３次元 CAD・CAE・CAM を活用した創造的な機械設計，日刊工業新聞社（2009），3,300 円（税込）．

５．コンピュータ教育振興協会： 2023 年度版 CAD 利用技術者試験 3 次元公式ガイドブック，日経 BP 社（2023），4,073 円（税込）．

【成績評価の方法と基準】

成績は，平野元久 50 点，吉田 50 点の合計 100 点で評価する．配点は以下のとおり．

課題提出状況（30%），モデリングやシミュレーションの実行に必要な基礎的な知識を評価する課題（70%）　与えられた課題に対するモデリングやシミュレーション能力を評価する

ただし，平野・吉田とも 60%以上取得しなければならない。どちらかが 60%未満の場合，不合格となる。また，平野担当分，吉田担当分あるいは全体の出席日数が２／３に満たない学生は評価の対象外 (E) とする．

なお，１時限目に３０分以上遅れて入室した学生に関しては，特別な理由が無い限り，２時限目を含めてその日は欠席扱いとする．

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムを活用して実習が進められるので，SolidWorks の操作に習熟しておくこと．

【学生が準備すべき機器他】
大学の情報処理教室に設置された PC とインストールされたソフトウェア（SolidWorks）を使用する。CAM ソフトウェアについては，各自の貸与ノート PC にインストールする。

【その他の重要事項】
本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者は，精密機器メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また，大学においては 1990 年代後半から手書き製図・設計と CAD/CAM/CAE に触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。
これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・製図・CAD/CAM/CAE に関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAE のソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・製図・CAD/CAM/CAE の経験と考察に基づいたものである。

大学生活は，社会に出て就職する前の最後の準備期間 (学習期間) である。社会人となると，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，社会に出るまでに，独力で学習できる技術・能力・心構えを身に付けられると良い。この能力と技能は生涯に渡って必要なものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The objectives of this class are to learn how to use the fundamental methods of CAD (Computer Aided Design), CAM (Computer Aided Manufacturing), and CAE (Computer Aided Engineering) application programs supplied by widely-used SolidWorks, and to acquire skills for developing product modeling and finite element methods through making use of the application functions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand and acquire the product modelings and finite element methods using CAD, CAM, and CAE.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC400XB

環境工学

西井　啓典

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械工学科の学生の多くは、メーカに就職し、設計業務に携わる。製品設計には環境配慮が欠かせない時代になっている。技術者あるいは社会人として必要な環境関連の知識を得るとともに、その重要性を認識する。また、環境、エネルギー、福祉等は将来的にも重要分野で、社会人として環境に係る基礎知識を身につけることは、今後の人生にとって有意義である。

【到達目標】
1. 典型 7 公害についての基本事項、防止装置の機械的要素等について理解する。
2. 環境管理、環境影響評価、リサイクル・リユース、ゼロエミッションなどの循環型社会に於ける役割について理解する。
3. 地球温暖化、再生可能エネルギー等について学び、日本のエネルギー基本計画との係りを理解する。
4. 環境問題全般について広く学び、地球環境を維持するため、社会貢献の心を養う。
5. 企業における環境関連製品の研究開発、プロジェクトの受注から納入までの流れの事例により実業務の一端を知る。
6. 最先端の水質汚濁防止技術の動向に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を配布し、パワーポイントを用いて、環境装置の写真なども見ながら、講義を行い、環境全般について理解してもらう。並行して、技術開発、先端技術など社会の実情をトピックスとして紹介する。提出された課題レポートから幾つか取り上げ講評や解説を行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	環境概論	環境工学の講義内容、進め方、トピックスについて説明する。環境基本法、気候変動枠組条約締約国会議の状況、SDGs 等の概要について解説する。
2 回	環境問題の歴史と発展	環境問題の変遷について学習し、過去の環境関連事故の事例に学ぶ。なお、トピックスは基本的に毎回、紹介する。
3 回	大気汚染	大気汚染の原因、評価、低減装置（脱硫、脱硝、集じん装置）等について学ぶ。
4 回	水質汚濁 (1)	水質汚濁の変遷、防止対策及び技術の概要について学ぶ。
5 回	水質汚濁 (2)	水質汚濁の原因、評価、活性汚泥法など水処理技術等について学ぶ。
6 回	土壌汚染、地盤沈下	土壌汚染、地盤沈下の原因、評価、防止技術等について学ぶ。
7 回	悪臭	悪臭物質の基礎、発生原因と防止技術等について学ぶ。
8 回	騒音	騒音の基礎、騒音苦情の実態、評価、防止技術（消音器、防音壁）等について最新技術を交えて学ぶ。
9 回	振動	振動苦情の実態、振動の基礎、評価、防止技術（防振、制振、免震、動吸振器）等について学ぶ。
10 回	廃棄物	焼却設備など廃棄物処理方法、処分場等について学ぶ。
11 回	リサイクル、リユース	循環型社会の形成に必要な、家電・建築・自動車・容器包装などリサイクルの方法・実態、各種リユースについて学ぶ。
12 回	地球温暖化、新エネルギー	地球温暖化の原因と防止策、新 (再生可能) エネルギー等について学ぶ。
13 回	放射能、ゼロエミッション	放射能の基礎、影響、復旧策、ゼロエミッションによる循環型社会の構築等について学ぶ。
14 回	環境管理と環境監査、環境影響評価 (環境アセスメント)	環境 ISO（ISO14001）の考え方と仕組み、環境影響評価 (アセスメント) 等について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】環境問題は日々、新たな問題が発生している。最新情報を得るためには、新聞やインターネットなど、情報に敏感になることが大切である。
また、身の周りで起こる事象、製品・装置のﾒｶﾆｽﾞﾑ等に疑問を持ち、考える習慣をつけることで、技術的センスが養われ、このことが将来、技術者としての成長につながる。

【テキスト（教科書）】
講義毎に自作の資料を配布、または学習支援システムに資料を添付する。

【参考書】
新公害防止の技術と法規　産業環境管理協会
（大気編、水質編、騒音・振動編など）
環境省、国交省、総務省などの各省、機械学会など各種学会の Web.
松信八十男　著　地球環境論入門　　サイエンス社
福田基一　他著　環境工学概論　　培風館
久保田宏　他著　廃棄物工学　　培風館

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（５０％）と春学期試験（５０％）を合わせて評価する。100 点満点とし、60 点以上を合格とする。
課題レポートは環境に関する話題について、現状、問題点、解決方法、自分の考えなどをまとめ（１５００字以上）、６月末頃 (別途指示) に提出する。
春学期試験は、テーマ毎に出題した中から、春学期試験時に受講者が選択 (別途指示) して回答する。
90～100 点を S
87～89 点を A+
83～86 点を A
80～82 点を A-
77～79 点を B+
73～76 点を B
70～72 点を B-
67～69 点を C+
63～66 点を C
60～62 点を C-
0～59 点を D(不合格)
未受験, 採点不能を E(不合格)

【学生の意見等からの気づき】
企業の新製品開発の実情、大型案件の受注活動から設計、製作、建設、納品に至る一連のプロジェクト業務の流れ、海外視察・学会などの体験談等々、トピックスとして紹介した事項が興味深かく、有益だったとの意見が散見された。今年度も継続させることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大部分の学生は、卒業すると就職し、夫々の所属先で活躍することになる。人間として、技術者として成長するための心掛けなど、社会人として役立つ情報を紹介したいと考えている。
企業で長年、実業務（技術開発、ライン業務、プロジェクト業務）に携わり、また、豊富な学会活動などに基づいた経験談（事例）、最新技術などを紹介する。

【Outline (in English)】
Outline
Many students of the machinist subject find a job in the maker and are engaged in design duties. It is the times when environmental consideration is indispensable to a product design. I get necessary environment-related knowledge as an engineer or a member of society and recognize the importance. In addition, it is significant for the future life that environment, energy, the welfare acquire basic knowledge to affect environment as a member of society in the future in an important field.
Learning Objective
1.I understand a basic matter about the model 7 pollution, the mechanical element of the prevention device.
2.I understand a role in recycling society such as environmental management, an environmental assessment, recycling reuse, the zero-emission.
3. I learn about global warming, renewable energy and understand the Japanese basic engery plan.
4. I develop a heart of the contribution to society to learn about overall environmental problem widely, and to maintain a global environment.
5.I know one end of true duties by the example of flows from the research and development of the environmental product in the company concerned, the order of the large-scale project to the delivery.
6.I know the trend of the advanced technique of the field of sound.
Learning activities outside of classroom

A new problem produces the environmental problem every day. It is important to become sensitive to a newspaper and information including the Internet to get the latest information.
In addition, I have a question toward a phenomenon to be caused around the body, the mechanism of a product, the device, and a technical sense is fed, and this is connected for the growth as the engineer in the future by touching a custom to think about.
Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination : 50%, Short reports : 50%

MEC100XB

工業数学基礎演習

平野　元久、吉田　一朗

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
工業数学の基礎となる、微分積分、線形代数 (ベクトル・行列)、確率統計について、ソフトウェアを利用して理解を深める.
また，本科目は，機械工学の四力学だけでなく，人工知能（**AI**）やデータサイエンスを学ぶ上での理解の支援となる.

【到達目標】
（1）微分積分、確率統計・線形代数 (ベクトル・行列) における演習問題を手計算で解くことができる.
（2）微分積分、線形代数 (ベクトル・行列)、確率統計に置ける演習問題をソフトウェアを用いて解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
数値計算ソフトウェアである **MATLAB**，**Mathematica**，**Excel** 等のソフトウェアを使用して，微分積分，確率統計，線形代数についての演習を行う．なお，「微分積分」，「確率統計」，「線形代数」の講義の実施順序は年度により変更することがある．適宜，課題の解説や質疑応答の内容を講義の進め方にフィードバックする．　新型コロナウイルスの感染状況を考慮し，必要に応じてオンライン開講とする．それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム **Hoppii** 等から通知する．本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： **Hoppii** 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / **No**

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / **No**

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	微分積分（1）	**MATLAB** 入門：数と式の操作 (担当:吉田一朗)
第 2 回	微分積分（2）	数式とグラフ (担当:吉田一朗)
第 3 回	微分積分（3）	微分と積分 (担当:吉田一朗)
第 4 回	微分積分（4）	代数方程式 (担当:吉田一朗)
第 5 回	微分積分（5）	微分方程式 (担当:吉田一朗)
第 6 回	確率統計 (1)	確率統計 (1) **Excel** による確率統計計算の基礎 (担当:平野元久)
第 7 回	確率統計 (2)	確率統計 (2) 確率の基本：確率密度と正規分布 (担当:平野元久)
第 8 回	確率統計 (3)	確率統計 (3) 正規分布・標準正規分布 (担当:平野元久)
第 9 回	確率統計 (4)	確率統計 (4) 正規分布の活用 (担当:平野元久)
第 10 回	確率統計 (5)	確率統計 (5) 確率統計の試験 (担当:平野元久)
第 11 回	線形代数 (1)	線形代数 (1) **MATLAB** を用いた線形代数の基礎: 行列の操作 (担当:平野元久)
第 12 回	線形代数 (2)	線形代数 (2) 逆行列計算と連立方程式の解法 (担当:平野元久)
第 13 回	線形代数 (3)	線形代数 (3) 線形変換 1 線形性の証明 (担当:平野元久)
第 14 回	線形代数 (4)	線形代数 (4) 線形変換 2 線形写像の活用 (担当:平野元久)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，**2** 単位の授業では約６７時間以上です．　２単位の授業では，１週あたり約４．８時間以上の授業時間外の学習を学生が実施することが義務付けられています.
講義開始までに、数学の基礎（微分積分、確率統計，線形代数）を復習しておくこと．毎回授業で行った内容の復習を行うこと。
あらゆる科目で共通であるが，授業で学んだだけでは真の理解に至らない．自発的に学ぶ学習態度が望まれる.

【テキスト（教科書）】
授業時に指示する.
【吉田担当分について】
詳細は授業時に説明する。

1. **MATLAB** ではじめるプログラミング教室，奥野貴俊，中島弘史，コロナ社，2017 年，2,860 円（税込）.
2. 表面性状用ローパスフィルタの数理，近藤雄基，沼田宗敏，吉田一朗，東京図書出版，2023 年，2,200 円（税込）.
3. はじめての **MATLAB** プログラミング，大川善邦，工学社，2016 年，2,090 円（税込）.

【平野元久担当分】
講義時にプリント，プログラムファイル等を配布する.

【参考書】
授業時に指示する.
【吉田担当分について】
詳細は授業時に説明する。
下記は，機械工学科での数学や物理の計算の基礎学習に有用な良書である。
１．ポイントを学ぶ工業力学，真鍋健一，鈴木浩平，丸善出版，2009 年，3,190 円（税込）.
２．大学新入生のための微分積分入門，石村園子，共立出版，2004 年，2,200 円（税込）.
３．大学新入生のための物理入門 第 2 版，廣岡秀明，共立出版，2012 年，2,310 円（税込）.

【平野担当分】
講義時にプリント，プログラムファイル等を配布する．を配布する.

【成績評価の方法と基準】
２名の教員の採点を総合し、総合得点１００点満点中 60 点以上を合格とする.
なお，全授業回数の２／３以上の出席を合格の必須要件とする.
本科目の総合得点については，微分積分，確率統計，線形代数の各単元の得点の平均点により決定する.
微分積分の得点については，課題・宿題を１００％の配分として評価する．確率統計と線形代数の各単元の得点については，授業内課題の得点：２０％，定期試験の得点：８０％を配分して決定する.

【学生の意見等からの気づき】
PC 操作に不慣れな 1 年生学生も多く，TA の協力を得て，丁寧に指導する.

【学生が準備すべき機器他】
MATLAB，**Excel** 等のソフトウェアを使用するので，通常の教室で講義が行われる場合には、毎回の授業時に大学貸与のノート PC を持参すること.

【その他の重要事項】
本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者は，企業勤務時代において，数学と数値計算ソフトウェアなど（**Matlab**, **Mathmatica** や **C** コンパイラなど）を連携させながら，研究・開発の実務に従事していた経験がある.
確率統計と線形代数の試験については，定期試験期間に行う予定である.

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lecture, students will deepen their understanding of the calculus, vector, matrix, and probability statistics, which is the basis of industrial mathematics by jointly using softwares.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to understand the calculus, vector, matrix, and probability statistics by jointly using softwares.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
The total score of the two instructors is calculated, and a score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC100XB

図形科学

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
図面を作図し，図面を読み理解する図形科学の課題を着実かつ丁寧に解くことにより，研究技術者・教育者が備えるべき豊かな空間認識力・空間想像力を修得し，緻密な作業をやり遂げる実行力を身に付けることができる。図形の作図の課題では，3 次元物体を 2 次元図形に焼き直して描画する技法と，点・直線・平面などの図形要素について，たとえば，直線間の平行・垂直などの相互関係を作図によって解き明かす「図法幾何学」を学ぶ。授業では三角定規やコンパスなどの製図用具を実習で用いるので，製図用具を用意することが必須となる。

【到達目標】
図形を読み描きできる能力は，将来の研究技術者・教育者が備えるべき学力である．
本授業の図形科学の学びを通して，履修学生は，幾何学の原理にしたがって平面図形・立体図形を正確に平面上に表現し，表現された図形から物体の形状を正しく読み解く力を身につける．
本授業を履修する学生は，次の三項目を到達目標とする．
(1) 3 次元物体を 2 次元の平面図形を用いて表現できること．
(2) 平面図形から 3 次元物体の情報を読み解き空間認識力を養うこと．
(3) 図形・図面の作図法を学び，第三角法による工業製図の作図技法の基礎を習得すること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
3 次元の物体の 2 次元平面上への図形の描画方法と図形要素の相互関係を具体的に作図実習を行うことで理解する．毎回作図実習を行うが，実習時に，三角定規やコンパスを使用する。必要な道具について，講義中に説明するので必ず準備しておくこと．学生の理解度を確認するため，期末試験に加え理解度確認試験，模擬試験などの各種試験を実施する。理解度確認試験では，これまで学んできた作図法の理解度を実際に作図に関する問題を用いて確認する．適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう．理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する．

新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	図形科学の基礎	①製図用具の使い方，②図面の描き方
第 2 回	基礎作図 (1)	①直線・正多角形の作図，②円錐曲線の作図
第 3 回	基礎作図 (2)	①サイクロイド，②インボリュート曲線
第 4 回	立体の投影法 (1)	①投影法の原理，②主投影図，③三面図
第 5 回	立体の投影法 (2)	①副投影法の原理，②副立面図・副平面図，③ 2 次副投影法
第 6 回	直線と平面 (1)	①副投影法による実長線視図と点視図，②直線間の相互関係
第 7 回	直線と平面 (2)	①直線と平面の交点，②直線と平面の交角
第 8 回	理解度確認試験，まとめ	①主投影図，②副立面図・副平面図，③ 2 次副投影法，④直線間の相互関係，⑤直線と平面の交点・交角
第 9 回	直線と平面 (3)	①平面と平面の交線，②平面と平面の交角
第 10 回	直線と平面 (4)	①点から直線への垂線，②直線間の距離，③実形図
第 11 回	立体図形の相互関係 (1)	①断面の作図，②相貫
第 12 回	立体模型の作成	①三面図から，展開の技法により紙の立体模型を工作する。
第 13 回	立体図形の相互関係 (2)	①貫通点，②多面体・曲面体の相貫
第 14 回	総合課題	①主投影法，②副投影法，③直線・平面間の相互関係，④実形図

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文科省の省令で定められている時間外の学習時間は，2 単位の授業では約６７時間以上です。
つまり，2 単位の授業では，１週あたり約４．８時間以上の授業時間外の学習を学生が実施することが義務付けられています。

(1) 本授業は，テキストを基本として，作図演習を授業中に実施して行う。(2) 各授業テーマに関する資料の予習・復習および演習課題の図形の作図。(3) あらゆる科目で共通であるが，授業で学んだだけでは真の理解に至らない。自発的に学ぶ学習態度が望まれる。

【テキスト（教科書）】
１．磯田 浩，鈴木賢次郎：「工学基礎　図学と製図 [第３版]」，サイエンス社，2018 年，1,738 円（税込）．
２．適時，授業支援システムに資料をアップロードする。

【参考書】
磯田 浩，鈴木賢次郎：「工学基礎　演習 図学と製図 [第２版]」，サイエンス社，2019 年，1,045 円（税込）．

【成績評価の方法と基準】
成績評価の配分は，課題・レポート：６０％，期末試験：４０％（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：１００％となる。期末試験を実施しない場合は，第 10 回の講義までにアナウンスする）。
また，授業への出席率を平常点として評価する。出席日数が全体の２／３に満たない学生については，評価の対象外 (E) とする。
なお，３０分以上遅れて入室した学生に関しては，特別な理由が無い限り，欠席扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
1. 作図は一見難しいようでも，全てが同じ手順の繰り返しであるため，前期授業期間中のどこかで理解できると，全てが分かる。このためには演習が必要であるが，授業時間内にできる演習の量は限定されているので，演習書を利用して類似の演習を自習するとよい。

2. 本授業で身に付けた基礎力は，2 年生前期の機械製図では必須であり，3 年生後期の PBL 授業や 4 年生の卒業研究でも役立つ。また，企業への就職後，設計部署や研究開発部署での設計・研究・開発業務でも役に立つ重要な内容である。

3. 学生の理解度を確認するため，期末試験に加え理解度確認試験，模擬試験などの各種試験を実施する。理解度確認試験では，これまで学んできた作図法の理解度を実際に作図に関する問題を用いて確認する。

4. 理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。

5. 本授業では，図形等の作図実習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】
指定された製図用具を必ず毎回持参すること。指定された製図用具は，法政大学理工学部機械工学科専用製図セットとして，法政大学生協で販売される。

【その他の重要事項】
本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は，精密機械メーカで約８年間，実際に販売する製品の設計・製図および研究開発における超精密機器の設計・製図の実務経験がある。また，大学においては 1990 年代後半から手書き製図・設計と CAD/CAM/CAE に触れ，研究開発業務においても実際に使用してきた。
これらの経験を評価され，前職の精密機器メーカにおいて，設計・製図・CAD/CAM/CAE に関する社内教育訓練の企画・運営にも携わっていた経験がある。CAD/CAM/CAE のソフトウェアに関しては，CADSuperFX，AutoCAD，ANSYS，ANSYS DesignSpace，SolidEdge，NX，Unigraphics，Jw Cad，Pro/ENGINEER，ME10，SolidWorks など横断的に多くの経験を有する。本シラバスに記載の内容および本講義で説明する内容は，これらの設計・製図・CAD/CAM/CAE の経験と考察に基づいたものである。

「教職課程「数学」の教科に関する専門科目の幾何学の分野の科目である.」
大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】
【Course outline】

Students will be able to acquire a superior spatial awareness and spatial imagination that mechanical researchers and engineers should have by drafting the drawings and reliably and carefully solving the tasks of graphic science to understand the drawings. This lesson uses drafting tools such as triangle rulers and compass for practical training, therefore students should prepare the HOSEI University's drafting tools.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand and acquire the descriptive geometry and the graphic science.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

MEC200XB

計測工学

吉田　一朗

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では，データサインティストにとって必要となるデータサイエンスの基本的知識・技術を学ぶことができる。

データサイエンスとは，計測で得られた膨大なデータをプログラミングのスキルおよび数学，統計学の知識を組み合わせて解析し，有意義な知見や最適解を得ようとする行為および研究分野のことである。

近年，機械製品やそのシステムはますます複雑になり，機能や経済性，あるいは環境負荷低減の観点から，計測で得られたデータを処理し，合理的に最適解を得ることが望まれている。

計測および最適化は，機械工学系，理工系の基礎として大変に重要である。そのため，計測における重要な考え方と数理的な基礎理論の手法を学ぶ。基礎的手法として，最小二乗法やニュートン・ラフソン法などの理論を学ぶ。

本講義では手計算によって数式を解く演習を併用する方法を行なうため，学生は Matlab や C 言語などのプログラミング言語のコーディング技術を効率的に習得できる。また，本講義では，Excel のコマンドや規則演算の機能を併用することで，C 言語や Matlab における for 文などのプログラム言語コーディングで必要となる技法の理解を促進する。

【到達目標】

履修学生は，計測工学的観点から，計測における考え方とキーポイントを学ぶ。また，教養課程程度の線形代数学と微分積分学の知識を基礎として，最適化の基本的な数学的手法を理論的に理解する。テクニカルコンピューティング言語である Matlab の利用法と C 言語のプログラミングを学び，最適化の基礎問題を数値的に解いてみることにより，実践的な問題解決能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に，最適化及び計測の基礎概念を学び，その有用性を理解する。次に，計測データ処理および最適化の基礎理論として，主に一次関数の最小二乗法，二次関数の最小二乗法，高次関数の最小二乗法，円の最小二乗法を偏微分と行列演算の方法で学び，また，ニュートン・ラフソン法などを学ぶ。演習課題を通じて具体的な計算手法を身につける。

データサイエンスにおける具体的な演習計算には，手計算および Matlab，C 言語，Excel を利用する。授業中に Matlab，C 言語，Excel の基本的な使用法も学ぶ。大まかな流れとしては，①『手計算によって数式を解く・流れを確認する』⇒②『Excel によって妥当性を確認する』⇒③『C 言語，Matlab でコーディングし，最適化アルゴリズムを実装し理解する』などとなる。理解度を上げるため，理解の状況や進捗に合わせて授業計画の順序などを柔軟に変更する。適時，課題の解説などや質疑応答などを通じてフィードバックを行なう。

新型コロナウイルスの状況や政府からの非常事態宣言および東京都からの緊急事態措置等が発出される状況となった場合は，春学期中，必要に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業内容や計画の変更，成績評価の方法などの変更等については，学習支援システムでその都度提示する。また，本授業の開始日も必要に応じて学習支援システム： Hoppii 等から通知する。本シラバスに記載の全事項は新型コロナ禍前や非常事態宣言時以外を想定して作成されているため，オンライン式，対面式を含め具体的な授業の進め方などは，学習支援システム： Hoppii 等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	計測，最適化およびデータサイエンスのキーポイント	ガイダンス，計測における考え方，最適化・データサイエンスとは何か 機械設計問題への最適化の簡単な応用例。
2	Matlab 入門，C 言語の簡単な復習	Matlab の起動，基本的な操作，電卓としての使い方，簡単なグラフ，Matlab による行列の入力と演算の仕方，C 言語による行列の入力と演算の仕方。
3	Matlab と C 言語による行列の計算方法，グラフ描画入門（１）	Matlab による行列の入力と演算の仕方，C 言語による行列の入力と演算の仕方，3D グラフ描画入門，Matlab コマンド。
4	Matlab と C 言語による行列の計算方法，グラフ描画入門（２）	Matlab による行列の入力と演算の仕方，C 言語による行列の入力と演算の仕方，3D グラフ描画入門，Matlab コマンド。
5	様々なグラフの描画，最小二乗法とは	Matlab による 3D 描画，Mobius の輪，Klein 管などの描画，最小二乗法の概要。
6	最小二乗法入門 (1)	Excel による最小二乗当てはめ，最小二乗法における関数の最適な選択について。
7	最小二乗法入門 (2)	Excel のコマンドによる一次関数の最小二乗法，手描き及び最小二乗法による当てはめの比較。
8	偏微分による最小二乗法（一次関数）	偏微分を用い最小二乗法を手計算で解く，偏微分の復習。
9	行列による最小二乗法入門	手計算で一次関数の最小二乗法を解く，手計算で得られた結果を Excel に入力し，計算する。
10	行列による最小二乗法：一次関数	手計算で一次関数の最小二乗法を解き，Matlab によるコーディングを行う。
11	行列による最小二乗法：二次関数，高次関数	手計算で二次関数の最小二乗法を解き，Matlab によるコーディングを行う。
12	行列による最小二乗法：円の最小二乗法	手計算で円の最小二乗法を解き，Matlab によるコーディングを行う。
13	ニュートン・ラフソン法	ニュートン・ラフソン法入門と手計算，Excel の規則演算を用いた解の導出。Excel，Matlab による演習。
14	まとめ・評価	まとめと評価，試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

履修学生は，教養基礎科目として学習する線形代数学および微分積分学，統計学を十分に復習し身につけておくことが必要である。授業期間中には，Matlab，C 言語，Excel を使いこなせるように自主的に学習することが必要である。

【テキスト（教科書）】

教科書については，初回のガイダンスで説明する。

1. MATLAB ではじめるプログラミング教室，奥野貴俊，中島弘史，コロナ社， 2017 年， 2,860 円（税込）.

2.『表面粗さ―その 3　教科書に書けないワークのセッティングの裏技と最新の JIS 規格―』，吉田一朗，精密工学会，2014 年，オープンアクセス．
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjspe/80/12/80_1071/_pdf/-char/ja

4. はじめての MATLAB プログラミング（ IO ブックス），大川善邦，工学社，2016 年，2,052 円（税込）．

5. 最適化手法入門：データサイエンス入門シリーズ，寒野善博，駒木文保，講談社， 2019 年， 2,860 円（税込）．

6. 必要に応じて，講義の際に授業支援システムへの資料アップロード，もしくは，プリント配布をする。

【参考書】

データサイエンスの数学的理論の詳細については，数値解析や最適化手法の数学に関する教科書を参照のこと。下記にデータサイエンスと計測工学の良書を示す。

1. これなら分かる最適化数学，金谷健一，共立出版，2005 年，3,132 円（税込）．

2. ニューメリカルレシピ・イン・シー日本語版― C 言語による数値計算のレシピ，William H. Press 他，技術評論社， 1993 年，5,138 円（税込）．

3. 計測システム工学の基礎　第 4 版，松田康広・西原主計，森北出版，2020 年，2,750 円（税込）．

4. 工学のための最適化手法入門，天谷賢治，数理工学社， 2008 年，1,728 円（税込）．
5. Bilingual edition 計測工学 Measurement and Instrumentation，高 偉，清水裕樹，羽根一博，祖山均，足立幸志，朝倉書店，2017 年，3,080 円（税込）．
6. 表面性状用ローパスフィルタの数理，近藤雄基，沼田宗敏，吉田一朗，東京図書出版，2023 年，2,200 円（税込）．

一般的な数学の基礎については、線形代数学および微積分学、統計学の教科書を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

講義中に設定される課題についてのレポート提出および期末の試験を総合して判定する。

成績評価の配分は，課題・レポート：６０％，期末試験：４０％（ただし，期末試験を実施しない場合は，課題・レポート：１００％となる。期末試験を実施しない場合は，第 10 回の講義までにアナウンスする）。

【学生の意見等からの気づき】

1. 理論的な説明だけでは分かりにくい点については，例題や計算例による説明をもとに，自ら問題を解いて理解していく姿勢が重要である。
2. 理解の状況などに合わせて授業計画の順序や内容を柔軟に変更する。
3. 本授業では，Matlab プログラミングの演習において学生同士の意見交換・教え合い，学生自らの主体的な学びを奨励する。

【学生が準備すべき機器他】

1. 貸与ノート PC を使用する。Matlab，Excel を用いて数値計算（アルゴリズムおよびプログラミング）の練習を行う。
2. レポート・課題の提出用紙は，Ａ４もしくはＡ３のみを受け付ける。提出用紙サイズは，授業中に指示する。

【その他の重要事項】

本授業は，「実務経験のある教員による授業」である。授業担当者の吉田は精密計測機器メーカでの約８年間の業務経験の間に，数値計算の最適化アルゴリズムを応用したソフトウェアの研究開発と実装，製品化に携わった業務経験がある。博士後期課程において研究した最適化アルゴリズムを当該企業内で商品企画，提案し，その最適化アルゴリズを応用したソフトウェアの製品化と販売促進に携わり，大手自動車メーカなどへの販売実績もある。

また，授業担当者の吉田は，主担当の課長として表面粗さ計測機器及び真円度計測機器メーカーの中で日本で最初の JCSS 取得に貢献した。（JCSS とは，計測機器メーカの計測技術・能力を国家機関が審査する制度）

大学は，社会に出て就職する前の最後の準備期間（学習期間）である。社会に飛び立つと，学生時代のような手厚い教育を受ける機会は激減する。そのため，ぜひ社会に出るまでに，自力で学習できる技術と能力，精神，考えを身に付けられると良いと考える。この能力は一生ものであり，社会に出た後，どの分野に進んだとしても必ず役に立つ。

【Outline (in English)】
【Course outline】

In this lecture, students study Metrology, Optimization engineering, and Data Science. In this lecture, by combining exercises to solve mathematical expressions by manual calculation, let students efficiently acquire coding techniques of the programming languages such as Matlab and C languages. In addition, in this lecture, by using Excel command and rule operation function together, the lecturer promote students' understanding of techniques required for program language coding techniques such as "for statement" in C language and Matlab.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand Metrology, Optimization engineering, and Data Science.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The total score score of 60 or more out of 100 is considered acceptable. At least 2/3 attendance is required.

ELC200XD

基礎電気電子材料工学

笠原　崇史

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
電子デバイスを構成する物質である、導電体、半導体、誘電体、磁性体、有機半導体の電気特性および利用法を理解することを目的とする。また電気電子材料を理解するために必要な固体物性について学ぶ。

【到達目標】
導電体、半導体、誘電体、磁性体、有機半導体の電気特性、利用法について説明できる。また、最先端電子デバイスで用いられる電気電子材料およびデバイスの駆動原理について自ら学ぶ意識をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は板書、配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。
社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論	授業計画の説明・総論、電気電子材料の分類
第 2 回	電気電子材料の基礎 (1)	物質の構成、原子・分子・イオン、化学式、物質の量
第 3 回	電気電子材料の基礎 (2)	水素原子、ボーアの理論、電子の二重性、原子内の電子配置、構成原理
第 4 回	電気電子材料の基礎 (3)	イオン化エネルギーと電子親和力、化学結合、結晶構造、7 種類の結晶系
第 5 回	電気電子材料の基礎 (4)	ミラー指数、エネルギーバンド図の基礎
第 6 回	導電材料 (1)	金属の導電現象、オームの法則、電子の散乱と抵抗
第 7 回	導電材料 (2)	フェルミ・ディラックの統計、抵抗・配線材料
第 8 回	半導体材料 (1)	半導体の性質、シリコン原子と真性半導体、ダイヤモンド構造
第 9 回	半導体材料 (2)	不純物元素と P 型・N 型半導体、不純物準位、フェルミ準位
第 10 回	半導体材料 (3)	PN 接合の基礎、半導体製造プロセス、MEMS
第 11 回	誘電体材料 (1)	誘電体の電気的性質、誘電分極、誘電分散
第 12 回	誘電体材料 (2)	強誘電体のヒステリシス曲線・自発分極の温度変化、圧電体・焦電体を用いたデバイス
第 13 回	磁性材料	磁性、磁気モーメント、フントの法則、各種磁性材料、磁区と磁壁
第 14 回	有機半導体材料	有機化合物の性質、有機半導体材料を用いたデバイス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
1. 講義ノート、配布資料を復習する
2. 講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
松本智『基礎から学ぶ電子物性』(電気学会)、伊藤國雄『電気電子材料』(電気書院)、中澤達夫『電気・電子材料』(コロナ社)、湯本雅恵『基本からわかる電気電子材料』(オーム社) など。

【成績評価の方法と基準】
[評価方法]　試験 (70%)、講義時に実施する演習 (30%) による
[評価基準]　本科目において設定した目標を 60 %以上達成している学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
理解を助けるために、資料を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が、本講義に関連する最先端のマイクロデバイスや電気電子材料について講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the basic properties of conductor, semiconductor, dielectric, magnetic, and organic semiconductor materials to understand the characteristics of electronic devices.
(Learning Objectives)
At the end of this course, you will be able to discuss the crystal structures, the energy band structures, the piezoelectric effect, and the basic operation of PN junction diode, MEMS devices, and OLEDs.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to spend four hours on preparing and reviewing each class.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination (70%) and the reports (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC300XD

ロボット知能

伊藤　一之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人工知能の基礎について学習するとともに，進化計算のアルゴリズムを理解し，実装できるようにする

【到達目標】
進化計算のアルゴリズムを理解し，実装できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は，講義を中心として，人工知能の基礎について学習する．
後半は，人工知能の一例として進化計算を取り上げ，実際に，EXCEL を用いて進化計算のプログラムを作成する．
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「人工知能の基礎」	人工知能とは何か，その歴史を振り返りながら概要を説明する
2	「知能とはなにか」	チューリングテストなどについて解説し，知能とは何かを考える
3	「チューリングマシン」	チューリングマシンについて解説し，古典的な人工知能の実現方法について学習する
4	「古典的人工知能の問題点」	フレーム問題をはじめとする古典的人工知能の問題点について解説する
5	「古典的人工知能から新しい人工知能へ」	古典的人工知能の問題点を解決するための試みについて学ぶ
6	「進化計算」1	進化計算のアルゴリズムの概要を学ぶ
7	「進化計算」2	進化計算のアルゴリズムを手計算で実行し，理解する
8	EXCEL Visual Basic 1 基本演算，分岐，繰り返し計算	進化計算を実装するための準備として EXCEL Visual Basic の使い方を学ぶ
9	EXCEL Visual Basic 2 ファイル処理，グラフ処理	進化計算を実装するための準備として EXCEL Visual Basic の使い方を学ぶ
10	「進化計算の実装」1 初期個体の生成	乱数を用いて初期個体を生成するコードを実装する
11	「進化計算の実装」2 交叉	交叉を行うコードを実装する
12	「進化計算の実装」3 突然変異	突然変異を行うコードを実装する
13	「進化計算の実装」4 適応度関数	適応度を求めるコードを実装する
14	「進化計算の実装」5 選択	選択を行うコードを実装する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】前回の講義に用いたプログラムの内容を確認し，正常に動くようにしておくこと

【テキスト（教科書）】
伊藤一之著，ロボットインテリジェンス，オーム社，2007

【参考書】
R. Pfeifer, C. Scheier 著，石黒章夫他監訳，　知の創成，共立出版，2001

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０％），レポート（３０％），期末試験（５０％）により総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
プログラム全体の構成を説明する必要から，スライドの文字が小さくなる場合がある．見難い場合には，前方の席に座る，オペラグラスを用意するなど，各自適切に対処をされたい．

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を持参すること (貸与パソコンが望ましいが，EXCEL がインストールされていれば，どのような PC でも可)

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みや，その際の問題点などについても講義する．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about Artificial intelligence.
(2)Understand optimization process in Genetic Algorithm.
(3)Write a program of Genetic Algorithm using Visual Basic.
Grading Criteria
Term-end examination : 50%, Report(homework) 30%, In class contributions 20%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC200XD

基礎半導体工学

笠原　崇史

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
半導体デバイスの動作原理を理解する上で必要となる、固体物性と半導体材料の電気伝導の基礎を学ぶ。

【到達目標】
半導体内の電気伝導をエネルギーバンド図を用いて、正孔、電子の振舞いで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は板書、配布資料、スライドにより進める。理解を助けるために、演習問題・レポートを課し、講義中に模範解答を解説することでフィードバックする。
社会情勢に伴う各回の授業計画・実施方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	総論、半導体の歴史	授業計画の説明・概論
第 2 回	半導体材料の特徴	半導体材料の基本的性質、元素半導体と化合物半導体、結晶成長
第 3 回	半導体結晶と電子の振舞 (1)	結晶の分類、結晶系とブラベ格子、ダイヤモンド構造、結晶の不完全性
第 4 回	半導体結晶と電子の振舞 (2)	X 線回折、電子の波動性、シュレディンガー方程式
第 5 回	自由電子モデル	井戸型ポテンシャル、周期的境界条件
第 6 回	エネルギーバンド図	原子軌道、電子配置、エネルギーバンドの形成、金属・半導体・絶縁体の性質
第 7 回	半導体のキャリア (1)	状態密度関数の導出、フェルミ・ディラック分布関数、真性キャリア密度の導出
第 8 回	半導体のキャリア (2)	不純物半導体、電荷中性の条件とフェルミ準位の温度特性、少数キャリア密度
第 9 回	半導体中の電気伝導 (1)	ドリフト電流、平均緩和時間、移動度、キャリア散乱
第 10 回	半導体中の電気伝導 (2)	拡散電流、アインシュタインの関係、キャリアの再結合、電流連続の式
第 11 回	PN 接合 (1)	PN 接合のエネルギーバンド図、拡散電位
第 12 回	PN 接合 (2)	逆方向飽和電流の導出、電流-電圧特性、逆電圧降伏
第 13 回	金属と半導体の接触	ショットキー接合、真空準位、仕事関数、電子親和力
第 14 回	バイポーラトランジスタ	電流増幅率、ベース接地、エミッタ接地

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
1. 講義ノート、配布資料を復習する。
2. 講義内容について、理解を深めるため、参考書・インターネット等で調べる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
平松和政『半導体工学』(オーム社)、高橋清『半導体工学』(森北出版)、菅博『増補改訂版 図説電子デバイス』(産業図書) など。

【成績評価の方法と基準】
[評価方法]　試験 (70%)、講義時に実施する演習 (30%) による
[評価基準]　本科目において設定した目標を 60 %以上達成している学生を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
理解を助けるために、資料を充実させる。

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が、半導体物性に加え、電子デバイス作製のための半導体微細加工についても講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the basic physics of the semiconductor materials to understand the characteristics of semiconductor devices.
(Learning Objectives)
At the end of this course, you will be able to understand the energy band structures, the electrical conduction mechanism (drift and diffusion), and the basic operation of the semiconductor devices (PN junction diode, Schottky diode, and bipolar junction transistor).
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to spend four hours on preparing and reviewing each class.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on the term-end examination (70%) and the reports (30%). To pass this course, students must earn at least 60 points out of 100.

ELC300XD

知的制御

伊藤　一之

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
強化学習のアルゴリズムを理解し，仮想空間で自律的に振舞うロボットの制御を行う

【到達目標】
強化学習のアルゴリズムを理解し，ロボットの制御に適用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は講義を中心として強化学習のアルゴリズムを理解し，後半は EXCEL の VBA を用いて実際に強化学習を実装する
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「知的制御」	強化学習，サブサンプションアーキテクチャなど，さまざまな知的制御について概要を解説する
2	「強化学習 1」	強化学習のアルゴリズムを学ぶ
3	「強化学習 2」	強化学習のアルゴリズムを手計算で実行し，理解する．
4	「EXCEL Visual Basic1」 基本演算，分岐，繰り返し計算	EXCEL Visual Basic の使い方を学ぶ
5	「EXCEL Visual Basic2」 ファイル処理，グラフ処理	EXCEL Visual Basic の使い方を学ぶ
6	「強化学習の実装」 環境設定，初期設定	学習環境をコード化する
7	「強化学習の実装」 最大値の取得	最大値を取得するためのコードを実装する
8	「強化学習の実装」 状態認識	状態を認識するためのコードを実装する
9	「強化学習の実装」 行動選択	最適行動を選択するためのコードを実装する
10	「強化学習の実装」 ε -greedy 法	Q 値の更新を行う学習則のコードを実装する
11	「強化学習の実装」 Q 値の更新	ε -greedy 法のコードを実装する
12	「強化学習の実装」	全てのコードを結合して強化学習のコードを完成させる
13	「総合演習」 ε -greedy 法	ε -greedy 法の設定を変更して学習を行い，設定値の違いが学習結果に与える影響を考察する
14	「総合演習」 学習率	学習率の値を変更して学習を行い，学習率の値の違いが学習結果に与える影響を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】前回の講義内容を復習し，理解しておくこと

【テキスト（教科書）】
伊藤一之著，ロボットインテリジェンス，オーム社，2007

【参考書】
授業中に紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０％），レポート（３０％），期末試験（５０％）により総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
プログラム全体の構成を説明する必要から，スライドの文字が小さくなる場合がある．見難い場合には，前方の席に座る，オペラグラスを用意するなど，各自適切に対処をされたい．

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を持参すること
(貸与 PC が望ましいが，EXCEL がインストールされていれば，それ以外の PC でも可)

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みや，その際の問題点などについても講義する．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about intelligent robot.
(2)Understand learning process in Reinforcement Learning
(3)Write a program of Reinforcement Learning using Visual Basic.
Grading Criteria
Term-end examination : 50%, Report(homework) 30%, In class contributions 20%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC300XD

電磁波情報工学

柴山　純

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マックスウエルの方程式をもとに電磁波情報を数学的に取り扱う。
応用として、分散媒質の取扱いを理解する。レーダ方程式、衛星通信装置の基本を理解する。

【到達目標】
到達目標は、計算機による情報処理を視野に入れて、FDTD 法の基礎を理解することである。マックスウエルの方程式の 6 成分を差分表示できるようにし、吸収境界条件を導出、組み込めるようにする。種々の分散媒質の定式化を理解し、FDTD に組み込めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にオンデマンド型で授業を行う。4 月 13 日よりスタート。授業の動画をダウンロードあるいはストリーミングで受講すること。ファイルのリンク先は準備ができ次第、「授業支援システム」より告知する。なお、状況が変わり対面授業が可能になった場合はその旨知らせる。
FDTD 法の基礎を理解し、電磁波の取り扱い方を学ぶ。差分について学び、計算プログラム化するための吸収境界条件を学習する。分散媒質を計算する際の電磁波の取り扱いについても学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史的背景	電磁波情報工学の発展過程と現状について
第 2 回	マクスウェルの方程式	電界と磁界についてのカール方程式について
第 3 回	FDTD 法	FDTD 法とは何か
第 4 回	差分法の基礎	微分と差分について。 中心差分、前方差分、後方差分について
第 5 回	Yee 格子と離散化	電界・磁界の Yee 格子への割当
第 6 回	1,2,3 次元問題	1,2,3 次元問題での FDTD 法
第 7 回	吸収境界条件 (1)	Mur、Higdon の吸収条件
第 8 回	吸収境界条件 (2)	Perfectly Matched Layer 吸収境界条件
第 9 回	励振方法	総合界・反射界領域の分離
第 10 回	瞬時値の複素化	定常界での複素振幅の導出
第 11 回	分散媒質 (1)	分散媒質の FDTD 法への取り込み
第 12 回	分散媒質 (2)	Drude,Debye,Lorentz 分散
第 13 回	BOR・円筒座標系	BOR・円筒座標系を用いた FDTD 法の定式化
第 14 回	レーダ、衛星通信装置の概要	散乱断面積、送信機と受信機の取り扱い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
(1) 物理学「波動」を復習しておく。
(2) これまでに学習した「電磁波工学」、「電磁気学」、「電磁気学演習」を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
(1) 何一偉、有馬卓司著、"数値電磁界解析のための FDTD 法"コロナ社
(2) 宇野　亨著、"FDTD 法による電磁界及びアンテナ解析"、コロナ社

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】　期末試験および課題・レポートによって評価する。
【評価基準】　期末試験（90 %）、課題・レポート（10 %）の割合で評価。60 % 以上達成している学生を合格とする。ただし、コロナの状況により期末試験ができない場合は、毎回の課題 (90%) と最終回に提示するレポート課題 (10%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
板書が多いとの指摘がありましたが、教授する内容が多いためやむを得ません。頑張ってついてきてください。

【その他の重要事項】
国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline: In this lecture, we study the fundamental of the finite-difference time-domain (FDTD) method. As an application, we also study the treatment of dispersive materials.
Learning Objectives: The goal of this course is to understand the basics of the FDTD method with a view to computer aided information processing. Students need to be able to formulate the six components of Maxwell's equation, and to derive and incorporate the absorbing boundary conditions into the FDTD method. Students are also required to understand the formulation of various dispersive media and to incorporate them into FDTD method.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

ELC400XD

認知ロボティクス

伊藤　一之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
従来の人工知能の問題点を理解するとともに，新しい枠組みとして期待されている，アフォーダンス，ダイナミクスベースト制御，身体性認知科学などの環境の性質を利用して知的な振る舞いを実現する試みについて学ぶ．

【到達目標】
アフォーダンス，ダイナミクスベースト制御，身体性認知科学の概念を理解し，ロボットの制御に応用できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は講義形式，後半は輪読とする
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	人工知能の基礎	人工知能とはなにか概要を理解する
2	古典的人工知能 チューリングマシン	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する．（チューリングマシン，チューリングテスト，フレーム問題など）
3	古典的人工知能 フレーム問題	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する．（チューリングマシン，チューリングテスト，フレーム問題など）
4	古典的人工知能 チューリングテスト	古典的人工知能の仕組みおよび問題点理解する．（チューリングマシン，チューリングテスト，フレーム問題など）
5	ダイナミクスベースト制御	ダイナミクスベースト制御の枠組みについて学び，従来のモデルベースト制御との違いを理解する．
6	生態心理学	生態心理学の概念、アフォーダンスについて理解する．(ダイナミカルタッチ，衝突までの残り時間 τ，不変項など)
7	知覚と行為の関係性	従来の知覚と行為が切り離されている枠組みの問題点を理解し，知覚と行為の循環性の概念を理解する．
8	論文輪読 ダイナミクスベースト制御	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
9	論文輪読 ダイナミクスベースト制御	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
10	論文輪読 アフォーダンス	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
11	論文輪読 アフォーダンス	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
12	論文輪読 身体性認知科学	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
13	論文輪読 身体性認知科学	最新の研究論文を理解し，内容を簡潔にまとめるとともに，与えられたテーマに沿って議論する
14	総合討論 それぞれの分野の関連について	与えられたテーマに沿って議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】前回の講義で配布した論文などの資料を良く読み，理解しておくこと

【テキスト（教科書）】
資料を配布する

【参考書】
佐々木　正人著　「アフォーダンス―新しい認知の理論」 岩波書店
三嶋　　博之著　「エコロジカル・マインド」 NHK ブックス
佐々木　正人，三嶋　博之　編訳　「アフォーダンスの構想」 東京大学出版

【成績評価の方法と基準】
平常点（２０％），レポート（３０％），期末試験（５０％）により総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
全体像を表示する必要から，スライドの文字が小さくなる場合がある．見難い場合には，前方の席に座る，オペラグラスを用意するなど，各自適切に対処をされたい．

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みやその際の問題点などについても講義する．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about AI and Intelligent Robotics.
(2)Understand framework of affordance.
(3)Understand framework of dynamics based control.
(4)Understand framework of Embodied cognitive science.
Grading Criteria
Term-end examination : 50%, Report 30%, In class contributions 20%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

ELC400XD

電気機器設計

近藤　稔

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会では様々な機械が電気機器で動いている。脱炭素を目指す社会の動きの中で、これまで内燃機関で駆動されていたものを電動機駆動に置き換える動きも盛んであり、電気機器に対するニーズは増している。電動機等の電気機器はアプリケーション毎に設計されるが、巻線・鉄心の設計や温度上昇の評価等の技術は普遍的な共通事項であり、この授業ではそれらの共通事項を中心に電気機器設計の考え方を学ぶ。

【到達目標】
電気機器の設計に共通な事項である、巻線や磁気回路の設計、温度上昇の評価を理解すること。また、それらの知識を応用して実際に電動機等の電気機器を設計できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、電気機器やその設計の概要について学習する。その後、電気機器設計の基礎となる、巻線や鉄心等の設計、温度上昇等の性能評価等について学習し、実際に電気機器設計の実習を行う。主要な事項に関する講義が終了した後にレポート課題を出題する。レポート課題の出題と提出は学習支援システムにて行う。レポート課題に対するフィードバックは講義において実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	電気機器の概要	電気機器の分類、適用事例、歴史について学習する。
2	電気機器の仕様	使用や定格等の電気機器の仕様の表現方法を、依頼者・設計者双方の立場から考える。
3	電気機器設計の概要	電気機器設計全体の流れについて学習する。
4	巻線の構造と設計	電気機器の主要な部品である巻線の構造について学習し、その設計法について学ぶ。
5	鉄心の構造と設計	電気機器の主要な部品である鉄心の構造と磁気回路の設計について学習する。
6	材料	電線、電磁鋼板、永久磁石等の電気機器特有の材料について学習する。
7	損失と効率	電気機器における損失の分類について学び、効率を向上する方法について考える。
8	温度上昇と冷却	電気機器設計における主要な制約である温度上昇の評価について学習し、冷却方式・保護方式について学ぶ。
9	電気機器の等価回路	電気機器の等価回路表現および設計値と回路定数の関係について学ぶ。
10	試験と特性算出	電気機器の性能試験方法と試験結果から特性を算出する方法について学習する。
11	機械設計の概要	機械的構造の設計や軸受部の設計等の機械設計の概要、電動機の設計とトルク特性の関係について学ぶ
12	最適設計	電気機器の最適設計の基本的な考え方について学習する。また、様々な最適化手法について学習する。
13	設計シート	講義で説明した設計計算の内容をまとめた設計シートをレポート課題として作成し、それに対するフィードバックを行う。
14	電気機器設計実習	電気機器の例として電動機を取り上げ、実際に設計する。また、レポート課題のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
エクセルを使用した実習を行うため、貸与パソコンなどを準備しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書名：電気学会大学講座　電機設計概論
著者：炭谷英夫
発行所：電気学会
発売元：オーム社
価格： 2400 円

【参考書】
大学課程　電気設計学、竹内寿太郎、オーム社、2016
交流機設計、T.A.Lipo、電気書院、2007
JIS C 4003 電気絶縁の耐熱クラス及び耐熱性評価
JIS C 2552 無方向性電磁鋼帯
JEC 2100 回転電気機械一般
JEC 2110 誘導機

【成績評価の方法と基準】
テスト（電気機器設計に関する知識）30 %
レポート課題（電動機の設計）70 %
テストでは教科書に記載されている内容から知識を問う問題を出題する。
レポート課題では提示された仕様に対し、実際に電動機を設計してその結果をまとめたものを提出する。設計計算のプロセスを理解しているかを評価基準とする。
レポート課題は学習支援システムにて行う

【学生の意見等からの気づき】
講義内容の理解を助けるため、早い段階から部分的な実習を取り入れ、理解度を確認しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン

【その他の重要事項】
鉄道車両駆動用電動機の開発設計実務経験を有する講師が、電動機設計を中心とした電気機器設計の講義を行う。

【Outline (in English)】
In modern society, various machines are driven by electric machines. Those that have been driven by an internal combustion engine are increasingly being replaced with electric motor drives, and the need for electric machines is increasing. Electric machines such as electric motors are designed for each application, but technologies such as winding / iron core design and temperature rise evaluation are common items, and in this class we focus on these common items of electric machine design.

ELC200XD

分布定数回路論

柴山　純

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
波動情報工学を学ぶための基礎としての、高周波における電磁気的および回路的取り扱いを学ぶ。

【到達目標】
波動現象を理解し、波動方程式の解法、波動の等価回路表現、散乱パラメータの使用法に習熟すること。スミス図を理解し、インピーダンス整合を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業が可能な場合は、対面・配信のハイブリッド型で行う予定。もし、対面授業が不可能な場合はオンデマンド型とする。詳細は「授業支援システム」で告知する。
電圧波、電流波の表現法を学ぶ。その後、反射係数、スミス図を学習する。マイクロ波回路における、電力、インピーダンス、位相などの取扱法についても学習する。学習項目の理解を深めるために、演習を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史的背景	波動情報とは何か。
第 2 回	同軸伝送線路	同軸線路の取り扱い方、電磁界分布と等価回路についての考え方。
第 3 回	平行伝送線路	平行 2 線路の取り扱い方、電磁界分布と等価回路についての考え方。
第 4 回	電圧伝送線路	2 階の微分方程式による電圧の決定。
第 5 回	伝送線路基礎	2 階の微分方程式による電流の決定。
第 6 回	特性インピーダンス	特性インピーダンス、反射係数の導出と取り扱い方。
第 7 回	線路整合	定在波、線路整合の考え方。
第 8 回	スミスチャート	スミスチャートの基礎方程式の導出。
第 9 回	スミスチャートの理論	正規化インピーダンスの計算法。
第 10 回	正規化抵抗値	理論に基づく正規化抵抗値の作図法。
第 11 回	正規化リアクタンス	理論に基づく正規化リアクタンス値の作図法。
第 12 回	マイクロ波素子	導波管の数学的取り扱い。 基本モードの表現法
第 13 回	S11	S11 散乱定数の数学的取り扱い方と応用。
第 14 回	S21	S11 散乱定数の数学的取り扱い。 授業内容の演習, 発展的問題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
(1) 1 年次に学習した電気回路を復習しておく。
(2) 1 年次に学習した微分方程式を復習しておく。
(3) 1 年次に学習した物理（波動の取り扱い）を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
中司浩生著、"基礎伝送工学"、コロナ社

【参考書】
(1) 小柴正則著、"波動解析基礎"、コロナ社
(2) 内藤喜之著、"マイクロ波・ミリ波工学"、コロナ社
(3) 鈴木茂夫著、"高周波技術実務入門"、日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】　期末試験および課題・レポートによって評価する。
【評価基準】　期末試験（90 %）、課題・レポート（10 %）の割合で評価。60 % 以上達成している学生を合格とする。ただし、コロナの状況により期末試験ができない場合は、毎回の課題 (90%) と最終回に提示するレポート課題 (10%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
16 年度は教科書を使用していなかったが、教科書があったほうがよいとの意見があり 17 年度から教科書を使用する。
なお、板書が早くもっとゆっくり進めてほしい、との意見があったが、教授する内容が多いためどうしても授業展開が速くなります。頑張ってついてきてください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline: For wave information engineering, we here study electromagnetism and electric circuits in the high frequency range.
Learning Objectives: The goal is to understand wave phenomena and to become proficient in solving the wave equation, equivalent circuit representation of waves, and use of scattering parameters. Students are expected to understand Smith diagrams and be able to perform impedance matching.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

BSP100XD

自然科学の方法（電気）

柴山　純

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【1 年生は全員受講すること】自然科学を学ぶためには数学の知識が必須である。この授業では、電気電子工学、機械工学で使用する大学数学の基礎を講義する。多くの演習も行い、専門科目に取りかかるための基礎力を獲得する。

【到達目標】
授業計画で示すテーマについてその物理的意味を理解し、実問題を解くための基礎となる数学を使いこなせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面と同時に配信で行う予定。4 月 7 日からスタートしますが初回はガイダンスとする。状況が変化し対面授業が不可能な場合はオンデマンド型の授業とする。詳細は「学習支援システム」で告知する。
授業の 8 割程度を講義とし、残りの時間を演習に当てる。適宜小テストなども行い、理解度を確認する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ベクトル (1)	ベクトルの和、差、内積
第 2 回	ベクトル (2)	ベクトルの外積
第 3 回	ベクトル (3)	線積分、面積分
第 4 回	ベクトル (4)	勾配、発散、うず
第 5 回	複素数 (1)	複素数の表現方法
第 6 回	複素数 (2)	極形式 ⇔ 直交形式変換
第 7 回	複素数 (3)	正弦波交流の複素表示
第 8 回	複素数 (4)	回路素子における微分と積分、それらの複素表示
第 9 回	複素数 (5)	回路の正弦波応答の複素表示解
第 10 回	ラプラス変換 (1)	定義と性質
第 11 回	ラプラス変換 (2)	ラプラス変換対の表作成、微分方程式の解法
第 12 回	ラプラス変換 (3)	回路素子とラプラス変換
第 13 回	ラプラス変換 (4)	回路の過渡応答解析
第 14 回	フーリエ級数、フーリエ変換	数式表現と、離散スペクトル解析、連続スペクトル解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業の最後に次回のテーマについて触れるので、各自図書館などで関連する教科書を見つけ予習をしておくこと。また、演習のプリントにも次回の授業の内容が含まれていることがあるので、予習をしておくこと。言うまでもなく、毎回の授業の復習は必須。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
「確率・統計解析の基礎」　久保木　朝倉書店　など
「微分方程式、フーリエ解析」　近藤他　培風館　など

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】期末試験および課題・レポートによって評価する。
【評価基準】期末試験（90 %）、課題、小テスト (10 %) を総合して評価する。ただし、コロナの状況により期末試験ができない場合は、毎回の課題 (90%) と最終回に提示するレポート課題 (10%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
11 年度までは内容の多くを統計に割いており、微分方程式などもっと多くの内容を講義してほしかった、との要望があった。そこで 12 年度からは内容を全面的に見直し、専門科目で必要になる数学を広く網羅する授業に変更した。なお、板書が早くもっとゆっくり進めてほしい、との意見があったが、教授する内容が多いためどうしても授業展開が速くなります。頑張ってついてきてください。

【その他の重要事項】
国内での企業実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline: We need the knowledge of mathematics for studying natural science. In this lecture, we study the fundamentals of mathematics in university level. The contents are helpful in studying electromagnetism and electric circuits.
Learning Objectives: The goal is to understand the physical meaning of the topics presented in the lesson plan and to be able to use mathematics as a basis for solving real problems.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policy: Evaluation will be based on the final exam (90%) and assignments and reports (10%).

ELC200XD

制御工学入門

伊藤　一之

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典制御を中心にフィードバックシステムの基礎的事項を理解する

【到達目標】
フィードバックシステムの基礎的事項を理解し，簡単な制御系が設計できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業に加え，MATLAB を用いた演習を行う
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	概要	制御工学の分類、歴史、用途について概要を学ぶ。
2	動的システムと微分方程式	動的システムを微分法的式を用いて表現する方法を学ぶ
3	動的システムと伝達関数	動的システムを伝達関数を用いて表現する方法を学ぶ
4	伝達関数とブロック線図	伝達関数をブロック線図を用いて表現する方法を学ぶ
5	MATLAB 基礎	四則演算，データ形式など，MATLAB の基本的な使い方を学ぶ
6	MATLAB による数値データの可視化	グラフの書き方など，MATLAB を用いて数値データを可視化する方法を学ぶ
7	MATLB による動的システムのシミュレーション	Simulink を用いて動的システムのシミュレーションを行う方法を学ぶ
8	基本伝達関数	基本伝達関数の応答を MATLAB を用いて確認する
9	フィードバック制御系の定常特性解析 1	フィードバック制御系の定常特性の計算法とその意味を理解する
10	フィードバック制御系の定常特性解析 2	MATLAB を用いて定常特性を確認する
11	演習 1（P 制御，PD 制御）	MATLAB　Simulink を用いて P 制御，PD 制御の応答を求め，安定性，定常偏差，オーバーシュートなど，制御系の特性を理解する
12	演習 2（PID 制御）	MATLAB　Simulink を用いて PID 制御の応答を求め，安定性，定常偏差，オーバーシュートなど，制御系の特性を理解する
13	演習 3 PID コントローラのチューニング（ステップ応答法）	ステップ応答法を用いて PID コントローラのチューニングを行う
14	演習 4 PID コントローラのチューニング（限界感度法）	限界感度法を用いて PID コントローラのチューニングを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
物理（力学）および数学（微分方程式）を復習しておくこと

【テキスト（教科書）】
「制御工学」（著）渡辺嘉二郎、（出版社）サイエンスハウス

【参考書】
授業中に紹介する

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（７０％），授業内演習（２０％），授業態度（１０％）などを総合的に評価して判断する

【学生の意見等からの気づき】
ブロック線図をプロジェクターで表示する関係上，文字が小さく見難いことがある．前列に座る，オペラグラスを用意するなど各自で対応されたい

【学生が準備すべき機器他】
大学より貸与されている PC を持参すること

【その他の重要事項】
企業での開発経験ならびに，国際レスキューシステム研究機構との共同研究経験を活かし，実際の課題解決への取り組みやその際の問題点などについても講義する．
本科目は，電気主任技術者資格の認定に必要とされる科目の一つである．詳しくは，履修の手引きを参照されたい．

【Outline (in English)】
The goals of this course are to
(1)Obtain basic knowledge about control theory.
(2)Understand mechanism of feedback controllers.
(3)Conduct simulations of feedback systems using MATLAB Simulink.
Grading Criteria
Term-end examination : 70%, Report 20%, In class contributions 10%
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

HUI200XE

セキュリティ概論

菊池　亮、野岡　弘幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インターネットが広く普及するにつれて、便利になった反面、セキュリティの問題が顕在化している。
そのため、ネットワーク技術やコンピュータ技術にとってセキュリティの視点からのアプローチが必須となっている。本科目では、インターネット技術を中心に、セキュリティとはなにかを理解し、セキュリティ技術とコンピュータ技術やネットワーク技術との関係を学習し、ICT 技術に基づくさらに高度なセキュリティ技術を学ぶ基礎とする。

【到達目標】
インターネットが広く普及するにつれて、セキュリティの問題が顕在化している。このため、ネットワーク技術やコンピュータ技術にとってセキュリティの視点からのアプローチが重要となってきている。本授業では、インターネット技術を中心に、セキュリティとはなにかを理解し、セキュリティ技術とコンピュータ技術やネットワーク技術との関係を学習することによりセキュリティ技術を概観し、セキュリティ技術を学ぶ基礎とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期はオンラインでの開講となる可能性があります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。
セキュリティについて技術的側面を中心に学ぶ。セキュリティの意味するところを、実例を交え様々な側面から多角的に学習する。次に、セキュリティの基礎である暗号技術や必要なコンピュータ技術を学習する。続いて、攻撃技術および防御技術の仕組みを理解し、技術的な側面からマルウェア、DDOS 攻撃などの攻撃手法とその防御法について学習する。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	セキュリティ概要	セキュリティの考え方、技術の歴史，講義の内容，進め方などについて説明する.
第 2 回	身近なセキュリティ	身近に起こるセキュリティの事例などを元に，セキュリティの重要性を学ぶ.
第 3 回	暗号の基礎	基礎的な暗号技術についてその構造を学ぶ。
第 4 回	電子署名、電子認証	電子署名、電子認証の方式について学ぶ。
第 5 回	安全な通信の構成	安全に通信を行うための基本的な考え方と SSL/TLS などの方式を学ぶ。
第 6 回	高機能な暗号	従来の暗号に機能を加えた高機能な暗号について学ぶ。
第 7 回	実装攻撃	実装攻撃の方法とその対策について学ぶ。
第 8 回	脆弱性と攻撃技術	脆弱性とそれに対するバッファーオーバフロー、SQL インジェクションなどの攻撃について学ぶ。
第 9 回	マルウェア	コンピュータウィルスを含むマルウェアの手口と対策技術を学ぶ。
第 10 回	DoS 攻撃	DoS 攻撃手法および対策についての概要を学ぶ。
第 11 回	安全なネットワークの構築方法	ファイアーウォールや IPS など、安全なネットワークを構成するための要素技術について学ぶ。
第 12 回	セキュリティ対応組織の構築	ゼロトラスト、クラウドなどセキュリティ対応組織の構築・運用に関する技術について学ぶ。
第 13 回	実習: CTF	Capture The Flag というゲームを通じて攻撃や調査手法一般について学ぶ。
第 14 回	総まとめ	学習内容のまとめと整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
課外小テスト対応

【テキスト（教科書）】
講義中のスライドと配布資料による

【参考書】
・情報処理技術者試験　情報セキュリティスペシャリスト関連の参考書
・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク　講義ノート」オーム社
・金井他著、“攻めと守りのシステムセキュリティ、”　電子情報通信学会発行，　コロナ社。
・その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
オンラインでの授業の可能性があり、オンラインの場合は成績評価を以下とします。ただし、状況により、対面授業が可能になる場合はその状況に応じて適切に対応し、学習支援システムを通じ随時お知らせいたします。
毎回の小テスト等　→　４０％程度
最終回に行うオンラインテスト　→６０％程度
以下、参考までに従来の基準を示します。
” 定期試験結果（80 ％程度）、授業姿勢、レポートおよび授業時に行われる演習 を総合して評価する。”

【学生の意見等からの気づき】
練習問題をより多くし、理解を深めやすくする。

【学生が準備すべき機器他】
8 回目以降の講義において，簡単なプログラミングが可能な情報機器（パソコン）

【その他の重要事項】
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。
実務経験
・セキュリティシステムの研究開発
・システム運用におけるセキュリティマネジメント
授業の実施
・企業から講師を招き、実際の企業活動への理解を深める。
・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

【Outline (in English)】
Course outline:
The aim of this course is to help students acquire fundamental literacy of information and cyber security.
Learning Objectives:
The problem of security is actualizing as the Internet spreads widely. Therefore, the approach from the viewpoint of security is indispensable for network and computer technologies.
Learning activities outside of classroom:
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria / Policies:

Final grade will be calculated according to a short exam after each class (40%), and the term-end examination (60%).

ELC100XE

基礎電気回路（情報）

品川　満

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マークワイザーが提唱したユビキタスコンピューティングの考えが IoT として我々の生活空間に浸透されつつある。IoT は、ソフトウエアとハードウエアが融合された組込システムが利用されている。電気回路はハードウエアの基礎となる科目であり、電気回路の理解により複雑な課題が整理され、高度な組込システムを効率よく開発できる。抵抗、コイル、コンデンサの受動素子の交流のふるまいを複素数を用いて解析する手法を講義する。

【到達目標】
到達目標は、電気回路の交流のふるまいを複素数を用いて解析できるようになることである。電気回路の交流動作解析に必要不可欠な、虚数単位 j と角速度ωの役割を豊富な例題を使って説明する。交流電気回路の基礎を電磁気学との関連させて講義することにより、実際のシステムへの展開がイメージできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式を主体とし、適宜小テストや回路シミュレータを用いた演習を行う。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	抵抗と電源	電気回路で学ぶべきことを俯瞰、抵抗からなる回路の基本、小テスト
第 2 回	各種回路素子とその性質	抵抗、コンデンサ、インダクタを含んだ回路、小テスト
第 3 回	正弦波	交流の基本となる正弦波の理解と表現方法、小テスト
第 4 回	複素表示	正弦波の複素表示、ベクトル、フェーザの考え方、小テスト
第 5 回	交流応答	受動回路の交流応答、小テスト
第 6 回	インピーダンス	交流回路におけるインピーダンス、小テスト
第 7 回	回路シミュレータ実習	回路シミュレータ LT-SPICE を使った回路解析、共振現象の理解、レポート
第 8 回	電力	交流回路における各種電力の考え方、小テスト
第 9 回	直並列回路	直並列回路の性質、等価回路、アドミッタンス、小テスト
第 10 回	相互インダクタンス	トランスの性質と適用例、相互インダクタンス、小テスト
第 11 回	回路に関する諸定理	重ね合わせの理、テブナンの定理、供給電力最大の法則、小テスト
第 12 回	過渡現象	非正弦波交流と過渡現象、微分方程式、小テスト
第 13 回	重要事項整理	講義全体を通して重要な項目を整理、小テストの解法と適用領域を解説する
第 14 回	重要事項の理解度確認	小テストをベースとした応用問題を解くことで重要事項の理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回のテーマと内容から、参考書等で関連箇所を事前に学習する。小テストを講義資料を参考に解きなおす。

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

【参考書】
大学課程　電気回路（1）　オーム社
絵ときでわかる電気回路　オーム社

【成績評価の方法と基準】
期末試験、小テスト、レポート課題を参考にして成績評価を総合的に判断する。期末試験あるいは最終レポート課題７０点、小テストとシミュレータ演習３０点とし、６０点以上を合格とする。なお、成績評価には７０％以上の出席率が必要。

【学生の意見等からの気づき】
研究開発の現場で用いられている回路シミュレータの実習を講義内で実施し、単なる知識の取得だけでなく実践力が身につく講義とする。適宜小テストを実施し、理解を深める。小テスト実施中は教員や TA に対し質問可能としたり、学生同士の相談を認め、多くの学生が答えに到達できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
フリーソフトの LT-SPICE を各自のノート PC にインストールしておくこと。インストールがうまくいかない場合は TA に聞くこと。

【その他の重要事項】
電気回路の基礎を学ぶだけではなく、企業での研究開発経験を基に、電気回路がどのように IoT のシステム開発に活用されているのかを講義する。
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目です。

【Outline (in English)】
This course introduces AC behavior of passive elements including resistor, coil, and capacitor to students taking this course. Various embedded systems are used for Internet of Things (IoT). These systems require not only software but also hardware technology. Electrical circuit is the basis of developing the hardware.
【Goal】
The goal of the lecture is to express the AC behavior of electric circuits in complex numbers.
【Learning activities outside of classroom）】
Based on the technical items of each time, learn related parts in advance with reference books. Resolve the tests with reference to the lecture materials.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

COT100XE

組込システムの基礎

足立　正二

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組込システムとは専用のハードウエアに MPU と制御ソフトウエアを組込んだシステムであり、家電や自動車、産業や社会インフラなどにおいて広く使われてる。本授業では、組込システムや組込システムに使われるセンサ、制御、通信ネットワークの基本的かつ体系的な知識を学び、社会や産業における組込システムの役割を理解する。

【到達目標】
組込システムで必要となる用語、基礎的事項（ハードウェア、ソフトウェア）、周辺技術（信号処理技術、センサ など）、応用に関する知識などを身につけ、日常目にする組込システム（民生品、産業機器）の機能がどのように実現されているかを理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①授業は板書およびプロジェクタを併用して講義および演習を行う。学習内容の定着のために演習を交える。テキストは「学習支援システム」を通じて配布する。
②小テストを「学習支援システム」を通じて課し、質問や回答状況を踏まえたフィードバック（解説など）を授業の中で行う。
③最終授業では、レポート課題に対するフィードバック（講評や解説）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	組込システム入門	組込システムとは、組込システムの基本構成、マイクロプロセッサの役割
第 2 回	組込システムの事例	計測システム、スマートフォン、車載電子制御システム
第 3 回	ハードウェア技術（1）	マイクロプロセッサの役割、基本動作、CISC と RISC、システム LSI
第 4 回	ハードウェア技術（2）	割り込み、DMA、キャッシュメモリ、入出力機能
第 5 回	ソフトウエア技術（1）	リアルタイム処理、開発環境、開発言語
第 6 回	ソフトウエア技術（2）	リアルタイムカーネル、割り込みとイベント、マルチプログラミング、タスクスケジューリング、システムコール など
第 7 回	前半のまとめと演習	前半の授業のまとめ、演習
第 8 回	基本 I/O	入出力の仕組みと種類、信号の符号化（A/D コンバータ）、D/A コンバータ
第 9 回	外部周辺機器	基本 I/O、センサ（温度、圧力、変位、ひずみ など）、アクチュエータ
第 10 回	センサ信号処理のための電子回路技術（1）	受動素子、ダイオード、トランジスタ、FET、演算増幅器
第 11 回	センサ信号処理のための電子回路技術（2）	差動増幅器、積分器、フィルター、A/D 変換器、信号処理技術
第 12 回	制御技術入門、レポート課題の説明	制御技術の基礎、シーケンス制御、フィードバック制御、レポート課題の説明
第 13 回	後半のまとめと演習	後半のまとめ、演習
第 14 回	組込システム開発の流れ、レポート課題の回答例の説明	組込システムの開発環境、開発の特徴、ソフトウェア開発の流れ、レポート課題の回答例の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を必要とする（標準）。各回のテーマと内容に基づき、テキストや参考書で事前に学習しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特に指定した教科書は使わない。テキストは「学習支援システム」にて配布する。

【参考書】
藤弘哲也「図解入門 よくわかる最新組込みシステムの基本と仕組み」秀和システム
組込システム技術協会・エンベデッド技術者育成委員会「エンベデッド技術」電波新聞社
香取巻男、立田純一「すぐわかる！ 組込み技術教科書」CQ 出版社
坂巻佳壽美 「トコトンやさしい 組込みシステムの本」 日刊工業新聞社
渡辺登、牧野進二 「組込みエンジニアの教科書」 C&R 研究所

【成績評価の方法と基準】
平常点 (約 30%)、レポート課題 (約 70%) の結果を総合して評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容への興味を向上させるために、組込システム産業の時事ニュースや組込システム開発に関するビデオ等の教材を必要に応じ使用する。

【学生が準備すべき機器他】
テキスト配布・課題掲示等のために「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
本授業は「実務経験のある教員による授業」に該当する。実務における組込システム開発事例を紹介し、授業内容の理解の一助とする。

【Outline (in English)】
【Course outline】 Embedded systems are systems in which MPU and control software are embedded in dedicated hardware, and are widely used in home appliances, automobiles, industry, and social infrastructure. In this lecture, students will learn basic and systematic knowledge of embedded systems and sensors, controls, and communication networks used in embedded systems, and understand the role of embedded systems in society and industry.
【Learning Objectives】 The objective of this course is to acquire the terminology, basic items (hardware, software), peripheral technologies (signal processing technology, sensors, etc.), and knowledge of applications required for embedded systems, and to understand how the functions of embedded systems (consumer products, industrial equipment) that we see in our daily lives are realized.
【Learning activities outside of classroom】 Preparation and review time for this class requires 4 hours for each session (standard). It is recommended that students study in advance with textbooks and reference books based on the theme and content of each session.
【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be based on a combination of the results of participation and attitude (about 30%) and report (about 70%).

HUI200XE

ユビキタス計算

品川　満

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
我々の身の回りには小さなコンピュータがいたるところに存在する。このような環境をユビキタスコンピューティングと呼び、いつでも、どこでも、だれでも、様々な情報通信サービスが利用できる。現在、ユビキタスコンピューティングは IoT という名称に変わり発展し続けている。ユビキタスコンピューティングが提案された背景やその概念を理解するとともに、ユビキタスコンピューティングを実現するための様々な要素技術を理解することを目的とする。

【到達目標】
到達目標は、マーク・ワイザーが提唱したユビキタスコンピューティングの概念を理解することである。通信技術、センサ技術、ネットワーク技術、ソフトウエア技術などのユビキタスコンピューティングに関わる要素技術を習得し、それぞれの技術を実際のシステムに適用できるようになる。
The goal is to understand Mark Weiser's advocacy of ubiquitous computing. Learn elemental technologies related to ubiquitous computing such as communication technology, sensor technology, network technology, and software technology. These technologies can be applied to actual systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
半導体デバイス、集積化技術、コンピュータについて、成り立ちから最先端の研究開発まで、具体的な事例を題材に取り上げ、ユビキタスコンピューティングに関わる要素技術を講義する。講義形式を主体とし、適宜小テストや課題提出を行うことで理解を深める。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計測技術	ユビキタスシステム開発に必要な計測技術、解析技術、小テスト
第 2 回	バッテリ技術	エネルギーを蓄えるバッテリ技術とユビキタスとの関わり、小テスト
第 3 回	ＬＳＩ技術	半導体の基礎とＬＳＩ開発・設計・製造、低消費電力、小テスト
第 4 回	マイコン	ユビキタスコンピューティングに必要とされるマイコンの歴史と構成、小テスト
第 5 回	電磁波	電磁波とは何か、電磁波の発生と性質、小テスト
第 6 回	無線通信（一次変調）	正弦波信号の乗算、変調方式、ミキサー、一次変調、小テスト
第 7 回	重要事項理解度確認	第１回から第６回の小テストの発展問題を解き、重要事項の理解度を確認する
第 8 回	発展問題解法解説	発展問題の解法を解説し、具体的な適用分野を紹介する
第 9 回	無線通信（二次変調）	二次変調方式、スペクトラム拡散の耐雑音性および秘匿性、小テスト
第 10 回	無線ＬＡＮ	無線ＬＡＮ方式の種類とその特徴、小テスト
第 11 回	光ファイバ通信技術	大容量通信に適した光ファイバ通信技術、多重化方式、小テスト
第 12 回	将来のユビキタスコンピューティング	社会が直面している課題と将来目指すべきユビキタスコンピューティング
第 13 回	重要事項整理	全小テストの解法と具体的な適用領域を示し、重要事項を整理する
第 14 回	重要事項理解度確認	講義全体の重要事項の理解度を確認するために、小テストをベースとした応用問題を解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。日頃から情報通信に関する最新情報をインターネット、新聞、テレビから入手する。小型コンピュータがどこで活用されているか常に意識する。スマートフォン、パソコン、ネットワークなど、日ごろ使っているシステムの仕組みに興味を持つ。
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.Get the latest information on information and communications from the Internet, newspapers and television. Be aware of where small computers such as smartphones, personal computers, and networks are used.

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか講義に関する変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

【参考書】
特に参考書を指定しないが、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験あるいは最終レポート課題７０点、中間試験および小テスト３０点とし、６０点以上を合格とする。なお、成績評価には７０％以上の出席率が必要。
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
身近なユビキタスサービスの具体例を増やすとともに、重要な項目を適宜整理することにより理解を深める。小テストについて、基礎と応用を織り交ぜて出題する。解法については講義内でていねいに解説する。小テスト中は教員および TA に質問可能とするとともに、学生間での相談も認め、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
企業での研究開発経験を活かし、IoT に関連する通信技術やデバイス技術を最新技術動向を基に講義する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目です。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire understand the background and concept of ubiquitous computing. Ubiquitous computing has been changed into IoT and continues to evolve. I will lecture on various hardware and software element technologies for achieving useful ubiquitous computing services.
【Goal】
The goal is to understand Mark Weiser's advocacy of ubiquitous computing. Learn elemental technologies related to ubiquitous computing such as communication technology, sensor technology, network technology, and software technology. These technologies can be applied to actual systems.
【Learning activities outside of classroom)】
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.Get the latest information on information and communications from the Internet, newspapers and television. Be aware of where small computers such as smartphones, personal computers, and networks are used.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

COT200XE

ネットワークプログラミング

下村　道夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ほぼすべてのアプリケーションはインターネットによる通信機能が漏れなく実装されている．サービスやアプリケーションに関する，研究・ＳＥ・開発といった職種で活躍することを目指す学生にとって、通信の仕組みと実装の基礎を理解しておくことは極めて重要である．
本講義では、インターネットでの通信機能の基礎知識とそれに関するプログラミング実装方法を講義と実習を通じて学ぶ。利用する言語はＣ言語である。

【到達目標】
本講義では，コンピュータ通信の仕組みを理解して基礎的なネットワークプロトコルの理解とそのプログラミングができるようになることを到達目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義による知識の習得と，プログラミング実習による知識の定着を並行して進める授業形態とする。
TCP/IP を始めとした代表的な通信の仕組みを講義と基礎的な通信プログラミング（ソケットプログラミングと呼ばれる）にて体験し、知識として習ったことを実際にプログラミングして確認する。その上で，アプリケーション層の通信の仕組み（プロトコル）の代表例として，ホームページの閲覧（HTTP というプロトコルを利用）、チャット等が実装できるようになることを目指す。
使用するプログラミング言語は「Ｃ言語」である。
講義中にプログラムを組んでもらうため、貸与 PC の利用が前提となる。WindowsOS 上に UNIX 相当の環境を構築できる「cygwin」の利用を前提とする。
前半の何回かは、実習に必要な部分を中心にＣ言語の復習も行う予定であり、現時点でＣ言語に自信のない学生でも履修に挑戦することができる。また、UNIX についても実習に必要な事項は講義の中で説明するため、UNIX を利用したことがない学生でも大丈夫である。
どうしても自力で課題を解けない人のために、課題のサンプルプログラムを印刷したものを配布するため、それをもとにしてレポート課題を作成することが可能である。
Ｃ言語のプログラミングやデバッグのノウハウも教えていく。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要、実習環境整備
第 2 回	実習準備１	UNIX コマンド、C 言語復習（文字列操作）
第 3 回	実習準備２	C 言語復習（ビット操作，コマンド引数　等）
第 4 回	実習準備３	C 言語復習（ポインタ），インターネット基礎と IP アドレス
第 5 回	IP アドレスの 10 進 2 進変換	IP アドレスの 10 進 2 進変換プログラム作成．サブネットマスクの理解
第 6 回	インターネット基礎，実習準備４	TCP と UDP の基礎，プロトコルモニタ Wireshark の使い方，C 言語の構造体
第 7 回	ソケット通信の基礎	ソケット通信（クライアント側）．ソケットのクライアント側の基礎を学び、実装する。通信相手となるサーバ側ソフト（先生が作成したものを配布）を用いて動作確認する。
第 8 回	ソケット通信の基礎	ソケット通信（クライアント側，サーバ側）．ソケットのサーバ側の基礎を学び、実装する。前週に自分で作ったクライアント側ソフトと通信して動作確認する。
第 9 回	HTTP クライアント	HTTP の基礎概要を学び、HTTP クライアントとして簡易版 Web ブラウザを実装する。インターネット上の一般の Web サイトにアクセスすることで動作確認する。
第 10 回	UDP 通信の実装	UDP の実装方法を学び、UDP を使ってメッセージのやりとりをするプログラムを実装する。
第 11 回	チャット（クライアント側）	データ受信とキーボード入力受信の双方に対応する方法を学び、簡易版チャットプログラムを実装する。学生が作成したクライアントソフトと先生が用意するサーバソフトを接続し動作確認する．
第 12 回	チャット（サーバ側）	チャットのサーバ側ソフトを実装し，学生同士で実際にチャットをすることで動作確認する。
第 13 回	マルチプロセス	マルチプロセス (fork()) の講義と実習．複数ユーザと同時に通信できるようにするための方法を学び、前回学んだサーバ側ソフトを改良することで実装する。
第 14 回	レポート課題実装	これまでの実習で獲得した知識をもとにレポート課題の実装を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。】
・ＵＮＩＸ、Ｃ言語の習得
・講義時間内の実習で終了しなかった課題

【テキスト（教科書）】
指定するテキストは特にない．毎回，授業プリントを配布する．

【参考書】
指定する参考書は特にない．
C 言語や UNIX やソケットプログラミングに関する参考情報は、インターネットを検索することで十分に得られる。

【成績評価の方法と基準】
レポート（３件）により評価する（試験は行わない）。
評価の配分は下記の通りである．
１件目レポート：２０％
２件目レポート：３０％
３件目レポート：５０％
※ 評価配分から，３件目レポートが未提出だと確実に不合格になってしまうことに注意

【学生の意見等からの気づき】
ステップバイステップで説明するため、確実に理解・実装して頂くことで比較的簡単にネットワークプログラミングを書けるようになる。しかし、逆に（欠席したり，不明点を放っておいたり，自主宿題をやってこなかったりすることなどにより）一歩一歩確実に理解・実装を進めていかないと、次のステップのハードルが高く感じてしまう。講義資料のアップロード、掲示版やメールでの質疑応答等、可能な限りフォローするが、講義中も含めて質問は随時受け付けるので遠慮なく聞いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
本講義は実習を含むことから貸与ノート PC および，貸与ノート PC 上のプログラミング環境が必須となる．また，ネットワークプログラミングの動作を確認する必要上，ネットワーク接続も必要である．具体的には以下の通りである．
＜必要機器＞：貸与ノート PC
＜プログラミング環境＞：Ｃ言語開発環境（Windows の cygwin 上の gcc を想定開発環境とする）
＜ネットワーク接続＞：無線にてネットワーク接続ができること

【その他の重要事項】
・授業時間中に，３名の TA（大学院生）がプログラミング実習のサポートを行う予定であり、先生には聞きづらい事項などは TA に質問／支援依頼することが可能である。
・通信の基礎知識と実装を学びたい学生の果敢なチャレンジを期待する。コツコツと苦労して獲得した多数の知識を駆使して、自分で組み上げたプログラムが実際に通信を行って動いた時の喜びは格別であり，達成感を味わうことができる。
・担当教員は通信サービス系企業に約２０年間勤務し，数々のネットワークサービスに関して，研究から実用化開発，保守運用業務の実務経験を有している．本授業では実用化開発経験に基づいた実装ノウハウなども紹介していく．
・Ｃ言語はコンピュータの仕組み（メモリの概念やポインタなど）をある程度把握する必要があるので、コンピュータの基礎を知る上でもマスターしておくことが望ましいプログラミング言語だと言える。
「１度は、C 言語プログラマーを経験しておくべき」
http://www.orenoh.com/knowledge/c-programmer.html
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge of communication functions on the Internet and how to implement programming related to it through lectures and practical training. The programming language used in this lecture is C.
The goal of this lecture is to understand the mechanism of computer communication, basic Internet protocols like TCP and UDP and their programming using programing language C.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. |
Your overall grade in the class will be decided based on the following three times repots.
1st report: 20%、2nd report: 30% and 3rd report : 50%

COT300XE

情報ネットワーク設計論

上田　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に、通信レイヤー２，３，４のプロトコルや仕組みを深く理解する。その上で、具体的に LAN を設計、構築する基礎的な知識と方法を学ぶ。

【到達目標】
インターネット接続を意識した、レイヤ２～４およびネットワーク制御や利用に必要な一部のサーバを中心とした初歩的なローカルエリアネットワーク(LAN) を具体的に設計できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義では、情報ネットワークを構築する方法について、インターネットに接続することを前提としたローカルエリアネットワーク (LAN) の設計を教授する。まず、物理層（レイヤ１）からネットワーク層（レイヤ３）を対象として、Ethernet を中心として有線／無線 LAN などの LAN の仕組みと構成を理解する。続いて、レイヤ３を中心として、サブネット設計、ルーティング設計を習得する。ネットワーク利用に必要なアプリケーションプロトコルやサーバについて、利用に応じた上位層の各種サーバの構成を学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報ネットワークの歴史と発展	情報ネットワーク（コンピュータネットワーク）におけるネットワーク構成の歴史と発展
第 2 回	通信方式概観	全体の通信方式を学ぶ。
第 3 回	ネットワークプロトコル構成	ネットワークプロトコルや通信レイヤーの考え方、構成を学ぶ。
第 4 回	WAN と LAN	WAN と LAN の仕組みを学ぶ。
第 5 回	レイヤ２プロトコル（CSMA/CD）	有線 LAN（Eternet）の基本的なプロトコルである CSMA/CD とＶＬＡＮを学ぶ
第 6 回	レイヤ２プロトコル（CSMA/CA）	無線 LAN の基本的なプロトコルである CSMA/CA を学ぶ。
第 7 回	レイヤ 3 プロトコル（IP）	IP の仕組みを学ぶ。
第 8 回	レイヤ４プロトコル (TCP)	TCP の仕組みを学ぶ。
第 9 回	アドレス変換とサブネットワーク	アドレス変換、各種ネットワークサーバの種類や仕組みを学ぶ。
第 10 回	アプリケーションレイヤ	アプリケーションレイヤの構成法を学ぶ。
第 11 回	各種サーバ	ネットワーク構成に必要な各種サーバの構成法を学ぶ。
第 12 回	ネットワークの基本的構成	ネットワーク構築の条件とそれに基づいた構成と設計について基本的な接続を学ぶ。
第 13 回	ネットワークのサーバ設置法	ネットワーク構築の条件とそれに基づいた構成と設計についてサーバ類の機能や設置について学ぶ。
第 14 回	設計、構成例とまとめ	具体例を元に、設計法を学ぶとともに全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
課外レポート作成。

【テキスト（教科書）】
授業中のスライドと配布資料による。

【参考書】
・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク　講義ノート」オーム社
・情報処理技術者試験ネットワークスペシャリスト関連の参考書
・「マスタリング TCP/IP 入門編　第 6 版」（オーム社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回の小テスト、レポート等　→　５０％程度
・最終回に行うオンラインテストと最終レポート　→ ５０％程度

【学生の意見等からの気づき】
課題に対するフィードバックを迅速に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
オンラインでの開講となった場合の対応
　・オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する
　・担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。
実務経験
　・大学の情報システム・ネットワークの管理運用
　・ネットワークトラフィックの計測と分析
　・クラウドシステムの企画と運用
　・セキュリティポリシーの策定と運用・普及
授業の実施
　・企業から講師を招き、実際の企業活動への理解を深める。
　・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
　・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。

【Outline (in English)】
You mainly understand deeply the protocol and structure of the communication layers 2, 3, and 4. You study the foundational knowledge and method of designing local area network(LAN) to build concretely LAN.

COT300XE

パターン認識

森　稔

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間が行っている「識別」や「理解」という高度知的情報処理は、視覚や聴覚といった各種の外部刺激を脳で解析し行われている。コンピュータによってこれらの情報を処理する場合、解析対象となる各種の情報をすべてを情報列「パターン」として扱うことになる。本講義では、各種パターンをどのように解析、処理することで、さまざまな対象の「識別」や「認識」が可能となるのかについて、その概要（理論・方法）を学ぶ。

【到達目標】
様々な対象の「識別」や「認識」を目的として、パターンをどのように取得、解析し、処理していくかについての概要（理論、方法）を学び、実際に自分の興味のある識別・認識問題に対して、アプローチしていく基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータによる「認識」や「理解」といった知的処理の実現には、大まかに、(1) 対象の読み取り、(2) 対象の特徴量抽出（記述）、(3) 特徴量による分類（識別）、という段階に分けられる。本講義では、これらの (1) から (3) の過程について、理論および実際のシステムの実現例を紹介しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	パターン認識とは	・パターン認識処理の構成 ・人工知能・機械学習との位置づけ ・最近の動向
2 回目	デジタル画像処理	・アナログとデジタル ・標本化と量子化 ・周波数領域での処理 ・閾値処理
3 回目	色彩情報	・色の知覚 ・色の表現
4 回目	特徴の記述・その 1	・エッジ検出 ・線の検出 ・領域分割
5 回目	特徴の記述・その 2	・勾配ベースの特徴 ・大きさ・位置に不変な特徴（SIFT)
6 回目	パターン照合による識別	・クラス識別の概念 ・特徴ベクトルと特徴空間 ・最近傍決定測 ・単純類似度法 ・マハラノビス距離
7 回目	ベイズ	・教師有り学習 ・ベイズ理論 ・ナイーブベイズ
8 回目	決定木	・決定木の概要 ・分割規則 ・剪定
9 回目	集団学習（アンサンブル学習）	・バギング ・ブースティング
10 回目	Support Vector Machine	・線形 SVM ・カーネルトリック ・非線形 SVM
11 回目	ニューラルネットワーク・その 1	・形式ニューロン ・パーセプトロン
12 回目	ニューラルネットワーク・その 2	・多層パーセプトロン ・活性化関数 ・誤差逆伝搬法
13 回目	ニューラルネットワーク・その 3	・ディープニューラルネットワーク ・畳み込みニューラルネットワーク
14 回目	ニューラルネットワーク・その 4、及び課題	・ディープニューラルネットワークの各種展開 ・期末課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
本格的に理解するには、自分でプログラミングできる方が望ましく、Python 等の開発言語を身につけておき、自分で確かめられると良い。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。必要に応じてファイルを配布する。

【参考書】
・石井健一郎他　「わかりやすいパターン認識」　オーム社
・田村秀行　「コンピュータ画像処理」 オーム社
・原田達也　「画像認識」　講談社
・斎藤 康毅　「ゼロから作る Deep Learning」　オライリージャパン
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（70 %）
平常点（30 %）
特に理由がない限り、出席率が 3 分の 2（9 回）以上を前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
サンプルプログラムの説明・実行や、実サービスの応用例など、興味を持てる内容や課題を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を持参のこと（Python の実行環境がインストールされていると良い）。

【その他の重要事項】
企業にて研究・開発・企画等の各種勤務経験のある講師が、基本から最先端に至る理論・技術に関する講義を行うと共に、企業における利用状況や研究開発の在り方などについても紹介する。
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにして下さい。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
Computers recognize images or signals by handling information to be undestood as patterns. This course introduces theories and methods of pattern recognition such as image recognition to students taking this course.
(Learning Objectives)
The goals of this course is acquiring basic knowledge and skills for applying pattern recognition methods to practical tasks.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteri / Policy)
Term-end report: 70%, in class cotribution: 30%.

COT400XE

セキュアシステム設計

斉藤　典明

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
セキュアな情報システムとするための原理や手法を、インターネットに接続されたＬＡＮとシステムで構成されるネットワークシステムを基本に学ぶ。また、企業の最先端の情報や実習を交えて、実践的な学習を行う。

【到達目標】
様々な攻撃や内部漏えいを防止するためのネットワークやコンピュータシステムを実現するために、攻撃手法と防御手法を理解し、ネットワークを含めた初歩的なセキュア・システム設計および対策ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コンピュータシステム、ネットワークの仕組の概要を学ぶ。次に、セキュアなシステムとはなにかを理解し、基礎となる暗号技術、認証技術を学び、それに基づいたセキュアプロトコルを理解した上で、ネットワークを通じた攻撃技術と防衛技術を理解する。次に、具体的なセキュアネットワークシステムやコンピュータシステムの設計手法を学習する。グループディスカッションを交えて、課題分析力を養う。
・講義に対する連絡事項、課題の提出および課題に対するフォードバック、連絡事項は、学習支援システム経由で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびセキュリティの全体像と最新動向	簡単なオリエンテーションの後、セキュリティとはなにか、セキュアシステムとはなにかについて、世の中の動向も含めて学ぶ。
第 2 回	ネットワーク攻撃の種類と概要	ネットワーク攻撃の種類と概要、および関連する基礎知識を学ぶ。
第 3 回	法律と IT システム	セキュリティに関する法律と、IT システムとの関係を学ぶ。
第 4 回	企業における情報セキュリティの取り組み事例の紹介	実際の企業で実施されている情報セキュリティへの取り組み事例を学習する。
第 5 回	レイヤ４以上での攻撃（サイバー攻撃対策）	サイバー攻撃とその対策手法について学ぶ。
第 6 回	レイヤ４以上での攻撃（Ｗｅｂ）	Ｗｅｂに特化してセキュリティ対策を学ぶ。
第 7 回	レイヤ４以上での攻撃（電子メール）	電子メールに特化してセキュリティ対策を学ぶ。
第 8 回	レイヤ３での攻撃	TCP/IP のレイヤ３と４における不正アクセスの事例と、その防御のための設計・設定について学ぶ。
第 9 回	ＬＡＮ上のセキュリティ（レイヤ１と２）	レイヤ１と２における脅威とセキュリティ対策について学ぶ。
第 10 回	セキュリティプロトコル	暗号、署名方式についての簡単な解説と、SSL、IPSec について学ぶ。
第 11 回	防御システムの基本構成（セキュアネットワーク）	防御するためのネットワーク構成の基本を学ぶ。
第 12 回	防御システム構成と各種サーバ構成（クラウドセキュリティ）	セキュアなネットワークとするための構成方法と各種サーバの設置および IDS（侵入検知システム）、IPS（侵入防止システム）について学ぶ。
第 13 回	その他、重要なセキュリティ対策技術（解析技術）	マルウェア解析やデジタルフォレンジックについて学ぶ。
第 14 回	その他、重要なセキュリティ対策技術（個人データの匿名化手法）	個人情報の安全な利用を想定して、個人データの匿名化手法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
課外レポート作成。

【テキスト（教科書）】
授業中のスライドと配布資料による

【参考書】
・金井他著「基本からわかる情報通信ネットワーク　講義ノート」オーム社
・金井他著、“攻めと守りのシステムセキュリティ、”　電子情報通信学会発行,　コロナ社。
・情報処理技術者試験　情報セキュリティスペシャリスト関連の参考書
・若林著” よくわかる最新暗号技術の基本と仕組み、” 秀和システム
・中島著「サイバー攻撃」　ブルーバックス・講談社
・その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・毎回のディスカッションを踏まえたレポートと（14 個 50 点満点) と試験相当の最終課題 (50 点満点) で評価する。
・最終課題の提出を必須とし、毎回のレポートと最終課題の合計が 60 点以上で合格とする。
・授業への取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
企業等の実際の最新情報をおりこむ。

【その他の重要事項】
実務経験
・汎用コンピュータの開発環境の開発
・電話網インテリジェントネットワークの開発
・セキュリティシステムの研究開発およびマネジメント
授業の実施
・実務経験を交えつつ、実践的な授業を行う。
・学問的なことだけではなく、企業の最先端の状況を伝え、重要性を把握させる。
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。
・授業を欠席する際には、公欠等の大学所定の手続きを実施してください。

【Outline (in English)】
- Course outline
To become able to design a secure network system, several threats for a network and anti cyber attack technologies are lectured in this lesson. And, this lesson is composed of some lectures and group discussions.
- Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
It will be able to know the basic principles of cyber attacks and anti method for it.
It will be able to know how to develop information systems on secure.
- Learning activities outside of classroom
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Final report: 50%、Short 14 reports by every times: 50%

COT400XE

ユビキタスネットワーク

若林　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身の回りにはいたるところに小型コンピュータが存在し、それらがネットワークにより相互につながっている。このような環境をユビキタスネットワークと呼び、現在は IoT と名称を変え、あらゆる場所で簡単に情報が利用可能になる仕組みとして発展し続けている。ユビキタスネットワークを実際に構築するために必要な様々な技術について階層ごとに分けた技術テーマを学ぶ。

【到達目標】
ユビキタスネットワークは、光と電気、ハードウエアとソフトウエア、デバイスからネットワークまで、広範囲な技術を必要とする。これらの技術に関して基礎知識を習得し、実際にどのように利用されているかを理解することを授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義と演習を行う。
ユビキタスネットワークを学ぶ上で、１．IoT とは、２．ネットワーク技術、３．ハードウェア開発、４．ソフトウェア開発、５．人工知能など、直接関わる技術やその周辺技術として、これらの技術を最先端の研究開発状況と関連付けて講義する。講義形式を主体。適宜小テストおよび課題提出を行うことで理解を深める。課題のフィードバックは授業内で個々に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	IoT の基礎	ユビキタスネットワークの発展型である IoT についてを学ぶ
第 2 回	IoT の活用	IoT を応用したサービスなどの現状を学ぶ
第 3 回	組込システム	システム化技術と組込システムとの関連を知る
第 4 回	LSI 技術	半導体の基本と LSI 開発、設計、製造
第 5 回	IoT 通信	IoT デバイスの通信方法などの技術について学ぶ
第 6 回	IoT を支える技術	通信ネットワークやシステムに関する技術などを学ぶ
第 7 回	IoT を考える	今まで学んだ IoT に関する内容をグループ討議でまとめ、発表を行う。
第 8 回	IoT セキュリティ	大量の情報が流通する IoT におけるセキュリティを学ぶ
第 9 回	IoT のビジネスモデル	IoT は技術だけでなく、どのように社会に展開していくかも大事なのでビジネスモデルについて学ぶ
第 10 回	人工知能概論	IoT に欠かせない人工知能について概要と関わりを学ぶ
第 11 回	ＤＸって何だ？	デジタルトランスフォーメーション (DX) の目的や企業経営との関わりについて学ぶ。
第 12 回	５Ｇでできること	5G の技術のその成り立ちなどについて学ぶ。
第 13 回	IoT 概論（1）	2 週にわたり IoT 概論を講義する
第 14 回	IoT 概論（2）	2 週にわたり IoT 概論を講義する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回のテーマと内容から、インターネット、新聞、技術雑誌等で関連箇所を事前に調べておくこと。また、日ごろ利用している電子機器の仕組みについて興味を持つ。

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、授業内でアナウンスする。

【参考書】
特に参考書を指定はないが、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験、課題提出、レポートを参考にして総合的に判断する。期末試験５０点、課題とレポートを５０点とし、６０点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。

身近な情報通信機器と、最先端のハードウエア・ソフトウエア通信ネットワーク技術の関連をわかりやすく講義する。講義内容に直接関連した小テストに留意する。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンなどのテキスト購読用情報機器。資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用するので各自で登録が必須。

【その他の重要事項】
企業での経験から、IoT システムに必要とされている基盤技術を丁寧に講義するとともに、日々進歩する最新技術動向を解説する。
オンライン講座を前提のシラバスとなっているが、対面の場合にも同様な講座内容となる予定。

【Outline (in English)】
Many small computers exist in living space, and they are interconnected by a network. Such an environment is called a ubiquitous network. I will lecture on various technologies necessary for actually achieving a useful ubiquitous network. Attendance is mandatory. Reporting will take place outside of class hours. Final grade will be determined by reports (50%) and exams (50%).

COT100XE

インターネットプロトコル

原　潤一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報ネットワークの基本的なプロトコルを学ぶ。インターネットの代表的なプロトコルである TCP/IP を取り上げ、情報ネットワークの仕組みを学ぶ。また、アプリケーションレイヤのプロトコルとして電子メールプロトコルを取り上げ、理解を深める。

【到達目標】
情報ネットワークの通信の仕組みを理解する上で不可欠なプロトコルについて、インターネットで使われている代表的なプロトコルである TCP/IP を中心に学び、今後のネットワーク技術を学ぶ基礎を養うことを目的とする。
1. 通信一般に必要な通信プロトコルレイヤについて説明できる。
2. TCP/IP の考え方と、具体的な仕組みや機能を説明できる。
3. 電子メールプロトコルの仕組みを理解し、メールヘッダを解読できる。
4. インターネットでデータ通信が行われる仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式の授業とする。講義では、可能な範囲で演習などを取り入れることで理解度を高めることを目指す。また、学習内容の確認を兼ねた小テストやレポート等の課題を学習支援システムを通じて適宜課し、授業中に解答例を示すことで、前回の講義内容の理解度を深める。受講生から受けた質問やコメントは、適宜授業内で取り上げ講義内容や議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットの歴史	インターネットの発祥からその発展の経緯を学ぶ。
第 2 回	パケット通信の仕組みと通信レイヤ	パケット通信の仕組み、通信レイヤ参照モデルを学ぶ。
第 3 回	プロトコルのための基礎知識	基礎となる二進法、コード体系などを学ぶ。
第 4 回	IP アドレス体系	IP アドレス、URL の体系を学ぶ。
第 5 回	IP ルーティング	IP パケットのルーティング方法、経路選択、制御方式を学ぶ。
第 6 回	TCP プロトコルの機能	TCP プロトコルの機能を学ぶ。
第 7 回	TCP プロトコルにおけるウインドウ制御、スループットの考え方	スループットの考え方とウインドウ制御方式を学ぶ。
第 8 回	電子メールの動作に必要な機能	電子メールの仕組みおよびプロトコルを学ぶ。
第 9 回	電子メールのヘッダ	電子メールのヘッダやエンコード方式について学ぶ。
第 10 回	ウエブのプロトコル	ウエブの仕組みおよび HTTP や CSS などを学ぶ。
第 11 回	その他のプロトコル	TELNET や他のアプリケーションなどのプロトコルを学ぶ。
第 12 回	セキュリティとプロトコル	セキュリティおよびセキュアプロトコルの基本について学ぶ
第 13 回	全体のまとめ	第 1 回から 12 回迄の情報ネットワークの通信の仕組みを概観する。
第 14 回	インターネットプトコルの理解度確認	講義全体に対する理解度を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の際には次回の講義内容が予告されるため、前に予習をしたうえで授業にのぞむことが望ましい。
授業後は、適宜課されるレポート等の復習課題に取り組む。課題がない場合でも内容を振り返り、十分な復習をしておくこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に定めない。授業で用いる資料等は学習支援システムにて配付する。

【参考書】
・井上直也，他．マスタリング TCP/IP 入門編．第 6 版，オーム社，2019.
・アンドリュー・S・タネンバウム，他．コンピュータネットワーク 第 5 版．日経 BP，2013.
・情報処理技術者 ネットワークスペシャリスト試験関連の参考書
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・小テスト・レポート等の課題（100%）
以上を基準とし、総合的に評価するが、学年末試験を実施する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
本年度は授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。授業計画通りに行う予定であるが、実施回や内容等が変更される可能性あり。

【Outline (in English)】
This class let you know to learn the basic protocols of information networks, by taking up TCP/IP which is a typical protocol of the Internet, and also the e-mail protocol as an application layer protocol to deepen the understanding.
Your grade will be evaluated based on the number of class attendance, reports, tests, and assignments.
The next lecture will be announced at the time of class, so you should prepare for the class before attending the class.
After class, we will review the reports that are imposed as needed. Even if there are no report, please review the contents and thoroughly review them.
The preparation and review of this class is 4 hours each.

COT300XE

クラウドコンピューティング

下村　道夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（本講義は「グリッドコンピューティング」と同一内容である。）
インターネットの進展に伴い、分散コンピューティングが主流になりつつある。その端緒がグリッドコンピューティングであり、そのビジネス発展形がクラウドコンピューティングである。分散コンピューティング環境を「安全で使いやすいもの」にするためには新たな技術が必要となる。
本授業では、グリッド／クラウドコンピューティングを「安全で使いやすいもの」にするための要素技術を解説する。また、これらの技術をベースとするビッグデータについても解説する。

【到達目標】
グリッドコンピューティングやクラウドコンピューティングとは何か、それらに使われている技術はどのようなものか、それらを利用したサービスにはどのようなものがあるのかなどを把握することで、将来、ICT（情報通信技術）に携わる職種（研究開発、SE、プログラマ等）に就く際に必要不可欠な広範囲な基礎知識習得を図ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、グリッド／クラウドコンピューティングの要素技術であるセキュリティ，ジョブ実行管理、データベース管理、プログラミングモデル等の基礎的な内容に触れるとともに最新の応用事例なども取り入れていく。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	グリッド/クラウドコンピューティングの概要（1）	グリッド/クラウドの概念や要素技術を体系的に学ぶ
2 回	グリッド/クラウドコンピューティングの概要（2）	グリッド/クラウドに関連する幅広い基礎知識を学ぶ
3 回	セキュリティ（1）	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、認証技術を中心に学ぶ。
4 回	セキュリティ（2）	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、ディジタル署名技術を中心に学ぶ。
5 回	小テスト１	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確実なものとする。
6 回	セキュリティ（3）	分散されたコンピューティング環境における、安全なサービス実行のためのセキュリティ要件と課題について、認証連携（シングルサインオン）技術を中心に学ぶ。
7 回	情報サービス	分散されたコンピューティングリソースを効率的活用をもたらす情報サービス技術を学ぶ。
8 回	ジョブ実行管理，スケジューリング	分散されたコンピューティングリソースを用いて効率的にジョブ実行を行うための管理方式やスケジューリング方式について学ぶ。
9 回	データベース管理	分散された情報リソースの効率的利用を可能とする分散データベースシステムについて学ぶ。
10 回	小テスト２	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確実なものとする。
11 回	プログラミングモデル，クラウドコンピューティングサービスと要素技術１	プログラミングモデル（マスタ・ワーカ方式）、クラウドコンピューティングの定義や形態について学ぶ。
12 回	クラウドコンピューティングサービスと要素技術２	クラウドコンピューティングの要素技術として、GoogleFileSystem、Bigtable、分散 Key-Value ストア等の概要を学ぶ。
13 回	ビッグデータ	クラウド技術が活用されているビッグデータの内容と社会課題を解決する具体的な応用例を学ぶ。
14 回	小テスト３	これまでの内容に関する確認テストとその解説を行い、理解内容を確実なものとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・予習として、授業計画に示されたキーワードについてインターネット検索などにより調べ、不明点を抽出する。
・復習として、授業内での不明点の調査、関連知識の調査、レポート課題、小テストに向けた復習などを実施する。

【テキスト（教科書）】
指定するテキストは特にない。 毎回、授業プリントを配布する。

【参考書】
指定する参考書は特にない。 毎回、授業プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
レポート１回 (70%)、 小テスト３回 (30%) 、平常点等によって決定する。
オンライン授業になった場合も同様とする.

【学生の意見等からの気づき】
グリッド/クラウドコンピューティングに限定せず、それをきっかけに、関連する情報通信技術に関する基礎知識、ビジネス現場での活用例、サービス事例等についても幅広く取り上げる。また、社会事象の捉え方、社会での振る舞い方といった高度情報社会を生きる社会人としての基本思考、基本言動にも言及する。

【その他の重要事項】
担当教員は通信サービス系企業に約２０年間勤務し、数々のネットワークサービスに関して、研究から実用化開発、保守運用業務の実務経験を有してる。本授業ではこれらの業務経験に基づいた情報通信サービスの技術、サービスに関する具体的事例，仕事の進め方なども紹介する。
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire elemental technologies for making cloud computing safe and easy to use and basic knowledge of information communication related services using big data.
By the end of the course, students are expected to acquire extensive basic knowledge of ICT that is essential for future ICT careers as followings:
- What is cloud computing.
- What are the technologies used in cloud computing.
- What are the services by cloud computing.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 70%、Three times mini-examinations : 30%

ELC200XE

電子回路

品川　満

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組込システムは、ソフトウエアとハードウエアの融合によって成り立つ。ハードウエアの要素技術である回路は、抵抗、コイル、コンデンサといった受動素子だけではなく、トランジスタやダイオードといった能動素子も重要な役割を果たす。本講義では、受動素子と能動素子を組み合わせた電子回路の動作を回路シミュレータを用いて理解する。電子回路の基本となるオペアンプの基本動作を理解し、オペアンプを微弱信号検出に適用できるようになる。

【到達目標】
電子回路の動作を解析的に解くことは重要ではあるが、実際に使用することを想定したとき、回路シミュレータの活用が必須となる。回路シミュレータを用いた AC 解析や過渡解析手法を理解し、オペアンプを様々なシステムに応用できる技術を習得することを授業の到達目標とする。
The goal of the class is to understand AC analysis and transient analysis methods using circuit simulators, and to acquire techniques that can apply operational amplifiers to various systems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オペアンプの基本動作、およびオペアンプの応用例について、LT-SPICE 回路シミュレータを用いて解析しながら、電子回路の理解を深める。リアクションペーパー等におけるコメントは適宜授業内で紹介し、授業内容の理解に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	電子回路とは	講義で学ぶことを俯瞰、LT-SPICE インストール
第 2 回	受動素子と共振現象	抵抗、コンデンサ、コイルの受動素子の基本動作と、受動素子を用いた共振現象
第 3 回	トランジスタ回路	トランジスタの基本回路であるエミッタ接地、ベース接地、コレクタ接地
第 4 回	増幅器基礎	小信号特性、周波数特性
第 5 回	差動増幅器	周波数特性、電圧利得、同相成分抑圧比、小信号特性
第 6 回	オペアンプ基礎	ボルテージフォロワー、反転増幅器、非反転増幅器
第 7 回	中間レポート	LTspice 使用方法理解度確認
第 8 回	オペアンプ応用	加減算、微分、積分
第 9 回	オペアンプ発展	差動増幅器、バーチャルショート
第 10 回	フィルタ回路	ローパスフィルタ、ハイパスフィルタ、バンドパスフィルタ
第 11 回	電源＋バイアス	回路を動作させるための電源の考え方、両電源、単電源の役割
第 12 回	人体通信	人体通信の等価回路と周波数特性
第 13 回	まとめ	講義全体を通して重要な項目を整理
第 14 回	重要事項理解度確認	講義で取り上げた電子回路および電子回路の応用問題の試験により、重要事項の理解度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回のテーマと内容から、参考書等で関連箇所を事前に学習する。小テストを講義資料を参考に解きなおす。
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　From the theme and contents of each session, learn related parts in advance with reference books. Resolve the test with reference to the lecture materials.

【テキスト（教科書）】
毎回の講義で使用する資料は、講義中に配布する。そのほか変更がある場合には、講義内でアナウンスする。

【参考書】
LTspice で学ぶ電子回路　オーム社
定本　オペアンプ回路の設計　CQ 出版社
定本　トランジスタ回路の設計　CQ 出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験あるいは最終レポート、小テストを参考にして成績評価を総合的に判断する。期末試験あるいは最終レポート課題７０点、小テスト３０点とし、６０点以上を合格とする。なお、成績評価には７０％以上の出席率が必要。
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
研究開発の現場で用いられている回路シミュレータの実習を講義内で実施し、単なる知識の取得だけでなく実践力が身につく講義とする。適宜小テストを実施し、理解を深める。小テスト中は、教員および TA に対して質問可能とし、さらに学生同士の相談を認めることで、多くの学生が答えにたどり着けるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
フリーソフトの LT-SPICE を各自のノート PC にインストールし持参する。インストールがうまくいかない場合は TA に聞くこと。

【その他の重要事項】
電子回路の基礎を学ぶだけではなく、企業での研究開発経験を基に、電子回路がどのように IoT のシステム開発に活用されているのかを講義する。授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。なお、オフィスアワーは月曜日の３時限目です。

【Outline (in English)】
This course introduces the operation of electronic circuits combining passive and active elements using a circuit simulator. Embedded systems consist of software and hardware. Circuits are an important technology in the hardware. Active elements such as transistors and diodes play an important role in addition to passive elements such as resistors, coils and capacitors. The basic operation of the operational amplifier, which is the basis of the electronic circuit, will be explained, and various application examples of the operational amplifier will be introduced.
【Goal】
The goal of the class is to understand AC analysis and transient analysis methods using circuit simulators, and to acquire techniques that can apply operational amplifiers to various systems.
【Learning activities outside of classroom）】
The standard time to spend preparing and reviewing this lesson is 4 hours.　From the theme and contents of each session, learn related parts in advance with reference books. Resolve the test with reference to the lecture materials.
【Grading Criteria /Policy】
Grades are evaluated based on final exams, tests, and final reports. 70 points for the final exam or final report assignment, and 30 points for the test and simulator exercises. Pass 60 points or more. Attendance rate of 70% or higher is required for grade evaluation.

ECN200XF

アクチュアリー数理

佐伯　利明

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保険会社等で商品開発や決算などの業務に関わるアクチュアリーには確率や統計の考え方が不可欠となる。本授業を通じて、その基礎的な部分を演習により学んでいく。

【到達目標】
確率・統計の基礎的な部分を学び、資格試験受験に役立てる。また、簡易的なモデルの演習を通じて保険数理（保険料の計算の考え方）、金融工学（資産運用ポートフォリオの考え方）、経済学等を取り扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの解説だけでなく、授業内で確認テストや中間テストを行い、当日行った授業内容の確認を演習を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションおよび金利の考え方の説明	資格試験、業務実例についての説明。保険数理やファイナンスの基礎となる金利の考え方の説明
第 2 回	金利の考え方の説明	金利の考え方を住宅ローンを題材にして説明
第 3 回	離散型の確率①	確率変数・確率分野や期待値の考え方について。
第 4 回	離散型の確率②	代表的な離散型の確率分布について。
第 5 回	連続型の確率①	連続型の確率の考え方と離散型との違いについて。
第 6 回	連続型の確率②	代表的な連続型の確率分布について。
第 7 回	確率変数の和や中心極限定理	再生性や代表的な分布による確率変数の和の算出について。また中心極限定理の考え方について。
第 8 回	中間テスト（金利・確率）	第 1-7 回までの確認テスト。対面ができない場合にも実施します。
第 9 回	統計・点推定	点推定の考え方について。
第 10 回	統計・区間推定	区間推定の考え方と正規母集団の母平均の区間推定について。
第 11 回	統計・区間推定	正規母集団の母分散の区間推定について。
第 12 回	統計・仮説検定	仮説検定の考え方と母平均に関する仮説検定について。
第 13 回	統計・仮説検定	母分散や母平均の差に関する仮説検定について。
第 14 回	まとめ	全体のまとめ。対面で期末テストができない場合には、14 回目を期末の課題となります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間程度を標準とする】基本的には各授業において確認テストを行うことから、授業および確認テストで理解ができていればテスト前以外については特段行う必要なし。ただし、復習としてテキストについて確認しておくとより理解が深まる。

【テキスト（教科書）】
授業に使用するテキストは Hoppi 上の教材部分に保存しておくので PC で見るか、印刷して持参すること。授業として他のテキストは不要。

【参考書】
※購入の必要はありません。この分野に興味のある方向けです。
・確率統計演習 1 および 2　国沢清典
・生保年金数理 I 理論編　黒田耕嗣
・確率で考える生命保険数学入門　京都大学理学部アクチュアリーサイエンス部門編
・意味がわかる統計解析　涌井貞美
・基礎演習確率統計　和田秀三
・アクチュアリー数学入門　黒田耕嗣

【成績評価の方法と基準】
下記の①～③に基づき評価を行う。
①平常点（確認テスト含む）　：25%±5%
②中間テスト（授業内テスト）：15%±5%
③期末テスト（授業外）　　：45%±5%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・テキストとして使用する資料
・電卓
※対面の場合、テストにおいては PC 等の使用は不可

【その他の重要事項】
生命保険会社で 15 年ほど業務（商品開発 10 年、収益管理 5 年）を行っており、課題を通じて生命保険の考え方を提供していく

【Outline (in English)】
Probability and statistics are indispensable for actuaries involved in product development and settlement work at insurance companies. You will learn the fundamental part by exercises.
[Learning activities outside of classroom]
After each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.
[Grading criteria]
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 60%, Mid-term examination: 15 %, in class contribution: 25%

ECN300XF

保険数理論

三戸　亮平

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保険業務に携わるアクチュアリーは保険料や責任準備金の計算を行っており、その業務には確率・統計の手法が用いられている。本講義では確率・統計の手法に基づき、保険数理の理論や計算手法を学ぶ。

【到達目標】
1．保険数理の理論および計算手法を理解する。
2．保険料および責任準備金の計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・保険数理の理論や計算手法を講義形式で解説する。また、業務実例を通じて保険数理論の理解を深める。
・各回の講義資料を配布し、それに基づき授業を行う。また、確率・統計の知識に関する資料を補足資料として配布する。
・課題については提出内容を踏まえて、問題の考え方を「学習支援システム」に掲載する。また、第7回講義でそれまで取り扱った課題から、いくつか取り上げて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アクチュアリーの活躍フィールド、試験制度、業務実例
第 2 回	生命表・金利	保険の基礎知識、生命表、金利
第 3 回	純保険料（1）	計算基数、一時払純保険料の考え方と計算
第 4 回	純保険料（2）	平準払純保険料の考え方と計算
第 5 回	責任準備金	責任準備金の考え方と計算
第 6 回	営業保険料	営業保険料の考え方と計算
第 7 回	課題解説	第2回～第6回のまとめ、演習課題の解説
第 8 回	確率的アプローチ（1）	保険金年末支払
第 9 回	確率的アプローチ（2）	保険金即時支払
第 10 回	応用事例（1）	保険料・責任準備金に関する応用問題
第 11 回	応用事例（2）	様々な保険商品の保険料の計算事例
第 12 回	応用事例（3）	実務上の責任準備金、解約返戻金の考え方と計算
第 13 回	応用事例（4）	収益性検証、利源分析
第 14 回	総論	総まとめ、保険商品開発の実務の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・復習のための演習問題を用意する。演習問題を実際に解くことで内容の理解を深めること。
・第 2 回～第 6 回までに取り扱う保険数理における基本的な事項については、演習課題を課す。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない（講義レジュメに基づき授業を行う）。

【参考書】
・黒田耕嗣、「アクチュアリー数学シリーズ 5 生命保険数理」、日本評論社
・山内恒人、「生命保険数学の基礎 アクチュアリー数学入門」、東京大学出版会
・京都大学理学部アクチュアリーサイエンス部門編、「アクチュアリーのための生命保険数学入門」、岩波書店
・東京大学教養学部統計学教室編、「基礎統計学Ⅰ 統計学入門」、東京大学出版会
・その他必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
下記に基づき評価を行う。
1．平常点： 15%
2．演習課題： 40%
3．レポート： 45%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・講義レジュメ
・パソコンまたは電卓

【その他の重要事項】
・保険会社で保険数理業務を担っている教員が、保険数理の理論および計算手法の講義を行う。またアクチュアリーの活躍フィールド・魅力や業務実例を紹介する。
・状況によって授業形態をオンラインとすることがある。各回「学習支援システム」を確認すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Actuaries involved in insurance business are calculating insurance premiums and policy reserves. This course introduces actuarial science based on probability and statistical methods to students taking this course.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand actuarial theory, calculate insurance premiums and policy reserves.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Usual performance score: 15%、Short reports : 40%、Term-end reports: 45%

MAN300XF

国際経営分析

赤塚　正樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知的財産と法に関する基礎的な知識・考え方について、具体的事例を交えながら考察することで、「知的財産マインド」を育む。
※注意：科目名は「国際経営分析」となっていますが、実際の授業内容は「知的財産と法」です。

【到達目標】
1. 知的財産と法に関する基礎的な知識・考え方を理解する。
2. 身近で起こった知的財産に関する問題に関し、簡単な解説ができる。
3. 知的財産権に関して起こり得る問題を事前に察知し、それを回避できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布資料及びパワーポイントを用いた授業を行った後、個別又はグループ演習により「考える」ことで、授業内容の理解を深める。なお、授業の最初に、前回の授業内容に関する小テストを実施し、その解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	知的財産と法の全体像
2	特許法 (1)	特許を受けることができる発明
3	特許法 (2)	特許要件及び手続き
4	特許法 (3)	特許権の侵害への対応
5	アイデア発想法	アイデア商品を開発する
6	意匠法 (1)	意匠法で保護されるデザイン
7	意匠法 (2)	意匠法特有の制度
8	商標法 (1)	商標が持つ４つの機能
9	商標法 (2)	商標としての「使用」
10	知的財産権の調査	J-PlatPat を用いた調査
11	著作権法 (1)	著作物とは
12	著作権法 (2)	著作権と著作隣接権
13	著作権法 (3)	著作権の制限規定
14	まとめ	その他の知的財産権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、４時間を標準とします。授業資料や参考書で予習・復習するとともに、授業内容に関連する記事やニュースを調べることで、授業内容についての理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。授業で使用する資料は、事前にデータで配布します。

【参考書】
1. 2022 年度知的財産権制度入門テキスト, 特許庁ウェブサイト, 2022 年 https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2022_nyumon.html
2. 知的財産管理技能検定 ３級テキスト (改訂 13 版), アップロード, 2022 年, 3300 円 (税込)
3. ビジネス著作権検定 公式テキスト [初級・上級] 第 3 版, インプレス, 2022 年, 2420 円 (税込)

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う小テスト又は提出レポート [70 %] と、授業・演習への参加姿勢 (発言・質問など) [30 %] で評価する。期末試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を踏まえて授業内容や難易度などを調整する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業では、パソコン等の端末でインターネットに接続する必要があります。資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
本授業を受講するにあたり特別な前提知識は必要としませんが、知的財産と法に少しでも興味があり、受け身ではなく前向きに授業に参加する意志のある学生を対象とします。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course introduces basic knowledge about intellectual properties and laws with specific examples to foster a proper mindset about intellectual properties.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to:
1. understand basic knowledge and concepts regarding intellectual properties.
2. be able to provide simple explanations on intellectual property issues that have occurred nearby.
3. be able to early recognize and avoid possible problems regarding intellectual property rights in advance.
(Learning Activities outside of Classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen their understanding by reading the lecture materials and the reference books and by researching articles and news stories related to the lecture content.
(Grading Criteria / Policy)
The evaluation will be based on quizzes in lectures or reports submitted [70%] and participation attitudes in lectures and exercises (comments and questions) [30%]. Term-end examination will not be conducted.

ECN300XF

管理会計論

熊谷　均

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営において管理会計理論が必要とされる社会的背景と理論の形成過程を理解し、講義と演習とディスカッションを通じて管理会計の基礎的な理論を学ぶ。

【到達目標】
財務会計、管理会計及びファイナンスの基礎的な理論と具体的な分析手法を身につけ、経済的な意思決定の前提となる情報を自ら分析し意味づけを行い、他者に伝えることができるようになることで、経済社会において付加価値の高い人材になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
参加者全員が Google クラスルームに接続して講義をすすめる。
毎回、講義・グループディスカッション・プレゼンテーション・演習課題を行う。出席者には発言を求めるが、検索すれば得られるような正答を追求することには重きを置かず、自らが知識と思考方法を身に着けるために深く考え、その考えを積極的に伝える努力を行い、他者のいかなる発言も尊重し、講座に参加する全ての者の学びに貢献する姿勢を重視する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション ビジネスの本質	講座の進め方と評価上重点事項の説明 本講座で学ぶことの経営理論における位置付けの解説
第 2 回	ビジネスゲーム	ビジネスプロセスと経営意思決定
第 3 回	会計情報の意義 財務会計と管理会計	会計情報を作成し利用する目的と意義 財務会計と管理会計の違い
第 4 回	業務意思決定	固定費・変動費 埋没コスト 機会コスト
第 5 回	業務意思決定	限界利益 貢献利益 損益分岐点分析
第 6 回	業務意思決定	価格交渉力 業務改善 価格戦略
第 7 回	ビジネスゲーム	経営分析と経営意思決定
第 8 回	投資意思決定	利益計画 投資評価 キャッシュフロー
第 9 回	投資意思決定	投資の経済性計算 回収期間法・ROI 法
第 10 回	投資意思決定	投資の経済性計算 NPV 法・IRR 法
第 11 回	割引率と企業目標	資本コスト ROA ROE
第 12 回	ビジネスゲーム	経営分析と経営意思決定
第 13 回	レポート課題の解説・まとめ	提出済みレポート課題の発表と解説
第 14 回	レポート課題の解説・まとめ	提出済みレポート課題の発表と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、3 時間を標準とする】
11 月中にレポート課題の内容を発表し、提出期限は 12 月中旬（後日指定）とする。第 13 回及び第 14 回講義の際の自らのレポート課題を他の受講生を含む講座全員に対してプレゼンテーションする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
会計の世界史 イタリア、イギリス、アメリカ 500 年の物語　田中靖浩　日本経済新聞出版社
世界標準の経営理論 入山 章栄 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
平常点（講義中の発言、グループディスカッション、演習課題の取り組み、発表などを通じた講座への貢献）70 %
レポート課題（課題発表のプレゼンを含む）30 %

【学生の意見等からの気づき】
ビジネスゲームは好評のため、今期も実施する。
受講に先立って財務会計論を履修済みであることを推奨するが必須ではない。

【学生が準備すべき機器他】
PC の持参は必須である。PC を持参しない者の受講を認めない。
Google クラスルームに全員が接続して講義を進める。板書もオンライン上で行い、また、表計算アプリ（エクセルあるいは Google スプレッドシート）を使用する前提での演習を行う。

【その他の重要事項】
上記【成績評価の方法と基準】に基づく単位取得条件に満たない受講者に対し、救済措置は一切とらない。特に 4 年生の履修決定は慎重に行うこと。
講師は、大手国際会計事務所（KPMG）にて財務諸表監査（日本及び米国）、M＆A、企業再生などの実務に従事した後、独立開業。現在は、M＆Aに関連するアドバイザリー業務の他に、ベンチャー創業者や社会起業家に対する支援も行う。また、上場企業の社外役員を歴任。これらの経験に基づく実践的な視座から講義を行う。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the fundamental theory of management accounting and the practical application of management accounting to students taking this course.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to acquire the ability to explain in your own words the information desired by various stakeholders related to business activities.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Reports(including presentations in the classroom): 30 %, in class contribution: 70%

ECN300XF

公共経済学

宮越　龍義

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政府の経済活動である財政という対象を経済理論という手段で分析するのが公共経済学または財政学である。それは、市場経済の失敗と不備をどのように是正するのか、また、是正するうえで最適な政策は何かを研究してきた。これまでの主要な研究を紹介する。

【到達目標】
市場経済だけでは解決できない異世代の所得再分配とか環境問題に対して政府はどう取り組むべきかを監視する目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主要な先行研究を紹介しつつ、公共経済学の基礎知識習得に力点をおいて、講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、進行方法、評価方法、公共経済学とは
第 2 回	市場と政府	市場の機能・政府の役割
第 3 回	政党と政策	政党の行動
第 4 回	公共財の公的提供	Bowen の投票モデル
第 5 回	価格規制と参入規制	市場の失敗の是正
第 6 回	中間試験	復習
第 7 回	外部不経済とピグー課税	市場の失敗の是正
第 8 回	外部不経済と市場創設	公害市場の創設
第 9 回	公共財の私的提供	ナッシュ均衡
第 10 回	直接税・間接税 1	課税による政府経済活動の資金調達
第 11 回	直接税・間接税 2	課税による政府経済活動の資金調達
第 12 回	公債	公債による政府経済活動の資金調達
第 13 回	年金	市場の不備の是正、公的年金制度、世代間の再分配
第 14 回	再分配政策	個人・地域間の再分配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】経済の TV ニュースを良く見ていると講義に興味が湧くと同時に、理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
井堀著『公共経済の理論』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点 (中間試験 30%と期末試験 70%) とし、60 点以上が合格である。

【学生の意見等からの気づき】
「社会システム概論」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「国際経営論」、「金融政策論」、「金融システム論」、「日本経済論」などの経済学関連講義を数多く履修すると、「公共経済学」の理解が深まります。また、微積・線形代数・統計学は十分理解しておくことが必須です。特に、「経済数学」は経済分野を理解する上で必須となります。

【その他の重要事項】
この講義の理解を深めるには、「社会システム概論」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「国際経営論」、「公共経済学」、「金融政策論」、「金融システム論」、「日本経済論」などの経済学関連講義を数多く履修すること、また、微積・線形代数・統計学も履修することが必要です。私の実務経験 (生産システムの原価計算、予算管理、世界の経済情勢の把握) からすると、経済学には必ずと言っていいほど、行列・ベクトル・偏微分・全微分さらに多重積分、微分・差分方程式が必要で、しかも、世界経済に関する最新の知識が必要となるので、それらをすべて網羅した授業構成を採用しています。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces the principles of Public Economics to students taking this course.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the principles of Public Economics.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm examination: 30%、Term-end examination: 70%、

SSS200XF

オペレーションズリサーチA

千葉　英史

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
別名，作戦研究とも訳されるオペレーションズ・リサーチ（ＯＲ）分野で取り扱われる様々な数理モデルと，それらの取り扱い方法や問題の解法について学ぶ．

【到達目標】
オペレーションズ・リサーチ（ＯＲ）分野で取り扱われる問題を，身近な話題を通して理解する．ＯＲにおける問題とその解法を理解して，小規模な問題に対して手計算で解くことができる．実際の経営システムや社会システムで起きている現象や問題が，どのようなアプローチで解決できるかを考えられる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とし，各テーマに関して，理論の講義と演習問題を解くことの繰り返しで進める．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ＯＲの導入	ＯＲとは何か
2	在庫管理	効率の良い保管方法を求める方法
3	データと予測	将来を考えて在庫を管理する方法
4	日程計画	プロジェクトとスケジューリング
5	シミュレーション	コンピュータを利用したシミュレーション方法
6	待ち行列理論	電話がかからない状況や行列の長さの考え方について
7	AHP	多数の候補から絞り込む方法
8	ゲーム理論	囚人のジレンマ，ナッシュ均衡，マックスミニ戦略
9	安定結婚問題	ゲールとシャープレィのアルゴリズム
10	数理計画，線形計画	線形計画問題を解く方法
11	組合せ最適化	組合せ最適化問題を解く方法
12	ネットワーク計画	最短路問題，最小木問題
13	動的計画	ナップサック問題を解く方法
14	試験・まとめと解説	理解度の確認をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・学習時間は，各 4 時間を標準とする．
・一年次に学習した微分積分，線形代数，プログラミングに関して，理解が十分でない部分は各自復習しておく．

【テキスト（教科書）】
松井泰子，根本俊男，宇野毅明：「入門オペレーションズ・リサーチ」，東海大学出版会，2008.

【参考書】
特になし．

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の成績（100%）によって評価する．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて，貸与ノートパソコンを利用する．

【Outline (in English)】
Important knowledge and mathematical techniques associated with Operations Research (OR in short) are targeted in this class.

ECN200XF

金融システム論

宮越　龍義

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融とは資金の調達・運用を意味し、この金融という対象を経済理論という手段を使って分析する学問が、金融システム論である。この講義では、金融という対象を規定する金融制度を解説する。金融という対象をマクロ経済学という経済理論を使って分析するマクロ金融論については、「金融政策論」の講義で紹介される。

【到達目標】
日本の金融制度に関する知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、経済システム (仕組み) の中に金融を位置づけ、金融商品の取引当事者とそれを規制・監督する日本銀行について現行制度を解説するとともに、それらの行動を初歩的な経済理論を使って分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、進行方法、評価方法
第 2 回	通貨	通貨の概念と機能
第 3 回	金融機関	金融機関の機能
第 4 回	金融市場 1	金融市場の概要
第 5 回	金融市場 2	短期金融市場
第 6 回	貨幣の供給 1	ベースマネーの供給方法
第 7 回	貨幣の供給 2	貨幣乗数
第 8 回	中間試験	1 − 7 回の講義内容復習
第 9 回	貨幣の需要 1	取引動機・ボーモル=トービンモデル
第 10 回	貨幣の需要 2	資産選択としての投機的動機・トービンモデル
第 11 回	MM 命題と投資理論	モジリニア・ミラーの理論
第 12 回	銀行行動の理論 1	銀行の最適貸出量の導出
第 13 回	銀行行動の理論 2	コール市場と貸出市場の同時均衡分析と金利政策の比較静学分析
第 14 回	復習	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
TV などの経済ニュースを注意してみていると講義に興味が湧くと同時に、理解が深まります (たとえば、テレビ東京，BS テレ東の経済ニュース)。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わない。しかし、必要に応じて，資料を配布する。

【参考書】
鹿野嘉昭『日本の金融制度・第２版』（東洋経済新報社、2006 年）
日本銀行金融研究所『新しい日本銀行-その機能と業務 (増補版)』（有斐閣、2004 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点 (中間試験 30%と期末試験 70%) とし、60 点以上が合格である。

【学生の意見等からの気づき】
「社会システム概論」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「公共経済学」、「金融政策論」などの経済学関連講義を数多く履修すると、この講義の理解が深まります。また、微積・線形代数・統計学は十分理解しておくことが必須です。

【その他の重要事項】
この講義の理解を深めるには、「金融政策論」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「公共経済学」、「経済数学」などの経済学関連講義を数多く履修すること、また、微積・線形代数・統計学も履修することが必要です。私の実務経験 (生産システムの原価計算、予算管理、世界の経済情勢の把握) からすると、経済学には必ずと言っていいほど、行列・ベクトル・偏微分・全微分さらに多重積分、微分・差分方程式が必要で、しかも、世界経済に関する最新の知識が必要となるので、それらをすべて網羅した授業構成をとっていると考えてください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces the principles of Monetary and Financial Systems to students taking this course.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to understand the framework of Monetary and Financial Systems.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm examination: 30%、Term-end examination: 70%、

ECN200XF

産業組織論

髙野　直樹

開講時期：**春学期集中**/Intensive(Spring)

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代における我が国の主要な産業組織 (主に企業) の経営課題、経営戦略、企業行動、経営成果等を、基本的な経済学の理論を応用して理解し、かつアクティブ・ラーニングを通じて簡潔に説明できる力を修得する。

【到達目標】
・原則として、出席すべき時間数以上の出席がある履修学生を対象に、①「グループ・ワークと研究発表」または「個人研究」(50%)、②発言・質問等の授業への参加姿勢や態度、課題やエクササイズの提出、出席などの平常点 (50%) から、総合的に評価する。そのため、全ての授業に出席していても、単位の認定が行われないことがある。
・課題やエクササイズ等がある場合は、原則、期限内に解答を教員に提出することをもって出席とする。
・定められた時間数以上の出席がなければ単位の認定は受けられない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 企業の経営戦略や企業行動を理解するための基本的な経済学の理論を概観する。
2. 日本の企業の変遷や経営戦略、企業行動、経営成果等について説明する。
3. 現実の企業の経営戦略や企業行動等についてグループで整理・討論・研究し、その成果をプレゼンテーションする。
【注 1】状況により「グループ・ワークと研究発表」を「個人研究」に変更することがある。
【注 2】状況により、対面・オンラインの授業形態やその予定回を変更することがある。
【注 3】講義資料の共有や、課題・エクササイズの提出・解答等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	【オリエンテーション】	講義の目的、主な内容、進め方、評価方法等を説明する。
第 2 回	【日本経済と産業構造】	戦後復興期までの日本経済、高度成長、石油ショック以降の日本経済と産業構造について講義する。
第 3 回	【ミクロ経済学①】独占と市場の失敗	完全競争、独占企業の行動、自然独占、市場の失敗、外部性、公共財と最適均衡等について学ぶ。
第 4 回	【ミクロ経済学②】市場と競争	競争理論、寡占市場、ゲーム理論 (ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、技術の選択)、ネットワーク効果等について説明する。
第 5 回	【ミクロ経済学③】モラル・ハザードと逆淘汰	危険分担、隠された行動とモラル・ハザード、隠された情報と逆淘汰、私的情報とシグナリング等について概観する。
第 6 回	【事例研究①】情報通信 (NTT、楽天、Google 等)	日本の通信業の発展と独自性、5G とスマートフォン、プラットフォームとビジネスモデル等について解説する。
第 7 回	【事例研究②】鉄道 (JR 東日本、東急電鉄、阪急電鉄等)	日本の運輸における鉄道の地位、国有鉄道と JR、私鉄型ビジネスモデル等について解説する。
第 8 回	【事例研究③】銀行 (三菱 UFJ 銀行、三井住友銀行、みずほ銀行等)	日本の銀行の現状と課題、規制下での規模拡大競争、金融自由化、新たなビジネスモデル等について解説する。
第 9 回	【事例研究④】自動車 (トヨタ自動車、本田技研工業、日産等)	自動車産業の技術力の伸長、石油危機による転換、バブル崩壊と国内自動車産業、CASE (Connected, Autonomous, Shared, Electric) 等について解説する。
第 10 回	【事例研究⑤】商社 (三菱商事、伊藤忠商事、三井物産等)	商社の機能、総合商社、10 大商社体制、商社の夏の時代・冬の時代、グループ経営等について解説する。
第 11 回	【グループ・ワークと研究発表①】または【個人研究①】	①テーマの理解、②資料の分析と整理、③論理構成力、④プレゼンテーション、⑤ディスカッション、⑥コミュニケーション、⑦マネジメント等の多面的な問題解決能力の獲得を目指し、グループ・ワークと研究発表を行う。【注】状況により「グループ・ワークと研究発表」を「個人研究」に変更することがある。
第 12 回	【グループ・ワークと研究発表②】または【個人研究②】	グループ・ワークと研究発表の場合は、事例の理解、検討、知識の整理等を行う。繰り返し討論し、課題解決を図る。
第 13 回	【グループ・ワークと研究発表③】または【個人研究③】	グループ・ワークと研究発表の場合は、パワーポイントを使って説明資料を作成し、リハーサルを行うなど、発表の準備を行う。
第 14 回	【グループ・ワークと研究発表④】または【個人研究④】	グループ・ワークと研究発表の場合は、成果発表と講評を行う。他の履修学生は発表内容に対する質問等を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。
・授業時間外に研究発表の準備等が必要になる可能性がある。

【テキスト（教科書）】
教科書なし。必要な資料等は学習支援システムで共有するか、講義のときに投影する。

【参考書】
1. 小田切宏之 (2019)『産業組織論-理論・戦略・政策を学ぶ』有斐閣
2. 花薗誠 (2018)『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣
3. ジャン・ティロール (2018)『良き社会のための経済学』日本経済新聞出版社
4. Li Way Lee (2019) "Industrial Organization: Minds, Bodies, and Epidemics" Palgrave Pivot
5. L. Pepall, D. J. Richards, G. Norman (2014) "Industrial Organization: Contemporary Theory and Empirical Applications" Wiley

【成績評価の方法と基準】
・原則として、出席すべき時間数以上の出席がある履修学生を対象に、①「グループ・ワークと研究発表」または「個人研究」(50%)、②発言・質問等の授業への参加姿勢や態度、課題やエクササイズの提出、出席などの平常点 (50%) から、総合的に評価する。そのため、全ての授業に出席していても、単位の認定が行われないことがある。
・課題やエクササイズ等がある場合は、原則、期限内に解答を教員に提出することをもって出席とする。

・定められた時間数以上の出席がなければ単位の認定は受けられない。

【学生の意見等からの気づき】
経済学の理論の説明では、パワーポイントの資料や図表を使うなどして、なるべく平易に解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
1. 本科目の学習支援システムを利用すること。講義資料の共有や課題・エクササイズ等は学習支援システムで行う。
2. 対面講義の場合は貸与された Windows PC を持参すること。

【その他の重要事項】
・履修学生には、受動的に授業に出席したり理論を暗記したりするような学習態度ではなく、自ら進んで学び、参加することを期待する。
・履修学生の理解度や興味、関心によってスケジュールや内容を変更することがある。
【教員の実務経験等】
・2019 年-現在 江戸川大学社会学部教授 (「IT 産業論」「戦略的経営論」「経営学概論」等担当)
・2014-2019 年 (株)NTT ドコモ (国際事業等)
・1999-2014 年 NTT コミュニケーションズ (株)(事業計画、人事等)
【資格等】博士 (経済学) 横浜国立大学、修士 (MBA) フランス HEC 経営大学院、TOEIC 965 点、フランス語検定 2 級
【履歴】リサーチマップ https://researchmap.jp/takano.naoki/

【履修学生からの連絡方法】
メール (naoki.takano.67@hosei.ac.jp) でご連絡ください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course will focus on managerial issues, corporate strategy, business behavior, and economical performance of modern Japanese industries and/or companies by applying basic economic theory.
(Learning objectives)
1. To understand and acquire basic economics systematically through its theory and practices.
2. To be able to analyze and explain corporate strategy and behavior by applying economic theory.
(Learning activities outside of classroom)
Standard hours for preparation and review of this course are four (4). Possible overtime preparation is expected for groupwork and presentation.
(Grading Criteria /Policies)
As a general rule, only for students attended more than required, (1) 50% by a mark given for "Groupwork and presentation" or "Personal study", (2) 50% by a mark given for proper attitudes such as comments and/or questions in a classroom, quiz and/or exercise submission, and class participation. Therefore, even full attends, no credit is possible. If a quiz or an exercise is given, student's attendance is recognized by its submission before deadline in general. Credit will not be given if attendance rate is below required.

ECN300XF

金融政策論

宮越　龍義

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融市場に影響を与える政策を金融政策と呼ぶ。機械的には IS-LM モデルにおいて、LM 曲線を変化させる政策と言える。本講義は、金融政策を理論的・実証的に論ずる。具体的には、代表的な経済モデルを紹介するとともに、それらを使って、金融政策の歴史的変遷を解説し、その効果と限界を理論的・実証的に論じることで、日本の金融政策を評価する。

【到達目標】
金融政策と経済活動との関係を分析する技術と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まずは主要な金融政策の 1 つ 1 つを事実に即して解説する。続いて、その理論的・実証的効果を経済モデルを使って分析し評価する。さらに、政策の歴史的変遷を説明し、今日までの日本の金融政策を評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、進行方法、評価方法
第 2 回	ヒックスモデル 1	ワルラス法則、IS-LM 分析、位相図を使った一般均衡の安定性
第 3 回	ヒックスモデル 2	短期均衡における財政・金融政策
第 4 回	ヒックスモデル 3	全微分・偏微分による比較静学分析
第 5 回	中間試験	1 − 4 回の講義内容
第 6 回	Blinder-Solow モデル	定常均衡における財政・金融政策
第 7 回	Barro モデル	財政政策の中立性命題
第 8 回	合理的期待形成モデル 1	Lucas モデルの説明
第 9 回	合理的期待形成モデル 2	金融財政政策の有効性
第 10 回	Poole のモデル	マネーコントロール・金利コントロール
第 11 回	日本銀行の政策 1	2 段階目標政策
第 12 回	日本銀行の政策 2	テイラー・ルール
第 13 回	日本銀行の政策 3	ゼロ金利政策・量的緩和政策
第 14 回	日本銀行の政策 4	造幣益モデルまたは世代重複モデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
TV などの経済ニュースを注意してみていると講義に興味が湧くと同時に、理解が深まります (たとえば、テレビ東京，BS テレ東の経済ニュース)。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いません。しかし、必要に応じて，学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】
福田慎一著　『金融論 - 市場と経済政策の有効性』有斐閣（2020 年）
このほか必要に応じて，授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点 (中間試験 30%と期末試験 70%) とし、60 点以上が合格である。

【学生の意見等からの気づき】
「社会システム概論」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「経済数学」、「公共経済学」、「金融システム論」などの経済学関連講義を数多く履修すると、この講義の理解が深まります。また、微積・線形代数・統計学は十分理解しておくことが必須です。

【その他の重要事項】
この講義の理解を深めるには、「社会システム概論」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「経済数学」、「公共経済学」、「金融システム論」などの経済学関連講義を数多く履修すること、また、微積・線形代数・統計学も履修することが必要です。私の実務経験 ((生産システムの原価計算、予算管理、世界の経済情勢の把握)) からすると、経済学には必ずと言っていいほど、行列・ベクトル・偏微分・全微分さらに多重積分、微分・差分方程式が必要で、しかも、世界経済に関する最新の知識が必要となるので、それらをすべて網羅した授業構成をとっていると考えてください。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course introduces how to implement monetary policy to students taking this course.
(Learning Objectives)
At the end of the course, students are expected to implement monetary policy.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm examination: 30%、Term-end examination: 70%、

BSP100XF

社会システム

宮越　龍義

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会システム (社会の仕組み) は、おおよそ法政・経済・文化の 3 つのシステムから構成される。その中で経済システムが社会システムの下部構造であり、それが上部構造の法政システムや文化システムを規定している。これまで、経済が豊かになれば、それにつれて法律・政治や文化も変化してきた。このことから、その中核をなす経済システムに焦点を当てて、社会システムを解説する。

【到達目標】
今日われわれが生きている社会の仕組み (社会システム) を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
経済 (生産・分配・消費に関係する人間関係) の仕組みを支える市場経済 (市場の需給によって経済を決める) の理論、市場経済の長所・短所、さらに、それに対処する政府の役割と失敗について紹介する。授業形態は講義形式である。『春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。』

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要、進行方法、評価方法
第 2 回	消費システム	効用最大化問題の解法: クーン=タッカーの定理、ラグランジュ乗数法
第 3 回	生産システム	利潤最大化問題: クーン=タッカーの定理、ラグランジュ乗数法
第 4 回	市場システム	需給均衡・均衡模索過程・価格調整方程式
第 5 回	市場システムの帰結	需給均衡の比較静学分析
第 6 回	中間試験	これまでの復習
第 7 回	マクロ経済システム	所得決定理論
第 8 回	経済成長システム 1	ソローの残差・技術進歩の微分方程式
第 9 回	経済成長システム 2	ソロー=スワンモデルと資本蓄積の黄金律:成長パスの動学方程式と位相図について前半の説明
第 10 回	経済成長システム 3	ソロー=スワンモデルと資本蓄積の黄金律:成長パスの動学方程式と位相図について後半の説明
第 11 回	産業連関システム 1	投入産出分析・レオンチェフモデル:ベクトル・行列・行列式について前半の説明
第 12 回	産業連関システム 2	投入産出分析・レオンチェフモデル:ベクトル・行列・行列式について後半の説明
第 13 回	国際経済システム 1	ヘンクシャー=オーリンモデルについて前半の説明
第 14 回	国際経済システム 2	ヘンクシャー=オーリンモデルについて後半の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】TV の経済ニュースを良く見ていると、現実の経済に興味を持つようになり、同時に講義の経済理論にも興味が湧き、理解も深まってきます。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点 (中間試験 30%と期末試験 70%) とし、60 点以上が合格である。

【学生の意見等からの気づき】
「公共経済学」、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「金融政策論」、「金融システム論」、「日本経済論」などの経済学関連講義を数多く履修すると、「社会システム概論」の理解が深まります。また、微積・線形代数・統計学は十分理解しておくことが必須です。特に、「経済数学」は経済分野を理解する上で必須となります。

【その他の重要事項】
この講義の理解を深めるには、「経済学 I,II」、「計量経済学」、「統計学」、「公共経済学」、「金融政策論」、「金融システム論」、「日本経済論」などの経済学関連講義を数多く履修すること、また、微積・線形代数・統計学も履修することが必要です。
私の実務経験 (生産システムの原価計算、予算管理、世界の経済情勢の把握) からすると、経済学には必ずと言っていいほど、行列・ベクトル・偏微分・全微分さらに多重積分、微分・差分方程式が必要で、しかも、世界経済に関する最新の知識が必要となるので、それらをすべて網羅した授業構成を採用しています。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course introduces the social system,in particular, the economic system to students taking this course.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to understand the framework of economic system.
（Learning activities outside of classroom）
After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Midterm examination: 30%、Term-end examination: 70%、

MAC200YC

物質構造化学

緒方　啓典

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】
授業の到達目標
１）結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
２）結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、３２結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
３）X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
物質の結晶構造は，物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X 線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用例について学ぶ。
具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。
本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには，有機化学，無機化学，物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z 値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記方法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallography の見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエワルド球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。
13	X線回折法による結晶構造解析の原理-02	位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。
14	X線回折法による結晶構造解析の実際	単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用する資料 (ppt) は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】
・「X 線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴圃
・「X 線結晶構造解析」大橋裕二著，裳華房
・「結晶化学」基礎から最先端まで　大橋裕二著　裳華房
など

【成績評価の方法と基準】
授業内に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

【その他の重要事項】
講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベー格子、点群、空間群、X 線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.
· Achievement goal of class
1) To be able to understand the matters and terms necessary for understanding the crystal structure and to describe the crystal structure using them.
2) Understand the symmetries and symmetry operations that exist in crystals and discriminate the symmetries of the 32 crystal point group. You will also understand space groups, learn notations for crystal structures, and learn how to calculate diffraction intensities based on crystallographic parameters.
3) Understand the measurement methods and principles of crystal structure analysis by X-ray diffraction, and acquire knowledge that can be applied to actual measurements and analyses.
· Learning outside of class
Materials (ppt) used in class will be distributed to students in advance through the class support system. Participants should download the file in advance, read through it, and read the relevant pages of the reference book. Print out the materials and bring them with you to class.
· Class evaluation methods and standards
Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams conducted face-to-face in class.

MAC300YC

物質機能化学

緒方　啓典

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物質の持つ様々な物性や機能は，物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。**本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。**

【到達目標】
物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。
物質の電子状態について理解する。
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものを見て自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合- 凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回に引き続き、ミクロな観点から見た磁性のメカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】
「物性化学」：松永義夫著　裳華房
「固体の電子状態と化学」： P.A.COX 著（魚崎浩平他訳）　技報堂出版
「分子結晶」： J.D.Wright 著　化学同人
「物性論入門」:石井晃著　共立出版
「現代物性化学の基礎 -化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編　講談社
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著　裳華房
「実験化学講座第 5 版　27 巻　機能性物質」
「固体有機化学」小林啓二、林直人著　化学同人　　等

【成績評価の方法と基準】
授業中に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】
本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】
This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.
· Attainment target
1)Understand various properties (physical properties) of materials.
2)Understand the electronic states of materials.
3)Understand the relationship between the structure of materials, electronic state, and physical properties.
4)Understand the basics of developing new functional substances.
· Learning outside of class
Use the handouts distributed in advance through the learning support system and the following reference books to prepare for and review.
· Grading methods and standards
Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams.

MAC300YC

物質循環化学

明石　孝也

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上においては様々な物質が変質を起こしながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】
無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の構造 (1)	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	鉱物の構造 (2)	鉱物の結晶構造について学ぶ。
6	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
7	変成岩	変成岩とその生成機構について学ぶ。
8	堆積岩	堆積岩とその生成機構について学ぶ。
9	地球の変動	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
10	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
11	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
12	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
13	流体シミュレーション（１次元）の基礎	１次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（２次元）への導入	２次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次回の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
「地球・環境・資源 ―地球と人類の共生をめざして― 第 2 版」内田 悦生・高木 秀雄編　高木 秀雄・山﨑 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】
現代地球科学入門シリーズ 9 巻「地球のテクトニクスⅠ　堆積学・変動地形学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ 11 巻「結晶学・鉱物学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ 12 巻「地球化学」共立出版
現代地球科学入門シリーズ 15 巻「地球と生命－地球環境と生物圏進化－」共立出版
現代地球科学入門シリーズ 16 巻「岩石学」共立出版

【成績評価の方法と基準】
試験 (80%) と演習問題 (20%) と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を把握するために、対面授業を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓

【その他の重要事項】
無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline (in English)】
(Course outline) During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society.
(Learning Objectives) Students are expected to understand the chemical reaction and mechanical changes on the earth, and fandamental of introduction of computational fluid dynamics.
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (20%), term-end examination (80%), and in-class contribution.

BLS300YB

蛋白工学

常重　アントニオ

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of protein structure, and the many techniques to alter and produce them, Special emphasis will be given to theoretical basis for the design of protein structures from scratch. The course will also emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

【到達目標】
The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, starting from those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering, more specifically, protein design and its basic techniques and applications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
Classes will be conducted in the form of presential lectures. Handouts will be available in electronic format through the Hoppii system. The use of a personal computer is greatly advised.
As assessment of learning, quizzes and homework will be assigned periodically, and their solutions with commentaries will be explained in following sessions.
Submission of reports will be requested and use as feedback.
Active participation of students is encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes. Basic concepts in protein structure.
2	Structure of proteins (II).	Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures. The hydrophobic collapse.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	Protein purification	Qualitative and quantitative techniques employed in protein purification and characterization
6	The core of this course: Protein Design	How to design and create proteins *de novo* (from scratch). Taming the destabilizing forces in protein constructs. Analyzing examples from nature.
7	*De novo* Design of Proteins (I).	The alpha helix. How to use the helical wheel. Alternative devices.
8	*De novo* Design of Proteins (II).	Design of tertiary structures in proteins.
9	*De novo* Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis. Protein production without an organism.
10	Protein Denaturation.	Thermodynamic aspects of protein denaturation.
11	Protein Refolding.	The still unsolved problem of protein refolding.
12	Monoclonal Antibodies.	Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.
13	Proteins in Bio-Medicine.	Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.
14	The Future of Protein Engineering	Beyond the helix bundle motif.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Prior classes, handouts and references will be distributed through the system Hoppii. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.
Quizzes and problems to be solved as homework will be distributed periodically, and their responses scored accordingly. Solution to these will be given in following classes.

【テキスト（教科書）】
The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.
改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社　（2012）

【参考書】
Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】
Final exam (or equivalent): 60%; assignments and reports: 20%; active participation in class: 20%.

【学生の意見等からの気づき】
The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

【学生が準備すべき機器他】
Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

BLS300YB

生体超分子

曽和　義幸

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包する生体分子モーターに着目し，生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ．また，生体分子モーターの研究とともに発展した 1 分子計測技術の基本を学ぶ．

【到達目標】
細胞内における分子の動きに注目し，その動きを捉えるために必要な知識を得る．近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書とスライドを併用した講義とする．講義内では演習問題を解いてもらうことで，定量的に生命現象を理解することを目指す．レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する．生体超分子について概説する．
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する．
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する．
4	細胞内における分子のブラウン運動 (1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する．
5	細胞内における分子のブラウン運動 (2)	分子の動きについて理解するために，1 次元ランダムウォークを導入する．
6	細胞内における分子のブラウン運動 (3)	演習をおこなう．表計算ソフトを利用して，1 次元ランダムウォークを発生させる．その計算結果を検討し，分子運動への理解を深める．
7	細胞内における分子のブラウン運動 (4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて，その動きを計算する．
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする．
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する．
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する．
11	分子イメージング	1 分子の蛍光分子を見る手法について解説する．超解像顕微鏡について概説する．
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術，分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう．
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する．
14	総括	講義全体を通じて，理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
本講義では，物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために，簡単な計算を演習問題として紹介する．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるをえない場合があるので，各講義の終了後に各自で計算をおこなう．また，各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む．

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しない．講義では視覚的教材やプリントを利用する．

【参考書】
大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】
中間試験 (50%)・期末試験 (50%) の合計点数によって評価する．ただし，オンライン授業になった場合は，適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
講義でおこなう演習の例数を増やし，できる限り丁寧に紹介したい．また，PC を使った演習も引き続きおこなう．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC を用いることがある．

【その他の重要事項】
元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から，生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology.

BLS100YB

分子生物学　ＩＩ

木口　悠也

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物の設計図であるゲノムには生物の機能や表現型の違いを反映する遺伝情報が記述されている。本講義ではこれまでに解き明かされた遺伝情報の構造と機能の根拠となる科学的発見とそれに関連する手法論を紹介する。本講義の履修者はゲノムに関連する分子生物学の基礎知識を学び、最先端のゲノム科学を理解し発展させる素養を身につけることを目的とする。

【到達目標】
メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証、用いられた技術および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業はアクティブラーニングを用いた講義形式で行う。対面授業を基本とする（社会情勢によってはZoom によるリアルタイムオンライン授業を実施予定）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（ノート資料とスライド資料）を用い、授業内で演習を行いながら、進行させる。各授業では宿題を設定する。提出された宿題については、必要に応じつぎの授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分子生物学の勃興	メンデルの発見から
第 2 回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第 3 回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第 4 回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第 5 回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第 6 回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第 7 回	まとめ（1）	「遺伝子の構造と機能」と「遺伝情報の維持」のまとめ
第 8 回	遺伝情報の発現（1）	一遺伝子一酵素説
第 9 回	遺伝情報の発現（2）	ウイルス合成の調節
第 10 回	遺伝情報の発現（3）	オペロン説と転写反応
第 11 回	遺伝情報の発現（4）	リボソームと mRNA
第 12 回	遺伝情報の発現（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第 13 回	遺伝情報の発現（6）	コドン
第 14 回	まとめ（2）	「遺伝情報の発現」のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学Ｉ」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学Ｉ」、「細胞生物学Ｉ」、「生物物理学Ｉ」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
「Essential 細胞生物学　原書第 4 版」（著者： B. アルバート等　監訳：中村桂子・松原謙一　南江堂）
「エッセンシャル　遺伝学」（著者： D.L. ハートル・E.W. ジョーンズ　監訳：布山喜章・石和貞男　培風館）
「第 7 版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者： J.W. ワトソン等　監訳：中村桂子　東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】
分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発現」のしくみを正しく捉えることができているかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」（30 %）、「達成度」（30 %）、「理解度」（40 %）としてまとめ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト／アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

【その他の重要事項】
最先端のゲノム解析技術 (高速シークエンサー) を活用した細菌叢 (マイクロバイオーム) 解析を専門とする研究者としての経験と知識に基づき、技術論にも言及する授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline] The genome is the blueprint of living organisms and contains genetic information contributing to differences in biological functions and phenotypes.　This course introduces the scientific discoveries related to the basic structure and functions of genetic information and the methodologies associated with these discoveries.
[Learning Objectives] The objective of this course is to learn basic knowledge of molecular biology related to genomics and train to understand not only state-of-the-art genomic science but also develop this field of science.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YB

生物化学　I

金丸　周司

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝経路における役割について概説する。エネルギー代謝、物質代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

【到達目標】
主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 I では特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	生物化学とは．生体物質に見られる主な官能基
第 2 回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説，生体膜，真核細胞の構造
第 3 回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第 4 回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第 5 回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第 6 回	中間試験	中間試験
第 7 回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第 8 回	酵素（2）	反応速度論
第 9 回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体，単糖の反応性，多糖の構造
第 10 回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第 11 回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第 12 回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第 13 回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
Albert Lehninger ：「レーニンジャーの新生化学　第 7 版」（廣川書店）
成田 央, 山口 雄輝 ：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【Outline (in English)】
Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms.　Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction.

BLS200YB

蛋白質構造機能学　Ⅰ

廣野　雅文

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象の担い手である蛋白質について、その立体構造と基本的な構造構築原理、および蛋白質の構造と機能との相関について概要を理解する。

【到達目標】
以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、蛋白質の生化学的な解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状蛋白質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、蛋白質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクトミオシンの構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 8 日とし、この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	タンパク質とは，無細胞実験系
第 2 回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史，アミノ酸の化学構造，ペプチド結合，生理活性ペプチド
第 3 回	蛋白質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法，カラムクロマトグラフィー，電気泳動
第 4 回	蛋白質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造，アミノ酸配列の決定法，細胞内局在と一次構造，系統解析
第 5 回	蛋白質の立体構造と化学結合	コンフォメーション，水素結合，疎水性相互作用，イオン性相互作用，ファンデルワールス力，ジスルフィド結合
第 6 回	タンパク質の二次構造-1	α ヘリックスの構造的特徴，アミノ酸配列と α ヘリックス
第 7 回	タンパク質の二次構造-2	β シート，β バレル，β ターンの構造的特徴
第 8 回	繊維状蛋白質の三次構造	コイルドコイル，ケラチン，コラーゲン，絹フィブロイン
第 9 回	球状蛋白質の三次構造	構造モチーフ，ドメイン，構造に基づく球状タンパク質の分類
第 10 回	蛋白質の四次構造，天然変性蛋白質	サブユニット，天然変性領域
第 11 回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ，フォールディングの速さと経路，シャペロン，ミスフォールディング
第 12 回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞，免疫に働く分子の多様性，抗原-抗体結合，抗体の利用
第 13 回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史，活性化エネルギーと触媒作用，酵素-基質の結合エネルギー，誘導適合，脱溶媒和
第 14 回	アクトミオシン	ミオシン，アクチン，アクチンの重合，アクトミオシンの力発生機構，アクチン－ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
「レーニンジャーの新生化学　第 5 版」（廣川書店）

【成績評価の方法と基準】
授業ごとに提出する課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業後の課題とともに質問を受け付け、数日内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。大いに利用してほしい。

【その他の重要事項】
実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (English)】
This course provides an introduction to structure and function of proteins. Topics covered in this course include: structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies.

BLS200YB

蛋白質構造機能学　ＩＩ

曽和　義幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
タンパク質は，生命機能を発現するために必要な構成要素である．個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち，機能と密接に関連している．タンパク質の構造と機能の関係を，具体的な例を挙げつつ講義する．

【到達目標】
本講義全体を通して，タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書とスライドを併用した講義とする．講義内では演習問題を解いてもらうことで，タンパク質の構造・機能について理解することを目指す．レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する．
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する．
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する．
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに，構造予測についても触れる．
5	生体エネルギー論	生体熱力学の全体像を概説する．
6	リガンド結合 1	タンパク質のリガンド結合について概説する．
7	リガンド結合 2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する．
8	協同性	ヘモグロビンを例にとり，協同性について概説し，協同性のモデルについて議論する．
9	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする．
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する．
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する．
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する．
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について，基本的な原理を概説する．
14	総括	講義全体を通じて，理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
本講義では，講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるをえない場合があるので，各講義の終了後に各自で計算をおこなう．

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しない．講義では視覚的教材やプリントを利用する．

【参考書】
一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】
中間試験 (50%)・期末試験 (50%) の合計点数によって評価する．ただし，オンライン授業になった場合は，適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やし，解説を丁寧におこなう．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC を用いることがある．

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function.

PPE200YD

植物病学概論

濱本　宏

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】
ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
＜＜授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします＞＞
パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり TED などのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中にオンラインのアンケート機能等を用いて、理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「テスト/アンケート」あるいは「課題提出」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第 2 回	ウイルス・ウイロイド病（1）	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第 3 回	ウイルス・ウイロイド病（2）	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第 4 回	細菌・ファイトプラズマ病（1）	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類と性状
第 5 回	細菌・ファイトプラズマ病（2）	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第 6 回	菌類病（1）	植物病原菌類の分類・性状
第 7 回	菌類病（2）	植物菌類病の病徴と伝染様式
第 8 回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第 9 回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第 10 回	植物感染生理（1）	病原性：病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第 11 回	植物感染生理（2）	抵抗性：原微生物に対する宿主の抵抗性の機構
第 12 回	植物感染生理（3）	植物感染生理とゲノミクス・バイオテクノロジー
第 13 回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除に活かされる植物病学の知見
第 14 回	植物病学の最新トピックと総合まとめ	植物病学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】
新刊書を予定している（授業開始前に連絡する）

【参考書】
植物病理学（眞山滋志、難波成任編）, 文永堂出版, 2010.
Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.
Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 80%、平常点 20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に、配布プリントを見やすくすることと、授業支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】
化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.
【Learning activities outside of classroom】
In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.
【Grading Criteria /Policy】
Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

BLS100YB

生物化学　ＩＩ

西川正俊

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて，複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する．

【到達目標】
主な生体構成物質の構造と機能を学び，それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する．生物化学 II では多種の酵素による反応素過程が集積して実現される代謝経路について，制御機構と反応様式を理解することを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書を基本とする．講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる．用いたファイルは授業支援システムにアップロードし，履修者が閲覧できるようにする．講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念 1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念 2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝 1	解糖系について
6	糖代謝 2	糖新生について
7	糖代謝 3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCA サイクル	TCA サイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝 1	脂肪酸分解
11	脂質代謝 2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成 1	明反応
14	光合成 2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】ノートや参考書を用いた復習をすること．

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ストライヤー生化学, J. M. Berg 他
レーニンジャーの新生化学，David L. Nelson 他

【成績評価の方法と基準】
成績評価法：期末テスト: 60%，レポートや中間テスト: 40%
評価基準：細胞内で起こっている糖，脂質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする．

【その他の重要事項】
実務経験: 理化学研究所　発生・再生総合科学研究センター　研究員．この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する．

【Outline (in English)】
This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes.

BLS100YB

生物物理学　I

西川正俊

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ．前半で力学について基本から解説し，巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ．後半ではニューロンの生物物理について解説し，活動電位発生の物理を理解する．

【到達目標】
この授業では，さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ．細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
板書を基本とする．講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる．用いたファイルは授業支援システムにアップロードし，履修者が閲覧できるようにする．講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する．
第 2 回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する．
第 3 回	力学 1	単位系について解説する．
第 4 回	力学 2	運動について解説する．
第 5 回	力学 3	力と運動方程式について解説する．
第 6 回	力学 4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する．
第 7 回	力学 5	過減衰系の運動について解説する．
第 8 回	まとめと演習 1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう．
第 9 回	力学 6	粘性流体の流れについて解説する．
第 10 回	力学 7	レイノルズ数による流れの特徴づけについて解説する．
第 11 回	ニューロンの生物物理 1	膜電位について解説する．
第 12 回	ニューロンの生物物理 2	イオンチャネルの物理について解説する．
第 13 回	ニューロンの生物物理 3	活動電位について解説する．
第 14 回	まとめと演習 2	ニューロンの生物物理についてのまとめと演習テストをおこなう．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるを得ないので，各自で確認をおこなう．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
ゼロからの力学 I，II，岩波書店，
Essential 細胞生物学 原書第 2 版，南江堂

【成績評価の方法と基準】
レポートや中間テスト (40 %) と期末試験 (60 %) の結果を元に総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を通じて具体的な理解をめざす．

【その他の重要事項】
実務経験: 理化学研究所　発生・再生総合科学研究センター　研究員．この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する．

【Outline (in English)】
This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of underlying physics of action potential.

BLS100YB

生物物理学　ＩＩ

曽和義幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物物理学は，物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である．講義の前半では，生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や，タンパク質のエネルギー変換機構について概説する．後半では，生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために，生体エネルギー論を基本から解説する．また，基本的な考え方や手法を解説するとともに，最先端の技術についてもトピックスとして紹介する．

【到達目標】
この授業では，タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること，生体エネルギー論の基本を学び，生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義の前半では，生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し，生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する．後半では，生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために，生体熱力学を基本から解説する．基本的な考え方や手法を解説するとともに，最先端の技術についてもトピックスとして紹介する．講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが，提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する．生体内の化学反応について概説する．
2	タンパク質の構造１	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する．
3	タンパク質の構造２	タンパク質の構造についての基礎について復習する．
4	タンパク質の構造３	タンパク質の構造解析について概説する．
5	生体熱力学の基礎１	熱力学の法則について概説する．
6	生体熱力学の基礎２	熱力学第一法則を概説する．
7	まとめと演習１	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう．
8	生体熱力学の基礎３	熱力学第二法則を概説する．
9	生体熱力学の基礎４	ギブスの自由エネルギーについて概説する．
10	生体熱力学の基礎５	化学ポテンシャルについて概説する．
11	生体熱力学の基礎６	反応ギブズエネルギーについて概説する．
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する．
13	細胞のエネルギー通貨	ATP の構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する
14	まとめと演習２	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う．ただし，時間の制約上，計算過程を省かざるを得ないので，各自で確認をおこなう．

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は指定しない．講義では，視覚的教材やプリントを使用する．

【参考書】
Essential 細胞生物学 第 2 版，南江堂
細胞の分子生物学 第 5 版，ニュートンプレス
物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】
中間試験 (50%)・期末試験 (50%) の合計点数によって評価する．ただし，オンライン授業になった場合は，適宜課す予定のレポート・演習で評価する（100%）．

【学生の意見等からの気づき】
マイクの音が小さいことがあったとのコメントがあったので注意する．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC を利用することがある．

【Outline (in English)】
The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology.

BLS100YB

細胞生物学　I

金子　智行

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ.

【到達目標】
生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と，細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し，その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって，生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す．授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め，2 回の中間試験で理解到達度を測り，理解度を鑑みながら授業を進める．大学の行動方針レベルに応じてオンライン (Zoom) でも開講し，具体的な方法については学習支援システムで提示する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
2	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体の DNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通した核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
8	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
9	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
10	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1 以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
1．予習と復習
2．授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
石崎・丸山　監訳・翻訳　「アメリカ版　大学生物学の教科書　第１巻　細胞生物学」　講談社
エッセンシャル　細胞生物学　原書第 5 版　B. Alberts 他著　南江堂
他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞期末試験 50 %・中間試験 (1 と 2)20 %・レポート課題 15 %・平常点 15 %の成績を総合して評価する.

【学生の意見等からの気づき】
PowerPoint 図の印刷体配布要望があったが，授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので，自主的学習能力を亢進させる為には望ましくないと判断しました.

【学生が準備すべき機器他】
レポート課題提出には学習支援システムを使用する.

【その他の重要事項】
授業内での質問を随時受け付ける.
財団法人の研究員の経験を活かし，先端研究の紹介等を含めて授業を行う.

【Outline (in English)】
This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.
The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS200YB

細胞構造機能学　Ⅰ

川岸　郁朗

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
細胞は生物の基本単位であり，タンパク質や脂質，糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって，細胞の構造と機能を学び，生命現象を理解することは生命科学研究に必須である。本講義では，細胞・細胞膜の構造（真核生物，細菌，ウイルス），タンパク質による物質の輸送，タンパク質の選別とその輸送，細胞運動，細胞骨格，それらに関連した疾病・生命現象や生命科学研究の手法について学ぶ。

【到達目標】
生命の基本となる細胞の構造と機能，特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について，タンパク質の選別と輸送，動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。
1）細胞膜における脂質の性質と境界としての役目
2）タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
3）合成されたタンパク質の適切な輸送と局在，内部構造の配置・再編の仕組み
4）これらに関連した疾病とその機序
5）様々な研究手法がどのように生命科学の発展に寄与したか
また，知識の詰込みのみにならないよう，授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
特定の教科書は用いず，毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い，次回の講義で解説する。
基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが，完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめずに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説，細胞の物理化学的解釈
2	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜，膜を横断する物質の輸送，一次性・二次性能動輸送
3	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割，ポンプと細菌の薬剤耐性化
4	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント，タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
5	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造，ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入
6	中間テスト	これまでの講義内容の理解度の確認
7	中間テストおよび講義の復習	中間テストの解説，重要ポイントの確認・復習（細胞膜，タンパク質の選別と輸送の総括）
8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構，小胞体におけるタンパク質輸送，エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合，ゴルジ体におけるタンパク質輸送，糖鎖修飾，オートファジー
10	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント，微小管，中間径フィラメント
11	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン，キネシン，ダイニン，鞭毛と繊毛
12	バクテリアの細胞骨格と運動	原核生物の細胞構造（細胞膜・細胞壁・骨格）と運動，細胞内寄生体と新興再興感染症
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的，生物物理学的，生化学的，分子生物学的，疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，4時間を標準とする。
授業中に指示する内容について，参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

【テキスト（教科書）】
教科書使用なし。

【参考書】
・THE CELL 細胞の分子生物学　第６版
・細胞の物理生物学　第３版
・リッピンコット　イラストレイテッド生化学　第７版
・数でとらえる細胞生物学

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞
中間テスト (45%)，期末テスト (45%)，平常点（10%）を元に総合的に評価する。
＜評価基準＞
到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また，答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び，考察することができるか。

【学生の意見等からの気づき】
適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに，教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は，理解度等を元に調整する。
細胞構造機能学Ⅰ，蛋白質構造機能学Ⅰ，ゲノム構造機能学Ⅰで学んだ内容を踏まえ，講義を進行する。
大学，民間企業，国立研究所における研究経験を活かし，身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells is essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures and functions of the cell, and methods of life science research.
【Learning objectives】
The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.
(1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
(2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
(3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
(4) Diseases related to the above and their mechanisms.
(5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.
In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.
【Learning activities outside of classroom】
In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.
Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.
【Grading criteria /Policies】
＜ Evaluation method ＞
Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).
＜ Evaluation criteria ＞
Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.
In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS300YB

バイオエナジェティクス

常重　アントニオ

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In concrete terms, what is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.
（本科目は，グローバル対応科目である）。

【到達目標】
The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be explained.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussion. Inquiries and comments are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.
To assess the adequate understanding of classes, reports and responses to quizzes will be requested periodically, and scored appropriately, and their solutions will be discussed in following classes. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about? A rather new branch of science with concepts not so easy to understand.
2	Basic Thermodynamics (1).	Basic concepts in chemistry. Reaction rates.Systems in equilibrium.Why chemical reactions proceed.
3	Basic Thermodynamics (2).	The concepts of free energy, enthalpy, and entropy. The misconception of entropy.
4	Redox reactions (1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
5	Redox reactions (3)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems. Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap. Thermodynamics and Spontaneity of Chemical Reactions.	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other "energetic" compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose?
9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.
10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.
11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	How do we know the electron transport systems work? The use of inhibitors of the electron transport chain. P/O ratio.
13	Role of ATP. Recap of concepts of Lecture 7.	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions about ATP (revisited).
14	Recapitulation of previous lectures. About spontaneity in bioprocesses	Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Periodically, quizzes and homework will be assigned to students, and these will be presented as reports. All will be solved and explained in following classes to consolidate learned concepts.

【テキスト（教科書）】
The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.
"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.
「生体とエネルギーの物理－生命力のみなもと」，日本物理学会 集（2000）の一部を利用する。

【参考書】
Prior to classes, appropriate handouts or other materials will be made available electronically through the support system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】
In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (20%). Final test or its equivalent (60%).

【学生の意見等からの気づき】
Quizzes and short test will be assigned and later discussed in class to consolidate learned concepts.
.

【学生が準備すべき機器他】
Laptops or personal computers with audiovisual capabilities and reliable internet connection are required to access the system Hoppii. Also this equipment will be necessary for the submission of electronic reports.

BME300YB

医用生体工学

金子　智行

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】
生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン (Zoom) でも開講し，具体的な方法については学習支援システムで提示する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第 2 回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第 3 回	脂質とリポソーム	脂質膜やリポソームの形成法、安定性
第 4 回	リポソームの応用技術	リポソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第 5 回	細胞の再構築	リポソーム内タンパク質発現や機能性リポソーム
第 6 回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第 7 回	中間テストの解説	中間テスト-1 の解説と結果に基づいた補足
第 8 回	微細加工技術	光リソグラフィー、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第 9 回	ES 細胞・iPS 細胞	ES 細胞や iPS 細胞をを中心とした幹細胞や Muse 細胞などの最新のトピックス
第 10 回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第 11 回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第 12 回	再生医療	最新の再生医療技術について
第 13 回	中間テスト-2	中間テスト-1 以降の理解到達度確認
第 14 回	中間テストの解説	中間テスト-2 の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞期末試験 30 %・中間試験 (1 と 2)20 %・発表点 30 %・平常点 20 %の成績を総合して評価する.

【学生の意見等からの気づき】
学生自ら調べて発表することは、発表する本人のみならず、聞いている学生にもプラスになるとのことから、学生の授業内発表を増加させる。

【学生が準備すべき機器他】
授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】
学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。
財団法人の研究員の経験を活かし，先端研究の紹介等を含めて授業を行う.

【Outline (in English)】
This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.
The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD

植物病防除学

池田　健太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病を防除することの重要性を認識し、どのような手法で植物病が防除できるのかを知る。また、様々な防除技術の特徴や、植物病の病原菌や害虫の発生生態に基づいた防除対策の策定および社会的ニーズに基づいた防除技術開発とその実例を学ぶ。

【到達目標】
植物病の防除技術の種類と特徴を知り、植物病の発生生態を踏まえて、農業生産者のニーズを満たした防除方法を提案できる。また、植物病の防除技術開発に携わることのできるの基礎的な知識を習得している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
生産現場で実際に発生した植物病の事例を紹介し、防除対策導入のポイントを解説する。その際に、これまでの研究成果などから推察される植物病の発生生態を踏まえ、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	防除のはじまりと意義・重要性
第 2 回	防除技術の種類と選択・導入	病原菌の生活環を考慮した防除方法と対策の導入
第 3 回	化学的防除法 1（農薬一般）	農薬の一般知識、防除器具の種類、耐性菌の発生
第 4 回	化学的防除法 2（防除の実例）	化学農薬を使った植物病の防除事例
第 5 回	法政大オリジナル万能防除剤の開発	本学科で行なっている新たな防除技術研究について
第 6 回	耕種的防除法 1	圃場衛生と抵抗性品種の活用
第 7 回	耕種的防除法 2	輪作による植物病の防除
第 8 回	物理的防除法 1	熱や光質を活用した植物病の防除
第 9 回	生物的防除法	微生物を活用した植物病の防除
第 10 回	生物農薬開発の実際	実用化された生物農薬の開発経緯と社会への貢献について
第 11 回	植物病の伝染環と拡大様式	モノサイクリック病害とポリサイクリック病害の防除対策
第 12 回	防除技術開発のための研究計画とデータ解析	On-farm research と防除技術の評価に必要な解析
第 13 回	持続的な防除技術	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と重要性と実例の紹介
第 14 回	防除に関わる最新技術	AI（人工知能）による診断・対策支援や新しい農薬について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、website など）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する資料は学習支援システムに掲載する。

【参考書】
米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫　伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）
Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』 (APS PRESS)
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）、課題・レポート（30 %）、平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実際の農業生産現場で発生する植物病害を授業の対象として、植物病を防除するために植物医師として必要不可欠な知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】
国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】
Students will recognize the importance of controlling plant diseases and learn what methods are used to control plant diseases. They will also learn the characteristics of various control techniques and the formulation of control measures based on the life cycle of plant disease pathogens and pests, as well as the development of control technologies for social needs. It is important to know the types and characteristics of plant disease control techniques and to propose control methods that meet the needs of farmers based on the life cycle of plant disease pathogens. In this course, cases of plant diseases that have occurred in agricultural production will be introduced and key points for the introduction of control measures will be explained. Students can learn what kind of control measures are effective, based on the life cycle of plant disease.
Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

PPE200YD

植物ウイルス学

津田　新哉

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】
植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について解説する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を理解し、その病徴発現の仕組みについてグループディスカッションで理解を深める。
9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。
10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての診断法と、その伝染環に基づく総合防除体系について説明する。
13	植物ウイルスの生物工学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物工学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回の授業終了後に資料を配付する。

【参考書】
開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で 50%、小テスト・レポートで 30%、平常点 20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】
This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students do not need to prepare for the lecture, but they should review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of genes, replication, and translation. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

PPE300YD

媒介システム学

津田　新哉

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】
植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（１）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（２）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（１）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（２）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（３）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。
10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。
11	媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係	媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化についてグループディスカッションで理解を深める。
12	植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析	三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。
13	植物病原体の薬剤耐性とその対処法	植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回の授業終了後に資料を配付する。

【参考書】
開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で 50%、小テスト・レポートで 30%、平常点 20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】
講義資料の参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】
The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occuring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are not required to prepare for the lecture, but are required to review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of the functions of biological macromolecules such as genes and proteins. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

BOA300YD

植物メディカルシステム学

濱本　宏

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術や ICT を活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わる ICT 技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能 (AI) などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】
農業や植物医科学における ICT の利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の検索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
＜＜授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします＞＞
情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説などガイダンス
第 2 回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第 3 回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第 4 回	農業 ICT に必要な情報を取得する技術	フィールドサーバーやドローンなど現場からデータを取得する技術
第 5 回	農業 ICT で実際に現場作業する技術	無人トラクター、自動収穫機など
第 6 回	そのほか農業/植物医科学関連 ICT 利用	トレーサビリティーなど
第 7 回	農業 ICT/植物医科学で用いるデータベース	病名目録、農薬登録情報、その他オープンデータ紹介
第 8 回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI 育種の紹介など
第 9 回	植物医科学で有用な website 等の紹介と活用	今昔の関連 website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析演習
第 10 回	植物医科学におけるデータベースの活用演習	PC/インターネットを用いて実際に植物医科学関連データベースを調査する
第 11 回	データ解析の手法（1）	データ解析の基礎となる統計処理
第 12 回	データ解析の手法（2）	統計処理に用いるソフトウエア
第 13 回	データ解析の手法（3）	画像解析技術の基礎と手法
第 14 回	総合討論	ICT と植物医科学の接点に位置する最新 Topics の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習等の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】
資料配布を基本とする。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験とレポート課題： 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解を深めるために、実際に PC を利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて指示するので、PC を持参する。

【その他の重要事項】
民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).
【Learning Objectives】
To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.
【Learning activities outside of classroom】
Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.
【Grading Criteria /Policy】
Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD

植物臨床医科学

池田　健太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物病の実践的な診断および防除の事例、最先端の防除技術を学び、植物医師として問題解決に必要不可欠な知識と技術を修得する。

【到達目標】
農業生産の現場で発生する頻度の高い植物病の診断方法、およびその発生生態に関する知識を身につける。また適切な防除対策を策定し、生産者へ提案、実践する技術を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
生産現場で実際に発生した植物病の症例を写真で示し、診断のポイントを解説する。加えて、これまでの研究成果などから推察される発生生態を、図やイラストを用いて説明した後に、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物臨床医科学とは？	診断・防除対策の提案に必要な知識と技術
第 2 回	植物病の診断	圃場診断・植物体診断、問診や情報の活用
第 3 回	葉に発生する植物病（菌類）	灰色かび病、うどんこ病の診断・防除対策
第 4 回	葉に発生する植物病（細菌）	斑点性の細菌病、黒腐病の診断・防除対策
第 5 回	葉に発生する植物病（ウイルス）	葉に発生するウイルス病の診断・防除対策
第 6 回	法政大オリジナル万能防除剤の開発	本学科で行なっている新たな防除技術研究について
第 7 回	導管閉塞を伴う植物病（菌類 1）	バーティシリウム属菌による土壌病害の診断・防除対策
第 8 回	導管閉塞を伴う植物病（菌類 2）	フザリウム属菌による土壌病害の診断・防除対策
第 9 回	導管閉塞を伴う植物病（細菌）	土壌伝染する病原細菌による植物病の診断・防除対策
第 10 回	生物農薬開発の実際	実用化された生物農薬の開発経緯と社会への貢献について
第 11 回	菌核で伝染する植物病（菌類）	白絹病、菌核病などの診断・防除対策
第 12 回	根および地際部の植物病（菌類）	ピシウム属菌やリゾクトニア属菌による植物病の診断・防除対策
第 13 回	地上部に発生する植物病（生理障害・薬害）	気象要因や施肥に起因する生理障害、薬害の診断・対策
第 14 回	最新の診断技術の活用	AI（人工知能）やドローンによる診断技術研究について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各講義の重要なポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。

【参考書】
米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫　伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）
Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』(APS PRESS)
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）、課題・レポート（30 %）、平常点（20 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実際の農業生産現場で発生する植物病を授業の対象として、「植物臨床医科学」が単なる学問に終わらず、社会で役立つ知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】
国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】
Students will learn practical cases of diagnosis and control of plant diseases, and study skills essential for problem-solving as plant doctors. The goal of this course is to acquire diagnostic methods and knowledge of the life cycle of plant diseases that frequently occur in agricultural production. In addition, the objectives are to gain the ability to choose and determine the best disease control measures based on the life cycle of plant diseases and to acquire the skills to propose and implement such measures to growers.
Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

BOA100YD

基礎植物害虫学

大井田　寛

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】
植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第 2 回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第 3 回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第 4 回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第 5 回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第 6 回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第 7 回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第 8 回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第 9 回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第 10 回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第 11 回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第 12 回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第 13 回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第 14 回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書や web サイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】
最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
石川幸男・野村昌史編　応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野冨士夫編　農学基礎シリーズ　応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で 50 %、レポートなどで 40 %、平常点 10 %（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】
写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】
植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline (in English)】
This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.
The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.
Students are not required to prepare for the class, but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、attend classes: 20%

BOA200YD

応用植物害虫学

大井田　寛

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農薬や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多くの場面で求められる。本授業では、IPM や IBM を構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】
植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第 2 回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第 3 回	化学的防除 1	薬剤の特性、作用機作など
第 4 回	化学的防除 2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第 5 回	生物的防除 1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第 6 回	生物的防除 2	放飼増強法（生物農薬的利用）
第 7 回	生物的防除 3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第 8 回	物理的防除 1	遮断法、光などの手段による防除
第 9 回	物理的防除 2	熱、音などの手段による防除
第 10 回	耕種的防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第 11 回	総合的病害虫・雑草管理（IPM) と総合的生物多様性管理（IBM)	IPM、IBM の概念と方法
第 12 回	グループディスカッション	IPM の実践について
第 13 回	発生予察	発生予察の方法と利用
第 14 回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書や web サイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】
最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
石川幸男・野村昌史編　応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野冨士夫編　農学基礎シリーズ　応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）
仲井まどか・日本典秀編　バイオロジカル・コントロール 第 2 版（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績で 50 %、レポートなどで 40 %、平常点 10 %（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】
写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline (in English)】
A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.
The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expect to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.
Students are not required to prepare for the class, but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 30%、attend classes: 20%

MAC100YC

無機化学概論

明石　孝也

開講時期：**秋学期授業/Fall**
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子構造，電子配置，二原子分子，イオン性結晶に関する基本的な内容を深くに理解することを到達目標とする。
物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し，各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に，それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合，共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】
原子構造，電子配置，二原子分子，イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
DP2

【授業の進め方と方法】
量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を，板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。
な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論、原子（1）	原子の構造、原子核の崩壊
第 2 回	原子（2）	水素の発光スペクトル
第 3 回	原子（3）	ボーアの原子モデル
第 4 回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式，一次元の箱の中の粒子（1回目）
第 5 回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目），複素数による波動の理解
第 6 回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子，動径波動関数，球面調和関数
第 7 回	原子軌道（2）	電子の軌道（s 軌道，p 軌道、d 軌道，f 軌道）
第 8 回	原子軌道（3）	電子スピン，パウリの排他原理，構成原理，フントの規則
第 9 回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第 10 回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー，遮蔽，電子親和力，格子エネルギー
第 11 回	イオン結合（2）	ボルン- ハーバーサイクル、有効核電荷
第 12 回	電子配置	電子配置、構成原理
第 13 回	共有結合（1）	等核二原子原子、
第 14 回	共有結合（2）	異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
前回までの講義内容を復習し，理解を深めておくこと。特に，講義中で解けなかった演習問題は，ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書)】
基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ，山田・秋津著，(株) 化学同人，ISBN:9784759815306。

【参考書】
・無機化学－その現代的アプローチ－： 平尾一之，中平敦，田中勝久著，東京化学人。
・アトキンス物理化学第１０版（上）：千原秀昭・中村亘男訳，東京化学同人。
・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】
中間試験 (35%)，期末試験 (60%)，演習問題 (5%)，授業への取組み姿勢により，総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
球面調和関数の理解を深めるための実験を継続する。共有結合の授業を２回に増やす。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓使用。

【その他の重要事項】
鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline) The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.
(Learning Objectives) Students are expected to understand atomic structure, electron configuration, diatomic molecules, and ionic crystals.
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (5%),mid-term examination (35%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

MAC200YC

物理化学　I

緒方　啓典

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原理がどのような考え方に基づいているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】
量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。
量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第 10 版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1 ヵ月に 1 回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	量子論:序論と原理 1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第 2 回	量子論:序論と原理 2	第 1 回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第 3 回	量子論:序論と原理 3	第 2 回に引き続き、量子論の必要性，古典論と量子論との定性的，定量的比較を行う。
第 4 回	量子論：原理 1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式である Schroedinger 方程式の導出を行う。
第 5 回	量子論：原理 2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第 6 回	量子論：原理 3	量子力学 の原理（固有値，固有関数，演算子，不確定性原理）などについて講義を行う。
第 7 回	量子論：手法と応用（1-1）	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第 8 回	量子論：手法と応用（1-2）	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第 9 回	量子論：手法と応用（1-3）	2 次元および 3 次元空間における粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法および縮退について学ぶ。
第 10 回	量子論：手法と応用（2-1）	粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第 11 回	量子論：手法と応用（2-2）	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第 12 回	量子論：手法と応用（2-3）	粒子の振動運度を Schrodinger 方程式に適応し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第 13 回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第 14 回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第 10 版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】
＜教 科 書＞ P. W. Atkins 著、（千原・中村　訳）「物理化学（上）」　第 10 版，東京化学同人.

【参考書】
＜参 考 書＞　原田　義也著、「量子化学」　裳華房

【成績評価の方法と基準】
基本的概念を理解し，それに基づいて問題解決ができるかどうかを課題、小テストおよび最終試験の結果によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
物理化学 I の内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】
講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】
＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確認するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。
＜継続的改善＞ 質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールドレスは第 1 回目の講義資料に記載します。
物理化学 I の授業内容をよく理解するためには，関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline (in English)】
This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.
· Attainment target
1)Understand the key concepts underlying quantum theory.
2)Applying quantum mechanics to the translational motion of particles, the
vibrational and rotational motions of molecules, and gaining a proper understanding of their states.
· Learning outside of class
Prepare and review on your own using exercises from the textbook Atkins "Physical Chemistry (Part 1) 10th Edition". Supplementary printouts related to the lecture will be distributed in advance through the class support system. At the end of each lecture, assignments related to the content of the lecture will be given, so please submit them through the learning support system by the submission deadline.
· Grading methods and standards
Comprehensively evaluate whether students can understand the basic concepts and solve problems based on them based on the results of assignments, quizzes, and final exams.

MAC200YC

無機化学　I

石垣　隆正

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀、特に量子力学の発見と成立は人類の物質観を一変し、物質の本質的な理解に基づく発明・発見が、現在に続く爆発的な物質文明の進展をもたらした。しかし、その利得と負債の双方が 21 世紀のわれわれの肩に重くのしかかっているのも事実である。21 世紀の物質科学という観点から無機化学を洗い直し、清新な視点から、物質文明の来し方行く末を遠望し、かつ学生諸氏が今後社会人として活力ある未来を築くための基礎になるような授業にしたいと思っている。無素化学Ⅰでは、特に基礎的な物質理解に重点を置き、はじめに周期律に現れる各元素の性質の美的な振る舞いを示し、結晶の周期構造と物性・無機化合物の一見複雑な構造を理解するための強力な考え方などを中心に講義する予定である。

【到達目標】
構成元素の周期表における位置を見て、その無機化合物の特性が推定できる化学的感覚を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	無機化学工業、無機化学の学習範囲
第 2 回	結合と構造	結合の分類と物質構造の関係
第 3 回	原子のボーアモデル	ボーアモデルによる原子の電子構造、エネルギー量子化の理解
第 4 回	シュレンディンガー方程式と水素原子	水素原子のシュレディンガー方程式を各量子数が導入される
第 5 回	多電子系原子の電子構造	多電子系元素電子における電子構造の構成原理
第 6 回	分子の電子構造	分子軌道法、等核分子の電子構造
第 7 回	分子の電子構造	異核分子の電子構造
第 8 回	周期律表と元素の性質 1	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 9 回	周期律表と元素の性質 2	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 10 回	周期律表と元素の性質 3	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第 11 回	酸・塩基 1	アクア酸・オキソ酸
第 12 回	酸・塩基 2	ブレンステッド酸・塩基
第 13 回	酸・塩基 3	ルイス酸・塩基、かたい酸・塩基、やわらかい酸・塩基
第 14 回	酸化・還元	酸化電位、電池

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
１年秋学期に履修する「無機化学概論」の内容を把握しておくこと。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】
「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。
オリジナルテキストを配付する。

【参考書】
< 参考書>
「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版.
「アトキンス・無機化学　第６版 (上)・(下)」田中他訳、東京化学同人.
「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館.

【成績評価の方法と基準】
中間テスト・期末試験（85 %）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15 %）。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】
質問は、授業中、メールなど。
国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】
This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics of elements in the periodic table, such as ideas on chemical bonding, acid-and base, and redox reactions. By the end of the course, students should be able to acquire a chemical sense that can estimate the characteristics of the inorganic compound, on looking at the positions of the constituent elements in the periodic table.
Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC200YC

無機化学　ＩＩ

石垣　隆正

開講時期：**秋学期授業**/Fall
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無機化学Ｉで導入された物質科学的観点を発展させ、無機固体物質の材料科学的応用の基礎事項を原理から学んで行く一方、持続可能な社会の形成に重要な環境・エネルギー関連のトピックも取り上げて行きたい。

【到達目標】
持続可能な可能な社会形成に重要な環境とエネルギーは表裏一体の関係にある。環境にやさしいエネルギー材料、環境を保全する無機材料に関する基礎科学を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	溶液化学から固体化学へのいざない、無機材料への応用
第 2 回	固体の周期的構造	結晶の周期性がもたらす孤立原子との劇的な違いとは
第 3 回	固体物質の結晶構造１	結晶構造の構成原理と代表的な結晶構造
第 4 回	固体物質の結晶構造２	２成分固体物質の代表的な結晶構造
第 5 回	固体物質の結晶構造３	複合固体物質の代表的な結晶構造
第 6 回	格子欠陥と非化学量論性１	欠陥の分類と熱力学
第 7 回	格子欠陥と非化学量論性２	格子欠陥と電子伝導特性
第 8 回	格子欠陥と非化学量論特性３	固体中の原子の拡散
第 9 回	固体電解質	イオン伝導性の基礎と固体電解質の構造
第 10 回	化学電池、燃料電池	電池の原理・材料
第 11 回	固体の電子物性１	バンド構造と固体の物性
第 12 回	固体の電子物性２	固体の電気伝導性、半導体の種類
第 13 回	半導体の特性	光伝導、熱電特性、ホール効果
第 14 回	半導体の接合	電子デバイスの基礎原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
前期に履修する「無機化学Ｉ」の内容を理解して受講することを望む。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】
「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人.
オリジナルテキストを配付する。

【参考書】
「演習で学ぶ無機化学」伊藤、石垣、佐々木、野田著.
「アトキンス・無機化学　第６版（上）・（下）」田中他訳、東京化学同人.
「固体化学　第２版」田中著、東京化学同人.

【成績評価の方法と基準】
中間テスト・期末試験（85 %）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15 %）。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】
質問は、授業中、メールなど。
国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】
Perspective of materials science acquired through learning “Inorganic Chemistry: I” is intended to improve. Basic principles of inorganic solid-state chemistry is learned to understand applications on energy-related and environmental materials, which are indispensable for establishing sustainable society.
The environment and energy that are important for the formation of a sustainable society are two sides of the same coin. By the end of the course, students should be able to acquire basic science on environment-friendly energy materials and inorganic materials that protect the environment.
Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC300YC

触媒化学

石垣　隆正

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠の物質であり、われわれの生活環境の中で、物質生産と環境対策に幅広く利用されている。本講では、工業的に使われている触媒、環境対策用触媒を中心に、触媒の特徴と機能、触媒反応、触媒調製法について基礎から説明する。

【到達目標】
①触媒とプロセスの関連を習得すること、②触媒機能・触媒反応を理解すること、③環境問題に対して触媒が果たしている役割を理解することを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って説明する。講義の理解度を確認するため、適宜小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。トピックに関して、適宜レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、触媒とはなにか	科目内容の説明、触媒の化学工業、環境対策における重要性、触媒の分類など
2	触媒の歴史と役割	触媒化学の科学と技術、その発展、日本における利用
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面科学（表面構造・電子状態）
4	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その１	固体表面での素過程、吸着とその速度論
5	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その２	脱離とその速度式、吸着脱離平衡
6	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その３	固体触媒反応の反応速度論：定常状態近似・律速過程
7	触媒反応機構	素反応の組立、反応機能決定法、メカニズムと速度式
8	固体反応場の構造と物性：その１	触媒機能を支配する因子、反応場の構造
9	固体反応場の構造と物性：その２	反応場の構造とそのキャラクタリゼーション：化学的方法、機器分析
10	中間テスト	前半部の復習と理解の確認
11	触媒の調整と機能評価：その１	触媒調製法とその原理
12	触媒の調整と機能評価：その２	触媒反応活性の評価法
13	環境・エネルギー関連触媒	環境触媒（自動車触媒、脱硫触媒、二酸化酸素固定触媒、光触媒）、エネルギー関触媒（燃料電池、水素製造、光触媒、色素増感太陽電池）
14	光触媒反応	半導体光触媒の科学と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・触媒化学を理解するには、２年次までに履修するさまざまな基礎科目の内容を身につけておくことが必要です。「無機化学概論」、「化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」、「物理化学Ⅰ・Ⅱ」、「無機化学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解して受講することを望みます。
・各回に勉強する内容を、教科書で予習して講義に臨んで下さい。
・重要な内容を小問で演習します。講義後にアップロードするので復習しておいてください。

【テキスト（教科書）】
「触媒化学」（応用化学シリーズ６）上松、中村、内藤、三浦、工藤 共著、朝倉書店（2004）.

【参考書】
「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版.
「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社.
「触媒化学」田中ら 共著、講談社.

【成績評価の方法と基準】
定期試験（80 %）、小問（10 %）、レポート（10 %）により評価。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料中に関して講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】
独立行政法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】
Catalysts are indispensable for accelerating chemical reactions, have been widely used and utilized in our life, both in materials production and environmental issues. This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics and functions of catalysts, surface catalytic reactions on solid-state catalysts, and fabrication methods, especially of solid-state catalysts, such as industrially utilized catalysts and environmentally-related catalysts.
At the end of the course, students are expected (1) to learn the relationship between catalysts and processes, (2) to understand catalytic functions and catalytic reactions, and (3) to understand the role that catalysts play in environmental problems.
Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (80%), and in-class contribution(20%).

MAC300YC

環境化学工学応用

山下　明泰

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】
管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を知ることを通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の３つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。
本講義は対面式、またはハイフレックス（同時双方向方式のライブ配信）で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	化学工学と輸送現象論 輸送現象論の中の流動および伝熱	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第２回	流動（１）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第３回	流動（２）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第４回	流動（３）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第５回	流動（４）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第６回	流動（５）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。さらに、充填層の圧力計算について言及する。
第７回	流動（６）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokes の方程式について概説する。
第８回	伝熱（１）：伝熱メカニズム	伝熱の３つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第９回	伝熱（２）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（３）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（４）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。
第12回	伝熱（５）：熱交換器	熱交換器の設計方程式を導出する。
第13回	伝熱（６）：輻射伝熱	輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。 エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。
第14回	伝熱（７）：対流と輻射による伝熱	複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】
相良　紘著：よくわかる　化学工学計算の基礎（日刊工業新聞社）

【参考書】
Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley
藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人
藤田重文著：化学工学Ⅰ　（第２版）、岩波全書 (絶版)

【成績評価の方法と基準】
レポート課題　５０％
定期試験　　５０％
但し、定期試験が実施できない場合には、レポート課題１００％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
科目の性格上、着目している系の数学的取り扱いは避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】
演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。
本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline (in English)】
1.Course outline
Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.
2.Learning Objectives
Students understand the behavior of the fluid from the viewpoint of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plat devices, including heat exchangers.
3.Learning activities outside of classroom
Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.

4.Grading Criteria /Policy
It depends on the COVID-19 infection situation, i.e.,
a. when we have the final exam: Final exam 50% + Homework 50%
b. when we do not have the final exam: Homework 100%

MAC300YC

無機素材反応化学

明石　孝也

開講時期：**春学期授業**/Spring
備考（履修条件等）：**成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生：教員の受講許可が必要 (オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする)**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】
状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】
擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い，状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い，学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	相律	相の数え方，示強変数と示量変数の違い，Gibbs の相律，Gibbs の相律の使い方を，演習を通して学ぶ。
第 2 回	擬一元系状態図 (1)	ファンデルワールスの状態方程式を用いて，CO_2 の p(圧力)-V(体積) 図を作成し，擬一元系状態図の読み方を，演習を通して学ぶ。
第 3 回	擬一元系状態図 (2)	CO_2 の p(圧力)-V(体積) 図と CO_2 の T(温度)-p(圧力) 図の関係を，演習問題を解くことで理解を深める。
第 4 回	二元系状態図 (1)：	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し，モル分率と温度の状態図を作製する。
第 5 回	二元系状態図 (2)：酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し，自発的な反応が進む方向を決定する。
第 6 回	二元系状態図 (3)：エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに，エリンガム図の使い方を演習する。
第 7 回	中間テスト	前半の演習の理解度をチェックする。
第 8 回	二元系状態図 (4)：てこの原理	モル分率 vs. 温度の状態図を読み，温度が変化した際の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第 9 回	二元系状態図 (5)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み，温度が変化した際の状態変化を理解する。
第 10 回	二元系状態図 (6)：昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み，温度が変化した際の状態変化に関する理解を深める。
第 11 回	擬三元系状態図：昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び，酸化物の擬三元系状態図の液相面を解読する。
第 12 回	熱力学計算の実際 (1)：レアメタルの分離・回収	蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、気相を介したレアメタルの分離・回収を理解する。
第 13 回	熱力学計算の実際 (2)：酸素濃淡電池 熱力学計算の実際 (3)：固体微粒子の熱力学的安定性	水素－水蒸気混合雰囲気における平衡酸素分圧を計算し，酸素濃淡電池の起電力を計算する。 固体微粒子の界面エネルギーを計算し，熱力学的安定性を考察する。
第 14 回	熱力学計算の実際 (4)：非酸化物材料の高温酸化	非酸化物/酸化物界面における蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、高温酸化挙動を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回の授業中に出題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって，前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと，講義の進捗状況に合わせて次回に出題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
・アトキンス 物理化学（上）第 10 版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業中に出題する演習問題 (10%)，中間試験 (40%)，期末試験 (50%)，授業への取組み姿勢により，総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を把握するために、対面授業を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】
鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline) The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagrams for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.
(Learning Objectives) Students are expected to understand thermodynamics and phase diagrams,
(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (10%),mid-term examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

PHY200XG

解析力学

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
解析力学とは、ニュートンの運動の法則を最小作用の原理とよばれる方式で定式化した学問体系である。最小作用の原理は、力学のみならず広汎な物理法則を記述できる普遍的な定式化である。本講義では、解析力学を使って難しい問題がたくさん解けるようになることを主目的にはしない。解析力学とはどのような学問であるかを概念的に理解し、これまでに学んだニュートン力学の新しい定式化によって、自然の見方に新しい観点が出てくることを実感し、自然に対する興味がより深まるようになることを目的とする。

【到達目標】
・自然現象の体系的な理解の中で、解析力学とはどのような学問であるかその概念を自分なりに理解する。
・日常目にする基本的な運動をニュートン力学と解析力学のアプローチで記述でき、両者の違いはどこにあるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容は事前に YouTube でオンデマンド配信する。授業時間中はフィードバックと演習を中心とし、グループワークおよび小テストを実施する。ただし必要に応じて、オンライン授業も併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。
2	古典力学の復習	常微分と偏微分、運動方程式、自由落下運動、放物線運動、バネの運動。
3	座標と速度および加速度 (1)	デカルト座標、極座標、三次元極座標。
4	座標と速度および加速度 (2)	一般化座標、一般化運動量、正準共役変数、一般化された力。
5	中テスト 1	古典力学の復習、座標と速度および加速度に関する中テスト
6	ラグランジュ方程式と最小作用の原理 (1)	一般化座標によるラグランジュ方程式。
7	ラグランジュ方程式と最小作用の原理 (2)	変分原理とオイラー方程式。
8	ラグランジュ方程式と最小作用の原理 (3)	変分原理の応用例。
9	中テスト 2	ラグランジュ方程式と最小作用の原理に関する中テスト
10	ハミルトンの正準方程式 (1)	ハミルトニアンとは。
11	ハミルトンの正準方程式 (2)	ラグランジュ形式とハミルトン形式、ポアソン括弧。
12	ルジャンドル変換と正準変換	正準変換と母関数。
13	中テスト 3	ハミルトンの正準方程式、ルジャンドル変換と正準変換に関する中テスト
14	まとめ	これまでの中テストの復習を通じて、授業内で扱った解析力学の総まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。授業内では演習問題の出題と解説の時間を設け、その前提となる理論については YouTube で配信する。したがって、各自自主的にオンデマンドで予習を行ってから授業に参加することが必須である。

【テキスト（教科書）】
・久保謙一 (著)、「解析力学」 、裳華房、2001 年

【参考書】
・ランダウ・リフシッツ (著)、「力学」、東京図書、1974 年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（100%）
小・中テスト（救済措置）

【学生の意見等からの気づき】
学生が効果的にグループワークを進められるように、教員や TA からのグループへの介入を意識的に行う。

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
This course introduces the basis of analytical dynamics based on group works through the semester. The goal of this course is to understand difference between Newtonian mechanics and analytical mechanics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%).

COS200XG

フィールドワークとモデル構成

福澤　レベッカ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フィールドワークとリサーチデザインは様々なパラダイムに基づいている。その様々なパラダイムは異なったモデル構成、調査方法、データ分析方法につながる。本授業は異なる分野のパラダイムを比較しながら、文化人類学的なフィールドワークと調査理論を紹介す以下の物が含まれている：フィールドワークのプロセスを実施しながら進めていく。そのプロセスには帰納・演繹法による理論構築、社会現象測定としての母集団の特定、データ抽出の決定、質的・量的データ収集法、データ処理としてのコーディングシステムの決定、データのマッピングと質的データ解析、モデルの検証である。

【到達目標】
社会学における様々のデータ収集方法とモデル構成を考える力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義も含まれているが、アクティブラーニングを基礎とする授業である。授業において主に、ディスカッション、グループワーク、授業内フィールドワーク体験、映像・メディアの分析などの活動を行う。提出された課題・アクティビティシート、クイズ、試験については採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	本クラスの紹介・フィールドワークとは何か？	社会や文化について研究を行うフィールド調査法とは何か、そして他の研究方法との違いと特徴を学ぶ。フィールドでの倫理の特殊な問題を考える。
2 回	研究のゴール、問題提起、概念的枠組み　I	研究のゴールと問題提起が幾つあるのかを特定し、自分の世界観に基づいて暫定的、概念的枠組みを考える。
3 回	質的なデータを帰納的に集めるインタービュ方法	構造化されたインタビュー、ある程度構造化されたインタビュー、そしてまったく構造化されていないインタビューの相違について考える。インタビューを実施する。
4 回	質的データ分析と解釈の方法	インタビューの中のテーマを見つけることにより質的データの分析方法を学びながら、コーディングマトリックスを開発、使用することにより量的データへの変換を考える。
5 回	テーマコードから符号のコードの作成	2 符号コードに変えることによって質的なデータから量的なデータに近寄り、統計学的な分析が可能になる。
6 回	質的なデータから量的なコーディングへ	ネイティブの観点から言葉の概念の関係を調べるために、分類データシートのデータをマットリック表に記入する。
7 回	質的なモデル構成	テーマのカテゴリーを利用して、値のコードを作る。このデータを元に、コーディングを通してモデルを構成する。
8 回	質的データを帰納的に集める観察方法	正式な観察――分厚い記述・連続記述方法との基本
9 回	質的データを帰納的に集める観察方法	正式な観察――分厚い記述・連続記述方法、実際に練習する。
10 回	質的データ分析と解釈の方法	観察データからの分析方法を学びながら、コーディングマトリックスを開発、使用することにより量的データへの変換を考える。
11 回	サンプル収集の方法を通して妥当性を得る。	母集団の特徴の特定、サンプルを収集する手続き、そして、調査で使用する質問の変数への関連付けをする方法について学ぶ。
12 回	他のフィールドデータ収集：人間の行動と思考を間接的に観察する	証拠となるような他のフィールド情報（書類やビジュアルデータなど）、研究対象となる人たちの選定、サンプルを収集する方法について考える
13 回	他のフィールドデータ分析：人間の行動と思考を間接的に観察する。	ビジュアルデータの分析を実施し、コーディングマトリックスを作成する。
14 回	フィールドワークとは何かを振り返る。	フィールドワークの心構えを再び考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
フィルドワークインタビューと観察などの課題を行う。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにアップロードする。

【参考書】
佐藤郁也 (2008)「フィルドワーク：書を持って街にでよう」新曜社.
京都大学東南アジア研究所 (2006)「フィルドワーク入門」NTT 出版.
クレスウェル, J.W. (2010)[大谷 順子訳]「人間科学のための混合研究法―質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン」北大路書房.
好井裕明　(2006)「当たり前」を疑う社会学:質的調査のセンス. 光文社.

【成績評価の方法と基準】
平常点とクイズ (50%)、データ提出・課題 (30%)、期末試験（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの誤字をなくする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン持参。

【その他の重要事項】
以前に行っていた政府機関のＰＲ部での仕事の経験は、現在の授業のフィールドワークがビズネスに以下に応用できるかという視点を提供している。

【Outline (in English)】
This course introduces students to anthropological research models and fieldwork methods by comparing and contrasting ethnographic fieldwork to other disciplinary approaches. It is designed to lead students step by step through the process of designing and implementing qualitative research: choosing a theoretical approach, determining sampling procedures, designing collection methods interview, observation and visual data, and using coding systems for analysis and theory building.
Learning Objectives:
The goal of this class is to learn and practice a variety of methods of ethnographic data collection. Based on this data, students will build models or theories to describe the data.
Learning activities outside the classroom:
Students will be responsible for doing interview, observation and other projects outside of class.
Grading Criteria:
In-class activities and online quizzes (50%), projects (30%), final exam (20%)

COS300XG

数値計算

田村　祐介

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代は、コンピュータを使って数値データを処理し、実験式や理論式を基に様々な指標やデータのトレンドを得ている。まず、コンピュータの内部表現に関わる数値誤差を理解する。指標を求めるのに標準的な手法（主に最小二乗法）を学び、適用範囲と指標の誤差を評価する方法を理解する。また、理想的な誤差のモデルとして正規分布の生成法を実験する。さらに、数値積分のプログラムを作成後、フーリエ変換に応用し、例えば時系列データでは不明瞭であった特徴を捉える手法を学ぶ。

【到達目標】
数値データの処理法と適用限界を知り、演習を通して身につけ、効果的な表現方法を学ぶことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
プログラムの作成には、特に言語は問わないが、便宜上 Fortran を使用する予定（支給 PC に既にインストールされているはず。あるいは MSYS2 をインストール）。レポートのための図・表の作成には、MicroSoft の Excel、Word を想定している。これらの使い方も習熟することを目的とする。
提出されたレポート結果を見て，適宜解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プログラム作成環境	プログラム作成環境の確認、必要に応じてインストール作業。 プログラム作成の練習
第 2 回	コンピュータの内部表現	丸め誤差、情報落ち、桁落ちが起こる理由を確認。変数の型（整数、単精度、倍精度等）の違い
第 3 回	数値データの指標	平均値、分散などの指標の計算方法とそれらの意味
第 4 回	最小二乗法（1）方法論	式が線形の場合、2つのパラメータ、分散、共分散、相関係数
第 5 回	最小二乗法（2）プログラムの作成	プログラムの作成、動作確認。線形データの指標と信頼性の評価方法を追加
第 6 回	最小二乗法（3）	非線形式を線形化できる場合の変更を追加 レポート作成の準備
第 7 回	正規分布（1）	一様乱数から正規分布を生成する方法
第 8 回	正規分布（2）	正規分布曲線の積分 1 σ、2 σ の計算 レポート作成の準備
第 9 回	数値積分（1）	既知関数の等間隔点における積分を評価
第 10 回	数値積分（2）	非等間隔点の場合
第 11 回	フーリエ級数展開	方法の原理 テーラー展開との関係 展開基底の線形性
第 12 回	フーリエ変換（1）	sin 変換と cos 変換、パワースペクトル
第 13 回	フーリエ変換（2）	高速フーリエ変換
第 14 回	まとめ	提出レポートの再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
数値処理を行うためのプログラムを作るので、作成、デバッグはできるように練習しておくこと。支給 PC には Fortran がインストールしてあるはずだが、プログラミング言語については特に限定しない。また、レポートを作成するためのツール類、例えば、表・グラフを作成する Excel、文章作成の Word などの使い方に習熟しておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用せず。

【参考書】
(1) 川上一郎著、“数値計算（理工系の数学入門コース [新装版]）”、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
図・表のルールに従って数値データを正しく表現、強調できているか、レポートが IMRAD 形式に則って書けているか、結論に至る議論が的を射ているか等を鑑みて、レポートの評価とする。
授業出席を前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
内容を精選する。

【学生が準備すべき機器他】
支給 PC 等のプログラミングができる環境、

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。

【Outline (in English)】
(Outline and Objective)
Computers are used to process numerical data, and various indices and data trends are obtained based on empirical/theoretical formulas. First, you understand the numerical errors involved in the internal representation of computers. By learning standard methods for finding the trends (e.g. least-squares methods) and you understand how to address its limit and errors. In addition, you will experiment with a normal distribution generation method as an ideal error model. Furthermore, after making a numerical integration program, you will apply it to the Fourier transform to learn how to capture the features in time-series data, for example.
Programming language is not particularly limited, but Fortran will be used for convenience (should be ready on the supplied PC, or install MSYS2). MicroSoft's Excel and Word are assumed for creating graphs and tables for reports. Another purpose is to master how to utilize them.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Grading will be decided based on reports.

COS300XG

シミュレーション技法

田村　祐介

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
シミュレーションは、観測により得られた数理モデルを基に、実物を使わずに対象の状態を計算したり予測するのに利用されており、理論、実験と並び模擬実験と呼ばれている。
本授業では、ミクロの世界に注目し、分子軌道法シミュレーション・パッケージの Gaussian とその GUI の GaussView を用いて分子軌道を可視化したり振動状態を計算することで化学結合論や分光学の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
分子軌道計算を行い、結果を整理、検討することで計算の理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
分子シミュレーションの計算を行い、結果を可視化する。条件の異なる計算を比較して何が結論できるか議論し、レポートにまとめる。
提出されたレポート結果を見て，適宜解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計算環境の確認	計算を実施するための環境や GUI の操作法の確認 簡単な計算を行い結果の確認 元素周期表の見方
第 2 回	入力データの作成方法	入力データ条件、電荷、スピン多重度の計算できる組み合わせを確認 軌道関数を可視化し、s 軌道、p 軌道などの形状 波動関数の位相について
第 3 回	水素類似原子の計算（1）	第一周期、第二周期の元素について計算。 原子番号の違いが軌道エネルギーに与える変化を見て、ボーア理論との整合性を確認
第 4 回	水素類似原子の計算（2）	残存の計算を進め、レポート作成
第 5 回	化学結合の成り立ち	少数の原子で小さな分子を GUI により作成 電荷、スピン多重度の組み合わせを確認 σ 結合、π 結合の成り立ち
第 6 回	小さな分子の計算（1）	電荷の偏りと官能基 分子の表記方法と IUPAC 命名法
第 7 回	小さな分子の計算（2）	制限と非制限 Hartree-Fock 法による結合エネルギーの評価 基底状態と励起状態
第 8 回	振動計算（1）	半経験的分子軌道法や分子力学法 入力のセットアップ 簡単な計算を実施
第 9 回	振動計算（2）	振動モードの可視化 IR 分光と Raman 分光のスペクトルの比較
第 10 回	化学反応（1）	反応エネルギーの見積もり方法 入力データの作り方 反応式の表記
第 11 回	化学反応（2）	遷移状態を確認する方法 Diels-Alder 反応など
第 12 回	密度半関数法	金属を含む計算と密度半関数の欠点
第 13 回	Post Hartree-Fock 法	より高精度な計算法
第 14 回	まとめ	残存の計算を進める レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】レポート提出。

【テキスト（教科書）】
使用せず。

【参考書】
(1)　J. B. Foresman and AE Frish 著、“Exploring Chemistry with Electronic Structure Mathods”Third Ed.、Gausssian, Inc
日本語翻訳版、川内 進 訳、“電子構造論による化学の探求” 第３版、ガウシアン社

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（100%）
授業出席を前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
内容を精選する。

【学生が準備すべき機器他】
使用するソフトウェアは、PC 教室の環境を利用する予定なので学生が用意する必要はありませんが、レポートの作成には各自の PC を使うこと。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。

【Outline (in English)】
（Learning Objectives）
Now a days ‘Simulation’ is a common word for the method to calculate and predict the state of an real object based on a mathematical model obtained by observation without using the real materials.
The purpose of this class is as follows, we will focus on the microscopic world and deepen our understanding of the chemical bond theory and the spectroscopy by visualizing molecular orbitals and calculating vibrational states using the Molecular Orbital simulation package Gaussian and its GUI GaussView.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided based on reports.

COT300XG

メディアインタラクション

鈴木　郁

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機上に表現された知識・知能とユーザとのインタラクションについて学ぶ．具体的には，インタフェースに用いられる技術や，人間－計算機インタラクションの基本となる原理や原則を学ぶとともに，それが人間にどのように認知され，どのように人間が反応するのかについて学ぶ．

【到達目標】

ハードウェアとソフトウェア，そしてそれらを作る人と使う人．このような構図ではなく，常にユーザーの側に立ったインターフェースを作れるようになるための基礎を，修得できるであろう．講義中では認知などにも触れることから，それについて学ぶ機会にもなるであろう．これらを学び習得することが，目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の到達目標及びテーマに沿って，授業計画に示したようにすすめる．講義形式ではあるが，質問には積極的に答えてほしい．（講義中では数多くの写真等を呈示し，それをもとに思考することを促すべく質問をしており，それはある種のアクティブラーニングとなっている．）なお，進捗状況に応じて多少内容が変わる可能性がある．

各回の授業計画に変更があれば，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間－機械系としてのコンピューター	多くのコンピューターは，人間－機械系の一種として用いられており，インターフェースを介して人間とインタラクションしている，ということについて．
第 2 回	人間－機械系におけるインターフェース ―基礎―	コンピューターに備えられた人間との間のインターフェースについて述べる前に，一般的な人間－機械系におけるインタフェースの基礎について．
第 3 回	人間－機械系におけるインタフェース ―応用―	一般的な人間－機械系におけるインタフェースの，応用的な例について．
第 4 回	正しい操作を導くもの	コンピューター関連であるか否かを問わず，正しい操作は何によって導かれるのかについて．
第 5 回	ステレオタイプ，類似と比喩	ステレオタイプ，類似や比喩の活用について．
第 6 回	人間－コンピューターインタフェースとメディア― 視覚的に呈示する媒体を中心に―	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて情報呈示に用いられる，映像・音声などのメディアのうち，主に視覚を介するものについて．
第 7 回	人間－コンピューターインタフェースとメディア ―聴覚的に呈示する媒体などを中心に―	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて情報呈示に用いられる，映像・音声などのメディアのうち，聴覚など（視覚以外）を介するものについて．
第 8 回	人間との間の入出力機器 ―分類と用途―	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて用いられる，映像・音声などの入出力機器の分類と，望ましい用途について．
第 9 回	人間との間の入出力機器 ―構造概要―	人間とコンピューターの間のインターフェースにおいて用いられる，映像・音声などの入出力機器の構造概要について．
第 10 回	人間との間の入出力機器 ―音声入出力などを用いた例―	近年増してきた音声入出力についての，実装例など．
第 11 回	人間の特性 ―誤操作への配慮―	誤操作を生まないための配慮，誤操作が生じた場合への配慮について．
第 12 回	人間の特性 ―肉体的・精神的負担への配慮―	人間に過剰な負担を生じさせないための，配慮について．
第 13 回	操作の手続き ―手続きをどう表現し整理するか―	手続きをどう表現し，それを整理してユーザに理解可能とするのかについて．
第 14 回	自動化と役割分担	どこまでを自動化するのか，人間とコンピューターとの望ましい役割分担について．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】　講義中に適宜，次回講義までに自ら調べるように指示することがある．講義の理解を深めるべく，予習あるいは復習のつもりで行ってほしい．

【テキスト（教科書）】

特に指定しない．

【参考書】

講義の中で必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】

主に定期試験の得点によるが，平常点も加える．全体を１００％とした時のおよその内訳は，試験得点が９５％，平常点が５％である．但し上記の平常点の他に，授業中の質疑応答により加点することがある．なお，重要な内容を扱う可能性があるので，履修予定者は初回から出席すること．

補足．オンラインでの授業の比重が大きくなった場合には，成績評価の方法と基準も変更する可能性がある．変更となった場合の具体的な方法と基準は，学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートにおいては，「理解しやすかった」等の声があったが，予習や復習に費やした時間は短い傾向が見られた．また，講義への積極的参加を促すための問いかけについての，提案もあった．これらを参考にすると同時に，今後も有効なフィードバックについては，適宜反映していきたい．

【その他の重要事項】

この科目は，「実務経験のある教員による授業」に該当している．講義担当者はソフトウェア開発の職に就いていたことがあり，ユーザーインターフェースに該当する部分にも携わっていた．「間違いのない操作を促すインターフェース」など，ソフトウェア開発の経験を活かした講義を行う．

全て対面での実施を予定しているが，コロナ禍の状況如何では変更の可能性あり．

【Outline (in English)】

The main content of this class is related to interactions between computers and human. It includes interface technique used for the interactions, basic principles to design the interactions, etc.

Students will be expected to do their own investigation according to instructions given in the class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.

Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

PLN300XG

宇宙科学計測

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観測の手段とその成果を概観し、銀河宇宙における様々な現象の規模、メカニズム等について説明する。それらの解釈に最も重要なのは、天体までの距離測定であり、これはまた天文観測そのものでもある。この理解を通して恒星や銀河の性質や宇宙の構造にせまる。

【到達目標】
宇宙からは、ガンマ線から電波まであらゆる波長の電磁波が地球に飛来する。それら電磁波が銀河や宇宙全体のどのような情報を運び、それをどう計測し、どう解釈するかを学ぶ。その成果を通して宇宙現象の理解につなげる。本講義の到達目標は、観測事実を通じて、恒星や銀河の性質および宇宙の構造について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業内学習（内容の説明、グループディスカッション、質疑応答、演習、確認テストとそのフィードバック）と授業外学習（予習・復習）を連動させて授業を進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。
2	天体観測の基礎 1	天文観測の最前線。
3	天体観測の基礎 2	天体の座標、天体までの距離。
4	恒星 1	色、スペクトル型、HR 図。
5	恒星 2	恒星の進化、恒星系の進化。
6	銀河系 1	銀河系構造の概観、円盤部の構造、楕円体部の構造。
7	銀河系 2	銀河系のダークマター、X 線による銀河系、電波で見た銀河系中心。
8	銀河系 3	矮小銀河と銀河形成の描像。
9	銀河系 4	化学進化の基礎、銀河の化学進化。
10	銀河 1	銀河とは何か、銀河の力学。
11	銀河 2	星生成活動と銀河進化モデル、AGN、X 線による観測、電波でみた銀河。
12	銀河団	多波長で見る銀河団、銀河間ガス、銀河団の質量、重元素汚染、遠方銀河団。
13	銀河の観測と宇宙論 1	距離はしご、銀河の空間分布。
14	銀河の観測と宇宙論 2	宇宙論パラメータと銀河の進化、電波で探る銀河形成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。
各授業前：教科書や資料を使って該当回の内容について予習する（目安 2 時間）。
各授業後：授業で学習した内容を復習し、確認テストで理解度をチェックする（目安 2 時間）。

【テキスト（教科書）】
・岡村定矩 (編)、「天文学への招待」朝倉書店、2001 年

【参考書】
・岡村定矩 (著)、「銀河系と銀河宇宙」、東京大学出版会、1999 年
・千葉柾司 (著)、「銀河考古学（新天文学ライブラリー第 2 巻）」、日本評論社、2015 年
・家正則他 (編)、「宇宙の観測 I －光・赤外線天文学（シリーズ現代の天文学 15 巻）」、日本評論社、2007 年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（80%）、学習意欲態度（20%）

【学生の意見等からの気づき】
・授業内容を焦点化し、最低限必要な知識が確実に身につくような仕組みにする。
・対面での学習意欲態度の評価観点を導入し、対面授業の学習効果を上げる。

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The means of observation and their results will be reviewed, and the scale, mechanisms, etc. of various phenomena in the galactic universe will be explained. The most important factor in their interpretation is the measurement of the distance to the objects, which is also the astronomical observation itself. Through this understanding, the goal of this course is to understand the nature of stars and galaxies and the structure of the universe. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

MAT300XG

データ発見と仮想天文台

田中　幹人

開講時期：**秋学期授業**/Fall

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
天文学は、データのオープン化が進んだ学問である。最先端の望遠鏡で観測された天文アーカイブデータはインターネット上で公開されているので、それらのデータをダウンロードすれば、誰でも最先端の天文学研究を始めることができる。本講義では、Python を用いた天文アーカイブデータの実践的なデータ分析を通じて、恒星や銀河の性質および宇宙の構造について理解を深める。

【到達目標】
・天文アーカイブデータの分析を通じて、恒星・銀河の性質および宇宙の構造について理解を深める。
・Python を使ってデータ分析の簡易的なコードを書くことができる。
・統計分析と誤差解析の手法を天文観測データに対して適用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容と課題は事前に YouTube でオンデマンド配信する。授業時間中はフィードバックを中心とし、質疑応答と課題提出の時間を設け、時間外学習と講義を連動させて進める。ただし必要に応じて、オンライン授業も併用する。なお、貸与 PC の使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。
2	Python1	Markdown、グラフの描画、数学関数、二次元ヒストグラムの練習。
3	Python2	初等統計量、相関係数、最小二乗法の復習。for 文と if 文の練習。
4	スカイサーベイ	アーカイブ天文学の歴史と SDSS、2MASS、HSC などの各種スカイサーベイ。
5	三色合成	天体写真の色の付け方。
6	恒星の色	等級、色、温度、熱的放射曲線、2 色図。
7	恒星のスペクトル 1	スペクトル型、吸収線と輝線。
8	恒星のスペクトル 2	化学組成と化学進化。
9	恒星の HR 図 1	散開星団の HR 図、位置天文衛星、視差角と距離。
10	恒星の HR 図 2	球状星団の HR 図。
11	ハッブル図 1	簡単なハッブル図、銀河までの距離を見積もる。
12	ハッブル図 2	赤方偏移、銀河の観測による宇宙膨張。
13	銀河 1	銀河の形態分類、ハッブルの音叉図。
14	銀河 2	楕円銀河と渦巻銀河の区別、銀河の進化。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。講義内容と課題は事前に YouTube で配信し、授業内ではポイントの解説、課題に関する質疑応答、そして課題の提出を行うので、講義前の予習が必須である。

【テキスト（教科書）】
・SDSS スカイサーバー（http://skyserver.sdss.org/edr/jp/）

【参考書】
・市川隆・田中幹人 (著)、「天体画像の誤差と統計解析 (クロスセクショナル統計シリーズ)」、共立出版、2018 年
・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000 年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（50%）、毎週の課題（40%）、学習意欲態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】
・天文学の知識習得と Python を用いたデータ解析の実習が効果的に連動するような授業構成を心がける。
・対面での学習意欲態度の評価観点を導入し、対面授業の学習効果を上げる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC。

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students understand fundamental properties of stars and galaxies by analyzing astronomical archival data. The goal of this course is to apply statistical analytics to astronomical archival data using Python by oneself. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (50%), assignments (40%) and in-class contribution (10%).

BSP100XG

科学実験リテラシー

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学実験の基礎となっている考え方（統計学）とデータ処理の技法（Excel の使い方）およびレポートの書き方を学ぶ。

【到達目標】
1 年生秋学期から始まる創生科学基礎実験 I、および 2 年生の創生科学基礎実験 II、III で必要となる誤差、有効数字、正規分布などの基礎概念、Excel を使ったグラフの書き方・読み方、データ整約の技法、およびそれらの基礎となっている統計概念を理解する。またレポートの書き方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義内容は事前に YouTube でオンデマンド配信される。授業時間中では、グループディスカッション、質疑応答そしてフィードバックの時間を設け、確認テストで学習成果をチェックする。なお、貸与 PC の使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構えなど。貸与パソコンと Excel の初期設定。Hoppii に登録。
2	初等統計学	Excel を使った基本統計量の計算。母集団と標本、平均と分散と標準偏差、中央値、最頻値、など。
3	散布図の描き方	Excel を使った 1 変量の散布図の描き方。グラフの体裁、線形目盛と対数目盛。
4	相関係数	Excel を使った 2 変量の散布図の描き方。様々な相関係数の算出。
5	回帰分析	最小二乗法の原理と計算法、Excel の回帰分析表の見方。
6	ヒストグラムと正規分布〜前編〜	ヒストグラムと分布、極限分布、正規分布（ガウス分布）。Excel を使って、ヒストグラムを描く。Excel を使って、ヒストグラムに正規分布を重ねる。
7	実験レポートにおける誤差評価の使い方	測定値の表現（最良推定値と誤差範囲）、有効数字、相対誤差、誤差伝播入門。
8	誤差の伝播	和と差、商と積、べき乗、任意の 1 変数関数、誤差の逐次伝播、誤差伝播の一般式。
9	ランダム誤差の統計的取扱い	ランダム誤差、系統誤差、標準誤差。
10	ヒストグラムと正規分布〜後編〜	68%信頼限界としての標準偏差、最良推定値として平均値を選んで良い理由、二乗和を使うことの根拠、平均値の標準偏差、測定値の受容可能性。
11	大数の法則と中心極限定理	Excel の乱数を使ったシミュレーションを通じて、大数の法則と中心極限定理を理解する。
12	レポートの書き方	Word の使い方（基本操作と数式の書き方）とレポートの書き方。
13	演習 1	Excel を使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方。
14	演習 2	Excel を使った統計解析、誤差解析、レポートの書き方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。講義内容は事前に YouTube で配信されるので、各自自主的に予習を行ってから授業に参加することが必須である。また、理解できない箇所については授業内外で積極的に教員や TA に質問すること。

【テキスト（教科書）】
・J.R.Taylor(著)、「計測における誤差解析入門」、東京化学同人、2000 年

【参考書】
・東京大学教養学部統計学教室 (編)、「統計学入門 (基礎統計学)」、東京大学出版会、1991 年
・岡村・三浦・玉井・伊藤 (編)、「理系ジェネラリストへの手引き」、日本評論社、2015 年
・Excel の使い方については、インターネットで調べればたくさん出てくるので特に参考書を指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80%）、授業内課題と小テスト（15%）、学習意欲態度（5%）

【学生の意見等からの気づき】
創生科学基礎実験 I・II・III につながるような授業構成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコン。

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students practically learn the concepts underlying scientific experiments (statistics) and data processing techniques (how to use Excel) and how to write reports. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), assignments and mini tests (15%), and in-class contribution (5%).

ELC200XG

電気電子回路の基礎

鈴木　郁

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
創生科学科で扱われる内容は幅広いが，物理学の素養が求められるケースも多く，そこには多くの学生にとって馴染みが少ない，電子回路も含まれている．大学入学以前から物理関連の科目を履修してきた学生にとってさえ，電気回路，特に電子回路は馴染みが薄い場合が多いが，当科目はそれらについての理解を促すことを目的としている．

【到達目標】
電気回路について復習しつつ，主にアナログの電子回路について，その基礎を理解することを目標とする．仮に講義で扱われる全てを理解したならば，例えばトランジスタを用いた簡単な回路であれば設計も可能であろうし，オペアンプを用いた複雑な回路についても，それを理解するための手掛かりを完全にではなくとも自ら見つけ出すことが可能であろう．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の到達目標及びテーマに沿って，授業計画に示したようにすすめる．講義形式ではあるが，講義形式ではあるが，頻繁に質問を投げかけ，また質問を受け付ける形で学生の持つ疑問へのフィードバックを行っている．質問には積極的に答えてほしい．（ある種のアクティブラーニングでもある．） なお，進捗状況に応じて多少内容が変わる可能性がある．
各回の授業計画に変更があれば，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	線形素子と非線形素子	電圧と電流の関係が非線形な素子の例として，ダイオードとトランジスタを取り上げ，その非線形特性などについて説明する．
2 回目	回路図	回路図の読み方や書き方，簡単な回路の配線法を紹介する．
3 回目	ダイオードとトランジスタ	ダイオードやトランジスタを含む半導体の，原理や特性について解説する．
4 回目	トランジスタを用いた増幅回路	トランジスタを用いて，わずかな電流で LED を ON ／ OFF（スイッチ）できる回路，ならびにマイクロホンからの微小な音声信号を増幅して十分な音量でイヤホンを駆動するための回路について，解説する．
5 回目	音声信号のための増幅回路	トランジスタを用いた音声信号増幅回路は，スイッチング回路よりも考慮すべき点が多く理解が難しい可能性がある．そこで音声増幅回路について説明する．
6 回目	増幅回路の特性	増幅回路の，正しく出力可能な電圧の範囲，出力可能な周波数の範囲，といった特性について説明する．とりわけ，周波数特性（ゲイン特性）の考え方について詳説する．
7 回目	ゲインと位相	増幅回路などの系の特性は，ボード線図であらわされることが多い．ボード線図はゲインと位相の特性を示したものであるが，難しいと思われる位相（位相差）の概念や測定方法などについて解説する．
8 回目	RC フィルタと LR フィルタ	受動（パッシブ）な素子のみを用いた RC フィルタ（抵抗とコンデンサを用いたフィルタ）ならびに LR フィルタ（コイルと抵抗を用いたフィルタ）について，その動作原理や特性を紹介する．あわせて，コイルとコンデンサの組み合わせで構成される共振回路についても，説明する．
9 回目	オペアンプ	オペアンプ（演算増幅器）と呼ばれる集積回路を用いると、広い周波数範囲で高い増幅率を持った増幅回路を比較的容易に作成できる．そこでオペアンプを使う上での基礎的概念について，解説する．
10 回目	非反転増幅回路	オペアンプの基本的な使い方の一つである非反転増幅回路（バッファを含む）について，説明する．
11 回	反転増幅回路と反転加算回路	加算回路，微分回路などの基ともなる，反転増幅回路について説明する．あわせて，反転増幅の応用である反転加算回路についても解説する．
12 回	微分回路と積分回路 ― 電気回路における微積分とは―	電気・電子回路における微分や積分とは何であるのか，またオペアンプを用いた反転増幅の応用である微分回路や積分回路について，説明する．
13 回	微分回路と積分回路 ― 微分回路の実際―	微分回路について，理想のゲインや位相の特性，実現可能なゲインや位相の特性などを含め，解説する．
14 回	微分回路と積分回路 ― 積分回路の実際―	積分回路について，理想のゲインや位相の特性，実現可能なゲインや位相の特性などを含め，解説する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】　講義中に適宜，次回講義までに自ら調べるように指示することがある．講義の理解を深めるべく，予習あるいは復習のつもりで行ってほしい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．

【参考書】
秋田純一：ゼロから学ぶ電子回路，講談社．他には特に指定しないが，適切なものがあれば適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
主に定期試験の得点によるが，平常点も加える．全体を１００％とした時のおよその内訳は，試験得点が９５％，平常点が５％である．但し上記の平常点の他に，授業中の質疑応答により加点することがある．
補足．オンラインでの授業の比重が大きくなった場合には，成績評価の方法と基準も変更する可能性がある．変更となった場合の具体的な方法と基準は，学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】
初学者が多いため内容が過多である可能性が以前，示唆された．そこで実験内容との対応は若干薄くなるが，その前年よりも３割程度，内容を削減することとした．そして今後も有効なフィードバックについては適宜取り入れていきたい．

【その他の重要事項】
この科目は，“創生科学基礎実験 III” の事実上の前提科目（あらかじめ履修しておくべき科目）である．一方でこのことは，当該実験科目の履修者以外による履修を妨げるものではない．なお，履修予定であれば初回から出席すること．
この科目は，「実務経験のある教員による授業」に該当している．講義担当者はマイクロプロセッサーまわりなどの電子回路の設計を伴う仕事をしていた経験があることから，その経験を活かした授業を行う．
全て対面での実施を予定しているが，コロナ禍の状況如何では変更の可能性あり．

【Outline (in English)】
The title of this class is "Basics of Electrical and Electronic Circuits." And its objective is to get familiar with those circuits, which include ones made with transistors, operational amplifiers, etc.
Students will be expected to do their own research to resolve their unclear points. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 95%, Usual performance: 5%.
Besides the above, some additional points may be added according to in-class contributions.

MAT300XG

数理モデルと統計

田中　幹人

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
天文学から心理学やマーケティングまであらゆる分野において、量的データから現象を解釈するためにしばしば統計モデルが導入される。1,2 年次に学習してきた統計分析の手法は、暗黙の了解として正規分布を仮定した分析手法である。ところが、現実世界は正規分布のような綺麗なモデルで表現されないことの方が多い。本講義では、現実世界をより自由に表現できる統計モデリングについて学習し、Python を使った統計モデリングの実装について実践的な演習を行う。

【到達目標】
・一般化線形モデルについて理解する。
・ベイズモデルについて理解する。
・Python を使って実データに対して統計モデリングを実装できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Python を使って、実データに統計モデリングを実装する。できるだけ多くの例から現実の問題に対する対応能力を学ぶ。定期的に課題を出題し、授業内でフィードバックする。オンデマンド教材を用意し、時間外学習と講義を連動させて進める。必要に応じて、オンライン授業も併用する。なお、貸与 PC の使用を前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、学習内容、評価方法、心構え。 データを理解するために統計モデルを作る。
2	Python1	matplotlib を使ったグラフの描画。 pandas を使ったデータフレームの取扱い。
3	Python2	numpy を使った統計分析の練習。for 文と if 文の練習。
4	確率分布と統計モデルの最尤推定 1	正規分布、ポアソン分布、二項分布などの確率分布。乱数。
5	確率分布と統計モデルの最尤推定 2	最尤推定の原理と実践。
6	一般化線形モデル 1	一般化線形モデル（GLM）-ポアソン回帰-
7	一般化線形モデル 2	GLM のモデル選択-AIC とモデルの予測の良さ-
8	一般化線形モデル 3	GLM の尤度比検定と検定の非対称性
9	一般化線形モデル 4	GLM の応用範囲をひろげる-ロジスティック回帰など-
10	一般化線形モデル 5	一般化線形混合モデル（GLMM）-個体差のモデリング-
11	ベイズモデル 1	マルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法とベイズ統計モデル
12	ベイズモデル 2	GLM のベイズモデル化と事後分布の推定
13	ベイズモデル 3	階層ベイズモデル-GLMM のベイズモデル化-
14	ベイズモデル 4	空間構造のある階層ベイズモデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする。教科書・演習問題の予習・復習、授業内で示される課題対応など、各自が自主的に授業の準備・復習を行う必要がある。

【テキスト（教科書）】
・久保拓弥 (著)、「データ解析のための統計モデリング入門 (確率と情報の科学)」、岩波書店、2012 年

【参考書】
・市川隆・田中幹人 (著)、「天体画像の誤差と統計解析 (クロスセクショナル統計シリーズ)」、共立出版、2018 年

【成績評価の方法と基準】
レポートと課題（90%）、学習意欲態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】
・対面での学習意欲態度の評価観点を導入し、対面授業の学習効果を上げる。

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC。

【その他の重要事項】
国立大学で天文学の基礎研究に携わってきた教員が、当該分野の基礎概念について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students practically learn statistical modelings using Python. The goal of this course is to apply statistical modelings such as Generalized linear mixed models and Bayesian hierarchical models to students's own data using Python by oneself. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process reports and assignments (90%) and in-class contribution (10%) .

COT111KA-CS-200

コンピュータシステム入門２

小池　崇文

必選区分：　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**　｜　開講時期：**秋学期授業/Fall**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ.

【到達目標】
OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに，ウェブ，音声，画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】
まず，実際の OS の例を見ながら，OS の役割の概要を理解する．また，多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める．さらに，インターネット，ウェブ，クラウド等，現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ．また，情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する．授業で課した課題 (小テストやレポート) 等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに，ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する.
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する.
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する.
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う.
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する.
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う.
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する.
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する枠組みを理解する.
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する.
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する.
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する.
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する.
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する.
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングや IoT の概念と技術を理解する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容を復習する．講義内で出される課題を解き，レポートを作成する.
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，各週につき 4 時間を標準とする.

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する.

【参考書】
入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS 協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】
定期試験（80%），および，レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価.

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
演習では貸与ノート PC を利用する.

【その他の重要事項】
本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う.

【Outline (in English)】
You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

PRI210KA-CS-251

最適化

佐藤　裕二

必選区分：　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 2 単位**　｜　開講時期：**秋学期授業/Fall**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】
最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に，制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。
授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法１	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法２	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします
２．授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】
配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】
金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】
This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.
The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.
Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI210KA-CS-151

形式言語とオートマトン

藤田　悟

必選区分：　|　配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位　|　開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・オートマトンとは何か理解する
・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】
オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、
1）有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
2）文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】
この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。
なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題 (小テストやレポート) 等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン（2）	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン（3）	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現
第 6 回	非決定性有限オートマトン (2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形
第 7 回	中間試験	有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第 8 回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第 9 回	チューリングマシン (1)	1. 決定性チューリングマシン
第 10 回	チューリングマシン (2)	1. 非決定性チューリングマシン
第 11 回	文法 (1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第 12 回	文法 (2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4.2 分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第 13 回	文法 (3)	1. 文法演習
第 14 回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 − 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。
本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】
J. ホップクロフト他著「オートマトン　言語理論　計算論 I」サイエンス社
富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】
授業内諸テスト、課題で 40 %。期末試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】
演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】
本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline (in English)】
This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.
The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to
1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars
Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.
Students will be studying four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

COT311KA-CS-202e

プログラミング演習 2(C/C++)

小池　崇文

必選区分：　|　配当年次／単位：**3〜4 年次／ 2 単位**　|　開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
C/C++を活用できるように，大きく 2 つのテーマについてプログラミング演習を行う．まず，実際のデータ処理としてクラスタリングを題材にする．続いて，コンピュータを自在に制御するのに必要なシェルを題材にする．
学生は，本演習を通して，実データを扱うための技術とコンピュータを適切に制御する技術の習得を学ぶ．

【到達目標】
クラスタリングにおける階層的手法と分割的手法について，そのアルゴリズムと適用法の違いを理解し，プログラミングで実装できる．また，シェルの仕組みを理解して，簡単なシェルであれば実装できる．C 言語におけるデータ型，演算子，式，制御の流れ，関数，ポインタと配列，構造体，入出力などの理解が深まり，規模も大きく複雑なプログラミングに耐えうる実践的スキルを獲得できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
2 次元点集合のクラスタリングを題材とし，階層的および分割的クラスタリング手法の様々なアルゴリズムを順に学び，C 言語プログラミングにより実装していく．また，簡単なシェルを実装する．その過程で，C 言語の理解を深め，実践的プログラミングスキルを獲得する．原則として，週単位で小課題が出され，授業時間外に取り組む．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	Linux 上の C 言語プログラミング開発環境の設定，クラスタリングの対象となる 2 次元点集合の生成
第 2 回	階層的クラスタリング (1)	Single linkage 法の理解と実装
第 3 回	階層的クラスタリング (2)	Complete linkage 法の理解と実装
第 4 回	階層的クラスタリング (3)	Group average 法の理解と実装
第 5 回	階層的クラスタリング (4)	重心法の理解と実装
第 6 回	分割的クラスタリング (1)	k-means 法の理解と実装
第 7 回	分割的クラスタリング (2)	Multi-start 探索法の理解と実装
第 8 回	シェルの実装 (1)	シェル
第 9 回	シェルの実装 (2)	システムコール
第 10 回	シェルの実装 (3)	プロセス
第 11 回	シェルの実装 (4)	字句・構文解析
第 12 回	シェルの実装 (5)	シェルの実装
第 13 回	最終課題 (1)	最終課題レポートの作成
第 14 回	最終課題 (2)	最終課題レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
[1] C 言語の復習
[2] データ構造とアルゴリズムの復習
[3] 週単位の小課題および最終課題への取り組み
[4] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて教員が電子的に配布する．

【参考書】
[1] カーニハン，リッチー著：「プログラミング言語 C」，第 2 版，共立出版，1989 年．
[2] 柴田望洋著：「新・明解 C 言語 入門編」，ソフトバンククリエイティブ，2014 年．

【成績評価の方法と基準】
小課題 50%，最終課題レポート 50%で総合評価する．

【学生の意見等からの気づき】
資料を従事する．

【その他の重要事項】
本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要なプログラミングに関する講義を行う．

【Outline (in English)】
In order to make use of C/C++, programming exercises will be given on two major topics. First, clustering will be used as a subject for actual data processing. Secondly, we will discuss shells, which are necessary to control a computer freely. Through these exercises, students will learn the skills to handle real data and to control computers appropriately.
The goal of this course is to understand the differences in algorithms and applications of hierarchical and partitioned clustering methods to be able to implement them and to understand the mechanism of shells, and be able to implement simple shells.
Students will be expected to spend four hours to implement exercises.
Grading will be decided based on small assignments (50%) and the final report (50%).

HUI312KA-CS-321

新ネットワーク理論

廣津　登志夫

必選区分：　|　配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位　|　開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではネットワーク科学と呼ばれる情報科学の分野としては比較的新しいテーマを取り扱う。現在の科学技術の多くの部分は 19 世紀から 20 世紀にかけて還元要素法に基づいて築き上げられてきた学問に基づくが、ネットワーク科学では離散構造（離散数学）で学ぶグラフに対して複雑系という概念を導入し、これまでは解明が難しかった自然現象や生命現象を新たなアプローチで解き明かそうとするものである。具体的には、それぞれの動作は単純だが、それらが集団となって行動するときに創発的な複雑な振舞いを見せるような系について、新たな科学での方法論について学ぶ。

【到達目標】
複雑系は比較的新しい学問分野であり、単純な動きをする多数のエージェントによる少ない資源をめぐる競争において、フィードバックにより相互に影響を及ぼし合いながら形成される複雑な系（ネットワーク）としてシステムを捉える。複雑系の中にどのような普遍性があるのかを理解することを一つの目標とする。さらに発展的な目標として、現実あるいは仮想的な世界にどのように応用できるかについても考える力をつけることが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はニール・ジョンソンの「複雑で単純な世界」とバラバシの「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」を用いて複雑系に見られる事象や基礎的な概念を理解する。講義が中心とするが、複雑系に関するトピックを NetLogo を用いたマルチエージェントプログラムにより実現することで、理解を深める。
最新の科学技術に関する話を聞き、補足的な情報を自分で調べ、全体的な理解を深めることが求められるため、話からノートを作成し自分で資料化する力をつけること。一部講義はオンデマンドを併用する場合もあるが、これについては講義中に個別に指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	複雑な要素・複雑な現象	1. 複雑性の意味 2. 創発現象の予測 3. 複雑性だらけの毎日 4. 八つの条件
第 2 週	NetLogo 紹介	1. NetLogo とは？ 2. NetLogo の世界 3. NetLogo の GUI 4. NetLogo プログラミング
第 3 週	秩序ポケットの出現	1. 秩序と無秩序の間 2. 情報のフィードバック 3. 宇宙と乱雑さ 4. 乱雑さと偏り
第 4 週	カオスとフラクタル	1. 複雑系のダイナミクス 2. 時系列の規則性とランダムネス 3. 複雑系のモデル化
第 5 週	群衆の行動の予測	1.「二者択一」問題 2. 週末の夜の過ごし方 3. 意思決定の科学 4. 群集と反群集
第 6 週	金融市場の動向の予測	1. 金融市場とフィードバック 2. 標準モデルの限界 3. 株式市場の類似挙動 4. 暴落の分類学 5. 予測可能ポケット
第 7 週	複雑性とネットワーク	1. 動的ネットワーク 2. ネットワークの生態学 3. 栄養取り回しモデル 4. 不変な構造 5. 公平さと効率のバランス
第 8 週	最適ネットワーク	1. ルート選びのジレンマ 2. 輸送・供給・経営・人体 3. 渋滞税による制御 4. スーパーハブ 5. ハブの適正限界
第 9 週	六次の隔たり	1. 六次の隔たり 2. ミルグラムの実験 3. 社会的ネットワークの大きさ
第 10 週	弱い絆の強さ	1. 強い絆と弱い絆 2. 弱い絆の強さ 3. ランダムネットワーク
第 11 週	ネットワーク構造	1. 構造の定量化 2. クラスタリング係数 3. エルディッシュ数 4. ワッツ=ストロガッツのモデル
第 12 週	スケールフリーネットワーク	1. ハブとコネクター 2. 80 対 20 の法則 3. べき乗則 4. スケールフリー性
第 13 週	無秩序と秩序の相転移	1. 相転移 2. 自己組織化 3. 成長するネットワーク 4. 優先的選択 5. 適応度モデル
第 14 週	感染症とネットワーク科学	1. 感染とネットワーク構造 2. コミュニティの相互作用 3. 感染症流行解析 4. 癌成長のモデル化と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。
講義後に配布する講義資料を元に、講義中にとったノートとその内容の双方を確認し、補足的な調査を行う、という基本的な理解の手順を復習として行うこと。
課題やレポートが出たものについては必ず〆切までに提出すること。

【テキスト（教科書）】
講義内容はスライドで提示し、講義を進めるので各自でノートを取る
講義後にスライドを元にした参考資料を CIS Moodle から提供する

【参考書】
以下の参考文献は講義初回でも紹介する
「複雑で単純な世界」 ニール・ジョンソン (著), 阪本 芳久 (翻訳)
「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」 アルバート・ラズロ・バラバシ (著), 青木 薫 (翻訳)
Wilensky, Uri; Rand, William. An Introduction to Agent-Based Modeling: Modeling Natural, Social, and Engineered Complex Systems with NetLogo (MIT Press)
「ガイドツアー　複雑系の世界」メラニー・ミッチェル
「つながり　社会的ネットワークの驚くべき力」ニコラス・A・クリスタキス／著　ジェイムズ・H・ファウラー／著　鬼澤忍／訳

「スモールワールド・ネットワーク 世界を知るための新科学的思考法」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 辻 竜平 (翻訳), 友知 政樹 (翻訳)
「スモールワールド ネットワークの構造とダイナミクス」 ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 栗原 聡 (翻訳), 福田 健介 (翻訳), 佐藤 進也 (翻訳)
「複雑な世界，単純な法則　ネットワーク科学の最前線」マーク・ブキャナン，阪本 芳久
「複雑ネットワークの科学」 増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)
「複雑ネットワークとは何か複雑な関係を読み解く新しいアプローチ」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)
「SYNC」スティーヴン・ストロガッツ

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 80%, 課題レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 20%の配分で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
貸与 Note PC を使用する場合が゛ある。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【その他の重要事項】
本講義で取り扱うのはグラフに基づく理論的なネットワークで、インターネットやイントラネットなどの実際に稼働しているネットワークの制御・運用等の技術に触れるものではないので、科目選択においては注意すること。
本講義は担当教員の企業での情報科学・ネットワーク科学に関する研究・開発の経験を元に複雑系やネットワーク科学に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course introduces a knowledge and technologies related network science. Network science is a new research area based on the graph theory, that is used to express the problems of complex systems. Students are expected to expand their knowledge and to understand new area of the computer science topics during this lecture.
[Learning Objectives]
Students expected to understand the basic concepts of complex systems and universality found in it.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to spend four hours to understand the contents of that week's contents.
[Grading Criteria /Policy]
Final grade will be calculated according to the following process; final exam (80%), and report and in-class contribution (20%).

COT211KA-CS-241

データベース

日高　宗一郎

必選区分：　|　配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位　|　開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】
現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】
大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の予習・復習。
課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
データベース入門 [第 2 版]
増永良文著
サイエンス社
(2021)

【参考書】
増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)
増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)
IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)
その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】
演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】
This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.
By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.
Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.
After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.
Students will be studying four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221

人工知能

藤田　悟

必選区分：　|　配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位　|　開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。
人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。
計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】
人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。
例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に着けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用 AI・特化型 AI 等についての知識を学びます。
第 2 回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第 3 回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第 4 回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第 5 回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。 さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や α β 枝刈り法などについて学びます。
第 6 回	確率とベイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やベイズの定理を学びます。 さらに、状態の確率的遷移もでるである確率システムについて学びます。
第 7 回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第 8 回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q 学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第 9 回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第 10 回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第 11 回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第 12 回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第 13 回	命題論理、述語論理	命題論値や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第 14 回	まとめ	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。
教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だでけなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】
イラストで学ぶ人工知能概論　改訂第 2 版
谷口忠大
講談社, 2020 年

【参考書】
エージェントアプローチ　人工知能　第 2 版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】
中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器使用 (任意項目)
ネットワークを利用
演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】
本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students learn the basic knowledge of artificial intelligence.
Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.
[Learning objective]
Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence neccessary for students who learn science.
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.
[Grading criteria / policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following
interim examination (40%)
final examination (60%)
We may give additional points for questions at class and homework.

FRI213KA-CS-153

CG のための幾何学

小池　崇文

必選区分：　｜　配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位　｜　開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータグラフィックスを始めとする VR や AI 等の様々な情報科学分野で必要な幾何学の基礎について講義する．ユークリッド幾何学に始まり，平面幾何学，空間幾何学，曲面．さらに入門的な射影幾何学について講義を行う．様々な幾何の表現や処理を学ぶことで，幾何学的に考える方法を学習し，それらをコンピュータプログラムとして表現・処理できるようになることが本授業の目的である．

【到達目標】
コンピュータグラフィックス分野で出てくる数学，特に幾何学を理解し，実際に使えるための学力を習得することを目標とする．例えば，空間上の平面等の図形を複数の表現で取り扱い処理できるようになる．また，様々な幾何学的な問題を解くための応用力を身に付ける．特に，与えられた課題を，幾何学の問題として解釈し，コンピュータプログラムで表現し，処理できるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義，解説と演習を行う．特にコンピュータでの図形の表現や幾何学的な処理を想定した知識や技術を身に付けることに重点を置く．提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび導入，講義概要説明，幾何学の基礎の復習	ガイダンスを行った後に，幾何学の基礎について復習を中心に講義する．
2	ユークリッド幾何学	ユークリッド幾何学の復習を行う．
3	平面幾何学 (1) ベクトル，射影と回転	平面ベクトル，平面上の射影と回転
4	平面幾何学 (2) 直線，座標変換	平面上の直線，平面の座標変換
5	平面幾何学 (3) 直線，平面	平面上の曲線，曲線の曲率
6	空間幾何学 (1) ベクトル	空間ベクトル，空間の射影と回転，空間の直線，空間の平面
7	空間幾何学 (2) 空間の座標変換，移動，回転	空間の座標変換，空間の曲線，曲線の曲率
8	空間幾何学 (3) 立体角	極座標系，空間の立体角
9	平面幾何学，空間幾何学の復習	平面幾何学と空間幾何学についての理解度の確認
10	立体図形: 多面体，合同，相似	様々な立体図形とその諸性質について
11	曲面の幾何学: 曲面の表現，性質	曲面の表現，グラフ表現，局所表現
12	射影幾何学の基礎 (1) 投影の幾何学	投影の幾何学，アフィン変換，射影幾何
13	射影幾何学の基礎 (2) 四辺形の射影変換と応用	四辺形の射影変換，テクスチャマッピング，プロジェクションマッピング
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習，課題への取り組みを行う必要がある．
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，各週につき 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
必要に応じて，授業中に板書や配布を行う．

【参考書】
金谷健一, "形状 CAD と図形の数学", 共立出版, 1998. (ISBN: 978-4320016187)
大田春外, "高校と大学をむすぶ幾何学", 日本評論社, 2010. (ISBN: 978-4535786196)

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題やレポート (50%)，期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
具体例を用いた演習を増やす．

【学生が準備すべき機器他】
授業内に演習を行うため，貸与ノート PC を必要とする．

【その他の重要事項】
本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な幾何学に関する講義を行う．

【Outline (in English)】
This is a course on the fundamentals of geometry necessary for computer sciences including computer graphics. I'll lecture about Euclidean geometry, planar geometry, space geometry, curved surface, and projective geometry. Students will learn how to think about problems geometrically by learning expressions and processing of various geometries.
Students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on exercises (50%) and term-end examination (50%).

COT211KA-CS-205

プログラミング (MATLAB)

伊藤　克亘

必選区分：　|　配当年次／単位：**2〜4 年次／ 4 単位**　|　開講時期：**秋学期授業/Fall**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ディジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようになることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどういう特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「ディジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】
3 年次や卒業研究で、ディジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】
各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。
課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。
最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。
また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理 (音声の時間領域処理)	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ (音声の時間領域処理)	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。
準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】
書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門
著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘
出版社: コロナ社
出版年: 2019

【参考書】
書名: ディジタル・サウンド処理入門
著者名: 青木直史
出版社: CQ 出版社
出版年: 2006
書名: Digital Signal Processing First, Global Edition
著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder
出版社: Prentice Hall
出版年: 2016
書名: はじめての画像処理技術
著者名: 岡崎
出版社: 工業調査会
出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】
定期試験 (50%) および最終課題 (50%) で評価する。ただし、最大 20%程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学 2」を並行して履修することを勧める。
また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2022b (もしくは R2023a) をインストールすること。
http://software.k.hosei.ac.jp/others/
https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf
この授業で必要な Toolbox は、
Image Processing Toolbox
Signal Processing Toolbox
Statistics and Machine Learning Toolbox
である。
本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】
In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.
Final grade will be calculated according to the following process final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

HUI312KA-CS-331

ディジタル信号処理

高村　誠之

必選区分：　|　配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位　|　開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である．ほとんどの情報がディジタル化する時代において，ディジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる．授業では，数学的な基礎やディジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う．

学生は，アナログ信号処理とディジタル信号処理の基本原理が理解できることを目標とし，信号を数学的に取り扱いできるようになることを目指す．また，信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ．

【到達目標】

フーリエ変換，ラプラス変換，z 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し，実際に計算できるようになることを目標とする．また，サンプリング定理，伝達関数，フィルタについて理解し，数学的に取り扱えることを目標とする．さらに，ディジタル信号処理の基本的な処理を Python で実装できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う．必要に応じて，Python や MATLAB を用いたプログラミング演習を行う．提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，信号処理とは	アナログ信号処理とディジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数，複素フーリエ級数，フーリエ変換，フーリエ変換の性質，フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換，ラプラス変換の性質，
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換，連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換，逆 z 変換，z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換，離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う．
8	離散時間システム 1	サンプリング定理，伝達関数，インパルス応答
9	離散時間システム 2	畳み込み，周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法，窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類，フィルタの設計，周波数変換
12	ディジタル IIR フィルタ	インパルス不変
13	FIR フィルタ	FIR フィルタ，窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う．教科書の例題や演習問題を行う．

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は，各週につき 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが，以下の教科書を講義で使用する．

萩原 将文, ディジタル信号処理 第 2 版・新装版, 森北出版, 2020.

【参考書】

1. 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.
2. 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
3. 原島 博，信号解析教科書 -信号とシステム-，コロナ社，2018.

その他の参考書は，必要に応じて講義内で紹介する．

【成績評価の方法と基準】

課題 (授業内演習含む)50%、試験 (期末)50%

【学生の意見等からの気づき】

より理解を深められるような演習、講義内容の実応用事例が想像できるような授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため，貸与ノート PC を必要とする．

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での画像処理応用や画像符号化技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う．プログラミング (MATLAB)，微積分法の応用:フーリエ級数と変換を履修中または，履修済みであることが望ましい．

また，積分法の基礎と応用，複素関数論 1，2，交流回路と電磁波:周波数，過渡応答，ベクトル解析の履修も推奨する．

【Outline (in English)】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, short reports (including in-class drill): 50%

HUI312KA-CS-333

画像処理

花泉　弘

必選区分：　｜　配当年次／単位：3〜4 年次／ 2 単位　｜　開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

【到達目標】
画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせて各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】
単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。必要に応じて授業で課した課題 (小テストやレポート) 等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対して講評する。不明な点や興味を持ったところについては、遠慮なく質問してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション　ディジタル画像の取得 1	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	ディジタル画像の取得 2	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2 値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理	テクスチャと同時生起行列、および領域分割処理手法について
11	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
12	パターン認識	特徴に基づく分類やクラスタリング処理、主成分分析法などについて
13	動画像処理	背景差分法とフレーム間差分法
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
奥富編：ディジタル画像処理 (改訂新版)、㈶画像情報教育振興協会、2015
ISBN 978-4-903474-50-2

【参考書】
教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

【成績評価の方法と基準】
試験の成績 (60%) とレポートの成績 (40%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでみることを勧める。
レポートは各人の言葉で表現し期日を守って提出すること。
本講義では担当教員の 2 次元センサーデータの処理法に関する情報通信研究機構との共同研究の成果の一部を含んでいる。

【Outline (in English)】
Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.
Not only do we know what the processing algorithms for images are, but we also aim to understand the underlying ideas and combine them to build the processing required by each student. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Student scores are measured based on the evaluation with reports (40%) and regular examination (60%).

PHY100CA

物理学 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【本授業コードは経済学科生用】

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】
ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。
さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできているか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】
・Nature Video 教材活用事例：　http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。
・毎回の確認問題を各 100 点（50 %）
・隔週の小課題を各 200 点（50 %）
とし、60 %以上の得点率で合格とする。
【確認問題の評価基準】
授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。
【小課題の評価基準】
時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.
At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

PHY100CA

物理学 B

藤田　貢崇

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

【本授業コードは経済学科生用】

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がいまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。
また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】
素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】
・Nature Video 教材活用事例：　http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。
・毎回の確認問題を各 100 点（50 %）
・隔週の小課題を各 200 点（50 %）
とし、60 %以上の得点率で合格とする。
【確認問題の評価基準】
授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。
【小課題の評価基準】
時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.
At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

PHY100CA

物理学 A

藤田　貢崇

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

【本授業コードは国際経済学科生・現代ビジネス学科生用】

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】
ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。
さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできているか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】
・Nature Video 教材活用事例：　http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。
・毎回の確認問題を各 100 点（50 %）
・隔週の小課題を各 200 点（50 %）
とし、60 %以上の得点率で合格とする。
【確認問題の評価基準】
授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。
【小課題の評価基準】
時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
This course deals with the fundamental quantum physics and cosmology. It also enhances the development of students' skill in understanding science communications.
At the end of the course, students are expected to understand the structure of atoms and the origin of Universe.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

PHY100CA

物理学 B

藤田　貢崇

開講時期：**秋学期授業**/Fall　　単位：**2 単位**

【本授業コードは国際経済学科生・現代ビジネス学科生用】

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がいまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。
また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】
素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。資料には動画へのリンクが示されていますので、動画・資料・教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
・提出期限は資料公開からおおむね 1 週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020 年

【参考書】
・Nature Video 教材活用事例：　http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video

【成績評価の方法と基準】
毎回の確認問題および隔週の小課題の提出を課す。
・毎回の確認問題を各 100 点（50 %）
・隔週の小課題を各 200 点（50 %）
とし、60 %以上の得点率で合格とする。
【確認問題の評価基準】
授業で扱った内容に関して、適切に理解しているかを問う。
【小課題の評価基準】
時事的な科学技術ニュースと社会との関係などについて受講者に論考を求め、理論的に記述することができるかどうかを問う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】
本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline (in English)】
This course deals with the fundamental particle and quantum physics. It also enhances the development of students' skill in communicating science to public.
At the end of the course, students are expected to understand the quantum world composed of quarks, neutrinos and electrons and so on.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on in-class examination (50%) and short report on class (50%).

BSC100CA

Basic Science for Global Environment A

DOUGLAS HUNGWE

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4　｜　キャンパス：**多摩**
毎年・隔年：　｜　科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class provides a comprehensive overview of environmental science.
Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】
When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Lecture and discussion;
The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development
WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Human Population; Ch.8	Demography, Population and Society
WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate
WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management
WEEK 14	Review of this semester	Presentation or Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】
Withgott and Laposata 2015. Environment:The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.
"E-textbook" is strongly recommended for this course.
DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】
1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons
2)『地球環境学入門　第２版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）
3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press
4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】
Participation(20%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(30%),
Assignments(50%)

【学生の意見等からの気づき】
Prepare the answers and your opinion for "Before Class Quizzes". You can't complete them without the textbook.

【その他の重要事項】
To successfully complete this course, you must do the following:
- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view it before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.
Write to douglas.hungwe.7k@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

BSC100CA

Basic Science for Global Environment B

DOUGLAS HUNGWE

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4　｜　キャンパス：**多摩**
毎年・隔年：　｜　科目主催学部：Economics
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class provides a comprehensive overview of environmental science.
Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】
When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Lecture and discussion;
The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanizaion, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Adjustment, Review	Essay/Report, Q&A
WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel
WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power
WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Total Review	Presentation and Q&A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The standard preparation and review time for this class is TWO HOURS each.

【テキスト（教科書）】
Withgott and Laposata 2015. Environment:The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.
More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】
1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons
2)『地球環境学入門　第２版』山﨑友紀（講談社サイエンティフィク）
3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press
4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】
Participation(20%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(30%),
Assignments(50%)

【学生の意見等からの気づき】
Prepare the answers and your opinion for "Before Class Quizzes". You can't complete them without the textbook.

【その他の重要事項】
To successfully complete this course, you must do the following:
- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and review it before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.
Write to douglas.hungwe.7k@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

ECN300CA

社会保障論 A

小黒　一正

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】
社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【留意事項】
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】
厚生労働省『厚生労働白書』各年版
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, we will examine the current situation and issues of the Japanese social security system. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA

社会保障論 B

小黒　一正

開講時期：**秋学期授業/Fall**　　単位：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】
日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。
【留意事項】
なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士『コア・テキスト　財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】
阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説　日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
『図説　日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】
現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA

特別講義 （寄付講座　証券市場論）

大和証券（株）

開講時期：**春学期授業**/Spring　　単位：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の 3 点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。
①金融商品市場の機能と役割を理解する。
②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】
株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。
It is possible to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】
進め方としては、資料を熟読し、15～20 分程度の小テストをして頂く予定です。ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえるよう指導いたします。
As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第 2 回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第 3 回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第 4 回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第 5 回	株式市場①	株式の種類
第 6 回	株式市場②	株価の形成要因
第 7 回	債券市場①	債券のキーワード
第 8 回	債券市場②	債券の利回り
第 9 回	投資信託	投資信託の特徴
第 10 回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第 11 回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第 12 回	M＆A	最近の事例紹介
第 13 回	証券関連規制と証券会社総括	証券関連規制の枠組み
第 14 回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の準備学習については特になし。復習時間として 4 時間程度。
Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト（教科書）】
各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】
必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】
毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）
Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)
Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】
アンケート実施なし

【その他の重要事項】
現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】
This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.
1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.
(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions
The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

CAR100EA

職業社会論

依田　素味

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 4**/Tue.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】
①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰的することができる。
②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
前もって、レジュメを Web 上の授業支援システムにアップしますので、授業前に予習しておいてください。
レポート課題やリアクションペーパーについては、さらに理解が深まるように解説をを加え、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AI の普及による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	様々な自営業者として働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティとの関係
11	個人のキャリアデザイン (ゲスト講師)	個人のキャリアを形成するとは (先輩のキャリアを参考に)
12	教育訓練	職業人生を磨くプロセス
13	職業社会の今日的課題	「働き方改革」と今後の課題
14	試験・まとめと解説	授業内確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
授業内でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
①授業内ミニレポート 20% (積極的な授業参加の状況評価)
②中間レポート　20% (課題に関する理解度の確認)
③期末試験　60% (最終的な全体理解の確認)

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間を設定します。

【その他の重要事項】
① 1 年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。
②社会学部を卒業し実際に企業で働く経験を持つ教員が、社会で職業に就くことについて講義します。

【Outline (in English)】
1. Course outline
We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.
As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.
2. Learning Objectives
① To be able to look at working society as a whole from a bird's eye view as an entry point for thinking about occupational careers.
② To be able to outline various career paths.
③ Clarify one's awareness of one's own issues and form an objective viewpoint using the new basic skills for working adults as a keyword.
3. Learning activities outside of classroom
Students will look at the professional society surrounding them, discover their own issues based on the theme, and submit them as a [report]. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
4. Grading Criteria/Policy
① In-class mini-report 20% (evaluation of active class participation)
② Mid-term report 20% (Confirmation of understanding of the assignment)
③ Final exam 60% (Final confirmation of overall understanding)

PRI100EA

コンピュータ入門

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 5**/Tue.5
備考（履修条件等）：**Web 抽選科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実作業上役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。

【到達目標】
Windows パソコン、Word、Excel、PowerPoint の基本操作を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
実操作により基本操作を学習する。課題には指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	Windows 基本 1	Windows 基本操作
第 2 週	Windows 基本 2	キーボード、ファイル
第 3 週	電子メール	送受/転送/返信/CC/BCC
第 4 週	Word ：文書作成ソフト	基本操作
第 5 週	PowerPoint ：発表資料作成ソフト	基本操作
第 6 週	Excel(1) ：計算表ソフト	選択対象は何か
第 7 週	Excel(2) ：詳細操作	書式指定および関数
第 8 週	Excel(3) ：詳細操作	ちょっと複雑な関数
第 9 週	Web についての基本知識	超入門： HTML(Web ページの記述)
第 10 週	各アプリを組み合わせて文書作成	複数の Office アプリの併用
第 11 週	覚えておくと便利なこと	コンピュータ上の共通操作
第 12 週	コンピュータの明と暗	学習棄却やリテラシー
第 13 週	課題の作成	構想を練る＆草稿作成
第 14 週	課題の完成	最終版作成＋提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の質問は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 提出課題： 70% で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業で有用な知識を提示する。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験等で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Systematic learning of useful computer knowledge through actual work from scratch.
【Learning Objectives】
Understand the basic operation of a Windows PC, Word, Excel, and PowerPoint.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT100EA

プログラミング入門

湯本　正実

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 5/Tue.5
備考（履修条件等）：**Web 抽選科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。

【到達目標】
サンプルを見つけて簡単なプログラミングを作成できるレベルを達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
Processing および Java 言語のプログラミングの初歩を身につける。実習中に指摘事項をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部	・プログラミング言語の歴史と衰勢 ・サンプル・プログラムの説明
第 2 週	導入部の続き 描画（グラフィックス）	・コメントは重要 ・数値と文字について
第 3 週	マルチメディアおよび Java 言語	・音を出してみる ・Java 言語とは？
第 4 週	演算	定数、変数、算術操作
第 5 週	数値の表現および文字 コードについて	・10 進以外の数値表現 ・文字コードの概念
第 6 週	条件分岐 (1)	・if 文という概念 ・else という英語らしからぬ用語
第 7 週	条件分岐 (2)	switch 文という概念
第 8 週	繰り返し処理	for, while 文という概念。
第 9 週	データの扱い	文字＆数値データ
第 10 週	配列	配列って何？ －具体例と操作方法
第 11 週	人間との「対話」	キーボード入力を処理に反映させる
第 12 週	Java と Eclipse	エンジニアの一歩目！
第 13 週	提出課題の準備	提出課題を検討
第 14 週	課題提出	課題を仕上げて提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外での質問は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない

【参考書】
参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 提出課題： 70% で評価する。
最終課題提出は必須である

【学生の意見等からの気づき】
途中で「ついて行けない」と悲観しないでください。大づかみで楽観的に。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Gain a comprehensive understanding of the fundamentals of programming.
【Learning Objectives】
Enable create simple programs by referring to samples.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

HSS100EA

スポーツ総合２- Ⅰ（バドミントン）

升　佑二郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**1 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP3 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ＆レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.　【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS100EA

スポーツ総合２-Ⅱ（バドミントン）

升　佑二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**1 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP3 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. 【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS100EA

スポーツ総合２- Ｉ（バドミントン）

升　佑二郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
春学期は基本ストローク、フットワークを重視し、秋学期のゲーム形式授業に備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP3 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	グリップの握り方について学ぶ
第 2 回	基本技術 2	シャトルコンタクトについて学ぶ
第 3 回	基本技術 3	ラケットワークについて学ぶ
第 4 回	基本技術 4	ラケットスイングについて学ぶ
第 5 回	基本技術 5	サービスについて学ぶ
第 6 回	基本ストローク 1	ドライブについて学ぶ
第 7 回	基本ストローク 2	クリアについて学ぶ
第 8 回	基本ストローク 3	ドロップ＆レシーブについて学ぶ
第 9 回	基本ストローク	プッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 10 回	基本ストローク	スマッシュ＆レシーブについて学ぶ
第 11 回	基本ストローク 6	ヘアピンショットについて学ぶ
第 12 回	技術の展開 1	フットワークについて学ぶ
第 13 回	技術の展開 2	ダブルスのフォーメーションについて学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.　【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS100EA

スポーツ総合２-Ⅱ（バドミントン）

升　佑二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**1 単位**
曜日・時限：**金** 2/Fri.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

【到達目標】
基本ストロークをゲームの中で活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP3 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
運動実践を主体とするが、適宜講義をとりいれる。バドミントン経験者はもちろんのこと男女を問わず初心者でも積極的に受講してくれる学生の参加を望む。
各授業の冒頭において、前回の授業内容のまとめ・解説を行う。
この科目は、春学期・秋学期を通して履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基本技術 1	ラケットワークについて学ぶ
第 2 回	基本技術 2	フットワークについて学ぶ
第 3 回	指導理論 1	オーバーヘッドストロークについて学ぶ
第 4 回	指導理論 2	アンダーハンドストロークについて学ぶ
第 5 回	指導理論 3	サイドアームストロークについて学ぶ
第 6 回	応用技術 1	前後の打ち分けについて学ぶ
第 7 回	応用技術 2	左右の打ち分けについて学ぶ
第 8 回	シングルス 1	攻撃的な戦術を学ぶ
第 9 回	シングルス 2	守備的な戦術について学ぶ
第 10 回	ダブルス 1	コンビネーションについて学ぶ
第 11 回	ダブルス 2	サービスの展開について学ぶ
第 12 回	トリプルス	トリプルスについて学ぶ
第 13 回	団体戦	団体戦の展開について学ぶ
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
技術レベルに応じた指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. 【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

演習 1

青木　貞茂

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**4 単位**
曜日・時限：**月 4/Mon.4**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TV、新聞、雑誌、インターネット等の広告を分析することを通じて、なぜ自分にとって広告効果があるのか、そのメカニズムを理解する。特に、どのようなメッセージ、表現方法、メディア選定が効果的なのかをブランド・コミュニケーションを中心として考察した結果、様々な対象をテーマとした広告プランニングの基礎を習得する。

【到達目標】
大学生としての研究・調査能力をより高度化し、分析課題に対して仮説を立案し、仮説に沿って資料収集、データ分析を行い、その仮説証明に関して説得的かつ効果的なプレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自己のテクスト読解に至る方法論も学んでいく。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告研究に関する基本知識	広告研究に関して必要な基礎知識
第 3 回	広告企画事例の設定	広告に関する企画事例を設定
第 4 回	事例分析方法の習得 (1)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 5 回	事例分析方法の習得 (2)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 6 回	事例分析方法の習得 (3)	広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 7 回	プレゼンテーション方法	分析結果のまとめとプレゼンテーション技法の習得
第 8 回	広告分析の発表とディスカッション (1)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 9 回	広告分析の発表とディスカッション (2)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 10 回	広告分析の発表とディスカッション (3)	ケース広告の優れている理由の発表、ディスカッション
第 11 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (1)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 12 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (2)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 13 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (3)	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 14 回	具体的な広告企画案の発表とディスカッション (4)　および前半のまとめ	具体的な広告企画を立案してプレゼンテーションし、ディスカッションを実施
第 15 回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第 16 回	効果的なブランド広告の構造	効果的なブランド広告の分析方法について学ぶ
第 17 回	研究対象の設定	効果的なブランド広告のケース選定
第 18 回	ケース発表 (1)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 19 回	ケース発表 (2)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 20 回	ケース発表 (3)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 21 回	ケース発表 (4)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 22 回	ケース発表 (5)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 23 回	ケース発表 (6)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 24 回	ケース発表 (7)	広告効果の理由を分析によって解明し発表
第 25 回	グループ研究	グループ研究の広告企画設定
第 26 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (1)	企画プレゼンとディスカッション
第 27 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (2)	企画プレゼンとディスカッション
第 28 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (3)　およびまとめ	企画プレゼンとディスカッション　全体への講評とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（50 %）と課題作成物（50 %）で行う。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの強化にいっそう取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別の面談は事前にメールで連絡し、調整する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】
This class will look into the mechanism of advertising effect on us through analyzing advertisements such as TV, newspapers, magazines, the Internet, etc. In particular, we will examine what kind of message, expression method, or media selection is effective based on brand communication. The class provides the basics of advertisement planning on various subjects.

The goal of this course is the following: for students to improve their research and investigation skills as university students, to be able to formulate hypotheses for analytical issues, to collect materials and analyze data according to the hypothesis, and to make persuasive and effective presentations to prove hypotheses. Basic information on advertising and data on case studies will be covered in advance. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours. In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC300EB, SOC300EC, SOC300ED

演習２

青木　貞茂

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**4 単位**
曜日・時限：**月** 5/Mon.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブランド広告の分析および企画の理論と方法を実例により身につけ、効果的なブランド・コミュニケーションのやり方を学ぶ。その上で自分自身のブランディングに応用をしていくことを目指す。

【到達目標】
単なるブランド広告の分析に止まらずブランド・コミュニケーションを効果的に実践するレベルまで到達することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
分析のための理論、手法の基礎を学び、実践していく。同時に広告を中心とした消費情報の読解を通じて自分自身のブランド分析と構築を実現する方法論を身につける。受講者は、広告の収集、分析作業を実施した上で結果発表を行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。本クラスでは、分析まとめ、プレゼンテーション、ディスカッションへの受講者の積極的な参加を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	演習のオリエンテーション	演習のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明。
第 2 回	ブランド広告企画に関する基本知識	ブランド広告企画立案に関する基本知識
第 3 回	ブランド広告企画事例の設定	ブランド広告企画事例を設定する
第 4 回	ブランド広告事例分析方法の習得 (1)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 5 回	ブランド広告事例分析方法の習得 (2)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 6 回	ブランド広告事例分析方法の習得 (3)	ブランド広告の成功理由を詳細な分析によって解明する方法を学ぶ
第 7 回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション (1)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第 8 回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション (2)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第 9 回	具体的なブランド広告企画立案とプレゼンテーション (3)	具体的なブランド広告企画の基本方針を市場環境分析に基づきプレゼンテーションする
第 10 回	具体的な施策案、表現案立案についてのオリエンテーション	自己ブランディング広告企画の立案
第 11 回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション (1)	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション
第 12 回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション (2)	自己ブランディング広告の決定
第 13 回	具体的な施策案、表現案立案についてのプレゼンテーション (3)	グループ研究のテーマ設定
第 14 回	ブランド広告企画の選定	複数のアイデアからブランド広告企画を選定する
第 15 回	後半のオリエンテーションとフィールドワーク（タウンウォッチング）の成果発表	合宿でのフィールドワーク＝タウンウォッチングの成果をプレゼン、新たな研究テーマの設定
第 16 回	自己ブランディングとは何か	自己ブランディングについてのグループ討議
第 17 回	自己ブランディング広告企画の基礎知識	自己ブランディング広告企画の基礎知識の習得
第 18 回	自己ブランディング広告企画の立案 (1)	自己ブランディング広告企画の立案
第 19 回	自己ブランディング広告企画の立案 (2)	自己ブランディング広告企画の立案
第 20 回	自己ブランディング広告企画の立案 (3)	自己ブランディング広告企画の立案
第 21 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (1)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 22 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (2)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 23 回	自己ブランディング広告企画のプレゼンテーション (3)	自己ブランディング広告企画完成版、表現案のプレゼンテーション
第 24 回	自己ブランディング広告の決定	自己ブランディング広告についての講評
第 25 回	グループ研究オリエンテーション	グループ研究のテーマ設定
第 26 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (1)	研究結果プレゼンとディスカッション
第 27 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (2)	研究結果プレゼンとディスカッション
第 28 回	グループ・プレゼンテーションと評価 (3)	研究結果プレゼンとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ブランド広告に関する知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。なお、夏休み期間にゼミ合宿として日本国内のタウンウォッチング（フィールドワーク）を実施する。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（50 %）と課題作成物（50 %）で行う。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークの強化にいっそう取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。立案した広告企画は、実施までゼミ員が担当するので、積極的にゼミに参加することを求める。なお個別面談は事前にメールで連絡した上で個別調整する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】
Here we will first study the theory and method of analyzing and planning brand advertisement for effective brand communication through case studies. Then we will try to apply this to our own branding.

The goal of this course is to go beyond the mere analysis of brand advertisements to the level of effectively implementing brand communication. They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their everyday lives. The standard preparation and review time for this class is two hours. In addition, during the summer vacation, we will conduct town watching (fieldwork) in Japan at a seminar camp. Evaluation is based on ordinary points (50%) and written assignments (50%).

SOC400EB, SOC400EC, SOC400ED

演習３（卒業論文）

青木　貞茂

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**8 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文のテーマ設定と論文作成に必要なデータ、文献収集等、分析についての方法を学びつつ、論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を習得する。研究のための仮説立案力、分析力、思考力と論文作成力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
設定した卒業論文のテーマに基づき研究を進め、首尾一貫した仮説を論証するアカデミックな論文作成を行なう。自身の仮説を様々な方法を用いて論証することでテーマを設定して解決に向けた考え抜く力とその内容を的確に伝達する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
広告に関連した卒業論文のテーマとなる問題意識を明確にし、演習受講者の間の積極的・主体的なディスカッションを通じて具体的なテーマと仮説を定める。設定した卒業論文のテーマの論文作成に必要な全体構成、引用方法等の基本を学んだ上で、研究の進捗に沿ってより具体的な論文内容のプレゼンテーションを段階的に行なう。演習内で発表内容へのフィードバックを行なう。最終的な完成論文に対して口頭試問を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文とは何か、執筆の進め方
第 2 回	論文のテーマ設定とは	問題意識に沿った論文テーマの設定の仕方
第 3 回	問題意識と論文テーマの発表 (1)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 4 回	問題意識と論文テーマの発表 (2)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 5 回	問題意識と論文テーマの発表 (3)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 6 回	問題意識と論文テーマの発表 (4)	問題意識と論文テーマの発表にともなうディスカッション
第 7 回	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方	論文の構成と参考資料の収集、分析の仕方
第 8 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (1)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 9 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (2)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 10 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (3)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 11 回	仮説と論文構成案、参考資料の発表 (4)	仮説と論文構成案、参考資料の発表内容に治するディスカッション
第 12 回	テーマ、仮説、構成　分析内容の基本骨子の発表 (1)	テーマ、仮説、構成　分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第 13 回	テーマ、仮説、構成　分析内容の基本骨子の発表 (2)	テーマ、仮説、構成　分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第 14 回	テーマ、仮説、構成　分析内容の基本骨子の発表 (3)	テーマ、仮説、構成　分析内容の基本骨子に関する発表とディスカッション、概要の決定
第 15 回	論文執筆のオリエンテーション	前期に決定した基本概要に沿った論文執筆の方法をガイダンス
第 16 回	論文発表の方法	前期に執筆した段階での論文発表の方法をガイダンス
第 17 回	論文内容の中間発表 (1)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 18 回	論文内容の中間発表 (2)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 19 回	論文内容の中間発表 (3)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 20 回	論文内容の中間発表 (4)	論文の進捗状況に沿った内容の発表とディスカッション
第 21 回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック (1)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第 22 回	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールのチェック (2)	論文執筆に関する引用の方法等基本ルールの再確認
第 23 回	論文内容の最終発表 (1)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 24 回	論文内容の最終発表 (2)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 25 回	論文内容の最終発表 (3)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 26 回	論文内容の最終発表 (4)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 27 回	論文内容の最終発表 (5)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション
第 28 回	論文内容の最終発表 (6)	研究論文の最終内容に関する発表とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料収集、読み込み、論文執筆は、演習時間外で行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（30 %）と論文内容（70 %）で行う。

【学生の意見等からの気づき】
論文の全体骨子を早期に組み立てるよう、指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。論文作成の指導を積極的に受け、自ら主体的に資料、参考文献収集、調査等を実行することを求める。なお、個別面談は事前にメールで調整する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して広告に関する卒論指導を行なう。

【Outline (in English)】
Students will learn how to gather literature and analyze data necessary for selecting a theme and preparing their graduation thesis.　At the same time, students will acquire the basics of citation method and the overall composition required for producing a paper.　The class aims to provide hypothesis planning skills, analytical skills, thinking skills and ability to prepare a research paper.

Students will conduct research based on the theme of the graduation thesis they have set and write an academic paper in which they argue a coherent hypothesis. By doing so they will acquire the ability to set a theme, think through the solution, and accurately communicate the contents of their hypothesis using various methods to prove its validity. Gathering and reading materials and writing papers are to be done outside of the exercise time. The standard preparation and review time for this class is two hours. The evaluation is based on ordinary points (30%) and the content of the paper (70%).

ARS300EB, ARS300EC, ARS300ED

演習１・２

岡野内　正

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きることと、学問的にものごとを考えることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】
①学術書・論文の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
春学期（4 月初めから 7 月初めまでの 3 か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方にオンラインあるいは対面で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加します。学期末に関西の私大との合同ゼミ、11 月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自の自由テーマでゼミ論文を書きます。
ただし、学びの主体は受講生なので、受講生による自治組織をつくって、ゼミ運営を進めます。さしあたりの提案は、以下のとおりです。
担当教員のライフワークの第一弾である『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』を読みながら、著者に対して、徹底的に疑問をぶつけて議論していく。受講生は毎週の読了する部分について、わかったこと、わからなかったこと、調べたこと、議論してみたいことを、学習支援システムの掲示板に書き込んでいく。毎回の授業時間では、ディベート形式の議論や少人数討論などで話し合い、知識を付けるとともに、各自の疑問をより深く発展させていく。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらに Hoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	ユートピアを語ることは無意味か？	テキストの「はじめに」に関する議論およびテーマに関するディベート形式の議論
3	人類は幸せになれるか？	第 1 章第 1 節①、テーマに関するディベート形式の議論。
4	一人の力は社会を変えられるか？	第 1 章第 1 節②、テーマに関するディベート形式の議論。
5	自分の幸せと人類全体の幸せを同時に追求できるか？	第 1 章第 1 節③に関するディベート形式の議論。
6	生活の安定が保障されると人は腐敗するか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
7	飢えと貧困に直面すると人は勤勉になるか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
8	人類が全員に衣食住を保障できないほど、地球上の物資は欠乏しているか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
9	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるか生まれてくるかによる環境の日本国内での格差は許せるレベルか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
10	たまたまどんな両親のもとに生まれてくるかによる環境の格差は、人類全体では許せるレベルか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
11	日本国内での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
12	人類社会での貧富の格差は、今では正当化できない歴史的な悪事によるものか？	第 1 章第 2 節、およびテーマに関するディベート形式の議論。
13	大企業、多国籍企業はがん細胞と同じか？	第２章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
14	連帯経済による内発的発展は可能か？	第２章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
15	アメリカが変われば世界が変わるか？	第３章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
16	ヨーロッパが変われば世界は変わるか？	第４章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
17	福祉国家は再建できるか？	第５章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
18	人びとはベーシックインカムを求めて立ち上がるか？	第６章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
19	人びとは、国境を越える支配の仕組みを見破ることができるか？	第７章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
20	SDGs は大衆のアヘンか？	第８章、およびテーマに関するディベート形式の議論。
21	COVID-19 は人類社会の終わりの始まりか？	第９章、ディベート形式の議論。
22	SDGs を人類社会の仕組みを変えるチャンスにできるか？	第９章、ディベート形式の議論。
23	学術論文の書き方講座１	全員にゼミ論文のテーマを語ってもらいます。
24	学術論文の書き方講座２	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その１
25	先行研究、研究状況の整理について	ゼミ論文のテーマに関する参考文献紹介。その２
26	学部研究発表会での共同発表の検討会	合同ゼミに向けて改善点を話し合います。
27	ゼミ論文報告会１	報告と討論：ゼミ論文のプレゼンと討論。
28	ゼミ論文報告会２	ゼミ論文のプレゼンと討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は十大学合同セミナーに参加して共同論文を書く。秋は、関西との合同ゼミ、学部研究発表会での報告に参加する。その間、授業のテキストを読み、ディベート形式の議論のための準備をし、毎回の授業の前に掲示板に書き込む。最終回の 2 回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。なお春学期については、十大学合同セミナーのためにさらに毎週 4 時間、そのための 4 時間程度の準備が必要となります。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

【参考書】
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税）。
ガイ・スタンディング著　岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016 年、3000 円プラス税）
ヘレン・カルディコット著　岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008 年、定価 777 円）

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席を前提として、掲示板に提出された毎回の書き込み 40%、共同研究作業やゼミ討論への貢献について 30%、ゼミ論文について 30%、合計 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
春学期の 10 大セミナーへの参加を必修にし、学習支援システムの掲示板と、ゼミでの共同作業やディベート形式の討論などの組み合わせによって、活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習３（卒業論文）

岡野内　正

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**8 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

【到達目標】
現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、２万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。
　フィードバックは、

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①受講生からのテーマ報告。	卒論構想の報告と討論 (1)
3	卒論構想の検討②参照文献の報告。	報告と討論 (2)
4	卒論構想の検討③先行研究の整理について。	報告と討論 (3)
5	プレカリアートの時代①階級論。	テキストについての論点提起と議論（１）
6	プレカリアートの時代②新自由主義論。	論点提起と議論（２）
7	プレカリアートの時代③多国籍企業論。	論点提起と議論（３）
8	プレカリアートの時代④権力論。	論点提起と議論（４）
9	グローバル・ベーシック・インカム (GBI) 入門①ベーシック・インカム論。	テキストについての論点提起と議論（１）
10	GBI 入門②ナミビアの事例。	論点提起と議論（２）
11	GBI 入門③ブラジルの事例。	論点提起と議論（３）
12	GBI 入門④インドの事例。	論点提起と議論（４）
13	卒論構想の再検討①テーマと章立て。	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論（１）
14	卒論構想の再検討②先行研究の整理。	報告と討論（２）
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①テーマと章立て。	夏のあいだに進めた卒論作成の中間報告と討論（１）
17	卒論の中間報告②論理的一貫性。	報告と討論（２）
18	卒論の中間報告③実証性。	報告と討論（3）
19	卒論の中間報告④学術論文という形式。	報告と討論（４）
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と議論（１）
21	GBI 構想の射程②　ベーシック・インカム論	論点提起と議論（２）
22	GBI 構想の射程③開発戦略論。	論点提起と議論（３）
23	GBI 構想の射程④開発援助論。	論点提起と議論（４）
24	GBI 構想の射程⑤多国籍企業論。	論点提起と議論（５）
25	卒論草稿の検討①テーマと構成。	卒論草稿の報告と討論（１）
26	卒論草稿の検討②論理性と実証性。	報告と討論（２）
27	卒論草稿の検討③先行研究の整理。	報告と討論（３）
28	卒論草稿の検討④学術論文形式。	報告と討論（４）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期終了後には、大学の懸賞論文に応募できる水準のものを作成する。11 月末までに卒論を完成させる。したがって、授業外の時間を用いて、自分の興味のあるテーマについて資料を集め、ひたすら論文の作成作業をする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年。

【参考書】
ヘレン・カルディコット著　岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008 年、定価 777 円）

【成績評価の方法と基準】
卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式（引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある）と内容（論理的に首尾一貫している）があれば、単位取得が可能な 60%とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新しさ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100%で採点します。

【学生の意見等からの気づき】
早めに草稿を完成させ、仕上げていけるように工夫しました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権 NGO での活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class for academic writing. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis of their own. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for each class. Grading will be decided based on the quality of the Thesis (100%; proper form of academic writing 60%, originality 20%, priority 20%).

LAW200EB, LAW200EC, LAW200ED

演習 1

長沼　建一郎

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**4 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス――とくに論理的な思考力・物事を判断する能力――を涵養します。

【到達目標】
学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
社会問題（おもに社会保障・福祉、雇用・労働、生命倫理など）のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。
担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。
現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。
とりあえず春学期は、基本的なテキストを会読するとともに、いくつかの具体的な政策問題（基本文献・新聞記事・裁判例等）を中心に運営・討議したいと思っています。
秋学期以降は、参加者の興味・関心によって、各回で扱うテーマを決めていきたいと思います。あわせて学部研究発表会も見据えて、共通テーマを検討する機会も探ります。
レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。
なお定期的に、演習２との合同開催を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	スケジュールの確認、ゼミで学ぶことの確認
2	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（1）	文献の読解方法
3	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（2）	討議への参画方法
4	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（3）	文献の収集・分析方法
5	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（4）	統計・資料の収集・分析方法
6	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（5）	報告資料の作成方法
7	ゼミでの学習に向けた基本的な諸項目（6）	レポート・論文の執筆方法
8	社会問題への政策対応（1）	社会保障を中心とした問題群の検討
9	社会問題への政策対応（2）	社会福祉・福祉国家を中心とした問題群の検討
10	社会問題への政策対応（3）	雇用・労働を中心とした問題群の検討
11	社会問題への政策対応（4）	生命倫理を中心とした問題群の検討
12	社会問題への政策対応（5）	家族・企業を中心とした問題群の検討
13	社会問題への政策対応（6）	小括、各報告へのフィードバック
14	論文執筆に向けて	論文執筆のテーマ報告と相互討議
15	学部研究発表会準備（1）	発表テーマの検討・選定
16	社会問題の個別問題（1）	第 1 グループの執筆論文の報告と討議
17	社会問題の個別問題（2）	第 2 グループの執筆論文の報告と討議
18	社会問題の個別問題（3）	第 3 グループの執筆論文の報告と討議
19	学部研究発表会準備（2）	発表内容の検討
20	社会問題への具体的政策対応（1）	第 1 グループの報告と討議
21	社会問題への具体的政策対応（2）	第 1 グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
22	社会問題への具体的政策対応（3）	第 2 グループの報告と討議
23	学部研究発表会準備（3）	発表内容の決定、リハーサル
24	学部研究発表会準備（4）	発表内容の精査、最終リハーサル
25	社会問題への具体的政策対応（4）	第 2 グループの報告へのフィードバックとフォローアップ
26	社会問題への具体的政策対応（5）	第 3 グループの報告と討議
27	社会問題への具体的政策対応（6）	第 3 グループの最終へのフィードバックとフォローアップ
28	まとめと振り返り	総括、フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の討議等に積極的に参加できるように確実に準備してくる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期は、基本的なテキストを選定するとともに（『変わる福祉社会の論点』が一応の候補）、具体的な裁判事例や政策問題に関する資料や文献を配布します。
秋学期は、個々の報告が中心となります。

【参考書】
演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
担当教員は理論研究・制度研究を主としてやっていますので、このゼミでも、多角的に物事を考えて、判断を下す能力を磨く機会は提供できると思います。また人前で話す力、討議に参画する力やレポート執筆能力も、ゼミで努力すれば、経験的にはかなり上達します。

【Outline (in English)】
This seminar deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
　in class contribution: 80%、 reports : 20%、

LAW300EB, LAW300EC, LAW300ED

演習２

長沼　建一郎

開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　単位数：**4 単位**
曜日・時限：**水 3/Wed.3**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
引き続き、社会問題への政策対応を主たるテーマとして、大学生としての、さらには社会人としても通用する高度な学問的センス――とくに論理的な思考力・物事を判断する能力――を涵養します。

【到達目標】
学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
社会問題への政策対応領域のなかから、各参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告および討議を中心に進めていきます。
担当教員は、政策論・法的分析を専門としており、また年金や介護関係を中心的な研究領域としていますが、この演習ではそれらに限定せず、幅広いテーマを取り上げ、多様なアプローチを試みたいと思います。現代社会の諸問題について、自分の頭で考えて、判断を下す能力を養うことが目標です。
演習２では個人単位での研究と、ゼミ共通テーマの検討を並行してお願いする予定です。
レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習２のガイダンス（1）	スケジュールの確認、演習２で学ぶことの確認
2	演習２のガイダンス（2）	演習１の提出論文へのフィードバック
3	演習２のガイダンス（3）	政策研究の基礎
4	共通文献の講読（1）	社会保障関係の文献検討
5	共通文献の講読（2）	社会福祉・福祉国家関係の文献検討
6	共通文献の講読（3）	雇用・労働関係の文献検討
7	共通文献の講読（4）	生命倫理・家族関係の文献検討
8	個人研究のガイダンス（1）	研究テーマの設定
9	個人研究のガイダンス（2）	研究方法の選定
10	個人研究のガイダンス（3）	報告資料作成の方法
11	個人研究構想報告（1）	第１グループの構想報告と討議
12	個人研究構想報告（2）	第２グループの構想報告と討議
13	個人研究構想報告（3）	第３グループの構想報告と討議
14	個人研究構想報告（4）	構想報告の総括、フィードバック
15	学部研究発表会準備（1）	発表テーマの検討・選定
16	個人研究中間報告（1）	第１グループの中間報告と討議
17	個人研究中間報告（2）	第１グループの中間報告へのフィードバックとファローアップ
18	個人研究中間報告（3）	第２グループの中間報告と討議
19	学部研究発表会準備（2）	発表内容の検討
20	個人研究中間報告（4）	第２グループの中間報告へのフィードバックとファローアップ
21	個人研究中間報告（5）	第３グループの中間報告と討議
22	個人研究中間報告（6）	第３グループの中間報告へのフィードバックとフォローアップ
23	学部研究発表会準備（3）	発表内容の確定・リハーサル
24	学部研究発表会準備（4）	発表内容の精査・最終リハーサル
25	個人研究最終報告（1）	第１グループの最終報告と討議
26	個人研究最終報告（2）	第２グループの最終報告と討議
27	個人研究最終報告（3）	第３グループの最終報告と討議
28	個人研究のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の討議等に積極的に参加できるよう、確実に準備してくる。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】
演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（報告、討議参画等）（80%）及びレポート提出（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
This seminar deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
　in class contribution: 80%、 reports : 20%、

LAW400EB, LAW400EC, LAW400ED

演習３（卒業論文）

長沼　建一郎

開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　単位数：**8 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文を執筆します。研究計画を立てて、資料を集め、分析と考察を加えて、一編の論文を完成させることで、演習 1〜3 の、また大学生活の総決算として下さい。

【到達目標】
学術的な水準を伴う論文の執筆と討議への参画

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
論文を執筆するための基本的な技法に関する指導を行います。
テーマは各人が一年間かけて追求できるものであれば、どのような領域のものでも構いません。
レポート等の課題については、ゼミ内で個々にコメントしつつフィードバックします。ゼミ生相互の査読も重視します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のガイダンス	演習 3 で学ぶことの確認、スケジュールの確認
2	卒論ガイダンス（1）	卒論テーマの選定
3	卒論ガイダンス（2）	研究方法の選定
4	卒論ガイダンス（3）	資料および統計の収集・分析の方法
5	卒論ガイダンス（4）	文献の収集・分析の方法
6	卒論ガイダンス（5）	論文執筆の進め方
7	卒論ガイダンス（6）	論文の細かい執筆技術
8	卒論構想報告（1）	第 1 グループの執筆者ごとの構想報告
9	卒論構想報告（2）	第 1 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
10	卒論構想報告（3）	第 2 グループの執筆者ごとの構想報告
11	卒論構想報告（4）	第 2 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
12	卒論構想報告（5）	第 3 グループの執筆者ごとの構想報告
13	卒論構想報告（6）	第 3 グループの構想報告へのフィードバック・フォローアップ
14	卒論構想報告（7）	構想報告の総括、フィードバック
15	秋学期のガイダンス	本格的な執筆に向けた留意点、スケジュールの確認
16	卒論中間報告（1）	第 1 グループの執筆者ごとの中間報告
17	卒論中間報告（2）	第 1 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
18	卒論中間報告（3）	第 2 グループの執筆者ごとの中間報告
19	卒論中間報告（4）	第 2 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
20	卒論中間報告（5）	第 3 グループの執筆者ごとの中間報告
21	卒論中間報告（6）	第 3 グループの中間報告へのフィードバック・フォローアップ
22	卒論最終報告（1）	第 1 グループの執筆者ごとの最終報告
23	卒論最終報告（2）	第 1 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
24	卒論最終報告（3）	第 2 グループの執筆者ごとの最終報告
25	卒論最終報告（4）	第 2 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
26	卒論最終報告（5）	第 3 グループの執筆者ごとの最終報告
27	卒論最終報告（6）	第 3 グループの最終報告へのフィードバック・フォローアップ
28	卒論報告のまとめ	自己評価・相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
論文完成に向けて、各およびゼミ生相互で研鑽に努める。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しませんが、共通に読むべき文献等については適宜配布します。

【参考書】
演習内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80%）とその他の参画（他の卒論へのアドバイス等）（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【Outline (in English)】
This seminar deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 20%、in class contribution: 80%

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義、資料の配布等で実施する。
基本的には対面で実施するが、授業形態は感染症の流行状態により変化する可能性がある。
方向性は大学に準ずる。変更等は掲示やホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、やりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

教育心理学

安齊　順子

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】
・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストとパソコンを利用した講義や資料の配布を中心として対面で行う。基本的には対面授業を行うが、授業形態は感染症の流行状態により、変化する可能性がある。方向性は大学の方針に準ずる。変更等は掲示、ホッピー等で知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業上の注意を説明する
2	教育における発達理解の意義	心理学における発達概念を学ぶ
3	対人関係の発達	心理学における発達概念、特に対人関係に注目して学ぶ
4	認知の発達	認知心理学、学習心理学の基礎概念を学ぶ
5	アイデンティティ	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習の理論	古典的条件づけなど大切な学習理論を学ぶ
7	学習の指導	学級の心理学、具体的には、いじめなどについて学ぶ
8	動機づけ	動機づけの理論的背景を学ぶ
9	学習の評価	教育評価とはどのようなものか学ぶ
10	記憶の種類	記憶の種類と、記憶のしくみについて学ぶ
11	性格の理解	人格理解とその歴史について学ぶ
12	性格の様々な測定方法	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
13	発達障害の理解	発達障害について学ぶ
14	発達障害の支援・指導	幼児期、児童期の心理的問題とその解決について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談・心理学・臨床心理学・心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「使える」教育心理学　服部環、安齊順子他著　北樹出版

【参考書】
子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版 (ベーシック現代心理学 6)』有斐閣
文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原　雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版　会沢信彦・安齊順子編著

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）、授業への積極的参加（30 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】
毎回プリントを配布して、授業後の感想をもとにやりとりのある授業を心掛けている。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
教員はスクールカウンセラーの体験があるためそれについて語る場合がある。

【Outline (in English)】
The　goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.
It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.
We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.
Learning Objectives
The students are supposed to gain familiarity with psychological knowledge and application to education.
Learning activities outside of the classroom
To enhance effective learning, students are encouraged to spend approximately 100 minutes preparing for class and another 100 minutes reviewing class content afterward (including assignments) for each class.
They should do so by referring to textbooks and other course material.
Grading Criteria /Policy
The Final examination counts for 70%. In-class participation accounts for 30%.

生涯学習支援論

栗山　究

配当年次／単位：2〜4 年次／ 4 単位
開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは一人ひとりが自分自身の人生を主体的に生きるために、いつでもどこでも自らの実際生活に即して相互に学びあう営みを続けています。
授業ではそうした生涯学習の基本的な特徴を探り、誰もが生きやすい社会をつくろうとしている地域住民の学びあいの実践と関連づけながら、地域の学習活動を支える人びとの基盤となる理論や実践に関する知識や技法を習得し、住民の学びあいを支える人たちの役割を考察します。

【到達目標】
(1) 私たちが地域で学んでいることの意味を捉えられるようになり、その概要を説明できるようになります。
(2) (1) で捉えられた学習者相互の学びあいを支援する人たちの役割を理解し、そこでのより良い学びあいを促す条件整備のあり方や技法を主体的に考えられるようになります。
(2) で理解した考えを、これからの多様な実践の場面で活かしていけるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
講義と演習（グループワーク・ディスカッションなど）を組み合わせて進めていきます。春学期の初頭から演習形式の展開（相互学習）が中心となりますので、自分なりに学習した内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は積極的に応援していきます。レポート課題も授業内の相互学習を通してフィードバック（共有）していきます。
少人数の受講者で構成される社会教育主事資格課程科目（社会教育士の称号取得含む）であるという例年の特徴を活かし、授業内での相互学習を踏まえ、可能な限り実際の社会教育施設等を訪問し、住民・社会教育職員とともに学習を深めていく機会等を用意したいと考えています。従って、下記の「授業計画」は、受講者人数・受講者相互の問題意識や興味関心の程度および現場の条件に応じて柔軟に変更していく可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会教育職員のおかれる現在を確認し、昨年までの事例を参考に授業の進め方を話し合います
2	基本用語の確認　生涯学習・社会教育	受講者各位の教育経験をふりかえり、本講義で使用する専門的な基本用語の内容を確認します
3	学習論の基礎①　成人の学習	ノールズのアンドラゴジー概念から成人の学習を支える考え方を考察します
4	学習論の基礎②　相互学習	受講者相互の話しあいの意味を考え、この授業での取り組みを検討します
5	生涯学習支援の事例に学ぶ①　例：NPO・民間事業者での学びあい	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
6	生涯学習支援の事例に学ぶ②　例：公民館での学びあい	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
7	生涯学習支援の事例に学ぶ③　例：博物館での学びあい	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
8	生涯学習支援の事例に学ぶ④　例：若者・青年の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
9	生涯学習支援の事例に学ぶ⑤　例：子育て世代の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
10	生涯学習支援の事例に学ぶ⑥　例：高齢者の学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
11	生涯学習支援の事例に学ぶ⑦　例：障害のある人たちとともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
12	生涯学習支援の事例に学ぶ⑧　例：在住外国人とともにある学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
13	生涯学習支援の事例に学ぶ⑨　例：ジェンダーに関する学び	受講者各位の関心に即して文献・実践記録などを輪読・検討します
14	中間のまとめ	これまでの学習を踏まえて各自の夏休みの課題を考えます
15	実際の学習講座の参画体験①　事例のもちより	実際に参加・体験してきた生涯学習支援の現場を報告しあいます
16	実際の学習講座の参画体験②　内容の検討	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援の方法を検討しあいます
17	実際の学習講座の参画体験③　課題の抽出	生涯学習支援の現場で行われていた学習支援上の課題を検討しあいます
18	社会教育職員の役割	学習者の学びに寄り添う公務労働者の役割を検討します
19	学習支援者の力量形成	学習支援者はどのような役割を果たしているかを考えます
20	実際の社会教育事業の実践事例分析①	地域社会における住民の学びの諸相を検討し、学習講座づくりを展望します
21	実際の社会教育事業の実践事例分析②	NPO、社会教育関係団体との協働のあり方を考えます
22	実際の社会教育事業の実践事例分析③	講座に参画する学習者の学習課題を検討します
23	実際の社会教育事業の実践事例分析④	学習者主体の学びの条件整備のあり方を考え、その展開方法を検討します
24	実際の社会教育事業の実践事例分析⑤	学習支援者が提供する／した学習素材を検討します
25	実際の社会教育事業の実践事例分析⑥	学習者の学びあいと地域社会での実践の関わりを考えます
26	実際の社会教育事業の実践事例分析⑦	企画運営会議での学びあいと成立した講座との関係を考えます
27	実際の社会教育事業の実践事例分析⑧	講座を踏まえた新たな学習課題と地域社会での実践の展開を考えます
28	全体のまとめ	この授業での学習をどう生かしていくかを考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、受講者各位の関心に即して、教員が指定する文献・実践記録などを輪読し、検討する予定です。
秋学期は、持続可能な地域社会づくりに関する現代的課題の学習を取り扱った実際の社会教育事業の実践記録「3.11 以後の社会とエネルギー問題」を事前に配布する予定です。
それぞれ、授業当日までに読んできて、自身の考えを整理してきてください。回によっては、受講者相互にレジメを作成して臨んでいただく場合もあります。
受講者各位の関心に応じ、春学期の学習内容を継承し、通年を通じた学習として展開していく場合もあります。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回テーマに応じて適宜、授業内で指示するほか、担当教員がレジメを作成して配布します。

【参考書】
必要に応じて、各回の授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業（相互学習、学外授業の場合は当該授業を含む）への積極的な参加（40 %）と、夏休みと学年末のレポート課題（各 30 %）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初回の授業で通年授業の大まかな進め方・授業運営方針をガイダンスします。社会教育固有の方法論ともいわれる相互学習を意識しながら授業は展開しますので、受講を希望される学生は、必ず出席するようにしてください。
なお、相互学習のもつ意味は、授業内で学習していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業初回の案内は 4 月に入りましたら、学習支援システム「HOPPII」を通して通知しますので、必ず確認してください。

【その他の重要事項】
本科目は、社会教育主事の任用資格ならびに社会教育士の称号を取得するための文部科学省令で定められる「社会教育に関する科目」群の必修専門科目の一つに位置づきます。
本授業では、公立の社会教育施設で事業を担当していた教員の実務経験に基づき、そこでの教育活動（学習支援）の実際について解説する機会を適宜、設けていきます。

【Outline (in English)】
In this class, we will learn the basic characteristics of adult learning and understand that various types of learning are produced in our lives in contemporary society, as they relate to themselves and to the educational practices of their respective communities.
Therefore, based on specific examples, we will discuss the following two perspectives. The first is the role and scope of "adult and community education" in confronting the various problems of contemporary society. The second is the role and significance of adult and community education staff and learning facilitators who support residents' interactive learning.
【Learning Objectives】
By the end of the course, you should be able to do the followings:
A. Capture and outline the meaning of what we are learning in our community.
B. Understand the role of those who support mutual learning among learners and be able to proactively consider conditions and methods to promote better learning among learners.
【Learning activities outside of classroom】

During the spring semester, you will read and review literature assigned by the teacher based on your own interests. In the fall semester, we will be analyzing practical records of adult and community education projects that deal with learning about contemporary issues for a sustainable society.

You are encouraged to read them and organize your thoughts before the day of class. In addition, depending on the session, you may be asked to prepare resumes for each other.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Overall evaluation will be based on active participation in class (40%) and reports from the summer vacation and the end of the school year (30% each).

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 %＋最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

特別な教育的ニーズの理解と支援

山下　洋児

配当年次／単位：1〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害、外国籍あるいは家庭養育基盤が弱いことなどにより、特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感をもち、また、子どもたちが生きる力を身に付けていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に着け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。
特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。
障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の生きづらさに気付き、どのような理解、支援を行えばよいのか、考えを深められるよう、具体的な事例も伝え、授業を行う。資料の読み取りが中心となるが、毎回のリアクションペーパーの内容を適宜取り入れ、他の受講生がどのように考えているのかが参考となるようにする。リアクションペーパーは毎時間提出する。必要に応じてグループディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的、授業の進め方、評価の仕方。受講者自身の「特別な支援を必要とする児童・生徒」に関わる学校体験を振り返る。
第 2 回	特別支援教育の概要	特別支援教育の概要と、教師として特別な支援を必要とする子どもたちをどのように理解するかということについて学ぶ。
第 3 回	障害特性とはなにか	発達障害の「障害特性・認知特性」について、事例に沿って学ぶ。
第 4 回	自閉スペクトラム症 (ASD) の子どもの理解とその支援	自閉スペクトラム症について概要と具体例を学ぶ。
第 5 回	注意欠如多動症 (ADHD) の子どもの理解とその支援	注意欠如多動症について概要と具体例を学ぶ。
第 6 回	学習障害 (LD) の子どもの理解とその支援	学習障害について概要と具体例を学ぶ。
第 7 回	知的障害の子どもの理解とその支援	知的障害について概要と具体例を学ぶ。
第 8 回	肢体不自由・病弱の子どもの理解とその支援	肢体不自由・病弱教育について概要と具体例を学ぶ。
第 9 回	家庭基盤の弱い子どもの理解とその支援	不適切な養育状況にある子ども、貧困状況にある子ども等の概要と具体例について学ぶ。
第 10 回	多様性とインクルーシブ教育	障害だけでなく、特別な支援が必要な子どもについて知り、インクルーシブ教育、合理的配慮について学ぶ。
第 11 回	個別の指導計画、教育支援計画	個別の指導計画、教育支援計画の意義と作成について学ぶ。
第 12 回	多様な関係・連携と支援	学校内における連携、学校外の関係諸機関との連携について学ぶ。
第 13 回	介護等体験の意義と留意点	介護体験の意義と留意点について学び、特別支援学校の教育活動のイメージをもつ。
第 14 回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	特別支援教育の今後の展望について学び、自身が教員になった際のイメージをもつ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業は、1 回ずつが単独で終わるのでなく、他の回とも関連し合っているので、授業資料を事前・事後にていねいに読むこと。また、日常的に、特別支援教育に関わるニュースやテレビ番組等に意識を向けておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しない。毎回資料を配布する予定。配布資料は、その回の授業だけでなく、他の回の授業、期末レポート等に必要になるので、整理して保存すること。

【参考書】
・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
・戸田竜也「学級担任・特別支援教育コーディネーターのための『特別な教育的ニーズ』をもつ子どもの支援ガイド」明治図書、2015 年
その他、適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎時間の理解を示すリアクションペーパー等）70 %＋最終レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】
公立中学校教員として勤務した経験からのエピソード、映像などを使用して行った授業が分かりやすかったという学生からの意見を参考にし、引き続き分かりやすい授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
公立中学校特別支援学級教員の経験を活かし、特別支援教育に関わる今日的な課題についての授業を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Support and Understand for Special Educational Needs, concretely developmental disorders, mild mental retardation, ethnic minority, poverty, child abuse and so on.
【Learning Objectives】
The goal is to understand (or acquire):
◇ the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
◇ the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
◇ the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
◇ the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
◇ the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.
◇ infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policies】
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report:30%, and in-class contribution(reaction paper):70%.

総合的な学習の時間の指導法

本山　明

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。
対面授業とする。対面授業に出ないときは欠席。オンラインの補講はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
第 10 回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
第 11 回	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
第 12 回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
第 13 回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
第 14 回	授業指導案の発表と講評（高校)	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜、指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
文部科学省『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』

【成績評価の方法と基準】
平常点（各時間の提出レポート・新聞スクラップの中で授業者が評価に必要であるとしたもの）50 %
最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
社会世界的な課題と学生の関心を大事にした授業を組み立てたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要な時は指示する。

【その他の重要事項】
質問事項などは、授業後お願いします。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】
広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, the way of evaluation of students grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities about "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

総合的な学習の時間の指導法

本山　明

配当年次／単位：2〜4 年次／ 2 単位
開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】
探求的な見方・考え方をし、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。特に、教科ごとに育まれる見方・考え方を活用し、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探求する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
「総合的な学習の時間」な学習指導理論を理解し、学習指導案の内容を子どもの認識や思考、学力などの実態に沿ったものに作成できるようにする。また模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身に着ける。「総合的な学習の時間」における実践研究の動向を紹介し、グループワーク・問題解決学習など主体的・対話的で深い学びの授業設計の向上に取り組めるようにする。授業内に行ったレポート等のなかでいくつかを取り上げ全体に対してフィードバックを行う。

対面授業とする。対面授業に出ないときは欠席。オンラインの補講はしない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（ねらいと目標、進め方）	学生の「総合的な学習の時間」の体験を振り返り、その意義について共有化をはかる。
第 2 回	「総合的な学習の時間」の位置づけ（目標、授業時数、他教科との関連）	戦後の学習指導要領にみる「総合的な学習の時間」戦後初期のコア・カリキュラムの示唆するもの
第 3 回	カリキュラム上の特徴（問題解決型学習や探求的な学習）	教育課程と校内体制。指導計画の基本的考え方。SDGs と「総合的な学習の時間」
第 4 回	実社会に活かす学び（学校教育と実社会経験の架橋）	体験活動・情報活用能力・シティズンシップ教育・地域との連携（フィールドワークを含む）
第 5 回	アクティヴ・ラーニングの技法	問題解決型学習・参加型学習・探究的な学習・他者と協同して取り組む学習の実際
第 6 回	具体的な実践例（社会科系）と評価方法	公正な社会世界・共生を創る実践と評価
第 7 回	具体的な実践例（理科系）と評価方法	循環型社会・気候変動を中心にした実践と評価
第 8 回	学校ごとの目標の立て方（目標と診断的評価）	「総合的な学習の時間」の目標と育成を目指す資質・能力。評価の方法・ポイント
第 9 回	年間計画と指導案作成の理解	クラス・学年・学校を単位とした年間計画と指導案
第 10 回	指導案作成の実践的学習	探究のプロセスのポイントと思考ツールの使用による協同学習
第 11 回	指導案改善の観点と方法	課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現の観点と方法を改善する
第 12 回	指導案改善の実践的学習	生徒同士の学び合い学習視点での指導案の改善
第 13 回	授業指導案の発表と講評（中学校）	中学校における授業指導案の発表と講評
第 14 回	授業指導案の発表と講評（高校）	高校における授業指導案の発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「総合的な学習の時間」のテーマを考える上で、毎日、新聞を 30 分以上読み、新聞スクラップブックを作成する。定型用紙は授業者が用意し、そこに自分のコメントを書き込み提出する。新聞が手元に無い場合は、図書館の新聞をコピーし使用する事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。適宜、指示する。

【参考書】
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版　文部科学省）
文部科学省『中学校／高等学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編』

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポートは必ず提出のこと。未提出の場合は単位修得はできない。
毎回の授業後にレポートを提出する。その授業内レポートから成績評価に入れる授業内レポートを授業者が選択し評価する。
平常点・授業内レポート　50 %
最終レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
社会世界的な課題と学生の関心を大事にした授業を組み立てたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要な時は指示する。

【その他の重要事項】
質問事項などは、授業支援システムで行います。1999 年より公立中学校で 15 年間、「総合的な学習の時間」の責任者を経験。現場の実践に役立つ授業をしていく。

【授業中に求められ学習活動】
広く豊かな社会認識を身につけるため積極的な発言、対話を期待する。

【Outline (in English)】
Method for the Period for Integrated Studies. The significance of this subject, the flame of purpose and contents in each school, how to make teaching plans, and the way of evaluating students' grades.
To acquire knowledge and skills related to the preparation of instructional plans, specific teaching methods, and evaluation of learning activities in relation to "the Period for Integrated Study."
In particular, students will acquire the basic skills necessary to create classes that achieve the following three points. (1) to utilize the perspectives and ideas nurtured in each subject, (2) to view a wide range of events from a variety of angles, and (3) to realize learning that explores issues in real society and real life.
Grading Criteria [14times short report and in-class contribution 50%][Last long report 50%]

BSP100EA

基礎演習Ⅰ

岡野内　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

【到達目標】
①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
読書会形式でテキストを精読します。受講生は、授業の前に毎回「授業日誌」を作成して、それをもとに少人数グループで共有しながら、全員が発表して議論を進めます。そのあとに、少人数グループの代表が議論の状況を報告し、講師を含む全員で討論していくとともに、わからないことを解決し、調べてきたこと、議論した論点を共有していきます。なお、対面授業の際は、テキストに関連するさまざまなテーマについて、ディベート形式の討論も行います。授業に関するさまざまな質問へのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、自己紹介（この授業でやりたいこと、学生時代にやりたいこと、一生かけてやりたいことを語ってもらいます。）、ゼミ運営の役割分担など。
2	日本語版序文および第１章プレカリアート	報告と討論。
3	現代社会のリスクと不安問題について	簡単なディベート。
4	第２章プレカリアートが増える理由	報告と討論。
5	現代社会のチャンス問題。	ディベート形式の議論。
6	第３章プレカリアートになるのは誰か？	報告と討論。
7	現代社会の差別問題	ディベート形式の議論。
8	第４章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	現代社会の戦争問題	ディベート形式の議論。
10	第５章　労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
11	現代社会のゆとり問題	ディベート形式の議論。
12	第６章地獄に至る政治、	報告と討論。
13	現代世界の危険性	ディベート形式の議論。
14	第７章極楽に至る政治	報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を授業支援システムの掲示板に書く。「授業日誌」は、以下の３項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ガイ・スタンディング著　岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円+税（英語版原書 Guy Standing,"The Precariat ： The New Dangerous Class", Bloomsbury,2011 は、出版社サイト＜ https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/ ＞で全文無料公開されている）。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税。
ヘレン・カルディコット著　岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008 年、定価 777 円。

【成績評価の方法と基準】
毎回の出席を前提に、提出された授業日誌について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと、の各項目の内容をそれぞれ 25%ずつ、合計 100 %にして、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。また、緊張するけど発表したり議論することでクラスで仲良くなれるとして好評だったディベート形式の議論も入れてみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岡野内　正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しあう。

【到達目標】
①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それをもとに少人数グループと全体とで議論を進めます。最後の 2 回は、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文の報告会をします。授業に関するさまざまな質問などへのフィードバックは、授業時間に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	日本でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
4	第 2 部 1，3 章ナミビア	報告と討論
5	日本でベーシックインカムを導入すべきか	ディベート形式の議論
6	第 2 部 2 章ブラジル、4 章インド	報告と討論
7	貧困削減援助として、インフラ援助とベーシックインカム援助のどちらがいいか	ディベート形式の議論
8	第 2 部 5 章アラスカ、6 章イラン	報告と討論
9	貧困削減援助でベーシックインカムは可能か	ディベート形式の議論
10	第 1 部神学的まえがき、1 章社会実験	報告と討論
11	学術論文の書き方について	各自が考えてみたい問題やテーマに関する参考文献を 3 点みつけてきて、簡単に報告してもらい、ます。
12	第 1 部 2 章影響評価	報告と討論
13	基礎ゼミ論文の中間発表	自分のテーマについてのこれまでの研究状況について、参考文献に基づいて報告してもらいます。
14	第 1 部第 3 章全国的実施	報告と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の 4 項目を含むこと。各回のテキスト部分について、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと。さらに、最後の 2 回までに、自由論題での学術論文形式のゼミ自由論文を作成してくる必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税）。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2021 年）。
ガイ・スタンディング著　岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】
最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発 NGO での長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end research paper: 40%、Short reports: 30%、in class contribution: 30%.

BSP100EA

基礎演習 I

中村　尚樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 1**/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
モビリティに着目しながら、日本社会の将来を展望する文献をテキストに、レジュメ作成と発表、コメントを通して、参加者のまなざしの違いを確認する。そのことにより、問題に対する深い理解を得たうえで、自分の考えをまとめるという主体的かつ論理的な思考力の習得を目的とする。

【到達目標】
1) 文献の意図を正確に理解することができる。
2) 問題意識をもって「問い」を発し、結論を導くことができる。
3) 以上を簡潔にまとめ、発表することができる。
4) 比較的短い文章で的確に自分の意見をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
テキストからそれぞれ希望する項目（節）を選び、レジュメを準備したうえで毎回数人ずつ報告する。全員による質疑応答を踏まえ、授業終了後に報告者は概要をまとめたリポートを、他の参加者はミニリポートを提出する。最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、授業で課したレポート等に対する講評や解説も行う。
授業計画は受講生の報告希望内容などにより、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	報告順と内容決定。
第 2 回	報告の仕方ガイダンス。図書館ガイダンスも。	レジュメ作成と資料収集の方法。
第 3 回	MaaS & CASE とは	講師がレジュメ作成、報告の模範例。
第 4 回	移動弱者対策（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 5 回	観光型 MaaS（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 6 回	タクシーの進化（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 7 回	自動運転（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 8 回	電動キックボード（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 9 回	駐車場シェアリング（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 10 回	物流プラットフォーム（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 11 回	空飛ぶクルマ（仮）	担当班がレジュメを作成し発表する。
第 12 回	医療型 MaaS（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 13 回	スマートシティ（仮）	担当者がレジュメを作成し発表する。
第 14 回	春学期のまとめ	全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。テキストを事前に精読し、報告者はレジュメにまとめる。

【テキスト（教科書）】
中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすい MaaS & CASE』（2020 年、プレジデント社）

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
【報告回】報告担当者はレジュメ作成・プレゼンテーション 20 点＋終了後のリポート 15 点＝ 35 点で評価する。
【ミニリポート】報告者以外は各回提出のミニリポートを 5 点満点で評価する。
【合計】ミニリポート提出は 13 回 ×5 点＝ 65 点満点となる。報告回の評価とあわせ、100 点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
レジュメ作成のポイントを授業冒頭で解説する。

【その他の重要事項】
テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline (in English)】
Focusing on mobility, students create and present resumes.The aim is to acquire the ability to think independently and logically to organize one's own thoughts after gaining a deep understanding of the problem.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. Read the text carefully in advance, and the reporter summarizes it in a resume.
The person in charge of reporting will be evaluated on a scale of 20 points for writing resumes and presentations + 15 points for reports after completion = 35 points.
13 mini-report submissions x 5 points = 65 points. Together with the evaluation of the report times, it will be evaluated on a scale of 100 points.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

中村　尚樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 1/Tue.1
備考（履修条件等）：**クラス指定科目。詳細は「ガイダンス配布資料」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
参加者は自ら課題を設定し、ひとつのテーマに関する体系的な論文をまとめる。論文作成の作法を学ぶとともに、幅広い知識に裏打ちされた、独創的な思考力を習得する。

【到達目標】
1) 適切な論文テーマを設定できる。
2) 文献や資料を的確に検索し、利用できる。
3) 問題意識を持ち、他者との議論を通じて理解を深めることができる。
4) 論理的で独創的な論文をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
春学期で学んだ内容を展開し、各自がそれぞれ独自にテーマを設定する。そのうえでレジュメを作成して論文の構想を発表する。これを踏まえて、暫定的な論文を作成する。質疑応答や講師によるアドバイスを踏まえて、最終論文を作成する。春学期履修が前提となる。
授業では論文作成の作法はもちろん、テーマの決め方や論考の進め方を学ぶ。レジュメ、論文ともメールに添付して提出する。
なお、授業計画は授業の展開や社会情勢の変化によって、若干の変更があり得る。
最終授業で、全体のまとめや復習をはじめ、各受講生に対し、提出してもらった論文に対する講評やアドバイスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文テーマ設定	テーマ設定、報告順、報告日程決定。
第 2 回	レジュメ・論文作成の作法。	レジュメ・論文作成の作法や執筆方法、図書館の有効活用について学ぶ。
第 3 回	論文作成の思考	内容面を中心に論文の書き方。
第 4 回	論文構想発表①シェアリング（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 5 回	論文構想発表②サブスクリプション（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 6 回	論文構想発表③自動運転（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 7 回	論文構想発表④ MaaS アプリ（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 8 回	論文構想発表⑤スマートシティ（仮）	自ら選んだテーマで、論文作成の方針を報告し、討論する。
第 9 回	暫定論文発表①シェアリング（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 10 回	暫定論文発表②サブスクリプション（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 11 回	暫定論文発表③自動運転（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 12 回	暫定論文発表④ MaaS アプリ（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 13 回	暫定論文発表⑤スマートシティ（仮）	論文（暫定版）を報告し、完成に向けて討論する。
第 14 回	確定論文講評 全体まとめ	講評とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間ともに各 2 時間を標準とする。夏季休業期間中に関連書籍を検索、読了しておくことが望ましい。発表の担当者は、前半ではレジュメ、後半では暫定論文を準備する。そのうえで確定論文を提出する。

【テキスト（教科書）】
中村尚樹『ストーリーで理解する日本一わかりやすい MaaS & CASE』（2020 年、プレジデント社）

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
論文構想（レジュメ作成）10 点、暫定論文 10 点、確定論文 52 点、出席点 28 点

【学生の意見等からの気づき】
作文と論文の違いに戸惑う学生が多いため、論文執筆のスタイルを授業冒頭で明確に提示する。

【その他の重要事項】
テレビと雑誌メディアで報道経験のある担当者が、最新のトピックスを題材にしながら、社会分析の方法と、コミュニケーションスキルも学ぶ授業となる。

【Outline (in English)】
Participants set their own questions and compile a systematic treatise on one theme. While learning how to write a treatise, you will acquire creative thinking skills based on a wide range of knowledge. In addition to the presentation of the resume, the grades will be evaluated comprehensively in the dissertation.
The standard time for both preparation and review for this class is 2 hours each. It is desirable to search and read related books during the summer holidays.
The evaluation method is as follows.
10 points for drafting a thesis (resume creation), 10 points for provisional papers, 52 points for finalized papers, 28 points for attendance.

LAW300EB

政策と制度

長沼　建一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。
政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。
「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。

【到達目標】
政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP5・DP6 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。
皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第 2 回	政策の決定方法（1）「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルドア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第 3 回	政策の決定方法（2）「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第 4 回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第 5 回	政策・制度と市場「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第 6 回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第 7 回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach ／ population approach
第 8 回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output ／ outcome）
第 9 回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミン戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第 10 回	政策実現の手法（1）「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第 11 回	政策実現の手法（2）「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第 12 回	政策実現の手法（3）「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default ／ penalty default、 スタンダードパッケージ、分離均衡
第 13 回	政策・制度の担い手「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第 14 回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の予習・復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022 年）（2000 円+税）をテキストとして指定します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70 %）、中間試験（30 %）の予定です。
希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし。

【その他の重要事項】
中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

【Outline (in English)】
This course deals with policy and institusion.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institusion
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SES100EB

サステイナビリティ論Ｂ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「人間」にかかわる社会問題をとりあげて、サステイナビリティの観点からの政策的な対応を検討します。
コースへの入門講義として、なるべく皆さんの関心に即したテーマを扱っていきたいと思います。

【到達目標】
いわゆる社会問題と、それへの政策的な対応についての理解を深め、持続可能性の観点から問題解決の道筋を提案できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
代表的な社会問題（福祉・社会保障、雇用・労働、家族など）をとりあげて、具体的な事例を素材として、その政策的な対応について紹介・検討します。
皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会問題と政策、サステイナビリティ
第 2 回	メンタルの問題	自殺、ストレス、うつ病、依存症
第 3 回	健康・医療の問題	生活習慣病、超高額医療、終末医療
第 4 回	ジェンダーの問題	男女差別、マイノリティ
第 5 回	家族の問題	同性婚、ひとり親、人工生殖
第 6 回	子育ての問題	保育所、児童虐待
第 7 回	補説	前半部分の補足、ライフサイクルとサステイナビリティ
第 8 回	貧困の問題	生活保護、自立・就労支援
第 9 回	人口減少の問題	出生率対策、児童手当
第 10 回	年金・介護の問題	公的・私的年金、認知症・介護保険
第 11 回	市場経済の問題	経済成長、市場労働
第 12 回	賃金労働の問題	労働市場、失業保険
第 13 回	ワークプレイスの問題	給与、リストラ、ハラスメント、過労死
第 14 回	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容の予習・復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『ソーシャルプロブレム入門』（信山社、2021 年）（2500 円+税）を教科書として指定します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70 %）、中間試験（30 %）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
科目名（サブ）は旧課程の「環境問題Ｂ」を引き継いでいますが、この科目では環境問題は扱わないので、注意してください。

【Outline (in English)】
This course deals with social problems and social policies.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social problems and social policies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

LAW200EB

社会保障法 I

長沼　建一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らないと損をする」）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】
自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100 %）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】
This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼　建一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っていると役に立つ（逆に「知らないと損をする」）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】
自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。
さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。
質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。
講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか――全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか――サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】
椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】
テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100 %）の予定です。
希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】
授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。
担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】
This course deals with social security law.
At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Mid-term examination: 40%,Term-end examination: 60%

SOC100EB

グローバル市民社会論 A

岡野内　正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水 4**/Wed.4

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
男女ペアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家（ネイション）の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20 世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21 世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】
人類社会を常に男女ペアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20 世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は、毎回の授業までに全員がテキストの該当部文について、次の 4 点を含む「授業ノート」を作成し、授業支援システムの掲示板に書き込む。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたいこと。
毎回の授業の前半部分では、少人数で全員がそれを共有しつつ報告・議論し、その少人数分科会の座長になった人が、授業後半部分で、自分の分科会の状況を報告し、それをもとに、講師を含む全員で問題を共有して、議論をしながら、わからなかったことを解決して知識を増やすとともに、挙げられてきたさまざまな論点について、より深い問いを共有していく。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらに Hoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。授業の進め方についての説明。
2	グローバル化とプレカリアート	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム（序論）	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
10	ベーシックインカムのナミビア実験の概要と結果	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ナミビア実験後の展望と現状	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
12	ブラジルとインドでのベーシックインカム実験について	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
13	アラスカとイランについて	分科会と全体討論による、受講生の報告と教員を交えた議論。
14	コロナ・パンデミックとグローバル市民社会	分科会と全体討論による、受講生と教員を交えた議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、毎回の授業について「授業ノート」を書き、掲示板に書き込む。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。
岡野内正他著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【参考書】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。
岡野内正研究室のサイト（https://takunseminar.ws.hosei.ac.jp/wp/）にある諸論文。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提とする 14 回分の授業ノートの内容によって 100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業ノート」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内　正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまの問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】
①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、、④みんなで話し合ってみたいこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレークアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらに Hoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換―コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦―サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編―ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発―ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理―ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021 年、4000 円+税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円＋税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内　正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP8･DP10 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の 4 点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。
フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらに Hoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21 世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレンティア国家：レンティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト――民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ―新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序における アラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論
11	イランのイスラーム統治体制の現状	受講生報告と教員を交えた議論
12	イラク「政治体制を巡る迷路」	受講生報告と教員を交えた議論
13	ヨルダン――紛争との共生	受講生報告と教員を交えた議論
14	中東・イスラーム研究の課題	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は 2 時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】
松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第 3 巻）』ミネルヴァ書房、2016 年、3800 円+税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？ ――シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021 年 4 月に所収。（岡野内正研究室 HP の「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】
阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力　中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021 年、4000 円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016 年、1800 円プラス税。
岡野内　正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円プラス税。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の 4 項目について、25%ずつ、合計 100 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応えて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援の NGO 活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】
A kind of seminar class on contemporary Muslin society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East.　Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.
[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting.　Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following:　Before-class reports in HOPPI: 40%、After-class reports in HOPPI: 30%、in class contribution: 30%.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやｗｅｂ会議室Ｚｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は 800 字～1500 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で 20 名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第 2 回	基礎課題	文章力の確認
第 3 回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第 4 回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第 5 回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第 6 回	エッセイ作品 1 の制作	作品 1 提出と講義
第 7 回	作品 1 の指導	作品 1 の個別面談
第 8 回	自作を捉え直す	作品 1 の改稿と講義
第 9 回	作品 1 の合評	作品検討
第 10 回	振り返り	質疑応答など
第 11 回	エッセイ作品 2 の制作	作品 2 提出と講義
第 12 回	作品２指導	作品 2 の個別面談
第 13 回	自作を捉え直す	作品 2 の改稿と講義
第 14 回	作品 2 の合評	作品検討・質疑応答２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。
執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。
各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みすず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社
クリエイティブ・ライティング学生作品集　http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物 40%・平常点 60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題の他、授業開始の際の出席確認を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。
Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。
３年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやｗｅｂ会議室Ｚｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は 800 字～1500 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で 20 名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第 2 回	基礎課題	文章力の確認
第 3 回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第 4 回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第 5 回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第 6 回	エッセイ作品 1 の制作	作品 1 提出と講義
第 7 回	作品 1 の指導	作品 1 の個別面談
第 8 回	自作を捉え直す	作品 1 の改稿と講義
第 9 回	作品 1 の合評	作品検討
第 10 回	振り返り	質疑応答など
第 11 回	エッセイ作品 2 の制作	作品 2 提出と講義
第 12 回	作品２指導	作品 2 の個別面談
第 13 回	自作を捉え直す	作品 2 の改稿と講義
第 14 回	作品 2 の合評	作品検討・質疑応答２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。
執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。
各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みすず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社
クリエイティブ・ライティング学生作品集　http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物 40%・平常点 60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題の他、授業開始の際の出席確認を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。
Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。
３年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやｗｅｂ会議室Ｚｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は 800 字～1500 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で 20 名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第 2 回	基礎課題	文章力の確認
第 3 回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第 4 回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第 5 回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第 6 回	エッセイ作品 1 の制作	作品 1 提出と講義
第 7 回	作品 1 の指導	作品 1 の個別面談
第 8 回	自作を捉え直す	作品 1 の改稿と講義
第 9 回	作品 1 の合評	作品検討
第 10 回	振り返り	質疑応答など
第 11 回	エッセイ作品 2 の制作	作品 2 提出と講義
第 12 回	作品２指導	作品 2 の個別面談
第 13 回	自作を捉え直す	作品 2 の改稿と講義
第 14 回	作品 2 の合評	作品検討・質疑応答２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。
執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。
各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みすず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社
クリエイティブ・ライティング学生作品集　http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物 40%・平常点 60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題の他、授業開始の際の出席確認を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。
３年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋　アリエ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版の作業に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】
文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、より的確に表現するための手がかりを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業の講義の他、学習支援システムやｗｅｂ会議室Ｚｏｏｍなどを利用し、作品制作に関する実習を行う。
学生は 800 字～1500 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。
授業への質問等はリアクションペーパー、メールなどで受け付け、次回以降の授業内にフィードバックを行う。
課題作品については個別にフィードバックをおこない、そのための時間を授業内に設定する。
授業の進度により内容は変更する。
作品の制作や提出は授業時間外に行う。
※実習中心の授業のため、一クラスの受講者は最大で 20 名まで。
初回授業の課題を期限内に提出した学生のみ、受講を許可する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クリエイティブライティングとは	授業の説明と初回課題
第 2 回	基礎課題	文章力の確認
第 3 回	要約課題	本を読み、内容を説明する
第 4 回	エッセイ鑑賞	文体や表現に注目する
第 5 回	疑似批評	作品分析と推敲の過程
第 6 回	エッセイ作品 1 の制作	作品 1 提出と講義
第 7 回	作品 1 の指導	作品 1 の個別面談
第 8 回	自作を捉え直す	作品 1 の改稿と講義
第 9 回	作品 1 の合評	作品検討
第 10 回	振り返り	質疑応答など
第 11 回	エッセイ作品 2 の制作	作品 2 提出と講義
第 12 回	作品２指導	作品 2 の個別面談
第 13 回	自作を捉え直す	作品 2 の改稿と講義
第 14 回	作品 2 の合評	作品検討・質疑応答２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。
執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。
各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『モンテーニュ　エセー抄』みすず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版　日本エディタースクール編集。『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社。『きみの存在を意識する』ポプラ社
クリエイティブ・ライティング学生作品集　http://www13.plala.or.jp/aririn/creative.htm

【成績評価の方法と基準】
課題作品や提出物 40%・平常点 60%。
作品評価は、課題の提出ルールや文字数、締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。
平常点としては、各回の出席課題の他、授業開始の際の出席確認を合わせて加点する。すべての授業に出席することが前提である。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】
カメラ、マイク使用可でインターネットに接続できるＰＣを推奨する。
Ｚｏｏｍをしながら学習支援システムにアクセスする授業内容があるので、ＰＣ以外で受講する場合は機材の特性を理解しておくこと。
資料配布は学習支援システムを使用する。提出課題はワードかテキストファイルで学習支援システムに提出する。個別の連絡に大学アカウントのＥメールを使用するので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。
エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。
３年以内に刊行された本（小説、エッセイ、ノンフィクション等）を読んで内容を要約する課題があるため、読書の習慣のある学生の受講が望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces creative writing to students taking this course.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to writing skills and nowledge of composition
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on lab reports (40%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (60%).

COT300ED

プログラミングと論理的思考

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 4**/Tue.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミング、及び、レポート、発表、面接時等での思考手段としても役に立つ論理的思考の説明を行う。

【到達目標】
論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方と方法】
準備した教材や Web ページ、書籍等を参考にして、内容を理解し、論理的思考のヒントを見つけ、思考の習慣づけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講座の狙いおよび進め方の説明
第 2 回	メモ書きから	考え事のメモを、フローチャートやプログラム的記述にしてみる。
第 3 回	否定疑問文の答え方	否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点をロジックで考察する。
第 4 回	事後確率：モンティホール問題の解析	ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった「モンティホール問題」の紹介。
第 5 回	モンティホール問題についての考察発表	上記モンティホール問題についての私見、感想等の発表。
第 6 回	飲食店舗によるシステムの違い	各店舗のオペレーションを参照して、共通のシステム、特定の店独自のシステムを識別。
第 7 回	飲食店舗のオペレーションをまとめた内容の発表	フローチャート形式で、オペレーションをまとめ、発表と質疑を行う。
第 8 回	ブラックボックス付きフローチャート	自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
第 9 回	アルゴリズム問題の学習	アルゴリズムの典型的な問題の説明(魔方陣等)。
第 10 回	アルゴリズム問題の学習(続き)	アルゴリズムの典型的な問題の説明(続き)。
第 11 回	アルゴリズム問題のついての説明を行う (続き)。	アルゴリズムの典型的な問題の説明(続き)。
第 12 回	今までの説明内容の振り返り + 課題作成検討	各自で課題を決めて、フローチャート + プログラムで発表する準備を行う。
第 13 回	課題作成検討 (続き)	各自で課題を決めて、フローチャート + プログラムで発表する準備を行う。
第 14 回	課題発表	課題発表 (日本語以外も可)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
随時題材にする教材や Web ページ、書籍等を準備して共有する。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 質疑内容および提出課題課題： 70%。
課題発表は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Focusing on programming, learn the basics of logical thinking techniques.
【Learning Objectives】
Basic method of logical thinking.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.
Presentation of the assignments are mandatory.

COT300ED

ウェブ・プログラミングA

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの基幹として、Web ページの作成方法を中心に説明する。
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【到達目標】
Web ページの作成方法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本
第 3 回	HTML タグ (続き)	様々な HTML タグについて
第 4 回	HTML 属性	属性とは？
第 5 回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第 6 回	表 (テーブル)	HTML のテーブルについて
第 7 回	表 (テーブル):続き	HTML のテーブルについて (続き)
第 8 回	箇条書き (リスト)	HTML のリストについて
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第 11 回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第 12 回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第 13 回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第 14 回	最終提出課題完成	最終提出課題完成および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 提出課題： 70% で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basic knowledge of making Web page.
【Learning Objectives】
Understand the basics of making Web page.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本　正実

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの基幹として、Web ページの作成方法を中心に説明する。

【到達目標】
Web ページの作成方法を中心に説明する。
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本
第 3 回	HTML タグ (続き)	様々な HTML タグについて
第 4 回	HTML 属性	属性とは？
第 5 回	リンク/クラス	HTML のリンク、クラスについて
第 6 回	表 (テーブル)	HTML のテーブルについて
第 7 回	表 (テーブル):続き	HTML のテーブルについて (続き)
第 8 回	箇条書き (リスト)	HTML のリストについて
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第 11 回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第 12 回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第 13 回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題完成および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 提出課題： 70% で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basic knowledge of making Web page.
【Learning Objectives】
Understand the basics of making Web page.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本　正実

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの基幹として、Web ページの作成方法を中心に説明する。
(ウェブ・プログラミングAとメディアプログラミング実習は、重複内容が多いので、どちらか一つの受講をお勧めします。)

【到達目標】
Web ページの作成方法の基本部分を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者対象で、HTML(HyperText Markup Language) 中心の説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本
第 3 回	HTML タグ (続き)	様々な HTML タグについて
第 4 回	HTML 属性	属性とは？
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクについて
第 6 回	表 (テーブル)	HTML のテーブルについて
第 7 回	表 (テーブル):続き	HTML のテーブルについて (続き)
第 8 回	箇条書き (リスト)	HTML のリストについて
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウトについて
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念
第 11 回	イベント処理	Javascript でのイベント処理
第 12 回	より細かい表現のために	詳細な機能の紹介
第 13 回	最終提出課題作成検討	最終提出課題作成
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題完成および提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外での質問等は電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 提出課題： 70% で評価する。
最終課題提出は必須である。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learn basic knowledge of making Web page.
【Learning Objectives】
Understand the basics of making Web page.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

SOC300ED

映像制作技法

小坂　一順

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本実習は、映像制作に興味がある受講者を対象に映像制作における技術を身に付ける授業です。撮影から編集、VFX の技術を習得します。なかでも私の専門が VFX なので、授業の９割近くは VFX 制作の内容になります。対象は初心者から上級者まで幅広く対象とします。
撮影、編集、VFX の基本的な知識を身につけます。
日常目にする映像コンテンツにどのように VFX が使われているかを理解します。
VFX が映像に与える影響力を学びます。
実習では実際に映画制作で使われている VFX の作成方法と技術を学びます。

【到達目標】
映像の制作方法を自ら撮影・編集・VFX 制作することで、送り手の立場を体感し、映像メディアリテラシーの向上を目指します。
映像業界に就職をするべく最低限の経験を積むこと。
映像業界に興味を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
半期で後期の映像制作に必要な編集、VFX 技術を取得することになります。授業時間中にスクリーンを使いながら技法を説明し、時間中に作業も行なっていただきます。ですが映像の作り込みは宿題という形で授業時間外に制作活動をする必要があります。
VFX が映画や CM などでどのように使用されているのかを実際の映像を観ながら説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 参加者自己紹介 映像制作のワークフロー VFX とは何か	授業スケジュールの確認と課題オリエンテーション ソフトウエアのインストール
2	撮影技法①	映像用語とその意味
3	編集技法①	編集 テロップ
4	編集技法②	アニメーション エフェクト
5	編集技法③	アニメーション エフェクト
6	合成技法①	グリーンバック合成
7	合成技法②	カラーグレーディング
8	合成技法③	総合
9	3DCG 技法①	モデリング
10	3DCG 技法②	モデリング
11	3DCG 技法③	シェーディング
12	3DCG 技法④	ライティング
13	3DCG 技法⑤	カメラ　レンダリング
14	VFX 総合	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
映像制作活動はほとんど授業時間外の活動です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (40 %）と、課題作品の制作＝提出（30+30 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規カリキュラム科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
撮影機材については 101 教室のカメラ、もしくはスマートフォンで十分です。
編集や VFX 制作についてはラップトップの PC が必要です。ＰＣについてはできれば Mac Book Pro 推奨ですが、Mac Book や Mac Book Air、WindowsPC でも構いません、ですが個人で持っている必要があります。

【その他の重要事項】
映像制作の経験がなくても大丈夫ですが、相応の努力で経験者に追いついてもらいます。
ですが、努力で十分追いつき追い越せるだけのスキルが身に付きます。
なお、今年度から稲増ゼミがなくなってしまったので、従来、稲増ゼミで行っていたような制作活動を後期の「映像制作実習」で行いますので、２つセットで受講することを強くおすすめします。
毎週課題が出るので、授業時間外の学習時間が必要になります。
私は日本の映画業界、VFX 業界にて現役で活動している人間なので、現在求められている人材、将来求められている人材をリアルに育てるため、今（将来）本当に必要とされる知識、スキルを身につけるための授業を行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire a technique in the movie production who are interested in picture production.
【Learning Objectives】
You learn some technique. Shooting,Editing and VFX. Above all, around 90% of the class becomes the contents of the VFX production as my specialty is VFX.
The object intends from a beginner to a senior widely.
You acquire basic knowledge of shooting, editing, VFX.
You understand how VFX is used for picture contents to see every day.
You learn the influence that VFX gives a picture.
【Learning activities outside of classroom】
Most of the movie production activities are activities out of the school hour.
I assume one hour in total a standard at the preparations for this class learning, review time.
【Grading Criteria /Policy】
I evaluate it by normal point (40%) and production = submission (30+30%) of the problem work.

SOC300ED

映像制作実習

小坂　一順

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映像制作に興味がある方を対象に、チームで映像制作を行い、映像制作の方法を学びます。
前期の映像制作技法が個人的な技術力や知識を学ぶことが目的だったことに対し、映像制作実習ではチームになるとより大きな作品ができることを体感していただきます。
映像業界に興味を持っていただくことが目的ですが、自信をもって映像業界を就職先に考えられるようになることも視野にいれています。

【到達目標】
映像制作を通じて作り手側の意図や技法を理解し、映像リテラシーを学ぶ。
チームで映像制作をすることにより、社会性、協調性や自分の意見の通し方を学んだり、チームの中で自分がどのようなポジションに適正があるのかを自覚する。
チームで行動することの利点、問題点、共通することがらやパターンを社会学的に体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
前半はチームワークを強化するためのグループワークと映像制作の基盤となる企画について学びます。
中盤はその企画をどう映像にするのか、撮影の準備の仕方や撮影方法について学び、実際に撮影を行っていただきます。
後半は編集、VFX を学び、映像をどう処理するか、処理の方法によって見え方伝わり方にどのような効果があるのかを学びます。
全般を通して映像制作の基本を技術的に学ぶと共に、将来の仕事に役立つチームワークと自分の立ち位置の取り方も学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明
	参加者自己紹介	実際に制作された CM を実例に、どのように制作されているかを学びます。
	実例紹介	
2	制作課題発表	制作課題（MV と CM）
	グループ分け	課題の説明
	実例紹介	実際に制作された MV を実例に、どのように制作されているかを学びます。
	グループワーク	グループワークをしてチーム力と提案力を高めます
3	企画①	MV や TVCM がどのように企画されているのかを学びます。グループワークをして企画力を高めます。終了後企画会議。
	グループワーク	
4	企画②	企画会議 MV CM
		画（写真）コンテ作成
		企画会議 CM
		画（写真）コンテ作成
5	企画③	企画発表とプレゼンテーション
		企画の講評と修正
6	企画④	企画発表とプレゼンテーション
	撮影①	撮影技法
7	撮影②	撮影技法
8	編集①	編集技法
9	編集②	編集技法
10	VFX ①	VFX 技法
11	VFX ②	VFX 技法
12	VFX ③	VFX 技法
		プレゼンテーション
		発表方法
13	映像制作総合技術	総合的な技法の復習
		ルール、レギュレーションの確認
		９０％を 100 ％にする方法
14	課題作品の発表会	課題作品の発表とプレゼン
		課題作品の講評
		アンケートと感想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題制作は授業時間内では終わらない為、つづきを課外活動で行うことになります。
制作する映像に関してはテーマに則していれば自由なので、時間外の制作時間についても
期日を守れば自由です。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
授業内に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80 ％）＋課題（20 ％）

【学生の意見等からの気づき】
第一回目の授業では実際に授業に参加する学生の要望を聞くためのアンケートを実施します。アンケート結果は参考にし、授業の内容そのものを変えるようなことは致しません。
最後の授業でもアンケートを行い、授業内で聞くことができなかった感想や授業に対する評価を聞きます。これはもし来期以降授業がある場合に参考にいたします。

【学生が準備すべき機器他】
特にありませんが、比較的新しい Mac か PC があれば、自由に自習ができるので推奨します。
ですが、持っていなくても問題ありませんし、授業に持参する必要もありません。

【その他の重要事項】
上記の授業のテーマと内容は授業の進行状況と理解度によって変更になる場合があります。
現在も日本映画やテレビドラマの VFX スーパーバイザーとして又、VFX 会社の代表取締役として活動している教員が教えます。
授業中に推薦する資料以外での予習は全く必要ありません。
全くの CG 制作映像制作初心者でも問題ございませんが、最低限のコンピューターを操作する知識は必要です。
物理学や美術、プログラミング、CG 検定などの知識を得ている必要もありませんし、獲得も目指していません。より実践的な技術と知識の獲得を目指していただきます。
尚、私は日本の映画業界、VFX 業界にて現役で活動している人間なので、現在求められている人材、将来求められている人材をリアルに育てるため、今（将来）本当に必要とされる知識、スキルを身につけるための授業を行います。

【Outline (in English)】
This course who are interested in video production, we will create a video in a team and learn the method of video production.
In contrast to the video production techniques of the first semester, where the purpose was to learn individual technical skills and knowledge, in the video production practice, you will experience that you can create a larger work by forming a team. The purpose is to get students interested in the film industry, but we also have a view to be able to think of the film industry as a place of employment with confidence.

Learning Objectives
In the training, the student acquires a making method and a technique of VFX which is actually used by movie production.
Learning activities outside of classroom
Maybe the theme production is not over in the school hour.
So students will perform a continuance by extracurricular activities.
Grading Criteria /Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following
The learning situation by the class(80%)
The theme production(20%)

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木　貞茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**月 2**/Mon.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】
広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13 に関連。　DP についてはこちら
https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第 2 回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第 3 回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第 4 回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第 5 回	＜広告知＞の発展	広告表現開発における＜広告知＞の発展とはどのようなものか
第 6 回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第 7 回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第 8 回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第 9 回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第 10 回	日本おけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第 11 回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての＜私＞の絶対化と日本的な広告表現の到達点
第 12 回	現代の日本と世界の広告	現代の広告表現の動向と課題
第 13 回	文化の力と広告	ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係
第 14 回	試験・まとめ	論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】
青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。授業出席ごとにリアクションペーパーを提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回は論述試験を実施する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】
Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information.
Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.
They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED

広告・ＰＲ論

青木　貞茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広告・PR を中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PR プランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR 産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】
広告・PR 業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PR の基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP11 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PR の意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PR とメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	広告ビジネスの概要	広告・PR とは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第 2 回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第 3 回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第 4 回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第 5 回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第 6 回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第 7 回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第 8 回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第 9 回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PR の事例分析
第 10 回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第 11 回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第 12 回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について
第 13 回	クロス・メディア（2）	海外のクロス・メディアの優れた事例について
第 14 回	広告の未来	広告・PR の未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】
青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は平常点（70 %）と試験（30 %）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】
Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.
This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

SOC300ED

広告制作実習

青木　貞茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】
実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習支システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第 3 回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第 4 回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 5 回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 6 回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第 7 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 8 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 9 回	生活者インサイトの発見 (1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 10 回	生活者インサイトの発見 (2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 11 回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第 12 回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第 13 回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第 14 回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007 年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（70 %）、最終課題となる広告制作表現（30 %）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】
Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers.　They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.
Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.
Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance.　They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

SOC300ED

ニュース・ライティング

飯田　裕美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人に会って話を聞き、わかりやすい文章にまとめて、読者に伝える。それには「具体的に書く」ことが何より重要です。ファクトを平易に、具体的に、偏らない立場で書くことができれば、どんな職業に就くにせよ社会に出てからもきっと役立ちます。メディアの実情を知ることで、情報を批判的に読み解くメディアリテラシーも磨いてください。

【到達目標】
文章が具体的に書けるようになるには、ざっくりした理解で満足せず、鳥の目より虫の目で物を見、もう一歩相手に踏み込んでディテールを聞き出す「質問力」が必要です。取材演習を通じ「この言葉が引き出せたから、記事が成功した」という体験をたくさんしていただきたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
対面授業です。６回の記事作成は①取材・インタビュー②記事を書く③互いに読み合う－の３ステップを繰り返します。授業は主に①と③になります。②は原則として家で作業し、期限までに提出をお願いします。インタビューはオンラインも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ニュース記事の実際
第 2 回	記事の基本	スタイルと取材手法
第 3 回	インタビュー１	面白いところを掘っていく
第 4 回	講評と研究	どの記事が印象的か
第 5 回	インタビュー２	その人からしか聞けないことは？
第 6 回	講評と研究	ググっても出てこない事実があるか
第 7 回	インタビュー３	ネットニュースと紙媒体
第 8 回	講評と研究	メディアによる書き分けを学ぶ
第 9 回	インタビュー４	対立する意見を扱う
第 10 回	講評と研究	読者に考える材料を与えられたか
第 11 回	インタビュー５	知らない世界を伝える
第 12 回	講評と研究	どこまで具体的に書けたか
第 13 回	自由課題	あなたが今書きたいことは？
第 14 回	まとめ	自由課題発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中にできない取材活動と記事作成は、各自でしていただきます。記事はワードで書き、５日以内にメールで提出します。記事の長さは毎回１０００字程度です。記事執筆にかかる時間は２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。必要な資料は配布します。

【参考書】
そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
６回の記事作成（９０％）と平常点（１０％）で評価します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
課題以外にも、文章の書き方に関する相談はメールで受け付けます。講師は勤務先で採用担当部長の経験があり、就活のエントリーシートに関しても「具体的に書く」力をつけるよう指導します。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
講師は、通信社で記者１７年、デスク・編集委員１０年以上の実務経験があります。実務経験に基づく添削や書き方の提案をフィードバックします。

【Outline (in English)】
This course introduces news writing. The aim is to help students acquire the skill to ask questions and write articles specifically, not theoretically.
Learning Objectives: The goal of this course is to complete 6 articles.
5 interviews will be held in classroom and you write 5 articles at home.
1 article is free. You can choose any theme you like.
Grading Criteria /Policy: Grading will be decided based on 6 articles(90%) and in class contribution(10%).

FRI400ED

メディア社会学特講（表現）

青木　貞茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア社会学科の表現コース４年生のために用意された科目で、受講希望者が多い場合は、表現コース生を優先する。現代メディア文化作品を題材にして、そのメッセージや表現技法などの解題を通して、現代メディア文化の動態を解明する。

【到達目標】
映画、ＣＭなどの映像表現作品を受講者の議論を通して分析して、現代メディア文化の構造と意味を解題していく。映像コンテンツの分析を通じてメディア表現がどのような社会的な意識と連関し、時代の潮流を形成していくのかが把握できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
授業内で取り上げる作品について、毎回受講者全員で議論し、理解を深めていく。授業参加者は、常に授業の中で分析をし、分析内容を発表することを求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業のスケジュールと受講者の自己紹介
2	映像表現の記号論的分析の基礎	映像分析に使用する理論のフレームと基礎概念の習得
3	ハリウッド映画の分析	ミニレポートと議論
4	日本映画の分析	ミニレポートと議論
5	ショートフィルムの分析	ミニレポートと議論
6	アニメ映画の分析	ミニレポートと議論
7	テレビ CM の分析	ミニレポートと議論
8	ストーリーの基本構造	ミニレポートと議論
9	脚本の構造	ミニレポートと議論
10	映像のレトリック	ミニレポートと議論
11	コンテンツのビジネス的な基盤	ミニレポートと議論
12	プロデュースの役割	ミニレポートと議論
13	社会意識の変容と映像表現ヒットの関係	ミニレポートと議論
14	まとめ	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習（課題作品視聴）は２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜指示する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
課題作品の事前チェック、授業時間内の議論への参加など、広義の「平常点」（50 %）と課題提出（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今期より新たに担当が変更となった講義なので、特にない。

【学生が準備すべき機器他】
映像課題については、できるかぎり鑑賞可能な作品にする。

【その他の重要事項】
４年後期ゆえに就活中の学生は受講が難しくなるかもしれないが、毎回の出席が基本となる。

【Outline (in English)】
Special Lecture of Contemporary Media Culture.　We will discuss the expression method and message based on the representative movie works . Students will actively view films in their daily lives.　The standard preparation and review time for this class is two hours in total.　The assignments are evaluated by each person outside the department, and the results are evaluated by the analysis report(50%) and the contribution to the discussion(50%).

SOC300ED

広告制作実習

青木　貞茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**月** 3/Mon.3
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。学科優先科目。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスと生活者を結ぶ広告コミュニケーションの情報構造を理解するために、具体的な広告の企画・制作を実習する。マーケティングの意図をどのように策定し、人々にインパクトと共感のある広告表現に転換して伝えるか。メッセージ創造の本質を体験的に学ぶ。

【到達目標】
実習により受講者の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画が立案できるレベルに到達する。広告課題に対して資料、データ分析等を駆使して解決策となる具体的な広告表現を開発することができる。また、説得的かつ効果的なプレゼンテーションが可能となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP1・DP3・DP4・DP13に関連。DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
本実習では、市場環境分析等を行ない、訴求ターゲットを定め、その上で、ターゲットに対する生活者インサイトによってメッセージを絞り込み、具体的な広告表現を開発する。課題を学習支システムに提出、フィードバックを行なう。表現案を制作・プレゼンテーションするため、受講者の積極的・主体的な参加を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと全体の概要、必要な準備、予備知識などについて説明
第 2 回	広告の企画に関する基本知識	企画立案プロセスと必要な作業
第 3 回	広告企画の方法	広告表現開発の基本知識、ノウハウ
第 4 回	事例分析のオリエンテーション	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 5 回	成功した広告の事例分析	成功理由を詳細な表現分析によって解明
第 6 回	広告制作テーマの選定	広告表現開発のテーマ決定
第 7 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (1)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 8 回	市場環境分析と競合広告表現の分析 (2)	広告対象商品の問題点と課題の抽出とターゲットの設定
第 9 回	生活者インサイトの発見 (1)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 10 回	生活者インサイトの発見 (2)	訴求ターゲットに対する定性・定量調査実施、分析 (観察調査などのフィールドワーク実施)
第 11 回	広告企画書へのまとめ	ブリーフシートへのまとめと広告表現開発の前提の確認
第 12 回	キャッチコピー開発	広告のキャッチコピーを作成
第 13 回	レトリックの技法	表現のテクニックであるレトリックの技法習得
第 14 回	広告表現案作成	ブリーフシートにもとづいた広告表現開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
広告に関する基礎知識および事例に関する情報は、事前に予習を行なう。日常生活において広告、映画、TV ドラマを積極的に視聴する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜資料を配布する。

【参考書】
小沢正光『プロフェッショナル・アイディア』（インプレスジャパン、2007 年）
小沢正光『プロフェッショナル・プレゼン』（インプレスジャパン、2008 年）
適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点（70 %）、最終課題となる広告制作表現（30 %）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】
・初回授業に出席して、担当教員の受講許可を得ること。
【受講者への要望】　全ての回に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望する。なおオフィスアワーは、火曜日の昼休み、青木の研究室にて実施。
教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映して授業をすすめる。

【Outline (in English)】
Students will participate in hands-on activities of planning and producing a specific TVCM to understand the information structure of advertisement communication that links business with consumers.　They will learn the essence of message creation, i.e. how to formulate the intention of marketing and convert it to an impactful advertisement expression that would arouse people's sympathy, before delivering it.
Through practical training, students will develop their advertising communication skills and reach a level where they can plan basic communications, so they will be able to use materials and data analysis to develop specific advertising communications that provide solutions to advertising issues. The goal is also for students to be able to make persuasive and effective presentations.
Students will learn basic knowledge about advertising and case studies in advance.　They will also actively view advertisements, films, and TV dramas in their daily lives. The standard preparation and review time for this class is one hour in total. The evaluation will be based on ordinary points (70%) and the final assignment of advertisement production expression (30%).

COT200EA

プログラミング初級

湯本　正実

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**火 4**/Tue.4
備考（履修条件等）：**受講許可が必要。詳細は「クラス指定科目・抽選科目・受講許可科目について」参照。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プログラミングの基礎学習。Java + Eclipse、Python の基礎を学ぶ。

【到達目標】
プログラミングの共通の基本部分や概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち，DP2・DP4 に関連。　DP についてはこちら　https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/

【授業の進め方と方法】
初学者を対象とした授業である。主に Eclipse(開発用ソフト) を利用し、Java 言語を基本から学ぶ。また、Python 言語の基礎部分も学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	紹介 前編	Java 中心のプログラミング用語の概説
第 2 回	紹介 後編	プログラミングで何が出来るか。
第 3 回	変数	紛らわしい用語だが重要な要素。
第 4 回	構成	プログラムの構成要素。
第 5 回	既存のものの流用の仕方	「修行」は不要。
第 6 回	動かすための書き方	プログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある。
第 7 回	読み書き	「ファイル」という概念。
第 8 回	画面プログラム　前編	画面作成の基礎。
第 9 回	画面プログラム　中編	画面作成の続き。
第 10 回	画面プログラム　後編	画面と実動作を結び付ける。
第 11 回	コンピュータの外部からアクションを起こす	イベントの話。
第 12 回	Python　その 1	スクリプト言語の紹介。
第 13 回	Python　その 2	計算等の機能。
第 14 回	Python　その 3	繰り返し等の機能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】
指定なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30% 提出課題： 70% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
有効な意見は、講義に反映する。

【学生が準備すべき機器他】
教室の教材で十分であるが、個人用パソコンの所有者は持参をお勧めする。

【その他の重要事項】
現役の IT エンジニアである教員が、実務経験で得た知識を講義する。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
Basical study for programming. Study basic part of Java + Eclipse and Python.
【Learning Objectives】
Understand the basics of programming.
【Learning activities outside of classroom】
The preparatory study and review time is approximately 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Class performance rating: 30% Submission assignment: 70%.

MAN100IA

経営学

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というものがどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。
本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。
また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。
「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということを基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。
講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

【到達目標】
経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらいながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。
今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。
学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。
各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。
各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略 (1) ：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性について。
7	経営戦略 (2) ：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略 (3) ：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。
9	経営戦略 (4) ：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論 (1) ：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論 (2) ：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論 (3) ：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。
経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。
講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
講義外の自主学習のために以下の著書をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。
・加護野忠雄・吉村典久編『1 からの経営学 第 3 版』碩学舎、2021 年 3 月。
その他参考書については講義内および学習支援システムにおいて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
本講義の成績は次の 5 点に基づいて評価します。
1. 講義への参加（10 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。
2. リアクション・ペーパーの提出（10%）
講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。
3. 基礎用語・時事用語回答の提出（10%）
講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。

4. 課題レポートの提出（30 %）
　講義の進行にあわせて 3 回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。
5. 期末レポート（40 %）
　講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】
　経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。
　講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。
　毎年講義中に提出してもらっているリアクションペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用して独自テキストや配布資料の確認、課題提出を行ってもらいます。

【その他の重要事項】
・企業において株主総会を中心とした IR 業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。
・現在、自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This business management class is designed for students who study for the first time to understand the basics knowledge of business administration.Students learn how business science theory is applied to the corporation activities, which is very familiar in their daily life.This class is focused on management strategy and organization theory with variety of case studies. Various cases studies are provided to support deep understanding of the corporate activities and their business operations.
2.Learning Objectives
Business Administration can be regarded as the study of a specific area of corporate activity. However, it is very familiar in our private life, because we use goods or services as the products of suppliers' corporate activities. The goal of this lecture is to understand the basics of business administration as familiar matters.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Students are given an assignment to look up basic terms related to business administration or current terms related to corporate management. Students present their research results and findings during the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Grades for this course will be based on the following five points.
1)Lecture participation (10%)
Active participation in the lecture will be evaluated.
2)Submission of reaction paper (10%)
Submission of a reaction paper summarizing thoughts and opinions on the lecture content after the lecture.
3)Submission of answers to basic and current terminology (10%)
For each lecture, students are required to research basic terms related to business administration and current terms related to corporate management, and submit the results of their research.
4)Submission of assignment reports (30%)
Students will be asked to prepare three reports as the lecture progresses. Must be submitted by the due date. Reports will be evaluated based on the content of the lecture.
5)Final report (40%)
Prepare and submit a report applying what you have learned in the lecture.

SOC100IA

コミュニケーション論

山本　浩

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 4/Fri.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「コミュニケーション」。人類が隣人を意識し始めたときに、すでにその行為は始まっていた。それから先いつの時代にも、人と人とをつなぐツールとして、自分を主張するために、未知の情報を取得する目的で、コミュニケーションはさまざまな様相を見せながら私たちの前に現れる。時代とともにコミュニケーションには、質も量も充実したものが求められるようになっている。一人一人の能力を推し量る材料になり、関わる者の要求が高くなったからでもある。社会の構成員に期待されるコミュニケーションとはいったい何か。「マス」「ミニ」「ソーシャル」「コーポレート」さまざまな語とともに語られるコミュニケーションを、文字やことばのやりとりを超えた普段意識の及ばない切り口で捉え、ときには実践を経由しながら、その現代的ありどころを把握する。

【到達目標】
「なぜ重視されるのか」「どこが重要なのか」「どんな手段を用いるべきか」。多様な形でやりとりされるコミュニケーションの実態を把握するには第一に「場所」と「構成メンバー」、それに「時間軸」の考慮が欠かせない。そこを理解すれば、技法としてのコミュニケーション力はひとりでについてくる。影響を及ぼすのはさらに「ツール」「環境」「資金」そして「世界観」。認識の度合いが人によって異なり、伝えるべき相手の周囲を複雑な要件が取り巻いていることを理解した上で「読む」「聞く」「見る」力の確認と、「書く」「話す」「伝える」力のシェイプアップ、そして全体から部分に至るまで、情報のやりとりの基本原則を身につけ、“受け取り”“発信する”能力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式をとる。授業中、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。授業後、提示したスライドは教員が学習支援システムにアップロードする。授業内には、その日の講義に関連付けた課題を用意する。
受講生には、理論を確かめたあと実際にコミュニケーション能力を発揮してもらう機会を用意する。自ら聞き、話すアクティブなコミュニケーション行動の実践を試みる一方で、多様なコミュニケーション形態に意識的に関わる時間も準備したい。文章、会話、映像、芸術。人間活動の周りにあるさまざまなコミュニケーション活動をどう読み、それにどう反応するのか。コミュニケーションの具体的な力を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	さまざまな意図~ガイダンスに代えて~	コミュニケーションの考え方を社会学的な見地から考えるだけでなく、身の回りにあるコミュニケーションアクションに意を配ることによって、現代的コミュニケーションがどのように広がっているかを確認する。
2	手段から見たコミュニケーション史	個人から個人へ、個人から特定多数へ、やがて不特定多数へ。知りたい、知らせたい。その意志あって始まったコミュニケーションは、歴史とともに限りない広がりを見せる。手段も媒体も変化を遂げてきた。活字の時代を経て電波に行き着くところまでをまでを考える。
3	人から見たコミュニケーション史	人が集まったところに社会が生まれる。社会が成熟するには、構成要員間の意思疎通が欠かせない。人は何を求めてコミュニケーションにどんな変化を及ぼしたのか。人間に視点を定めて、コミュニケーション史を追う。
4	文字のコミュニケーション	特定の言語を表記する文字が考案されたのは、今から 5000 年ほど前のことだとされる（ジャン，1990）。極めてシンプルなものから、汎用性の高くなったアルファベットまで、文字を介在させない文明はこれまで存在しなかった。コミュニケーションの基本要素たる文字と人間社会との関わりを考察する。
5	電波のコミュニケーション〜ラジオ〜	文字のコミュニケーション全盛の時代に電気信号が分け入ってくる。速報性を武器としたラジオは初め、戦争の道具としてその存在感を高めていった。ひとときの休戦の時代にこのツールは社会に別の影響力を発揮し始める。
6	電波のコミュニケーション〜テレビ〜	情報の密度、その現実との近さにおいてテレビはラジオを凌駕することになった。具体的で、現実に近い。同時性と映像の力をてこに、コミュニケーションを分析する。
7	写真のコミュニケーション（外部講師/予定）	切り取った画角の中に時間を詰め込んだコミュニケーションツール。光、角度、サイズ、明暗、キレと様々な要素が写真の情報を規定する。その構造を考える。
8	映像を考える（外部講師/予定）	ストリーミング、SNS、テレビ番組。あらゆる所に映像がありふれる時代だ。映像の仕組みと構造、編集のヒントなどを学ぶ。
9	動画のコミュニケーション~CMに見るメッセージ~	画面から出てくるCMは、短時間で強い印象を残すことを求められる最も濃い形のコミュニケーション形態である。専門的な視点からその在り方を解析する。
10	公的な場のコミュニケーション ~エントリーシートから挨拶まで~	公的な場を対象としたコミュニケーションは独自の型を持っている。一方で毎日の友人との会話やサークルの送別会でのあいさつとの間には大きな違いがある。コミュニケーション行き交いの特質を知り、伝えの基本を習得する。
11	人前で話す~実施編~	前週で確認した伝えの構造を実際に転用し、人前に立って話しをしてみる。※オンラインの場合はインターネットを通じて試みる。
12	プレゼンテーション	学会発表、計画の提示、新たな提案など社会では、プレゼンテーションが当たり前に求められる様になった。“パワーポイント”や“キーノート”を使ったプレゼンテーションを考える。
13	情報選択とソーシャルコミュニケーション	SNS 中心に動くやりとりが増える一方で、伝統的な情報伝達の世界は、それに促されるように様相を変え始めている。スピードの違いだけでない今日的なコミュニケーション環境について考える。
14	コミュニケーション論総括	講義内期末論文試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
情報や意志の交換のためにコミュニケーションを成立させるには、それなりの方法論が必要だが、それ以上に「何を」を十分に用意しておかなければならない。そのためには、①情報や知識を十分に集め②それを検証し③取捨選択をした上で④合理的に並べ、それを発信する手続きを踏む必要がある。書く、話す，読む力にだけ力点を置いていたのでは、コミュニケーションの重心を探し出すことはできない。取り上げたテーマの周辺に現れるさまざまなトピックに、あらかじめ批判的な目を失うことなく積極的に踏み込んでいくべきである。
狭い世界での情報交換だけでなく、広い視点に立った情報収集に努めること。とりわけ、海外の論調などを現地のサイトに入って、翻訳アプリケーションなどを使いながらでも情報を集めることも勧めたい。この授業の準備学習、復習には各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
・『メディア社会　—現代を読み解く視点』佐藤卓巳　2006 年　岩波書店
・『メディア・コミュニケーション学』橋元良明（編著）2008 年　大修館書店
・『マス・コミュニケーションの世界』仲川秀樹　2019 年　ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
［講義内 1~13］
「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
指名した際、挙手で答えた際の内容によって加点する。
配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ 39 点（3 点/0.1 点刻み ×13）。

［講義内 14］
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 25×2=50 点） には必ず取り組むこと。
［総合評価］すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき 3 回まで。自己都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題よりボリュームの大きいものになる。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
講義内課題の記述時間を広げるように考慮する。

【その他の重要事項】
回数を限定して外部講師を招聘する可能性がある。そのため、ここに記載の講義順が前後することも考慮しておきたい。
＜文献＞
ジャン：矢島文夫（1990）文字の歴史．創元社.

【Outline (in English)】
(Course outline)Communication. The act of communication began when mankind first became aware of its neighbors. In every age since then, communication has appeared before us in various forms as a tool for connecting people, for asserting oneself, and for acquiring unknown information. With time, communication has come to demand a fuller quality and quantity. This is partly because it has become a material for estimating the abilities of each individual and the demands of those involved have become higher. What exactly is the communication expected of members of society?" Mass," "mini," "social," "corporate." This project will take a look at communication, which is discussed in a variety of combining forms, from a perspective beyond the literal and verbal, and grasp its current state, sometimes through practical application.
(learning Objectives)　In order to grasp the reality of the various forms of communication, it is essential to consider first of all "location," "members," and "time axis. Once this is understood, the ability to communicate as a technique will naturally follow. In addition, "tools," "environment," "funds," and "worldview" will also have an impact. After understanding the degree of awareness and the complex requirements surrounding the person to be communicated with, we need to confirm our "reading," "listening," and "viewing" skills, shape up our "writing," "speaking," and "conveying" skills, and learn the basic principles of information exchange, from the whole to the part. Improve the ability to "receive" and "transmit".
(Learning activities outside of classroom)　In order to establish communication for the exchange of information and will, a certain methodology is necessary, but more than that, the "what" must be adequately prepared. For this purpose, it is necessary to (1) gather enough information and knowledge, (2) verify it, (3) select and discard it, (4) arrange it rationally, and (5) follow procedures to transmit it. If we focus only on writing, speaking, and reading skills, we will not be able to find the center of gravity of communication. We should actively explore various topics that emerge in the vicinity of the topic we cover without losing our critical eye in advance.
We should not only exchange information in a narrow world, but also try to collect information from a broad perspective. In particular, we recommend that you visit local websites and use translation applications to gather information on foreign opinion, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria/Policy)The sum total of the evaluation of "assignments for each lecture" and "in-class examinations to be set during the final lecture time" will be the factor for credit approval.
Face-to-face: "Assignments for each lecture" will be written and submitted on the spot within the designated time during the lecture time (since they require writing in a relatively short period of time, students are encouraged to develop their writing skills on a regular basis).
Points will be given according to the content of the answers given by nomination or by raising hands.
Score: 39 points (3 points/0.1 point increments x 13) for each of the 13 assignments in the lecture, excluding the final day, if the student continues to receive full marks.
The final paper exam (20 points for term/phrase questions, 25 x 2 = 50 points for the essay) must be taken in the final lecture.
If all are perfect, 109 points will be awarded.
For students who represent the school during regular lectures, or who are absent due to illness or unavoidable absences from weddings and funerals, an additional report assignment (maximum 3 points) will be posted via the Learning Support System after the final exam in lieu of the in-class assignment (e.g., the default document, designated Athletic Association documents, funeral cards, copies of receipts dated from medical institutions, etc.). and copies of dated receipts from medical institutions, etc.]. However, this condition applies only up to three times per person. Absences for personal reasons are not eligible for relief. In this case, the report will be more voluminous than the regular in-class assignments.
The final exam, an important component of the credit, is scheduled on the last day of class, not during the exam period, so please be sure not to miss it.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】

情報活用能力を高めるため、コンピュータや情報処理の基礎知識を習得する。コンピューターなどの機器やインターネットの仕組みを理解してもらいます。

電子メールの送受信の基本操作を習得し、活用できるようにする。

ワープロソフトの基本操作を習得しながら、レポートや論文など各種文書作成に必要な編集操作や、文章表現も学びます。

プレゼンテーションソフトを用いて、効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行うための基本的なスキルを身につける。

インターネットを安全に活用するために必要なセキュリティや情報倫理の基礎的な内容を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。

講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加（50 %）

積極的な講義への参加が評価対象です。前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容（50 %）

講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】

自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives
To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.
While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50 %）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50 %）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】

情報活用能力を高めるため、コンピュータや情報処理の基礎知識を習得する。コンピューターなどの機器やインターネットの仕組みを理解してもらいます。

電子メールの送受信の基本操作を習得し、活用できるようにする。

ワープロソフトの基本操作を習得しながら、レポートや論文など各種文書作成に必要な編集操作や、文章表現も学びます。

プレゼンテーションソフトを用いて、効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行うための基本的なスキルを身につける。

インターネットを安全に活用するために必要なセキュリティや情報倫理の基礎的な内容を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。

講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加（50 %）

積極的な講義への参加が評価対象です。前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

2. 課題の提出およびその内容（50 %）

講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives
To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.
While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50 %）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50 %）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA

情報リテラシーⅠ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。
また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。
コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】
情報活用能力を高めるため、コンピュータや情報処理の基礎知識を習得する。コンピューターなどの機器やインターネットの仕組みを理解してもらいます。
電子メールの送受信の基本操作を習得し、活用できるようにする。
ワープロソフトの基本操作を習得しながら、レポートや論文など各種文書作成に必要な編集操作や、文章表現も学びます。
プレゼンテーションソフトを用いて、効果的で説得力のあるプレゼンテーションを行うための基本的なスキルを身につける。
インターネットを安全に活用するために必要なセキュリティや情報倫理の基礎的な内容を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウエアの歴史、ハードウエア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウエアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2） パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3） パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するために課題を出します。
講義内では伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供します。講義以外の時間を利用して確認ください。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】
・岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。前期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義ごとに課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】

自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用のなどの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

1.Course outline
This is an introductory computer literacy class and students learn the basics knowledge of information processing technology.This class is aimed at learning information processing such as computer, networks and its operation.Students acquire the knowledge and skills various media, which would benefit them in various occasions.
2.Learning Objectives
To acquire basic knowledge of computers and information processing in order to enhance the basic ability to utilize information. They will understand computers and other devices and how the Internet works.
Acquire and be able to utilize basic operations of sending and receiving e-mail.
While learning the basic operations of word processing software, students will also learn the editing operations necessary for creating various types of documents such as reports and papers, as well as written expression.
Acquire basic skills to make effective and persuasive presentations using presentation software.
This course provides the basic security and information ethics contents, which is essential to utilize the internet safely.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・Some topics, like morals and ethics in handling information, are not covered in the classroom, and reference text is provided for them. Please check them and ask any unclear points to utilize these essential items in the course.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50 %）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50 %）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019 年 1 月。
豊田裕貴『これ一冊で完璧！　Excel でデータ分析 即戦力講座』秀和システム、2016 年 3 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】

自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
1. Course outline
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming. Students learn some basic analysis method and how to deal the data effectively with the spread-sheet software. In addition, some basic programming is lectured.
2.Learning Objectives
The goal of this course is to provide additional utilization skill of computer, so that the students can process big data, by analyzing or visualizing the factors to reach the conclusion.
3.Learning activities outside of classroom
・Students are expected to read the materials prior to the lecture. The content of each lecture is based on the material.
・Assignments will be made to confirm understanding of the operations reviewed in the lecture.
・The standard preparation and review time for this lecture is 2 hours each.
4.Grading Criteria /Policy
Lecture grades will be based on the following two points.
1)Participation in lectures（50 %）
Active participation in lectures is the object of evaluation. Five absences will not be considered for grading.
2)Submission of assignments and its contents（50 %）
Students are required to prepare an assignment for each lecture and submit it. The evaluation is also based on whether the work is completed in a way that reflects the content of the instructions given in the lecture. Students will also be asked to respond to assignments to confirm what you have learned.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。
表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。
データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。
講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。
講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】
学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。
講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】
岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019 年 1 月。
豊田裕貴『これ一冊で完璧！　Excel でデータ分析 即戦力講座』秀和システム、2016 年 3 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。
講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】
・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】
自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming.
Based on what's learned in Information literacy I, students will learn how to process data which is necessary for publications, reports and statistical analysis on computer and how to utilize the data. Students will learn the skill which would help them in various occasions.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海　貴弘

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、この講義で利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 テキストデータの利用。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。
11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解,AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための課題を課します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『改訂新版　よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。
平井明夫『Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド』技術評論社、2019 年 1 月。
豊田裕貴『これ一冊で完璧！　Excel でデータ分析 即戦力講座』秀和システム、2016 年 3 月。
その他参考書などについては講義内にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

1. 講義への参加（50 %）
積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
2. 課題の提出およびその内容（50 %）
講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。学習した内容の確認するための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【学生が準備すべき機器他】

・講義について「情報実習室」にて実施し、各自デスクトップ PC を利用し操作を行ってもらいます。
・学習支援システムを利用して配布資料の確認や課題提出を行ってもらいます。
・オンライン講義になった場合、受講生の環境下にて講義で使用予定のアプリケーションが PC で使用できる必要があります。（オンライン講義が実施される場合は事前に注意事項を説明します。）

【その他の重要事項】

自身で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline (in English)】
This is an advanced class of Information Literacy I. This class is aimed at learning basic skill of spreadsheet software, analytical functions such as regression analysis and the basics of programming.
Based on what's learned in Information literacy I, students will learn how to process data which is necessary for publications, reports and statistical analysis on computer and how to utilize the data. Students will learn the skill which would help them in various occasions.

SOC100IA

障害者福祉論

山岸　倫子

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**土** 1/Sat.1
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての「一般的な」イメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるを学ぶ。

【到達目標】
・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
・障害者の生活実態について知ることができる。
・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1〜3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク他	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関係する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。
10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、各回に提示する課題、テーマについて、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的事象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加　30 %：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。出席回数が 3 分の 2 以下のものは不可とする。
課題の提出　30 %：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを 3 回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。
期末試験　40 %：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】
2023 年度においては、課題を増加し、全 15 回を通して連続性をもって知識を習得できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
コロナウイルスに関する社会情勢によっては、オンライン（オンデマンド方式）に変更予定。音声等ファイル等の使用や動画は検討していないため、基本的なインターネット環境があれば対応可能。

【その他の重要事項】
社会福祉士として、市役所、社会福祉法人にて、現場、運営管理の経験がある。生活保護及び、社会福祉全般についての総合的な支援活動を通して、学生が、障害者福祉並びに福祉全般への問題意識を持てるような講義を展開する。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with definition of disability,legal system and history from the viewpoint of sociology.
【Learning Objectives】The aim of this course is to heip acquire an understanding of the "disability"and"disability people".
【Learning activities outside of classroom】You are expected to think and read about the topics covers in class.
【Grading Criteria /Policy)】Actively attend class:30% Submit assignment:30% Final exam:40%

HSS100IA

基礎科学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**視野形成科目（必修選択）・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**火** 2/Tue.2
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】
科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目 (実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
生理学、生化学、解剖学等の理解に必要となる、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数理処理について解説する。
運動生理学を学ぶ前段階と位置付けている。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生物とは	生命の誕生と進化について学習する。
3	無機質について	物質を構成する原子や中性子など、水に代表される無機質について学習する。
4	生体を構成する物質（1）	生体に関する糖質の構造について学習する。
5	生体を構成する物質（2）	生体に関する脂質の構造について学習する。
6	生体を構成する物質（3）	生体に関するタンパク質について学習する。
7	生体を構成する物質（4）と生物の誕生	生体に関する核酸の構造、生物の誕生と進化の関係について学習する。
8	生体内での酵素について	生体内での酵素の働きについて学習する。
9	ビタミン	生体内でのビタミンとミネラルの働きについて学習する。
10	生体膜と消化管	生物に必須である生体膜と消化管について学習する。
11	器官	生体内の器官についてその役割を学習する。
12	代謝（1）	糖質の代謝について学習する。
13	代謝（2）	脂質の代謝について学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
イラスト 基礎からわかる生化学: 構造・酵素・代謝　（裳華房）

【参考書】
シンプル生化学　（南江堂）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（100%）
理解度を確認するために適時小テストを行う予定
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
可能な限り運動生理学を履修する前に本単位を修得することを強く推奨する。教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識・思考方法を講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
We give a lecture about basic science that study scientific knowledge and consideration methods necessary to learn sports medicine and science.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand about the base of sports medicine and science included in the curriculum of the Faculty of Sport and Health
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%).

PHL100IA

スポーツ哲学

小田　佳子

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 2/Mon.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では「体育とは何か？」「スポーツとは何か？」を考える上で必要な原理・原則について知識を深める。スポーツそのものが持つ価値や社会で果たす役割等について、自らの言葉で語ることができることを目標とする。
スポーツに携わる者は、今後、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られるであろう。
「人はなぜスポーツに魅せられるのか？」「スポーツの魅力とはいったい何なのか。」
自分にとってのスポーツとはどのようなものであり、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについて、より深く考えることがスポーツ科学の専門家には求められる。

【到達目標】
スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。「プレイとは」、「指導者とコーチの違い」、「フェアプレイとは」、「ドーピングとは」、「部活動の課題は」、「オリンピックとオリンピズム」などスポーツを取りまく諸課題に関し自分の言葉で語ることのできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動を通して行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取り組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。
　テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P. を使用したスクール形式の一斉対面授業を行う。
　本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。
　スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育・スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何かを考える
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要 (なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える)
5	オリンピックとオリンピズム②	近代オリンピックが目指したものは何か、TOKYO2020 の現状と課題を踏まえて考える
6	運動部活動の意義と課題	運動部活動にはどのような意義や課題があるのか、「部活動改革」のあり方を考える
7	スポーツと勝利至上主義	スポーツにおける「勝利至上主義」という問題性について自己の経験から考える
8	e スポーツ（ゲスト講師）	e スポーツはスポーツか、e スポーツの歴史と現状とその問題点を学ぶ
9	法政大学と箱根駅伝（ゲスト講師）	法政大陸上部の箱根駅伝への取組、その歴史と学生スポーツとしての問題点を考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことなのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史とアンチ・ドーピング活動の必要性、現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	スポーツ哲学から学び①（発表・評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
13	スポーツ哲学から学び②（発表評価）	オンラインを活用して「スポーツ哲学」の学びを発表する
14	まとめ (半期を通しての振り返り)	まとめ (半期を通しての振り返り) 及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スポーツに関するニュースや新聞記事等を教材として使用するため、各授業のテーマに関する情報収集を心がける。授業では毎回、課題を提示し、哲学的思考と共に記述し、次回の授業では自らの言葉で発表する。
本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
「教養としての体育原理　新版　-現代の体育・スポーツを考えるために-」
友添秀則・岡出美則編　大修館書店　新版第 1 刷 (2016 年 7 月)
また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】
授業内における学生自身の意志に基づく意見（発言）は、授業への積極的参画として評価に加味する。授業におけるレポート等 (30%) に加え、定期試験の成績 (70%) による総合評価を行う。授業出席回数が授業実施の 2/3 未満の学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
各授業内容の提示資料等をもう少し工夫し、講義内容の充実を図りたい。
多人数の大講義であり、各学生がそれぞの課題に真摯に取り組み思考が深められるような場の設定や授業環境を整えたい。

【その他の重要事項】
中・高の学校現場で保健体育・英語の教員として 15 年勤務し、その内 4 年間は文部科学省派遣で海外の在外教育施設の小中一貫校で勤務した。
※新型コロナウィルス感染拡大による授業形態等の変更には、柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
In this lecture, we discuss Sport and Physical Education. This course is designed to deepen students' knowledge of the principles and basic necessary for considering "What is Physical Education?"and"What is Sport?"
The goal is for students to be able to speak in their own words about the value of sport itself and the role it plays in society.
Those involved in sports will need to talk about sports in their own words in the future.
Why are people attracted to sports? What exactly is the appeal of sports?"
Sport science specialists are expected to think more deeply about what sport means to them and the various ways in which they can be involved in sport, depending on their objectives.
(learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
・Your overall grade in the class will be decided based on the following term-end examination(70 %),Short reports(20%) and in class contribution(10%)

SOC100IA

スポーツ史

山本　浩

カテゴリ：**専門基礎科目（講義科目）・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　配当年次／単位：**1 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**金 1/Fri.1**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生履修不可**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「歴史」と聞けば、年代暗記を頭に思い浮かべる人間がいるのではないか。スポーツ史は、その出来事がいつ起こったのかを問う学問ではない。過去に遡りながら、それがどのように今を構成しているのか。喜びの瞬間がなぜ訪れたのか、悔し涙は何が原因でこぼれたのか。一つ一つの出来事を、小さな事象から大きなうねりにまで引いてみることで社会の構造を知り、人間の何たるかを解析する。スポーツの持つエネルギーを知り、スポーツ史を概観し、私たち自身が社会にどう立ち向かってきたのかを知ることを目的とする。

【到達目標】
スポーツの起源を暦の中に正確に指し示すことは不可能である。私たちにできるのはせいぜい、スポーツの持つ要素を見いだせるアクションや痕跡が、古くはどこまでたどれるかを指摘すること。そこから今に到達するまでの過程で、自然や戦争や経済や外交がいかにスポーツを取り巻いてきたか。それを解き明かすところに講義の目標の一つは設定される。
勝負の基本原則（強い者が勝ち、速い者が栄冠を授かり、優れた戦術を身につけた集団がたたえられる）をわきまえた上で、何が大切にされ続け、何が変わらずにいられなかったのか。節目節目で影響を与えてきたさまざまな要件を調べ上げたとき、その延長上に、今につながるスポーツ世界を体得することが可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、受講生を指名して問いかけに答えてもらうことがある。
スポーツ史の序盤は年代、文明、地域によるカテゴリーで、その後競技群ごとのジャンル別史の講義ベースで進める。受動的な時間ばかりにならないよう、受講生の積極的な発言を期待している。その上で毎回筆記を求める課題には、自らの持つ世界観、歴史観を、スポーツ史の中に示す習慣を身につけてもらいたい。世界の歴史や日々の出来事にも深い関心を持つことがスポーツ史の理解を促進してくれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	［全体ガイダンス］	講義の進め方を伝え、受講のために求められる姿勢や世界観を提示する。この段階では、スポーツの定義に始まって遊びや祭りとスポーツの違い、それに文明発生後の “スポーツ的” 行動を見る。
2	［古代オリンピック］	スポーツ史の輝かしい幕開けは、古代オリンピックに集約される。紀元前 776 年に始まる歴史的イベントは現代のスポーツを占う上でつぶさに見ておく必要がある。
3	［戦いの世界と中世のスポーツ］	古代オリンピックが途絶えてから、欧州は宗教と王侯貴族の時代に突入する。その中で、支配階級に支えられたスポーツの流れ。やがて裕福な市民にまで及ぶ中世の状況をたどる。
4	［近世のスポーツ］	ルネッサンスを超えて産業革命の時代へ。この流れがスポーツに与えた影響には計り知れないものがある。人口増加、交通手段の発達、大量の情報伝達とさまざまな社会の変化が、スポーツを急激なスピードで広めていく力になった。
5	［フットボールの歴史］	歴史的に「フットボール」イコール「サッカー」ではない。ボールを蹴るスポーツの中で１９世紀にいち早くルールを統一した組織は今日のサッカーにつながっている。これに対して、ラグビーは新たな動きを始める。フットボールの歴史を今につなぐ。
6	［近代オリンピック（１）~戦前編~］	第一回近代オリンピックはギリシャで開催された。理想に燃えたクーベルタンと、現実の大会運営にはしばしばギャップがあったとされる。世界がオリンピックをいかに受け入れていったかを見る。
7	［近代オリンピック（２）~戦中から戦後へ~］	オリンピックは、第二次世界大戦を挟んで、世界のスポーツ界をリードする形で回を重ねてきた。中でも６４年の東京大会が私たちに残した遺産は大きい。政治の介入を受けながらも隆盛の時代を歩んだオリンピックを振り返る。
8	［現代のオリンピック］	現代のオリンピックは、その変化の始まりを８４年のロサンゼルスに見る人が少なくない。商業化といわれた大会から今日まで、オリンピックの変わり様を縦覧する。競技力向上策、その過程で生まれたドーピングにも目を向ける。
9	［陸上/水泳競技の歴史］	身体を動かし始めたときに最初に競うアクションは、何をおいてもまず走るところにある。水辺の国民たる私たちに水泳もまた身近な行動であった。陸上競技と水泳競技に個人スポーツの歴史をたどる。
10	［野球の歴史］	アメリカから学んだ野球は、近代日本のスポーツシーンを支える重要な競技として受け継がれてきた。学生からプロ、そしてメジャーリーグ。学校を舞台にした野球の歴史は、日本のスポーツ教育史とも重なっている。
11	［相撲・武道の歴史］	日本書紀の時代に起源を見る相撲は、今に残る文化遺産のひとつだ。日本起源のスポーツには武道もある。学校体育の中にも取り入れられた武道の歴史と合わせて考える。
12	［学校体育の歴史］	限られた者たちのスポーツから国民の体育へ。２０世紀が近づくにつれ、私たちの身体作りは大きな変化を迎えた。戦争の時代を経ながら体育史は大きなうねりを見せる。
13	［障がい者スポーツの歴史］	障がい者スポーツの最大の祭典は今、４年に一度のパラリンピックに集約される。その最初の一歩は、イギリスのストーク・マンデビル病院にある。第二次世界大戦で脊髄を損傷した患者を集めて行ったスポーツ大会にある。紆余曲折を経ながら次第に存在感を増す障がい者スポーツの流れを追う。
14	総括および論文（講義内試験）	スポーツ史観を総括し、講義内のテスト/論文で答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現代のスポーツ史は、政治史、経済史、社会史なしには語れない。理解を深めるためには、スポーツの周りの世界に広く視野を取ること。自分で打ち込むスポーツがある者は、最新の映像でもたらされるアスリート周りの瞬時のアクションと、勝負の後の振る舞いにも目をこらしてみよう。学びを進めるうちに準備学習・復習時間は 2 時間では足りなく感じることだろう。

【テキスト（教科書）】
なし (必要があれば資料は別途用意する)。

【参考書】
「２１世紀スポーツ大事典」中村敏雄編集主幹　大修館書店　2015 年
「体育・スポーツ史概論」木村吉次著　市村出版　2015 年
「スポーツ歴史の検証　オリンピック・パラリンピック～文化と歴史を見つめる～」（公財）笹川スポーツ財団　2021 年
スポーツ史、世界史、日本史などとともに、歴史に関わる地図を参考書として用意しておくと理解の促進を助けてくれる。

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
［講義内 1~13］
「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
指名した際、挙手で答えた際の内容によって加点する。
配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ　39 点（3 点/0.1 点刻み ×13）。
［講義内 14］
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 25×2=50 点）　には必ず取り組むこと。
［総合評価］すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する［既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと］。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき３回まで。自己都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題よりボリュームの大きいものになる。

単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
講義の中の説明の時間を十分にとりながら、受講者の声を聞く機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
講義では、パワーポイント、ＤＶＤ､映像資料などを使う。学生の側で準備を必要とするような機器はない。

【その他の重要事項】
受講生は，自分の打ち込む（興味関心のある）スポーツの歴史には、一通りの理解をしておくこと。
かつて放送局でスポーツに関わる解説委員をしていた教員が、長年の取材を通じて獲得した近現代史の現実を講義する。

【Outline (in English)】
(Course outline)The FIFA world cup in Qatar waits for their opening ceremony in half a year, though we had etched memories on the Tokyo Olympics. However, once looking back in history, you could find that sports did not develop smoothly. It was only 80 years ago as the sports suffered a great damage from the world war. Where could you find the origin of our sports? The requirement of the class is to catch up the way we walked along, by inquiring around the history of sports and to check how our society have treated the sports in the past.
(Learning Objectives)　It is impossible to pinpoint the origins of sports in our calendar. At best, we can only point out how far back in time we can trace the actions and traces of the elements that we can find in sports. How nature, war, economics, and diplomacy have surrounded sports in the process of getting from the ancient times to the present. One of the goals of the lecture will be to reveal this.
Aware of the basic principles of competition (the strongest win, the fastest are crowned, and the group with the best tactics is honored), what has remained important and what has remained the same? When we examine the various requirements that have influenced each milestone, by extension, we can acquire a view of the sporting world that is relevant today.
(Learning Activities outside of Classroom)　Modern sports history cannot be told without political, economic, and social history. To deepen your understanding, take a broad view into the world around sports. For those of you who have your own sports to play, keep an eye out for the instantaneous action around athletes and their post-game behavior as brought to you by the latest video footage. As you learn, you will find that two hours of preparation and review time is not enough.
(Grading Criteria/Policy)The sum total of the evaluation of "assignments for each lecture" and "in-class examinations to be set during the final lecture time" will be the factor for credit approval.
Face-to-face: "Assignments for each lecture" will be written and submitted on the spot within the designated time during the lecture time (since they require writing in a relatively short period of time, students are encouraged to develop their writing skills on a regular basis).
Points will be given according to the content of the answers given by nomination or by raising hands.
Score: 39 points (3 points/0.1 point increments x 13) for each of the 13 assignments in the lecture, excluding the final day, if the student continues to receive full marks.
The final paper exam (20 points for term/phrase questions, 25 x 2 = 50 points for the essay) must be taken in the final lecture.
If all are perfect, 109 points will be awarded.
For students who represent the school during regular lectures, or who are absent due to illness or unavoidable absences from weddings and funerals, an additional report assignment (maximum 3 points) will be posted via the Learning Support System after the final exam in lieu of the in-class assignment (e.g., the default document, designated Athletic Association documents, funeral cards, copies of receipts dated from medical institutions, etc.). and copies of dated receipts from medical institutions, etc.]. However, this condition applies only up to three times per person. Absences for personal reasons are not eligible for relief. In this case, the report will be more voluminous than the regular in-class assignments.
The final exam, an important component of the credit, is scheduled on the last day of class, not during the exam period, so please be sure not to miss it.

SOC100IA

スポーツ文化論

山本　浩

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**金** 1/Fri.1
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なります**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「スポーツとは文化なのか」。繰り返されてきた問いへの答えを探そうとするのがこの講義の狙いではない。スポーツはいま、アスレティックであるだけではなくなった。そこには政治、経済、社会が影を落とし、世界中で人々の関心を恒常的に引きつけるものになっている。商品価値、娯楽性、精神性をちりばめながら、あるときは道具、あるときは極めるべき深奥の道。スポーツの具有する様々な要素を子細に見つめ、それを再構成して改めてスポーツがどんな形を取り始めているのかを考えとき、そこにスポーツの持つ現代性が透けて見えてくる。文化は、時代の波を乗り越えて初めて文化たり得た。スポーツとスポーツを取り巻く事象に、時代を超えて未来に受け継がれる価値があるのを確認する。

【到達目標】
スポーツを勝敗の観点だけから評価するのではなく、優劣の結果だけを見つめるのでもなく、社会の中で時間とともにその存在感を増してきたのはどんな理由があってのことなのか。美点を取り上げながら、ときどき暴かれるさまざまな不正にも目を向けることで、スポーツの持つ特性を再認識できるようにすること。記録やファインプレーの価値を現実のものとするために、人々や周りの仕組みがどのように機能しているのか。個人の努力とサポート世界の知恵がいかにうまく機能し合ってきたのか。現代スポーツの成果を支える社会の分析を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と受講生への問いかけから構成される。スライドソフトを使った講義に毎回の小論をベースに、タイミングを見て席の近い受講生間での意見のやりとりを組み込む。持論を展開するためには、法のあり方、金銭の巡り、社会の反応に敏感でなければならない。日本スポーツを規定する基本法に始まって、さまざまな切り口を毎週の講義で展開し、「勝つ」「負ける」だけでないスポーツの実態を多面的に理解することが狙いである。注意すべきことは、日本のスタンダードをいきなり世界に適用しない。世界の水準から日本を推し量らない。ルール、レギュレーション、組織の寄付行為、法的な側面のチェックと、海外の動向にもアンテナを張っていきたい。
それぞれが、自分のスポーツの持つ文化性をこれまでと違ったフィルターで見られるような完成系を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　スポーツの文化性	スポーツ文化の考え方を概観し、講義の内容と流れを伝達する。
2	スポーツを巡る施策	平成 23（2011）年に公布されたスポーツ基本法には、スポーツ基本権が謳われている。この権利を法文に明記したことは極めて大きな意味を持つ。一方で、競技団体の未成熟なガバナンスの為に起こる不祥事があって、たびたび国の指導を受けてきたのも日本スポーツ界の現実だ。スポーツと政治との関わりを理解する。
3	スポーツ振興を考える	1964 年東京で開催された東京オリンピックこそが、日本の現代スポーツの出発点だ。それを支えたのがスポーツ振興法であり、体育の日であった。プロ化の始まる前のスポーツ観が、現代スポーツの中にどう生かされているのかを習得する。
4	スポーツの商品化	オリンピックにプロが入り始めるのが 1980 年代。オリンピック憲章からプロフェッショナル排除の文言が消えるのと前後して、スポンサーやプロフェッショナルがスポーツの世界になだれ込んでくる。ビジネスにまでなった現代スポーツの転回点を確認する。
5	スポーツと科学	スポーツを体験から捉えるだけでなく、科学がスポーツに近づくことによってスポーツの現代性は実現した。科学とスポーツとの連携を検証する。
6	オリンピック・パラリンピックに学ぶ	日本がオリンピックに最初に登場するのは、1912 年のストックホルム大会。以来、オリンピックを目標に国内競技スポーツは強化を進めてきた。オリンピックに牽引された日本のスポーツ強化を総括する。
7	スポーツに国の威信をかけて	東西が対決した冷戦時代。スポーツは国が総力を挙げて支援すべきツールとなった。70 年代から 80 年代にかけて、国家の道具となった時代を振りかえる。
8	世界選手権とスポーツ組織	競技団体にとっては競技普及、競技力向上とともに健全経営が大きな課題となっている。メガイベントに向かう組織のあり方を把握する。
9	国体と企業スポーツ	日本の競技スポーツは、長い間、国体に焦点を当てながら進んできた。教育を巻きこんだ強化が都道府県ベースでどのように発展してきたのか。戦後の 75 年を分析する。
10	子どものスポーツ環境	どの国も子どものスポーツに対する働きかけには力が入っている。海外の事例を参考にしながら、子どものスポーツ環境を考える。
11	スポーツクラブ	日本の総合型地域スポーツクラブのモデルは、ドイツのスポーツクラブに求めることができる。しかし、70 年代から 80 年代のドイツのクラブと、現在のそれには大きな違いがある。スポーツクラブがスポーツにどう関わってきたのかを確認する。
12	オリンピックと競技力	オリンピックの度にメダル争いに関心が高まる。しかしこの傾向は、オリンピックの創始者クーベルタンの思ったところではない。それぞれの国の思惑とメディアの傾向が、この流れを加速させている。競技力強化の観点からオリンピックをチェックする。
13	オリンピックと報道	クーベルタンは、第一回の近代オリンピックが始まる前から、ジャーナリストの存在にある種の期待を抱いていた。活字メディア中心の時代であったがそれが 100 年を経るうちに、今までとは全く違った様相を見せるようになる。オリンピックとメディアの関係を探求する。
14	まとめと講義内試験	半期にわたるスポーツ文化論を総括する講義内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心を持つ競技の成り立ちや、そのスポーツが抱えている課題など、あらかじめ情報を取得しておくこと。その競技が、いつ、どこで、どのようにして生まれ、現在のような形に立ち至ったのかを知ることは、スポーツ全体の文化性を概観するときに、有用なヒントになる。そうした知識は、他のスポーツとの差異を見極めるのに有効で、やがてはスポーツ全体を立体的に浮かび上がらせてくれる。
スポーツ文化論の受講にはあらかじめ視野を広くとっておく必要がある。関わる案件が膨大だからだ。そのためには、準備・復習にそれぞれ少なくとも 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
「現代スポーツの論点」友添秀則　編著　大修館書店　2020 年
「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一　編著　ミネルヴァ書房　2020 年
「スポーツ・体育　指導・執務必携」入澤充・吉田勝光 編著 道和書院　2019 年
「よくわかるスポーツとジェンダー」飯田貴子・熊安貴美江・來田享子　編著　ミネルヴァ書房　2018 年

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
［講義内 1~13］
「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
指名した際、挙手で答えた際の内容によって加点する。

配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ　39 点（3 点/0.1 点刻み ×13）。
［講義内 14］
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 25×2=50 点） には必ず取り組むこと。
［総合評価］すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき 3 回まで。自己都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題よりボリュームの大きいものになる。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの表示を、わかりやすい作りにする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
土地・気候・習俗・食べ物・歴史・地理的環境・経済力・教育制度、さまざまな要素がスポーツ文化に影響を与えている。小さな井戸を深く掘るだけでなく、水の出る場所を求めて広い視野で世界を見渡してもらいたい。

【Outline (in English)】
(Course Outline)"Sports could be regarded as kinds of culture?" The theme of the lecture is not to find out answers to the question. Sports are no longer merely physical activities. It is overshadowed by politics, economy and society, furthermore a tremendous number of people are involved in. They contain commercial value, entertainment, and something spiritual. It seems to be a tool for life, and sometimes we consider it as the way that should be traced. Once looking closely at various elements of sports and reconstructing them to reconsider how they appear their styles, we could discover the modernity of sports. Culture could only be approved after the　laps of decades. Confirm that sports and the phenomena surround them have worth, inherited from ancestors.
(Learning Objectives)Rather than evaluating sports only in terms of victory or defeat, or looking only at the results of superiority or inferiority, what are the reasons why sports have increased their presence in society over time? By focusing on the beauty of the sport, while also looking at the various injustices that are sometimes exposed, we should be able to reaffirm the characteristics of the sport. How people and the systems around them work to make the value of records and fine play a reality. How the efforts of individuals and the wisdom of the supportive world have worked well together. We will proceed with an analysis of the society that supports the achievements of modern sports.
(Learning Activities outside of Classroom)Obtain information in advance about the origins of the sport of interest and the challenges it faces. Knowing when, where, and how the sport was born and how it came to be what it is today is a useful hint for an overview of the culture of the sport as a whole. Such knowledge is useful in identifying the differences from other sports and eventually brings the entire sport into three-dimensional perspective.
Students should have a broad perspective before taking the course in sports culture theory. This is because of the vast number of issues involved. For this reason, at least two hours each for preparation and review is standard.
(Grading Criteria/Policy)(Grading Criteria/Policy)The sum total of the evaluation of "assignments for each lecture" and "in-class examinations to be set during the final lecture time" will be the factor for credit approval.
Face-to-face: "Assignments for each lecture" will be written and submitted on the spot within the designated time during the lecture time (since they require writing in a relatively short period of time, students are encouraged to develop their writing skills on a regular basis).
Points will be given according to the content of the answers given by nomination or by raising hands.
Score: 39 points (3 points/0.1 point increments x 13) for each of the 13 assignments in the lecture, excluding the final day, if the student continues to receive full marks.
The final paper exam (20 points for term/phrase questions, 25 x 2 = 50 points for the essay) must be taken in the final lecture.
If all are perfect, 109 points will be awarded.
For students who represent the school during regular lectures, or who are absent due to illness or unavoidable absences from weddings and funerals, an additional report assignment (maximum 3 points) will be posted via the Learning Support System after the final exam in lieu of the in-class assignment (e.g., the default document, designated Athletic Association documents, funeral cards, copies of receipts dated from medical institutions, etc.). and copies of dated receipts from medical institutions, etc.]. However, this condition applies only up to three times per person. Absences for personal reasons are not eligible for relief. In this case, the report will be more voluminous than the regular in-class assignments.
The final exam, an important component of the credit, is scheduled on the last day of class, not during the exam period, so please be sure not to miss it.

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下　訓光

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 2/Thu.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じうる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】
学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。**今年度も引き続き新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曽有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新型コロナウィルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウィルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」―スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastorophic injury）、すなわち致死的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」―競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにともなう対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置）& AED（自動体外式除細動器）	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
④ 下記【参考書】蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
第 1 回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）**※資料室収蔵**
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）**※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可**
第 2 回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）.（特に第 1 章〜第 6 章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤 真理子、エネルギーフォーラム、2018）**※多摩図書館収蔵**
第 3 回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）**※資料室収蔵**
第 3 回および第 4 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』. 2009 年 26 巻 11 号.（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
第 5 回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』(日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版)
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015 年第 4 版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』(内田 良、河出書房新社）**※資料室収蔵**
第 6 回：
『スポーツ現場での脳振盪』(Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）**※資料室収蔵**
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』(谷 諭、大修館書店）**※資料室収蔵**
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか，スポーツ頭部外傷：“頭部外傷 10 か条の提言” から考える』(2016 年 33 巻 7 号）
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 7 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』(2018 年 35 巻 6 号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェック－心臓突然死を未然に防ぐために－．pp.570-573)
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』(2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェック－その有用性と限界－．pp.153-162.)
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 8 回：
木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題．1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf)
第 9 回：
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』(稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』(堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』(三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』(澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』(中井誠一、篠原出版新社）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』(日本スポーツ協会）
(https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能)
『落雷事故対策マニュアル』(埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuou/index/saigai/rakurai.pdf)
『雷対応マニュアル』(J リーグ）
『落雷事故の防止について』(文部科学省　https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)
第 10 回：
高木 修．『人を助ける心』(1998 年、サイエンス社)．(特に第 1 章、第 2 章、第 4 章）**※研究室収蔵**
木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』．2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED ：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 11 回：
木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－．(1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf から参照)
木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害．臨床スポーツ医学．2014;31(9):858-867.
(雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可)
第 12 回：
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』(法政大学．http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html)
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』(文科省, 2013)(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』
(https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947)
第 13 回：
『臨床雑誌 内科：特集：感染症 2020 ：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』(2020 年 125 巻 1 号）**(医書 jp よりアクセスすることで全文ダウンロード可)**
第 14 回：
日本アンチ・ドーピング機構 website（http://www.playtruejapan.org/）．ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。**同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。**
『マンガで学ぶスポーツ倫理』(林 芳紀ほか、化学同人）**※資料室収蔵**
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実 』[DVD]。**資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には３部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）**
その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。
・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) **※研究室収蔵**
・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』(ぎょうせい、2009）**※資料室収蔵**
・入澤 充．『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』(時潮社、2011）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題を課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
①　可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
①　授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.
[Learning objectives] The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

SOM200IA

予防医学概論

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門基幹科目・講義**
開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 配当年次／単位：**2 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**木 4/Thu.4**
旧科目名：**スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生はカテゴリーが異なる**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】
スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。また健康づくり施策や健康運動指導士についても学習する。
3	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康日本 21」「健康づくりのための身体活動基準 2013」などの内容を紹介する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。
11	整形外科的障害	スポーツによる障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
12	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。また介護予防についても学習する。
13	外科的障害　下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、２００４年）

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100 %）
理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
A purpose of this lecture is to learn the following things
1: study basic knowladge about preventive medicine and sports injuries
2: learn the influence that physical activity and exercise give to health
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
− definitions, epidemiology, and pathophysiology related to sports medicine.
− the significance and effect of physical activity and exercise
− basic sports injuries / disabilities and first aid
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA

運動処方・負荷テスト

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症、各種負荷方法および装置の特性、運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論、 目的・対象に応じた各種運動処方など運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
② 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回で完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
③ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。**学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。**
⑤ **『統計学 I 』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12 誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST 変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆる VT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。降圧剤服薬者における運動について。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。血糖降下剤服薬・インスリン使用者における運動について。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体につについて講義する。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。心疾患治療薬（β ブロッカー、強心薬）服薬者における運動について。
14	運動処方症例検討	生活習慣病各疾患の実際の運動処方例について検討する。各疾患に特有の problem をどのように評価して安全かつ効果的な運動処方・療法を行うか、また降圧剤、血糖降下剤、インスリン、脂質異常症治療薬（HMG-CoA 還元酵素阻害剤）など、生活習慣病患者の多くが服薬・使用している薬が運動処方や運動療法の実践にどのように影響するか、実際の患者の症例を通して学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 3 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・心電図に関連した電気生理学（静止膜電位など）について深く学びたい場合は以下の図書が参考になる。
酒井正樹『これでわかるニューロンの電気現象』（共立出版）**※資料室収蔵**
宮川博義、井上雅司『ニューロンの生物物理』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・ハーマン・ポンツァー 『運動しても痩せないのはなぜか』（草思社）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。
【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。**
③ **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有疾患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle of exercise test, to understand cardiovascular physiology for exercise prescription, and to obtain the basic skill of implementing the prescribed exercise program appropriately for patients.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA

生活習慣病と身体活動

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、生活習慣病とは何か、その概念・定義、生活習慣病の疫学、病態生理、生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序、身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンス、身体活動の意義・効果などの生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンスを学ぶ。

【到達目標】
① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遷延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならなくなった場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンディマンド型の授業配信は行わない。
① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
② 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
③ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
④ **疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。**

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。高齢者医療における課題（介護、認知症、社会保障など）について、予防医学としての運動・身体活動の役割を学習する。**キーワード：**総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動、一次予防
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。**キーワード：**虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード：**『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード：** II 型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード：** LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード：**内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症、『運動しても痩せないのはなぜか』（ポンツァー、草思社）
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。**キーワード：**骨粗しょう症、変形性関節症, locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。**キーワード：**慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。**キーワード：**乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。身体活動と認知症（アルツハイマー型、血管性）との関連について学習する。**キーワード：**うつ状態、うつ病、不安障害
13	（1）こどもの体力低下と身体活動 および（2）身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	（1）こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。**キーワード：**『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジェネティクス （2）国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。**キーワード：**健康増進法、健康日本 21（第 2 次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。**キーワード：**行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』
※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
※授業回の中には、事前にまたは授業内に小課題を課す場合がある。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】
①授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② **『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。**
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide the basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the definition, pathophysiology, epidemiology, and treatment of chronic diseases and to understand the role of physical activity and exercise to prevent chronic diseases and that of physical inactivity and sedentary lifestyle to develop chronic diseases on the basis of scientific evidences.
[Learning activities outside of classroom] Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%). **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

HSS300IA

運動生理学

瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**木** 4/Thu.4

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】
運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の末梢神経活動の実際	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflex について学習する。
3	運動中の中枢神経活動の実際	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について学習する。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	運動による骨格筋への影響について学習する。
5	運動と骨	各種トレーニングに対する骨の構造、生理機能の変化を学習する。
6	運動と臓器	運動時における臓器の変化について学習する。
7	運動と糖質代謝	運動時における糖質の代謝について学習する。
8	運動とアミノ酸代謝	運動時におけるアミノ酸の代謝について学習する。
9	運動と脂質代謝	運動時における脂質の代謝について学習する。
10	運動と乳酸・核酸代謝	運動時における乳酸や拡散の代謝について学習する。
11	運動と呼吸・循環	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	運動と体温	運動における体温の上昇の影響について学習する。
13	血液と循環	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
・宮村実春 『ニュー運動生理学 I、II』　（真興貿易、2015）
・石河利寛 『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
・Kenney WL, eta l. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
・McArdle WD, eta l. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）
講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Course out line】
We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.
【Learning Objectives】
The goal is to acquire the knowledge necessary to practice physical activity aimed at improving health and training for improving sports performance based on scientific evidence.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下　訓光

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**木** 3/Thu.3

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、運動負荷テスト原理・方法、適切な運動負荷テスト、心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理など、各種運動負荷テストの実践と結果の評価を学ぶ。

【到達目標】
① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方が実際に行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下の運動指導	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。 フィットネスジムなどスポーツ施設の運営、クライエント指導に関して、COVID-19 感染対策ガイドラインを学ぶ。
2	バイタルサインの計測（1）	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測（2）	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	ホルター心電図および携帯型心電記録装置	ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。
14	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① レポートの作成・提出（原則毎回）。
② 各回の最後に次の授業に行う実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・アメリカスポーツ医学会 『運動処方の指針―運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）**※資料室収蔵**
・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guite to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）**※資料室収蔵**
同書籍には旧版の翻訳書がある（『運動負荷試験とその解釈の原理』（Japan Heart Club）**※資料室収蔵**）

【参考書】
【実習全体を通して利用できる参考書】
・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）**※資料室収蔵**
・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）**※資料室収蔵**
・小澤瀞司 他. 『標準生理学』（医学書院）**※資料室収蔵**
・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）**※資料室収蔵**
・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）**※資料室収蔵**
・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方―ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナップ）**※資料室収蔵**
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト　上・下』**※資料室収蔵**
・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院**※資料室収蔵**
・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）**※資料室収蔵**
・安達 仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド　改訂 4 版』（中外医学社）**※資料室収蔵**
【第 2・3 回の実習に関する参考書】
・『PWV を知る PWV で診る』（中山書店）**※資料室収蔵**
・『初学者のための生体機能の測り方』（日本出版サービス）**※資料室収蔵**
・『血圧をいかに測るか』（Life Science Publishing）**※資料室収蔵**
【第 4・5 回の実習に関する参考書】
・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）**※資料室収蔵**
・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）**※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時１２誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should take part in practice an exercise test by themselves.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the principle and various methods of exercise test, to obtain the skill to individualize protocol of exercise test according to the background of patients with chronic diseases, and to be able to implement the prescribed exercise program.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下　訓光、瀬戸　宏明

カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **1 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
旧科目名：**スポーツ医学実習** [2012 年度以前入学生]

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、スポーツ医学的評価、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈、論理的アセスメント、科学的介入など、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術を学ぶ。

【到達目標】
①スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。
② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
① 実習の性質から少人数制で行い、4〜5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 新型コロナウイルス感染症パンデミック（COVID-19）下におけるスポーツ活動【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。COVID-19 治癒後のアスリートの現場復帰（return to play）について学ぶ。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。COVID-19 パンデミック下における BLS について、SARS-COV2 対応 CPR 新ガイドラインについて実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	総括　プレゼンテーション【担当：瀬戸】	実習中の総括および学習したことを応用したプレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
全体を通しての参考書
Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵**
※訳書あり。『パワーズ運動生理学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）**※資料室収蔵**
第 2 回：
木下訓光. 熱中症－海外における最近のトピックス－. 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
『体温の「なぜ？」がわかる生理学』（永島 計、杏林書院）
※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html より閲覧可能）
第 3・4 回：
『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』**※資料室収蔵**
第 5 回：
『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』**※資料室収蔵**
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
『ライフステージ栄養学実習書』**※資料室収蔵**
第 6 回：
『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』**※資料室収蔵**
アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。
https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf
『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』**※資料室収蔵**
（AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること）
ハンズオンリー CPR よくある質問（http://www.aha-tts.com/article/13690287.html）
第 7 回：
Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※資料室収蔵**
木下訓光. やせと体組成、月経障害. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867.（**メディカルオンラインより全文閲覧可能**）

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。
① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
③ 春学期科目「スポーツ医学 A」の単位を修得していることことが履修の絶対条件である。
④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、１）健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、２）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of medical and scientific evaluation of athletes and patients who will be engaged in exercise and physical activity.
[Learning activities outside of classroom] Students should write a report about the topic of each classroom with measurement data and analysis and the reports should be handed in by next week. Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Students who is willing to become the Health Fitness Programmer certified by the Japan Health Promotion Fitness Foundation are strongly encouraged to study the corresponding topic of each classroom in the textbook assigned by the foundation afterward. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined based on the score of each report handed in.

CLS300IA

スポーツ医学 A

瀬戸　宏明

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次／2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について必要な知識を学ぶ。内容については各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】
スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。
スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの必要性について学習する。
2	メディカルチェックの実際	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	免疫学の基礎	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動時における免疫反応	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	スポーツに関連した内科疾患	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	内科疾患における運動適性と参加可否	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。
12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特に定めず
第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習
参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、受講者は指定参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会 『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・ 応用科目』（文光堂、2005）
目崎 登 『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（原則 100%）
講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は医師であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。　そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset mechanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand about pathophysiology, pathogenesis, prevention, and treatment of sports injurie
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

CIM300IA

スポーツ医学Ｂ

瀬戸　宏明

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**ヘルスデザインコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**3〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】
運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭部の外傷・障害	主に頭部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
4	頚部の外傷・障害	主に頚部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
5	上肢の外傷・障害	上肢の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
6	体幹の外傷・障害	体幹の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する。
7	骨盤・股関節の外傷・障害	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	上肢・体幹のアスレティックリハビリテーション	上肢・体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	下腿の外傷・障害	下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各講義の約 1 週間前から授業支援システム上の「教材」に資料を掲載するので、
　受講者は参考書などを用いて事前学習をおこない授業やテストにのぞむこと。
・第 1 回：特に定めず
　第 2〜14 回：前回授業への取り組みと復習、予習
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
1）アスレティックトレーナー専科テキスト1－９　日本スポーツ協会
2）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版　編集 ： 小出清一/福林徹/河野一郎
3）スポーツ科学・医学大事典　スポーツ医学　プライマリケアー理論と実践　西村書店

【成績評価の方法と基準】
単位認定試験（原則 100%）
その他理解度をチェックするため適時小テストを行う予定
オンライン授業の場合は毎回のテストの合計をもって評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
図や動画を用いてわかりやすく解説していく。
後方の席は使用しない。
常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】
※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.
A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things
1: understanding of the structure of physical devises
2: understanding outbreak mechanism of injuries
3: how to make a prevention program of injuries
【Learning Objectives】
The goals of this course are to To be able to understand the mechanism of trauma / disability and build a trauma / disability prevention program.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

ECN100IA

スポーツ経済論

宮下　量久

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東京オリンピック・パラリンピックやサッカー・ラグビーの W 杯などを踏まえて、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにあります。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれるでしょう。また本講義では、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていきます。

【到達目標】
現実のスポーツに関する課題を経済学的視点から分析し、その解決策を含めて自分自身で論理的に説明できることを目指します。そのために、経済学における基本的な考え方・理論を習得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
冒頭の 10〜15 分では授業内容に関連する時事的テーマについて平易に解説します。授業は Power Point を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて、次の授業までに小テストを提出してもらう予定です。小テストのフィードバックとして次の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	各講義の内容、進め方、評価方法、キーワードなどを説明します。また、どのようなスポーツの問題に関心があるのか、アンケート調査も行います。
2	オリンピックと経済学	オリンピックの事例や資金の流れを踏まえて、GDP（国内総生産）などの考え方、経済効果と経済成長の違いなどを学びます。
3	ワールドカップと経済学	サッカー・ラグビーのワールドカップなどのメガスポーツイベントの事例や資金の流れを踏まえて、需要曲線や供給曲線の特性などについて学びます。
4	スタンドプレーかチームプレーか	団体競技におけるスタンドプレーやチームプレーの事例を踏まえて、経済学における合理的選択などを学びます。
5	プロ野球選手の年俸はなぜ高いのか	国内外のプロスポーツ選手の年俸を事例に挙げながら、プロ野球の資金の流れやプロスポーツの労働供給市場について学びます。
6	プロチームは利潤最大化企業か	J リーグを取り巻く資金や企業を事例にして、企業の利潤最大化行動、生産者余剰の考え方などについて学びます。
7	チケット転売と経済学	スポーツイベントのチケット転売問題などを事例に、消費者余剰と生産者余剰を用いて、総余剰の意味、参入規制の余剰分析などを行います。
8	スポーツの競技団体における資金の実態	各種スポーツ競技団体の資金などを事例にして、補助金などによる政府の市場介入について説明します。
9	スポーツにおける国の役割	スポーツ庁などの政策・予算を事例に、市場の有効性、「市場の失敗」の是正、「政府の失敗」の是正などの概要を学びます。
10	スポーツと地域振興	都道府県や市町村のスポーツ政策・予算などを事例に、地域振興におけるスポーツの役割や地方分権の意義について学びます。
11	プロスポーツの資金の実態	野球・サッカー以外のスポーツの資金などを事例にし、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やグラフでの求め方について学びます。
12	グローバル経済とスポーツ	スポーツの国際化の流れを踏まえて、国際経済の基本的な考え方を学びます。
13	望ましいゲームのルールとはなにか	ドーピング問題や八百長問題を踏まえて、ゲーム理論に基づき、公正・公平なルールについて考えます。
14	まとめ	期末レポート課題を掲出したうえで、授業の総括を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習については、授業前に資料を授業支援システムにアップしますので、一読しておいてください。
・復習については、小テストを次回の授業までに提出することで行っていきます。本授業の準備学習・復習時間は各 1〜2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講師の作成資料に基づいて、授業を進めていきます。

【参考書】
笹川スポーツ財団（2020）『スポーツ白書 2020』
八田達夫（2008）『ミクロ経済学 I 』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
・成績評価の方法：経済学の考え方を踏まえて、授業の内容を的確に把握し、スポーツにまつわる各課題について自らの意見を述べることができるか、で評価します。
・成績評価の基準：毎回の講義後に課す小テスト (配分： 20 %)、授業への積極的姿勢（配分： 10 %）、期末レポート (配分： 70 %)。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の希望等を踏まえて、講義の順番や内容などを一部変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
民間研究所に在職時、スポーツ予算の実態やスポーツ庁の組織形態について調査研究した経験を踏まえ、スポーツ行政における課題を明確にし、その解決策を検討していきます。

【Outline (in English)】
This course provides an overview of sports-based microeconomics. You can learn how economics is a useful tool for resolving problems in society through this lecture. We will examine a compelling value proposition for the sports industry and an interesting policy concerning sports in the national government.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts.After each class meeting, students will be expected to take the short test.Your required study time is at least one hour for each class meeting.
< Grading Criteria >
Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end report: 60%、 Short tests : 20%、 in class contribution: 10%.

SOC100IA

スポーツメディア論

山本　浩

カテゴリ：**スポーツビジネスコース専門科目・講義**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1～4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**月** 4/Mon.4
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、スポーツメディアのジャンルは広い。授業の目的は、社会に点在するそれぞれのメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する所にある。そのためには、メディアの発生から今日までの軌跡をたどった上で現状を理解し、著しい変化にさらされるメディア世界を読み解ける能力を磨くことに集約される。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。近時のスポーツ環境を振り返りながら、スポーツメディアの近未来を考える機会ともしたい。

【到達目標】
十代から二十代にかけて、スポーツメディアに対する需要はデジタルデバイスが他を圧倒している。その中には何が詰まっているのか。それを解き明かすことで、スポーツとスポーツ情報の消費者の間を取り持つ、スポーツメディアの実装を把握すること。これがこの講義の最終目標である。
活字、電波、写真、モバイルと進化を遂げてきたアイテムの成り立ちと必然性。変化が促されたのは、それを求めた社会があってこそのことである。となれば、社会そのものがどう変わってきたのかに視点は向けられなければならない。講義の過程で認識したいのは、「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアが今さしかかっている曲がり角をいかに乗り越えようとしているのか。ストリーミング、OTT、SNS、見逃し配信など、多様なルートを通して、スポーツがそれ自身どこに向かうのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアの重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは、媒体技術面のイノベーションを牽引した消費者の意向と技術者の向上心にある。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかのノウハウにもつながる。
教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、毎回受講生を指名して問いかけに答えてもらう。そして、講義終了時には小論文を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近いところで踏ん張っている。その組織と情報提供の実際を目にして、報道の中でのスポーツの占める位置を確認する。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとほぼ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	メディアの仕組み①（プリント/活字）	スポーツメディアは、メディアの中の一部分である。そこを知るには、プリントメディアの世界の常識と理念から始めなければならない。後に電波メディアも大きな影響を受けた、プリントメディアの取材から報道までのありようを見る。
4	メディアの仕組み②（音声/映像）	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	プリント（活字）メディアの中のスポーツ	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げてきた。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらプリントスポーツメディアの特徴を知る。
6	メディアとスポーツ事業	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきた。
7	スポーツ中継（1）~仕組みと制度~	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えにくい部分を、音声実況の歴史からテレビ中継までをハードウエアを中心に確認する。
8	スポーツ中継（2）~人と思想~	ラジオとテレビ。そこにあるのは、媒介する機材やルートの違いだけではない。方法論や考え方を見比べることで、スポーツ報道がいかに社会の要請を受けて変化したのかが見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツ番組（スタジオ制作）	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
12	メガイベントとメディア	オリンピックを主催する IOC も、W 杯サッカーを主催する FIFA も、映像メディアに強い関心と影響力を持ってきた。歴史的流れの中でメガイベントとメディアの関係に習熟する。
13	スポーツメディア世界の今	放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加、ストリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認する。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続けよう。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことである。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ必要がある。そのためには、いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かいたい。

【テキスト（教科書）】
特に使用せず。

【参考書】
「テレビジョン」テクノロジーと文化の形成　レイモンド・ウィリアムズ著　木村茂雄訳　ミネルヴァ書房　2020 年
「メディア文化研究への招待」ポール・ホドキンソン著　土屋武久訳　ミネルヴァ書房　2016 年
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著　ミネルヴァ書房　2012 年
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著　慶応大学出版会　2011 年
「日本スポーツ放送史」橋本一夫著　大修館書店　1992 年

【成績評価の方法と基準】
「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。
［講義内 1~13］
「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。
指名した際、挙手で答えた際の内容によって加点する。

配点：最終日を除く講義内課題、13 回に満点を取り続ければ　39 点（3 点/0.1 点刻み ×13）。
［講義内 14］
最終講義内に実施する期末論文試験（ターム /フレーズ問題 20 点、小論文 25×2=50 点） には必ず取り組むこと。
［総合評価］すべてパーフェクトであれば、109 点が獲得できる。
通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を（最高 3 点）学習支援システムを通じて掲示する〔既定の書類、体育会指定書類、会葬礼状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき 3 回まで。自己都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題よりボリュームの大きいものになる。
単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】
テレビを見ない世代が増えている中で、スマートフォン、デジタルデバイスでの需要が他を圧倒している。この先がどう動くのか、常に未来形で “現代” を追いかけたい。
スライド枚数が多い分、スライドの切り替えが早くなりがちだが、講義後速やかに PDF 化した授業素材をあげることで、受講者が確認できるような手立てを続ける。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
今年は WBC、世界陸上ブダペスト大会、ラグビー W 杯フランス大会、アジア大会にメディアの関心が集まる年になる。ビッグイベントは、どうしても大きな話題にストーリーが展開されがちだ。その間にある、些細な出来事がビッグイベントにどう作用するのか、普段からしっかりアンテナを張っておきたい。

【Outline (in English)】
(Course Outline)　The sports media covers a wide range of genres, including existing newspapers and broadcasts, as well as the Internet and tablets that have been flourishing in recent years. The purpose of this class is to familiarize students with the philosophy and behavior of each of these media that are scattered throughout society. To achieve this goal, it is essential to trace the history of the media from its inception to the present, understand its current status, and hone one's ability to read and understand the media world, which is undergoing remarkable change. Some competitive sports are called "media sports. Why on earth are sports themselves media? This session will be an opportunity to reflect on the recent sports environment and to consider the near future of sports media.
(Learning Objectives)　Digital devices dominate the rest of the demand for sports media among teens and twenty-somethings. What is packed into them? By unraveling it, we must grasp the implementation of sports media, the intermediary between sports and consumers of sports information. This is the ultimate goal of this lecture.
The origins and inevitability of the items that have evolved from print, to radio, to photography, to mobile. The changes were prompted by the society that demanded them. If this is the case, then we must look at how society itself has changed. What I would like to recognize in the course of the lecture is how the media is trying to overcome the corner it is now approaching by using "text," "images," "music," and "comments" as weapons. Through a variety of routes, including streaming, OTT, SNS, and missed broadcasts, we will grasp where sports is heading itself.
(Learning Activities Outside of Classroom)　Keep an eye on newspaper, television, and online reports on a daily basis and remain interested in the "judgments" and "information" about sports presented by the media. The key is not to believe everything you read in individual reports. It is necessary to compare one's own experiences and the opinions of others in a calm manner, and to always read and comprehend them in light of one's own worldview. To do this, we must ask ourselves when, where, what, and how it happened. How was it covered, and write it down in your own notes. Each of you should take two hours of preparatory study and review time before and after the lecture.
(Grading Criteria/Policy)The sum of the evaluations of the "tasks assigned to each lecture" and the "in-class exam set at the end of the lecture" is an element for credit approval.
[1-13 in the lecture]
"Assignment for each lecture" is written and submitted on the spot using the time specified within the lecture time.
When nominated, points will be added depending on the content of the answer by raising your hand.
Scoring:　39 points (3 points/0.1 point increments x 13) if you continue to get full marks in the 13 lectures on the assignments in the lecture, excluding the final day.
[14 in the lecture]
Be sure to work on the final essay exam (term/phrase question 20 points, short essay 25 x 2 = 50 points) held in the final lecture.
[Comprehensive evaluation] If everything is perfect, you can get 109 points.
For unavoidable ceremonial occasions such as participation in events on behalf of the school during regular lectures, sick leave, and absences, after the final exam, additional report assignments (maximum 3 points) instead of assignments in lectures Learning support system [Submit the prescribed documents, the documents designated by the Athletic Association, the funeral certificate, a copy of the receipt with the date of the medical institution, etc.]. However, this condition is applied up to 3 times per person. Voluntary absences will not be reimbursed. In this case, the report will be larger in volume than a normal lecture assignment.
An important factor in recognizing credits, the final exam is set on the last day of the lecture, not during the exam period, so be sure not to miss it.

HSS200IA

バドミントン指導論演習

升　佑二郎

カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
旧科目名：**バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]**
備考（履修条件等）：**※ 2012 年度以前入学生は通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論 1	講義と実技　「基本ストローク」
3	バドミントン技術論 2	講義と実技　「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論 3	講義と実技　「フットワーク」
5	バドミントン競技指導 1	講義と実技　「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導 2	講義と実技　「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論 1	講義と実技　「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論 2	講義と実技　「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技　「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技　「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技　「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析 1	講義と実技　「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析 2	講義と実技　「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】) Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS100IA

剣道指導論演習

小田　佳子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次**／ **2 単位**
曜日・時限：**水** 2/Wed.2
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる知識、技能、実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にして資料を使用しながら理論的に剣道を理解できるよう展開する。
毎授業に授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①－②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①－③の反復 ・引き技 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①－④の反復 ・抜き技 ・模擬授業について
8	基本指導法⑦ （模擬授業１）	基本技稽古法①－⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
9	基本指導法⑧ （模擬授業２）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
10	基本指導法⑨ （模擬授業３）	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
11	基本指導法⑩ （模擬授業４）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
12	基本指導法⑪ （模擬授業５）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
13	基本指導法⑫ （模擬授業６）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業６ ・抜き技 試合・審判法① 3 名で構成するグループにより「審判」を行う。 審判法について省察
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①－⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第 4 版
・授業において適時、資料を配布する。

【参考書】
剣道　社会体育教本　「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③修得技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かしわかりやすく指導したい。
剣道の理念を考慮しつつ、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進める。

【Outline (in English)】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS100IA

剣道指導論演習

小田　佳子

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・演習**
開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　配当年次／単位：**1〜4 年次／ 2 単位**
曜日・時限：**水** 3/Wed.3
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において武道必修化が実施された。
そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは指導者となる者が基本動作を修得し、基本となる技を用いて相手の動きに応じて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。
その上で、模擬授業を展開し、剣道の基本的な指導法を修得することを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる知識、技能、実践的指導力を身に付けることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にして資料を使用しながら理論的に剣道を理解できるよう展開する。
毎授業に授業内容に関する「課題レポート」を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開 剣道の歴史と特性 武道必修化 指導案の書き方
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法② （基本技稽古法①）	一本打ちの技 「正面・小手・面・胴・突き」 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③ （基本技稽古法②）	基本技稽古法①の反復 ・連続技（二・三段の技） 間合、踏み込み足、竹刀打ち
5	基本指導法④ （基本技稽古法③）	基本技稽古法①−②の反復 ・払い技 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （基本技稽古法④）	基本指導法①−③の反復 ・引き技 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （基本技稽古法⑤）	基本指導法①−④の反復 ・抜き技 ・模擬授業について
8	基本指導法⑦ （模擬授業１）	基本技稽古法①−⑤の反復 模擬授業１ ・基本動作
9	基本指導法⑧ （模擬授業２）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業２ ・一本打ちの技
10	基本指導法⑨ （模擬授業３）	基本技稽古法（総合演習）模擬授業３ ・連続技
11	基本指導法⑩ （模擬授業４）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業４ ・払い技 打ち込み、互角稽古
12	基本指導法⑪ （模擬授業５）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業５ ・引き技 打ち込み、互角稽古
13	基本指導法⑫ （模擬授業６）	基本技稽古法（総合演習） 模擬授業６ ・抜き技 試合・審判法① 3 名で構成するグループにより「審判」を行う。 審判法について省察
14	試験・解説	実技試験 基本技稽古法①−⑤ 試合・審判法② まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・全日本剣道連盟「剣道授業の展開」第 4 版
・授業において適時、資料を配布する。

【参考書】
剣道　社会体育教本　「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①授業への参加態度・貢献度 30%
②模擬授業評価 30%
③修得技能評価 40%
①から③を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
名札、小手下、面シールドは学校から支給します。
手拭い、面マスクは各自準備して下さい。

【その他の重要事項】
公立学校教員・剣道（七段）
「学校教育」現場で培った剣道指導経験を活かし学生にわかりやすく指導する。剣道本来の姿と未来像を模索しながら、礼法や相手を思いやる心を大切に授業を進める。

【Outline (in English)】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School Government Course Guidelines, all the junior high students should complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that: Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense and defense through hitting and receiving

HSS200IA

バドミントン実習

升　佑二郎

サブタイトル：**【2018 年度以降入学生対象】**
カテゴリ：**スポーツコーチングコース専門科目・実技**
開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　配当年次／単位：**2〜4 年次／1 単位**
曜日・時限：**木** 1/Thu.1
備考（履修条件等）：**※ 2018 年度以降入学生対象**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識, 技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基本技術 1	グリップと技術習得
2	基本技術 2	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク 1	ドライブ
4	基本ストローク 2	ハイクリア＆ヘアピン
5	基本ストローク 3	ドロップ＆ロビング
6	基本ストローク 4	プッシュ＆レシーブ
7	基本ストローク 5	スマッシュ＆レシーブ
8	基本技術　応用編 1	オールロング
9	基本技術　応用編 2	オールショート
10	シングルス 1	フットワーク
11	シングルス 2	ゲーム組立
12	ダブルス 1	フォーメーション
13	ダブルス 2	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2〜14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ　出版年： 2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（70%）、技術習得および指導法の実技試験（30%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development.
【Learning Objectives】This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following
Skill test: 30%、in class contribution: 70%

HSS200IA

専門演習 I

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的測定・調査を学ぶ

【到達目標】
科学的測定・調査を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な科学的測定・調査を実践して結果を分析する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	VO2max の測定	VO2max を測定する
2	VO2max の分析	VO2max を分析する
3	Mechanical efficiency の測定	Mechanical efficiency を測定する
4	Mechanical efficiency の分析	Mechanical efficiency を分析する
5	LT の測定	LT を測定する
6	LT の分析	LT を分析する
7	FFQ による栄養調査	FFQ で栄養摂取を調査する
8	FFQ による栄養調査の分析	FFQ による栄養調査の結果を分析する
9	安静時代謝の測定	安静時代謝を測定する
10	安静時代謝の分析	安静時代謝の測定結果を分析する
11	DXA の測定	DXA で体組成を測定する
12	DXA の分析	DXA の測定結果を分析する
13	InBody の測定	InBody を測定する
14	InBody の分析	InBody の測定結果を分析する
15	自由行動下のエネルギー消費測定	自由行動下のエネルギー消費を測定する
16	自由行動下のエネルギー消費分析	自由行動下のエネルギー消費を分析する
17	MLSS の測定	MLSS を測定する
18	MLSS の分析	MLSS を分析する
19	HIIT の VO2 測定	HIIT の VO2 を測定する
20	HIIT の VO2 分析	HIIT の VO2 分析する
21	トレーニング中の心拍測定	トレーニング中の心拍を測定する
22	トレーニング中の心拍分析	トレーニング中の心拍を分析する
23	EatSmart による栄養調査	EatSmart で栄養摂取を調査する
24	EatSmart による栄養調査の分析	EatSmart による栄養調査の結果を分析する
25	RESTQ-Sport による調査	RESTQ-Sport で調査を行う
26	RESTQ-Sport の分析	RESTQ-Sport の調査結果を分析する
27	Critical power の測定	Critical power を測定する
28	Critical power の分析	Critical power を分析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加
④ 本授業の準備学習・復習時間は 1 時間程度

【テキスト（教科書）】
・近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院.（2018）**※資料室収蔵： 3 冊あり。ゼミ生においては専門演習 I ・ II を通して本書を読破することを強く勧める**
・本多勝一.『中学生からの作文技術』. 朝日新聞社.（2004）**※研究室収蔵**
・福澤一吉.『議論のレッスン』. 生活人新書.（2002）**※資料室収蔵**
・小笠原 喜康、片岡 則夫.『中高生からの論文入門』. 講談社現代新書.（2019）**※資料室収蔵**

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵、ただし旧版および 10 版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり**
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり**
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり**
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※資料室収蔵**
・ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
② 抄読会（20 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
③ プレゼンテーション（20 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
④ 実習参加（20 %）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑤ 演習およびレポート作成（20 %）：科学的分析能力。
⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
測定の順番は適宜変更され、また繰り返し行う可能性がある。
したがってすべての測定を予定通り行えるとは限らない。
この授業は測定体験型授業ではない。「ただそこにある機器」で「とりあえず測定を行ってみる」だけでは学びとは言えない。背景にある生理学的基礎、医学的知識に基づく測定の実践、データの科学的分析、批判的解釈が行えるようにすることが必要であり、そのために実習を行うので、学びは高度で膨大である。「たくさんの科学的測定を体験できるゼミ」といった勘違いをすることの無いように。したがって知識の習得やデータの分析に関連するスキルを取得するために、学びの進捗によっては授業内容の大幅な変更を行う可能性もある。**なお測定を積み重ねていく中で実習室の利用ルールや機器の扱い方を十分習熟すること。**
測定以外にも課題図書を指定してモデレーターを決め、読解力を評価し、テーマを議論する回を適宜行う。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide opportunities to conduct scientific measurements.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to master the skill of measurements and evaluations in sports medicine and science.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 2 hours; 1 hour beforehand and 1 hour afterward.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; in class contribution (20%), reviewing scientific and medical literature (20%), presentation of measurement data (20%), participation in experiments (20%), and submitting reports related the topics in the classroom (20%).

HSS200IA

専門演習 I

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**2 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】
①運動器疾患についての知識の獲得。
②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際 1	2 年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際 2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会（上肢の前半）	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会（上肢の後半）	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会（体幹の前半）	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会（体幹の後半）	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会（下肢の前半）	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会（下肢の後半）	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会（頭部）	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会（その他）	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会９	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。
15	頭頚部について/抄読会	頭頚部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症（前半）/抄読会１	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症（後半）/抄読会２	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折（前半）/抄読会１	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折（後半）/抄読会２	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習（評価方法）	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習（機器操作）	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習（実際の評価）	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と 3 年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　特になし
第 2-14 回：前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16-28 回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
・坂井　健雄、松村　譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
・臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Acquiring knowledge about locomotor disorders.
− Can evaluate locomotor disorders based on findings.
− Acquire the basic ability of scientific analysis and logical thinking ability.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS300IA

専門演習Ⅱ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】
春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに沿って調査活動を行う。
研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。
英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。
各学生の研究に必要な実験・測定を行う。
ヒューマンカロリメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書の提示。
2	プレゼンテーション・スキル	[演習] 2 年生の自己紹介（英語）。3 年生による評価。
3	プレゼンテーションの方法論	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーションの演習	[演習] 3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
6	研究報告会	[演習] 3 年生による研究経過の発表会
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、compornent model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	[実習] DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] ゼミ生の最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 引き続き前回行っていないゼミ生の最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の分析	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を分析する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の比較検討	[演習] 分析データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を比較検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
16	LT の測定①	[実習] ゼミ生の LT を測定する。
17	LT の測定②	[実習] 前回行えなかったゼミ生の LT を測定する。
18	LT の分析	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリメーターによる測定 ①	運動や身体活動に伴うゼミ生のエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
21	ヒューマンカロリメーターによる測定 ②	前回行えなかったゼミ生の運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定する。
22	ヒューマンカロリメーター による測定結果の分析	運動や身体活動に伴うエネルギー消費の測定結果を分析する。
23	ヒューマンカロリメーター による測定結果の比較検討	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析した結果を比較検討する。
24	研究進捗報告会	[演習] 前回から進捗させた 3 年生の研究発表
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
26	スポーツ栄養の基礎	[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	栄養調査分析	[実習] 栄養調査・分析を行う。
28	栄養調査結果発表	[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。
【注意】専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の２月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】
· 近藤克則.『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院. (2018) **※資料室収蔵： 3 冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める**
· Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) **※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵**

【参考書】
· Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 11th ed. (2020) **※研究室収蔵、ただし旧版および 10 版の翻訳本（『パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用』）は資料室にあり**
· Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 7th ed. (2019) **※研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり**
· McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) **※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり**
· Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) **※資料室収蔵**
· ACSM's Nutrition for Exercise Science. (2018) **※資料室収蔵**

【成績評価の方法と基準】
① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。
② **専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の 2 月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅱの成績は D 判定となる可能性があり、かつ専門演習Ⅲの履修を認めない。**
③ 参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。**発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。**成果はレポートなどで評価する。
④ 抄読会・Book Club（5 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
⑤ プレゼンテーション（10 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
⑥ 実習参加（10 %）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑦ 演習およびレポート作成（10 %）：科学的分析能力。
⑧ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】
実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to determine the theme of a graduation thesis by the end of the spring term and to start research in the summer vacation.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hour beforehand and 2 hour afterward. Students must report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the following; whether or not the students can determine the theme of their graduation thesis and can start research by the deadline as mentioned above (60%), in class contribution (5%), reviewing scientific and medical literature (5%), presentation of measurement data (10%), participation in experiments (10%), and submitting reports related the topics in the classroom (10%). If a student can't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February, the grading of the student will be "D". Furthermore, the student is not permitted to take the seminar III in the next year.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

山本　浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業/Yearly**　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水 5/Wed.5**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
既に専門演習Ⅰを経験した学生による専門演習Ⅱは、演習Ⅰで培った力を元にさらに大きな世界観でスポーツを捉えるところに重心を置く。「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」などが研究テーマの守備範囲に入る。専門演習Ⅱに参加する学生は専門演習Ⅲ（卒業論文）を見据え、「将来取り組むテーマ」をより具体的に抽出することを勧めたい。となれば「何に取り組むのか」を土台に、「どう取り組むのか」に意識を置くことだろう。
今年度も大切にするのは意見のぶつけ合いで、ディベートを集中的に取り込み、持論の提示、他者の意見の理解、そしてさまざまな情報を材料に、問題解決のために取るべき施策の評価に時間を費やしたい。

【到達目標】
専門演習Ⅰで身につけた手法を元に、揺るぎない指摘、説得力のある論理展開を身につけること。そのためには取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを十分に精査していかなければならない。
目指すべきは、ⓐ矛盾のない資料の選択や抽出法の獲得ⓑ対立意見を十分に検討し、採否の判断能力の向上ⓒ説得力のある論理構築法の習得ⓓ具体事例をおろそかにせず、全体を目指す力、そしてⓔ完成度が高く力のある論文を書く能力を獲得することである。
特に目指したいのは緻密な論理の構築だが、とはいえそれが長いプレゼンテーションになっては狙いを外すことになる。到達目標は、深く鋭く、コンパクトな主張を展開する能力の醸成にある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅱは、学生主体の授業である。プレゼンテーション、ディベート、屋外の実習などで、専門演習Ⅰを経た後の学生に対する要求水準は更に高い。授業の中で求められるのは①積極的なリーダーシップの発揮②後進の手本となるような研究成果の発表③幅広いジャンルに対する知見や斬新なものの見方の提示である。
初めて専門演習の世界に入ってくるⅠの学生たちの期待は大きい。経験を生かして、Ⅰの学生たちに、あるときは厳しくあるときは寛容に、自身の研究の成果はわかりやすくなお深く対応する。リーダーシップを随所に発揮しながら、専門演習Ⅱの学生達が軸になって演習を回していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　演習生Ⅱの自己紹介	自己紹介では、演習生Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められる。連絡系統の確認をする。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方、ディベートの基礎を振り返る。	演習生Ⅱの代表者数人によるプレゼンテーション見本を見せる。意見交換、ディベートの要件把握をする。
3	素材のあり所と押さえ方への工夫。	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討する。
4	プレゼンテーション制作	演習生Ⅰの制作をサポートする。それぞれが演習Ⅰで獲得した手法を披瀝する。
5	プレゼンテーション発表から意見交換。	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表しその後、意見交換から過不足の検討に至る。
6	調査・インタビュー・素材抽出	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケートで、その重みや考え方を議論する。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーション：社会は何を求めているか。	話題になっているスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。その際に、対立するアイデアを十分に取り込む技法を習得する。
9	プレゼンテーションからディベート：経験を積んだプレゼンターの視点。	前週制作の PPT を演習生Ⅱの代表数人が提示、その後、ディベート形式で議論する。
10	図書館文献検索法研修	多摩図書館で、文献検索と論文執筆法の講習を受ける（予定／日程変更の可能性あり）。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。演習Ⅱの受講生は複数のメディアにあたること。
12	プレゼンテーション制作：歴史を隔て、大陸を違えて考える。	海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。その際に年月の経過がどのような論調の違いを生んできたかにも注意を払う。
13	プレゼンテーション制作：独自の資料とその分析。	アンケートや調査の結果を統計処理して、自分の主張の柱のひとつに取り込む。
14	春学期の総括	演習時に与えるテーマで課題を作成する。前年に経験した演習Ⅰの成果を思い返し、演習Ⅱらしくうまく昇華させること。
15	夏課題総括：テーマの正当性に重心を置いて。	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。演習Ⅰの受講生から始めるプレゼンテーションを厳しい観点で見る。
16	夏課題総括：独自の視点	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。自分の作り上げてきたスポーツ観を大切にする。
17	夏課題総括：主張と切り替え	夏の課題の成果を発表する。特にプレゼンテーションの中の論理の切り替えに注意を払う。
18	プレゼンテーション制作：「組織の仕組みと現代性」	プレゼンテーションに登場したスポーツシーンに視点を据え、それと関わる組織や団体の考え方を検証する。
19	プレゼンテーション発表：課題に関して甲論乙駁（こうろんおつばく）	A が指摘する「課題」は B にとっても「課題」なのか。課題の捉え方を議論する。
20	プレゼンテーション発表：膨大な資料、適切な選択	制作にかかっていたものを発表する際に、取り上げられた資料以外にどんなものがあってなぜ排除されたのかを議論する。
21	プレゼンテーション発表：自分の結論を急がない。	論理を追って結論に達するのではなく、結論ありきのプレゼンテーションになっていないか。一つ一つを丁寧にたぐり寄せる。
22	プレゼンテーションとディベート：意味のある改善、大局観からの主張。	前週の改訂版をプレゼンする。意見や主張の多様性の中で自らの視点を過（あやま）たない。
23	プレゼンテーションとディベート：メディアを探る。	前々週から改訂してきたプレゼンを振り返り、同様の報道をメディアの中に求める。テーマが似ていると言うだけでなく、論理構成に近いものを探り出すこと。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	ここまでのやりとりで手にしたものを、高いレベルで文章化してみる。
25	論文発表：自らのテーマと主張を文章化。映像のない論理展開への切り替え。	写真やイラストが果たしていた、主張を強化する役割を文字はどのように補完できるのか。
26	論文発表と校正：配布された論文を元に、議論の渦を起こす。	他の受講生の論文を、俯瞰したものの見方で評価し、不足するところを校正提案をする。
27	論文発表と校正：異論を検討し、ジャーナルな視点を研ぎ澄ます。	最終的な改訂バージョンは、卒論執筆への礎石になる可能性がある。
28	専門演習Ⅱ総括	これまでの演習で取り上げたテーマに共通する、トピックの分析、材料の集め方、主張の方法など、総括をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
書かれていること、伝えられていることをそのまま真に受けるか。なぜそのように伝えられるのか。演習の時間外でも、そのための力量を上げることが大いに可能だ。メディアの情報に敏感になろう。新聞 A を読んで頷き、テレビ番組 B を見てなるほどと納得するだけでは足りない。その時代の生活水準、科学の力、宗教の強さ、世界が世界を知らない時代。さまざまな論調を少し離れたところから読み解き、そこに自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の考えがどこからきたのか、足下を探っておくことも必要だ。
大学生活の次のステージを考えたとき、もう一つ大切なことは、自分の人生設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうかにある。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義の進捗状況に応じ、大きなテーマを 2 週間をかけて履修していく。

【テキスト（教科書）】
なし (必要に応じてその都度、用意する)。

【参考書】
求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
配分：平常点（批評の内容/研究発表）70 %、 最終課題 30 %（演習時間外に、時間をかけて制作）。プレゼンテーションに使用した素材は、終了後担当教員に宛てて送ること。
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
演習終盤にテーマを提示し、それを期限内に提出することで最終課題とする。

【学生の意見等からの気づき】
専門演習ⅠとⅡの間で発言機会にバランスを取った時間配分を心がける。学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートを続けたい。エントリーシートのチェックなど依頼には随時応じる。
参加学生の評価が高い外部講師の招聘を、これまで通り継続する。演習生の積極的な提案を待ちたい。
ディベートの機会を増やすが、積極果敢な主張の展開に務めてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】
自分のパソコンを持っている演習生は、それを持参すること。パワーポイント、キーノート、DVD ､映像資料などを頻繁に使用するだけでなく、気がかりなこと、演習中の疑問はパソコンで常に調べられる態勢でいるとよい。

【その他の重要事項】
自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。状況を見極めながら可能であれば夏休みにゼミ合宿を検討する。事情が許せば参加するよう求めたい。
オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運び、演習の際には指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。

【Outline (in English)】
(Course Outline)　In Special Seminar < II > , students who have already experienced Special Seminar < I > will build on the skills they have cultivated in < I > and focus on a larger world view of sports. Research topics will include "media," "social issues in sports," and "the state of sports organizations. Students participating in Seminar < II > are encouraged to identify a more concrete theme for their future work in anticipation of Seminar < III > (graduation thesis). If this is the case, they should be conscious of "how they will tackle it," based on "what they will tackle.

This year, too, we place importance on the exchange of opinions, and we would like to concentrate on debates and spend time presenting our own opinions, understanding the opinions of others, and evaluating measures that should be taken to solve problems using a variety of information as material.
(Learning Objectives) Based on the methods acquired in Special Seminar < I > , students should develop unwavering points of view and persuasive logic. In order to do so, after analyzing and examining the theme to be tackled, the relevant materials and data must be thoroughly scrutinized.
The goals are: ⓐ Acquisition of methods for selecting and extracting consistent materials ⓑ Adequate consideration of opposing opinions and improved ability to judge acceptance or rejection ⓒ Acquisition of persuasive logic construction methods ⓓ The ability to aim for the whole without neglecting specific cases, and ⓔ The ability to write papers with a high degree of completeness and power. The goal is to acquire ⓔ the ability to write a complete and powerful thesis.
What we especially want to aim for is the construction of precise logic, but this will miss the target if it becomes a lengthy presentation. The goal is to foster the ability to develop deep, sharp, and compact arguments.
(Learning Activities Outside of Classroom)　Special Seminar < II > is a student-centered class. With presentations, debates, outdoor practice, etc., the level of requirements for students after Special Seminar < I > is even higher. In the class, students are expected to (1) demonstrate active leadership, (2) present research results that will serve as a model for future generations, and (3) present knowledge and innovative perspectives on a wide range of genres.

The expectations are high for < I > students who are entering the world of professional training for the first time. He will use his experience to deal with the < I > students in depth and in an easy-to-understand manner with the results of his own research, while at times being strict and at other times tolerant. While demonstrating leadership in many areas, the students of Special Seminar < II > will be the core of the exercise.
(Learning Activities outside of Classroom)　Do you take what is written and communicated as it is? Why is it being communicated that way? It is very possible to improve your ability to do so even outside of the exercise time. Be sensitive to media information. It is not enough to read Newspaper A and nod your head, or to watch TV program B and be satisfied with what you see. The standard of living of the time, the power of science, the strength of religion, the world not knowing the world. I want you to read the various arguments from a little distance and put your own worldview against them. In order to do this, it is also necessary to explore where your ideas come from and to find your footing.

When considering the next stage of your college life, another important thing to consider is whether or not you can assemble a life plan that overlaps somewhere with the themes you are pursuing. When the direction in which your energy is headed is set, the blow will be tremendously powerful.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Depending on the progress of the lecture, students will take two weeks to complete a major theme.
(Grading Criteria/Policy)Allocation: 70% of regular points (content of critique/research presentation), 30% of final project (time-consuming work outside of seminar hours). Materials used for the presentation should be addressed to the instructor after completion.
Evaluation criteria: How is the experience utilized? Positivity, originality, variety of options, specific examples, and a keen critical eye. A theme will be presented at the end of the seminar, and the final assignment will be to submit it by the deadline.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**3 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**水** 5/Wed.5

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】
①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる。
②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際	3 年生の自己紹介
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	Introductuion について/抄読会	リサーチクエスチョンの重要性について講義する。
12	Material and Method について/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	統計について/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodex など）/抄読会	主に Biodex の操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMG など）/抄読会	主に EMG の操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DEXA）/抄読会	DEXA の原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）
21	研究計画の検討（リサーチクエスチョンに妥当性）/抄読会	リサーチクエスチョンの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の検討（対象と方法の妥当性）/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する。
23	研究計画の検討（使用予定の統計方法の妥当性）/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会
24	予備実験の設定	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験の報告	予備実験の結果と考察について報告する。
26	予備実験の総括	予備実験の limitation の討議と総括
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1 ： 3 年時のまとめ 2 ：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　特になし
第 2-14 回：前回授業の復習
第 15 回：春学期の復習
第 16-28 回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】
· Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
· 坂井　健雄、松村　譲兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
· 臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】
基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの
参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− can evaluate locomotor disorders based on your findings and the knowledge you have acquired.
− Acquire the application of scientific analysis and logical thinking ability.
− Searching for research themes and setting assignments for graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process in class contribution (100%),

HSS400IA

専門演習Ⅲ

木下　訓光

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】
卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。
本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文献検索	Clinical question に沿った先行研究論文の選定・報告し議論する。主として Pubmed と CiNii を用いて先行研究を確認する。
2	研究の delimitation	研究の delimitation を明確にし、選定した先行研究論文の取捨選択を行う。Impact factor, Cite score, predatory journal の実態などに習熟し、Scopus を活用する。
3	先行研究の methodology	先行研究の methodology、特にデータ解析方法、統計解析について検証し、誤った分析方法を用いている、あるいは不適切な統計解析を行っているような科学的妥当性の低い論文を批判的に分析する。
4	先行研究の総括	各論文における仮説に対応した delimitation、母集団、サンプル、仮説検定方法の妥当性、null hypothesis の適切な設定、結果の解釈の適不適を理解できるようにする。
5	Research question の設定	先行研究の総括を踏まえて clinical question を十分 distilate し、より高度で simple かつ具体的な Research question を設定するための議論を行う。
6	Research question の distillation	Research question の倫理的・科学的妥当性検証と最適化を行い、最終的に決定する。この時点で学生は「その研究を行って一体何の役に立つのか」という質問に明確に回答できなければならない。
7	仮説立論	Research question に対応した適切で強力な仮説を設定する。学生は十分なエビデンスをもってこれを過不足なく説明することを要求される。
8	研究目的の決定	仮説に沿って適切な研究目的を設定する。その倫理的・科学的妥当性について検証する。
9	研究方法の設定	仮説検証に必要な方法を適切に設定する。方法の倫理的・科学的妥当性について検証する。
10	研究倫理	本学部における研究の多くはヒトを対象にして行われる。卒業研究でも文部科学省・厚生労働省『人を対象とする医学系研究に関する倫理指針』にしたがって行う必要もあり、その場合、倫理審査を受けたうえで許可される。倫理委員会に研究計画の審査を申請するために必要な、同指針の基本について学ぶ。
11	倫理委員会における卒業研究審査の対策	倫理審査申請書作成指導。実際にスポーツ健康学部倫理委員会に提出し審査を受けるための申請書の作成方法について学習する。
12	研究論文導入部の論述	研究論文導入部について議論、指導を受ける。学生は研究目的と仮説に至るまでを理路整然と説明できることが求められる。
13	パラグラフライティング	適切な論理的表現をするために必要な日本語力、すなわち論理的文章の作成について学ぶ。導入部をパラグラフライティングの手法に則って明確に叙述できるように学ぶ。指導を踏まえて次週までに研究論文導入部の草稿を完成させる。
14	研究論文導入部の提出	研究論文導入部の完成稿を提出し指導を受ける。 夏休み期間中に調査・測定を進めておくこと。
15	調査・実験機器のメカニズム	調査・実験に必要な分析機器・設備のメカニズムについて学習する。ただし本科目では、学生は夏休み期間中にも調査・測定を行い、定期的に成果の報告を行わなければならない。したがってこの回のテーマに調査・実験機器（1）とあるが、実際には第 1 回目ではないことに注意すること。あらゆる調査・測定において、「ただそこにある機器を使って無批判に計測を行う」という姿勢では、得られたデータはすでに「研究成果」とは呼べない代物となってしまう。いかにして信頼性・妥当性のある調査・測定を行いえるか、その基本ともいえる機器類の工学的メカニズムについて学習する。
16	調査・実験機器の操作	調査・実験に必要な分析機器・設備の扱いを習得する。準備、整備、検定・較正作業、後片付け、実験室における注意・ルールなど、最低限習得しておかなければならない技能を習得する。
17	分析手法の検討	測定データの分析に用いる統計解析手法について検討する。適切な分析方法の設定とその理論的根拠を明確に述べることができるようにする。なお実際の測定は夏休みを含め、授業時間以外に行うことがほとんどである。前回までの理解を踏まえて授業時間以外に速やかに調査・測定を進めること。
18	分析の実践	この時点までに得た測定データを総括し報告を行い議論する。
19	研究方法の執筆	この回までに研究方法のセクションを完成させて提出する。研究方法についてプレゼンテーションを行う。
20	研究結果の執筆	この回までに研究結果のセクションを完成させて提出する。研究結果についてプレゼンテーションを行う。
21	考察の発表	研究結果の考察を行う。研究結果を考察した内容をプレゼンテーションする。
22	考察の執筆	この回までに研究考察セクションを完成させて提出する。
23	結論の執筆	この回までに結論セクションを完成させて提出する。
24	卒業論文の推敲	論文初稿の推敲水準は低いものである。「書き上げた」だけでは論文として仕上がっていないことが多いと心得てほしい。特に参考文献の記載をルールに則り最初から正確に記載できる学生は少ないであろう。そこで、どのようなポイントに留意して推敲するか、また校閲・校正の作業も経験し、正式に論文と呼べる成果物に仕上げるために必要な手続きについて学習する。
25	卒業論文完成稿の提出	この回までに卒業論文を完成させて提出する。提出した論文の査読・指導を受ける。
26	卒業論文発表	ゼミ生を対象に卒論を発表する。
27	卒業研究発表会の準備	スライドを作成して提出、指導を受ける。なおスライドはすべて英語で作らなければならない。
28	卒業研究発表会予演会	ゼミ生を対象に卒業研究発表会の予演会を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 研究データ解析
② 調査活動
③ 学会・研究会参加
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。**推敲水準の低い論文には単位を与えない。**
なお 10 月終わりまでに先行研究の総括から始まって測定・調査を終了し、緒言部分の執筆が終了していない場合は卒論の執筆中止を言い渡す可能性があるので注意すること。その場合、専門演習Ⅲの単位取得は出来ない。

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記経験に基づき、「人を対象とする医学系研究」の最適な指導ができる。
【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行う。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にＥメールなどでアポイントメントをとり相談すること。
【注意事項-2】専門演習Ⅱの過程において、年度末の 2 月上旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、具体的で実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。
【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は 12 月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習Ⅲの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to complete writing the graduation thesis.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined by the graduation thesis (100%). The student who couldn't report the research design of graduation thesis in detail by the beginning of February in the former year of the seminar II is not permitted to take the seminar III.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

山本　浩

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次／ 4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生を対象とした集中授業で、メディア、ジャーナリズム、コミュニケーション、競技団体組織論を主たる分野として研究活動をする。自分のテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱで掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。
自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅰに始まり、専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきた事象、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】
テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、必要なサンプルを収集し、情報を分析し、言語化するという能動的なアクションを加えて、より深い成果に結びつける。
①早い段階での工程表の設定②テーマの決定と論文執筆の進め方の把握③先行研究選択と分類、評価④調査・研究方法の検討と確定⑤調査・研究⑥執筆から検証、さらにアブストラクト、キーワード抽出、そしてプレゼンテーション制作へと進む。
論文は少なくとも、本論で 20000 字を超えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
序盤は集中講義の形式で、軌道に乗り始めたら随時定期指導を基本原則とする。その際に積極的にオンラインゼミナールの形式を利用する。
追いかけた研究テーマを、いったん下がった位置からもう一度見渡すことが重要で、なお自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れないこと。構築した理論に基づき予め想定したイメージと、現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか深く検討する。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。何度も繰り返す直接のやりとりの中で、進捗具合の確認をする。広い裾野、整然とした積み上げ、そして揺るぎない書きぶりで成果を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	３年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋と千個研究分析	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る一方で先行研究の検証に取りかかる。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出は必須である。
4	先行研究分析	先行研究を読み込んだ結果を提示し、それを検証する。仮説の実証に必要な調査、インタビューなどがあれば、その組み立てにかかる。
5	調査・研究①	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。必ず工程表にチェックをかける。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読の延長上で、文献の分析のあり方を問う。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、法・経済・政治との関わりをチェックする。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、社会の要請に目を向けた分析を行う。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、国外他研究者の論文をベースに調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、メディアの論調、国内の専門家の著作などにより調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象、新たに明らかになった点をチェックし手を加える。
14	プレゼンテーションと相互議論、夏休みの計画起案	ここまでの研究の成果をプレゼンにまとめ、卒論執筆者同士で互いに議論を深める。
15	進捗状況報告①	全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。
16	進捗状況報告②	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を論文構成の理想型を意識して継続する。
18	継続研究④	アブストラクトを中心に全体像の捉え直しをする。
19	継続研究⑤	論文に引き込んだ表やデータの論旨との整合性を意識して研究を継続する。
20	継続研究⑥	同系論文との比較で不足する軸を確かめながら、研究を継続する。
21	中間報告④	研究成果を交互に発表し、演習生同士の意見交換を行う。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。
24	最終検証③	結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。
25	審査と発表①	研究発表の確認と質疑応答を進める（複数名）。
26	審査と発表②	同僚学生の意見集約をした上で研究発表の確認と質疑応答（複数名）を進める。
27	審査と発表③	批判的な指摘に答える形で研究発表の確認と質疑応答（複数名）を進める。
28	審査と発表④	最終提出に向けた研究発表の確認と質疑応答（複数名）を続ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文執筆には、テーマの設定によって時間的なずれが生じることがある。早め早めの対応が、優れた論文執筆の基本的な要件だと理解しなければならない。うちに籠もらず、様々な関連組織やグループと積極的に接触の機会を持つことが肝要だ。ひとつに限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも重要で、演習という形だけにとらわれず随時担当教官とコンタクトを取りコミュニケーションを図ることが欠かせない。
ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。本授業の準備学習・チェックの時間は最低各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】
個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】
海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点に常に注意を払いながら進めること。

【成績評価の方法と基準】
主たる成果は、通常の論文の形式とする。副たる成果として、途中経過にスライドソフト　などを使ってプレゼンテーションを求める。自分なりの哲学があって、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼し、論理的整合性を保ちながら取り込めているかどうかが鍵である。一方的であったり、思い込みに資料を強引にあわせるような論法に陥らないだけでなく、誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないことが肝要と心得たい。
評価配分：卒業論文 80 %　プレゼンテーション作成 10 %　工程表　10 %。

【学生の意見等からの気づき】
「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組みが、悔いの残らない卒論執筆につながっていく。ここがクリアできれば、あとは強い探究心とこれまでの積み重ねでそれなりの推力を発揮できる。後手後手に回りがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意しながらエンジンの回転数を上げていきたい。
特に遅くなりがちなのは調査である。卒論に取り組む学生がそれぞれに違ったテーマで学部の内外にわたって調査を集めにかかる。スタートが遅れれば、書き込む側のエネルギーが失われた状態に陥らないとも限らない。自らのテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。統計手法に関する知識も欠かすことができない。

【学生が準備すべき機器他】
出校のチャンスが増えてくれば、研究室で随時スクリーンを使っての検証ができる。その際には必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くことを勧める。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告する。本来は学生の側からの申告が前提だが、期日については担当教官からの指示も準備しておきたい。

【その他の重要事項】

ⓐ引用に対して、必ず出典や URL をすぐその場で残しておくことⓑ写真や材料をことあるごとに集めておくⓒ人の声を聞いたら、いつどこで誰に聞いたかを含め、メモを取っておく。そうしたデータが、論文の執筆で大きな助けになる。専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。

とかく、論文制作への取りかかりが遅れがちになる。就活など、別の活動に気持が傾くからだろうが、論文のテーマを自分の将来設計と連動させられるようであれば、これから先進む企業や組織から独自の視点を引き出すことが可能になる。その意味で、テーマ設定には熟考を求めたい。執筆方法に迷いや不安が生じた場合は、担当教官ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。

【Outline (in English)】

(Course Outline)　This is an intensive class for fourth-year students, in which research activities are conducted in the main areas of media, journalism, communication, and athletic organization theory. Students will set their own themes, conduct research, gather and analyze information, and write academic papers and presentations based on the research they have conducted and the methodologies they have delved into in Special Seminar < II > .

Taking up themes that are close to one's own, such as an extension of one's own career path, events that one has repeatedly pursued in the Special Seminar < I > and then Special Seminar < II > , or questions that one has had since one's high school days, will help one develop a more multilateral and in-depth logic.

(Learning Objectives)We do not stop at superficial ways of perceiving a theme. Not only build logic based on passive information from the Internet, print media, programs, etc., but also add active actions such as visiting the field, talking to people, collecting necessary samples, analyzing information, and verbalizing the information to lead to deeper results.

The process proceeds from (1) setting up a process plan at an early stage, (2) deciding on a theme and understanding how to proceed with writing the paper, (3) selecting, classifying, and evaluating previous research, (4) considering and finalizing research and survey methods, (5) research and survey, (6) writing to verification, further to abstract, keyword extraction, and then presentation production.

The paper should be at least 2,000 words in the main thesis.

(Learning Activities outside of Classroom)　There can be a time lag in the writing of a thesis depending on the subject matter. It must be understood that early action is a fundamental requirement for good thesis writing. It is important not to stay indoors, but to actively contact a variety of related organizations and groups. It is also important to place yourself in an environment where you can look at it from many different perspectives, not just one, and it is essential to communicate with your instructor as needed, not just in the form of exercises.

It is also important to read articles and papers related to your research theme from a journalistic point of view. The standard preparation time for this class is at least 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy) The primary outcome should be in the form of a regular thesis. As a secondary outcome, we require a presentation using slide software, etc., on the progress of the project. The key is to have a philosophy of your own, and to be able to fully digest and incorporate appropriate quotations and interview information while maintaining logical consistency. It is important not only not to fall into the trap of being one-sided or forcing the material to fit your assumptions, but also not to be satisfied with only the obvious conclusions that everyone knows.

Evaluation distribution: Graduation thesis 80%, presentation preparation 10%, process chart 10%.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

瀬戸　宏明

カテゴリ：**専門演習・演習**
開講時期：**年間授業**/Yearly　｜　配当年次／単位：**4 年次**／ **4 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習 II で決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
1：卒業論文完成までの作成過程の学習
2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】
1：実験より得られたデータの分析
2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する
社会情勢によってはオンライン授業に変更することもありうる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板などで提示する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第 2 回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第 3 回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第 4 回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第 5 回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第 6 回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第 7 回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第 8 回	データの収集	データの収集をおこなう。
第 9 回	データの解析	データの解析をおこなう。
第 10 回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第 11 回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第 12 回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第 13 回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第 14 回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第 15 回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第 16 回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第 17 回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第 18 回	結果報告 実験の継続	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第 19 回	追加実験	必要に応じて追加実験をおこなう。
第 20 回	実験の limitation について	実験の limitation について検討する。
第 21 回	緒言の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第 22 回	対象と方法の作成	方法について精査する
第 23 回	結果の作成	結果について精査する
第 24 回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第 25 回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第 26 回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第 27 回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第 28 回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定論文の精読
データの解析
学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
研究テーマにあわせて適時紹介する

【成績評価の方法と基準】
卒業論文完成にいたる論理の構築　50 %
卒業論文　50 %

【学生の意見等からの気づき】
テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターなど

【その他の重要事項】
授業の展開によって、若干の変更があり得る。
論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。
必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。
※大学の行動方針レベルが２となった場合，この授業はオンラインで行う場合がある。そのため大学の行動方針レベルが変更となった場合は学習支援システムで伝達するので必ず各自で確認をおこなうこと。

【Outline (in English)】
【Learning Objectives】
The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Learning the process of writing a graduation thesis.
− Completion of graduation thesis.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis (100%),

BSP100JA

基礎演習Ⅰ（D・Q クラス）

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 8 回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第 13 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』河野哲也著（慶應義塾大学出版）、その他、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅰ（E・R クラス）

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 8 回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第 13 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』河野哲也著（慶應義塾大学出版）。必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）
具体的な内容等は学習支援システムで提示。

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】 At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅰ（F・Sクラス）

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 8 回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第 13 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅰ（H・Uクラス）

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 8 回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第 13 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅰ（J・W クラス）

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部の教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
現代福祉学部の大きな３つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。
レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２０人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。課題、質問や意見などへのフィードバックは授業中に行うか、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第 2 回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第 3 回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第 4 回	本学部の３分野①	社会福祉について学習する内容
第 5 回	本学部の３分野②	地域づくりについて学習する内容
第 6 回	本学部の３分野③	臨床心理について学習する内容
第 7 回	福祉体験①	車椅子の試乗体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 8 回	福祉体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験または多様性の理解についてのワークショップ
第 9 回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第 10 回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第 11 回	レポートの書き方①	テキストによる学習①講義
第 12 回	レポートの書き方②	テキストによる学習②実習
第 13 回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の学びの総括と夏休みの過ごし方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での作業 50%，議論・発表・報告 50%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんとのやり取りを踏まえながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業においては、パソコンやネット環境が必要になります。貸与パソコン等、必要な機材を確保できない場合には申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. 【Learning Objectives】At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（Discussion, presentation, and report）(50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅱ（D・Q クラス）

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次年度からの専門演習へ向けて、必要となる論理的な考え方、社会調査の基礎知識、学術的な文章表現やプレゼンテーション技法を習得することを目的としています。

【到達目標】
次年度からの専門演習へ向けて、下記の能力や技能を習得することを目標とする。
・論理的な思考を身につけること
・社会調査の基礎知識を習得すること
・学問的な表現方法や論理的な記述力を養うこと
・グループワークにおけるディスカッションやディベートを通じて、異なる意見を持つ人たちと合意を形成していく手法を身につけること
・プレゼンテーション能力を身につけること
・関心のある学問領域や研究テーマを自分の言葉で表現できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
課題文献の精読、フィールドワーク、レジュメやレポートの作成、グループワークやプレゼンテーションを通じて、論理的思考や学術的なライティングスキルを身に付けていく。授業の展開によって若干の変更がありうる。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは次回の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	現場から考える方法論とは？	フィールド思考の研究方法について学ぶ
第 3 回	多種多様な社会問題に触れる①	各自の関心に応じた新聞記事の発表
第 4 回	多種多様な社会問題に触れる②	新聞記事の発表の続きとグループ分け
第 5 回	研究テーマの決定	グループごとに研究テーマを決める
第 6 回	仮説生成、文献調査、情報の分析方法	テーマに関する情報収集とその分析、仮説生成と調査方法について学ぶ
第 7 回	中間報告	グループごとに研究概要を報告する
第 8 回	データの収集	フィールドワークや文献調査によってデータを収集する
第 9 回	データの解釈・分析	調査で得られたデータの解釈と分析
第 10 回	プレゼンテーションの準備①	プレゼンテーションの基礎を学ぶ
第 11 回	プレゼンテーションの準備②	リハーサルと発表内容の修正
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、代表チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ予選 2	合同ゼミで予選を行い、代表チームを確定する
第 14 回	基礎ゼミコンペ本線	本選の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメ・レポートの作成、プレゼンテーション発表の準備など事前学習は不可欠である。各自の関心を絞り込むなかで、必要に応じてフィールドワークを求めることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、レポート等課題（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies.
In order to prepare for the next year's specialized training, the following abilities and skills are to be acquired.
To acquire logical thinking
To acquire basic knowledge of social research
To acquire basic knowledge of social research
To develop academic expression and logical writing skills
To learn how to build consensus with people of different opinions through group work discussions and debates.
To acquire presentation skills.
To be able to express in one's own words one's academic area of interest and research theme.
Prior study, including close reading of assigned literature, preparation of resumes and reports, and preparation for presentations, is essential. Fieldwork may be required as necessary as students narrow down their interests. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
To be able to express in one's own words one's academic area of interest or research theme. The evaluation will be made comprehensively based on ordinary points (50%) and reports and other assignments (50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅱ（E・R クラス）

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施する。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する協同作業を通じて答えを創り出す力を養う。

【到達目標】
・問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につく。
・魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養う。
・他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につく。
・ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養う。
・社会を見つめる視野が広がる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視する。同時に、疑問 → 仮説 → リサーチ → 検証 → さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養う。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンテーションを交互に織り交ぜながら進める。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学習目標の確認
第 2 回	課題発表①	夏休みの課題発表①（個人）
第 3 回	課題発表②	夏休みの課題発表②（グループ）
第 4 回	グループ分け・テーマ決め	グループで具体的テーマや提案の方向を定める
第 5 回	リサーチ①	自分たちの提案の有効性を検討し、更に必要な調査を検討し実施する
第 6 回	リサーチ②	提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行う
第 7 回	中間報告①	中間報告に向けてプレゼン資料を作成する
第 8 回	中間報告②	プレゼンの完成度を高める作業を行う
第 9 回	修正①	中間報告で受けたフィードバックを元に修正を行う
第 10 回	修正②	引き続き修正を反映させる
第 11 回	基礎ゼミコンペ予選①	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを選出する
第 12 回	基礎ゼミコンペ予選②	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定する
第 13 回	基礎ゼミコンペ本選	参加するゼミが共同で、本選を実施
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビューを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート等課題 50 %を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
基礎ゼミコンペについては、他のクラスと連携して公平・公正に運営する。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese. Based on the contents of Freshman Seminar I in the spring semester, students will embark on setting up challenging research topics for the presentation competition as a groupwork task. Eventually, three presentation sessions are arranged, namely in-class presentation session among classmates only, the joint presentation session in which representative groups from multiple Freshman Seminar II classes make the presentations, and the final presentation competition where all Freshman Seminar II classes get together and some of the best presentations performed by students.
【Learning Objectives】The presentation topics are usually, but not necessarily, connected to issues in the fields of community development, social welfare, or clinical psychology. Students are tasked to support their discussions and suggestions with facts and figures obtained through questionnaires, interviews, meta-analysis of previous studies, and so forth, each of which will be introduced in accordance with the progress of the course.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (discussion, presentation, and report) (50%).

BSP100JA

基礎演習Ⅱ（F・S クラス）

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
与えられたテーマに対する提案をグループで考え、他のクラスとともにコンペを実施します。自分たちでテーマや仮説を設定し、それを検証する共同作業を通じて答えを創り出す力を養います。

【到達目標】
･問題を設定し、課題解決策を提示する力が身につきます。
･魅力的なプレゼンを準備・発表する力を養います。
･他者との意見交換を通じて、一つのプランを作り上げていくグループワークの力が身につきます。
･ゼミ外の学生・教職員等と交流し、自ら働きかける力を養います。
･社会を見つめる視野が広がります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
チーム単位での話し合いを重視します。同時に、疑問 → リサーチ → 仮説 → 検証 → さらなる疑問という思考のサイクルを重視し、自分で考える力を養います。チームでの協働作業と外部から評価を受けるプレゼンを交互に織り交ぜながら進めます。プレゼンテーションの作成やディスカッションを通じた発表の推敲は、主にグループワークを通じて進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 課題発表 1	後期の進め方を共有します。夏休みの課題発表を行います。
第 2 回	課題発表 2	夏休みの課題発表を行います。
第 3 回	課題発表 3	引き続き夏休みの課題発表を行います。
第 4 回	グループ分け・テーマ決め	共通する課題をもつ個人を中心にグループ分けを行ったのち、グループで具体的テーマや提案の方向を定めます。
第 5 回	リサーチ 1	設定したテーマに関する取り組みや政策等の情報を持ち寄り、自分たちの提案の有効性を検討します。更に必要な調査を検討し、その方法を定めます。
第 6 回	リサーチ 2	自分たちの提案の有効性等について、アンケートやインタビューを行い、検証作業を行います。
第 7 回	中間報告準備 1	中間報告に向けてプレゼン資料を作成します。
第 8 回	中間報告準備 2	プレゼンの完成度を高める作業を行います。
第 9 回	中間報告	クラス内で中間報告会を行い、学生相互でフィードバックを行います。
第 10 回	修正 1	中間報告を受けた修正を行います。
第 11 回	修正 2	中間報告を受けた修正を引き続き行います。
第 12 回	プランコンペ予選 1	ゼミ内で予選を行い、ゼミ代表チームを確定します。
第 13 回	プランコンペ予選 2	クラス合同で予選を行い、本選進出チームを確定します。
第 14 回	プランコンペ本選	参加するほかのゼミとともに、本選を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題設定のための情報収集、インタビューやアンケートなどの実施、プレゼン資料の作成など、グループ単位での作業や学習が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見を聞き、進め方を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】
受講生の関心と要請に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire an ability to set themes and hypotheses by ourselves and create answers through collaborative work to verify them.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
· You will acquire the ability to set problems and present solutions to problems.
· Develop the ability to prepare and present attractive presentations.
· By exchanging opinions with others, you will acquire the power of group work to create one plan.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

BSP100JA

基礎演習Ⅱ（H・U クラス）

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部の理念であるウェルビーイングに照らして、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

【到達目標】
2 年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献・資料集め、フィールド調査、聞き取り、プレゼンテーション作成、ディスカッションを通じた発表などを主にグループワークを通じて進めていく。対面での開講となる。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、または対面等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要・ポイントの紹介
第 2 回	夏休み課題報告①	ビブリオバトル 1 回戦
第 3 回	夏休み課題報告②	ビブリオバトル決勝戦
第 4 回	グループワーク①	企画のポイント、グループづくり
第 5 回	グループワーク②	特定のテーマを議論
第 6 回	グループワーク③	データ・資料の収集・整理
第 7 回	グループワーク④	内容検討および事例研究
第 8 回	グループワーク⑤	グループ毎に発表原稿作成
第 9 回	グループワーク⑥	経験者からのフィードバック
第 10 回	グループワーク⑦	グループ毎にリハーサル
第 11 回	プレゼンテーション①	グループ研究成果を発表・ゼミ内で発表チームを選出
第 12 回	プレゼンテーション②	基礎ゼミ・プレゼン準決勝
第 13 回	プレゼンテーション③	基礎ゼミ・プレゼン決勝戦
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、発表・レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼン資料作成のための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。

【担当教員の専門分野等】
障害者福祉、性暴力被害者支援、国際開発、プログラム評価

【Outline (in English)】
Course outline: This seminar is designed to clarify which topics could be focused on in the field of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.
Learning Objectives: Students acquire logical thinking skills, presentation and communication techniques in preparation for a special seminar from the second year onwards, practice and fieldwork, and for their future professional life.
Learning activities outside of the classroom: Students are required to review the handouts and other materials distributed in each lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Overall assessment based on 50% normal marks, 50% presentations, reports, and other assignments.

BSP100JA

基礎演習Ⅱ（J・W クラス）

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**クラス指定あり。指定されたクラスを受講すること。基礎演習Ⅰ・Ⅱの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
興味のある課題についてグループで対応等を検討し、プレゼンテーションを行う。その中から代表となったグループが他のクラスも含めた全体のコンペで発表を行う。これらのプロセスから、大学生として必要なスキルを習得する。

【到達目標】
･課題に関する情報を収集・分析することができる。
･グループで協働することができる。
･自分たちの考えを他者にプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに課題を設定し、その多面的な把握および対応検討を行う。そして、それを他者に効果的に伝えることができるようプレゼンテーションのあり方を検討する。その後、クラス内で発表を行い、質を高め合う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	現場から考える方法論とは？	フィールド思考の研究方法について学ぶ
第 3 回	フィールドワークとは？	社会調査の基礎知識とフィールドワークの技法
第 4 回	問題関心のつくり方	関心のある学問領域に応じてグループワーク
第 5 回	文献調査の方法	グループごとに先行研究と分析視角の検討
第 6 回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第 7 回	研究テーマ発表	グループごとに研究テーマを発表
第 8 回	データの収集（1）	文献調査によってデータを収集する
第 9 回	データの収集（2）	フィールドワークよってデータを収集する
第 10 回	データの解釈・分析（1）	文献調査で得られたデータを解釈する
第 11 回	データの解釈・分析（2）	フィールドワークで得られたデータを分析する
第 12 回	追加データの収集	調査の振り返りと不足しているデータ収集
第 13 回	結論の提示	調査データから導き出される結論を検討する
第 14 回	プレゼンテーション	グループごとに研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて、課題に関する情報収集等をグループで行う。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）＆プレゼンテーション（50%）の総合評価

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ感染の防止に留意しながら、学生間のグループ・ワークおよび相互交流を促進するような授業を心掛けたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業の展開によっては、上記の授業スケジュールは若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is the second semester for a two-semester integrative Freshman Seminar. This course is designed to allow students to gain experience in constructing research projects and giving effective presentations in Japanese. 【Learning Objectives】The goal of this class is for students to acquire the ability to research, analyze, and present on social issues through group work.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class（presentation）(50%).

BSP100JA

フィールドスタディ入門

水野　雅男、眞保　智子、丹羽　郁夫

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に関わる実務領域の内容と課題について理解する。

【到達目標】
現代福祉学部の学生として、所属学科の専門領域にこだわることなく、広く社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に目が向けられるような資質を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
３領域に関わる実務家を招いて実務内容について紹介いただく。基本的に各回とも Zoom によるリアルタイム・オンライン授業形式とする。授業の内容は期限つきの動画と PDF 資料を掲載する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。
ソーシャルワーク実習、心理実習、コミュニティマネジメント・リサーチ、コミュニティマネジメント・インターンシップの先行履修科目である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のガイダンス	本講義の進め方、諸注意
第 2 回	社会福祉分野①	ゲスト講師①による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（眞保）
第 3 回	社会福祉分野②	ゲスト講師②による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（眞保）
第 4 回	社会福祉分野③	ゲスト講師③による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（眞保）
第 5 回	社会福祉分野④	ゲスト講師④による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（眞保）
第 6 回	コミュニティマネジメント分野①	ゲスト講師⑤による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第 7 回	コミュニティマネジメント分野②	ゲスト講師⑥による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第 8 回	コミュニティマネジメント分野③	ゲスト講師⑦による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第 9 回	コミュニティマネジメント分野④	ゲスト講師⑧による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（水野）
第 10 回	臨床心理分野①	ゲスト講師⑨による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（丹羽）
第 11 回	臨床心理分野②	ゲスト講師⑩による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（丹羽）
第 12 回	臨床心理分野③	ゲスト講師⑪による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（丹羽）
第 13 回	臨床心理分野④	ゲスト講師⑫による実務内容の紹介と担当教員によるまとめ（丹羽）
第 14 回	３年生の実習体験報告	各分野の実習体験内容の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
外部講師の専門分野について予告するので、当該分野の概略を調べて講義に臨むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）で評価する。
＊学外実務者からの啓発が重要、リアクションペーパーの内容を重視する。
＊欠席 5 回以上の場合は評価をしない。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーで評価の高い外部講師に引き続き講義を依頼する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて学習支援システムを通じて情報を伝達する。

【その他の重要事項】
授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ実務経験を有しており、各専門分野で講師を選定し招聘するとともに、講義内容を適宜補足説明する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire the content and issues of practical areas related to social welfare, community management, and clinical psychology.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Develop qualities that broadly focus on social welfare, community management, and clinical psychology.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

BAM100JA

人体の構造と機能及び疾病

瀬戸　宏明

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2018 年度以降入学性のみ履修可。2017 年度以前入学生は「N5151 医学概論」を履修すること**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

【到達目標】
心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。新型コロナ感染の状況によってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第 2 回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第 3 回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第 4 回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第 5 回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第 6 回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第 7 回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第 8 回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第 9 回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第 10 回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第 11 回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第 12 回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第 13 回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　第１巻「人体の構造と機能及び疾病（第３版）』中央法規、2376 円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：必要に応じて、出席を確認する。
②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切＜不可＞
③採点基準：期末試験の点数のみで成績の評価を（100 %）行う。評価に関しては出席等の平常点は考慮しない。ただし出席等の平常点の状況は適時勘案する。
新型コロナ感染によってオンライン授業になった場合、上記の成績評価の方法や評価基準は変更になります。その場合は、学習支援システムを通して通知しますので必ずチェックするようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure, function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Mental and physical function
- body structure and function
- illness

【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

BME100JA

リハビリテーション概論

渡邊　塁、後藤　圭介、酒井　克也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な病気によって引き起こされるヒトの障害と、それに対するリハビリテーションの関係について、特に臨床的な観点をふまえながら学ぶ。また、身体機能のみでなく社会的観点も踏まえ包括的なリハビリテーションの重要性も考えていく。そうした過程を通して、医療・福祉視点の知識に留まらず、一般的な日常生活の観点からも、障害やリハビリテーションを考えることの重要性を身に着ける。最終的には、現代のリハビリテーションサービスの現状に対して、自分なりの意見を考えアウトプットできることを目指す。

【到達目標】
各種疾患について学び、世の中にはどのような障害あり、その障害を持った人たちがどのように困っているのかを理解する。また、それに対してどういった取り組みをしていくべきか、そうした障害を抱えている人達にどうすれば寄り添えるか考えられるようになる。また、疾患のみでなく、ヒトのそもそもの認知機能や身体機能の基本的な知識も学びながら、より障害を持った方々の大変さを実感手出来ることを目指ざす。また同時に、得られた知識に基づく考えを発信できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講師が作成した資料に沿いながら、障害の概念や人体の構造と機能、及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。秋学期はオンラインまたは対面での開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。各講義内において、質疑の時間設定し、疑問点の解消を目指す。また、適宜グループディスカッションを取り入れ、自分たちの意見交換をする中で、多様な考えを受け入れる能力を身に着ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの成り立ちから、その構成要素取り巻く社会システムについて。(渡邊)
第 2 回	リハビリテーションに関わる職種	リハビリテーションに関わる各職種の専門性について。(渡邊)
第 3 回	リハビリテーションと障害	リハビリテーションが関わる多様な障害像について、その概要。(渡邊)
第 4 回	ヒトの身体・認知機能の基本 1	発達や加齢の身体・認知機能との関係性の理解。(酒井)
第 5 回	高齢者に対するリハビリテーション 1	現代の高齢者が直面する身体、精神面での問題についての理解。(酒井)
第 6 回	高齢者に対するリハビリテーション 1	医療・介護両方の観点から、高齢者に必要なリハビリテーションに関して。(酒井)
第 7 回	脳卒中のリハビリテーション 1	脳卒中の病態から障害の理解。(渡邊)
第 8 回	脳卒中のリハビリテーション 2	脳卒中後遺症に対するリハビリテーションの概要から各論まで。(渡邊)
第 9 回	運動器疾患のリハビリテーション	骨折から変形性関節症を中心に、疾患の概要とその障害に関して。(酒井)
第 10 回	難病のリハビリテーション	神経難病からリウマチまで、難病へのリハビリテーションの理解。(後藤)
第 11 回	がん患者に対するリハビリテーション	悪性腫瘍の病態・リハビリテーショの現実。(後藤)
第 12 回	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺を中心にその障害からリハビリテーションについて。(後藤)
第 13 回	地域社会におけるリハビリテーション	福祉からみたリハビリについて。(渡邊)
第 14 回	テスト	これまで学んだリハビリテーションに関する知識についての試験。(渡邊)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、講義に即した資料が提供されるので、それを用いて適宜復習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を中心に進め，参考資料は適時紹介する。

【参考書】
特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
出欠確認：毎回出席を取る。
授業参加態度: グループディスカッションや授業内での積極的な意見の発信を加味する。
試験：期末試験を実施する。
採点基準：出席 10%、授業態度 30 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
毎回、講義に際してリアクションペーパーを用い、必要な改善点はその際にフィードバックしてもらう。また、期末テスト時にも希望者には感想を書いてもらい、次年度の講義に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the concept and details of rehabilitation by showing the specific cases of some disorders.
Learning activities outside of classroom: We recommend reviewing our materials and, if possible, looking for the related news by using the internet or any other media.
Learning Objectives: The aim of this class is to learn the characteristics of disabilities associated with some typical diseases, and the related examples of clinical rehabilitation to treat the disabilities.
Grading Criteria/ Policies: Final grade will be decided based on the following process; in-class contribution 30%, term-end examination 70%. We aim for having the students' own opinions and show them.

ARSk100JB,ARSk100JC

地域問題入門

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】
地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の” 考え方” を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第 2 回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第 3 回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第 4 回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第 5 回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第 6 回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第 7 回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第 8 回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第 9 回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第 10 回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての” 被害” とは？
第 11 回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第 12 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第 13 回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(40%) and term-end examination（60%).

SOW100JB,SOW100JC

社会問題論

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】
・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
・社会問題の解決に向けた活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。
基本的には対面授業で実施するが、ゲストスピーカーの都合によっては、オンラインにて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第 3 回	社会問題とは何か②	活動からの理解
第 4 回	社会問題①	少子高齢化・人口減少
第 5 回	社会問題②	ヤングケアラー
第 6 回	社会問題③	ワーキングプア
第 7 回	社会問題④	子どもの貧困
第 8 回	社会問題⑤	ホームレス
第 9 回	社会問題⑥	ひきこもり
第 10 回	社会問題⑦	性暴力
第 11 回	社会問題⑧	誹謗中傷
第 12 回	社会問題⑨	難民
第 13 回	社会問題の連鎖	社会問題の全体像 SDGs
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の学生のフィードバックをもとに、今年度もゲストスピーカーからの講義を予定している。

【Outline (in English)】
This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

SOW100JB,SOW100JC

ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6005 ソーシャルワークⅠ」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習することにより、援助活動の基本スキルを習得することを目指します。

【到達目標】
専門職とは何かを理解するため、その職業の範囲や専門職倫理について学習し、加えて臨床心理士等をはじめとする他職種との連携することの意義などについて具体的に説明できるように学習していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義	社会福祉士および介護福祉士法と精神保健福祉士についての講義
第 3 回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義とその内容	ジェネラリスト視点に基づく相談援助の実際についての説明と DVD 鑑賞
第 4 回	ソーシャルワークの概念と範囲①	ソーシャルワークの定義についての講義（国際ソーシャルワーカー連盟など）
第 5 回	ソーシャルワークの概念と範囲②	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織協会）の講義
第 6 回	ソーシャルワークの概念と範囲③	ソーシャルワークの形成過程（セツルメント）についての講義
第 7 回	ソーシャルワークの目的と原則	講義と課題説明
第 8 回	ソーシャルワークの理念①	ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義
第 9 回	ソーシャルワークの理念②	社会正義、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献を用いた事例検討と講義
第 10 回	ソーシャルワークにおける権利擁護の概念とその範囲	講義と小グループでの討議
第 11 回	ソーシャルワーカーの概念と実践の範囲	福祉行政、民間施設・組織における相談援助専門職と諸外国の動向
第 12 回	社会福祉職の倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理や日本社会福祉士会倫理綱領に基づいた事例検討
第 13 回	地域福祉の基盤整備と他職種連携の必要性	講義と事例検討
第 14 回	ソーシャルワークにおける最近の動向 ◆定期試験範囲の発表	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
･社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職　第 3 版』中央法規　2015 年
･副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005 年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー, 授業内課題の提出が 50 %, 筆記試験が 50 %の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】： Final grade will be calculated according to the following process report (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW200JB

地域福祉論

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。地域福祉に関する基本的な重要事項については、今後の学習に活かせるようしっかりと理解しているか試験等により確認するので、自己学習を図ること。

【到達目標】
・地域福祉に関する基礎的な知識を体系的に理解し説明できる。
・今後の社会の変化に対応した地域福祉に関する課題を予測できる。
・地域福祉に関する先進的な実践事例を分析することができ、実践への応用を工夫す
　ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、「地域福祉」の概念、その歩みや思想、諸理論、現代生活における地域福祉問題について基本的理解を図る。さらに、具体的に地域福祉の政策や財源、社会福祉協議会、NPO 法人など地域福祉を推進する組織・団体、サービス内容、担い手などについて理解を図る。課題やリアクションペーパーにより、講義内容の理解と考察を表現し提出してもらうとともに、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会における社会福祉問題と地域福祉	社会福祉問題を地域福祉の視点からの理解
第 2 回	今日の地域福祉のシステムと実践	地域福祉のシステムと実践の意義、概要
第 3 回	地域福祉の歴史的発展と展開①	地域福祉の源流と 1960 年代まで
第 4 回	地域福祉の歴史的発展と展開②	1970 年代から 1980 年代まで
第 5 回	地域福祉の歴史的発発展と展開③理念と概念、諸理論	1990 年代から 2000 年代まで
第 6 回	地域福祉の理念と概念、諸理論	地域福祉の基本的な理念、概念、代表的な諸理論
第 7 回	地域福祉の構成要件①	在宅福祉サービスの内容と提供のあり方
第 8 回	地域福祉の構成要件②	住宅、交通、バリアフリーなどの関連公共施策
第 9 回	地域福祉の構成要件③	予防的福祉サービス、活動（権利擁護など）
第 10 回	地域福祉の推進主体①	推進主体の性格、社会福祉協議会、民生委員
第 11 回	地域福祉の推進主体②	ＮＰＯ、ボランティア団体
第 12 回	地域福祉の推進主体③	地域包括支援センター、福祉事務所、社会福祉施設など
第 13 回	地域福祉の政策と財源	地域福祉の政策と財源（公的財源、民間財源）
第 14 回	地域福祉計画、まとめ	地域福祉計画の沿革と内容、策定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の講義の内容に対応するテキストを予習する。課されたレポート課題について、テーマに即してフィールドワークや文献等によりレポートを作成する。課題は、２～３のテーマとする。
準備・復習時間は、１回につき４時間以上。

【テキスト（教科書）】
平野隆之・宮城　孝・山口稔『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣、2008 年

【参考書】
宮城　孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店,2022 年
地域福祉学会『新版地域福祉事典』中央法規、2006 年
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『地域福祉と包括的支援体制』中央法規、2021 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018 年

【成績評価の方法と基準】
1. 平常点、２～３のテーマの課題についてのレポート（３０％）
2. 試験期間内に行う理解度を問う試験（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。また、現代における地域社会における福祉のあり方を広い視野でとらえるように工夫したい。

【その他の重要事項】
・本授業は、地域福祉に関する用語や制度、実践についての基本的な理解を図ることが重要になります。積極的・意欲的な学習態度で臨んでください。また、福祉コミュニティ学科においては、社会福祉士試験科目であることも意識して学習してください。
・講師は、社会福祉協議会において実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
This course learn about basic understanding and thinking skills about the Community welfare.

【到達目標（Learning Objectives)】The goals of this course A and B.
A Basic understanding and thinking skills about the Community welfare.
B To consider about Community welfare problem having to do with today.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

ENG200JB

社会的包摂論

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】
バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。映像資料を視聴した後、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第 2 回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第 3 回	バリアフリー政策②米国	日米のバリアフリー政策の相違
第 4 回	移動と UD ①	国内の交通施設や公共交通機関
第 5 回	移動と UD ②	欧州の交通政策とトラム
第 6 回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第 7 回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第 8 回	障害者の能力①	エイブルアート
第 9 回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第 10 回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第 11 回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策と NPO 活動
第 12 回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第 13 回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第 14 回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007 年
「インクルーシブデザイン　社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014 年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004 年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011 年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007 年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70 %　②レポート　30 %　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

ENG200JB

地域計画論

今井　裕久

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの地域で、その将来像が構想（デザイン）され、それを実現するために様々な計画（プラン）が策定・実践されてきた。その計画主体には、国や自治体だけでなく、民間企業や個人の起業家も含まれる。本講義では、こうしたさまざまな主体による地域へのアプローチを学び、今日的な計画論とその実践を探りながら、あるべき姿を受講生と共に探る。

【到達目標】
地域とは何か、計画を立てるとはどういうことか、その利点・限界は何かを学ぶ他、計画プロセスの多様性、そのイノベーション、実践や成果の評価、見直しの在り方等について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では地域計画に関連する制度や事例について解説を行い、授業間の課題を通じて、受講者には調査・図表の作成などを行い、提出してもらう。提出物へのフィードバックは、各回の授業のはじめ及び最終回に実施する。また個人課題と併せ、グループワークなどを通じ他者とのコミュニケーションや合意形成といったまちづくりに必要なテーマについても演習等を通じて取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計画とは何か？	授業の目的や進め方について説明するとともに、そもそも「計画」とは何かを問う。
第 2 回	地域計画の変遷とこれから	社会の変化に応じた地域計画の変遷を学び、これからの計画を考える。
第 3 回	地域計画における課題 (1)	地域計画において生じうる価値観の相克についてケーススタディを通じて紹介し、それに対する考え方を議論する。
第 4 回	地域計画における課題 (2)	引き続きケーススタディを通じて、多様な価値観の相克とそのなかでの計画づくりを考える。
第 5 回	システム思考による地域分析	システム思考の考え方を解説し、SWOT を用いた地域分析を行う。
第 6 回	システム思考による地域計画のはじまり	地域分析を生かして地域計画を作成する方法を解説し、それぞれで計画づくりを行う。
第 7 回	システム思考による地域計画	システム思考による地域計画を、具体例を通じて解説する。
第 8 回	地域計画のケーススタディ (1)	地域計画を策定・実践について、具体例を通じて学ぶ。
第 9 回	地域計画のケーススタディ (2)	別の具体例を使って、地域計画の策定・実践について学ぶ。
第 10 回	地域計画の表現と対話〜土地利用とマッピング	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回は地図を使う。
第 11 回	地域計画の表現と対話〜グラフやループを使って	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回はグラフやループを使う。
第 12 回	マルチステークホルダーによる計画づくり①	地域の複雑な利害関係や構造を探りつつ、そこでどのようなマネジメントが最適かを探る。
第 13 回	マルチステークホルダーによる計画づくり②	地域マネジメントを理解した上で、具体的なケースワークを行う。
第 14 回	提出課題の共有・まとめ	受講生から提出された課題を通じて地域計画のポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に配布する教材を参考に、常に自分の生活の中にある「計画」に目を向け、理解を深めることが課題作成の役に立ちます。また常に地域の客観的な現状分析の根拠となる統計数字に関心を寄せ、数値的データを可視化することにより、客観的な共通認識をもって地域を理解することを意識した課題を提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内にレジメと参考資料を配布する。

【参考書】
保井美樹・泉山塁威編著『エリアマネジメント・ケーススタディ（仮題）』学芸出版社、2021 年 4 月
枝廣 淳子 ・小田 理一郎 (著)『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか? ―小さな力で大きく動かす!システム思考の上手な使い方』東洋経済新報社、2007 年 3 月
ジャック・ベルタン（著）、森田喬（訳）『図の記号学』平凡社、1982 年 12 月

【成績評価の方法と基準】
最終レポート 35 %、各講義の演習レポート 65 %

【学生の意見等からの気づき】
情報機器の利用について得手不得手がある学生への支援として授業支援アシスタントを積極的に活用して、フォローを行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義となる可能性があることや、提出が必要な演習課題等は情報機器（ノート PC, タブレット等）が不可欠です。常に情報機器を講義に持参してください。

【その他の重要事項】
実際の地域計画の現場として、複数のフィールドで活動しているため、実際の地域計画で使った計画図や合意形成のための資料を提示して講義を行います。

【Outline (in English)】
There are lots of Plans made to tackle unknown problems and realize ideal regional future. Among those are done by not only national and local governments but also private organizations and entrepreneurs.In this lecture, we first learn various approaches to regional planning as well as recent change happening worldwide, discuss future planning with students.
Students will be expected to have completed the required assignments or reports after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 35%、Short reports after each class: 65%

ARSx200JB

ローカルイノベーション論

野田　岳仁、水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第 2 回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 3 回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 4 回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第 5 回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 6 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 7 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 8 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 9 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 10 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第 11 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 12 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第 13 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 14 回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB

ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）Ⅱ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6056 コミュニティソーシャルワーク」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を基盤とするソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の展開方法について、その基本的な内容やプロセスについて理解することを目的とする。コミュニティソーシャルワークについて基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワークの内容とプロセスについて説明することができる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことがことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのＤＶＤなどを視聴する。対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域における福祉問題とソーシャルワーク実践	地域を基盤としたソーシャルワーク実践の目的と特徴（理解しやすい事例を用いて）
第 2 回	コミュニティソーシャルワークの概念と今日的意義	事例等を通しての基本的な理解
第 3 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス①	地域におけるニーズ把握の方法
第 4 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス②	ニーズの焦点化と共有化
第 5 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス③	プランニングとモニタリング、評価
第 6 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容①	小地域ネットワーク活動
第 7 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容②	当事者のエンパワメントと組織化、ボランティアコーディネート
第 8 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容③	ＮＰＯ支援、社会資源の開発、改善、ネットワーキング
第 9 回	事例を用いたコミュニティソーシャルワーク実践の展開①	個別アセスメント
第 10 回	実践の展開②	地域アセスメント
第 11 回	実践の展開③	アセスメントの統合
第 12 回	実践の展開④	サポートネットワーク図の作成
第 13 回	実践の展開⑤	プランニング
第 14 回	実践の展開⑥	プランニングの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、２～３とする。
準備・復習時間は、４時間以上。

【テキスト（教科書）】
宮城　孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店,2022 年,1,980 円【税込み】
平野隆之・宮城　孝・山口　稔『コミュニティとソーシャルワーク　地域福祉論』有斐閣、2008 年

【参考書】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例ー』中央法規、2019 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例』中央法規、2018 年
日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2014 年
日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006 年

【成績評価の方法と基準】
①　平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容 (30%)
②　試験期間内に行う理解度を問う試験 (70%)
　両方により総合的に行う。諸状況により、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ等による事例の視聴

【その他の重要事項】
・本授業は、コミュニティソーシャルワークに関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、高齢者福祉施設での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がコミュニティソーシャルワークの基本的なスキルを習得することを図ることとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
This course learn about basic understanding and thinking skills about the Community social work.

【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course A and B.
A To understanding about the basic contents and skills of Community social
work.through the case analysis.
B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding and thinking skills of Community social work.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

SOW200JB,SOW200JC

ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6057 ソーシャルワークⅢ 」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、およびスーパービジョンについて学ぶ。

【到達目標】
①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グルー プワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。
授業終了後にリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、成績評価について
第 2 回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係
第 3 回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第 4 回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第 5 回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第 6 回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第 7 回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第 8 回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第 9 回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）
第 10 回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第 11 回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第 12 回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第 13 回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第 14 回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。
授業への能動的参加（40 %）、試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、情報機器（パソコン）を準備しておくこと。

【Outline (in English)】
This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

PSY200JB,PSY200JC

心理学的支援法

末武　康弘

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2018 年度以降入学者のみ受講可能。2017 年度以前入学者は「N6058 カウンセリング」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、 訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
･代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
･訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
･心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
･良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
･心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
･心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第 2 回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第 3 回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第 4 回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第 5 回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第 6 回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第 7 回	主要理論（その 1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第 8 回	主要理論（その 2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第 9 回	主要理論（その 3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第 10 回	主要理論（その 4）	認知行動療法について学びます。
第 11 回	主要理論（その 5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第 12 回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。
第 13 回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第 14 回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」と「理解度確認テスト」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
末武康弘（2018）『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎―』誠信書房

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）と毎回の課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach, community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
− understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 60%、Assignments after each class meeting: 40%.

SOW200JB

アジア地域開発論（2020 年度以前入学者）

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第 4 回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第 5 回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第 6 回	アジアの実際を学ぶ①	アジアから実況中継①
第 7 回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第 8 回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第 9 回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第 10 回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第 11 回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第 12 回	アジアの実際を学ぶ②	アジアから実況中継②
第 13 回	課題発表	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on Asian regional development in the context of social policy and administration.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW200JB

アジア地域開発論（2021 年度以降入学者）

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**福コミ： 1〜4・臨心： 2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉〈Ｓ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第 4 回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第 5 回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第 6 回	アジアの実際を学ぶ①	アジアから実況中継①
第 7 回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第 8 回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第 9 回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第 10 回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第 11 回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第 12 回	アジアの実際を学ぶ②	アジアから実況中継②
第 13 回	課題発表	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on Asian regional development in the context of social policy and administration.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

ENG300JB

都市住宅政策論

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**旧「都市住宅政策論Ⅰ」修得者は履修不可**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】
都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。
国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。
授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。
講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】
「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策―イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】
①平常点　70 %　　②レポート　30 %　①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

POL300JB

政策評価論

倉根　明徳

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2023 年度の授業実施日は、8 月 2 日（水)、3 日（木)、4 日（金）**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策評価の理論だけではなく、政策立案や評価プロセスの実例を学ぶことで、行政経営や政策の意義について理解することを目的とする。

【到達目標】
日本に政策評価が導入された背景や政策評価の理論と手法、政策立案のプロセスを把握した上で、政策評価が政策のマネジメントサイクルの中で果たす役割について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は３日間の集中講義となります。前半は政策評価と政策立案の理論、後半は事例紹介とワークシートを使った施策立案及び評価指標設定の演習（各自またはグループ)、最終日の午後には立案された施策をいくつかピックアップしてディスカッションを行います。また、授業の初めに、前日の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
各回のテーマに応じて適宜資料を提供しながら講義を進めますが、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、短期間で理解できる内容にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	全体概要、講義の進め方について
2	政策評価の概要	政策評価導入の背景や評価の類型等について
3	政策評価の手法①	事業評価方式、実績評価方式、総合評価方式の概要と評価手順について
4	政策評価の手法②	実際に行われている政策評価について（ケーススタディ）
5	政策立案の手法①	目標設定から政策立案の流れについて
6	政策立案の手法②	2018 年度以降、主流になりつつある EBPM（エビデンスに基づく政策立案）について
7	政策立案の手法③	海外との比較について（NZ の震災復興計画等を事例に）
8	政策立案と評価の実例①	政策・評価の実例紹介（健康福祉政策）
9	政策立案と評価の実例②	政策・評価の実例紹介（まちづくり政策）
10	政策立案と評価の実例③	政策・評価の実例紹介（官民連携政策）
11	政策立案と評価の実践①（演習）	各自（またはグループ）で施策の立案と評価指標設定を実施
12	政策立案と評価の実践②	第 11 回で提出された施策をいくつかピックアップしてディスカッション
13	政策立案と評価の実践③	第 11 回で提出された施策をいくつかピックアップしてディスカッション
14	講義のまとめ	全体の振り返りと修得内容の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。関心のあるテーマに関わる施策について国や地方自治体の HP などを調べてみてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【参考書】
必要に応じて講義の際に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、演習及びディスカッション 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生から「講師や学生同士でのディスカッションが良かった」と意見をいただいたため、今年度はディスカッションの時間を増やすように改善したいと考えています。

【Outline (in English)】
This course introduces students to policy evaluation, policy making, and public management. The objective of this course is the role of policy evaluation. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content.
Your overall grade in the course will be based on the following
Class participation: 50%, Exercises and Discussions: 50%

SOW300JB

刑事司法と福祉

辰野　文理

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6114 司法福祉論 」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、刑事司法の概略とその中の更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる基礎的知識を習得することをめざす。
更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることで、再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける制度である。更生保護の対象となるのは、刑務所から仮釈放になった人、少年院から仮退院になる少年、家庭裁判所で保護観察処分となった少年、保護観察付き執行猶予の言い渡しを受けた人などである。
更生保護は、こうした人々を対象に、遵守事項の遵守を求め、生活上必要な指導を行って、改善更生への指導を行うとともに、自立した生活を営むことができるようにするために必要に応じて住居や職を得る援助を行う。その他、恩赦、犯罪予防活動など、更生保護の内容は多岐にわたる。こうした制度に関わるのは、保護観察官、保護司の他に、更生保護施設、更生保護女性会、BBS 会、協力雇用主などである。
近年、刑務所を出所した高齢者や障害者を福祉サービスにつなぐことで再犯を防止する対策が打ち出されており、その中の福祉へのつなぎ役として、刑務所や更生保護施設、検察庁に関わる社会福祉士の役割が重要となってきている。そこで本講義では、資料等により刑事司法や更生保護の個々の制度を学習する。受講者はこの学習を通じ、刑事司法、少年司法の概要と更生保護制度に対する理解を深めることができる。

【到達目標】
・刑事司法、少年司法、更生保護等、本授業で扱う基本的用語の意味を説明できる。
・本授業で扱う種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
・刑事司法の流れと福祉との関わりを説明できる。
・犯罪者処遇の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとに各事項の概要を講義と討議により学習した上で、基本的事項の振り返り課題を行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、解説、講評を行うとともに、区切りごとに、振り返りを行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、少年非行の動向、再犯の状況等	犯罪動向、少年非行の動向、再犯の状況等を把握した上で、刑事司法の流れを学習する。
2	刑事司法を取り巻く環境	再犯の防止等の推進に関する法律を軸に、再犯防止のための取り組みを学習する。
3	刑事司法と刑事司法機関	刑法、犯罪の成立要件、刑事司法機関の概要などを学習する。
4	刑事司法と犯罪者処遇	犯罪原因論を概観した上で、犯罪者処遇へのつながりについて学習する。
5	少年司法	少年法、少年事件の手続を概観した上で、少年鑑別所や少年院の役割について学習する。
6	犯罪被害者支援	犯罪被害の状況、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者支援の展開等を学習する。
7	更生保護制度の概要	更生保護制度の意義、歴史、関連機関を学習する。
8	仮釈放、生活環境の調整	仮釈放等の概要と性格環境の調整について学習する。
9	保護観察	保護観察の種類、遵守事項等を学習する。
10	保護観察の詳細	保護観察処遇の具体的な内容について学習する。
11	更生緊急保護、更生保護施設等	更生緊急保護の対象や内容、更生保護施設の概要を学習する。
12	医療観察制度	医療観察制度の概要を学習する。
13	更生保護に関わる機関や民間協力者、犯罪者処遇における近年の動向	犯罪者の処遇に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、毎時間、資料等の該当箇所に目を通して授業に臨む。授業後、復習として、学習した範囲を見直し、振り返り問題を行う。
また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。適宜資料を配付する。

【参考書】
・法務省保護局のサイト
（http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html）
・日本更生保護学会編『更生保護学事典』成文堂,2021 年
・辰野文理『要説 更生保護 [3 版]』成文堂,2018 年
・藤本・生島・辰野 (編) 『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房,2016 年

【成績評価の方法と基準】
各回の区切りごとに振り返りの確認テストを行い、その履修状況及び結果を評価する（30%）。
全範囲学習後に基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（70 %）。
成績の評価はこれらを総合して 100 点満点として行い、60 点以上が合格となる。
フィードバックとして、順次確認問題の解答を提示する。最終試験実施後、講評を行う。

【学生の意見等からの気づき】
多くの受講生にとって犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

【その他の重要事項】
法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。(「実務経験のある教員による授業」に該当)

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".
"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.
The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menus of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".
Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Criminal Justice", "Juvenile Justice" and "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.
【Learning Objectives】
· To be able to explain the meaning of basic terms used in this class.
· To be able to explain the subject matter and specific details of the various procedures covered in this class.
· To be able to explain the flow of criminal justice and its relation to welfare.
· To be able to discuss the significance and issues of the treatment of offenders from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
[Preparation: 60 minutes: Have a look at the relevant parts of the textbook to grasp an overview.
[Review: 60 minutes] Have a look at the relevant parts of the text and deepen your understanding of them to leave nothing unclear.
Keep yourself interested in everyday life and follow media reports concerning how offenders are treated after their troublemaking, in order to deepen your understanding of criminal justice and offenders rehabilitation.
【Grading Criteria /Policy】
A paper exam will be given to test how well you have established your basic knowledge. Its scores will be considered for your grades (80%).
The level of effort in the quiz for review (20%).
The final exam will be used to evaluate whether the students have understood the fundamentals of the entire course.
The answers to the quizzes will be presented as feedback. The final exam will be followed by a critique.

SOW300JB

国際協力論

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**旧「国際支援論」、旧々「国際福祉論」修得者は不可**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第 4 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第 5 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第 6 回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際を学ぶ①
第 7 回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第 8 回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第 9 回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第 10 回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際を学ぶ②
第 11 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第 13 回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
外務省　開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈グ〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】
This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	Good Practice on CBID(1)	Initiatives in a community(1)
No.6	Good Practice on CBID(2)	Initiatives in a community(2)
No.7	Good Practice on CBID(3)	Initiatives in a community(3)
No.8	Human rights issues(1)	Challenges in inclusive settins (1)
No.9	Human rights issues(2)	Challenges in inclusive settins (2)
No.10	Human rights issues(3)	Challenges in inclusive settins (3)
No.11	Going into the unknown(1)	Exploring the world(1)
No.12	Going into the unknown(2)	Exploring the world(2)
No.13	Going into the unknown(3)	Exploring the world(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
Sustainable Development Goals https://sdgs.un.org/
World Health Orgzniation https://www.who.int/health-topics/disability

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Reaction papers through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】
This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

SOW300JB

災害支援論

青木　信夫、正谷　絵美、松井　正雄

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】
被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。
・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。
・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では 13 回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に 3 次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充満させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	気象災害と避難支援	・近年発生した大規模な気象災害を引き起こした気象条件、及び被害の現状と生活に及ぼす影響、支援などについて理解する。
4	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問に YES または NO で答え、自分ならどのように対応するかを考える。
6	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／ AED 操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・救命の重要性を理解する。 ・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫と AED 操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	防災講話 ・東日本大震災に学ぶ（大川小学校、釜石の奇跡）	・東日本大震災の教訓を学び、避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。
10	避難所 HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	防災講話 ・地域防災 （自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び発災時の行動について考える。
13	図上演習 DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】
授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期定期試験 50%、平常点 30%、レポート 20%
演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.
[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.
—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.
—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.
[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 30%, report 20%
Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

TRS300JB

地域ツーリズム

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**SSI 生は授業コード「N6165」を選択すること。**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、”水辺空間の観光化”、”伝統文化の観光化”、”生活空間の観光化”の３つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】
大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では”いくら儲かるか”、”いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域ツーリズムとは？	地域づくりの手段としての「観光」論
第 2 回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第 3 回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか？	マスツーリズムの功罪
第 4 回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第 5 回	地域ツーリズムにおける成功とは？	水辺空間の観光化①
第 6 回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第 7 回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第 8 回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか？	伝統文化の観光化
第 9 回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第 10 回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第 11 回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第 12 回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第 13 回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート（30%）、期末試験（70%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies.【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(30%) and term-end examination (70%).

SOW300JB

Disability and Development in Asia

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈グ〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】
Basic knowledge and skills on disability and development in Asia are to be obtained based on inputs from their local perspectives.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The course will be offered entirely online (realtime Zoom sessions). Announcements, course materials, assignments and feedback will be informed/given via the learning support system and Google Form.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Comparative Study(1)	Persons with disabilities in Pakistan
No.3	Comparative Study(2)	Persons with disabilities in Nepal
No.4	Comparative Study(3)	Persons with disabilities in Afghanistan
No.5	Comparative Study(4)	Persons with disabilities in India
No.6	Comparative Study(5)	Persons with disabilities in Bangladesh
No.7	Comparative Study(6)	Persons with disabilities in Vietnam
No.8	Comparative Study(7)	Persons with disabilities in Cambodia
No.9	Comparative Study(8)	Persons with disabilities in Malaysia
No.10	Comparative Study(9)	Persons with disabilities in Thailand
No.11	Comparative Study(10)	Persons with disabilities in Myanmar
No.12	Comparative Study(11)	Persons with disabilities in the Philippines
No.13	Comparative Study(12)	Persons with disabilities in Indonesia
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review reference materials. The time for the preparation and review of this course is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/ConventionRightsPersonsWithDisabilities.aspx
States parties reports of the Convention on the Rights of Persons with Disabilities https://www.ohchr.org/EN/HRBodies/CRPD/Pages/CRPDIndex.aspx

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Reaction paper through Google form:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
Online tools (PC, Smartphone)

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience gained in and out of Japan.

【担当教員の専門分野/Expertise】
Disability-Inclusive and Sustainable Development, International Cooperation, Regional Development in Asia (Southeast Asia in particular)

【Outline (in English)】
In line with the principles of the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities and Sustainable Development Goals, this course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

SOW300JB,SOW300JC

子ども家庭福祉論

板倉　香子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6204 児童福祉論」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、子どもと家族をとりまく社会の現状を知り、子どもの育ちと子育てを支える子ども家庭福祉の理念や制度について体系的に学ぶことを目的とする。

【到達目標】
･現代社会における子どもと家族の問題を社会的背景と歴史的検討を踏まえて理解する。
･児童福祉制度とサービスについて、ニーズと実践をふまえて理解する。
･子どもの権利の視点から、子どもの育ちと子育て支援、社会的養護について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと子育て家庭をとりまく社会的状況について概説し、②子ども家庭福祉の理念と概念を学習する。③歴史的経緯をふまえて、④子どもの権利を中心に子どもの育ちと子育てをどのように支援するのか、⑤子ども家庭福祉に関わる法制度や福祉サービスの理解を深める。授業全般を通して、子どもが健やかに育つことのできる地域社会のありようについて考察する。
授業内では複数回の小レポートを課す。また、適宜リアクションペーパーの提出を求め、質問事項や内容について共有の機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　子ども家庭福祉で学ぶこと	授業の進め方／子どもの定義／子どもの育ちと子育て家庭に関わる社会の状況を知る
第 2 回	現代社会の子どもと家族を取り巻く課題	現代日本の子どもと家族をとりまく社会状況と課題について学ぶ
第 3 回	子ども福祉の歴史	欧米と日本における児童福祉の歴史と先達の実践について学ぶ
第 4 回	子どもの権利と児童福祉法	子どもの権利と児童福祉法について学ぶ
第 5 回	子ども家庭福祉の法体系と実施体制	児童家庭福祉の制度・法体系と実施体制について学ぶ
第 6 回	生命倫理と母子保健	母子保健と子育て支援の展開／出生前診断について学ぶ
第 7 回	少子化対策と子育て支援、現代における保育	少子化対策の変遷と子育て支援の現状／多様な保育サービスについて学ぶ
第 8 回	学齢期の子どもの福祉	学齢期の子どもの育ち／福祉と教育の重なりについて学ぶ
第 9 回	障害と子ども・家族	障害のある子どもと家族の支援について学ぶ
第 10 回	子ども虐待とドメスティックバイオレンス	子ども虐待とドメスティックバイオレンスについて学ぶ
第 11 回	社会的養護	社会的養護について施設養護・家庭養護の法制度や実践を学ぶ
第 12 回	子ども・家族の貧困	子どもと家族の貧困の現状と支援の実際について学ぶ
第 13 回	ひとり親家族の福祉	ひとり親家族の現状と関連する法制度やサービスについて学ぶ
第 14 回	非行少年の背景と支援	非行少年の背景と支援の実際について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修者は、事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。授業内では小レポート課題（授業時間内に取り組み提出する）やリアクションペーパーの提出を求める。事後には配付資料とテキストを元に授業内容を復習し、関心をもったトピックについてニュース等を調べること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ（2022）『子ども家庭福祉―子ども・家族・社会をどうとらえるか』＜第２刷＞生活書院

【参考書】
一般社団法人全国保育士養成協議会監修／宮島清・山縣文治編集（2022）『ひと目でわかる　保育者のための子ども家庭福祉データブック 2023』中央法規
『子ども家庭福祉六法　令和５年版』（2022）中央法規
ほか、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（20 %）、授業内小レポート（30 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to provide students with an introductory understanding of the social welfare of children and families. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students are expected to spend approximately 4 hours to understand the course content. Grading will be determined by in-class reports (30%), term-end report (50%), and in-class contribution (20%).

SOW300JB

権利擁護と成年後見

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、権利擁護の立場から、成年後見制度を学びます。
具体的には、
（1）民法や行政法等、成年後見制度に関連する法律とその実際を解説します。
（2）成年後見制度を補完する社会福祉の事業やサービスに関する学習します。
（3）実践事例の解説と検討します。
（4）ソーシャルワークにおける権利擁護の視点と価値・倫理の再検討します。

【到達目標】
・権利擁護の概念と関連する法律・制度の概要を理解する。
・成年後見制度の関連法、法定後見・任意後見制度の内容、手続き方法、制度上の問題や課題、実践上の課題を理解し、事例を説明、考察できるようになる。
・事例検討において、権利擁護の視点を確認できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業とし、情勢に応じて Zoom などのオンライン授業とします。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	権利擁護の意義と実際	権利擁護の意義と社会福祉の倫理・価値について学びます。
第 2 回	民法についての理解 1	親族法・相続法について、基本的な考え方を学びます。
第 3 回	民法についての理解 2	財産法について基本的な考え方を学びます。
第 4 回	行政法についての理解	行政法について基本的な知識を学びます。
第 5 回	成年後見制度の概要と法定後見制度	成年後見制度の全体像と法定後見制度について学びます。
第 6 回	任意後見制度	任意後見制度について学びます。
第 7 回	福祉サービス利用支援事業の概要と課題	社会福祉協議会が実施している権利擁護サービスについて学びます。
第 8 回	児童虐待と未成年後見制度	児童虐待防止法と未成年後見制度について、事例を通して学びます。
第 9 回	障害者・高齢者虐待	障害者・高齢者虐待の事例を通し、権利擁護について学びます。
第 10 回	権利擁護制度を担う機関と専門職	成年後見制度をはじめとする権利擁護を担う機関と専門職について学びます。
第 11 回	権利擁護を補完する制度・サービス	成年後見制度利用支援事業等、制度を補完するサービス等について学びます。
第 12 回	権利擁護と地域福祉	市民後見人をはじめとする地域住民の役割について学びます。
第 13 回	消費者被害への対応	消費者被害とそれに対応する法律の概要と対応方法を学びます。
第 14 回	支援の狭間にある人々の権利擁護と全体のまとめ	ホームレス、刑余者等既存の制度では十分に対応できない人々への支援について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指示されてきた箇所については事前に予習しきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『権利擁護を支える法制度』中央法規、2021 年

【参考書】
公益社団法人日本社会福祉士会編『社会福祉士のための成年後見入門』民事法研究会　2019 年
永田祐・堀善昭・生田一郎・松宮良典『よくわかる権利擁護と成年後見制度』初版　ミネルヴァ書房　2016 年
成年後見センターリーガルサポート編『後見六法』民事法研究会　2022 年
その他授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
定期試験（60 %）と平常点（40 %）の総合評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義だけではなく、事例検討などを通して皆さんが主体的に権利擁護について考えられるような内容にしていきます。また、国家試験で出題されている法律の要点についてできるだけわかりやすく解説できるよう準備します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用し、事前課題や授業時使用の資料をアップしていきます。メールで事前通知は致しますが、授業前には必ず学習支援システムをご確認ください。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will learn the adult guardianship system from the standpoint of advocacy of human rights.
Specifically, we will
(1) Explanation of civil and administrative laws related to adult guardianship system.
(2) Learning about social welfare projects and services complementing the adult guardianship system.
(3) Explanation and examination of practical cases.
(4) Review the perspectives, values, and ethics of rights protection in social work.
Learning Objectives are follows.
· Understand the concept of rights protection and the outline of related laws and systems.
· Understand the relevant laws of the adult guardianship system, contents of the legal guardianship and voluntary guardianship systems, procedural methods, problems and issues in the systems, and issues in practice, and be able to explain and discuss case studies.
· To be able to confirm the perspective of rights protection in case studies.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria will be based on the final exam (60%) and the normal score (40%).

SOW300JB,SOW300JC

スクールソーシャルワーク

宮地　さつき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワークの実際について、現場である学校と社会状況、また児童生徒と家族の理解も含めて検討していく。

【到達目標】
・スクール（学校）ソーシャルワークの導入の背景にある、学校現場や子どもと家族の現状を理解する。
・海外の動向も含めた、スクール（学校）ソーシャルワークの歴史と発展過程を理解する。
・スクール（学校）ソーシャルワークの視点と実践モデルを理解し、実際にどのように活用されているかを考察する。
・スクール（学校）ソーシャルワーク実践において必要な社会資源の活用について理解を深める。
・学校現場におけるスクールソーシャルワーカーの展開と、今後の可能性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目標を達成するために、講義形式を中心とするが、授業内でのディスカッションや課題・リアクションペーパーの提出を求め、より主体的に学ぶ機会の創出を図る。
・また必要に応じて、視聴覚教材の活用やゲストスピーカーからの学びを得ることで、より現代的実践への理解を深める。
・ゲストスピーカーの日程等により、授業計画が前後することがあり得る。
・リアクションペーパーは、次回以降の授業の中で、名前等を伏せて紹介する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	子どもと家族の理解１	教育と福祉に跨る、子どもと家族を取り巻く現代的問題
第 2 回	子どもと家族の理解２	現代の子育てと子育ち、多様化する家族
第 3 回	スクール（学校）ソーシャルワークの歴史と展開	日本および海外における動向
第 4 回	学校・教育の現状１	教育費、学校現場と教育の実際
第 5 回	学校・教育の現状２	「生徒指導提要（改訂版）」からみる教育と福祉
第 6 回	スクール（学校）ソーシャルワークの価値と倫理	ソーシャルワークの価値と倫理、子どもの権利条約
第 7 回	スクール（学校）ソーシャルワークの視点と実践モデル	スクール（学校）ソーシャルワークで用いられる視点とモデルの検討
第 8 回	スクール（学校）ソーシャルワーク実践１	不登校、いじめ、校内暴力の現状と支援
第 9 回	スクール（学校）ソーシャルワーク実践２	子どもの虐待、外国にルーツを持つ子どもと親支援
第 10 回	ゲストスピーカー	現職のスクールソーシャルワーカーによる講義
第 11 回	スクール（学校）ソーシャルワーク実践３	発達の課題と特別支援教育
第 12 回	スクールソーシャルワーク実践４	非行問題と多様な課題をもつ児童生徒への支援
第 13 回	多職種連携の実際とスクールソーシャルワーカー	学校内外の社会資源、地域での連携の実際、チーム学校、スーパービジョンの必要性と実際
第 14 回	スクール（学校）ソーシャルワークのこれから	スクール（学校）ソーシャルワーク実践の課題と今後の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業の復習を行い、期末試験に備えること。
・本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配布する。

【参考書】
・山野則子・野田正人・半場利美佳編（2016）『よくわかるスクールソーシャルワーク（第２版）』ミネルヴァ書房
・鈴木庸裕編（2018）『学校福祉とは何か』ミネルヴァ書房
・大塚美和子・西野緑・峯本耕治編（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』明石書店
他の参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー（20 %）、講義内課題（30 %）、定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】
This course will examine major issues in schools. We will consider the main problems of school, families, and society. This course will also examine how social work can intervene to address these problems. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in school social work.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (30%), term-end examination (50%), and in-class contribution (20%).

SOW300JB,SOW300JC

ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6210 ソーシャルワークⅡ」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
･人と環境の交互作用について説明できる。
･それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。授業ごとのリアクションペーパーを活用し、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 3 回	実践モデル	心理社会的アプローチ 機能的アプローチ
第 4 回	アプローチ①	問題解決アプローチ 課題中心アプローチ
第 5 回	アプローチ②	行動変容アプローチ 認知アプローチ
第 6 回	アプローチ③	危機介入アプローチ
第 7 回	アプローチ④	エンパワメントアプローチ ナラティヴアプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	コミュニティワーク
第 10 回	アプローチ⑦	ネットワーク カンファレンス
第 11 回	アプローチ⑧	社会資源の活用・調整・開発
第 12 回	アプローチ⑨	ソーシャルアクション
第 13 回	アプローチ⑩	総合的かつ包括的な支援の実際
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、学習支援システムに授業の時間に検討する事例をアップするので、それを読んできてください。同時に、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規

【参考書】
川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
･平常点 60%
･期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論についてできるだけわかりやすい解説に努めます。学習支援システムを活用し、効果的な事前・事後学習ができるよう進めていく予定です。

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice.
Learning Objectives are to be able to explain the interaction between people and the environment, and to describe each social work practice model and approach.
Please prepare for the class by reading the relevant textbook before the class. In addition, please read the case studies that will be discussed in class time as they will be uploaded to the learning support system. At the same time, please use the reference books and handouts to prepare for and review the material, so that you can deepen your understanding. The standard preparation and review time for this class is 3 hours each.
Grading Criteria will be based on 60% of normal points and 40% of final report.

SOW300JB

多文化ソーシャルワーク

中條　桂子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多文化社会を形成する要因とその問題について「外国人労働者問題」や「教育問題」など生活面から検討し、多文化背景を持つ人々の生活課題とその福祉援助について考える。

【到達目標】
グローバリゼーションの視点から、多文化ソーシャルワークの概要を理解する。
多文化背景を持つ人々の実情を知り、生活課題について理解を深める。
多文化背景を持つ人々への支援においてソーシャルワーカーが持つべき価値観・視点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワーカーの支援では「言葉で支援すること」も大事な支援の一つである。本授業では多くのグループワークを通して、他者の意見を聞く態度や自身の考えを伝えることの大切さを学び、さらに講義で現状の理解を深めていく。対面式での開講を予定している。各回の授業計画の変更については、授業内もしくは学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックについても授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション グループワーク：外国人のイメージ	授業内容の概要と目標、評価方法の説明を行う。 外国籍・多文化背景を持つ人へのイメージから、自身が偏った見方をしていないか振り返る。
第 2 回	講義：日本に滞在している多文化背景の人々	出入国のデータをもとに日本にいる多文化背景を持つ人々の状況や在留資格に関して学び、どのような問題があるかを考える。
第 3 回	グループワーク：言語習得について	居住先の言語に精通していない場合に、直面する諸問題を考える。
第 4 回	講義：入国管理手続きの煩雑さ等を知る	授業用の事例を通してオーバーステイについて考える。
第 5 回	講義：多文化背景を持つ人の生活課題１（医療・教育）	医療と教育の面からどのような課題を抱えているかを学ぶ。
第 6 回	グループワーク：労働について (技能実習制度を中心に)	技能実習生・介護職として日本で働く外国人労働者について調べてきたことをもとに話し合う。
第 7 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題２（就労）	在留資格と就労を振り返る。スクールソーシャルワークの歴史から児童労働を取り上げ、現在の不就学についても考えてみる。
第 8 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課３（DV・児童虐待について）	DV や虐待に関する支援について調べてきたことをもとに、多文化背景の人への援に目を向ける。
第 9 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題４ (難民)	日本の難民受け入れに関して調べてきたことをもとに話し合い、現状を理解する。
第 10 回	講義：多文化ソーシャルワークの実践１	ソーシャルワークのグローバル定義をもとに理念を学ぶ。
第 11 回	グループワークと講義：多文化ソーシャルワークの実践２	現在までの歩みを知り、今後に向けて何ができるのか、また何をすべきかを考える。
第 12 回	グループワーク：(事例検討) 支援に求められる視点を理解する	自分が支援機関の職員であると仮定し、チーム体制による支援について考えながら、事例検討をする。
第 13 回	グループワーク：多文化背景を持つ人々に対するまなざしの変化	12 回と同じグループにて事例検討の続きを行う。最後に本授業を通して、多文化背景を持つ人たちへの自分自身のまなざしの変化を確認する。
第 14 回	試験	学習した内容に関する試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に紹介した文献・資料の他に、新聞、テレビ、地域活動などからも授業に関連した問題・動向に関心をもち、理解を深めておくこと。グループワークに必要な事前準備をするにあたってレポート課題を出すこともある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間程度を要する。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループワークや授業への積極的参加や発言 (30 %)、課題のレポート (30 %)、試験 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】
授業や、事前準備で得た知識をグループワーク時に応用することで、身に付けていけるように、本年度もたくさんのグループワークを予定してる。また、文字だけでなく視覚的にとらえられるよう、資料の工夫をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
感染状況によりオンラインに切り替わった時はもちろん、授業の事前準備等のために使用できる機器（パソコン、スマートフォン等）があるとよい。

【その他の重要事項】
講師の医療相談員・スクールソーシャルワーカーとしての実践をもとに、多文化背景を持つ人々への支援に関して、授業用事例を織り交ぜて講義をしていきます。実際の支援状況を知っていただき、さらにグループでの話し合いを通して、グローバル社会と言われる日本の現状を振り返ってみましょう、そして、一人一人に何が必要で、なにができるのかを具体的に考えてみましょう。また、履修をされている留学生との交流もできるよう、グループワークを行っていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
This course examines the complexity of social work practice in a multicultural society from the perspective of immigrants and their education and everyday life. By the end of the course, students are expected to explain the basic concepts of ethnic sensitive social work, and to discuss the significance of social workers in their understanding of social difference, oppression, and justice.
Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be determined on the following:
In-class Contribution: 30%; Short Essays: 30%; Term-end Examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC

死生観とソーシャルワーク

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常の生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】
受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリーブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第 10 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】
適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】
小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.
【Learning Objectives】The goal is to understand the view of life and death as a profession.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution(20%).

CIM300JB,CIM300JC

精神疾患とその治療

関谷　秀子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**福コミ： 2〜4 年心理： 1〜4 年年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
精神科医療の歴史と現状を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第 2 回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第 3 回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第 4 回	精神症状学①	「神経心理学」
第 5 回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第 6 回	精神障害①	「統合失調症」
第 7 回	精神障害②	「気分障害」
第 8 回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第 9 回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第 10 回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第 11 回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第 12 回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第 13 回	精神医学的治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
「思春期に心が折れた時親がすべきこと－不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子　中央公論新社　2020.10
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

【Outline (in English)】
The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(100%).

PSY300JB,PSY300JC

臨床心理学概論

金築　優

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**福コミ： 2〜4・臨心： 1〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2018 年度以降入学者のみ受講可能。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「臨床心理学とは何か」について、その歴史、基本理論、介入技法等を概説します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を理解し、臨床心理学の全体像をつかむことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を概説していきますが、なるべく身近な問題を取り上げ、各自が具体的に考えながら、理解を深めていければと考えています。適宜受講生の授業の疑問や感想も参考にしながら、進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容や進め方について説明し、成績の評価方法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史（1）	欧米での臨床心理学の歴史を取り上げます。
第 3 回	臨床心理学の歴史（2）	日本における臨床心理学の歴史を紹介し、現状を概説します。
第 4 回	臨床心理学が対象とする問題（1）	乳幼児期及び児童期における心理的問題を取り上げます。
第 5 回	臨床心理学が対象とする問題（2）	思春期及び青年期における心理的問題を取り上げます。
第 6 回	臨床心理学が対象とする問題（3）	中年期及び老年期における心理的問題を取り上げます。
第 7 回	臨床心理学におけるアセスメント（1）	心理的問題を理解するための異常心理学を紹介します。
第 8 回	臨床心理学におけるアセスメント（2）	アセスメントで用いられる質問紙法や投影法を紹介します。
第 9 回	臨床心理学におけるアセスメント（3）	アセスメントで用いられる知能検査法や神経心理学的検査を紹介します。
第 10 回	臨床心理学における理論と介入技法（1）	クライエント中心療法を概説します。
第 11 回	臨床心理学における理論と介入技法（2）	精神分析を概説します。
第 12 回	臨床心理学における理論と介入技法（3）	認知行動療法を概説します。
第 13 回	社会のなかでの臨床心理活動	教育、医療・保健、産業等の領域における臨床心理活動を紹介します。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、臨床心理学の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。また、授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、課題を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と期末レポート（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的な要素も工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】
学校・教育領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

【Outline (in English)】
This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JB,PSY300JC

教育心理学特講

大瀧　玲子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2023 年度の授業実施日は、8 月 1 日（火）、2 日（水）、7 日（月）。2018 年度以降の入学者のみ受講可能。2017 年度以前入学者は「N6225 教育心理学」を受講すること。教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育心理学の基礎的な知見を習得すること、また臨床心理学的視点を交え学校における様々な問題について理解を深めることを目標とする。子どもが発達していくプロセスや学習についての心理学的な知見に加え、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。

【到達目標】
教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリアクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学とはなにか	教育心理学の成り立ち、オリエンテーション
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	適応と障害の理解	適応とはなにか、また教育相談や障害について学ぶ
4	対人関係の発達の理解	親子関係や仲間関係など様々な対人関係の発達と学校教育について学ぶ
5	幼児期，児童期，青年期の心理的問題（青年期）	幼児期、児童期、青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習と動機づけ	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ
7	学級集団の心理学	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ
8	パーソナリティの理解	パーソナリティの理解と測定について学ぶ
9	知的発達のメカニズム	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ
10	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応①	不登校やいじめ、非行の理解と対応について学ぶ
11	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応②	発達障害の理解と対応について学ぶ
12	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応③	障害児の心理、特別支援教育などについて学ぶ
13	社会における学校	学校内外での連携やスクールカウンセラーの活用について学ぶ
14	総括	授業について振り返り、課題と今後の展望についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原雅彦・竹綱誠一郎　著
「ベーシック現代心理学 6　教育心理学」有斐閣　子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司　著

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）
授業参加およびリアクションペーパー等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
Educational Psychology
Course outline:
This course introduces educational psychology to students taking this course.
Learning Objectives:
The goal of this course is to acquire basic knowledge of educational psychology and to deepen understanding of various problems in schools from the perspective of clinical psychology.
Learning activities outside of classroom:
・Lecture/Exercise (two-credits)
Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policies:
Your overall grade in the class will be decided based of the following
Term-end examination 60%, Short reports and in class contribution 40%

PSY200JC

公認心理師の職責

津村　麻紀

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
公認心理師として必要な知識、法的義務、倫理、態度や行動について学びます。また、公認心理師として社会から求められる役割について具体的に把握し、そのために必要な知識や技能の習得について学びます。

【到達目標】
公認心理師に求められる役割、法的義務、倫理や責務、および臨床実践に不可欠な知識と技能を理解し、公認心理師としてのものの見方を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的事例の提示やグループワークを取り入れつつ、各自が具体的に考え、取り組み、理解を深めていけるように進めます。対面での授業を予定していますが、新型コロナウィルスの感染状況によりオンラインでの授業となる場合があります。授業計画の変更やレジュメ、資料は学習支援システムで適宜提示します。リアクションペーパーを実施した際は、次の回の講義でフィードバックを行い、全体で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 公認心理師とは何か	授業の概要、進め方、評価方法について、公認心理師資格の概要の説明
第 2 回	公認心理師の役割	公認心理師に求められる役割について
第 3 回	公認心理師の法的義務	公認心理師法に基づく法的義務について
第 4 回	公認心理師の倫理	公認心理師の職業倫理的責任について
第 5 回	心理に関する支援を要する者等の安全の確保	要心理支援者の安全確保のために必要な視点について
第 6 回	情報の適切な取り扱い	守秘義務及び情報共有等、心理業務における情報の適切な取り扱いの必要性について
第 7 回	公認心理師の具体的業務①	保健医療領域における公認心理師の業務
第 8 回	公認心理師の具体的業務②	身体医療領域における公認心理師の業務
第 9 回	公認心理師の具体的業務③	福祉・教育領域における公認心理師の業務
第 10 回	公認心理師の具外的業務④	司法犯罪・産業領域における公認心理師の業務
第 11 回	支援者としての自己課題発見・解決能力	公認心理師としての自己知覚と課題解決のための能力について
第 12 回	多職種連携及び地域連携	多職種連携による支援の意義、チームにおける公認心理師の役割について
第 13 回	生涯学習と自己研鑽	生涯にわたる研究と研修について
第 14 回	試験、およびまとめ	これまでの授業の内容の理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
野島一彦編『公認心理師の基礎と実践Ⅰ　公認心理師の職責』遠見書房

【成績評価の方法と基準】
平常点およびリアクションペーパー（40%）と期末試験（60%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの質問や意見について、授業改善に効果的と思われるものを適宜取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This unit develops understanding of the imperative knowledge to become the Japanese Certified Public Psychologist. Theme includes ethical responsibilities, legal obligations, duty of care, managing information including confidentiality, collaboration with other professions, ability of problem solutions and self-development. Students examine roles in various practices and critical issues, and are expected to understand the awareness of high ethical sensitivity, professionalism, and the importance of continuing learning in individuals. After each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand the course content. Final grade will be decided based on the following : term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

PSY300JC

臨床心理学特講

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】
この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）から抜粋した講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンスワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルピやベックの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論（9）：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の発展課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.
At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii . And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 60%、Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC

精神分析学

中　康

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性的発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】
精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
PC プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業で、質疑応答やディスカッションを含めるようにし、その中で必要なフィードバックを行う。またリアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	精神分析学の誕生①	メスメルの磁気術、催眠術
第 2 回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナ O、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第 3 回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第 4 回	精神性的発達論①	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着
第 5 回	精神性的発達論②	思春期青年期、性器統裁、対象選択、超自我の構造的変化、Blos による思春期の発達論
第 6 回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第 7 回	フロイトの症例／ハンス	親を介しての児童分析
第 8 回	精神分析療法と精神分析的精神療法	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析的心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第 9 回	契約	治療契約について
第 10 回	退行	治療的退行について
第 11 回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第 12 回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第 13 回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第 14 回	期末試験・まとめと解説	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (70%)、平常点 (リアクション・ペーパーを含む)(30%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、PC を使用して zoom を介して行う。

【その他の重要事項】
精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.
【Learning objectives】
The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.
【Learning activities outside the classroom】
Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.
【Grading criteria/policy】
Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC

児童精神医学

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
児童精神医学は 1950 年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、今日では取りあえずの国際的診断分類学ができ上がっている。その臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】
児童精神医学の歴史を理解する。
児童・思春期の心の発達について理解する。
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19 世紀の子ども観について。
第 2 回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第 3 回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第 4 回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。マーラーの発達理論。
第 5 回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第 6 回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第 7 回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第 8 回	不登校①	小学生の不登校
第 9 回	不登校②	思春期の不登校
第 10 回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第 11 回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第 12 回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第 13 回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (80%), リアクションペーパー（20%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline (in English)】
The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%、Short reports : 20%

PSY300JC

認知行動療法

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの 3 つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけではなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第 2 回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポンデント学習）と行動療法の関連を考えます。
第 3 回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第 4 回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第 5 回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第 6 回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第 7 回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第 8 回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第 9 回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第 10 回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第 11 回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第 12 回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第 13 回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス＆コミットメント・セラピーを取り上げます。
第 14 回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス＆コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】
これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline (in English)】
The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JC

投映法特講

津村　麻紀

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2017 年度以前入学者は科目名称・授業コードが異なる（投映法特論／ N6511）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投映法を中心とした心理検査の種類と意義に着目し、各種心理検査の理論および解釈を学ぶと共に、被検者の心理的体験について理解する。

【到達目標】
代表的な質問紙法と投映法の種類と意義を把握し、各種心理検査の理論および解釈について説明することができる。被検者体験を通して被検者の心理を理解し、自分自身で検査結果の整理を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
代表的な質問紙法と投映法の心理検査について理論的学習と被検者体験を行う。講義内で体験した各種心理検査の採点・解釈の方法を解説し、学生自身に実施してもらう。リアクションペーパーやグループディスカッションで理解度を確認する。リアクションペーパー等の課題に対するフィードバックは講義内で適宜行う。授業形式は対面授業を基本とするが、新型コロナ感染症行動指針レベルの変化に伴う授業形式や授業計画に変更がある場合は、学習支援システムでその都度通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	投映法を学ぶということ	オリエンテーション
第 2 回	質問紙法概論	質問紙法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第 3 回	矢田部ギルフォード性格検査（YG 性格検査）	YG 性格検査を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 4 回	東大式エゴグラム（TEG）	TEG を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 5 回	ミネソタ多面的人格目録（MMPI）	MMPI を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 6 回	投映法概論	投映法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第 7 回	絵画欲求不満テスト（P-F スタディー）	P-F スタディーを体験し、理論と解釈を学ぶ
第 8 回	文章完成法（SCT）	SCT を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 9 回	描画法	バウムテスト、HTP 等の描画法を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 10 回	絵画統覚検査（TAT）	TAT を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 11 回	ロールシャッハテスト①	集団ロールシャッハテストを体験する
第 12 回	ロールシャッハテスト②	ロールシャッハテストの理論と解釈を学ぶ
第 13 回	臨床場面における質問紙法と投映法	臨床場面での質問紙法と投映法の活かし方を学ぶ
第 14 回	学期末試験・まとめと解説	学期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で体験した心理検査を自分で採点・解釈し、講義内容の理解を深める。また、授業外で心理検査に関するレポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。
適宜、講義内で参考文献を紹介し資料を配布する。

【参考書】
適宜、講義内で参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）および平常点（40 %）の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
体験学習の希望が多いため、被検者体験を中心に授業を実施する。

【その他の重要事項】
投映法は、クライエントが検査を受ける時にどのような気持ちになるか、クライエントが検査結果を聞いてどう捉えるかを理解することは重要で、それらの情報はアセスメントの重要な材料ともなります。したがって、理論的学習だけではなく体験的学習への積極的な取り組みを期待します。

【Outline (in English)】
This course offers an overview of the theory and history of various psychological tests including projective tests. At the end of this course, students are expected to master the theory and the way of calculation and interpretation of each test, to understand subject's psychological tendencies through test learning. Before each class meeting, students will be expected to complete required psychological test, and to review contents learned after each class. Your home study time will be more than two hours at a time. Grading will be decided based on in-class contribution(40%), and term-end examination(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅰ

安西　美咲

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第 2 回	自己覚知①	自己の特性の理解
第 3 回	自己覚知②	自他の違いの理解
第 4 回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第 5 回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第 6 回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第 7 回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第 8 回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第 9 回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第 10 回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第 11 回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第 12 回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第 13 回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第 14 回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
3 授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅰ

小野田　由実子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第 2 回	自己覚知①	自己の特性の理解
第 3 回	自己覚知②	自他の違いの理解
第 4 回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第 5 回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第 6 回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第 7 回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第 8 回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第 9 回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第 10 回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第 11 回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第 12 回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第 13 回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第 14 回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
3 授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅰ

中條　桂子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第 2 回	自己覚知①	自己の特性の理解
第 3 回	自己覚知②	自他の違いの理解
第 4 回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第 5 回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第 6 回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第 7 回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第 8 回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第 9 回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第 10 回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第 11 回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第 12 回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第 13 回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第 14 回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
3 授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅰ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る科目との関係性も視野に入れつつ、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。

【到達目標】
・ソーシャルワーカーとして自己理解を深め、動機と目的意識を明確に示すことができる。
・ソーシャルワーカーとして利用者を理解し、必要な基本的な態度を示すことができる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的なコミュニケーション・面接技術を実践することができる。
・ソーシャルワーカーとしてソーシャルワークの展開に必要な基本的知識・技術を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自己ワーク、グループワーク、ロールプレイ、事例検討等を活用して、ソーシャルワークの基礎的な知識と技術を実践的に習得する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらい・進め方・留意点等
第 2 回	自己覚知①	自己の特性の理解
第 3 回	自己覚知②	自他の違いの理解
第 4 回	援助者の基本姿勢	援助者に求められる基本的態度
第 5 回	個人の価値観と専門職の価値	専門職に求められる価値、倫理とは
第 6 回	基本的なコミュニケーション技術	言語・非言語コミュニケーション
第 7 回	基本的な面接技術①	面接の場と空間、傾聴の方法
第 8 回	基本的な面接技術②	基本的応答技法
第 9 回	ソーシャルワークの展開過程①	ケースの発見とエンゲージメントに関する基礎的理解
第 10 回	ソーシャルワークの展開過程②	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解
第 11 回	ソーシャルワークの展開過程③	アセスメントとプランニングに関する基礎的理解 記録の意義と技術
第 12 回	ソーシャルワークの展開過程④	支援の実施とモニタリングに関する基礎的理解 プレゼンテーション技術の理解
第 13 回	ソーシャルワークの展開過程⑤	支援の終結と評価、アフターケアに関する基礎的理解
第 14 回	グループダイナミクスについて	グループダイナミクス活用技術の基礎的理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については制度などと照らし合わせ、十分な復習を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は各 1 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 1　ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
3 授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
より効果的なロールプレイ等の体験型の学習方法の改善、開発に努める。

【その他の重要事項】
本授業は、来年度ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できる。
授業計画は担当教員により変更する場合がある。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7011）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7012）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7013）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7015）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7016）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7017）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N7018）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

安西　美咲

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N7021）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

小野田　由実子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N7022）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

島谷　綾郁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N7023）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N7024）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門)』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

安西　美咲

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7031）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

小野田　由実子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7032）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

島谷　綾郁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7033）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7034）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7034）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7035）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各２時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7036）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各２時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N7037）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各２時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

金　慧英

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。
・配属実習分野や施設・機関等について理解したうえで、明確な実習の目標や達成課題を計画できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、およびソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習先の検討・決定	個別指導による希望実習先・内容の検討・決定
第 3 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 4 回	実習地域の理解	実習地域の自治体の特徴・歴史的変遷・社会資源等の理解
第 5 回	実習領域の理解	法制度や施策、施設・機関、専門職、利用者の実態やニーズ等の理解
第 6 回	実習施設・機関の理解	理念・目的、組織体系、職員体制、業務内容、利用者の実態やニーズ等の理解
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定する。

【参考書】
適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の履修予定者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の振り返りと「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事前学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
事後学習および事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習の振り返り、実習計画作成の方法、およびソーシャルワーク実践に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ実際的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされたソーシャルワーク技術
第 4 回	実習地域や施設・機関の理解	実習地域の自治体や実習先の理念、職員体制、利用者等
第 5 回	領域別講義	実習先で必要とされる利用者に関する理解 社会福祉士の役割
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ソーシャルワーク実習」の事後における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】
・振り返りをとおして実習の意義について適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる基本的な技能や資質を習得できる。
・今後の自らの課題について自覚することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習の事後学習として、個別指導並びに集団指導を通しての振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得するとともに、最終的には実習総括の報告書を作成し、実習の評価の報告会を行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体の流れの理解
第 2 回	実習の振り返り①	実習プログラムと実習指導者から指導を受けたこと
第 3 回	実習の振り返り②	印象に残る利用者と必要とされた相談援助技術
第 4 回	実習の振り返り③	実習先組織・機関・団体の役割・機能
第 5 回	実習の振り返り④	ソーシャルワークの価値・知識・技術
第 6 回	実習報告書の作成の説明	実習報告書作成の目標と内容
第 7 回	実習報告書の個別指導①	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理
第 8 回	実習報告書の個別指導②	実習経験を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てる
第 9 回	実習報告書の個別指導③	実習報告書の完成
第 10 回	実習報告会の準備①	報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備②	配布資料の作成
第 12 回	実習報告会の準備③	リハーサルによるプレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会 (実習の評価全体総括会)	実習報告会における報告と運営
第 14 回	報告会の振り返り	報告内容と質疑応答結果の検討・課題整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習報告書を完成させるとともに、実習報告会に参加し、自らの報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。
欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習終了後の課題整理について具体的な指導が可能である。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅰ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥援助者として適切な観察・記録ができる
⑦実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑧利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 2 ～ 3 月	現場実習	各自、60 時間以上、大学が指定する施設・機関にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、実習のまとめ 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7091 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7092 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7093 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

金　慧英

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7094 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7095 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7096 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7097 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習Ⅱ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N7098 ソーシャルワーク実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ

眞保　智子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神保健ソーシャルワークの知識と技術に関係する他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に必要な基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【到達目標】
(1) 自己の動機と目的意識を確認し、自己理解と他者理解を深める契機とします。
(2) 利用者の人間理解や生活理解の方法を学び、実践できるようにしていきます。
(3) 援助専門職として必要な基本的姿勢や態度について理解し、習得していきます。
(4) 援助専門職に求められる面接技法、記録技術の基礎を習得していきます。
(5) 援助専門職に求められるコミュニケーション、コミュニティワークの基礎を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習は、精神保健福祉分野の援助専門職に必要な対人援助の基礎を学びます。援助専門職は、自分という人格を通して他者を援助しますので、自分自身を知ること、他者を理解することが重要になります。具体的には、(1) 援助専門職を目指すにあたって、自分自身の性格や対人援助・コミュニケーションの傾向を知ること、(2) 面接における傾聴の姿勢（人の話を聴けること）を身につけること、を中心とした習得を目指します。授業では、個別指導や集団指導、ロールプレイ等を通して体験型・ディスカッション型で演習を行います。主体的態度で臨み、自らの体験や意見を積極的に述べることが求められます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本演習のねらいと進め方を説明する
第 2 回	自己覚知	自己の特性の理解
第 3 回	自己理解と他者理解	自他の違いの理解
第 4 回	専門職の価値と倫理	専門職としての価値と倫理綱領の理解
第 5 回	援助関係形成の理論と面接技術（援助者とは）	援助者としての基本姿勢、バイスティックの原則の理解
第 6 回	援助関係形成の理論と面接技術（集団力動）	グループダイナミクスを活用するための理論と技術の理解
第 7 回	アセスメントの基礎（ニーズとは何か）	課題の発見・分析・解決の技術を学ぶ
第 8 回	記録の技術	情報の収集・整理・伝達の技術を学ぶ
第 9 回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術	地域の福祉ニーズ把握
第 10 回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（実践）	コミュニティアウトリーチ
第 11 回	地域福祉の基盤整備にかかわる技術（評価）	コミュニティ・アセスメント技法と計画策定技法とサービス評価
第 12 回	ネットワーキング	ネットワーク連結技法
第 13 回	ソーシャルアクション	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	まとめ	事例検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜指定します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習時の発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
この科目は、来年度精神保健ソーシャルワーク実習の履修を予定している者のみ履修できます。実習に行くための演習ですので、全出席が前提です。無断欠席は成績評価の対象外となります。来年度の実習は履修することができませんので注意してください。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of psychiatric social work practices. The goals of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ

眞保　智子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。また、精神保健福祉士に求められる相談援助に関する知識と技術について、具体的事例の検討やロールプレイなどを用いて実践的に習得します。

【到達目標】
(1) 精神保健福祉課題を理解し、その解決に向け総合的かつ包括的な援助を習得する
(2) 具体的な相談援助場面及び相談援助の過程で用いる技術を習得する
(3) 精神保健福祉相談援助に関する知識と技術について、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を体系的に取り上げます。(2) 個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論し合う形で事例研究およびロールプレイ等を行います。(3) 精神保健ソーシャルワーク実習における個別体験も視野にいれ，集団指導並びに個別指導による実技指導を行います。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらい、進め方について説明する
第 2 回	「精神保健福祉士とは」（グループディスカッションを含む）	精神保健福祉士の理解
第 3 回	「精神保健福祉士の職業倫理」（ロールプレイを含む）	精神保健福祉士の職業倫理の理解
第 4 回	援助過程に沿った援助展開（支援計画策定）	インテーク（受理面接）・契約とアセスメント（課題分析）・プランニング（支援計画）・ケアマネジメント
第 5 回	援助過程に沿った援助展開（モニタリング）	支援の実施・振返り（モニタリング)、効果測定と支援評価・終結とアフターケア
第 6 回	事例研究（社会的排除）	社会的排除（偏見・差別）
第 7 回	事例研究（ソーシャルアクション）	退院支援・地域移行・地域生活支援とアウトリーチ、ソーシャルアクション
第 8 回	事例研究（若者を中心とした地域精神保健福祉）	地域における精神保健福祉（自殺、ひきこもり、児童虐待等）
第 9 回	事例研究（自助グループ）	地域における精神保健福祉（薬物・アルコール依存等）とピアサポート
第 10 回	事例研究（働くことへの支援）	就労・雇用とネットワーキング
第 11 回	事例研究（公的扶助と社会保障）	貧困、低所得、ホームレスの課題と生活保護法と障害年金の理解
第 12 回	事例研究（リカバリ）	精神科リハビリテーションとチームアプローチ
第 13 回	事例研究（援助計画の作成）	援助計画の理解、社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	まとめ	外部講師による現場の取り組みについての理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しないが、事例資料を配布します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習中の発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
少人数学習のよさを最大限活用し、学生相互の学びを大切にしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用する。

【その他の重要事項】
本演習は、今年度精神保健ソーシャルワーク実習および精神保健ソーシャルワーク実習指導の履修登録者のみが履修できます。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of psychiatric social work practices. The goals of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work through role play and discussion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

眞保　智子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な知識を習得します。精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関して理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	精神保健ソーシャルワーク実習の意義
第 2 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解	実習先に関する理解
第 3 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（見学）	見学
第 4 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（個人ワーク）	見学レポート作成
第 5 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（報告）	見学・体験・レポートに基づき議論
第 6 回	個別面談	実習の目的の確認
第 7 回	実習先の調整	個別指導による実習先の研究
第 8 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関決定	個別指導による実習先について報告
第 9 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（医療機関）	個別指導による実習先（医療機関）調整
第 10 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（地域施設）	個別指導による実習先（地域施設）の研究
第 11 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（行政機関）	個別指導による実習先（行政機関）の研究
第 12 回	実習施設・事業者・機関・団体の基本的な理解	実習報告会への参加への準備
第 13 回	実習施設・事業者・機関・団体の発展的な理解	実習報告会への参加
第 14 回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習配属のための面接に必ず出席すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加準備状況および発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline (in English)】
This course will prepare to internship for work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

眞保　智子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習の準備を行うために以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得して、実習に備えることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習および実習指導のねらいと留意点の説明
第 2 回	課題確認	実習課題の確認と事前学習の進め方
第 3 回	専門的知識と技術	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
第 4 回	専門的知識と技術（個人ワーク）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関するレポート
第 5 回	専門的知識と技術（報告）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解と報告
第 6 回	倫理と責務	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
第 7 回	倫理と責務（議論）	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解と事例を通じての議論
第 8 回	プライバシー保護	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解）
第 9 回	記録の意義	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
第 10 回	記録（実践）	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解と実践
第 11 回	実習計画の作成	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成
第 12 回	実習計画の報告	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成と報告
第 13 回	実習計画の検討	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議　実習計画の修正
第 14 回	まとめ	実習に向けてまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加準備状況および発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline (in English)】
This course will prepare to internship for work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students will be enhancing their necessary skills and knowledge in psychiatric social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

眞保　智子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習での学びを通じて以下の点について指導します。(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解できるようにします。(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて学んだ精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力について振り返り、深化させ、理論化することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術を習得し、実習に臨むとともに学びを深化させていきます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	事後学習のねらいと進め方を説明する
第 2 回	実習の振り返り（個人ワーク）	実習記録や体験の整理 （個人ワーク）
第 3 回	実習の振り返りと学びの共有	実習記録や体験の整理 （グループワーク）
第 4 回	実習の振り返り（報告）	実習記録や体験をふまえた課題の整理と議論
第 5 回	実習報告書作成の説明	実習報告書作成の目標と内容 実習報告書作成の目標と内容
第 6 回	個別面談	個別指導による実習報告書の作成指導
第 7 回	実習報告書の作成	グループワークによる実習報告書作成の相互学習
第 8 回	実習報告書に基づく報告	実習報告
第 9 回	実習報告書に基づく議論	実習報告と議論
第 10 回	実習報告会の企画	実習報告会の内容検討
第 11 回	実習報告会の準備	実習報告会の準備
第 12 回	実習報告会のリハーサル	実習報告会の準備、リハーサル
第 13 回	実習報告会	実習報告会における報告と運営 （実習の評価全体総括会）
第 14 回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加準備状況および発言６０％・課題４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行います。

【Outline (in English)】
This course reflects and theorizes an internship to work effectively as a psychiatric social worker. The goals of this course are to complete the report of internship, presentations on the internship. Before/after each class meeting, students are expected to spend an hour understanding the content of the course. Grades are based on reports (40%) and in-class contributions (60%).

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習

眞保　智子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神科病院、精神障害のある方を支援する地域の施設での実習を通じて、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得していきます。

【到達目標】
精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得します。さらに、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得していきます。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	精神科病院等の実習オリエンテーション	実習のねらいと進め方 病棟見学、面談への同席
第 2 回	任意入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	任意入院、心理教室、退院支援委員会について振り返り実習記録や体験の整理
第 3 回	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席	医療保護入院の診察に同席、心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 4 回	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席	措置入院の診察に同席、家族心理教室への参加、退院支援委員会への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 5 回	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取り	退院請求への対応に同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第 6 回	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加	病棟カンファレンスに同席、心理教室への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第 7 回	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席	デイケアプログラムへの参加、モニタリング面談への同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 8 回	巡回指導	巡回指導について振り返り実習記録や体験の整理
第 9 回	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席	外来の患者さんとの面談に同席、措置入院の診察に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 10 回	外来面談への同席、面談の記録作成	外来面談への同席、面談の記録作成について振り返り実習記録や体験の整理
第 11 回	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取り	退院支援委員会への同席、生活歴の聞き取りについて振り返り実習記録や体験の整理
第 12 回	面談への同席、外出同行(退院に向けた住居の確認等)	面談への同席、外出同行 (退院に向けた住居の確認等) について振り返り実習記録や体験の整理
第 13 回	患者さんとの面談、外出同行 (退院に向けた物件探し)	患者さんとの面談、外出同行 (退院に向けた物件探し) について振り返り実習記録や体験の整理
第 14 回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。
第 15 回	障害福祉サービス事業所・行政機関等の実習ガイダンス	実習のねらいと進め方 専門職としての倫理、価値、組織役割の理解
第 16 回	啓発・広報活動への参加	啓発・広報活動への参加について振り返り実習記録や体験の整理
第 17 回	作業訓練　ビジネスコミュニケーションプログラム	作業訓練　ビジネスコミュニケーションプログラムについて振り返り実習記録や体験の整理
第 18 回	関係性の構築とニーズの把握	関係性の構築とニーズの把握について振り返り実習記録や体験の整理
第 19 会	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成	関係性の構築とニーズの把握・退院支援計画の作成について振り返り実習記録や体験の整理
第 20 回	地域への啓発活動　権利擁護事業説明	地域への啓発活動　権利擁護事業説明について振り返り実習記録や体験の整理
第 21 回	事例検討会に同席	事例検討会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 22 回	巡回指導	精神保健福祉士としての価値・倫理、法的義務についての確認、実習目的と達成課題の把握と調整
第 23 回	思春期・青年期家族講座に同席	思春期・青年期家族講座に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 24 回	自治体保健師との情報交換連絡会に同席	自治体保健師との情報交換連絡会に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 25 回	就労支援事業所見学　ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）など	就労支援事業所見学　ジョブガイダンス（求人票の見方・検索の仕方）などについて振り返り実習記録や体験の整理
第 26 回	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン	退院支援計画の振り返りとスーパービジョン などについて振り返り実習記録や体験の整理
第 27 回	担当事例の振り返りと評価会議に同席	担当事例の振り返りと評価会議に同席について振り返り実習記録や体験の整理
第 28 回	実習のまとめと実習指導者によるスーパービジョン	実習指導者によるスーパービジョンを受けて実習のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎日の実習に向けて、記録のまとめ翌日の予定についての準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は合わせて２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
実習先の評価票 60 %巡回指導と帰校日指導 40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートは実施していません。

【その他の重要事項】
本科目は、「精神保健ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できます（単独履修不可）。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively as a psychiatric social worker. The goal of this course students acquires the knowledge and skills required of psychiatric social workers through internships. Before/after each days internships, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%) within internships.

SOW300JB

スクールソーシャルワーク演習

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）における相談援助の知識と技能について実践的に習得するとともに、理論化し体系立てて習得していく能力を身につける。

【到達目標】
・現代における子どもと家族を取り巻く課題を理解し、ＳＳＷの視点からアセスメントできる知識と技術を習得する。
・ＳＳＷにかかわる法律と教育委員会等の組織やサービスを理解し、具体的な支援方法を考察する。
・ＳＳＷの意義を確認しつつ、教育行政や地域理解を進めるための方策について学びを深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、①ＳＳＷの視点から、様々な事例を使って実際にアセスメントと援助計画を立て、個人やグループの発表によってクラス全体の学びを深める。②それらの演習を通して、ＳＳＷの活動に必要な法律やサービスについて再確認する。③ゲストスピーカーの講義も交えて、実践における具体的支援について考察する。④ＳＳＷの倫理・価値および、教育行政や地域の理解を得ながらＳＳＷを展開していくことの必要性を検討する。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、ＳＳＷとは？	今後の進め方についての説明、ＳＳＷの現状と意義、課題
第 2 回	ＳＳＷを取り巻く制度	ＳＳＷに関する法律と教育にかかわる組織・社会福祉サービス
第 3 回	アセスメント技法	ＳＳＷのアセスメント・プラニングに関する知識と技術
第 4 回	記録とスーパービジョン	ＳＳＷとしての記録とスーパービジョンに関する知識と技術
第 5 回	アセスメントの実際１	学校と児童生徒の家族との関係に課題のある事例を用いたアセスメント
第 6 回	アセスメントの実際２	児童生徒と家族との関係に課題のある事例を用いたアセスメント
第 7 回	事例研究の発表と検討	相互の発表に基づく検討
第 8 回	ゲストスピーカー	現役のスクールソーシャルワーカーによる支援の実際
第 9 回	学校内連携	校内チーム体制、ケース会議の方法
第 10 回	学校外連携	市町村子ども支援体制と資源開発
第 11 回	アセスメントの実際３	事例を用いたミクロ・メゾ・マクロを考慮したアセスメント
第 12 回	事例検討の発表と検討	相互の発表による検討
第 13 回	学校とＳＳＷ	学校とＳＳＷ、ＳＣ（スクールカウンセラー）も含めた現状と両者の関係
第 14 回	ＳＳＷの展開	ＳＳＷの理論・価値とソーシャルアクション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で出される課題について、期日までに行うこと。
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
参考文献は、講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50 %）、講義内課題およびレポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB

スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義・価値と概要を理解すると同時に、ＳＳＷに関わる技法を習得する。

【到達目標】
・ＳＳＷの意義を理解し、学校現場におけるＳＳＷ実践を体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
・ＳＳＷの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、事前学習として①実習先の地域における子どもと家族の課題や社会資源の現状を把握する。②各自の実習先での実習目標と課題（実習計画書）を作成する。③見学やゲストスピーカーの講義も交え、学校現場の現状について理解するとともに、④実習において必要とされる知識と技術、また記録や守秘義務のあり方について学びを深める。
・実習中は、実習巡回により、事前に作成した実習計画の検討および進捗状況の確認と実習全般のスーパービジョンを行う。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習計画書作成の進め方（計画書の書き方と提出時期）
第 2 回	対象者理解	実習先での子どもと家族、地域の理解
第 3 回	地域資源の理解	実習先における社会資源の検討
第 4 回	実習先の理解	実習先および実習関係機関の見学
第 5 回	ゲストスピーカー	学校からみたＳＳＷ（生徒指導、特別支援、養護教諭）
第 6 回	学校現場の理解	学校理解と学校内でのチーム体制
第 7 回	ＳＳＷを知る	ＳＳＷの職務と社会的責任の検討
第 8 回	実習計画	実習計画書の提出・検討
第 9 回	連携の重要性	学校内外の連携のあり方と守秘義務の検討
第 10 回	実習記録	記録の意義と方法
第 11 回	実習のまとめ１	グループディスカッション
第 12 回	実習のまとめ２	自分とＳＳＷ（自己覚知）＋スーパービジョン
第 13 回	実習のまとめ３	課題と事例に関して＋スーパービジョン
第 14 回	実習のまとめ４	実習全体を通して＋スーパービジョン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前学習での課題について、期日までに提出すること。
・実習中は、実習巡回とスーパービジョンを行う。
・本授業の準備・復習時間は、各回 1 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50 %）、講義内課題および実習計画書（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB

スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義・価値と概要を理解すると同時に、ＳＳＷに関わる技法を習得する。

【到達目標】
・ＳＳＷの意義を理解し、学校現場におけるＳＳＷ実践を体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかわる個別援助、集団援助、そして間接援助に関して、実践的な技術を体験的に習得する。
・ＳＳＷの社会的意義と価値、さらに今後の展開について考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の目的を達成するため、ＳＳＷ実習の事後学習として、以下の振り返りとまとめを行う。①個別およびグループを通して自らの実習を個別的・相対的に振り返る、②実習前に各自が設定した課題に即した実習の検討を行う、③事例をもとにした実習の検討を行うと同時に、SSW の支援についてのスーパービジョンを受ける、④実習を通した自らの課題と向き合い、今後の支援に生かしていく。
・これらの結果を実習総括としての報告書を作成するとともに、実習報告会で発表する。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	今後の進め方について
第 2 回	実習の振り返り 1	実習の報告
第 3 回	実習の振り返り 2	個別指導
第 4 回	実習の振り返り 3	グループワーク
第 5 回	実習の振り返り 4	グループディスカッション
第 6 回	実習のまとめ 1	自分とＳＳＷ（自己覚知）についてのまとめ
第 7 回	実習のまとめ 2	自己覚知についてのスーパービジョン
第 8 回	実習のまとめ 3	事例と課題に関するまとめ
第 9 回	実習のまとめ 4	事例と課題に関するスーパービジョン
第 10 回	実習報告書の作成 1	グループによる執筆
第 11 回	実習報告書の作成 2	個人による執筆
第 12 回	報告会リハーサル	プレゼンテーション・スキルの理解
第 13 回	実習報告会	各自の実習の成果を発表
第 14 回	まとめ	報告会の振り返りと全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事後学習での課題や実習報告書の原稿は、期日までに提出すること。
・本授業の準備・復習時間は、各回 1 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で資料を配付する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加（50 %）、講義内課題および実習報告書（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW300JB

スクールソーシャルワーク実習

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
将来、学校や教育行政、また地域の児童関連施設などで働くことを希望し、教育と福祉の連携を中心とした福祉の仕事に関心をもつ学生を対象に、学校や教育委員会などでの実践を通して、学校におけるソーシャルワークを習得する。

【到達目標】
・スクール（学校）ソーシャルワーク（以下、ＳＳＷ）の意義について理解するとともに、学校現場と教育にかかわる組織について体験的に学ぶ。
・ＳＳＷ実習にかかる個別・集団援助技術、さらに間接援助について、これまで学んだ理論や実践技術の体系を、体験を通して修得する。
・ＳＳＷの意義と価値を考えると同時に、教育現場での展開における課題と方向性についても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・実習先の実習指導者（スクールソーシャルワーカー）や教育委員会・学校等の指導のもと、次の内容について学びを深める。
①当該地域における、子どもと家庭のニーズ、地域と社会資源、学校および教育組織などの現状。
②学校現場における、子どもと家族、教職員とのコミュニケーションの持ち方や連携のあり方。
③子どもと家族の権利擁護を前提とした、実際のアセスメントと援助の進め方。
④学校内・学校外でのチームアプローチの実際、関係者会議への参加。
⑤社会資源の活用・調整・開発の理解。
⑥ＳＳＷのスーパービジョン。
⑦ＳＳＷのミッションと社会正義、学校・地域での今後の展開。
・課題のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 10 月	6- 現場実習	各自、80 時間以上、大学が指定する学校・機関・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・スクールソーシャルワーク教育課程認定のためには、社会福祉士受験資格獲得予定学生であること、先行履修科目とスクールソーシャルワーク実習群に加えて、「精神保健学」と教育関連科目群から以下に示す科目の履修が必要である。
「精神保健学（２単位)」必修
「教育の制度・経営（２単位)」必修
＋
「教育心理学（２単位)」「教育相談（２単位)」「生徒・進路祖指導論（２単位)」の中から１科目以上選択必修
＊注意：「教育心理学」は、本学部開講の科目ではなく、教職課程での科目を履修すること。
・社会福祉士養成におけるソーシャルワーク実習が児童福祉領域以外である場合、児童福祉施設での事前実習が要求される。また、先行履修科目の履修が必要である。
本授業の準備・復習時間は各回２時間を標準とする。

【テキスト（教科書)】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
実習先での態度や実習記録・提出物（60 %)、実習先による評価（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
・本実習は、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟によるスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業に位置づく実習です。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in an internship as a school social worker. Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in school social work.

Before/after each time, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on the quality of the students' performance and reports in the practicum (60%), evaluation of the training agency (40%).

ARSx200JB

コミュニティマネジメント・リサーチ

水野　雅男、土肥　将敦

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域課題に取り組む団体や人を対象に、現状や課題に関する現地調査を実施し、その解決方法などを、グループワークや教員との個別指導を通じて具体的に探っていく演習科目です。

【到達目標】
コミュニティマネジメント（地域づくり）を学ぶために必要な基本的な視点、姿勢、技法等を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
関心のある地域課題、それに取り組む団体等を調査し、問いを立てるところから始まります。その後、インタビューシートを作成して調査を行い、調査終了後は分析と考察を進めて報告書にまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と地域研究の心構えを学ぶ。
第 2 回	研究関心の共有と深化	各自の関心について発表し、そこからどんな調査が可能か検討する。
第 3 回	研究課題の設定	研究課題を設定し、具体的調査内容について話し合う。
第 4 回	研究計画書の作成	研究課題を深めるための具体的調査内容を計画書として作成し、指導を受ける。
第 5 回	研究計画書の完成	指導内容に沿って計画書を修正し、議論の上、完成させる。
第 6 回	インタビューシートの作成、研究日時の確定	調査先で明らかにしたいことを質問票にまとめ、指導を受ける。
第 7 回	フィールドワーク①	フィールドでの調査（調査対象者へのインタビュー調査）
第 8 回	フィールドワーク②	フィールドでの調査（インタビュー調査を補足するための参与観察など）
第 9 回	フィールドワーク報告（速報）	フィールドでの調査内容の報告
第 10 回	フィールドワーク報告（詳報）	フィールドでの調査内容を文書にまとめて報告する。
第 11 回	フォローアップ調査報告	報告書作成に向けて必要な情報を更に収集し、報告する。
第 12 回	報告書作成①	報告書の素案を提出し、指導を受ける。
第 13 回	報告書作成②	改良した報告書原稿を提出し、さらに指導を受ける。
第 14 回	報告会	報告書を提出するとともに、内容について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業及びその間に出される担当教員からの指導に沿って、調査及びその準備やまとめを進め、報告書を完成させることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各回 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
ⅰ) 成績評価方法
平常点　70%
提出物（発表及び提出資料、最終レポート）　30%
ⅱ) 評価基準
平常点は、授業への出席のみならず、発表や質疑応答等、授業への積極的参加、課題に対する取組み姿勢を評価します。課題に対する取り組み姿勢には、授業時間外での取り組みも含みます。レポートは、期限までの提出とその内容によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者からの意見を活かし、履修者が、より主体的に参加できる工夫をしていきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire field surveys for groups and people working on regional issues, and seek solutions.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Acquire basic viewpoints, attitudes, techniques, etc. necessary for learning community management.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, in class contribution: 70%

ARSx200JB

コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として夏休み期間中に実施するインターンシップに向けて、事前学習と準備を進める。

【到達目標】
コミュニティマネジメントに取り組むための基礎的な知識と能力を獲得し、またインターンシップに臨む姿勢を養う。また、インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自分の関心のあるテーマについて、実習先の検討とそこでのプログラムづくりを進める。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、実習先とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	全体説明	実習（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）のねらいについての共有
第 2 回	講義「地域の課題とｺﾐｭﾆﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ」	実習に関する基礎的な学習
第 3 回	グルーピング	実習（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）候補の中から検討
第 4 回	講義「実習ﾃｰﾏを考える視点①」	実習に関する基礎的な学習（前半）
第 5 回	講義「実習ﾃｰﾏを考える視点②」	実習に関する基礎的な学習（後半）
第 6 回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析①	ﾃｰﾏに関する事例収集
第 7 回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析②	ﾃｰﾏに関する事例分析
第 8 回	実習ﾃｰﾏに関する近隣地域の取組分析③	ﾃｰﾏに関する事例考察
第 9 回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ①	実習生の意向の聞き取り
第 10 回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ②	実習先候補の検討
第 11 回	実習先の検討とﾏｯﾁﾝｸﾞ③	実習先候補の調整
第 12 回	事前調査の発表・共有①	実習先別に事前に情報収集する
第 13 回	事前調査の発表・共有②	実習先別情報を整理・発表する
第 14 回	派遣前の諸準備	書類等の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、実習先や個人テーマに関連する情報・文献・データ収集を積極的に進める。毎回の指導で得られた内容を復習し、実習に対する基礎的な知見を身につける。本講義の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加姿勢： 60 %　インターンシップ実施計画： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】
講義を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to elaborate ideas among students, and develop an outline for the internship during the summer vacation period in principle.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be ready for the implementation of at least one internship program.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%), internship planning (40%).

ARSx200JB

コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ

佐野　竜平、図司　直也、野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原則として夏休み期間中に実施したインターンシップを受けて、事後学習を進め、報告書を作成する。

【到達目標】
インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実習内容を整理し、補足、分析しながら個人研究を深め、その成果に基づいて報告会を実施し、報告書を作成する。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、実習先とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現場実習の概要報告	実習の概要報告
第 2 回	実習報告①	実習先（第 1 ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第 3 回	実習報告②	実習先（第 2 ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第 4 回	実習報告③	実習先（第 3 ｸﾞﾙｰﾌﾟ）の発表と質疑
第 5 回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導①	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議の準備
第 6 回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導②	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議
第 7 回	ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ指導③	ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議のまとめ
第 8 回	報告書作成作業①	報告書の内容ﾒﾓ作成
第 9 回	報告書作成作業②	報告書の内容構成の検討
第 10 回	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ指導	報告会の準備
第 11 回	実習報告会Ⅰ	報告会の実施（前半）
第 12 回	実習報告会Ⅱ	報告会の実施（後半）
第 13 回	報告書原稿校正作業	報告書原稿の校正作業
第 14 回	報告書最終原稿提出	報告書原稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個人研究に関する知見を広げ、実習時の活動内容の取りまとめ、分析作業を日々進めておく。本講義の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加姿勢： 60 %　インターンシップ最終報告書： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
講義を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline (in English)】
【Course Outline】Based on the internship conducted during the summer vacation period in principle, the course is arranged to focus on the review of their learnings and develop a report on field studies.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to demonstrate their learnings publicly, and externalize their experience explicitly.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%), internship final report (40%).

PSY300JC

心理演習Ⅰ

金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、演習を通して身につけ、心理実習につなげます。

【到達目標】
心理実習の事前における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理の実践に必要な知識と援助技能を、役割演技や事例検討を通して学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、内容の若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	支援を要する者に関する知識及び技能①	心理実習の現場担当者（小学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 3 回	支援を要する者に関する知識及び技能②	心理実習の現場担当者（中学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 4 回	支援を要する者に関する知識及び技能③	心理実習の現場担当者（教育相談関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 5 回	支援を要する者に関する知識及び技能④	心理実習の現場担当者（保育関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 6 回	心理実習のための知識と技能①	心理実習の事前指導として、実習で求められるコミュニケーションについて学びます。
第 7 回	心理実習のための知識と技能②	心理実習の事前指導として、心理検査について学びます。
第 8 回	心理実習のための知識と技能③	心理実習の事前指導として、心理面接について学びます。
第 9 回	心理実習のための知識と技能④	心理実習の事前指導として、地域支援について学びます。
第 10 回	心理実習先を踏まえた知識と技能①	支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。
第 11 回	心理実習先を踏まえた知識と技能②	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。
第 12 回	心理実習先を踏まえた知識と技能③	多職種連携及び地域連携。
第 13 回	心理実習先を踏まえた知識と技能④	公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
第 14 回	まとめ	半期の演習を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習内容を振り返って、自己理解を深めるための学習を行うことや、心理実習に向けての志望書等の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業での積極性、授業態度による平常点（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The goal of this seminar is to acquire knowledge for practical training. Major topics include psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Off-campus practical training takes place at mainly educational area. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

PSY300JC

心理演習Ⅱ

金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、主に事例検討を通して身につけます。

【到達目標】
役割演技や事例検討を通して、（1）心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能、（2）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（3）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、（4）多職種連携及び地域連携、（5）心理専門職としての職業倫理及び法的義務について、学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の体験を深めるための検討と学習を行い、最終的には報告書を作成します。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	医療分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	医療系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 3 回	福祉分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	福祉系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 4 回	教育分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	教育系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 5 回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 6 回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 7 回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 8 回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 9 回	多職種連携及び地域連携（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 10 回	多職種連携及び地域連携（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 11 回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 12 回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 13 回	報告書の検討	これまでの学びの報告書の作成を通して、自己理解を深めます。
第 14 回	まとめ	これまでの演習のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの見学実習や施設実習での体験を踏まえて、自己理解を深めるための学習を行うことや、報告書の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での積極性、演習態度による平常点（60%）と事例の報告（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. At the conference, students introduce cases from the school where they are receiving practical training. Lecturers and students in the case study group have a free discussion. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on case reports (60%), and in-class contribution (40%).

PSY300JC

心理実習

金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、関谷　秀子、服部　環、小田　友理恵、久保田　幹子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の複数の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、下記の事項を実習を通して学習することである。
（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ） 多職種連携及び地域連携
（ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
クラスに分かれ、担当教員の指導のもと、実習計画を策定するとともに、配属施設の実習指導者から指導を受け、合計 80 時間以上の実習を行う。実習期間中は、担当教員が巡回指導、または、実習生が帰校し、実習課題に応じて指導を行う。なお、下記の授業計画の内容は、実習施設との調整で時期は入れ替わることがある。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実習施設でのガイダンス	実習施設で担当者から実習の内容や期間についてのガイダンスを受ける。
第 2 回	保健医療施設見学実習　第 1 回	入院施設等の見学実習
第 3 回	保健医療施設見学実習　第 2 回	デイケア等の見学実習
第 4 回	福祉施設見学実習　第 1 回	児童養護施設の見学実習
第 5 回	福祉施設見学実習　第 2 回	児童相談所等の見学実習
第 6 回	学校等教育施設等での実習　第 1 回	学校等教育施設等（例、A 小学校）の施設実習
第 7 回	学校等教育施設等での実習　第 2 回	学校等教育施設等（例、B 小学校）の施設実習
第 8 回	学校等教育施設等での実習　第 3 回	学校等教育施設等（例、C 小学校）の施設実習
第 9 回	学校等教育施設等での実習　第 4 回	学校等教育施設等（例、D 小学校）の施設実習
第 10 回	学校等教育施設等での実習　第 5 回	学校等教育施設等（例、E 小学校）の施設実習
第 11 回	学校等教育施設等での実習　第 6 回	学校等教育施設等（例、F 小学校）の施設実習
第 12 回	学校等教育施設等での実習　第 7 回	学校等教育施設等（例、G 小学校）の施設実習
第 13 回	学校等教育施設等での実習　第 8 回	学校等教育施設等（例、A 中学校）の施設実習
第 14 回	学校等教育施設等での実習　第 9 回	学校等教育施設等（例、B 中学校）の施設実習
第 15 回	学校等教育施設等での実習　第 10 回	学校等教育施設等（例、C 中学校）の施設実習
第 16 回	学校等教育施設等での実習　第 11 回	学校等教育施設等（例、D 中学校）の施設実習
第 17 回	学校等教育施設等での実習　第 12 回	学校等教育施設等（例、E 中学校）の施設実習
第 18 回	学校等教育施設等での実習　第 13 回	学校等教育施設等（例、F 中学校）の施設実習
第 19 回	学校等教育施設等での実習　第 14 回	学校等教育施設等（例、G 中学校）の施設実習
第 20 回	学校等教育施設等での実習　第 15 回	学校等教育施設等（例、A 教育センター）の施設実習
第 21 回	学校等教育施設等での実習　第 16 回	学校等教育施設等（例、B 教育センター）の施設実習
第 22 回	学校等教育施設等での実習　第 17 回	学校等教育施設等（例、C 教育センター）の施設実習
第 23 回	学校等教育施設等での実習　第 18 回	学校等教育施設等（例、A 保育園）の施設実習
第 24 回	学校等教育施設等での実習　第 19 回	学校等教育施設等（例、B 保育園）の施設実習
第 25 回	学校等教育施設等での実習　第 20 回	学校等教育施設等（例、C 保育園）の施設実習
第 26 回	学校等教育施設等での実習　第 21 回	学校等教育施設等（例、D 保育園）の施設実習
第 27 回	学校等教育施設等での実習　第 22 回	学校等教育施設等（例、E 保育園）の施設実習
第 28 回	学校等教育施設等での実習　第 23 回	学校等教育施設等（例、F 保育園）の施設実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の達成課題を明らかにすること。また、施設ごとにまとめを行い、全体の実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本実習の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設の実習態度や実習記録および実習指導者の評価 80 %、報告書 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
「心理実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をしている事が必要です。また、「心理演習」の授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、実習施設と相談の上、実習中止とすることがあります。

【Outline (in English)】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. For example, Students are placed in middle/high schools for a certain period of time. They will develop practical skills.

Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の理論的検討、およびそれに関連する多様な実態について学ぶ。

【到達目標】
「社会的排除」の主要概念を説明できる。
日本における様々な排除の現実を理解し、その背景と課題について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、社会的排除に関わるソーシャルワークについての学習。方法は、文献研究、実践（ボランティア、傾聴面接、現地視察・調査）などを組み合わせて行う。オンラインか対面式、もしくはハイブリッド型での開講となる。実践は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期授業内容の概要と目標
第 2 回	グループ面接	専門演習Ⅱ・Ⅲとの合同面接
第 3 回	研究テーマの選定①	問題関心の意見交換
第 4 回	研究テーマの選定②	図書館等での文献検索
第 5 回	研究テーマの決定①	各自の研究テーマの概要を報告し、目的、研究方法について検討する。
第 6 回	研究テーマの決定②	研究計画を具体的に検討する。
第 7 回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究
第 8 回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②文献研究の共有と検討
第 9 回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③文献研究の課題について討議
第 10 回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④文献研究のまとめ
第 11 回	研究報告①	貧困系テーマ研究結果の発表
第 12 回	研究報告②	障害系テーマ研究結果の発表
第 13 回	研究報告③	多文化系テーマ研究結果の発表
第 14 回	まとめ	春学期の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介、学生と相談して決定する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．レポート (30%)
2．研究発表 (40%)
3．演習への能動的参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with the theory on social exclusion and the realities of various form of discriminations.At the end of the course, students are expected to understand the main theory about social exclusion and the social issues in Japan.Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
このゼミは、社会福祉に関連する問題に対して、「なぜ」という疑問を持ち、それについて調べ、議論をし、論文を作成する力をつけることを目的としています。
具体的には、入られた皆さんと相談しながら決めたいと思いますが、教員の方で社会福祉に関連する様々なテーマを設定し、ビデオや新聞などの教材を使って、ゼミのみなさんと議論しながら考えられればよいと思っています。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミのルールや予定をガイダンスする
第 2 回	論文とはどのようなものか	論文とは何か、講義する
第 3 回	グループ別テーマ学習１	文献収集、新聞記事ＤＢを使ってみる
第 4 回	グループ別テーマ学習２	論文や記事の要旨をまとめる
第 5 回	グループ別テーマ学習３	グループで議論して主張をまとめる
第 6 回	ディベート 1	ディベートの仕方、評価のポイントを学ぶ。ディベートのテーマの設定
第 7 回	ディベート２	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＡ・Ｂ
第 8 回	ディベート３	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＢ・Ｃ
第 9 回	ディベート４	３ティーム総当たり戦でディベートを行う。チームＡ・Ｃ
第 10 回	論文テーマの選び方	テーマの選び方を学ぶ
第 11 回	先行研究の調べ方	先行研究の調べ方を学ぶ
第 12 回	論文テーマのプレゼンテーション	個々に研究したいテーマのプレンゼンテーションを行う
第 13 回	グループ研究テーマの選定	プレゼンテーションで出されたテーマからグループテーマを選定する
第 14 回	グループ研究の進め方	グループ研究を行う方向性を指示する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を出しますので、事前に準備してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【その他の重要事項】
原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、子ども虐待に関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、ゼミの進め方について
第 2 回	子ども虐待を考えるために知っておくべきこと	「虐待死」をどう考えるか
第 3 回	子ども虐待の現場を見つめ直す	「子ども虐待」への社会的まなざし
第 4 回	子どもと家族の現場 1	ゲストスピーカー（児童相談所）からの学び
第 5 回	米国における子ども虐待防止の法制度	米国ではなぜ子ども虐待が多発し続けるのか
第 6 回	リスク・アプローチからソーシャルハーム・アプローチへ	児童虐待問題と有責性
第 7 回	子育て・家族文化と子ども虐待	子ども虐待対応の変遷とその国際比較
第 8 回	「虐待」問題の諸相と子どもの命を守ること	改正児童虐待防止法等に関連して
第 9 回	子どもと家族の現場 2	不登校支援の現場の見学
第 10 回	子どもの虐待とそのケアを考える	喪失をめぐる考察
第 11 回	虐待を受けた子どもの心の臨床	ソーシャルペタゴジーを視野に入れて
第 12 回	支援の現場から①	乳児院の現場から見えること／児童心理治療施設でかんがえたこと
第 13 回	支援の現場から②	児童相談所ができること・できないこと／児童養護施設で考えたこと
第 14 回	まとめ：文献を通してのディスカッション	子ども虐待を通して現代社会を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。
本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・滝川一廣・内海新祐 編（2020）『子ども虐待を考えるために知っておくべきこと』日本評論社
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題に関して適切な情報収集・分析・発表ができる。
・社会問題を構造的に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
社会問題の解決に向けた活動について理解したうえで、興味のある社会問題を理解するのに必要な情報収集・分析・発表をグループで行い、全体でディスカッションしながら、社会問題の解決に向けた活動計画を検討する。
授業ごとのリアクションペーパーをもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。
基本的には対面授業で実施するが、ゲストスピーカーの都合によっては、オンラインにて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	活動のための関係構築	相互理解のうえの関係構築
第 3 回	社会問題の解決に向けた活動	社会問題の構造的理解 ソーシャルアクションの概要
第 4 回	社会問題の発表	各自が興味のある社会問題の発表
第 5 回	活動計画策定方針の検討	活動計画策定グループの決定
第 6 回	社会問題の理解① 当事者の事例から	権利侵害・権利の非実現当事者のニーズ
第 7 回	社会問題の理解② 実態や社会の理解から	問題の実態 メディアの報道内容
第 8 回	社会問題の理解③ 構造的理解	社会的不正義の背景
第 9 回	社会問題の理解④ 構造的理解	社会的不正義の背景要因の連鎖
第 10 回	社会問題の理解⑤ 現在の対応	公的対応 非公的対応
第 11 回	社会問題の理解⑥ 具体的な理解	支援者による講義
第 12 回	社会問題のグループ発表① ①	社会問題に関する理解の共有
第 13 回	社会問題のグループ発表② ②	社会問題に関する理解の深化
第 14 回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループのメンバーと協働して、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規
空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル−「制度からの排除」への対処』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・発表資料 40%

【学生の意見等からの気づき】
グループ活動を進めやすいように、より体系的に社会問題を理解できるようにしました。また、グループ同士の相互議論の機会を増やしました。

【Outline (in English)】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ｉのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。当事者や家族のもつ力が社会福祉のみならず、社会の中で大きな社会資源となっている現状を分析し、彼らと協働する力を育んでいきます。

【到達目標】
さまざまな当事者やその家族、専門家とかかわることにより、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
人はあらゆる体験を通して、知識や生き抜く術を獲得しているといえます。こうした「体験的知識」は、ソーシャルワークにおいては見過ごすことのできない重要なものです。ゼミでは、性被害や犯罪被害、障害のある人やその家族、虐待を受けた人や精神障害当事者など、当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知ることからスタートし、社会福祉援助について考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行う中で、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。今年度はさらに、当事者団体との研究会やイベントの企画などを展開していく予定です。
フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第 3 回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第 4 回	図書館オリエンテーション	講義
第 5 回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第 6 回	先行研究の検討	先行研究の分析と整理
第 7 回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第 8 回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第 9 回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第 10 回	ゲストの専門分野についての学習結果と質疑応答	プレゼンテーションと全体討議
第 11 回	ゲストの専門分野をふまえての全体学習	プレゼンテーションと講義
第 12 回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とディスカッション
第 13 回	振り返り	全体討議
第 14 回	まとめ	まとめと秋学期に向けての討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソーシャルワークにおける「当事者性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講態度（50%）、発表内容・提出物（50 %）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちと議論を深め、フィールドワークなどを積極的に実施していく予定です。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・実践スキルを身に付けることを目指す。

【到達目標】
アジアについて基礎的な理解を深める。動画等による発信力を身につける。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
アジアに関する国際協力・開発に関する文献・資料集めを行いつつ、基礎スキル向上の取り組み、ゼミ合宿（海外または国内）の準備を進める。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	専門ゼミでの学習①	学びの理解、活動の骨子づくり
第 3 回	専門ゼミでの学習②	年代を超えた意見交換から学ぶ
第 4 回	国際課題の学習①	アジアの基礎情報①
第 5 回	国際課題の学習②	アジアの基礎情報②
第 6 回	専門的な研究の前に①	質問力、プレゼンテーション手法
第 7 回	専門的な研究の前に②	ビジネススキル基礎
第 8 回	専門的な研究の前に③	動画撮影・編集
第 9 回	フィールドワーク①	フィールドワーク実施
第 10 回	フィールドワーク②	フィールドワークの成果発表
第 11 回	ゼミ合宿準備①	国際協力・開発課題の考察
第 12 回	ゼミ合宿準備②	フィールドワークの注意点等
第 13 回	ゼミ合宿準備③	夏休み課題の討議、諸準備
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course deals with basic academic performance, in particular presentation. It also enhances the development of students' skills in public relations and international work.
【Learning Objectives】The main goal of this seminar is to build a basis of international work and develop students' knowledge and practical skills on international cooperation and development in Asia compared to Japan.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ｉでは年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

【到達目標】
地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として” アクアツーリズム” と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第 2 回	生活環境主義とは？	現場の人びとの実践から学ぶ方法論
第 3 回	アクアツーリズムとは？	文献を精読し、討議
第 4 回	問題関心のつくり方	グループワークを通じて問題関心を明確化する
第 5 回	文献調査の方法	先行研究と分析視角の検討
第 6 回	フィールドワークの技法	フィールドワークの基礎知識と技法について
第 7 回	問いのつくり方と仮説の提示	問いの立て方と仮説の設定について実習
第 8 回	フィールドワークの準備	調査地の選定と下調べ
第 9 回	フィールドワーク	聞きとり調査
第 10 回	調査データの解釈・分析（1）	調査で得られたデータを解釈する
第 11 回	調査データの解釈・分析（2）	調査で得られたデータを先行研究とつきあわせながら分析する
第 12 回	今後の調査の方向性（1）	これまでの調査の振り返り
第 13 回	今後の調査の方向性（2）	不足しているデータの収集
第 14 回	生活環境主義の実践性	役に立つ研究とはどのようなものか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

【参考書】
参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果や受講生の声を適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みを調査するなかから、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり（地域づくり）活動のフィールドワーク現場を選定するために、活動助成事業への企画書をグループ単位でとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第 2 回	まちづくり活動の事例研究①	活動先進事例の実態把握① リノベーション住宅
第 3 回	まちづくり活動の事例研究②	活動先進事例の実態把握② クリエイティブツーリズム
第 4 回	まちづくり活動の事例研究③	活動先進事例の実態把握③ メンタルヘルスツーリズム
第 5 回	まちづくり活動の事例研究④	活動先進事例の実態把握④ シェアリングエコノミー
第 6 回	まちづくり活動の事例研究⑤	活動先進事例の実態把握⑤ コミュニティの居場所
第 7 回	活動助成の企画書作成①	フィールドワークの目的確認
第 8 回	活動助成の企画書作成②	フィールドワークでの活動プログラムの検討①
第 9 回	活動助成の企画書作成③	フィールドワークでの活動プログラムの検討②
第 10 回	活動助成の企画書作成④	活動スケジュールの検討
第 11 回	活動助成の企画書作成⑤	企画書とりまとめ
第 12 回	フィールドワークの事前調査①	対象地域の社会条件の整理
第 13 回	フィールドワークの事前調査②	対象地域の環境条件の整理
第 14 回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの準備と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire how local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the factors necessary for community development while the students investigate practical efforts.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習全体の目的である「福祉社会の未来をデザインする」ために、「若者の視点から探る」をテーマに、前期は、我が国の将来の社会保障や社会福祉に関する課題について、若者の視点から、その背景や課題について検討する。その際、具体的なフィールドを設定して、必要なデータを収集し、分析する。また、先進的な政策や実践について、国際的な視野を含めて検討し、基礎的な考察する力や視野を広げることを目的とする。

【到達目標】
･将来の福祉社会の在り方について、自分たちの問題として真摯にとらえることができ
る。
･社会保障や社会福祉に関して国際的な視点で考えることができる。
･専門的な文献や論文を読了するとともに、具体的なデータを収集・分析して自ら考察
することができる。
･グループでテーマを設定し、協力して議論を深めることができる。
･人前で発表するプレゼンテーションの基礎的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献の探索レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、基本的には、演習方式によるゼミ生の共同研究による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ全体の目的と方法、前期の進め方と日程等
第 2 回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて①	福祉社会の未来と自分隊たちの暮らしについての課題の検討
第 3 回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて②	上記について具体的なテーマの設定についての協議
第 4 回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて③	テーマの設定と内容についての協議
第 5 回	グループ研究①	研究内容と方法について協議①（社会課題の検討）
第 6 回	グループ研究②	研究内容と方法について協議②（先行研究の調べ方）
第 7 回	グループ研究③	研究内容と方法について協議③（研究目的の明確化）
第 8 回	グループによる研究報告Ⅰ	中間報告①（研究の対象と目的）
第 9 回	グループによる研究報告Ⅰ	中間報告②（研究方法について）
第 10 回	グループ研究④	研究方法について協議①（研究の目的と対象の明確化）
第 11 回	グループ研究⑤	研究方法について協議②（研究方法について）
第 12 回	グループ研究⑥	研究方法について協議③（具体的な調査方法について）
第 13 回	グループによる研究報告Ⅱ	中間報告③（研究の目的と対象について）
第 14 回	グループによる研究報告Ⅱ	中間報告④（調査方法について）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海外の社会保障や社会福祉に関するテーマをグループで設定し、自ら関連する文献等を渉猟し読了する。
準備・復習時間は、合計４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
テキストを使用する場合は授業で具体的に指示する。

【参考書】
適宜紹介するとともに、論文の書き方に関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の主体性を活かすとともに、学生相互に活発に論議できるようなゼミにしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
報告において、パワーポイント使用する場合は、パソコンの貸与など自ら準備すること。

【その他の重要事項】
専門演習Ⅱ、Ⅲにつながる基礎的な能力を高めるとともに、自ら問題意識を深め、調べ、まとめる主体的な学習態度の形成を図ります。
オフィスアワー　月曜日３時限
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、演習ではその経験を活かして適宜助言指導することとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
This Course is the setting thema to the future of the welfare society from the viewpoint of the youth,and by the fieldwork and so on it deepens a discussion and it dose a reserch,it cultivates the skills to disecuss and basic presentation through these.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to have completed assignments after each supervision,
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy)】
Grading will be decided on research paper(40 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(60 %）

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

【到達目標】
認知行動療法の全体像を把握し、その中から、自らの関心があるテーマを見つけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法はどのようなものかについて、文献講読、DVD の視聴、グループ発表を通して学びます。また、ロールプレイ等を用いた体験的学習も取り入れます。そして、認知行動療法をツールにして、身近な心の問題を、どのように理解できるか考えていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	認知行動療法の歴史	認知行動療法の歴史について概説し、ディスカッションを行います。
第 3 回	認知行動療法の現状	認知行動療法の現状について概説し、ディスカッションを行います。
第 4 回	認知行動療法の理論	認知行動療法の技法について、ディスカッションを行います。
第 5 回	認知行動療法の技法	認知行動療法の技法について、ディスカッションを行います。
第 6 回	認知行動療法の理論と技法の結びつき	認知行動療法の理論と技法の結びつきについて、ディスカッションを行います。
第 7 回	認知行動療法の検討とディスカッション 1	行動療法（主にオペラント技法）について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 8 回	認知行動療法の検討とディスカッション 2	行動療法（主にエクスポージャー法）について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 9 回	認知行動療法の検討とディスカッション 3	認知療法について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 10 回	認知行動療法の検討とディスカッション 4	スキーマ療法について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 11 回	認知行動療法の検討とディスカッション 5	メタ認知療法について、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 12 回	認知行動療法の検討とディスカッション 6	マインドフルネスについて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 13 回	認知行動療法の検討とディスカッション 7	アクセプタンス＆コミットメント・セラピーについて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 14 回	まとめ	春学期のゼミを振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容（40%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生間での共同作業を増やしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
This seminar focuses on issues affecting mental health from the viewpoint of cognitive behavior therapy. Students learn basic ideas for cognitive behavior therapy. Students are required to make topic presentations. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や援助について報告や議論を行い、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有します。

【到達目標】
到達目標は、体験実習とディスカッションを通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各種のセラピーについてグループで歴史・理論・方法を調べて発表し、そのセラピーについての体験実習を行い、ディスカッションします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
第 2 回	オリエンテーション②	ゼミ長他、ゼミにおける役割を決めます
第 3 回	春学期の小グループ、学習内容の決定	春学期に行う実践体験グループのグループ分けと、各グループで実施する内容を決定します
第 4 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション①	例：カウンセリングロールプレイ
第 5 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション②	例：箱庭療法
第 6 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション③	例：音楽療法
第 7 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション④	例：造形療法
第 8 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑤	例：夢分析とイメージセラピー
第 9 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑥	例：プレイセラピーとボディワーク
第 10 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑦	例：行動療法と認知行動療法
第 11 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑧	例：サイコドラマ
第 12 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑨	例：森田療法と内観療法
第 13 回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑩	例：マインドフルネスストレス低減法
第 14 回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表と体験実習の内容を事前に検討してもらいます。また各グループで発表内容と体験実習、ディスカッションについてレポートを執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表の内容 50 %、授業への参加度 50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体験実習やディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through discussion and exercise.
The goals of this course are to acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＡ

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神発達についての基本的な知識を習得する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

【到達目標】
精神発達についての基本的な内容について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
論文やテキストの輪読を行う。それと並行して精神発達の正常と異常に関連するテーマについて調べ、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ生同士の自己紹介、ゼミの進め方、輪読の担当と発表順番決め
第 2 回	文献検索の方法について	多摩図書館においてガイダンス受講
第 3 回	テキストの輪読①／発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①
第 4 回	テキストの輪読②／発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②
第 5 回	テキストの輪読③／発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③
第 6 回	テキストの輪読④／発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④
第 7 回	テキストの輪読⑤／発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤
第 8 回	テキストの輪読⑥／発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥
第 9 回	テキストの輪読⑦／発表⑦	レジメを準備して発表、ディスカッションを行う⑦
第 10 回	テキストの輪読⑧／発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧
第 11 回	テキストの輪読⑨／発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨
第 12 回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解などについてディスカッションを行う
第 13 回	論文によるケース検討	ケースについてディスカッションを行う
第 14 回	まとめ②	春学期を振り返り、秋学期のゼミの内容と進行についてディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み、自分の担当箇所の発表用レジメを作成する。
自分の興味のあるテーマについて調べ、発表準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn basic knowledge of the developing mind. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、「社会的排除」をキーワードに、何らかの理由で社会との「関係性」から離れて、社会的孤立の状態にある人びとの支援について学ぶ。

【到達目標】
社会的排除の実態を様々な側面から理解し、批判的思考を獲得する。
社会的排除に関わる社会的支援のあり方についての知識と技術を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、理論と実践を統合するためのフィールドワーク等を行い、春学期の研究テーマを実践的に深める。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインもしくはハイブリッド型での開講となる。フィールドワークは、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの計画①	グループ毎にテーマの確認とフィールドワーク先の検討
第 3 回	フィールドワークの計画②	フィールドワークの内容・進行計画の作成①
第 4 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（介入方法について）
第 5 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援方法について）
第 6 回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。③（相談・連携について）
第 7 回	フィールドワークの実践④	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。④（記録について）
第 8 回	フィールドワーク結果の検討①	フィールドワーク実践の振り返りと検討①（研究テーマとの関連で）
第 9 回	フィールドワーク結果の検討②	フィールドワーク実践の振り返りと検討②（実践方法について）
第 10 回	フィールドワーク結果の検討の③	フィールドワーク実践の振り返りと検討③（社会問題との関連について）
第 11 回	研究報告①	貧困系グループの発表
第 12 回	研究報告②	障害系グループの発表
第 13 回	研究報告③	多文化系グループの発表
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．レポート (30%)
2．研究発表 (40%)
3．演習への能動的参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with the support people who have been in socially isolated situation.At the end of the course, students are expected to get knowledge about social supports with people who socially isolated. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
グループごとに研究の基本的な方法を学び、インタビュー調査を行い、その結果をまとめます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	先行研究の検討１	グループごとに先行研究を調べて報告する１
第 2 回	先行研究の検討２	グループごとに先行研究を調べて報告する２
第 3 回	先行研究の検討３	グループごとに先行研究を調べて報告する３
第 4 回	先行研究の検討４	グループごとに先行研究を調べて報告する４
第 5 回	先行研究の検討５	先行研究を整理し、研究課題を明らかにする
第 6 回	研究仮説の構築	先行研究をもとに研究仮説を構築する
第 7 回	インタビュー調査の設計１	インタビュー調査先を選定する
第 8 回	インタビュー調査の設計２	インタビュー調査先の事前調査を行う
第 9 回	インタビュー調査の設計３	インタビュー調査の項目を検討する
第 10 回	インタビュー調査結果の検討１	インタビュー調査の結果を文字化する
第 11 回	インタビュー調査結果の検討２	インタビュー内容をまとめる
第 12 回	インタビュー調査結果の検討３	先行研究の知見や研究仮説から、インタビュー結果を分析する
第 13 回	追加調査の検討	インタビュー調査で追加調査すべき点がないか検討する。
第 14 回	追加調査の実施	必要な追加調査を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、グループで調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じてサブゼミを開催し、議論を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【その他の重要事項】
原則として、部活やその他の用事で、ゼミを欠席することを認めません。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、子どもの遊びに関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、秋学期のゼミの進め方について
第 2 回	子どもの世界の中心としての「遊び」	子どもにとって「遊び」とは何か
第 3 回	貧困と子どもの経験	子どもの視点から考える子どもの経験とは
第 4 回	生きるために遊ぶ	なぜヒトは遊ぶのか
第 5 回	子どもと家族の現場１	母子生活支援施設の見学
第 6 回	遊びと遊び心の剥奪	障がいと貧困の重なりから考える
第 7 回	子どもの世界を守る実践①	保育、学童保育
第 8 回	子どもの世界を守る実践②	学校、地域子育て支援拠点事業、地域の居場所
第 9 回	育ちの基盤を考える①	子どもの健康と貧困
第 10 回	育ちの基盤を考える②	子育ての分断と連続
第 11 回	貧困対策における保育の再定位に向けて	家族のライフコース、労働とレジリエンス
第 12 回	「子どもの世界」を社会全体で守るために	家族主義をどう乗り越えるか
第 13 回	まとめ：文献を通してのディスカッション	子どもとは何か・遊びとは何か・貧困とは何か
第 14 回	子どもと家族の現場２	ゲストスピーカー（ゼミの先輩の現場）からの学び

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。
テーマ別発表では、レジメやパワポを作成して発表すること。本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
小西祐馬・川田学 編（2019）『シリーズ子どもの貧困②　遊び・育ち・経験―子どもの世界を守る』明石書店
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。

【到達目標】
・社会問題の解決に向けた活動計画を策定することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習ＩＡの学びをもとに、グループで社会問題の解決に向けた活動計画を策定する。授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。
基本的には対面授業で実施するが、ゲストスピーカーの都合によってや個別面談は、オンラインにて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	社会問題の理解	支援者からの講義
第 3 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討①	社会問題の解決目標
第 4 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討②	連鎖的変化の仮説
第 5 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討③	連鎖的変化を生じさせる活動
第 6 回	社会問題の解決に向けた活動計画の検討④	具体的な活動
第 7 回	社会問題への対応検討	全体でのディスカッション
第 8 回	社会問題の解決に向けた活動計画の策定	活動計画の完成
第 9 回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表①	活動計画の発表
第 10 回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表②	活動計画の議論
第 11 回	社会問題の解決に向けた活動計画の再検討	活動計画の再検討
第 12 回	社会問題の解決に向けた活動計画の発表	活動計画の全体発表
第 13 回	個々の学びの総括	各自の学びの共有
第 14 回	総括	振り返りと課題認識 個別面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者として責任をもって、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。
本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規
空閑浩人・白澤正和・和気純子編著（2022）『新・MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 6 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』ミネルヴァ書房
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル−「制度からの排除」への対処』中央法規

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・社会問題の活動計画に関する発表 40%

【学生の意見等からの気づき】
２年生の最後にそれまでの学びの総括を行い、次年度からの卒業研究につなげます。

【Outline (in English)】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end presentation (40%) and in-class contribution (60%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習ＩＢのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。学びの内容としては、グループごとのディスカッション、プレゼンテーション、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

【到達目標】
春学期での学びをさらに深め、当事者やその家族、専門家との関わりから得た情報や経験をもとに、彼らが必要としていることについて理解できるようにし、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミでは、春学期に当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知るという点を深めてきたことをふまえ、秋学期では当事者やその家族と積極的にかかわりを持ち、社会的な活動によって変革をもたらすということについて考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行います。一人一人の自主性を大切に、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。また、当事者団体との研究会などにも参加していただき、学習内容をより「リアル」なものとしてつかんでほしいと思います。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第 3 回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第 4 回	フィールドワーク	学外での学習
第 5 回	フィールドワークの振り返り	見学先をふまえた全体討議
第 6 回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第 7 回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第 8 回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第 9 回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第 10 回	ゲストの専門分野に関する学習成果報告と質疑応答	プレゼンテーションと質疑応答
第 11 回	ゲストの専門分野と関連した DVD での学習	DVD 視聴と全体討議
第 12 回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とグループごとのディスカッション
第 13 回	振り返り	全体討議
第 14 回	まとめ	まとめと次年度に向けての討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソーシャルワークにおける「当事者性」「専門性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講態度（50%）、発表内容・提出物（50 %）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちとともに議論をしたり、フィールドワークやゲストスピーカーとの橋渡しをしたいと思います。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・実践スキルを引き続き身に付けることを目指す。

【到達目標】
アジアについて基礎的な理解を深める。動画等による発信力を身につける。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ合宿（海外または国内）を土台に、ディスカッションやグループワーク等を実施しつつ、学生相互に学び合う機会を創出していく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返り、秋学期の見通し
第 2 回	ゼミ合宿報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	ゼミ合宿報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第 5 回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第 6 回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第 7 回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第 8 回	海外経験者に学ぶ	海外滞在経験者と質疑応答
第 9 回	1 次自主企画準備①	今後深めたいテーマの選定
第 10 回	1 次自主企画準備②	現地活動に必要な準備等を議論
第 11 回	学びの伝達	表現力向上のための企画実施
第 12 回	1 次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第 13 回	1 次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course deals with advanced academic performance, in particular with tools in public relations. It continues to focus on the development of students' skills in international work and diversity.
【Learning Objectives】The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and practical skills on international cooperation and development in Asia compared to Japan.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ｉでは年間を通じて、次年度以降の研究の土台をつくるため、現場の人びとの実践に学ぶ方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指している。

【到達目標】
地域社会が抱える地域づくりや地域ツーリズムの諸課題に対して、現場に暮らす生活者の立場に立って問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を提示することができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、土台づくりのために方法論のマスターに重きを置くが、議論の題材として” アクアツーリズム” と呼ばれる地域の水辺空間で展開される新しい地域ツーリズムの実践をとりあげる。アクアツーリズムにおける現場の実践に学びながら、ひとつの研究テーマを設定し、問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方とスケジュール、目標設定
第 2 回	調査結果の報告（1）	プレゼンテーションの作法
第 3 回	調査結果の報告（2）	調査結果についての討議
第 4 回	先行研究の再検討（1）	調査結果を踏まえて先行研究を見直す
第 5 回	先行研究の再検討（2）	調査結果を踏まえて分析視角を見直す
第 6 回	フィールドワーク（1）	追加のデータを収集する①
第 7 回	フィールドワーク（2）	追加のデータを収集する②
第 8 回	データの解釈・分析（1）	追加調査で得られたデータを解釈する
第 9 回	データの解釈・分析（2）	追加調査で得られたデータを分析する
第 10 回	結論の検討（1）	調査によって導き出された結論について検討・討議する①
第 11 回	結論の検討（2）	調査によって導き出された結論について検討・討議する②
第 12 回	論文執筆の作法と構成	研究結果を論文にまとめる
第 13 回	プレゼンテーション	研究結果について発表する
第 14 回	2 年次ゼミの総括	総括と 3 年次ゼミの計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、フィールドワークの準備、レジュメの作成・発表の準備などの事前学習は不可欠である。調査の状況によっては授業時間外でのフィールドワークが必要な場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心を考慮し、適宜アナウンスする。

【参考書】
参考書や関連論文は適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果や学生からの声は適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的なフィールドワークを通じて、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
グループワークにより、まちづくり（地域づくり）のフィールドワークの準備と実施、報告まで一貫して行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 回　活動報告	夏休みのフィールドワークの概要報告
第 2 回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果の整理①
第 3 回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の整理②と発表
第 4 回	今後の活動課題①	秋のフィールドワークに向けての課題の検討①
第 5 回	今後の活動課題②	秋のフィールドワークに向けての課題の検討②
第 6 回	活動プログラム立案①	秋のフィールドワーク行動計画①
第 7 回	活動プログラム立案②	秋のフィールドワーク行動計画②
第 8 回	フィールドワーク実施①	現地での活動①第一次調査
第 9 回	フィールドワーク実施②	現地での活動②第二次調査
第 10 回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果のデータ整理
第 11 回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の図表作成
第 12 回	報告書作成①	活動報告書のとりまとめ
第 13 回	報告書作成②	活動報告書の校正
第 14 回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールドワークの準備と実施、報告書作成など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習時間での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Acquire the ability to understand the factors necessary for community development (community development) through practical fieldwork.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習１Ａでの「若者の視点から福祉社会の未来をデザインする」とのテーマのもと、国内外の社会保障や社会福祉に関する研究で得た知見をもとに、日本における地域の生活課題を対象にグループでテーマを設定し、関連する文献やデータの読了や分析、フィールドワーク等により、論議を深め、研究を行う。問題に対して、自ら考える課題認識や、実際の現場をとおして課題を明らかにし、議論する力、また人前で発表する基礎的な力を養う。

【到達目標】
具体的な地域の福祉問題に関して発見し、探求することができる。
テーマについてグループで議論し、自ら活発に発言できる。
専門的な文献やデータを収集し、読解することができる。
人前で、研究の内容や結果を発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
文献の渉猟や研究方法、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、グループによる主体的な研究や報告が主となる。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	後期の進め方、スケジュール等
第 2 回	研究テーマの設定	グループ討議①（研究の対象と目的の明確化）
第 3 回	研究テーマの設定	グループ討議②（具体的なデータ収集法法）
第 4 回	研究テーマについての報告	研究テーマの背景や意義についての報告と討議①
第 5 回	グループ研究	グループ報告に向けての討議と準備
第 6 回	グループ報告Ⅰ①	グループ研究の中間報告と討議（研究の目的と背景）
第 7 回	グループ報告Ⅰ②	グループ研究の中間報告と討議②（研究方法）
第 8 回	グループ報告Ⅰ③	グループ研究の中間報告と討議③（データの分析）
第 9 回	グループ研究	グループ報告に向けた討議と準備①
第 10 回	グループ報告Ⅱ①	グループ研究の中間報告と討議①（研究の背景と目的）
第 11 回	グループ報告Ⅱ②	グループ研究の中間報告と討議②（データの分析）
第 12 回	グループ報告Ⅱ③	グループ研究の中間報告と討議③（考察）
第 13 回	グループ研究	最終のグループ報告に向けた討議と準備
第 14 回	合同研究報告会	最終のグループ研究の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各小グループによって研修テーマを設定し、文献やデータの分析やフィールドワーク
などを行い研究を進るので、時間内だけで足りない場合等は、時間外にサブゼミを行ない研究を進める。
準備・復習時間は４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に研究を進め、より活発に相互に論議できるような工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼンテーションの際のパソコン等の準備

【その他の重要事項】
オフィスアワー月曜日３時限
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することする。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
Ｓ ubject explore the setting theme to the future of the welfare society from the viewpoint of the youth,and by the fieldwork and so on it deepens a discussion and it dose a research,it cultivates the skills to discuss and basic presentation through these.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to have completed assignments after each supervision,
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy)】
Grading will be decided on research paper(40 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(60 %）

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

【到達目標】
認知行動療法の全体像を把握し、その中から、自らの関心があるテーマを調べ、理解を深められるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
認知行動療法に関連するテーマの中から、自らの関心があるテーマについて、個人発表をしてもらい、それを題材にして、ディスカッションを行っていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方について話し合います。
第 2 回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の目的について概説します。
第 3 回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の意義について概説します。
第 4 回	認知行動療法の理論と技法1	認知行動療法の理論と技法について解説し、ディスカッションを行います。
第 5 回	認知行動療法の理論と技法2	認知行動療法の理論と技法について、ディスカッションします。
第 6 回	認知行動療法の理論と技法3	認知行動療法の理論と技法の課題を、ディスカッションします。
第 7 回	認知行動療法の理論に関する個人発表1	認知行動療法の理論（主にレスポンデント条件づけ）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第 8 回	認知行動療法の理論に関する個人発表2	認知行動療法の理論（主にオペラント条件づけ）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、研究法を個人発表してもらいます。
第 9 回	認知行動療法の理論に関する個人発表3	認知行動療法の理論（主に情報処理理論）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。その発表を踏まえて、ディスカッションを行います。
第 10 回	認知行動療法の理論に関する個人発表4	認知行動療法の理論（主にマインドフルネス）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらい、ディスカッションを行います。
第 11 回	認知行動療法の技法に関する個人発表1	認知行動療法の技法（主に行動療法系）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究を個人発表してもらいます。
第 12 回	認知行動療法の技法に関する個人発表2	認知行動療法の技法（主に認知療法系）に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、研究法を個人発表してもらいます。
第 13 回	認知行動療法の技法に関する個人発表3	第三世代の認知行動療法に関連するテーマの中で、各自が関心あるテーマについて、先行研究や研究法等を個人発表してもらいます。その発表を踏まえて、ディスカッションを行います。
第 14 回	まとめ	秋学期のゼミを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容（40%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
体験的学習の機会を取り入れていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
This seminar focuses on issues affecting mental health from the viewpoint of cognitive behavior therapy. The seminar provides opportunities to acquire knowledge and methods for cognitive behavior therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や援助について報告や議論を行い、ゼミ論にまとめます。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、グループ学習を通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学のトピックをグループでゼミ論にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
2	オリエンテーション②	グループ分けと、ゼミ長他の役割を決めます
3	小グループ、研究内容の決定	各グループで取り組む内容を決定します
4	小グループによる研究発表とディスカッション①	各グループによる研究テーマと進行予定の発表
5	小グループによる研究発表とディスカッション②	例：グループ A、グループ B の発表
6	小グループによる研究発表とディスカッション③	例：グループ C、グループ D の発表
7	小グループによる研究発表とディスカッション④	例：グループ E、グループ A の発表
8	小グループによる研究発表とディスカッション⑤	例：グループ B、グループ C の発表
9	小グループによる研究発表とディスカッション⑥	例：グループ D、グループ E の発表
10	小グループによる研究発表とディスカッション⑦	例：グループ A の発表
11	小グループによる研究発表とディスカッション⑧	例：グループ B の発表
12	小グループによる研究発表とディスカッション⑨	例：グループ C の発表
13	小グループによる研究発表とディスカッション⑩	例：グループ D の発表
14	小グループによる研究発表とディスカッション⑪、まとめ	例：グループ E の発表、授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで協力し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表内容を事前に検討してもらいます。また各グループでゼミ論文を執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、ゼミ論文（60 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through discussion and exercise.
The goals of this course are to acquire basic knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report (seminar report) (60%), and in-class contribution (40%).

OTR200JB,OTR200JC

専門演習ＩＢ

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**選考で合格したクラスを登録すること。専門演習ＩＡ・ＩＢの両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習ＩＡで学んだことを基礎として、乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常を学習する。現代を生きる社会人の常識としての発達心理学と臨床心理学、あるいは児童精神医学の知識を身につけ、健康な社会人としての自分自身の発達に生かすことを目的とする。

【到達目標】
乳幼児期から初期成人期に至る精神発達の正常と異常に関連した、関心のあるテーマについて調べ理解を深める。またそのテーマについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が関心のあるテーマを設定し文献を収集し、発表とディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	進行についての提案ないし希望があれば、それについてゼミ全体で検討する。
第 2 回	文献検索①	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第 3 回	文献検索②	関心のあるテーマに関連した研究論文または著作を選択して決定する。
第 4 回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う①。
第 5 回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う②。
第 6 回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う③。
第 7 回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う④。
第 8 回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑤。
第 9 回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑥。
第 10 回	発表⑦	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑦。
第 11 回	発表⑧	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑧。
第 12 回	発表⑨	レジメを配布して発表、ディスカッションを行う⑨。
第 13 回	まとめ①	各発表を振り返り、印象に残った発表や新しい理解についてディスカッションを行う。
第 14 回	まとめ②	来年度春学期のゼミの内容と進行について意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマについて調べ、レジメを作成し、発表の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. We will also learn about developmental psychology, clinical psychology, and child psychiatry with the goal of nurturing a healthy member of society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60%　presentation : 40%.

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡA

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除に関わる現状とそれへの対応や課題について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景と問題を批判的に検討し、社会問題としての生活問題を科学的に理解することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求し、レポート報告にまとめる。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインもしくはハイブリッド型での開講となる。フィールドワーク・調査は、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第 2 回	グループ面接	専門演習Ⅰ・Ⅲとの合同面接
第 3 回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第 4 回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第 5 回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査報告書
第 6 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献および論文
第 7 回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究のまとめ
第 8 回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②フィールドワーク先とテーマの検討
第 9 回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワーク先の具体的検討
第 10 回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワークの計画作成
第 11 回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況についての意見交換
第 12 回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第 13 回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第 14 回	まとめ	グループ毎に春学期の報告とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じてテキストを使用する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．レポート (30%)
2．研究発表 (40%)
3．演習への能動的参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。

医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with the reality of social exclusion. At the end of the course, students are expected to understand the various aspects of social exclusion in Japan and find critical thinking. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第 2 回	先行研究の検討 1	先行研究を検討する 1
第 3 回	先行研究の検討 2	先行研究を検討する 2
第 4 回	先行研究の検討 3	先行研究を検討する 3
第 5 回	先行事例の検討 1	研究テーマに関連する先行事例を検討する 1
第 6 回	先行事例の検討 2	研究テーマに関連する先行事例を検討する 2
第 7 回	先行事例の検討 3	研究テーマに関連する先行事例を検討する 3
第 8 回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第 9 回	予備調査の設計 1	予備調査先を選定する
第 10 回	予備調査の設計 2	予備調査の調査内容を設計する
第 11 回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第 12 回	予備調査結果の検討 1	予備調査の結果を文字化する
第 13 回	予備調査結果の検討 2	予備調査の結果を解釈し、分析する
第 14 回	予備調査結果の検討 3	研究仮説の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのか、また、その子どもと家族への援助、教育について考察を深める。

【到達目標】
・社会経済的に弱い立場にある子どもと家族の現状を理解する。
・社会的弱者の視点から、社会問題を考察する。
・社会福祉としての援助を、他の専門職との関連で検討する。
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・子どもと家族の背景としての「現代の貧困問題」、対象としての「子どもと家族」、「青少年・非行問題」、「ジェンダーと女性福祉」、さらに援助・教育の場としての「学校と教育問題」、「社会的養護問題」に関する基礎的文献を読み進めていく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。
・本年度は、親子関係に関する文献をテキストとして学びを深める。テキストの輪読は、順番で司会進行を担当すると同時に、司会以外のゼミ生も事前にテキストを読み、全員が論点を書き出したペーパーを用意して討論を進めていく。
・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキストの紹介、ゼミの進め方について
第 2 回	「毒になる親」とはどんな親か	「神様」のような親
第 3 回	義務を果たさない親	必要なものを与えられないために受ける傷
第 4 回	コントロールばかりする親	アイデンティティの分離ができない
第 5 回	子どもと家族の現場 1	児童養護施設見学
第 6 回	アルコール中毒の親	なぜ同じことばかりくり返すのか
第 7 回	残酷な言葉で傷つける親	親の言葉は内面化する
第 8 回	暴力を振るう親	「この親にしてこの子あり」は正しいのか
第 9 回	性的な行為をする親	被害者こそ、家族の中で最も心が健康な人
第 10 回	子どもと家族の現場 2	児童自立支援施設見学
第 11 回	「毒になる親」はなぜこのような行動をするのか	「毒になる親」は、自分の危機にどう反応するか
第 12 回	「毒になる親」から人生を取り戻す道①	私は何者か、独立への道
第 13 回	「毒になる親」から人生を取り戻す道②	セラピーの実際、「毒になる親」にならないために
第 14 回	まとめ：文献を通してのディスカッション	「愛情」とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読み、論点を書き出したペーパーを用意すること。本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
スーザン・フォワード、玉置悟訳（2021）『毒になる親〔完全版〕』毎日新聞出版
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this seminar, we will examine social issues related to poverty. Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における連鎖的変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究を進めるために必要な研究方法を学び、研究テーマを決める。

【到達目標】
・ソーシャルワークの研究方法を理解できる。
・卒業研究のテーマを決めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワーク研究に関する講義にもとづき、各自が自分の研究テーマ等について検討する。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	活動のための関係構築	研究に向けた関係構築
第 3 回	ソーシャルワーク研究について	ソーシャルワーク研究の概要 論文の構成
第 4 回	研究テーマの設定	リサーチクエスチョンの検討方法
第 5 回	先行研究のレビュー	リサーチクエスチョンに関する先行研究のレビューの方法
第 6 回	研究の目的	研究目的の明確化
第 7 回	質的研究①	インタビュー調査方法
第 8 回	質的研究②	質的データ分析方法
第 9 回	量的研究	アンケート調査方法
第 10 回	研究テーマの検討	研究グループの決定
第 11 回	卒業研究の研究課題	リサーチクエスチョンの検討
第 12 回	卒業研究のテーマに関する先行研究	先行研究のレビュー
第 13 回	卒業研究の目的	研究目的の決定
第 14 回	卒業研究の中間報告	４年生の卒業研究の中間報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。
本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・研究計画 40%

【学生の意見等からの気づき】
３年生と４年生の交流の機会を設定し、ともに学びを高め会えるようにしている。

【Outline (in English)】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. The aim of this course is to learn the research methods necessary to proceed with graduation research and decide on a research theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on research plan(40%) and in-class contribution (60%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱ A のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。学内での学習にとどまらず、積極的に当事者やその家族とかかわり、当事者のもつ力と専門職の関係性について理解を深めていく。

【到達目標】
専門演習Ⅰ A/B で学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。ゼミの活動では当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験し、それをもとに議論や課題学習を実施していただきます。その他に、当事者団体との研究会やイベントの企画などを展開していく予定です。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
※各回の授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定に関する話し合い
3	グループ活動と全体討議	研究フィールドの内容に関する討議
4	文献検索の方法フィールドワークのための学習①	講義
5	フィールドワークのための学習②	全体討議と先行研究の整理
6	フィールドワークのための学習③	全体とグループ学習テーマごとのグループ発表
7	プレゼンテーション	学習テーマに基づいたグループ発表
8	プレゼンテーションと討議	学習テーマに基づいた発表を受けての討議
9	プレゼンテーションと全体討議	学習テーマに基づいた発表の総括
10	グループによる研究内容の整理	グループごとの話し合い
11	グループによる課題検討	グループごとの話し合いと全体討議
12	グループによる活動テーマの発表	グループごとの発表
13	ゼミ活動報告	活動内容の報告
14	まとめ	春学期の総括と秋学期に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。
①久保紘章・石川到覚編（1998）『セルフヘルプグループの理論と　展開』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】
講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講姿勢 (50%), 発表内容・提出物 (50%)、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを応用していく。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
前年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を深めるアプローチを中心とする。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、海外関係者とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	1 次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	1 次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	卒業論文を書く前に①	現場活動の方向性を検討
第 5 回	卒業論文を書く前に②	現場活動の文献・資料レビュー
第 6 回	卒業論文を書く前に③	骨子案を作成
第 7 回	2 次自主企画準備①	現場活動の時期や準備を検討
第 8 回	2 次自主企画準備②	現場活動の時期や準備を可視化
第 9 回	2 次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第 10 回	2 次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第 11 回	企画の学び合い	学年を超えて意見交換
第 12 回	2 次自主企画骨子③	現場活動の時期や準備修正
第 13 回	4 年生卒論中間発表	様々な研究課題の深め方
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course aims to associate with other experts and practitioners in society and gain practical and professional skills at the basic level from the international perspective.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to get experience in working with international stakeholders, especially in Asia.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡA

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

【到達目標】
環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、複数の研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第 2 回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第 3 回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第 4 回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第 5 回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第 6 回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第 7 回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第 8 回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第 9 回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第 10 回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第 11 回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第 12 回	調査レポートの作成（1）	知見と意義を検討する
第 13 回	調査レポートの作成（2）	限界と課題を検討する
第 14 回	調査レポートの発表	研究結果の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、調査レポートの作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）と調査レポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。
関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第 2 回	政策提言のテーマ設定①	関心のあるテーマの共有
第 3 回	政策提言のテーマ設定②	テーマごとにグループ結成
第 4 回	フィールドワーク計画①	活動フィールドの選定
第 5 回	フィールドワーク計画②	活動フィールドの決定
第 6 回	フィールドワーク計画③	現地での調査計画①予備調査
第 7 回	フィールドワーク計画④	現地での調査計画②本調査
第 8 回	フィールドワークの実施①	現地調査の実施①予備調査
第 9 回	フィールドワークの実施②	現地調査の実施②本調査
第 10 回	政策提言とりまとめ①	調査結果データのとりまとめ
第 11 回	政策提言とりまとめ②	調査結果の図表とりまとめ
第 12 回	政策提言とりまとめ③	政策提言申請書類作成①
第 13 回	政策提言とりまとめ④	政策提言申請書類作成②
第 14 回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
While deepening interest in practical efforts, motivate local residents to research independent community development.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ A

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
２年次ゼミでの学習をもとに、さらに基礎的な研究能力を高めることを目標とする。報告におけるプレゼンテーション能力や積極的に実践にかかわり、分析する能力を高めることも目標とする。また、自らの卒業研究のテーマと研究方法を明確にし、関連する文献やデータを探索し、分析を行う。

【到達目標】
研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自ら文献を探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。卒業研究における論文の作成方法やフィールドワークにおけるインタビューの方法などについて講義を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマ設定の方法
第 2 回	研究の方法について	講義による理解
第 3 回	仮テーマの報告	報告と指導
第 4 回	先行研究のレビュー	講義による理解
第 5 回	研究報告①	報告と討議①（研究テーマ）
第 6 回	研究報告②	報告と討議②（研究の目的）
第 7 回	研究報告③	報告と討議③（先行研究のレビュー）
第 8 回	研究報告④	報告と討議④（研究の方法）
第 9 回	グループ研究のテーマ設定	テーマに関する討議①
第 10 回	研究報告⑤	報告と討議①（研究の目的）
第 11 回	研究報告⑥	報告と討議②（研究の対象）
第 12 回	研究報告⑦	報告と討議③（A先行研究のレビュー）
第 13 回	研究報告⑧	報告と討議④（研究方法について）
第 14 回	研究報告⑨、前期のまとめ	報告と討議⑤ 前期の振り返りと後期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに関する文献やデータの収集、研究段階ごとのレポートの作成
準備・復習時間は４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
適宜指示する。また、研究テーマに応じて、自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きゼミ生の積極性を高めるための改善を図ることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline (in English)】
This seminar is the purpose of improving basic research capability and the skill of presentation,and it sets the theme the reseach paper,it searches the
related paper and data.

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡA

永田　真吾

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡB の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めます。

【到達目標】
臨床心理学および発達臨床心理学領域における基礎的な知識を習得するとともに、これらの領域の専門論文および報告を読みこなし、レポートを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
発達の理解とその心理的援助について学習します。専門演習ⅡA では、各自の興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 1	演習の進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	オリエンテーション 2	関心のあるテーマの探索と整理，発表スケジュールの決定
第 3 回	文献購読とディスカッション 1	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 1，文献検索の方法
第 4 回	文献購読とディスカッション 2	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 2，文献の整理方法
第 5 回	文献購読とディスカッション 3	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 3，文献内容の検討方法
第 6 回	文献購読とディスカッション 4	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 4，文献レビューの方法
第 7 回	文献購読とディスカッション 5	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 5，研究倫理について
第 8 回	文献購読とディスカッション 6	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 6，データ収集の方法①
第 9 回	文献購読とディスカッション 7	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 7，データ収集の方法②
第 10 回	文献購読とディスカッション 8	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 8，データ分析の方法①
第 11 回	文献購読とディスカッション 9	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 9，データ分析の方法②
第 12 回	文献購読とディスカッション 10	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 10，これまで購読した文献の整理・統合
第 13 回	文献購読とディスカッション 11	各自が収集した論文に関する講読とディスカッション 11，関心あるテーマをさらに深める
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理学領域における専門論文が購読の中心となるため、内容を十分に理解するために、当該領域に関する基本的知見を学習しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。コミュニケーションを取りながら，適宜改善していきます。

【Outline (in English)】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society. At the end of the course, Students will be expected to review and critique professional literature or report about Clinical Psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40 %), and in-class contribution(60 %).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡA

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用し、その改善を図るアプローチです。

【到達目標】
専門演習 II の到達目標は、卒業研究に向けて、認知行動療法に関する研究論文を読み、心理学の研究法について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 IIA では、自らの関心があるテーマについて、認知行動療法に関する研究論文を探し、個人発表をしてもらいます。発表を元に、心理学の研究法や認知行動療法の理論について学んでいきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	認知行動療法における研究の位置づけ 1	認知行動療法における研究の位置づけについて概説します。
第 3 回	認知行動療法における研究の位置づけ 2	認知行動療法における研究の特徴について概説し、ディスカッションを行います。
第 4 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法 (主に行動療法) に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。
第 5 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法）に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。
第 6 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 3	各自が関心あるテーマについて認知行動療法（主にマインドフルネス）に関する研究の問題意識を個人発表してもらい、解説やディスカッションを行います。
第 7 回	認知行動療法に関する研究の問題意識の個人発表とディスカッション 4	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究の問題意識を個人発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションします。
第 8 回	認知行動療法の技法に関するグループ体験 1	第一世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第 9 回	認知行動療法の技法に関するグループ体験 2	第二世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第 10 回	認知行動療法の技法に関するグループ体験 3	第三世代の認知行動療法の技法について、グループで発表をした上で、実際に体験をする。
第 11 回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション 1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に行動療法）に関する研究方法を個人発表してもらいます。
第 12 回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション 2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法）に関する研究方法を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 13 回	認知行動療法に関する研究方法の個人発表とディスカッション 3	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究方法を個人発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第 14 回	まとめ	春学期のゼミを振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習では、発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（40%）と発表内容（60%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
グループで行う作業も取り入れていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. The course guides students through specific psychological research examples and exercises for researching. Students are required to make topic presentations about research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡA

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡB の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキルを共有し、ゼミ論文にまとめる準備をします。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめる準備をします。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方や成績評価の基準を示し、また、ゼミ長他、ゼミでの役割を決定します
2	個人テーマの選定①	各自の研究テーマを決めるためのブレーンストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	各自の研究テーマを決めるためのディスカッションを行います
4	研究テーマと発表スケジュールの決定	各自の研究テーマを決定し、ゼミでの発表のスケジュールを決めます
5	個人報告とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～C 発表。
6	個人報告とディスカッション②	例：ゼミ生 D～F の発表
7	個人報告とディスカッション③	例：ゼミ生 G～I の発表
8	個人報告とディスカッション④	例：ゼミ生 J～L の発表
9	個人報告とディスカッション⑤	例：ゼミ生 M～O の発表
10	個人報告とディスカッション⑥	例：ゼミ生 A～C 発表。
11	個人報告とディスカッション⑦	例：ゼミ生 D～F の発表
12	個人報告とディスカッション⑧	例：ゼミ生 G～I の発表
13	個人報告とディスカッション⑨	例：ゼミ生 J～L の発表
14	個人報告とディスカッション⑩、まとめ	例：ゼミ生 M～O の発表、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（個人報告の内容 50 %、授業への参加度 50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
The goals of this course are to acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡA

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡB の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。自分の関心のあるテーマを明確にし、そのテーマについて理解を深める。

【到達目標】
自分の関心のあるテーマを決め、そのテーマに関連する文献を探すことができる。文献を読み込み、発表、ディスカッションができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習Ⅰで学んだことを振り返る。各自が関心のある幾つかのテーマについて、関心のある点、調べてみたいことなどを具体的に報告しあう。そして自分の関心のあるテーマを選定する。そのテーマについて文献を調べ発表、ディスカッションを行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの選定①	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第 3 回	テーマの選定②	演習Ⅰの発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第 4 回	文献検索①	専門書や文献検索方法を図書館で学ぶ
第 5 回	文献検索②	テーマに関する文献を探す
第 6 回	文献抄読会①	各自が興味のある文献を読み紹介する①
第 7 回	文献抄読会②	各自が興味のある文献を読み紹介する②
第 8 回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第 9 回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第 10 回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第 11 回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第 12 回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第 13 回	発表⑥	レジメを配布して発表、ディスカッション⑥
第 14 回	まとめ	春学期の学習内容を振り返りディスカッションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will then specify a particular theme and deepen our understanding of that theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除に関わる現状の社会的対応および援助の実際について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景とおよび問題を明らかにし、フィールドワークと省察を繰り返し、求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の研究結果を基盤としながら、グループの研究関心に基づいてさらに深め、ゼミでの質疑応答を反映させながら 4 年次の研究へとつなげることをめざす。対面式を基本としつつ、状況によりオンラインもしくはハイブリッド型での開講となる。フィールドワークは、状況に応じてオンライン上で実施することもある。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの計画	フィールドワーク先の確認・進行計画の検討・作成
第 3 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する①（現場の状況について）
第 4 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する②（支援方法について）
第 5 回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する③（課題の達成状況について）
第 6 回	グループ活動①	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する①（研究テーマとの関係と方法について）
第 7 回	グループ活動②	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する②（現場の現状と課題について）
第 8 回	グループ活動③	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する③（これからの課題・活動の方向性について）
第 9 回	報告書の作成①	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する①（構成・目次について）
第 10 回	報告書の作成②	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する②（理論的検討のまとめ）
第 11 回	報告書の作成③	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する③（実践結果のまとめ）
第 12 回	報告書の作成④	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する④（校正作業）
第 13 回	報告書の発表	グループ毎に報告書をもとに発表する
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．レポート (30%)
2．研究発表 (40%)
3．演習への能動的参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deals with supporting people who have been in socially isolated situation. At the end of the course, students are expected to get knowledge about social supports with people who socially isolated. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉にかかわるテーマをとりあげ基本的な研究スキルを身につける

【到達目標】
論理的な議論の仕方や論文作成能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別にテーマを設定し、ゼミでの討議を踏まえて調査・検討を進めます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別テーマの選定	関心のあるテーマを選定する
第 2 回	先行研究の検討 1	先行研究を検討する 1
第 3 回	先行研究の検討 2	先行研究を検討する 2
第 4 回	先行研究の検討 3	先行研究を検討する 3
第 5 回	先行事例の検討 1	研究テーマに関連する先行事例を検討する 1
第 6 回	先行事例の検討 2	研究テーマに関連する先行事例を検討する 2
第 7 回	先行事例の検討 3	研究テーマに関連する先行事例を検討する 3
第 8 回	研究仮説の構築	先行研究と先行事例の検討から研究仮説を構築する
第 9 回	予備調査の設計 1	予備調査先を選定する
第 10 回	予備調査の設計 2	予備調査の調査内容を設計する
第 11 回	予備調査の実施	予備調査を実施する
第 12 回	予備調査結果の検討 1	予備調査の結果を文字化する
第 13 回	予備調査結果の検討 2	予備調査の結果を解釈し、分析する
第 14 回	予備調査結果の検討 3	研究仮説の再検討を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミにおいて指導を受けた内容を、調査研究し、次回までに報告する。
必要に応じて、フィールド調査を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Study social welfare themes and master basic research skills.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、社会経済的な困難をもつ子どもと家族が、子どもの発達段階に即して、どのような不利益を負っているのかについて、また、その子どもと家族への援助や教育について考察を深める。これらの問題関心から、各自の問題関心を明らかにしていく。

【到達目標】
・文献やデータの読み方、およびレポートや論文の書き方についての基礎的なスキルを身につける。
・来年度作成の卒業論文に向けて、各自のテーマの絞り込みと研究方法について検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・各自の問題関心を明確にし、それぞれ課題を設定して発表し、互いに検討していく。
・授業の最後に、課題についての講評を行いフィードバックしてく。
・子どもと家族の支援にかかわるゲストスピーカーや実践現場の見学から、支援の現状についての学びを得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	夏休みの課題発表、ゼミの進め方について
第 2 回	論文の書き方１	論文とは何か
第 3 回	論文の書き方２	各自の関心テーマを論文にするには
第 4 回	論文の書き方３	論文を書くための約束事
第 5 回	子どもと家族の現場１	ゲストスピーカー（ゼミの先輩の現場）からの学び
第 6 回	発表１－１	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最初の３～４名）
第 7 回	発表１－２	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で次の３～４名）
第 8 回	発表１－３	卒業論文に向けての構想発表（学籍番号順で最後の３～４名）
第 9 回	子どもと家族の現場２	裁判所見学
第 10 回	発表２－１	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最初の２～３名）
第 11 回	発表２－２	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の２～３名）
第 12 回	発表２－３	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で次の２～３名）
第 13 回	発表２－４	卒業論文における関心テーマと課題の設定・方法についての発表（学籍番号順で最後の２～３名）
第 14 回	まとめ	全体の振り返り、来年度の卒業論文作成に向けての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介された文献を読み進めること。テキストも参考にしながら来年度の卒業論文に向けて、論文テーマを検討し、必要な資料・参考文献を集めて読み進めること。
発表では、レジメやパワポを作成して発表すること。
本授業の準備・復習時間は各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・日本子どもを守る会編（2023）『子ども白書 2023』かもがわ出版
・白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方 [第 2 版]』ミネルヴァ書房
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方　第４版』慶応義塾大学出版会
その他のテキストについては、授業内で指定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習における発表・レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This seminar focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的に不利な立場におかれている人びとのウェルビーイングの実現を目的に、抑圧や無視されている当事者の声を社会に届け、組織、地域、政策等における変化をどのように起こすのかについて、ソーシャルワークの観点から検討する。卒業研究の計画を立て、できるところから研究を進める。

【到達目標】
・卒業研究の計画を立てる。
・卒業研究を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業研究を進めるための準備を全体のディスカッションを通して行いながら、研究を始める。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、個別面談等はオンラインにて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	研究方法の検討①	研究の枠組みと調査方法の検討
第 3 回	研究方法の検討②	データ収集方法の検討
第 4 回	倫理的配慮の理解	研究における倫理的配慮
第 5 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成完成
第 6 回	研究計画の発表	研究計画の発表と再検討
第 7 回	データ収集の準備①	アンケート調査項目の検討
第 8 回	データ収集の準備②	プレアンケート調査の実施
第 9 回	データ収集の準備③	インタビュー調査項目の検討
第 10 回	データ収集の準備④	インタビュー調査の練習
第 11 回	卒業研究の発表①	卒業研究の進捗の共有
第 12 回	卒業研究の発表②	研究計画の修正
第 13 回	卒論発表会	４年生の卒業論文の発表
第 14 回	総括	振り返りとまとめ 個別面談

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自が卒業研究を進めるために、各時間の課題に関する準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。また、日頃から社会問題等に興味を持ち、講演会やボランティア等に参加することを期待する。本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由 (2018)「三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点 60%
・研究計画 40%

【学生の意見等からの気づき】
４年生の卒業研究の報告から学べる機会を設けている。

【Outline (in English)】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to achieve institutional change to meet a need, solve a social problem, and correct injustices as a social worker. The aim of this course is to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Grading will be decided based on research plan (40%) and in-class contribution (60%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱ B のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。研究会や当事者活動とのかかわりを通して、グループごとのディスカッション、プレゼンテーションを実施し、当事者支援とは何かを考究するとともに、プレゼンテーションスキルの向上についても意識していきます。さらには、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

【到達目標】
専門演習Ⅱ A で学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。1 年を通して、当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験してもらいます。今年度は、研究会への参画などを通して、グループ活動を活発化させていきます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。※授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定と討議
3	文献検索方法	講義
4	フィールドワークのための学習	全体討議と先行研究の整理
5	フィールドワークのための講義と話し合い	全体討議とグループ学習
6	プレゼンテーション	グループごとの発表
7	プレゼンテーションと質疑応答	グループごとの発表と全体討議
8	研究成果と全体討議	フィールドワークに向けた研究成果のまとめ
9	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と話し合い
10	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と討議
11	グループ活動報告	グループごとの話し合い
12	全体討議	全体討議と課題抽出
13	個人報告	個人による活動報告
14	まとめ	1 年間の総括と次年度に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。
①久保紘章・石川到覚編（1998）『セルフヘルプグループの理論と　展開』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】
講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
受講姿勢 (50%), 発表内容・提出物 (50%)、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to understand the collaboration between social workers and their parties and families.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】：Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Your overall grade in the class will be decided based on the following
reports : 50%、in class contribution: 50%

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを応用していく。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解を深める。動画による発信力が向上する。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・実践スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期のゼミ活動をさらに発展させ、個々の関心事項を卒業研究論文に関連づけていくプロセスとする。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施し、海外関係者とのやり取りなどオンラインの強みを活かしつつアレンジを進める。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	2 次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	2 次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第 5 回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第 6 回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第 7 回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第 8 回	フィールド調査①	個別フィールドワークの計画
第 9 回	フィールド調査②	個別フィールドワークの実施
第 10 回	フィールド調査③	個別フィールドワークのレビュー
第 11 回	3 次自主企画準備①	卒業論文の検討①
第 12 回	3 次自主企画準備②	卒業論文の検討②
第 13 回	3 次自主企画準備③	卒業論文の検討③
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course aims to further associate with other experts and practitioners in society and gain practical and professional skills at the basic level from the international perspective.
【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to get more experience in working with international stakeholders, especially in Asia.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を考えることを目的としている。専門演習Ⅱでは次年度からの卒業研究へ向けて、現場の人びとの価値観や地域社会の志向性や創造性を捉える方法論とフィールドワークの技法をマスターすることを目指す。

【到達目標】
環境社会学・地域社会学の方法論を用いて、地域社会が抱える地域問題の本質を見極め、問題解決につながる有効性のある政策論を構想する力を身につけること。各自が卒業研究に向けた構想をまとめ、研究計画書を作成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、各自が卒業研究に向けた研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータからひとつの結論を導き出すという一連の研究手法を体験する。議論の題材やテーマは受講生の関心を考慮して若干の変更はありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方と目標の設定
第 2 回	問いをつくる	問題関心とテーマの検討
第 3 回	文献調査（1）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第 4 回	文献調査（2）	先行研究の批判的検討
第 5 回	調査の準備（1）	対象の設定と調査手法の検討
第 6 回	調査の準備（2）	理論仮説と作業仮説を立てる
第 7 回	フィールドワーク（1）	資料収集と聞き取り調査
第 8 回	フィールドワーク（2）	聞き取り調査とデータの整理
第 9 回	フィールドワーク（3）	調査のまとめ
第 10 回	調査データの分析と解釈（1）	データを分析する
第 11 回	調査データの分析と解釈（2）	仮説を検証する
第 12 回	研究計画書の構想と作成（1）	知見と意義を検討する
第 13 回	研究計画書の構想と作成（2）	限界と課題を検討する
第 14 回	研究計画書の発表	研究結果の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、研究計画書の作成、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習は不可欠である。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレポートや研究計画書などの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】
受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。
関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	活動課題の検討	第 1 次予選で指摘された課題の整理
第 2 回	フィールドワーク計画①	補足調査の計画①
第 3 回	フィールドワーク計画②	補足調査の計画②
第 4 回	フィールドワークの実施①	補足調査の実施①
第 5 回	フィールドワークの実施②	補足調査の実施②
第 6 回	フィールドワーク成果①	現地調査結果データのとりまとめ
第 7 回	フィールドワーク成果②	現地調査結果の図表とりまとめ
第 8 回	政策提言の補足修正①	発表原稿作成①
第 9 回	政策提言の補足修正②	発表原稿作成②
第 10 回	発表練習	発表原稿の確認
第 11 回	活動とりまとめ①	報告書作成①目次構成
第 12 回	活動とりまとめ②	報告書作成②各章作成
第 13 回	活動とりまとめ③	報告書作成③考察作成
第 14 回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire how do local residents and NPOs perceive local issues, form organizations, secure financial resources, and collaborate with the administrative sector.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
While deepening interest in practical efforts, motivate local residents to research independent community development.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習をもとに、グループ研究をさらに進展させ、ゼミ報告会にて報告する。
卒業研究の準備を進め、研究テーマを明確化するとともに、先行研究のレビューや関連するデータを収集し、分析する。また、適切な研究方法について検討する。

【到達目標】
研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し、論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
自ら文献や関連するデータを探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。ゼミと合同で研究報告会を行う。秋学期はオンラインまたは対面での開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋期授業の流れ
第 2 回	フィールドワークの方法、インタビューについて	講義による理解
第 3 回	事例分析について	事例による理解
第 4 回	研究報告①	報告と討議①
第 5 回	研究報告②	報告と討議②
第 6 回	研究報告③	報告と討議③
第 7 回	研究報告④	報告と討議④
第 8 回	グループ報告①	グループ報告と討議①
第 9 回	グループ報告②	グループ報告と討議②
第 10 回	合同ゼミ・卒論報告会	卒論報告会への参加
第 11 回	研究報告⑤	先行研究のレビュー
第 12 回	研究報告⑥	研究方法について
第 13 回	研究報告会に向けて	研究報告の準備
第 14 回	合同ゼミ・研究報告会	公開研究会における研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究テーマに関する先行研究、関連するデータの収集・分析を行う。
研究の段階ごとにレポートを課す。
準備・復習時間は、４時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない

【参考書】
適宜指示する、自らの天球テーマに関する文献等を探索すること。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見を参考に、より学生が積極性を高め、充実したゼミとなるよう図る。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline)】
It proceeds with the research by the group and it dose the presentation of the research.Also,it collects a data about the own research subject and it proceeds with the analysis.
【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course are to A and B
A. Students can search of the necessary article and data.
B. Students can makes sentences as the research paper.
【授業時間外の学習（Learning activities of classroom)】
Students will be expected to have completed assignments after each supervision

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria Policy)】
Grading will be decided on research paper(40%),and the quality of the students experimental performance in the lab(60%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

永田　真吾

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めます。

【到達目標】
臨床心理学および発達臨床心理学領域における基礎的な知識を習得するとともに、これらの領域の専門論文および報告を読みこなし、レポートを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の興味・関心に沿って文献を収集し、これについて講読とディスカッションを行いながら、心理学領域における専門的な知見の習得を目指します。なお、専門演習Ⅱ B では、研究文献発表後に数人の小グループに分かれて、より深いディスカッションを行い、その後、全体で内容を共有する方法をとります。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの決定	各自の発表テーマの決定
第 3 回	研究発表 1	研究発表とグループディスカッション：これまでの先行研究の知見と課題①
第 4 回	研究発表 2	研究発表とグループディスカッション：これまでの先行研究の知見と課題②
第 5 回	研究発表 3	研究発表とグループディスカッション：問題意識と課題設定①
第 6 回	研究発表 4	研究発表とグループディスカッション：問題意識と課題設定②
第 7 回	研究発表 5	研究発表とグループディスカッション：研究計画案の作成①
第 8 回	研究発表 6	研究発表とグループディスカッション：研究計画案の作成②
第 9 回	研究発表 7	研究発表とグループディスカッション：研究方法の検討①
第 10 回	研究発表 8	研究発表とグループディスカッション：研究方法の検討②
第 11 回	研究発表 9	研究発表とグループディスカッション：研究計画案の修正
第 12 回	研究発表 10	研究発表とグループディスカッション：次年度に向けての構想発表①
第 13 回	研究発表 11	研究発表とグループディスカッション：次年度に向けての構想発表②
第 14 回	まとめ	全体でのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
心理学領域における専門論文が購読の中心となるため、内容を十分に理解するために、当該領域に関する基本的知見を学習しておく必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】
参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。コミュニケーションを取りながら，適宜改善していきます。

【Outline (in English)】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. Students will understand including factors of interaction with the environment surrounding children such as families, schools and society. At the end of the course, Students will be expected to review and critique professional literature or report about Clinical Psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40 %), and in-class contribution(60 %).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡB

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本専門演習のテーマは、認知行動療法をツールとして、心の諸問題への理解を深めることです。認知行動療法とは、心の問題に対して、認知や行動に関する科学的理論を応用するアプローチです。

【到達目標】
専門演習 II の到達目標は、卒業研究に向けて、認知行動療法に関する研究論文を読み、心理学の研究法について理解を深めることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
専門演習 IIB では、卒業論文に向けて、自らの関心があるテーマについて、研究計画を発表してもらいます。受講生同士でディスカッションしながら、研究計画を練っていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	認知行動療法における研究の位置づけ1	認知行動療法における研究の重要性について概説します。
第 3 回	認知行動療法における研究の位置づけ2	認知行動療法における研究の注意点について概説します。
第 4 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション1	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に認知療法系）に関する研究を個人発表してもらいます。
第 5 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション2	各自が関心あるテーマについて、認知行動療法（主に行動療法系）に関する研究を個人発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第 6 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション3	各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 7 回	認知行動療法に関する研究の個人発表とディスカッション4	各自が関心あるテーマについて、マインドフルネスに関する研究を個人発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションを行います。
第 8 回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション1	第一世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらいます。それを踏まえて、解説やディスカッションを行います。
第 9 回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション2	第二世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらい、解説やディスカッションを行います。
第 10 回	認知行動療法に関する研究のグループ発表とディスカッション3	第三世代の認知行動療法に関する研究をグループ発表してもらいます。それを踏まえて、ディスカッションします。
第 11 回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション1	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第一世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらいます。
第 12 回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション2	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第二世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 13 回	認知行動療法に関する研究計画の個人発表とディスカッション3	これまでの発表を踏まえ、各自が関心あるテーマについて、第三世代の認知行動療法に関する研究を個人発表してもらい、ディスカッションします。
第 14 回	まとめ	後期のゼミを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習では、発表があるため、そのための準備が必要となります。また、演習で配布する資料は、次の回の演習までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本演習の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（60%）と発表内容(40%) について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
グループで行う作業も取り入れていきたいと考えています。

【Outline (in English)】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. The goal of this seminar is to provide students with academic knowledge relating to research methods. Students are required to complete a research proposal. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (40%), and in-class contribution (60%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習ⅡB

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習ⅡA・ⅡB の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキルを共有します。研究成果をゼミ論文にまとめます。

【到達目標】
このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方と、ゼミ論文作成に向けてのガイダンスを行います
2	ゼミ論途中経過発表とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過（特に先行研究の検討を中心に）を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～C 発表。
3	ゼミ論途中経過発表とディスカッション②	例：ゼミ生 D～F の発表
4	ゼミ論途中経過発表とディスカッション③	例：ゼミ生 G～I の発表
5	ゼミ論途中経過発表とディスカッション④	例：ゼミ生 J～L の発表
6	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑤	例：ゼミ生 M～O の発表
7	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑥	例：ゼミ生 A、B の発表
8	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑦	例：ゼミ生 C、D の発表
9	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑧	例：ゼミ生 E、F の発表
10	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑨	例：ゼミ生 G、H の発表
11	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑩	例：ゼミ生 I、J の発表
12	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑪	例：ゼミ生 K、L の発表
13	ゼミ論途中経過発表とディスカッション⑫	例：ゼミ生 M、N、O の発表
14	卒論構想発表会	卒論の構想を全員が発表し、ディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、ゼミ論文（70 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion. And You should complete seminar report.
The goals of this course are to acquire standard knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, and to complete seminar report.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end report (seminar report) (70%), and in-class contribution (30%).

OTR300JB,OTR300JC

専門演習Ⅱ B

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅱ A・Ⅱ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅰに引き続き乳幼児期から初期成人期に至る発達の正常と異常を学習する。専門演習Ⅰで学んだことを基礎として、発達の異常やその対応（さまざまな心理療法）について知識を深める。卒業論文制作を視野に入れ、専門演習Ⅰ・Ⅱ A で学んだことを基礎として、自分の関心のあるテーマを確定し、さらに理解を深める。

【到達目標】
発表やディスカッションを通して、自分の関心のあるテーマの理解をさらに深めていく。新たに生じた疑問点について調べ直す。
大学生活と自己を振り返り、卒業後の自分の目標を定める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文制作を視野に入れ、自分の関心のあるテーマを確定し文献を調べ発表、ディスカッションを行う。４年生との交流や、様々な分野で働いている卒業生の話を聞く機会を設け、職業選択や自分自身の将来像について検討する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの進め方に関するオリエンテーション
第 2 回	テーマの確定①	演習Ⅱ A の発表と興味のあるテーマについてディスカッション①
第 3 回	テーマの確定②	演習Ⅱ A の発表と興味のあるテーマについてディスカッション②
第 4 回	文献検索①	テーマに関する文献を探す①
第 5 回	文献検索②	テーマに関する文献を探す②
第 6 回	卒業生との交流	卒業生の話を聞き交流する
第 7 回	４年生との交流	４年生の話を聞き交流する
第 8 回	発表①	レジメを配布して発表、ディスカッション①
第 9 回	発表②	レジメを配布して発表、ディスカッション②
第 10 回	発表③	レジメを配布して発表、ディスカッション③
第 11 回	発表④	レジメを配布して発表、ディスカッション④
第 12 回	発表⑤	レジメを配布して発表、ディスカッション⑤
第 13 回	ディスカッション	職業選択や将来像について①
第 14 回	ディスカッション・クリニック見学	職業選択や将来像について②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のあるテーマに関する文献を調べ発表用のレジメを作成する。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%)、発表 (40%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will learn normal and abnormal mental development from infancy to early adulthood. Expanding upon that, we will also further study psychotherapy for mental disease. We will choose a theme with one's interest to write a graduation thesis, and deepen understanding about that theme. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. In class contribution: 60% presentation : 40%.

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の実態とそれらに対する地域的取り組みや現場実践について学ぶともに実践力を涵養することを目的とする。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる地域的な取り組みや専門職による支援について理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、グループによりテーマを共有し、３年次の成果と文献研究を中心に課題を整理し、秋学期以降のフィールドワークの計画を作成し、レポート報告にまとめる。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインもしくはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第 2 回	グループ面接	専門演習Ⅰ、Ⅱとの合同面接
第 3 回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第 4 回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第 5 回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査研究報告書
第 6 回	先行研究のレビュー②	関連領域の論文
第 7 回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①先行研究からの課題の整理
第 8 回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②これまでのフィールドワークの振り返り
第 9 回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワークと研究テーマの再検討
第 10 回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワーク計画の検討
第 11 回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況の確認
第 12 回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第 13 回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第 14 回	まとめ	グループ毎に春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じてテキストを使用する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書、論文、事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．レポート (30%)
2．研究発表 (40%)
3．演習への能動的参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deal with tackling social exclusion and community based social work practices and social supports. At the end of the course, students are expected to understand the various aspects of social support services. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

【到達目標】
論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第 2 回	テーマに関する報告１	卒論テーマを報告する１
第 3 回	テーマに関する報告２	卒論テーマを報告する２
第 4 回	テーマに関する報告３	卒論テーマを報告する３
第 5 回	先行研究に関する報告１	先行研究をまとめ報告する１
第 6 回	先行研究に関する報告２	先行研究をまとめ報告する２
第 7 回	先行研究に関する報告３	先行研究をまとめ報告する３
第 8 回	先行研究に関する報告２回目１	先行研究をまとめ報告する４
第 9 回	先行研究に関する報告２回目２	先行研究をまとめ報告する５
第 10 回	先行研究に関する報告２回目３	先行研究をまとめ報告する６
第 11 回	調査フィールドに関する報告１	調査フィールドの概要と調査内容を報告する１
第 12 回	調査フィールドに関する報告２	調査フィールドの概要と調査内容を報告する２
第 13 回	調査フィールドに関する報告３	調査フィールドの概要と調査内容を報告する２
第 14 回	まとめ	研究内容を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Discuss the theme of the graduation thesis.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。
・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期スケジュールの確認
第 2 回	論文構想発表	各自の関心テーマに沿った構想の発表
第 3 回	論文構想検討	前回の発表をもとに論文構想を検討
第 4 回	論文構想発表	検討した結果の論文構想の発表
第 5 回	文献検討：収集	論文作成に必要な関連文献を収集
第 6 回	文献検討：レビューの仕方	関連文献のレビューの仕方を学ぶ
第 7 回	文献検討：レビュー論文執筆	関連文献のレビューを書いてみる
第 8 回	文献検討：レビュー論文の発表	各自の文献レビューを発表する
第 9 回	文献検討：検討	文献レビューの再検討
第 10 回	資料収集の検討	論文テーマに沿った調査・フィールドの検討
第 11 回	資料収集の準備	調査やフィールドスタディの準備
第 12 回	資料の収集	調査やフィールドスタディの実施
第 13 回	資料の収集と再検討	論文のテーマに沿った、資料・データの収集と分析
第 14 回	進捗状況の発表	状況確認と夏休み課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。
・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回４時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎 (2013)『よくわかる卒論の書き方 [第２版]』ミネルヴァ書房
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門　第４版』慶応義塾大学出版会
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加・発表内容（40 %）、提出物（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. The goal is to write and present their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門演習Ⅱで立てた卒業研究の計画にもとづき、研究を進める。

【到達目標】
・卒業研究を推進できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業研究を進め、随時報告をして指導を受けながら研究を進めていく。本学期の最後に卒業研究に関する中間発表を行い、それに対して意見交換をすることで、卒業研究の質を高める。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、学習支援システム等でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	研究計画書の修正	研究計画書の発表と修正
第 3 回	フィールドワークの理解	フィールドワークの目的と内容
第 4 回	フィールドワークの倫理的配慮	倫理的配慮の理解
第 5 回	卒業研究の報告と指導①	アンケート調査実施の指導
第 6 回	卒業研究の報告と指導②	アンケート調査結果の分析指導
第 7 回	卒業研究の報告と指導③	インタビュー調査実施の指導
第 8 回	卒業研究の報告と指導④	インタビュー調査結果の分析指導
第 9 回	卒業研究の報告と指導⑤	事例研究実施の指導
第 10 回	卒業研究の報告と指導⑥	事例分析の指導
第 11 回	卒業研究の報告と指導⑦	文献収集の指導
第 12 回	卒業研究の報告と指導⑧	文献分析の指導
第 13 回	卒業研究の中間報告	卒業研究の中間報告と指導
第 14 回	総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主体的に卒業研究や活動を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえてそれを研究等に活かす復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由 (2018)『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40%
・卒業研究の報告 60%

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究に関して定期的に指導できる機会を設けている。

【Outline (in English)】
This course is the first semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%) and in-class contribution (40%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、他者を支えるということはどのようなことなのかを明らかにするため、フィールドワークやグループ学習を通して当事者・家族の思いや経験を知ることを目指しています。また、プレゼンテーションスキルの向上とグループディスカッションのスカ目方についても検討を重ねます。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業研究の内容を、各自、定期的にプレゼンテーションします。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。また、研究会立ち上げなどの実践を通して研究活動を深めていきます。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評していきます。授業計画の変更などは学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの目的、進め方について話し合い
第 2 回	スケジュール決め	今年度の全体のスケジュールを決定する
第 3 回	研究計画の検討	各自の今年度の研究内容と具体的な計画について検討を行う。
第 4 回	研究計画発表	各自の今年度の研究内容と具体的な計画についてゼミ内で発表する。
第 5 回	研究計画に関する討議	各自の今年度の研究内容と計画に関して、ゼミメンバーと意見交換する。
第 6 回	研究計画のまとめ	全体のまとめとフリーディスカッション
第 7 回	研究課題の修正	議論を通して、各自の研究課題を修正する。
第 8 回	研究課題の確定	これまでの議論を踏まえ、各自の研究課題を確定させる。
第 9 回	研究内容の報告	各自の研究内容の進捗状況を報告する
第 10 回	研究内容の報告と議論	各自の研究内容の進捗状況を踏まえ、似ている研究課題を設定しているメンバーでグループディスカッションを行う。
第 11 回	研究発表に向けての準備	各自の研究内容について発表準備を行う。
第 12 回	ゼミ全体での研究活動に関する発表	ゼミ全体での研究活動に関する発表を踏まえてのディスカッション
第 13 回	研究内容の確認	各自の研究の方向性についての確認と修正
第 14 回	総括	研究内容の総括と秋学期に向けての議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
常に卒業論文に向き合い、必要に応じて調査を行うとともに、ゼミで受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組みます。また、ゼミで行うプロジェクトや身近な当事者支援活動に関心をもち、参加することを推奨します。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢　60 %
卒業論文作成にむけたレジュメの提出　40 %

【学生の意見等からの気づき】
受講者とコミュニケーションをとりながら、授業を改善していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生とともにつくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this seminar is to understand the thoughts and experiences of minority and their families through fieldwork and group study to clarify what it means to support others.
【到達目標（Learning Objectives）】The goal is to master discussion and presentation skills.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Grades are based on writing a research paper, speaking activities, written assignments, and participation in class activities.

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを具体的に実践する。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
過去 2 年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第 2 回	研究の企画化①	ブレインストーミング①
第 3 回	研究の企画化②	ブレインストーミング②
第 4 回	研究の企画化③	ブレインストーミング③
第 5 回	研究計画①	具体的な計画作成①
第 6 回	研究計画②	具体的な計画作成②
第 7 回	研究計画③	具体的な計画作成③
第 8 回	文献・資料のレビュー①	関連資料・データの分析①
第 9 回	文献・資料のレビュー②	関連資料・データの分析②
第 10 回	文献・資料のレビュー③	関連資料・データの分析③
第 11 回	発表前準備	中間発表の骨子作成
第 12 回	卒論中間発表①	卒論中間報告と質疑応答①
第 13 回	卒論中間発表②	卒論中間報告と質疑応答②
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to mobilize and utilize knowledge and practical skills on international cooperation in the context of disability-inclusive development.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to develop ideas in international aspects, collaborate with international partners, and present learnings professionally.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を構想することを目的としている。

【到達目標】
3 年間のゼミでの学びの集大成として卒業論文を執筆する。生活環境主義の方法論を使って、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方と目標設定
第 2 回	論文の構想（1）	問題関心の設定
第 3 回	論文の構想（2）	問いの設定
第 4 回	論文の構想の発表（1）	問題関心の発表と討議
第 5 回	論文の構想の発表（2）	問いについての発表と討議
第 6 回	研究計画の検討	研究の計画、スケジュール、フィールドについて検討
第 7 回	研究計画の発表	研究の計画、スケジュール、フィールドについて討議
第 8 回	調査計画の検討	フィールドでの聞き取り調査の手法と計画について検討
第 9 回	調査計画の発表	フィールドでの聞き取り調査の手法と計画について討議
第 10 回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学における議論をレビュー
第 11 回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学における議論をレビュー
第 12 回	先行研究のレビュー（3）	民俗学や文化人類学などの隣接領域での議論をレビュー
第 13 回	先行研究のレビュー（4）	先行研究をまとめ、各自の論文の位置付けをクリアにする
第 14 回	まとめ	論文構想についての総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。適宜本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点 (50%) と論文などの成果物 (50%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの要望やコメントは適宜内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のある社会的な課題をテーマとして、調査研究を行い、学内懸賞論文として書き上げる。

【到達目標】
論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方の確認
第 2 回	論文構想発表①	問題意識の提示
第 3 回	論文構想発表②	問題意識に関する情報収集
第 4 回	論文構想発表③	問題意識の絞り込み
第 5 回	文献レビュー報告①	関心領域に関する文献や資料の調査報告①グループ A
第 6 回	文献レビュー報告②	関心領域に関する文献や資料の調査報告②グループ B
第 7 回	文献レビュー報告③	関心領域に関する文献や資料の調査報告③グループ C
第 8 回	研究テーマ発表①	研究のキーワードの検討
第 9 回	研究テーマ発表②	研究のテーマの検討
第 10 回	論文構成発表①	論文の章立ての検討①目的と分析方法の対応確認
第 11 回	論文構成発表②	論文の章立ての検討②テーマとの整合性確認
第 12 回	調査計画の報告①	調査対象と方法の検討
第 13 回	調査計画の報告②	調査票の検討
第 14 回	調査計画の報告③	調査時期、依頼書類の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来る。
学習支援システムや Facebook グループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire research on the theme of social issues of interest, and write it as an on-campus prize paper.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings: Proceed with the research according to the concept of the dissertation, and lead to the completion of the dissertation through presentations and discussions in specialized exercises.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

永田　真吾

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めていきます。

【到達目標】
演習Ⅲでは、ゼミ学習の集大成として、卒業論文の作成を行います。興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを経て、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第 2 回	論文構想 1	問題意識について
第 3 回	論文構想 2	論文の構想について
第 4 回	論文構想 3	問題意識や論文の構想について発表
第 5 回	論文構想 4	問題意識や論文の構想について議論
第 6 回	論文計画 1	調査テーマ、対象、方法
第 7 回	論文計画 2	スケジュール等
第 8 回	論文計画 3	研究の進捗状況
第 9 回	論文計画 4	研究スケジュールの修正
第 10 回	文献等レビュー 1	テーマに関する文献の報告
第 11 回	文献等レビュー 2	文献の探索と追加
第 12 回	文献等レビュー 3	周辺領域の文献探索
第 13 回	文献等レビュー 4	文献レビューのまとめ
第 14 回	まとめ	進捗状況を含めた全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。コミュニケーションを取りながら，適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline (in English)】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. The culmination of the seminar studies is the preparation of a graduation thesis. The goal is to create a highly original graduation thesis through presentations and discussions in the specialized exercises. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40 %), and in-class contribution(60 %).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法をツールとして、臨床心理学に関する諸問題について考え、ディスカッションします。

【到達目標】
臨床心理学に関する諸問題について考え、認知行動療法の理論や技法を学んだ上で、卒業論文のために必要な研究方法について学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学や認知行動療法に関するテーマで、各自が関心があるテーマについて発表をしてもらい、それをどのように卒業論文としてまとめていけるかについて、ディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方を話し合います。
第 2 回	論文構想発表１	各自の関心のあるテーマについて発表してもらいます。
第 3 回	論文構想発表２	各自の関心のあるテーマについて述べてもらいます。
第 4 回	論文構想発表３	各自の関心のあるテーマについて個人発表してもらいます。
第 5 回	論文構想発表４	各自の関心のあるテーマを発表してもらいます。
第 6 回	先行研究のレビュー１	研究テーマに関連する先行研究を発表してもらいます。
第 7 回	先行研究のレビュー２	研究テーマに関連する先行研究を個人発表してもらいます。
第 8 回	先行研究のレビュー３	研究テーマに関連する先行研究の課題点を述べてもらいます。
第 9 回	研究計画の発表１	卒業論文の調査計画について検討します。
第 10 回	研究計画の発表２	卒業論文の実験計画について検討します。
第 11 回	研究計画の発表３	卒業論文の調査・実験計画について検討します。
第 12 回	研究計画の発表４	卒業論文の調査・実験計画を検討します。
第 13 回	データの分析方法について１	卒業論文のデータの分析方法を学びます。
第 14 回	データの分析方法について２	卒業論文のデータの分析方法について、実例を交えて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文への取り組みと個人発表への準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
普段からの演習への取り組み等の平常点（50%）と個人発表の内容（50%）をあわせて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士での教え合いを大切にしたいと考えています。

【Outline (in English)】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. Students will research and write their research paper. Through in-class discussions and presentations, they will develop their ability to research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' presentation in the seminar (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題と援助について議論します。

【到達目標】
臨床心理学に関連する諸問題と心理的援助、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成する準備をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示し、ゼミ長他の役割を決定します
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてブレーンストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	卒業論文に向けた各自の研究テーマについてディスカッションを行います
4	個人テーマの決定と発表スケジュールの話し合い	各自の研究テーマを決定し、発表スケジュールを話し合います
5	個人報告①	論文作成の途中経過を各自報告し、ディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～E の報告
6	研究報告②	例：ゼミ生 F～J の報告
7	研究報告③	例：ゼミ生 K～O の報告
8	研究報告④	例：ゼミ生 A～C の報告
9	研究報告⑤	例：ゼミ生 D～F の報告
10	研究報告⑥	例：ゼミ生 G～I の報告
11	研究報告⑦	例：ゼミ生 J～L の報告
12	研究報告⑧	例：ゼミ生 M～O の報告
13	研究報告⑨	例：希望者による発表
14	まとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
You discuss the clinical problems and psychological support. The aim of this course is to help students acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
The goals of this course are to acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ A

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文構想①	問題意識や論文の構想について①
第 2 回	論文構想②	問題意識や論文の構想について②
第 3 回	論文構想③	問題意識や論文の構想について③
第 4 回	論文構想④	問題意識や論文の構想について④
第 5 回	論文計画①	テーマ、対象、方法、スケジュール①
第 6 回	論文計画②	テーマ、対象、方法、スケジュール②
第 7 回	論文計画③	テーマ、対象、方法、スケジュール③
第 8 回	論文計画④	テーマ、対象、方法、スケジュール④
第 9 回	先行研究①	先行研究の収集
第 10 回	先行研究②	先行研究の読み込み
第 11 回	先行研究③	先行研究のまとめ
第 12 回	先行研究④	先行研究の発表
第 13 回	まとめ①	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正①
第 14 回	まとめ②	進捗状況の確認と計画全体の見直しと修正②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告 (70%)、ディスカッションへの参加 (30%) に基づいて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【Outline (in English)】
We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.　Your overall grade in the class will be decided based on the following. Report of graduation thesis:70% in-class contribution:30%.

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、社会的排除の実際について、その現状と課題、および求められる制度・政策および社会的支援について学ぶ。

【到達目標】
このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、フィールドワークと省察を繰り返しながら、求められる社会福祉制度、政策および社会福祉援助について考察することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、グループ学習をさらに深めてフィールドワーク実践、および実践の振り返り・考察を行い、最終報告としてのプレゼンテーションの準備を行う。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインもしくはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの振り返りと再検討	グループ毎にフィールドワーク実践の振り返りと今後に向けての計画を作成する。
第 3 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（現場状況について）
第 4 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援の実際について）
第 5 回	フィールドワーク結果の分析①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。①（介入方法について）
第 6 回	フィールドワーク結果の分析②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。②（支援の効果）
第 7 回	フィールドワーク結果の分析③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。③（関係団体との連携について）
第 8 回	フィールドワーク結果の考察①	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。①（研究テーマの観点から）
第 9 回	フィールドワーク結果の考察②	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。②（援助者の立場から）
第 10 回	フィールドワーク結果の考察③	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。③（社会問題の観点から）
第 11 回	研究報告①	貧困関連グループの発表
第 12 回	研究報告②	障害関連グループの発表
第 13 回	研究報告③	ダイバーシティ関連の発表
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めないが、必要に応じてテキストを使用する。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．レポート (30%)
2．研究発表 (40%)
3．演習への能動的参加 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
研究指導については、可能ならば合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course deal with the social exclusion and social support network.At the end of the course, students are expected to get knowledge and skills about social exclusion, social support system and social services. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution(30%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の研究内容についてディスカッションすることで研究への理解を深める。

【到達目標】
論理的な思考力を高め、他者とディスカッションする力を高める。
卒業論文の研究内容への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の卒論研究を定期的に報告を行いディスカッションする。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、進め方を確認する
第 2 回	調査結果の報告１	調査結果を報告する１
第 3 回	調査結果の報告２	調査結果を報告する２
第 4 回	調査結果の報告３	調査結果を報告する３
第 5 回	調査結果の分析１	調査結果の分析を報告する１
第 6 回	調査結果の分析２	調査結果の分析を報告する２
第 7 回	調査結果の分析３	調査結果の分析を報告する３
第 8 回	考察１	調査結果を考察としてまとめ報告する４
第 9 回	考察２	調査結果を考察としてまとめ報告する５
第 10 回	考察３	調査結果を考察としてまとめ報告する６
第 11 回	卒論報告会の準備１	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する１
第 12 回	卒論報告会の準備２	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する２
第 13 回	卒論報告会の準備３	卒論報告会にむけて研究の概要をまとめて報告する２
第 14 回	卒論報告会	卒論報告会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒論指導をもとに報告のためのレジュメを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
Create a resume for reporting based on the graduation thesis guidance. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Discuss the theme of the graduation thesis.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに培った問題関心をもとに個別のテーマを設定し、研究成果の集大成としての卒業論文を完成させる。

【到達目標】
卒業論文を完成し発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・卒業論文完成のための文献検討、データや資料の収集と、それらの分析を進める。
・お互いの発表に対して意見交換を行う。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期スケジュールの確認、夏休み課題の発表
第 2 回	論文構想発表	論文の構想について発表
第 3 回	文献・データの再検討	論文作成に必要な文献やデータの再検討
第 4 回	資料・データ分析	資料やデータの分析
第 5 回	論文執筆１	論文を書き進める：先行研究のレビュー
第 6 回	論文執筆２	論文を書き進める：課題の設定と分析枠組み・研究方法
第 7 回	中間発表１	現段階における論文の発表
第 8 回	論文執筆３	論文を書き進める：データ分析結果
第 9 回	論文執筆４	論文を書き進める：データ分析結果
第 10 回	中間発表２	現段階における論文の発表
第 11 回	論文執筆	論文を書き進める：結論と残された課題
第 12 回	論文執筆	論文執筆の完成
第 13 回	論文発表の準備	論文発表のための準備
第 14 回	論文発表	完成論文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表者は必ずレジュメを用意して発表すること。
・論文の書き方に関する文献や資料に再度目を通して、論文執筆方法について復習しておくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回４時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎 (2013)『よくわかる卒論の書き方 [第２版]』ミネルヴァ書房
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方入門　第４版』慶応義塾大学出版会
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加・発表内容（40 %）、提出物（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。必要な場合には、担当教員に相談してください。

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. The goal is to write and present their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでの集大成として、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
・卒業論文を完成して、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自またはグループで卒業論文を作成し、発表する。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、学習支援システム等でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	論文構想の発表	論文構想の発表と検討
第 3 回	データ分析の検討①	データ分析結果に関する発表と議論
第 4 回	データ分析の検討②	データ分析結果に関する再検討
第 5 回	論文執筆①	問題の認識と先行研究のレビューの執筆
第 6 回	論文執筆②	研究目的・方法と調査結果の執筆
第 7 回	中間発表	論文執筆内容の発表と議論
第 8 回	論文執筆③	考察の執筆
第 9 回	論文執筆④	まとめと残された課題の執筆
第 10 回	論文執筆の完成	論文執筆内容の報告と修正
第 11 回	発表準備	卒論と活動報告の発表準備
第 12 回	卒論発表会	卒論の発表
第 13 回	卒論の振り返り	卒論の発表を踏まえた振り返り
第 14 回	総括	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主体的に卒業研究を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえてそれを研究等に活かす復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由 (2018)『三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40%
・卒業研究発表資料 60%

【学生の意見等からの気づき】
卒業研究を進めるにあたり、定期的に相談ができるようにしている。

【Outline (in English)】
This course is the second semester of a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to proceed with graduation research. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%) and in-class contribution (40%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習ⅢB

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このゼミでは、他者を支えるということはどのようなことなのかを明らかにするため、フィールドワークやグループ学習を通して当事者・家族の思いや経験を知ることを目指しています。最終学年の集大成として、これまでゼミ内で学習してきたことを学外活動で成果発表したり、研究論文にまとめる準備などを行います。その他にも、当事者活動の研究会参画を通して学習したことを発信できるようにしていきたいと考えています。

【到達目標】
卒業論文の構想に沿って調査を進め、ゼミでの発表・議論を経て、論文の完成に導くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
　各自、定期的に皆の前でプレゼンテーションを行います。発表者は、ゼミでの討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、年度末までに卒業研究論文を仕上げます。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評していきます。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの目的、進め方について話し合う。
第 2 回	春学期までの研究成果についての検討	研究内容について各自学習する。
第 3 回	研究計画の進捗状況の報告	各自の研究内容と具体的な計画について発表する。
第 4 回	研究計画の進捗状況の確認	各自の研究内容と計画について文献をふまえて確認作業を行う。
第 5 回	研究計画の再検討	これまでの指摘事項を踏まえて、研究計画の最終的な検討を行う。
第 6 回	研究の妥当性についての検証	各自の研究計画が妥当であるかを確認する。
第 7 回	研究発表に向けた資料作成	資料作成方法の説明
第 8 回	研究発表と議論	研究の進捗状況を発表し、それについて皆で議論する。
第 9 回	研究発表とグループディスカッション	研究の進捗状況を発表し、それについて近しい研究課題のグループメンバーで議論する。
第 10 回	研究発表と全体討議	これまでの発表を受けて、フリーディスカッション
第 11 回	研究の完成に向けた発表	これまでの指摘などを踏まえた修正を行う。
第 12 回	研究内容の見直し	これまでの議論を踏まえた各自の研究内容の見直し
第 13 回	研究の方向性の報告と最終修正	各自の研究の方向性の報告と修正
総括	研究・ゼミ活動の総括	各自の研究成果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　卒業論文の完成を目指し、ゼミで受けたコメントを反映させ、論文の完成に向けて取り組みます。また、ゼミで行うプロジェクトや身近な当事者支援活動に関心をもち、参加することを推奨します。また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点　60 %　卒業論文に関するレジュメの提出　40 %

【学生の意見等からの気づき】
受講者の困りごとや研究の行き詰まりについて話し合いながら、授業を改善していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。必要な場合には、担当教員に相談して下さい。

【その他の重要事項】
ゼミ生とともにつくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this seminar is to understand the thoughts and experiences of minority and their families through fieldwork and group study to clarify what it means to support others.
【到達目標（Learning Objectives）】The goal is to master discussion and presentation skills.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Grades are based on writing a research paper, speaking activities, written assignments, and participation in class activities.

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本とアジアを比較しつつ、障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・実践スキルを具体的に応用する。

【到達目標】
アジアについて応用的な理解をレビューする。動画による発信力を確かなスキルの一つとする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
過去 2 年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する知見として確立させる。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google クラスルーム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体像の意見交換
第 2 回	卒論の草稿①	内容の表出化①
第 3 回	卒論の草稿②	内容の表出化②
第 4 回	卒論の草稿③	内容の表出化③
第 5 回	卒論の草稿④	第 1 次原稿へのフィードバック
第 6 回	卒論の修正①	内容の修正・変更①
第 7 回	卒論の修正②	内容の修正・変更②
第 8 回	卒論の修正③	第 2 次原稿へのフィードバック
第 9 回	卒論仕上げ①	質疑応答と微修正①
第 10 回	卒論仕上げ②	質疑応答と微修正②
第 11 回	卒論仕上げ③	質疑応答と微修正③
第 12 回	卒論仕上げ④	質疑応答と微修正④
第 13 回	卒論最終調整・提出	最終確認・提出
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加： 50 %、レポート・プレゼン： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。自主ゼミ企画、海外または国内フィールド活動にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】This course is designed to maximize knowledge and practical skills on international cooperation in the context of disability-inclusive development.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to facilitate communication and collaboration internationally, particularly among those with different backgrounds in Asia.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance in the class (presentation, report) (50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学・地域社会学の方法論を使って、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策を構想することを目的としている。

【到達目標】
3 年間のゼミでの学びの集大成として卒業論文を執筆する。生活環境主義の方法論を使って、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本演習では、研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の進め方と目標設定
第 2 回	研究の進歩状況の発表	夏休み中のフィールドワーク、論文執筆の状況を確認
第 3 回	論文作成の方法（1）	問題関心と問いの設定
第 4 回	論文作成の方法（2）	先行研究のレビュー
第 5 回	論文作成の方法（3）	論敵の設定
第 6 回	論文作成の方法（4）	章立ての検討
第 7 回	調査データの分析（1）	データの分析と解釈
第 8 回	調査データの分析（2）	データの分析結果
第 9 回	調査データの分析（3）	研究の独自性の検討
第 10 回	論文執筆（1）	研究課題と問いの再検討
第 11 回	論文執筆（2）	章立ての再検討
第 12 回	論文執筆（3）	結論の見通しの検討
第 13 回	論文執筆（4）	論理構成の確認と討議
第 14 回	論文執筆（5）	卒業論文の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。適宜本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点 (50%) と論文などの成果物 (50%) を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの要望やコメントは適宜内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のある社会的な課題をテーマとして、学内懸賞論文を完成させ、さらにそれを補足修正して卒業論文を書き上げる。

【到達目標】
論文の構想に沿って調査を進め、専門演習での発表・議論を経て、学内懸賞論文と卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
各自、定期的にメンバーの前でプレゼンテーションして意見交換する。その討議を踏まえて更なる調査・検討を進め、研究論文を形作っていく。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査結果報告	夏休み期間中の調査結果の概要報告
第 2 回	調査結果分析発表①	調査結果を整理分析
第 3 回	調査結果分析発表②	調査結果のとりまとめ
第 4 回	論文執筆①	学内懸賞論文の作成①
第 5 回	論文執筆②	学内懸賞論文の作成②
第 6 回	第 1 回　論文発表会	学内懸賞論文の申請と残された課題の確認
第 7 回	補足調査①	残された課題に対応する調査の実施
第 8 回	補足調査②	補足調査結果のとりまとめ
第 9 回	補足調査③	補足調査結果の報告
第 10 回	論文執筆①	卒業論文の作成①目次作成
第 11 回	論文執筆②	卒業論文の作成②各章執筆
第 12 回	論文執筆③	卒業論文の作成③考察検討
第 13 回	発表練習	発表資料・原稿の作成
第 14 回	第 2 回　論文発表会	卒業論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修メンバーに取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員やメンバーから受けた助言やコメントに基づき改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示する。

【参考書】
必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来る。
学習支援システムや Facebook グループを利用して、学生への連絡や情報の共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドワークと政策提言を企画する術について授業で紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire that complete the on-campus prize thesis on the theme of social issues of interest, and then supplement and revise it to write a graduation thesis.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Proceeding with the research according to the concept of the dissertation, and after presentations and discussions in specialized exercises, lead to the completion of the on-campus prize thesis and the graduation thesis.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 70%, in class contribution: 30%

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

永田　真吾

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミでは、主に発達臨床心理学、臨床心理学領域の最新の論文を読みながら、家族、学校、社会といった子どもを取り巻く環境との相互作用を幅広く理解し、そこにおいて生じる問題とその援助について学習を進めていきます。

【到達目標】
演習Ⅲ B では、ゼミ学習の集大成として、卒業論文の作成を行います。興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを経て、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合います。
第 2 回	論文計画 1	スケジュール等
第 3 回	論文計画 2	研究の進捗状況 1
第 4 回	論文計画 3	研究の進捗状況 2
第 5 回	論文執筆 1	調査テーマ、対象、方法
第 6 回	論文執筆 2	論文執筆指導 1
第 7 回	論文執筆 3	論文執筆指導 2
第 8 回	論文執筆 4	論文執筆指導 3
第 9 回	論文執筆 5	論文執筆指導 4
第 10 回	文献等レビュー 1	論文執筆指導 5
第 11 回	文献等レビュー 2	文献の探索と追加
第 12 回	文献等レビュー 3	周辺領域の文献探索
第 13 回	文献等レビュー 4	文献レビューのまとめ
第 14 回	まとめ	進捗状況を含めた全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の執筆を進めると共に、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配付・指示します。

【参考書】
必要に応じて配付・指示します。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動全般への積極的な参加（60 %）
資料作成、発表の適切性およびディスカッションの内容（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。コミュニケーションを取りながら，適宜改善していきます。

【学生が準備すべき機器他】
各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】
ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

【Outline (in English)】
Seminar time primarily will be spent discussing assigned readings. Specifically, topics covered will include Developmental, Personality, and Clinical Psychology. The culmination of the seminar studies is the preparation of a graduation thesis. The goal is to create a highly original graduation thesis through presentations and discussions in the specialized exercises. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on report and discussion(40 %), and in-class contribution(60 %).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法をツールとして、臨床心理学に関する諸問題について考え、ディスカッションします。

【到達目標】
臨床心理学に関する諸問題について考え、認知行動療法の理論や技法を学んだ上で、卒業論文のために必要な研究方法について学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学や認知行動療法に関するテーマで、各自が関心があるテーマについて発表をしてもらい、それをどのように卒業論文としてまとめていけるかについて、ディスカッションしていきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文提出のための具体的な作業を確認します。
第 2 回	研究の進捗状況報告 1	各自の卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。
第 3 回	研究の進捗状況報告 2	各自の卒業論文の進捗状況と課題を報告してもらいます。
第 4 回	研究の進捗状況報告 3	各自の卒業論文の進捗状況を報告してもらい、話し合います。
第 5 回	研究の進捗状況報告 4	各自の卒業論文の進捗状況と今後の計画を報告してもらいます。
第 6 回	データの分析結果について 1	卒業論文で収集したデータの分析結果について発表してもらいます。
第 7 回	データの分析結果について 2	卒業論文で収集したデータの分析結果について検討します。
第 8 回	データの分析結果について 3	卒業論文で収集したデータの分析結果を検討します。
第 9 回	データの分析結果について 4	卒業論文で収集したデータの分析結果について、ディスカッションします。
第 10 回	データの分析結果について 5	卒業論文で収集したデータの分析結果を見直します。
第 11 回	研究における考察について 1	各自の卒業論文における考察を検討します。
第 12 回	研究における考察について 2	各自の卒業論文における考察について、ディスカッションします。
第 13 回	研究における考察について 3	各自の卒業論文における考察を見直します。
第 14 回	まとめ	これまで取り組んできた活動について振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文への取り組みと個人発表への準備が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
普段からの演習への取り組み等の平常点（50%）と個人発表の内容（50%）をあわせて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士での教え合いを大切にしたいと考えています。

【Outline (in English)】
This seminar focuses on research about cognitive behavior therapy. Students are encouraged to take responsibility for their own research. Students give presentations on their own research. Your required study time is at least two hours for each class meeting. Grading will be decided based on the quality of the students' presentations (50%) and in-class contribution (50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題と援助について議論します。臨床心理学の研究や実践に必要な考え方や態度、スキルを共有し、卒業論文の作成と発表を行います。

【到達目標】
臨床心理学に関連する諸問題と心理的援助、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成し発表します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示します
2	発表スケジュールの話し合い	卒業論文に直結した各自の最終報告のスケジュールを話し合います
3	最終報告①	例：ゼミ生 A、B の報告
4	最終報告②	例：ゼミ生 C、D の報告
5	最終報告③	例：ゼミ生 E、F の報告
6	最終報告④	例：ゼミ生 G、H の報告
7	最終報告⑤	例：ゼミ生 I、J の報告
8	最終報告⑥	例：ゼミ生 K、L の報告
9	最終報告⑦	例：ゼミ生 M、N の報告
10	最終報告⑧	例：ゼミ生 O の報告
11	最終報告⑨	例：希望者の報告
12	最終報告⑩	例：各自の修正点の報告
13	卒論発表会の準備	卒論発表会の準備を行います
14	卒論発表会	提出された卒業論文について、各自その要旨を作成して発表し、ディスカッションを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline (in English)】
You discuss the clinical problems and psychological support. The aim of this course is to help students acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion. And you should complete and present graduation thesis.
The goals of this course are to acquire high level knowledge and skill required for research and practice in clinical psychology, through presentation and discussion.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on students' presentation performance (50%), and in-class contribution (50%).

OTR400JB,OTR400JC

専門演習Ⅲ B

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**専門演習Ⅲ A・Ⅲ B の両方を登録しないとエラーが出ます**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
演習Ⅲでは各自が臨床心理学に関連した興味のあるテーマを選定し、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
演習Ⅱで明確にした問題意識をさらに発展させ、卒業論文のテーマを選定し、必要な調査・研究を行う。それについてゼミでプレゼンテーションとディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
演習Ⅲでは、卒業論文作成過程の内容を専門演習において定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文を完成させる。授業の展開によって授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	調査計画の報告①	調査計画の報告と検討・修正①
第 2 回	調査計画の報告②	調査計画の報告と検討・修正②
第 3 回	進捗状況報告①	進捗状況の報告と検討・修正①
第 4 回	進捗状況報告②	進捗状況の報告と検討・修正②
第 5 回	進捗状況報告③	進捗状況の報告と検討・修正③
第 6 回	卒業論文中間報告①	中間報告発表と議論・修正①
第 7 回	卒業論文中間報告②	中間報告発表と議論・修正②
第 8 回	卒業論文中間報告③	中間報告発表と議論・修正③
第 9 回	卒業論文中間報告④	中間報告発表と議論・修正④
第 10 回	卒業論文中間報告⑤	中間報告発表と議論・修正⑤
第 11 回	卒業論文中間報告⑥	中間報告発表と議論・修正⑥
第 12 回	卒業論文発表会①	卒業論文の発表と議論①
第 13 回	卒業論文発表会②	卒業論文の発表と議論②
第 14 回	卒業論文発表会③	卒業論文の発表と議論③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
多摩図書館オンライン検索と成書・論文の通読を行い論文作成の準備をする。演習での教員や仲間からの助言やコメントは論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の経過報告 (70%)、ディスカッションへの参加 (30%)。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【Outline (in English)】
We will choose the theme with the interest in conjunction with the clinical psychology, and finish writing a graduation thesis. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Report of graduation thesis:70% in-class contribution:30%.

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文を大学４年間の集大成として位置づけ、これまで積み重ねてきた研究成果や実践的経験に基づいた問題意識を卒業論文としてまとめ、発表できるようにする。

【到達目標】
①先行研究のレビュー、文献研究、アンケート調査、フィールドワークなどによって必要なデータを収集し、その結果を分析、論文を完成させる。
②卒業論文の発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
年間を通じて個別指導を基本とするが、研究方法の確認、中間報告会、卒論発表会などは集団で行い、ディスカッションを重視する。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインまたはハイブリッド型での開講となる。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等のフィードバックは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文についてのガイダンス
第 2 回	研究方法について①	文献研究について
第 3 回	研究方法について②	アンケート調査、フィールドワーク調査について
第 4 回	テーマの設定①	問題意識の明確化
第 5 回	テーマの設定②	先行研究の検討
第 6 回	テーマの確定	テーマ、目的、研究方法、目次の確定
第 7 回	論文作成のための準備作業①	文献研究概要の個別報告
第 8 回	論文作成のための準備作業②	調査研究概要の個別報告
第 9 回	論文作成のための準備作業③	フィールドワーク計画の個別報告
第 10 回	論文作成のための準備作業④	文献研究の中間報告
第 11 回	論文作成のための準備作業⑤	調査研究の中間報告
第 12 回	論文作成のための準備作業⑥	フィールドワーク状況の経過報告
第 13 回	論文作成のための準備作業⑦	これまでの研究結果についての報告
第 14 回	中間報告会	夏休み中の研究計画の整理
第 15 回	オリエンテーション	夏休みの課題の報告と研究計画の確認
第 16 回	研究結果の議論①	研究結果・データの分析・考察①（データの整理）
第 17 回	研究結果の議論②	研究結果・データの分析・考察②（データの集計）
第 18 回	研究結果の議論③	研究結果・データの分析・考察③（データの分析）
第 19 回	研究結果の議論④	研究結果・データの分析・考察④（データの考察）
第 20 回	研究結果の議論⑤	研究結果・データの分析・考察⑤（データのまとめ）
第 21 回	研究結果の議論⑥	研究結果全体の考察
第 22 回	論文執筆①	序論について
第 23 回	論文執筆②	本論について①（先行研究レビューと理論的検討）
第 24 回	論文執筆③	本論について②（研究結果の分析と考察）
第 25 回	論文執筆④	結論について
第 26 回	論文執筆⑤	全体を通しての論旨の確認
第 27 回	論文執筆⑥	引用・参考文献の確認
第 28 回	卒業論文提出	最終確認と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導は、基本的に進捗状況の報告と研究内容についてのディスカッションの場である。文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査および結果の整理、分析は各自で積極的に進めて、自ら個別指導時間を確保するよう能動的に行動してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。

【参考書】
必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、現場を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．個別指導、集団による研究への能動的取り組み (20%)
２．課題提出 (30%)
３．卒業論文の内容 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
論文指導については、可能な範囲で合宿等も活用していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【Outline (in English)】
This course enhances the development of skills in preparing a graduation thesis. At the end of the course, students are expected to write a graduation thesis and make the presentation of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Grading will be decided based on reports (30%), and the quality of the students' graduation thesis (50%),and in-class contribution (20%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

岩崎　晋也

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

【到達目標】
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化１	卒論の意義を学び、テーマを絞る。
第 2 回	問題意識の明確化２	個々の問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習 1	調査方法、分析の視点を学ぶ１
第 4 回	調査研究方法の学習 2	調査方法、分析の視点を学ぶ２
第 5 回	調査研究方法の学習 3	調査方法、分析の視点を学ぶ３
第 6 回	論文計画の検討　1	論文作成にむけた計画を策定する１
第 7 回	論文計画の検討　2	論文作成にむけた計画を策定する２
第 8 回	論文計画の検討　3	論文作成にむけた計画を策定する３
第 9 回	文献や資料などの検討 1	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる１
第 10 回	文献や資料などの検討 2	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる２
第 11 回	文献や資料などの検討 3	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる３
第 12 回	調査計画の検討 1	調査方法を検討し、改善させる１
第 13 回	調査計画の検討 2	調査方法を検討し、改善させる２
第 14 回	調査計画の検討 3	調査方法を検討し、改善させる３
第 15 回	中間報告１	進捗報告書提出と議論１
第 16 回	中間報告２	進捗報告書提出と議論２
第 17 回	中間報告３	進捗報告書提出と議論３
第 18 回	論文執筆１	章ごとに第１次原稿の提出１
第 19 回	論文執筆２	章ごとに第１次原稿の提出２
第 20 回	論文執筆３	章ごとに第１次原稿の提出３
第 21 回	論文完成に向けての作業　1	二次稿提出１
第 22 回	論文完成に向けての作業　2	二次稿提出２
第 23 回	論文完成に向けての作業　3	二次稿提出３
第 24 回	論文完成に向けての作業　4	二次稿提出４
第 25 回	文章最終仕上げ１	発表と修正１
第 26 回	文章最終仕上げ２	発表と修正２
第 27 回	文章最終仕上げ３	発表と修正３
第 28 回	卒論報告会	卒論報告会を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【Outline (in English)】
Study the graduation thesis.
The goals of this course are to improve the ability to think logically and discuss with others.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following the graduation thesis; 80%, in class contribution: 20%.

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査等の後、論文を完成させる。

【到達目標】
・個人や社会の生活問題を明確化させ、その支援を考察する。
・調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
・学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨きながら、卒業論文を書き上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ発表と検討の機会を設ける。また課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化 1	卒論の意義について学ぶ
第 2 回	問題意識の明確化 2	問題意識を明確化させる
第 3 回	調査研究方法の学習 1	調査方法の学習
第 4 回	調査研究方法の学習 2	分析の視点の学習
第 5 回	調査研究方法の学習 3	調査方法、分析の視点の学習
第 6 回	論文計画の検討 1	テーマに関する議論
第 7 回	論文計画の検討 2	前回の議論をもとに研究計画の策定
第 8 回	論文計画の検討 3	テーマに関する議論と研究計画の検討
第 9 回	論文計画の検討 4	研究計画の完成
第 10 回	文献や資料の検討 1	テーマに関する知識の蓄積 1
第 11 回	文献や資料の検討 2	テーマに関する知識の蓄積 2
第 12 回	文献や資料の検討 3	テーマに関する知識の蓄積 3
第 13 回	調査計画の検討 1	調査方法の確認
第 14 回	調査計画の検討 2	調査方法の検討
第 15 回	調査計画の検討 3	調査方法の再検討と改善
第 16 回	中間報告 1	進捗状況報告書提出と議論（子ども・家族、子育てのテーマ）
第 17 回	中間報告 2	進捗状況報告書提出と議論（貧困、教育のテーマ）
第 18 回	中間報告 3	進捗状況報告書提出と議論（少年非行、その他のテーマ）
第 19 回	論文執筆 1	章ごとに第一次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て、貧困）
第 20 回	論文執筆 2	章ごとに第一次原稿の提出と検討（教育、少年非行、その他）
第 21 回	論文執筆 3	第一次原稿の校正
第 22 回	完成に向けた作業 1	二次原稿の提出と検討（子ども・家族、子育て）
第 23 回	完成に向けた作業 2	二次原稿の提出と検討（貧困）
第 24 回	完成に向けた作業 3	二次原稿の提出と検討（教育）
第 25 回	完成に向けた作業 4	二次原稿の提出と検討（少年非行、その他）
第 26 回	文章最終仕上げ 1	発表と修正
第 27 回	文章最終仕上げ 2	発表と修正に対する検討
第 28 回	文章最終仕上げ 3	卒業論文完成と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・個別指導と専門演習と連動させる。調査研究にあたっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビュー調査やアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。
・本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
・白井利明・高橋一郎 (2013)『よくわかる卒業論文の書き方 [第 2 版]』ミネルヴァ書房
・河野哲也（2018）『レポート・論文の書き方　第 4 版』慶応義塾大学出版会
その他は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（80%）、研究への取り組み（20%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. The goal of this course is to write the thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the thesis (80%), and working on the paper (20%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「専門演習Ⅲ」と連動させて、卒業論文を完成させる。

【到達目標】
・卒業論文を完成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができ、かつそれを論文としてまとめることができるように、個別指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行いながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	卒業論文の作成プロセス	卒業論文の作成の流れの理解
第 3 回	先行研究のレビュー①	関連する先行研究の検証
第 4 回	先行研究のレビュー②	関連領域の先行研究の検証
第 5 回	調査計画の検討①	調査対象の検討
第 6 回	調査計画の検討②	調査方法の検討
第 7 回	調査計画の検討③	調査内容の検討
第 8 回	研究計画の修正	研究計画書の修正
第 9 回	研究計画の確定	研究計画の修正と確定
第 10 回	調査の実施	データの収集
第 11 回	データ分析①	データ全体の俯瞰的確認
第 12 回	データ分析②	データの質的分析・量的分析
第 13 回	データ分析③	データ分析結果の考察
第 14 回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第 15 回	オリエンテーション	夏季休暇中の研究進捗報告
第 16 回	論文構成の検討①	論文の章立て
第 17 回	論文構成の検討②	各章の概要検討
第 18 回	論文執筆指導①	序論の検討
第 19 回	論文執筆指導②	準備の検討
第 20 回	論文執筆指導③	本論の検討
第 21 回	論文執筆指導④	考察の検討
第 22 回	論文執筆指導⑤	結論の検討
第 23 回	論文執筆指導⑥	課題の検討
第 24 回	論文執筆指導⑦	引用文献の確認
第 25 回	卒業論文の提出	卒業論文提出
第 26 回	卒論発表準備	発表の準備と修正
第 27 回	卒論発表会の振り返り	卒論発表を踏まえた振り返り
第 28 回	総括	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に研究および論文執筆を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない

【参考書】
岩田正美他編（2006）「社会福祉研究法：現実世界に迫る１４レッスン」有斐閣アルマ川村匡由 (2018)「三訂　福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方」中央法規
白井利明・高橋一郎（2013）『よくわかる卒論の書き方（第２版）」ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・課題提出　20%
・卒業論文　80%

【学生の意見等からの気づき】
卒業論文の作成を継続できるように、学生と調整しながら指導を行う。

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about completing the graduation thesis.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (20%) and graduation thesis (80%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させることを目的とする。

【到達目標】
○大学での学びの集大成として、当事者・家族が直面している課題への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 2 回	問題意識の明確化　Ⅱ	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第 4 回	調査研究方法の学習　Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第 5 回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ。
第 6 回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 7 回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 8 回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 9 回	論文計画の検討　Ⅳ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。
第 10 回	文献や資料などの検討 Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 11 回	文献や資料などの検討 Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 12 回	文献や資料などの検討 Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。
第 13 回	調査計画の検討 Ⅰ	調査方法を検討し、改善させる。
第 14 回	調査計画の検討 Ⅱ	調査方法を検討し、改善させる。
第 15 回	中間報告 Ⅰ	進捗報告書提出と議論
第 16 回	中間報告 Ⅱ	進捗報告書提出と議論
第 17 回	中間報告 Ⅲ	進捗報告書提出と議論
第 18 回	論文執筆 Ⅰ	章ごとに第 1 次原稿の提出
第 19 回	論文執筆 Ⅱ	章ごとに第 1 次原稿の提出
第 20 回	論文執筆Ⅲ	章ごとに第 1 次原稿の提出
第 21 回	論文完成に向けての作業 Ⅰ	二次稿提出
第 22 回	論文完成に向けての作業 Ⅱ	二次稿提出
第 23 回	論文完成に向けての作業 Ⅲ	二次稿提出
第 24 回	論文執筆に向けての作業 Ⅳ	二次稿提出
第 25 回	文章最終仕上げ　Ⅰ	発表と修正
第 26 回	文章最終仕上げ　Ⅱ	発表と修正
第 27 回	文章最終仕上げ　Ⅲ	発表と修正
第 28 回	全体報告会	全体に向けて卒業論文の発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備・復習時間は各回 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
個別指導により、適宜提示する。

【参考書】
個別指導により、適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していく。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this course is for students to obtain the skills necessary for writing academic papers.
【到達目標（Learning Objectives）】Students will be able to write sentences based on academic sentence structure and write academic essays 20000 letters in length.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after teaching the academic essays, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】Grading will be decided based on academic essays(80%) , and the quality of the student's performance(20%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
関心のあるテーマについて必要なプロセスを経て卒論として完成させる。

【到達目標】
自ら取り組んできた研究内容を卒業論文として仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導が原則。専門演習と連動し、意見交換・発表の機会を設定していく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題については、学習支援システムまたは Google クラスルームでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	卒論テーマの明確化	卒論に向けた全体像づくり
第 2 回	研究内容・方法の検討①	調査・分析方法を深める①
第 3 回	研究内容・方法の検討②	調査・分析方法を深める②
第 4 回	研究内容・方法の検討③	調査・分析方法を深める③
第 5 回	卒論計画の作成①	研究計画を策定①
第 6 回	卒論計画の作成②	研究計画を策定②
第 7 回	卒論計画の作成③	研究計画を策定③
第 8 回	先行研究のレビュー①	引用する文献・資料の検討①
第 9 回	先行研究のレビュー②	引用する文献・資料の検討②
第 10 回	先行研究のレビュー③	引用する文献・資料の検討③
第 11 回	卒論中間発表準備	現段階の到達点の確認
第 12 回	卒論中間発表①	研究内容の中間発表①
第 13 回	卒論中間発表②	研究内容の中間発表②
第 14 回	卒論中間発表③	研究内容の中間発表③
第 15 回	卒論計画の見直し	研究計画の改善
第 16 回	卒論執筆①	第 1 次原稿提出準備①
第 17 回	卒論執筆②	第 1 次原稿提出準備②
第 18 回	卒論執筆③	第 1 次原稿提出準備③
第 19 回	卒論執筆④	第 1 次原稿提出・修正
第 20 回	卒論執筆⑤	第 2 次原稿提出準備①
第 21 回	卒論執筆⑥	第 2 次原稿提出準備②
第 22 回	卒論執筆⑦	第 2 次原稿提出準備③
第 23 回	卒論執筆⑧	第 2 次原稿提出
第 24 回	卒論発表回①	卒論の発表②
第 25 回	卒論発表回②	卒論の発表③
第 26 回	卒論発表回③	卒論の発表④
第 27 回	卒論の修正・仕上げ	必要に応じて最終調整
第 28 回	卒論完成	完成版の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
フィールド調査を進めつつ、ゼミと個別指導を連動させていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容： 80 %、研究への取り組み（期限遵守等） ： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
学生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】 This course is designed to facilitate the process of students' learning and completion of his/her graduation thesis.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to externalize their learnings in a tangible manner.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on theis development (80%), and research arrangements (deadlines, etc) (20%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境社会学・地域社会学の方法論を用いてフィールドワークを行い、現場に暮らす人びとにとって有効性のある地域づくり・地域ツーリズム政策にかかわる卒業論文を執筆する。

【到達目標】
卒業論文は、3 年間のゼミでの学びの集大成である。生活環境主義の方法論を使って、有効性のある政策論に仕上げることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマを設定し、自ら問いを立て、フィールドワーク、文献調査を行い、得られたデータから有効性のある結論を導き出すための指導と討議を行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	スケジュールの確認と目標設定
第 2 回	論文の構想（1）	テーマと問いの設定方法
第 3 回	論文の構想（2）	方法論や調査技法の確認
第 4 回	論文の構想（3）	対象と方法の選択
第 5 回	論文の構想（4）	目次と章立ての検討
第 6 回	論文の構想（5）	理論仮説を立てる
第 7 回	論文の構想（6）	作業仮説を立てる
第 8 回	論文の構想（7）	研究の意義と限界の検討
第 9 回	先行研究のレビュー（1）	環境社会学における研究史の検討
第 10 回	先行研究のレビュー（2）	地域社会学における研究史の検討
第 11 回	先行研究のレビュー（3）	民俗学・文化人類学における研究史の検討
第 12 回	中間発表会（1）	研究方法の確認と討議
第 13 回	中間発表会（2）	研究の意義の確認と討議
第 14 回	中間発表会（3）	研究のオリジナリティの確認と討議
第 15 回	調査データの分析（1）	データの整理と集計
第 16 回	調査データの分析（2）	データの解釈
第 17 回	調査データの分析（3）	仮説の検証
第 18 回	調査データの分析（4）	モデルの構築の検討
第 19 回	論文執筆（1）	問いと問題関心の見直し
第 20 回	論文執筆（2）	分析視角の確認
第 21 回	論文執筆（3）	先行研究との対話と論敵の設定
第 22 回	論文執筆（4）	目次と章立ての確定
第 23 回	論文執筆（5）	事例の記述と解釈
第 24 回	論文執筆（6）	理論仮説と作業仮説の再検討
第 25 回	論文執筆（7）	分析結果の再検討
第 26 回	論文執筆（8）	結論の見通しの再検討
第 27 回	論文執筆（9）	論文全体の論理構成の再検討
第 28 回	卒業論文の完成	得られた知見をもとに学問の実践性について討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で論文執筆、先行研究レビュー、フィールドワーク、プレゼンテーションの準備など事前学習を進める必要がある。演習後には、教員や仲間からの助言やコメントを卒業論文に反映させる作業が不可欠である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマに応じて適宜紹介する。

【参考書】
受講生の関心や研究テーマに応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点を考慮しつつ、卒業論文（100%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on the quality of the graduation thesis(100%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

水野　雅男

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、集計分析を行い、論文を完成させる。

【到達目標】
○地域づくりへの問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
○調査研究や分析の方法を学び、自ら論文を組み立てる。
○学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。研究室での個別面談とオンラインを組み合わせて指導を行う。
課題の事前提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化①	卒論の意義と問題意識を明確化
第 2 回	問題意識の明確化②	問題意識の深化
第 3 回	調査研究方法の学習①	調査方法・分析の視点①予備調査
第 4 回	調査研究方法の学習②	調査方法・分析の視点②量的調査
第 5 回	調査研究方法の学習③	調査方法・分析の視点③質的調査
第 6 回	論文計画の検討①	調査対象の選定
第 7 回	論文計画の検討②	調査対象の絞り込み
第 8 回	論文計画の検討③	テーマのキーワード抽出
第 9 回	論文計画の検討④	テーマの絞り込み
第 10 回	文献や資料の検討①	先行研究のレビュー
第 11 回	文献や資料の検討②	参考文献のレビュー
第 12 回	文献や資料の検討③	先行研究・参考文献のとりまとめ
第 13 回	調査計画の検討①	調査対象組織の選定
第 14 回	調査計画の検討②	実施調査方法の検討
第 15 回	調査計画の検討③	調査スケジュールの検討
第 16 回	中間報告①	進捗状況の確認
第 17 回	中間報告②	分析結果の確認
第 18 回	中間報告③	残された作業課題の確認
第 19 回	論文執筆①	第一次原稿の提出（第１章）
第 20 回	論文執筆②	第一次原稿の提出（第２章）
第 21 回	論文執筆③	第一次原稿の提出（第３章）
第 22 回	論文のまとめ作業①	第二次原稿の提出（第１章）
第 23 回	論文のまとめ作業②	第二次原稿の提出（第２章）
第 24 回	論文のまとめ作業③	第二次原稿の提出（第３章）
第 25 回	論文のまとめ作業④	第二次原稿の提出（終章）
第 26 回	文章最終仕上げ①	中間発表
第 27 回	文章最終仕上げ②	原稿の第一次修正
第 28 回	文章最終仕上げ③	原稿の第二次修正、校了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習とを連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜提示する。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80 %
研究への取り組み　20 %
上記を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムや Facebook グループにより、学生への連絡や情報共有を図る。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの調査手法について助言する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire that clarify the awareness of the problem for the graduation thesis, perform the aggregate analysis after the necessary research, and complete the thesis.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Clarify the awareness of problems in community development and propose solutions.
Learn the methods of research and analysis, and assemble your own dissertation.
Learn how to write academic sentences and improve your writing skills.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Content of graduation thesis 80%, Research efforts 20%

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

永田　真吾

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯発達心理学の視点から捉えた様々な臨床心理学的援助を基盤として、卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成します。

【到達目標】
興味のある内容や進学・就職などの希望する進路と関わりの深い内容を各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを踏まえて、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導によります。専門演習と連動させ、発表の機会を設けます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化　Ⅰ	卒論の意義
第 2 回	問題意識の明確化　Ⅱ	問題意識を明確化
第 3 回	調査研究方法の学習　Ⅰ	調査方法
第 4 回	調査研究方法の学習　Ⅱ	分析の視点の明確化
第 5 回	調査研究方法の学習　Ⅲ	調査方法、分析方法の決定
第 6 回	論文計画の検討　Ⅰ	調査対象やテーマに基づく研究計画案の策定
第 7 回	論文計画の検討　Ⅱ	調査対象やテーマに基づく研究計画案の検討
第 8 回	論文計画の検討　Ⅲ	調査対象やテーマに基づく研究計画案の修正
第 9 回	論文計画の検討　Ⅳ	調査対象やテーマに基づく研究計画の決定
第 10 回	文献や資料などの検討　Ⅰ	文献収集の注意
第 11 回	文献や資料などの検討　Ⅱ	文献収集の経過報告
第 12 回	文献や資料などの検討　Ⅲ	文献収集の方向の確認
第 13 回	調査計画の検討 Ⅰ	調査方法案の策定
第 14 回	調査計画の検討 Ⅱ	調査方法案の検討
第 15 回	調査計画の検討 Ⅲ	調査方法の決定
第 16 回	中間報告　Ⅰ	進捗報告（調査実施）
第 17 回	中間報告　Ⅱ	進捗報告（調査実施の進捗）
第 18 回	中間報告　Ⅲ	進捗報告（調査実施の終了）
第 19 回	論文執筆　Ⅰ	調査結果の分析（基本統計）
第 20 回	論文執筆　Ⅱ	調査結果の分析（多変量解析等の分析）
第 21 回	論文執筆　Ⅲ	調査結果の文章化
第 22 回	論文完成に向けての作業　Ⅰ	考察の骨子の検討
第 23 回	論文完成に向けての作業　Ⅱ	考察の執筆の進捗
第 24 回	論文完成に向けての作業　Ⅲ	考察の終了
第 25 回	論文完成に向けての作業　Ⅳ	序論を含めた各章の流れ
第 26 回	文章最終仕上げ　Ⅰ	全体の修正
第 27 回	文章最終仕上げ　Ⅱ	最終校正
第 28 回	卒業論文提出	卒業論文の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
個別指導と専門演習を連動させます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容　80%
研究への取り組み　20%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。個別にコミュニケーションを取りながら、適宜改善していきます。

【Outline (in English)】
This seminar is designed to support students write the graduation thesis about developmental and clinical psychology under the supervision. The goal is to create a highly original graduation thesis through presentations and discussions in the specialized exercises. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on graduation thesis(80 %), and research initiatives(20 %).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知行動療法の観点から、臨床心理学の諸問題に関するテーマについての卒業論文を執筆することを指導します。

【到達目標】
卒業論文を執筆する上で、必要な研究スキルを学び、自らの関心あるテーマについて研究を行い、卒業論文を執筆します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別指導を行いながら、先行研究の読み方、研究計画の立案、データ収集・分析、結果の考察等の研究スキルを学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文提出までの流れを確認します。
第 2 回	研究テーマの設定１	各自が関心ある研究テーマを設定します。
第 3 回	研究テーマの設定２	各自が関心ある研究テーマを考えます。
第 4 回	研究テーマの設定３	各自が関心ある研究テーマを検討します。
第 5 回	研究方法の学習１	研究デザインについて学びます。
第 6 回	研究方法の学習２	データの分析方法について学びます。
第 7 回	研究方法の学習３	研究デザインやデータの分析方法について学びます。
第 8 回	研究計画の立案１	各自の研究計画を立案します。
第 9 回	研究計画の立案２	各自の研究計画を立案し、検討します。
第 10 回	研究計画の立案３	各自の研究計画を確認します。
第 11 回	データの収集１	研究データの収集方法を検討します。
第 12 回	データの収集２	研究データの収集方法を検討し、質的データを収集します。
第 13 回	データの収集３	研究データの収集方法を検討し、量的データを収集します。
第 14 回	春学期のまとめ	秋学期が始まるまでの課題を明確にします。
第 15 回	ガイダンス	卒業論文提出のための具体的な作業を確認します。
第 16 回	データの分析１	卒業論文のために収集したデータを整理します。
第 17 回	データの分析３	卒業論文のために収集した質的データを分析します。
第 18 回	データの分析３	卒業論文のために収集した量的データを分析します。
第 19 回	データの分析４	卒業論文のために収集した質的・量的データを分析します。
第 20 回	研究の進捗状況の発表１	研究の進捗状況を発表してもらいます。
第 21 回	研究の進捗状況の発表２	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に指導します。
第 22 回	研究の進捗状況の発表３	研究の進捗状況を発表してもらい、それを踏まえて、個別に指導します。
第 23 回	研究の進捗状況の発表４	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に今後の計画を検討します。
第 24 回	研究の進捗状況の発表５	研究の進捗状況を発表してもらい、個別に今後の計画を話し合います。
第 25 回	卒業論文の本文執筆１	卒業論文の本文（問題）について、指導を行います。
第 26 回	卒業論文の本文執筆２	卒業論文の本文（目的）について、指導を行います。
第 27 回	卒業論文の本文執筆３	卒業論文の本文（方法）について、指導を行います。
第 28 回	まとめ	卒業論文の本文の総仕上げを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文を作成するために、先行研究の展望、研究目的の明確化、データの収集・分析、結果の考察及び本文執筆を計画的に進めることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の研究の質（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生同士で教え合いながら、卒業論文を執筆できるような仕組みを工夫を試みます。

【Outline (in English)】
The goal of this seminar is to research about cognitive behavior therapy. Students will acquire research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research. Your study time will be more than four hours for a class. 3 ： Grading will be decided based on the students'research (100%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の諸問題や援助に関する卒業論文の執筆の指導を行います。

【到達目標】
臨床心理学に関連する研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
個別の指導を行いながら、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の基準、成績評価の条件等を提示します。
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマが収れんするように指導を行います。例：ゼミ生 A～E
3	個人テーマの選定②	例：ゼミ生 F～J
4	個人テーマの選定③	例：ゼミ生 J～O
5	先行研究レビューの指導①	論文執筆のための先行研究をレビューを指導します。例：ゼミ生 A～E
6	先行研究レビューの指導②	例：ゼミ生 F～J
7	先行研究レビューの指導③	例：ゼミ生 J～O
8	研究方法の指導①	各自の卒論テーマに沿った研究方法を指導します。例：ゼミ生 A～C
9	研究方法の指導②	例：ゼミ生 D～F
10	研究方法の指導③	例：ゼミ生 G～I
11	研究方法の指導④	例：ゼミ生 J～L
12	研究方法の指導⑤	例：ゼミ生 M～O
13	研究方法の指導⑥	希望者への指導
14	データ収集のための準備の指導、まとめ	データ収集のための準備について指導し、春学期のふりかえりとまとめを行います
15	秋学期のガイダンス	秋学期のゼミの進め方についてガイダンスします
16	データの収集と分析の指導①	各自のデータの収集と分析の方法について指導します。例：ゼミ生 A～C
17	データの収集と分析の指導②	例：ゼミ生 D～F
18	データの収集と分析の指導③	例：ゼミ生 G～I
19	データの収集と分析の指導④	例：ゼミ生 J～L
20	データの収集と分析の指導⑤	例：ゼミ生 M～O
21	卒論執筆指導①	卒論執筆のための最終的な指導を行います。例：ゼミ生 A、B
22	卒論執筆指導②	例：ゼミ生 C、D
23	卒論執筆指導③	例：ゼミ生 E、F
24	卒論執筆指導④	例：ゼミ生 G、H
25	卒論執筆指導⑤	例：ゼミ生 I、J
26	卒論執筆指導⑥	例：ゼミ生 K、L
27	卒論執筆指導⑦	例：ゼミ生 M、N
28	卒論執筆指導⑧、まとめ	例：ゼミ生 M、O、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文の作成のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文の内容（100%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの結果に基づき、全員が有意義な卒業論文を完成できるようにていねいな指導をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的にわかりやすく指導します。

【Outline (in English)】
You will write graduation thesis with a certain academic level on clinical psychology.
The goal of this course is to complete graduation thesis with a certain academic level on clinical psychology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on graduation thesis (100%).

OTR400JB,OTR400JC

卒業論文

関谷　秀子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**4 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**履修登録をしないと単位が付かないので注意**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い研究テーマを選定する。必要な調査・分析、あるいは文献研究に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】
①自分の問題意識を明確化させ、臨床心理学と学問的に関連付けることができる。②調査研究や文献探索の方法が分かる。③学術的な文章の書き方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
原則、個別指導による。専門演習Ⅲと連動させて発表の機会を設ける。授業計画は学生の卒論テーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性があり得る。オフィス・アワーで、それぞれの課題に対してフィードバックを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化Ⅰ	問題意識を明確化する。
第 2 回	問題意識の明確化Ⅱ	問題意識をまとめる。
第 3 回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の方法を学ぶ。
第 4 回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法をより具体的に学ぶ。
第 5 回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の方法を具体的に決定する。
第 6 回	論文計画の検討Ⅰ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の概要を策定する。
第 7 回	論文計画の検討Ⅱ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の内容を指導する。
第 8 回	論文計画の検討Ⅲ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画の詳細を検討していく
第 9 回	論文計画の検討Ⅳ	調査対象や研究テーマについて議論し、研究計画を最終的に決定する。
第 10 回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を収集し、整理していく。
第 11 回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、知識を蓄積する。
第 12 回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、知識をまとめていく。
第 13 回	調査計画の検討Ⅰ	調査計画の可能性を話し合う。
第 14 回	調査計画の検討Ⅱ	調査計画の詳細を検討しする。
第 15 回	調査計画の検討Ⅲ	調査計画を最終的に決定する。
第 16 回	中間報告Ⅰ	進捗状況を報告する
第 17 回	中間報告Ⅱ	進捗状況を検討する
第 18 回	中間報告Ⅲ	卒論の調査・研究の最終的な結果を報告する
第 19 回	論文執筆の指導Ⅰ	「はじめに」「論文の目的」について、第１次原稿を指導する
第 20 回	論文執筆の指導Ⅱ	「先行研究」「仮説」について第１次原稿を指導する
第 21 回	論文執筆の指導Ⅲ	「結果」「考察」について第１次原稿を提出させる
第 22 回	論文執筆の指導Ⅳ	「はじめに」「論文の目的」について、第２次稿を指導する
第 23 回	論文執筆の指導Ⅴ	「先行研究」「仮説」について第２次稿を提出させる
第 24 回	論文執筆の指導Ⅵ	「結果」について第２次稿を指導する
第 25 回	論文執筆の指導Ⅶ	「考察」について第２次稿を指導する
第 26 回	論文完成	論文の最終チェック
第 27 回	論文の発表会Ⅰ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する①
第 28 回	論文の発表会Ⅱ	パワーポイントを用いて卒業論文を発表する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査研究を行う場合には心理的な統計処理に関する知識や技法は各自でマスターしておくこと。文献研究を行う場合には文献研究に関連する基礎的な専門知識を事前に学習しておくこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
卒業論文への取り組み（30%）とその内容（70%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケート結果集計後検討したい。

【Outline (in English)】
We will specify a theme of one's interest, and choose that theme in conjunction with clinical psychology. We will perform necessary investigation, analysis, document study in order to complete a graduation thesis. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on graduation thesis (30%), and the quality of the students' experimental performance about the graduation thesis (70%).

CAR100JA

キャリアデザイン論

大八木　智一

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2022 年度以前入学者のみ履修可能。2023 年度以降入学者は「N0026 キャリアデザイン入門」を履修すること**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということ、③自らのキャリアをデザインするための最低限のスキル、の 3 点について、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごしていくためのいくつかのヒントを提供していきたいと思います。この授業の中では、自らの人生を歩む上で必要となる長期的なライフデザインの考え方や、社会で活動していくことについての基本的な知見を提供もします。
これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような主体的で自律的な生き方の姿勢を培うことが、この授業の最大の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校までのでは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。さらに、今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢がみなさんには求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan,Do,See）サイクルを回しながら、みなさん自身が主体的に行動していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【この授業は教室での対面授業で実施します】
基本的には教室での対面で授業を実施しますが、一部の授業回がオンライン（オンデマンド型）になります。また新型コロナの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。
毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）
教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。
【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード： SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】

8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①経済学部・社会学部 OB/OG【オンラインを予定】	社会で活躍している経済学部および社会学部出身の先輩たちから、大学での学び方、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成等について、先輩方の実際の経験に基づいてお話しいただく【キーワード：経済学部、社会学部、学び方、就職、キャリア形成】
10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
11	社会で活躍する先輩に学ぶ②現代福祉学部・スポーツ健康学部 OB/OG【オンラインを予定】	社会で活躍している現代福祉学部およびスポーツ健康学部出身の先輩たちから、大学での学び方、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成等について、先輩方の実際の経験に基づいてお話しいただく【キーワード：現代福祉学部、スポーツ健康学部、学び方、就職、キャリア形成】
12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、プランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、プランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 %以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 %以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】
当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】
【授業形態の変更の可能性】新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合（最大約 500 名）は以下の方法によって受講生を決定します。①まず低学年を優先します（授業内容が初年次に学ぶことを前提にした内容が多いため）、②それでも 500 名を大きく上回る場合は「抽選」とします。抽選結果は遅くとも第 2 回授業の前日までに学習支援システム上で告知します。
抽選になった場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。後日の履修申請、履修変更では履修できませんので、ご注意ください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides you with the long-term career design concept Lea you need to live your life and basic knowledge you need to work in society.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is to find the problem ,to think about the solution ,and to have the ability to continue to perform.
【Leaning activities outside of class】
In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.
【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100JA

キャリアデザイン論

大八木　智一

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 学部共通科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 学部共通科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2022 年度以前入学者のみ履修可能。2023 年度以降入学者は「N0027 キャリアデザイン入門」を履修すること**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということ、③自らのキャリアをデザインするための最低限のスキル、の 3 点について、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごしていくためのいくつかのヒントを提供していきたいと思います。この授業の中では、自らの人生を歩む上で必要となる長期的なライフデザインの考え方や、社会で活動していくことについての基本的な知見を提供もします。
これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような主体的で自律的な生き方の姿勢を培うことが、この授業の最大の目的です。

【到達目標】
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。さらに、今日の正解が明日も正しいとは限りません。
そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢がみなさんには求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan,Do,See）サイクルを回しながら、みなさん自身が主体的に行動していける基本的な力を身につけてほしいと思います。
最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【この授業は教室での対面授業で実施します】
基本的には教室での対面で授業を実施しますが、一部の授業回がオンライン（オンデマンド型）になります。また新型コロナの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。
毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）
教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。
また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。
【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？ これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
9	社会で活躍する先輩に学ぶ①経済学部・社会学部 OB/OG【オンラインを予定】	社会で活躍している経済学部および社会学部出身の先輩たちから、大学での学び方、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成等について、先輩方の実際の経験に基づいてお話しいただく【キーワード：経済学部、社会学部、学び方、就職、キャリア形成】
10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
11	社会で活躍する先輩に学ぶ②現代福祉学部・スポーツ健康学部 OB/OG【オンラインを予定】	社会で活躍している現代福祉学部およびスポーツ健康学部出身の先輩たちから、大学での学び方、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成等について、先輩方の実際の経験に基づいてお話しいただく【キーワード：現代福祉学部、スポーツ健康学部、学び方、就職、キャリア形成】
12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、プランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、プランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】

13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。

【参考書】
授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 %以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 %以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】
当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】
【授業形態の変更の可能性】新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。
【質問の受付】授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。
【受講制限】本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合（最大約 500 名）は以下の方法によって受講生を決定します。①まず低学年を優先します（授業内容が初年次に学ぶことを前提にした内容が多いため）、②それでも 500 名を大きく上回る場合は「抽選」とします。抽選結果は遅くとも第 2 回授業の前日までに学習支援システム上で告知します。抽選になった場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。後日の履修申請、履修変更では履修できませんので、ご注意ください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This class provides you with the long-term career design concept Lea you need to live your life and basic knowledge you need to work in society.
【Leaning Objectives】
The goal of this class is to find the problem ,to think about the solution ,and to have the ability to continue to perform.
【Leaning activities outside of class】
In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.
【Grading Criteria/Policy】
In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

BAM100JA

医学概論

瀬戸　宏明

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（自然・スポーツ系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N0151 人体の構造と機能及び疾病」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、社会福祉や臨床心理に必要な基礎的な医学知識を身につける。

【到達目標】
心身機能、身体の構造と機能及び疾病について、基礎的な知識を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿いながら、身体の構造と機能及び疾病について基礎的な知識を学習する。必要に応じてビデオなどの視聴覚教材を使い、理解を深める手助けとする。新型コロナ感染の状況によってはオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更等については、学習支援システムでその都度提示します。
課題等についてのフィードバックは必要に応じて学習支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人の成長・発達と老化	「身体の成長・発達」「精神の成長・発達」「老化」
第 2 回	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について概要を説明
第 3 回	疾病の概要（1）	「生活習慣病」「悪性腫瘍」「脳血管疾患」「心疾患」「高血圧」
第 4 回	疾病の概要（2）	「糖尿病と内分泌疾患」「呼吸器疾患」「消化器疾患」「血液疾患と膠原病」「腎臓疾患」「泌尿器系疾患」
第 5 回	疾病の概要（3）	「骨・関節疾患」「目・耳の疾患」「感染症」「神経疾患と難病」「先天性疾患」「その他の高齢者に多い疾患」
第 6 回	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患	がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾患について概説する
第 7 回	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要	国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について説明する。
第 8 回	障害の概要（1）	「視覚障害」「聴覚障害」「平衡機能障害」「肢体不自由」「内部障害」
第 9 回	障害の概要（2）	「知的障害」「発達障害」「認知症」「高次機能障害」「精神障害」
第 10 回	リハビリテーションの概要（1）	「リハビリテーションとは」「リハビリテーションにおける障害評価」「リハビリテーションの諸段階」
第 11 回	リハビリテーションの概要（2）	「リハビリテーションにかかわる専門職」「リハビリテーションの四つの側面」
第 12 回	健康のとらえ方（1）	「健康の概念とプライマリヘルスケア」「日本の人口統計」
第 13 回	健康のとらえ方（2）	「人口の高齢化と家族」「国民健康づくり対策」「感染症対策」「産業保健」「歯科保健」
第 14 回	授業内テスト（期末テスト）を通しての授業全体の振り返り	期末テストによって授業全体の振り返り学習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業予定の講義内容にかかわるテキスト部分を、その都度事前に目を通して予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　第１巻「人体の構造と機能及び疾病（第３版）』中央法規、2376 円

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：必要に応じて、出席を確認する。
②試験方法：期末に筆記試験を行う。参考書、ノート類の持ち込みは一切＜不可＞
③採点基準：期末試験の点数のみで成績の評価を（100 %）行う。評価に関しては出席等の平常点は考慮しない。ただし出席等の平常点の状況は適時勘案する。
新型コロナ感染によってオンライン授業になった場合、上記の成績評価の方法や評価基準は変更になります。その場合は、学習支援システムを通して通知しますので必ずチェックするようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】
上記の授業スケジュールは授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, students will gain general medical knowledge by being able to identify and describe human body structure, function and disease relevant for social welfare and clinical psychology.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Mental and physical function
- body structure and function
- illness

【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (100%),

ARSx100JB

まちづくりの思想

水野　雅男、図司　直也、土肥　将敦、佐野　竜平、野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1002 コミュニティマネジメント入門」を受講すること。**

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニティマネジメント（まちづくり）とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】
日本国内や海外のコミュニティマネジメント（まちづくり）、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやＤＶＤ等を活用して紹介する。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業（土肥）	地域固有の企業とステイクホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業（土肥）	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業（土肥）	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	世界を知ろう（佐野）	アジアを中心とした世界の動き
第 11 回	グローバル社会のまちづくり（佐野）	広い視野からみるまちづくり
第 12 回	グローバルなまちづくり人材になるために（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 13 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	ＮＰＯと行政のパートナーシップの必要性と実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した実例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】
授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】
授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント（まちづくり）の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:
Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 100%

SOW100JB,SOW100JC

ソーシャルワークⅠ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1005 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習することにより、援助活動の基本スキルを習得することを目指します。

【到達目標】
専門職とは何かを理解するため、その職業の範囲や専門職倫理について学習し、加えて臨床心理士等をはじめとする他職種との連携することの意義などについて具体的に説明できるように学習していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義	社会福祉士および介護福祉士法と精神保健福祉士についての講義
第 3 回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義とその内容	ジェネラリスト視点に基づく相談援助の実際についての説明と DVD 鑑賞
第 4 回	ソーシャルワークの概念と範囲①	ソーシャルワークの定義についての講義（国際ソーシャルワーカー連盟など）
第 5 回	ソーシャルワークの概念と範囲②	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織協会）の講義
第 6 回	ソーシャルワークの概念と範囲③	ソーシャルワークの形成過程（セツルメント）についての講義
第 7 回	ソーシャルワークの目的と原則	講義と課題説明
第 8 回	ソーシャルワークの理念①	ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義
第 9 回	ソーシャルワークの理念②	社会正義、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献を用いた事例検討と講義
第 10 回	ソーシャルワークにおける権利擁護の概念とその範囲	講義と小グループでの討議
第 11 回	ソーシャルワーカーの概念と実践の範囲	福祉行政、民間施設・組織における相談援助専門職と諸外国の動向
第 12 回	社会福祉職の倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理や日本社会福祉士会倫理綱領に基づいた事例検討
第 13 回	地域福祉の基盤整備と他職種連携の必要性	講義と事例検討
第 14 回	ソーシャルワークにおける最近の動向 ◆定期試験範囲の発表	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
･社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職　第 3 版』中央法規　2015 年
･副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005 年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー, 授業内課題の提出が 50 %, 筆記試験が 50 %の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていきます。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】： Final grade will be calculated according to the following process report (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

SOW100JB,SOW100JC

ソーシャルワークⅠ（相談援助の基盤と専門職）

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降 2020 年度以前入学者は「N6005 ソーシャルワークⅠ」を受講すること。2021 年度以降入学者は「N1005 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習することにより、援助活動の基本スキルを習得することを目指します。

【到達目標】
専門職とは何かを理解するため、その職業の範囲や専門職倫理について学習し、加えて臨床心理士等をはじめとする他職種との連携することの意義などについて具体的に説明できるように学習していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義	社会福祉士および介護福祉士法と精神保健福祉士についての講義
第 3 回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義とその内容	ジェネラリスト視点に基づく相談援助の実際についての説明と DVD 鑑賞
第 4 回	ソーシャルワークの概念と範囲①	ソーシャルワークの定義についての講義（国際ソーシャルワーカー連盟など）
第 5 回	ソーシャルワークの概念と範囲②	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織協会）の講義
第 6 回	ソーシャルワークの概念と範囲③	ソーシャルワークの形成過程（セツルメント）についての講義
第 7 回	ソーシャルワークの目的と原則	講義と課題説明
第 8 回	ソーシャルワークの理念①	ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義
第 9 回	ソーシャルワークの理念②	社会正義、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献を用いた事例検討と講義
第 10 回	ソーシャルワークにおける権利擁護の概念とその範囲	講義と小グループでの討議
第 11 回	ソーシャルワーカーの概念と実践の範囲	福祉行政、民間施設・組織における相談援助専門職と諸外国の動向
第 12 回	社会福祉職の倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理や日本社会福祉士会倫理綱領に基づいた事例検討
第 13 回	地域福祉の基盤整備と他職種連携の必要性	講義と事例検討
第 14 回	ソーシャルワークにおける最近の動向 ◆定期試験範囲の発表	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっていただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。
①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
･社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職　第 3 版』中央法規　2015 年
･副田あけみ『社会福祉援助技術論　　ジェネラリスト・アプローチの視点から』誠信書房　2005 年

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②試験方法：筆記試験
③成績評価:リアクションペーパー, 授業内課題の提出が 50 %, 筆記試験が 50 %の割合で総合的に評価します。課題提出が全くない場合、定期試験を受けても評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】
実践現場の話を積極的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていく。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】The purpose of this course is to help students acquire the knowledge, skills and values of social work.
【到達目標（Learning Objectives）】In this lecture, the goal is to describe the role of social workers and the effect of collaboration with other occupations.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】： Final grade will be calculated according to the following process report (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

ARSx200JB

地域の歴史と文化

野田　岳仁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基礎科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1055 ローカルイノベーション論」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】
ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教員４名（水野・図司・土肥・野田）が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。１地域を２回の講義で構成し、１回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。２回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／イントロダクション（水野・図司・土肥・野田）	ローカルイノベーションとは何か
第 2 回	半島先端におけるローカルイノベーション①（水野）	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 3 回	半島先端におけるローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 4 回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第 5 回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②（水野・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 6 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①（野田）	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 7 回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 8 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①（野田）	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第 9 回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②（土肥・野田）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 10 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①（図司）	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第 11 回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 12 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①（図司）	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第 13 回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②（図司・土肥）	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第 14 回	総括（水野・図司・土肥・野田）	６事例からの学びと提言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】
講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーへのコメント）100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
講義を担当する４名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW200JB

コミュニティソーシャルワーク

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1056 ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を基盤とするソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の展開方法について、その基本的な内容やプロセスについて理解することを目的とする。コミュニティソーシャルワークについて基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考法や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】
地域を基盤としたソーシャルワークの内容とプロセスについて説明することができる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことがことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのＤＶＤなどを視聴する。対面授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の状況にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
演習問題及び課題については、解説を行い、各自で見直しができるようにする。なお、毎回リアクションペーパーに質問・感想を記入させ、必要に応じて次回の講義でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地域における福祉問題とソーシャルワーク実践	地域を基盤としたソーシャルワーク実践の目的と特徴（理解しやすい事例を用いて）
第 2 回	コミュニティソーシャルワークの概念と今日的意義	事例等を通しての基本的な理解
第 3 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス①	地域におけるニーズ把握の方法
第 4 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス②	ニーズの焦点化と共有化
第 5 回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス③	プランニングとモニタリング、評価
第 6 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容①	小地域ネットワーク活動
第 7 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容②	当事者のエンパワメントと組織化、ボランティアコーディネート
第 8 回	コミュニティソーシャルワークの実践内容③	ＮＰＯ支援、社会資源の開発、改善、ネットワーキング
第 9 回	事例を用いたコミュニティソーシャルワーク実践の展開①	個別アセスメント
第 10 回	実践の展開②	地域アセスメント
第 11 回	実践の展開③	アセスメントの統合
第 12 回	実践の展開④	サポートネットワーク図の作成
第 13 回	実践の展開⑤	プランニング
第 14 回	実践の展開⑥	プランニングの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、２～３とする。
準備・復習時間は、４時間以上。

【テキスト（教科書）】
宮城　孝『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』明石書店,2022 年,1,980 円【税込み】
平野隆之・宮城　孝・山口　稔『コミュニティとソーシャルワーク　地域福祉論』有斐閣、2008 年

【参考書】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例ー』中央法規、2019 年
宮城　孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017 年
宮城　孝他編著『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例』中央法規、2018 年
日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2014 年
日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006 年

【成績評価の方法と基準】
①　平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容 (30%)
②　試験期間内に行う理解度を問う試験 (70%)
　両方により総合的に行う。諸状況により、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】
ＤＶＤ等による事例の視聴

【その他の重要事項】
・本授業は、コミュニティソーシャルワークに関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、高齢者福祉施設での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がコミュニティソーシャルワークの基本的なスキルを習得することを図ることとする。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
This course learn about basic understanding and thinking skills about the Community social work.

【到達目標（Learning Objectives)】
The goals of this course A and B.
A To understanding about the basic contents and skills of Community social
work.through the case analysis.
B To cultivates practical skills and creativity.basic understanding and thinking skills of Community social work.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on Short report(30%), Term-end examination(70%)

SOW200JB,SOW200JC

ソーシャルワークⅢ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1057 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、およびスーパービジョンについて学ぶ。

【到達目標】
①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グルー プワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。
授業終了後にリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、成績評価について
第 2 回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係
第 3 回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第 4 回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第 5 回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第 6 回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第 7 回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第 8 回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第 9 回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）
第 10 回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第 11 回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第 12 回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第 13 回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第 14 回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。
授業への能動的参加（40 %）、試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、情報機器（パソコン）を準備しておくこと。

【Outline (in English)】
This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

PSY200JB,PSY200JC

カウンセリング

末武　康弘

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N1058 心理学的支援法」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、 訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
･代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
･訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
･心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
･良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
･心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
･心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実際についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第 2 回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第 3 回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第 4 回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第 5 回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第 6 回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第 7 回	主要理論（その 1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第 8 回	主要理論（その 2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第 9 回	主要理論（その 3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第 10 回	主要理論（その 4）	認知行動療法について学びます。
第 11 回	主要理論（その 5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第 12 回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。
第 13 回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第 14 回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」と「理解度確認テスト」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
末武康弘（2018）『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎―』誠信書房

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）と毎回の課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach, community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
− understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 60%、Assignments after each class meeting: 40%.

SOW200JB

現代福祉特講（国際地域開発）

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
科目分類･科目群(臨床心理)：**総合教育科目 視野形成科目（社会系）**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N1059 アジア地域開発論」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東南アジアを中心にアジアの現代福祉に関する最新事情を日本と対比しつつ理解する。

【到達目標】
東南アジアを中心にアジアの最新事情を学ぶとともに、現代福祉に関連した基礎情報・傾向を網羅的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
東南アジアを中心にアジアの最新事情をインプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	アジアの全体像	アジア全体を俯瞰的に紹介
第 3 回	中国の最新事情	中国の今を学ぶ
第 4 回	韓国・台湾の最新事情	韓国・台湾の今を学ぶ
第 5 回	インドの最新事情	インドの今を学ぶ
第 6 回	アジアの実際を学ぶ①	アジアから実況中継①
第 7 回	タイ・ラオスの最新事情	タイ・ラオスの今を学ぶ
第 8 回	カンボジア・ミャンマーの最新事情	カンボジア・ミャンマーの今を学ぶ
第 9 回	インドネシア・マレーシアの最新事情	インドネシア・マレーシアの今を学ぶ
第 10 回	フィリピン・ベトナムの最新事情	フィリピン・ベトナムの今を学ぶ
第 11 回	ブルネイ・シンガポールの最新事情	ブルネイ・シンガポールの今を学ぶ
第 12 回	アジアの実際を学ぶ②	アジアから実況中継②
第 13 回	課題発表	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on Asian regional development in the context of social policy and administration.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW200JB,SOW200JC

ソーシャルワークⅢ（方法）

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降 2020 年度以前入学者は「N6057 ソーシャルワークⅢ」を受講すること。2021 年度以降入学者は「N1057 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの実践過程に係る知識と技術、およびスーパービジョンについて学ぶ。

【到達目標】
①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
③ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
事例等を通して、ソーシャルワークにおける援助関係の形成、ソーシャルワークの展開過程の意義、目的、方法、留意点、ケアマネジメント、グル－ プワークの意義、目的、原則、展開、およびソーシャルワークの記録とスーパービジョン・コンサルテーション、カンファレンスの定義、意義、機能と方法について講義する。
授業終了後にリアクションペーパーや課題を提出してもらい、次回講義の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義のねらいと進め方、成績評価について
第 2 回	ソーシャルワークにおける援助関係の意義と概念	ソーシャルワーカーとクライエントシステムの関係
第 3 回	援助関係の形成方法	自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール
第 4 回	面接技術	面接の意義、目的、方法、留意点、面接の場面と構造、面接の技法
第 5 回	アウトリーチ	アウトリーチの意義、目的、方法、留意点、アウトリーチを必要とする対象、ニーズの掘り起こし
第 6 回	ソーシャルワークの過程①	ケースの発見（アウトリーチ、スクリーニング）、インテーク（インテークの意義、目的、方法、留意点、契約）
第 7 回	ソーシャルワークの過程②	アセスメント（アセスメントの意義、目的、方法、留意点）、プランニング（プランニングの意義、目的、方法、留意点、効果と限界の予測、支援方針・内容の説明・同意）
第 8 回	ソーシャルワークの過程③	支援の実施（支援の意義、目的、方法、留意点）、モニタリング（モニタリングの意義、目的、方法、留意点、効果測定）、支援の終結と事後評価（支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点）、アフターケア（アフターケアの目的、方法、留意点）
第 9 回	ソーシャルワークの記録	記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上、支援の継続性、一貫性、機関の運営管理、教育、研究、アカウンタビリティ）、記録の方法と実際（記録の文体（叙述体、要約体、説明体等）、項目式（フェースシート等）、図表式（ジェノグラム、エコマップ等）
第 10 回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則（ケアマネジメントの歴史、適用と対象）、ケアマネジメントの意義と方法（ケアマネジメントの意義、ケアマネジメントのプロセス、ケアマネジメントのモデル）
第 11 回	集団を活用した支援①	グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）、グループワークの原則（個別化の原則、受容の原則、参加の原則、体験の原則、葛藤解決の原則、制限の原則、継続評価の原則）
第 12 回	集団を活用した支援②	グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）、セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則、体験的知識、役割モデルの習得、援助者の役割）
第 13 回	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義、目的、方法（スーパービジョンの定義、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係、スーパービジョンの機能、スーパービジョンの形態と方法）、コンサルテーションの意義、目的、方法（コンサルテーションの定義、コンサルタントとコンサルティーの関係、コンサルテーションの方法）
第 14 回	カンファレンスと事例分析	カンファレンスの一義、目的、留意点、カンファレンスの運営と展開、事例分析の意義、目的、事例検討、事例研究の意義、目的、方法、留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜紹介する文献については読み、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
窪田暁子著『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠信書房 2013 年
その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、リアクションペーパー、試験の総合評価とする。
授業への能動的参加（40 %）、試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布、課題の提出等は学習支援システムを利用するため、情報機器（パソコン）を準備しておくこと。

【その他の重要事項】
医療機関、外国人支援ＮＧＯでのソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワークの理論と方法について講義する。

【Outline (in English)】
This course introduces the interaction between people and the environments, microlevel, midlevel, macro level intervention, the theories and practice models, social work knowledges, values, skills, the concepts and process of community social work, care management, and supervision. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of social work theories as an empowering profession, the various elements that make up social work and practice the role of social worker on assessment.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、Short reports : 40%

SOW300JB

司法福祉論

辰野　文理

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1114 刑事司法と福祉」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、刑事司法の概略とその中の更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる基礎的知識を習得することをめざす。
更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることで、再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける制度である。更生保護の対象となるのは、刑務所から仮釈放になった人、少年院から仮退院になる少年、家庭裁判所で保護観察処分となった少年、保護観察付き執行猶予の言い渡しを受けた人などである。
更生保護は、こうした人々を対象に、遵守事項の遵守を求め、生活上必要な指導を行って、改善更生への指導を行うとともに、自立した生活を営むことができるようにするために必要に応じて住居や職を得る援助を行う。その他、恩赦、犯罪予防活動など、更生保護の内容は多岐にわたる。こうした制度に関わるのは、保護観察官、保護司の他に、更生保護施設、更生保護女性会、BBS 会、協力雇用主などである。
近年、刑務所を出所した高齢者や障害者を福祉サービスにつなぐことで再犯を防止する対策が打ち出されており、その中の福祉へのつなぎ役として、刑務所や更生保護施設、検察庁に関わる社会福祉士の役割が重要となってきている。そこで本講義では、資料等により刑事司法や更生保護の個々の制度を学習する。受講者はこの学習を通じ、刑事司法、少年司法の概要と更生保護制度に対する理解を深めることができる。

【到達目標】
・刑事司法、少年司法、更生保護等、本授業で扱う基本的用語の意味を説明できる。
・本授業で扱う種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
・刑事司法の流れと福祉との関わりを説明できる。
・犯罪者処遇の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとに各事項の概要を講義と討議により学習した上で、基本的事項の振り返り課題を行いながら進行する。振り返り課題へのフィードバックとして、解説、講評を行うとともに、区切りごとに、振り返りを行う。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。また、諸状況により、授業形式に変更がありうる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、少年非行の動向、再犯の状況等	犯罪動向、少年非行の動向、再犯の状況等を把握した上で、刑事司法の流れを学習する。
2	刑事司法を取り巻く環境	再犯の防止等の推進に関する法律を軸に、再犯防止のための取り組みを学習する。
3	刑事司法と刑事司法機関	刑法、犯罪の成立要件、刑事司法機関の概要などを学習する。
4	刑事司法と犯罪者処遇	犯罪原因論を概観した上で、犯罪者処遇へのつながりについて学習する。
5	少年司法	少年法、少年事件の手続を概観した上で、少年鑑別所や少年院の役割について学習する。
6	犯罪被害者支援	犯罪被害の状況、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者支援の展開等を学習する。
7	更生保護制度の概要	更生保護制度の意義、歴史、関連機関を学習する。
8	仮釈放、生活環境の調整	仮釈放等の概要と性格環境の調整について学習する。
9	保護観察	保護観察の種類、遵守事項等を学習する。
10	保護観察の詳細	保護観察処遇の具体的な内容について学習する。
11	更生緊急保護、更生保護施設等	更生緊急保護の対象や内容、更生保護施設の概要を学習する。
12	医療観察制度	医療観察制度の概要を学習する。
13	更生保護に関わる機関や民間協力者、犯罪者処遇における近年の動向	犯罪者の処遇に関する近年の話題や施策、司法と福祉との連携について学習する。
14	最終確認試験、解説	学習範囲の全般を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、毎時間、資料等の該当箇所に目を通して授業に臨む。授業後、復習として、学習した範囲を見直し、振り返り問題を行う。
また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しない。適宜資料を配付する。

【参考書】
・法務省保護局のサイト
（http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html）
・日本更生保護学会編『更生保護学事典』成文堂,2021 年
・辰野文理『要説 更生保護 [3 版]』成文堂,2018 年
・藤本・生島・辰野 (編)『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房,2016 年

【成績評価の方法と基準】
各回の区切りごとに振り返りの確認テストを行い、その履修状況及び結果を評価する（30%）。
全範囲学習後に基本的知識の定着度を確認するための試験を行う（70 %）。
成績の評価はこれらを総合して 100 点満点として行い、60 点以上が合格となる。
フィードバックとして、順次確認問題の解答を提示する。最終試験実施後、講評を行う。

【学生の意見等からの気づき】
多くの受講生にとって犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

【その他の重要事項】
法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".
"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.
The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menus of the support are common, too.　Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".
Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Criminal Justice", "Juvenile Justice" and "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.
【Learning Objectives】
· To be able to explain the meaning of basic terms used in this class.
· To be able to explain the subject matter and specific details of the various procedures covered in this class.
· To be able to explain the flow of criminal justice and its relation to welfare.
· To be able to discuss the significance and issues of the treatment of offenders from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
[Preparation: 60 minutes: Have a look at the relevant parts of the textbook to grasp an overview.
[Review: 60 minutes] Have a look at the relevant parts of the text and deepen your understanding of them to leave nothing unclear.
Keep yourself interested in everyday life and follow media reports concerning how offenders are treated after their troublemaking, in order to deepen your understanding of criminal justice and offenders rehabilitation.
【Grading Criteria /Policy】
A paper exam will be given to test how well you have established your basic knowledge. Its scores will be considered for your grades (80%).
The level of effort in the quiz for review (20%).
The final exam will be used to evaluate whether the students have understood the fundamentals of the entire course.
The answers to the quizzes will be presented as feedback.　The final exam will be followed by a critique.

SOW300JB

国際支援論

佐野　竜平

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N1116 国際協力論」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】
学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第 4 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第 5 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第 6 回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際を学ぶ①
第 7 回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第 8 回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第 9 回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第 10 回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際を学ぶ②
第 11 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第 13 回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
外務省　開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
Google フォームによるリアクションペーパーの提出（平常点）： 50 %、課題提出（発表含む）： 50%

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

SOW200JB,SOW200JC

ソーシャルワークⅡ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2020 年度以前入学者のみ受講可能。2021 年度以降入学者は「N1210 ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
･人と環境の交互作用について説明できる。
･それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。授業ごとのリアクションペーパーを活用し、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 3 回	実践モデル	心理社会的アプローチ 機能的アプローチ
第 4 回	アプローチ①	問題解決アプローチ 課題中心アプローチ
第 5 回	アプローチ②	行動変容アプローチ 認知アプローチ
第 6 回	アプローチ③	危機介入アプローチ
第 7 回	アプローチ④	エンパワメントアプローチ ナラティヴアプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	コミュニティワーク
第 10 回	アプローチ⑦	ネットワーク カンファレンス
第 11 回	アプローチ⑧	社会資源の活用・調整・開発
第 12 回	アプローチ⑨	ソーシャルアクション
第 13 回	アプローチ⑩	総合的かつ包括的な支援の実際
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、学習支援システムに授業の時間に検討する事例をアップするので、それを読んできてください。同時に、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規

【参考書】
川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
･平常点 60%
･期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論についてできるだけわかりやすい解説に努めます。学習支援システムを活用し、効果的な事前・事後学習ができるよう進めていく予定です。

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice.
Learning Objectives are to be able to explain the interaction between people and the environment, and to describe each social work practice model and approach.
Please prepare for the class by reading the relevant textbook before the class. In addition, please read the case studies that will be discussed in class time as they will be uploaded to the learning support system. At the same time, please use the reference books and handouts to prepare for and review the material, so that you can deepen your understanding. The standard preparation and review time for this class is 3 hours each.
Grading Criteria will be based on 60% of normal points and 40% of final report.

SOW200JB,SOW200JC

ソーシャルワークⅡ（理論）

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降 2020 年度以前入学者は「N6210 ソーシャルワークⅡ」を受講すること。2021 年度以降入学者は「N1210 ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーカーが支援の対象とする問題やニーズの状況を理解するための知識と、具体的な介入のための知識から構成される、ソーシャルワークのための理論について理解する。

【到達目標】
･人と環境の交互作用について説明できる。
･それぞれのソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、講義とともに、事例検討を中心としたグループワークを行う。授業ごとのリアクションペーパーを活用し、次の回の授業でフィードバックを行う。基本的には対面授業で実施するが、感染状況に応じて ZOOM を活用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	人と環境との交互作用	システム理論 生態学理論 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
第 3 回	実践モデル	治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル
第 4 回	アプローチ①	心理社会的アプローチ
第 5 回	アプローチ②	機能的アプローチ
第 6 回	アプローチ③	問題解決アプローチ
第 7 回	アプローチ④	課題中心アプローチ
第 8 回	アプローチ⑤	行動変容アプローチ
第 9 回	アプローチ⑥	認知アプローチ
第 10 回	アプローチ⑦	危機介入アプローチ
第 11 回	アプローチ⑧	エンパワメントアプローチ
第 12 回	アプローチ⑨	ナラティヴアプローチ
第 13 回	アプローチ⑩	解決志向アプローチ さまざまなアプローチ
第 14 回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に該当するテキストを読んで予習をしておいてください。また、学習支援システムに授業の時間に検討する事例をアップするので、それを読んできてください。同時に、参考書や配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてもらえればと思います。本授業の準備・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（2021）『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規

【参考書】
川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規
久保紘章・副田あけみ編著（2006）『ソーシャルワークの実践モデル− 心理社会的アプローチからナラティブまで− 』川島書店

【成績評価の方法と基準】
･平常点 60%
･期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
授業では理論についてできるだけわかりやすい解説に努めます。学習支援システムを活用し、効果的な事前・事後学習ができるよう進めていく予定です。

【Outline (in English)】
This course provides students with opportunities to develop knowledge of theoretical perspective for social work practice.
Learning Objectives are to be able to explain the interaction between people and the environment, and to describe each social work practice model and approach.
Please prepare for the class by reading the relevant textbook before the class. In addition, please read the case studies that will be discussed in class time as they will be uploaded to the learning support system. At the same time, please use the reference books and handouts to prepare for and review the material, so that you can deepen your understanding. The standard preparation and review time for this class is 3 hours each.
Grading Criteria will be based on 60% of normal points and 40% of final report.

CIM300JB,CIM300JC

精神医学

関谷　秀子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N1216 精神疾患とその治療」を受講すること。**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
精神科医療の歴史と現状を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主にＰＣプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第 2 回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第 3 回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第 4 回	精神症状学①	「神経心理学」
第 5 回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第 6 回	精神障害①	「統合失調症」
第 7 回	精神障害②	「気分障害」
第 8 回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第 9 回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第 10 回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第 11 回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第 12 回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第 13 回	精神医学的治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
「思春期に心が折れた時親がすべきこと－不登校、うつ状態、発達障害」関谷秀子　中央公論新社　2020.10
代表的な精神疾患の説明とその疾患のケースについて記載されている。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】
精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

【Outline (in English)】
The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination(100%).

PSY300JB,PSY300JC

臨床心理学Ⅰ

金築　優

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1～4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ受講可能**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「臨床心理学とは何か」について、その歴史、基本理論、介入技法等を概説します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を理解し、臨床心理学の全体像をつかむことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を概説していきますが、なるべく身近な問題を取り上げ、各自が具体的に考えながら、理解を深めていければと考えています。適宜受講生の授業の疑問や感想も参考にしながら、進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容や進め方について説明し、成績の評価方法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史（1）	欧米での臨床心理学の歴史を取り上げます。
第 3 回	臨床心理学の歴史（2）	日本における臨床心理学の歴史を紹介し、現状を概説します。
第 4 回	臨床心理学が対象とする問題（1）	乳幼児期及び児童期における心理的問題を取り上げます。
第 5 回	臨床心理学が対象とする問題（2）	思春期及び青年期における心理的問題を取り上げます。
第 6 回	臨床心理学が対象とする問題（3）	中年期及び老年期における心理的問題を取り上げます。
第 7 回	臨床心理学におけるアセスメント（1）	心理的問題を理解するための異常心理学を紹介します。
第 8 回	臨床心理学におけるアセスメント（2）	アセスメントで用いられる質問紙法や投影法を紹介します。
第 9 回	臨床心理学におけるアセスメント（3）	アセスメントで用いられる知能検査法や神経心理学的検査を紹介します。
第 10 回	臨床心理学における理論と介入技法（1）	クライエント中心療法を概説します。
第 11 回	臨床心理学における理論と介入技法（2）	精神分析を概説します。
第 12 回	臨床心理学における理論と介入技法（3）	認知行動療法を概説します。
第 13 回	社会のなかでの臨床心理活動	教育、医療・保健、産業等の領域における臨床心理活動を紹介します。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、臨床心理学の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。また、授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、課題を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と期末レポート（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的な要素も工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】
学校・教育領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

【Outline (in English)】
This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JB,PSY300JC

臨床心理学

金築　優

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ受講可能**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「臨床心理学とは何か」について、その歴史、基本理論、介入技法等を概説します。

【到達目標】
この授業の到達目標は、臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を理解し、臨床心理学の全体像をつかむことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を概説していきますが、なるべく身近な問題を取り上げ、各自が具体的に考えながら、理解を深めていければと考えています。適宜受講生の授業の疑問や感想も参考にしながら、進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。
課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容や進め方について説明し、成績の評価方法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史（1）	欧米での臨床心理学の歴史を取り上げます。
第 3 回	臨床心理学の歴史（2）	日本における臨床心理学の歴史を紹介し、現状を概説します。
第 4 回	臨床心理学が対象とする問題（1）	乳幼児期及び児童期における心理的問題を取り上げます。
第 5 回	臨床心理学が対象とする問題（2）	思春期及び青年期における心理的問題を取り上げます。
第 6 回	臨床心理学が対象とする問題（3）	中年期及び老年期における心理的問題を取り上げます。
第 7 回	臨床心理学におけるアセスメント（1）	心理的問題を理解するための異常心理学を紹介します。
第 8 回	臨床心理学におけるアセスメント（2）	アセスメントで用いられる質問紙法や投影法を紹介します。
第 9 回	臨床心理学におけるアセスメント（3）	アセスメントで用いられる知能検査法や神経心理学的検査を紹介します。
第 10 回	臨床心理学における理論と介入技法（1）	クライエント中心療法を概説します。
第 11 回	臨床心理学における理論と介入技法（2）	精神分析を概説します。
第 12 回	臨床心理学における理論と介入技法（3）	認知行動療法を概説します。
第 13 回	社会のなかでの臨床心理活動	教育、医療・保健、産業等の領域における臨床心理活動を紹介します。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、臨床心理学の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。また、授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、課題を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と期末レポート（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的な要素も工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】
学校・教育領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

【Outline (in English)】
This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

PSY300JB,PSY300JC

教育心理学

大瀧　玲子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門展開科目**
科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2023 年度の授業実施日は、8 月 1 日（火）、2 日（水）、7 日（月）。2017 年度以前の入学者のみ受講可能。2018 年度以降入学者は「N1225 教育心理学特講」を受講すること。教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育心理学の基礎的な知見を習得すること、また臨床心理学的視点を交え学校における様々な問題について理解を深めることを目標とする。子どもが発達していくプロセスや学習についての心理学的な知見に加え、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。

【到達目標】
教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリアクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学とはなにか	教育心理学の成り立ち、オリエンテーション
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	適応と障害の理解	適応とはなにか、また教育相談や障害について学ぶ
4	対人関係の発達の理解	親子関係や仲間関係など様々な対人関係の発達と学校教育について学ぶ
5	幼児期，児童期，青年期の心理的問題（青年期）	幼児期、児童期、青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習と動機づけ	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ
7	学級集団の心理学	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ
8	パーソナリティの理解	パーソナリティの理解と測定について学ぶ
9	知的発達のメカニズム	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ
10	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応①	不登校やいじめ、非行の理解と対応について学ぶ
11	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応②	発達障害の理解と対応について学ぶ
12	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応③	障害児の心理、特別支援教育などについて学ぶ
13	社会における学校	学校内外での連携やスクールカウンセラーの活用について学ぶ
14	総括	授業について振り返り、課題と今後の展望についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前の学習　新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ　鎌原雅彦・竹綱誠一郎　著
「ベーシック現代心理学 6　教育心理学」有斐閣　子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司　著

【成績評価の方法と基準】
期末試験（60 %）
授業参加およびリアクションペーパー等（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
Educational Psychology
Course outline:
This course introduces educational psychology to students taking this course.
Learning Objectives:
The goal of this course is to acquire basic knowledge of educational psychology and to deepen understanding of various problems in schools from the perspective of clinical psychology.
Learning activities outside of classroom:
・Lecture/Exercise (two-credits)
Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria/Policies:
Your overall grade in the class will be decided based of the following
Term-end examination 60%, Short reports and in class contribution 40%

PSY300JC

臨床心理学Ⅱ

末武　康弘

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N1505 臨床心理学特講」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】
この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）から抜粋した講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論（1）：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論（2）：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論（3）：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論（4）：実存、現象学、超越	ビンスワンガーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論（5）：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論（6）：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論（7）：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルピやベックの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論（8）：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論（9）：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論（10）：エスノ、自然、真空	日本的エスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論（11）：折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の発展課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
おもに思春期〜老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】
In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.
At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii . And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 60%、Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC

投映法特論

津村　麻紀

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 専門展開科目**
配当年次／単位数：**2〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**抽選科目。2018 年度以降入学者は科目名称・授業コードが異なる（投映法特講／ N1511）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
投映法を中心とした心理検査の種類と意義に着目し、各種心理検査の理論および解釈を学ぶと共に、被検者の心理的体験について理解する。

【到達目標】
代表的な質問紙法と投映法の種類と意義を把握し、各種心理検査の理論および解釈について説明することができる。被検者体験を通して被検者の心理を理解し、自分自身で検査結果の整理を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
代表的な質問紙法と投映法の心理検査について理論的学習と被検者体験を行う。講義内で体験した各種心理検査の採点・解釈の方法を解説し、学生自身に実施してもらう。リアクションペーパーやグループディスカッションで理解度を確認する。リアクションペーパー等の課題に対するフィードバックは講義内で適宜行う。授業形式は対面授業を基本とするが、新型コロナ感染症行動指針レベルの変化に伴う授業形式や授業計画に変更がある場合は、学習支援システムでその都度通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	投映法を学ぶということ	オリエンテーション
第 2 回	質問紙法概論	質問紙法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第 3 回	矢田部ギルフォード性格検査（YG 性格検査）	YG 性格検査を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 4 回	東大式エゴグラム（TEG）	TEG を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 5 回	ミネソタ多面的人格目録（MMPI）	MMPI を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 6 回	投映法概論	投映法の理論と種類、検査者の態度を学ぶ
第 7 回	絵画欲求不満テスト（P-F スタディー）	P-F スタディーを体験し、理論と解釈を学ぶ
第 8 回	文章完成法（SCT）	SCT を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 9 回	描画法	バウムテスト、HTP 等の描画法を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 10 回	絵画統覚検査（TAT）	TAT を体験し、理論と解釈を学ぶ
第 11 回	ロールシャッハテスト①	集団ロールシャッハテストを体験する
第 12 回	ロールシャッハテスト②	ロールシャッハテストの理論と解釈を学ぶ
第 13 回	臨床場面における質問紙法と投映法	臨床場面での質問紙法と投映法の活かし方を学ぶ
第 14 回	学期末試験・まとめと解説	学期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内で体験した心理検査を自分で採点・解釈し、講義内容の理解を深める。また、授業外で心理検査に関するレポートを作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。
適宜、講義内で参考文献を紹介し資料を配布する。

【参考書】
適宜、講義内で参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（60 %）および平常点（40 %）の合計で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
体験学習の希望が多いため、被検者体験を中心に授業を実施する。

【その他の重要事項】
投映法は、クライエントが検査を受ける時にどのような気持ちになるか、クライエントが検査結果を聞いてどう捉えるかを理解することは重要で、それらの情報はアセスメントの重要な材料ともなります。したがって、理論的学習だけではなく体験的学習への積極的な取り組みを期待します。

【Outline (in English)】
This course offers an overview of the theory and history of various psychological tests including projective tests. At the end of this course, students are expected to master the theory and the way of calculation and interpretation of each test, to understand subject's psychological tendencies through test learning. Before each class meeting, students will be expected to complete required psychological test, and to review contents learned after each class. Your home study time will be more than two hours at a time. Grading will be decided based on in-class contribution(40%), and term-end examination(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2011）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2012）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2013）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2015）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2016）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2017）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅱ／ N2018）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

安西　美咲

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N2021）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

小野田　由実子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N2022）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門)』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

島谷　綾郁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N2023）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門)』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅲ／ N2024）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】
・ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
・ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
・ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
①総合的かつ包括的な支援に係る具体的な事例を体系的に取り上げる。
②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	ケースの発見 アウトリーチ
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	エンゲージメント
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

安西　美咲

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N2031）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

小野田　由実子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N2032）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

島谷　綾郁

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N2033）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅳ

西田　ちゆき

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅳ／ N2034）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】
・ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
・ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①貧困
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ひきこもり
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV)
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦災害時
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧終末期ケア
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワーキング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】
なお、授業計画は担当教員により変更する場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (40%) and in-class contribution (60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／ N2034）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各２時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／ N2035）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／ N2036）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各２時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅴ

髙良　麻子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク演習Ⅴ／ N2037）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワーク実習や社会福祉関連科目等での学びをもとに、ソーシャルワークの価値、知識、技術の総体としての実践能力の習得を目指す。中でも、人びとのウェルビーイングの増進と社会正義の実現に向けて、ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的変化を目標とした、分野横断的で包括的なソーシャルワークの実践方法・技術の統合的な活用を習得することに注目する。

【到達目標】
・人と環境との関係からニーズを把握できる。
・ミクロ・メゾ・マクロシステムの交互作用の仮説が構築できる。
・クライエントがニーズを充足できる交互作用への連鎖的変化を構想できる。
・ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処を検討できる。
・ソーシャルワークの実践方法・技術を活用して、変化を促進する介入を試すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指定する設定のソーシャルワーカーとしてグループで検討しながら、ロールプレイ等によってソーシャルワークの実践展開過程を擬似体験する。そのため、事前の準備と授業中での積極的な参加が求められる。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	所属組織の理解	組織アセスメント
第 3 回	地域の理解と実践環境の整備	地域アセスメント ネットワーキング
第 4 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践①	ニーズの発見・アウトリーチ エンゲージメント
第 5 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践②	エンゲージメント・アセスメント
第 6 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践③	アセスメント（ケース会議） チームアプローチ プレゼンテーション ファシリテーション
第 7 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践④	アセスメント（連鎖的変化の構想）
第 8 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑤	プランニング（連鎖的変化に向けた計画）
第 9 回	特定のクライエントのニーズ充足に向けた実践⑥	プランニング（ケース会議） ファシリテーション コーディネーション
第 10 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処①	メゾ・マクロシステムの問題把握
第 11 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処②	メゾ・マクロシステムの問題への対応策検討
第 12 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処③	メゾ・マクロシステムの問題への対応検討 （地域ケア推進会議） ファシリテーション
第 13 回	ニーズ充足を阻害する社会的障壁への対処④	メゾ・マクロシステムの問題への対応 ネゴシエーション
第 14 回	実習・演習の総括	まとめと振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業に向けて、与えられた課題について十分に準備し、学習した内容については振り返りを行うこと。本授業の準備・復習時間は各2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座７ ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規
髙良麻子・佐々木千里編著（2022）『ジェネラリスト・ソーシャルワークを実践するために– スクールソーシャルワーカーの事例から– 』かもがわ出版.

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加態度 100 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
本授業は、ソーシャルワーク実習を履修した者のみ履修できる。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and principles of social work practices.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

伊藤　正子

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2091）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

岩田　美香

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2092）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

岡田　栄作

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2093）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

佐藤　繭美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2095）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

宮城　孝

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2096）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

岩田　千亜紀

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2097）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

山崎　禎広

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3 年次／ 4 単位**
備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者は授業コードが異なる（ソーシャルワーク実習Ⅱ／ N2098）ため注意。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。
②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】
①実習施設の機能・運営について理解する
②社会福祉士の業務や役割について理解する
③関係職種の役割や機能について理解する
④利用者のニーズを適切に理解する
⑤地域の特性とニーズについて理解する
⑥多職種連携のあり方を理解する
⑦関連する地域のネットワークや社会資源について理解する
⑧地域における分野横断的・業種横断的な関係形成について理解する
⑨社会資源の活用・調整・開発について理解する
⑩援助者として適切な観察・記録ができる
⑪実践場面において必要とされるソーシャルワークの技術を理解する
⑫利用者やその関係者と信頼関係を築き、適切な関わりがもてる
⑬特定の課題あるいは利用者に対してアセスメントができる
⑭アセスメントに基づいて、適切な行動（支援）ができる
⑮実習記録や「実習のまとめ」等で実習課題とその成果についてまとめることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回と帰校日等を通して行う。なお、巡回、帰校日指導によりフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する施設・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員により適宜指示する。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline (in English)】
This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.Students will be enhancing their necessary skills and knowledge in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grading will be decided based on the final report(40%) and evaluation in field instruction(60%).

PSY300JC

臨床心理実習指導Ⅰ

金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N2501 心理演習Ⅰ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、演習を通して身につけ、心理実習につなげます。

【到達目標】
心理実習の事前における学習を通して、臨床心理に関する基本的な知識と技能を高め、自己理解を深めることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理の実践に必要な知識と援助技能を、役割演技や事例検討を通して学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、演習の展開によって、内容の若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	支援を要する者に関する知識及び技能①	心理実習の現場担当者（小学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 3 回	支援を要する者に関する知識及び技能②	心理実習の現場担当者（中学校関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 4 回	支援を要する者に関する知識及び技能③	心理実習の現場担当者（教育相談関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 5 回	支援を要する者に関する知識及び技能④	心理実習の現場担当者（保育関連）を招いて、現場で必要な知識や技能を学びます。
第 6 回	心理実習のための知識と技能①	心理実習の事前指導として、実習で求められるコミュニケーションについて学びます。
第 7 回	心理実習のための知識と技能②	心理実習の事前指導として、心理検査について学びます。
第 8 回	心理実習のための知識と技能③	心理実習の事前指導として、心理面接について学びます。
第 9 回	心理実習のための知識と技能④	心理実習の事前指導として、地域支援について学びます。
第 10 回	心理実習先を踏まえた知識と技能①	支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。
第 11 回	心理実習先を踏まえた知識と技能②	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。
第 12 回	心理実習先を踏まえた知識と技能③	多職種連携及び地域連携。
第 13 回	心理実習先を踏まえた知識と技能④	公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。
第 14 回	まとめ	半期の演習を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習内容を振り返って、自己理解を深めるための学習を行うことや、心理実習に向けての志望書等の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業での積極性、授業態度による平常点（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The goal of this seminar is to acquire knowledge for practical training. Major topics include psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Off-campus practical training takes place at mainly educational area. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

PSY300JC

臨床心理実習指導Ⅱ

金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、小田　友理恵

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 1 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N2502 心理演習Ⅱ」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理の基本的な知識及び技能を、主に事例検討を通して身につけます。

【到達目標】
役割演技や事例検討を通して、（1）心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能、（2）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（3）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、（4）多職種連携及び地域連携、（5）心理専門職としての職業倫理及び法的義務について、学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の体験を深めるための検討と学習を行い、最終的には報告書を作成します。なお、演習の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	医療分野において心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	医療系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 3 回	福祉分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	福祉系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 4 回	教育分野における心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能	教育系の見学実習体験を踏まえ、ディスカッションします。
第 5 回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 6 回	心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 7 回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 8 回	心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 9 回	多職種連携及び地域連携（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 10 回	多職種連携及び地域連携（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 11 回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（1）	各自の施設実習体験（特に、医療・福祉系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 12 回	心理専門職としての職業倫理及び法的義務（2）	各自の施設実習体験（特に、教育系）を踏まえながら、事例検討を通して学びます。
第 13 回	報告書の検討	これまでの学びの報告書の作成を通して、自己理解を深めます。
第 14 回	まとめ	これまでの演習のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
これまでの見学実習や施設実習での体験を踏まえて、自己理解を深めるための学習を行うことや、報告書の執筆作業が求められます。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習での積極性、演習態度による平常点（60%）と事例の報告（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習科目のためアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. At the conference, students introduce cases from the school where they are receiving practical training. Lecturers and students in the case study group have a free discussion. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on case reports (60%), and in-class contribution (40%).

PSY300JC

臨床心理実習

金築　優、末武　康弘、丹羽　郁夫、望月　聡、関谷　秀子、服部　環、小田　友理恵、久保田　幹子

科目分類･科目群(臨床心理)：**専門教育科目 演習・実習科目**
配当年次／単位数：**3〜4 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2017 年度以前入学者のみ履修可能。2018 年度以降入学者は「N2503 心理実習」を受講すること。**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野の複数の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、下記の事項を実習を通して学習することである。
（ア） 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
（イ） 多職種連携及び地域連携
（ウ） 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
クラスに分かれ、担当教員の指導のもと、実習計画を策定するとともに、配属施設の実習指導者から指導を受け、合計 80 時間以上の実習を行う。実習期間中は、担当教員が巡回指導、または、実習生が帰校し、実習課題に応じて指導を行う。なお、下記の授業計画の内容は、実習施設との調整で時期は入れ替わることがある。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実習施設でのガイダンス	実習施設で担当者から実習の内容や期間についてのガイダンスを受ける。
第 2 回	保健医療施設見学実習 第 1 回	入院施設等の見学実習
第 3 回	保健医療施設見学実習 第 2 回	デイケア等の見学実習
第 4 回	福祉施設見学実習　第 1 回	児童養護施設の見学実習
第 5 回	福祉施設見学実習　第 2 回	児童相談所等の見学実習
第 6 回	学校等教育施設等での実習　第 1 回	学校等教育施設等（例、A 小学校）の施設実習
第 7 回	学校等教育施設等での実習　第 2 回	学校等教育施設等（例、B 小学校）の施設実習
第 8 回	学校等教育施設等での実習　第 3 回	学校等教育施設等（例、C 小学校）の施設実習
第 9 回	学校等教育施設等での実習　第 4 回	学校等教育施設等（例、D 小学校）の施設実習
第 10 回	学校等教育施設等での実習　第 5 回	学校等教育施設等（例、E 小学校）の施設実習
第 11 回	学校等教育施設等での実習　第 6 回	学校等教育施設等（例、F 小学校）の施設実習
第 12 回	学校等教育施設等での実習　第 7 回	学校等教育施設等（例、G 小学校）の施設実習
第 13 回	学校等教育施設等での実習　第 8 回	学校等教育施設等（例、A 中学校）の施設実習
第 14 回	学校等教育施設等での実習　第 9 回	学校等教育施設等（例、B 中学校）の施設実習
第 15 回	学校等教育施設等での実習　第 10 回	学校等教育施設等（例、C 中学校）の施設実習
第 16 回	学校等教育施設等での実習　第 11 回	学校等教育施設等（例、D 中学校）の施設実習
第 17 回	学校等教育施設等での実習　第 12 回	学校等教育施設等（例、E 中学校）の施設実習
第 18 回	学校等教育施設等での実習　第 13 回	学校等教育施設等（例、F 中学校）の施設実習
第 19 回	学校等教育施設等での実習　第 14 回	学校等教育施設等（例、G 中学校）の施設実習
第 20 回	学校等教育施設等での実習　第 15 回	学校等教育施設等（例、A 教育センター）の施設実習
第 21 回	学校等教育施設等での実習　第 16 回	学校等教育施設等（例、B 教育センター）の施設実習
第 22 回	学校等教育施設等での実習　第 17 回	学校等教育施設等（例、C 教育センター）の施設実習
第 23 回	学校等教育施設等での実習　第 18 回	学校等教育施設等（例、A 保育園）の施設実習
第 24 回	学校等教育施設等での実習　第 19 回	学校等教育施設等（例、B 保育園）の施設実習
第 25 回	学校等教育施設等での実習　第 20 回	学校等教育施設等（例、C 保育園）の施設実習
第 26 回	学校等教育施設等での実習　第 21 回	学校等教育施設等（例、D 保育園）の施設実習
第 27 回	学校等教育施設等での実習　第 22 回	学校等教育施設等（例、E 保育園）の施設実習
第 28 回	学校等教育施設等での実習　第 23 回	学校等教育施設等（例、F 保育園）の施設実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の達成課題を明らかにすること。また、施設ごとにまとめを行い、全体の実習終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本実習の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
指定施設の実習態度や実習記録および実習指導者の評価 80 %、報告書 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
「心理実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をしている事が必要です。また、「心理演習」の授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、実習施設と相談の上、実習中止とすることがあります。

【Outline (in English)】
The goal of this practical training is to acquire practice-based knowledge of clinical psychology. For example, Students are placed in middle/high schools for a certain period of time. They will develop practical skills.

Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

SOW200JB

ケアマネジメント論

柴崎　祐美

科目分類･科目群(福祉ｺﾐｭﾆﾃｨ)：**専門教育科目 専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2～4 年次／ 2 単位**

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ケアマネジメント概念を国際的な視点から理解し、わが国におけるケアマネジメントの実態とその課題について学習します。

【到達目標】
･ケアマネジメントの定義や構造、機能を理解し、説明することができる。
･介護保険制度におけるケアマネジメントの具体的なプロセスを説明、展開することができる。
･児童福祉、障害者福祉分野等、さまざまな対象や場面で展開されるケアマネジメントの特性を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を主体としつつ、適宜、映像教材の視聴、演習、グループディスカッションを実施します。
授業の始めに前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、ケアマネジメントの背景	授業の進め方と評価方法、ケアマネジメントの背景の説明
第 2 回	ケアマネジメントの概念および定義	国際的な概念の理解、日本における定義の理解
第 3 回	ケアマネジメントの構造、機能	ケアマネジメントの構成要素と機能の概略の理解
第 4 回	ケアマネジメントの過程	ケアマネジメントの過程の理解
第 5 回	自立支援	自立の捉え方、エンパワメント、ストレングスモデルの理解
第 6 回	ニーズの把握と目標設定	生活ニーズとサービスニーズの構造を整理し、社会資源に結びつける過程を検討
第 7 回	ケアマネジメントにおける家族の位置づけ	社会資源及び支援対象者としての家族の位置づけの確認。介護負担軽減のへの支援方法の検討
第 8 回	地域包括ケアシステムとケアマネジメント	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの位置、コミュニティワークとの関係
第 9 回	介護保険制度とケアマネジメント①	認知症高齢者のケアマネジメントに関する事例検討、演習
第 10 回	介護保険制度とケアマネジメント②	介護予防ケアマネジメントと地域支援事業に関する事例検討、演習
第 11 回	介護保険制度とケアマネジメント③	高齢障害者のケアマネジメントの連続性、相談支援専門員との連携に着目した事例検討、演習
第 12 回	児童福祉とケアマネジメント	医療的ケアを要する児童の地域生活支援の事例検討、演習
第 13 回	ケアマネジメントの価値と倫理	ケアマネジャーの倫理綱領、ケアプラン作成時の倫理的ジレンマ
第 14 回	試験・まとめと解説	ケアマネジメントの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
･本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
･利用者の生活を取り巻く環境、法制度は変化しています。日ごろから新聞記事や文献・雑誌等から関連する情報収集に努めてください。

【テキスト（教科書）】
指定なし。必要に応じてプリントや資料を配布します。

【参考書】
･白澤政和（2018）『ケアマネジメントの本質:生活支援のあり方と実践方法』中央法規出版.
･社会福祉士養成テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ』（出版社は問わない、最新刊を参照することが望ましい）

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパー等）30%、小レポート（ケアプラン作成演習）20%、筆記試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡、課題提出は「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire understand the concept of care management from international perspective and learn about the actual condition and issues of care management in Japan
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:
－ Explain the definition, structure, and function of care management.
－ Explain and implement the process of care management in long-term care insurance.
－ Explain the characteristics of care management implemented in welfare for children, the person with disabilities, etc.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 20%、in class contribution: 30%

SOW500J1

福祉社会研究法Ⅰ

野田　岳仁、土肥　将敦、岡田　栄作、金　慧英

科目分類・科目群：**専門共通科目**
配当年次／単位数：**年次／単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉領域および地域領域における研究の方法論と技法についてマスターすることを目的とする。

【到達目標】
研究のデザインから調査データの収集と分析、論文執筆に至るまで、研究の一連の流れについて理解し、修士論文執筆に向けて必要な研究方法と論文執筆の作法について習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」「DP7」「「DP9」「DP10」関連

【授業の進め方と方法】
福祉領域および地域領域における研究方法、論文執筆の作法についてオムニバス形式で授業を運営する。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で積極的に活用する。授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	文献検索・データベース活用法①（金）	図書館にて文献検索とデータベース活用法について学ぶ（前半）
第 2 回	文献検索・データベース活用法②（金）	図書館にて文献検索とデータベース活用法について学ぶ（後半）
第 3 回	福祉領域における調査法とアプローチ（金）	高齢者福祉の現場から考える
第 4 回	質的調査の方法①（土肥）	イントロダクションとフィールド課題解説
第 5 回	質的調査の方法②（土肥）	フィールド調査と研究デザイン
第 6 回	質的調査の方法③（土肥）	フィールド調査と質的調査法
第 7 回	質的調査の方法④（野田）	フィールドワークの方法
第 8 回	質的調査の方法⑤（野田）	参与観察の方法
第 9 回	質的調査の方法⑥（野田）	ライフヒストリー（生活史）の方法
第 10 回	質的調査の方法⑦（野田）	問いの立て方と論文執筆の技法
第 11 回	量的調査の方法①（岡田）	量的研究の論文の構成と読み方
第 12 回	量的調査の方法②（岡田）	量的研究の研究デザイン
第 13 回	量的調査の方法③（岡田）	量的研究の質問紙の作成方法
第 14 回	量的調査の方法④（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、各回のテキストや教材についての十分な事前学習が求められる。

【テキスト（教科書）】
各回のテキストは下記の通り。事前に入手し、内容を理解しておくこと。
［第 7-10 回］岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会研究の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣（2016 年）
［第 11-14 回］近藤克則『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院（2018 年）
その他の回については、講義内で適宜指示がある。

【参考書】
参考書および参考文献については講義内で適宜指示がある。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80%）とリアクションペーパーや課題等の提出物（20%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできないが、受講生の意見を積極的に取り入れていく。

【その他の重要事項】
授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションや学習支援システムを通じて連絡する。

【担当教員の専門分野等】
【土肥将敦】
〔専門領域〕
企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
〔研究テーマ〕
ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
〔主要業績〕
『社会的企業者』（単著、千倉書房、2022 年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）
【岡田栄作】
〔専門領域〕
福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
〔研究テーマ〕
介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
〔主要業績〕
『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020 年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019 年）
【金慧英】
〔専門領域〕
高齢者福祉、介護専門職支援
〔主要業績〕
「介護職員のバーンアウト要因についての一考察:職場環境の管理体制に着目して」『Human Welfare』11(1)（共著、2019 年）
「韓国の介護職員の主観的職場環境認識とバーンアウトに関する研究」『人間福祉学研究』11(1)（共著、2018 年）
【野田岳仁】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master concepts of social welfare and community studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of social welfare and community studies.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (80%), and the quality of the students' performance（Reaction papers and reports）(20%).

SOW500J1

地域共生社会特論

水野　雅男、佐野　竜平、図司　直也、布川　日佐史、宮城　孝、眞保　智子

科目分類・科目群：**専門共通科目**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**
（開講予定日）
佐野　9 月 23 日
宮城　10 月 7 日
眞保　10 月 21 日
**　　または 28 日**
布川　11 月 4 日
**　　または 11 日**
図司　11 月 18 日
**　　または 25 日**
水野　12 月 2 日と
**　　12 月 16 日**
**　　(2 回)**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉サイド（例：個別・地域・政策レベルの生活問題解決）およびまちづくり・地域創生サイド（例：興味・関心から始まるまちづくり）の両アプローチを念頭に置いた諸問題を様々な専門領域（担当教員の専門領域は下記参照）に照らして理解する。

【到達目標】
人・暮らしを中心に据えた生活問題の解決・改善、地域課題の解決を目指した地域づくりやまちづくりに関して、社会福祉と地域づくりの両面から具体的な理論・実践力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
教員 6 名がオムニバス形式で講義を担当する。外部講師を招聘することもある。遠隔地からの講義の【オンライン型】、または対面とオンラインを組み合わせて実施する【ハイブリッド型授業】での開講となる。本講義のお知らせ・教材・課題およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム等でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	障害インクルーシブな開発①（佐野）	国内外の開発課題
第 2 回	障害インクルーシブな開発②（佐野）	インクルーシブなコミュニティ実践
第 3 回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開①（宮城）	包括的支援システム構築への展望と課題
第 4 回	地方自治体における包括的支援システムとコミュニティソーシャルワークの展開②（宮城）	包括的支援システム構築とコミュニティソーシャルワークの展開
第 5 回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク①（眞保）	企業等産業分野における包摂
第 6 回	合理的配慮提供と産業ソーシャルワーク②（眞保）	ダイバーシティマネジメント
第 7 回	生活困窮者の社会参加支援①（布川）	社会参加支援の基礎理論
第 8 回	生活困窮者の社会参加支援②（布川）	社会参加支援の実践
第 9 回	地域マネジメントと地域経済循環①（図司）	農村コミュニティの基礎的理解
第 10 回	地域マネジメントと地域経済循環②（図司）	内発的発展の考え方とその実践
第 11 回	障害者等の社会的包摂を目指した市民事業①（水野）	社会的包摂を目指す政策の展開
第 12 回	障害者等の社会的包摂を目指した市民事業②（水野）	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第 13 回	ホームレスの社会的包摂を目指した市民事業①（水野）	社会的包摂を目指すローカルビジネスの展開
第 14 回	ホームレスの社会的包摂を目指した市民事業②（水野）	ホームレスの就業支援を目指す農園経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて講義中に資料を配布。

【参考書】
講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】
平常点（各講義中のリアクションペーパー等）100%

【学生の意見等からの気づき】
これまでの受講者の声を踏まえて、講義内容を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義のための機器（パソコン、スマートフォン等）

【その他の重要事項】
主な研究領域
1) 佐野（アジアの障害インクルーシブな開発）
2) 宮城（コミュニティソーシャルワーク、包括的支援システム）
3) 眞保（障害者雇用と就労支援　若者支援）
4) 布川（生活困窮者への社会参加の権利保障）
5) 図司（農山村における地域経営の仕組みづくりと地域経済循環）
6) 水野（社会的包摂の市民事業）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to provide students with an understanding of community and social cohesion. The topics covered will be diverse to provide an overview of areas that impact on social policies and community development. The goal of this course students will be enhancing their necessary knowledge in social work and community management. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on contributions (100%: including in-class reports) within class.

SOW500J1

ソーシャルワーク特論Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでのソーシャルワーク実践では、当事者支援のプロセスにおける死別ケアや看取りについて語られることが少ない状況であった。しかしながら、人口の高齢化や核家族化などの社会状況の変化により、ソーシャルワーク実践において、当事者の死別ケアや看取りにかかわることが求められつつある。こうした状況をふまえ、本講義ではソーシャルワーク実践における死別ケアのあり方について考究していくことを目的とする。

【到達目標】
本講義を通して、生と死について考究し、学問的見地をふまえた自らの意見を表明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には、いくつかの代表的な死をめぐる諸説を取り上げ、学習していく。そのうえで、当事者の死別体験にソーシャルワーカーはいかにしてかかわっているのかをディスカッションや事例を通して検討し、ソーシャルワークにおける死別ケアのあり方について考察する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしている

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義要領と内容説明
第 2 回	死をめぐる諸説の説明	死別に関する先行研究の説明
第 3 回	死をめぐる諸説の説明と検討	死別に関する先行研究の説明と議論
第 4 回	死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第 5 回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実際	先行研究および文献検討
第 6 回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実際	ソーシャルワーク実践における具体的な死別ケアに関するグループディスカッションを行う
第 7 回	死生観と援助観との関連性	文献検討とディスカッション
第 8 回	死生観の援助観との関連性	文献検討とグループディスカッション
第 9 回	死別に関する DVD 鑑賞	死別に関する DVD を鑑賞する
第 10 回	全体討議	死別に関する DVD 鑑賞をうけて、グループディスカッションを行う
第 11 回	医療職とソーシャルワーカーの立ち位置について	説明とディスカッション
第 12 回	医療職とソーシャルワーカーの実践比較	論文検討
第 13 回	他職種とのかかわりの違い	これまで学習したことを踏まえてのディスカッション
第 14 回	総括	生と死についてのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
①一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ』、②一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの理論と方法』　なお、本講義の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
坂口幸弘（2010）『悲嘆学入門』昭和堂

【成績評価の方法と基準】
レポート（50 %）、知識・技術の習得（50 %）を総合的に評価する。
特に、発表と討議に備えた先行研究の読み込み、自主学習については、成績評価の際のポイントとなる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
日常生活において「死」について考える機会が少ないため、その機会を提供することについて評価をいただいたので、その点を意識して講義を展開したい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.
【Learning Objectives】The purpose of this lecture is to be able to express one's views on life and death.
【Learning activities outside of classroom】The preparation and review time for this lecture will be about 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW500J1

ソーシャルワーク理論研究特論

伊藤　正子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソーシャルワークの理論の変遷とそれぞれの時代における実践モデルを学ぶ。

【到達目標】
ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。
ソーシャルワークの各実践モデルの特徴と限界について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、ソーシャルワークを歴史的に概観し、各実践モデルが発展してきた過程を整理する。その上で、テキストに沿いながら、ソーシャルワークにおける各実践モデルについて、起源・影響、問題理解の視点、介入原理・技法・過程、ターゲットグループ、残された課題、日本における展開の７つの項目について整理していく。対面を基本としつつ、状況に応じてオンライもしくはハイブリッドでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第 2 回	ソーシャルワークの歴史	視点、価値、思想
第 3 回	実践モデル①	心理社会的アプローチ
第 4 回	実践モデル②	機能的アプローチ
第 5 回	実践モデル③	問題解決モデル
第 6 回	実践モデル④	家族療法とソーシャルワーク
第 7 回	実践モデル⑤	行動療法とソーシャルワーク
第 8 回	実践モデル⑥	課題中心ソーシャルワーク
第 9 回	実践モデル⑦	生態学的 (エコロジカル）アプローチ
第 10 回	実践モデル⑧	ジェネラリスト・アプローチ
第 11 回	実践モデル⑨	ケアマネジメント
第 12 回	実践モデル⑩	ソーシャルサポート・ネットワーク
第 13 回	実践モデル⑪	エンパワメント・アプローチ
第 14 回	実践モデル⑫	構成主義・ナラティブアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の該当部分をテキストに沿って学習しておくこと。また報告担当者は、テキスト内の参考文献や、授業中に紹介する文献・資料などを中心に、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
久保紘章・副田あけみ著『ソーシャルワークの実践モデル　心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店　2005 年、
一部の理論に関する文献については、受講生と相談の上決定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．課題発表 (50%)
２．授業への能動的参加 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは未実施

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ソーシャルワークの実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduce the different perspectives and skills of social work theory　to students taking course. By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. Explain how aid perspectives, methods, and goals have changed over the course of social work development.
-B. Explain the characteristics of each practical model of social work.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.Grading will be decided based on reports and presentation (50%), in-class contribution (50%).

SOW500J1

ソーシャルワーク・スーパービジョン

佐藤　繭美、岩田　美香、伊藤　正子、髙良　麻子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**
第 1・2 回　 9 月 30 日
第 3・4 回　 10 月 7 日
第 5・6 回 10 月 28 日
第 7・8 回 11 月 11 日
第 9・10 回 11 月 25 日
第 11・12 回 12 月 09 日
第 13・14 回 12 月 23 日

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、専門職として、ソーシャルワーク実践を言語化、文章化できるよう学習し、そのうえで、実践者としての支援のあり方を省察できるよう、スーパービジョンの実際を学習し、そのスキルを向上していくことを目的とします。

【到達目標】
専門職として、自らの実践を振り返り省察することにより、スーパービジョンを含む実践力の質を向上していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、ソーシャルワーク実践におけるスーパービジョンの実際について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらいます。提出された課題は、授業内でコメントをしたり、学習支援システムを通じてフィードバックしていきます。
※授業の内容等によっては、オンラインにて実施します。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	スーパービジョンとは何か①	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	スーパービジョンとは何か②	スーパービジョンの歴史と定義・種類
第 3 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何か①	ジェネラリスト視点に基づくソーシャルワークの概要説明
第 4 回	ジェネラリスト・ソーシャルワークとは何か②	ジェネラリスト・ソーシャルワークの実際の検討
第 5 回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際①	ゲスト・スピーカーによる講義
第 6 回	ソーシャルワーク・スーパービジョンの実際②	ゲスト・スピーカーとの討議
第 7 回	子ども家庭福祉領域におけるスーパービジョンの実際①	子どもと家族の理解、スーパービジョンについての講義
第 8 回	子ども家庭福祉領域におけるスーパービジョンの実際②	子ども家庭福祉領域におけるスーパービジョンについての討議
第 9 回	医療領域におけるスーパービジョンの実際①	医療領域におけるスーパービジョンの方法
第 10 回	医療領域におけるスーパービジョンの実際②	医療領域におけるスーパービジョンについての討議
第 11 回	事例を用いたスーパービジョン①	講義と事例検討
第 12 回	事例を用いたスーパービジョン②	事例検討と討議
第 13 回	事例を用いたスーパービジョン③	ライブスーパービジョンの実際
第 14 回	スーパービジョンの課題	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実践者向けの講義となる部分が多いので、スーパービジョンを実施したい事例についてまとめておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜紹介していきます。

【参考書】
・福山和女/渡辺律子/小原真知子他編（2018）『保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン』ミネルヴァ書房
・山崎美貴子監修（2018）『ソーシャルワーカーの成長を支えるグループスーパービジョン』中央法規

【成績評価の方法と基準】
①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
②成績評価:リアクションペーパー, 授業内課題の提出が 50 %, 最終課題 50 %の割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新設科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで授業を受講する機会があるため、パソコン等を準備してください。

【その他の重要事項】

【担当教員の専門分野】
【高良麻子】
ソーシャルワーク、ソーシャルアクション
【岩田美香】
子ども・家族福祉論、教育福祉論、ソーシャルワーク
【伊藤正子】
多文化ソーシャルワーク、医療福祉論
【佐藤繭美】
ソーシャルワーク、グリーフケア、セルフヘルプグループ

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this course, students will learn how to verbalize social work practice and will enhance their necessary skills including social work supervision by reflecting on their own practice.
【到達目標（Learning Objectives）】
The goal is to improve the quality of practice skills, including supervision, by reflecting and reflecting on one's own practice as a professional.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on in-class assignments (50%) and term-end assignments(50%).

SOW500J1

地域福祉特論

宮城　孝

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたソーシャルワークの方法（コミュニティソーシャルワーク）について、その概念、関連する理論、今日的意義について理解を図るとともに、実践現場における具体的なスキルについて、事例を用いた演習によって修得を図る。また、地域福祉のシステムの開発、整備の在り方について、先進的な事例の分析によって理解を図る。

【到達目標】
コミュニティソーシャルワークの理論の内容について説明できる。
地域を基盤としたソーシャルワークの一連のスキルを説明できる。
自らの事例について、アセスメントからプランニングを適切に設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
講義、演習、事例分析などによる。課題に対して学生個人、また学生が協力して演習による作業を通して課題解決型学習を重視する。レポートへのコメントやリアクションペーパーなどを通して、疑問等へのフィードバックを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、ＣＳＷの概念等
第 2 回	ＣＳＷの理論と今日的な意義	理論と今日的な意義、先進事例分析
第 3 回	個別課題アセスメントの視点と方法	演習（個別課題アセスメントの視点と方法）
第 4 回	個別課題アセスメントの実際	演習（個別課題アセスメントの実際）
第 5 回	地域アセスメントの視点と方法	地域アセスメントの視点と方法
第 6 回	地域アセスメントの実際	演習（地域アセスメントの実際）
第 7 回	アセスメントの統合の視点と方法	演習（アセスメントの統合の実際）
第 8 回	ソーシャルサポートマップの作成	演習（ソーシャルサポートマップの作成）
第 9 回	プランニングの方法	コミュニティソーシャルワークのプランニングの方法
第 10 回	プランニングの実際	演習（プランニングの実際）
第 11 回	地域ネットワークの形成	視点と方法、先進事例の分析等
第 12 回	地域福祉のシステム開発	視点と方法、先進事例の分析等
第 13 回	地域福祉計画と包括的支援システムについて	地域福祉計画と包括的支援システムについての視座
第 14 回	包括的支援システムの先進事例について	先進事例の分析、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示した文献や演習課題等をレポートやワークシートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】
宮城　孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開- 理論と先進事例-』中央法規、2019 年

【参考書】
宮城　孝『住民力-超高齢社会を生き抜くチカラ-』明石書店,2022 年
宮城　孝共編『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』明石書店、2021 年、
宮城　孝ほか編著『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』中央法規、2018 年
中島　修、菱沼幹男『コミュニティソーシャルワークの理論と実践」中央法規、2015 年　他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、レポート等の提出とその内容 30 %により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の関心のある研究テーマに応じ、地域福祉との関連について探求する機会を設けることとする。

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、その経験を活かしてコミュニティソーシャルワークのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』（共編著）中央法規,2021 年
・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』（単著）明石書店,2022 年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2021 年
・『仮設住宅　その 10 年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020 年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進事例ー」（共編著）中央法規、2019 年、
・『地域福祉とファンドレイジングー理論と先進事例ー」（編著）中央法規、2018 年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表・共著）中央法規,2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（編集担当・共著）中央法規,2015 年
・『相談援助演習』（編著）ミネルヴァ書房、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクターー』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course learn about practical understanding and thinking skills about the Community social work.

【Learning Objectives】
The goals of this course A and B.
A Practical understanding and thinking skills about the Community social work.
B To consider about Community welfare problem and system having to do with
today.
【Learning activities outside of classroom)】
Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on Short report(30%), the quality of the students' experimental performance in the lab(70%)

SOW500J1

児童福祉特論

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもにとって家族は、安寧と権利が保障される場であると同時に、ストレスをもたらし虐待のような権利侵害の場としても存在している。この講義では、文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。あわせて、子どもと家族への援助についての検討を行う。

【到達目標】
・子どもと家族がおかれている現状を把握する。
・子ども家庭福祉、教育、それらに関連する研究論文を読み解く。
・子どもと家族に対するソーシャルワークおよび教育に関して、学際的な検討を行う。
・履修者の研究関心と照らし合わせ、批判的意見も含めて検討する。
・議論の積み重ねを各自の研究にフィードバックしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の到達目標を達成するため、本年度は家族とジェンダーに関する基本的文献を題材として、各自の研究関心との関連で議論していく。
・履修者は、自身の研究関心をもとに、全員が文献に関する論点を書き出したペーパーを毎回用意し、それをもとに議論を進めていく。
・各自の研究について発表し、様々な領域や視点からの検討を行う。
・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方、各自の問題関心について
第 2 回	近代家族のゆらぎ①	ファミリィ・アイデンティティのゆくえ
第 3 回	近代家族のゆらぎ②	家族の臨界―ケアの分配公正をめぐって
第 4 回	個人研究発表 1	各自の研究関心について発表し議論する（２～３名）
第 5 回	近代家族のゆらぎ③	家族、積みすぎた方舟
第 6 回	近代家族のゆらぎ④	女性の変貌と家族
第 7 回	個人研究発表 2	各自の研究関心について発表し議論する（２～３名）
第 8 回	近代と女性	日本型近代家族の成立
第 9 回	家庭学の展開	技術革新と家事労働
第 10 回	個人研究発表 3	各自の研究関心について発表し議論する（２～３名）
第 11 回	高度成長と家族①	「母」の戦後史
第 12 回	高度成長と家族②	「ポスト思秋期」の妻たち
第 13 回	個人研究発表 4	各自の研究関心について発表し議論する（２～３名）
第 14 回	総括	全体を通してのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に文献を読み、自身の研究関心をもとにテーマに関する論点を書き出したペーパーを毎回用意すること。
・本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
上野千鶴子（2020）『近代家族の成立と終焉　新版』岩波書店

【参考書】
履修者の関心に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（60 %）、講義内発表と討論参加（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉
1．子育て・子育ちの社会的不平等
2．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course will examine the major issues of children and their families in a social context.　Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%),.

SOW500J1

障害者福祉特論

眞保　智子

科目分類・科目群：**専門展開科目（ソーシャルワーク系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では障害者の地域での「あたりまえ」の暮らしと社会参加を考える上で重要なトピックである「就労」について注目する。障害者雇用現状を把握し、障害者雇用率制度や就労支援関する諸制度を理解し、雇用現場における合理的配慮について考察する。

【到達目標】
①障害者雇用促進法と障害者雇用率制度を理解する。
②就労支援に関わる社会資源や制度を理解する。
③障害者雇用の現場での合理的配慮提供についてその実際を理解する。
④企業やＡ型事業所における障害者雇用の事例から合理的配慮のプロセスを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
障害者雇用の現状と障害者雇用の根拠法や支援制度についての講義とともに、視聴覚教材やゲストスピーカーによる実践報告やロールプレイなど演習を通して企業やＡ型事業所における合理的配慮提供の実践力について考察します。また、教室内での講義と演習だけでなく実際に企業やＡ型事業所等を訪問し、見学と意見交換をさせて頂くことによって、障害者雇用の現場で経営サイドと従業員サイドが抱える課題を理解し、その解決方法について検討します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	障害者雇用の現状	厚生労働省の調査等をもとに現状を把握し、課題を検討する
第 2 回	雇用率制度と各種支援制度と社会資源	高齢・障害・求職者雇用支援機構の役割と支援サービス提供事業者について理解する
第 3 回	就労支援の現状	視聴覚教材で障害者雇用の現場の実情を学ぶ
第 4 回	企業における合理的配慮の提供	ノーマライゼーションを実現するための労務管理を「同僚性」キーワードに理解する
第 5 回	合理的配慮提供のためのアセスメント	アセスメント方法の講義と演習を通じて学ぶ
第 6 回	合理的配慮提供のための環境調整①	障害特性の理解と職場における協働について学ぶ
第 7 回	合理的配慮提供のための環境調整②	障害特性の理解と職場における協働と支援実践について学ぶ
第 8 回	合理的配慮提供のための環境調整③	障害特性の理解と職場における協働と課題について学ぶ
第 9 回	障害者雇用の現場理解	Ａ型事業所の見学およびディスカッション
第 10 回	事例検討①	Ａ型事業所の見学の振り返りとディスカッション
第 11 回	障害者雇用の現場理解	企業の見学およびディスカッション
第 12 回	事例検討②	企業の見学の振り返りとディスカッション
第 13 回	フィールドワーク	各自の興味に応じて障害者雇用の現場での参与観察
第 14 回	フィールドワーク報告	フィールドワークの振り返りとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
厚生労働省障害者雇用実態調査の通読を行うなど本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指定し、資料等も配布します。

【参考書】
中川昭一（2013）『特例子会社における障害者雇用: 知的障害者雇用の実践事例』学苑社
中島隆信（2011）『障害者の経済学』東洋経済

【成績評価の方法と基準】
講義内での発言と報告５０％・レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【その他の重要事項】
精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
障害者福祉政策　障害者雇用・就労支援
< 研究テーマ>
１障害者の就労とキャリアデザイン
２障害者・若者・高齢者・女性の雇用に関する諸問題
３企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This class provides a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities.As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives.At the seminar, We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on degree paper (100%).

MAN500J1

地域経営特論

土肥　将敦

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主として地域社会とビジネスの関係性を理解するために、「社会的に責任ある企業経営（CSR 経営）」の理論と現状について、基本文献を読み、国内外の事例を参考にしつつ検討していく。講義では、企業と社会に関する基礎理論、CSR 経営にかかわる議論、ソーシャル・ビジネスにかかわる議論ついて理解していく。

【到達目標】
CSR 経営、ソーシャル・ビジネス、NPO/NGO のグローバル/ローカルな潮流を理解し、それらの関係性（結びつきや対抗関係など）についても理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、CSR 経営やソーシャル・ビジネス、NPO/NGO にかかわる文献を輪読し、議論を通して理解を深める。またそれぞれの受講生が各回のテーマに関連する国内外の事例資料を持ち寄り、事例研究の報告も行う。講義形態はオンラインまたは対面での開講となります。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的・進め方について
第 2 回	企業と社会の関係を理解する①	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第 3 回	企業と社会の関係を理解する②	さまざまな社会的課題を理解するとともに、企業と社会の関係性を捉える。
第 4 回	輪読とディスカッション①(ソーシャル・ビジネスの基礎)	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う①
第 5 回	輪読とディスカッション②（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う②
第 6 回	輪読とディスカッション③（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う③
第 7 回	輪読とディスカッション④（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う④
第 8 回	輪読とディスカッション⑤（ソーシャル・ビジネスの基礎）	ソーシャル・ビジネスにかかわる文献を読みディスカッションを行う⑤
第 9 回	中間とりまとめ	これまでの講義内容の振り返りと今後の計画
第 10 回	輪読とディスカッション⑥（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う①
第 11 回	輪読とディスカッション⑦（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う②
第 12 回	輪読とディスカッション⑧（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う③
第 13 回	輪読とディスカッション⑨（CSR の基礎）	CSR にかかわる基本文献を読みディスカッションを行う④
第 14 回	受講生の研究テーマとの接点を探る①	講義全体の振り返りと、各受講生の研究テーマとの接点を探り、全員で議論する①

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少人数講義であるため、受講生の積極性や自主性が求められます。与えられた課題をこなすだけでなく、各回のテーマに関連する国内外の事例等を調べて、履修者全員が共有できるように資料を事前準備することが求められる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
初回のガイダンス時に、いくつかの候補の中から選定する。また、講義中にも適宜指示をする。

【参考書】
講義中に、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義へのコミットメント（能動的参加 50 %、各回の報告内容 50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーション、CSR
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ー CSI の推進プロセスにおける正統性』（単著, 千倉書房, 2022 年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline (in English)】
Leading companies recognize the long-term value of integrating corporate social responsibility/ sustainability into their core business strategies.　The coursework of this class is as follows; ethical entrepreneurship, human rights and business, corporate social responsibility, social entrepreneurship, social innovation.

ENG500J1

都市・住宅政策特論

水野　雅男

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化社会において、生活の基盤となり、福祉とも深いかかわりを持つ住宅はどうあるべきかについて、借家に焦点を充てて住宅市場と住宅政策の課題を概観する。

【到達目標】
世帯構成をはじめとする社会の変化に対して、住宅市場はどのように対応してきたのか、それを政策がどう支援してきたのか、人口減少に伴い政策をどう転換すべきかについて理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに基づき毎回テーマに沿った課題についてレポートを作成し、発表の後に意見交換する。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の概説と各自の住宅変遷の紹介
第 2 回	住宅という「商品」①	持ち家の変容
第 3 回	住宅という「商品」②	住宅産業の成立
第 4 回	住宅という「商品」③	住宅政策の転換
第 5 回	脱 nLDK 論の陥穽からどう脱するか①	nLDK 型住宅をめぐる批判の展開
第 6 回	脱 nLDK 論の陥穽からどう脱するか②	脱 nLDK 論における問題構成の検証
第 7 回	脱 nLDK 論の陥穽からどう脱するか③	脱 nLDK 型住宅をめぐる問題構成の転回
第 8 回	マイホームの神話作用①	マイホーム主義をめぐる言説の構図
第 9 回	マイホームの神話作用②	商品住宅の広告表現と神話作用
第 10 回	マイホームの神話作用③	マイホーム主義の背面
第 11 回	マイホーム神話の臨界①	LDK 空間の文節変容
第 12 回	マイホーム神話の臨界②	商品住宅のモード
第 13 回	マイホーム神話の臨界③	居住者像の変容と消費社会の現在
第 14 回	総括	住宅社会学の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介した内容について、自主的に関心を広げて学習をすることが望まれる。毎回の準備学習（テキストを読みレポートを作成する）と復習に 4 時間以上充てる。

【テキスト（教科書）】
「マイホーム神話の生成と臨界　住宅社会学の試み」山本理奈、岩波出版、2014 年

【参考書】
「マイホームの彼方に」平山洋介、筑摩書房、2020 年
「アメリカの空き家対策とエリア再生」平修久、2020 年
「老いた家、衰えぬ町」野澤千絵、講談社現代新書、2018 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加・討論状況（50 %）、課題レポート（50 %）にもとづき評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで課題の提示を行う。

【その他の重要事項】
まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 27 年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を踏まえて、ローカルな視点で住宅政策のあり方を授業で紹介する。

【担当教員の専門分野】
住宅問題・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire an overview of the housing market and housing policy issues. Focusing on rented housing, as to what housing should be, which is the basis of life and is closely related to welfare in an aging society with a declining birthrate.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:understand how the rental housing market has responded to social changes such as household composition, how policies have supported it, and how policies should be changed as the population declines.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 50%, in class contribution: 50%

ENV500J1

地域環境特論

野田　岳仁

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は環境社会学・地域社会学のモデルを使って、地域の環境問題の解決や地域づくりや地域ツーリズムの有効性のある政策論を構想することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の主要な理論の一つとして知られる生活環境主義の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】
地域の環境政策や地域づくり、地域ツーリズム政策に対して、自らの方法論的立場を明確にしたうえで、あるべき方向性や有効性のある政策論を提言する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】
基本のテキストと複数の学術論文をとりあげて、議論を深めていくスタイルをとる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更もありうる。変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。本講義では対面を基本にオンラインをともに提供する「ハイフレックスによる講義」とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境社会学の考え方	現場の生活者の暮らしをとらえる視点
第 2 回	環境を守るとはどういうことか？	環境の利用と管理の社会的な仕組み
第 3 回	誰がしっかりすれば環境は守られるのか？	環境保全の要としての地域コミュニティ
第 4 回	嫌な環境は誰が受け入れるのか？	迷惑施設問題と地元の合意
第 5 回	公園は都市の環境を豊かにしてきたか？	都市空間における自然環境としての公園
第 6 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	地域のローカル・ルールを守る観光のあり方
第 7 回	人と野生生物はどのような関係なのか？	農山村地域が抱える獣害問題とその解決方法
第 8 回	未曾有の災害に人はどのように対処していくのか？	防災政策と復興まちづくり
第 9 回	環境をめぐって人びとはどのようにいがみ合うのか？	多様性を承認する地域コミュニティ
第 10 回	生活環境主義の基本理論	現場の生活者の立場から
第 11 回	生活環境主義の所有論	環境権と所有論
第 12 回	生活環境主義の組織論	生活組織論と住民の価値規範
第 13 回	生活環境主義の経験論	行為論から経験論へ
第 14 回	生活環境主義の実践性	有効性のある政策論への模索

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメの作成・発表の準備など事前学習は不可欠である。自分の関心や研究テーマにひきつけながら検討していくことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義内で適宜アナウンスする。

【参考書】
講義内で適宜紹介したり、必要に応じて配布する。

【成績評価の方法と基準】
討議や発表を含めた平常点（50%）とレジュメやレポートなどの成果物（50%）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】
担当教員は環境保全活動や地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

ARSI500J1

アジア地域開発特論

佐野　竜平

科目分類・科目群：**専門展開科目（コミュニティ・デザイン系）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年共同体として成立したアセアン地域を中心に、アジアの地域開発について具体的な理論と実践を交えて考察し、福祉社会の形成に関わる最先端を学ぶ。

【到達目標】
具体的な理論・実践力を身につけつつ、東南アジアを中心にアジアの地域開発に関する最新事情を俯瞰的に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP6」「DP7」「「DP9」関連

【授業の進め方と方法】
アジアの地域開発の最新事情について、具体的な現場事例や資料を参照していく。対面とオンラインを組み合わせて実施する（ハイフレックス）。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	アジア地域開発の概要
第 2 回	アジア地域開発①	アジア全体の概要
第 3 回	アジア地域開発②	中国の最新事情
第 4 回	アジア地域開発③	韓国・台湾の最新事情
第 5 回	アジア地域開発④	インドの最新事情
第 6 回	アジア地域開発⑤	タイ・ラオスの最新事情
第 7 回	アジア地域開発⑥	カンボジア・ミャンマーの最新事情
第 8 回	アジア地域開発⑦	インドネシア・マレーシアの最新事情
第 9 回	アジア地域開発⑧	フィリピン・ベトナムの最新事情
第 10 回	アジア地域開発⑨	ブルネイ・シンガポールの最新事情
第 11 回	アジア地域開発⑩	ASEAN 共同体の最新事情
第 12 回	アジア地域開発⑪	ディベートからアジアを学ぶ①
第 13 回	アジア地域開発⑫	ディベートからアジアを学ぶ②
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回講義で配布した資料等の復習。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。

【参考書】
ASEAN Socio-Cultural Blueprint 2025
必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 50 %、課題・発表： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】
講義準備・履修のための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野等】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Advanced theories, practices and important findings on international cooperation and community development in Southeast Asia are to be focused.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to gain advanced knowledge on Asian regional development in the context of social policy and administration.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (50%), report and presentation (50%).

SOW500J1

福祉社会研究法

野田　岳仁、土肥　将敦、岡田　栄作、金　慧英

科目分類・科目群：**専門共通科目**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**隔週開講**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
福祉領域および地域領域における研究の方法論と技法についてマスターすることを目的とする。

【到達目標】
研究のデザインから調査データの収集と分析、論文執筆に至るまで、研究の一連の流れについて理解し、修士論文執筆に向けて必要な研究方法と論文執筆の作法について習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」と「DP6」「DP7」「「DP9」「DP10」関連

【授業の進め方と方法】
福祉領域および地域領域における研究方法、論文執筆の作法についてオムニバス形式で授業を運営する。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で積極的に活用する。授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	文献検索・データベース活用法①（金）	図書館にて文献検索とデータベース活用法について学ぶ（前半）
第 2 回	文献検索・データベース活用法②（金）	図書館にて文献検索とデータベース活用法について学ぶ（後半）
第 3 回	福祉領域における調査法とアプローチ（金）	高齢者福祉の現場から考える
第 4 回	質的調査の方法①（土肥）	イントロダクションとフィールド課題解説
第 5 回	質的調査の方法②（土肥）	フィールド調査と研究デザイン
第 6 回	質的調査の方法③（土肥）	フィールド調査と質的調査法
第 7 回	質的調査の方法④（野田）	フィールドワークの方法
第 8 回	質的調査の方法⑤（野田）	参与観察の方法
第 9 回	質的調査の方法⑥（野田）	ライフヒストリー（生活史）の方法
第 10 回	質的調査の方法⑦（野田）	問いの立て方と論文執筆の技法
第 11 回	量的調査の方法①（岡田）	量的研究の論文の構成と読み方
第 12 回	量的調査の方法②（岡田）	量的研究の研究デザイン
第 13 回	量的調査の方法③（岡田）	量的研究の質問紙の作成方法
第 14 回	量的調査の方法④（岡田）	量的研究の結果と考察の執筆の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、各回のテキストや教材についての十分な事前学習が求められる。

【テキスト（教科書）】
各回のテキストは下記の通り。事前に入手し、内容を理解しておくこと。
［第 7-10 回］岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会研究の方法―他者の合理性の理解社会学』有斐閣（2016 年）
［第 11-14 回］近藤克則『研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院（2018 年）
その他の回については、講義内で適宜指示がある。

【参考書】
参考書および参考文献については講義内で適宜指示がある。

【成績評価の方法と基準】
平常点（80%）とリアクションペーパーや課題等の提出物（20%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできないが、受講生の意見を積極的に取り入れていく。

【その他の重要事項】
授業の日程・時間割などの詳細は、オリエンテーションや学習支援システムを通じて連絡する。

【担当教員の専門分野等】
【土肥将敦】
〔専門領域〕
企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
〔研究テーマ〕
ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
〔主要業績〕
『社会的企業者』（単著、千倉書房、2022 年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著、中央経済社、2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）
【岡田栄作】
〔専門領域〕
福祉疫学、ファシリテーション論、保健医療福祉論
〔研究テーマ〕
介護・医療関連情報の見える化、地域診断と健康
〔主要業績〕
『ソーシャル・キャピタルと健康・福祉』（共著書、ミネルヴァ書房、2020 年）
『住民主体の楽しい「通いの場」づくり』（共著書、日本看護協会出版会、2019 年）
【金慧英】
〔専門領域〕
高齢者福祉、介護専門職支援
〔主要業績〕
「介護職員のバーンアウト要因についての一考察:職場環境の管理体制に着目して」『Human Welfare』11(1)（共著、2019 年）
「韓国の介護職員の主観的職場環境認識とバーンアウトに関する研究」『人間福祉学研究』11(1)（共著、2018 年）
【野田岳仁】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】The purpose of this course is to help students master concepts of social welfare and community studies. 【Learning Objectives】At the end of the course, students are expected to describe method and theory of social welfare and community studies.【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (80%), and the quality of the students' performance（Reaction papers and reports）(20%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文にむけた研究計画の作成。

【到達目標】
修士論文の作成に向けて、研究計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
まず、各自の研究関心を明確化することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取りかかる。対面式を基本としつつ、状況に応じてオンラインまたはハイブリッドでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第 3 回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第 4 回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第 7 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第 8 回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第 9 回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第 10 回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第 14 回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第 15 回	中間総括	明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第 18 回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第 22 回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第 23 回	研究構想の基盤作り③	研究データ収集方法の検討
第 24 回	研究構想の基盤作り④	研究データ分析方法の検討
第 25 回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第 26 回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第 27 回	研究計画書の作成③	データ収集のスケジュール検討
第 28 回	まとめ	研究計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．演習への積極的参加（20 %）
２．演習内課題（60 %）
３．論文構想発表会（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞ エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces academic writing to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to create a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and presentation (20%),in-class contribution (20%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究テーマを決定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定などの研究手法を学ぶ。

【到達目標】
論文作成の基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
事前に課題を提示し、その報告と検討により授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第 2 回	論文作成の方法①	論文作成の方法の概略を学ぶ
第 3 回	論文作成の方法②	テーマを設定することの意義を学ぶ
第 4 回	論文作成の方法③	先行研究を検討することの意義を学ぶ
第 5 回	論文作成の方法④	研究テーマの絞り方を学ぶ
第 6 回	関心領域・テーマの検討①	自分が関心がある研究テーマを発表する
第 7 回	関心領域・テーマの検討②	そのテーマの歴史的意義を検討する
第 8 回	関心領域・テーマの検討③	そのテーマの現代的意義を検討する
第 9 回	関心領域・テーマの検討④	そのテーマの国際比較の意を検討する
第 10 回	先行研究のレビュー①	先行研究（歴史）を検討する
第 11 回	先行研究のレビュー②	先行研究（現代的意義）を検討する
第 12 回	先行研究のレビュー③	先行研究（国際比較）を検討する
第 13 回	先行研究のレビュー④	先行研究（研究方法）を検討する
第 14 回	中間総括	前期の研究を総括する
第 15 回	テーマの明確化①	先行研究との関係で研究テーマを絞る
第 16 回	テーマの明確化②	研究テーマのオリジナリティを明確化する
第 17 回	テーマの明確化③	予想される成果を整理する
第 18 回	発表会原稿の作成①	発表原稿のドラフトを作成する
第 19 回	発表会原稿の作成②	発表原稿のパワーポイントを作成する
第 20 回	発表会原稿の作成③	発表の読み上げ原稿を作成する
第 21 回	発表会リハーサル	発表会のリハーサルを行う
第 22 回	【論文構想発表会】	発表会で指導する
第 23 回	論文構想の明確化①	論文の起承転結の承の部分のアウトラインを構想する
第 24 回	論文構想の明確化②	論文の起承転結の転の部分のアウトラインを構想する
第 25 回	論文構想の明確化③	論文の起承転結の結の部分のアウトラインを構想する
第 26 回	論文構想の明確化④	論文の起承転結の起の部分のアウトラインを構想する
第 27 回	論文構想の明確化⑤	論文の起承転結のつながりを明確化する
第 28 回	年間総括	1 年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示された課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) による。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんの意見を聞きながら授業を進めるつもりです。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Learn research methods such as reviewing previous studies and setting hypotheses according to the research theme.
The goals of this course are to improve research methods ability.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW600J1

論文研究演習 I

岩田　美香

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆に向けての研究手法を学ぶ。

【到達目標】
研究テーマを設定し、その研究テーマに即した先行研究のレビュー、仮説の設定・検証、フィールドワークや調査によるデータ収集など、適切な研究方法の選定を行い、論文作成のための研究デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
・上記の到達目標を達成するために、①論文を作成するための基礎的なスキルの獲得、②先行研究のレビューと課題の設定、③仮説の構築と検証の手続きの検討、④研究資料（データ）の収集と分析の具体的方法の獲得、を通して次年度の修士論文作成が計画的に進められるように備える。また、これらの成果と今後の研究の進展を確認するために、修士論文構想発表会が位置づいている。
・課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究指導の説明、これまでの学習成果の発表
第 2 回	論文とは何か	「論文」とは何かについての再確認
第 3 回	論文作成の基礎	論文作成の基礎的スキルについての確認
第 4 回	論文作成の実践基礎	論文作成の基礎的スキルの獲得
第 5 回	問題関心の問い直し：社会状況	自身の問題関心を社会的現状の中で検討する
第 6 回	問題関心の問い直し：文献	問題関心に関する文献から検討する
第 7 回	問題関心と研究領域	研究領域における自身の問題関心の位置づけを確認する
第 8 回	研究領域（フィールド）の検討	研究領域に関するフィールドの現状を探る
第 9 回	論文テーマの検討	論文のテーマを絞り込む
第 10 回	先行研究のレビュー：文献収集	論文テーマに関する先行研究を収集する
第 11 回	先行研究のレビュー：方法	先行研究の読み方と整理の仕方
第 12 回	レビュー論文	先行研究のレビューを書いてみる
第 13 回	レビュー論文の検討	レビュー論文を検討する
第 14 回	中間総括	春学期での総括を発表する
第 15 回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第 16 回	テーマの明確化：課題設定	先行研究のレビューをもとに、課題を設定する
第 17 回	テーマの明確化：研究方法	先行研究のレビューをもとに、研究方法を検討する
第 18 回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第 19 回	発表会原稿の検討	作成した発表原稿の検討
第 20 回	発表会原稿の完成	検討をもとに論文構想発表原稿を完成させる
第 21 回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第 22 回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第 23 回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答をを振り返る
第 24 回	論文構想の明確化：課題の再設定	課題の再設定
第 25 回	論文構想の明確化：方法論の検討	論文における方法論の検討
第 26 回	論文構想の明確化：仮説の設定	仮説を設定する
第 27 回	論文構想の明確化：仮説の検証	仮説を検証する
第 28 回	総括	到達点と課題のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・履修者は、計画的に修士論文作成を進めると同時に、毎回、必ず検討するためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。
・本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究テーマおよび研究方法に応じて適宜紹介する。

【参考書】
履修者の研究テーマおよび研究方法に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（20 %）、演習内課題（60 %）、論文構想発表会（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉
１．子育て・子育ちの社会的不平等
２．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the process to elaborate the idea of the students' thesis. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills to write their thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), presentation (20%), and in-class contribution (20%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けて、ソーシャルワークの研究方法を学ぶ。

【到達目標】
・論文を作成するために必要な研究方法について理解できる。
・自分の研究計画を策定できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の課題認識にもとづき、研究を進めることができるだけの基礎を習得できるように、個別やグループ指導を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業でフィードバックを行うなどで授業を進める。また、修士論文構想発表会に向けて準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	ソーシャルワーク研究とは	研究とは ソーシャルワーク研究の特徴
第 3 回	論文とは	論文の構成要素
第 4 回	関心テーマ①	関心テーマに関する情報収集：定義
第 5 回	関心テーマ②	関心テーマに関する情報収集：実態
第 6 回	関心テーマ③	関心テーマに関する情報収集：文献
第 7 回	リサーチクエスチョン	リサーチクエスチョンの構築
第 8 回	リサーチクエスチョンに関する先行研究①	先行研究の文献収集
第 9 回	リサーチクエスチョンに関する先行研究②	リサーチクエスチョンに関する先行研究のレビュー
第 10 回	リサーチクエスチョンに関する先行研究③	関連領域の先行研究のレビュー
第 11 回	レビュー論文の検討	レビュー論文の批判的検討
第 12 回	研究の目的	研究の目的や仮説の設定
第 13 回	研究方法の決定	研究方法の検討
第 14 回	中間総括	振り返りと夏季休暇中の計画
第 15 回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第 16 回	研究計画の策定①	研究目的や方法の検討
第 17 回	研究計画の策定②	倫理的配慮の検討
第 18 回	論文構想発表の準備	発表会原稿の作成
第 19 回	発表会原稿の検討	発表会原稿の批判的検討
第 20 回	発表会原稿の完成	発表会原稿の修正
第 21 回	発表会リハーサル	論文構想発表会のリハーサルと内容検討
第 22 回	論文構想発表会	自身の論文構想を発表する
第 23 回	発表会の振り返り	発表会全体での質疑応答の振り返り
第 24 回	研究計画の修正①	発表会のコメントを踏まえた検討
第 25 回	研究計画の修正②	研究計画の修正
第 26 回	研究計画の実施に向けた準備①	倫理的配慮等
第 27 回	研究計画の実施に向けた準備②	実施準備
第 28 回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に修士論文作成を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各５時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・課題提出 50%
・平常点 30%
・論文構想発表会 20%

【学生の意見等からの気づき】
学生の研究に関する知識によって指導の内容を変更する。

【担当者の専門分野】
ソーシャルワーク論
髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル－「制度からの排除」への対処 』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54, 日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn about research methods in social work.Before/after each class meeting, students will be expected to spend five hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%) , in-class contribution (30%), and presentation in the thesis proposal presentation meeting (20%).

SOW600J1

論文研究演習 I

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の作成を目指し、論文執筆の方法を学習するとともに、研究課題の明確化、論文構想を明確化していくことを目的とする。

【到達目標】
修士論文が執筆可能となる文章力、表現力を体得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、論文執筆の方法について学習したうえで、受講者の関心領域に基づき、研究テーマを設定する。次に、研究テーマに関する先行研究のレビューを行い、研究内容を明確化していく。さらに、研究課題を遂行するための研究アプローチ、調査・分析方法を検討し、修士論文の執筆に向けて論文構想を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	論文作成方法の説明	研究論文についての講義
第 3 回	論文作成方法の検討	研究手法の選択に関する講義
第 4 回	論文作成方法に関するディスカッション	論文執筆に関する講義
第 5 回	論文作成方法の検討	論文作成に関するフリーディスカッション
第 6 回	関心領域の検討①	関心領域設定についての講義
第 7 回	関心領域の検討②	関心領域の設定
第 8 回	研究テーマの検討①	研究テーマ設定についての講義
第 9 回	研究テーマの検討②	研究テーマの設定
第 10 回	先行研究のレビューの方法	先行研究の検索方法についての講義
第 11 回	先行研究のレビューの実際	先行研究の検索の実際
第 12 回	先行研究のまとめ方	先行研究のまとめ方の検討
第 13 回	先行研究の報告	先行研究の検討結果発表
第 14 回	中間総括	研究についてのフリーディスカッション
第 15 回	オリエンテーション	講義内容の説明と夏休みの課題についての報告
第 16 回	論文の方向性について	論文の方向性に関するフリーディスカッション
第 17 回	研究テーマの明確化①	論文テーマ等についての発表
第 18 回	研究テーマの明確化②	論文テーマ等の修正
第 19 回	研究テーマの明確化③	論文のテーマ等の確定
第 20 回	構想発表会の原稿作成①	原稿作成要領の説明
第 21 回	構想発表会原稿の作成②	原稿作成と指導
第 22 回	構想発表会原稿の作成③	原稿の読み合わせと見直し
第 23 回	構想発表会リハーサル	原稿報告と修正
第 24 回	【論文構想発表会】	研究論文の具体的内容の発表
第 25 回	論文構想の明確化①	指摘事項の再検討
第 26 回	論文構想の明確化②	論文内容の再検討
第 27 回	論文構想の明確化③	論文の方向性についての報告
第 28 回	総括	論文作成にむけての総括発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生各自の研究領域、関心領域についての先行研究を概観し、不明な点、気づいた点などをまとめ、講義内で発表・説明できるよう学習をすすめておいてください。本講義の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
とくに使用しない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加－ 60 %
レポート（発表原稿等含む）－ 40 %

特に、受講生各自の研究報告・論文報告を適切に行えるよう学習を進めておくことが成績評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
論文についての疑問点を質問しやすいよう環境づくりに努めていく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.
【Learning Objectives】The purpose is to acquire the writing and expression skills required for a master's thesis.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%. To pass.

SOW600J1

論文研究演習 I

佐野　竜平

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の関心テーマに沿いつつ、修士論文を構想する。

【到達目標】
先行研究のレビューや適切な研究方法の選定等、デザインを構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

【授業の進め方と方法】
論文の構想発表の前後で研究テーマ設定、仮説の構築と検証、データ収集と分析方法の習得等を行い、今後の研究の深まりにつなげていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション前半	春学期の進め方について確認する
第 2 回	論文作成の意見交換	必要な基礎スキルを列記
第 3 回	論文作成の文献	必要な基礎スキルに関する文献をリスト化
第 4 回	論文作成のイメージ化	論文作成の要点を表出
第 5 回	関心領域の検討（総論）	関心領域を幅広く検討
第 6 回	関心領域の検討（国内）	国内における関心領域を検討
第 7 回	関心領域の検討（海外）	海外における関心領域を検討
第 8 回	先行研究のレビュー（総論）	先行研究を分析、論点を整理（総論）
第 9 回	先行研究のレビュー（国内）	先行研究を分析、論点を整理（国内）
第 10 回	先行研究のレビュー（アジア）	先行研究を分析、論点を整理（アジア）
第 11 回	先行研究のレビュー（アジア以外）	先行研究を分析、論点を整理（アジア以外）
第 12 回	関心テーマの再設定の検討	関心領域・テーマを検討し、見直す
第 13 回	関心テーマの再設定	関心領域・テーマを再度確認
第 14 回	中間総括	これまでの振り返り
第 15 回	オリエンテーション後半	秋学期の進め方について確認
第 16 回	研究構想の検討	研究背景・仮説等を検討
第 17 回	研究構想の明確化	研究背景・仮説等の整理
第 18 回	研究構想に関する質疑	研究背景・仮説等を意見交換
第 19 回	構想発表の準備	構想発表の内容を検討
第 20 回	構想発表のプレゼン作成	構想発表のプレゼンを作成
第 21 回	構想発表の修正	構想発表の内容を確認し、適宜修正
第 22 回	構想発表のリハーサル	構想発表会のリハーサル
第 23 回	構想発表の実施	発表会を通じて構想を報告
第 24 回	構想発表の見直し	フィードバックを受けて構想の修正
第 25 回	構想発表後の計画	構想発表以降の計画づくり
第 26 回	論文のアウトライン骨子	論文骨組みの作成
第 27 回	論文のアウトライン修正	論文骨組みの修正
第 28 回	レビュー	1 年間の振り返りと要点の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加・発表・報告： 70%、論文アウトライン： 30%

【学生の意見等からの気づき】
院生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】A process to elaborate the idea of his/her thesis is to be facilitated.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to construct the research design based on their review of previous studies and selection of appropriate research methods.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (70%), thesis outline (30%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

眞保　智子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について、論文執筆により研究成果を組織だてて発表できるように研究デザインを行います。

【到達目標】
学生各自が専攻分野の学びの中で、追求しようと考えている問題について研究活動を実践し、成果を組織だてて発表できるように研究をデザインする基礎力をつけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究のために必要な①主題の選定、②理論・キー概念の把握と検討、③先行研究のレビューと研究意義の検討、④方法論の検討、⑤仮説の構築と検証方法の検討、⑥事例・資料・調査データへの接近を通して論文執筆に向けての準備を進めていきます。オフィス・アワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認する
第 2 回	論文のジャンル・タイプの検討	学術論文のタイプの検討する
第 3 回	研究に向けて	何をなぜ、明らかにしたいのか議論する
第 4 回	先行研究のレビュー（アクセス法）	問題意識に関連する研究へのアクセス法の確認
第 5 回	先行研究のレビュー（近接領域）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究
第 6 回	先行研究のレビュー（報告）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究と報告
第 7 回	先行研究のレビュー（議論）	問題意識に関連する領域および隣接領域の文献研究の検討と議論
第 8 回	研究課題の焦点化	何を調査し、何を明らかにしたいのか
第 9 回	研究課題の検討	理論と独創性の検討
第 10 回	研究課題の価値	理論と研究意義の検討
第 11 回	研究課題へのアプローチ	調査の可能性の検討
第 12 回	研究方法の検討	方法論の検討
第 13 回	主題の選定	研究テーマの決定
第 14 回	研究仮説の設定	仮説と検証方法の検討
第 15 回	中間総括	研究テーマについてディスカッション
第 16 回	オリエンテーション	秋学期のスケジュールと目標の確認
第 17 回	問題意識の明確化	なぜ、研究テーマを取り上げるのか
第 18 回	問題意識の研究課題への返還	研究課題と理論・キー概念の検討
第 19 回	研究の構想に向けて	研究課題と理論・キー概念と独創性の検討
第 20 回	研究構想の検討（仮説の構築）	研究仮説と作業仮説の検討
第 21 回	研究構想の検討（研究手法）	実際に採用する研究手法と想定される結果についての検討
第 22 回	研究構想の検討（調査対象）	研究フィールドの確認
第 23 回	研究構想の検討（事前調査）	パイロット・スタディによる仮説構築、検証手法の検討
第 24 回	研究構想の発表（報告）	研究の全体構想について発表する
第 25 回	proposal の検討	課題解決のための見直し
第 26 回	proposal 作成	研究対象の再検討
第 27 回	proposal 作成（スケジュール）	研究方法・分析方法の再検討とスケジュール確認
第 28 回	proposal 報告	研究の全体構想の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めますので、そのためのレジュメや資料を準備して演習に臨むようにしていただきたい。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習内報告・発表：６０％　proposal ：４０％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
１　障害者の就労とキャリアデザイン
２　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
３　産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This　seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. The goal of this seminar is to acquire the basics of research design. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on proposal paper (40%) and in-class presentation (60%).

SOW600J1

論文研究演習 I

土肥　将敦

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、研究テーマを決定するとともに、その研究に即した先行研究のサーベイ、リサーチ・クエスチョンの導出と仮説を構築することを主眼におく。

【到達目標】
研究テーマを確立するプロセス（先行研究のサーベイ等）の中で、問い（リサーチ・クエスチョン）を洗練させ、仮説を育て発展させていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

【授業の進め方と方法】
修士論文作成のための基本的な作法を学ぶとともに、当該研究テーマに即した先行研究のサーベイを定期的に報告してもらいます。そのプロセスの中で、既存研究から明らかになっていることと未解明の部分を確認し、修士論文としてのリサーチ・クエスチョンを構築していく。COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	年間および春学期の計画・方針を確認する
第 2 回	研究テーマの設定①	研究テーマを設定する①
第 3 回	研究テーマの設定②	研究テーマを設定する②
第 4 回	研究テーマの設定③	研究テーマを設定する③
第 5 回	先行研究のサーベイ①	国内外の先行研究のサーベイを行う①
第 6 回	先行研究のサーベイ②	国内外の先行研究のサーベイを行う②
第 7 回	先行研究のサーベイ③	国内外の先行研究のサーベイを行う③
第 8 回	先行研究のサーベイ④	国内外の先行研究のサーベイを行う④
第 9 回	先行研究のサーベイ⑤	国内外の先行研究のサーベイを行う⑤
第 10 回	先行研究のサーベイ⑥	国内外の先行研究のサーベイを行う⑥
第 11 回	研究テーマの再設定①	研究テーマの再設定①
第 12 回	研究テーマの再設定②	研究テーマの再設定②
第 13 回	調査研究報告①	既存研究踏まえた調査・研究報告①
第 14 回	調査研究報告②	既存研究踏まえた調査・研究報告①
第 15 回	中間報告	中間総括と夏期休暇中の課題設定
第 16 回	秋学期ガイダンス	秋学期の計画・方針を確認する。
第 17 回	進捗状況の報告①	夏期休暇中の調査状況報告①
第 18 回	進捗状況の報告②	夏期休暇中の調査状況報告②
第 19 回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出①	RQ の再設定と仮説の導出を行う①
第 20 回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出②	RQ の再設定と仮説の導出を行う②
第 21 回	リサーチ・クエスチョンの再設定と仮説の導出③	RQ の再設定と仮説の導出を行う③
第 22 回	先行研究サーベイ①	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する①
第 23 回	先行研究サーベイ②	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する②
第 24 回	先行研究サーベイ③	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する③
第 25 回	先行研究サーベイ④	当該研究に関連する研究領域のサーベイを行い報告する④
第 26 回	フィールド調査報告①	フィールド調査報告①
第 27 回	フィールド調査報告②	フィールド調査報告②
第 28 回	フィールド調査報告③	フィールド調査報告③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められる。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が重視される。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【参考書】
受講者の研究テーマに応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の研究報告内容（100 %）をもとに総合的に判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ー CSI の推進プロセスにおける正統性』(単著, 千倉書房, 2022 年)
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著、有斐閣、2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT 出版、2013 年）

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to gain the ability to understand and explain the appropriate method in your research paper/thesis.
The master's thesis is an original research study that is carried out using rigorous methods that are appropriate to the research questions, that generates new knowledge, concepts and methods from one or more branches of social science relevant to corporate social responsibility, social innovation and stakeholder theory.
The goals of this course are to write up the thesis according to the basic guidelines set by the Graduate School, and to generate new knowledge around this research field.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than FOUR HOURS for a class.Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を舞台としてフィールドワークを行い、地域ツーリズムや地域づくり、地域の環境政策にかかわる修士論文を執筆するための環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目的としている。

【到達目標】
修士論文の作成に向けて、調査の技法と論文執筆の作法を学び、先行研究の批判的かつ創造的なレビューの方法やアカデミックな議論の作法を養うこと。これらの技能を修得することを通じて、修士論文のテーマや全体構想を明確化することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で進める。課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表、論文執筆が求められる。受講生の関心や研究テーマによって若干の変更はありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、研究発表、課題文献の選定および発表スケジュールの確認
第 2 回	フィールドワークの技法（1）	柳田国男や宮本常一らの優れたフィールドワーカーの心構えや調査技法を理解する
第 3 回	フィールドワークの技法（2）	調査マナーや調査の作法について
第 4 回	フィールドワークの技法（3）	フィールドノート作成と調査データの整理
第 5 回	論文作成の方法（1）	ダメな問いとは何か
第 6 回	論文作成の方法（2）	よい問いのつくり方
第 7 回	論文作成の方法（3）	問題関心の設定
第 8 回	論文作成の方法（4）	論敵の設定
第 9 回	論文作成の方法（5）	章立ての検討
第 10 回	先行研究のレビュー（1）	当該テーマの環境社会学における研究史の検討
第 11 回	先行研究のレビュー（2）	当該テーマの地域社会学における研究史の検討
第 12 回	先行研究のレビュー（3）	当該テーマの民俗学における研究史の検討
第 13 回	先行研究のレビュー（4）	当該テーマの文化人類学における研究史の検討
第 14 回	中間総括	研究テーマの構想と討議
第 15 回	研究方法の検討（1）	環境社会学の方法論の検討
第 16 回	研究方法の検討（2）	地域社会学の方法論の検討
第 17 回	研究方法の検討（3）	民俗学・文化人類学の方法論の検討
第 18 回	研究課題の設定（1）	研究課題と方法論の選定
第 19 回	研究課題の設定（2）	研究の独自性の検討
第 20 回	研究課題の設定（3）	結論の見通しについての検討
第 21 回	研究計画書の執筆（1）	修士論文の研究計画書の作成
第 22 回	研究計画書の執筆（2）	研究課題の再検討
第 23 回	研究計画書の執筆（3）	問いの見直し
第 24 回	研究計画書の執筆（4）	章立ての再検討
第 25 回	研究計画書の執筆（5）	結論の見通しの再検討
第 26 回	研究計画書の発表（1）	論理構成の確認と討議
第 27 回	研究計画書の発表（2）	研究の全体構想の確認と討議
第 28 回	学問の実践性と政策論	総括的議論とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自フィールドワークを進めておくことはもちろんのこと、専門領域における先行研究の課題文献の精読、レジュメの作成、論文執筆に向けた入念な準備が必要である。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加を含めた平常点（50%）、レポートや発表などの成果物（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートやリアクションペーパー等を通じて受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

水野　雅男

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けた研究方法を学ぶ。

【到達目標】
問題関心に沿った先行研究をレビューし、研究の論点を整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP6」と「DP8」と「DP10」とに関連

【授業の進め方と方法】
関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。各回の授業計画に変更がある場合には、「学習支援システム」でその都度提示します。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	関心分野と問題意識①	問題意識①に関する研究分野・領域の確認
第 3 回	関心分野と問題意識②	問題意識①に関する研究分野の総説確認
第 4 回	関心分野と問題意識③	問題意識②に関する研究分野・領域の確認
第 5 回	関心分野と問題意識④	問題意識②に関する研究分野の総説確認
第 6 回	先行研究のレビュー①	先行・関連研究の検索キーワード案作成
第 7 回	先行研究のレビュー②	先行・関連研究の検索キーワードの修正
第 8 回	先行研究のレビュー③	先行・関連研究の検索リスト作成
第 9 回	先行研究のレビュー④	重要な先行・関連研究の概要把握
第 10 回	先行研究のレビュー⑤	先行・関連研究の課題の整理
第 11 回	研究テーマと仮説設定①	テーマと仮設の検討
第 12 回	研究テーマと仮説設定②	テーマと仮設の修正
第 13 回	研究テーマと仮説設定③	テーマと課題の独自性の確認
第 14 回	夏休み中の作業課題	自主研究する作業内容の確認
第 15 回	調査対象の検討①	調査対象の絞り込み　仮設①に対する対象の選定
第 16 回	調査対象の検討②	調査対象の絞り込み　仮設②に対する対象の選定
第 17 回	調査対象の検討③	調査対象候補①の情報整理
第 18 回	調査対象の検討④	調査対象候補②の情報整理
第 19 回	調査対象の検討⑤	調査対象全体の情報とりまとめ
第 20 回	調査研究方法の検討①	調査全体計画立案
第 21 回	調査研究方法の検討②	量的調査の検討①アンケート調査項目の作成
第 22 回	調査研究方法の検討③	量的調査の検討②アンケート調査票の修正
第 23 回	調査研究方法の検討④	質的調査の検討①ヒアリング調査設計
第 24 回	調査研究方法の検討⑤	質的調査の検討②ヒアリング調査修正
第 25 回	調査結果分析方法検討①	アンケート調査収集データの整理方法
第 26 回	調査結果分析方法検討②	アンケート調査収集データの入力方法
第 27 回	調査結果分析方法検討③	ヒアリング調査データの整理方法
第 28 回	総括	研究テーマと調査研究方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加態度（70 %）と課題への対応（30 %）を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【専門分野】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire research methods for writing a master's thesis.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:review previous research in line with your interests and organize research issues.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, in class contribution: 70%

SOW600J1

論文研究演習Ⅰ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2 年次における修士論文の作成に向け、テーマの設定、先行研究のレビュー、関連データの分析、データの収集と分析方法など、研究の方法について十分な準備を行う。

【到達目標】
自らの研究テーマに関する先行研究を十分にレビューできる。また、研究テーマに関する背景、目的を明らかにし、説明することができる。さらに研究方法に関する知識を広げ、自らの研究テーマに関する適切な研究方法を選択することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
関心のあるテーマについて、関連するデータや先行研究をレビューし、いまだ明らかにされていない内容を明確にしていく作業を行なう。先行研究のレビュー等のレポートによる報告などによる個別の指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の分野と範囲	研究分野と範囲の明確化
第 2 回	研究の視点と実践の視点	研究の視点と実践の視点の相違
第 3 回	先行研究レビューの方法	先行研究のレビューの具体的な方法
第 4 回	先行研究のレビュー①	実際の先行研究のレビューの検討
第 5 回	先行研究のレビュー②	実際の先行研究のレビューの検討
第 6 回	先行研究のレビュー③	実際の先行研究のレビューの検討についての報告
第 7 回	先行研究のレビュー④	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第 8 回	レビュー論文のまとめ方	レビュー論文の執筆方法
第 9 回	先行研究のレビュー⑤	実際の先行研究のレビュー論文の検討
第 10 回	先行研究のレビュー⑥	実際の先行研究のレビューの検討と協議
第 11 回	先行研究のレビュー⑦	実際の先行研究のレビューの追加の検討
第 12 回	先行研究のレビュー⑧	実際の先行研究のレビューの追加についての協議
第 13 回	先行研究のレビュー⑨	実際の先行研究のレビューのの追加についての確認
第 14 回	先行研究のレビュー⑩	実際の先行研究のレビューの最終確認
第 15 回	レビュー論文の報告	レビュー論文の報告と検討
第 16 回	研究の設計方法案について	研究の設計方法案についての報告
第 17 回	研究の設計方法についての確認	研究の設計方法の検討
第 18 回	研究倫理について	研究における倫理的配慮
第 19 回	仮説の構築	仮説の構築方法の検討
第 20 回	仮説の内容について	仮説の内容について
第 21 回	データの範囲と収集方法	データの収集方法の検討
第 22 回	データの具体的な収集方法	データの具体報告方法についての報告検討
第 23 回	データの収集方法の最終確認	データの収集方法の最終確認
第 24 回	テーマの背景と意義についての研究指導	実際のテーマに基づく研究内容（背景と意義）
第 25 回	研究方法についての研究指導	研究方法について研究指導
第 26 回	結果の分析についての研究指導	結果の分析についての研究指導
第 27 回	考察についての研究指導	考察についての研究指導
第 28 回	論文の構成について	論文の構成方法の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究対象とテーマにより、次回の研究指導までにレポート等によりまとめて報告を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
岩田正美他編著『社会福祉研究法』有斐閣、2006 年

【参考書】
研究テーマによって自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、研究画書の作成、レポートの報告とその内容 60 %により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その実践経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店,2022 年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的な視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2020 年
・「仮設住宅　その 10 年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020 年
・『コミュニティソーャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019 年
・『地域福祉とファンでレイジング－財源確保の方法と先進事例－』（共編著）中央法規,2018 年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表・共著）中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－」（共編著）中央法規、2015 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－」（監訳、丸善出版、2012 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と方法』（共著）中央法規、　2014 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『新版コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規,2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年
・『ソーシャルワークと社会開発-開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善出版,2012 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
For its own research subject,it guide an advice in the setting subject,the research way and so on appropriately.Then it create the research paper.of the necessary article and data.It makes sentences as the research paper.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to spend four hours with each supervision,
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on research paper(60 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %）

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に取りかかり、完成させることを目的とする。

【到達目標】
受講生の研究テーマに即した研究方法、分析手法を身につけ、論文執筆ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
確定した研究テーマについて、再度検証し、研究方法やデータ分析の技法が研究内容に適しているかを確認したうえで、論文の作成が可能となる指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	先行研究の検証①	論文内の先行研究の検討
第 3 回	先行研究の検証②	論文内の先行研究の妥当性
第 4 回	先行研究との比較検討①	隣接領域文献との比較
第 5 回	先行研究との比較検討②	比較検討の結果の検証
第 6 回	研究データの分析①	データ全体の俯瞰
第 7 回	研究データの分析②	データの簡略化作業
第 8 回	研究データの分析③	データの信頼性の検討
第 9 回	研究データの分析④	データの妥当性についての検討
第 10 回	研究データの分析⑤	データ分析結果の考察
第 11 回	研究データの分析⑥	分析結果と考察内容の関連性の検討
第 12 回	考察の検討①	分析に基づく考察の検討
第 13 回	考察の検討②	考察の最終確認
第 14 回	中間総括	春学期の研究の成果を発表
第 15 回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第 16 回	論文基礎資料の確認	基礎資料の正確性
第 17 回	論文執筆指導①	全体のアウトライン検討章立ての検討
第 18 回	論文執筆指導②	各章における節立ての検討
第 19 回	論文執筆指導③	目次の確定
第 20 回	論文執筆指導④	序論の検討
第 21 回	論文執筆指導⑤	本論の検討
第 22 回	論文執筆指導⑥	考察・結論の検討
第 23 回	論文執筆指導⑦	全体にわたっての確認
第 24 回	引用文献の確認①	序論・本論概説箇所について
第 25 回	引用文献の確認②	考察、結論について
第 26 回	引用文献の確認③	全体にわたっての確認
第 27 回	最終稿の検討①	推敲、校正
第 28 回	最終稿の検討②	論文要旨の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、プレゼンテーションに備えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1．授業内でのテーマ報告（50 %）。
2．修士論文（50 %）。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の論文執筆に関する疑問や課題を受け止めて、解決できるよう共に考えることを行うよう努めていく。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.
【Learning Objectives】Achievement goal is completion of master's thesis.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】 The final grade will be the dissertation writing process (50%) and the acquisition of knowledge and skills (50%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
構想した修士論文を仕上げ、完成させる。

【到達目標】
受講生の研究テーマに即した研究方法、分析手法を具体化し、論文が完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP7」と「DP8」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
論文の構想発表後で深まった研究テーマを元に、データ収集と分析を経て論文を仕上げていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション前半	年間スケジュールの確認
第 2 回	研究概要のレビュー（総論）	研究概要の見直し・確認（総論）
第 3 回	研究概要のレビュー（研究骨子）	研究概要の見直し・確認（研究骨子）
第 4 回	研究概要のレビュー（参考文献）	研究概要の見直し・確認（参考文献）
第 5 回	研究概要のレビュー（まとめ）	研究概要の見直し部分のまとめ
第 6 回	先行研究のレビュー（総論）	先行研究の見直し・確認（総論）
第 7 回	先行研究のレビュー（国内）	先行研究の見直し・確認（国内）
第 8 回	先行研究のレビュー（海外）	先行研究の見直し・確認（海外）
第 9 回	先行研究のレビュー（その他）	先行研究の見直し・確認（その他）
第 10 回	調査手法のレビュー（文献）	調査手法の見直し・確認（文献）
第 11 回	調査手法のレビュー（インタビュー）	調査手法の見直し・確認（インタビュー）
第 12 回	調査手法のレビュー（フィールド）	調査手法の見直し・確認（フィールド）
第 13 回	調査手法のレビュー（オンライン）	調査手法の見直し・確認（オンライン）
第 14 回	中間総括	研究成果の中間まとめ
第 15 回	オリエンテーション後半	スケジュールの見直し・確認
第 16 回	分析・考察のレビュー（総論）	分析・考察の見直し・確認（総論）
第 17 回	分析・考察のレビュー（問い）	分析・考察の見直し・確認（問いへの回答）
第 18 回	分析・考察のレビュー（先行研究）	分析・考察の見直し・確認（先行研究との関連）
第 19 回	分析・考察のレビュー（新たな知見）	分析・考察の見直し・確認（オリジナリティ部分）
第 20 回	分析・考察のレビュー（論文）	分析・考察の見直し・確認（論文上の表記）
第 21 回	分析・考察のレビュー（まとめ）	分析・考察の見直し・確認（整理およびまとめ）
第 22 回	結論の準備	結論部分を整理
第 23 回	結論の変更	結論について状況に応じて修正
第 24 回	結論のレビュー	結論部分の見直し・確認
第 25 回	最終発表の準備	アウトラインの作成
第 26 回	最終発表のリハーサル	リハーサルの実施
第 27 回	最終発表の実施	要点を発表
第 28 回	最終総括	研究成果の最終まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加・発表・報告： 30%、論文執筆： 70%

【学生の意見等からの気づき】
院生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】A process to elaborate the idea of his/her thesis is to further be facilitated.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to clarify the research methods and analytical techniques according to the selected research topic.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (30%), thesis development (70%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

眞保　智子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成過程において、先行研究のまとめ方、論文の構成、オリジナリティの明確化などについて適宜研究報告を行い、指導をもとに修士論文を完成させる。

【到達目標】
自らの研究テーマに関する先行研究の到達点と課題を明らかにする。
修士論文を論拠が明確で、かつ論理的に一貫性のあるものとする。
修士論文の結論、主張をオリジナリティのあるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究経過について適宜報告を行い、それをもとに研究指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究課題の検討	テーマの検討
第 2 回	研究課題の決定	テーマの決定
第 3 回	仮説の検討	仮説の検討
第 4 回	仮説の構築	仮説を明らかにする
第 5 回	調査データ収集	結果の整理
第 6 回	調査結果の分析	結果の検討
第 7 回	調査結果の報告	調査結果の提示
第 8 回	調査結果に対する議論	調査成果のまとめ
第 9 回	データの収集の準備	データの収集の課題
第 10 回	データの収集	データの収集方法
第 11 回	データの収集の実践	データの収集
第 12 回	データ収集と報告	データの収集状況報告
第 13 回	データの分析	データの分析
第 14 回	データ分析と統合	データ分析結果のまとめ
第 15 回	春学期のまとめ	振り返りと今後の課題
第 16 回	論旨の検討	論文のオリジナリティの提示
第 17 回	論旨の確認	論文のオリジナリティの明確化
第 18 回	論旨まとめ	論文のオリジナリティの確定
第 19 回	論文構成の提示	論文の構成の検討
第 20 回	論文構成の検討	論文の構成の修正
第 21 回	論文構成の確認	論文構成の確定
第 22 回	論文構想発表	論文構想の確定
第 23 回	論文執筆に向けて	論文執筆計画の確認
第 24 回	論文執筆進捗確認	論文執筆進行確認
第 25 回	論文執筆指導	論文構成の指導
第 26 回	論文の添削（考察）	初稿の確認・添削（調査分析と考察）
第 27 回	論文の添削（全体構成）	初稿の確認・添削
第 28 回	論文の完成	完成原稿の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
厚生労働省障害者雇用実態調査の通読を行うなど本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の内容 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This　seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. Additionally, students will build confidence and competence in writing preparing for degree paper. The goal of this seminar is to complete the degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on degree paper (100%).

SOW600J1

論文研究演習Ⅱ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の作成に伴う研究テーマ、対象の設定、研究方法等について、研究の過程において適宜研究報告をもとに研究指導を行い、修士論文の作成を行う。

【到達目標】
自らの研究テーマについて、適切な研究方法を用いて研究を進め、文章等により根拠を示し、結論と研究の成果等を表現できる。研究の目的と内容、結論等を説得力のある報告ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究経過について適宜報告を行い、それをもとに研究指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	テーマについての報告と指導	テーマについての報告
第 2 回	テーマについての協議	テーマについて協議と確認
第 3 回	研究対象について	研究対象についての報告
第 4 回	研究対象についての協議	研究対象についての協議と確認
第 5 回	先行研究の調べ方	先行研究について調べ方
第 6 回	先行研究についての報告	先行研究についての協議と確認
第 7 回	先行研究のレビューのまとめ方について	先行研究のレビューのまとめ方の指導
第 8 回	データの収集方法	データの収集方法についての指導
第 9 回	データの収集方法についての報告	データの収集方法についての協議と確認
第 10 回	データの具体的な収集方法	データの具体的な収集方法についての報告
第 11 回	データの具体的な収集方法についての報告	データの具体的な収集方法についての協議
第 12 回	データの具体的な収集方法の確認	データの具体的な収集方法の確認と指導
第 13 回	データの分析方法について	データの分析方法についての指導
第 14 回	データの分析方法の報告	データの分析についての協議と確認
第 15 回	春学期のまとめ	振り返りと今後の課題に向けて
第 16 回	データの分析結果について	データの分析結果についての報告
第 17 回	データの分析結果の報告	データの分析結果についての協議、指導
第 18 回	データの分析結果の確認	データの分析結果についての確認
第 19 回	研究の結果について	結果についての報告、指導
第 20 回	結果についての確認	結果についての協議と確認
第 21 回	考察について	考察についての報告、指導
第 22 回	論文の構成と内容	論文の構成と内容についての報告
第 23 回	論文のまとめに向けて	論文の構成と内容についての協議
第 24 回	構成と内容の確認	論文の構成と内容についての検討と確認
第 25 回	構成と内容の最終確認	論文の構成と内容についての最終的な確認
第 26 回	完成に向けての確認	完成に向けての協議
第 27 回	論文の完成に向けて	完成に向けた確認と指導
第 28 回	論文の最終確認	完成に向けての最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の指導に向けて、各自が与えられた課題について、十分に報告できるように準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
特に使用しない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、研究に関するレポート等 60 %により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業ではその経験を活かし助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜く地域のチカラ－』（単著）明石書店,2021 年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的視座と先進的取り組み－』(共編著）明石書店,2020 年,
・『仮設住宅　その 10 年　陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著）御茶の水書房,2020 年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開ー理論と先進的事例－』（共編著）中央法規,2018
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表、共著）、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000

【Outline (in English)】
【Course outline】
For its own research subject,it guide an advice in the setting subject,the research way and so on appropriately.Then it create the research paper.of the necessary article and data.It makes sentences as the research paper.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can search of the necessary article and data
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting,student will be expected to spend four hours to understand the course content
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on research paper(60 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %）

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

伊藤　正子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文にむけた調査計画の作成。

【到達目標】
修士論文の作成に必要なデータを収集するために、調査計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
まず、各自の調査関心を明確化することから始め、次に、先行調査データのレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に調査課題を絞り込み、秋学期に入ってからは、調査目的を明確化するとともに、調査実施の基盤を確定させ、調査計画書の作成に取りかかる。対面を基本としつつ、状況に応じてオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	調査関心の明確化①	調査関心の列挙
第 3 回	調査関心の明確化②	調査関心のグループ化
第 4 回	調査関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	調査関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行データのレビュー①	隣接領域の文献
第 7 回	先行データのレビュー②	関連領域の文献
第 8 回	先行データのレビュー③	隣接領域の論文
第 9 回	先行データのレビュー④	関連領域の論文
第 10 回	調査課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	調査課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	調査課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	調査課題の絞り込み④	調査実施フィールドの検討
第 14 回	調査課題の絞り込み⑤	調査仮説の検討
第 15 回	中間総括	春学期を通じて明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	調査目的の明確化①	調査の具体的目的の列挙
第 18 回	調査目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	調査目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	調査目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	調査構想の基盤作り①	調査仮説の明確化
第 22 回	調査構想の基盤作り②	調査手法（量的、質的等）の検討
第 23 回	調査構想の基盤作り③	調査データ収集方法の検討
第 24 回	調査構想の基盤作り④	調査データ分析方法の検討
第 25 回	調査計画書の作成①	調査実施体制の検討
第 26 回	調査計画書の作成②	調査実施フィールドの確認
第 27 回	調査計画書の作成③	調査対象者の確認
第 28 回	まとめ	調査計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．演習への積極的参加（50 %）
２．調査計画書（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてお知らせ、資料の配付、課題の提出等を学習支援システムを利用するため、オンラインのための機器（パソコン、スマートフォン等）。

【その他の重要事項】
医療機関・ＮＧＯソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実際について解説する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
＜研究テーマ＞ エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline (in English)】
This course introduces fundamental of academic research to prepare a master's thesis. The goals of this course are to enhance necessary knowledge, skills, and to develop a research plan. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

岩崎　晋也

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究に必要なデータの収集に必要な研究手法を学ぶ。

【到達目標】
データ収集のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに即したデータ収集の方法の検討を行い、データの収集を行うための準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第 2 回	データ収集の方法１	統計調査と事例調査について学ぶ
第 3 回	データ収集の方法２	標本調査の技法について学ぶ
第 4 回	データ収集の方法３	データ収集技法について学ぶ
第 5 回	データ収集の方法４	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第 6 回	研究テーマと手法の検討１	訪問面接、インタビュー調査の特質を学ぶ
第 7 回	研究テーマと手法の検討２	参与観察調査の特質を学ぶ
第 8 回	研究テーマと手法の検討３	フィールド調査の方法・技術を学ぶ
第 9 回	研究テーマと手法の検討４	データ解析の技法を学ぶ
第 10 回	関連研究方法のレビュー１	量的調査の代表的研究方法をレビューする
第 11 回	関連研究方法のレビュー２	研究テーマに沿った量的調査の研究方法をレビューする
第 12 回	関連研究方法のレビュー３	質的調査の代表的研究方法をレビューする
第 13 回	関連研究方法のレビュー４	研究テーマに沿った質的調査の研究方法をレビューする
第 14 回	中間総括	中間の総括を行う
第 15 回	オリエンテーション	オリエンテーションを行う
第 16 回	研究仮説の検討１	研究仮説を考える
第 17 回	研究仮説の検討２	研究仮説を立証するために必要な方法を考える
第 18 回	研究仮説の検討３	研究仮説を立証するために必要なデータを考える
第 19 回	研究仮説の検討４	研究仮説を確定する
第 20 回	研究フィールドの検討１	データ収集のためのフィールドを検討する
第 21 回	研究フィールドの検討２	データ収集が可能な施設等を検討する
第 22 回	研究フィールドの検討３	データ収集が可能な施設の実践等を観察する
第 23 回	研究フィールドの検討４	データ収集のためのフィールドを確定する
第 24 回	研究方法の明確化１	研究方法を具体的に検討する
第 25 回	研究方法の明確化２	研究方法を具体的に検討し、調査票を設計する
第 26 回	研究方法の明確化３	調査票による予備的調査を行う
第 27 回	研究方法の明確化４	研究方法を確定する
第 28 回	年間総括	１年間の研究を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指示された課題を行う。本授業の準備学習・復習時間は各回４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (100%) により行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは実施しませんでした。

【担当教員の専門分野】
社会福祉原理・思想

【Outline (in English)】
Learn the skills of data collection.
The goals of this course are to improve the skills of data collection.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 100%.

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

岩田　美香

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に必要なデータの収集について、フィールドワークや調査の方法を学び、自らの研究にフィードバックしていく。

【到達目標】
①各自の調査関心を明確にする。②先行調査データのレビューを行い、テーマ、研究調査目的、仮説を明確にする。③実際に調査研究計画を作成し実施する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
・上記目標を達成するために、社会調査や社会福祉調査関係の文献講読と実際にフィールドワークを実施し、その研究成果を報告するとともに、フィールド調査研究の意義や役割を検証する。
・課題等のフィードバックは、直接に返却あるいは学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フィールド調査研究の概要説明、各自の問題関心の発表
第 2 回	実践研究とは何か	調査研究の特徴と基本的枠組みの整理
第 3 回	データ収集の方法１	統計調査と事例調査について学ぶ
第 4 回	データ収集の方法２	標本調査の技法について学ぶ
第 5 回	データ収集の方法３	データ収集技法について学ぶ
第 6 回	データ収集の方法４	質問紙・調査票の作成方法を学ぶ
第 7 回	質的調査研究１	訪問面接、インタビュー調査の特質を学ぶ
第 8 回	質的調査研究２	参与観察調査の特質を学ぶ
第 9 回	質的調査研究３	データの解析の技法を学ぶ
第 10 回	フィールド調査研究１	フィールド調査の方法・技術を代表的文献から学ぶ
第 11 回	フィールド調査研究２	フィールド調査研究全体のプロセス：調査の企画や留意点等を中心に学ぶ
第 12 回	先行研究レビュー１	関連領域の研究
第 13 回	先行研究レビュー２	隣接領域の研究
第 14 回	中間総括	量的・質的フィールド調査研究論の中間的まとめ
第 15 回	オリエンテーション	夏期休暇の研究成果の発表、秋学期におけるスケジュールの確認
第 16 回	調査研究目的の明確化１	代表的な調査研究手法の検討
第 17 回	調査研究目的の明確化２	調査研究目的と調査研究手法の検討
第 18 回	調査研究デザイン検討１	研究テーマに基づくフィールドの選定
第 19 回	調査研究デザイン検討２	研究フィールドの事前データ整理と報告、討論
第 20 回	調査研究デザイン検討３	研究フィールド訪問
第 21 回	パイロット研究実践１	研究フィールドでの参与観察実施のための準備
第 22 回	パイロット研究実践２	研究フィールドでの第 1 回参与観察内容報告と討議
第 23 回	パイロット研究実践２	研究フィールドでの第 2 回参与観察内容報告と討議
第 24 回	パイロット研究実践３	研究フィールドでの第 1 回インタビュー調査内容報告と討議
第 25 回	パイロット研究実践４	研究フィールドでの第 2 回インタビュー調査内容報告と討議
第 26 回	パイロット研究実践５	研究フィールドでの第 3 回インタビュー調査内容報告と討議
第 27 回	調査研究実践のまとめ	修士論文研究目的、方法と研究フィールド決定のための討議
第 28 回	全体総括	年間のまとめの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・履修者は、個人の研究デザインに沿ってデータの収集を進めると同時に、必ず検討のためのレジュメや資料を用意して演習に臨むこと。
・本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究テーマや研究方法に応じて適宜紹介する。

【参考書】
履修者の研究テーマや研究方法に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への積極的参加（50 %）、演習内課題（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉
１．子育て・子育ちの社会的不平等
２．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics. Students will be enhancing their necessary knowledge and skills in their fields.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%), and in-class contribution (50%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

髙良　麻子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に必要なデータ収集の方法を学ぶ。

【到達目標】
・研究を進めために必要なデータの収集方法を理解する。
・データ収集を行うことができるようになる。
・倫理的配慮について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
自分の研究テーマにもとづいたデータを収集できるように、個別やグループ指導を行う。計画したうえで、実際にデータ収集を行う。授業ごとのリアクションをもとに、次の授業にフィードバックしながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第 2 回	実践研究の方法	実践研究の位置づけと方法
第 3 回	データ収集の方法	データ収集方法の概要
第 4 回	質問紙調査法	質問紙調査法の概要
第 5 回	文献・記録調査法	文献・記録調査法の概要
第 6 回	事例研究の方法	事例研究の概要
第 7 回	インタビュー調査法	インタビュー調査法の概要
第 8 回	観察調査法	観察調査法の概要
第 9 回	アクションリサーチ	アクションリサーチの概要
第 10 回	データ収集方法の位置づけ	論文のレビューによる研究目的と調査方法の関係の理解
第 11 回	調査計画の策定①	研究目的を達成するための調査方法の検討
第 12 回	調査計画の策定②	調査対象の選定
第 13 回	調査計画の策定③	調査における倫理的配慮の検討
第 14 回	中間総括	振り返りと発表
第 15 回	オリエンテーション	夏期休暇中の研究成果の発表
第 16 回	調査計画の見直し①	調査計画の再検討
第 17 回	調査計画の見直し②	調査計画の修正
第 18 回	調査計画の策定	見直し等にもとづく調査計画の策定
第 19 回	倫理計画	倫理的配慮の検討
第 20 回	調査計画実施の準備①	実施書等
第 21 回	調査計画実施の準備②	調査実施の練習
第 22 回	調査計画実施の準備③	調査実施のリハーサル
第 23 回	パイロット調査実施準備	パイロット調査のリハーサル
第 24 回	パイロット調査実施	フィールドでのパイロット調査の実施
第 25 回	パイロット調査の振り返り	調査実施概要の報告と振り返り
第 26 回	パイロット調査結果の分析	調査結果の分析
第 27 回	調査計画の見直し	パイロット調査を踏まえた調査計画の再検討
第 28 回	総括	振り返りと課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
計画的に研究を進めること。各時間の課題に関するレジュメ作成等の準備を進めるとともに、授業での議論内容等を踏まえて理解を深める復習を行なってほしい。本授業の準備・復習時間は、各回４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・課題提出 50%
・平常点 30%
・パイロット調査 20%

【学生の意見等からの気づき】
学生の調査に関する理解度に応じて指導を変更する。

【担当教員の専門分野】
ソーシャルワーク論

髙良麻子（2017）『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル−「制度からの排除」への対処』中央法規.
髙良麻子（2013）「日本の社会福祉士によるソーシャル・アクションの認識と実践」『社会福祉学』53（4）,42-54, 日本社会福祉学会.

【Outline (in English)】
This course is a two-semester integrative practice course. Students will use the seminar format to learn how to collect data for research in social work. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (50%) , in-class contribution (30%), and presurvey (20%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成に必要なデータの収集にむけたフィールドワークや調査を実施することを目指す。

【到達目標】
データ収集に必要な研究手法を検討・習得し、フィールド調査の応用することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
はじめに、一般的なデータ収集の方法について学習し、受講者の関心領域や研究方法に適したデータ収集の技法、フィールドの選定、研究仮説の検討を行い、研究内容を明確化していく。フィードバックの方法として、オフィス・アワーで、課題に対して講評する。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	データ収集の方法①	研究対象の選定について
第 3 回	データ収集の方法②	フィールドの選定方法についての説明
第 4 回	データ収集の方法③	各自の研究対象とフィールドの方向性についての発表
第 5 回	データ収集の実際	データ収集の実際についてＤＶＤで学習する
第 6 回	データ収集方法のまとめ	データ収集に関するフリーディスカッション
第 7 回	研究テーマと手法の検討①	研究手法についての説明
第 8 回	研究テーマと手法の検討②	研究テーマと手法の関連性についての説明
第 9 回	研究テーマと手法の検討③	各自の研究テーマと研究手法の方向性医ついて報告
第 10 回	関連研究方法のレビュー①	講義
第 11 回	関連研究方法のレビュー②	前週の講義を受けての確認とディスカッション
第 12 回	関連研究方法のレビュー③	関連研究方法への関心の確認
第 13 回	関連研究方法のレビュー④	フリーディスカッション
第 14 回	中間総括	研究内容の検討とまとめ
第 15 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 16 回	研究仮設の検討①	研究仮設に関する説明
第 17 回	研究仮設の検討②	研究仮説の立て方
第 18 回	研究仮設の検討③	受講生の研究内容の検討
第 19 回	研究仮設の検討④	受講生の研究内容についての議論
第 20 回	研究仮設の報告	各自の研究仮設についての報告
第 21 回	研究テーマの発表①	各自の研究テーマの報告
第 22 回	研究テーマの発表②	全体での質疑応答とフリーディスカッション
第 23 回	研究フィールドについての報告①	各自の研究フィールドの報告
第 24 回	研究フィールドについての報告②	研究の方向性について確認
第 25 回	研究方法の明確化①	研究方法の妥当性の説明
第 26 回	研究方法の明確化②	研究方法についての報告
第 27 回	研究方法の明確化③	研究方法の検証
第 28 回	総括	研究の方向性についての確認と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生自らが研究の対象とするフィールドに関連する資料および情報を収集し、授業進度にあわせて適宜説明できるよう準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加－ 60 %
課題への取組み・提出課題－ 40 %
特に、研究対象とするフィールドに関連する専門的知識や情報については、授業進度に合わせて説明できることが評価の基準となる。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、双方向の授業で議論することに評価を得ているので、心がけていきたい。

【その他の重要事項】
社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.
【Learning Objectives】The goal is to acquire research methods.
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 60%, Reports 40%.

SOW600J1

実践研究演習 I

佐野　竜平

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究に必要なデータ収集・分析方法を学ぶ。

【到達目標】
研究を進めるためのデータ収集・分析方法や他の実践スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
研究テーマに沿ったデータ収集・分析に必要なアレンジを進めていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション前半	春学期の進め方について確認
第 2 回	データ収集の準備	データ収集について準備
第 3 回	データ収集の方法検討	データ収集方法を検討
第 4 回	データ収集スキル	データ収集スキルについて意見交換
第 5 回	質的調査法（文献）	質的調査法に関する文献を整理
第 6 回	質的調査法（国内）	質的調査法を学ぶ（国内論文）
第 7 回	質的調査法（海外）	質的調査法を学ぶ（海外論文）
第 8 回	フィールド調査法の検討	フィールド調査法を検討
第 9 回	フィールド調査法の試行	フィールド調査法を実践
第 10 回	フィールド調査法の習得	フィールド調査法の経験から学ぶ
第 11 回	関連研究レビュー（総論）	関連研究から手法を学ぶ（総論）
第 12 回	関連研究レビュー（国内）	関連研究から手法を学ぶ（国内）
第 13 回	関連研究レビュー（海外）	関連研究から手法を学ぶ（海外）
第 14 回	中間総括	これまでの振り返り
第 15 回	オリエンテーション後半	秋学期の進め方について確認
第 16 回	研究仮説の草案	研究仮説を作成
第 17 回	研究仮説の検討	研究仮説について意見交換
第 18 回	研究仮説の見直し	研究仮説をレビュー
第 19 回	フィールド訪問の検討	現場訪問を検討
第 20 回	フィールド訪問準備	現場訪問を打診
第 21 回	フィールド訪問の計画	現場訪問のスケジューリング
第 22 回	フィールド調査実践（団体）	調査準備を進め、実施（団体）
第 23 回	フィールド調査実践（個人）	調査準備を進め、実施（個人）
第 24 回	フィールド調査実践（その他関係者）	調査準備を進め、実施（その他関係者）
第 25 回	フィールド調査実践（フォローアップ）	実施した内容についてフォローアップ
第 26 回	中間報告の準備	フィールド調査報告の準備
第 27 回	中間報告	フィールド調査報告の実施
第 28 回	レビュー	1 年間の振り返りと要点の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加： 60%、課題への取り組み・提出： 40%

【学生の意見等からの気づき】
院生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Necessary skills and methods according to his/her research topics are to be focused.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to learn how to collect and analyze data to advance their research.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%), submission of tasks (40%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

眞保　智子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な調査や実践を通して、論文執筆に必要な調査データの収集を行います。

【到達目標】
研究課題に答える社会調査を実践し、研究活動を自ら遂行する基礎を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
以下について演習を行います。①問題意識の研究課題への変換、②研究テーマに関する主要文献の収集・把握・理解、③先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築、④研究課題の探求に適切な研究方法の選択・実践、⑤研究課題の探求に適切な研究対象へのアクセス、⑥理論やデータに基づくオリジナルな発見事実・仮説の提起⑦ 7 研究成果の理論的貢献、実践的貢献、および研究の限界の説明。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方と春学期スケジュールの確認
第 2 回	調査の前に	問題意識の確認と課題の共有
第 3 回	先行研究のレビュー	主要文献の収集
第 4 回	主要文献の検討	主要文献の収集・把握・理解
第 5 回	先行研究のレビュー（仮説構築へ）	先行研究の批判に基づく妥当な仮説構築
第 6 回	先行研究のレビュー（研究方法の検討）	研究方法の選択・妥当性の検討
第 7 回	質的調査手法の理解	エスノグラフィックアプローチ
第 8 回	質的調査手法の検討	クリニカルアプローチ
第 9 回	質的調査準備	調査対象の検討・選定
第 10 回	質的調査準備（情報収集）	調査対象の内実と周辺情報の収集
第 11 回	質的調査の検証法	仮説と想定される結果の検討
第 12 回	量的調査手法	既存データ利用による調査
第 13 回	量的調査手法の実践	アンケート調査の実践
第 14 回	量的調査手法の設計	解析方法と調査設計
第 15 回	中間総括	調査計画の発表とパイロットスタディに向けて
第 16 回	オリエンテーション	春学期の振り返りとスケジュールの確認
第 17 回	パイロットスタディの報告	パイロットスタディの結果を発表
第 18 回	パイロットスタディを用いての議論	仮説構築の妥当性をディスカッション
第 19 回	パイロットスタディから研究の検討	研究対象の再検討
第 20 回	パイロットスタディから研究手法の検討	研究手法の再検討
第 21 回	調査の実践	対象へのアクセス（調査・データ収集）
第 22 回	調査の実践（データ収集）	対象へのアクセスと報告
第 23 回	調査の実践（報告）	対象へのアクセスと発表
第 24 回	調査の実践（修正）	対象へのアクセス（コメントをもとに修正）
第 25 回	調査の実践報告と研究方法の検討	データ収集のスケジュール確認
第 26 回	調査の実践報告と研究方法の検討（手法の検討）	データ分析手法の妥当性の検討とスケジュール確認
第 27 回	調査の実践報告と研究方法の検討（独創性）	データを分析し独創性を検討
第 28 回	調査の実践報告と研究方法の検討（課題）	研究課題と調査・分析手法と得られる結果から課題と限界を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究デザインに基づきデータの収集を進め、演習では必ず検討のため報告を求めるので、レジュメや資料を用意して演習に臨むことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【参考書】
研究課題や研究方法に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習内での報告・発表：１００％

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者のキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This　seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. The goal of this seminar is to acquire the basics of research design. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on presentation (100%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

土肥　将敦

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文研究演習Ⅰと対応させながら、修士論文執筆に必要な定性的な情報を集める技法を学びつつ、データ分析を行っていく。

【到達目標】
研究テーマに即した調査対象を選定し、質的調査の手法を用いながら、データを分析できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生の研究報告・議論に加えて、質的調査にかかわる文献の輪読や議論も行う COVID-19 にともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。ミニレポートなどにおける優れた内容は講義内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認と調査対象の設定①	研究テーマに即した調査対象を選定する①
第 2 回	研究テーマの確認と調査対象の設定②	研究テーマに即した調査対象を選定する②
第 3 回	質的研究メソッド①	「分厚い記述」と「薄い記述」①
第 4 回	質的研究メソッド②	「分厚い記述」と「薄い記述」②
第 5 回	質的研究メソッド③	「分厚い記述」と「薄い記述」③
第 6 回	質的研究メソッド④	「分厚い記述」と「薄い記述」④
第 7 回	質的研究メソッド⑤	「分厚い記述」と「薄い記述」⑤
第 8 回	シートの作成①	インタビューシートを作成する①
第 9 回	シートの作成②	インタビューシートを作成する②
第 10 回	シートの作成③	インタビューシートを作成する③
第 11 回	フィールド調査からのデータ分析①	フィールド調査からの 1 次情報を分析する①
第 12 回	フィールド調査からのデータ分析②	フィールド調査からの 1 次情報を分析する②
第 13 回	フィールド調査からのデータ分析③	フィールド調査からの 1 次情報を分析する③
第 14 回	フィールド調査からのデータ分析④	フィールド調査からの 1 次情報を分析する④
第 15 回	フィールド調査からのデータ分析⑤	フィールド調査からの 1 次情報を分析する⑤
第 16 回	夏期休暇中の研究報告①	進捗状況についての中間報告②
第 17 回	夏期休暇中の研究報告②	進捗状況についての中間報告①
第 18 回	データ収集①	データ収集と報告①
第 19 回	データ収集②	データ収集と報告②
第 20 回	データ収集③	データ収集と報告③
第 21 回	データ収集④	データ収集と報告④
第 22 回	データ収集⑤	データ収集と報告⑤
第 23 回	データを分析する①	定性的コーディングと概念モデルの構築①
第 24 回	データを分析する②	定性的コーディングと概念モデルの構築②
第 25 回	データを分析する③	定性的コーディングと概念モデルの構築③
第 26 回	データを分析する④	定性的コーディングと概念モデルの構築④
第 27 回	データを分析する⑤	定性的コーディングと概念モデルの構築⑤
第 28 回	中間報告書の執筆	論文全体のストーリー化を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの「作品」としての修士論文を執筆するためには、講義時間以外に関連する論文や資料を収集しリサーチ・クエスチョンを洗練させていくことが求められます。また与えられた課題をこなすだけでなく、自分で海外の関連する論文を見つけてくる積極的な姿勢が大切です。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の研究テーマに応じて、講義中に適宜指示する。

【参考書】
受講者の研究テーマに応じて、講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の研究報告内容（100 %）により判断する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者とのコミュニケーションを大切にする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業社会論、ソーシャル・イノベーション論、CSR 論
＜研究テーマ＞　ソーシャル・イノベーションの創出と普及のあり方
＜主要研究業績＞
『社会的企業者ー CSI の推進プロセスにおける正統性』（単著, 千倉書房,2022 年）
『ソーシャル・ビジネス・ケース』（共著，中央経済社，2015 年）
『ソーシャル・エンタプライズ論』（共著, 有斐閣,2014 年）
『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著,NTT 出版,2013 年）

【Outline (in English)】
This course aims to introduce graduate students to ethnographic methodology and its main tools; such as field work, participant observation, interview, and so on. The master's thesis is an original research study that is carried out using rigorous methods that are appropriate to the research questions, that generates new knowledge, concepts and methods from one or more branches of social science relevant to corporate social responsibility, social innovation and stakeholder theory.
The goals of this course are to write up the thesis according to the basic guidelines set by the Graduate School, and to generate new knowledge around this research field.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.Your study time will be more than FOUR HOURS for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short presentation(100%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

野田　岳仁

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会をフィールドとした修士論文の作成に向けて、実践的なフィールド調査の技法および専門的な論文執筆の作法を習得することを目的としている。本講義では環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることを目指す。

【到達目標】
フィールドワークによる修士論文の作成に向けて必要な社会調査の技法および論文執筆の作法を身につけることができる。環境社会学・地域社会学の方法論をマスターすることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
最初にデータ収集の方法について学び、その上で、各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら仮説を組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法（フィールドワークやヒアリング調査などでのデータ収集の方針）を検討し、研究計画を作る。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュールの確認
第 2 回	社会調査とは何か？	社会調査の基礎
第 3 回	フィールドワークとは何か？	フィールド調査における心構えと技法
第 4 回	文献調査（1）	調査に必要となる文献の精読
第 5 回	文献調査（2）	文献の精読を通じた問題関心の明確化
第 6 回	統計資料の活用方法	統計資料の収集と整理
第 7 回	調査計画の立案（1）	関連する先行研究および調査報告書の検討
第 8 回	調査計画の立案（2）	調査手法の検討
第 9 回	調査の準備（1）	問いの検討と仮説の設定
第 10 回	調査の準備（2）	先行研究と研究の位置づけの検討
第 11 回	調査の準備（3）	論敵の検討と設定
第 12 回	調査票の作成（1）	質問項目の検討
第 13 回	調査票の作成（2）	ワーディング
第 14 回	調査計画の完成と発表	調査計画および調査票の完成と発表
第 15 回	調査データの分析方法	環境社会学・地域社会学・民俗学の方法から
第 16 回	フィールドワークの準備	テーマおよび調査地の選定
第 17 回	フィールドワーク実習（1）	資料収集と聞きとり調査
第 18 回	フィールドワーク実習（2）	データの整理と集計
第 19 回	フィールドワーク実習（3）	聞きとり調査
第 20 回	フィールドワーク実習（4）	データの整理と質問項目の修正
第 21 回	フィールドワーク実習（5）	補足的な聞きとり調査
第 22 回	調査データの分析（1）	調査データの整理と加工
第 23 回	調査データの分析（2）	調査のデータの加工（図表の作成）
第 24 回	調査データの分析（3）	データの分析についての検討と討議
第 25 回	論文の構成と執筆（1）	研究の全体像と構成の検討
第 26 回	論文の構成と執筆（2）	章立ての検討と討議
第 27 回	論文の構成と執筆（3）	分析結果の検討と討議
第 28 回	研究結果の発表	論文の発表と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題文献の精読、レジュメの作成、研究発表の準備などの事前学習は不可欠となる。フィールドワークを進めておくことも必要であろう。いずれにせよ入念な準備が求められる。本演習の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
受講生の関心や研究テーマを考慮して選定する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】
討議への参加を含めた平常点（50%）、レポートや発表などの成果物（50%）の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートやリアクションペーパー等による受講生の意見や要望は積極的に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを積極的に活用する。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕
環境社会学・地域社会学・観光社会学
〔主要業績〕
『環境社会学の考え方ー暮らしを見つめる 12 の視点』（共著書、ミネルヴァ書房、2019 年）
『生活環境主義のコミュニティ分析ー環境社会学のアプローチ』（共著書、ミネルヴァ書房、2018 年）
『原発災害と地元コミュニティー福島県川内村奮闘記』（共著書、東信堂、2018 年）
『Rebuilding Fukushima』（共著書、Routledge、2017 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of this course is to help students master "The life environmentalism model" as known as one of the major theories of environmental sociology and sociology of local community. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe method and theory of the life environmentalism model, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and the quality of the students' performance（Discussion, presentation, and report）(50%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

水野　雅男

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自が関心を持っている分野に即して、修士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

【到達目標】
フィールドワークを通じて修士論文作成の技術を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の関心分野に応じて、フィールドワークを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証的究明方法を検討する。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。
毎回の検討課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	関心分野とフィールドワーク①	関連する活動事例①の概要把握
第 3 回	関心分野とフィールドワーク②	関連する活動事例①の史的変遷整理
第 4 回	関心分野とフィールドワーク③	関連する活動事例②の概要把握
第 5 回	関心分野とフィールドワーク④	関連する活動事例②の史的変遷整理
第 6 回	関心分野とフィールドワーク⑤	関連する活動事例①の利害関係者の把握
第 7 回	関心分野とフィールドワーク⑥	関連する活動事例②の利害関係者の把握
第 8 回	研究課題の検討①	フィールドワークを通じた課題の整理①　事業目的
第 9 回	研究課題の検討②	フィールドワークを通じた課題の整理②　事業内容
第 10 回	研究課題の検討③	フィールドワークを通じた課題の整理③　事業推進体制
第 11 回	研究仮説の検討①	研究課題を解決するための仮説の考察①　素案の提示
第 12 回	研究仮説の検討②	研究課題を解決するための仮説の考察②　修正案の検討
第 13 回	研究仮説の検討③	研究課題を解決するための仮説の考察③　仮説の確定
第 14 回	中間報告	春学期のフィールドワークの振り返り
第 15 回	研究対象の検討①	仮説検証のための研究対象選定①　対象とする分野の候補列挙
第 16 回	研究対象の検討②	仮説検証のための研究対象選定②　対象とする分野の抽出
第 17 回	研究対象の検討③	仮説検証のための研究対象選定③　対象候補の目的分類
第 18 回	研究対象の検討④	仮説検証のための研究対象選定④　対象候補の選別
第 19 回	研究方法の検討①	予備調査①　文献資料の整理
第 20 回	研究方法の検討②	予備調査②　対象に関する研究の整理
第 21 回	研究方法の検討③	予備調査③　対象地域の概要把握
第 22 回	研究方法の検討④	量的調査方法①　アンケート調査計画
第 23 回	研究方法の検討⑤	量的調査方法②　アンケート調査質問票作成
第 24 回	研究方法の検討⑥	質的調査方法　インタビュー調査計画
第 25 回	データ分析方法の検討①	量的調査データの分析方法①　多変量解析
第 26 回	データ分析方法の検討②	量的調査データの分析方法②　成分分析
第 27 回	データ分析方法の検討③	質的調査データの分析方法　ナラティブ分析
第 28 回	総括	修士論文執筆に向けた作業課題の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】
必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加態度（70 %）と課題への対応（30 %）を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを活用して、課題などを提示する。

【担当教員の専門分野】
都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】
「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline (in English)】
< Course outline >
The aim of this course is to help students acquire practical learning about the ideas and methods necessary for writing a master's thesis according to the field of interest.
< Learning Objectives >
By the end of the course, students should be able to do the followings:the skills of master's thesis writing through fieldwork.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, in class contribution: 70%

SOW600J1

実践研究演習Ⅰ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**1 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会福祉の現場における実習や修士論文作成のためのデータの収集方法について理解し、フィールドを設定する。そして、実際にフィールドに関与し実践能力を高めるとともに、修士論文に必要なデータの収集を行う。

【到達目標】
適切な方法で、一連のフィールドワークを行うことができる。フィールドワークで得たデータを分析し、適切に研究に活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
関心のある領域や修士論文のテーマに関したフィールドについて情報を収集し、実際の実習やデータ収集の方法を検討する。その上でフィールドに継続的に関わり、実践的な能力を高めるとともにデータ収集を行う。方法は、個別のスーパービジョンにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フィールドワークの目的と方法について	フィールドワークの目的と方法についての検討
第 2 回	フィールドの選択について	フィールドの選択の検討
第 3 回	フィールドの選択について確認	フィールドの選択の検確認確認
第 4 回	フィールドワークの内容について	実際の内容と方法の検討
第 5 回	フィールドワークの報告	実際の内容と方法についての報告と検討
第 6 回	初期スーパービジョン①	初期フィールドワークの経過報告
第 7 回	初期スーパービジョン②	初期フィールドワークの内容検討
第 8 回	初期スーパービジョン③	初期フィールドワークの確認
第 9 回	初期スーパービジョン④	初期フィールドワークの振り返り
第 10 回	中期スーパービジョン①	中期フィールドワークの目標設定
第 11 回	中期スーパービジョン②	中期フィールドワークの報告と検討
第 12 回	中期スーパービジョン③	中期フィールドワークの検討
第 13 回	中期スーパービジョン④	中期フィールドワークの報告
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめと振り返り
第 15 回	中期スーパービジョン⑤	中期フィールドワークの報告
第 16 回	中期スーパービジョン⑥	中期フィールドワークの報告と検討
第 17 回	中期スーパービジョン⑦	中期フィールドワークの再検討
第 18 回	中期スーパービジョン⑧	中期フィールドワークのまとめに向けて
第 19 回	中期スーパービジョン⑨	中期フィールドワークの振り返り
第 20 回	後期の目標設定と方法	後期のフィールドワークの目標の設定の検討
第 21 回	後期スーパービジョン①	スーパービジョンの実際
第 22 回	後期スーパービジョン②	後期フィールドワークの報告
第 23 回	後期スーパービジョン③	後期フィールドワークの報告と検討
第 24 回	後期スーパービジョン④	後期フィールドワークの振り返り
第 25 回	後期スーパービジョン⑤	後期フィールドワークのまとめ
第 26 回	後期スーパービジョン⑥（まとめに向けて）	フィールドワークの全体報告と振り返り
第 27 回	後期スーパービジョン⑦（まとめに向けて）	フィールドワークのまとめ方について
第 28 回	フィールドワークのまとめの報告	フィールドワークのまとめの報告と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の指導に向けた報告を、フィールドワークに関する記録やレポートとしてまとめ準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京書籍,2008 年
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社,2008 年
萱間真美『質的研究実践ノート』医学書院,2007 年
筒井真優美『アクションリサーチ入門』ライフサポート社,2010 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %とフィールドワークの内容とレポート 60 %により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）, 中央法規,2014 年
『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』丸善出版、2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
It sets a field to create research paper and to improve practice skill,and collect the data in take field, also, analyze a case in the field.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can improve practice skill, and collect the data in take field,also, analyze a case in the field.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom)】
Student will be expected to spend four hours with each supervision,
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided on research paper(60 %),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %).

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

佐藤　繭美

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**
その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の執筆に向けて、調査データの多角的な分析を実施する。

【到達目標】
研究テーマに即したデータ分析手法を使用して、自らの研究に応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、研究データの分析作業に取りかかり、分析結果について、先行研究との比較を行う。それに基づいてオリジナリティを明確化していく。秋学期は、参考文献をあらためて確認し、その上で、データの文章化を開始する。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第 2 回	データ分析方法の検討①	逐語記録の整理
第 3 回	データ分析方法の検討②	逐語記録の確認
第 4 回	データ分析方法の検討③	逐語記録の読み込み
第 5 回	データの質的分析①	カテゴリーの生成について
第 6 回	データの質的分析②	カテゴリーの生成の実際
第 7 回	データの質的分析③	分析手順の確認
第 8 回	データの質的分析④	カテゴリカルコンテント分析
第 9 回	データの質的分析⑤	ホリスティックフォーム分析
第 10 回	先行データとの比較①	隣接領域文献との比較
第 11 回	先行データとの比較②	関連領域文献との比較
第 12 回	先行データとの比較③	文献検討
第 13 回	先行データとの比較④	オリジナリティの明確化
第 14 回	中間総括	秋学期に向けた課題の確認
第 15 回	オリエンテーション	執筆スケジュールの確認
第 16 回	データの確認	論文データの確認
第 17 回	分析結果の最終確認①	分析結果と結論について
第 18 回	分析結果の最終確認②	分析結果と考察について
第 19 回	分析結果の最終確認③	全体にわたっての確認
第 20 回	論文執筆指導①	質的データの逐語録について
第 21 回	論文執筆指導②	質的データの分析結果について
第 22 回	論文執筆指導③	分析結果の妥当性について
第 23 回	論文執筆指導④	分析結果の信頼性について
第 24 回	論文執筆指導⑤	質的データに基づく考察
第 25 回	論文執筆指導⑥	質的データの逐語録
第 26 回	論文執筆指導⑦	質的データのＭ－ＧＴＡ分析結果
第 27 回	論文執筆指導⑧	質的データのＣＣ・ＨＦ分析結果
第 28 回	総括	論文の仕上げと要旨の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行い、予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１．授業内でのテーマ報告（50 %）。
２．修士論文（50 %）。
なお、授業回数の３分の１を超える欠席は成績評価の対象としない。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の論文課題について指導を行うとともに、論文内で使用しているデータの課題などをともに洗い出し、論文の完成までのサポートを行うよう努めていく。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア
＜研究テーマ＞
・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）
＜主要研究業績＞
①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline (in English)】
【Course outline】This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.
【Learning Objectives】The goal is to acquire research methods
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this lecture is 4 hours each.
【Grading Criteria /Policy】The grades are the content of the presentation（50 %） and the master's thesis（50 %）.

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

佐野　竜平

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実践研究演習Ⅰを補完しつつ、関連するデータ収集・分析方法を応用する。

【到達目標】
関連分野を深く理解を進めるためのデータ収集・分析方法や他の実践スキルを応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP6」と「DP8」と「DP9」と「DP10」に関連

【授業の進め方と方法】
関連分野に関するデータ収集・分析に必要な学びを応用していく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システム、Google フォームまたは対面・オンライン面談等でその都度行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション前半	春学期の進め方について確認
第 2 回	データ収集のレビュー（総論）	データ収集スキルの応用（総論）
第 3 回	データ収集のレビュー（国内）	データ収集スキルの応用（国内比較）
第 4 回	データ収集のレビュー（海外）	データ収集スキルの応用（海外比較）
第 5 回	質的調査法のレビュー	質的調査法の整理
第 6 回	質的調査法の検討	質的調査法に関する意見交換
第 7 回	質的調査法の選択	質的調査法の応用
第 8 回	フィールド調査法のレビュー	フィールド調査法の振り返り
第 9 回	フィールド調査法の結果検討	フィールド調査方法について意見交換
第 10 回	フィールド調査法のフォローアップ	必要に応じてフィールド調査法の修正・追加
第 11 回	関連研究の比較検討（福祉）	関連研究の見直し（福祉）
第 12 回	関連研究の比較検討（臨床心理）	関連研究の見直し（臨床心理）
第 13 回	関連研究の比較検討（まちづくり）	関連研究の見直し（まちづくり）
第 14 回	中間総括	これまでの研究の振り返り
第 15 回	オリエンテーション後半	秋学期の進め方について確認
第 16 回	研究仮説づくり	研究仮説の検討
第 17 回	研究仮説の整理	研究仮説について意見交換
第 18 回	研究仮説の仕上げ	研究仮説を確認
第 19 回	フィールド活動の報告準備	データの整理
第 20 回	フィールド活動の報告	データに基づく研究進捗の報告
第 21 回	フィールド活動の総括	データの確認と見直し
第 22 回	フィールド活動の発展	データを元に追加修正部分を特定
第 23 回	最終報告の作成準備	調査報告の準備開始
第 24 回	最終報告の作成	調査報告の準備継続
第 25 回	最終報告の見直し	調査報告案の確定
第 26 回	最終報告の実施	研究報告の実施
第 27 回	最終報告の見直し	フィードバックを受けて追加・修正
第 28 回	最終総括	研究の仕上げと再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】
講義への参加： 60%、課題への取り組み・提出： 40%

【学生の意見等からの気づき】
院生による様々なアイディアを応用。

【学生が準備すべき機器他】
研究を進めるための機器（パソコン、スマートフォン等含む）。論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】
上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】
障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】
【Course Outline】Relevant skills and methods according to his/her research topics are to be applied.
【Learning Objectives】By the end of the course, students are expected to fully utilize data collection and analysis methods and other practical skills to advance a deeper understanding of related fields.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on in-class contribution (60%), submission of tasks (40%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

眞保　智子

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
支援の実践現場の観察から、支援の成果と課題を明らかにし、その背景にある支援ニーズと支援システムへの理解を深める。

【到達目標】
適切な方法でフィールドワークができる。フィールドワークで得た情報をもとに、支援の成果と課題を抽出できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークから得た情報の整理、検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第 2 回	フィールドワークの目的	目的の明確化
第 3 回	フィールドワークの内容	内容の明確化
第 4 回	フィールドワークの対象	対象の選択、決定
第 5 回	フィールドワークの方法	方法の明確化
第 6 回	情報整理	フィールドワーク先の情報整理
第 7 回	成果と課題	フィールドワーク先の成果と課題
第 8 回	特性の理解	フィールドワーク先の特徴まとめ
第 9 回	課題の明確化	フィールドワークの課題の明確化
第 10 回	フィールドワーク	まとめの作成
第 11 回	フィールドワークの整理	ポイントの整理
第 12 回	フィールドワークの検討	他の事例との比較検討
第 13 回	フィールドワーク結果の抽出	オリジナルな結果の抽出
第 14 回	中間まとめ	成果のまとめ
第 15 回	夏季の課題	夏季休業中の課題確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期の目標
第 17 回	インタビュー調査	まとめの作成
第 18 回	データの整理	ポイントの整理
第 19 回	インタビューの検討	他の事例との比較検討
第 20 回	インタビュー分析	オリジナルな結果の導出
第 21 回	実践手法検討	ニーズの整理
第 22 回	実践の準備	ニーズの分析
第 23 回	ソーシャルアクション	ニーズの要因分析
第 24 回	実践の分析	ニーズ分析まとめ
第 25 回	振り返り	論点整理
第 26 回	課題分析	課題の分析
第 27 回	実践課題の整理	課題の整理
第 28 回	まとめ	政策課題の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究デザインに基づきフィールドワークを行う（ジョブシャドウなどの実践の中から課題を抽出する）。あるいは、データの収集を進め、演習では必ず検討のため報告を求めるので、レジュメや資料を用意して演習に臨むことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文（100%）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートは行っていません。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントをなどを使用します。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞若者支援論、障害者雇用、障害者福祉
＜研究テーマ＞
1　障害者の就労とキャリアデザイン
2　障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
3　産業分野における精神科ソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This seminar provides a lecture on the formal structures and styles of academic writing. This seminar focuses on two primary areas. The first is essay organization: students will examine the fundamentals of outlining and structuring essays as well as practice writing a variety of essay forms. The second is academic language: students will study the specific vocabulary, conventions, and styles of writing particular to graduate school research. Additionally, students acquire field research methods to write degree paper. The goal of this seminar is to complete the degree paper. Before/after each seminar, students will be expected to spend four hours to understand the seminar content. Grading will be decided based on degree paper (100%).

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

宮城　孝

科目分類・科目群：**演習科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策や実践のフィールドにおいて求められるスキルの修得を図ること。または、それらのフィールドにおける学術的な分析を加えるためのデータを収集することを目標とする。

【到達目標】
適切な方法でフィールドワークができる。
フィールドワークで得たデータを適切に分析し、可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」とに関連

【授業の進め方と方法】
履修生のフィールドワークに対する個別的なスーパービジョンを行う。各報告の内容に対して、指導・助言を行い、フィールドワークが成果をあげるように支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第 2 回	フィールドワークの目的	目的の明確化
第 3 回	フィールドワークの対象	対象の明確化
第 4 回	フィールドワークの対象と方法	対象と方法の明確化
第 5 回	フィールドワークの対象と方法の具体化	対象と方法の具体化
第 6 回	スーパービジョン（初期①）	実際のスーパービジョン①
第 7 回	スーパービジョン（初期②）	実際のスーパービジョン②
第 8 回	スーパービジョン（初期③）	実際のスーパービジョン③
第 9 階	スーパービジョン（初期④）	実施のスーパービジョン④初期のまとめと振り返り
第 10 回	スーパービジョン（前期①）	実際のスーパービジョン①前期の目標の設定
第 11 回	スーパービジョン（前期②）	実際のスーパービジョン②
第 12 回	スーパービジョン（前期③）	実際のスーパービジョン③
第 13 回	スーパービジョン（前期④）	実際のスーパービジョン④
第 14 回	前期の振り返りとまとめ	振前期のり返りと今後に向けて
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の目標の設定
第 16 回	目標の設定	目標の設定と課題の明確化
第 17 回	スーパービジョン（中期①）	実際のスーパービジョン①中期の目標の設定
第 18 回	スーパービジョン（中期②）	実際のスーパービジョン②
第 19 回	スーパービジョン（中期③）	実際のスーパービジョン③
第 20 回	スーパービジョン（中期④）	実際のスーパービジョン④中期の振り返り
第 21 回	スーパービジョン（後期①）	実際のスーパービジョン①後期の目標の設定
第 22 回	スーパービジョン（後期②）	実際のスーパービジョン②
第 23 回	スーパービジョン（後期③）	実際のスーパービジョン③（レポートの作成に向けて）
第 24 回	スーパービジョン（後期④）	実際のスーパービジョン④（レポートの骨子について）
第 25 回	振り返りとまとめ①	データ等の分析
第 26 回	振り返りとまとめ②	レポートの作成
第 27 回	振り返りとまとめ③	理論化の検討
第 28 回	振り返りとまとめ④	レポ-トの完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の指導に向けて、記録やデータをレポートとしてまとめ報告できるように準備しておくこと。本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、フィールドワークの内容とそれらを反映したレポートの内容 60 %により、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施

【その他の重要事項】
講師は、社会福祉協議会における実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】
〔専門領域〕地域福祉論
〔主要研究業績〕
・『住民力－超高齢社会を生き抜くチカラ－』（単著）明石書店,2022 年
・『地域福祉と包括的支援システム－基本的な視座と先進的取り組み－』（共編著）明石書店,2021 年
・『仮設住宅　その 10 年－陸前高田における被災者の暮らし－』（共編著】御茶の水書房,2020 年
・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（共編著）中央法規,2019 年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例-」中央法規、2018 年『地域福祉のイノベーショとン－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』編集代表)、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』(共編著) 中央法規,2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣.2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版　地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会, 中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランタリーセクター』中央法規,2000 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
It sets a field to create research paper and to improve practice skill,and collect the data in take field, also, analyzes a case in the field.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to Ａ and Ｂ
Ａ. Students can improve practice skill, and collect the data in take field,also, analyzes a case in the field.
Ｂ. Students can makes sentences as the research paper.
【Learning activities outside of classroom】
Student will be expected to sped four hours with each supervision,
【Grading Criteria/Policy】
Grading will be decided based on Short report(60%),and the quality of the students' experimental performance in the lab(40 %).

PSY500J2

臨床心理学特論

金築　優

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の基礎を学ぶために、臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理地域援助、臨床心理学研究法の４つの柱について、それらの意義や課題等について考えていきます。

【到達目標】
将来心理専門職として活動していく上で、臨床心理学の全体像を把握し、今後何を学び身に付けていく必要があるかを理解し、自らの学びのテーマを深めることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期は、臨床心理学に関する文献を用いて、講義、グループ発表、ディスカッションを行います。秋学期は、各受講生の修士論文のテーマと研究方法を題材にして、臨床心理学の理論や研究法を学んでいきます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的と進め方、成績の評価法を示します。
第 2 回	臨床心理学の歴史	臨床心理学の歴史を概説し、ディスカッションします。
第 3 回	臨床心理学の現状	臨床心理学の現状を概説し、ディスカッションします。
第 4 回	臨床心理面接にまつわる領域の検討とディスカッション１	臨床心理面接の概論に関する文献を配布し、それを用いて、講義、ディスカッションを行います。
第 5 回	臨床心理面接にまつわる領域の検討とディスカッション２	臨床心理面接の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 6 回	臨床心理面接にまつわる領域の検討とディスカッション３	臨床心理面接の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 7 回	臨床心理査定にまつわる領域の検討とディスカッション１	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、ディスカッションを行います。
第 8 回	臨床心理査定にまつわる領域の検討とディスカッション２	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 9 回	臨床心理査定にまつわる領域の検討とディスカッション３	臨床心理査定の概論に関する文献を随時配布し、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 10 回	臨床心理地域援助等にまつわる領域の検討とディスカッション１	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、講義、ディスカッションを行います。
第 11 回	臨床心理地域援助等にまつわる領域の検討とディスカッション２	臨床心理地域援助等に関する文献を配布し、それを用いて、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 12 回	臨床心理地域援助等にまつわる領域の検討とディスカッション３	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、解説、グループ発表、ディスカッションを行います。
第 13 回	臨床心理地域援助等にまつわる領域の検討とディスカッション４	臨床心理地域援助等に関する文献を随時配布し、それを用いて、グループ発表、今後の課題について議論します。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめをします。
第 15 回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の授業の進め方を示します。
第 16 回	臨床心理学におけるエビデンス	臨床心理学におけるエビデンスの重要性について考えます。
第 17 回	臨床心理学における研究の位置づけ１	臨床心理学における研究の目的について概説します。
第 18 回	臨床心理学における研究の位置づけ２	臨床心理学における研究の意義について概説します。
第 19 回	臨床心理学研究における研究倫理	臨床心理学研究における研究倫理の重要性について講義します。
第 20 回	臨床心理学研究における問題意識１	各自の修士論文の研究テーマについて、問題意識を題材にして、解説、ディスカッションします。
第 21 回	臨床心理学研究における問題意識２	各自の修士論文の研究テーマについて、先行研究の課題を題材にして、解説、ディスカッションします。
第 22 回	臨床心理学研究における問題意識３	各自の修士論文の研究方法を題材にして、解説、ディスカッションします。
第 23 回	臨床心理学における生物―心理―社会アプローチ	臨床心理学の今後の課題として、生物―心理―社会アプローチについて検討します。
第 24 回	臨床心理学における統合的アプローチ	臨床心理学の今後の課題として、統合的アプローチについて検討します。
第 25 回	臨床心理学の多様性	臨床心理学の今後の課題として、文化・多様性・テクノロジーを取り上げて、ディスカッションします。
第 26 回	臨床家の成長プロセスについて	臨床家の成長プロセスに関連する研究を紹介し、ディスカッションします。
第 27 回	臨床家の心理的健康について	臨床家の心理的健康に関連する研究を紹介し、ディスカッションします。
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期に学んだことを振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期、秋学期ともに発表があるため、そのための準備が必要となります。また、授業で配布する資料は、次の回の授業までに熟読し、分からない点等は、各自調べておくことを求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度やディスカッションへの貢献の度合い）（50%）、発表内容（30%）及び期末レポート（20%）について総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見を求める機会を多く作るようにします。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）
＜研究テーマ＞
認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究
＜主要研究業績＞
『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年）
『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年）

【Outline (in English)】
This course provides an overview of the field of clinical psychology. Major topics include history and current controversies, professional activities of clinical psychologists, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process; the quality of the students' presentation in the class (30%), term-end report (20%), and in-class contribution (50%).

PSY500J2

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業で学ぶ内容は次のことです。
1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1.～3. の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

【到達目標】
この授業の到達目標は、次のとおりです。
・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、レジュメ作成と発表、ディスカッション、ロールプレイや体験学習などを織り交ぜながら進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
第 2 回	心理支援と心理学的支援法	全体の理論と方法を概説します
第 3 回	力動論に基づく心理療法	力動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 4 回	力動論に基づく発展的な心理療法	力動論に基づく発展的な心理療法の理論と方法を学びます
第 5 回	行動論に基づく心理療法	行動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 6 回	認知論に基づく心理療法	認知論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 7 回	その他の心理療法①	その他の心理療法の理論と方法を学びます（人間性の理論）
第 8 回	その他の心理療法②	その他の心理療法の理論と方法を学びます（システム理論）
第 9 回	その他の心理療法③	その他の心理療法の理論と方法を学びます（表現芸術療法）
第 10 回	その他の心理療法④	その他の心理療法の理論と方法を学びます（民族文化療法）
第 11 回	心理に関する相談、助言、指導等への理論と方法の応用	心理に関する相談、助言、指導等への上記の理論と方法の応用を学びます
第 12 回	適切な支援方法の選択・調整①	心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第 13 回	適切な支援方法の選択・調整について②	心理に関する支援を要する者の状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第 14 回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめをおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連資料の収集・分析、レジュメ作成などの学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（60 %）、ディスカッションへの参加（40 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業での発表においては、パワーポイント使用を推奨します。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012 年)
③『心理臨床への多元的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015 年）

【Outline (in English)】
The contents to be learned in this lesson are as follows.
1. Theories and methods of psychotherapy based on psychodynamic theory.
2. Theories and methods of psychotherapy based on behavioral/cognitive theory.
3. Theories and methods of other representative psychotherapies.
4. Application of the above items 1 to 3.
5. Selection and adjustment of appropriate support methods.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− understand history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling.
− understand meaning of support by outreach, community support, way of communication to build good relationships, limitation of psychological support, and significance of privacy protection.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on presentations (60%), and in-class contribution (40%)

PSY500J2

臨床心理面接特論Ⅱ

末武　康弘

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行います。

【到達目標】
カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明できること、さらに、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できることなど、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成することがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理面接の効果やプロセスについて学ぶとともに、試行カウンセリングを中心とした実習・検討・議論を実施し、臨床心理面接の態度やスキルを実践的に学びます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を示します
第 2 回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説①	臨床心理面接の主要な歴史について概説します
第 3 回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説②	臨床心理面接の効果についての研究を概観します
第 4 回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説③	臨床心理面接のプロセスに関する研究を概観します
第 5 回	試行カウンセリングについての概説	各自が試行カウンセリングを実施し（インテークおよび 3 回の継続面接）、その事例報告と逐語記録（抜粋）を作成して報告します。報告を受けてディスカッションを行います。
第 6 回	インフォームドコンセントと契約および試行カウンセリングの実習と報告①	インフォームドコンセントと契約について指導します。あわせて院生 A、B の報告と検討を行います。
第 7 回	インテークのとり方および試行カウンセリングの実習と報告②	インテークのとり方とまとめ方を指導します。あわせて院生 C、D の報告と検討を行います。
第 8 回	アセスメントと見立ての検討および試行カウンセリングの実習と報告③	アセスメントと見立ての検討について指導します。あわせて院生 E、F の報告と検討を行います。
第 9 回	方針の立て方および試行カウンセリングの実習と報告④	方針の立て方について指導します。あわせて院生 G、H の報告と検討を行います。
第 10 回	継続面接の進め方および試行カウンセリングの実習と報告⑤	継続面接の進め方について指導します。あわせて院生 I、J の報告と検討を行います。
第 11 回	面接のプロセスの検討および試行カウンセリングの実習と報告⑥	面接のプロセスの検討方法について指導します。あわせて院生 K、L の報告と検討を行います。
第 12 回	終結の方法および試行カウンセリングの実習と報告⑦	終結の方法について指導します。あわせて院生 M、N、O の報告と検討を行います。
第 13 回	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について	ケースレポートの書き方および試行カウンセリングの報告書の作成について指導します
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、各自の学習内容や学習成果をディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表と報告のための自己学習（文献の収集と分析、試行カウンセリングの実施、事例報告や逐語記録の作成、発表レジュメの執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表（40 %）、試行カウンセリングの報告書（50 %）、ディスカッションへの参加（10 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（共監訳、岩崎学術出版社、2012 年)
③『心理臨床への多元的アプローチ』（共監訳、岩崎学術出版社、2015 年）

【Outline (in English)】
You learn practical methods and skill of psychological support, especially counseling/psychotherapy.
At the end of the course, students are expected to explain effect and process of counseling/psychotherapy, to do trial counseling and to write and present its case report.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on case report on trial counseling (50%), and presentation (40%), and in-class contribution (10%).

PSY500J2

臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）

金築　優、丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 分野の施設のうち、3 分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また上記の 5 分野には加えないが、学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして、実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援 等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計 450 時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は 270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は 90 時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士 1 年生と 2 年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習第 1 回	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	臨床心理相談室での実習第 2 回	臨床心理相談室でのケース（例、子ども）を担当する。
実習中④	臨床心理相談室での実習第 3 回	臨床心理相談室でのケース（例、成人）を担当する。
実習中⑤	臨床心理相談室での実習第 4 回	臨床心理相談室でのケース（例、高齢者）を担当する。
実習中⑥	医療施設等での実習第 1 回	医療施設等（例、A 病院）の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習第 2 回	医療施設等（例、B 病院）の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習第 3 回	医療施設等（例、C 病院）の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習第 4 回	医療施設等（例、D 病院）の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習第 5 回	医療施設等（例、E 病院）の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士 1 年生と 2 年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
施設での実習態度や実習報告 (20%)、および実習指導者の評価 (80%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】
金築優：認知行動療法
丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法

【Outline (in English)】
Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, although not added to the above five fields, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

PSY500J2

臨床心理実習Ⅱ

金築　優、丹羽　郁夫

科目分類・科目群：**専門基幹科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 1 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 分野の施設のうち、3 分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】
到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。
(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援 等
(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
(エ) 多職種連携及び地域連携
(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計 450 時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は 270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は 90 時間以上とする。学内実習は、臨床心理相談室で行い、担当ケースについて、事例検討を行う。修士 1 年生と 2 年生及び実習担当教員による合同カンファレンスも実施する。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	医療施設等での実習第 1 回	医療施設等（例、A 病院）の施設実習
実習中④	医療施設等での実習第 2 回	医療施設等（例、B 病院）の施設実習
実習中⑤	医療施設等での実習第 3 回	医療施設等（例、C 病院）の施設実習
実習中⑥	医療施設等での実習第 4 回	医療施設等（例、D 病院）の施設実習
実習中⑦	医療施設等での実習第 5 回	医療施設等（例、E 病院）の施設実習
実習中⑧	医療施設等での実習第 6 回	医療施設等（例、F 病院）の施設実習
実習中⑨	医療施設等での実習第 7 回	医療施設等（例、G 病院）の施設実習
実習中⑩	医療施設等での実習第 8 回	医療施設等（例、H 病院）の施設実習
実習中⑪	ケース・カンファレンス	大学において実習担当教員が定期的にケース・カンファレンス等の指導を行い、修士 1 年生と 2 年生全員で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
施設での実習態度や実習報告 (20%)、および実習指導者の評価 (80%)。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】
金築優：認知行動療法
丹羽郁夫：コミュニティ心理学、子どもの心理療法

【Outline (in English)】
Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on case reports (20%), and the quality of the students' performance in the field (80%).

CIM500J2

精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

関谷　秀子

科目分類・科目群：**専門展開科目（関連専門領域科目）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では公認心理師に求められる保健医療分野の実践について学ぶ。
具体的にはライフサイクルと精神発達、代表的な精神疾患とその治療についての知識を習得し、保健医療分野における理論と支援について学ぶ。心理専門職に必要な精神医学的見地を身につける。

【到達目標】
人間のライフサイクルと精神発達を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療において公認心理師が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って発表者の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	ライフサイクル	乳児期、幼児期、児童期、思春期青年期、初期成人期、成人期、老年期について
第 3 回	精神性的発達論	口唇期、肛門期、幼児性器期、潜伏期、思春期、性器統裁について
第 4 回	精神医学序論	精神医学の概念、精神障害の成因と分類
第 5 回	精神症状学	精神症状と状態像
第 6 回	精神障害①	統合失調症
第 7 回	精神障害②	気分障害
第 8 回	精神障害③	神経症性障害
第 9 回	精神障害④	パーソナリティ障害
第 10 回	精神障害⑤	器質性障害
第 11 回	精神障害⑥	物質関連精神障害
第 12 回	精神障害⑦	児童・思春期精神障害
第 13 回	精神医学的治療学①	薬物療法
第 14 回	精神医学的治療学②	心理療法（力動的心理療法、認知行動療法、家族療法、集団療法） 精神医療における公認心理師の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定箇所を事前に予習し、授業で討論できるように準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
カプラン臨床精神医学テキスト（メディカルサイエンスインターナショナル）

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は授業への積極的な参加 (100%) に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【担当教員の専門分野等】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達心理学

【Outline (in English)】
We learn about the practice of the field of medical health care required as a licensed psychologist. Specifically, we will learn the life cycle and mind development, representative psychiatric disorders and their treatments. We will learn about theory and support in the field of medical health care. We will learn the psychiatric viewpoint necessary for psychologists. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the contribution in class.

SOW500J2

児童福祉特論

岩田　美香

科目分類・科目群：**専門展開科目（関連専門領域科目）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
子どもにとって家族は、安寧と権利が保障される場であると同時に、ストレスをもたらし虐待のような権利侵害の場としても存在している。この講義では、文献の検討を通して、広く社会構造の中で子ども・家族をとらえ直し、その求められる役割と機能等について社会福祉の立場から考察を深める。あわせて、子どもと家族への援助についての検討を行う。

【到達目標】
・子どもと家族がおかれている現状を把握する。
・子ども家庭福祉、教育、それらに関連する研究論文を読み解く。
・子どもと家族に対するソーシャルワークおよび教育に関して、学際的な検討を行う。
・履修者の研究関心と照らし合わせ、批判的意見も含めて検討する。
・議論の積み重ねを各自の研究にフィードバックしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・上記の到達目標を達成するため、本年度は家族とジェンダーに関する基本的文献を題材として、各自の研究関心との関連で議論していく。
・履修者は、自身の研究関心をもとに、全員が文献に関する論点を書き出したペーパーを毎回用意し、それをもとに議論を進めていく。
・各自の研究について発表し、様々な領域や視点からの検討を行う。
・授業の最後に、課題についての講評を行い、フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方、各自の問題関心について
第 2 回	近代家族のゆらぎ①	ファミリィ・アイデンティティのゆくえ
第 3 回	近代家族のゆらぎ②	家族の臨界―ケアの分配公正をめぐって
第 4 回	個人研究発表1	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第 5 回	近代家族のゆらぎ③	家族、積みすぎた方舟
第 6 回	近代家族のゆらぎ④	女性の変貌と家族
第 7 回	個人研究発表2	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第 8 回	近代と女性	日本型近代家族の成立
第 9 回	家庭学の展開	技術革新と家事労働
第 10 回	個人研究発表3	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第 11 回	高度成長と家族①	「母」の戦後史
第 12 回	高度成長と家族②	「ポスト思秋期」の妻たち
第 13 回	個人研究発表4	各自の研究関心について発表し議論する（2～3名）
第 14 回	総括	全体を通してのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前に文献を読み、自身の研究関心をもとにテーマに関する論点を書き出したペーパーを毎回用意すること。
・本授業の準備・復習時間は、各回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
上野千鶴子（2020）『近代家族の成立と終焉　新版』岩波書店

【参考書】
履修者の関心に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（60 %）、講義内発表と討論参加（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野】
〈専門領域〉子ども・家族福祉論、教育福祉論
〈研究テーマ〉
1．子育て・子育ちの社会的不平等
2．子どもと家族へのソーシャルワーク

【Outline (in English)】
This course will examine the major issues of children and their families in a social context.　Students will be enhancing their necessary knowledge and critical thinking in this field.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on reports (60%), and in-class contribution (40%),.

PSY500J2

教育分野に関する理論と支援の展開

谷　由紀子

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**
備考（履修条件等）：**2023 年度の授業実施日は、7 月 24 日（月）・25 日（火） 26 日（水）**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・学校という組織の中で心理専門職が担う役割について説明します。
・学校現場で求められる専門的な知識やスキルを習得することを目的とします。

【到達目標】
自分自身の個性や特徴を踏まえながら、チーム学校の一員である心理専門職としてどのように貢献するか、自分なりのイメージを描けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員と学生間で、学生同士でも質問や意見が飛び交うような活発な時間を一緒につくりましょう。事例をもとに小グループで話し合う、発表する、当事者等の話を聞く、感じたことを伝えあう、ロールプレイをするなどの機会を作っていきます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的、進め方を説明します。 この授業に期待すること、これまで身に付けたことなどを中心に自己紹介します。
第 2 回	聴く力と自己理解度、アセスメント力、今の私の自己評価	相談者とカウンセラーのロールプレイ通してお互いをアセスメントし合います。 自分は他者からどのような印象をもたれるのか、その根拠は何かを理解します。
第 3 回	子ども時代を振り返る	自分の子ども時代を振り返り、学校についてどういうイメージや印象をもっているか明らかにします。
第 4 回	学校における心理専門職の役割	学校組織や風土を理解し、教師とは異なるスクールカウンセラーの役割を考えます。
第 5 回	学校組織のアセスメント	事例をもとに、スクールカウンセラーとして必要な情報を収集し、学校組織をアセスメントします。
第 6 回	スクールカウンセリングの活動計画	アセスメントから得られた情報を用いて学校の現状を把握し、その学校に必要な支援活動計画を作ります。
第 7 回	発達の特性と支援	事例をもとに、発達の特性をもった児童・生徒への支援を考えます。
第 8 回	愛着障害の支援	発達の問題との見極めが難しい、愛着の問題を抱えているケースの対応事例をもとに支援の方法を考えます。
第 9 回	不登校	不登校の実態や現状を説明します。その上で事例をもとに不登校の対応について考えます。
第 10 回	他機関との連携	虐待やヤングケアラーの支援など、他機関やスクールソーシャルワーカーとの連携のあり方を考えます。
第 11 回	当事者等の話	不登校経験者や保護者、教員等の当事者の話をもとに、様々なニーズがある中で、心理職として「どうあるべきか」、「どうありたいか」を考えます。
第 12 回	コンサルテーション	教師役、スクールカウンセラー役に分かれてコンサルテーションのロールプレイを体験します。教師がわかりやすく、納得するコンサルテーションのあり方について考えます。
第 13 回	成長や変化への気付き	参加者同士で 1 日目との変化や違いがあれば伝えあいます。自己評価します。
第 14 回	まとめ	疑問、質問、感想を自由に発言しあいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
スクールカウンセリング、学校心理学の著書を 1 冊は読んでおいてください。できれば、学校で相談活動に従事しておられる方にインタビューして、学校のイメージつくりをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書としては使いません。

【参考書】
「近藤邦夫論考集　学校臨床心理学への歩み－子供たちとの出会い、教師たちとの出会い」　近藤邦夫著　福村出版
「スクールカウンセリングのこれから」石隈利紀・家近早苗　創元社
「子どもの脳を傷つける親たち」友田明美　ＮＨＫ出版新書
「どうしても頑張れない人たち」　宮口幸治著　新潮新書

【成績評価の方法と基準】
自己分析レポート４０％
　第 2 回と第 12 回のロールプレイの自己分析の質。自己理解は深まったか。
授業全般についての意見の発表３０％
　第 1 回と第１３回の全体への表現。わかり易いか、変化はみえるか。
平常点　　３０％
　ファシリテートするセンスがあるか。積極的に興味をもってこの場やテーマにかかわれたか。

【学生の意見等からの気づき】
前年度も好評であった、ロールプレイや当事者の体験談など、体験や現場の感覚を捉える機会を豊富にもちながら、相互の議論を深めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
学校臨床
キャリアカウンセリング

【オフィスアワー】
授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
・This class focuses on defining roles of school counselor as a professional psychologist in a school organization.
・ The purpose of this class is to get the specialized knowledge and skills required in a school field.
＜ Learning Objectives ＞
You will be able to get your own image of how to contribute as a professional psychologist as well as a member of TEAM “school” , based on your personality and characteristics.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Please read one book on school counseling or school psychology. It is recommended to interview someone who is engaged in counseling activities at the school to understand a reality in school. It takes 2 hours each to prepare and review for the class generally.
＜ Grading Criteria /Policy ＞
＊ Self-analysis report 40%
　・the quality of self-analysis of the 2nd and 12th role-plays.
　・the depth of self-understanding
＊ Giving a good opinion in the class 30%
　・the quality of opinion of the 1st and 13th.
　・the level of comprehensibility/transformastion
＊ Mark given for class participation 30%
　・sence of facilitation
　・participation and assertiveness

PSY500J2

心の健康教育に関する理論と実践

金築　優

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理専門職の専門業務として、心の健康教育の実践の重要性が高まってきています。本講義では、心の健康教育としての、心理教育やグループアプローチを重視し、その理論（主に認知行動療法の理論）を学びます。そして、役割演技を通して、心の健康教育の実践のためのスキルを向上させることを目的とします。

【到達目標】
心の健康教育に関する理論を理解し、実践に必要なスキルを身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
心の健康教育に関する理論に関しては、資料を講読した上で、ディスカッションをし、理解を深めます。心の健康教育に関する実践に関しては、グループに分かれ、役割演技を通して、実践に必要なスキルを学びます。課題等の提出・フィードバックは、授業内及び学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について話し合います。
第 2 回	心の健康教育に関する理論―健康の捉え方―	健康の捉え方についてディスカッションします。
第 3 回	心の健康教育に関する理論―予防的アプローチ―	予防的アプローチについてディスカッションします。
第 4 回	心の健康教育に関する理論―行動論的アプローチ―	行動論的アプローチについてディスカッションします。
第 5 回	心の健康教育に関する理論―認知論的アプローチ―	認知論的アプローチについてディスカッションします。
第 6 回	心の健康教育に関する理論―身体的アプローチ―	身体的アプローチについてディスカッションします。
第 7 回	心の健康教育に関する実践―心理教育―	グループによる心理教育の実施の役割演技を通して学びます。
第 8 回	心の健康教育に関する実践―社会的スキル訓練―	グループによる社会的スキル訓練の実施の役割演技を通して学びます。
第 9 回	心の健康教育に関する実践―リラクセーション技法―	グループによるリラクセーション技法の実施の役割演技を通して学びます。
第 10 回	心の健康教育に関する実践―認知療法―	グループによる認知療法の実施の役割演技を通して学びます。
第 11 回	心の健康教育に関する実践―メタ認知療法―	グループによるメタ認知療法の実施の役割演技を通して学びます。
第 12 回	心の健康教育に関する実践―マインドフルネス技法―	グループによるマインドフルネス技法の実施の役割演技を通して学びます。
第 13 回	心の健康教育に関する実践―アクセプタンス技法―	グループによるアクセプタンス技法の実施の役割演技を通して学びます。
第 14 回	まとめ	これまでの講義を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布した資料を熟読し、感想や疑問点を明確にした上で、ディスカッションに臨むことを求めます。また、グループによる心の健康教育の実施の役割演技について、事前に相当分の準備が必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。適宜資料を配布します。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）とレポート（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
役割演技を用いて学ぶ機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
特にありません。

【担当教員の専門分野等】
主に学校・教育領域において、認知行動療法の実践と研究をしてきています。

【Outline (in English)】
The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to mental health education. This course will provide training in psychological education, relaxation techniques, social skills training, and cognitive therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end report (40%), and in-class contribution (60%).

PSY500J2

力動的心理療法特論

中　康

科目分類・科目群：**専門展開科目（専門技能科目）**
配当年次／単位数：**1・2 年次／ 2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力動的心理療法の基本を学ぶ。

【到達目標】
力動的心理療法の治療過程について学ぶ。
治療者ー患者間の治療契約を基軸として、治療契約、退行、抵抗、防衛、転移と逆転移、解釈、治療の終結について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書または論文をあらかじめ指定し、発表の分担を決める。授業は発表とディスカッションの形式で行う。発表の内容やディスカッションでの発言について、毎回の授業の中でフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方を説明し、題材とする文献と担当を決める。
第 2 回	フロイトによる精神分析療法の開始のしかた	フロイトの精神分析の方法、精神分析療法の開始時の注意点
第 3 回	精神分析療法を行う際の留意点①	精神分析療法の基本規則
第 4 回	精神分析療法を行う際の留意点②	乱暴な分析について
第 5 回	転移とその取扱い①	精神分析療法の経過中に現れる転移の様相、転移への対応のしかた
第 6 回	転移とその取扱い②	恋愛性転移についての考え方、取り扱い方
第 7 回	メニンガーによる治療理論／治療契約と退行	治療契約の考え方と自裁、様々な退行の現れとその理解
第 8 回	転移と逆転移	転移・逆転移の現れ、その理解と対応
第 9 回	抵抗	抵抗の現れ、その理解と対応
第 10 回	解釈	解釈についての考え方と実際
第 11 回	グリーンソンによる治療論	抵抗解釈のしかた、転移解釈のしかた
第 12 回	グリーンソンによる治療理論	抵抗解釈のしかた、転移解釈のしかた
第 13 回	グリーンソンによる現実的関係 (real relation-ship) をめぐって	症例の中での現実的な問題の取り扱い
第 14 回	皆川による精神分析的心理療法の面接法	精神分析的心理療法の技法上の原則や留意点について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業テーマについて事前に予習し、討論できるように準備をしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
フロイト著作集 (人文書院) またはフロイト全集 (岩波書店)
カール・メニンガー；精神分析技法論 (岩崎学術出版社)
R.Greenson : The Technique and Practice of Psychoanalysis.(International University Press)

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績は、授業内での話し合いや質疑への積極的な参加 (70%) や、割り当てられた文献に関するリポート (30%) に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
臨床場面のエピソードや具体的なケースを提示することで学生のテーマについての理解を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合は、パソコンを使用し zoom を用いて授業を行う。

【担当教員の専門分野】
精神分析的精神療法、思春期青年期精神医学

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to learn the basis of dynamic psychotherapy.
【Learning objectives】
The goal of this course is to learn the therapeutic process of dynamic psychotherapy. By the end of the course, students should be able to understand therapeutic contract between client and therapist, regression, resistance, defenses, transference and countertransference, interpretation, and termination of psychotherapy.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have prepared about the theme of every class meeting, and to join the discussion.
【Grading criteria/policy】
Grading will be decided based on the in class contribution (70%), and the report about the assigned article (30%).

PSY600J2

論文研究指導

金築　優

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学に関する修士論文を作成するために必要なスキルについて指導します。

【到達目標】
修士論文を最終提出することが本授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生の修士論文の作成段階に応じて、必要なスキルを指導します。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。課題に対しては、授業内や学習支援システム等を活用してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	修士論文の指導の進め方について説明します。
第 2 回	修士論文のテーマについて１	各自の修士論文のテーマについて個人発表してもらいます。
第 3 回	修士論文のテーマについて２	各自の修士論文の問題意識について個人発表してもらいます。
第 4 回	先行研究について１	各自の修士論文のテーマに関連した先行研究を展望します。
第 5 回	先行研究について２	各自の修士論文のテーマに関連した先行研究の課題を展望します。
第 6 回	研究デザインについて１	修士論文の研究デザイン（例、研究参加者等）を検討します。
第 7 回	研究デザインについて２	修士論文の研究デザイン（例、用いる質問紙等）を検討します。
第 8 回	研究デザインについて３	修士論文の研究デザイン（例、手続き等）を検討します。
第 9 回	研究デザインについて４	修士論文の研究デザイン（例、教示等）を検討します。
第 10 回	研究デザインについて５	修士論文の研究デザイン（例、データの分析方法等）を検討します。
第 11 回	データ収集のための準備１	データ収集の仕方（例、調査法等）について確認を行います。
第 12 回	データ収集のための準備２	データ収集の仕方（例、実験法等）について確認を行います。
第 13 回	データ収集のための準備３	データ収集の仕方（例、面接法等）について確認を行います。
第 14 回	データ収集とデータの処理１	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について検討します。
第 15 回	データ収集とデータの処理２	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について検討します。
第 16 回	データ収集とデータの処理３	データ収集の進捗状況を報告してもらい、また、データの処理について指導します。
第 17 回	データ収集とデータの処理４	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理について指導します。
第 18 回	データ収集とデータの処理５	データ収集の進捗状況を報告してもらい、データの処理を検討します。
第 19 回	データの分析と結果のまとめ１	データの分析（例、基本統計量等）を進め、結果をまとめます。
第 20 回	データの分析と結果のまとめ２	データの分析（例、分散分析等）を進め、結果をまとめます。
第 21 回	データの分析と結果のまとめ３	データの分析（例、相関分析等）を進め、結果をまとめます。
第 22 回	データの分析と結果のまとめ４	データの分析（例、多変量解析等）を進め、結果をまとめます。
第 23 回	データの分析と結果のまとめ５	データの分析（例、質的分析）を進め、結果をまとめます。
第 24 回	考察について１	研究結果を踏まえ、考察を進めます。
第 25 回	考察について２	研究結果を踏まえ、どのように考察をするか検討します。
第 26 回	考察について３	研究結果を踏まえ、考察を深めます。
第 27 回	修士論文の本文の推敲	論文の構成を確認します。
第 28 回	修士論文の本文の推敲	論文の文章表現を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では、随時修士論文の進捗状況の報告を求めますので、その際には、資料を用いて説明するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の制作過程（60%）と最終的に提出された修士論文の内容（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく早い段階でデータ収集ができるように進めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
臨床心理学、認知行動療法（認知行動カウンセリング）
＜研究テーマ＞
認知行動療法の理論（特に、知覚制御理論）に関する研究
＜主要研究業績＞
『心配に関するメタ認知的信念尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討』（共著、パーソナリティ研究 16(3)、2008 年）
『大学生の心配に対するメタ認知に焦点を当てた認知行動的介入の効果』（共著、感情心理学研究 17(3)、2010 年）

【Outline (in English)】
The goal of this seminar is to undertake thesis project about cognitive behavior therapy. Students will acquire enhanced research skills. They will develop their ability to design, organize and manage their own research. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on the quality of the students' research (40%), and the process of research (60%).

PSY600J2

論文研究指導

末武　康弘

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の修士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】
修士論文の作成が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学の修士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文研究指導の概要を示します
第 2 回	研究計画の概要の検討①	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 A を中心に指導
第 3 回	研究計画の概要の検討②	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 B を中心に指導
第 4 回	研究計画の概要の検討③	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 C を中心に指導
第 5 回	先行研究の探索と検討①	先行研究の探索と分析について概説します。
第 6 回	先行研究の探索と検討②	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 A を中心に指導
第 7 回	先行研究の探索と検討③	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 B を中心に指導
第 8 回	先行研究の探索と検討④	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 C を中心に指導
第 9 回	研究デザインの検討①	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を概説します。
第 10 回	研究デザインの検討②	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 A を中心に指導
第 11 回	研究デザインの検討③	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 B を中心に指導
第 12 回	研究デザインの検討④	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 C を中心に指導
第 13 回	リサーチクエスチョンの検討とチェック①	データ収集のためのリサーチクエスチョンを作成し検討します。院生 A を中心に指導。
第 14 回	リサーチクエスチョンの検討とチェック②	データ収集のためのリサーチクエスチョンを作成し検討します。院生 B、C を中心に指導
第 15 回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の進め方について示します。
第 16 回	データ収集との処理の検討①	収集されたデータの処理と分析方法を解説します。
第 17 回	データ収集との処理の検討②	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 A を中心に指導
第 18 回	データ収集との処理の検討③	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 B を中心に指導
第 19 回	データ収集との処理の検討④	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 C を中心に指導
第 20 回	処理結果のまとめと検討①	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 A を中心に指導
第 21 回	処理結果のまとめと検討②	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 B を中心に指導
第 22 回	処理結果のまとめと検討③	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 C を中心に指導
第 23 回	考察の検討①	結果についての考察を検討します。院生 A を中心に指導
第 24 回	考察の検討②	結果についての考察を検討します。院生 B を中心に指導
第 25 回	考察の検討③	結果についての考察を検討します。院生 C を中心に指導
第 26 回	論文執筆の指導①	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生 A を中心に指導
第 27 回	論文執筆の指導②	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生 B を中心に指導
第 28 回	論文執筆の指導③、まとめ	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生 C を中心に指導。授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文作成のための学習活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
修士論文の執筆過程（60 %）と論文の内容（40 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
データの分析や論文執筆にはパソコンを使用してください。

【その他の重要事項】
おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞　臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞　パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Eperiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
②『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年)
③『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline (in English)】
You learn the knowledge, research methodology, skill to write a master's thesis on clinical psychology. And You should complete master thesis.
The goals of this course are to acquire knowledge, research methodology and skill to write a master's thesis on clinical psychology and to complete your master's thesis.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on master's thesis (40%), and academic attitudes in the writing process (60%).

PSY600J2

論文研究指導

関谷　秀子

科目分類・科目群：**研究指導科目**
配当年次／単位数：**2 年次／ 4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
臨床心理学の分野に関連したテーマについて、専門書や論文を調べ、研究計画をたて、修士論文としてふさわしい論文を書き上げる。

【到達目標】
修士論文にふさわしく、適切な研究方法を用いて先行研究を踏まえ、論理的な内容と適切な形式を備えた修士論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文を書き上げることを目標に論文指導をする。基本的に個別的な指導を原則とする。授業計画は学生のテーマや進捗状況に応じて若干の変更の可能性があり得る。それぞれの課題等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の概要の検討 1	研究計画の要点を検討。
第 2 回	研究計画の概要の検討 2	研究計画の要点を精査
第 3 回	研究計画の概要の検討 3	構想発表会に向けての整理
第 4 回	研究計画の概要の検討 4	構想発表会に向けての仕上げ
第 5 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 1	先行研究の資料を収集
第 6 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 2	先行研究を整理
第 7 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 3	先行研究からみた研究計画の妥当性を再考
第 8 回	修士論文に関連した先行研究の探索と学習 4	先行研究のおおまかな「まとめ」を行う
第 9 回	調査研究の学習	調査方法の概要を学習していく
第 10 回	調査研究の内容の検討 1	調査方法を具体的に検討していく
第 11 回	調査研究の内容の検討 2	調査対象の選定を議論する
第 12 回	調査研究の内容の検討 3	調査対象を検討
第 13 回	調査研究の内容の検討 4	統計処理方法を検討
第 14 回	完成した調査計画や調査表のチェック 1	調査方法やスケジュール検討
第 15 回	完成した調査計画や調査表のチェック 2	調査の具体方法や項目のチェック－夏休み中に行うデータ収集のスケジュール整理
第 16 回	調査したデータの処理 1	収集したデータを実際に統計処理
第 17 回	調査したデータの処理 2	統計処理された結果のまとめ
第 18 回	調査したデータの処理 3	統計処理された結果を読み込む
第 19 回	調査したデータの処理 4	統計処理データの結果を検証
第 20 回	調査結果のまとめと検討 1	先行研究とデータから得られた結果を比較
第 21 回	調査結果のまとめと検討 2	先行研究とデータから得られた結果をまとめ考察につなげていく
第 22 回	考察の検討 1	考察の概要を整理。
第 23 回	考察の検討 2	考察の詳細を検討していく
第 24 回	考察の検討 3	考察の内容を論理的に組み立てていく
第 25 回	考察の検討 4	考察の内容を最終的に決定していく
第 26 回	論文の実際の仕上げ 1	論文の「はじめに」「目的」を仕上げる。
第 27 回	論文の実際の仕上げ 2	論文の「仮説」「先行研究」を仕上げる。
第 28 回	論文の実際の仕上げ 3	論文の「結果」を仕上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の指導までに必要な修士論文の諸課題を準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文指導にかかわる学習態度や平常点（50 %）と論文作成の知識・技術の習得（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度のアンケートは現在集計中につき、結果が出次第それを授業に生かしたい。

【担当教員の専門分野】
精神分析学、児童青年精神医学、精神分析的発達研究

【Outline (in English)】
We will read specialized books and articles, make study plans and finish writing an article that is suitable for a master's thesis concerning your thesis in the field of the clinical psychology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class .Final grade will be calculated according to the following process ： In-class contribution (50%), the knowledge and technique of the article making (50%).

HSS500I1

スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下　訓光、瀬戸　宏明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**木** 5/Thu.5　｜　キャンパス：**多摩**
配当年次：**1〜2 年次**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

【到達目標】
スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半はスポーツ医科学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医科学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。
後半はスポーツ医科学領域の先端的知見・研究成果について学習する。基本的に①各回のテーマに関連する文献紹介・精読、②各回のテーマに関する講義、③症例提示の 3 部構成で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】元素、細胞構築、組織、細胞膜
2 回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医科学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3 回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究で必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4 回	医科学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医科学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】記述統計、カイ２乗検定、２群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5 回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6 回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。 【keyword】白血球、Ｂ細胞、Ｔ細胞、サイトカイン、炎症
7 回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックスとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】運動療法、変形性関節症、長寿
8 回	最大酸素摂取量とその活用 【担当：木下】	最大酸素摂取量の決定方法に関する生理学的課題について文献を紹介・精読する。 最大酸素摂取量の測定方法、特に近年普及の著しい breath by breath 法とその問題点について紹介する。 実際のアスリートの最大酸素摂取量を考察する。 【keyword】 最大酸素摂取量、ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、呼吸生理学
9 回	アスリートにおける生体エネルギー論の活用 【担当：木下】	mechanical efficiency や、誤解が多いためほとんど場合で正しく運用されていない高強度インターバルなどについて学び、トレーニングやパフォーマンスについての生体エネルギー論的考察を行う。 【keyword】 クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10 回	身体組成（体脂肪率）の医科学 【担当：木下】	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11 回	エネルギー代謝とアスリートの減量 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、減量・リバウンドの機序などについて学習する。 【keyword】 基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリメーター、内分泌（ホルモン）
12 回	女性選手の三徴 【担当：木下】	女性選手の三徴（female athlete triad）の歴史、概念、実態、評価法、対処・治療法についてアスリートの摂食障害、骨粗鬆症などの実例を通して学ぶ。 【keyword】Low energy availability、骨代謝、月経異常、低用量ピル
13 回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	サプリメント、low energy availability、within day energy balance など、アスリートの栄養とパフォーマンスを考えるうえで必要な最先端の理論と臨床（対処法・治療法）について学ぶ。 【keyword】Low energy availability、within day energy balance、貧血、ergogenic aid
14 回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義・パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前半の授業（瀬戸担当部分）では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。
後半の授業（木下担当部分）においては、指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
【前半の授業（瀬戸担当部分）】シンプル生化学【改訂第 6 版】、監修：林典夫・廣野治子、南江堂、２０１４年
“Exercise Physiology（11th Edition）” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2020.
その他は適時授業で提示する。
【後半の授業（木下担当部分）】 テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半（瀬戸担当部分）においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容を S〜D まで評定し、これを点数化して平均したものを前半（瀬戸担当部分）の点数とする。後半（木下担当部分）においては、以下の通りである。授業内で課題を課す場合がある。関連してレポート作成を求める場合がある。また授業内で試験を行う場合がある。試験を行う場合は筆記試験または口頭試問で行う。課題の達成度、レポートの内容、試験の結果などを総合評価して点数化し、後半（木下担当部分）の点数とする。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を検討すべき意見なし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
後半の木下担当部分に関しては、2020 年度までとは完全に授業内容を変更し、最先端の臨床スポーツ医学的テーマを扱ったうえで、「ここでしか学べないスポーツ医学」を提供する。履修者が数学や化学・物理学、生化学といった科学の基礎となる分野に関して一定の習得をしていることを前提に授業を行うので注意すること。
臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかなければ学修目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

【Outline (in English)】
[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.
[Learning objectives] The goal of the lecture is to obtain the basic and advanced knowledge of biomedical science necessary for writing a master's thesis.
[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.
[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the score of task and exercise assigned in each classroom (100%).

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅳ

苅部　俊二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　単位数：**2 単位**
曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses　｜　キャンパス：**多摩**
配当年次：**2 年次**
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の作成、口頭発表の実施

【到達目標】
研究計画に沿って実践して得られた結果について考察し、修士論文を完成させ、口頭発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
少人数での集中演習方式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中間発表資料の作成	中間発表の資料を作成する。
第 2 回	中間発表	修士論文中間発表を行う。
第 3 回	中間発表のフィードバック	中間発表のフィードバックを行い、修士論文の完成に向け執筆の準備を行う。
第 4 回	修士論文の研究デザインの最終検討	修士論文の研究デザインの最終検討を行い、論文完成への方向性を確認する。
第 5 回	修士論文の作成① アウトラインの作成	論文のアウトライン論文のアウトラインを作成し、執筆指導を行う。
第 6 回	修士論文の作成② 添削・推敲・校正	推敲、校正修士論文の添削から推敲、校正を繰り返す。
第 7 回	修士論文の作成③ 論文形式の構成	論文形式調整さらに修士論文の推敲、校正を繰り返し行い、論文としての形式を整える。
第 8 回	修士論文の執筆④ 構成のチェック	修士論文の全体的な推敲を行い、論文構成のチェックを行う。
第 9 回	修士論文の作成⑤ 最終校正	最終校正修士論文 1 次提出に向け、最終校正を行う。
第 10 回	修士論文 1 次提出	修士論文を完成させ主査、副査に提出し、予備審査を受ける（1 次提出）。
第 11 回	1 次提出された論文のフィードバック	副査も含めた、1 次提出された論文のフィードバックを行い、審査結果を踏まえて、修士論文の推敲を行う。
第 12 回	修士論文口頭発表資料の作成	修士論文口頭発表資料の作成を行う。
第 13 回	修士論文口頭発表資料の作成および口頭発表リハーサル	修士論文口頭発表の最終チェックを行い、発表のリハーサルを行う。
第 14 回	修士論文最終提出および口頭試問に向けた準備	修士論文の完成および最終提出、口頭試問に向けた準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験、調査の整理を行い、修士論文の執筆、校正を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に設けない。

【参考書】
適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
修士論文（60 %）、口頭発表 2 回（30 %）6、平常点（10 %）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生にとって、有意義な講義を行う。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
【授業の概要（Course outline）】
Students examine the results collected through analysis in accordance with their research plan and then complete a master's thesis.
【到達目標（Learning Objectives）】
The aim of this seminar is to write a master's thesis and make an oral presentation.
The aim of this seminar is to complete a master's thesis and make an oral presentation.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your study time will be more than four hours for this seminar.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Your overall grade in the seminar will be decided based on the following term end examination: master's thesis: 60% oral presentation: 30% usual performance score: 10%.

ADE500N1

近現代デザイン概論

今村　創平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。
建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。
上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

【到達目標】
建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。
【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド)】
歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。
講義内容に関連した課題を出すので、2 回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義ガイダンス
	計画の概念と近代	建築計画学の現在
		大量生産とフォーディズム
		田園都市、CIA 的近代都市計画
		ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義
		計画の限界
		ヴィトゲンシュタインの家
		均質空間（ミース）
		ジャンクスペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画
		ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート
		ロシア・アヴァンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム）
		ロウ「理想的ヴィラの数学」
		近代：「形式」から自由へ
		カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷
		異なる形式の結合
		純粋形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院
		大江宏の建築
		能舞台と茶室
		形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリズム
		コラージュ
		野生の思考、ブリコラージュ
		ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学
		都市とグリッド
		建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース）
		グリッドとアート
10	美術史・コンセプト	アートの起源から印象派まで
		モダンアート、コンセプチュアルアール、ミニマルあーとなど
		コンセプトとは
11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム
		ジェンクス、ヴェンチューリ、磯崎
		デコンストラクティヴィズム
		コンスタント「ニュー・バビロン」
		相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルポ「アルベルティ・パラダイム」
		アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」
		オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市
		コモン/シェア/パブリック
		エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今村創平「現代都市理論講義」
ロバート・ヴェンチューリ他「ラスベガス」
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【参考書】
講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (20%) と発表 (40%) およびレポート（40 %）とする。授業を 4 回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいてます。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでの発表。IAE サーバーの利用、RFC による公開。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。

【Outline (in English)】
This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.
Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1

近現代デザイン概論

今村　創平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。
建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。
上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

【到達目標】
建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。
【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド)】
歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。
講義内容に関連した課題を出すので、2 回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義ガイダンス
	計画の概念と近代	建築計画学の現在
		大量生産とフォーディズム
		田園都市、CIA 的近代都市計画
		ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義
		計画の限界
		ヴィトゲンシュタインの家
		均質空間（ミース）
		ジャンクスペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画
		ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート
		ロシア・アヴァンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム）
		ロウ「理想的ヴィラの数学」
		近代：「形式」から自由へ
		カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷
		異なる形式の結合
		純粋形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院
		大江宏の建築
		能舞台と茶室
		形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリズム
		コラージュ
		野生の思考、ブリコラージュ
		ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学
		都市とグリッド
		建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース）
		グリッドとアート
10	美術史・コンセプト	アートの起源から印象派まで
		モダンアート、コンセプチュアルアール、ミニマルあーとなど
		コンセプトとは
11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム
		ジェンクス、ヴェンチューリ、磯崎
		デコンストラクティヴィズム
		コンスタント「ニュー・バビロン」
		相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルポ「アルベルティ・パラダイム」
		アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」
		オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市
		コモン/シェア/パブリック
		エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今村創平「現代都市理論講義」
ロバート・ヴェンチューリ他「ラスベガス」
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【参考書】
講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (20%) と発表 (40%) およびレポート（40 %）とする。授業を 4 回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいてます。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでの発表。IAE サーバーの利用、RFC による公開。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。

【Outline (in English)】
This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.
Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1

近現代デザイン概論

今村　創平

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築および都市における近代および現代の「計画」について、その手法や理論を検証する。
建築を成立させる「形式」や、建築の「自律性」について多角的に学ぶ。
上記のテーマについての知識を習得し、議論、記述する能力を身につける。

【到達目標】
建築や都市の背後にある形式や理論を理解し、分析する能力を身につける。
【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド)】
歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回講義を行う。ノートをよくとり、関連する書籍の自習を求める。
講義内容に関連した課題を出すので、2 回発表をし、最後にレポートとして提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義ガイダンス
	計画の概念と近代	建築計画学の現在
		大量生産とフォーディズム
		田園都市、CIA 的近代都市計画
		ヒルベルトザイマー、アウシュビッツ
2	機能主義、計画の限界	機能主義
		計画の限界
		ヴィトゲンシュタインの家
		均質空間（ミース）
		ジャンクスペース（レム）
3	革命と建築	近代への転換（啓蒙思想、革命）と計画
		ロシア革命/ロシア・アバンギャルド・アート
		ロシア・アヴァンギャルドにおける建築と都市
4	建築と形式①	革命か建築か（歴史否定としてのモダニズム）
		ロウ「理想的ヴィラの数学」
		近代：「形式」から自由へ
		カウフマン「自律的建築の起源と展開」
5	建築と形式②	日本の歴史建築にみる形式の変遷
		異なる形式の結合
		純粋形式
6	建築と形式③	数寄屋と書院
		大江宏の建築
		能舞台と茶室
		形式の歴史と現代
7	学生発表-1	課題発表
8	コラージュ	シュルレアリズム
		コラージュ
		野生の思考、ブリコラージュ
		ロウ「コラージュ・シティ」
9	グリッド	プラトン幾何学
		都市とグリッド
		建築とグリッド（磯崎、藤井、アイゼンマン、ウンガース）
		グリッドとアート
10	美術史・コンセプト	アートの起源から印象派まで
		モダンアート、コンセプチュアルアール、ミニマルあーとなど
		コンセプトとは
11	ポスト・モダニズム	ポストモダニズム
		ジェンクス、ヴェンチューリ、磯崎
		デコンストラクティヴィズム
		コンスタント「ニュー・バビロン」
		相対主義
12	現代建築理論	マリオ・カルポ「アルベルティ・パラダイム」
		アウレリ「アウトノミア・プロジェクト」
		オルジアッティ「ノンリファレンシャル」
13	現代状況論	資本主義、情報都市
		コモン/シェア/パブリック
		エコロジー、人新世、代謝
14	学生発表-2	課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近現代の建築および都市に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、発表の準備を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
今村創平「現代都市理論講義」
ロバート・ヴェンチューリ他「ラスベガス」
コーリン・ロウ「マニエリズムと近代建築」
その他、講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【参考書】
講義内にて、関連書籍、テキスト、作品集を指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (20%) と発表 (40%) およびレポート（40 %）とする。授業を 4 回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後に、出席確認も兼ねて、簡単な授業の感想を書いていただいてます。そこでの指摘事項で、授業内容及び進め方で改善できるものは、採用するようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントでの発表。IAE サーバーの利用、RFC による公開。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：建築家で一級建築士である担当教員から、建築の実務や現代の建築や都市を取りまく課題の視点からの説明、コメントを受けることができる。

【Outline (in English)】
This course investigates the methods and theories of modern and contemporary "planning" of architecture and urbanism. The students will learn "formalism" and "autonomy" of architecture from various points.
Learning the knowledge of the abovementioned themes, and gaining the abilities of discussing and describing them.

ADE500N1

環境工学概論

田中　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、エネルギーを使わない生活は考えられない。しかしながら、現在問題となっている地球温暖化の原因が、近年のエネルギー資源の大量消費にあることは明らかである。この授業では、エネルギー問題を考える上での必要な知識を学び、建築関連の業務に生かすことを目的としている。

【到達目標】
一次エネルギーと二次エネルギーの違い、エネルギー統計の読み方、高位発熱量と低位発熱量の違いなどを知ることで、省エネルギー対策を考える際の道筋を自ら考えられるようになることが目標である。
The aim of this course is to help students acquire the difference between primary energy and secondary energy, the difference between high heat value and low heat value and to understand energy statistics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に ZOOM を利用した遠隔授業とする。
remote lecture by "zoom".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとエネルギーと建築の関わり	エネルギーがネットワークを通して供給されることが、建築に与えた影響について考える。
2	エネルギーの基礎知識【1】	そもそもエネルギーとは何か、『物理』でいうエネルギーと『建築』などで言うエネルギーとの違いを学ぶ。
3	エネルギーの基礎知識【2】	エネルギー統計の読み方と一次エネルギーと二次エネルギーなどの基礎知識を学ぶ。
4	エネルギーインフラについて	電力・ガスなどのエネルギーが、建築に届くまでの過程を学ぶ。
5	省エネルギーとは何だろうか	省エネルギーという言葉は、世間でも一般的に使われるが、法律ではどのように定義されているかを学ぶ。
6	地球環境問題とエネルギー消費を考える	地球環境問題として温暖化が注目されているが、建築分野にはどの程度の責任があるのかを学ぶ。
7	エネルギー消費の計測を考える	エネルギー消費の現状を把握することが重要であると言われるが、ではどのように計るかを学ぶ。
8	省エネルギーの具体的対策を考える	今までの授業で学んだことを基礎として、実際の対策について学ぶ。
9	冷凍機について考える	住宅を含む建築の省エネルギーを考える上で、冷暖房に使われる冷凍機はエネルギー消費量の多さから考えてて重要であるので、冷凍機の原理について学ぶ。
10	その他のエネルギー使用機器について考える	照明器具・家電製品などのエネルギー使用状況を学ぶ
11	エネルギー自由化について考える	エネルギー自由化の目的と問題点について学ぶ。
12	省エネルギー建築のあり方【1】	これまでどのような対策がとられてきたのかを学ぶ。
13	省エネルギー建築のあり方【2】	今後どのような対策が考えられるかについて学ぶ。
14	考査 今後の展望	持続可能性の観点から、今後の建築のあり方を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新聞・雑誌などに載るエネルギー関連の記事には目を通すこと。
・各自、自分が消費したエネルギーがどのくらいかを考えておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
Students will be expected to read articles about energy issues and to know how much energy you consume everyday. Your study time will be more than two hours for a class.

【テキスト（教科書）】
授業内の映像と配付資料を基本とし、市販のテキストを使わずに進める。
Powerpoint files and PDFs are provided, so no textbook is needed.

【参考書】
エネルギー関連の本であれば、ある意味どんな本であれ参考になる。大学の図書館でエネルギー関連の本を読むことをおすすめする。なぜ参考書を指定しないかというと、この分野は著者の所属や立場が内容に影響を与えることが多く、それらを踏まえて読まないとミスリードすると思っているからです。
Books of Daniel Yergin.

【成績評価の方法と基準】
講義によって理解を積み上げていくことを基本とする。平常点 28%、授業内レポート 39%、期末レポート 33%として評価する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term end report: 33 %, Short reports: 39 %, in class contribution: 28 %

【学生の意見等からの気づき】
PowerPoint の作り方で、文字を出すのにアニメーションはいらないという意見をもらったが授業時間を守るために入れています。確かに、個人で PPT ファイルをダウンロードして見る場合にはない方が良いのかも知れませんが、そう思う方はご自分でアニメーションを削除してください。

【学生が準備すべき機器他】
PC によるプレゼンテーションを適時取り入れていくので、ZOOM を利用できる環境は必要不可欠です。ただ、これらは皆さんがすでに持っていることを前提にしています。

【その他の重要事項】
・電力会社で勤務していたので、エネルギー供給者の立場についても述べる。
・一応シラバスは作ったものの、昨今のウクライナ情勢の進展次第では、授業内容が大きく変わる可能性はある。選択にあたっては、その点を念頭に置いておいて欲しい。

【Outline (in English)】
A life without using energy is unthinkable. Obviously, however, the cause of the current problem of global warming lies in the recent mass consumption of energy resources. The purpose of the present course is to acquire knowledge necessary to address energy issues and to apply that knowledge to work in the relevant architecture.

ADE500N1

環境工学概論

田中　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、エネルギーを使わない生活は考えられない。しかしながら、現在問題となっている地球温暖化の原因が、近年のエネルギー資源の大量消費にあることは明らかである。この授業では、エネルギー問題を考える上での必要な知識を学び、建築関連の業務に生かすことを目的としている。

【到達目標】
一次エネルギーと二次エネルギーの違い、エネルギー統計の読み方、高位発熱量と低位発熱量の違いなどを知ることで、省エネルギー対策を考える際の道筋を自ら考えられるようになることが目標である。
The aim of this course is to help students acquire the difference between primary energy and secondary energy, the difference between high heat value and low heat value and to understand energy statistics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に ZOOM を利用した遠隔授業とする。
remote lecture by "zoom".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとエネルギーと建築の関わり	エネルギーがネットワークを通して供給されることが、建築に与えた影響について考える。
2	エネルギーの基礎知識【1】	そもそもエネルギーとは何か、『物理』でいうエネルギーと『建築』などで言うエネルギーとの違いを学ぶ。
3	エネルギーの基礎知識【2】	エネルギー統計の読み方と一次エネルギーと二次エネルギーなどの基礎知識を学ぶ。
4	エネルギーインフラについて	電力・ガスなどのエネルギーが、建築に届くまでの過程を学ぶ。
5	省エネルギーとは何だろうか	省エネルギーという言葉は、世間でも一般的に使われるが、法律ではどのように定義されているかを学ぶ。
6	地球環境問題とエネルギー消費を考える	地球環境問題として温暖化が注目されているが、建築分野にはどの程度の責任があるのかを学ぶ。
7	エネルギー消費の計測を考える	エネルギー消費の現状を把握することが重要であると言われるが、ではどのように計るかを学ぶ。
8	省エネルギーの具体的対策を考える	今までの授業で学んだことを基礎として、実際の対策について学ぶ。
9	冷凍機について考える	住宅を含む建築の省エネルギーを考える上で、冷暖房に使われる冷凍機はエネルギー消費量の多さから考えてて重要であるので、冷凍機の原理について学ぶ。
10	その他のエネルギー使用機器について考える	照明器具・家電製品などのエネルギー使用状況を学ぶ
11	エネルギー自由化について考える	エネルギー自由化の目的と問題点について学ぶ。
12	省エネルギー建築のあり方【1】	これまでどのような対策がとられてきたのかを学ぶ。
13	省エネルギー建築のあり方【2】	今後どのような対策が考えられるかについて学ぶ。
14	考査 今後の展望	持続可能性の観点から、今後の建築のあり方を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新聞・雑誌などに載るエネルギー関連の記事には目を通すこと。
・各自、自分が消費したエネルギーがどのくらいかを考えておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
Students will be expected to read articles about energy issues and to know how much energy you consume everyday. Your study time will be more than two hours for a class.

【テキスト（教科書）】
授業内の映像と配付資料を基本とし、市販のテキストを使わずに進める。
Powerpoint files and PDFs are provided, so no textbook is needed.

【参考書】
エネルギー関連の本であれば、ある意味どんな本であれ参考になる。大学の図書館でエネルギー関連の本を読むことをおすすめする。なぜ参考書を指定しないかというと、この分野は著者の所属や立場が内容に影響を与えることが多く、それらを踏まえて読まないとミスリードすると思っているからです。
Books of Daniel Yergin.

【成績評価の方法と基準】
講義によって理解を積み上げていくことを基本とする。平常点 28%、授業内レポート 39%、期末レポート 33%として評価する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term end report: 33 %, Short reports: 39 %, in class contribution: 28 %

【学生の意見等からの気づき】
PowerPoint の作り方で、文字を出すのにアニメーションはいらないという意見をもらったが授業時間を守るために入れています。確かに、個人で PPT ファイルをダウンロードして見る場合にはない方が良いのかも知れませんが、そう思う方はご自分でアニメーションを削除してください。

【学生が準備すべき機器他】
PC によるプレゼンテーションを適時取り入れていくので、ZOOM を利用できる環境は必要不可欠です。ただ、これらは皆さんがすでに持っていることを前提にしています。

【その他の重要事項】
・電力会社で勤務していたので、エネルギー供給者の立場についても述べる。
・一応シラバスは作ったものの、昨今のウクライナ情勢の進展次第では、授業内容が大きく変わる可能性はある。選択にあたっては、その点を念頭に置いておいて欲しい。

【Outline (in English)】
A life without using energy is unthinkable. Obviously, however, the cause of the current problem of global warming lies in the recent mass consumption of energy resources. The purpose of the present course is to acquire knowledge necessary to address energy issues and to apply that knowledge to work in the relevant architecture.

ADE500N1

環境工学概論

田中　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**建築院：建築士**
都市院：建築士

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日、エネルギーを使わない生活は考えられない。しかしながら、現在問題となっている地球温暖化の原因が、近年のエネルギー資源の大量消費にあることは明らかである。この授業では、エネルギー問題を考える上での必要な知識を学び、建築関連の業務に生かすことを目的としている。

【到達目標】
一次エネルギーと二次エネルギーの違い、エネルギー統計の読み方、高位発熱量と低位発熱量の違いなどを知ることで、省エネルギー対策を考える際の道筋を自ら考えられるようになることが目標である。
The aim of this course is to help students acquire the difference between primary energy and secondary energy, the difference between high heat value and low heat value and to understand energy statistics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に ZOOM を利用した遠隔授業とする。
remote lecture by "zoom".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとエネルギーと建築の関わり	エネルギーがネットワークを通して供給されることが、建築に与えた影響について考える。
2	エネルギーの基礎知識【1】	そもそもエネルギーとは何か、『物理』でいうエネルギーと『建築』などで言うエネルギーとの違いを学ぶ。
3	エネルギーの基礎知識【2】	エネルギー統計の読み方と一次エネルギーと二次エネルギーなどの基礎知識を学ぶ。
4	エネルギーインフラについて	電力・ガスなどのエネルギーが、建築に届くまでの過程を学ぶ。
5	省エネルギーとは何だろうか	省エネルギーという言葉は、世間でも一般的に使われるが、法律ではどのように定義されているかを学ぶ。
6	地球環境問題とエネルギー消費を考える	地球環境問題として温暖化が注目されているが、建築分野にはどの程度の責任があるのかを学ぶ。
7	エネルギー消費の計測を考える	エネルギー消費の現状を把握することが重要であると言われるが、ではどのように計るかを学ぶ。
8	省エネルギーの具体的対策を考える	今までの授業で学んだことを基礎として、実際の対策について学ぶ。
9	冷凍機について考える	住宅を含む建築の省エネルギーを考える上で、冷暖房に使われる冷凍機はエネルギー消費量の多さから考えてて重要であるので、冷凍機の原理について学ぶ。
10	その他のエネルギー使用機器について考える	照明器具・家電製品などのエネルギー使用状況を学ぶ
11	エネルギー自由化について考える	エネルギー自由化の目的と問題点について学ぶ。
12	省エネルギー建築のあり方【1】	これまでどのような対策がとられてきたのかを学ぶ。
13	省エネルギー建築のあり方【2】	今後どのような対策が考えられるかについて学ぶ。
14	考査 今後の展望	持続可能性の観点から、今後の建築のあり方を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新聞・雑誌などに載るエネルギー関連の記事には目を通すこと。
・各自、自分が消費したエネルギーがどのくらいかを考えておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
Students will be expected to read articles about energy issues and to know how much energy you consume everyday. Your study time will be more than two hours for a class.

【テキスト（教科書）】
授業内の映像と配付資料を基本とし、市販のテキストを使わずに進める。
Powerpoint files and PDFs are provided, so no textbook is needed.

【参考書】
エネルギー関連の本であれば、ある意味どんな本であれ参考になる。大学の図書館でエネルギー関連の本を読むことをおすすめする。なぜ参考書を指定しないかというと、この分野は著者の所属や立場が内容に影響を与えることが多く、それらを踏まえて読まないとミスリードすると思っているからです。
Books of Daniel Yergin.

【成績評価の方法と基準】
講義によって理解を積み上げていくことを基本とする。平常点 28%、授業内レポート 39%、期末レポート 33%として評価する。
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term end report: 33 %, Short reports: 39 %, in class contribution: 28 %

【学生の意見等からの気づき】
PowerPoint の作り方で、文字を出すのにアニメーションはいらないという意見をもらったが授業時間を守るために入れています。確かに、個人で PPT ファイルをダウンロードして見る場合にはない方が良いのかも知れませんが、そう思う方はご自分でアニメーションを削除してください。

【学生が準備すべき機器他】
PC によるプレゼンテーションを適時取り入れていくので、ZOOM を利用できる環境は必要不可欠です。ただ、これらは皆さんがすでに持っていることを前提にしています。

【その他の重要事項】
・電力会社で勤務していたので、エネルギー供給者の立場についても述べる。
・一応シラバスは作ったものの、昨今のウクライナ情勢の進展次第では、授業内容が大きく変わる可能性はある。選択にあたっては、その点を念頭に置いておいて欲しい。

【Outline (in English)】
A life without using energy is unthinkable. Obviously, however, the cause of the current problem of global warming lies in the recent mass consumption of energy resources. The purpose of the present course is to acquire knowledge necessary to address energy issues and to apply that knowledge to work in the relevant architecture.

CST500N1

景観デザイン概論

荻原　知子、福島　秀哉

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，景観デザインに関する様々な概念を学び，公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ．基本的な概念を確認したのちに，いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する．それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に，自分の専門分野との関係を確認する．

【到達目標】
1）景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
2）都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
3）都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2021 年度は zoom を用いオンラインにて開講する．Hoppii と GoogleClassroom を使用して教材の配付や課題提出を行う．miro を用いたオンライングループワークを行う．できるだけカメラ付きの PC から参加すること．グループワーク発表の際にはカメラオンを原則とする．
教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する．
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する．
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する．
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する．
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる 2 者の議論）について，グループワークによってその主張を確認する．
6	グループディスカッション（2）	引き続き，グループワークにより，議論の論点を整理し，それらについて学生自身の意見を整理し，発表する．
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する．
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する．
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する．
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う．
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し，授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
景観とデザイン　佐々木葉著・内山久雄編／オーム社

【参考書】
景観用語事典（増補改訂第二版）2021，篠原修編／彰国社
その他授業中に適宜紹介します．

【成績評価の方法と基準】
授業における提出物（40%）とレポート（60%）により評価し、総合点 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き，グループディスカッションを導入する．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC 等の作業ができるパソコンと，リモート授業に参加できるインターネット接続環境，
カメラ付きのパソコンを準備すること．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.
Objectives:
1) To acquire the basics of landscape design and analysis
2）To understand the reasons why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in the fields of urban environmental design and social infrastructure.
3）To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure
Learning activities outside of classroom:
To review the concepts and terminology mentioned in each session. Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion, and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Evaluation will be based on submissions in class (40%) and reports (60%), with a total score of 60% or higher being considered passing.

CST500N1

景観デザイン概論

荻原　知子、福島　秀哉

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，景観デザインに関する様々な概念を学び，公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ．基本的な概念を確認したのちに，いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する．それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に，自分の専門分野との関係を確認する．

【到達目標】
1）景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
2）都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
3）都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2021 年度は zoom を用いオンラインにて開講する．Hoppii と GoogleClassroom を使用して教材の配付や課題提出を行う．miro を用いたオンライングループワークを行う．できるだけカメラ付きの PC から参加すること．グループワーク発表の際にはカメラオンを原則とする．
教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する．
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する．
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する．
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する．
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる 2 者の議論）について，グループワークによってその主張を確認する．
6	グループディスカッション（2）	引き続き，グループワークにより，議論の論点を整理し，それらについて学生自身の意見を整理し，発表する．
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する．
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する．
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する．
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う．
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し，授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
景観とデザイン　佐々木葉著・内山久雄編／オーム社

【参考書】
景観用語事典（増補改訂第二版）2021，篠原修編／彰国社
その他授業中に適宜紹介します．

【成績評価の方法と基準】
授業における提出物（40%）とレポート（60%）により評価し、総合点 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き，グループディスカッションを導入する．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC 等の作業ができるパソコンと，リモート授業に参加できるインターネット接続環境，
カメラ付きのパソコンを準備すること．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.
Objectives:
1) To acquire the basics of landscape design and analysis
2）To understand the reasons why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in the fields of urban environmental design and social infrastructure.
3）To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure
Learning activities outside of classroom:
To review the concepts and terminology mentioned in each session.
Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion, and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Evaluation will be based on submissions in class (40%) and reports (60%), with a total score of 60% or higher being considered passing.

CST500N1

景観デザイン概論

荻原　知子、福島　秀哉

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，景観デザインに関する様々な概念を学び，公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ．基本的な概念を確認したのちに，いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する．それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に，自分の専門分野との関係を確認する．

【到達目標】
1）景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
2）都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
3）都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2021 年度は zoom を用いオンラインにて開講する．Hoppii と GoogleClassroom を使用して教材の配付や課題提出を行う．miro を用いたオンライングループワークを行う．できるだけカメラ付きの PC から参加すること．グループワーク発表の際にはカメラオンを原則とする．
教員による説明とグループワークまたは個人作業とその発表の組み合わせで各回の授業を構成する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する．
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する．
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する．
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する．
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる 2 者の議論）について，グループワークによってその主張を確認する．
6	グループディスカッション（2）	引き続き，グループワークにより，議論の論点を整理し，それらについて学生自身の意見を整理し，発表する．
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する．
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する．
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける．
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う．
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を越えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する．
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う．
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し，授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
景観とデザイン　佐々木葉著・内山久雄編／オーム社

【参考書】
景観用語事典（増補改訂第二版）2021，篠原修編／彰国社
その他授業中に適宜紹介します．

【成績評価の方法と基準】
授業における提出物（40%）とレポート（60%）により評価し、総合点 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度に引き続き，グループディスカッションを導入する．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC 等の作業ができるパソコンと，リモート授業に参加できるインターネット接続環境，
カメラ付きのパソコンを準備すること．

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.
Objectives:
1) To acquire the basics of landscape design and analysis
2) To understand the reasons why good landscapes are valued by learning about examples of good landscapes in the fields of urban environmental design and social infrastructure.
3) To understand the reasons and values of landscape design in urban environmental design and social infrastructure
Learning activities outside of classroom:
To review the concepts and terminology mentioned in each session. Students are expected to review the materials distributed in advance before the group discussion, and to be ready for the discussion immediately on the day of the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy:
Evaluation will be based on submissions in class (40%) and reports (60%), with a total score of 60% or higher being considered passing.

ADE500N1

地域・都市再生概論

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4 つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。
当面の 4 つの柱とは、
①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
②地方都市の空洞化、衰退への対処
③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
④景観形成のあり方
である。

【到達目標】
当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれを PPT 等により発表する。
新型感染症の状況を踏まえつつリモート形式または対面とリモートが選択できるハイブリッド方式で授業をする可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
テーマの選定、研究成果 (50H %)、プレゼンテーション能 (50H %) 力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報収集、発表用ツールの制作などに PC を用いる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE500N1

地域・都市再生概論

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4 つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。
当面の 4 つの柱とは、
①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
②地方都市の空洞化、衰退への対処
③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
④景観形成のあり方
である。

【到達目標】
当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれを PPT 等により発表する。
新型感染症の状況を踏まえつつリモート形式または対面とリモートが選択できるハイブリッド方式で授業をする可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
テーマの選定、研究成果 (50H %)、プレゼンテーション能 (50H %) 力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報収集、発表用ツールの制作などに PC を用いる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ADE500N1

地域・都市再生概論

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4 つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。
当面の 4 つの柱とは、
①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
②地方都市の空洞化、衰退への対処
③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
④景観形成のあり方
である。

【到達目標】
当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれを PPT 等により発表する。
新型感染症の状況を踏まえつつリモート形式または対面とリモートが選択できるハイブリッド方式で授業をする可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
テーマの選定、研究成果 (50H %)、プレゼンテーション能 (50H %) 力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
情報収集、発表用ツールの制作などに PC を用いる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ENV500N1

環境技術英語

大友　敬三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・グローバル化の進展に伴い，技術者や研究者には英語による技術情報の表現，文書化等のスキルが求められている．本授業では，建築，都市環境，システムデザイン等の分野を対象として，英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する．

【到達目標】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業では，履修学生各自の卒業研究論文等を題材として，段階的に英語論文化する．仕上がりは A4 版 4～6 ページを想定する．それに必要な知識やノウハウを習得できるように，以下のように授業を進める．
(1) 毎回の授業では，各回テーマの解説，履修学生による演習と発表等で構成する．
(2) 第 3 回，第 5 回，第 7 回，第 9 回，第 11 回，第 13 回それぞれの授業を，英語論文作成演習に充てる．
(3) 英語論文化に必要な資料等については，必要とする授業回に対応して配布する．
(4) 英語論文の典型的な英語構文や例文，ならびに専門用語を収集するため，履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文 2 編を準備することを推奨する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方，授業計画等を把握する． ・技術系の英語論文特有のスタイル，英語論文を作成するためのテクニックを整理する．
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する． ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する． ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する．
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する．
4	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する． ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する． ・キーワードの決め方を把握する．
5	アブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にしてアブストラクトとキーワードを作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
6	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・序論に含めるべき情報を整理する． ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する．
7	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する ・作成したコンテンツを発表する．
8	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する．
9	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
10	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する． ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する．
11	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
12	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する．
13	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
14	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する． ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★第 1 回_ガイダンス
【準備学習】
・本授業のシラバスを読んで，到達目標，授業の進め方・方法，授業計画等を把握する．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な事項を整理しておく．（1 時間）
★第 2 回_英語論文の基本ルールとテンプレート
【準備学習】
・第 2 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な専門用語等を整理しておく．（1 時間）
★第 3 回_タイトルの決め方と演習
【準備学習】
・第 3 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・作成した英語タイトルについて，精査しておく．（1 時間）
★第 4 回_アブストラクトとキーワードのまとめ方
【準備学習】
・第 4 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 5 回_アブストラクトとキーワード作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 6 回_序論のまとめ方
【準備学習】
・第 6 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 7 回_序論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】

・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 8 回_材料・方法または実験・理論のまとめ方
【準備学習】
・第 8 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 9 回_材料・方法または実験・理論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 10 回_結果のまとめ方
【準備学習】
・第 10 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 11 回_結果の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 12 回_考察のまとめ方
【準備学習】
・第 12 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 13 回_考察の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 14 回_結論のまとめ方
【準備学習】
・第 14 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）

【テキスト（教科書）】
・教科書は特に指定しません．

【参考書】
・「理工系の英語論文講座」，佐藤洋一著，オーム社，2008 年，￥2,420　← 授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成．
・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」，西山聖久著，化学同人，2019 年，￥2,640
・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい！」，福田尚代・西山聖久著，誠文堂新光社，2016 年，￥2,200
・「英語論文ライティング教本 —正確・明確・簡潔に書く技法— (KS 語学専門書)」，中山裕木子著，講談社，2018 年，￥3,850
・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」，中山裕木子著，日本工業英語協会，2009 年，￥1,980
・「英語は「名詞」と「動詞」が 9 割! 速効! 英文ライティング」，福田尚代著，日本能率協会マネジメントセンター，2017 年，￥1,650

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末レポート（各自の研究論文等の英語論文）により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末レポートの配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
【到達目標と評価の対応】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 30 点＝小計 40 点
・平常点には，課題と質疑応答・発表等が含まれる．
・期末レポートは，各自の研究成果等の英語論文を指す．
・4 回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・2022 年度学生による授業改善アンケート自由回答より，履修学生からは，課題の添削や学生一人一人に対する指導への期待が強いことが示唆された．また，オンライン形式の授業で充分理解できる，との意見があった．これを踏まえ，2023 年度では，オンライン形式を採用することにより，より一層，履修学生に対する指導を充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・プリント教材の配布や演習の提出と返却，および各種の連絡に法政大学学習支援システムや Web メールシステムを利用するので，同システムの操作には充分に慣れておくこと．

【その他の重要事項】
・担当教員は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.
【Learning Objectives】
1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.
2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/ method, experiment/ theory, results, discussions, and conclusions.
3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.
4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).
【Learning activities outside of classroom】
The 1st classroom: guidance
< preparation >
You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)
The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the second class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)
The 3rd classroom: title development and its exercise
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the third class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should critically review candidate your paper title. (one hour required)
The 4th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the third class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)
The 5th classroom: exercise for development of abstract and key words
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the abstract and the key words and critically review the products. (one hour required)
The 6th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 6th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 7th classroom: exercise for development of introduction
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)

The 8th classroom: development of material/ method or experiment/ theory
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 8th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for material/ method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 9th classroom: exercise for development of material/ method or experiment/ theory
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the material/ method or experiment/ theory and critically review the products. (one hour required)
The 10th classroom: development of results
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 10th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 11th classroom: exercise for development of results
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)
The 12th classroom: development of discussions
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 12th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 13th classroom: exercise for development of discussions
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)
The 14th classroom: development of conclusions
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 14th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%
A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.
Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

ENV500N1

環境技術英語

大友　敬三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・グローバル化の進展に伴い，技術者や研究者には英語による技術情報の表現，文書化等のスキルが求められている．本授業では，建築，都市環境，システムデザイン等の分野を対象として，英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する．

【到達目標】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業では，履修学生各自の卒業研究論文等を題材として，段階的に英語論文化する．仕上がりは A4 版 4~6 ページを想定する．それに必要な知識やノウハウを習得できるように，以下のように授業を進める．
(1) 毎回の授業では，各回テーマの解説，履修学生による演習と発表等で構成する．
(2) 第 3 回，第 5 回，第 7 回，第 9 回，第 11 回，第 13 回それぞれの授業を，英語論文作成演習に充てる．
(3) 英語論文化に必要な資料等については，必要とする授業回に対応して配布する．
(4) 英語論文の典型的な英語構文や例文，ならびに専門用語を収集するため，履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文 2 編を準備することを推奨する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方，授業計画等を把握する． ・技術系の英語論文特有のスタイル，英語論文を作成するためのテクニックを整理する．
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する． ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する． ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する．
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する．
4	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する． ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する． ・キーワードの決め方を把握する．
5	アブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にしてアブストラクトとキーワードを作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
6	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・序論に含めるべき情報を整理する． ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する．
7	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する ・作成したコンテンツを発表する．
8	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する．
9	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
10	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する． ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する．
11	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
12	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する．
13	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
14	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する． ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★第 1 回_ガイダンス
【準備学習】
・本授業のシラバスを読んで，到達目標，授業の進め方・方法，授業計画等を把握する．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な事項を整理しておく．（1 時間）
★第 2 回_英語論文の基本ルールとテンプレート
【準備学習】
・第 2 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な専門用語等を整理しておく．（1 時間）
★第 3 回_タイトルの決め方と演習
【準備学習】
・第 3 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・作成した英語タイトルについて，精査しておく．（1 時間）
★第 4 回_アブストラクトとキーワードのまとめ方
【準備学習】
・第 4 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 5 回_アブストラクトとキーワード作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 6 回_序論のまとめ方
【準備学習】
・第 6 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 7 回_序論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】

・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 8 回_材料・方法または実験・理論のまとめ方
【準備学習】
・第 8 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 9 回_材料・方法または実験・理論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 10 回_結果のまとめ方
【準備学習】
・第 10 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 11 回_結果の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 12 回_考察のまとめ方
【準備学習】
・第 12 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 13 回_考察の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 14 回_結論のまとめ方
【準備学習】
・第 14 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）

【テキスト（教科書）】
・教科書は特に指定しません．

【参考書】
・「理工系の英語論文講座」，佐藤洋一著，オーム社，2008 年，￥2,420　← 授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成．
・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」，西山聖久著，化学同人，2019 年，￥2,640
・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい！」，福田尚代・西山聖久著，誠文堂新光社，2016 年，￥2,200
・「英語論文ライティング教本 ―正確・明確・簡潔に書く技法― (KS 語学専門書)」，中山裕木子著，講談社，2018 年，￥3,850
・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」，中山裕木子著，日本工業英語協会，2009 年，￥1,980
・「英語は「名詞」と「動詞」が 9 割! 速効! 英文ライティング」，福田尚代著，日本能率協会マネジメントセンター，2017 年，￥1,650

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末レポート（各自の研究論文等の英語論文）により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末レポートの配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
【到達目標と評価の対応】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 30 点＝小計 40 点
・平常点には，課題と質疑応答・発表等が含まれる．
・期末レポートは，各自の研究成果等の英語論文を指す．
・4 回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・2022 年度学生による授業改善アンケート自由回答より，履修学生からは，課題の添削や学生一人一人に対する指導への期待が強いことが示唆された．また，オンライン形式の授業で充分理解できる，との意見があった．これを踏まえ，2023 年度では，オンライン形式を採用することにより，より一層，履修学生に対する指導を充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・プリント教材の配布や演習の提出と返却，および各種の連絡に法政大学学習支援システムや Web メールシステムを利用するので，同システムの操作には充分に慣れておくこと．

【その他の重要事項】
・担当教員は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.
【Learning Objectives】
1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.
2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/ method, experiment/ theory, results, discussions, and conclusions.
3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.
4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).
【Learning activities outside of classroom】
The 1st classroom: guidance
< preparation >
You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)
The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the second class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)
The 3rd classroom: title development and its exercise
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the third class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should critically review candidate your paper title. (one hour required)
The 4th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the third class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)
The 5th classroom: exercise for development of abstract and key words
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the abstract and the key words and critically review the products. (one hour required)
The 6th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 6th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 7th classroom: exercise for development of introduction
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)

The 8th classroom: development of material/ method or experiment/ theory
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 8th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for material/ method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 9th classroom: exercise for development of material/ method or experiment/ theory
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the material/ method or experiment/ theory and critically review the products. (one hour required)
The 10th classroom: development of results
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 10th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 11th classroom: exercise for development of results
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)
The 12th classroom: development of discussions
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 12th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 13th classroom: exercise for development of discussions
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)
The 14th classroom: development of conclusions
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 14th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%
A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.
Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

ENV500N1

環境技術英語

大友　敬三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・グローバル化の進展に伴い，技術者や研究者には英語による技術情報の表現，文書化等のスキルが求められている．本授業では，建築，都市環境，システムデザイン等の分野を対象として，英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する．

【到達目標】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業では，履修学生各自の卒業研究論文等を題材として，段階的に英語論文化する．仕上がりは A4 版 4～6 ページを想定する．それに必要な知識やノウハウを習得できるように，以下のように授業を進める．
(1) 毎回の授業では，各回テーマの解説，履修学生による演習と発表等で構成する．
(2) 第 3 回，第 5 回，第 7 回，第 9 回，第 11 回，第 13 回それぞれの授業を，英語論文作成演習に充てる．
(3) 英語論文化に必要な資料等については，必要とする授業回に対応して配布する．
(4) 英語論文の典型的な英語構文や例文，ならびに専門用語を収集するため，履修学生の研究内容に関係するモデル英語論文 2 編を準備することを推奨する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の進め方，授業計画等を把握する． ・技術系の英語論文特有のスタイル，英語論文を作成するためのテクニックを整理する．
2	英語論文の基本ルールとテンプレート	・英語論文を攻略するためのいくつかの基本ルールならびにその習得方法を理解する． ・英語論文の特徴を踏まえたテンプレートの使い方を把握する． ・英語論文作成の対象とする卒業研究論文等を選定する．
3	タイトルの決め方と演習	・英語論文のタイトルを作成する際のポイントを把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして英語タイトルを作成する．
4	アブストラクトとキーワードのまとめ方	・アブストラクトの基本ルールとまとめ方を把握する． ・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文を整理する． ・キーワードの決め方を把握する．
5	アブストラクトとキーワード作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にしてアブストラクトとキーワードを作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
6	序論のまとめ方	・序論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・序論に含めるべき情報を整理する． ・序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文を整理する．
7	序論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして序論を作成する ・作成したコンテンツを発表する．
8	材料・方法または実験・理論のまとめ方	・材料・方法または実験・理論のまとめ方に関する基本的な考え方を把握する． ・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論に関する英語構文や例文を整理する．
9	材料・方法または実験・理論の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，材料・方法または実験・理論を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
10	結果のまとめ方	・実験や解析の結果を正確に伝えるための基本的な考え方を把握する． ・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文を整理する．
11	結果の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
12	考察のまとめ方	・考察をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文を理解する．
13	考察の作成演習	・自分の卒業研究論文等を対象にして，論文内容に対応した結果を作成する． ・作成したコンテンツを発表する．
14	結論のまとめ方	・結論をまとめるための基本的な考え方を把握する． ・結論の構成に応じてよく使われる英語構文や例文を理解する． ・自分の卒業研究論文を対象にして結論に含める内容を整理する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
★第 1 回_ガイダンス
【準備学習】
・本授業のシラバスを読んで，到達目標，授業の進め方・方法，授業計画等を把握する．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な事項を整理しておく．（1 時間）
★第 2 回_英語論文の基本ルールとテンプレート
【準備学習】
・第 2 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文等の内容を振り返り，英語論文化に必要な専門用語等を整理しておく．（1 時間）
★第 3 回_タイトルの決め方と演習
【準備学習】
・第 3 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・作成した英語タイトルについて，精査しておく．（1 時間）
★第 4 回_アブストラクトとキーワードのまとめ方
【準備学習】
・第 4 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・アブストラクトでよく使われる英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 5 回_アブストラクトとキーワード作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等のアブストラクトを作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成したアブストラクトやキーワードについて未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 6 回_序論のまとめ方
【準備学習】
・第 6 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の序論に含めるべき情報に対応した英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 7 回_序論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の序論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】

・作成した序論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 8 回_材料・方法または実験・理論のまとめ方
【準備学習】
・第 8 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・自分の卒業研究論文の内容に対応した材料・方法または実験・理論に使う英文構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 9 回_材料・方法または実験・理論の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の材料・方法または実験・理論を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した材料・方法または実験・理論について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 10 回_結果のまとめ方
【準備学習】
・第 10 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・結果の提示に必要な典型的な英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 11 回_結果の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の結果を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した結果について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 12 回_考察のまとめ方
【準備学習】
・第 12 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・考察によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）
★第 13 回_考察の作成演習
【準備学習】
・自分の卒業研究論文等の考察を作成するための専門用語を調べておく．
【復習】
・作成した考察について未完成部分を完成させるとともに精査しておく．（1 時間）
★第 14 回_結論のまとめ方
【準備学習】
・第 14 回授業解説スライド等を読んで，疑問点や不明点を明らかにしておく．（1 時間）
【復習】
・結論によく使われる論点ごとの英語構文や例文について，他論文等をあたって収集しておく．（1 時間）

【テキスト（教科書）】
・教科書は特に指定しません．

【参考書】
・「理工系の英語論文講座」，佐藤洋一著，オーム社，2008 年，￥2,420　← 授業解説スライドはこの参考書に基づいて作成．
・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」，西山聖久著，化学同人，2019 年，￥2,640
・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい！」，福田尚代・西山聖久著，誠文堂新光社，2016 年，￥2,200
・「英語論文ライティング教本 —正確・明確・簡潔に書く技法— (KS 語学専門書)」，中山裕木子著，講談社，2018 年，￥3,850
・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」，中山裕木子著，日本工業英語協会，2009 年，￥1,980
・「英語は「名詞」と「動詞」が 9 割! 速効! 英文ライティング」，福田尚代著，日本能率協会マネジメントセンター，2017 年，￥1,650

【成績評価の方法と基準】
・本授業における到達目標に対し，以下のように平常点と期末レポート（各自の研究論文等の英語論文）により到達度を測定（点数化）し，100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）．平常点と期末レポートの配分は，それぞれ 40 点，60 点とする．
【到達目標と評価の対応】
①英語論文の論理構造やテンプレートを理解できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
②英語論文を構成する項目（タイトル，アブストラクト，キーワード，序論，材料・方法または実験・理論，結果，考察，結論）の基本的な考え方と作成方法を習得できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
③卒業研究論文等を英語論文化するための情報を洗い出しできる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 10 点＝小計 20 点
④卒業研究論文等を題材として，英語論文の構成項目と典型的な英語構文に沿った簡潔な英語論文を作成できる．→ 平常点 10 点＋期末レポート 30 点＝小計 40 点
・平常点には，課題と質疑応答・発表等が含まれる．
・期末レポートは，各自の研究成果等の英語論文を指す．
・4 回以上欠席した場合は，単位取得不可（評価： D）とする．

【学生の意見等からの気づき】
・2022 年度学生による授業改善アンケート自由回答より，履修学生からは，課題の添削や学生一人一人に対する指導への期待が強いことが示唆された．また，オンライン形式の授業で充分理解できる，との意見があった．これを踏まえ，2023 年度では，オンライン形式を採用することにより，より一層，履修学生に対する指導を充実させていきたい．

【学生が準備すべき機器他】
・プリント教材の配布や演習の提出と返却，および各種の連絡に法政大学学習支援システムや Web メールシステムを利用するので，同システムの操作には充分に慣れておくこと．

【その他の重要事項】
・担当教員は実務経験教員である．所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた．研究成果を国際会議で口頭発表，あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた．このような経験を講義に反映し，履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい．

【Outline (in English)】
【Course outline】
Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.
【Learning Objectives】
1) You will understand logical structure of a technical paper and typical expressions.
2) You will acquire the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper such as title, abstract, key words, introduction, material/ method, experiment/ theory, results, discussions, and conclusions.
3) You will prepare key elements from your undergraduate thesis (in Japanese) to develop English version of your thesis.
4) You will establish a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions for a typical technical paper based on your undergraduate thesis (in Japanese).
【Learning activities outside of classroom】
The 1st classroom: guidance
< preparation >
You should refer the syllabus of the class to understand the learning objectives, methods, and class schedule. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to organize key issues for an English paper development. (one hour required)
The 2nd classroom: general rules and templates for an English paper
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the second class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should re-examine your undergraduate thesis to arrange necessary technical terms for an English paper development. (one hour required)
The 3rd classroom: title development and its exercise
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the third class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should critically review candidate your paper title. (one hour required)
The 4th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the third class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples frequently used in abstract using other reference papers. (one hour required)
The 5th classroom: exercise for development of abstract and key words
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing abstract of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the abstract and the key words and critically review the products. (one hour required)
The 6th classroom: development of abstract and key words
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 6th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for introduction of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 7th classroom: exercise for development of introduction
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the introduction and critically review the products. (one hour required)

The 8th classroom: development of material/ method or experiment/ theory
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 8th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for material/ method or experiment/theory of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 9th classroom: exercise for development of material/ method or experiment/ theory
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing introduction of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the material/ method or experiment/ theory and critically review the products. (one hour required)
The 10th classroom: development of results
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 10th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for results of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 11th classroom: exercise for development of results
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing results of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the results and critically review the products. (one hour required)
The 12th classroom: development of discussions
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 12th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for discussions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
The 13th classroom: exercise for development of discussions
< preparation >
You should examine technical terms in English for developing discussions of your undergraduate thesis. (one hour required)
< review >
You should complete the discussions and critically review the products. (one hour required)
The 14th classroom: development of conclusions
< preparation >
You should refer the Powerpoint slides for the 14th class to identify your questions and unclear issues. (one hour required)
< review >
You should collect sentence structures and examples suitable for conclusions of your undergraduate thesis using other reference papers. (one hour required)
【Grading Criteria /Policy】
The supervisor will evaluate your achievement for learning objectives based on your mark in class participations (allocation: 40%) and scores in final examination (allocation: 60%), completing your final scores in the full score of 100%. You will earn the credit if you score equal to or more than the score of 60%.
< Learning objectives and corresponding evaluations >
1) Understanding of logical structure of a technical paper and typical expressions: class participation 10%+final examination 10%= total 20%
2) Acquisition of the knowledge and development skills on necessary chapters that organize a technical paper: class participation 10%+final examination 00%=total 20%
3) Preparation for key elements from your undergraduate thesis: class participation 10%+final examination 10%=total 20%
4) Establishing a short and concise English paper in accordance with general organization and expressions: class participation 10%+final examination 30%=total 40%
A mark in class participation includes assignments, discussions, and others.
Final examination will be conducted on your English version of undergraduate thesis.
You will fail to earn the credit if you miss the class more than three times, your final evaluation being applied Grade D.

LAW500N1

知的財産権論

宮武　久佳

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ベーシックインカム」「ロボット技術」「シェアリング経済」「人工知能」「伝書鳩が消えた」「電子メールは絶滅危惧種か」「インダストリー４．０」「ドローン革命」「仮想通貨」「モノのインターネット」など

【到達目標】
好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面方式となる。
少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。
後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（１）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（２）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品が SNS で瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	３ D プリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する３ D プリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえたい（学生発表）。
10	ビッグデータ時代を生きる	ビッグデータが作る世界とは何か、多面的に検討したい（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエーティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	２１世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「正しいコピペのすすめ　模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860 円プラス税

【参考書】
誰が「知」を独占するのか（福井健策。集英社新書）
ビッグデータの衝撃（城田真琴。東洋経済新報社）
評価と贈与の経済学（岡田斗司夫、内田樹。徳間ポケット）
捏造の科学者（須田桃子。文藝春秋）
科学者とな何か（村上陽一郎。新潮選書）
「ドローンの哲学」（シャマユー。明石書院）
「アマゾンがわかる」（GAFA リサーチ。ソシム社）
「入門　AI と金融の未来」（野口悠紀雄。PHP）
これ以外にも、学生発表の内容に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（５０％）と期末レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

【その他の重要事項】
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多方面な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

【Outline (in English)】
Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include basic income, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence, disappearance of carrier pigeons, e-mail as an endangered species, industry 4.0, drone revolution, virtual currency, IoT etc.

LAW500N1

知的財産権論

宮武　久佳

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ベーシックインカム」「ロボット技術」「シェアリング経済」「人工知能」「伝書鳩が消えた」「電子メールは絶滅危惧種か」「インダストリー４．０」「ドローン革命」「仮想通貨」「モノのインターネット」など

【到達目標】
好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面方式となる。
少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。
後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。発表は、コアタイムの水曜日午後 5 － 6 時 30 分とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（１）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（２）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品が SNS で瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	３ D プリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する３ D プリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえたい（学生発表）。
10	ビッグデータ時代を生きる	ビッグデータが作る世界とは何か、多面的に検討したい（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエーティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	２１世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「正しいコピペのすすめ　模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860 円プラス税

【参考書】
誰が「知」を独占するのか（福井健策。集英社新書）
ビッグデータの衝撃（城田真琴。東洋経済新報社）
評価と贈与の経済学（岡田斗司夫、内田樹。徳間ポケット）
捏造の科学者（須田桃子。文藝春秋）
科学者とな何か（村上陽一郎。新潮選書）
「ドローンの哲学」（シャマユー。明石書院）
「アマゾンがわかる」（GAFA リサーチ。ソシム社）
「入門　AI と金融の未来」（野口悠紀雄。PHP)
これ以外にも、学生発表の内容に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（５０％）と期末レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

【その他の重要事項】
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多方面な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

【Outline (in English)】
Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include basic income, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence, disappearance of carrier pigeons, e-mail as an endangered species, industry 4.0, drone revolution, virtual currency, IoT etc.

LAW500N1

知的財産権論

宮武　久佳

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的などんな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ベーシックインカム」「ロボット技術」「シェアリング経済」「人工知能」「伝書鳩が消えた」「電子メールは絶滅危惧種か」「インダストリー４．０」「ドローン革命」「仮想通貨」「モノのインターネット」など

【到達目標】
好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどういう時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面方式となる。
少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。
後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。発表は、コアタイムの水曜日午後 5 － 6 時 30 分とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（１）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（２）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品が SNS で瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	３ D プリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する３ D プリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえたい（学生発表）。
10	ビッグデータ時代を生きる	ビッグデータが作る世界とは何か、多面的に検討したい（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエーティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	２１世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「正しいコピペのすすめ　模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860 円プラス税

【参考書】
誰が「知」を独占するのか（福井健策。集英社新書）
ビッグデータの衝撃（城田真琴。東洋経済新報社）
評価と贈与の経済学（岡田斗司夫、内田樹。徳間ポケット）
捏造の科学者（須田桃子。文藝春秋）
科学者とな何か（村上陽一郎。新潮選書）
「ドローンの哲学」（シャマユー。明石書院）
「アマゾンがわかる」（GAFA リサーチ。ソシム社）
「入門　AI と金融の未来」（野口悠紀雄。PHP）
これ以外にも、学生発表の内容に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献（５０％）と期末レポート（５０％）。

【学生の意見等からの気づき】
授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考にして授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】
大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

【その他の重要事項】
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多方面な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

【Outline (in English)】
Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include basic income, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence, disappearance of carrier pigeons, e-mail as an endangered species, industry 4.0, drone revolution, virtual currency, IoT etc.

MAN500N1

現代産業論

今橋　隆

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に応用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】
企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせて進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2 回	成熟経済における産業発展	1990 年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の変容という観点から概説する。
3 回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4 回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5 回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6 回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7 回	プレーヤーの行動原理	プレーヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8 回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の 3 つが重要である。
9 回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10 回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど 意思決定への適用を検討する。
11 回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。
12 回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。
13 回	現実への適用	安全保障、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。
14 回	シグナリング	情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。
予備的な情報収集が課されうる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
赤木博文　『コンパクト・ミクロ経済学』新世社　2008 年
八田達夫　『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社　2013 年
イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳　『意思決定理論入門』
NTT 出版　2012 年
一橋大学経済学部　編　『教養としての経済学』　有斐閣　2013 年
ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳　『市場を創る』　NTT 出版　2011 年

【成績評価の方法と基準】
経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。
平常点 20 %、小テスト（レポート含む）40 %、期末試験 40 %という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。
経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、欧州とアジアにおける経済政策面の国際協力、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline (in English)】
The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1

現代産業論

今橋　隆

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に応用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】
企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせて進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2 回	成熟経済における産業発展	1990 年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の変容という観点から概説する。
3 回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4 回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5 回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6 回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7 回	プレーヤーの行動原理	プレーヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8 回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の 3 つが重要である。
9 回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10 回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど 意思決定への適用を検討する。
11 回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。
12 回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。
13 回	現実への適用	競争政策、安全保障などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。
14 回	シグナリング	情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。
予備的な情報収集が課されうる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
赤木博文　『コンパクト・ミクロ経済学』新世社　2008 年
八田達夫　『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社　2013 年
イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳　『意思決定理論入門』
NTT 出版　2012 年
一橋大学経済学部　編　『教養としての経済学』　有斐閣　2013 年
ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳　『市場を創る』　NTT 出版　2011 年

【成績評価の方法と基準】
経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。
平常点 20 %、小テスト（レポート含む）40 %、期末試験 40 %という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。
経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、欧州とアジアにおける経済政策面の国際協力、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline (in English)】
The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1

現代産業論

今橋　隆

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に応用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】
企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせて進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2 回	成熟経済における産業発展	1990 年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の変容という観点から概説する。
3 回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4 回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5 回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6 回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7 回	プレーヤーの行動原理	プレーヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8 回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の 3 つが重要である。
9 回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10 回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど 意思決定への適用を検討する。
11 回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。
12 回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。
13 回	現実への適用	安全保障、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。
14 回	シグナリング	情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。
予備的な情報収集が課されうる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくに使用しない。

【参考書】
赤木博文　『コンパクト・ミクロ経済学』新世社　2008 年
八田達夫　『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社　2013 年
イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳　『意思決定理論入門』
NTT 出版　2012 年
一橋大学経済学部　編　『教養としての経済学』　有斐閣　2013 年
ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳　『市場を創る』　NTT 出版　2011 年

【成績評価の方法と基準】
経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。
平常点 20 %、小テスト（レポート含む）40 %、期末試験 40 %という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。
経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。最終回において、それまでのリアクションをふり返り、俯瞰的な見地からコメントを加える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、欧州とアジアにおける経済政策面の国際協力、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline (in English)】
The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

ADE500N2

建築プロフェッショナル総合演習 1

赤松　佳珠子、志賀　良和、坂田　泉、藤澤　百合

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

【到達目標】
1. 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
2. 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合せた授業形式による。ワークショップは 3 分野それぞれ 4 回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。
【合同ガイダンスについて】
A期第 1 週に建築プロフェッショナル総合演習 1 および 2 の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・合同ガイダンス ・ワークショップ／照明計画とデザイン 1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業（導入段階）
第 2 回	ワークショップ／照明計画とデザイン 2	（試行段階）
第 3 回	ワークショップ／照明計画とデザイン 3	（発展段階）
第 4 回	ワークショップ／照明計画とデザイン 4	発表および講評
第 5 回	ワークショップ／建築企画デザイン 1	（導入段階）
第 6 回	ワークショップ／建築企画デザイン 2	（試行段階）
第 7 回	ワークショップ／建築企画デザイン 3	（発展段階）
第 8 回	ワークショップ／建築企画デザイン 4	発表および講評
第 9 回	建築家の職能意識 1	・セミナー形式による授業
第 10 回	建築家の職能意識 2	・セミナー形式による授業 ・発表および講評
第 11 回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン 1	（導入段階）
第 12 回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン 2	（試行段階）
第 13 回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン 3	（発展段階）
第 14 回	ワークショップ／グラフィックに関わるデザイン 4	発表および講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて授業内で紹介
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はないが必要な参考文献は授業内で紹介する

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする
配分：レポート 10 %、ワークショップ成果物 30 % ×3 回

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、デジタルカメラ、必要に応じて授業内に指定されたソフト

【その他の重要事項】
・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。
・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。
・A期第 1 週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習 1・2 合同ガイダンス」にて抽選を行うので、1 または 2 を履修希望する学生は必ず「合同ガイダンス」に出席すること。
・希望者多数の場合、合同ガイダンスを欠席した学生は履修を認めない。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.
【Learning Objectives】
1. To acquire knowledge and skills in a wide range of peripheral fields related to architectural design, and to acquire a broad range of specialized skills by attempting to apply such knowledge and skills.
2. To deepen students’ understanding of professional ethics in the architectural field and to develop the ability to act accordingly..
【Learning activities outside of classroom】
Instructions will be given at the time of guidance.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Overall evaluation will be based on reports, workshop results, etc.
Allocation: Report 10%, Workshop deliverables 30% x 3 times

ADE500N2

建築プロフェッショナル総合演習２

赤松　佳珠子、石渡　智秋、鈴木　研一、畠中　克弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

【到達目標】
1. 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
2. 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合せた授業形式による。ワークショップは 3 分野それぞれ 4 回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。
【合同ガイダンスについて】
A期第 1 週に建築プロフェッショナル総合演習 1 および 2 の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営 1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業
第 2 回	建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営 2	・セミナー形式による授業 ・発表・講評
第 3 回	ワークショップ／コミュニティデザイン 1	（導入段階）
第 4 回	ワークショップ／コミュニティデザイン 12	（試行段階）
第 5 回	ワークショップ／コミュニティデザイン 13	（発展段階）
第 6 回	ワークショップ／コミュニティデザイン 14	発表・講評
第 7 回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 1	（導入段階）
第 8 回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 2	（試行段階）
第 9 回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 3	（発展段階）
第 10 回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 4	発表・講評
第 11 回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 1	（導入段階）
第 12 回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 2	（試行段階）
第 13 回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 3	（発展段階）
第 14 回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 4	発表・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ガイダンス時に指示される
本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はないが、必要な参考文献については授業内で指示される

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】
レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする
配分：レポート 10 %、ワークショップ成果物 30 % ×3 回

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、デジタルカメラ

【その他の重要事項】
・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。
・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。
・A期第 1 週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習 1・2 合同ガイダンス」にて抽選を行います。プロ演習 2 を履修希望する学生も必ず「合同ガイダンス」に出席すること。
・履修希望者多数の場合、合同ガイダンスを欠席した学生は履修を認めない。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.
【Learning Objectives】
1. To acquire knowledge and skills in a wide range of peripheral fields related to architectural design, and to acquire a broad range of specialized skills by attempting to apply such knowledge and skills.
2. To deepen students’ understanding of professional ethics in the architectural field and to develop the ability to act accordingly.
【Learning activities outside of classroom】
Instructions will be given at the time of guidance.
The standard preparation and review time for this class is 4 hours.
【Grading Criteria /Policy】
Overall evaluation will be based on reports, workshop results, etc.
Allocation: Report 10%, Workshop deliverables 30% x 3 times

ADE500N2

建築構造デザイン

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建築構造物がもつべき適切な骨格を描き出す創造的行為が構造デザインである。そして，構造デザインは，科学や技術だけではなく多くのものと結びついている。審美，歴史，文化，哲学，思想，経済・・・。一般的に構造設計としてイメージされる構造計算は，この活動において，仕上げの筆を加え，その構造物が要求にそった強さや健全さを持っている事を証明することにすぎない。そのような段階に入る前に統合的な判断に基づく基本的な構造概念の構築を行う必要があり，それが構造計画である。
本授業では，このような構造計画から構造計算までの一連の構造デザインの流れについて，著名な構造設計者の例を研究するとともに，実際の構造物の設計を通して体感する。

【到達目標】
構造計画立案のための基本的な構造原理や著名構造設計者などの専門家の言葉を理解する力の養成と，我が国の構造関係技術基準の把握，それに適合した構造設計・構造計算法の理解を到達目標とし，その過程で構造デザインの真髄の一端に触れる事をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP6」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
まずはじめに，著名構造設計者の設計例を調査し，その拠り所となる構造原理，推進力となる設計思想，手だてとしての設計手法を整理・研究する。その際には構造模型なども作製し五官を総動員させながら構造デザインの神髄の理解に努める。その後，日本における構造関係技術基準を総覧した上で，実際に自分の力で建築物の構造設計に取りかかり，構造設計図書をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス 構造デザインとは
第 2 回	事例研究	著名構造設計者の文献・作品調査 設計思想・設計手法の把握
第 3 回	事例研究	構造模型製作 構造原理の把握
第 4 回	事例研究	発表会
第 5 回	構造関係技術基準	構造関係規定の構成と要求性能 仕様規定・構造計算規定 荷重・外力 耐震計算 許容応力度・材料強度
第 6 回	構造関係技術基準	鉄骨造の技術規準 鉄筋コンクリート造の技術規準
第 7 回	設計演習（課題設定）	課題設定エスキス 与条件の把握
第 8 回	設計演習（構造計画）	要求性能・設計方針決定 荷重表作成 仮定断面の設定
第 9 回	設計演習（構造計画）	構造解析モデルの作成 略構造図の作成
第 10 回	設計演習（構造解析）	応力計算 変形計算
第 11 回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 柱の断面検定 梁の断面検定 耐震壁の断面検定
第 12 回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 接合部の断面検定 2 次部材の断面検定 基礎の断面検定
第 13 回	設計演習（構造計算）	層間変形角の検討 剛性率・偏心率の検討 保有水平耐力の検討
第 14 回	設計演習（構造図）	基礎伏図の作成 梁伏図の作成 軸組図の作成 部材リスト図の作成 構造詳細図の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献調査および構造模型製作，発表会のための資料作成，構造設計図書の作成とそのための学習など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では，これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。

【参考書】
とくになし。

【成績評価の方法と基準】
授業内発表（30 %），期末レポート（構造設計図書）（70 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報教室の PC もしくは配布ノート PC

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
Structural design is the creative act of drawing out the appropriate framework that a building structure should have. Structural design is not only related to science and technology, but also to many other things. Aesthetics, history, culture, philosophy, ideology, economics, and so on. Structural calculations, which are generally thought of as structural design, are just a way to add the finishing touches to this activity and prove that the structure is strong and sound enough to meet the requirements. Before entering such a stage, it is necessary to construct a basic structural concept based on an integrated judgment, which is structural planning.In this class, we will study the examples of famous structural designers and experience the flow of structural design from structural planning to structural calculation through the design of actual structures.
Learning Objectives:
The course aims to cultivate the ability to understand basic structural principles and the words of famous structural designers and other experts for structural planning, to grasp the technical standards related to structure in Japan, and to understand structural design and structural calculation methods that conform to these standards, and in the process, to touch the essence of structural design.
Learning activities outside of classroom:
Independent study outside of class time is very important, such as literature research, structural model making, preparation of materials for presentations, and preparation of structural design documents and study for them. In the class, students are mainly expected to explain the progress of their work and confirm any questions they may have. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
Grading will be based on in-class presentations and final reports.

OTR500N3

都市環境デザイン工学基礎２

高見　公雄、酒井　久和、内田　大介

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部で学習した基礎的な教科のうち、空間の視覚モデル化とその表現、景観デザイン、地盤力学と地盤環境、構造力学と鋼構造に関連する知識のエッセンスを再確認する。

【到達目標】
上記内容について基礎的な能力を修得とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
上記内容について講義と演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，土の物理量、土の分類と力学的性質	土の物理量、土の分類と力学的性質についての演習問題と解答、関連する講義
2	地盤内の水の動き	地盤内の水の動きについての演習問題と解答、関連する講義
3	圧密沈下量、圧密時間	圧密沈下量、圧密時間についての演習問題と解答、関連する講義
4	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法についての演習問題と解答、関連する講義
5	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する 2・3 次元物体の応力と変形	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する 2・3 次元物体の応力と変形についての演習問題と解答、解説
6	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法 (1)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説
7	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法 (2)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説。関連する講義
8	トラス構造の部材力と変形の計算方法	トラス構造の部材力と変形の計算方法についての演習問題と解答、解説
9	鋼材の継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法	鋼材の継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法についての演習問題と解答、解説
10	土地区画整理事業の成果	都市計画の母、と呼ばれる土地区画整理事業がこれまでのわが国の都市整備に果たしてきた役割を理解する
11	土地区画整理事業の事業計画の仕組み	土地区画整理事業の国庫補助の仕組みを始め、市街地の設計が事業収支にどう影響するたなど、事業構造のポイントを知る
12	例題市街地の設計	都内の具体的な地区を取り上げ、土地区画整理事業にて整備するとした場合の市街地設計を行う
13	例題市街地の設計に基づく土地区画整理事業の事業計画検討	設計した市街地に、現状の地価、整備後の可能処分価格、整備事業費などから、事業計画としての成立性について検討する
14	土地区画整理事業としての成立性	望ましい市街地形成に向けて、現実的な事業費検討を踏まえた事業計画案をとりまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。適宜指示する。

【参考書】
適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポートによる (100%)。遅刻・欠席は減点する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
電卓

【その他の重要事項】
3 名の教員は，それぞれ都市計画，橋梁設計，土構造物設計に実務者として携わった経験を有し，その知見を活かした講義を行う．

【Outline (in English)】
The program objectives of Basics of Civil Engineering 2 are to confirm fundamental knowledge and skills related to structural engineering, steel structure, geomechanics, environmental geotechnics, landscape and city planning.
· Grading Criteria
The goals of this course are to acquire the contents of above outline.
· Learning activities outside of classroom
Review each class meeting. Standard study time is 2 hours for each time.
· Grading Criteria
Grading will be decided based on each time exercises.

CST500N3

災害リスクマネジメント概論

竹末　直樹、細川　雅則、真下　義章、泉　千年、加古　聡一郎、溝口　宏樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外の様々なインフラの計画、建設、維持・管理における災害リスクおよびその対応・対策について、経験に基づく事例紹介や解説を行う。講義を通じて，インフラの災害リスク・対応の現状、最新動向、課題等の把握・理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
1) リスクマネジメントの概念・手法を理解する。
2) 自然・労働などの災害リスクおよび、災害対策の概要・現状を把握する。
3) 海外プロジェクトにおけるリスク、その対策を理解する。
4) 危機対応における組織の役割や連携、事前対策の重要性について認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
災害リスクに関する講義・説明を受け、質疑応答や演習を通じて理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アジア開発銀行の紹介とコロナ危機への対応	アジア開発銀行の設立目的や戦略、実績などを紹介する。またコロナ危機にあたっての対応とその成果を検証する。
2	アジア都市鉄道プロジェクト、財源リスクへの対応	アジア都市交通における課題と都市鉄道が果たす役割を取り上げる。また、都市鉄道開発を行うにあたり、直面する財源問題とその対策を協議する。
3	持続可能な開発（Sustainable Development Goal）とリスク対応	気候変動など世界的な災害リスクの現状を紹介し、アジア開発銀行の SDG への取組みを、ケーススタディを交えて紹介する。
4	水害リスクと対策	気候変動と水害リスク、頻発する水害と課題、治水対策の歴史・変遷・今後の方向性、避難行動と情報について、実例を示しながら解説する。
5	水害対応の実例	令和元年東日本台風での水害対応、国土交通省 TEC-FORCE など、災害対応の実例について、経験談を交えて解説する。
6	都市内高速道路の大雪対策	首都高速道路を例に、大雪対応の基本方針、路面凍結予防、除排雪作業、交通情報提供など大雪対策の概要を理解する。
7	都市内高速道路の地震対策	首都高速道路を例に、高架橋の耐震補強、地震発生時の初動対応、緊急輸送路の道路啓開など大地震への備えを理解する。
8	災害リスク発生時の建設会社の役割	増加する自然災害発生時の建設会社の役割を考える。事例として平成３０年７月西日本豪雨災害への対応と課題を解説。
9	老朽化するインフラへの対応と建設会社の戦略	インフラ老朽化に伴う災害リスクの増加への対応として、官民連携の拡大と建設会社の新たな取組みを考える。（愛知道路コンセッション事業他の事例紹介）
10	建設現場のリスクマネジメント	建設現場におけるリスクとしての自然災害、労働災害及び周辺環境に及ぼす影響とその対策を実例を交えて実践的に学ぶ
11	建設プロセスにおける防災技術の最前線	建設現場での災害リスク軽減に資する防災技術を中心に、近年実用化が進む自動化・機械化技術、ICT、CIM 等を用いた建設技術の最新動向を解説
12	防災減災／災害復旧プロジェクト事例紹介	震災復興事業、治水・治山事業など、大規模土木プロジェクトの事例を写真や動画を用いて分かりやすく紹介する
13	リスクマネジメントの概説	リスクマネジメントの概念・手法、適用事例等を紹介し、一部演習を実施する。
14	公共施設マネジメントとリスクマネジメント	リスクを考慮した地方自治体の公共施設マネジメントの手法を紹介し、一部演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題，講義への積極的参加を求める。
本授業の準備・復習時間は，約各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
災害危機管理論入門、吉井裕明＋田中　淳、弘文堂
防災学原論、岡田憲夫監修、築地書房
災害の経済学、馬奈木俊介、中央経済社
その他適宜追加する。

【成績評価の方法と基準】
レポート発表 60 %、小テスト 20 %、講義における積極的参加度 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
担当者変更により講義内容を大幅に変更したため、今後の学生意見を反映して、次年度以降の講義内容・方法について検討を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。
講義に PPT 使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】
インフラ関係の管理者側、建設コンサルタント、ゼネコン、国際開発金融機関、経営コンサルタントの実務に携わっている実務者により、それぞれの立場から経験に基づいた講義を行う。

【Outline (in English)】
The course introduces case studies based on experience and provides commentary on disaster risk and response/measures in the planning, construction, maintenance, and management of various infrastructures in Japan and overseas. The objective of the course is to deepen understanding of the current status, trends, and unsolved problems of disaster risk and response for infrastructure.
This course's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.
Grade evaluation: Reports 60% + Short tests 20% + Activities 20%= 100%.

CST500N3

材料科学概論（２０２０年度休講）

羽原　俊祐

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
建設に使用される主要材料の物理的・化学的特性について、使用上熟知しておくべき基礎的事項を身につける。さらに、これらの諸材料の材料設計に関する基本的な考え方、ならびにコンクリートの体積変化の種類と制御技術を修得する。

【到達目標】
材料の化学的側面を理解し、材料の諸特性を定量的に評価する技術とコンクリートの体積変化制御技術を身につけることを本授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
今年は休講します。
社会環境材料としてのセメント系材料の現状や技術的課題、さらに新材料・技術について概説する。具体的な講義内容としては、社会環境材料としてのセメント系材料の物理的・化学的特性、セメント系材料の水和物とその利用、社会環境材料と資源循環、セメント・コンクリートの高性能化・多機能化、コンクリートの空隙と体積変化のメカニズムの概説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス　材料科学概論	授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方と方法
2	材料科学的な設計方法の考え方	組成と構造 (キャラクター）とその評価方法（キャラクタリゼーション）
3	セメント・コンクリートの歴史	セメント・コンクリートの歴史
4	セメント製造プロセスの変遷	セメント製造プロセスの変遷
5	セメントクリンカ原料としての廃棄物利用	廃棄物利用と環境負荷の低減、廃棄物・副産物利用による環境影響評価、廃棄物の利用拡大に向けて
6	CO2 削減の取り組み	代替原料の利用と混合セメント LC3　Limestone Calcined Clay Cement
7	セメント系材料の水和と組織形成	水和反応と組織形成の研究の意義、ポルトランドセメントの水和、ポ ルトランドセメントの水和による硬化体組織の形成 カルシウムシリケート系水和物（C-S-H)、エトリンガイト系水和物（AFt 相)、モノサルフェート系水和物（AFm 相)、水酸化カルシウム
8	混和材料（混和材）	高炉スラグ、フライアッシュ、フライアッシュ、シリカフューム 石灰石微粉末、もみ殻灰、仮焼スラグ
9	混和剤	・化学混和剤の種類と性能 ・AE 剤、AE 減水剤・高性能減水剤
10	セメント・コンクリートの高性能化	高強度化・超早強化技術
11	コンクリートの弱点 寸法変化	乾燥収縮・自己収縮 膨張　塩害・膨張、硫酸塩劣化・DEF、凍害、アルカリ骨材反応
12	寸法変化低減技術	膨張剤（石灰系・エトリンガイト系)、収縮低減剤
13	まとめ・課題発表	まとめ・課題発表
14	まとめ・課題発表	まとめ・課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前配布資料による準備学習・講義した内容の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書なし。パワーポイントおよび印刷物による授業

【参考書】
田沢栄一、佐伯昇　コンクリート工学　微視構造と材料特性　技報堂出版

【成績評価の方法と基準】
レポートによる評価
成績評価は 100 点満点として、セメント系材料の熟知度およびセメント関連英文パワーポイントの和訳にて評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
セメント業界・大学での研究開発と製造実績の経験を活かし、材料の物理的・化学的特性、コンクリートのひび割れ制御技術ならびに環境に及ぼす影響について解説する。

【Outline (in English)】
In this course students will be expected to fully understand how to use physical and chemical properties of main materials for construction use.
In addition, they will be able to learn the basic concept of material design for such construction materials, including types of volume change for concrete and methods of control.

ADE500N3

比較都市環境デザイン

高見　公雄、伊藤　香織、橋本　圭央

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国では前世紀後半の戦災復興から都市化の時代に、猛烈なスピードで都市が計画され、つくられてきた。21 世紀に入り一転して人口減少を最大要因としながら都市化の時代への反省、拡がり過ぎた市街地の集約化の時代を迎えた。このように常に荒波の中にあると言えるわが国の都市整備の環境の中、都市環境デザインの妥当性、あるべき姿を見いだすためには、時間的、空間的な比較の中で、私たちの置かれている状況を認識する力が求められる。当授業はこのような視点に基づき、時間的、地域的、また国際的視野の中で都市環境デザインを捉え評価することを狙いとして進める。

【到達目標】
わが国の都市環境デザインの現状を客観的に認識する能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
都市整備の今後を考える時、現状を的確に判断できる能力が求められる。わが国の多くの都市は中世までそのルーツを遡ることができ、また地勢や気候風土の固有性を背景として多様な都市環境ができあがってきた。一方近代以降の時代においては少なからず欧米の都市づくりの影響を受け、またその後の極端な人口移動等に応じて、その時々に求められる量的な課題に応えつつ都市はつくられてきた。このような固有性、外的または社会的影響などを切り口にして、都市環境デザインの今後と現状について論じる (高見 公雄)。
都市や地域に関するデータの飛躍的増加に伴い，膨大な情報の中から何を読み取りどのように伝えていくのかが重要性を増している。一方，個々の都市に目を向けると，都市ブランディングや市民とのコミュニケーションなど都市の個性を戦略的都市運営に結び付ける試みが盛んになっている。本講義では，世界の状況の視覚化によって都市のグローバルな様相を論じるとともに，都市の個性を育てるコミュニケーションの手法と理念を概観する (伊藤 香織)。
近代以降、様々な分野において機能主義的な建築・都市環境の概念形成を批判的に捉えなおすために、人間目線でのミクロな考察や実践が重要とされるようになっている。一方で、そこでの建築・都市環境の概念形成を捉える際に、中世から続く視覚中心主義、近代における動線分離、近代以降における境界・周縁性等の現代まで続く影響に対する人間目線での通時的な考察はこれまであまりなされていない。そのため、本講義では、近代以前から現代までの建築・都市環境の概念形成について、特に人間目線におけるそれらの記述の過程を概観したうえで、その限界と今後の展望を見通す。(橋本圭央)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	過去～戦後復興期の都市と建築	経済成長とともに進められた都市づくり
第 2 回	安定成長期の都市デザイン	一時代を築いた都市環境デザイン
第 3 回	フィールドワーク	20 世紀末の跡地開発プロジェトの代表例を現地にて説明、視察
第 4 回	フィールドワーク	20 世紀末の跡地開発プロジェトの代表例を現地にて説明、視察
第 5 回	データマイニング	所在情報 情報相互の関連性
第 6 回	都市の視覚化	意思決定のためのプラットフォーム ステップアップの戦略
第 7 回	都市の個性とコミュニケーション	良さ・利点の発見と確認 表現方法
第 8 回	事例研究	市民参加 さまざまなイベント 都市情報センター
第 9 回	近代以前における建築・都市環境の概念形成	視覚中心主義、および遠近法の影響を確認
第 10 回	近代における建築・都市環境の概念形成	機能主義、および動線分離の問題を例証
第 11 回	近代以降における建築・都市環境の概念形成	機能主義批判、および境界・周縁性を検証
第 12 回	現代における建築・都市環境の概念形成	多自然主義、感覚人類学等、およびネットワーク論の可能性を検討
第 13 回	各自論ずる比較都市環境デザイン 1（発表会）	第 12 回までの各教員からの情報提供を踏まえ、各自考える比較都市環境デザインをまとめ、発表する
第 14 回	各自論ずる比較都市環境デザイン 2（発表会）	第 12 回までの各教員からの情報提供を踏まえ、各自考える比較都市環境デザインをまとめ、発表する（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回に教員より必要な指示が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教員作成のプリントが配布される。

【参考書】
各回の内容に即して参考書の紹介がある。

【成績評価の方法と基準】
レポート（50 %）並びに研究発表（50 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
瞬時に関連情報を捕捉しつつ講義を理解することが望ましく貸与パソコン等を常に携行することが望ましい。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。
新型感染症の状況を踏まえつつリモート形式または対面とリモートが選択できるハイブリッド方式で授業をする可能性がある。

【Outline (in English)】
In this course students will learn about important observations when considering urban environment, including topics such as period and regions.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST500N3

社会基盤施設の資産管理

丸山　明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このコースでは、社会基盤施設の特徴を知り、社会基盤施設の戦略的な資産管理に必要な技術を修得し、修得した能力を実務で発揮できようになる。まず社会基盤施設を群としてとらえ、施設が中長期間にどのような健全度で存在するかを維持管理費用の投資額によってシミュレーションし、その結果から現状求められる維持管理戦略を学ぶ。一方、個別構造物に発生する変状の種類と特徴、変状の発見と診断、変状の進展予測、変状の最適修繕時期、修繕方法等の短期計画の策定の流れを理解する。中長期計画と短期計画、両者の理解により、インフラマネジメントの全体像、各プロセスの要素技術、PDCA サイクルの重要性を習得し、その結果、学生は、社会基盤施設の運営・管理を効率的に行い、その後、業務を指導できる専門技術者となる。

【到達目標】
到達目標は、①社会基盤施設の現状と抱えている課題を正しく理解する。②施設の状態を確認する点検・診断技術を修得する。③既設構造物にどのような変状（損傷と劣化）が発生するか、またその原因は何かを理解する。④劣化の種類と原因を把握し、劣化進行速度を工学的あるいは統計学的に導く方法を理解する。⑤社会基盤設備の中長期維持管理計画、短期修繕計画策定について、その要諦を理解する。⑥社会基盤施設の建設から維持管理、補修・補強、更新までをマネジメントする技術を理解する。最終目標は、①～⑥までを理解し、自分のスキルとすることで、実務に活かし、職務遂行能力に優れ、説明責任を適切に果たす能力と倫理観のある優れた技術者となることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、建設コンサルタントとして実践経験や学会等で修得した広範囲な知見と技術力によって、社会基盤施設の戦略的管理を実施、指導できる実務型技術者育成を目指す。このような観点から、講義用に作成したパワーポイント及び板書によって各ステップの必要項目を解説し、理解度を高める講義方式を採用する。学生の質問、要望については、臨機応変に対応し、相互理解のもと進める。なお、講義に使用するパワーポイントは、事前に公開し、予習、復習に役立てる。また、社会に出て、即戦力として機能するように、プレゼンテーション能力を高める実務型スタイルも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インフラ施設とその現状	インフラにはどのような施設があり、どのような役割があるかを説明し、インフラが現在どのような状況になるかを解説する。
第 2 回	落橋による影響	橋梁の落橋の歴史とその影響、近年相次ぐ落橋事故の原因のほか、地震が橋梁に及ぼす影響について解説する。
第 3 回	アセットマネジメントとその変遷 (1)	なぜアセットマネジメントが必要なのか。そもそもアセットマネジメントとは何かを説明し、インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセトマネジメントを解説する。(1) では 1990 年代から 2010 年代まで。
第 4 回	アセットマネジメントとその変遷 (2)	第 3 回に続き、インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセトマネジメントを解説する。(2) では 2010 年代以降、現在まで。
第 5 回	長寿命化修繕計画	長寿命化修繕計画の詳細と課題を説明する。その上で実践的な長寿命化修繕計画 (=中長期投資計画) を、事例を用いて解説する。
第 6 回	資産管理演習 (1), 構造物の劣化損傷と補修補強	社会基盤施設の資産管理演習課題に対して、PPT や関連資料を使ったプレゼンテーションの準備をする。第 6 回では資産管理演習課題を説明し、第 7 回から第 10 回までの期間に少人数ごとの発表を行う。 また、鋼構造物、コンクリート構造物に発生する劣化損傷の説明と、その補修・補強工法等について解説する。
第 7 回	新技術の導入 (1)	最新の ICT 技術等を用いた維持管理などを解説する。
第 8 回	新技術の導入 (2), 官民連携事業 (1)	第 7 回に続き、最新の ICT 技術等を用いた維持管理などを解説する。また、官民連携手法を用いた施設の整備・運営・維持管理について解説する。
第 9 回	官民連携事業 (2)	第 8 回に続き、官民連携手法を用いた施設の整備・運営・維持管理について解説する。
第 10 回	住民の維持管理参加	行政ではなく住民自らのインフラ施設維持管理への参加を、事例を用いて解説する。
第 11 回	資産管理演習 (2)	想定した仮想地方公共団体において、与えられた施設状況から行政職員の立場で施設の維持管理方針を定め、その実現までのプロセスについてまとめ、PPT や関連資料を使ったプレゼンテーションの準備をする。第 11 回では資産管理演習課題を説明し、第 13 回と第 14 回で発表を行う。
第 12 回	会計・マネジメントの知識	会計の基本を理解し、公会計を資産管理の視点から事例を用いて解説する。また戦略的資産管理に必要なマネジメント技術、例えば、ポートフォリオ、リスクマネジメント、トレードオフや、投資判断の手法について解説する。
第 13 回	建設コンサルタントの役割と業務領域	社会基盤施設に関する建設コンサルタントの役割と業務領域について説明する。 資産管理演習 (2) の演習結果をプレゼンテーション (前半) する。
第 14 回	社会基盤施設の資産管理とりまとめ	資産管理演習 (2) の演習結果をプレゼンテーション (後半) する。 社会基盤施設の戦略的資産管理について講師とのミーティングを通じ、更なるスキルアップを目指して実戦力となるよう導く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
国内外の社会基盤施設の現状と課題、資産管理手法（インフラマネジメント）に関する事前学習が望ましい。
講義前に公開する講義用資料によって予習し、講義時に疑問点を質問し、理解度を高めるのが好ましい。講義が進む過程で２回程度の課題を講師が設定、課題レポートとしてプレゼンテーション資料を提出する。本授業 1 回あたりの準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
講義用資料：各講義開始前日までにネットで公開する。

【参考書】
１．アセットマネジメント導入への挑戦：土木学会
２．これならわかる「道路橋の点検」：建設図書

【成績評価の方法と基準】
１．演習成果発表の評価：４０％
２．課題レポート（２回程度）：３０％
３．講義支援体制評価：３０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度も机上理論だけではなく、インフラ資産維持管理の現場での課題や実装に至る障害等について、リアリティを持って講義する。

【学生が準備すべき機器他】
パーソナルコンピューター（ワード、エクセル、パワーポイントソフト含む)

【その他の重要事項】
・新潟市等の地方公共団体に、戦略的維持管理の実装に関して建設コンサルタントの立場で支援してきた教員が、自らの知見とスキルによって戦略的資産管理手法について指導する。
・即戦力として機能する人材育成が目標であることから、講義中、講義後に分からないこと、知りたいことを積極的にヒヤリングすることが望ましい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to learn about infrastructures in civil engineering and skills for their strategic assessment. Practical knowledge and skills obtained from this course can be applied to actual projects. By acknowledging infrastructures in civil engineering by group analysis, and by simulating how an infrastructure can exist over a medium to long term span, considering its invested maintenance and operation cost, one can study strategies required for the current state.

At the same time, topics such as typical degradation and damage of infrastructure, inspection methods and diagnostics, performance prediction, reinforcing and retrofitting, planning of management and their PDCA cycle will be discussed in class. By understanding both medium-to-long term and short period plans, one will be able to acquire the overall picture of infrastructure management, the elemental technology of each process, and the importance of a PDCA cycle.
By taking this course, students will become highly qualified engineers, being able to perform operation and management of infrastructures in civil engineering efficiently and give guidance as a specialist.
【Learning Objectives】
Learning Objectives are as follows:
① To be able to properly understand the current situation and challenging issues that infrastructures are facing. ② To acquire inspection/diagnostic techniques in order to confirm conditions of infrastructures. ③ To understand what kind of deformation (damage and deterioration) will occur to already-existing structures and trace its cause ④ To acknowledge the types of deterioration and its causes, and understand the progression rate of deterioration from an engineering or statistical point of view. ⑤ To understand the essence and keystone of medium to long term maintenance management plans and short term restoration programs of infrastructure ⑥ To understand management technology concerning infrastructure from construction to operation and maintenance, repair, reinforcement and renewal. The final objective is to understand ①～⑥, to refine it as your own skill, apply it in practice, maximize job performance and become a leading engineer that has the ability to perform one's duty with clear explanations with a sense of ethics.
【Learning activities outside of classroom】
Prior learning is advised, concerning the current situation and challenging issues of infrastructure and the asset management method, both domestic and international.
Students are recommended to study in advance using lecture materials that will be disclosed beforehand and to be able to ask questions to be clarified during the lecture and increase their depth of understanding throughout the lecture. Lecturer will set 2 assignments (approximately) during the course, and presentation materials will have to be submitted as assigned reports. Time for preparation and review per class will be an average of one hour respectively.
【Grading Criteria /Policy】
Overall grade in the course will be decided based on the following:
1. Evaluation on presentations of exercise achievements: 40%
2. Assigned reports (2 reports assumed): 30%
3. Evaluation on ones' status of supporting the course :30%

CST500N3

鋼橋の点検・診断・対策技術

杉本　一朗

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主として鋼橋を対象とした維持管理に関するもので、大学院デザイン工学研究科を対象としたものである。この授業では、鋼橋の維持管理計画，点検，診断，対策などについて紹介する。学生は対策方法，モニタリングなどのケーススタディを通じて基礎的な概念を学ぶことができる。また、維持管理において必要な溶接継手とボルト継手の基礎知識についても習得できる。鋼橋の維持管理の課題の理解を通じて、「土木鋼構造診断士補」レベルとしての素養を身に付けることが期待される。

【到達目標】
鋼橋の維持管理に関連する各種事項の理解に務めると共に，土木鋼構造診断士補と同等の専門的知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を行う。 授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1･2回	ガイダンス，点検・診断の概要と演習	ガイダンスを行うと共に，鋼橋の点検・診断の概要について述べると共に演習を行う。
第3･4回	主要材料の性質と変遷，接合方法の概要と演習	主要材料の特徴とこれまでの変遷及び接合方法について述べると共に演習を行う。
第5･6回	損傷の種類と測定方法の概要と演習	損傷の種類と測定方法について述べると共に演習を行う。
第7･8回	損傷の点検と測定方法の概要と演習	損傷の点検と測定方法に関して述べると共に演習を行う。
第 9・10回	損傷部材の評価の概要と演習	損傷部材の評価方法について述べると共に演習を行う。
第11･12回	補修・補強の概要と演習	補修・補強方法について述べると共に演習を行う。
第13･14回	鋼道路橋，鋼鉄道橋他，鋼構造物に関する損傷と演習	鋼道路橋，鋼鉄道橋他，鋼構造物の損傷に関して紹介すると共に演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
鋼構造に関する知識を習得しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
日本鋼構造協会　土木鋼構造物の点検・診断・対策技術
授業でのプリント配布

【参考書】
特に指定しない。（必要に応じて講義で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
レポートの課題（70 %）と授業中の討議（30 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生との対話型の授業を目指します。

【その他の重要事項】
鉄道の土木鋼構造物の設計から維持管理業務に携わってきた教員が、土木鋼構造物の維持管理について解説する。

【Outline (in English)】
This class mainly introduces the maintenance and management of steel bridges, and is intended for graduate students in the division of civil and environmental engineering.
The class introduces maintenance planning, inspection, diagnosis, countermeasures, etc., for steel bridges through case studies of countermeasures and monitoring of steel bridges.
At the end of the class, the goal is to deepen the understanding of various matters related to the maintenance and management of steel bridges, and to acquire specialized knowledge equivalent to that of a steel infrastructure inspection engineer.
Although the class consists of lectures and exercises, it is important to prepare and review in order to understand of the class.
The standard time of preparation and review is 2 hours each.
Final grade will be based on term-end report (70%) and in-class discussion (30%).

CST500N3

複合材料構造解析

山本　佳士

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
鉄筋コンクリート構造物の設計において利用されつつある、非線形有限要素法と各種要素モデルの概要、およびその利用方法について概説する。

【到達目標】
鉄筋コンクリート構造物に対する専門的な知識を習得するきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
鉄筋コンクリート構造物の設計の基本となる数値解析手法および構成則の概説と，構造物設計に関する最近の話題について研究情報を紹介する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	線形有限要素法 (1)	仮想仕事式の導出、有限要素離散化の概要
2	線形有限要素法 (2)	アイソパラメトリック要素 (1 次元)
3	線形有限要素法 (3)	アイソパラメトリック要素 (2 次元)
4	線形有限要素法 (4)	有限要素法のプログラム実装
5	非線形有限要素法の概要	増分形仮想仕事式、ニュートンラフソン法、収束計算
6	弾塑性構成則 (1)	1 次元弾塑性構成則
7	弾塑性構成則 (2)	3 次元弾塑性構成則、von Mises モデル
8	弾塑性構成則 (3)	弾塑性構成則のプログラム実装
9	鉄筋コンクリートの構成則 (1)	鉄筋コンクリートの非線形材料応答、ひび割れのないコンクリートの構成モデル
10	鉄筋コンクリートの構成則 (2)	ひび割れが生じた鉄筋コンクリートの構成モデル
11	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析 (1)	熱伝導方程式（拡散方程式）の有限要素離散化
12	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析 (2)	初期ひずみを考慮した非線形有限要素解析の概要
13	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析 (3)	温度応力解析の概要
14	初期応力を考慮した鉄筋コンクリートの非線形有限要素解析 (4)	乾燥収縮・クリープ解析の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回講義の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定なし

【参考書】
1．非線形有限要素法-弾塑性解析の理論と実践，EA de Souza Neto(原著) D Peric(原著) DRJ Owen(原著) 寺田 賢二郎 (監訳)，森北出版
2．コンクリート構造物の塑性解析，W.F.Chen (著), 色部 誠 (翻訳)，丸善
3．鉄筋コンクリートの非線形解析と構成則，岡村甫, 前川宏一，技報堂出版
4．初期応力を考慮した RC 構造物の非線形解析法，田辺忠顕，技報堂出版

【成績評価の方法と基準】
演習 25 点 ×4 = 100 点
レポート作成時は持ち込み可

【学生の意見等からの気づき】
なし

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
In this course students will learn the nonlinear finite element method and the various element models that are increasingly being used in the design of reinforced concrete structures.

ADE500N3

サステイナブル都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期後半**/Spring(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業の目標は、サステイナブル都市デザイン、即ち持続可能な都市をどのように作るかである。まずは、「地区の課題を見つけ、その解決策としての市街地整備の形を提案する」ということの訓練を行う。授業は演習形式とし、『都市問題を考えつつ、手仕事としての図面、そのテクニック』
の習得を中心に進める。

【到達目標】
現下の都市整備課題を理解し、自ら設定したテーマに即して例示される市街地においてその解答を見い出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
国の社会資本整備審議会における、サステイナブル都市への指向などを捉え、最新の社会状況を紹介しつつ、各自テーマを見つけ研究を進める。講義と演習を適宜組み合わせて進める。
新型感染症対策を講じた上で、必要な範囲で対面型事業を実施する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	市街地整備の歴史と到達点	今日までの都市整備の流れ、歴史の概要を理解する。
第 2 回	人口減少社会における都市づくり サステイナブル都市デザインの課題	今後の持続可能なまちづくりのポイントを理解する。
第 3 回	状況視察	課題の対象地を視察する。
第 4 回	状況視察	課題の対象地を視察し、現状を理解する。
第 5 回	テーマ発表、討論	各自より研究テーマを発表する。
第 6 回	サステイナブル都市づくり演習（1）課題の抽出と整理	テーマに即して、具体的なまちづくり検討を進める。
第 7 回	サステイナブル都市づくり演習（2）類似対応策の検索と評価	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第 8 回	サステイナブル都市づくり演習（3）課題対応の方向性検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第 9 回	テーマへのアプローチに関する評価	中間的な発表を行い、課題の理解についての講評を得る。
第 10 回	求められている都市デザインの方向	中間発表を踏まえ、まちづくりのポイントを明らかにしていく。
第 11 回	サステイナブル都市デザイン演習（1）求められるデザインの指向性	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第 12 回	サステイナブル都市デザイン演習（2）デザイン案比較検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第 13 回	サステイナブル都市デザイン演習（3）デザイン案の確定とブラッシュアップ	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第 14 回	発表、講評	研究成果を発表し、講評を得る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読み社会の動きを理解する。各種報道、専門書などに幅広く接し、都市整備に関する関心を高める。
現地に関する情報収集等のため、個別にフィールドワークを行う必要が生ずると想定される。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義に PPT を使用する。

【参考書】
サステイナブル都市に関する最新の刊行物など

【成績評価の方法と基準】
課題の選定、取り上げた課題に対応した検討内容 (50%)、検討成果と発表 (50%) により評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
演習課題の作図には、初期エスキスにおいて定規などの製図器具を用い、仕上げに際しては貸与 PC 等を使用して、デジタルツールによる図面作成を行う。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course is a collaboration with Project Studio in the undergraduate program to examine and develop the planning of target districts.
Grades will be based on course attendance, reports (50%), and presentations in the lecture (50%).
Students who are absent more than four times will not be allowed to receive credit (D grade).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST500N3

構造解析と設計

奥井　義昭

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市院：建築士**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
橋梁設計法の基本原理を学び，設計で必要となる構造解析手法を FEM ソフトウエアを用いた実習を通して理解する。

【到達目標】
実際の構造解析が実行でき，さらに解析結果を判断し，設計に結びつけられるようになることを目指す。線形弾性解析，粘弾性論，弾塑性解析を内容を理解して実施できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と PC を用いた実習をほぼ半々で行う。そのため，授業時間には毎回ノート型 PC を持参のこと。構造解析のソフト (DIANA) は初回の授業時にインストール方法などを説明する。4 ／ 21 より Zoom によるオンライン授業を開始します.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス，構造物の設計法の概要	授業の全体の概要とソフトウェアの設定，構造物の設計法を概説する.
2	FEM ソフトウェアの紹介，信頼性設計理論	汎用 FEM ソフトの概要を理解する．信頼性設計理論の説明
3	モデル化と線形解析	構造，荷重，境界条件，材料のモデル化，橋梁設計のための格子解析を紹介
4	FEM のデータ作成演習	プリプロセッサを用いて 3 次元の RC 橋脚のモデル作成
5	弾性解析の実施と結果の表示に関する演習	橋脚モデルの弾性解析とポストプロセッサの活用
6	粘弾性論の基礎	粘弾性論をレオロジーモデルを用いて説明する.
7	コンクリートのクリープ	粘弾性論の応用としてコンクリートのクリープの問題を説明する
8	塑性論の基礎：弾性，塑性，降伏関数	鋼材の弾塑性挙動，降伏関数を理解する
9	流れ則と硬化則	鋼材を対象とした流れ則，硬化則を理解する
10	非線形方程式の求解	Newton Raphson 法と計算の制御，収束判定について学ぶ
11	弾塑性 FEM 解析の予備段階として弾性解析の演習	円孔をもつ鋼板の FEM 解析，メッシュ作成と弾性解析まで実施する
12	弾塑性 FEM 解析の演習	円孔をもつ鋼板の FEM 解析，メッシュ作成と弾塑性解析までを実施
13	期末レポートの内容とレポートの構成	期末レポートの課題についてレポートの構成，内容について議論する
14	期末レポートの実施	期末レポートの課題を実施する。終わらなかった部分はレポートして後日提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
解析ソフトのインストール，授業の復習、レポートの作成、解析ソフトウェアを用いたデータ作成，解析の実行など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
1 冊の教科書に沿って行う授業ではないが、適宜、以下の参考書を参照してください。

【参考書】
実践有限要素法シミュレーション、泉聡志、酒井信介共著、森北出版
塑性の有限要素法，Owen 他著，科学技術出版
非線形 CAE 協会監修，岸正彦著，構造解析のための有限要素法実践ハンドブック，森北出版

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 40%，期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート対象外のためアンケート結果なし

【学生が準備すべき機器他】
以下の条件を満足するノート型 PC を毎回授業に持参してください。
Microsoft Windows
- 10 (64 bit)

【その他の重要事項】
鋼構造物の製作会社に 4 年間勤務し，鋼橋の設計と研究に従事していた．そのため本授業では設計実務のための基礎的な知識を座学で講義し，構造解析ソフトを用いた実習を行っている．

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this course, students will study the fundamentals of bridge design, and understand structural analysis methods for structural design through practice with FEM software.
[Learning Objectives]
To understand standard procedures and methods for design and analysis
[Learning activities outside of classroom]
Students will be expected to have completed the assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
[Grading Criteria /Policy]
Final grade will be calculated according to mid-term reports (40%) and a term-end report (60%).

LANe500N4

テクニカルライティング

豊島　純子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Email の普及とグローバル化により、自らの考えを英語で発信できる能力―特にライティングによるコミュニケーション力―が社会で活躍するための要件となってきています。

この授業の目的は工学系大学院生にとって特に重要な「メッセージを具体的かつ論理的に相手に伝える機能的な英語ライティング力」を身につけることです。この目的を達成するために相手（情報の受け取り手）を常に意識しながら、しっかりと組み立てられた明快な英文を書くための考え方とスキルを学びます。

【到達目標】

英文ライティングにおいて、自分の伝えたいメッセージを相手に正確に伝え、その内容を納得してもらうには、文章のストラクチャー（組立て）がきわめて重要です。

この授業の目標は「読み手にとってわかりやすい機能的な英文を書けるようになること」です。そして、その目標を達成するために工学系大学院生に必須の Email、CV（英文履歴書）、英語プレゼンテーション原稿、アブストラクトを題材に英語で書く練習をします。特に論文要旨を 200 ワード程度に凝縮させるアブストラクトを書くには「誰の為」、「何の為にその研究を行ったか」、そして「既存研究と比べてどこが新しいのか」を明示する必要があります。要点を簡潔に表現する能力は、研究活動のみならず、様々な場面で不可欠と言えます。修士論文の冒頭に必要なアブストラクトを自信をもって書けるように授業でしっかり学んでいきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実習からなり、オンラインと対面の両方で行います。4/11 の初回授業は授業の概要と進め方を対面で説明します。尚、学習支援システムの「お知らせ」にオンライン授業用 URL をアップロードしますので確認ください。

テキストにそって各テーマ（Email, CV, 英語プレゼンテーション、英語要旨等）に関する講義を受けた後、受講者はライティングの課題に取り組みます。テキスト以外に OWL/Purdue Writing Lab, British Council 等の優れた英語学習サイトを題材にして学びを深めます。

受講者は講義後に作成した原稿を相互にピア・レビューしあいます。中間と学期末の課題は口頭発表していただきます。各自のプレゼンテーション技術の向上のため、発表はビデオ撮影し、聞き手である教員、TA、受講者がフィードバックします。

尚、ライティングの課題は主として学習支援システムでフィードバックしますが、授業内でコメントする場合もあります。

最終課題は修士論文執筆時に必要なアブストラクト（英語要旨）で、各自の研究テーマにそって書き上げます。アブストラクトを執筆する準備としてそれぞれの専門分野の英語論文をレビューし、専門用語や表現を学びます。また英語研究論文を書く上で重要な引用文献の書き方等のスキルも学習します。

尚、詳細な授業計画と内容は 4/11 の初回授業で説明します。授業の進捗や COVID-19 の感染状況により内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	テクニカル・ライティング概論	初日はガイダンスとテクニカルコミュニケーションについてお話します。
2	英語ライティングの基本(パラグラフ構造とエッセーについて)	英語のパラグラフ、エッセイの書き方を復習し、実際に書く練習をします。
3	英語論文の書き方 "Keys to Writing Great Papers"の講読	大学院生向けに英語論文執筆の秘訣が書かれた"Keys to Writing Great Papers"を読み、優れた英語論文を書くための心構えと方法を学びます。
4	第 3 章　英文メール術	英文メールの基礎と構成を学びます。そしてフォーマルとインフォーマルなライティングの違いと書き方を学習します。
5	第 3 章　英文メール術	さまざまな事例を研究して実際に書く練習をします。
6	第 6 章　CV、レジメ（英語履歴書）	自分の経歴と業績を CV、レジメのフォーマットにまとめる方法を学びます。
7	第 6 章　CV、レジメ（英語履歴書）	CV、レジメを実際に書く練習をします。
8	Article Review	各自の専門分野の英語論文をレビューして発表します。発表はビデオ撮影します。発表者はビデオ録画、教員、TA、受講者によるフィードバックを参照して自己省察レポートを書きます。
9	第 4 章　プレゼンテーションの極意	英語プレゼンテーションの事例研究を行い、実際にロジカルなプレゼンテーションを組み立てる練習をします。
10	第 4 章　プレゼンテーションの極意	新形態のポストカードプレゼンテーションの練習をします。
11	第 1 章　アブストラクトの書き方	アブストラクト（英語要旨）の構成を学び、実際に書く練習をします。
12	第 1 章　アブストラクトの書き方	作成したアブストラクト第一稿をピア・レビューし、フィードバックをもとに原稿を修正して仕上げます。
13	第 1 章　アブストラクトの書き方	アブストラクトを書いた研究について口頭発表後、アブストラクト最終稿を提出します。発表はビデオ撮影します。発表者は教員、TA、受講者のフィードバックとビデオ録画を参考に省察レポートを書きます。
14	まとめ	第 13 回目の授業で提出されたアブストラクトを教員が添削し、各受講者にフィードバックします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は各回の学習内容をテキストにそって予習し、授業にのぞみます。ライティングの課題は各自が期日までに授業外で準備し、授業時にピア・レビューし、グループまたは個人でプレゼンテーションをします。

Midterm Review には各自の専門分野の英語論文をレビューして口頭発表していただきますので、紹介する英語論文を探しておいてください。そして、最終課題として各自の研究を題材に英語要旨を書きますので、研究テーマ（学部の卒論テーマも可）を考えておいてください。

尚、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「ハーバードでも通用した研究者の英語術-ひとりで学べる英文ライティング・スキル」　島岡　要、Joseph A.Moore、羊土社、ISBN978-4-7581-0840-9

【参考書】

・「Keys to Writing Great Papers: Advice for Graduate Students and Young Researcher」（中島エリザベス著、BookWay)
・ Rosenberg, B.(2005). *Technical Writing for Engineers and Scientists.* New Jersey:Pearson Education.
・ Wallwork, A.(2011). *English for Writing Research Papers*.New York: Springer
・Zemach, D.E., Broudy, D.,&Valvona, C.(2011). *Writing Research Papers - From Essay to Research Paper* . Oxford: Macmillan Education
・「科学技術系の現場で役立つ英文の書き方」（N. マッカードル、J.T. ムラオカ、時国滋夫著、講談社サイエンティフィック）
・「ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方」（小野義正著、丸善株式会社）
・「理系研究者のためのアカデミック・ライティング」(ヒラリー・グラスマンーディール著、東京書籍）
・ The Purdue Online Writing Lab（OWL)　https://owl.english.purdue.edu/

【成績評価の方法と基準】

・ Midterm Review　25%（Presentation 15%, Paper 10%)
・ 課題 25%
・ 最終課題　40%（Presentation 12%, Paper 28%）
・ 授業への取組み 10 %
・ 授業を 3 分の 1 を超えて欠席した場合、単位は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

「修士論文の冒頭に必要な英語要旨の構成や書き方がわかって、大変ためになった」、「自分の研究分野の英語論文を読む機会ができてよかった」「学会参加の際に役立つ知識やスキルを学べ、大いに役立った」というコメントをいただきました。ライティング力だけでなくコミュニケーション力を高めるために、日常生活で使用頻度の高い実践的な内容を選び、授業を進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に参加できるデバイスを用意してください。

【その他の重要事項】

ニューヨーク州立大学 (UB) で理工系学生 (STEM) 向けのテクニカル・コミュニケーションを修了し書籍および実務翻訳を手がけてきた教員が、機能的で明快な英文ライティングの書き方を指導します。

【Outline (in English)】
Modern engineers need strong communication skills to be successful in the global world. This course aims to improve graduate students' verbal English communication skills, especially writing skills, to thrive in the worldwide engineering community. The course aims to instruct students on structuring explicit, concise, and audience-directed texts. The 14-week course consists of lectures, writing projects, discussions, and presentations. Students learn to write documents such as e-mail messages, PowerPoint presentations, CVs, and academic papers. Also, they will collaborate with their peers to critique the assigned writing tasks. The final goal of this course is to write an English abstract of their research. Before writing their abstracts, students will read English academic articles related to their specializations. They will review the content and make presentations about their chosen articles to familiarize themselves with common phrases and expressions applicable to their writings. Students will make their final presentations on their abstracts.

HUI500N4

ヒューマンサイエンス論

森　健治

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
より良いサービスを作るためには、サービスの利用者の視点に立ち、サービスのデザインを考えることが必要である。本講義において、受講生は人間の認知の諸特性を理解し、また、サービス利用場面の観察手法を学ぶ。サービスの利用場面を評価、分析し、利用者にとってより価値の高いサービスデザインとして反映する方法を検討できるようになる。

【到達目標】
受講生は、記憶、注意、ヒューマンエラーに関わる認知機能など人間の基礎的な認知のメカニズムについて理解する。また、多様なサービスの評価手法を知り、ユーザ観察に基づいた問題発見や改善案の検討が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画に示す各回テーマについて、基礎的な知識を講義により学ぶ。また、受講生による実践 (ユーザビリティテスト、エスノグラフィ調査の実施) や議論（グループディスカッション）を経て、レポートを提出する。質疑応答は講義において、また学習支援システムにより随時行う。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得る。各回の授業形態は対面を基本とし、社会情勢に応じてオンラインを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目標と進め方について説明を行う
2	モノの使いやすさと認知	モノの使いやすさと認知に関する基礎を学ぶ
3	ヒューマンエラー	失敗のメカニズムを理解する
4	身の回りにあるモノのデザイン	身の回りのデザインと、エラーに備えたデザインについて考えを深める
5	記憶と注意の特性	記憶と注意のメカニズムを理解する
6	認知的高齢化とサービスデザイン	加齢による認知機能の変化とデザインの関係を理解する
7	開発プロセスとユーザ評価	ユーザ評価の手法を学ぶ
8	ユーザビリティテスト 1：計画	ユーザビリティテストを計画する
9	ユーザビリティテスト 2：報告	調査結果の報告と議論を行う
10	エスノグラフィ調査 1：計画	エスノグラフィ調査を計画する
11	エスノグラフィ調査 2：実践	エスノグラフィ調査を実践する
12	エスノグラフィ調査 3：報告	エスノグラフィ調査を報告する
13	ユーザ調査のまとめと発展	ユーザ調査手法をまとめ理解を深める。
14	総まとめ	全体を振り返り解説する。講義で得た知識を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は、レポートの作成を求められます。レポートの作成には、ユーザ評価の実践、受講生間での議論を必要とする場合があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定はありません。各回講義ごとに、資料を配布します。

【参考書】
講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・下記の 3 つのレポートにより成績を評価します。評価には、各レポート提出に関わる講義への参加姿勢も考慮します。
・エラー事例報告書 30 %、ユーザビリティテスト報告書 30 %、エスノグラフィ調査報告書 40 %

【学生の意見等からの気づき】
対面での講義を基本として、本講義全体におけるさらなるアクティブラーニングの導入と、講義手順の改善を行うことで、専門的な知識と実践的な知恵をより身に着けられるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料の配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
IT 業界やメーカーでの新規ビジネス開発を行っている教員が、その経験や知識を踏まえ、サービス創出に役立つ「人間の基礎的な認知特性」や「ユーザー調査の手法」について講義する。

【Outline (in English)】
Course outlines:
In this course students will understand the mechanisms of human cognition and learn how to observe scenes in which users interact with artifacts.
Learning Objectives:
At the end of the course, Students will become able to analyze and evaluate the usability and user experience of products and services, and consider more valuable services for users.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policies:
Grading will be decided based on three reports (100%) and in-class contribution.

ART500N4

身体表現論

山中　玲子、観世　暁夫、観世　喜正、中司　由起子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本が世界に誇る伝統芸能、能について基本的な知識を身につけ、その身体表現の特徴を知るとともに、現在の能をとりまく環境（新型コロナウイルス流行や少子高齢化など）の影響を通して、今を生きる能の課題と展望を考える。

【到達目標】
1）能について、参考書を丸写しにした知識だけではなく、自分の言葉で説明できる。
2）能の謡や所作の基本、舞台や装束の特性等を、体験によって知り、自分の言葉で伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
オムニバス方式の授業である。授業日程には通常と異なる部分があるので、「授業計画」でよく確認してほしい。
1）映像資料も用いながら能についての基礎知識を学ぶ授業と、2）第一線で活躍中の能楽師による、「役者の身体やその基礎となる稽古」「現代における能の公演形態の問題等を考える授業」を組み合わせ、現代の能楽に関する総合的な知見を身につけていく。能楽堂における実地授業（4 コマ分）もおこなう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9 月 26 日ガイダンス（中司・山中）	講義および実習についてのガイダンス。受講に必要な最低限の基礎知識を得る。
第 2 回	10 月 3 日能の特色 (観世銕之丞)	能楽師自身の言葉を通して、能の芸の特色を知る。
第 3 回	10 月 17 日能の伝承 (観世銕之丞)	能がどのように伝承されているのか、能楽師の修業について知る。
第 4 回	10 月 24 日能の基礎知識（中司）	次回の能楽師による実習に向けて、能の作品・能舞台・演技などの基本知識を得る。
第 5 回	10 月 31 日 9 時 30 分～12 時 30 分 実習①（観世銕之丞・中司・山中）	青山の銕仙会能舞台にて実習。能舞台上を歩く。能の謡・舞の体験。第 6 回と連続授業。
第 6 回	10 月 31 日 9 時 30 分～12 時 30 分 実習②（観世銕之丞・中司・山中）	青山の銕仙会能舞台にて実習。能舞台上を歩く。能の謡・舞の体験。第 5 回と連続授業。
第 7 回	11 月 7 日能楽師の活動（観世喜正）	家元制度や内弟子制度など、現代に生きる能楽師の暮らし（活動の実態）について学ぶ。
第 8 回	11 月 14 日能の興行（観世喜正）	能の興行がどのようにおこなわれるのか、計画の段階から当日までの流れをおさえ、新型コロナウイルス流行の影響と能界の対応を知る。
第 9 回	11 月 21 日　これまでのふり返り（中司）	これまでの講義・実習の振り返りと討議をおこなう。
第 10 回	11 月 28 日 9 時 30 分～12 時 30 分 実習③（観世喜正・中司・山中）	矢来能楽堂での実習。能舞台の特徴。能の謡と所作の体験。第 11 回と連続授業。
第 11 回	11 月 28 日 9 時 30 分～12 時 30 分 実習④（観世喜正・中司・山中）	矢来能楽堂での実習。能装束に実際に触れ、その扱いを学ぶ。第 10 回と連続授業。
第 12 回	12 月 5 日能の演技（中司）	映像を視聴して、能の演技の特色を学ぶ。
第 13 回	12 月 12 日　能の普及（観世喜正）	国内での普及活動と海外への発信の状況を通して、能の普及の実態と今後の展開を考える。
第 14 回	1 月 16 日。レポート発表とディスカッション（山中・中司）	各自のレポートを発表し、討議をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講期間中に必ず実際に能楽堂へ足を運んで能を見て、その経験をレポートに生かしてもらいたい。実際の能公演を鑑賞するのが難しい場合は、NHK の古典芸能番組や YouTube 等に上がっている能の動画を必ず視聴してほしい。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。適宜プリントを配布する。

【参考書】
受講前に、市販のガイドブックや宣伝チラシなど、何でも良いので自分なりに能についての情報を得ておいてほしい。
「文化デジタルライブラリー」にも基本情報を載せてある。
http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/

【成績評価の方法と基準】
レポート（30 %。課題「現在の社会状況において能楽を普及、活性化するにはどうしたらよいか」）、2 回の実習への参加（50 %）、平常点（20 %。講義中の発言等）を総合して決める。

【学生の意見等からの気づき】
文系・理系の学生が混ざる珍しいクラスなので、最終回に出席者が互いの意見を聞き合う機会を設けた。最終回に限らず、通常の授業中でも、ちょっとした感想、小さな疑問など、遠慮せず、積極的に発言してほしい。

【その他の重要事項】
★第一線で活躍中の能楽師を講師に招いての授業なので、授業日程が多少変則的になっています。特に 2 回の実習授業は、学外の施設にて、1 限・2 限の時間帯 2 コマ分を使っての授業ですが、単位取得のためには 2 回の実習授業出席は必須としますので、よく考えて受講計画をたててください。
★実習時には足袋が必要となります。入手方法はガイダンスの際に伝えます。

【Outline (in English)】
The aim of this class is:
1) to learn basic information about Noh and its body techniques
2) to think about the meaning of Noh in modern society.

SES500N4

ソシオシステムデザイン論

廣田　尚子

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生活・社会・ビジネスを横断した解決すべき課題を取り上げて、本質的価値の循環を生むシステムのデザインプロセスを学びます。仕組みのデザインでは、社会や環境が抱える問題の解決・人々の生活の質が向上し心が豊かになる価値の創造・新しいビジネス創出を切り分けて考える部分解決ではなく、それらが深く関連することで価値が循環する全体解決のシステム設計が求められています。全体解決を見出すデザインには、論理的思考とクリエイティブな発想の両方の力が求められているため、この授業は実践的作業を繰り返し行い、論理的思考と発想力を同時に身につけるプログラムとしています。

【到達目標】
社会の多くの場面で求められているデザイン的思考を身につけ、アイデアを生む発想法と実践力を強化する。特に論理的思考とクリエイティブな発想の連携の習得を目標とする。また実践的作業プロセスにおいて、次の習得も行う。
・ユーザー視点の徹底化
・多重する複雑な情報から問題を抽出する情報分析力
・問題とニーズを把握して繋げる発見力
・イノベーティブなアイデアを生み出す発想力
深掘りする思考法、アイデアを生み出し方、システム構築法を実践的に強化することにより、自己研究分野における開発力と推進力の向上が可能になる。将来に向けては、更に経営デザインを理解できる人材の育成を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
【内容】
基礎学習の後、実際のコンペに応募する想定で提案を制作します。
【進め方】
本年度は PC 持参で教室で行います。4 ～ 5 名のグループワークで、Miro を使ってオンライン (Z00m) で情報共有をしながらグループディスカッションによる授業展開とします。
各回の最後には情報共有のため発表会を行います。
【日程】
4/11(火) オリエンテーション・課題提示
4/18(火) 練習課題・テーマ設定
4/24(火) 調査・分析
5/9(火) フィールドワーク・その他調査・分析
5/16(火) コンペ応募を想定した思考レッスン
5/23(火) コンペ応募を想定した思考レッスン
5/30(火) コンペ応募を想定した思考レッスン
6/6(火) プレゼンテーション・講評
グッドデザイン賞を受賞したソーシャルデザイン・ビジネスデザインの優良事例を参考に、社会的問題解決を生む提案作業を行います。
・優良事例の研究
・ブレーンストーミングによる課題抽出
・調査分析とアイデアを生む思考の構築を繰り返し行う（グループディスカッション）
・提案システムの伝達と運用方法の提案
・論理的思考によるデザイン手法を総合的に理解する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 週	オリエンテーション 課題提示 デザインの概論的解説	課題内容の説明 デザインの役割と可能性を講義形式にて解説
2 週	優練習課題 テーマ選定	優良事例を詳細に解説し、練習課題を行う。ディスカッションによりテーマを選定する
3 週	調査・分析	ブレーンストーミングを行い、グループのテーマについて詳細に調査・分析する。
4 週	分析と統合	ブレーンストーミングを行い、調査の分析、課題の抽出と選択、統合によりコンセプトを明確化する。
5 週	情報の抽象化と分析	複雑で膨大な情報をどのように処理しアイデアを生む準備作業。通常ブラックボックス化されている思考作業を紐解く。
6 週	情報のアイデア化 アイデアからストーリー構築へ システムフローの作成	分析・抽象化した情報をアイデアに昇華するプロセスの解説と実践。
7 週	プレゼン準備 成果発表	アイデアを核に、完結したストーリーへ構築するプロセスの実践。成果発表と講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
社会の不都合や問題点を抽出し、各自に於いて思考の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて資料を提示する。

【参考書】
基本的にはテーマの進行に合わせ提示するが、基本参考書としては下記の書籍を紹介する。
・アナロジー思考：細谷功
・ソーシャルリサーチ：ジェフ・ペイン
・意味論的転回：クリッペンドルフ、最適デザインの概念：松岡由幸

・未来を洞察する：鷲田祐一、第３の波：アルビン・トフラー
その他

【成績評価の方法と基準】
チーム発表の成果と個人のチーム貢献度を中心に評価。欠席は 2 回まで認め、出席日数を個人評価に加算される。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、履修者による満足度は極めて高いが、更なる改善を目指し、各国の工学系・デザイン系・ビジネス系の授業を参考に講義内容の修正を行っている。

【学生が準備すべき機器他】
履修者は PC を持参し、必要ソフト（Miro・PaworPoint）は事前にインストール済みとする。

【その他の重要事項】
企業の製品開発デザインと開発コンサルの経験、グッドデザイン賞ビジネスモデル部門審査委員、ビジネスデザインアワード審査委員長の経験を活かして、仕組みのデザインを指導する。

【Outline (in English)】
In this course students will learn about system design processes which give way to fundamental value cycles, engaging in areas which cut across topics in daily life, society and business. In this design, rather than clearly categorizing the value/creation of businesses which sustain and solve problems in society and environment towards better quality of living, we study their deep-set relationships to discover systems of value cycles. The design of such solutions requires both logical and creative processes, which this program aims to develop through the exploration of practical exercises.

HUI500N4

インタフェースデザイン論

土屋　雅人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の情報社会では、電子機器の多機能化、高機能化の進展により、インタフェースがより多様化、複雑化するため、ユーザーに過度な操作の負担や不安を与えることが多くなっている。ユーザーの操作技術や記憶に頼らず、効率的で快適な人と機器の対話（インタラクション）と、より高次の感性価値実現を目指すインタフェースデザインの方法論を、実製品のインタフェースの評価分析とラピッドプロトタイプイングによる新たな提案を通して学習する。

【到達目標】
具体的事例を通して、インタフェースデザインのコンセプト立案からプロトタイプ制作までのプロセスと、そのユーザビリティ（操作性）、およびアクセプタビリティ（受容性）評価手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2] に関連

【授業の進め方と方法】
具体的な製品のインタフェースを、ISO のインタフェース設計ガイドラインやユーザビリティワークショップ等の評価手法を用いて評価・分析することで、インタフェースデザインに必要な技術を体感的に確認すると同時に、次世代の入出力ディバイスの技術動向を踏まえた新しいインタフェースのデザインとラピッドプロトタイプの製作を通して、実践的デザイン手法を学習する。授業の中で複数の演習を行い、その成果物に対して講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	インタフェースデザインの現状、必然性・可能性両面からのデザイン手法等を概説する
2	製品観察	実製品を事例にユーザーの操作行為の観察とインタフェースの問題点抽出手法を解説する
3	製品分析、問題点抽出	ユーザー行為の観察データ、およびユーザーニーズの定量的・定性的分析手法を解説する
4	情報の企画（仮説構築）	身体的・認知的両面からのインタフェースデザインコンセプトを構築する
5	情報の構造化	ユーザーと機器とのインタラクションを操作フローとしてとりまとめる
6	情報の可視化（1）	身体的・認知的インタフェースの基本デザイン案を制作、GUI 要素をデータ化する
7	情報の可視化（2）	インタラクション確認のための動作プロトタイプを制作する
8	情報の検証（1）	インタフェース設計ガイドライン、およびユーザビリティワークショップを用いた評価実験を実施する
9	情報の検証（2）	評価実験で得られたデータの分析を行い、改善案をとりまとめる
10	インタフェース開発の現状	インタフェース開発の歴史と開発動向について解説する
11	インタフェース開発環境とディバイス	オーサリング、プロトタイプ、ホットモデルの開発ツール、入出力ディバイスを解説する
12	身体的インタフェース	タンジブルインタフェース、フィジカルインタラクションの開発手法を解説する
13	ラピッドプロトタイピング 1	ラピッドプロトタイピングツールを用いた製品提案を行う。
14	ラピッドプロトタイピング 2	ラピッドプロトタイピングツールを用いた製品のユーザビリティ評価実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題に対する調査、レポートの作成を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
インタフェースデザインに関する展示会視察、市場調査を含みます。具体的には授業内で説明します。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】
こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会
ユーザビリティテスティング、黒須正明、共立出版
デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版
ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】
各課題の達成度、および授業内での発表、授業態度をもとに総合的に評価する。
平常点（20 %）+ 各課題合計（60 %）= 合計 100 %

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションによる学生同士の意見交流を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【その他の重要事項】
実践的なユーザビリティ評価手法を学習するため、企業訪問を行うことがあるので、実施方法については指示に従うこと。

【Outline (in English)】
In the information society, interfaces are becoming more complicated due to the progress of electronic device multifunctionality, leading to greater burden being placed on users. Through the evaluation analysis of interface and rapid prototyping, we will learn about the interface design methodology aiming for efficient and comfortable human-machine interaction without undue reliance on users' operation skills.

MEC500N4

品質マネジメント論

池庄司　雅臣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
品質マネジメント論では、様々な形のデータに対する捉え方や扱い方を学ぶことで、実践的な問題解決能力を育成することを目的とする。
とりわけ問題解決へのアプローチとしては、統計的品質管理（Statistical Quality Control ： SQC）の基礎的な理論と、代表的な統計手法を理解すること。そして実際にデータに触れて分析してみることを重視する。
授業を通じて、仮説検定などの統計的な考え方や分析方法を身につけることで、様々な問題や事象の背後にあるデータが身近な存在となり、主体的に分析・評価できるようになるための一助となれば幸いである。

【到達目標】
統計的な考え方に基づく問題解決としては、以下のようなプロセスが挙げられる。
①．与えられたデータを客観的な事象として観察
②．データをもとに事象全体の構造を仮説として設定
③．仮説を説明する統計的数理モデルの構築
④．数理モデルに対する評価検証
①～④のプロセスについて、演習を通して理解することに重点を置きつつ、その背後にある基礎的な確率・統計の知識についても学習する。
さらに、エクセルの「分析ツール」をメインとした、基礎的なデータの取り扱いについても習得する。
また、演習では必要最低限の記述・説明を意識してもらい、その都度、講師からの十分な解説も反映させることで、論理的なレポートを作成できることを企図する。
以上を本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に前半の講義と後半の演習から構成され、演習ではノートパソコン（主にエクセル）を利用する。
演習レポートは、電子ファイル形式（ワードまたはエクセル）での提示とする。
最後の自由演習については、パワーポイントにまとめて発表する場を設ける。（最終発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や構成、また品質マネジメントの有り方などについて説明
2	ＱＣ７つ道具	基礎的な品質管理の考え方について説明
3	管理図	管理図の作成方法と、その背後にある統計的考え方について説明
4	推定・検定の考え方（1）	平均や分散、正規分布などについて説明
5	推定・検定の考え方（2）	ｔ検定・カイ２乗検定・Ｆ検定について説明
6	分散分析	一元配置と二元配置の分散分析について説明
7	実験計画法	実験計画法について説明
8	品質工学（1）	品質工学の考え方とＳＮ比の説明
9	品質工学（2）	品質工学の適用事例と損失関数の説明
10	相関と回帰	相関と単回帰分析について説明
11	重回帰分析	重回帰分析について説明
12	主成分分析	主成分分析について説明
13	総括および自由演習	授業のまとめを行い、個々が題材とするテーマから自由にデータを分析
14	最終発表	自由演習の結果について発表（ppt 形式の資料を準備）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み、毎回の演習、および最終発表をもとに評価する。
（平常点： 30%、演習レポート： 40%、最終発表： 30%）

【学生の意見等からの気づき】
なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC

【その他の重要事項】
データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、データの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】
The aim of this course in quality management theory is learn about methods of capturing and handling various sorts of data in order gain skills in solving practical problems.
At the forefront of problem solving approaches are the understanding of fundamental theory of statistical quality control (SQC) as well as representative statistical methods. Focus will also be given on experience of analyzing real data.
Through this course, by obtaining skills in statistical approaches and analysis methods such as hypothesis testing, students should become familiar with the data underlying various problems and phenomena and reach a position to analyze and evaluate them independently.

HUI500N4

ヒューマニティデザイン論

安積　伸

開講時期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テクノロジーの進化は社会の構造や人の価値観に影響を与え、人間とデザインの関係も様々な広がりを持ちながら変化しています。この授業では、多様な広がりを見せるデザインの事例を理解しながら、その文化的価値、芸術的視点、表現としての魅力を理解し、クリエイティブなメディアの現在と未来を考察する事を目的とします。
本年度のテーマとするデザイン領域は、D 期開始時に発表します。

【到達目標】
今日的なデザイン事例を様々な切り口で読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。
学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形のデザイン表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来る可能性があるか、考察を含む提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
様々な切り口でデザイン事例を読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。
学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形の表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来るか、考察を含むレポートあるいは提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明
2	メディアをとりまく歴史・文化とその周辺	テーマとする表現メディアの歴史と現状を読み解く。
3	参考作品鑑賞　視聴 学外調査１準備	テーマとする表現メディアの映像作品・記録などの視聴。 学外調査を行うための準備。
4	学外調査１－１	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
5	学外調査１－２	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
6	学外調査１まとめ 学外調査２準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 第２回目学外調査の準備。
7	学外調査２－１	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
8	学外調査２－２	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
9	調査２まとめ 学外調査３準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 第３回目学外調査の準備。
10	学外調査３－１	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
11	学外調査３－２	学外施設を訪問し、テーマとするデザイン領域の歴史と現状を理解する。
12	調査３まとめ 個人課題検討	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 訪問調査により得られた知見を元に各自の提案テーマの検討を行う。
13	個人課題進捗発表	各自のテーマ設定に基づいた発案・提案の中間進捗発表を行う。
14	最終発表	各自のテーマ設定に基づいた発案・提案の最終発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習　各テーマの自主的調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
近代デザインの歩み (橋本 太久磨：理工学社)
The Shock of the New（Robert Hughes ： Thames & Hudson）

【成績評価の方法と基準】
課題発表 40 点、授業 50 点、提出レポート 10 点、とします。
　成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。
積極的な調査への参加、授業態度を評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
内容・進行スケジュールに関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【その他の重要事項】
デザイナーとしての経験を有する教員が、現在進行形のクリエイティブワークに関する授業を行います。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to look at the current expansion of design expression, and to consider a more diverse and fertile form of design by understanding the cultural and artistic aspects of design adjacent to design. The theme is announced at the beginning of the D semester.

OTR500N4

システムデザインワークショップ（ＰＢＬ）

野々部　宏司、安積　伸、田中　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々な人工的な「もの・こと」は、人間が生活していくためのもの・ことであり、「ものつくり」は、いわば現在の様々な課題の解決策ととらえることができる。「ものつくり」にあたっては、(1) デザイン、(2) 機能、安全性、(3) 公知といったデザインに関わる 3 つの事項を確保しなければならない。これを実現するためには、「もの・こと」としてそのものを生成する為に多面的に熟慮されたデザイン設計計画、材料や加工技術やメカニズム、エレクトロニクスといったテクノロジーに関わる知識が不可欠である。さらに、「ものつくり」に際して、クラウドコンピューティングを活用し様々な情報を得ながら政策を進める。また制作はプロトタイプにはコンピュータ数値制御でのデスクトップ工房を活用する。また限られた資源を有効に利用し、環境に配慮すること、また創出された「ものつくり」を世の中に認知させるためのマネジメントを忘れてはならない。この実習講義では，実社会の課題に対して，クリエーション系計画，テクノロジー系計画，マネジメント系計画の三つの観点から具体的な解決策を制作し，総合的にものつくりの本質を学ぶ事が出来る。

【到達目標】
クリエーション系計画，テクノロジー系計画，マネジメント系計画の三つの観点から具体的な製品プロトタイプを制作し、総合的にものつくりの本質を学び、デザイン成果物を製作する事を目標としている．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の製品は，クリエーション，テクノロジー，マネジメントのコラボレーションにより創造される．本講義では，「もの・こと」の課題を設定し，実際の企画・製作・製造プロセスを体験しながら，ものづくりをクリエーション，テクノロジー，マネジメントの各系を連携した総合的デザイン視座に立った（意匠、機構、管理の視点求められる。）実習形式で学ぶ。作業はチーム編成による集中講義等で対応する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 制作テーマの発表	授業の進め方、本年度の「ものつくり」テーマ発表、制作チーム編成
第 2 回	デザイン開発計画企画	テーマに沿った、開発事象（デザイン）の策定、初期製品開発企画立案法を学ぶ。
第 3 回	デザイン開発計画方向性立案	デザイン開発企画立案よりより具体的なデザイン対象を見いだし、その対象の調査研究を行う。調査方法の精査法を学び、初期デザイン開発計画提案資料作成を行う。
第 4 回	デザイン開発計画の発表（第 1 回デザインレビュー） 第一次プロトタイプ	前回までの、作業プロセスをまとめ、開発対象物の第一次プロトタイプをまとめて発表を行う。
第 5 回	機構企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの機構について学び、機構企画を行う。
第 6 回	機構の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの表現調整と機構の適合性について学ぶ。
第 7 回	機構の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、機構の決定の仕方を学ぶ。
第 8 回	機構計画の発表（第 2 回デザインレビュー） 第二次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ機構計画を中心に第二次プロトタイプをまとめて発表を行う。発表を行う，また調整によって変更された意匠仕様変更についても発表を行う。
第 9 回	販売企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、対象製品の販売企画の仮説立案法を学び、初期販売企画をたてる。
第 10 回	販売の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、販売企画の方向性を立案し、立案された計画の整合性について学ぶ。
第 11 回	販売方法の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観と実装機構の整合性を調整し、販売方法、効果の決定法を学ぶ。
第 12 回	販売計画の発表（第 3 回デザインレビュー） 第三次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ販売計画を中心に発表を行う，また調整によって変更された意匠仕様変更、機構変更についても発表を行う。第三次プロトタイプ
第 13 回	開発計画企画の策定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観決定、実装機構決定、販売法の決定の整合性を調整し、開発計画全体の企画書の策定法を学ぶ。
第 14 回	総合デザインレビュー 総合講評	授業で行った全ての作業プロセスをまとめ最終プロトタイプ、制作フロー、問題点等のプレゼンテーションを行う。全体講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマの基礎調査、調査データの分析、分析より得られたテーマに沿った「ものつくり」方向性立案、基本方針より導きだされる課題テーマに対する現在の問題点の抽出から問題点解決のための第一次仮説立案までを、しっかりとまとめる事が重要でる。様々な基礎データの収集を各チームが行う。また、問題可決された提案モデルの制作を行ないプレゼンテーションをする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。演習時必要な参考資料は適宜配布する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
最終作品，プレゼンテーション内容、発想能力などにより総合的に評価する．(100%)

【学生の意見等からの気づき】
授業環境の改善

【その他の重要事項】
■英国、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
In this practical lecture (PBL), we generate concrete solutions from the three viewpoints of creation, technology, and management planning, considering real-world social problems and studying the foundations of making comprehensive systems.

SES500N4

デザイン創生学特論

土屋　雅人、安積　伸、大西　景太

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本特論では，人間の感性へ大きく依存するノンバーバル (nonverbal) 分野へ科学的方法論を導入し，ノンバーバル分野における普遍性や規則性を，内外の先端的なデザイン事例や演習などを交えながら考究する。このような考究に基づき物作りの基盤を成すデザイン創生学を論ずる。（オムニバス方式/全 15 回）

【到達目標】
以下の能力を身につけることを目標とする。
1．インターフェイスデザイン理論的思考能力
2．ヒューマニティーデザイン理論的思考能力
3．ビジュアライゼーションデザイン理論的思考能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
最近の研究動向を把握するため，国内外の学術雑誌を中心に文献調査を行い，それらの内容に対するプレゼンテーションとディスカッションを行う．５回づつ，３名の教員がオムニバス方式で講義する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1〜5 回	インターフェイスデザイン観点（土屋雅人）	インターフェイスデザイン学の観点から，問題の設定やモデル化，およびその具体的な解決策の事例を通して，インターフェイスデザインの理論的デザイン創生学を考究する．
第 6〜10 回	ヒューマニティーデザイン観点（安積　伸）	ヒューマニティーデザイン学の観点から，問題の設定やモデル化，およびその具体的な解決策の事例を通して、デザインの理論的デザイン創生学を考究する．
第 11〜14 回	ビジュアライゼーションデザイン観点（大西景太）	ビジュアライゼーションデザイン学の観点から，問題の設定やモデル化，およびその具体的な解決策の事例を通して，デザインの理論的デザイン創生学を考究する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査, 分析
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員から進捗に合わせ適宜配布する。

【参考書】
担当教員から学生の相談に合わせ適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション，ディスカッションなどから総合的に判定する．

【学生の意見等からの気づき】
新規開講科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】
■デザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン、サービスデザイン、コンテンツデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
Through advanced design cases and domestic and foreign examples, we will study universality and regularity in non-linguistic fields.

ADE600N2

建築学修士研修 1 (2014 年度以降入学者用)

小堀　哲夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクトⅠで必要となる基礎的な専門技術を指導する。

【到達目標】
専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎資料の紹介と説明，調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の基礎 1	使用機器・ソフトの整備
第 3 回	研修の基礎 2	資料の読み合わせと解説
第 4 回	研修の基礎 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の基礎 4	資料の読み合わせと解説
第 6 回	研修の実践 1	実践課題の説明
第 7 回	研修の実践 2	課題作業と適宜指導
第 8 回	研修の実践 3	課題作業と適宜指導
第 9 回	研修の実践 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第 10 回	中間報告	中間報告と討議
第 11 回	研修の応用 1	応用課題の説明
第 12 回	研修の応用 2	課題作業と適宜指導
第 13 回	研修の応用 3	課題作業と適宜指導
第 14 回	研修の応用 4	まとめ方の指導と作業結果についての報告・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度 (学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline:
As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.
Learning Objectives:
Acquire basic knowledge and skills in researching specialized fields through research activities in instructional seminars.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士研修 1 (2014 年度以降入学者用)

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクトⅠで必要となる基礎的な専門技術を指導する。

【到達目標】
専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎資料の紹介と説明，調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の基礎 1	使用機器・ソフトの整備
第 3 回	研修の基礎 2	資料の読み合わせと解説
第 4 回	研修の基礎 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の基礎 4	資料の読み合わせと解説
第 6 回	研修の実践 1	実践課題の説明
第 7 回	研修の実践 2	課題作業と適宜指導
第 8 回	研修の実践 3	課題作業と適宜指導
第 9 回	研修の実践 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第 10 回	中間報告	中間報告と討議
第 11 回	研修の応用 1	応用課題の説明
第 12 回	研修の応用 2	課題作業と適宜指導
第 13 回	研修の応用 3	課題作業と適宜指導
第 14 回	研修の応用 4	まとめ方の指導と作業結果についての報告・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度 (学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline:
As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.
Learning Objectives:
Acquire basic knowledge and skills in researching specialized fields through research activities in instructional seminars.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士研修 2(2014 年度以降入学者用)

山道　拓人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトⅠで得られた研究成果を分析し，修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また，修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】
より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに，学内外の様々な研究資料に触れ，異なる研究テーマへの理解を深め，現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較，検証を実施し，既存研究のレビューとしてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の読み合わせ，調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の継続 1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第 3 回	研修の継続 2	資料の収集と分類
第 4 回	研修の継続 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の拡張 1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第 6 回	研修の拡張 2	比較結果に基づく検証方法の策定
第 7 回	研修の拡張 3	検証の実施
第 8 回	研修の拡張 4	検証の実施
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	研修のまとめ 1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第 11 回	研修のまとめ 2	研究方法の改良，追加研究課題の有無について検討
第 12 回	研修のまとめ 3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第 13 回	研修のまとめ 4	検証結果，新提案を含む研究課題の位置付けを行い，レビュー報告書の概要を確認する
第 14 回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度 (学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.
Learning Objectives:
To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士研修 2(2014 年度以降入学者用)

浜田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトⅠで得られた研究成果を分析し，修士論文作成に必要となるより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また，修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】
より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに，学内外の様々な研究資料に触れ，異なる研究テーマへの理解を深め，現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較，検証を実施し，既存研究のレビューとしてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の読み合わせ，調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の継続 1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第 3 回	研修の継続 2	資料の収集と分類
第 4 回	研修の継続 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の拡張 1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第 6 回	研修の拡張 2	比較結果に基づく検証方法の策定
第 7 回	研修の拡張 3	検証の実施
第 8 回	研修の拡張 4	検証の実施
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	研修のまとめ 1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第 11 回	研修のまとめ 2	研究方法の改良，追加研究課題の有無について検討
第 12 回	研修のまとめ 3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第 13 回	研修のまとめ 4	検証結果，新提案を含む研究課題の位置付けを行い，レビュー報告書の概要を確認する
第 14 回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度 (学習姿勢、取り組み姿勢など)，報告内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.
Learning Objectives:
To strive to acquire more advanced specialized knowledge and skills, as well as to deepen understanding of different research themes and cultivate the ability to grasp the current level of research through exposure to a variety of research materials both inside and outside the university. Students will compare and verify the results of previous research and summarize them as a review of existing research.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The level of contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the report, and the standard of the paper will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト 1

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究課題を設定し，研修Ⅰで習得した技能を駆使して，いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

【到達目標】
与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
研究課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，論文作成指導，口頭発表練習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの企画 1	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第 3 回	プロジェクトの企画 2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味，内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第 4 回	プロジェクトの企画 3	プロジェクトに関する主要資料の選択，追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第 5 回	プロジェクトの企画 4	プロジェクト課題の検討と策定
第 6 回	プロジェクトの立案 1	プロジェクト課題に必要な技術（機器，ソフト）のリストアップ
第 7 回	プロジェクトの立案 2	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第 8 回	プロジェクトの立案 3	調査・実験・ソフト開発の実施
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	プロジェクトの展開 1	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 11 回	プロジェクトの展開 2	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 12 回	プロジェクトの展開 3	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 13 回	プロジェクトの展開 4	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 14 回	最終報告	最終報告と討議・投稿可否の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度 (学習姿勢、取り組み姿勢など)，発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.
Learning Objectives:
The student will bring his/her own unique perspective and ingenuity to a given research topic and summarize it in a single, unique paper.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and to strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard total preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト 1

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究課題を設定し，研修Ⅰで習得した技能を駆使して，いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

【到達目標】
与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
研究課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，論文作成指導，口頭発表練習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの企画 1	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第 3 回	プロジェクトの企画 2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味，内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第 4 回	プロジェクトの企画 3	プロジェクトに関する主要資料の選択，追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第 5 回	プロジェクトの企画 4	プロジェクト課題の検討と策定
第 6 回	プロジェクトの立案 1	プロジェクト課題に必要な技術（機器，ソフト）のリストアップ
第 7 回	プロジェクトの立案 2	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第 8 回	プロジェクトの立案 3	調査・実験・ソフト開発の実施
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	プロジェクトの展開 1	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 11 回	プロジェクトの展開 2	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 12 回	プロジェクトの展開 3	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 13 回	プロジェクトの展開 4	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 14 回	最終報告	最終報告と討議・投稿可否の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度 (学習姿勢、取り組み姿勢など)，発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.
Learning Objectives:
The student will bring his/her own unique perspective and ingenuity to a given research topic and summarize it in a single, unique paper.
Learning activities outside of classroom:
Students are expected to actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and to strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard total preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト２

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コースワークの最終段階として，修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し，設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

【到達目標】
プロジェクトⅠ，研修Ⅱの成果を更に発展させ，豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要，学内外の論文・情報誌に投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第 3 回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第 4 回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第 5 回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第 6 回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 7 回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 8 回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第 11 回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第 12 回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第 13 回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第 14 回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など），発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.
Learning Objectives:
Further develop the results of Project I and Training II and compile them into a convincing master's thesis with rich content. Submit the new findings obtained in the master's thesis to bulletins, internal and external publications, and information journals.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting research, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard combined preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト２

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コースワークの最終段階として，修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し，設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

【到達目標】
プロジェクトⅠ，研修Ⅱの成果を更に発展させ，豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要，学内外の論文・情報誌に投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第 3 回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第 4 回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第 5 回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第 6 回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 7 回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 8 回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第 11 回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第 12 回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第 13 回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第 14 回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など），発表の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.
Learning Objectives:
Further develop the results of Project I and Training II and compile them into a convincing master's thesis with rich content. Submit the new findings obtained in the master's thesis to bulletins, internal and external publications, and information journals.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting research, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard combined preparation and review time for this class is one hour.
Grading Criteria/Policy:
The contribution to the seminar (learning attitude, commitment, etc.), the content of the presentations, and the standard of the papers prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

修士論文（建築）

山道　拓人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文を執筆する。

【到達目標】
修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第 3 回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第 4 回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第 5 回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第 6 回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 7 回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 8 回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第 9 回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第 10 回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第 11 回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第 12 回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第 13 回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第 14 回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度，報告書の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.
Learning Objectives:
Completion of Master's thesis.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The contribution made in the seminar, the content of the report, and the standard of the paper prepared will be evaluated comprehensively.

ADE600N2

修士論文（建築）

浜田　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文を執筆する。

【到達目標】
修士論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
修士論文課題・研究計画の策定指導，調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議，修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの継続１	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第 3 回	プロジェクトの継続２	作業の実施と結果の検討
第 4 回	プロジェクトの継続３	作業の実施と結果の検討
第 5 回	プロジェクトの継続４	作業の実施と結果の検討
第 6 回	プロジェクトの発展１	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 7 回	プロジェクトの発展２	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトついて説明する丁寧な記述
第 8 回	プロジェクトの発展３	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第 9 回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第 10 回	プロジェクトのまとめ１	修士論文の構成案について討議
第 11 回	プロジェクトのまとめ２	修士論文の内容案について討議
第 12 回	プロジェクトのまとめ３	修士論文原稿について討議し，追加事項の有無を検討
第 13 回	プロジェクトのまとめ４	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第 14 回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し，提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表，修正の有無を検討し，完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し，積極的に参加し，幅広い知識と技能の習得に努めること。。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し，読み合わせることもある。

【参考書】
特に定めないが，自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】
ゼミでの貢献度，報告書の内容，作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
構造設計一級建築士である教員が，自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】
Course outline:
By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.
Learning Objectives:
Completion of Master's thesis.
Learning activities outside of classroom:
Students should actively participate in all aspects of conducting surveys, experiments, and software development in the instructional seminar, and should strive to acquire a wide range of knowledge and skills. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria/Policy:
The contribution made in the seminar, the content of the report, and the standard of the paper prepared will be evaluated comprehensively.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 1 （2014 年度以降入学生）

高見　公雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 1 （2014 年度以降入学生）

福島　秀哉、渡邉　竜一

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、 実地にものづくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (1)	景観工学・景観デザインに関する文献・知見の調査方法について
2	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (2)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（1 回目）
3	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (3)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（2 回目）
4	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (4)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（3 回目）
5	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (5)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認（4 回目）
6	国内外のデザイン作品レビュー (1)	国内外のデザイン作品のレビュー方法について
7	国内外のデザイン作品レビュー (2)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介（1 回目）
8	国内外のデザイン作品レビュー (3)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介（2 回目）
9	国内外のデザイン作品レビュー (4)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介（3 回目）
10	まちなみの見方しらべ方 (1)	景観上特徴のあるまちなみの調査方法について
11	まちなみの見方しらべ方 (2)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認（1 回目）
12	まちなみの見方しらべ方 (3)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認（2 回目）
13	まちなみの見方しらべ方 (4)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認（3 回目）
14	まとめ	景観工学・景観デザインに関する知識や，これらに関する問題意識を確認することを通医，修士論文テーマの方向性について個別に議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しないが，以下の書籍の内容の習得が前提となる．
篠原修編：景観用語事典 増補改訂第二版，彰国社，2021

【参考書】
特に無し．適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60 点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline (in English)】
Outline:
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. A total of 4 hours of preparatory study and review time for this class is standard.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 1 （2014 年度以降入学生）

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	同上
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	同上
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	同上
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	同上
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	同上
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	同上
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	同上
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	同上
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	同上
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	同上
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	同上
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	同上
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
This class's standard preparation and review time is about 5 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3

都市環境デザイン工学研究２（2014 年度以降入学生）

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究２（2014 年度以降入学生）

福島　秀哉、渡邉　竜一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据え、修士論文のテーマを具体的に定めるための学習や調査を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、 実地にものづくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	修士論文の方向性についての確認と調査・研究方針の検討	これまでの学習を踏まえて，修士論文の大まかなテーマについて確認し，研究方針について検討を行う．
2	既往研究レビュー (1)	修士論文のテーマに関する既往研究をリストアップする．
3	既往研究レビュー (2)	修士論文のテーマに関する既往研究本文を収集し，目的，方法及び到達点について整理する．
4	既往研究レビュー (3)	修士論文のテーマに関する既往研究本文を収集し，目的，方法及び到達点について整理する．
5	既往研究レビュー (4)	修士論文のテーマに関する既往研究本文を収集し，目的，方法及び到達点について整理する．
6	修士論文テーマの概要決定	既往研究のレビュー等に基づき，修士論文のテーマとして取り扱う内容（目的，対象等）について確認する．
7	修士論文の対象・方法検討 (1)	修士論文の対象・方法について検討するため，予備的な資料収集や現地確認等を行う．研究に必要な装置等についても確認する．
8	修士論文の対象・方法検討 (2)	修士論文の対象・方法について検討するため，予備的な資料収集や現地確認等を行う．研究に必要な装置等についても確認する．
9	修士論文の対象・方法検討 (3)	修士論文の対象・方法について検討するため，予備的な資料収集や現地確認等を行う．研究に必要な装置等についても確認する．
10	予備調査・予備実験 (1)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため，予備的な調査や実験等を行い，必要に応じて計画の修正を検討する．
11	予備調査・予備実験 (2)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため，予備的な調査や実験等を行い，必要に応じて計画の修正を検討する．
12	予備調査・予備実験 (3)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため，予備的な調査や実験等を行い，必要に応じて計画の修正を検討する．
13	学会発表・聴講 (1)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し，他の研究者の研究内容や発表方法について確認する．
14	学会発表・聴講 (2)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し，他の研究者の研究内容や発表方法について確認する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し．

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60 点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline (in English)】
Outline:
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. A total of 4 hours of preparatory study and review time for this class is standard.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究２（2014 年度以降入学生）

酒井　久和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、 実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】
特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
This class's standard preparation and review time is about 5 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3

都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）

内田　大介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主として自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【その他の重要事項】
造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
· Learning Objectives
The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.
· Learning activities outside of classroom
Continued learning from a wide range of self-development perspectives. Standard study time is 2 hours for each class meeting.
· Grading Criteria
Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）

高見　公雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Grades will be based on a mid-term presentation (50%) and a summary presentation (50%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）

福島　秀哉、渡邉　竜一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの確認	各自の研究課題について、これまでに実施した内容を論文形式にまとめ提出し、課題や今後の方向性を議論する
2	研究構成と研究方法の確認 (1)	研究の構成と方法について，手順やスケジュールを計画として作成する
3	研究構成と研究方法の確認 (2)	研究の構成と方法について，手順やスケジュールを計画として確定させる
4	調査及び実験等の準備 (1)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．
5	調査及び実験等の準備 (2)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．準備が終了次第，調査や実験を実施する．
6	調査及び実験等の準備 (3)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．準備が終了次第，調査や実験を実施する．
7	調査及び実験等の準備 (4)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う．準備が終了次第，調査や実験を実施する．
8	調査及び実験等の実施 (1)	計画した調査及び実験等を実施する．
9	調査及び実験等の実施 (2)	計画した調査及び実験等を実施する．
10	調査及び実験等の実施 (3)	計画した調査及び実験等を実施する．
11	調査及び実験結果等の分析・考察 (1)	得られた情報やデータを整理し，統計的処理や図化等の分析作業を行った後，考察を行う．
12	調査及び実験結果等の分析・考察 (2)	得られた情報やデータを整理し，統計的処理や図化等の分析作業を行った後，考察を行う．
13	中間とりまとめ準備	これまでの研究成果を論文形式にまとめ，指導教員の確認・修正指示を受ける
14	中間とりまとめ	指示に基づいて修正作業を行い，中間報告書とする．状況に応じて学会等の口頭発表論文として投稿する．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し．

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60 点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
修士二年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline (in English)】
Outline:
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a specific topic to research-level assignments. The standard preparation and review time for this class is 4 hours per session.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）

酒井　久和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 10 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
This class's standard preparation and review time is about 10 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3

都市環境デザイン工学研究３（2014 年度以降入学生）

山本　佳士

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (1)	国内外の文献等の収集と講読 1
2	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (2)	国内外の文献等の収集と講読 2
3	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (3)	国内外の文献等の収集と講読 3
4	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (4)	国内外の文献等の収集と講読 4
5	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (5)	国内外の文献等の収集と講読 5
6	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (6)	国内外の文献等の収集と講読 6
7	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (8)	国内外の文献等の収集と講読 7
9	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (9)	国内外の文献等の収集と講読 8
10	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (10)	国内外の文献等の収集と講読 9
11	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (11)	国内外の文献等の収集と講読 10
12	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (12)	国内外の文献等の収集と講読 11
13	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (13)	国内外の文献等の収集と講読 12
14	都市環境デザイン工学に関する総合学習 (14)	本授業で学んだ成果のとりまとめと総括発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外においては文献・書籍から修士論文テーマに関連する情報を収集し，自らの理解を促進するためにとりまとめる．本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
中間発表（30%）と総括発表（70%）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）

内田　大介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 10 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
主として自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【その他の重要事項】
造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline (in English)】
In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
・Learning Objectives
The goals of this course are to acquire the knowledge and skills necessary to proceed with research for a master's thesis.
・Learning activities outside of classroom
Continued learning from a wide range of self-development perspectives. Standard study time is 10 hours for each class meeting.
・Grading Criteria
Grading will be decided based on attitude toward daily study.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）

高見　公雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
　都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
教員との研究面談時の提出資料（30 %）とその口頭諮問（70 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
Grades will be based on a mid-term presentation (30%) and a summary presentation (70%).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）

福島　秀哉、渡邉　竜一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	取り組んだ研究の進捗状況確認	これまでの研究成果について確認し，再度課題の抽出を行い，研究の方向性を議論する．
2	継続的研究実施 (1)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
3	継続的研究実施 (2)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
4	継続的研究実施 (3)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
5	継続的研究実施 (4)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足，実験実施，追加分析等）を行う．
6	論文の論理構成の確認 (1)	最終的なまとめにむけて，方法の検討，データの収集や処理過程についてまとめ，指導教員に報告・議論する．
7	論文の論理構成の確認 (2)	論文の目的と得られた結果についての対応を確認し，必要に応じて修正を行う
8	論文執筆 (1)	研究の位置づけについて再度確認した上で論文として執筆する．
9	論文執筆 (2)	用語の統一，図表表現の統一等に注意し，確認を行う．
10	論文執筆 (3)	背景目的と結論の対応関係について注意し，確認を行う．
11	論文草稿完成	論文としての体裁を整える．自分で全体を読み直して修正を行う．
12	論文草稿チェック	論文草稿について主査の確認を受ける．必要に応じて修正する．
13	副査による指導	草稿をもとに副査の指導を受け，必要な修正を加える．
14	論文としての仕上げ	論文の体裁を整えて完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し．

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
個別に指示する課題により評価する（100%）．60 点以上を合格とする．

【学生の意見等からの気づき】
各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline (in English)】
Outline:
In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
Objectives:
The goal is to acquire the knowledge and skills necessary to conduct research for the master's thesis.
Specifically, the goal is for students to form an awareness of issues related to their field of specialization and acquire rudimentary problem-solving skills through reading internal and external literature, field visits, discussions, surveys, and research on specific themes.
Learning activities outside of classroom:
Review of weekly classes, as well as a wide range of ongoing self-directed study, from basic knowledge of a particular topic to research-level assignments. The standard preparation and review time for this class is 4 hours per session.
Grading Criteria /Policy:
Assignments will be evaluated based on the individually assigned tasks (100%). 60 points or more will be considered as a passing grade.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）

酒井　久和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 10 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み（100%）
法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する.

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている.

【Outline (in English)】
In this course, students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.
This class's standard preparation and review time is about 10 hours, respectively.
Grade evaluation will be conducted based on daily efforts (100%).

CST600N3

都市環境デザイン工学研究４（2014 年度以降入学生）

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
陸水域の環境水工学に関わる研究テーマを対象として応用的な学習や調査・研究を行う．

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することを目標とする．修士論文テーマに関わる国内外の文献等の収集と講読，現地調査と情報収集，研究を進める上での議論や調査・研究などを通じてテーマに関する問題意識を形成し，問題解決のための応用能力を開発することを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する．指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される．陸水域の環境解析に必要な数理的素養と調査方法を習得するために，水理学・水文学・水質科学・生態学・流域の社会科学などに関する書籍・文献を講読し，担当教員・学部学生との議論を通して理解を深める．また，水圏環境学に関する国内外の研究動向を調査し，修士論文テーマの課題を設定する．
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外においては文献・書籍から修士論文テーマに関連する情報を収集し，自らの理解を促進するためにとりまとめる．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定なし．

【参考書】
授業を通して適宜提供するとともに自らの学習を通して参考文献を収集する．

【成績評価の方法と基準】
中間発表（30%）と総括発表（70%）により評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.
The goal of this course is to acquire the knowledge and skills necessary to carry out research related to the master's thesis.
The goal is to develop an awareness of the issues related to the master's thesis theme through the collection and reading of domestic and international literature, field surveys and information gathering, and discussions, surveys and research in the course of the research, and to develop basic skills for problem solving.
Grades will be based on a mid-term presentation (30%) and a summary presentation (70%).

CST700N3

都市環境デザイン工学特別研究１_2014 年度以降入学

今井　龍一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
河川流域の環境問題と災害科学に関わる水工学諸問題を研究テーマとして設定し専門的な学習や調査・研究を行う。教員による研究指導をともなう。

【到達目標】
博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力を習得することを目標とする．具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読，必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査．研究を通じてテーマに関する問題意識を形成，問題解決のための応用能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方を学び，様々な問題へ応用できる能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。特に河川流域の環境・災害科学に必要な数理的素養と調査方法を習得するために，水理学・水文学・水質科学・生態学・流域の社会科学などに関する書籍・文献を購読し，担当教員との議論を通して理解を深める。また，水圏環境学に関する国内外の研究動向を調査し，博士論文テーマの課題を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (1)	国内外の文献・資料の収集と購読 1
2	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (2)	国内外の文献・資料の収集と購読 2
3	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (3)	国内外の文献・資料の収集と購読 3
4	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (4)	国内外の文献・資料の収集と購読 4
5	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (5)	国内外の文献・資料の収集と購読 5
6	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (6)	国内外の文献・資料の収集と購読 6
7	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (8)	国内外の文献・資料の収集と購読 7
9	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (9)	国内外の文献・資料の収集と購読 8
10	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (10)	国内外の文献・資料の収集と購読 9
11	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (11)	国内外の文献・資料の収集と購読 10
12	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (12)	国内外の文献・資料の収集と購読 11
13	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (13)	国内外の文献・資料の収集と購読 12
14	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜指示する。

【参考書】
特になし。適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
Students will learn and investigate environmental issues and disaster science of river basin from a viewpoint of hydraulic engineering. The students will be supervised by their professor.

CST700N3

都市環境デザイン工学特別研究 2_2014 年度以降入学

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
河川流域の環境問題と災害科学に関わる水工学諸問題の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し，研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

【到達目標】
博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力をより深く習得することを目標とする．具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読，必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査．研究を通じてテーマに関する問題意識を深め，問題解決のための総合能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方をより深く学び，様々な問題へ応用し総合的に解決する能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。河川流域の環境・災害科学に必要な数理的素養と調査方法を習得するために，水理学・水文学・水質科学・生態学・流域の社会科学などに関する書籍・文献を購読し，担当教員との議論を通して理解を深める。また，水圏環境学に関する国内外の研究動向を調査し，博士論文テーマの研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (1)	国内外の文献・資料の収集と購読 1
2	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (2)	国内外の文献・資料の収集と購読 2
3	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (3)	国内外の文献・資料の収集と購読 3
4	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (4)	国内外の文献・資料の収集と購読 4
5	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (5)	国内外の文献・資料の収集と購読 5
6	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (6)	国内外の文献・資料の収集と購読 6
7	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (8)	国内外の文献・資料の収集と購読 7
9	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (9)	国内外の文献・資料の収集と購読 8
10	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (10)	国内外の文献・資料の収集と購読 9
11	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (11)	国内外の文献・資料の収集と購読 10
12	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (12)	国内外の文献・資料の収集と購読 11
13	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (13)	国内外の文献・資料の収集と購読 12
14	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。適宜指示する。

【参考書】
特になし。適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
Students will further continue to learn and investigate environmental issues and disaster science of river basin from a viewpoint of hydraulic engineering. The students will be supervised through discussion with their professor.

CST600N3

修士論文（都市）

今井　龍一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
(概要)　各学生は個々に題目が与えられ，教授の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。
地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】
特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組み 30%，論文 50%，発表 20%により評価する。法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【その他の重要事項】
建設会社で設計，研究開発に携わっていた教員が，実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている．
文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】
In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.
The goal of this course is to acquire the knowledge and skills necessary to carry out research related to the master's thesis.
The goal is to develop an awareness of the issues related to the master's thesis theme through the collection and reading of domestic and international literature, field surveys and information gathering, and discussions, surveys and research in the course of the research, and to develop basic skills for problem solving.
Students will be graded on the basis of 30% for self-development in daily study outside class time, 50% for papers, and 20% for presentations. Evaluation will be made according to the Hosei University Graduate School Standards.

CST600N3

修士論文（都市）

溝渕　利明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】
都市環境デザイン工学研究１～４にて修得した知識やスキルをもとに、これまでの研究成果を学術論文としての修士論文にとりまとめることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
各学生は個々に題目が与えられ，教員の直接指導をうけて，都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに，実地にものづくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し，広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し，国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。
都市環境デザイン工学研究１～４を通じて取り組んできた修士論文の研究目的を達成し、論文執筆計画に基づいて国内外の研究集会や学術誌への発表を前提として研究成果をとりまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究テーマの決定	研究の目的・対象を定める.
2	既往研究レビュー	研究テーマに関する既往研究についてレビューし，研究の位置づけを確認する.
3	研究の構成及び方法の検討	研究目的を達成するための論理的な構成や具体的な方法について吟味し，決定する.
4	文献収集・調査・実験等の実施 (1)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う.
5	文献収集・調査・実験等の実施 (2)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う.
6	文献収集・調査・実験等の実施 (3)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う.
7	分析・考察 (1)	得られたデータについて整理・分析し，その結果についての考察を行う.
8	分析・考察 (2)	得られたデータについて整理・分析し，その結果についての考察を行う.
9	中間取りまとめ	ここまでに得られた成果について取りまとめた上で，今後必要な作業について確認・検討を行う
10	追加作業 (1)	各自の状況に応じて追加作業を行う
11	追加作業 (2)	各自の状況に応じて追加作業を行う
12	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる.
13	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる.
14	研究とりまとめと発表準備	修士論文審査会での発表準備について指導教員の指導を受ける.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関するの基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし.

【参考書】
特に無し．各自のテーマや進捗状況により紹介する.

【成績評価の方法と基準】
提出された論文の内容（60%），審査会での発表・質疑の内容（40%）により評価し，全体で 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
該当無し.

【その他の重要事項】
景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline (in English)】
In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.
Learning Objectives
Based on the knowledge and skills acquired in Urban Environmental Design Engineering Research 1-4, the goal is to summarize the research results so far in a master's thesis as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Weekly class review and a wide range of self-development continuing learning, from basic knowledge on specific topics to research-level assignments. The standard time for preparation and review for this class is 4 hours per session.
Grading Criteria /Policy
Evaluation will be based on the content of the submitted thesis (60%) and the content of the presentation and question-and-answer session (40%).

CST600N3

修士論文（都市）

鈴木　善晴

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の専門分野のうち，水工学の分野の中から各自が選択した研究テーマに関するの基礎的な知識や，プログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルを習得するとともに，各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで，修士論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す．

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する．また，演習課題への取り組みを通じてプログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルを習得する．さらには，各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め，修士論文の執筆へ向けた研究計画を自ら立案・実行することができるように各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における到達目標となる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

水工学の分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む．既往研究のレビューや数値モデルの理解，各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに，指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め，学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての修士論文の執筆を目指す．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読，既往研究のレビュー，数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑨	基本スキルの習得 (4)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	プログラミングや数値シミュレーション等に関する課題演習，各種分析手法に関する課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討，具体的な研究課題に関する調査・解析，指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関するの基礎的な知識の習得，プログラミングや数値シミュレーション等に関する基本的なスキルの習得，および具体的な研究課題への取り組みなど，授業時間外における幅広い継続学習が必要である（本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする）．

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】

日常的な学習・研究への取組み状況を 50 %，知識やスキルの習得状況および得られた研究成果を 50 %として総合的に評価を行う．

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

In this course, students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students. Before/after each activity in the lab, students will be expected to spend four hours to study about research technique and knowledge. Grading will be decided based on the students' performance including reaserch results (50%), and students' acquired skills in the lab (50%).

OTR600N4

システムデザイン修士研修１

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルを修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の最初である、このシステムデザイン研修１では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修１では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ることを目標とする。とくに、その rationale(必然性、理論的根拠、妥当性）について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修１ (春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	Rationale　の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるという Rationale（論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。Rationale に関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1) をひとつ取り上げ、その　rationale を考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case 1 について、より深くその rationale を考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case ２) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case ２　について、より深くその rationale を考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case ３) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case ３について、より深くその rationale を考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case ４) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case ４について、より深くその rationale を考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case ５) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case ５ について、より深くその rationale を考察する。
13	Rationale Case Study-６	関連する研究（case ６) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
14	まとめ	新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から指示・配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This first part of the course 'System Design Training 1' will provide students with opportunities to take various approaches from different perspectives and to validate the studies.

OTR600N4

システムデザイン修士研修１

姜　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の最初である、このシステムデザイン研修１では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修１では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ることを目標とする。とくに、その rationale(必然性、理論的根拠、妥当性）について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修１ (春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	Rationale　の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるという Rationale（論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。Rationale に関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1) をひとつ取り上げ、その　rationale を考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case 1 について、より深くその rationale を考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case ２) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case ２　について、より深くその rationale を考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case ３) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case ３について、より深くその rationale を考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case ４) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case ４について、より深くその rationale を考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case ５) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case ５ について、より深くその rationale を考察する。
13	Rationale Case Study-６ A	関連する研究（case ６) をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
14	Rationale Case Study-６B まとめ	case ６について、より深くその rationale を考察する。 新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から指示・配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は次の通り.
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【その他の重要事項】
■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline (in English)】
In Master's Training 1, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4

システムデザイン修士研修２

安積　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の秋学期である、このシステムデザイン研修２では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修２では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要となる基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修 2(秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文１の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文１の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文１の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文１のテクニック	研究論文１で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
7	研究論文１のスキル	研究論文１で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
8	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
9	研究論文２の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
10	研究論文２の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文２の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文２のテクニック	研究論文２で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
13	研究論文２のスキル	研究論文２で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程前半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This second part of the course 'System Design Training 2' held during the autumn semester of the first year will provide students with the necessary research methods, necessary rudimentary knowledge, theory, techniques and skills.

OTR600N4

システムデザイン修士研修２

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し，参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士１年生の秋学期である、このシステムデザイン研修２では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修２では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要となる基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修 2(秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文１の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文１の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文１の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文１の理論 3	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
7	研究論文１のテクニック	研究論文１で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
8	研究論文１のスキル	研究論文１で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
9	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
10	研究論文２の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文２の理論１	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文２の理論２	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
13	研究論文２のテクニック、スキル	研究論文２で用いられているテクニック、スキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程前半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため，アンケートを実施していない.

【Outline (in English)】
In Master's Training 2, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4

システムデザイン修士研修３

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
システムデザイン専攻における修士２年生春学期の修士研修３に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修３では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修３ (春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文１の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
4	研究論文１の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文１の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文２の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
8	研究論文２の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文２の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査３（研究論文３）	関連する研究論文（論文３）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文３の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
12	研究論文３の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ
13	研究論文３の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ 論文の論理構造と、その記述方法 問題設定と、その結論の対応関係	研究論文（リポート）を作成する上で重要となる、論理構造と記述方法、問題設定の在り方、対応する結論に在り方についてについて纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程後半（前期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course will prepare students for the ‘System Design Training 3’ course in the spring semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of related issues, focusing on the logical structure of studies, validity of argument, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4

システムデザイン修士研修３

姜　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
システムデザイン専攻における修士２年生春学期の修士研修３に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける.
この修士研修３では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修３ (春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	関連する分野の研究論文の調査１（研究論文１）	関連する研究論文（論文１）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文１の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
4	研究論文１の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文１の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査２（研究論文２）	関連する研究論文（論文２）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文２の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
8	研究論文２の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文２の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査３（研究論文３）	関連する研究論文（論文３）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文３の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
12	研究論文３の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ
13	研究論文３の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ	研究論文（リポート）を作成する上で重要となる、その論理構造と、その記述方法、問題設定の在り方、対応する結論に在り方について纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程後半（前期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は次の通り.
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のためアンケートを実施していない.

【Outline (in English)】
This course will prepare students for ‘System Design Training 3’ in the spring semester of the second year of their master’s degree. It provides students with the significance and the summary of the related topics, focusing on the logical structure of studies, validity of arguments, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4

システムデザイン修士研修４

安積　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　システムデザイン専攻における修士２年生秋学期の修士研修４に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる．

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修４では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
　指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修４ (秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	類似研究調査１	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査２	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査３	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査４	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査５	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査６	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査１	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査２	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査３	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査４	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査５	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけされるかを考える。
14	まとめ	学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　指導教員から配布

【参考書】
　指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
　修士課程後半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
　成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
　個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
This course will prepare students for the ‘System Design Training 4’ course in the autumn semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4

システムデザイン修士研修４

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　システムデザイン専攻における修士２年生秋学期の修士研修４に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる．

【到達目標】
修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける．
この修士研修４では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
　指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修４ (秋学期）を取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる．
2	類似研究調査１	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査２	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査３	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査４	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査５	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査６	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査１	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査２	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査３	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査４	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査５	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	周辺研究分野調査６	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
14	まとめ:学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけされるかを考える。 学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　指導教員から配布

【参考書】
　指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
　修士課程後半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
　個別指導科目のため，アンケートを実施していない．

【Outline (in English)】
This course will prepare students for the ‘System Design Training 4’ course in the autumn semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト１

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士１年生春学期のプロジェクトは、比較的小規模なプロジェクトで当該分野に関連する研究プロジェクトの概要を知ることを目的ととする。

【到達目標】
このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト１（春学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。最初のプロジェクトであるので、比較的簡単なもので今後の基礎となるものを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン１	マイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン１の纏めを行う。
7	マイルストーン２	マイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン２の纏めを行う。
9	マイルストーン３	マイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン３の纏めを行う。
11	マイルストーン４	マイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン４の纏めを行う。
13	マイルストーン５	マイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン５の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. 'System Design Master's Project 1' in the spring semester of the first year is relatively small-scale and helps to provide an overview of related research projects.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト２

安積　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士１年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

【到達目標】
　このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト２（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン１	マイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン１の纏めを行う。
7	マイルストーン２	マイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン２の纏めを行う。
9	マイルストーン３	マイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン３の纏めを行う。
11	マイルストーン４	マイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン４の纏めを行う。
13	マイルストーン５	マイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン５の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　指導教員から配布

【参考書】
　指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
　プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
　成績基準は、総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
　個別指導科目のため実施ていない。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of the first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate problem-solving skills.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト２

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士１年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

【到達目標】
このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト２（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマ候補の選定	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。さらに、テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
3	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
4	マイルストーン１	マイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	マイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン１の纏めを行う。
6	マイルストーン２	マイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	マイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン２の纏めを行う。
8	マイルストーン３	マイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	マイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン３の纏めを行う。
10	マイルストーン４	マイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	マイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン４の纏めを行う。
12	マイルストーン５	マイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
13	マイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン５の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は次の通り．
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【Outline (in English)】
Various projects are held to provide students the basic knowledge and skills of the subjects required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate their problem-solving skills.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト３

安積　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト３はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト３，４（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	テーマの候補	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。
3	テーマ候補に関する調査および精査	テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく２つのテーマに分割する。（テーマ１およびテーマ２）　各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	テーマ１のマイルストーン１	テーマ１のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ１のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン１の纏めを行う。
7	テーマ１のマイルストーン２	テーマ１のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ１のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン２の纏めを行う。
9	テーマ１のマイルストーン３	テーマ１のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ１のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン３の纏めを行う。
11	テーマ１のマイルストーン４	テーマ１のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ１のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン４の纏めを行う。
13	テーマ１のマイルストーン５	テーマ１のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、テーマ１のマイルストーン５の纏めを行う。
14	テーマ１の取り纏め、テーマ１の成果に基づくテーマ２の修正	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ２の修正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト３

姜　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト３はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定して進める。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト３，４（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
2	テーマ候補に関する調査	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。さらに、テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
3	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく２つのテーマに分割する。（テーマ１およびテーマ２）　各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
4	テーマ１のマイルストーン１	テーマ１のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	テーマ１のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン１の纏めを行う。
6	テーマ１のマイルストーン２	テーマ１のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	テーマ１のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン２の纏めを行う。
8	テーマ１のマイルストーン３	テーマ１のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	テーマ１のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン３の纏めを行う。
10	テーマ１のマイルストーン４	テーマ１のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	テーマ１のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン４の纏めを行う。
12	テーマ１のマイルストーン５	テーマ１のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
13	テーマ１のマイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ１のマイルストーン５の纏めを行う。
14	テーマ１の取り纏め、テーマ１の成果に基づくテーマ２の修正	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ２の修正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は次の通り.
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【Outline (in English)】
Students complete one project that is closely related to their master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the project that aims to collect empirical data for writing the master's thesis.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト４

安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト４はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン修士プロジェクト３で行ったテーマ１の総括とテーマ２に関する準備を行う。
2	テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	テーマ１の反省を踏まえ、テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う。
3	テーマ２のマイルストーン１	テーマ２のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
4	テーマ２のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン１の纏めを行う。
5	テーマ２のマイルストーン２	テーマ２のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ２のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン２の纏めを行う。
7	テーマ２のマイルストーン３	テーマ２のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ２のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン３の纏めを行う。
9	テーマ２のマイルストーン４	テーマ２のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ２のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン４の纏めを行う。
11	テーマ２のマイルストーン５	テーマ２のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ２のマイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン５の纏めを行う。
13	テーマ２の纏めと総括、不足データ・補足データの収集と検証および最終的な纏め	テーマ２の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足データ・補足データを検証し、最終的な纏めを行う。
14	テーマ１およびテーマ２の統合および対外的提示	テーマ１およびテーマ２を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は、総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト４

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト３とシステムデザイン修士プロジェクト４は、連結したひとまとまりの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト４はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】
修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
個々の指導教員の指導の下，各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	システムデザイン修士プロジェクト３で行ったテーマ１の反省を踏まえ、テーマ２のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う
2	テーマ２のマイルストーン１	テーマ２のマイルストーン１の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
3	テーマ２のマイルストーン１	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン１の纏めを行う。
4	テーマ２のマイルストーン２	テーマ２のマイルストーン２の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
5	テーマ２のマイルストーン２	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン２の纏めを行う。
6	テーマ２のマイルストーン３	テーマ２のマイルストーン３の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
7	テーマ２のマイルストーン３	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン３の纏めを行う。
8	テーマ２のマイルストーン４	テーマ２のマイルストーン４の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
9	テーマ２のマイルストーン４	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン４の纏めを行う。
10	テーマ２のマイルストーン５	テーマ２のマイルストーン５の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
11	テーマ２のマイルストーン５	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ２のマイルストーン５の纏めを行う。
12	テーマ２の纏めと総括、不足部分の抽出	テーマ２の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足部分や、補足データ収集に関する計画を立てる
13	不足データ・補足データの収集と検証および最終的な纏め	得られた不足データ・補足データを検証し、最終的な纏めを行う。
14	テーマ１およびテーマ２の統合および対外的提示	テーマ１およびテーマ２を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する．
成績基準は次の通り．
A+(100-95)，A(94-80)，B(79-70)，C(69-60)，D(59-0)，E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【Outline (in English)】
Students complete one project that is closely related to their master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the project that aims to collect empirical data for writing the master's thesis.

OTR600N4

修士論文（SD）

安積　伸

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための修士論文の作成を行う。研究の基盤となる知識やスキルの修得，実証データの提示作業、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して研究手法を学ぶ。

【到達目標】
修士学位論文を作成することを最終目標とし、その作成ために必要となる考え方や各種スキルを身につけることを副次的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する。各段階毎に、指導教員と議論を行い、進捗状況のチェック、途中経過の問題点、最終目標の再検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト後半（後期）に取り組む心構えやその意義について解説し，必要な関連事項の概要について述べる.
第 2 回	テーマに関するブレーンストーミング 1	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第 3 回	テーマに関するブレーンストーミング 2	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第 4 回	テーマの合理性（社会的意義・学術的意義）	取り上げたテーマが、研究対象として相応しいか否かを、検証する。その学術的意義や社会的意義についても検討する。
第 5 回	先行研究調査 1	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第 6 回	先行研究調査 2	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第 7 回	ゴール・サブゴールの設定 研究計画の作成	研究を遂行するための研究計画を作成する。とくに、必要となるマイルストーンを設定する。
第 8 回	サブゴール 1 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 9 回	サブゴール 2 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 10 回	サブゴール 3 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 11 回	サブゴール 4 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 12 回	サブゴール 5 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 13 回	研究成果の取り纏め	研究成果を取り纏め、成文化する。各章の構成や緒言、参考文献の記述を行う。
第 14 回	対外的に提示可能な成果物としての取り纏め	修士論文を公開可能なものとするための最終検証を行う。とくに、新規性や著作権問題に関するチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査、修士研究、修士論文作成
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】
修士課程後半（後期）を通じて，各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，担当教員が総合的に評価する.
成績基準は、総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】
個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】
プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline (in English)】
In this program students will write a thesis for their master's degree. During the process, they will learn research methods by gaining fundamental knowledge and skills for their field, presenting empirical data and referencing information in related areas.

OTR600N4

修士論文（SD）

姜　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　選択・必修の別：**必修**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学位取得のための修士論文を執筆する．

【到達目標】
・修士論文として適切なテーマを設定すること．
・関連研究を調査すること．
・研究テーマの実現に必要な知識・技術を把握し，習得すること．
・研究成果をあげ，修士論文としてまとめあげること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する．各段階毎に，指導教員と議論を行い，進捗状況のチェック，問題点の把握，最終目標の再検討を行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文を執筆する心構えやその意義，関連事項の概要について学ぶ．
2	研究テーマの選定	院生の関心に合致し，修士論文として適切な研究テーマを選定する．
3	先行研究の調査	研究テーマに関連する先行研究を調査する．
4	先行研究の整理	収集した先行研究を整理し，課題等をまとめる．
5	研究企画の立案	先行研究を調査・整理した結果を踏まえ，研究の目標，方法，手順等を整理する．
6	関連知識の把握・習得	研究を実施するうえで必要となる知識を把握・習得し，研究テーマに応用する．
7	関連技術の把握・習得	研究を実施するうえで必要となる技術を把握・習得し，研究テーマに応用する．
8	調査・実験の実施	研究の中核となる調査・実験の実施を行う．
9	調査・実験結果の考察	調査・実験の結果を整理し，考察を行う．
10	問題点の把握・解決方法の検討	研究上の問題点を把握し，その解決方法を検討する．
11	研究成果の整理・論文構成の検討	研究成果を整理し，研究の全体像を把握して論文の構成を検討する．
12	修士論文の執筆	論文構成に沿い，修士論文（第 1 稿）を執筆する．
13	修士論文の推敲・修正	第 1 稿の推敲・修正を行い，修士論文を完成させる．
14	修士論文の内容確認・質疑応答	修士論文の内容を再確認し，発表および質疑応答の練習を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連研究の調査，知識・技術の習得，調査・実験の実施，論文の執筆
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない．

【参考書】
必要に応じて指示する．

【成績評価の方法と基準】
研究テーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として，総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【Outline (in English)】
In this program, students prepare their master's thesis for graduation, acquiring knowledge and skills important for the foundations of research. In addition, students learn research methods through presentations of empirical data, and surveying references and related research fields.

MAN500F2

経営イノベーション体系

Principles of Management and Innovation

玄場　公規、坂本　和子、高田　朝子、丹下　英明、豊田　裕貴、松本　敦則、山田　久

単位数：**2 単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営におけるイノベーションの具体例と役割を考えます。企業経営は、イノベーションの連続です。イノベーションを怠ると企業は衰退していきます。健全な企業経営には何が必要かを理論と実際の両面から学びます。

【到達目標】
経営学的な思考方法を身につけるとともに、大学院で研究する上で必要とされるレポートの書き方や文献研究の方法を学びます。同時に、抽象化された概念から具体的な事象を思い浮かべ、その事象の特徴を把握する訓練も行います。抽象と具象の間を往復することで現実の問題への理解が深まることを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2 コマ単位で進めます。1 コマ目は教員が講義をし、2 コマ目は提案されたテーマに対するディスカッションを行います。講義とディスカッションを組み合わせて、各テーマを理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	企業経営とイノベーション (1)	イノベーションについての議論を紹介し、イノベーションの本質を理解する
2	企業経営とイノベーション (2)	イノベーションを起こすには、何が問題かがわからなければならない。問題発見から問題解決までの不確実性に向き合う必要性などについて議論する
3	経営戦略と競争優位 (1)	戦略を語るとかっこよく見える。しかし、戦略だけでは人は動かない。経営戦略とは何かを改めて考える。
4	経営戦略と競争優位 (2)	他と違うことができるから競争力が生まれる。しかし、他と違うことをするには勇気がいる。どうすれば他と違うことができるようになるかを議論する。
5	人材マネジメント	企業経営におけるヒトの問題を理解する
6	従業員のモチベーション管理	従業員はどのようなときにやる気を出すのか、どのような人事管理を行えばいいかを議論する
7	リーダーシップ	リーダーシップというと暗黙のうちに「強いリーダー」を意識するが、リーダーは常に強くなければならないのか。リーダーシップの本質を理解する。
8	強いリーダーとは？	状況に応じて行動を変えることができるのが本当のリーダーである。リーダーとして何をすることが部下の信頼を得ることになるのかを議論する。
9	イノベーション創出のためのマーケティング	従来の論理思考に加え、デザインやアートの概念、方法論などを取り入れた新しいマーケティングについて考える。
10	ブランドの本質	いつの時代においてもブランドが企業の競争力を決定づけることは変わらない。ではどうしたら企業のブランド力を高めることができるのかを議論する。
11	データ分析とイノベーション	経営に不確実性はつきものである。不確実性を乗り越えることからイノベーションは生まれる。不確実性に立ち向かうデータ分析の重要性を考える。
12	仮説と検証	変化を察知し、変化に対応し、変化を楽しむためには仮説設定と検証の連続が必要である。どうすれば適切な仮説と検証が可能かを議論する
13	老舗企業の経営に学ぶ	日本は老舗大国である。長く続いている企業は、環境変化に直面したとき、本業を大切にしながら柔軟に変化してきている。組織のこれからのあり方を老舗企業の経営を通して議論する。
14	同族企業と事業承継	日本だけではなく外国にも多くの同族企業がある。その特徴や現状を検討する。また、それに伴う事業承継についても議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、課題文献を提示しますので、それを熟読し、自分自身の考えを A4 版 1～2 ページ程度にまとめてきて下さい。読むだけではなく、書くことによって理解を深めるねらいがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
榊原清則『経営学入門 (上)』『経営学入門 (下)』(日経文庫) を使います。その他の教材は、適宜指示します。

【参考書】
講義の中で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
次の 2 つの要素を合計して評価します。
①毎回の出席と講義時間中の議論への関与 (50%)
②自分でテーマ設定したレポートの作成 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
必読文献の量と題材を工夫します。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：講義終了後、相談を受け付けます。

【Outline (in English)】
This lecture aims to understand meanings of innovation in business. Continuous innovation is necessary for management. How to make business innovative is the main theme of the lecture.

MAN500F2

中小企業戦略論

Strategic Management in SMEs

丹下　英明［Hideaki TANGE］

単位数：4 単位
学期：春学期授業/Spring
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【授業の目的】
本講義は、経営戦略や経営計画の策定、策定した経営計画を実行するためのマネジメントについて、中小企業に的確な支援ができるスキルを修得することを目的としています。そのために、中小企業がどのような戦略を策定し、マネジメントしているのか、実際の事例をとりあげながら、講義やグループワークを通じて、体系的に学んでいただきます。
本講義は、中小企業経営に興味がある方に向けた講義です。
【授業の概要】
本講義は、大きく、前半（第 1〜7 回）と後半（第 8〜14 回）に分かれます。
前半は、「フレームワークの意義と限界を学ぶ」をテーマに、経営戦略の理論やフレームワークを学んでいただきます。そして、講義で採り上げるフレームワークをグループワークで実際の企業に適用してみることで、その意義と限界を学んでいきます。
これらによって、経営戦略策定のためのプロセス（外部環境・内部環境の分析 → ドメインの明確化 → 経営戦略の確立）を学んでいただきます。
後半は、実際の企業事例を通じて、経営戦略を経営計画に落とし込み、マネジメントしていくプロセスを学んでいただきます。国際化や新事業開発、M&A といったテーマに関して、中小企業の事例を多数とりあげ、そのマネジメントプロセスを学んでいきます。
また、本講義では、グループによる戦略提案を 2 回行っていただきます（戦略提案①および戦略提案②）。
戦略提案①は、講義前半に行います。各グループが選定した企業について、講義で学ぶフレームワークを用いて現状分析を行ったうえで、第 6 回の講義で今後の戦略提案を発表していただきます（発表時に、選定先企業の経営者に参加いただくことも歓迎します）。
戦略提案②は、講義後半に行います。教員が指定した企業 1 社について、各グループがそれぞれ独自に分析を行い、戦略提案と経営計画をまとめていただきます。第 14 回の講義では、当該企業の経営陣に対して、実際に提案を行い、講評をいただく予定です。
以上、本講義では、一方的な聴講型ではなく、アクティブ・ラーニング型の授業を目指します。そのため、本講義では、講義内での発表や発言、ディスカッションを重視します。

【到達目標】
1. 経営戦略を策定するための基礎理論を体系的に習得し、分析に活用することで、的確な戦略策定ができる。
2. 戦略の実行を支援するため、経営計画を策定し、マネジメントの仕組みを構築できる。
3. 経営戦略策定・実行・評価の全プロセスを中小企業に合った形で指導・支援・アドバイスができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業形態、授業内での発表】
講義では、基本的知識や理論の説明を行うとともに、中小企業のケースを用いて議論を行います。
また、グループに分かれて、企業に対する戦略提案を行っていただきます。講義内でその結果を発表していただきます。
【課題提出とフィードバック】
講義終了後は、感想や意見、質問をまとめた「講義レポート」を毎回提出いただきます。次回講義の冒頭に、講義レポートのなかから、皆様の感想や意見をいくつか紹介するとともに、質問に回答することで、フィードバックを行います。
個人課題およびグループ戦略提案については、講義内および学習支援システムを通じて、採点結果とコメントをフィードバックさせていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経営戦略論の体系的理解：戦略とは何か	・授業計画、授業内容および成績評価について説明する。 ・自己紹介を行う。 ・グループ戦略提案①の進め方について説明する。 ・グループを決定し、各グループで戦略提案を行う対象企業を決める。 ・戦略とは何か、経営戦略策定の基本プロセスと構成要素はどのようなものかについて説明する。
2	経営戦略策定のための分析：ドメイン	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・ドメインとは何か、ドメインを定義する重要性や方法、課題を説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にドメインを定義する。
3	経営戦略策定のための分析：外部環境分析（SCP モデル、ファイブフォース）	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・SCP モデル、ファイブフォースとは何か、その意義は何かを説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際にファイブフォース分析を行う。
4	経営戦略策定のための分析：内部環境分析（RBV）	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・RBV とは何か、その意義は何かを説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際に RBV 分析を行う。
5	経営戦略策定のための分析：外部・内部環境分析（3C、PEST、 SWOT）	・前回講義への質問回答を行う。 ・前回グループワーク結果の発表を行う。 ・3C や PEST、SWOT 分析などの環境分析フレームワークについて説明する。 ・戦略提案対象企業について、グループで実際に SWOT 分析を行う。
6	経営戦略策定 グループ戦略提案①発表	・前回講義への質問回答を行う。 ・各グループによる戦略提案発表を行う。
7	小括：講評と振り返り グループ戦略提案②について 経営計画策定とマネジメント　概略説明	・前回講義への質問回答を行う。 ・グループ戦略提案①の採点結果発表および講評を行う。 ・グループ戦略提案②について、対象企業の概要や進め方を説明する。 ・戦略提案②について、グループでディスカッションを行う。 ・経営戦略を具体化するための経営計画の立て方について学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
8	経営計画策定とマネジメント：新製品開発	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は新製品開発に取り組む際に、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・戦略提案②について、グループでディスカッションを行う。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
9	経営計画策定とマネジメント：資金調達と計数マネジメント	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、どのように資金調達と計数マネジメントを行えばよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
10	経営計画策定とマネジメント： M&A	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、M&A に際して、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
11	経営計画策定とマネジメント：海外市場開拓	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業はどの海外市場を開拓する際、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・戦略提案②について、グループごとに中間発表を行う。

12	経営計画策定とマネジメント：海外進出と撤退	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は海外進出する際に、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・戦略提案②について、グループでディスカッションを行う。
13	経営計画策定とマネジメント：サスティナビリティ	・前回講義への質問回答を行う。 ・中小企業は、SDGs などサスティナビリティ戦略に取り組む際に、どのように計画を策定し、マネジメントするのがよいのか、議論する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
14	経営計画策定とマネジメント：新事業開発 グループ戦略提案② まとめ	・前回講義への質問回答を行う。 ・各グループによる戦略・経営計画提案の発表を行う。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。 ・講義の振り返りと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回授業前にレジュメや関連文献に必ず目を通したうえで出席してください。
・授業終了後は、教科書の該当部分を確認し、復習をおこなってください。
・講義レポートや課題は、必ず期限までに提出してください。
・グループによる戦略提案に取り組むための準備（関連文献の調査・精読など）を必ず行ってください。
・グループによる戦略提案については、授業時間内だけでなく、授業時間外も活用して進めてください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・グロービス経営大学院編著『新版　グロービス MBA 経営戦略』ダイヤモンド社、2017 年
・丹下英明『中小企業の国際経営：– 現地市場開拓と撤退にみる海外事業の変革– 』同友館、2016 年

【参考書】
【経営戦略に関する参考書】
・網倉久永; 新宅純二郎『マネジメント・テキスト　経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年
・伊丹敬之『経営戦略の論理 〈第 4 版〉―ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』日本経済新聞社、2012 年
・入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社、2019 年
・グロービス 『ダークサイド MBA コンセプト』東洋経済新報社、2019 年
・山田英夫『ビジネス・フレームワークの落とし穴』光文社新書、2019 年
・山田英夫『競争しない競争戦略：環境激変下で生き残る 3 つの選択』日経 BP、日本経済新聞出版本部、日経 BP マーケティング、2021 年
【中小企業戦略に関する参考書】
・井上善海, 瀬戸正則ほか『中小企業の戦略：戦略優位の中小企業経営論』同友館、2009 年
・植田浩史ほか『中小企業・ベンチャー企業論– グローバルと地域のはざまで新版』有斐閣、2014 年
・奥山雅之、加藤秀雄、柴田仁夫、丹下英明『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』文眞堂、2022 年
・商工総合研究所『商工金融』
・鈴木智博『戦略的中期経営計画で会社は変わる! 後継者の経営力向上入門』プレジデント社、2019 年
・中小企業庁『中小企業白書（各年版）』
・日本政策金融公庫総合研究所『調査月報』
・日本政策金融公庫総合研究所『日本公庫総研レポート』
・日本政策金融公庫総合研究所『日本政策金融公庫論集』
・安田武彦、鈴木正明　他『中小企業論：組織のライフサイクルとエコシステム』同友館、2021 年

【成績評価の方法と基準】
・個人による成果・講義への参加姿勢（講義への貢献、グループワークへの貢献、レポート課題など）： 50%
・グループによる戦略提案の成果:50%
・60 %以上で合格。

【学生の意見等からの気づき】
・ゲスト講義時には特に、ディスカッションの時間を多めにとりたいと考えています。
・引き続き、事前録画講義を一部活用するなどによって、グループディスカッションの時間確保と充実化に努めたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・パワーポイントによる資料作成など、グループワークではＰＣを使いますので、ご準備ください。
・講義資料は、原則、2 日前までに学習支援システムに掲示します。
・課題提出は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・「経営戦略論」（土曜日開講）を受講された方（または受講される方）へ：本講義の前半（第 1～7 回）は、経営戦略の基本的な理論やフレームワークを学ぶ内容となっています。そのため、「経営戦略論」と講義内容が一部重複しています。本講義の受講を希望される方は、その点をご理解いただいたうえで、受講をご判断ください。
・教員の実務経験：株式会社日本政策金融公庫において、中小企業向け融資・審査業務に従事。その後、同公庫総合研究所に異動し、中小企業経営に関する様々な研究を行う。本授業では、これらの実務経験を踏まえて、実際の企業事例を活用した授業を行います。

【Outline (in English)】
This course provides learning about the management strategy of small and medium enterprises.
In particular, we will focus on management strategies for innovation such as new business development.

MAN500F2

マーケティング

Marketing

坂本　和子

単位数：**4 単位**
学期：**春学期授業**/Spring
授業分類：**専門講義**
基礎科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はマーケティングの基礎概念や諸理論を体系的に学び，各ケースへの取り組みなどを通して，イノベーションを起こすためのノウハウ習得やスキルの滋養を目的とする．

【到達目標】
・マーケティングの基本概念や諸理論を理解し，それを使って身の回りの事象が説明できるようになる．
・モノづくりに生かす知識と実践力を身につける．
・マーケティングの視点から経営環境の諸問題を捉え，課題解決の手がかりを習得する．
・マーケティング分析手法による市場の理解と提案スキルを身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
2 時限続きで 14 日，全 28 回の開講
教科書とスライド教材を基に講義を進める．
・各テーマにおいて，教員によるレクチャーの後，受講生によるショートケースの解説と分析を発表．その後，クラス全員で発表内容についてディスカッションする．
・提出物やプレゼンテーションに対して講評などフィードバックを実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Nature of Marketing ①	マーケティングの基礎概念，定義と意義
2	Nature of Marketing ②	演習/討議
3	Global Marketing Environment ①	マクロ分析，マネジリアルマーケティング
4	Global Marketing Environment ②	演習/討議
5	Understanding Customer Behavior ①	消費者特性と行動，消費者心理
6	Understanding Customer Behavior ②	演習/討議
7	Marketing Research and Customer Insights ①	理論フレームと調査分析，インサイト
8	Marketing Research and Customer Insights ②	演習/討議
9	STP ①	セグメンテーション，ターゲティング，ポジショニング
10	STP ②	演習/討議
11	Creating Customer Value	ゲストスピーカーによる講義，担当教員にまとめと解説
12	Value through Products and Brands ①製品開発	製品開発
13	Value through Products and Brands ②	アイディア創出
14	Value through Products and Brands ③	演習/討議
15	Value through Products and Brands ④	プロダクトライフサイクル，ブランディング
16	Value through Products and Brands ⑤	演習/討議
17	Value through Services, Relationship, Experience ①	サービス，関係性，経験価値マーケティング
18	Value through Services, Relationship, Experience ②	演習/討議
19	Value through Pricing ①	価格政策
20	Value through Pricing ②	演習/討議
21	Delivering and Managing Customer Value	ゲストスピーカーによる講義，担当教員にまとめと解説
22	Distribution: Delivering Customer Value	演習/討議
23	Integrated Marketing Communication Ⅰ①	offline
24	Integrated Marketing Communication Ⅰ②	演習/討議
25	Integrated Marketing Communication Ⅱ①	online
26	Integrated Marketing Communication Ⅱ②	演習/討議
27	Marketing Planning and Strategy ①	状況分析，マーケティング戦略
28	Marketing Planning and Strategy ②	演習/討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を目安とする．
・教科書の指定する箇所や事例を読み込み講義に臨むようにする．
・事前に指定したショートケースを読み，設問に対する回答を準備する．
・プレゼンテーションを担当する回には pdf ファイルを作成し，事前提出する．

【テキスト（教科書）】
John Fahy , David Jobber(2021), “Foundations of Marketing”(6nd Edition), UK Higher Education Business Marketing.

【参考書】
参考書は項目ごとにその都度，講義中にて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ショートケースのプレゼンテーション 50%，ディスカッションへの貢献 20 %，ゲストスピーカー講義のミニ課題 30 %，左記の割合で総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
ハイフレックス講義における工夫と満足度向上に努める．

【その他の重要事項】
「オフィスアワー」木曜日の 3 時限目（13:10～15 ： 00）

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to systematically learn the fundamental concepts and theories of marketing, and to acquire the know-how and cultivate skills to develop innovations through practical cases.

MAN500F2

ファイナンスⅠ

Finance Ⅰ

山﨑　泰明［Yasuaki YAMASAKI］

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営にとって、ファイナンスの知識は正しい意思決定を行なうにあたり極めて重要であり、ビジネスの成否を大きく左右します。本講義では、株式会社の財務的な意思決定を研究・体得する分野である「コーポレートファイナンス」について学びます。もう少し平易にいうと企業のおカネに関するマネジメントを研究する科目です。ビジネスの原理や構造、その管理法などを研究するという点では経営学の一種ですが、限られた資源をいかに効率よく利用するかを検討するという点では経済学の一種でもあります。本講義の目的は、企業経営の意思決定の重要な要因となるさまざまな「価値」の算出方法に必要な知識と実務に付随することを習得することです。ファイナンスⅠでは、主として伝統的ファイナンス理論からのアプローチを行ないます。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートを行ないます。なお、可能であるならば、ファイナンスⅡとともに受講することを望みます。

【到達目標】
以下の５つを目標とします。
①ファイナンスを身近に感じ、実務での活用を可能とする。
②資本市場の仕組みを理解する。
③主要なファイナンス理論の枠組みを理解する。
④ファイナンスの観点からの財務分析を理解する。
⑤資本市場における企業の価値決定の方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実務家のためのファイナンスの授業という点から、演算演習を交えた講義形式で行ないます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半では確認課題を出し、各自の考えや意見などの交換を行なうこととします。事業会社のＣＦＯや外資系金融機関の経営者等の実務経験者を適宜招聘し、ファイナンスの実際について各々の立場からの話を聞く機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について ④ファイナンスを身近に感じるためのクイズ
第 2 回	バリュエーション①	①リスクと期待収益率 ②投資家のリスク選好 ③要求収益率 ④将来価値と現在価値
第 3 回	バリュエーション②	①将来価値 ②現在価値 ③合理的期待形成
第 4 回	ポートフォリオ理論とＣＡＰＭ①	①ポートフォリオ理論 ②分散投資によるリスクの軽減 ③相関係数
第 5 回	ポートフォリオ理論とＣＡＰＭ②	①効率的フロンティア ②ベータ値 ③ＣＡＰＭ
第 6 回	資本予算：投資プロジェクト①	①投資プロジェクト ②キャッシュフローの予測
第 7 回	資本予算：投資プロジェクト②	①正味現在価値：ＮＰＶ ②永久年金型 ③割増永久年金型 ④ターミナルバリュー ⑤リアルオプション
第 8 回	資本予算：投資プロジェクト③	①回収期間法 ②内部収益率：ＩＲＲ ③投資価値と企業価値
第 9 回	資本コスト	①株主と金融債権者 ②ＷＡＣＣ ③財務レバレッジ
第 10 回	資本構成①	①MM命題 ②投資家の視点 ③裁定取引と一物一価 ④株式のエージェンシー費用 ⑤負債のエージェンシー費用
第 11 回	資本構成②	①余剰資金 ②資本構成の実証的事実 ③情報の非対称性 ④株価のミスプライシング ⑤株式発行の過大評価シグナル ⑥ペッキングオーダー仮説
第 12 回	ペイアウト：配当政策①	①配当政策と投資政策 ②既存株主への影響 ③株価に与える影響 ④株主への影響
第 13 回	ペイアウト：配当政策②	①配当のMM命題 ②売買に関わるコスト等
第 14 回	ペイアウト：自社株買い	①自社株買いの方法 ②自社株買いと株価への影響 ③自社株買いと市場のタイミング仮説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表には触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので、２時間程度の予習をしておくことを求めます。復習に関しては、各回の授業の後半もしくは授業後に確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に２時間程度の復習を各自で行なうようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
・講義用資料（パワーポイント）

【参考書】
リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝茂樹監訳、“コーポレートファイナンス（上）（下）”日経ＢＰ社 2014 年
森直哉著、“コーポレートファイナンス” 創成社　2018 年

【成績評価の方法と基準】
・最終確認テスト　40 %
・各回の小レポート　30 %
・授業での関与度　30 %

【学生の意見等からの気づき】
多くの意見を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel が使用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。
【オフィスアワー】
質問等は、木曜日の３限目（13:10-14:50）に受け付けます。
別途、事前に連絡をいただければ、対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

【実務家教員】
３０数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Financial knowledge is very important for corporate management to make correct decisions. It is important and has a significant impact on the success or failure of your business. In this lecture, you will learn about corporate finance.
【Learning Objectives】

The purpose of this lecture is to acquire the knowledge and practical skills necessary to calculate various "values" that are important factors in business management decision making. In Finance Ⅰ, you will mainly study traditional finance theory. We provide full support to help all students achieve a certain level of goals. If possible, I would like to take Finance Ⅱ as well.
【Learning activities outside of classroom】
Two hours of preparation and two hours of review.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination ： 40%、Short report ： 30%、in class contribution ： 30%

MAN500F2

ファイナンスⅡ

Finance Ⅱ

山﨑　泰明［Yasuaki YAMASAKI］

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業経営にとって、ファイナンスの知識は正しい意思決定を行なうにあたり極めて重要であり、ビジネスの成否を大きく左右します。本講義では、株式会社の財務的な意思決定に関わる投資理論について主に学びます。ファイナンスⅠで学ぶ伝統的投資理論を発展させたものや派生させた分野です。本講義の目的は、企業経営の意思決定の重要な要因となるさまざまな「価値」の算出について多方面からアプローチするために必要な知識と実務に付随することを習得することです。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートを行ないます。なお、可能であるならば、ファイナンスⅠとともに受講することが望ましいでしょう。

【到達目標】
以下の５つを目標とします。
①ファイナンスを身近に感じ、実務での活用を可能とする。
②資本市場の仕組みを理解する。
③株式や債券の投資について理解する。
④原資産の派生商品を知る。
⑤伝統的ファイナンス理論以外のアプローチ方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
実務家のためのファイナンスの授業という点から、演算演習を交えた講義形式で行ないます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半では確認課題を出し、各自の考えや意見などの交換を行なうこととします。事業会社のＣＦＯや外資系金融機関の経営者等の実務経験者を適宜招聘し、ファイナンスの実際について各々の立場からの話を聞く機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について ④株式投資コンテスト
第 2 回	ファイナンス概論①	①株式会社の起源と仕組み ②株式市場の仕組み ③債券市場の仕組み
第 3 回	ファイナンス概論②	①キャッシュフロー ②資金調達の構造 ③利益分配の構造 ④内部留保の構造 ⑤企業価値とは
第 4 回	証券の価格：株式	①株式の価格 ②配当割引モデル ③市場の効率性 ④ランダムウォーク
第 5 回	証券の価格：債券	①債券の利回り ②社債の価格
第 6 回	株式投資理論	①ファンダメンタルズ分析 ②テクニカル分析 ③株式投資コンテスト
第 7 回	行動ファイナンス①	①代表性バイアス ②利用可能性のバイアス ③保守性バイアス
第 8 回	行動ファイナンス②	①プロスペクト理論 ②バリュー効果 ③効率的／非効率的市場と株式市場
第 9 回	外部講師招聘	コーポレートガバナンス改革と日本市場
第 10 回	外部講師招聘	米国株式市場制度の特色
第 11 回	デリバティブ取引①	先物取引
第 12 回	デリバティブ取引②	オプション取引
第 13 回	デリバティブ取引③	①スワップ取引 ②転換社債等
第 14 回	総括	①確認テスト ②株式投資コンテストの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表には触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので事前に２時間程度の予習をしておくことを求めます。復習に関しては、各回の授業の後半もしくは授業後に確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に２時間程度の復習を各自で行なうようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
・講義用資料（パワーポイント）

【参考書】
ダニエル・カーネマン著、村井章子訳、“ファスト＆スロー（上）（下）” ハヤカワノンフィクション文庫　2014 年

【成績評価の方法と基準】
・最終確認テスト　40 %
・各回の小レポート　30 %
・授業での関与度　30 %

【学生の意見等からの気づき】
多くの意見を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel が使用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。
【オフィスアワー】
質問等は、木曜日の３限目（13:10-14:50）に受け付けます。
別途、事前に連絡をいただければ対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

【実務家教員】
３０数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Knowledge of finance is extremely important for business management in making the right decisions, and it greatly affects the success or failure of a business. In this lecture, you will mainly learn about investment theory related to financial decision making of corporations. It is a field that is a development or derivative of the traditional investment theory learned in Finance I.
【Learning Objectives】
The purpose of this lecture is to acquire the knowledge and practices necessary for a multifaceted approach to the calculation of various "values" that are important factors in corporate management decision-making. We will provide full support to ensure that all students reach a certain level of goals. If possible, it is advisable to take this course together with Finance I.
【Learning activities outside of classroom】
Two hours of preparation and two hours of review.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination ： 40%、Short report ： 30%、in class contribution ： 30%

MAN500F2

財務会計論（M 特必修）

Financial Accounting

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
財務諸表は、事業活動の成果と資産・負債等の状況を簡潔に要約し、株主・債権者等に伝達する媒体である。従って、財務諸表の内容を正確に理解できることは、経営者にとっても、また、それを支援する立場である経営管理スタッフやコンサルタントにとっても重要である。
学生は、本授業において、財務諸表（貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書等）を分析する手法を学ぶことにより、企業の経営状況の特徴を財務の視点から理解できるようになることを目指す。
公表されている上場企業の財務諸表を分析対象として用いるが、中小企業の財務会計と経営指標の特徴についても学ぶ。

【到達目標】
学生が財務諸表数値の内容を理論的に理解するだけではなく、実際に財務諸表を分析し、分析結果を解釈できるようになることを目標とする。
このため、授業内で行うグループ討議と発表において、各単元の理解度を確認するとともに、最終レポートにおいて、学生が自ら選定した企業の財務諸表分析の結果を報告することで目標達成度を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では，受講者が会計学の基本的な知識を持っていること（中小企業診断士第１次試験の「財務・会計」に合格したレベル又は「会計入門」を受講済みのレベル）を前提とする。
財務諸表分析に関するグループ討議を行い、分析結果の発表を求めることにより、財務会計に対する実践的な知識の理解を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務会計の役割と財務分析の目的 財務諸表の体系・表示方法、財務情報の入手方法	財務会計の役割と財務分析の目的について討議し、授業の到達目標を共有する。 有価証券報告書の構成、財務諸表の体系・表示方法、及び財務分析のためのデータの入手方法を学ぶ。
2	財務諸表の全体構造 財務諸表分析の方法	財務諸表の全体構造と財務諸表分析の方法を学び、実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
3	分析対象会社の選定と資本利益率の分析	分析対象会社の選定と資本利益率の分析についてグループ討議を行い、結果を発表する。
4	費用・収益の会計と分析方法 (1)	収益・費用の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
5	費用・収益の会計と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①収益性指標のうち売上高利益率、②生産性指標、③各種の収益・費用項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
6	資産の会計と分析方法 (1)	資産の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
7	資産の会計と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①収益性指標のうち資本回転率、②設備の状況、③各種の資産項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
8	負債・純資産及び税金の会計と分析方法 (1)	負債・純資産及び税金の会計と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
9	負債・純資産及び税金の会計と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①安全性指標及び財務レバレッジ、②株価関連指標、③成長性指標、④各種の負債・純資産項目の内容、⑤法人税等の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
10	キャッシュ・フロー計算書の構造と分析方法 (1)	キャッシュ・フロー計算書の構造と実際の財務諸表を用いた分析方法を学ぶ。
11	キャッシュ・フロー計算書の構造と分析方法 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いて、①キャッシュフロー関連指標、②各種のキャッシュフロー項目の内容の分析について、グループ討議を行い、結果を発表する。
12	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論 (1)	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論のまとめ方について学ぶ。
13	会計情報に基づく経営分析結果の総合的な結論 (2)	分析対象会社の財務諸表を用いた経営分析結果の総合的な結論のとりまとめについて、グループ討議を行い、結果を発表する。
14	中小企業の会計基準と財務指標の特徴	「中小企業の会計に関する指針」の概要と中小企業の財務指標の特徴を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では、ノート PC を用いた経営分析の演習を行う。グループ別に会社を選定して、分析と討議を行い、分析結果の発表を求めることによって、各種分析手法を学んでいく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著『財務諸表分析（第８版）』中央経済社（￥3,400+税）
なお、上記のテキストの改訂版等が発売された場合は、最新版を使用するが、受講において第８版でも学習に差し支えないように配慮する。

【参考書】
桜井久勝著『財務会計講義（第 23 版）』中央経済社（￥3,800+税）

【成績評価の方法と基準】
授業中に行うグループ討議結果に関する発表及び積極的な質問や発言（50 %）
最終レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
経営分析の結果を実践において活用できるようにするための体系的な考え方を身につけられるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使用する資料の配付は、授業支援システムで行う。
授業中に行うグループ討議のための情報収集、とりまとめ、発表にノート PC を利用するので、毎回、ノート PC を持参すること。

【その他の重要事項】
授業の中での活発な質問、討議と質の高い最終レポートを期待する。
＜オフィスアワー＞
春学期：月曜日 5 限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mail で連絡いただきたい。

【Outline (in English)】
Financial statements are mediums that briefly summarize the outcomes of business activities and the status of assets, liabilities, etc. and convey them to shareholders, creditors, etc. Therefore, being able to understand the contents of financial statements accurately is also important for management and for management staff and consultants who are in a position to support it.
In this class, students aim to be able to understand the characteristics of corporate management situations from a financial perspective by learning techniques for analyzing financial statements(balance sheet, income statement, cash flow statement, etc.).
We will use the published financial statements of listed companies as the analysis target, but also learn about the characteristics of financial accounting and management indicators of SMEs.

MAN500F2

管理会計論

Managerial Accounting

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計は、経営管理を支援するためにさまざまな会計情報に基づいて構築された管理システムである。本授業では、管理会計の理論を学び、実践事例を検討することにより、効果的な経営管理のための管理会計の手法を学ぶ。なお、本授業では、主として大企業の管理会計の実践事例を取り上げるが、中小企業向けに応用するための観点についても議論する。

【到達目標】
本授業では、学生が管理会計の理論を活用して、自らが所属する組織又は支援対象組織における経営管理に関する問題点を分析し、改善策の策定ができるようになることを目標とする。
管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果を発表し、最終レポートとして報告することで目標達成度を評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法は、講義を中心とするが、内容をより深く理解するために、適宜ノート PC で Excel を用いた計算演習を行う。また、最終回では、管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果の発表を求める。さらに、管理会計の理論と実務適用に関する知見を得るためにゲスト講師を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	管理会計のフレームワークと戦略分析会計	管理会計のフレームワークを学ぶとともに、経営環境分析と自社分析で利用する主要な分析手法（財務諸表分析、PPM、SWOT 分析、価値連鎖分析）について学ぶ。
2	目標利益と中期経営計画	目標利益の設定の考え方と中期経営計画の作成方法について学ぶとともに、上場企業における中期経営計画の事例を検討する。
3	バランススコアカード	バランススコアカードの考え方と適用方法について学ぶ。
4	原価の概念と原価計算	製造業における原価の概念と原価計算の方法の概要を学ぶ。
5	標準原価計算と原価管理	製造業における標準原価計算の考え方、原価差異分析の手法について学ぶ。
6	投資決定プロセスと投資経済計算	投資決定プロセスの内容と投資経済計算の手法について学ぶ。
7	短期利益計画と予算管理	短期利益計画の設定プロセス、全社予算管理、プロジェクト別予算管理の手法を学ぶ。
8	直接原価計算と CVP 分析	直接原価計算の考え方と CVP 分析（原価・営業量・利益の関係に関する分析）の手法について学ぶ。
9	事業セグメント利益管理	事業セグメント別の利益管理の考え方、内部振替価格の設定、共通費配賦の手法について学ぶ。また、企業間取引価格の設定に関連して、移転価格税制の考え方についても学ぶ。
10	コストマネジメントの諸手法	活動基準原価計算（ABC）、マテリアルフローコスト会計（MFCA）、ライフサイクル・コスティング、品質コストマネジメント等の手法について学ぶ。
11	製造業の原価管理（1）	ゲスト講師を招聘し、製造業の原価管理の考え方について学ぶ。
12	製造業の原価管理（2）	ゲスト講師を招聘し、製造業の原価管理について討議を行う。
13	学生による事例研究発表（1）	管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査結果又は特定の事例への適用例の作成を行い、その結果を発表する。
14	学生による事例研究発表（2）	前回の続きを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当する章を事前に読んでおくこと。
また、最終回に、管理会計の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例調査（自社事例調査、関連文献調査等）又は特定の事例への手法の適用例の作成を行い、その結果の発表を求める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
上總康行著『ケースブック 管理会計』新世社（￥2,550+税）

【参考書】
上總康行著『管理会計論　第２版』新世社（￥3,100+税）
吉川武男著『決定版バランス・スコアカード』生産性出版（￥2,400+税）
加登豊・李建著『ケースブック コストマネジメント 第２版』（￥2,450+税）

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う討議への積極的な参加と発表（60%）
最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】
授業中の討議・演習の機会を増やし、管理会計の考え方が体得できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
講義の内容をより深く理解するために、適宜ノート PC で Excel を用いた計算演習を行う。また、資料は e ラーニングシステムからのダウンロードによる配付のため、毎回ノート PC を持参すること。

【その他の重要事項】
授業の中での活発な質問と討議を期待する。
＜オフィスアワー＞
秋学期後半・金曜日 5 限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mail で連絡いただきたい。

【Outline (in English)】
The management accounting is a management system constructed based on various accounting information to support business management. In this class, you will learn the theory of management accounting and study management accounting methods for effective business management by examining practical cases. In this class, we will mainly focus on practical cases of management accounting of large companies, but we will also discuss the viewpoints for applying it to small and medium-sized enterprises.

MAN500F2

ビジネスと租税法

Tax Law

金田　勇［Isamu KANEDA］

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
わが国の租税法について、租税の意義から主な税目の概要まで、一通りの基本的事項を学習し、租税法を体系的に修得することを目的とする。さらに、租税法は、法律のみならず、会計、経済、経営の領域にもまたがる学際的な学問であることから、各ビジネス実務への高い対応能力を修得することも目的とする。なお、本授業は個人と法人（中小法人、大企業）に関する租税を対象としている。

【到達目標】
租税法の基本を理解したうえで、適切な事例を参照・検討しながら、租税理論と租税実務の相違点を把握して、さまざまなビジネス取引に当てはめることのできる能力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行うが。教員と学生との質疑応答や、学生からの課題の発表等によるディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	租税の意義	租税法における租税とは何か。租税の定義、根拠、種類、目的、制度沿革、原則、体系等を通じて、租税の意義を理解する。
2	租税法の意義	租税に関する学問分野の 1 つである租税法について、その体系、特色等を通じて、租税法の意義を理解する。
3	租税法の基本原則①	租税法の全体を支配する基本原則について理解する。次に、基本原則のひとつである租税公平主義とりあげて、その意義と機能について考察する。
4	租税法の基本原則②	租税法の基本原則のひとつである租税法律主義をとりあげて、その意義と機能について考察する。
5	相続税法の法源と効力	租税法の法源として、わが国の法体系を理解する。さらに、租税法の効力が及ぶ適用範囲を検討する。
6	租税法の解釈と適用	租税法を適用するためには、法の意味内容についての法解釈が重要である。裁判例等を検討することによって、様々な法解釈論を修得する。
7	課税要件総論	納税義務の成立要件たる課税要件について理解する。特に、各租税に共通の課税要件について一般的・体系的に検討する。
8	課税要件各論①	所得税の課税要件について理解する。
9	課税要件各論②	所得税の税務訴訟事例を検討する。
10	課税要件各論③	法人税の課税要件について理解する。
11	課税要件各論④	法人税の税務訴訟事例を検討する。
12	課税要件各論⑤	相続税・贈与税の課税要件について理解する。
13	課税要件各論⑥	相続税・贈与税の税務訴訟事例を検討する。
14	まとめ	授業において議論した論点や裁判例等を整理・確認しながら、授業内容を総括する。また、試験等により学生の評価も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習・復習、補助レジュメの復習、授業内で指示された課題の提出・発表の対応、裁判例等の検索・整理。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
補助レジュメを配付する

【参考書】
税務大学校講本（税務大学校 HP からダウンロード）
金子宏『租税法（第 24 版）』（弘文堂、2021）
金子宏他共編著『ケースブック租税法（第 5 版）』（弘文堂、2017）
中里実他共編『租税判例百選（第 7 版）』別冊ジュリスト No.253（有斐閣、2021）
中里実他共編『租税法判例六法（第 5 版）』（有斐閣、2021）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート・課題発表 50 %、試験 20 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
レポート等提出にあたっては、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
公認会計士・税理士として税務会計業務に精通しているので、授業内容と実務の関連性についても説明する。また専門職大学院での教員歴も長いため、資格取得のためのアドバイスも行う。

【Outline (in English)】
The purpose of this study is to systematically learn tax law by learning a general set of basic matters, from the significance of tax to the outline of major tax items, regarding tax law in Japan. Furthermore, since tax law is an interdisciplinary discipline that spans not only law but also accounting, economics, and management, the purpose is to acquire a high level of ability to respond to each business practice. This study covers taxes related to individuals and corporations (SMEs and large corporations).

MAN500F2

企業倫理

Business ethics and social responsibility requirement

徳山　誠［Makoto TOKUYAMA］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
なぜ企業不祥事は止まらないのか？ 日本の歴史、社会背景を踏まえつつ、過去に発生した企業不祥事の事例からその要因を掘り下げる。さらに不祥事のメカニズムを学び、学生が関心ある企業不祥事について調査し、議論をすることで企業不祥事に関する「自分の価値基準」を明確にする。

【到達目標】
・将来の経営幹部あるいは経営コンサルタントとして、どのような倫理観を持つべきかについて自身の価値観を明確にする。。同時に、企業倫理の重要性や必要性について、企業経営者に自分の言葉で語り、指導できるまでの知識を習得することを目標とする。
・過去に起きた企業不祥事事例を自分なりの視点（価値観）と仮説を持って洞察することで不祥事のメカニズムを習得し、組織不祥事の未然防止について議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、講義に加え、ペアワークやグループワークを行い、組織における不正・不祥事の原因を掘り下げると同時に個別事案に関する価値観の違いを認識します。そのうえで、日常身の回りに潜むリスクについて過去に起きた事例を基に「企業不祥事が及ぼす影響」について理解を深めます。
また、毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を頂き、翌週の授業で共有しフィードバックします。
自分自身が関心のある過去の企業不祥事について調査・研究し、授業内で発表し議論します。最終レポートは必須とします。課題は別途課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、受講者間のラ・ポール構築、授業の流れ他	「企業倫理」の受講理由や職業倫理についての意見交換を行い、相互理解を深める。
2	企業不祥事と企業倫理について	なぜ不祥事は起こるのか。不祥事とは？ 企業倫理とは何か？ について基本事項を考え学ぶ。
3	日本の歴史、老舗企業に学ぶ倫理観	商人道から企業倫理の伝統、老舗企業の経営理念の重みを歴史から辿る
4	不祥事を考える	企業不祥事のすべての原因は企業サイドにのみ責任があるのか？ 構成員の役割・使命を考える。
5	不祥事企業の研究（組織と個人の関係性）	企業不祥事が起きる背景について徹底討論。「組織」と「個人」のあり方を考える。
6	不正が起きるメカニズムと不正を防ぐメカニズム	「不正のトライアングル」理論を不祥事事例研究を通じて習得する。
7	日本の経営が直面する課題	コーポレートガバナンスが叫ばれる現代、企業倫理と矛盾する背景を理解する。
8	現代企業が果たすべき社会的責任	日本企業にとってＣＳＲとは？ ＣＳＲの概念と国際規範を学びＣＳＲの基本を理解する。
9	内部告発制度の背景とその功罪	公益通報者保護法成立の背景を学ぶ。不祥事は発覚している現状を過去の不祥事事例を通じて把握する。
10	コンプライアンス違反が起こる理由・背景と今後のあるべき姿	時代の変化に適応したコンプライアンス意識（「ジャスティス」より「フェアネス」）
11	受講者による企業不祥事事例研究発表Ⅰ	事例研究発表を通じて不祥事の背景にある要因を理解し今後の社会人生活の自戒の糧とする。
12	受講者による企業不祥事事例研究発表Ⅱ	事例研究発表を通じて不祥事の背景にある要因を理解し今後の社会人生活の自戒の糧とする。
13	正しいことを正しいと言える職場づくり	メラビアンの法則を活用。「働き方改革」がコミュニケーションを阻む背景を討論。
14	リスクを回避するためにできること、まとめ	「後工程、クライエントが笑顔になれるか」を基本にしたリスク管理の必要性を認識する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１．実際に自職場や周辺で起きた企業不祥事について研究調査の上レポートを作成して頂きます。
２．授業を通じて学んだ知識をベースに、「企業不祥事に関する考察」をレポートして頂きます。本授業の準備学習・復習時間は、各１時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布

【参考書】
・「倫理・コンプライアンスと CSR」（経済法令研究会）￥1600
・「もう不祥事は許さない」（生産性出版発行、￥1,800）

【成績評価の方法と基準】
①毎回の出席状況、リアクションペーパー（３０％）
②与えられた課題に対する発表内容（３０％）
③期末レポート（４０％）
これらの要素を総合評価して決定します。

【学生の意見等からの気づき】
机上の理論に終わらないよう、将来の経営コンサルタント、経営幹部候補者として役立つ事例や考え方を具体的に共有します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン持参

【その他の重要事項】
・企業、労働組合等に対し、コンプライアンス研修はじめコンサルティングをおこなっており、企業・組織で実際発生した不正・不祥事事例を授業内で生きた教材として活用します。

【Outline (in English)】
Why do corporate scandals never stop?　Based on the history and social background of Japan, we will delve into the causes of corporate scandals that have occurred in the past.　In addition, we learn the mechanism of scandals.
We will investigate and discuss corporate scandals of interest to clarify their "value standards" regarding corporate scandals.

MAN500F2

ロジカル・シンキング

Logical Thinking

村上　健一郎［Kenichirou MURAKAMI］

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ビジネスのデザインを目的として、課題解決のための論理的な仮説検証の思考方法、および、フレームワークをプロジェクトメソッドで学ぶ。まず、ロジカルシンキングの概要と原理や経営学の各分野における代表的なフレームワークを理解する。そして、自分のビジネスプロジェクトについて最新のジョブ理論とリーンスタートアップ理論によるビジネスデザインを行う。なお、ビジネスプランや論文のロジカルライティングについても説明する。（中小企業、大企業の両方向け。）

【到達目標】
目標は、各学生が、自分のプロジェクトテーマに本講義の内容を適用することによって、ビジネスのデザインを行えるようになることである。従って、毎回の講義で習得した論理思考の技法やフレームワークを自分のプロジェクトへ適用した結果を提出すること、および、そのプレゼンテーションが課せられる。これらの一連の課題を通し、デザインプロセス全体を体験してデザインの技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は 2 コマ単位で進める。資料を毎回配布し、それに基づいて講義を進めてゆく。受講者には、毎回課題が課せられ、1 コマ目はその発表と議論から始まる。基本的に下記のスケジュールで進め、学生の理解の状況によって適宜見直す。ケースメソッドではなくプロジェクトメソッドで講義を行うため、自分のビジネスプロジェクトが必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロジカルシンキングとビジネスモデル	ビジネスデザインにおける、よくある間違いについて学ぶ。また、PICT 図によりビジネス分析を行い、ビジネスモデルの基本を知る。
2	ビジネスデザインとロジカルシンキング	ビジネスデザインとロジカルシンキングとの関係について説明し、ウォーターフォールとリーンスタートアップとの２つのデザインモデルについて説明する。
3	ジョブ理論と切実な課題 JTBD	切実な課題 JTBD の発見と、それがニーズにつながるメカニズムを学ぶ。また、自分のプロジェクトについてニーズのメカニズム分析を行う。
4	論理展開	代表的な論理展開法である演繹法、帰納法、逆演繹（アブダクション）について学ぶ。また、因果関係の把握を簡単なケースを使って行う。
5	仮説思考と多段階検証	課題や解決策発見のための仮説思考について説明する。また、自分のプロジェクトに適用し、課題仮説とソリューション仮説とを立てる。
6	BMC によるビジネスデザイン	ビジネスモデルキャンバス BMC の基礎を学ぶ。また、自分のプロジェクトに適用し、９つの要素から成るビジネスモデルのデザインを行う。
7	MECE(ミーシー) とフレームワーク思考	さまざまなフレームワークの基礎となるミーシー (漏れなく、ダブりなく) を４つの例題を使って説明する。また、その落とし穴についても言及する。
8	ロジックツリー	ロジックツリーの概要と作成のコツについて説明する。また、応用として、原因追求、解決策探索のロジックツリーを自分のプロジェクトに適用する。
9	フレームワークの適用	分析や課題解決に用いられる代表的なフレームワーク 3Cs, 5Fs, SWOT の適用例を例題で学ぶ。また、これらを自分のプロジェクトへ適用して仮説検証を行う。
10	市場規模の推定	フェルミ推定によって、市場規模の予測を行う方法を学ぶ。また、自分のプロジェクトに適用して規模を推定するとともに、ビジネスとして成立するかどうかの判断を行う。
11	フレームワークの実際	ビジネスデザインで用いられる STP と 4P フレームワークを具体的に学び、自分のプロジェクトにそれらを適用してプロジェクトの改善を行う。
12	ビジネスプランの書き方	ビジネスプランの構成、要件、作成プロセスについて説明する。また、スタートアップに必要なメンターの役割、投資家へのエレベータピッチについても解説する。
13	論文の構成と要件	論文の構成、要件、作成プロセスについて説明する。論文形式 PREP について示し、取りかかり方のノウハウについても解説する。
14	ロジカルプレゼンテーションの技法	プレゼンの種類を説明し、聞き手という視点からのプレゼンの構成方法、準備が 8 割である等のノウハウ、よくある失敗例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義は反転授業の形式で進められる。即ち、講義の終わりには自分のプロジェクトテーマに講義で説明を受けたフレームワークを適用する課題が毎回課せられる。この結果は、パワーポイントやワードなどを使って文書化し、講義の冒頭で発表することが求められる。本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、pdf 化した講義資料を学習支援システムにて毎回事前配布する。参考書については、毎回の講義の中で適宜指示する。

【参考書】
理科系の作文技術（新書）、木下是雄著、中央公論新社、ISBN4-12-100624-0(￥756)
世界一やさしい問題解決の授業、渡辺健介著、ダイアモンド社、ISBN ：978-4-478-00049-6(￥1,200)
ジョブ理論、クレイトン・M・クリステンセン著、ハーパーコリンズ・ジャパン社、ISBN-10: 4596551227(￥2,160)
ビジネスモデルジェネレーション、アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、ISBN: 9784798122977（￥2,728)
リーンスタートアップ、エリック・リース著、日経 BP 社、ISBN-10: 4822248976（￥1,980）
アントレプレナーの教科書、スティーブ・ブランク著、翔泳社、ISBD-10: 4798143839（￥2,640）

【成績評価の方法と基準】
以下の 3 つの点から評価する。
(1) 毎回の課題と発表の品質 (25%)、(2) 講義への関与度と貢献度 (25%)、(3) 総合演習レポートの品質 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
アサインメントを毎回課すためにアサインメントの数が多すぎるとの指摘や、逆に、毎回アサインメントに関するプレゼンテーションを受講者全員ができるようにすべき、との相反する意見がある。前者に対しては、本講義が各学生に課せられたビジネスプロジェクトの促進の目的があること、また、アサインメントが毎回課されることを初回の講義で伝える。後者に対しては、講義時間が有限であることから、ラウンドロビンでプレゼンテーションや発言の機会を用意することにより、全体の講義を通じて平等になるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン (キーボードのついているもの、スマホでは迅速な検索や発表ができないため)

【その他の重要事項】
本講義では、学生自身のビジネスプロジェクトへ学びを適用するプロジェクトメソッドで講義を行います。例題は自分自身のプロジェクトとなります。
毎回の課題は、各自のプロジェクトのレビューと再デザインを目的としている。オフィスアワーは本講義前の５限目（16:50-18:20) としますが、プロジェクトの秘密保持のため、他の学生と重ならないように事前にメールで確認願います。
この講義には、NTT 研究所での研究実用化と論文執筆の実務経験を活かし、課題解決法とフレームワーク、および、論文執筆の基礎を織り込んでいます。

【Outline (in English)】
This course focuses on problem solving and business design. First, it introduces fundamental logical thinking methods such as induction, deduction, and abduction. Then, it refers to typical frameworks and concepts for problem solving in business management. Students are assigned to review and improve their own business projects based on the frameworks. Each lecture starts with PowerPoint presentations of the improved business projects by some students. In addition to logical thinking, this course explains logical writing principles for writing a business plan, papers, and a master thesis.

MAN500F2

コンサルティング技法

Consulting Skills

岩瀬　敦智

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小企業経営に対する助言能力の基礎について学ぶ。経営上の課題に対して「調べること、考察すること、発表すること、書くこと」という一連の基礎的な知識と実践方法を得るための授業である。具体的には企業の経営目標の達成を図るため、問題発見・問題解決プロセスに参加し、信頼感を獲得した上で、的確な指導・支援・アドバイスができるスキルを習得する。あらゆるビジネスパーソンやコンサルタントにとって必須である問題解決の基礎能力向上を図る。

【到達目標】
経営コンサルタントとして求められる問題の発見、問題の整理、課題の設定、情報収集とリサーチ、考察、プレゼンテーション、ドキュメンテーションまでの一連の流れを理解し、主体的に取り組む基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 授業形態：講義と実践を半々で行う。
(2) 授業内での発表：
・授業内での討議において、個人での積極的な発言が求められる。
・チームでのレポート作成とプレゼンテーションが求められる。
(3) フィードバック方法：良い発言は授業内で取り上げ、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義科目の目的や全体構成について	本講義の目的や全体構成における重要ポイント、経営コンサルティングや経営診断が求められるシーンについて学ぶ。
2	コンサルタントの思考法	問題形成、課題設定、課題解決技法など問題解決のプロセスの全体像を理解する。
3	コンサルティングプロセス	経営診断のための、調査の設計、アポイント、経営者へのインタビュー、診断チームのマネジメント、追加ヒアリング、最終報告会などのステップとポイントを学ぶ。
4	情報収集の技術	コンサルタントとして情報収集する際の留意点と仮説づくりについて学ぶ。仮説を補完するためのデスクリサーチとフィールドリサーチの実行方法について学ぶ。
5	問題の形成・整理と課題設定	問題を形成し整理し構造化した上で、課題を設定するための論理的思考法を学ぶ。
6	コンサルタント業の実際Ⅰ：コンサルティングファームと独立コンサルタントの業務	ゲスト講師による講演から、コンサルティングファームと独立コンサルタントの業務について求められる要件を学ぶ。 担当教員の講演についての論点整理から、自己適用可能なポイントを理解する。
7	コンサルタント業の実際Ⅱ：デザイン思考を活かしたコンサルティング技法	ゲスト講師による講演から、デザイン思考を活かしたコンサルティングと自らのコンサルティング領域を設定することの重要性を学ぶ。 担当教員の講演についての論点整理から、自己適用可能なポイントを理解する。
8	課題解決手法と効果性分析	課題を設定して、課題解決策を導出するための思考法やフィールドリサーチの実行方法を学ぶとともに、解決策の効果性を分析する手法を学ぶ。
9	ロジカルライティングとスライド作成技術	コンサルティングレポート、経営診断報告書をまとめる際のポイントや、プレゼンテーションのためのスライド作成の技術と表現方法を学ぶ。
10	コンサルタント業の実際Ⅲ：独立開業や公的支援機関における業務	ゲスト講師による講演から、独立開業や公的支援機関における業務の進め方のポイントや求められる要件を学ぶ。 担当教員の講演についての論点整理から、自己適用可能なポイントを理解する。
11	プレゼンテーション技法	コンサルティングレポートのチームプレゼンテーションや、経営診断報告に必要なプレゼンテーションの基礎から、構成法、デリバリー手法を具体的に学ぶ。
12	講師業の実際	講師業務と講師に求められる要件を学ぶ。
13	コンサルティング演習	コンサルティングケースを基に情報収集、問題形成と整理、課題設定、解決策立案を実践する。
14	コンサルティングレポート・プレゼンテーション	作成したコンサルティングレポートについて各チームによるプレゼンテーションをおこなう。 担当教員による最終まとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を目安とする。
(2) 学生は常に課題についての予習をすることが求められる。
(3) 企業のコンサルティングレポートをチームで作り上げてプレゼンテーションを行う。
(4) チームでのプレゼンテーションを担当する回には資料を作成し事前提出する。
(5) チームによるプレゼンテーションの準備は授業時間以外で行う。
(6) 個人による各種レポートは授業時間以外で作成する。

【テキスト（教科書）】
講義中に指定する。

【参考書】
講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業中の討議への参加（50 %）
・討議は一日一回の積極的な発表が求められる。討議に参加する姿勢が重要となる。
(2) コンサルティングレポートとプレゼンテーション（50 %）
・企業に対するコンサルティングレポートをチームで作成する。
・授業内でレポートについてプレゼンテーションをおこなう。
・レポート作成、プレゼンテーションは分担でおこなうが、全員参加が必須である。
・企業経営に役立つ具体的なレベルのものが求められる。

【学生の意見等からの気づき】
新規担当につき該当なし。

【その他の重要事項】
(1) 講義について
・授業の中での活発なディスカッションを期待する。
・一部、経営診断実習Ⅰを補完する要素が含まれる。
・MBA 課程の入り口の講義として、その後に求められる様々な調査のやり方の基礎を作る。
(2) 教員の実務経験について
・中小企業診断士・経営コンサルタントとして起業・独立し、13 年間にわたり中小企業の経営支援に従事している。
・コンサルティング従事で得た経験や知見を、適宜、テーマに合わせて可能な範囲で織り交ぜながら進める。

【受講要件】
実務経験 3 年以上。

【Outline (in English)】
Learn the basics of advising abilities required for business persons and consultants. It is a lesson to obtain basic knowledge and practical method.

MAN500F2

エスノグラフィのビジネス応用

Business Application of Ethnography

石山　恒貴［Nobutaka ISHIYAMA］

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
激変する社会環境において、革新的なビジネスモデルを創造するためには、お客様の潜在ニーズを把握するだけではなく、自らお客様の不便さを体感し、その解決策を創造することが求められます。お客様の潜在的な困りごとへの解決策を創造するために、フィールドワークとエスノグラフィを応用していきます。
エスノグラフィのさまざまなスキルは、ビジネスの状況を見極めるために重要ですので、中小企業向け、大企業向け、両方を対象とした内容になります。

【到達目標】
・学問分野における研究法としてのとしてのフィールドワークとエスノグラフィを理解する。
・関連領域として、学問分野における質的研究法の基礎を理解する
・学問分野とビジネスにおけるエスノグラフィの違いを理解する
・ビジネスにおけるフィールドワークとエスノグラフィの活用方法について理解し、問題設定と解決を主体的に行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学問分野としての研究法である質的研究法の基礎とフィールドワークとエスノグラフィを理解し、ビジネスへの活用方法について学ぶ。
そのうえで、受講者は、自分の組織でエスノグラフィのビジネス応用を実践し、その事例研究の結果を授業中に発表する。
またゲストによる講演を行い、エスノグラフィの実例を解説していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フィールドワークとエスノグラフィの基本	フィールドワークとエスノグラフィの基本について理解する
第 2 回	討議その 1	自分がとりあげたい組織の問題について議論する
第 3 回	エスノグラフィと行動観察の事例	代表的なエスノグラフィと行動観察の事例について理解する
第 4 回	討議その 2	ケース事例をリッチピクチャーにまとめる
第 5 回	ゲスト講演 1	エスノグラフィの考え方と事例につき、講演いただく
第 6 回	ゲスト講演 2	ゲスト講演とともに、その考え方・事例を自組織にひきつけ議論する
第 7 回	データの収集方法	フィールドワークでデータをいかに収集するかについて、理解する。効果的なフィールドノーツなど
第 8 回	討議その 3	ケース事例を因果ループ図にまとめる
第 9 回	データのコーディングと分析方法	収集したデータをいかにコーディングし、分析するかについて理解する
第 10 回	討議その 4	ケース事例の問題設定と解決施策について討議する
第 11 回	事例研究発表その 1	受講者による事例研究発表と討議
第 12 回	事例研究発表その 2	受講者による事例研究発表と討議
第 13 回	事例研究発表その 3	受講者による事例研究発表と討議
第 14 回	まとめ	授業全体のふりかえりを行い、理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分で観察可能な場所、組織、たとえば自分の組織、自分の好きなお店、自分の属する様々な団体、自分の身の回りの関心事項、などについて、実際にエスノグラフィを実践し、その結果を授業内に発表すること
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業において、都度、授業資料を配布します。

【参考書】
佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』新曜社、2006 年
高橋広嗣『半径 3 メートルの行動観察から大ヒットを生む方法』SB クリエィティブ、2015 年
ギデオン・クンダ著樫村志保訳『洗脳するマネジメント』日経 BP 社、2005 年
安斎勇樹『問いかけの作法』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2021 年

【成績評価の方法と基準】
授業における討論参加の状況による得点（35 点）と各自が担当する事例研究発表の得点 (65 点）の合計点により評価する

【学生の意見等からの気づき】
エスノグラフィを行うためのさまざまな手法が、企業の状況を見極めるための基本的なスキルとして重要であるとのご意見をいただいた。
また、実際に授業で学んだ手法を用いたところ、業務改善に大きな成果（売上向上、効率化など）があったとの報告をいただいた。そこで、実際の業務に応用可能となるよう留意しつつ、エスノグラフィのさまざまな手法について、わかりやすく解説し、討議を促進して理解を深めることに努める

【その他の重要事項】
授業開始前または終了後に質問を受け付ける
3 社の企業における実務経験に基づき、組織エスノグラフィとしての解説の観点を盛り込む

【Outline (in English)】
Outline and objectives
The aim of this course is to help students acquire
an understanding of the fundamental principles of
fieldwork and ethnography.
The various skills of ethnography are important for identifying business situations, so the content will be geared towards both small and large companies.
Goal
At the end of the course, participants are
expected to explain the essential concepts of business ethnography and understand the basics of qualitative research methods in academic fields.
Work to be done outside of class
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%,in class contribution: 35%

MAN500F2

経営情報戦略

Business Innovation and IT Strategy

大塚　有希子

単位数：4 単位
学期：春学期授業/Spring
授業分類：専門講義
基礎科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営情報戦略の目的は、主として一般企業（事業会社）の経営改革を担当する要員が身につけるべき知識とスキル、気づきをチーム演習・発表、相互評価を通じて、実践的な力を身につけることである。経営改革の必要性を理解し、経営戦略立案に対応するビジネスモデルを支援する IT 戦略について学ぶ。春学期を通して一貫したコンサルティング事例として実践体験しながら、業務効率化・ＤＸ化などの経営情報化ビジネスモデルを創出することで、必要なマネジメント、創造力のスキルを身につける。授業内容は、中堅中小企業を対象としている。

【到達目標】
①知識・思考：経営情報戦略に関する考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じて経営情報戦略の知識やスキルを使って課題を解決できる。
③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、経営情報戦略に関心を持ち、経営情報戦略マネジメントに関する各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
座学で、経営情報戦略に関する考え方や知識を説明する。チーム演習では、講師から経営情報戦略に関係する演習課題を提示するので、チームまたは個人で、経営情報戦略に関する知識や考え方、さらには幅広い観点から演習課題を検討し、発表またはレポートを作成して相互評価、相互学習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	イントロダクション	講義全体概要、授業の進め方、経営情報化戦略の背景とトレンド、チーム・マネジメント
第 02 回	チームビルディング	チーム・ビルディング、チーム・アセスメント
第 03 回	チーム・ビルディング、チーム・アセスメント	ビジョン・ミッション、ポートフォリオ・マネジメント、プロダクト・ライフサイクル、DX のトレンド
第 04 回	経営ビジョン（演習）	ミッション・ステートメント、エイベルの事業ドメイン（AsIs）
第 05 回	ビジネス・アナリシス	ビジネス・アナリシスとは、ステークホルダー分析、経営戦略と潜在要求の発見、要求の妥当性確認
第 06 回	要求分析（演習）	ステークホルダー分析と要求引き出し、要求のトレーサビリティ、要求の優先順位づけ（仮）
第 07 回	環境分析と重要成功要因	内部環境分析、外部環境分析、重要成功要因
第 08 回	環境分析と重要成功要因（演習）	SWOT 分析、クロス分析、重要成功要因（仮）抽出
第 09 回	ボトムアップのソリューションデザイン	特性要因図、妥当性確認（重要成功要因、要求トレーサビリティなど）
第 10 回	ソリューション検討（演習）	特性要因図、妥当性確認（重要成功要因、要求トレーサビリティなど）
第 11 回	イノベーション・ソリューションデザイン	システム × デザイン思考、リフレーミング、新市場の発見、プロトタイプ、イノベーションのジレンマ
第 12 回	イノベーション・ソリューションデザイン（演習）	リフレーミング、二軸図、プロトタイプまたはアンケートと調査
第 13 回	顧客視点によるソリューションデザイン	プロダクトアウトとマーケットイン、事業ドメイン、顧客視点によるビジネスモデル
第 14 回	顧客視点によるソリューションデザイン（演習）	エイベルの事業ドメイン（ToBe）、ビジネスモデル・キャンバス作成、妥当性確認（これまでの成果）
第 15 回	ソリューションの具体化	機能要求と非機能要求、要求引き出しに関するガイドライン、業務フロー、日本版 EA、SOA
第 16 回	ソリューションの具体化（演習）	業務フロー図、ペルソナ・シナリオ・デザインによる機能要求引き出し、妥当性確認
第 17 回	リスクマネジメントとソリューション選定	リスクマネジメントのプロセス、リスク分析、リスク対応、課題管理、リスクコントロール、ソリューション選定手法
第 18 回	リスクマネジメント（演習）	RBS とリスク登録簿、ソリューション比較
第 19 回	経営情報戦略の可視化とスコープ定義	プログラム・マネジメント、フィージビリティ・スタディ、経営情報戦略の可視化
第 20 回	経営情報戦略の可視化（演習）	妥当性確認のうえ → 重要成功要因確定、戦略の可視化、経営情報戦略企画書作成
第 21 回	IT システムの調達マネジメント	調達マネジメントの概要、提案依頼書、入札説明会、契約形態とリスク、キックオフミーティング、ベンダーマネジメント
第 22 回	RFP と提案評価基準作成（演習）	提案依頼書（ＰＦＰ）作成、提案評価項目作成
第 23 回	プロジェクト・マネジメント	プロジェクト・マネジメントの基礎、発注側と受注側のトレンド、成功するプロジェクト・マネジメント
第 24 回	プロジェクト計画	プロジェクト憲章（プロジェクト・マネジメント計画書）作成
第 25 回	経営情報戦略の視点	外部講師による事例とテーラーリング
第 26 回	経営情報戦略の視点	外部講師による事例とテーラーリング
第 27 回	発表会・テスト	発表会・講評・外部講師による事例
第 28 回	テーラーリングと全体振り返り	外部講師による事例とテーラーリング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。また、演習の課題が提示されている場合には、事前に、読んでおき、関連情報を収集するなどの準備をしてチーム演習に臨むこと。ハイブリッド形式の授業に鑑み、オンライン・ホワイトボード Miro を活用する。授業中にレクチャーを行うが操作練習用ボードを事前に提供する。
復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、チーム演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。授業時間内に終了しなかった個人ワーク、グループワーク等を次回までに完成させる。

【テキスト（教科書）】
テキストは、講師が資料を提示する。

【参考書】
講師が授業中に指定する場合がある

【成績評価の方法と基準】
・講義、チーム演習への参加姿勢（50%）、指定の提出物（50%）
・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習や個人レポート作成を行う。
・参加度合いが 60%に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
ITC ケース研修科目、プロジェクトマネジメント科目との関連や必要なツールと技法を紹介する。
コースの全体像を毎回共有し、全体の中での位置づけを認識できるようにする。
オンラインホイトボードの利用について習熟差を極力なくすよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、パソコンを授業に持参すること（講義資料の閲覧、チーム演習、発表に際に必要）

【その他の重要事項】
・イノベーティブな IT ビジネスのデザインに興味がある場合は「プロジェクトデザインマネジメント（秋学期後半）」の受講により更に理解が深まる。
・経営情報戦略に関する資格取得を目指す場合は「ＩＴＣケース研修」の受講も推奨する
・担当教員は、これまでに経営情報戦略に関連した大手企業および中小企業のコンサルティング、教育、制度設計の実務経験を有する。また、金融機関における融資審査、経営革新支援法元審査委員等の経営戦略評価の実務経験を有する。中小企業庁の優秀アドバイザー賞受賞。
・質問・相談がある場合には、
1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
2. 講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
The objective of the management information strategy is to provide practical power through team exercises and presentations, mutual evaluation, knowledge, skills, and awareness that personnel in charge of management reform of business companies should acquire. Understand the necessity of management reform and learn about IT strategies to support business models that correspond to management strategy planning. Through practical experience as a consulting case study throughout the spring semester, students will acquire the necessary management and creativity skills by creating business models such as business efficiency, DX and so on.

MAN500F2

消費者行動論

Theory of Consumer Behavior

坂本　和子

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学や社会学など多くの領域で学際的な研究が進む消費者行動論について，マーケティング戦略，特にモノづくりに生かすための基礎概念，諸理論を理解する．さらにさまざまな事例を通して，消費者視点での市場の捉え方や社会で活用するための方法論について学び，実践力を身につける．

【到達目標】
・消費者行動における基礎理論を理解する．
・消費者行動がマーケティング戦略を構築する上でどう関わってくるかを理解する．
・消費者心理を科学的に分析する技術を身につける．
・知識の体系的理解を深め，問題解決に生かすことができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
製品開発や販売促進に必要な消費者行動の基礎知識習得のため，デザイン学や言語学などの学際的アプローチを行う．スタンフォード大やデルフト工科大のケースメソッドや演習等を取り入れ，授業内での発表やディスカッション等を実施するなど，講義と演習をバランス良く組み合わせた形態とする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容と消費者行動に関する研究領域について概説する．
第 2 回	消費者行動における問題認識と購買意思決定	問題認識，ニーズの分類，購買意思決定のプロセスについて説明する．
第 3 回	消費者行動における情報探索と選択肢評価	内的・外的情報検索，選択評価，決定方略等について説明する．
第 4 回	消費者の態度形成	フィッシュバインモデルを中心に態度の形成と変容について説明する
第 5 回	消費者の関与と個人特性	関与の種類とどのような時にそれが高まるのかを解説する．またパーソナリティやライフスタイルなど個人的影響要因についても言及する．
第 6 回	消費者行動への心理学的アプローチ①（知覚，記憶）	五感を通じて外界から選択的に情報を入手して意味づけを行う知覚について説明する．
第 7 回	消費者行動への心理学的アプローチ②（学習，動機づけ）	古典的条件付けとオペラント条件付けという２つの学習プロセスについて検討し，マーケティングにどう活用されているのかを説明する．
第 8 回	消費者行動への社会学的アプローチ	社会や文化による消費者特性が購買に与える影響について解説する．
第 9 回	デザインと消費者行動①	デザインシンキングによる消費者の理解と製品開発への応用を解説する．
第 10 回	デザインと消費者行動②	消費者のデザイン嗜好や国際比較に関する傾向や最新トピックについて解説する．
第 11 回	消費者行動の調査と分析	ヒアリング，調査票調査の方法と分析について解説する．
第 12 回	価格とブランドからアプローチする消費者行動	消費者の心理動向と価格，ブランドの態度形成等について解説する．
第 13 回	レポート課題報告会	レポート課題に関する発表と講評を行う．
第 14 回	まとめ	全体の総括を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回ではないが，次回までのミニ課題を提示する．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業毎に資料を配布する．

【参考書】
Marketing and Design Management,Margaret Bruce and Rachel Cooper,INTERNATIONAL THOMSON BUSINESS PRESS，1997
HOW TO RESEARCH TRENDS,Els Dragt,B/S PUBLISHERS,2017
消費者理解のための心理学，杉本徹雄，福村出版，1997

【成績評価の方法と基準】
レポート 60 %と授業への積極的関与 (プレゼンテーションほか）40 %として，総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
演習と講義をバランスよく組み込んだ授業とする。テクニカルタームなど分りにくい言葉がある際は、事例などを駆使して理解を深めるよう努力する．
グローバルレベルでのビジネスに対応するため、海外トレンド情報を網羅する．

【Outline (in English)】
The consumer behavior theory has been studied in the interdisciplinary domain of many, such as psychology and sociology. This course deals with the basic concept and theories for employing in production efficiently. It also enhances the development of students' skill in analyzing markets from various cases and utilizing in society.

MAN510F2

創業・ベンチャー起業論

Entrepreneurship

丹下　英明

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【目的】
本講義では、創業・ベンチャー起業について、企業の成長ステージに応じた特有の経営課題（ビジネスモデルの構築、経営資源の確保・充実など）について、総合的かつ実践的な指導・支援・アドバイスができるスキルを修得することを目的としています。
また本講義では、支援スキル習得のため、実際にグループでビジネスプランを策定していただきます。そのため、本講義は、創業に関心のある方だけでなく、大企業内で新事業開発を目指す方や、大企業から独立しての起業を目指す方など、大企業向けも想定した講義内容となっております。幅広い方の受講をお待ちしております。
【概要】
第 1～6 回講義では、創業・ベンチャーのビジネスモデル構築、経営資源の確保・充実、ビジネスプラン作成等における成功要因について学んでいただきます。
第 7～14 回講義では、創業・ベンチャーの課題発見・解決のための助言の進め方について学んでいただきます。
また講義全体を通じて、グループでビジネスプランを策定していただきます。
以上を通じて、創業を成功させるためのビジネスモデルの構築や、経営資源の確保・充実について的確な助言ができるようになることを目指します。

【到達目標】
1. 創業を成功させるためのビジネスモデルの構築や経営資源の確保・充実について的確な助言ができる。
2. 創業プロセスを理解したうえで、みずからビジネスプランを作成し、プレゼンテーションすることができる。
3. 創業・ベンチャー支援における中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」　に関連

【授業の進め方と方法】
【授業形態、授業内での発表】
講義では、基本的知識や理論の説明を行い、みなさんとディスカッションを行います。
また、グループに分かれてビジネスプランを作成していただきます。第 7 回の講義ではグループで作成したビジネスプランの中間発表を、第 13 回の講義では、最終発表をしていただきます。
【課題提出とフィードバック】
講義終了後は、感想や意見、質問をまとめた「講義レポート」を毎回提出いただきます。次回講義の冒頭に、講義レポートのなかから、皆様の感想や意見をいくつか紹介するとともに、質問に回答することで、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 創業・ベンチャーへの助言能力養成：支援機関の事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・授業計画、授業内容および成績評価について説明する。 ・グループによるビジネスプラン作成の進め方について説明する。 ・支援機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
2	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：事業アイデアの創出、評価、事業コンセプト固め	・ビジネスプラン作成におけるプロセスのうち、①事業アイデアの創出、②事業アイデアの評価、③事業コンセプト固めについて、説明する。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
3	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：事業アイデアの創出、評価	・前回講義への質問に回答する。 ・各人が事前に考えた事業アイデアを発表する。 ・他者が発表した事業アイデアについて、①革新性、②実現性、③発展性の視点から評価する。
4	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：チームビルディング、事業コンセプト固め	・グループを決定し、各グループで事業コンセプトを固める。
5	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：ビジネスプランの作成、経営資源の確保・充実	・前回講義への質問に回答する。 ・ビジネスプラン作成におけるプロセスのうち、④ビジネスプラン作成について、説明する。 ・創業・ベンチャーの経営資源の確保・充実について、説明する。
6	創業・ベンチャーのビジネスモデル構築支援：ビジネスプランの作成	・各グループでビジネスプラン作成を進める。
7	ビジネスプラン中間発表	・前回講義への質問に回答する。 ・各グループで考えたビジネスプランについて、中間発表を行う。
8	ビジネスプラン中間発表への講評	・各グループで考えたビジネスプランについて、中間発表を行う。 ・教員よりビジネスプラン中間発表への講評を行う。 ・講評を踏まえて、各グループでビジネスプラン作成を進める。
9	創業・ベンチャーへの助言能力養成：金融機関の事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・前回講義への質問に回答する。 ・金融機関の事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
10	創業・ベンチャーへの助言能力養成：ディスカッション	・ゲスト講師による講演を踏まえて、創業・ベンチャーへの助言についてグループでディスカッションを行う。 ・各グループでビジネスプラン作成を進める。
11	創業・ベンチャーへの助言能力の養成□起業事例を通じた創業・ベンチャーに対する課題発見・解決	・前回講義への質問に回答する。 ・起業事例から、創業・ベンチャーの課題発見・解決に向けた助言の進め方を学ぶ。 ・ゲスト講師による講演・担当教員によるまとめを行う。
12	創業・ベンチャーへの助言能力養成：ディスカッション	・ゲスト講師による講演を踏まえて、創業・ベンチャーへの助言についてグループでディスカッションを行う。 ・各グループでビジネスプラン作成を進める。
13	ビジネスプラン最終発表	・前回講義への質問に回答する。 ・各グループで作成したビジネスプランをパワーポイントまたはワードを用いて発表してもらう。
14	ビジネスプラン最終発表総括	・各グループで作成したビジネスプランをパワーポイントまたはワードを用いて発表してもらう。 ・教員よりビジネスプランの講評を行う。 ・最後に、講義の振り返りと質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回授業前にレジュメや関連文献に必ず目を通したうえで出席してください。
・授業終了後は、教科書の該当部分を確認し、復習をおこなってください。
・講義レポートや課題は、必ず期限までに提出してください。
・グループでのビジネスプラン作成に取り組むための準備（関連文献の調査・精読など）を必ず行ってください。
・グループによるビジネスプラン作成ついては、授業時間内だけでなく、授業時間外も活用して進めてください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・グロービス経営大学院『グロービス MBA ビジネスプラン』ダイヤモンド社、2010 年
・ダイアナ・キャンダー著 ; 牧野洋訳『Startup : スタートアップ : アイデアから利益を生みだす組織マネジメント』新潮社、2017 年

【参考書】
・エリック・リース著 ; 井口耕二訳『リーン・スタートアップ : ムダのない起業プロセスでイノベーションを生みだす』日経 BP 社、日経 BP マーケティング、 2012 年
・スティーブン・G. ブランク, ボブ・ドーフ著 ; 堤孝志, 飯野将人訳『スタートアップ・マニュアル : ベンチャー創業から大企業の新事業立ち上げまで』翔泳社、2012 年
・スティーブン・G・ブランク著 ; 堤孝志, 渡邉哲訳『アントレプレナーの教科書 : シリコンバレー式イノベーション・プロセス』翔泳社、2016 年
・長谷川博和『ベンチャー経営論』東洋経済新報社、2018 年

・柳孝一『ベンチャー経営論: 創造的破壊と矛盾のマネジメント』日本経済新聞社、2004 年

【成績評価の方法と基準】
・個人による成果・講義への参加姿勢（講義への貢献、グループワークへの貢献、レポート課題など）☒ 50%
・グループによるビジネスプラン作成の成果:50%
・60 %以上で合格。
・最終講義時までに、各チームで作成したビジネスプラン（データ）を合わせて提出すること。

【学生の意見等からの気づき】
・グループワークの時間を講義内になるべく設けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・パワーポイントによる資料作成など、グループワークではＰＣを使いますので、ご準備ください。
・講義資料は、原則、2 日前までに学習支援システムに掲示します。
・課題提出は、学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・教科書については、夏季休暇中に目を通したうえで、講義に臨んでください。
・第 1 回講義までに以下の課題を提出していただきます。詳細につきましては、別途事前にご連絡させていただきます。
「事前課題
　自分がやってみたいと考えるビジネスアイデアを一つあげて、A4 用紙 1～2 枚程度で概要を説明してください。」
・教員の実務経験☒株式会社日本政策金融公庫において、中小企業向け融資・審査業務に従事。その後、同公庫総合研究所に異動し、中小企業経営に関する様々な研究を行う。本授業では、これらの実務経験を踏まえて、実際の企業事例を活用した授業を行います。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to acquire skills that can give practical advice to startups.
In addition, in order to acquire support skills, you will be asked to create a business plan in a group.

MAN510F2

プロジェクト・デザインマネジメント Ⅰ

Project Design Management Ⅰ

大塚　有希子

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトとは、特定の使命を受けて、特定期間に、資源、状況など特定の制約条件の下で達成を目指す、将来に向けた価値創造事業である。プロジェクトの特徴は、①目的を達成する活動である、②特定された始まりと終了の時点がある、③使用できる資源の制約がある、④ある特定の成果を出すあるいは特定の問題や課題を解決するので何を達成するのか明確であり成否がはっきりわかる。プロジェクトマネジメントは、プロジェクトを成功に導くために、事業主体や他のステークホルダーの要求事項や期待を充足する、またはそれ以上の成果を上げるために、最適な知識、技術、ツールそして技法を適用することである。本授業は、座学でプロジェクトマネジメントに関する知識、スキルを理解し、チーム演習を通じて、プロジェクトマネジメントの適用を体得する。

【到達目標】
①知識・思考：プロジェクトマネジメントに関する基礎的な考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じてプロジェクトマネジメントの知識やスキルを自業務にテーラリングできる。
③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、プロジェクトマネジメントに関心を持ち、自己のプロジェクトに活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
座学で、プロジェクトマネジメントに関する体系、知識、プロセス、ツールと技法を説明し、プロジェクト推進に求められるスキルを伝える。各自の論文またはビジネスの実プロジェクトを題材にグループ演習と個人演習を行う。講義部分についてはビデオ教材を利用する場合もある。
オンラインによる参加も認めるが、指示がある場合は対面にて参加のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	はじめに、プロジェクトとは	プロジェクトとは、プロジェクトマネジメントとは、組織とプロジェクト、プログラムマネジメントとプロジェクトマネジメントについて説明する
第 02 回	プロジェクト、プロジェクトマネジメントに関するチーム演習	プロジェクト、プロジェクトマネジメントに関するチーム演習を行う。
第 03 回	ステークホルダーの要求分析とスコープマネジメント	スコープマネジメントとステークホルダーの要求分析について説明する。
第 04 回	ステークホルダーの要求とスコープマネジメント演習	ステークホルダーの要求引き出しと構造化演習
第 05 回	チーム・マネジメント	人的資源、チム・コミュニケーションについて説明し、演習する。
第 06 回	リスクと変更管理	問題発生時の対応について説明し、演習する。
第 07 回	ステークホルダー・マネジメント	ステークホルダー特定、マネジメント計画、エンゲージマネジメント、エンゲージ・コントロールについて説明する。
第 08 回	スコープ＆スケジュールマネジメント	スコープ＆スケジュールその他のマネジメントに関して説明する
第 09 回	スコープ＆スケジュールマネジメント	スコープ定義、WBS、スケジュールについて説明する。
第 10 回	モニタリング＆コントロール	プロジェクトの進捗管理について説明する。
第 11 回	プロジェクトマネジメントの実務事例	外部講師による講演
第 12 回	プロジェクトマネジメントの実務事例	外部講師による講演
第 13 回	その他のマネジメント	その他のマネジメント項目について説明する。
第 14 回	前回のまとめ	まとめおよび事例紹介、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。
復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは、講師が Powerpoint 等を使った資料を提示する。

【参考書】
授業中に講師が指示する
「プロジェクトマネジメントの教科書」（著者　山戸昭三　出版社 大学教育出版）ISBN978-4-86692-222-5 C3034

【成績評価の方法と基準】
・講義・演習への参加姿勢（40%）、提出物（60%）
・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
・ビデオ学習を行った場合はクイズにて理解確認を行う。
・参加度合いが 75%（21 コマ=2100 分=35 時間）以上に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
経営情報戦略科目およびＩＴＣケース研修との関連や必要なツールと技法を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、PC 持参のこと（講義および自プロジェクトなどの資料の閲覧、演習、発表に際に利用）。

【その他の重要事項】
・単独での受講も可能であるが「プロジェクトデザインマネジメント（秋学期後半）」の受講も推奨する。
・ＩＴプロジェクトに興味がある場合は、「経営情報戦略」「ＩＴＣケース研修」にてマネジメントすべきＩＴプロジェクトの設定を学ぶことができる。
・講師はシステムデザイン・マネジメントの学位を持ち、プロジェクトマネジメントとソリューションデザインに関する研究およびコンサルティング、教育、制度設計などの実務経験がある。ＰＭＰ、ＩＴコーディネータ、ＣＢＡＰの資格も有する。
・質問・相談がある場合には、
1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
2. 講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
A project is a value-creating enterprise that takes a specific mission and aims to achieve it in a specific period of time and under specific constraints.
A project is characterized by (1) being an activity that achieves an objective, (2) having a specified beginning and end point, (3) having constraints on the resources available, and (4) being unique and risky compared to routine work. Project management is the application of the most appropriate knowledge, skills, tools, and techniques to successfully complete a project, meeting or exceeding the requirements and expectations of the various stakeholders. In this course, students will gain an understanding of project management knowledge and skills in the classroom through exercises on their own projects.

MAN510F2

Project Design Management (Japanese curriculum)

Project Design Management

大塚　有希子［Yukiko OTSUKA］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period.The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood.Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success.In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises. The content of the lesson is for small and medium-sized enterprises.

【到達目標】
1). Knowledge and thinking: thinking about the project management knowledge and skills required to understand.
2). Skills and expression: specifically through the challenges can be resolved issues using the project management knowledge and skills.
3). Interest, attitude and motivation: can use project management through a team practice, have interest in the project manager.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
First, at lecture, explain the system, knowledge, process, tools and techniques related to project management, and convey the skills required of the project manager. In the exercise, exercises related to project management are presented from the lecturer, so study or exercise is studied by the team or individual from the knowledge and thought learned in the lecture and from a wide range of perspectives, and a presentation or report is prepared.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Episode 01	Introduction, what is a project.	April 11, 2020 : 5 time period. Project, explain about project management, organization and project, program management and project management.
Episode 02	Team exercises on projects and project management.	April 11, 2020 : 6 time period. Team exercises on projects and project management.
Episode 03	Project integration management (initial stage)	April 18, 2020 : 5 time period. Explanation of project charter, confirmation of project goal, preparation of project plan.
Episode 04	Team exercises on project integration management (initial stage).	April 18, 2020 :6 time period. Team exercises on project integration management (initial stage).
Episode 05	Project Integrated Management (Execution ,Monitoring & Control stage)	April 25, 2020 : 5 time period. Explanation of leadership and project management, integrated (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 06	Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).	April 25, 2020 : 6 time period. Team exercises on project integration management (Execution ,Monitoring & Control stage).
Episode 07	Stakeholder Management	May 2, 2020 : 5 time period. Explanation about stakeholder identification, management plan, engage management, engage control.
Episode 08	Team exercises on stakeholder management.	May 2, 2020 : 6 time period. Team exercises on stakeholder management.
Episode 09	Scope management	May 9, 2020 : 5 time period. Explanation about Scope definition, WBS creation.
Episode 10	Team exercises on scope management.	May 9, 2020 : 6 time period. Team exercises on scope management.
Episode 11	Resilience(1) of Project Manager	May 16, 2020 : 5 time period. Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch.
Episode 12	Resilience(2) of Project Manager	May 16, 2020 : 6 time period. Guest lecturer: Mr. Hidetaka Nakajima Executive Director, PMI Japan Branch.
Episode 13	Schedule management	May 23, 2020 :5 time period. Explanation about Activity definition, Sequence setting, Resource estimate, Duration estimation, Schedule creation.
Episode 14	Team exercises on schedule management.	May 23, 2020 :6 time period. Team exercises on schedule management.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation
Lecture materials on the class schedule (class theme and contents of each class) will be posted in advance, so prepare and learn about themes related to the lesson through literature survey etc.
Review / Homework
Based on the class schedule (each lesson theme and contents), team exercises are conducted, so review the points to be arranged and unclear points. If you still have any questions, do a literature survey or ask the instructor.(As a standard, 2 hours for preparation and 2 hours for review: a total of 4 hours.)

【テキスト（教科書）】
For the text, the instructor presents materials using Powerpoint etc.

【参考書】
1) A guide to the Project Management Body Of Knowledge 6th Edition,Project Management Institute,2017.
2) IT project management by WBS/EVM 978-4-88373-274-6
Shoso Yamato, Kenichi Nagachi, Soft Research Center,2009.

【成績評価の方法と基準】
· Attitude to participate in lectures (30%), Participation in team exercise (30%), Mutual evaluation (40%)
· Team exercises and report preparation using knowledge learned in the lecture and information studied by oneself.
· Team exercises and evaluations are carried out every time.
· In the case of team exercises, conduct studies by mutual assessment by students, attitudes towards consideration, enthusiasm, presentation and question-and-answer.
· If the degree of participation is less than 75% (21frames= 2100minutes= 35hours),it is not subject to evaluation.

【学生の意見等からの気づき】
ITC Case Training Course, Management Information Strategy Course and the necessary tools and techniques are introduced.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring their own personal computer or lending computer to the class. It is necessary for viewing lecture materials, team exercises and presentations.

【その他の重要事項】
· Each lesson classroom is Hosei University New Hitokuchizaka School Building 501 classroom.
· Each lesson day is described before each lesson content of the lesson plan, and the lesson time is 5 time period (16:50-18:30) and 6 time limit (18:35 - 20:15) in principle.
· Instructors have been involved in management diagnosis, advice, management strategy planning, business reform, resource procurement, system development, system audit, information security audit, system operation support, etc. of major IT companies and SMEs related to management information strategy. He has practical experience and is qualified as a PMP, SME consultant, technician [Information Engineering Department, Comprehensive Technology Management Department], IT coordinator, and system audit technician.
· If there is a question or consultation,
1. Please tell the lecturer by e-mail the question / consultation details (date, question, etc.), desired date and time etc.
2. Please wait for contact from the instructor.

【Outline (in English)】
Project is activities for future creating value under a specific mission and certain constraints such as resources or situation during a certain period. The characteristics of a project are: (1) activities to achieve the purpose, (2) there is a point of start and end specified, (3) there are restrictions on resources that can be used, (4) Since it gives out a specific result or solves a specific problem, it is clear that what to accomplish is clear, so the success or failure is clearly understood. Project management apply optimal knowledge, technology, tools and techniques to satisfy the requirements and expectations of business entities and other stakeholders or to achieve further results in order to lead the project to success. In this lesson, we understand the knowledge and skills of project management at lecture, and acquire the application of project management through team exercises. The content of the lesson is for small and medium-sized enterprises.

MAN510F2

プロジェクト・デザインマネジメントⅡ

Project Design Management Ⅱ

大塚　有希子

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プロジェクトとは、特定の使命を受けて、特定期間に、資源、状況など特定の制約条件の下で達成を目指す、将来に向けた価値創造事業である。ビジネスや製品・サービスの創造、研究、インベントなど様々なプロジェクトがあるが、イノベーティブで価値ある成果物を創造するために、以下の３つ体系と手法を学ぶ。①デザイン思考（新しい視点でイノベーティブなデザインを発想する思考法）②システム思考とシステムエンジアリング（アイデアを論理的に構造化し、全体と部分の整合性を明確にするための体系）③ビジネス・アナリシス（ビジネス視点と顧客視点の要求からソリューション＝解決策を創出するための要求分析体系）また、イノベーティブや発想やステレオタイプに陥らない組織風土づくりについても学ぶ。

【到達目標】
①知識・思考：プロジェクトマネジメントとビジネスや製品・サービスなどのアイデア創出にに関する基礎的な考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じてプロジェクトマネジメントやシステム × デザイン思考の知識やスキルを自業務にテーラリングできる。
③意欲・関心・態度等：演習を通じて、プロジェクト・デザインに関心を持ち、プロジェクトに活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
座学で、プロジェクトマネジメントやシステム × デザイン思考に関する体系、知識、プロセス、ツールやフレームワークなどを説明し、プロジェクト・デザインに求められるスキルを伝える。各自の論文またはビジネスの実プロジェクトを題材にグループ演習と個人演習を行う。講義部分についてはビデオ教材を利用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	はじめに、プロジェクト・デザインとは	プロジェクトおよび成果のデザイン、それらを検討する体系
第 02 回	プロジェクトおよび成果のデザイン、それらを検討する体系	イノベーティブで価値のある成果を創出するためのプロジェクトマネジメント
第 03 回	システム × デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの紹介
第 04 回	システム × デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの適用
第 05 回	システム × デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの紹介
第 06 回	システム × デザイン思考	既存のステレイタイプな視点をブレークスルーする手法やツールの適用
第 07 回	要求分析とビジネスアナリシス	ビジネス・アナリシス体系とビジネス・顧客とソリューションのトレーサビリティ、および要求分析の説明
第 08 回	要求分析とビジネスアナリシス	要求分析およびトレーサビリティの演習
第 09 回	要求の妥当性確認とシステムエンジニアリング	システムエンジアリング体系の紹介と要求の妥当性確認についての説明
第 10 回	要求の妥当性確認とシステムエンジニアリング	要求妥当性確認の演習
第 11 回	プロジェクトデザインの事例	外部講師による講演
第 12 回	プロジェクトデザインの事例	外部講師による講演
第 13 回	まとめと最終発表	まとめ・発表および事例紹介、テスト
第 14 回	まとめと胚珠発表	まとめ・発表および事例紹介、テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。復習・宿題等授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは、講師が Powerpoint 等を使った資料を提示する。

【参考書】
授業中に講師が指示する

【成績評価の方法と基準】
・講義・演習への参加姿勢（40%）、提出物（60%）
・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
・ビデオ学習を行った場合はクイズにて理解確認を行う。
・参加度合いが 75%（21 コマ=2100 分=35 時間）以上に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
経営情報戦略科目およびＩＴＣケース研修との関連や必要なツールと技法を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、PC 持参のこと（講義および自プロジェクトなどの資料の閲覧、演習、発表に際に利用）。

【その他の重要事項】
・単独での受講も可能であるが「プロジェクトデザインマネジメント（秋学期前半）」の受講も推奨する。
・ＩＴを利用したイノベーティブ・プロジェクトに興味がある場合は「経営情報戦略」においてビジネスモデルのデザインを体系的に経験することができる。
・講師はシステムデザイン・マネジメントの学位を持ち、プロジェクトマネジメントとソリューションデザインに関する研究およびコンサルティング、教育、制度設計などの実務経験がある。ＰＭＰ、ＩＴコーディネータ、ＣＢＡＰの資格も有する。
・質問・相談がある場合には、
1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
2. 講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
A project is a value-creating enterprise that takes a specific mission and aims to achieve it in a specific period of time and under specific constraints.
There are various types of projects such as business, product/service creation, research, and invent, etc. In order to create innovative and valuable deliverables, the following three systems and methods are studied.(1) Design Thinking (2) Systems thinking and systems engineering (3) Business Analysis (a system for analyzing requirements to create solutions from the business perspective and the customer perspective)
In addition, students will learn how to create an organizational culture that fosters innovative thinking and avoids stereotyping.

MAN510F2

リスクマネジメント概論

Risk Management

指田　朝久［Tomohisa SASHIDA］

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業は商品やサービスを社会に提供し適切な対価を得て継続的に発展することを目的としています。しかしその目的の達成を阻害する様々な事象が発生し、場合によっては企業の継続が不可能になります。自然災害や火災、製品事故、地政学リスクなど、この様々な事象である事件や事故をいかに未然に防ぎ、また万が一発生した場合にもその影響を最小限に止める経営手法がリスクマネジメントです。この授業で、企業を継続的に発展させるための経営者としてのリスクマネジメントの考え方を学びます。起業を目指す学生にとっても、中小企業診断士を目指す学生にとっても企業経営のリスクマネジメントの考え方を身に着けることは重要です。また、リスクマネジメントの考え方を身に着けることはプロジェクトの推進にも役立ちます。
リスクマネジメントの考え方は大企業・中堅中小企業すべてに共通です。なお、授業の演習で用いるモデル企業は資本金 1 億円従業員 300 人の製造業を扱います。

【到達目標】
企業経営としてのリスクマネジメントの考え方として、国際標準規格 ISO31000(2018 年改訂）を学びます。
モデル企業のリスクマネジメントの仕組みを構築することにより、リスクマネジメントの実践手法を学びます。
実際の危機発生時の企業の対応から危機管理の仕組みを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
国際標準規格 ISO31000 の概要を説明したのち、モデル企業のリスクマネジメントを毎回の演習やグループディスカッションにより構築していきます。危機に陥った企業のケーススタディや意思決定ゲームに取り組むことにより、危機管理の能力を身につけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要、リスクとは、リスクマネジメントとは	地震・水害・情報漏洩事件など最近のリスク事例を振り返りながら、リスクマネジメントの概論を説明します
2	リスクマネジメント規格 ISO31000	国際標準規格 ISO31000 の概要、章立て、主要な項目などを説明します。
3	リスクマネジメント方針、組織の状況の理解	モデル企業を例にグループディスカッションにより ISO31000 の要求項目を具体的に検討します。経営者の定める方針と自社の現状把握を行います。
4	リスクの発見、リスクの種類、リスクの分類、主なリスクの理解	企業を取り巻く様々なリスクを解説します。演習としてモデル企業のリスクの特定を行います。
5	リスクの算定、リスクマップ	モデル企業の各リスクの発生頻度と企業に与える影響度を見積もり、リスクマップを作成します。
6	被害想定、リスクの評価	重要なリスクの被害想定を作成し、企業が取り扱うリスクの優先順位を決定します。
7	リスクの対応	重要なリスクに如何に対処するか、回避、低減、共有、保有などのリスク対策について具体的に学び、モデル企業に適用します。また、事件事故を経験した企業のケーススタディを行います。
8	パフォーマンス評価と有効性評価、是正改善、モニタリング	リスク対応が具体的に企業の日常業務の中で対処できているか、モニタリングを行う仕組みを検討します。
9	マネジメントレビュー、リスクコミュニケーション	経営者が実施するレビューによる継続的改善を検討します。またステークホルダーとの情報共有を学びます。
10	損害保険の役割、リスクコスト	企業は財務諸表で評価されます。財務的側面で重要な保険とリスクコストについて学びます。
11	危機管理、インシデントコマンドシステムＩＣＳ	万が一の事件事故に遭遇した場合の危機への対処方法を机上訓練などで学びます。
12	ケーススタディトレーニング	実際の事件や事故のケーススタディや意思決定ゲームにより、危機管理における意思決定を学びます。
13	事業継続計画（BCP)	地震や水害、工場火災、システムダウン、感染症等を踏まえて注目されているＢＣＰにつき解説します。
14	まとめ、レポートの説明	リスクマネジメントと危機管理の振り返りをします。またレポート課題の説明を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分の会社および自分の会社の業種、あるいは起業を検討している業種の上場企業を中心に、各社の有価証券報告書に記載されている「事業等のリスク」について情報収集をおこなってください。授業の中で発表してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
これだけは知っておきたいリスクマネジメントと危機管理ガイドブック；東京海上ディーアール株式会社編；同文舘出版； 2022 年； 2400 円＋税；ISBN978-4-495-39066-2

【参考書】
① JISQ31000:2019（日本工業規格；日本規格協会； 2625 円）
② ISO31000 リスクマネジメント解説と適用ガイド:2018 年版（日本規格協会； 4400 円＋税）ISBN ： 978-4-5424-02812
③ケースブックあなたの組織を守る危機管理（ぎょうせい； 4762 円＋税）ISBN978-4-324-09258-3
④企業の地震リスクマネジメント入門（日科技連； 3200 円+税）ISBN978-4-8171-9498-5

【成績評価の方法と基準】
レポートの提出および内容（60 %）、出席および小課題の提出（20%)、積極的な発表など授業への貢献（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションやケーススタディの割合をより充実させていきます。また、発表においては、生徒同士の発表のほか、過去の履修生（匿名）の回答の中から参考となる事例も紹介していきます。

【学生が準備すべき機器他】
書画カメラや電子黒板あるいは zoom 等を用いて各自の発表をスクリーンに投影することにより、グループディスカッションを実施していきます。

【その他の重要事項】
テキスト（教科書）にそって授業をすすめていきます。毎回授業のポイントにそった小課題を検討し演習を行います。また、実際に発生した事件や事故についても適宜ケーススタディを行い議論や意見交換を行っていきますので出席が重要です。また、マスコミやインターネット、業界紙などで報道されている企業の事件・事故事例について関心をもってください。
経営コンサルティングの実務経験から、生徒のディスカッションや演習結果につき、実際の企業の考え方をフィードバックしていきます。
オフィスアワー　授業開始前または終了後に質問を受け付ける。

【Outline (in English)】
【Course outline】 The purpose of a company is to provide goods and services to society, obtain appropriate money, and develop continuously. However, various events occur and hinder the achievement of corporate objectives. In some cases, the event causes the company to go bankrupt. The event is natural disaster, fire, product accident, geopolitical risk, etc. Risk management prevents incidents and accidents that are various events. Risk management also minimizes the impact of events that have occurred. In this lesson, students learn about thinking about risk management as a top manager to continuously develop the company.
【Learning Objectives】 Understand the international standard ISO31000 (revised in 2018) as a concept of risk management as corporate management. Understand crisis management methods from the company's response when an actual crisis occurs.
【Learning activities outside of classroom】 Collect information on the "business risks" described in each company's securities report. Have them make a presentation in class.
The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Contents of the term-end report (60%),Attendance and submission of small assignments (20%),Contribution to class such as active presentation(20%).

MAN510F2

事業リスクマネジメントと内部統制

Enterprise Risk Management and Internal Control

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
事業リスクマネジメント（Enterprise Risk Management）とは、戦略策定及び業績評価と統合されたリスク管理のための組織のカルチャー・ケイパビリティ・実務をいう。また、内部統制とは、企業組織の全ての階層を通じたガバナンスとマネジメントのプロセスにおけるコントロール機能を意味する。
本授業において学生は、最初に、企業において、どのようにして戦略策定及び業績評価とリスク管理を一体化させるかを学び、その実現手段として、内部統制を組み込んだビジネスプロセスをどのように構築・運用すればよいかを学ぶ。また、これらに共通に関わる要素としての内部監査の計画・手順・方法についても学ぶ。
本授業のケーススタディでは、グローバル展開している大規模上場企業など大企業の事例を主として取り上げるが、中小・中堅企業の改善にも資するように、新興市場の小規模上場会社の事例も取り上げる。

【到達目標】
学生は、事業リスクマネジメントと内部統制のフレームワークを活用して、自らが所属する組織又は支援対象組織におけるガバナンスとマネジメントにおける問題点を調査・分析し、改善策の策定ができるようになることを目標とする。
自らが選定した組織における事業リスクマネジメントと内部統制の問題点を調査・分析し、改善策の策定を適切に行うための計画書を作成することをゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
事業リスクマネジメントと内部統制のフレームワークについて解説した後、それらの実践をより深く理解するためにケースを用いたグループ討議を行う。また、事業リスクマネジメントと内部統制の実践における課題及び改善策を把握するため、ゲスト講師を招聘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事業リスクマネジメントのフレームワーク (1)	事業リスクマネジメントのフレームワークの考え方について学び、戦略策定及び業績評価との関係を検討する。
2	事業リスクマネジメントのケーススタディ (1)	製造業における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
3	事業リスクマネジメントのケーススタディ (2)	卸売業又は小売業における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
4	事業リスクマネジメントのフレームワーク (2)	事業リスクマネジメントの構成要素の内容と論点について学ぶ。
5	事業リスクマネジメントのケーススタディ (3)	金融機関における事業リスクマネジメントについて、ケースを用いて討議する。
6	内部統制のフレームワーク	内部統制のフレームワークと「財務報告に係る内部統制の評価及び監査」の制度について学ぶ。
7	内部統制のケーススタディ (1)	全社的な内部統制について、ケースを用いて討議する。
8	不正会計と内部統制とデータ分析	不正会計に対応するための内部統制とデータ分析について学ぶ。
9	内部統制のケーススタディ (2)	海外子会社における内部統制について、ケースを用いて討議する。
10	内部監査の計画・実施・報告	内部監査の計画・実施・報告の手順と方法について学ぶ。
11	事業リスクマネジメントと内部監査の実務（1）	事業リスクマネジメントと内部監査について、ゲスト講師を招いた講義を行う。
12	事業リスクマネジメントと内部監査の実務（2）	上記のゲスト講師への質疑及び討議を行う。
13	学生による事例研究発表（1）	事業リスクマネジメントと内部統制の実践に関して、学生が各自でテーマを選定して、事例研究を行い、その結果を発表する。
14	学生による事例研究発表（2）	前回の続きを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配付するケーススタディの資料を読んで、授業までに検討しておくこと。ケーススタディに関する討議後の自己の見解のレポートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本内部監査協会他監訳『COSO 全社的リスクマネジメント－戦略およびパフォーマンスとの統合』同文舘出版（￥5,800 ＋税）
各回の資料は、授業支援システムよりダウンロードすること。

【参考書】
八田信二他訳『COSO 全社的リスクマネジメント－戦略およびパフォーマンスとの統合－事例の解説篇』日本内部監査協会（￥2,900 ＋税）
齋藤 正章、蟹江 章『現代の内部監査』放送大学教材（￥2,500 ＋税)

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う討議への積極的な参加と討議後のレポートの提出（60%）
最終レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】
ケースの討議結果についての学生へのフィードバックの文書化を行い、学生の理解度を深める。

【学生が準備すべき機器他】
ケースに関するグループ毎の討議結果のとりまとめにノート PC を利用する。また、資料は e ラーニングシステムからのダウンロードによる配付のため、毎回ノート PC を持参すること。

【その他の重要事項】
授業の中での活発な質問と討議を期待する。
＜オフィスアワー＞
秋学期前半：金曜日 5 限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mail で連絡いただきたい。

【Outline (in English)】
Enterprise Risk Management refers to the culture, capability, and practice of an organization for risk management integrated with strategy formulation and performance evaluation. In addition, internal control means the control function in the process of governance and management through all the layers of an enterprise organization.
In this class, students learn how to integrate strategy formulation, performance evaluation and risk management at enterprises first, how to build a business process incorporating internal control as a means to realize it learn how to operate. Also learn about planning, procedures, and methods of internal audit as elements related to these in common.
The case study of this class mainly deals with cases of large companies such as large-scale listed companies that are developing globally, but also cases of small listed companies in emerging markets, so as to contribute to improvement of small and medium-sized enterprises.

MAN510F2

生産マネジメント

Production Management

藤川　裕晃［Hiroaki FUJIKAWA］

単位数：4 単位
学期：春学期授業/Spring
授業分類：専門講義
専門科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生産マネジメントは、製造業にとって最も重要な付加価値を産み出す生産活動を効率的に実施するために必要とされる管理活動をシステマチックに行うための知識、技術の体系である。製造業のオペレーションは広い範囲に及ぶので、管理業務全体を概観して、個々の業務の管理業務を学ぶ。更に、生産方式毎に深めていく。本授業の春学期前半においては、生産戦略を中心として会社の仕組み、ものづくりの仕組み、生産マネジメントの体系、管理の仕組みなどについて概観し、調達、販売、品質管理、原価管理、納期管理、設備管理、人材資源管理、などを学ぶ。春学期後半では個々の生産方式に着目して当該生産方式独自の手法について詳細に学ぶ。更に、コンサルタントとして求められる生産に於いて発生する問題の構造を理解するために、前・後半の最後に総合事例の演習をする。本講義は基本的には大企業の内容を扱うが、中堅企業や中小企業でも対象となる内容も含まれている。

【到達目標】
①生産マネジメントに関する知識や考え方を得て問題点を理解できる。
②具体的な生産マネジメントの課題に対して知識やスキルを使って課題を解決できる。
③演習や事例研究を通して生産マネジメントの問題構造を理解し生産マネジメントの各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はハイフレックス方式で行う。前半では生産マネジメントを製造業の仕事という観点から広く捉えて、生産マネジメントを巡る戦略構築、市場戦略から物流計画までの全体の経営活動に関する環境、知識、理論、手法を講義で概説する。後半の講義では、生産マネジメントを狭く捉えて需要予測、工場レイアウトなどの固有技術を学び、更にライン生産、ロット生産、セル生産方式などの生産方式毎に管理の重点と問題解決の手法を学ぶ。講義内容の理解を深めるために、各週の講義の最後に個人演習とグループ演習を行う。また、前半・後半の夫々最後の 1 回は、それまでの内容をまとめる総合的な事例に基づく演習を行う。講義内で製造業での経験豊富な外部講師を招聘して生産現場改善について講演をして貰う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	生産マネジメントの概念	オリエンテーション、生産マネジメントの概念、日本の製造業の現状と未来
第 02 回	製造業を巡る経営環境及び課題	製造業の経営環境、製造業の戦略事例
第 03 回	生産戦略	生産戦略とは、生産方式、立地戦略
第 04 回	モチベーションの管理	生産管理の歴史、モチベーション管理、作業研究
第 05 回	調達と外注	戦略的購買、内外作区分、外注
第 06 回	市場戦略と販売	マーケティング戦略、製品戦略、ブランド戦略
第 07 回	生産情報システム	製造業における情報戦略、SIS、ERP
第 08 回	生産設備と信頼性	設備管理とは、信頼性管理、保全計画、設備投資
第 09 回	品質管理	品質管理とは、品質経営、品質管理手法、国際標準と品質戦略
第 10 回	原価管理	原価の種類と分類、原価管理、原価計算、原価企画、ＡＢＣ、損益分岐点分析
第 11 回	納期管理	納期管理と生産計画、納期の改善、在庫の削減
第 12 回	環境問題と生産管理	環境問題、ＣＯ２削減、３Ｒ、静脈物流、環境会計
第 13 回	サプライチェーンマネジメント	ＳＣＭの概念、ＳＣＭによる経営戦略の実現、ＳＣＭのオペレーション、ＳＣＯＲ
第 14 回	業種別生産マネジメントと演習	業種別生産マネジメントの重点、製造業の今後展開、中小製造企業における生産システム改善事例演習（１）
第 15 回	需要予測	生産マネジメントにおける需要予測、需要変動パターン、需要予測方法、需要予測の実際
第 16 回	工程分析	工程分析、ラインバランス分析、稼働分析
第 17 回	工程設計	時間研究、動作研究、標準時間、作業設計
第 18 回	生産計画	生産計画、ＭＲＰ、生産統制
第 19 回	在庫管理	在庫の種類と意義、経済的発注量、定量発注方式、定期発注方式、在庫削減
第 20 回	トヨタ生産方式	トヨタ生産方式とは、サイクルタイム、平準化、カンバン・アンドン
第 21 回	製造管理システム	ビジネスシステム層、工場システム層、工程制御層
第 22 回	運搬管理	物流の重要性、運搬分析、物流改善とその事例
第 23 回	工場レイアウト	工場計画、DI 分析、SLP
第 24 回	ライン生産方式	ライン生産方式とは、ライン生産方式の設計、ラインバランシング
第 25 回	ロット生産方式	ロット生産方式とは、ロットサイズ設計、段取り替え時間の短縮、バッチ生産
第 26 回	個別生産方式	個別生産方式とは、フローショップスケジューリング、ジョブショップスケジューリング、受注選択
第 27 回	セル生産方式	セル生産生産とは、セルフォーメーション、屋台方式
第 28 回	生産システム改善と演習	生産システムの改善着眼点、次世代生産システム、中小製造企業における生産システム改善事例演習（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
教科書の当該授業に関する部分を読んで、準備学習をしておく。
復習・宿題等
教科書や演習を中心に不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書：
①大場允晶・藤川裕晃著「生産マネジメント概論・戦略編」、文眞堂、2010 年
②大場允晶・藤川裕晃著「生産マネジメント概論・技術編」、文眞堂、2009 年
基本的に、第 01 回～14 回は①を、第 15 回～28 回は②を教科書とする。

【参考書】
村松林太郎著「新版 生産管理の基礎」、国元書房、1970 年
黒田充、中根甚一郎、圓川隆夫、田部勉著「生産管理」、朝倉書店、1989 年
藤本隆宏著「生産マネジメントⅠ・Ⅱ」、日本経済新聞社、2001 年
山本孝、井上秀次郎著「生産マネジメント」、世界思想社、2007 年
藤川裕晃著「マネジメントの基礎」、創成社、2013 年

【成績評価の方法と基準】
学んだ内容について講義内でミニ演習とグループ討議を行う。評価は提出された演習に対して行う。従って、学生は毎回演習を提出すること。
演習問題を学習支援システムにアップするので、そのファイルに解答を記入（入力）して学習支援システムへアップすること。
尚、演習の提出回数が全体の６０％（１８回）に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義冒頭で前回出た諸々の質問へ返答する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、教科書の該当範囲のページに目を通しておくこと。また、普段から新聞、ビジネス雑誌などを読んでおくこと。

【その他の重要事項】
質問・相談がある場合には、
1.　講義内容に関する質問は、個人演習のシートの最後に質問欄を設けるのでそこで質問をしてください。質問欄に記載された質問は、次回の講義でお答え致します。
２．それ以外の場合には、メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）などを伝えてください。
３．実務経験者の外部講師を招聘する予定です。
４．教員は、①情報システム構築、②工場計画・設計・施工、③製造業コンサルティングの実務経験があり、それぞれの講義内容で理論と現実の関係を論及します。

【Outline (in English)】
Production management is a knowledge and technology system for systematically performing the management activities required for efficiently implementing production operations that produce the most important added value for the manufacturing industry. Because the operation of the manufacturing industry covers a wide range, we overview the entire management task and learn management work of individual operations. Furthermore, it deepens for each production method such as line production system, cell production system and Toyota production system etc. In the first half of the Spring semester of this class, we outline the structure of the company, the structure of manufacturing, the system of production management, the management system, etc. centered on production strategy, and outline the procurement, sales, quality control, cost management, delivery date management, facility layout and management , Human resources management, etc. In the latter half of the spring semester, we focus on individual production methods and learn in detail about the method unique to this method. Furthermore, in order to understand the structure of the problem and the path of solution to be generated in the production required as a consultant, exercise the comprehensive case at the end of the last half.

MAN510F2

サプライチェーンマネジメント

Supply chain Management

藤川　裕晃［Hiroaki FUJIKAWA］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サプライチェーンは製品の企画、調達、生産、保管、販売、ＡＳに至る活動であり、商品供給の連鎖である。供給連鎖は業務そのもので経営の基本である。製造業、流通業、物流業と産業の多くの企業を巻き込んで国民生活を支えている。このサプライチェーンの良しあしで各参加企業の盛衰が左右される。また、公共企業や自治体の事業に於いても重要性が叫ばれている。天災地変によりサプライチェーンの断絶が与える影響の大きさや環境への影響なども無視できない拡がりを持ってきた。また、ネット経済の拡がりからサプライチェーンが国境を越えて展開し、諸外国の法規制、商慣習が異なるため日本流の経営は観点を変えないといけない。持続可能な社会でのサプライチェーンとはどうあるべきかを地球規模で考えて議論して学んでいく。本講義は基本的には大企業の内容を扱うが、公共企業や中堅企業の対応範囲の内容も一部含んでいる。

【到達目標】
サプライチェーンは企業のオペレーションそのもので、経営を語るときに避けて通れない命題である。学生が所属する企業あるいはコンサルティングする企業のサプライチェーンを理解するとき、経営・実務・情報の３つの視点からサプライチェーンを捉え、より効率的なＳＣＭ経営を理解することができるという目標を設定する。事例や最適化の手法を理解した上で将来の日本企業のサプライチェーン経営の在り方を議論し知識を共有する。議論を通して学生が自分なりのＳＣＭ戦略を構築することができる様に指導する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はハイフレックス方式で進める。講義の途中にミニ演習、およびグループ討議を取り入れる。更に、毎週の講義終了前に、習得効果を上げるために演習問題をアップしておくので翌週の開始までに回答を入力してアップしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	サプライチェーン概要	オリエンテーション、ＳＣＭの概要、ＳＣＭ事例
第 2 回	戦略（1）　立地戦略	配送センター運営、センター立地戦略
第 3 回	戦略（2）　調達戦略	戦略的調達、集中購買と分散購買
第 4 回	戦略（3）　提携戦略	戦略的提携、ＶＭＩ
第 5 回	運用（1）　倉庫管理	倉庫の種類、倉庫内オペレーション、ピッキング
第 6 回	運用（2）　配送計画	配送業務、配車とＶＲＰ
第 7 回	運用（3）　在庫管理	発注方式、安全在庫
第 8 回	運用（4）　工場内物流・配置問題	機械化と自動化、物流調査、物流改善、倉庫内レイアウト
第 9 回	情報（1）　情報システム	物流コスト、ＫＰＩ、ＳＣＯＲ、ＥＲＰ、ＳＣＭ、ＯＭＳ、ＷＭＳ、ＴＭＳ
第 10 回	情報（2）　需給管理	需要マネジメント、供給マネジメント
第 11 回	環境問題（1）CO2 削減問題	ＣＯ２削減問題、モーダルシフト、静脈（廃棄物）物流
第 12 回	環境問題（2）SC の断絶	リスク管理、代替生産と代替物流、BCP
第 13 回	公共物流（1）卸売市場	公共施設とは、卸売市場に於ける物流、築地市場物流改善事例
第 14 回	公共物流（2）港湾物流	港湾を巡る物流問題、コンテナヤードの最適化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、講義前にテキストを読んでおくこと。また、学生が所属する企業や団体のサプライチェーンの実態を把握し授業に臨むとより理解が深まる。そのためには、学生がサプライチェーン、生産、物流、購買、保管、配送などに所属する社員と面談し問題点などを把握しておくのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
『サプライチェーンマネジメントとロジスティクス管理入門』（単著）2008 日刊工業新聞社

【参考書】
『マネジメントの基礎』（単著）2013　創成社
『需給マネジメント』（共著、松井正之、藤川裕晃、石井信明）2009　朝倉書店
『サプライチェーンの経営』（ハーバードビジネスレビュー編）２００１　ダイヤモンド社
『ロジスティクスの数理』（久保幹雄著）２００７　共立出版
『日本型ロジスティクス４．０』（前田賢二著）２０１９　日刊工業新聞社
『ロジスティクス・ＳＣＭ革命』（長沢信也編）２０１９　晃洋書房
『ロジスティクス概論』（中田信哉編著）２００７　実教出版

【成績評価の方法と基準】
講義への参加度、期末レポート： 30 %、毎回の演習： 70 %
その他講義への参加態度を考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
討論の機会を増やすことで学生の問題意識を高めていく。双方向で教員と学生の考えをすり合わせる。また、質問は演習の最後に欄を設けるので、そこに記述すること。その次の講義の冒頭に質問については返答する。更に、直接メールで質問しても良い。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具、開平機能付き電卓、ハイフレックス方式なのでＰＣが必要。

【その他の重要事項】
担当教員は、①情報システム構築、②工場の計画・設計・施工、③製造業のコンサルティングの実務経験がある。全て、本講義の内容と関連があり、講義の箇所箇所で経験とそれに関連した研究事例を説明する予定である。

【Outline (in English)】
The supply chain is an activity ranging from product planning, procurement, production, storage, sales, and AS, and is a chain of product supply. The supply chain is the business itself and the basis of management. Involving many companies in the manufacturing, distribution, logistics and industries to support people's lives. The quality of this supply chain will determine the rise and fall of each participating company. In addition, the importance is being raised in the business of public corporations and local governments. The magnitude of the impact of supply chain disruptions due to natural disasters and the impact on the environment have also spread beyond consideration. Also, with the expansion of the Internet economy, the supply chain extends beyond national borders, and laws and regulations and business practices in other countries are different, so Japanese-style management must change its perspective. We will discuss and discuss what a supply chain should be in a sustainable society on a global scale.

MAN510F2

プラットフォーム戦略

Platform strategy

長谷川　純一［Junichi HASEGAWA］

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Google・Amazon・Facebook・Apple を総称して GAFA と呼ぶようになって久しいが、彼らはプラットフォーム企業として、エコシステムを形成し、膨大なネットワーク効果を産み、急激な事業成長を遂げてきた (これをプラットフォーム・スケールと呼びます)。また、Uber、Airbnb なども、シェアリング・エコノミーを実現するプラットフォームとして注目されている。これらプラットフォーム企業は、これまでの経営戦略と異なった戦略に基づき、プラットフォームの構築、事業の拡大を実現している。
今日、革新的な製品を産んでも、競合他社により短期間でコモディティ化されてしまうため、製品を核にプラットフォームを形成し、競争力を高める必要が産まれている。さらに、プラットフォームが製品を凌駕してしまうため、製品ベンダーは、プラットフォーム企業からの脅威に潜在的に曝される。例えば、Netflix が映画会社やテレビ局を、Uber が自動車製造メーカーを脅かそうとしている。
本講義では、プラットフォーム・ビジネスの本質を紐解き、プラットフォームをどのようにデザインし、ローンチさせるべきか。製品事業をどのようにプラットフォーム事業へシフトすべきか。プラットフォーム時代の競争戦略はどうあるべきか等について論じる。

【到達目標】
この授業を履修することで、以下のスキルの習得を目標としています。
1. GAFA、Uber、Airbnb などのプラットフォーム・ビジネスの基本原理の理解
2. 新たなプラットフォームをどうデザインし、ローンチさせるべきかの戦略立案力
3. プラットフォーム時代における事業戦略、競争戦略について論じる力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ケースを用いながら講義内容の理解を深めます。また、グループ課題として、プラットフォームを活用したビジネスモデルの創出にチャレンジしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プラットフォームとその戦略	・オリエンテーション ・プラットフォーム時代の到来 ・Amazon はどのようにプラットフォームを作ったのか? ・プラットフォーム戦略 ・プラットフォーム・マニュフェスト
2	デジタル変革: 製品からプラットフォームへ	・プラットフォームへのシフト ・プラットフォームのもたらすネットワーク効果
3	ケース: Apple iTunes	・プラットフォームとしての iTunes ビジネス モデル
4	ネットワーク効果	・プラットフォームと規模の経済 ・マルチホーミングとスイッチングコスト ・二面市場ネットワーク
5	ケース: Intuit QuickBooks	会計ソフトウェアからクラウドベースのプラットフォームへの転換
6	成功するプラットフォームをデザインする	・パイプ ビジネスとプラットフォーム ビジネス ・プラットフォームの設計指針 ・実用最小限のプラットフォーム ・プラットフォームの収益化
7	ケース: Airbnb, Etsy, Uber	成功したプラットフォームはどのように産まれたのか?
8	プラットフォームのローンチと成長の戦略	・「鶏が先か卵が先か」問題 ・ローンチ戦略 ・モジュール構造と API 戦略
9	オープンイノベーションの活用	・オープンイノベーション ・何をオープンにし、何を占有すべきか? ・エコシステムの管理
10	プラットフォーム ガバナンス	・なぜガバナンスが必要か? ・ガバナンスの設計原理 ・ガバナンス ツール ・ガバナンス ルール
11	ケース: Uber	・シェアリング・エコノミーと規制 ・プラットフォーム・ガバナンスの実装
12	プラットフォーム時代の競争と戦略	・なぜプラットフォームは製品を凌駕するのか？ ・プラットフォーム時代の戦略 ・ネットワーク効果と事業戦略
13	グループ課題のプレゼンテーション	グループ課題 (プラットフォーム・ビジネスの創出アイディア) をグループごとにビジネスピッチ形式で発表し、議論
14	プラットフォーム革命の未来	・プラットフォーム戦略を採用している企業群 ・様々な分野で展開されるプラットフォーム革命

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、毎回の講義の終わりに、次回の講義までに事前学習すべき項目やプレゼンテーションを行う準備について指示を受ける。事前課題を指示された場合には、講義の初めに提出する。
事前課題を含め、本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。
グループ課題 (プラットフォーム・ビジネスの創出) については、グループでの議論、プレゼンテーション準備を要します。
プラットフォーム戦略について考察する個人課題を 1 つ設定。

【テキスト（教科書）】
Harvard Business Publishing で指定した Coursepack (4 cases) を購入していただきます ($17)。和文抄訳を別途提供します。

【参考書】
『プラットフォーム・レボリューション PLATFORM REVOLUTION 未知の巨大なライバルとの競争に勝つために』 ダイヤモンド社
ジェフリー・G・パーカー 著/マーシャル・W・ヴァン・アルスタイン 著/サンジート・ポール・チョーダリー 著/妹尾　堅一郎 監訳/渡部　典子 訳
ISBN ： 978-4-478-10003-5

【成績評価の方法と基準】
以下の 4 つの要素から総合的に評価する。
(1) 授業への貢献: 23%
(2) ケースに対する事前課題: 32% (8% x 4 ケース)
(3) 個人課題: 20%
(4) グループ課題: 25%

【学生の意見等からの気づき】
プロジェクト・メソッドにおいてプラットフォーム関連のプロジェクトを検討、進めている学生には、プロジェクトに関する個別の相談にも応じます。

【学生が準備すべき機器他】
PDF で配布されるケースが読み取れ、課題レポートが作成・提出できる情報機器。

【その他の重要事項】
経営戦略の基礎を学んでいると講義での議論の質をより高めることができるが、基礎を平行して学ぶ受講者でも無理のない講義への参加ができるよう、オリエンテーション時にレベルを確認し、内容および進捗を調整する。
講義やケーススタディにおいて、講師が、アマゾン、オラクルなど成功したプラットフォーム企業のほか、プラットフォーム構築を目指すスタートアップで経験したことを適宜お話します。

【Outline (in English)】
Today is the era of data, network and platform. Platform players, such as Google, Amazon, Facebook, Apple (GAFA) have established ecosystems, been enjoying huge network effects, and grown dramatically. New players such as Uber and Airbnb, have formed sharing economies without owning considerable assets. Those platform players take different strategies from the ones of traditional business strategies. This course covers those topics through lectures, case studies and individual & group exercises.
Through the lectures, you can obtain the following skills:
1. Understand basic principles of platform businesses, driven by GAFA, Uber, Airbnb, etc..
2. Capability to design a new platform, and to plan its successful launch.
3. Ability to discuss platform strategy
Grading criteria are followings:
(1) Class contributions: 23%
(2) Pre-class quizzes for cases: 32% (8% * 4)
(3) Individual exercise:: 20%
(4) Group exercise: 25%

MAN510F2

フィンテックと企業経営

FinTech and Corporate Management

遠藤　正之［Masayuki ENDO］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融のイノベーションである FinTech（フィンテック）の動向と、金融機関の戦略について学び、大企業から中小企業までの企業経営への適用について立案することができるようにする。

【到達目標】
1．FinTech の動向を把握し、FinTech 関連企業の経営戦略について理解する。
2．金融情報システムのリスクマネジメントと金融機関における FinTech 推進の意義を理解する。
3．資金調達、会計、決済の各分野で、一般企業の経営で活用できる FinTech を理解する。
4．所属企業ないし設定した企業での FinTech を活用した経営戦略、新サービス、プロセス改革等について、具体的に立案することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フィンテックの概要、金融情報システム等の講義により受講者の知識水準を揃えた上で、個人課題レポート、事例研究、FinTech 活用プロジェクト等の演習ないしディスカッションを行い、より実践的に活用できる力を身につける。FinTech 企業経営者やデジタル庁等の担当者による講演を第 5 回、第 7 回、第 9 回の授業で行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要、FinTech（フィンテック）の概要	講義の概要を説明し、FinTech（フィンテック）の動向について、概観する
第 2 回	資金調達と FinTech	企業の資金調達に関する FinTech について理解する
第 3 回	企業会計と FinTech	企業会計に関する FinTech について理解する
第 4 回	決済と FinTech、キャッシュレス	決済に関する FinTech について理解する、キャッシュレスの動向と事業者の戦略を理解する
第 5 回	事例研究（電子契約、電子記録債権活用）	電子契約、電子記録債権関連 FinTech 企業経営者の講演 (ゲスト講師招聘)
第 6 回	事例研究（電子契約、電子記録債権活用）の討議とプロジェクト課題の構想説明	担当教員、第 5 回の講演者、受講者とのディスカッション及び FinTech 活用プロジェクトの構想説明発表を行い、ディスカッションする。
第 7 回	事例研究（API 活用）	オープン API の専門家 (ゲスト) の講演
第 8 回	事例研究（API 活用) の討議とプロジェクト課題検討、中間発表 1	担当教員、第 7 回の講演者、受講者のディスカッション及び FinTech 活用プロジェクトの中間発表を行い、ディスカッションする
第 9 回	事例研究（企業間決済）	企業間決済の専門家（ゲスト）の講演
第 10 回	事例研究（企業間決済) の討議とプロジェクト課題検討、中間発表 2	担当教員、第 9 回の講演者、受講者のディスカッション及び FinTech 活用プロジェクトの中間発表を行い、ディスカッションする
第 11 回	地域金融機関や行政の FinTech への対応	地域金融機関や行政の FinTech への対応について理解する
第 12 回	金融情報システムとリスクマネジメント	金融情報システムとそのリスクマネジメントについて、理解する
第 13 回	プロジェクト最終発表	プロジェクトを発表する
第 14 回	プロジェクトに関するディスカッションとまとめ	第 13 回のプロジェクト発表に関するディスカッションと講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読んでおくことが望ましい。
授業で示された個人課題について、指名された学生は発表を行う。FinTech 活用プロジェクトについて、授業時間外も含めて検討し、発表を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
遠藤正之（2022）『金融 D X、銀行は生き残れるのか』光文社、9784334046125、1012 円

【参考書】
遠藤正之（2017）「FinTech が中小企業にもたらす影響」政策金融公庫論集 2017 年 11 月号 https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/ronbun1711_03.pdf
遠藤正之（2016）『金融情報システムのリスクマネジメント　大規模開発から FinTech まで 6 観点（CORE-OQ）の戦略的活用』日科技連出版社
小倉隆志（2017）『企業のためのフィンテック入門』幻冬舎

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（含む事例研究レポート）(4 回程度を予定)	30%
最終レポート	20%
FinTech 活用プロジェクトの発表と成果物	40%
講義への貢献度（発言、質疑等の参加度合い）	10%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料のダウンロード、発表のため、ノートＰＣを持参のこと

【その他の重要事項】
事例研究の回は履修者以外の聴講を認める予定。
担当教員は、大手金融機関でシステム統合等の大規模プロジェクトの推進企画の経験を有する実務家教員であり、その知見を活用した講義を行う。

【Outline (in English)】
We will learn about the trends of FinTech and the strategy of financial institutions. Students will be able to make plans for application to corporate management.

MAN510F2

コミュニケーションマネジメント

Communication Management

浦上　早苗［Sanae URAGAMI］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IT ツールの飛躍的な発展で、コミュニケーションの形は大きく変わり、コミュニケーションツールには世代間の断絶も見られるようになってきました。情報を収容する空間は無限に広がり、新商品やサービス、不祥事、トレンドなど、経済関係のニュースが絶えず流れ、拡散しています。新聞、雑誌などオールドメディアから SNS まで媒体が多様化し、世代や価値観によって触れる情報に分断が起きる現代において、メディアを効果的に活用しつつ、炎上などの新たなリスクに備えるか、情報発信の手法を学びます。

【到達目標】
・情報発信に関係するプラットフォーム全般に対する知識を得て、発信したい情報に応じた適切な手法を選択できるようになる。
・特に小さな企業、スタートアップにおいては、経営者の発信能力が、商品販売、サービス展開だけでなく採用活動においても重要です。大手企業の広報担当部門が担う役割を 1 人でこなし、費用を抑えながら自社の情報を伝えるスキルを磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義にグループワークを組み入れます。プレスリリースの作成、記者レク実践などを予定しています。
予習は必要ないですが、SNS 運用の課題を出すので、継続的に授業外での作業が発生します。
授業中の発表・貢献度が成績に大きく関わるため、何となく履修することは推奨しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	メディア概論	新聞・雑誌からウェブメディア、ソーシャルメディアまで多様化するメディアの現状、講義の目的について概観します。
3,4	情報発信のノウハウ	自社の情報を発信する際には、その内容だけでなく、時期、ビジュアル、経路（レクをするかプレスリリースを投げ込むか、ツテをあたるか、オウンドメディアを使うか）など、さまざまな要素を考慮することで、効果を大きくできます。具体的なノウハウを実例を交えて説明します。
5,6	広報担当者の役割、企画の作り方	企業の広報担当者は、社内と社外のコミュニケーションをつなぐ重要な役割を担います。しかしスタートアップや中小企業はいつでも新鮮なニュースがあるわけではありません。情報発信から逆算した企画の作り方を考えます。
7,8	プレスリリース演習	情報発信の手段として最も一般的なのが「プレスリリース」の公開です。実際に作成し、学生間で講評します。
9,10	リスクマネジメントと情報発信	ネット社会においては、自社が悪いことをしていなくても、社会問題が飛び火し、炎上するケースが後を絶ちません。自分たちが炎上の当事者となったとき、風評被害を受けそうなときの対処法を学びます。
11,12	ゲスト講師による講義	元新聞記者の事業会社広報責任者をゲスト講師に招き、メディアと広報部門のギャップなどについて話をしていただきます。
13,14	謝罪会見、成果発表	対面授業の場合は、記者・企業側に分かれ謝罪会見をします。オンラインのときは変更予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段、私自身が企業やビジネスパーソンを取材する際にも、情報発信に関してさまざまな質問を受けます。学生の皆さんも、ニュースを見て「なぜこんなに叩かれるのだろう」「どうしてこの会社ばかり取り上げられるのだろう」「わが社の広報体制は弱いのではないか」など、疑問に感じていることがあると思うので、これまで以上に意識して「情報」に接し、講義で積極的にシェアしてください。
また、最近は情報拡散と SNS が切っても切り離せないことから、講義期間中は SNS（Facebook 除く）の運用を必須とし、期末の成績にも反映します。リリースの作成や記者レクの準備など、授業時間外の宿題に相当する作業が数回発生します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実際のニュースを題材にすることが多いので、講義期間中にその都度指定します。

【参考書】
参考書は指定しませんが、課題をやり遂げるために、情報収集が必要になります。
広報を学びたい方は「ひとり広報」（同文舘出版）がお勧めです。

【成績評価の方法と基準】
平常点： 30 点（欠席・遅刻・早退の取り扱いは講義冒頭で説明します。出張などでやむをえず欠席する際は、レポートや発表によって授業の一部を代替することがあります）
SNS の運用： 40 点。本講義を担当して 5 年目になりますが、年々情報拡散における SNS の果たす役割が大きくなっており、その割には企業の意思決定層のキャッチアップが追い付かず、対応が後手に回ったり炎上するケースが後を絶ちません。実践力を身に着けるために、Twitter、インスタグラムなどのアカウントを作成し（既存アカウントの利用も可）、テーマや目標を決めて運用し、最終発表（レポート）を行います。
授業時の課題 30 点：プレスリリースの作成、謝罪会見（対面授業のみ）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の SNS 運用レベルとニーズによって、シラバスの内容を変更することがあります。
学生の興味関心のばらつきが大きく、毎年、ニーズが違います。初回の授業の後にレポートを書いてもらい、2 回目以降の講義を組み立てています。
情報・ニュースの伝わり方が主要なテーマであり、非常に変化が速い分野であるのと、履修生が共有できるニュースを取り扱うことが多いため、各回の構成が入れ替わることがあります。
ゲスト講師の回は、スケジュールによって変わります。

【学生が準備すべき機器他】
講義中に特別な機材は使いませんが、課題の作成において PC など入力機器が必要です。

【その他の重要事項】
広報機能が薄い中小企業、スタートアップの社員、起業を目指している人、個人事業主などを履修生として想定しています。
シラバスではプレスリリース演習を「7，8 回」としていますが、履修生やグループの数によっては 5〜12 回の授業で分散して実施します。

【Outline (in English)】
Leaning how to communicate with consumers.

MAN510F2

ヘルスケアマネジメント

Health Care Management

山田　敦弘［Atsuhiro YAMADA］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1．授業の目的

本講座では、「ヘルスケア × まちづくり × エコシステム（持続的に循環する仕組み）」の視点を重視しながら、ヘルスケア分野における課題解決策を自ら創出していくためのノウハウや考え方を学んで行く。我が国の高齢化は、急速に進んでおり、厚生労働省の「今後の高齢者人口の見通しについて」によると 2025 年には 30 %を上回り、これに伴い疾病の増加も予測されている。厚生労働省の「医療費の将来見通し」によると、2025 年には 54 兆円を超え、2035 年には 69 兆円にも達すると予測されている。このような状況の中で、財政面に加えて、個人の生活の質の向上の観点からも、健康増進や予防（発症抑制、早期発見など）が益々重要な取り組みとなる。加えて公的保険外サービスにおいて、個人や企業などが健康増進や予防へ取り組むことが盛んになっている。このようなヘルスケア産業市場の規模は、2016 年に約 25 兆円だったものが、2025 年には約 33 兆円になると推計 (経産省調べ) されている。

また、近年の技術開発の進展は目覚しく、体温や血圧の測定だけではなく、血中酸素度、心電図、メンタルの状況などが簡単に測定できるデバイスやツールが開発されていることや、循環器疾患や認知症の将来予測など、AI 技術等を活用した検出手法などが開発されている。

他方、いくら技術が発展しても、それを多くの方が適切・効果的に利用し、また持続的に継続できなければ、健康課題の解決には繋がらない。利用者の置かれている環境に合わせた提供方法の確立、自治体や企業などのステークスホルダーとの連携など、まちづくりに融合・親和することがなければ、解決策としては期待できない。本講座では、これらのヘルスケアを巡る多岐にわたる要素・要因を勘案し、「ヘルスケア × まちづくり × エコシステム（持続的に循環する仕組み）」の視点を重視しながら、医療・保健・福祉にかかるサービスを提供する仕組みを構築・運営することをヘルスマネジメントと定義し、その知見を深め、何らかの実践に繋げることを目指す。

なお、本講座では、ヘルスケアマネジメントを広義に捉えており、医療・保健・福祉に精通している方も、していない方も、一緒に学んで行く場としたい。

【到達目標】

本講座の到達目標は、ヘルスケアマネジメントに関して、「事例を整理・分析するスキル」、「ケースタディでディスカッションするスキル」、「事業企画書を作成するスキル」の３つのスキルを習得することである。これらは MBA レベルのヘルスケアマネジメントのスキルとして不可欠と考える。具体的には以下である。

①「事例を整理・分析するスキル」では、一定のフォーマットに準じて事例を整理・分析し、コンパクトにわかりやすく人に伝えること。

②「ケースタディでディスカッションするスキル」では、各個人がケーススタディについて、コンパクトに分析した内容を持ち寄って人とディスカッションすること。

③「事業企画書を作成するスキル」では、定められた項目（視点）について触れながら、事業企画書を作成する。事業企画書は、クラス発表、ディスカッションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業については、基本的に対面にて実施し、ディスカッションを織り交ぜながら進める。履修証明プログラムの学生、ならびにリアルの受講が難しい学生についてはウェブ受講も選択肢のひとつとする。開講時に講師に相談されたい。本講座においては、ヘルスケアマネジメントを主題としているが、それらに関連する国、自治体、企業などの動向や知見についても併せてテーマとして取り上げる。

また、事例調査及び事業企画書作成については、講座時間外で準備していただき、発表及びディスカッションを行うことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	第 1 回 9 月 20 日水曜日 アイスブレーク ヘルスケアマネジメントについてのイメージ合わせ	講師から長めの自己紹介と本講座の目指すべき方向性の説明を行います。 学生からの自己紹介もお行います。 · 米国 MBA ヘルスサービスマネジメントの概要 · ヘルスケアを取り巻く環境 · ケーススタディの進め方
3-4	第２回 9 月 27 日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介（１） ・地方自治体の役割 ・ケーススタディ実践（１）	・ヘルスケアビジネスの事例紹介及び作成方法の説明（講師からの紹介） ・医療・保健・福祉サービスにおける地方自治体の役割 ・チームに分かれてケーススタディの実施
5-6	第 3 回 10 月 4 日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介（2） ・ケーススタディ実践（2） ・事業企画書作成の進め方	・ヘルスケアビジネスの事例紹介（学生から紹介） ・チームに分かれてケーススタディの実施 ・サービスモデルの事業企画書の作成方法についての説明
7-8	第 4 回 10 月 11 日水曜日 ・ヘルスケアビジネス実践者による取り組み紹介（ゲスト打診中） ・事業企画書相談会	・ヘルスケアビジネス実践者による事業紹介とディスカッション（ゲスト打診中） ・事業企画書相談会
9-10	第 5 回 10 月 18 日水曜日 ・スマートシティ × ヘルスケア ・事業企画書中間報告	・スマートシティの取り組み概要とヘルスケアサービスとの関連性 ・事業企画書中間報告（発表、意見交換）
11-12	第 6 回 10 月 25 日水曜日 ・ビジネスモデル事例の紹介（３） ・ケーススタディ実践（３） ・事業企画書相談	・ヘルスケアビジネスの事例紹介 ・チームに分かれてケーススタディの実施 ・事業企画書相談
13-14	第 7 回 11 月 8 日水曜日 ・事業企画書発表会 ・講座の最後に伝えたいこと	・クラスを企画会議と見立てて、事業企画を発表し、全員でディスカッション ・7 回の講座を通して伝えたかったことを解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 から 2 回程度のミニ調査を宿題として提示する。また、サービスモデルの事業企画書を各自にて準備し、最終日に発表する。

【テキスト（教科書）】

特にない。参照するべきインターネットサイトなどについては、随時、授業内にて伝える。

【参考書】
Well-being as a Service モビリティ変革コンソーシアムによる「スマートシティへの挑戦」（配布予定）

【成績評価の方法と基準】
クラスへの貢献度（出席、発言、材料提供）及び提出課題を評価対象とする。割合については概ね以下を想定している。
出席　30 %
発表　40 %
ディスカッション　30 %

【学生の意見等からの気づき】
対面、メール等で、随時改善点、希望などを募集。

【学生が準備すべき機器他】
スマホやパソコンは必須。プレゼンテーションできるアプリケーションも必要。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
【Course Outline】
In this course, you will learn the know-how and ways of thinking to create your own solutions to problems in the healthcare field. And also, we will learn Community Development and Ecosystem (sustainably circulating system) that are strongly related to healthcare.
【Leading Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1: Organize and analyze business cases in Health care management
2: Manage case study discussion in Health care management
3: Write a business plan in Health care management
【Learning active outside of classroom】
One or two mini-surveys will be presented as homework. In addition, each participant will prepare a business plan for the service model and present it on the final day.
【Grading Criteria/ Policies】
Contribution to the class (attendance, remarks, provision of materials) and submitted assignments will be evaluated. The following ratios are generally assumed.
Attendance 30%, Presentation 40%, Discussion 30%

MAN510F2

コンテンツビジネス論

Multi-use Content Business Strategy

岩崎　達也［Tatsuya IWASAKI］

単位数：2 単位
学期：**夏期集中**/Intensive(Summer)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
DX 化が進む現在のビジネス環境下では、コンテンツビジネスの展開のあり方も大きく変わってきている。メディアの受け手である生活者は、コンテンツをさまざまなディバイスで受け取り、さらに創作して発信するなど一つのメディアとして機能している。『鬼滅の刃』の大ヒットも、この時代背景とメディア活用のうまさによるところも大きい。生活者参加のコンテンツ消費の時代には、どのようなコミュニケーション戦略、マーケティング戦略をとればよいのか、時代の捉え方やマーケティング理論、さらにメディアとコンテンツについて、毎回テーマを決め講義を行う。さらに、アニメ、映画、スポーツ、TV などの多様化するコンテンツビジネスの現状を説明し、学術的な理論と実務的な手法を教授することで、使える知識としていく。また、アニメ聖地巡礼などのコンテンツ・ツーリズムによる地域誘客や地域ブランディングについても講義する。

【到達目標】
代表的なメディアの思想やメディアの受け手について理解する。ドラマ、アニメ、映画、音楽など、コンテンツビジネスの現状を把握し、変化が著しい市場を分析するために、マーケティングやブランドの基本についても理解する。また、コンテンツビジネスにおいては、プロモーションも重要になるが、広告、PR、SP などの考え方を学び、コミュニケーションデザインができるところまでを到達目標とする。
また、コンテンツを通じた地域振興やコンテンツツーリズムについても現状を把握してもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義全体を通して、第 1 部から第 3 部まで、以下のような流れになる。
第 1 部:「メディアを理解する」新たなものを生みだす発想（1・2 回）、メディアの思想とメディアの受け手（3・4 回）、コンテンツビジネスの実際について外部講師による講義（5・6 回）、第 2 部:「マーケティング理論とコンテンツ、マーケティング・コミュニケーション」マーケティング 1.0 から 5.0、コンテンツ・マーケティングと物語論（7・8 回）、マーケティング・コミュニケーション（9・10 回）、スポーツマーケティング（11・12 回）、第 3 部：「地域とコンテンツ」コンテンツによる地域誘客と地域ブランディング（13・14 回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス（授業の進め方） ・自己紹介	授業への臨み方。授業の進め方。採点方法。
2	・企画立案手法、発想の仕方。	自らの体験と先人たちの知恵から、発想法や切り口発見の方法を学ぶ。
3	メディアとは。その歴史と思想	マスメディアの成り立ちと基本となるメディアの思想を学ぶ。ベンヤミン、マクルーハン、ブーアスティンなどを理解する。
4	メディアの現状把握（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、映画、ソーシャルメディア、ＯＯＨ）	個々のメディア特性や問題点を見ていくことで、コミュニケーションデザインに活かす。
5	メディア・コンテンツ産業の実務で活躍する人の講義・前半（予定）	メディアとコンテンツの実際をより具体的に感じ、身に着けてもらう。
6	メディア・コンテンツ産業の実務で活躍する人の講義・後半（予定）	メディアとコンテンツの実際をより具体的に感じ、身に着けてもらう。
7	コトラーのマーケティング 1.0 から 5.0 までを学ぶ。	時代とともに、マーケティング理論も変化してきたが、コトラーのマーケティング理論の概要を 1.0 から 5.0 までを理解する。
8	コンテンツ・マーケティング	コンテンツの解釈と生成を学ぶ。また、コンテンツにおけるメディアミックスなど、マネジメント手法を学ぶ。
9	広告概論（時代と広告の変容）	広告の考え方。実際の広告事例をあげて仕組みを説明する。
10	マーケティング・コミュニケーション（広告、SP、PR、OOH）	新しい広告の傾向から刺さるマーケティング・コミュニケーションを学ぶ。また、アーカー、ケラーなどのブランド論の基礎を学ぶ
11	スポーツのスポンサード	メディアにおけるスポーツイベントのとらえ方。スポーツコンテンツの現状とマネジメントを学ぶ。
12	オリンピックと FIFA ワールドカップ	オリンピックと FIFA ワールドカップの変遷をビジネスの視点で捉え、スポーツビジネスを理解する。
13	地域ブランドの概念とブランドストーリーのつくり方	地域も資源の伝達だけではその魅力は伝わらない。物語の作り方を学び、地域のブランド力を上げる方法を身につける。
14	コンテンツツーリズム	ドラマ、アニメ、映画の舞台へのツーリズムが盛んである。アニメ聖地巡礼を事例として、巡礼者の分析と地域施策について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最近の SNS を中心とする企業の情報伝播の特徴について、注視し分析しておいてください。地域誘客やコンテンツツーリズム（アニメ聖地巡礼やドラマツーリズムなど）についても意識して、各地域の施策など事前の情報を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは、使用しない。講義内容によって、その都度関連書籍を提示する。

【参考書】
岩崎達也『実践メディア・コンテンツ論入門』慶応義塾大学出版会
岩崎達也・小川孔輔編著『メディアの循環　伝えるメカニズム』（生産性出版）
岩崎達也・高田朝子『本気で地域を変える-地域づくり 3.0 の発想とマネジメント』（晃洋書房）
岩崎達也『日本テレビの 1 秒戦略』（小学館新書）

【成績評価の方法と基準】
最終レポート (50 %)、出席とクラスでの議論 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】
座学を中心とした講義であるが、毎回の講義テーマにおけるディスカッションをしたい。受講生たちも、社会人としてそれぞれの道のプロである。特に、デジタルメディア関しては、多くの知見をもつ受講者もおり、それが講義をより豊穣なものとしてくれるはずである。活発な意見交換によって、授業を双方向の議論の場としたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
メディアおよびコンテンツの状況は、社会の変化とともに日々変化しており、最新の情報を加味していくため、内容を変更する可能性がある。また、講義のテーマが授業の流れによって前後、追加、省略する場合がある。
・外部講師による、メディアおよびコンテンツマネジメントの講義も予定している。

【Outline (in English)】
In the current business environment where digital transformation is advancing, the way of developing the content business is also changing drastically. Consumers, who are the recipients of media, receive content on various devices, create it, and send it out, functioning as a single medium. The big hit of "Kimetsu no Yaiba" is also largely due to the background of this era and the good use of media. In the era of content consumption with consumer participation, we will give lectures on what kind of communication strategy and marketing strategy should be taken, how to grasp the era, marketing theory, media and content every time. Furthermore, by explaining the current state of diversifying content businesses such as animation, movies, sports, and TV, and teaching academic theory and practical methods, we will use it as knowledge that can be used. In addition, lectures will be given on regional attraction and regional branding through content tourism such as pilgrimage to anime sacred sites.

MAN510F2

中小企業総合経営論Ⅰ

General management for small and family companies Ⅰ

佐藤　　裕弥

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
全社的な経営診断を踏まえ、経営戦略の策定、経営課題の抽出、課題解決を目指した実行計画策定という一連の経営戦略診断プロセスを学ぶことにより、中小企業経営について総合的かつ実践的な指導、支援、アドバイスができるスキルを修得する。
全社的に経営診断を実施するという想定で、検討の材料は可能な限り、経営を俯瞰的に把握できる定性的情報 (経営者、社員へのインタビュー報告等)、定量的情報 (財務、販売、生産、モラルサーベイ等) を盛り込んだ内容とする。

【到達目標】
1. 経営戦略を策定するため必要となる分析を絞り込み、的確な分析ができること。
2. 中小企業経営の特性を踏まえ、中期経営計画を策定するための基本戦略と戦略オプション (戦略候補、戦略代替案) を提案できるスキルを修得していること。
3. 経営戦略を推進するための 2〜3 つの重要課題について、具体的かつ実践的な提案ができるスキルを修得していること。
4. 重要課題の解決策の 1 つとして、中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる知識を修得していること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
中小企業経営への総合的な指導、支援、アドバイスができるため、実際の企業の経営診断を行い、それに基づいて経営戦略、また施策活用も含めた経営戦略の実行対策について提案を行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	外部環境分析、内部資源分析	全社的かつ総合的に、経営の現状分析、戦略形成のための分析の進め方を学ぶ。
2	外部環境分析、内部資源分析　演習（実習）	経営の現状分析について企業事例の演習を行う。
3	経営戦略立案	分析結果を踏まえ、ロジックを形成し、戦略立案、また経営課題を抽出する進め方を総合的に学ぶ。
4	経営戦略立案演習（実習）	経営戦略立案について企業事例の演習を行う。
5	経営課題の抽出と重点化	経営課題の抽出と重点化の手法を学ぶ。
6	経営課題の抽出と重点化演習（実習）	経営課題の抽出と重点化について企業事例の演習を行う。
7	中小企業の事業承継	ゲスト講師による事例などにもとづいて解説を行う
8	ゲスト講師事例の討議とまとめ	事例を含めて具体的な討議を行う
9	中小企業施策の活用	中小企業支援施策の活用を必要に応じてガイドできる知識を修得する。
10	中小企業施策の活用事例	中小企業施策の活用の事例の実際を学ぶ。
11	発表	グループ別のプレゼンテーションを行う。
12	発表、講評	グループ別のプレゼンテーションを行う。 企業経営者より講評をもらう。
13	発表評価	発表に基づいて評価点、改善点を説明する。
14	まとめ	中小企業の経営及び経営診断の体系を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間以外のグループワーク、フィールドワークが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
特に指定なし

【成績評価の方法と基準】
講義、グループワークへの貢献度　６０％
発表、報告書の評価　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
【オフィスアワー】
授業開始前または終了後に質問を受け付けます。
そのほか受講生からの希望に応じて、対面・メールなどでの質問等を受け付けます。
【実務経験と授業の基本的な方針】
30 年を超える中小企業診断士としての活動経験を有し、経済産業省ほかの有識者委員を務めています。
また、JICA（国際協力機構）専門家などの社会貢献活動も行っており、中小企業に関する理論とともに実務経験を活かした授業を行います。

【受講要件】
実務経験 3 年以上必要。課外のグループワークに参加できること。

【Outline (in English)】
learn comprehensive and practical guidance on SME management, by learning a series of management strategy diagnosis process such as formulation of management strategy, extraction of management tasks and implementation plan aiming at problem solving, Learn the skills that you can give advice and advice.

MAN510F2

中小企業総合経営論Ⅱ

General management for small and family companies Ⅱ

藤川　裕晃

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中小製造業は大手製造業と規模が異なることだけではなく、担当するにも業種にも違いが出てくる。最終消費財を大量に生産して売上規模を狙う大手製造業へ部品を供給したり、大手がやりたがらない儲からない工程を担当する企業や大手が狙わない市場規模の製造を担当する企業がある。そのため中小製造業は、多品種少量生産へ対応することになる。つまり、少ない生産量と多い品種を少ない経営資源で効率的に対応しなければならない。そこでは、大手製造業の様な大規模ラインや完全自動化ラインなどは無く、減価償却の終わった生産性の低い機械に作業者を投入する。中小企業の経営診断を行うにあたっては、これらの中小製造業の特異性を考慮した生産マネジメントが必要になる。業種ごとに出現する相違点を扱い、工場の問題点の解析と改善手法を実例と討論を通して学ぶ。
また、近年のデジタル化の流れに日本企業は遅れていると言われている。その主要な原因の一つが部門の壁と指摘されている。中小製造業に於いてはそれがなく、デジタル化の流れを最も活用できるのも中小製造業である。将来の診断のキーポイントとして DX 化手段と方法論についても述べる。

【到達目標】
①中小企業の生産マネジメントに関する知識や考え方を得て問題点を理解できる。
②具体的に中小製造業の診断にあたって直面する様々な生産マネジメントの課題に対して知識やスキルを使って課題を発見・把握できる。
③演習や事例研究を通して中小製造業の生産マネジメントの問題構造を理解し生産マネジメントの各種技法を活用することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はハイフレックス方式で進めるが途中にグループ・ディスカッションやミニ演習を交える。全 7 週のうちの第 1 週目には、オリエンテーションと共に中小製造業の全体像を示す。第 2～6 週では中小製造企業に多く見られる業種毎の経営問題を事例ベースで扱う。最終週には、これからの中小製造業のテーマであるＤＸ化について、事例を交えて講義する。毎週、2 限目の講義の最後に個人演習とグループ討論を行う。また、講義終了後にレポート提出がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本の産業と製造業	オリエンテーション、日本の産業の現状と今後の展開、日本の製造業の産業全体における位置付け
2	中小製造業を巡る経営環境及び課題	中小企業性製造業の特徴と業種、ベンチャー企業
3	中小製造業種（１）機器組立業	機器組立業界についての経済的知識、一個流し、U 字ライン、セル生産方式
4	中小製造業種（２）繊維加工業	繊維加工業界についての経済的知識、作業研究、スケジューラー
5	中小製造業種（３）食品加工業（製餡）	食品加工業界についての経済的知識Ⅰ、バッチ生産、防露・防鼠、排水処理
6	中小製造業種（４）食品加工業（弁当）	食品加工業界についての経済的知識Ⅱ、セル生産化、モチベーション管理
7	中小製造業種（５）金属加工業	金属加工業界についての経済的知識、金型、段取り替え作業、MC マシンの生産計画
8	中小製造業種（６）メッキ業	メッキ業界についての経済的知識、環境問題、排気・排水処理
9	中小製造業種（７）紙器加工業	紙器加工業界についての経済的知識、段ボール、印版とその管理、RFID
10	中小製造業種（８）印刷業	印刷業界についての経済的知識、型枠、工場内物流と機械レイアウト
11	中小製造業種（９）樹脂加工業	樹脂加工業界についての経済的知識、金型管理、ロット生産、段取り時間の短縮
12	中小製造業種（10）化学品加工業	化学品加工業界についての経済的知識、環境問題、プラント設計、メンテナンス
13	工場のデジタル化	デジタル化の概念、日本産業の現状と DX 化状況、DX 化を拒む理由、DX 化の手順
14	中小製造業 DX 化事例	コンクリート業界の解説、コンクリート品製造システムの DX 化事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
授業内容に関する講義資料は、事前に配布（ウエブにアップ）するので読んで準備学習をしておく。
復習・宿題等
毎回、授業内容に基づいて、演習を行う。講義で学んだ内容を整理し、不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし、レジュメを配布する。

【参考書】
大場允晶・藤川裕晃著「生産マネジメント概論・戦略編」、文眞堂、2009 年
大場允晶・藤川裕晃著「生産マネジメント概論・技術編」、文眞堂、2010 年
村松林太郎著「新版 生産管理の基礎」、国元書房、1970 年
上野直紀、高橋健司著「改善の現場こんなときどうする？」、日刊工業新聞社、2007 年
山口俊之著「生産工場の DX がよ～くわかる本」、秀和システム、2021 年

【成績評価の方法と基準】
座学で学んだ内容について講義内で毎回個人演習（70%）を行う。
また、最後にレポート（30%）を提出する。
尚、演習の提出が５回に満たない場合には、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
実際の診断事例活用が経営実務を習得するのに効果的である。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、事前に配布する資料に目を通しておくこと。

【その他の重要事項】
質問・相談がある場合には、
1.　講義に関する質問は、演習のシートの最後に質問欄を設けるのでそこで質問をしてください。次回の講義でお答え致します。
２．それ以外の場合には、メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。

【受講要件】
実務経験 3 年以上必要。課外のグループワークに参加できること。

【Outline (in English)】
Not only is the small and medium-sized manufacturing industry different in scale from the major manufacturing industry, but there are also differences in the products and manufacturing methods of the industry. There are companies that mass-produce final consumer goods and parts to major manufacturing companies aiming for sales scale, companies that are in charge of non-profitable processes that major companies do not want to do, and companies that are in charge of market-scale manufacturing that major companies do not aim for. .. Therefore, the small and medium-sized manufacturing industry will support multi-item and low-volume production. In other words, it is necessary to efficiently deal with a small amount of production and a large number of varieties with a small amount of management resources. There is no large-scale line or fully automated line like the major manufacturing industry, and workers are put into low-productivity machines that have been depreciated. When conducting a management diagnosis of small and medium-sized enterprises, it is necessary to carry out production management that takes into consideration the peculiarities of these small and medium-sized manufacturing industries. We will deal with the differences that appear in each industry, and learn how to analyze and improve factory problems through actual examples and discussions. In addition, it is said that Japanese companies are lagging behind the trend of digitalization in recent years. It has been pointed out that one of the main causes is the wall of the department. There is no such thing in the small and medium-sized manufacturing industry, and it is the small and medium-sized manufacturing industry that can make the best use of the trend of digitalization. As a key consulting item of future management diagnosis, DX(Digital Transformation) means and methodology are also described.

MAN510F2

リテール・マネジメント

Retail Management

花畑　裕香

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リテールマネジメントは、従来の商業・経営学的なアプローチをベースにしながらも、現在の小売業に求められる最新経営実務や流通業務を革新する手法を学ぶ。流通を取り巻く経営環境が激しく変化している状況を見据え、フィールドを顧客の視点から分析し、支援者や実務家の立場で問題解決していくことを志向する。実際の実務事例を多く取り入れながら、流通の業務を革新できるプロフェッショナルを教育する。

【到達目標】
流通企業の経営診断についての知識を習得し、中小小売店舗などを改善できる実践的な視点とスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実務に即した授業内容とし、国内外の幅広い事例から知識を習得する。講義回数 7 回のうち 2 回はグループ発表とし、グループで課題解決に取り組んだ内容を全体共有し、実践スキルを養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リテールマネジメントの概要	小売業経営の理解と小売業診断スキルについて学ぶ。
2	小売店経営の現状と課題	日本の小売業の現状を業態別、組織別に分析し、今後の小売店経営に求められる機能を学ぶ。
3	店舗生産性向上を高めるメカニズム	小売店の売上高、利益の構造を理解し、客数、客単価を向上させる技術を理解する。
4	ケース 1	商業経営の事例について学び、討議を行う。
5	店舗レイアウトとスペースマネジメント	店舗レイアウトの理論や実例を学び、効果を高めるスペースマネジメントの手法を理解する。
6	ケース 2	流通企業の事例について学び、討議を行う。
7	チェーンストアシステムと店舗運営原則	チェーンストアシステムと店舗運営の基本的な技術と顧客満足度を高める QSC の改善方法を学ぶ。
8	ケース 3	顧客満足度を高める事例について学び、討議を行う。
9	プロモーション	インストアプロモーション、SNS、国内外 EC サイト等、店舗を取り巻く国内外のプロモーションの実例を学び、収益向上策を理解する。
10	課題グループ発表①	グループごとに課題発表を行い、全グループから評価を受ける。
11	流通情報システムと活用	流通情報システムやその他店舗を取り巻く情報システムの現状について学び、設備投資や人材不足への対策を理解する。
12	ケース 4	情報システムなどの技術とそれらを用いた事例を学び、今後小売店はどう対応すべきか討議を行う。
13	店舗経営診断と改善指導の技術	流通企業の経営診断の事例から経営診断、経営改善指導の取り組みの考え方や手順を理解する。
14	課題グループ発表②	グループごとに課題発表を行い、全グループから評価を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間以外にフィールドワークとグループワークを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜配布をする。

【参考書】
「スーパーバイザーの実務」（商業界）
他は授業中に適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】
授業テーマの取り組みと授業貢献（60 %）、課題の取り組みと発表（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講者の関心によってゲストスピーカーを調整したい。

【その他の重要事項】
オフィスアワー
前期は水曜日 13 時～17 時
他は随時アポイントをお願いします。

【受講要件】
実務経験 3 年以上必要。課外のグループワークに参加できること。

【Outline (in English)】
Retail management learns how to innovate the latest management practices and distribution operations required for the current retail industry, based on traditional commercial and business approaches. Looking at situations where the business environment surrounding distribution is undergoing drastic changes, we analyze the field from the customer's point of view, and intend to solve problems from the standpoint of supporters and practitioners.

MAN510F2

MBA 特別講義（マクロ経済と人材経営）

Topics from Master of Business Administration

山田　久

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル技術の革新やグローバルな経済関係の変化が進展し、地球環境問題への危機感が高まるなか、企業経営を取り巻く環境は複雑化し、変化のスピードも加速しています。それは顧客、資金提供者、従業員、地域社会などステークホルダーと企業の関係が大きく変化していることを意味し、その変化を的確に捉えることで、新たなビジネスチャンスを掴むことができます。そうした認識のもと、「プロジェクト」を推進するにあたって有益な知見を様々な角度から提供すべく、本授業では、「経営環境（マクロ環境）―経営戦略―経営資源（人材）」という三層構造のなかに企業活動を位置づけたうえで、人材面に焦点を当てつつ企業と各ステークホルダーとの関係変化を多角的に取り上げ、複雑化する経営の課題とそれへ対応について考えていきます。事業環境の先行きを読むのに不可欠な、マクロ的な視点を取得することも目指します。

【到達目標】
グローバル規模で生じている経営環境変化の方向性を大掴みしたうえで、「コスト競争」ではなく、「イノベーション競争（付加価値競争）」を選択することの必要性を理解し、短期的な動向に惑わされることなく、長期的な展望に立って考えていく能力や姿勢を取得することを目標とします。とくに、人材面からのアプローチを中心に講義します。同時に、マクロ的な視点にもとづき、物事を大局的につかむ能力の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と討議を組み合わせる形で行います。２コマ単位で進め、３コマ目以降、事前に出題されるテーマに関連した設問について、各人の意見を発表してもらったうえで、関連した講義を行います。その後、グループ討議を経て、テーマに関する考えを深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション―マクロ・経営・人材	マクロ的な見方とは、三層構造で見ることの意味合い
1	企業経営を取り巻くマクロ環境の変化	これからの企業経営・事業創造にとって重要なマクロ環境は何か、これにどう対処するか
2	事業戦略とプライシング戦略（１）	低価格戦略の有効性と限界を整理し、値付け戦略を考える
2	事業戦略とプライシング戦略（２）	平均単価を引き上げるために求められる経営戦略は
3	コーポレートガバナンス論（１）	コーポレートガバナンスとは何か、日本の企業統治の特徴は
3	コーポレートガバナンス論（２）	経営者に求められる資質とは、企業統治と労働組合
4	労働市場の日米欧比較からみた人材マネジメントの方向性	日米欧の労働市場の違いは何か、日本の人事の歴史
4	労働市場の日米欧比較からみた人材マネジメントの方向性	働き方改革の理想と現実、今後の人材マネジメントの方向性は
5	働き方の未来（１）	雇われない働き方（起業とインディペンデントコントラクター）、デジタル革命の影響
5	働き方の未来（２）	良い兼業・悪い兼業、生涯現役を実現するための条件は
6	グローバル経営と人材活用（１）	経営のグローバル化にどのような課題があるか
6	グローバル経営と人材活用（２）	外国人材の能力を引き出す組織・人材マネジメントとは
7	ＣＳＲ論（１）	企業経営と社会問題のかかわり、企業の社会的責任は何か、それはなぜ必要か
7	ＣＳＲ論（２）	ＣＳＶの考え方とは、社会的事業のベストプラクティス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
2 コマ単位で進めます。事前（前回）に出題される、テーマに関連した設問について、各人の意見をまとめてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を毎回配布します.

【参考書】
拙書『市場主義 3.0』東洋経済新報社、『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社、のほか、講義中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
出席および討議参加への積極度（50 %）とレポート（50 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
経済学部出身者以外にもマクロ経済を知ることの有用性が分かってもらえるよう、具体的なエピソードを交えながら解説することを心掛けます。

【Outline (in English)】
Business circumstances have been changing drastically during over the past 2 or 3 decades, which means the relationships of companies with stakeholders, such as customers, lenders, employees and local communities are changing. The objectives of this lecture are providing students with better understandings about new relationships with stakeholders, as well as acquiring macro-economic views to prospect the future.

MAN510F2

サービスマネジメント

Service Management

斎藤　　隆行

単位数：2 単位
学期：夏期集中/Intensive(Summer)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル社会の進展により産業の主役は、製造業からサービス産業へ移行しつつある。また、商品においても有形財と無形財の垣根が曖昧になり、顧客ベネフィットを重視したビジネス展開が肝要である。企業は「デジタル社会で市場はどう変わったのか」を理解し、付加価値の高いサービス提供と自社の利益最大化を両立させることが大きな課題である。本授業の目的は、サービスビジネスの概念を理解しながら、デジタル社会におけるイノベーション創出に向けた実践的な方法論を習得することである。授業では、新たな概念として登場しているデジタル財やサブスクリプション、オムニチャネル、トリプルメディアなどの潮流に触れながら、企業が取り組むべきサービス・マネジメントの本質を探究する。（大企業・中小企業の両方向け）

【到達目標】
・サービス（無形財）の特徴やサービス・マーケティングの基本知識を習得する。
・サービス産業におけるイノベーション創出のプロセスを理解し、ビジネス企画力を習得する。
・サービスマネジメントに関する課題解決力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、単に知識を習得するのみならず、ビジネス実践力向上を目指す。そのため、授業は、講義とグループワークおよびディスカッション形式で進行する。グループワークでは、幾つかのケース学習を行い、理解促進を図る。また、サービス産業におけるイノベーションプランを企画・発表し、相互評価を行う。学生には、相互啓発志向を持って建設的な議論を行っていただくことを期待する。2 回連続であり、授業日は 7 日間となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	デジタル社会における市場の変化	・授業ガイダンス ・デジタル社会におけるビジネスの変化 ・自己紹介およびグループ編成
第 2 回	サービスとイノベーション	・サービスの特徴とサービス・マーケティング ・イノベーションの 3 類型（変革型・開発型・改善型）
第 3 回	プロフィット・ゴール・マネジメント	・プロフィット・ゴールの考え方 ・価値ある商品の条件（VGI）と 7 パターン（Vup7）
第 4 回	カスタマーリレーションシップ	・顧客満足と LTV（Life Time Value） ・顧客ニーズの類型 ・課題検討①（目標設定）
第 5 回	サービス・デザイン	・デジタル財、クラウドソーシング ・カスタマー・ジャーニーマップ
第 6 回	プロトタイプ設計	・サービス・コンセプト ・課題検討②（仮説立案）
第 7 回	プライシング	・ダイナミックプライシングとレベニューマネジメント ・サブスクリプションとは
第 8 回	営業戦略	・O2O とオムニチャネル ・トリプルメディア戦略 ・課題検討③（仮説修正）
第 9 回	オペレーションマネジメント	・従業員のオペレーション力向上策 ・サービスマニュアルづくりのポイント
第 10 回	課題検討	・課題検討④（営業戦略立案）
第 11 回	クレームマネジメント	・クレーム発生時の対応 ・クレームマネジメントのポイント
第 12 回	課題検討	・課題検討⑤（発表準備）
第 13 回	課題発表 1	プレゼンテーションと相互評価
第 14 回	課題発表 2	プレゼンテーションと相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
短期集中授業であることから、理解促進を図ることを目的に、毎回授業レポート（A4 一枚）の提出を求める。その他にケース学習の予習、課題発表の準備等、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を配布する。

【参考書】
齋藤隆行・福岡宣行・松尾泰・蔵田浩（2020）「プロフィットゴール・マーケティング」産業能率大学出版部

【成績評価の方法と基準】
1．授業への参画態度（発言の量と質）20 %
2．授業レポート（量と質）20 %
3．課題発表（グループ発表）40 %
4．個人レポート（グループ発表を踏まえたレポート）20 %

【学生の意見等からの気づき】
新規担当につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
The theme of this lecture is to learn management in providing customers with services that are invisible intangible goods.
While paying attention to differences from tangible goods management, we will consider how to provide intangible services to customers.
The lecture is practical oriented that strongly considers providing knowledge that can be used in practice. In addition to understanding phenomena, we will focus on providing tools that can be used at the worksite.

MAN510F2

流通・マーケティング戦略論

Retail management and marketing strategy

岩瀬　敦智

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、主要な流通業（主に大規模小売業）のマーケティング戦略の概要、背景にある環境情報、マーケティング上の特徴を捉えた理論的枠組みを学習する。各主要流通業のマーケティングへの学びを深めることで、流通マーケティングへの視野を拡げ、流通業の未来の展開を分析し予測できる実務能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】
(1) 任意の流通事業者を取り上げ、その企業や事業のマーケティング戦略の特徴を背景にある環境情報や理論的枠組みに基づいて説明できる状態。
(2) その企業や事業がとるべき未来への方略を根拠を示しながら提示できる状態。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 授業形態：各回、講義を主体として進め、講義中にグループ討議を織り交ぜながら進める。
(2) 授業内での発表：あらかじめグループを形成し準備を進め、最終講義にてグループごとにプレゼンテーションを求める。
(3) 最終課題：個人ごとにレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	流通マーケティング革新の勃興	ドラッカーの流通マーケティング研究への関与
第 2 回	流通マーケティング進化の変遷	American Marketing Association の定義の変遷、コトラーの理論展開
第 3 回	西欧における商業近代化	近代小売商業の誕生、商業倫理の確立、チェーンストアによる流通革命、e コマースの台頭、デジタル破壊
第 4 回	日本における商業近代化	日本の近代商業の発展経路、江戸商人、石門心学、商いの道
第 5 回	百貨店のマーケティング戦略研究	百貨店のリテールブランド戦略、百貨店のコミュニケーション戦略
第 6 回	スーパーマーケットのマーケティング戦略研究	スーパーマーケットの業務システム革新、スーパーマーケットのブランド力と業態認識
第 7 回	GMS（総合品揃えスーパー）のマーケティング戦略研究	GMS（総合品揃えスーパー）のマーケティングと経営戦略転換、GMS のグローバル戦略
第 8 回	コンビニエンスストアのマーケティング戦略研究	コンビニエンスストアの事業システム、コンビニエンスストアの創造的連続適応
第 9 回	ショッピングセンターのマーケティング戦略研究	ショッピングセンターの革新性と変容、ショッピングセンターのコミュニケーション戦略
第 10 回	製造小売業のマーケティング戦略研究	製造小売業モデルの経営革新、製造小売業のマーチャンダイジング戦略
第 11 回	オムニチャネル、小売 DX に関する研究	ゲストスピーカーによる講演と担当教員による論点整理。オムニチャネル、小売 DX の近年の動向
第 12 回	デジタル・プラットフォーマーのマーケティング戦略研究	通信販売と経営革新の展開、デジタル・プラットフォーマーがもたらす流通のディスラプション
第 13 回	グループ討議と担当教員による論点整理	グループごとの主要な流通業に関するマーケティング戦略の整理と未来への方略の検討 担当教員による論点整理
第 14 回	グループ・プレゼンテーションと担当教員によるフィードバック	グループごとの主要な流通業に関するマーケティング戦略の整理と未来への方略のプレゼンテーション 担当教員によるフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を目安とする。
(2) 事前に指定するテーマについて情報収集・検討した上で講義に臨む。
(3) グループによるプレゼンテーションの準備を行う。
(4) グループによるプレゼンテーションを担当する回には資料を作成し事前提出する。
(5) 個人によるレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
適宜資料を配布する。

【参考書】
(1) 矢作敏行『コマースの興亡史 商業倫理・流通革命・デジタル破壊』日本経済新聞出版、2021 年
(2) 渦原実男『流通・マーケティング革新の展開』同文舘出版、2017 年
(3) その他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
(1) 講義時間中の議論への関与（40 %）
(2) グループによるプレゼンテーションの質（40 %）
a) グループごとに任意に具体的な流通事業者を選定する。
b) その企業や事業のマーケティング戦略の特徴を整理する。
c) その企業や事業について未来に向けた方略を検討する。
d) 上記 a～c を説明するための資料を作成する。
e) 資料を活用しながら授業内でグループ・プレゼンテーションを行う。
(3) 個人によるレポートの質（20 %）
a) 個人ごとに任意に具体的な流通事業者を選定する。
※グループ・プレゼンテーションとの重複不可
b) その企業や事業のマーケティング戦略の特徴を整理する。
c) その企業や事業について未来に向けた方略を検討する。
d) 上記 a～c についてレポートを作成し提出する。

【学生の意見等からの気づき】
新規科目につき該当なし。

【その他の重要事項】
(1) 講義について
・各回で流通業のマーケティングを捉えるためのマーケティングの知識を取り上げるため、マーケティング関連の他の授業で提示される知見との重複が発生する場合がある。
(2) 教員の実務経験
・大手百貨店での勤務経験の後、経営コンサルタントとして百貨店、スーパーマーケット、GMS、コンビニエンスストア、ショッピングセンター、製造小売業でのコンサルテーションや人材育成支援に従事した経験を有する。
・本授業は主要な流通マーケティング領域の学術研究、流通業に関する時事情報、教員の実務経験を統合する形で進める。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire Distribution Marketing.

MAN510F2

公共・非営利・社会的企業経営論

佐藤　　裕弥

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資本主義社会の是正の観点から、「新しい資本主義」が模索されており、これまでの「効率性」「収益性」の視点に加えて、「公共性」、「公益性」、「公正性」などの視点を交えた経営が求められてきている。その中でもとくに人口減少問題と地方創生などの観点から、公共（国・地方公共団体等）・非営利（NPO/NGO等）および社会的企業（社会的目的をもった企業。株主、オーナーのために利益の最大化を追求するのではなく、コミュニティや社会活動に利益を再投資する企業）の存在と社会貢献が注目されてきている。
本講座では、営利企業とはその存在理由を異にする公共・非営利企業のあり方と実例に基づいた経営戦略を学ぶ。
また、営利企業であっても SDG s 経営、環境経営などに見られるように、企業活動と社会性・公共性の調和を意識した「社会的企業」の成長が期待されていることから、広く社会的存在としての企業経営を学ぶことを目的としている。
この授業を通じて、公共・非営利・社会的企業における経営の着眼点と実際について学び、今後の企業経営のあり方や中小企業診断士などのコンサルタントが担うべき役割などを理解し、実社会に活かせるよう事例研究等を通じて学ぶことを予定している。

【到達目標】
1. 公共・非営利・社会的企業が重要視する「公益性」を学び、持続可能な社会を構築するための着眼点を理解すること。
2. 環境問題、少子高齢化に伴う社会問題や、格差社会における社会・経済情勢の変化に対応した社会的企業の経営戦略を理解すること。
3.SDG s 経営について理解し、経営戦略を策定できること。
4. 公共・非営利・社会的企業について、具体的かつ実践的な提案ができる基礎的なスキルを習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
公共・非営利・社会的企業に対する総合的指導、支援、アドバイスができるよう、事例研究を含めて具体的な論点を整理して進めます。
グループディスカッションなどの方法を取り入れて、各グループの発表をもとに議論を進め、全体としてのとりまとめを行ないます。またレポート等を通じて各人の理解を促すとともに、注目すべき見解を授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	公共・非営利・社会的企業論の視座	公共・非営利・社会的企業の存在意義・社会的役割・事業の範囲を学ぶ。
第 2 回	国・地方公営企業の現状と経営戦略	市場の失敗の克服策として存在する公営企業の経営戦略を学ぶ
第 3 回	NPO/NGO の現状と経営戦略	NPO/NGO の事例に基づいて、経営上の問題点・課題を抽出し、経営戦略を学ぶ。
第 4 回	非営利目的企業の現状と経営戦略	非営利目的の企業（例. 病院等）の経営の現状と今後の経営戦略を学ぶ。
第 5 回	SDGs と社会的企業の現状と経営戦略	SDG s を取り入れた企業の経営の現状と経営戦略を学ぶ。
第 6 回	ソーシャル・マーケティングの理論と経営戦略	ソーシャル・マーケティングの考え方を活かした経営戦略の実例を学ぶ
第 7 回	日本の成長戦略と市場開放	政府の規制改革による公共・非営利組織と民間企業の連携方策を学ぶ。
第 8 回	公民共同企業体の経営戦略	第一セクター（国および地方公共団体が経営する公企業）や第二セクター（私企業）とは異なる第三的方式による法人の現状と経営戦略を学ぶ。
第 9 回	行財政改革と地方創生・地域活性化の自治体経営・マーケティング	行政のスリム化、地方財政の健全化と持続可能な地域住民へのサービス提供のための経営戦略を学ぶ。
第 10 回	人口減少下における社会インフラの維持と社会的企業の経営戦略	水道、下水道、電気、ガスなどの公益事業の現状と課題を学び、その維持に関わる企業活動のあり方を学ぶ。
第 11 回	社会的企業の現状と経営戦略	社会的企業（例. 医療・福祉・介護サービス）の現状と経営戦略を学ぶ。
第 12 回	政府規制改革と民間企業の公共マーケットへの参入手法	官民連携手法の多様化と民間企業のビジネスチャンスを学ぶ。
第 13 回	人口減少社会の現状と地方創生における公共・非営利・社会的企業の役割	地域資源を活用したビジネスについて、地方創生に関わる公共・非営利・社会的企業の経営戦略を学ぶ。
第 14 回	公共・非営利・社会的企業経営論のまとめ	持続可能な社会に向けた資本主義の修正と、社会・経済情勢の変化に対応した企業活動のあり方について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義時間以外のグループワーク、フィールドワーク等による学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
・フィリップ・コトラー (著), 松野弘 (翻訳), 熊倉広志 (翻訳), 玉村雅敏 (翻訳)『「公共の利益」のための思想と実践：企業・政府・非営利団体の戦略』, ミネルヴァ書房 (2022).
・ヘンリー・ミンツバーグ (著), 池村千秋 (翻訳)『私たちはどこまで資本主義に従うのか』ダイヤモンド社 (2015).
・ヘンリー・ミンツバーグ (著), 池村千秋 (翻訳)『MBA が会社を滅ぼす』日経 BP (2006).
その他、授業の中で取り上げて参考文献を紹介します.

【成績評価の方法と基準】
講義、グループワークへの貢献度　６０％
発表、レポートの評価　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】
【オフィスアワー】
授業開始前または終了後に質問を受け付けます。
そのほか受講生からの希望に応じて、対面・メールなどでの質問等を受け付けます。
【実務経験と授業の基本的な方針】
30 年を超える中小企業診断士としての活動経験を有し、経済産業省ほかの有識者委員を務めています。
また、JICA（国際協力機構）専門家として SDG s に関する活動をしています。そのほか地球環境問題の支援を目的とする NPO 法人の理事として運営方針の決定に携わっているとともに、開発途上国の支援を目的とする NGO 法人のメンバーとして海外で幼児・児童教育環境整備事業を担当しています。

【担当教員の専門分野等】
・公共・非営利方針の経営診断技法の開発
・産学官連携の推進
・政府規制改革による非営利部門への民間企業の参入推進
・市場競争と公共性・公益性の調和
・SDG s 経営と NPO/NGO の経営戦略

【Outline (in English)】
In this course, students will learn business management of national government, public organizations, and non-profit organizations, comparing them with for-profit corporate activities.
The course also aims to teach SDGs management strategies and management strategies of social enterprises.

MAN510F2

収益モデルの構築

Earnings Model

山﨑　泰明［Yasuaki YAMASAKI］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卓越した事業アイデアだけではビジネスは実現しません。そのアイデアを活かし、事業機会につなげることによりビジネス化が可能となります。そのためには将来の事業を構想し、具体的な数値に落とし込むことが不可欠です。将来の事業構想とは、新規事業や企業買収などといった新たな取り組みだけではなく、製造工程の自動化やＳＣＭの推進などといった既存のやり方の変更なども含みます。本講義の目的は、これら将来の事業に関する意思決定を行なうためのファイナンス理論をベースに事業の数値化を習得します。受講者全員が一定の水準の目標に達するようにフルサポートします。また、可能であるならば、ファイナンスⅠ、ファイナンスⅡとともに受講することが望ましいでしょう。

【到達目標】
急速な成長を目指すベンチャー起業家および企業内で新たなビジネスの構築を担う者が、事前に有用なコーポレートファイナンスに関わる知識やスキルをすべて習得することは決して簡単なものではありません。そのため、本講義では、事業アイデアをビジネス化するために必要と考えられる収益モデルの構築に絞り基礎的な素養を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
新規事業の創出ならびに既存事業の改善等の収益モデルを構築する知識やスキルを習得する授業という点から、演算演習を交えた講義形式で進めていきます。ミニ・ケースや実務での経験談も適宜取り入れます。講義では事前にパワーポイントによるテキストをアップしますので予め理解に努めて下さい。各回の授業の後半で行なう確認課題に取り組み、それによって議論をおこなう、各自の意見などを紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①イントロダクション ②講義の進め方 ③成績の評価について
第 2 回	事業構想段階の留意点と、新しいアイデアの調達方法	①事業家としての適格度 ②サービスイノベーション戦略 ③ビジネスプランに関する課題 ④主なアプローチ方法 ⑤事業アイデアと事業機会
第 3 回	マネタイズモデルの類型	①リアルビジネスでのモデル ②プラットフォームビジネス
第 4 回	実務家の経験談	・ゲストスピーカー
第 5 回	ビジネスプランの概要	①事業アイデアの具体化 ②ビジネスプラン作成時の留意点
第 6 回	収益モデルの構築①	①お金の時間的価値 ②ＤＣＦ法
第 7 回	収益モデルの構築②	①予測キャッシュフローの想定 ②バリューチェーンとキャッシュフロー
第 8 回	収益モデルの構築③	①予測キャッシュフローの現在価値 ②ターミナルバリュー
第 9 回	収益モデルの構築④	①資本コスト ②機会コストと要求リターン
第 10 回	事業の数値化①	①要素の洗い出しと数値化
第 11 回	事業の数値化②	①事業創出型の数値化 ②Ｍ＆Ａにおけるデューデリジェンス
第 12 回	事業の数値化③	①既存事業型の数値化
第 13 回	新規事業の普及	①イノベーションの普及
第 14 回	確認テスト、総括	・ビジネスモデルと事業の数値化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中にも説明は行ないますが、予め財務諸表に触れていることが望ましいでしょう。テキストは事前にサイトにアップしますので２時間程度の事前学習をお勧めします。復習に関しては、各回の授業の終わりに確認のための課題を行ないます。その結果を踏まえ、事後に２時間程度の復習を各自で行なうように努めて下さい。

【テキスト（教科書）】
講義用資料（パワーポイント）

【参考書】
リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝茂樹監訳、“コーポレートファイナンス（上）（下）”日経ＢＰ社　2014 年
磯崎哲也著、“起業のファイナンス”日本実業出版社　2020 年

【成績評価の方法と基準】
・最終確認テスト　40 %
・各回の小レポート　30 %
・授業での関与度　30 %

【学生の意見等からの気づき】
多くの意見を期待します。

【学生が準備すべき機器他】
Excel が使用できるパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
三十年強に及ぶ証券会社での各種業務における実務と企業経営の経験を活かした授業を心掛けます。
【オフィスアワー】
質問等は、木曜日の３限目（13:10-14:50）に受け付けます。
別途、事前に連絡をいただければ対面・メールなどでの質問等はいつでも歓迎です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス、イノベーション戦略、起業論、ファミリービジネス経営

【実務家教員】
３０数年間に及ぶ証券会社での実務と企業経営の経験を活かした授業を行ないます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
A business cannot be realized only by excellent business ideas. By utilizing the idea and connecting it to business opportunities, it will be possible to commercialize it. For that purpose, it is indispensable to envision future businesses and reduce them to concrete figures. Future business plans include not only new initiatives such as new businesses and acquisitions, but also changes to existing methods such as automation of manufacturing processes and promotion of SCM.
【Learning Objective】
The purpose of this lecture is to learn the quantification of businesses based on the finance theory for making decisions about these future businesses. We will fully support all students to reach a certain level of goals. Also, if possible, it is advisable to take the course together with Finance I and Finance II.
【Learning activities outside of classroom】
two hours of preparation and two hours of review.
【Grading Criteria/Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination ： 40%、Short report ： 30%、in class contribution ： 30%

MAN510F2

事業再生・経営革新

Business turnaround and alliance

栗本　興治［Koji KURIMOTO］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目、MBA 特別必修

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義において「事業再生」とは、事業が衰退し財務体質が悪化する中、企業を取り巻く利害関係者間の利害を調整するとともに、毀損した事業を立て直す一連のプロセスを意味している。
また「経営革新」とは、事業者が新事業活動を行うことにより、その経営の相当程度の向上を図ることを意味している。本授業の目的は、事業再生や経営革新の意義、目的、効果、概要（一連のプロセス）を理解するとともに、ビジネスイノベーターとして変容する市場ニーズに対応するべく、中小企業の適時適切な変革やビジネスイノベーションをリードできる素養を修得すること。

【到達目標】
①事業再生及び経営革新の目的や効果を理解すること
②実務で活用される事業再生手法の体系と各手法のプロセスを理解すること
③事業再生に着手するタイミングとその効果を理解すること
④経営改革を促進するための制度概要と進め方の概略につき理解すること
⑤事業再生や経営革新に関与する各プレイヤーが期待され求められる役割を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は毎回講義を中心に進めるが、授業の一部は受講生参加型のディスカッションにあて理解を深める。
なお本講義のまとめとして、（実例もしくは仮想）事例を使ってグループ発表会を開催する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	事業再生の概要、定義、目的の理解【理論編】	事業再生につき、その概要、定義、目的、その効果等を理解するとともに、実例や学際的視点（法学的、経済学的視点以外の視点含む）からも考察、理解する。
2	事業再生の概要、目的、定義の理解【実務対応編】	事業再生が必要となる状況を理解するとともに、会社を取り巻く各利害関係者との関係の再構築のプロセス（事業再生実務全般）の概要を理解する。
3	事業再生手法の体系の理解【理論編】	再生可能性の検討方法、事業再生手法の選定プロセス実務やその特徴、加えて事業再生実務における主な法的・税務的論点の概要 (例) 等を理解する。
4	事業再生手法の体系の理解【実務対応編】	事業再生手法の選定プロセスにおける現状分析や再生スキームの策定方法の考え方につきケーススタディーを通して再生実務を理解する。
5	事業再生（法的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【理論編】	法的整理の制度概要及び各手法の概要、プロセス、特徴等を理解する。
6	事業再生（法的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【実務対応編】	法的整理の利用状況を理解するとともに、過去事例を用いてプロセス概要を理解する。
7	事業再生（私的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【理論編】	私的整理制度の変遷と各手法の概要及び進め方のプロセス並びに法的整理との比較を通して私的整理の意義を理解する。
8	事業再生（私的整理）の制度及び各手法の概要とプロセスの理解【実務対応編】	私的整理制度の利用状況を理解するとともに、再生実務に即した具体的な私的整理の進め方と最近の傾向を理解する。
9	経営革新の概要【理論編】	経営革新の定義、目的を理解するとともに、経営革新に関する制度概要とその効果等につき理解する。加えて「イノベーション」に関し様々な視点から考察する。
10	経営革新を促進する制度/仕組【実務対応編】	経営革新を促進する制度の概要、その制度を利用する際の進め方、得られる効果やメリット等を理解する。
11	経営革新及び事業再生局面における利害関係者とアドバイザーの役割【理論編】	企業のライフステージ別に事業再生及び経営革新の視点から、関与する専門家や実務家の担当領域や求められる役割について理解する。
12	経営革新及び事業再生局面における利害関係者とアドバイザーの役割【実務対応編】	認定経営革新等支援機関の活動実績を把握する。さらに事業再生局面や経営革新を起こす局面において制度化されている支援施策の概要と活用方法を理解し、ビジネスイノベーターとして如何に関与するべきか考察する。
13	ケーススタディー/チーム発表【1/2】	仮想事例等を使い、事業再生や経営革新に関するビジネスイノベーターとして提案書を策定し発表する（グループ発表とディスカッション）。
14	ケーススタディー/チーム発表【2/2】	仮想事例等を使い、事業再生や経営革新に関するビジネスイノベーターとして提案書を策定し発表する（グループ発表とディスカッション）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
■授業前は参考文献を読む等の予習をし、授業後はレジュメを中心に復習する。
■予習復習各 2 時間程度を標準学習時間とする。
■毎週授業前までにオンラインにて復習テスト（20 分程度）を受けて頂く。
■グループ発表は、グループメンバー全員参加型でプレゼン資料を作成し、発表も全員で発表して頂く。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメを配布する。

【参考書】
■『事業再生』岩波新書　高木新二郎著
■『事業再生の実践（第Ⅰ巻～第Ⅲ巻）』商事法務　産業再生機構著
■『経営研究調査会研究報告第 62 号「早期着手による事業再生の有用性について」』日本公認会計士協会
■『事業再生の実務』日本公認会計士協会出版局　日本公認会計士協会編
■『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞出版社 一橋大学イノベーション研究センター編
その他必要に応じて授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①試験評価 40 %程度
■各講義日終了後、次回の講義開始前までに 15 分程度の前回講義（2 回分）の復
習テストを実施（全 6 回実施）
②平常評価 60 %程度
■授業中の発言等積極性、授業への貢献度、グループ発表（演習評価）を加えたものを平常評価とする

【学生の意見等からの気づき】
■受講生参加型（可能な限り質疑の時間やディスカッションの時間を設ける）で講義を進め、馴染みの薄い事業再生実務を理解して頂く。

【学生が準備すべき機器他】
PC 及び電卓

【その他の重要事項】
■質問については、授業後に口頭で、もしくは授業終了後翌週火曜日までにメールで受付け、次回以降の授業の冒頭で、復習テスト後に授業を通じて回答する。

【Outline (in English)】
A business turnaround is a series of restructuring processes of an underperforming company, including reconciling interests among stakeholders and rebuilding its struggling business.
Business innovation is defined as seeking a considerable degree of management improvement by conducting new business activities.
The objective of this class is to understand the significance, purpose, effects, process of turnarounds and business innovation, and to acquire basic knowledge to lead timely and appropriate reforms and business innovation in SMEs, while responding to the changing market needs.

MAN510F2

デジタル・マーケティング

Digital Maketing

村上　健一郎［Kenichirou MURAKAMI］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ジョブ理論とリーンメソッドをベースとし、マーケティングファネルとリードの概念や、検索エンジン/ネット広告/ソーシャルメディアなどから構成されるデジタルマーケティングの原理と応用を、ウェブでの調査や議論を通じて学ぶ。受講者はスモールワールドの構成とリーチの概念、ターゲティング広告、ソーシャルメディアによる情報拡散の仕組みを理解し、戦略の策定と検証方法を統合的に理解する。そして、デジタルマーケティングの全体像をつかむ。（中小企業、大企業の両方向け）

【到達目標】
ファネルを理解しデジタルマーケティング戦略を策定できること、および、総合的にデジタルマーケティングを展開できる実践的な知識を身につけることを目標とする。このために、ファネルの概念を中心として、顧客との関係 CR(Customer Relationship) 構築のために用いられるシステムや手法、投資判断に用いられる重要な評価指標 KPI を具体的に学ぶ。特に、製造から販売まですべてをオンラインで行う直販ビジネス D2C(Direct To Consumer) を事例として、SNS やウェブを通じた顧客との対話や顧客の行動トラッキングによる広告手法を学び、最終的にはデジタルマーケティングプラットフォーム DMP の理解へとつなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」　に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、事例調査および分析、課題発表と議論、の２つを中心とし、2 コマ単位で進める。基本的に下記のスケジュールで進めるが、受講者の知識レベルや進捗状況によって適宜見直す。履修者はネットに接続された自分のパソコンを操作しながら、リアルタイムにネットで検索や検証を行い、議論を進めていく。なお、グループワークでは調査や分析を行い、最終的にはデジタルマーケティング戦略の理解と組み立てができる能力の獲得を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デジタルマーケティング入門	リードジェネレーションからコンバージョンまでのマーケティングとセールスのファネルの概要、Get/Keep/Grow のプロセスについて説明する。
2	D2C ビジネスとデジタルマーケティング	ネット直販ビジネス D2C(Direct To Consumer) の代表例を調査し、どのようにデジタルマーケティングを行っているかを学ぶ。
3	マーケティング投資と回収の KPI	マーケティングは投資であることを知り、リードジェネレーション、コンバージョン、リテンション費用と顧客生涯価値 LTV との関係を学ぶ。
4	デジタルマーケティングシステムの構築	カスタマジャーニーを中心としたデジタルマーケティングシステムの構築手順と方法について学び、自分のプロジェクトへの適用を行う。
5	行動トラッキングの仕組み	ネットでは過剰な行動のトラッキングが行われている。その理由と手段とを知り、その是非および許容範囲について議論する。
6	ネット広告入門	行動トラッキング情報がどのようにネット広告に利用されているのかを知る。また、広告種別や発生する費用体系について理解する。
7	ソーシャルグラフとイノベーションの普及	スモールワールド理論を学び、社会の構造と情報の伝達速度とを知る。また、情報伝搬とイノベーションの普及との関係を考え、アーリーアダプタとマジョリティへのアプローチが全く異なることを認識する。
8	D2C ビジネスとインスタグラム	D2C ビジネスがどのように SNS、特に Instagram を活用しているかを知り、顧客との関係構築について学ぶ。
9	検索エンジン入門	Google 検索エンジンの歴史と仕組みを学び、リードジェネレーションやコンバージョンにおける役割の重要性を理解する。
10	検索エンジンの仕組み	Google 検索エンジンにおけるキーワードと表示形式の関係について学ぶ。そして、Google が検索キーワードではなく検索意図を判断していることを理解する。
11	検索エンジン最適化	検索エンジンで上位に表示される仕組みと、そのパラメータを学ぶ。また、D2C ビジネスにおける検索エンジン最適化の例から、最適化のキーポイントと効果を知る。
12	検索エンジンエミュレーション	検索エンジンの仕組みをグループワークによるエミュレーションで学ぶ。各受講者は検索エンジンの構成要素となり、体と頭を使うことにより理解を深める。
13	ゲスト講師 (1/2) デジタルマーケティングシステムの概要	企業における実際のデジタルマーケティングシステムについて、ゲスト講師の講義で学ぶ。講師は学研の CMO(Chief Marketing Officer) を予定している。
14	ゲスト講師 (2/2) デジタルマーケティングシステムの利用	デジタルマーケティングの実践事例についてゲスト講師が講義を行い、解決してきた課題とアプローチを学ぶ。また、これからの展望について議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者が少ない場合は個人単位で、多い場合にはグループワークで、事例調査、マーケティング戦略の設計、統計情報を使った検証などを行う。講義は反転授業の形式で進められる。即ち、毎回の講義の終わりには事例調査および分析の課題が出され、次の講義は、この進捗および分析結果の発表から始め、議論を行う。このため、本授業の準備学習・復習には、1 から 2 時間程度が必要となる。

【テキスト（教科書）】
テキストとして、毎回、事前に、学習支援システムにて pdf 化した講義資料を配布する。その中で、参考書を紹介する。

【参考書】
(1) ダンカン・ワッツ（辻竜平・友知政樹訳）、"スモールワールド・ネットワーク - 世界を知るための新科学的思考法"、阪急コミュニケーションズ, ISBN-10: 4484041162
(2) DMP 入門、横山隆治　他著、インプレス、ISBN-10: 484439584X
(3) ジョブ理論、クレイトン・M・クリステンセン著、ハーパーコリンズ・ジャパン社、ISBN-10: 4596551227(￥2,160)
(4) ビジネスモデルジェネレーション、アレックス・オスターワルダー他著、翔泳社、ISBN: 9784798122977（￥2,728)
(5) リーンスタートアップ、エリック・リース著、日経 BP 社、ISBN-10: 4822248976（￥1,980）
(6) アントレプレナーの教科書、スティーブ・ブランク著、翔泳社、ISBD-10: 4798143839（￥2,640）

【成績評価の方法と基準】
以下の 4 つの点から評価する。
(1) 講義での発言と貢献 (30%)
(2) 毎回のレポートとグループワークでの貢献 (20%)
(3) 総合演習レポートの提出 (50%)

【学生の意見等からの気づき】
教室の wifi 環境が悪く講義中のワークでウェブの閲覧が困難なことが指摘されたため、最初の講義で学生にネット接続の状況を確認し、問題があれば wifi 環境の良い教室へ変更することにする。また、講義ではジョブ理論をベースとした実践的かつ最新のデジタルマーケティングの知識を得られたという意見がある一方、デジタルの基礎知識がないと理解が難しい部分があるという意見があるため、講義中でも中断して基礎的な質問ができることを最初の講義時間に学生に周知する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（キーボードのないものは不可）

【その他の重要事項】
オフィスアワーは本講義前の５限目（16:50-18:20) としますが、事前にメールで確認願います。なお、この講義には、NTT 研究所での研究実用化の経験と、スタートアップ企業でのデジタルマーケティング経験から得られた最新のノウハウを織り込んでいます。

【Outline (in English)】
This course focuses on the theory and practice of digital marketing. It starts with the major marketing concepts such as marketing funnel and lead generation. Then, it provides detailed knowledge on digital channels and platforms, such as Google Search Engine, Google Analytics, Net Advertisement, and Social Media, for getting, keeping customers. By understanding these means, students get a clear knowledge on the relationship between digital marketing platforms and sales funnel.

MAN510F2

ITC ケース研修

IT Coordinator Case Training

大塚　有希子［Yukiko OTSUKA］

単位数：**4 単位**
学期：**秋学期授業**/Fall
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しいビジネスや業務への変革により競争優位をめざすＤＸにおいては、ＩＴを効果的に活用することが不可欠となっている。IT とビジネスが結びつくことで、情報制約や物理制約が克服され、①革新的な製品・サービスの創出（需要面における変革）、②供給効率性の飛躍的向上（供給面における変革）が起きる可能性がある。現代は、あらゆる産業において、需要・供給の両面から、破壊的なイノベーションを通じた新たな価値創造が求められている。IT は企業経営を飛躍的に成長させる潜在能力を持っている。ＩＴありきではなく、ＩＴをツールとして経営改革に活かすための経済産業省推奨のフレームワークがＩＴコーディネータプロセスである。ITC ケース研修の目的は、ケース研修を通じて IT 経営を実現するプロフェッショナル人材を養成することである。中小企業の経営者とＩＴを結びつける架け橋となるＩＴコーディネータ資格取得の要件ともなる実践的研修として、ＩＴコーディネータ協会の協力を得て開講される。授業内容は、中堅中小企業を対象としている。

【到達目標】
①知識・思考： IT 経営推進プロセスガイドラインに関する考え方や知識、求められるスキルを理解できる。
②技能・表現：具体的に課題を通じて IT 経営推進プロセスガイドラインの知識やスキルを使って課題を解決できる。
③意欲・関心・態度等：チーム演習を通じて、IT 経営推進プロセスガイドラインに関心を持ち、IT 経営推進プロセスガイドラインに関する各種技法を活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
座学で、IT 経営推進プロセスガイドラインに関する考え方や知識を説明する。チーム演習では、講師から IT 経営推進プロセスガイドラインに関係する演習課題を提示するので、チームまたは個人で、IT 経営推進プロセスガイドラインに関する知識や考え方を理解し、さらには幅広い観点から演習課題を検討し、発表またはレポートを作成して相互学習を行う。
オンラインによる参加も認めるが、対面でワークを行うべき回数を講師より指定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	開講式、オリエンテーション、IT 経営とは 概説「変革認識プロセス（A1）」	はじめに、評価の方法、ケース研修の進め方などを説明する。 概説「IT 経営とは」、概説「IT 経営推進プロセスガイドライン」 概説「変革認識プロセス（A1）」、IT 経営、経営者、IT 経営推進者、IT 経営支援者、IT 経営の「進め方」、IT 経営を成功に導く 7 つの基本原則
第 2 回	課題 1「変革構想の検討とコミットメント」	課題 1_手順 1 気づき情報の収集、課題 1_手順 2 変革に向けての課題の抽出
第 3 回	IT 経営の認識	概説「IT 経営の推進方法」、概説「IT 経営認識領域（A）」、戦略経営サイクル、イノベーション経営サイクル、IT 経営の成熟度、プロセスとプロジェクトの関係、セキュリティマネジメント、リスクマネジメント、変革認識プロセス（A1）、変革マネジメントプロセス（A2）、持続的成長認識プロセス（A3）、変革、経営戦略の見直しのサイクル、破壊的イノベーター企業、「組織的な」プロセス、経営者の役割
第 4 回	課題 1「変革構想の検討とコミットメント」続き	課題 1_手順 3 本質的な課題の理解、課題 1_手順 4 解決策の検討と策定
第 5 回	変革構想書	概説「IT 経営認識領域（A）」、概説「変革認識プロセス（A1）」 A 共通の基本原則、変革のための企業体質の確立、変革への気づき、変革に向けての課題・解決策の可視化、変革に対するコミットメント、変革認識プロセス（A1）の基本原則
第 6 回	課題 1「変革構想の検討とコミットメント」続き	課題 1_手順 5 経営者の判断、課題 1_手順 6 変革構想書の作成と変革の表明
第 7 回	経営環境の分析	概説「IT 経営実現領域（B）」、IT 経営実現領域の各プロセス、成果物の関連図、目標と KGI/KPI の関連、全体プロセス、基本原則（B 共通）
第 8 回	課題 2「企業理念・使命の確認と経営環境情報収集・分析」	課題 2_手順 1 企業理念・使命の確認、課題 2_手順 2 事業ドメインの確認、課題 2_手順 3 外部経営ミクロ環境情報収集、課題 2_手順 4 外部経営マクロ環境情報収集、課題 2_手順 5 内部経営環境情報収集
第 9 回	あるべき姿の構築	概説「経営戦略プロセス（B1）」、経営戦略プロセス（B1）の基本原則
第 10 回	課題 3「あるべき姿の構築」	課題 3_手順 1 経営環境分析の実施、課題 3_手順 2 経営課題の導出 課題 3_手順 3CSF（案）の導出、課題 3_手順 4 経営ビジョン（案）とビジネスモデル（案）の構築
第 11 回	経営リスクの評価と対応	概説「IT 経営共通領域（C）」、概説「プロジェクトマネジメント（C1）」
第 12 回	課題 4「経営リスクの評価と対応」	課題 4_手順 1 経営リスクの特定、課題 4_手順 2 経営リスクの分析と評価、課題 4_手順 3 経営リスクの対応、課題 4_手順 4 経営リスク顕在時の対応
第 13 回	経営戦略策定	概説「モニタリング＆コントロール（C2）」
第 14 回	課題 5「経営戦略策定」	課題 5_手順 1 経営ビジョン、ビジネスモデル、ＣＳＦの最終決定 課題 5_手順 2 経営戦略目標の決定、課題 5_手順 3 ＫＰＩの定義、 課題 5_手順 4 経営戦略実行の組織体制の設定、課題 5_手順 5 経営戦略企画書の作成
第 15 回	経営戦略の展開	概説「コミュニケーション（C3）」
第 16 回	課題 6「経営戦略の展開」	課題 6_手順 1 中期の経営改革への展開、課題 6_手順 2 中期経営計画の策定、課題 6_手順 3 中期経営計画書の作成
第 17 回	業務改革	概説「業務改革プロセス（B2）」
第 18 回	課題 7「IT 戦略の策定と展開」	課題 7_手順 1 現行業務プロセス分析、課題 7_手順 2IT 領域環境分析、課題 7_手順 3 目標業務プロセスの策定、課題 7_手順 4 目標 IT 環境の策定
第 19 回	IT 戦略	概説「IT 戦略プロセス（B3）」
第 20 回	課題 7「IT 戦略の策定と展開」続き	課題 7_手順 5IT 戦略評価項目、達成指標、目標値、課題 7_手順 6IT 環境構築の基本方針、課題 7_手順 7 目標ＩＴサービスレベルの設定、課題 7_手順 8IT 戦略企画（実行計画）書の作成
第 21 回	IT 資源調達	概説「IT 利活用プロセス（IT 資源調達ステップ）（B4-1）」
第 22 回	課題 8「IT 資源調達」	課題 8_手順 1 提案評価基準書の作成、課題 8_手順 2RFP の作成、課題 8_手順 3RFP の発行と調達先の選定、契約
第 23 回	IT 導入と IT サービス利活用	概説「IT 利活用プロセス（IT 導入ステップ）（B4-2）」、概説「IT 利活用プロセス（IT サービス利活用ステップ）（B4-3）」
第 24 回	課題 9「IT 導入」と課題 10「IT サービス利活用」	課題 9_手順 1 ＩＴ導入マネジメント、課題 10_手順 1 ＳＬＭの実施 課題 10_手順 2 ＩＴ戦略達成度評価、課題 10_手順 3 経営戦略達成度評価
第 25 回	持続的成長の認識	概説「持続的成長認識プロセス（A3）」、概説「変革マネジメント（A2）」
第 26 回	課題 11「持続的成長認識」と課題 12「変革マネジメント」	課題 11_手順 1IT 経営成熟度の評価、課題 11_手順 2 将来に対する変革への洞察、課題 11_手順 3 持続的成長に対するコミットメント、課題 12_手順 1 変革マネジメント体制の構築、課題 12_手順 2 変革の実行状況の把握と是正
第 27 回	新たな旅立ち	学生の決意表明、プレゼン内容についてのチーム討議
第 28 回	ケース研修のまとめ、修了式	活躍する IT コーディネータからの期待 ゲスト講師：平野尚也様

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習
当該授業に関するテーマについて、文献調査等を通じて準備学習をしておく。

復習・宿題等
授業スケジュール（各回の授業テーマと内容）に基づいて、チーム演習を行うので整理すべき点や不明な点を復習する。それでも不明な点については、文献調査を行うまたは講師に質問する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・IT 経営推進プロセスガイドライン ver.3.1
　特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会発行
・IT コーディネータ資格認定制度ケース研修資料
　特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会発行

【参考書】
・講師が授業を通じて適切な参考書を紹介する。
「プロジェクトマネジメントの教科書」（著者　山戸昭三　出版社 大学教育出版）ISBN978-4-86692-222-5 C3034

【成績評価の方法と基準】
・講義・チームへの参加姿勢（50%）、チーム・個人レポート（50%）
・座学で学んだ知識および自分で調べた情報を使ってチーム演習やレポート作成を行う。
・原則として、チーム演習、評価は、毎回、実施する。
・チーム演習の場合、検討内容や熱意、発表や質疑応答への態度を受講生による相互評価を行う。
・参加度合いが 24 コマ/全 28 コマ以上を満たし、かつ e ラーニング指定成果物を提出していること。

【学生の意見等からの気づき】
経営情報戦略科目、プロジェクトマネジメント科目との関連や必要なツールと技法を紹介する。
ＩＴＣ資格取得の知識試験学習の情報も提供する。

【学生が準備すべき機器他】
学生は、パソコンを授業に持参のこと。（講義資料の閲覧、チーム演習、発表の際に利用）
チーム演習ではマイクロソフト・パワーポイントによるテンプレートを配布する予定。

【その他の重要事項】
・本科目の受講対象者は、在学生のみとする。
・本科目の受講には、8 万円（税抜き）の教材費（教科書代および e ラーニング受講費を含む）が必要である。
・本科目の開始約 2 週間前に、オリエンテーションを行う。その際に、受講者名簿を IT コーディネータ協会に通知し、それに基づいて e ラーニング受講のための情報を付与する。
・本科目の修了者は、IT コーディネータ協会が IT コーディネータの資格要件の一つであるケース研修修了とみなされる。
・担当教員は、これまでに中小企業の IT 戦略に関する中小企業庁、経済産業省のコンサルティング表彰や助成金を受賞。元経営革新支援法審査委員。経営情報戦略に関連した大手・中小企業のコンサルティング、人材開発、制度設計、監査の実務経験を有し、PMP ®、１級 FP、CBAP ®の資格を有する。IT コーディネータ立ち上げ時からケース研修のインストラクション、継続学習コース設計・指導などを行う。
・質問・相談がある場合には、
1. メールで講師に、質問・相談内容（日時、質問事項など）、希望日時などを伝えてください。
2. 講師からの連絡をお待ちください。

【Outline (in English)】
In DX, which aims for competitive advantage through transformation to new business and operations, effective use of IT is indispensable.
By effectively utilizing IT, it is possible to newly acquire and analyze a large amount of data, and to use it. By linking IT and business, information constraints and physical constraints are overcome, (1) creation of innovative products and services (change in demand side), (2) drastic improvement of supply efficiency (change in supply side) can occur There is sex. In today's society, new value creation through destructive innovation is required from both demand and supply in all industries. IT has the potential to dramatically grow corporate management.
The IT Coordinator Process is a framework recommended by the Ministry of Economy, Trade and Industry to utilize IT as a tool for management reform. The purpose of the ITC case training is to develop IT management professionals.
The course is offered in cooperation with the IT Coordinators Association of Japan as a practical training course for IT coordinator certification, which serves as a bridge between small- and medium-sized business managers and IT.

MAN510F2

デジタル広告論

Theory of Digital Advertising

高田　勝裕［Katsuhiro TAKATA］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在のディジタルマーケティング活動は、パーソナライゼーションをコアテクノロジーとするデータドリブンアプローチへと大変革を遂げている。世界最大の広告代理店である WPP の元 CEO であるマーティン・ソレル卿は、マーケティングの鍵を握るのは「データ」であると宣言し、データアセットの集約と活用のためにディジタルマーケティングにかかわる数多くの会社を買収した。一方で、データアセットの活用に秀でた IT コンサルティング会社である IBM、アクセンチュア、デロイトなどは経営活動と販売活動を一気通貫するマーケティングサービスを広告主に提案して、総合広告代理店と広告販売で競合するようになり、広告業界を構成する顔ぶれが大きく変貌した。
それらが成立した背景として、(1) 生活者のオンライン・オフライン活動が共にデータとして計測可能となること、(2) マーケティング活動がすべてデータで取得・管理できるようになること、そして (3) マーケティング活動の諸プロセスがプログラマティックに自動化されたことがあげられる。さらに GAFA+M（Google Amazon Facebook Apple Microsoft）に代表されるテックジャイアントと呼ばれる企業群の中でも、ディジタルマーケティングビジネスを展開してそれらに関する膨大なデータを所有する Google、Facebook、Amazon は自社プラットフォーム上の個々人に関するデータアセットを独占利用できる立場により、高度なテクノロジーを駆使して広告主に大きな広告成果を提供している。さらに、それぞれ広告主企業のディジタルマーケティング活動の場を自社プラットフォーム内に完結させることで、より独占的な収益を獲得することに成功している。
そこで本講義の目的は、ディジタルマーケティングにおける広告を「デジタル広告」と定義して、「デジタル広告」の全体を俯瞰し、さらに現在の高度なテクノロジーの基礎を成す主要な手段であるパーソナライズ技術やターゲティング技術を中心に、その基礎概念・技術を体系的に理解・習得することを目的とする。

【到達目標】
本講義の目標は、パーソナライズやデータドリブンアプローチなど先端テクノロジを活用する「デジタル広告」を理解することにより、それらが持つ特性やベネフィットを自身の事業やビジネスモデルに適応・応用展開することである。
さらに、それらのテクノロジ等によって成立する「デジタル広告」が、特定の企業群をテックジャイアントだけに膨大な利益をもたらしたのか、その過程を振り返って学生自身の知識として具備することにより、自身の未来環境におけるビジネスの成功確率の向上に寄与することを目指す。
また、現在では「デジタル広告」によって収益を得ることが一般的に利用されるようになっている。さらに、AI（人工知能）などと融合する高度なサービスが比較的安価に消費者へ提供されるようになっており、本講義ではこれらの収益モデルなども合わせて解説するため、自身のサービス開発に取り組む学生にとっては、そのビジネス化において非常に役立つものと確信する。
本講義では「デジタル広告」におけるテックジャイアントが駆使する手法の初歩的なものを自身の環境で動作させて体験する。これら応用方法の体験により、学生自身の将来において、コンピュータの利活用による競争上の優位性を得ることにつながることを望む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は 2 コマ単位で、スケジュールにのっとり進める。
各講義で前半では座学を中心とした講義をおこなう。講義の前半では「デジタル広告」に関するホットトピックを毎回数点選んで解説する。後半では前半の講義に関する技術やパーソナライズを実際にコンピュータをもちいて試す。学生の希望に応じて、著名な実務者をゲスト講師として迎えて、実ビジネスでの活用や進行中の課題などについて議論する機会も用意することも考える予定である。
後半の講義ではティーチングアシスタントがすべての学生の補助にあたり、実際に「デジタル広告」の主要技術をデータを用いて処理し、さらに得られたアウトプットを吟味する。
なお、学生に対しては「デジタル広告」の経験や背景、技術的知識を問わない。
各回においてレポート課題を与えるので、その前提で出席すること。
すべての講義は大学設備またはオンラインなどを状況に応じて適宜選択する。実習は学生自身のノートパソコン上の環境上またはクラウドなども積極的に活用する予定である。環境の構築は最初の講義でおこないティーチングアシスタントが実習環境の導入を支援する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	デジタル広告序説	我が国において、1996 年に初めてヤフージャパンのトップページにバナー広告が掲載されてから「デジタル広告」は 20 年以上の歴史を持つことになった。このバナー広告は、単なる掲載されるものから、閲覧者の興味関心に対して訴求をおこなうターゲティング広告に進化し、また毎日数千億回を超える広告表示が生活者に対して供給されるレベルまで成長した。これに至る背景を説明する。また各学生が応用を考えているビジネスについて確認して、本講義のゴールについて確認する。
2	演習（1）	「デジタル広告」の基礎は膨大なデータにもとづくパーソナライズである。本方法を確認するための環境を各学生のパソコンまたは大学設備に構築する。クラウド上の環境も利用できる場合は利用する。
3	データホリスティックとマーケティングミックスモデリング（MMM）	「デジタル広告」が急成長した主要の概念となる「データホリスティック」がある。「データホリスティック」は「全体性」の側面から事象や現象をデータによって総体的に取り扱う考え方である。近年では、この概念を土台とした、売上などのマーケティング目標に影響していると考えられる多数の要因を時系列に蓄積し、統計的手法モデルを導き出すことで、要因の相互関係や影響度合いを明示し、広告予算を効果的に分配する（アロケーション）手法が主流となった。これはマーケティングミックスモデリング（MMM）と呼ばれ、デジタル広告時代における最も重要な広告予算最適化手法となった。本講義で説明する。

4	演習（2）	パーソナライズにおいて最も有名かつ利用されているターゲティング技術を実際に動かすための基礎を演習する。具体的には生活者の趣味趣向を計数したり、または測定するために利用する統計量について演習する。
5	広告分析アプローチ	「デジタル広告」の成果を確認するために広告結果から得られたデータの分析が必要となる。本講義ではこの手段の基礎を学ぶ。具体的には統計的なアプローチ、またはデータマイニング的なアプローチからデータを取り扱う手段を説明し実践する。それぞれについて学生が自身で使えるようになる。
6	演習（3）	「デジタル広告」においてターゲティング技術の基礎となる技術を実際に各自の環境で動作させる基礎演習をおこなう。本講義によりコンピュータが生活者の趣味趣向を計数化することを体験する。
7	広告と生活者のプライバシ	現在、個々人の趣味や趣向に即した広告配信を実現させる企業が現れてきた一方で、そのデータアセットの中身は、生活者の生活を写す大量のデータであり、個々人のプライバシ侵害など、思わぬ問題点が明らかになりつつある。中でも、2016 年に「ケンブリッジ・アナリティカ」は、生活者に同意を得ないまま SNS 上のデータを取得・活用して効果的な政治広告を展開して大きな疑惑とプライバシ保護に関する議論を呼んだ。そこで欧州では 2018 年にデータ保護法（GDPR）が、米国加州で 2019 年にカリフォルニア州消費者プライバシー法（CCPA）が制定、2020 年にはカリフォルニア州プライバシー権法（CPRA）が承認され、生活者のプライバシに配慮したデータ利用が厳しく求められるようになっている。本講義ではこれら業界の状況を説明し、さらに近年進行中の事案を議論する。
8	演習（4）	ターゲティング技術を実際に各自の環境で動作させる応用演習をおこなう。本講義では具体的なデータを用意して、学生自身の環境でコンピュータが生活者の趣味趣向をもとに判定する状況を体験する。
9	業界分析 1「なぜ IT コンサルティング会社と総合広告代理店は競争するのか」	「デジタル広告」業界では、IBM、アクセンチュア、デロイトなどの IT コンサルティングファームが多くの広告関連企業を買収して、WPP、ピュブリシス、オムニコム、電通等の従前の総合広告代理店と「デジタル広告」の覇権をかけた勝負に出ている。なぜこのようになったかのか、至る背景をふまえて、業界を俯瞰しつつ、今後のビジネスに与える影響を議論する。
10	演習（5）	各学生のコンピュータ上に構築した環境上で、クラウド上のビジュアライゼーション環境を作成して、実際の意思決定に用いられる実環境を体験する。具体的には、コンピュータの計算結果をインタラクティブに可視化するまでの環境構築をおこなう。
11	業界分析 2「プラットフォームにより占有されるデジタル広告市場」	「デジタル広告」に必要となるデータアセットはプラットフォームにより占有され、その結果として世界のデジタル広告市場は、テックジャイアントの数社が独占する状況に陥った。本講義では、グローバルで起こっているデジタル広告の寡占状況を解説し、さらに学生諸君と共に今後のビジネスへの影響と対策を議論する。
12	演習（6）	各学生のコンピュータ上に構築した環境上で、クラウド上のビジュアライゼーション環境を作成して、「デジタル広告」に関する意思決定を体感する。具体的には、実データを利用してコンピュータの計算を反映させたビジュアライゼーション環境から意思決定をおこなうための要素やその可視化要素を実際に構築する。
13	イノベーションの創出	ゲスト講師として著名実務者を迎え，業界で現在進行しているイノベーションについて聴講する。さらに、そのイノベーションにより変化する未来のビジネス展望について学生と議論をおこなう。
14	演習（7）	全演習について総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1．短期間で多くの内容を説明する場合は、事前に目を通しておく内容を告知するので、それらをを必ず理解した上で講義に参加すること。

2．各学生の課題意識に応用できる演習を予定しているため、各学生においては、事前に課題意識を整理のうえで講義に参加することが望ましい。

3．学生に対して講義の内容を要旨としてまとめるレポート（A4 で 1 枚以内）の提出を適宜求める。優秀なレポートは授業で表彰する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。なお、別講義などの課題や実習で時間が取りづらい場合もあると思われるため、そのような場合は講師側へ事前に当該事項を相談する対応をおこなっている。

【テキスト（教科書）】

適宜授業で関連記事を紹介し解説する予定である。

【参考書】

本講義で扱う領域は変化が激しく、有益な情報はウェブサイトや生の展示会を中心に提供されている。

そこで「デジタル広告」先進国である米国の情報を中心に有益な情報を掲載するサイトとして以下をあげる。

1．　Website:"AdExchanger.com", https://adexchanger.com/

2．　Website:"Digiday", https://digiday.com/

【成績評価の方法と基準】

以下の点から評価する。

1．レポート　40 %

2．出席と積極的な発言　30 %

3．最終レポート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
本講義では数学的な知識を求めず、論理的思考のみで理解できるよう表現を工夫している。ティーチングアシスタントも参加して学生の支援をおこなう。さらに講義の内容に応じてゲスト講師を招聘する場合は、国内外の第一線で活躍する著名実務者を迎えることで、実務の現場を各学生が体感できるように工夫している。実講義については、オンラインと対面とも、両方の学生が受講しやすいように配慮した講義資料の作成や設計をおこなっている。演習について、オンライン形式だと 1 人の学生との対話時間が長くなる傾向があり、サポートを受けたい学生全員の要望を聞きづらいことが生じたため、サポートルーム設置（ブレイクアウトルームを用いる方法）をはじめることとした。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、スマートフォン

【その他の重要事項】
講師は「デジタル広告」業界の萌芽期に始まり、プラットフォームに占有される現代にかけて、「デジタル広告」ビジネスの第一線で活躍する起業家／実務者であり、デジタルマーケティングに関する諸問題を学生と一緒に議論したいと考えている。本講義に関しては、オフィスアワーとして特定の時間を定めないが、電子メールアドレス gogokarubi@gmail.com でいつでも質問を受け付けている。

【Outline (in English)】
Today's digital marketing activities are undergoing a sea change to a data-driven approach with personalization as the core technology. Sir Martin Sorrell, the former CEO of WPP, the world's largest advertising agency, declared that "data" is the key to marketing, and acquired a number of companies involved in digital marketing to consolidate and utilize data assets. At the same time, IBM, Accenture, Deloitte, and other IT consulting companies that excelled in the use of data assets proposed marketing services that integrated management and sales activities to advertisers, and began to compete with general advertising agencies in advertising sales. The face of the advertising industry has changed dramatically.
The background to these changes is that (1) both online and offline activities of consumers can be measured in the form of data, (2) all marketing activities can be acquired and managed in the form of data, and (3) the various processes of marketing activities have been programmatically automated. Furthermore, among the tech giants represented by GAFA+M (Google, Amazon, Facebook, Apple, and Microsoft), Google, Facebook, and Amazon, which possess vast amounts of data related to digital marketing activities, have developed their own data assets about individuals on their platforms. With its exclusive access to the data assets related to each individual on its platform, Google, Facebook, and Amazon use advanced technology to provide advertisers with significant advertising results. In addition, each of them has succeeded in gaining more exclusive revenue by completing the digital marketing activities of advertisers within their platforms.
Therefore, the purpose of this lecture is to define advertising in digital marketing as "digital advertising," to give a bird's-eye view of "digital advertising" as a whole, and to systematically understand and master its basic concepts and technologies, focusing on personalization and targeting technologies, which are the main means that form the basis of today's advanced technologies.

MAN510F2

データマイニング

Data Mining

豊田　裕貴［Yuki TOYODA］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスでのデータ活用が期待されている反面、まだまだ十分に活用しきれていない状況がある。その一因としてデータ分析手法が Excel でできることのみに留まってしまっている点が挙げられる。そこで、Excel でできることを超えて、より積極的なビジネスデータ活用をデータマイニングという領域に広げ、学習する。その際、フリーソフトでありデータ分析に特化した R 言語を活用し、より高度な手法を活用し、ビジネスデータから知見を導き出す（マイニングする）方法を学習するのが、本講義の目的である。

なお、本講義では、データマイニングをあくまでデータからビジネスに資する知見を導き出す手法群であると考え、数学的な解説よりは、道具としてどんなデータにどんな手法を適用し、その結果をどうビジネスに活用するかに力点を置いて学習していくこととする。

【到達目標】
学習する手法について、各自のテーマに応用できることを目指す。その際、手法の仕組みについてある程度理解し、どんなデータにどんな手法を行うと何が明らかになるのかについて理解し、手法を活用できるよう担うことも目指す。

なお、R については、ゼロからスクリプトを書くのではなく、サンプルスクリプトを必要に応じて修正しながら使うことが出来るようになることを目指す。そのことによって、WEB 上に公開されている無数のライブラリーやスクリプトを活用できるようになることを目標とする。繰り返しになるが、本講義は数学としてデータマイニングを学ぶ講義ではなく、あくまでどのようにビジネスに活用するかを考えられる力を身につけることが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では、手法の解説をしたうえで、実際に各自が R でデータを分析し、その結果を解釈するというスタイルをとる。R については、ビジネスデータ分析アドバンスで学習するため、この講義では、ゼロから解説することはしないため、注意すること（ビジネスデータ分析アドバンスの受講を必須とはしていないが、R が使える前提で講義になることに注意。ビジネスデータ分析アドバンスは e-learning でも学習するため、データマイニングに先んじて、ビジネスデータ分析アドバンスの受講を強く推奨する)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2 講	y が量的変数のマイニング	関係性の分析として、y（結果系変数）が量的変数の分析（マイニング）を学習する。具体的には、回帰分析および決定木について学習し、ビジネスに生かす方法を考える。
3-4 講	y が質的変数のマイニング	関係性の分析として、y（結果系変数）が質的変数の分析（マイニング）を学習する。具体的には、ロジスティック回帰分析および決定木について学習し、ビジネスに生かす方法を考える。
5-6 講	多択の y のマイニング＋アンサンブル学習 RandomForest の活用～	決定木の応用として Randam Forest というアンサンブル学習手法を学習する。加えて、過学習というデータマイニングで重要なポイントについても学習する。
7-8 講	アソシエーションルール分析	何を買った人は他に何を買うかというようなルール抽出の手法として「アソシエーションルール分析（マーケットバスケット分析)」を学習する。
9-10 講	レコメンドエンジンの構築	マーケティングの分野では、顧客に適切な商品を推奨するためにデータを活用することが求められている。その方法として、協調フィルタリングを中心に、どのように推奨する仕組みを作るかについて学習する。
11-12 講	テキストデータの分析	ビジネスでは分析するデータがテキスト（文字情報）の場合も少なくない。そこで、テキストデータの分析としてテキストマイニングの基礎について学習する。
13-14 講	まとめ	ここまで学習してきた手法を組み合わせた活用方法や講義内に追加でリクエストされた手法の解説などを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
必要に応じて分析手順などの動画をアップするので、予習・復習に活用し、実際に使える知識として手法を学習すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし

【参考書】
・豊田裕貴（2017）『R によるデータ駆動マーケティング』オーム社
・ブレット・ランツ（2017）『R による機械学習』翔泳社
・山本義郎、藤野友和、 久保田貴文 （2015）『R によるデータマイニング』オーム社
※その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義内課題ならびに普段の取り組み（２０点）、期末レポート（８０点）

【学生の意見等からの気づき】
・多様な分野の院生の受講に応じるため、前提となる高度な数学やデータ分析の知識は設定せず基礎から解説する。ただし、ビジネスデータ分析（ベーシックおよびアドバンス）で解説される要約とモデル分析の基礎についてはある程度理解していることを前提として講義をする。
・したがって、ビジネスデータ分析（ベーシックおよびアドバンス）を合わせて受講することを強く推奨する。
・とくに分析ツールの「R」については、ビジネスデータ分析アドバンスで学習しているものとして解説し、ゼロからの解説にはならない点を留意すること。

【学生が準備すべき機器他】
・講義内でデータ分析実習を行うため、各自、Excel および R が使える（かつ ZOOM で参加できる）PC 環境を用意すること。R については、Rstudio Cloud にて演習を行う。

・対面講義を基本とするが、ハイフレックス形式で開講するため、遠隔での受講も可能。遠隔受講の場合には、マイクとカメラのある受講環境を準備すること。

【その他の重要事項】
＜講義について＞
・本講義では、R というデータ分析ソフトを利用する。受講者の環境依存の問題を回避するため、Rstudio Cloud にて演習を行う。Rstudio Cloud の設定方法や基本的な使い方については、動画配信するので、確認の上、各自 ID を取得すること。

・演習にて利用する R（Rstudio Cloud）については、ビジネスデータ分析アドバンスで学習する。R についての知識がない場合には、ビジネスデータ分析アドバンスの受講すること。

＜教員について＞
・「実務経験のある教員」か否かについて：担当する教員は、データ分析に関連した実務経験（シンクタンクでのリサーチやデータ分析、コンサルティングなど）があり、単に知識としてのデータ分析ではなく、実際に使える知識としてのデータ分析を解説する。

【Outline (in English)】
In this lecture, we think that data mining is a method to derive findings that contribute to business from data. Therefore, we will learn with the emphasis on what kind of data is applied to what kind of data as a tool, and how to use the result for business.

MAN540F2

ビジネスイノベータ育成セミナー

Seminar of Business Innovators

坂本　和子［Kazuko SAKAMOTO］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
応用科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科のミッションの一つとして，文系・理系といった枠にとらわれず，幅広いアプローチによる課題の発見や解決，そしてそれらを社会的価値に転換・創造していく能力を有する人材，いわゆるビジネス・イノベーターの育成があげられる．
本講義はそれを実現するために，世界へ挑戦しているエンジニア，イノベーションに貢献しているデザイナー，そして幾多の苦難を乗り越えてイノベーションを創出してきたビジネスリーダー等のゲスト講師が，体験や実学のレクチャーを実施する．加えて PBL（Project-Based Learning）をベースとしたグループ演習を行うことで，学習動機や理論・手法の応用力の獲得や社会人基礎力の向上を目的とする．

【到達目標】
・様々な社会ニーズに対応できる幅広い学術基盤をベースとする事業推進力を習得する．
・科学者，技術者のマインドやアーティストの感性を取り入れたビジネス開発力を習得する．
・チームを起動させ，チーム単位での事業開拓やアイディア発想，企画力を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・2 時限続きで 14 回開講．
・初回に PBL の課題を提示する．
・2 回セットで前半はテーマに沿ったゲスト講師が講演後，質疑応答やディスカッションを実施．後半は PBL によるグループ演習を実施し，授業の最後にリフレクションシート（今回の学び，気づき，疑問点等を記載）を提出してもらう．
・８回目に中間報告会を行う．
・最終回に課題の最終報告会をコンペ形式で行い，ゲスト講師と担当教員による講評を実施する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1,2	事例研究①イノベーションに役立つ DEM（デザイン・エンジニアリング・マネジメント）の融合	本講義のガイダンスと，DEM の実践事例に関するゲスト講師の講義，グループ演習の課題提示
3,4	事例研究②デザインを起点に考えるイノベーションとは	ゲスト講師による VTS を実施する．アイディア発想法とデザインシンキングの講義とワークショップの実施
5,6	事例研究③どんな技術がイノベーションを起こすのか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後，グループ演習により，技術とイノベーションについて考察
7,8	中間報告会	グループによる中間報告とグループ演習
9,10	事例研究④デザインをいかに活用するか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後，グループ演習によりデザインへの実践的な取り組みについて検討
11,12	事例研究⑥技術を社会にどう実装していくか	ゲスト講師の講義とディスカッションの後，グループ演習により，技術ブランディングと実現可能性について検討
13,14	事例研究⑦ DEM を活かして，日本からグローバルへの展開	グループによる最終発表とゲスト講師の講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講に当たって事前の準備学習を必要としないが，中間報告会や最終報告会へ提出するアプトプットやプレゼンテーション準備に時間を必要とする（1 回の授業に対して平均 2 時間程度が望ましい）

【テキスト（教科書）】
必要に応じ，授業内で適宜，ゲスト講師と講義内容に関する資料を配布する．

【参考書】
太田伸之（2014）「クールジャパンとは何か？」ディスカヴァー・トゥエンティワン
佐藤聡（2010）「技術を魅せる化する－テクノロジーブランディング」技術評論社
Thomas Lockwood8（2009）”Design Thinking: Integrating Innovation, Customer Experience, and Brand Value”，Allworth Press; Original

【成績評価の方法と基準】
グループ評価 60 %（中間報告 20 %，最終報告 40 %），毎回の出席と討議への貢献 20 %，リフレクションシート 20 %で評価する．

【学生の意見等からの気づき】
グループ演習を円滑に進めるための工夫
ビジネスイノベーター育成のための選りすぐりの講師を招聘

【学生が準備すべき機器他】
毎回グループ演習を実施し，最終報告のアプトプットを作成していくので，ノートパソコン等を持参すること

【その他の重要事項】
オフィスアワー：講義前の 1 時間

【Outline (in English)】
One of our mission statements is to develop human resources, so-called business innovators, who have the ability to discover and solve problems through a wide range of approaches, and to convert and create social values, regardless of the framework of humanities and science.
In order to realize this, this lecture will be a lecture by guest lecturers such as engineers who are challenging the world, designers who are contributing to innovation, and business leaders who have overcome many hardships and created innovation. In addition, by conducting group exercises based on PBL (Project-Based Learning), we aim to acquire learning motivation and application skills of theory and methods, and to improve fundamental skills of a working adults.

MAN500F2

データベースの基礎

Database

五月女　健治［Kenji SAOTOME］

単位数：2 単位
学期：秋学期前半/Fall(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報は、ビジネスにおける重要な資源のひとつである。その情報を蓄積・管理する手段として、データベースがある。近年、ビッグデータやデータ分析が注目されているが、データベースはこれらの技術の基礎である。この講義では、データベースによる、データ（情報）の設計・蓄積から活用（データ分析）まで、一連のデータのライフサイクルを学習する。対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
データモデリングによるデータの設計、アプリケーションによるデータの蓄積、データ分析によるデータの活用を体験して、データのライフサイクルを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
馴染みの MS Office と親和性のあるツールを利用して演習する。具体的には、MS Access（データベースアプリ、以下 Access）、Power BI Desktop（データ分析・可視化アプリ）を使用する。授業は、データのライフサイクルの最終段階であるデータの活用（データ分析）からスタートする。どのようなデータが必要となるかを知った上で、データのライフサイクルの始まりであるデータの設計、次にデータの蓄積の順序で進める。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	EXCEL のデータ操作機能を学習することで、データ操作の概要をつかむ。
第 2 回	演習ツール概要	データ活用のためのツール Power BI Desktop の利用方法を演習する。
第 3 回	データ活用　講義	Power BI Desktop を利用した分析方法について講義する。
第 4 回	データ活用　演習	Power BI Desktop を利用して、OLAP（ダイシング、スライシング、ドリルダウン、ドリルスルー）を演習する。これにより、データ活用に求められるデータの形式や内容について学習する。
第 5 回	データベース　講義	Access および SQL によるデータベース操作（結合、集計、並び替えなど）の概念を講義する。
第 6 回	データベース　演習	Access および SQL で、データベース操作（結合、集計、並び替えなど）を演習する。
第 7 回	データモデリング　講義	ER モデル、エンティティとリレーションシップについて講義する。
第 8 回	データモデリング　演習	Access で、エンティティとリレーションシップからなるデータモデルを作成する演習を行う。
第 9 回	データモデルパターン　講義	典型的なデータモデルのパターンおよび正規化について、講義する。正規化とは、データの冗長性を取り除く作業である。
第 10 回	データモデルパターン　演習	Access で、作成したデータモデルを典型的なデータモデルのパターンに変換して、データモデルを完成させる演習を行う。
第 11 回	総合演習　講義	Access を使用したアプリケーションの作成方法を講義する。
第 12 回	総合演習	アプリケーション作成を中心に、例題に基づいたデータ設計・蓄積・活用を演習する。
第 13 回	データベースのアーキテクチャ	トランザクション、RAID、データウェアハウスなどについて講義を行う。
第 14 回	総括	学習内容の振返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間、宿題は各 1 時間（6 回）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
以下の参考書は貸与するので、必ずしも購入する必要はない。
・「データベース応用　―データモデリングから実装まで―（未来へつなぐデジタルシリーズ）（共立出版）」（ISBN-13: 978-4320123540）。
・その他、配布資料あり。

【参考書】
以下の参考書は準備するので、必ずしも購入する必要はない。
・「ソフトウェアシステム工学入門　(未来へつなぐ デジタルシリーズ 22)（共立出版）」（ISBN-13: 978-4320123427）
・「30 時間でマスター Access2013（実教出版）」(ISBN-13: 978-4407332681)

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（40%）、期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
Access を利用できる Office を搭載している、および Power BI Desktop を使用できる PC（Windows）が必要（Mac の Office には Access がないので不可）。イノベーション・マネジメント研究科管理の演習室で授業行う場合は、演習室 PC を利用できる。上述の条件を満たす PC を持たない場合で、演習室以外の環境で使用するときは、大学の貸与 PC を利用することを検討すること。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、基本的な Excel の操作ができる程度の知識を有すること。
オフィスアワーは、金曜日 5 限目とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて 28 年間勤務し、一貫して IT システムの開発・研究に従事。当該授業のテーマに対して、IT の総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
Information is one of the important resources in business. There is the Database as a means for storing and managing that Information. In recent years, Big Data and Data Analysis have attracted attention, but Database is the basis of these technologies. In this lecture, we learn a series of the life cycle of Data, that is the design, storing and utilization with Database. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN500F2

マネージャーのための WEB 構築

Web design and structure for managers

五月女　健治［Kenji SAOTOME］

単位数：2 単位
学期：春学期後半/Spring(2nd half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日のビジネスにおいて、IT 特にインターネットは、重要な要素のひとつである。一般利用者は、ブログや Twitter、Facebook などで簡単に情報の発信も可能となった。この講義では、もう一歩踏み込んで、自分オリジナルの Web サイトを自身で作成することをテーマとする。対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
Web サイトを作成するツール CMS（コンテンツマネジメントシステム）の利用方法の習得、HTML 基礎の習得、インターネットの基本的な仕組みの理解。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
CMS の中で最も利用されているもののひとつ WordPress を使用する。WordPress は、無償で利用でき、安価なクラウド環境（レンタルサーバ）との親和性がよく、費用をかけずに簡単に Web サイトの構築が可能である。また、CMS を使いこなす目的として、Web ページ記述の基本言語 HTML を学習する。Web サイトを拡張するプラグインや HTML を利用して、オリジナルのデザインとコンテンツからなる「自分サイト」の作成・公開の実習を行う。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	インターネットにおける HTML と CMS の役割を講義する。
第 2 回	WordPress によるサイト構築-1	WordPress の初期設定と基本操作（投稿と固定ページ作成）を演習する。
第 3 回	HTML-1 講義	文字とイメージの配置方法を講義する。
第 4 回	HTML-1 演習	文字とイメージの配置を演習する。
第 5 回	HTML-2 講義	リンクとテーブルの記述方法を講義する。
第 6 回	HTML-2 演習	リンクとテーブルの記述を演習する。
第 7 回	HTML-3 講義	CSS と JavaScript の概要を講義する。
第 8 回	HTML-3 演習	CSS と JavaScript を演習する。
第 9 回	WordPress によるサイト構築-2 講義	メニュー構成、コンテンツ（画像）投稿の方法を講義する。
第 10 回	WordPress によるサイト構築-2 演習	メニュー作成、コンテンツ（画像）投稿を演習する。
第 11 回	WordPress によるサイト構築-3 講義	プラグインとカスタム投稿タイプによる拡張方法を講義する。
第 12 回	WordPress によるサイト構築-3 演習	プラグインとカスタム投稿タイプによる拡張を演習する。
第 13 回	「自分サイト」の作成	学習内容を活用して、「自分サイト」を作成する。
第 14 回	総括	学習内容を前提に、インターネットの基本的な仕組みを講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間、宿題は各 1 時間（6 回）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・「いちばんやさしい WordPress の教本第 5 版（インプレス）」（ISBN-13:978-4295011644）
以下の教科書は貸与するので、購入する必要はない。
・「HTML for Windows(毎日ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ)」(ISBN-13: 978-4839908799)
・その他、資料を配布する。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（40%）、期末課題「自分サイト作成」（60%）

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
PC が必要。貸与 PC、演習室 PC も利用可能である。

【その他の重要事項】
受講に当たって、前提知識は不要である。
オフィスアワーは、金曜日 5 限とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて 28 年間勤務し、一貫して IT システムの開発・研究に従事。当該授業のテーマとして、IT の総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
In today's business, IT, especially the Internet, is an important element. General users can easily send information via blogs, Twitter, Facebook, etc. In this lecture, the theme is to create your own original website yourself. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN500F2

会計入門

Intensive accounting

石島　隆［Takashi ISHIJIMA］

単位数：2 単位
学期：春学期前半/Spring(1st half)
授業分類：専門講義
基礎科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業会計は、企業の経済活動を貨幣価値で表現するための仕組みである。企業の財務諸表を見ることによって企業の事業活動の状況を理解することができる。
本授業で学生は、企業における財務会計（外部に報告するための会計）の基本的な考え方と財務諸表の見方・分析方法を学ぶ。
公表されている上場企業の財務諸表を分析対象として用いるが、財務会計の基本的な事項を取り扱うので、大企業のみでなく、中小・中堅企業の経営状況の把握にも役立てることができる。

【到達目標】
学生は、本授業において、ビジネスに携わる上での常識としての会計知識と企業の財務諸表に記載された情報の活用方法の基本を身につけることを目標とする。
なお、本授業は、財務会計に関する初心者のための授業であるので、財務会計に関する基本知識がある学生は「財務会計論」を受講されたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の講義は、オンデマンド型のｅラーニングとして実施する。
講義を中心とするが、基礎的な会計知識については、演習問題の解答の提出を求める。
教材の配信は、第１回～第３回分と第４回～第６回分をまとめて行い、演習問題の解答の提出についても第１回～第３回分と第４回～第６回分をまとめて期限を設定する。
授業の内容に関する質問については、随時 E-Mail で受け付けるが、質疑のためのオンラインミーティングを２回設定する予定である。その日程は学習支援システムで伝えるが、参加は任意である。
また、最終回（第７回）には、学生が自ら選定した上場企業の財務諸表の分析結果の発表をオンラインで行い、その内容について最終レポートの提出を求める。最終回（第７回）に出席できない学生は、発表内容を録画して提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回 (1)	会計の種類と役割 [テキスト第１章]	会計にはどのような種類があり、それぞれどのような役割を果たすのか、企業会計を中心として検討する。
第 1 回 (2)	財務会計のシステムと基本原則 [テキスト第２章] 財務諸表の作成と公開 [テキスト第１０章]	財務会計のシステムの基本となる取引や仕訳の考え方、損益計算と資産評価の基本原則、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の相互関係について学ぶ。外部に公表する財務諸表の種類、作成と公開の方法について学ぶ。
第 2 回 (1)	企業の設立と資金調達 [テキスト第３章]	企業の設立手続と資金調達取引に関する会社法の定めとその会計処理について学ぶ。
第 2 回 (2)	仕入・生産活動 [テキスト第４章]	商品や材料の調達活動と製品を製造するための生産活動に関する会計処理を学ぶ。
第 3 回 (1)	販売活動（１） [テキスト第５章]	収益の計上時期、売上原価の計算方法など販売活動に関する会計処理全般を学ぶ。
第 3 回 (2)	販売活動（２） [テキスト第５章]	建設業や受託ソフトウェア開発業で用いられる工事進行基準など特殊な収益計上の会計処理について学ぶ。
第 4 回 (1)	設備投資と研究開発 [テキスト第６章]	固定資産の取得、減価償却、除却、売却などの設備投資に関連する活動及び研究開発活動に関する会計処理を学ぶ。
第 4 回 (2)	資金の管理と運用 [テキスト第７章]	資金の管理と運用に関する活動の会計処理とキャッシュフロー計算書の作成方法について学ぶ。
第 5 回 (1)	財務諸表による経営分析（１） [テキスト第１２章]	財務諸表数値を用いた収益性の分析の方法を学ぶ。
第 5 回 (2)	財務諸表による経営分析（２） [テキスト第１２章]	財務諸表数値を用いた安全性の分析の方法を学ぶ。
第 6 回 (1)	国際活動 [テキスト第８章] 税金と配当 [テキスト第９章]	輸出入活動、海外投資活動など国際活動に関連する会計処理を学ぶ。企業に課される税金の会計処理及び配当の形態と会計処理について学ぶ。
第 6 回 (2)	企業集団の財務報告 [テキスト第１１章]	企業集団の財務報告のために作成される連結財務諸表の作成方法を学ぶ。
第 7 回 (1)	経営分析結果の学生発表 (1)	自ら選定した上場企業の財務諸表の分析結果の発表をオンラインで行う。発表の実施日時については、学生と個別に調整する。
第 7 回 (2)	経営分析結果の学生発表 (2)	前回の続きを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、オンデマンドで動画教材を視聴するとともに、教科書の該当する章を読んで理解を深めること。
また、自らが関心を持っている企業の事業内容と業績について、新聞記事や企業のＷｅｂサイトを見て、企業がどのような事業を行い、そこにどのようなリスクがあり、その結果が決算にどのように反映するのかという観点を持って、会計処理を理解することにより、最終回（第７回）の学生発表につなげること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門（第 14 版）』有斐閣アルマ（￥1,800+税）
なお、上記のテキストの改訂版等が発売された場合は、最新版を使用するが、受講において第 14 版でも学習に差し支えないように配慮する。

【参考書】
國貞克則著『【新版】財務３表図解分析法 (朝日新書)』朝日新聞出版（￥810+税）

【成績評価の方法と基準】
演習問題の解答の提出及び積極的な質問や発言（50 %）
経営分析結果の発表と最終レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
理解を深めるため、質疑のためのオンラインミーティングを設定する。また、学生発表の参考にするため、財務諸表による経営分析の方法について、説明動画を配信する。

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド方式の授業のため、PC の利用が必須である。また、授業の教材、動画、問題は、学習支援システムを利用して提供する。

【その他の重要事項】
「授業形態」が「オンライン」となっているが、最終回（第７回）の学生発表を除いて「オンデマンド」で行う。最終回に出席できない場合は、発表の動画による提出も可能である。
なお、授業の内容に関する質問については、随時 E-Mail で受け付けるが、質疑のためのオンラインミーティングを２回設定する予定である。その日程は学習支援システムで伝えるが、参加は任意である。
＜オフィスアワー＞
春学期：月曜日 5 限目（16:50-18:30）
この日時の都合が悪い学生については、個別に調整するので、E-Mail で連絡いただきたい。

【Outline (in English)】
Business accounting is a mechanism for representing the economic activity of a company in monetary value. By looking at the company's financial statements, you can understand the situation of business activities of the company.
In this class, students learn the basic idea of financial accounting (accounting for reporting to the outside) and how to view and analyze financial statements.
Although it uses the published financial statements of listed companies as the analysis target, it handles the basic matters of financial accounting, so it can be useful not only for large enterprises but also for grasping the management situation of small- and medium-sized enterprises.

MAN510F2

クラウドコンピューティング

Cloud computing

五月女　健治［Kenji SAOTOME］

単位数：2 単位
学期：秋学期後半/Fall(2nd half)
授業分類：専門講義
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
クラウドコンピューティングの利用が急速に広がっている。クラウドコンピューティングによって、選択肢が広がって、さまざまなビジネスシーンでの活用が可能となっている。特に、IT の難しいスキルを取得することなくサービスの利用ができつつあり、我々が直接 IT を利用する時代が近づいている。一方で、いくつかの問題があることも事実である。ただ、このような光と影についての情報はあふれていて、すでに周知のことである。この授業では、実際にクラウドを体験して、利点・問題点の理解を深めて、必要となったときに実践的な判断を可能とする知識を習得することが目的である。対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
クラウドで提供されるサービスは、主に SaaS、PaaS、IaaS に分類される。この授業では、SaaS と PaaS の著名なサービスを体験する。また、クラウドと社内のコンピュータ環境を連携する演習も実施して、クラウドサービスの理解を深める。
（SaaS ： Software as a Service、アプリケーション機能を提供するサービス）
（PaaS ： Platform as a Service、アプリケーション開発環境を提供するサービス）
（IaaS ： Infrastructure as a Service、ハードウェア環境を提供するサービス）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
クラウドサービスで最も利用されているオンラインストレージ（Dropbox、OneDrive、Google ドライブ）を取り上げ、Zoom オンライン会議での活用方法の演習を行う。
PaaS として、プログラミングレスのアプリケーション作成環境であるサイボウズ社の Kintone を取り上げ、それを利用したアプリケーション作成の演習を行う。また、作成したアプリケーションで生成されたデータの活用方法として、データ分析の演習を行う。
　SaaS として、プラットフォームビジネス（マッチング、シェアーリングエコノミなど）を構築できるクラウドサービスを取り上げ、そのサービスのアカウント作成や運用・利用を体験する。
ただし、提供者側の状況によっては、利用するサービスの変更があり得る。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	クラウドコンピューティングの種類・技術の現状や利点・問題点などについて、講義する。
第 2 回	オンラインストレージ 演習-1	オンラインストレージ演習の準備を行う。
第 3 回	オンラインストレージ 演習-2　講義	オンラインストレージと Zoom オンライン会議での活用方法を講義する。
第 4 回	オンラインストレージ 演習-2　演習	オンラインストレージと Zoom オンライン会議での活用方法を演習する。
第 5 回	PaaS 演習-1　講義	Kintone の利用準備と簡単なアプリ作成の方法を講義する。
第 6 回	PaaS 演習-1　演習	Kintone の利用準備を行い、簡単なアプリを作成する。
第 7 回	PaaS 演習-2　講義	Kintone による、アプリ（請求書）の作成方法を講義する。
第 8 回	PaaS 演習-2　演習	Kintone で、アプリ（請求書）を作成する。
第 9 回	データ活用　講義	Kintone で生成したデータを利用して、データ分析を行う方法を講義する。
第 10 回	データ活用　演習	Kintone で生成したデータを利用してデータ分析を行う。データ分析で利用するツールは、Power BI Desktop（データ分析・可視化アプリ）を利用する。
第 11 回	SaaS 演習　講義	プラットフォームビジネスについて講義する。
第 12 回	SaaS 演習　演習	プラットフォームビジネスを構築するクラウドサービスのアカウントを取得し、運用・利用する演習を行う。
第 13 回	活用事例	ゲスト講師による活用事例紹介を行う。
第 14 回	総括	学習内容の振返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。
本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間、宿題は各 1 時間（6 回）を標準とする。

【テキスト（教科書）】
配布する。

【参考書】
・はじめての Kintone ガイドブック（無償配布）　：
https://kintone.cybozu.com/jp/2014/images/support/index/welcometokintone.pdf

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（40%）、期末レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
自身の PC を各自準備する。Power BI Desktop のみ WindowsPC が必要である。イノベーション・マネジメント研究科管理の演習室で授業行う場合は、演習室 PC も利用可能である。上述の条件を満たす PC を持たない場合で、演習室以外の環境で使用するときは、大学の貸与 PC を利用することを検討すること。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、基本的な Excel の操作ができる程度の知識を有すること。
オフィスアワーは、水曜 6 限とする。この日時の都合が悪い学生については、個別に調整する。
大手電機メーカーにおいて 28 年間勤務し、一貫して IT システムの開発・研究に従事。当該授業のテーマとして、IT の総合的な観点で授業を実施する。

【Outline (in English)】
The use of cloud computing is rapidly expanding. Cloud computing has made it possible to use it in various business scenes. Especially, the services of cloud computing are being used without acquiring the difficult skills of IT, and the era when we use IT directly is approaching. On the other hand, it is a fact that there are some problems. However, such information on light and shadows is already well-known. The purpose of this class is to experience the cloud computing, understand advantages and problems, and acquire knowledge that enables practical judgment when necessary. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN510F2

モバイルプログラミング

Mobile programming

五月女　健治

単位数：**2 単位**
学期：**春学期前半**/Spring(1st half)
授業分類：**専門講義**
専門科目

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
MIT App Inventor（以降、App Inventor）により、基本的なプログラミング技術を学びつつ、モバイルアプリの作成を通して、ビジネスで必要となるさまざまな技術を体験することによって、企業人としての高度な IT リテラシーの習得を可能とする。
現在の時代の転換期において、企業は本格的なデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組むべき時期に来ている。しかし、企業人の IT リテラシーは、そのスピードに対応できているのか。
App Inventor は、学校でのプログラミング教育に使用されている Scratch と同じビジュアルプログラミングであると同時に、ビジネスで必要となる技術を利用して、本格的なモバイルアプリを作成できるプログラミング環境である。
対象は、中小企業を想定する。

【到達目標】
基本的なプログラミング技術と、ビジネスで必要となるさまざまな IT 技術を、プログラミングを通して体験することによって、企業人としての高度な IT リテラシーを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
イノベーション・マネジメント研究科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
App Inventor を利用して、プログラミング技術の基礎を演習する。
授業は、演算、分岐や繰返しを行うプログラミングとしての基本的な機能と IT 関連の外部機器やサービスを利用する機能（コンポーネント）を習得し、応用的なモバイルアプリの作成を行う。これらの習得した知識をもとに、もっとも注目されているプログラミング言語 Python のプログラミングの体験を行う。
各回の提出課題に対して改善点がある場合は、個々にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	アプリ作成環境　講義	App Inventor でモバイルアプリを作成する開発環境について講義する。
第 2 回	アプリ作成環境　演習	App Inventor でモバイルアプリを作成する開発環境を、自身の PC とモバイル端末で構築する。
第 3 回	チュートリアル基礎　講義	App Inventor が提供する基礎的なチュートリアルアプリについて講義する。
第 4 回	チュートリアル基礎　演習	基礎的なチュートリアルアプリを作成し、App Inventor の基本を学習する。
第 5 回	プログラム構造　講義	演算機能、分岐や繰返しを行う機能など、どのようなプログラミング言語にも備わっている必須の機能について講義する。
第 6 回	プログラム構造　演習	App Inventor によって、演算機能、分岐や繰返しを行う機能を演習する。
第 7 回	チュートリアル応用　講義	App Inventor が提供するコンポーネントについて講義する。
第 8 回	チュートリアル応用　演習	App Inventor が提供するコンポーネントについて演習する。
第 9 回	コンポーネント　講義	コンポーネントを組合わせて、ソリューションを行うことができることを講義する。
第 10 回	コンポーネント　演習	コンポーネントを組合わせて、ソリューションを行うことができることを演習する。
第 11 回	Python　講義	Python の利用方法と仕様について講義する。
第 12 回	Python　演習	Python による基本的なプログラミングを演習する。
第 13 回	拡張機能　講義	App Inventor が拡張機能として提供している、AI 機能と IoT 機能のコンポーネントを利用したモバイルアプリのデモを行う。
第 14 回	まとめ・期末課題	期末課題を構想し作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業は、前回の授業の内容を利用してさらに発展させる方式を採るので、次回までに、当日実施したテキストの該当箇所の復習を必要とする。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布する。

【参考書】
・MIT App Inventor の公式サイト
　https://appinventor.mit.edu/

【成績評価の方法と基準】
各回の課題演習（70%）、期末課題（30%）。
期末課題として、この授業で習得したスキルに基づいて、以下のいずれかのテーマのレポートを求める。
・自身の企業・組織におけるプログラミングなどの IT 教育
・App Inventor によるアプリ作成

【学生の意見等からの気づき】
ビデオ教材を充実していることで、個別質問を躊躇するケースがあった。
理解できないままにすることは望まない。直接の対話を求める。
このことは授業の最初にアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】
App Inventor のアプリを作成する PC（Windows または Mac）と、アプリの実行環境として Android または iOS を搭載したモバイル端末（スマートフォンまたはタブレット）が必要である。

【その他の重要事項】
必要な前提知識として、日常的な使用程度のモバイル端末の操作ができること。
プログラミングの知識・体験は、不要である。

【Outline (in English)】
Using MIT App Inventor, it is possible to acquire advanced IT literacy as a business person by learning basic programming technology and experiencing various technologies required for business through the creation of mobile apps. This lecture is for Small to Medium Business.

MAN560F2

Financial Management

Financial Management

関　雄太

単位数：**2 単位**
学期：**秋学期後半**/Fall(2nd half)
授業分類：**専門講義**
Global MBA
その他属性：〈実〉

【Outline and objectives】
In terms of financial management, corporate managers should be able to deal with two fundamental issues: (1) Selecting an investment project that maximizes the value of a firm, and (2) Choosing an appropriate financial policy (of dividend or capital structure) to persuade investors or banks to provide funds. This course aims at providing basic principles of corporate finance and investment theories. The course also covers topics such as concepts of net present values and cost of capital, valuation of debt instruments (bonds) and equities, firm valuation and portfolio theories. The course uses simple problem sets that require students to calculate net present values or to build models analyzing ROEs and other important ratios.

【Goal】
At the end of this course, students should be able to:
1.Understand key theories, principles and trends in corporate finance
2.Demonstrate effective approaches to the analysis of corporate finance structure and corporate financial statements, using applicable ratio analysis tools and techniques
3.Assess the practical application of models and theories to decisions on investment
4.Understand how investors evaluate corporations in the capital market and what corporate managers try to do to maximize their firm values.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain“DP1”,“DP2”,“DP3”and“DP4”.

【Method(s)】
1. Lecturing: Students will be asked to preview materials (and textbooks) and to be ready for discussion on related topics. Short quiz might be presented to check the learning progress.
2. Case analysis: Students will be assigned to create and conduct a brief presentation to analyze a certain publicly-traded company for applying financial models and for learning investment decision making methods intensively

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
第 1 回	Financial Management Overview	A general guidance on the course method. Understand the basic concept of corporate finance and goal of corporation. In order to comprehend the role of financial management, discuss the relationships amongst corporate managers, shareholders, banks and other stakeholders. Reading assignment: Desai Introduction, Chapters 1 and 3. Brealey, Myers and Allen (BMA) Chapter 1
第 2 回	How to Calculate Present Values	Understand the time value of money and the basics of net present value calculation Reading assignment: Desai Chapters 1 and 2. BMA Chapter 2.
第 3 回	Valuing Bonds	Overview the variety of corporate financing methods. Understand the bond price calculation and the term structure of interest rate. Learn the basics of corporate bond and credit market Reading assignment: Desai Chapters 1 and 2. BMA Chapter 3.
第 4 回	Valuing Equities	Overview the publicly-traded equity market. Understand the basic concept of dividends and cash flows, the valuation methods of equities such as Dividend Discount Model Reading assignment: Desai Chapters 1, 2 and 3. BMA Chapter 4.
第 5 回	Financial Analysis (1): ROE (Return on Equity) and Value Creation	Understand the analytical tools on financial performance and profitability including ROE. Able to utilize various ratios. Reading assignment: Desai Chapters 2, 4 and 5.
第 6 回	Financial Analysis (2): Free Cash Flows	Understand the difference between accounting and financial perspectives. Analyzing cash flows based on actual cases. Reading assignment: Desai Chapters 2, 4 and 5.
第 7 回	Cost of Capital (1): WACC and Optimal Capital Structure	Understand how to measure cost of equity and the concept of weighted average cost of capital (WACC). Understand the optimum level of debt and dividend payout. Discuss how capital structure impacts on firm values Reading assignment: Desai Chapters 4 and 5. BMA Chapters 7, 8 and 9.
第 8 回	Cost of Capital (2): Risks Associated with Investment and CAPM	Understand the relationship between risk and return in the capital market. Understand the implication of beta as the expected return by the investor and the impact on the firm valuation Reading assignment: Desai Chapters 4 and 5. BMA Chapters 7, 8 and 9.
第 9 回	Firm Valuation: Discounted Free Cash Flow Model and Alternative Models	Able to integrate various methods to evaluate a firm as a whole. Understand other valuation models and useful ratios. Reading assignment: Desai Chapters 4 and 5. BMA Chapter 4
第 10 回	Capital Allocation and Payout Policy	Understand the basic decision making process of capital allocation. Discuss how payout (dividend and share repurchase) impacts on firm values Reading assignment: Desai Chapter 6. BMA Chapters 12 and 16
第 11 回	M&A and Corporate Restructuring	Understand the dynamics of M&A activities and how a leveraged buyout works in order for a private equity fund to capture the values created by turnaround Reading assignment: Desai Chapters 5 and 6. BMA Chapters 31 and 32
第 12 回	Venture Capital and IPO	Understand the corporate growth cycle and the role of venture capital fund. Discuss the issues associated with pricing/valuations when a startup tries an initial public offering Reading assignment: Desai Chapters 3 and 5. BMA Chapter 15.
第 13 回	Corporate Governance	Understand the current issues on corporate control and governance by considering the asymmetric information problem and principal-agent model Reading assignment: Desai Chapters 3, 4, 5 and 6. BMA Chapter 33.
第 14 回	Current Issues on Corporate Finance and Capital Market	Review key principles of corporate finance and discuss the recent issues of capital market such as ESG related debate.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Those who are not familiar with the basics of finance and accounting would need some self-study to enhance the level of basic understanding. Lecture notes would be provided in the form of power point presentation. Please refer to the content in advance in going through the text to facilitate your understanding.

【Textbooks】
Mihir A. Desai, “How Finance Works: The HBR Guide to Thinking Smart about the Numbers” [Desai], Harvard Business Review Press (2019)
ISBN10: 1633696707
ISBN13: 9781633696709
Brealey, R., Myers, S., and Allen, F., “PRINCIPLES OF CORPORATE FINANCE” 13th Edition [BMA], McGraw-Hill, (2020)
ISBN10: 1260013901
ISBN13: 9781260013900
Lecture notes in a form of power point presentation would be provided in advance together with necessary cases.

【References】
Jonathan Berk and Peter DeMarzo, “Corporate Finance”, 3rd Edition, Pearson (2013)
ISBN10: 0132992477
ISBN13: 9780132992473

【Grading criteria】
Final case assignment (material and presentation): 50%
Quiz and interim assignments: 30%
Contribution to the class: 20%

【Changes following student comments】
Based on the experience last year, we will try to discuss more qualitative issues. Certain number crunching works cannot be avoided but you don’t have to memorize formulas. Focus on understanding the relationship between corporate management and financial markets.
Furthermore, active feedbacks from the class are highly appreciated. The situations in corporate finance and capital market may vary between regions or countries. I would appreciate if you could bring insights or practical experiences in your home country into the class discussion.

【Equipment student needs to prepare】
Microsoft Excel is required to understand and exercise financial formulas and ratios.

【Outline (in English)】
In terms of financial management, corporate managers should be able to deal with two fundamental issues: (1) Selecting an investment project that maximizes the value of a firm, and (2) Choosing an appropriate financial policy (of dividend or capital structure) to persuade investors or banks to provide funds. This course aims at providing basic principles of corporate finance and investment theories. The course also covers topics such as concepts of net present values and cost of capital, valuation of debt instruments (bonds) and equities, firm valuation and portfolio theories. The course uses simple problem sets that require students to calculate net present values or to build models analyzing ROEs and other important ratios.

BSP500R1

政策分析の基礎

高尾　真紀子、石山　恒貴、柿野　成美、橋本　正洋、増淵　敏之、井上　善海、小方　信幸、北郷　裕美

科目分類：**基本科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策の分析や研究論文作成に必要となる統計データの分析手法、社会調査における量的・質的データの収集と分析、フィールドワーク、政策及び企業の事例研究の手法等をその背景にある学術的根拠とともに学ぶ。

【到達目標】

修士論文の作成に必要な分析スキルを身に着け、自身の論文に適切な手法を選択し、活用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の担当教員がテーマに沿って講義、グループディスカッション、レポート、プレゼンなどを交えた授業を行う。毎回何らかの課題（小レポート等）を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	質的調査の方法と分析（石山）	質的調査の背景にある学術的根拠を理解したうえで、データを収集し、その分析を行う手法について学ぶ。さらに、分析結果を政策分析に反映する考え方について学ぶ。
2回（3・4）	量的調査の方法と分析（高尾）	量的調査の質問票の作成方法と基本的な分析手法について学び、目的に応じ、どのような分析手法を選択すべきかを検討する。
3回（5・6）	政策プロセス科学（橋本）	国家政策のプロセスについて概観し基礎的認識を得る。
4回（7・8）	フィールドワーク（増淵）	地理学的なアプローチでのフィールドワークについて論じる。事例を挙げてわかり易く説明することを念頭に置く。
5回（9・10）	企業事例研究（井上） CSR・SRI 定量分析（小方）	事例研究（ケース・スタディ）は、単一ないし少数の事例を対象に深く多面的な分析を行う研究アプローチで、「だれが」「なぜ」「どのように」といった質問に答える際に役立つ。本講義では、企業を対象とした事例研究の方法と分析手法について学ぶ。CSR・SRI 定量分析では、事前に配布する２つの定量分析の論文を読みつつ、論文の構成と重回帰分析の使い方について学ぶ。
6　回（11・12）	統計データと政策分析（柿野）	政府統計データや個票データの扱いについて学び、分析結果の記述方法とそれを踏まえた政策分析について検討する。
7　回（13・14）	フィールドワーク（事例研究）（北郷）	具体的なフィールドワーク・テーマを基に半構造化インタビューの課題等、社会調査の意味を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ごとにテーマに対応した課題（小レポート等）を課す。新聞やその他のメディアで、今起きていることを各自が把握して授業に参加するようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学　データから真実を見抜く思考法』2017 年、ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

各回のレポート及び平常点（授業への貢献等）の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の学びやすさを考慮し順序を変更した。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to master methods and methodologies necessary for policy analysis and preparing master's thesis. Students learn about analysis of statistical data, collection and analysis of quantitative / qualitative data in social surveys, field work, case study.

BSP500R1

政策ワークショップ

柿野　成美、石山　恒貴、橋本　正洋、増淵　敏之、高尾　真紀子、井上　善海、小方　信幸、上山　肇、北郷　裕美

科目分類：**基本科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では、受講生がワークショップを通じて、政策提言の疑似体験を行うことを目的とする。

【到達目標】
毎回講師が提示する政策提言に関するテーマ・論点に応じたワークショップ（共同作業）を運営することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
当授業は、当研究科の教員が毎回交代で担当する。授業前半は教員が専門とするテーマで講義を行う。後半は、教員からのテーマに沿って、グループに分かれて討議を行い、討議内容を発表する。毎回の授業運営は受講生中心に行う。受講生は、全員が各回のファシリテーション・グループに割り振られ、授業の準備、当日の進行、授業後の報告書作成など担当する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス及びワークショップ準備	当科目の主旨及び内容説明。グループ分け。グループ毎に次週以降担当する回のワークショップ準備。
2回（3・4）	ワークショップ①	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
3回（5・6）	ワークショップ②	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
4回（7・8）	ワークショップ③	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
5回（9・10）	ワークショップ④	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
6　回（11・12）	ワークショップ⑤	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。
7　回（13・14）	ワークショップ⑥	担当教員の講義をもとにワークショップを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当する回のワークショップの準備、ならびに担当したワークショップに関する報告書の作成に相当の時間が必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。

【参考書】
「政策創造のすすめ」（政策創造研究科同窓会編）。前年度の「政策ワークショップ報告書」。その他、担当教員の講義内容に応じて適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %、討議への参加 30 %、担当したワークショップ報告書 10 %。

【学生の意見等からの気づき】
限られた時間内で、一層効率的な議論・討論ができるようにするため、ファシリテーターの知識を共有するなどの工夫をすること。

【Outline (in English)】
This course provides students with an opportunity to simulate policy proposals through workshops.

BSP510R1

調査法

高尾　真紀子

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政策立案、政策創造の前提となる現状把握には客観的な数量分析が不可欠であり、修士論文においても、客観的データの分析を加えることによって、より説得性を増す。本講義では、統計データ及び質問紙調査を使った実証分析の方法を理解、習得し、修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【到達目標】
統計データの解析等の実証分析の方法を理解し、各自の修士論文作成にあたって実際に応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実際に統計データを使用して計算ソフト（EXCEL）の分析方法を実習し、統計学を用いてその分析結果を正しく解釈するための能力を身につける。エクセルを使ったアンケート集計の方法についても解説する。統計学、数学的知識は必要としない。内容は以下を予定しているが、受講人数、受講者の希望に応じて弾力的に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロ 経済統計の基礎ダクション	講義の進め方、さまざまな調査手法と本講義で取り扱う範囲について学ぶ。 経済統計データの基礎知識を学び、統計データを加工する
2 回（3・4）	社会調査の方法：質問票の作成 調査結果の集計・分析	社会調査、特に質問紙調査の設計から実施までの方法と留意点を学び、質問票を作成する。調査結果の集計、分析の手法を学び、エクセルを使った単純集計、クロス集計の方法を習得する。
3 回（5・6）	統計の基礎	平均と分散、標準偏差、正規分布等の統計の基礎について学ぶ。カイ二乗検定、t 検定、F 検定など仮説検定の手法について、どのような場合に使うかを学び、実習を行う。
4 回（7・8）	相関分析・回帰分析	相関の概念について学び、散布図の作成や相関係数の求め方を実習する。単回帰分析の考え方を学び、分析手法を実習する
5 回（9・10）	重回帰分析	多変量解析の中でも様々な場面で活用範囲の広い重回帰分析について学び、様々な重回帰分析を実際のデータを基に実習する。
6 回（11・12）	多変量解析 統計分析演習	因子分析、主成分分析等の多変量解析の考え方とどのような場面で活用できるのかを学ぶ。学習した手法を用いたデータ分析演習を行う。
7 回（13・14）	課題発表	各自の問題意識や研究テーマに基づき、学習した手法を用いてデータ分析を行った結果の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Excel の基本操作が出来るようにしておくこと。
授業中のデータを USB 等で保存し、授業中に出来なかったことは家で復習すること。
本講義で用いた手法等を用いて、各自の専門（修士論文）に関連したテーマを選び、現状分析を行い (データをさがし加工する)、レポートを作成（文章と図表で説明）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】
○分析例
内閣府「経済財政白書」厚生労働省「労働経済白書」等
○統計データ
総務省統計局「国勢調査」「家計調査」「全国消費実態調査」「社会生活基本調査」「労働力調査」「経済センサス」等　http://www.stat.go.jp/
内閣府「国民経済計算（ＧＤＰ統計）」http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html
財務省「貿易統計」http://www.customs.go.jp/toukei/info/tsdl.htm
日本銀行統計 http://www.boj.or.jp/statistics/index.htm/
○その他
飽戸弘『社会調査ハンドブック』日本経済新聞社
伊藤公一朗『データ分析の力　因果関係に迫る思考法』光文社新書
中室牧子、津川友介『「原因と結果」の経済学　データから真実を見抜く思考法』
森田果『実証分析入門』日本評論社
西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社
西内啓『統計学が日本を救う　少子高齢化、貧困、経済成長』中央公論新社
涌井良幸、涌井 貞美『Excel で学ぶ統計解析』
涌井良幸、涌井 貞美『図解　使える統計学』

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）、実習（30 %）、レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のエクセル習熟度が異なるため、複数の演習課題を用意し、進捗の速い学生は、さらに進んだ演習に進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
各自が情報端末を使用（インターネットによるデータのダウンロードが行える）しながら受講できる教室を使用。

【その他の重要事項】
基礎的な内容なので、出来る限り早期（1 年目）に履修することが望ましい。

【Outline (in English)】
This　course aims to understand and acquire the method of empirical analysis of data using statistical data and questionnaire survey and make it practically applicable for preparation of master thesis.

BSP510R1

研究法

上山　肇

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文作成手法の習得

【到達目標】
研究テーマの設定と先行研究を踏まえた研究計画書の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、研究計画書の内容に関する講義を行います。その講義を踏まえ、各自の論文テーマを設定し、関連する先行研究を調べ、それらを読み進めます。その上で、①研究の目的・意義　②研究の内容　③期待される成果（仮説）を盛り込んだ研究計画書を作成します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	本授業の進め方について説明します。また、「研究計画書とは何か」について説明するとともに、各自の論文テーマを設定します。
2 回（3・4）	文献資料の検索	各自の論文テーマに関連する文献資料を収集します。
3 回（5・6）	研究計画の立案	最終的な論文のイメージを明確にします。
4 回（7・8）	研究計画書の書き方	研究計画書の作成にあたっての留意点について説明します。
5 回（9・10）	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します。
6 回（11・12）	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します。
7 回（13・14）	研究計画書の発表	作成した研究計画書に基づいて口頭発表します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自のテーマに即した先行研究の調査・分析。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
「まちづくり研究法」（三恵社）。その他、講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Setting research themes and creating research plans based on previous research.
[Learning activities outside of classroom]
Survey and analysis of previous research according to your theme
[Grading Criteria / Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

MAN510R1

人的資源管理論

石山　恒貴

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては、変わりつつある日本的雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。
参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】
人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
人的資源管理の歴史的背景、日本的雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。
また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2 回（3・4）	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3 回（5・6）	日本的雇用と職務	変化しつつある日本的雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する
4 回（7・8）	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
5 回（9・10）	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6 回（11・12）	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7 回（13・14）	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、講義だけなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。
また講義で示す参考書については、積極的にお読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020 年
石山恒貴　『組織内専門人材のキャリアと学習』　生産性労働情報センター　2013 年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018 年

【成績評価の方法と基準】
評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回あたり 5 点満点で計 35 点満点）、②受講者による事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実務面の参考にしていただくべく、豊富な実例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】
授業ではパワーポイントなど PC を使うことがある。

【その他の重要事項】
各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.
Goal
At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management
Work to be done outside of class
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl510R1

地域活性化システム論

高尾　真紀子

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】
学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。
地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2018 年度：世界とつながる、2019 年度：人を育てる、2020 年度：都市と地方、2021 年度：地域のウェルビーイング、2022 年：関係人口と地域）。2023 年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。
参考までに、以下に 2022 年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	講義 受講生によるディスカッション 1 担当教員によるまとめ	「地方創生の推進について」 内閣府地方創生推進室　矢野　純也氏
2 回（3・4）	講義 受講生によるディスカッション 2 担当教員によるまとめ	明治大学客員教授　農業ジャーナリスト　榊田みどり氏「農業政策と関係人口の創出」
3 回（5・6）	講義 受講生によるディスカッション 3 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所　主席研究員　鴨志田武史氏 「地方創生とＲＥＳＡＳ (地域経済分析システム)」
4 回（7・8）	講義 受講生によるディスカッション 4 担当教員によるまとめ	特定非営利法人　土佐山アカデミー事務局長 吉冨慎作氏 「過疎地域における関係人口の創出」遊びと学びの境界をな
5 回（9・10）	講義 受講生によるディスカッション 5 担当教員によるまとめ	島根県教育魅力化特命官 一般社団法人　地域・教育魅力化プラットフォーム　代表理事　岩本悠氏 「地域みらい留学を通じた教育魅力化と well − being な地域づくり」
6 回（11・12）	講義及び対談 受講生によるディスカッション 6 担当教員によるまとめ	株式会社パーソル総合研究所　主任研究員　井上亮太郎氏 「地方移住とウェルビーイング」
7 回（13・14）	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】
前野隆司編著『システム × デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (1/3)、授業への貢献 (1/3)、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】
Zoom のブレークアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【学生が準備すべき機器他】
ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示できる設備
ＤＶＤの動画番組をスクリーンに表示できる設備

【その他の重要事項】
※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。
※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

GEO510R1

文化地理学

増淵　敏之

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行って行きたい。

【到達目標】
到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらせているのかを理解し、説明することができるところまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/Human Geography and Modern Society・Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
2 回（3・4）	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3 回（5・6）	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4 回（7・8）	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
5 回（9・10）	言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
6 回（11・12）	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
7 回（13・14）	ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、 森 正人、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：金 16 － 18 時

【Outline (in English)】
When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSx510R1

都市空間論

上山　肇

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】
都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	(1) 地域社会における都市空間 (2) 都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2) 都市化と都市問題
2 回（3・4）	(1) 都市空間の構成要素 (2) 都市空間を実現するための手段	(1) 建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2) 計画、ルール、事業　等
3 回（5・6）	(1) 都市空間の形成プロセス (2) 都市空間の規制手法１	(1) 市民参加と合意形成　等 (2) ゾーニングの歴史と理論
4 回（7・8）	(1) 都市空間の規制手法２ (2) 都市空間における景観	(1) ゾーニングと地区まちづくり (2) 景観コントロール
5 回（9・10）	(1) 都市空間の開発手法 (2) 都市空間の再生	(1) 都市再開発の仕組み　等 (2) 中心市街地の活性化
6 回（11・12）	(1) 都市空間の評価手法 (2) 事例研究１（事業）	(1) 評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2) 土地区画整理事業、再開発事業、密集事業　等
7 回（13・14）	(1) 事例研究２（制度） (2) 事例研究３（テーマ型）	(1) 地域地区、地区計画　等 (2) 水辺空間の再生（国内・海外事例）　等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】
受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.
[Learning Objectives]
This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria / Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

TRS510R1

観光社会学

北郷　裕美

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光社会学とは何か　社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

【到達目標】
現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すか、言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの（中略）として理論化するもの（須藤・遠藤 2018）である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス　観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2 回（3・4）	現代観光の特徴と新たな観光形態	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える　観光社会学の現状と課題や理論について触れながら、多様化するツーリズムの種類、事例を検証する
3 回（5・6）	観光社会学の多様な視点	観光社会学で多く語られるキーワードを、我々の日常的な社会現象や体験をもとに検証していく
4 回（7・8）	観光社会学の複数領域①　観光とメディア社会学　メディアは何を伝えたか　コミュニティメディアの役割と観光視点	観光課題を測るメディア研究実践　東北 N 市の地域 PR 動画の具体的分析事例（観光課題解決型　映像メディアの分析指標作成）を基に考察する
5 回（9・10）	観光社会学の複数領域②　その他の社会学領域	文化、産業、家族、宗教等　多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する
6 回（11・12）	観光施設の社会性と文化装置	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7 回（13・14）	モビリティ（ツーリズム）の時代　これからの観光を考える	ジョン アーリの語る「静止型社会（観察）」から「移動の社会学」として「モビリティ（移動・可動）」へのパラダイム転換「移動論的転回（空間論的転回）」に言及し、現在の仮想現実空間をサーフィンする我々の立ち位置とポストモダンツーリズムという意味を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成配布する PPT を通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018 年
遠藤 英樹、堀野 正人、寺岡 伸悟『観光メディア論』ナカニシヤ出版、2014 年
ジョン アーリ (著)、 ヨーナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 点、レポート 70 点。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
What is tourism sociology?　The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology.　Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society.　Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN510R1

地域産業論

橋本　正洋

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、実績のあるゲストを招き、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どの様な政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

【到達目標】
日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションに続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲスト講師からの講義及びグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回（3・4）	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲスト講師からの講義を基に討論する。
3回（5・6）	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
4回（7・8）	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
5回（9・10）	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
6　回（11・12）	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
7　回（13・14）	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％)、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

【学生が準備すべき機器他】
講師が遠隔で講義を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

【その他の重要事項】
ゲスト講師を事前に提示するので、予習をしておくこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical lecture and sufficient discussion. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.

MAN510R1

中小企業論

井上　善海

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】
①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントついて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2 回（3・4）	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3 回（5・6）	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4 回（7・8）	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5 回（9・10）	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6 回（11・12）	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7 回（13・14）	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300 円）

【参考書】
井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館 （2,800 円）
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（４０%）、講義内で課す課題レポート（６０%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN510R1

CSR 論

小方　信幸

科目分類：**基本科目（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業では、CSR を本業を通じ社会的価値と経済的価値を創造する CSV（Creating Shared Value, 共通価値の創造）と定義する。CSV を経営戦略として如何にサステナビリティ経営を実現するべきかを考える。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループ討議および全体討議を通じ、企業がをサステナビリティ経営を実現する経路を学ぶことを目的とする。

【到達目標】
学生は、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する CSV を経営戦略とすることにより、サステナビリティ経営を実現することが出来ることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。
原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。CSV を実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する経路を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）授業の進め方（2）歴史から学ぶ CSR 概念の形成と変遷
2 回（3・4）	共通価値の創造（CSV）	（1）M. ポーター他「共通価値の創造」戦略 （2）ケース：ネスレの CSV 戦略
3 回（5・6）	サステナビリティ経営	ケース：ユニリーバのサステナビリティ経営
4 回（7・8）	クレド経営	ケース：ジョンソン・エンド・ジョンソンの我が信条（Our Credo)
5 回（9・10）	長期志向経営	ケース：ノボ・ノルディスク
6　回（11・12）	日本の中小企業におけるサステナビリティ経営	ケース：サラヤ株式会社
7　回（13・14）	日本の中小企業における CSV 戦略	ケース：石坂産業株式会ア社

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。
（2）授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加・授業貢献（４０%）、期末レポート（６０%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（1）学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。
（2）企業のサステナビリティ・CSR 部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員から CSR および CSV についての理解が深まったとの感想が寄せられた。2022 年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカーを招く場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
In this class, we define CSR as Creating Shared Value (CSV), which is the creation of social and economic value through core business activities, and consider how to realize sustainability management by using CSV as a management strategy. The first half of the class will consist of lectures and the second half will consist of group discussions. Through the lecture, group discussion, and group discussion as a whole, the objective is to learn the pathways for companies to realize sustainability management.

ECN520R1

少子高齢化と社会保障

高尾　真紀子

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】
日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について資料を提示したうえで、各回ディベート形式で討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化及び移民問題についても議論する。
2 回（3・4）	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
3 回（5・6）	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
4 回（7・8）	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
5 回（9・10）	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
6 回（11・12）	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
7 回（13・14）	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
○その他
エスピン－アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
大竹文雄・平井啓 (編著)『医療現場の行動経済学　すれちがう医者と患者』東洋経済新報社
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
河野稠果『人口学への招待』中公新書
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房
友原章典『移民の経済学』中公新書
永吉希久子『移民と日本社会』中公新書
山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書
吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【Outline (in English)】
This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ECN520R1

ウェルビーイング論

高尾　真紀子

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングな状態で生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】
ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、ＥＢＰＭ（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップや討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2 回（3・4）	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3 回（5・6）	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策や指標について学び、政策のあり方について議論する。
4 回（7・8）	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5 回（9・10）	企業におけるウェルビーイング	人的資本経営、健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6 回（11・12）	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7 回（13・14）	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
内田由紀子『これからの幸福について　文化的幸福観のすすめ』2020 年、新曜社
大竹文雄 , 白石小百合 , 筒井義郎『日本の幸福度　格差・労働・家族』2010 年，日本評論社
小塩隆士『「幸せ」の決まり方　主観的厚生の経済学』2014 年，日本経済新聞社
キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013 年，日本経済新聞出版社
経済協力開発機構『ＯＥＣＤ幸福度白書２―より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015 年，明石書店
島井哲志『幸福の構造 – 持続する幸福感と幸せな社会づくり　あなたの幸せは何に左右されているか？』2015 年，有斐閣
橘木俊詔『「幸せ」の経済学』2013 年，岩波書店
友原章典『会社ではネガティブな人を活かしなさい』2021 年，集英社新書
ブルーノ・Ｓ・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012 年，ＮＴＴ出版
デレック・ボック（土屋 直樹 , 茶野 努, 宮川 修子 訳）『幸福の研究―ハーバード元学長が教える幸福な社会』 2011 年，東洋経済新報社
前野隆司『幸せのメカニズム – 実践・幸福学入門』2013 年，講談社現代新書
矢野和男『文庫　データの見えざる手　ウエアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018 年，草思社文庫
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021 年，草思社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019 年，光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加・貢献）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の話し合いによる気づきが得られたとの意見があり、グループディスカッションを積極的に取り入れていく。

【Outline (in English)】
In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being , taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ECN520R1

実証分析入門

柿野　成美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】
１．実証研究論文の構成と作法を理解すること、２．先行研究の分析結果の読み方を習得すること、３．各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意された論文に事前に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス　実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回（3・4）	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回（5・6）	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回（7・8）	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5回（9・10）	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6　回（11・12）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7　回（13・14）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】
浦上昌則・脇田貴文（2021）『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書
小塩真司（2021）『第 3 版　SPSS と Amos による心理・調査データ解析　因子分析・共分散構造分析まで』東京図書
小塩真司（2021）『研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析』東京図書

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学術雑誌にアクセスし論文検索ができるパソコン。

【その他の重要事項】
教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】
This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

MAN520R1

雇用政策研究（マクロ）

石山　恒貴

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般 (マクロ）について検討する．少子高齢化，グローバル化，知識基盤社会化のなかで，雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。
様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または，これらに興味のある人を念頭に，雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する．ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも，雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】
雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本的雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。
各回の授業は，講義と議論の両者を併用して進める．毎回のテーマにそって講義を進めたのち，関連した課題をめぐり，受講生がいくつかのグループをつくって議論し，その結果を報告し，相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う．必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	– そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思い込んでいる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2 回（3・4）	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうかか？
3 回（5・6）	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
4 回（7・8）	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5 回（9・10）	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍、兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6 回（11・12）	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7 回（13・14）	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。
1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しないが，以下に掲げる 7 冊から 1 冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）．このほか別途に挙げる主な参考書，授業でその都度，必要に応じて紹介する文献などを参照していただく．また，毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定．
1. ビーター・キャペリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社,2001 年
2. 清家篤『雇用再生―持続可能な働き方を考える』NHK 出版,2013 年
3．山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会，2016 年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017 年
5. 玄田有史『30 代の働く地図』岩波書店,2018 年
6. 山田久『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社,2020 年
7. 川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会，2021 年

【参考書】
・労働経済白書
・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】
評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点），② 2500 字以上の長さの科目レポートの得点（65 点満点）で，両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する．ただし，これ以外に，必須の小レポートとして、書評レポートを課す．終了時に提出を求める科目レポートは，授業内容を自分なりに消化し，できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい．

【学生の意見等からの気づき】
文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではパワーポイントを使うことがある．

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN520R1

キャリア政策研究

岸田　泰則

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世の中の不確実性が高まるなか、個人のキャリア開発はますますその価値を高めている。本授業では、働く人、個人のキャリア開発を促す政策について理解を深めることを目的とする。授業では、一貫して働くことの意味を考えていく。授業では、主に組織行動論、キャリア心理学の概念を扱う。

【到達目標】
本授業では、キャリア発達に関する課題への考察を通じて、働くことの意味を自ら考えることができるようにする。さらには、個人のキャリア開発を促す方策についての先行研究（質的研究）を自らのオリジナルな視点でレビューできることを最終的な到達目標とする。
By the end of the course,students should be able to do the following:
· Think about the meaning of work by themselves through consideration of career-related issues.
· Evaluate previous studies in terms of their metods,results,conclusions and implications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回とも学生が分担して、先行研究（質的研究）をレビューした結果を発表する。その後、講師が先行研究の基本的な概念と研究方法について説明を加える。毎回、授業の後半で、いくつかのグループに分かれグループディスカッションを行い、グループごとにその結果を発表することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	キャリア発達にかかわる学問領域の概要	キャリア発達にかかわる学問領域として組織行動論、キャリア心理学を検討するに際して対象の全体像を確認する。
2回（3・4）	ゲスト講演	キャリア政策の思想と事例について講演いただく。
3回（5・6）	若年者のキャリア発達	若年者のキャリア発達についての理解を深める。 質的研究を扱う。
4回（7・8）	ミドル・シニアのキャリア発達	ミドル・シニアのキャリア発達についての理解を深める。 質的研究を扱う。
5回（9・10）	女性のキャリア発達	女性のキャリア発達についての理解を深める。 量的研究を扱う。
6　回（11・12）	フリーランスのキャリア発達	フリーランスのキャリア発達についての理解を深める。 質的研究を扱う。
7　回（13・14）	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア発達とまとめ	グローバル人材（外国人を含む）のキャリア発達についての理解を深める。 量的研究を扱う。 授業全体のふりかえりを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として事前に指定された先行研究（論文）を読み、自らのオリジナルな視点でレビューをし発表することを課題とする。なお、この課題は分担として、授業 7 回の中で 1 回は担当するようにしたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
Students will be expected to read the previous study,review them from your own original perspective, and present your findings.　Before/after each class meeting,students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
授業において、都度、授業資料と論文（質的研究）を配布する。

【参考書】
近藤龍彰・浅川淳司『心理学論文解体新書―論文の読み方・まとめ方活用ガイド』ミネルヴァ書房　2022 年
渡辺三枝子『新しいキャリアデザイン―ニューノーマル時代をサバイブする』九州大学出版会　2021 年

【成績評価の方法と基準】
次の配分によって成績評価を行う。
①平常点（授業への参加、グループ討議）35 %
②各自が担当する発表 (中間レポート)　30 %
③最終レポート　35 %
最終レポートとして、キャリア開発に関わる先行研究のレビューを 2000 字程度のレポートとして提出する。
Your final grade will be caluculated according to the following process:Usual performance score 35%,mid-term report 30 %,and 35% final report.

【学生の意見等からの気づき】
授業の都度、学生から多くの発言が出るように工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
特にないが、授業時に PC 等を利用することは構わない。

【その他の重要事項】
オフィス・アワーは、授業開始前と授業終了後とする。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acuquire an understanding of measures to encourage career development of workers.In this course,we will consider the meaning of work consistently.

MAN520R1

地域雇用政策事例研究

石山　恒貴

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。
地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。
地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】
事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。
受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2 回（3・4）	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJ ターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3 回（5・6）	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4 回（7・8）	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5 回（9・10）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その 1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6 回（11・12）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その 2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7 回（13・14）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討 (その 3）地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。
1．いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること（その成果を授業中に発表していただく）
2．地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】
以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。
石山恒貴編『地域とゆるくつながろう – サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社　2019 年

【成績評価の方法と基準】
①授業における議論の実施状況による得点（1 回当り 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65 点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】
地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】
各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN520R1

人材育成論

石山　恒貴

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。
参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】
不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ，日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。
各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。
参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2 回（3・4）	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3 回（5・6）	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4 回（7・8）	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5 回（9・10）	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6 回（11・12）	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7 回（13・14）	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】
労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016 年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年

【成績評価の方法と基準】
評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点），②各自が分担する事例発表の得点（65 点満点）で，両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】
理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】
授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】
受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl520R1

地域コミュニティ論

中島　由紀

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域コミュニティは多様な使われた方があり、その定義や理解も非常に多岐にわたる。本講義では、昨今使われている「地域コミュニティ」の本質を複数の観点から掘り下げていき、最後は最新事例をみながら考察を深める。
▼前半はコミュニティの理論の古典的概念とその変遷を整理していき、それらが日本社会でどのように扱われ、それによって社会生活の中でどのような位置づけで語られてきたかをみていく。
▼後半は、今日的「地域コミュニティ」の課題に焦点を当て、具体的な事例や現象から「地域コミュニティ」の何が問題で、どう解決していくべきかを考えていく。特に、コロナは私たちの生活や価値観に大きな影響を与え、この変化はコミュニティの在り方にも大きく影響を与えている。論点となるのはネット社会と新しいコミュニティ形成についてであろう。この点について考えていく。
▼最終回の 2 回は、コロナ禍を経て、これからの社会に求められているコミュニティの在り方を考えて、グループ討議する。

【到達目標】
①自身の問いが明確になり調査研究の方向性が固まること。
②自身の論文で「地域コミュニティ」を扱う場合に、コミュニティの何にアプローチし、どの観点から論じるのか、論点が明確になること。
以上の２点が到達できることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義形式を中心に、各回のテーマに沿った参考文献、資料、論文を読んだり、映像視聴や事例をみていき、適宜グループディスカッション形式も取り入れる。
・また、講義資料と参考論文から、社会科学でよくでてくるアンケート調査の統計処理方法を提示する。ここから、論文作成に必要な基礎的な統計データの読み方（主にクロス集計、多変量解析）について触れる時間も設けるので、各自論文作成に役立ててもらいたい。
・事前に読んでおいて欲しい資料は適宜提示する。その場合は、次の講義で同資料の輪読を中心にディスカッションを行うため必読である。
・毎回、講義終了時にコメントシートを配布するので、授業で得た気づきや疑問、論点整理などを記載して提出してもらうが、これが出席カードの代わりとなるので留意して記入いただきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	○イントロダクション ○コミュニティとは何か？ ―理論の系譜― ○近代から現代の変化	R.M. マッキーバー、F. テンニエス、ジンメル、ワース、バージェスらの古典的コミュニティの概念を整理する。その上で、日本でいかに「コミュニティ」が捉えられ、議論されてきたか根幹を確認する。
2 回（3・4）	○近代から現代 都市論からみたコミュニティ ○日本の共同体から都市化の変化	第 1 回に続き、コミュニティ論の変遷を都市論の観点でみていく。その上で、日本の共同体の概念から都市化を経た社会変化を背景に、現代的日本の課題は何かをディスカッションする。
3 回（5・6）	○コミュニティ政策の変遷 ○自治体における地域コミュニティ活性化への取り組み	1970 年代から始まった旧自治省のコミュニティ政策の変遷をたどり、政府が意図していたコミュニティの活性化と現実がどのように乖離したのか、なぜ乖離したのかを考えていく。本回は特に、町内会・自治会といった機能組織の側面からの変遷を捉えていく。
4 回（7・8）	○コミュニティ参加の問題 ○「かかわり」の意識と「共同性」「公共性」の問題	日本の NPO や公共を担う団体組織の現状を概観し、どのような政策が進められてきたかをみていく。ここから日本人の「個」と「共同性」「公共性」の問題について考える。人々の公共性はいかに醸成されるのか、行動にうつすにはどうしたらいいのか。今日的コミュニティへの「参加」の問題を扱う。
5 回（9・10）	○日本人の生活と価値観の変化 ○「ウチ／ソト」「タテ／ヨコ」社会、「信頼と安心」 ○そして、ネット社会がもたらしたコミュニティの変化	日本的生活様式、価値観はどのように変化してきたか。生活と価値観の変化は、そのまま「コミュニティの在り方の変化」と捉えることができる。 旧来型の地縁型コミュニティの特性は何か、その後のネット社会とコロナがあたえたコミュニティへの影響。今日的地域コミュニティの変化の問題を考えていく。
6 回（11・12）	○「新しい地域コミュニティ」を考える ○アフターコロナ時代に、これから求められているコミュニティの在り方は？	2020 年以降のコロナ禍は、私たちの生活様式や価値観に大きな変化を与えた。さらに、ここ数年連続して起きている自然災害も、然りである。第 6 回は「新しいコミュニティ」を考えていく。グループに分かれてディスカッションし、各グループが描く「新しい地域コミュニティの在り方」をまとめていく。
7 回（13・14）	○コミュニティの行方 ○新しいコミュニティの形はどこへ向かうのか？	第 6 回目でディスカッションしたグループの「新しい地域コミュニティの在り方」を発表。 さらに、これからの日本社会における、新しい地域コミュニティの在り方を議論していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義で参考資料や論文を配布するので、それらを次回講義までに必ず読了しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
また、授業欠席者は資料を受取れるようにしておくため適宜キャッチアップして参加するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】
以下の【参考書】の中で「●」は授業中に必ず使う。授業中に使う部分のみ一部をコピーして配布するが、全文を読了しておくことが望ましいです。

【参考書】
《必読》
●『安心社会から信頼社会へ』山岸俊男,1999（中公新書）
●『共同体の基礎理論』内山節,2010 年（農山漁村文化協会）
●『生き心地の良い町』岡壇,2013（講談社）
『都市コミュニティの社会学』中村八朗, 1973（有斐閣双書）
『都市コミュニティ論』倉田和四生,1985（法律文化社）
『タテ社会の人間関係』中根千枝,1967（講談社現代新書）
『都市的共同性の社会学』中道實、神谷国弘,1997（ナカニシヤ出版）
『われらの子ども　―米国における機会格差の拡大』ロバート・D・パットナム,2017（訳（創元社）
『コミュニティを問いなおす』広井良典,2009（ちくま新書）
『集団と組織の社会学―集合的アイデンティティのダイナミクス』山田真茂留,2017（世界思想社）
『サードプレイス　「コミュニティの核になるとびきり心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ,2013（みすず書房）

【成績評価の方法と基準】
・授業の参加とコメントシートの提出（60%）
・6 回目のグループワーク＆7 回目の発表（20%）
・最終レポート提出（20%）
※グループワークへの参加が難しい場合は個別取組みでの対応も可、但し事前に要相談

【学生の意見等からの気づき】
●今日的「コミュニティ問題」の扱い方について
コミュニティの変化は時代の変化に呼応している。本講義の後半は今日的「コミュニティの問題」を扱う訳であるが、本講義はシラバス公開後半年以上先の開講となるため、実際の講義は時代の変化に合わせた内容に適宜変更している。この時代感にマッチした内容の討議、事例の検討が学生からは非常に有益であったという意見があったため、今年度も継続して行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使う資料を都度、共有するため、各種資料を正確にダウンロードし一読した上での受講をお願いする。

【Outline (in English)】
The first half organizes the classic concept of community theory and its transition.From there, we will look at how it was treated in Japanese society.The second half will focus on today's "community" subject. With reference to concrete examples and phenomena, we will consider how to solve the "community".By the end of the course, students should be able to do the following:
· The point of discussion of the "community" will be clarified when preparing the paper.
· To be clear what you are focusing on in the ambiguous "community".
· Learn the basic knowledge of statistics used in questionnaire surveys.

ECN520R1

消費者政策論

柿野　成美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs 達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】
身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、1．消費者被害とその対応、2．消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、3.SDGs 達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2 回（3・4）	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
3 回（5・6）	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。
4 回（7・8）	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費者行政の相談対応の現状と課題について学ぶ。
5 回（9・10）	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
6　回（11・12）	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7　回（13・14）	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連ある諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】
『日本の消費者政策―公正で健全な市場をめざして―』樋口一清・井内正敏、創成社、2020 年、2500 円

【参考書】
『くらしの豆知識 2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合
『消費者事件　歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015 年
『消費者教育の未来ー分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】
レポート課題： 50 %、平常点： 50 %
毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSl520R1

生活政策論

柿野　成美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】
地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回（3・4）	地域とつながる学校教育（ゲストスピーカー）	生活者・消費者・市民を育む家庭科教育について取り上げ、地域と学校教育のつながりを創る方策について議論する。
3回（5・6）	行政組織をつなぐコーディネーター	教育行政と消費者行政のつながりをつくる消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回（7・8）	消費者と地域企業をつなぐ学習プログラム	地域企業と小学生の親子を対象としたプログラム「SDGs 調査隊」を事例として、企業と消費者の共創に向けた学習プログラムについて議論する。
5回（9・10）	市民協働によるエシカル・サステナブルな地域づくり（ゲストスピーカー）	地域でエシカル・サステナブルに取り組むゲストスピーカーの講義を聞き、課題解決の方法について議論する。
6　回（11・12）	発表・討議	生活に関する具体課題を設定し、その処方箋ついて発表・討議する。
7　回（13・14）	発表・討議・まとめ	生活に関する具体課題を設定し、その処方箋ついて発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関る政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】
○政府の白書
内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」
厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」
環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」
消費者庁「消費者白書」等
○『消費者教育の未来―分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】
授業中の議論への参加度（50 %）、最終レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

ARSl520R1

男女共同参画政策論

池永　肇恵

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
性別に関わりなく能力が発揮できる男女共同参画社会は、誰にとっても暮らしやすい社会である。海外に比べて日本は男女共同参画で大きく後れをとっている。当授業では、様々な分野における男女共同参画の現状と課題、関連施策について学び、政策提言に必要な視点や知識を得ることを目的とする。

【到達目標】
男女共同参画に関するデータから日本の経済社会に潜むジェンダー（社会的・文化的な性別）のバイアスに気付き、ジェンダーへの感度を高める。家庭・職場・地域などで、多様な個人を尊重し性別にかかわりなく能力が発揮できる、いわゆるダイバーシティ＆インクルージョンに向けた環境づくりに資する知識や視点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
男女共同参画に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。
各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。
最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。
受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、レポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	導入/経済分野	ジェンダーの概念、ジェンダーギャップ指数、男女の就業状況、女性活躍の経済への影響、関連法制度などを学ぶ。
2 回（3・4）	政治分野/ハラスメント	女性議員の状況、政治分野に関する国内外の関連法制度、セクハラ、マタハラ・パタハラ、DV や性暴力など男女間の暴力の実態と対応策を学ぶ。
3 回（5・6）	ワークライフバランス/法制度の中立性	家事・子育て・介護等と仕事のバランス、社会保障・税制・家族法制等が男女の行動に及ぼす影響を学ぶ。
4 回（7・8）	健康・スポーツ/教育・科学技術	男女の健康・疾病状況、医療分野、教育・科学技術における女性の参画状況、多様性とイノベーションなどを学ぶ。
5 回（9・10）	地域社会/防災	地域社会の様々な分野での担い手、意思決定過程、防災・被災現場・復興など各過程における女性参画の状況と意義を学ぶ。
6 回（11・12）	国際動向と残された課題/最近のトピック	SDGs を含む国際的な関心の高まり、「意識」の問題、AI やコロナ禍の影響など新たな課題を学ぶ。
7 回（13・14）	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持ったジェンダー課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどに接し、どのようなジェンダー課題があるか、必要な対応はどのようなものかに関して、自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】
内閣府「男女共同参画白書」
内閣府男女共同参画局 HP　https://www.gender.go.jp/
イリス・ボネット『ワークデザイン』NTT 出版　2018 年
キャロライン・クリアド＝ペレス『存在しない女たち』河出書房新社 2020 年
ハーバード・ビジネス・レビュー『女性の力』ダイアモンド社　2020 年 4 月号
前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書　2019 年
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書　2019 年

【成績評価の方法と基準】
レポート（70 %）、平常点（30 %）
毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。
受講生自身が関心を持ったジェンダー課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoom が利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary perspectives and knowledge needed for policy making through learning the current situation, challenges and related policy measures with respect to gender equality.

ARSl520R1

実践地方行政論

池永　肇恵

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
住民の暮らしに身近な存在である自治体は、国が決定した法制度の下で、地域の実情を踏まえて施策を推進する現場であり、日本が直面する人口減少、少子・超高齢化などの課題に対して、最前線で取組みを進めている。当授業では、地方行政が直面する課題を採り上げ、国の施策や先進事例に触れながら、自治体の様々な取組を学ぶ。

【到達目標】
生活者の目線で地方行政の課題と対応する取組を考察することで、自身が居住する、あるいは関心ある地域の課題を発見し、持続可能な地域づくりに主体的に関わる視点や知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
地方行政に関するテーマごとに、現状、背景、関連施策などを出来る限りデータを示して講義する。講義に加えて、受講生によるディスカッションにより、多様な視点の交換や課題解決の方策を検討する。
各回の講義については、疑問点、意見等をリアクションペーパーに記載し提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは次回の授業で適宜取り上げ、全体にフィードバックする。
最終授業では、まとめとともに、受講生によるレポートの発表とディスカッションを実施する。
受講生の参加のしやすさを考慮し、オンライン（Zoom）講義を原則とするが、レポート発表は対面とする予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	導入/人口減少の影響	地方公共団体の種類、国と地方公共団体の役割分担、人口減少のなかでの自治体運営の方向性を学ぶ。
2 回（3・4）	財政/健康医療福祉	地方公共団体の財政の特徴や課題、介護・高齢化対応や健康増進、地域医療の課題を学ぶ。
3 回（5・6）	商工・労働/農林水産業	産業振興としての企業誘致、就労支援策の特徴、農林水産業のスマート化など担い手不足への対応の動きを学ぶ。
4 回（7・8）	インフラ/防災・防犯	老朽化や人口減少に対応したインフラの再構成、災害時、防災・防犯における行政の役割や取組を学ぶ。
5 回（9・10）	環境問題/文化・スポーツ・多様性への対応	ごみ行政、再生可能エネルギー、地域の特性を生かした文化・スポーツ、国籍・性別・障害などの多様性に配慮した取組を学ぶ。
6 回（11・12）	住民参加/デジタル化	住民参加の意義や形態、地方議会の状況、行政手続や業務面などにおける自治体のデジタル化の動きを学ぶ。
7 回（13・14）	まとめ、レポート発表・ディスカッション	これまでの講義を振り返る。受講生が関心を持った地域の課題とその対応策についてレポートを発表し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュース、自治体の広報などに接し、どのような地域の課題があり、自治体はどのような取組をしているか、課題と対応に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回、レジュメを学習支援システムに事前にアップロードするので、受講生は事前にダウンロードし一読しておくこと。

【参考書】
総務省「地方財政白書」
大森禰・大杉覚「これからの地方自治の教科書」第一法規　2019 年

【成績評価の方法と基準】
レポート（70 %）、平常点（30 %）
毎回の授業におけるディスカッションへの参加やリアクションペーパーへの記載等を授業での学習や参加度（平常点）として評価する。
受講生自身の居住地あるいは関心のある地域における課題とその解決のための処方箋についてレポートを作成し最終日に発表する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを通じて多様な背景からなる受講生の意見交換や情報共有を促したい。リアクションペーパーの提出期限は、受講生の受講スケジュールを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン（Zoom）講義が受講できるように、Zoom が利用できる環境を整えること。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
This course introduces challenges faced by local governments and their policy choices while referring to national government policies and examples of advanced cases.

ARSx520R1

地域社会論

上山　肇

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】
地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2 回（3・4）	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における‘混住地域’などをテーマに授業を進めます。事例研究 (1)
3 回（5・6）	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについ、‘サスティナブル・シティ’などに焦点をあてて授業を進めす。事例研究 (2)
4 回（7・8）	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から‘地域社会とまちづくり’などに焦点をあてて授業を進めす。事例研究 (3)
5 回（9・10）	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究 を行い、同時に‘地方分権権’や‘参加’、‘ルール’等について考えます。事例研究 (4)
6 回（11・12）	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に‘再開発’や‘福祉のまちづくり’といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (5)
7 回（13・14）	土地と環境	論点が広い「土地と環境」の中でも、特に‘都市計画’や‘景観’などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、発言 20%、レポート 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces local community and community development to students taking this course.
[Learning Objectives]
1.Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).
2.Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria / Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx520R1

まちづくり事例研究

上山　肇

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】
フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながら行っていくことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2 回（3・4）	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3 回（5・6）	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4 回（7・8）	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5 回（9・10）	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6 回（11・12）	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7 回（13・14）	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、発言 20 %、作品 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSl520R1

文化基盤形成論

増淵　敏之

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要もあるだろう.。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひととひととのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】
学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	文化基盤についての歴史地理学的なアプローチの検討/Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成/Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
2 回（3・4）	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village
3 回（5・6）	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
4 回（7・8）	札幌における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開/Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
5 回（9・10）	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク/Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
6 回（11・12）	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.
7 回（13・14）	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表/Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students	履修学生の発表を行う/Announce students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
今橋映子『異都憧憬 日本人のパリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生　音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表含む）30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

ARSl520R1

コミュニティーメディア論

北郷　裕美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会 (特に地域社会) の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか，を考える。

【到達目標】
本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル (規範モデル) を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したＱ＆Ａやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2 回（3・4）	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3 回（5・6）	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access）を視聴する：米国映画 (Public Access）についての意見交換と解説
4 回（7・8）	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画 (コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5 回（9・10）	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能　公共性指標	日本のコミュニティ FM 放送を取材した NHK ドキュメンタリーほか動画視聴　意見交換と解説：北海道のコミュニティ FM 放送調査を事例に解説
6 回（11・12）	コミュニティ放送の運営課題：コミュニティ放送と防災	日本のコミュニティ FM 放送の組織経営の在り方と課題について：様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面　リスク最大値からの教訓を考える
7 回（13・14）	動画視聴講義 テロ事件をテーマとしたメディアリテラシー：ネット社会とコミュニティメディア	映像をまじえて『メディアリテラシー』全般について考える：コミュニティメディアのインターネット空間への広がりにおける可能性と将来的な課題を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

【テキスト（教科書）】
・『コミュニティ FM の可能性: 公共性・地域・コミュニケーション　―』(北郷裕美著　青弓社）

【参考書】
・『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』（北郷裕美 共著　晃洋書房）
・『新・公共経営論』（北郷裕美 共著　ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート試験 70 %を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で扱っていく。

【学生が準備すべき機器他】
講義は原則として、毎回 PC 機器、視聴覚機器（DVD 等）を使ったプレゼンテーション型の講義を PPT で行う。受講生が PC を用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local,　regional community).
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSl520R1

都市文化論

増淵　敏之

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】
都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では 1960 年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは 1980 年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテクスト分析型の都市論、そして 1990 年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2 回（3・4）	近代においての都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3 回（5・6）	「考現学入門」解読とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
4 回（7・8）	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
5 回（9・10）	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
6 回（11・12）	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
7 回（13・14）	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用

【参考書】
授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
PC.DVD の使用もある。

【その他の重要事項】
多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinaryly, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

TRS520R1

コンテンツツーリズム論

増淵　敏之

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的にいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】
到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツ―リズムの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
2 回（3・4）	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
3 回（5・6）	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom
4 回（7・8）	「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenonc	マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism
5 回（9・10）	司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content	歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images
6 回（11・12）	ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"	ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism
7 回（13・14）	新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work	現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと 2」増淵敏之, 彩流社

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】
多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

TRS520R1

観光開発論

北郷　裕美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】
この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形ディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス　観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2 回（3・4）	観光開発における功と罪　地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3 回（5・6）	サスティナブルツーリズム	現在盛んに語られている SDGs について再考し、そこと観光の関連を通して「サスティナブルなツーリズム」の意義を考える
4 回（7・8）	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5 回（9・10）	観光産業の成り立ち	旅行業の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する
6 回（11・12）	地域振興と観光　具体的な観光課題の検証（アクティブラーニング）	東北の K 市の観光政策を事例として検証し簡単なワークショップを行う この回の準備学習等は事前に告知する
7 回（13・14）	ホスピタリティと観光行政　これからの観光を考える	「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える 地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成する PPT を通して独自のノートを作成してほしい
文献等はその都度紹介していく

【参考書】
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし―現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995 年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学 2.0 ―拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018 年
長谷政広『観光振興論』税務経理協会 1998 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 点、レポート 70 点

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism.　In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry. Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life.　Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

BSP520R1

フィールドワーク論

北郷　裕美

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、フィールドワーク (現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に質的調査に軸足を置く予定である。

【到達目標】
フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、新型コロナ感染対応の状況次第であるが、合同でフィールドワークも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンフィールドワークの基本	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2 回（3・4）	フィールドワーク概論①	定性調査を基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3 回（5・6）	フィールドワーク概論②	理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4 回（7・8）	フィールドワーク　具体的手法①	テキストベースの文献調査、アクションとしての参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5 回（9・10）	フィールドワーク　具体的手法②	アンケート・インタビュー手法を中心に具体的なシミュレーションを行う ロールプレイ的に簡単なワークショップも想定している
6 回（11・12）	CASE　STUDY(事例をもとに)	フィールドワークの実際について、事例を基に学ぶ 例）『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著)』 例）『コミュニティ FM の可能性（北郷裕美著)』を用いて視覚的に解説する
7 回（13・14）	総括　資料作りと様々なフィールドワーク・ツール	これまでの学びを通して、収集した資料の分類・整理から生まれる新たな知見や理論構築について再考する またデータ分析等に用いる様々なツール（ハード機器　ソフトウェア）を情報リテラシーを用いて整理し、受講生各自の今後のフィールドワーク活動についての方針や計画についての発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書)】
特には設けないが毎回呈示する PPT を通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】
佐藤郁也 (2008)「質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社
北郷裕美（2015)『コミュニティ FM の可能性』青弓社
佐藤郁哉（1984-2011)『暴走族のエスノグラフィー』新曜社

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork).This lecture will basically focus on qualitative research.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS520R1

観光マーケティング論

青木　洋高

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**文化・都市・観光**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「観光」は不況、人口減少、高齢化など厳しい環境下におかれた我が国にとっての救世主として注目されている領域である。とりわけ疲弊した地方都市の「活性化」という側面ではその期待も大きい。
一方で、旅行者のニーズは多様化し、さらにインターネットの普及で旅行者個人による情報収集や手配が可能になり旧来の旅行代理店の優位性が崩れつつあるほか、地域の実態に即した「持続可能な観光」形態が求められてきたことなど、時代の変化による様々な要因を背景にその観光スタイルも変化しつつある。これら多種多様な旅行者のニーズを的確に捉え、旅行者の満足を最大化し、「持続可能な観光」を維持、発展させるためには「マーケティング」の発想が欠かせない。この授業では、「マーケティング」についての基礎的な理論を把握したうえで、観光産業における具体的な事例を交えながら、そのプロセスを学習していく。
成長産業と位置付けられていた「観光」も、このコロナ禍において、そのポジショニングがあらためて見直されている。「新たな日常」のなかで「観光」がどのように変容をしていくのか、という視点を織り交ぜていきたい。

【到達目標】
観光マーケティングの基礎的な理論を習得し、その役割や重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
観光マーケティングの理論を考察する。観光産業における具体的な事例を積極的に紹介し、ケーススタディを交えながら進めていく。共通テーマでのディスカッションなどを取り入れた双方向な授業を目指す。
講義のなかで複数回、実務者のゲスト講師を迎えて講義・討議を行う（詳細は初回講義時に説明。そのため授業計画の順序は変更になる場合がある）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス、授業の進め方	観光マーケティングとは何か、観光の「いま」を知る。
2 回（3・4）	デスティネーションにおけるマーケティング戦略①	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。
3 回（5・6）	航空会社におけるマーケティング戦略	激動の航空業界の現況を理解する。ＬＣＣとＦＳＡ、プライシング戦略など。
4 回（7・8）	鉄道会社におけるマーケティング戦略	観光需要の創造、地域振興に対する鉄道会社の取り組みを把握する。
5 回（9・10）	旅行会社におけるマーケティング戦略	旅行会社のプロモーション戦略、旅行商品の流通、これからの旅行業界の姿などを学ぶ。
6 回（11・12）	宿泊施設におけるマーケティング戦略	多様化するホテル、旅館業界について学ぶ。宿泊施設の収益モデル、外資系ホテルの参入など。
7 回（13・14）	デスティネーションにおけるマーケティング戦略②	具体的事例をベースに各地域の取り組みと課題を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り扱った内容を各自の研究テーマとリンクさせながら復習し、次の講義に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
講義の中で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %。

【学生の意見等からの気づき】
各回の冒頭で理解の確認を図るための振り返りの時間を確保したい。

【Outline (in English)】
“Tourism” is a field currently gaining a significant attention as a savior of Japan in the tough environments such as economic depression, population decline, and aging. In particular, it has particularly large expectations for the aspect of “Revitalization” in exhausted local cities. On the other hand, needs of tourists become diversified and traditional travel agencies have been losing their advantageous grounds due to information collection and travel arrangement by each individual tourist himself through the wide spread of the Internet while the tourism style itself has also been changing on the background of various factors with the change of the times such as requiring a form of “Sustainable tourism” in harmony with actual local conditions. It will absolutely need a concept or idea of “Marketing” when accurately comprehending a large variety of tourist needs, maximizing the tourist satisfaction, and then developing “Sustainable tourism”. In this class, on the basis of understanding the basic theory of “Marketing”, you will learn the process of tourism industry by examining particular cases in the industry. "Tourism" once positioned as a growing industry, has been re-positioned in the current Covid-19 epidemic. I like to incorporate how "sightseeing" will shift in the "new daily routines".

MAN520R1

地域経営戦略論

橋本　正洋

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎え、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務（政策立案・運営、企業戦略）に活かすことを目指す。

【到達目標】
具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からのレクチャーを受け、グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回（3・4）	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。
3回（5・6）	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの講義を基に議論する。
4回（7・8）	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの講義を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を行う。
5回（9・10）	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての講義に基づき議論する。
6　回（11・12）	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの講義を受け演習を行う。
7　回（13・14）	まとめ	一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト（教科書）】
教員、ゲスト受講者から資料を提示する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％）、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションへの積極的参加が重要。
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】
一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

【Outline (in English)】
In this lecture, we welcomed leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. We consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).

ARSl520R1

地域イノベーション論

橋本　正洋

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素（国、自治体の関与）がある学生には履修を推奨する。
ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

【到達目標】
政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2 回（3・4）	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する・
3 回（5・6）	イノベーション政策１	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4 回（7・8）	イノベーション政策２	大学等技術移転促進法制定（ＴＬＯ法）、99 年：産業活力再生特別措置法制定（日本版ﾊﾞｲﾄﾞｰﾙ）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5 回（9・10）	イノベーション政策３	国立大学法人化・大学改革
6　回（11・12）	イノベーション政策４	産業クラスター・地域イノベーション政策
7　回（13・14）	イノベーション政策５	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施の場合およそ 50 %）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】
プレゼン用のパソコン等を用意すること。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】
This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general。 Students who have policy elements(involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course.Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

MAN520R1

商店街活性化論

井上　善海

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。
本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を発揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

【到達目標】
①地域経済における商店街の役割について説明できる。
②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策ついて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2 回（3・4）	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3 回（5・6）	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4 回（7・8）	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5 回（9・10）	商店街活性化政策①「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するするための「商店街活性化計画」について。
6 回（11・12）	商店街活性化政策②「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7 回（13・14）	商店街活性化政策③「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での 平常点（講義内での 発言・貢献度）４０％、講義内で課す課題レポート６０％により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects.In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN520R1

新産業創出論

井上　善海

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**経済・社会・雇用**／
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第 4 次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第 4 次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。
本講義では、第 4 次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

【到達目標】
①第 4 次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
5 回の授業は、外部からゲスト講師を招いて、多角的な視点から新産業の創出について考察を行います。また、授業の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、授業内容に関する質問は、授業中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	第 4 次産業革命と新産業創出	第 4 次産業革命が新産業創出に及ぼす影響について。
2 回（3・4）	多様なイノベーションの組み合わせによる新産業創出	製造業のイノベーションについて。 【ゲスト講師：未定】
3 回（5・6）	オープンイノベーションによる新産業創出	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。 【ゲスト講師：大手メーカー R&D 担当】
4 回（7・8）	新産業創出支援機関の役割	中小機構の新事業創出支援の役割、商工会議所のビジネスサポートデスクの役割、事例 【ゲスト講師：元公的支援機関職員・現金融機関シンクタンクコンサルタント】
5 回（9・10）	新産業創出と知的財産権	迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする知的財産戦略について。 【ゲスト講師：特許事務所長・弁理士】
6 回（11・12）	IT 投資による新産業創出	新産業創出における IT 投資の重要性について。 【ゲスト講師：元外資系企業 IT 担当・現 IT コンサルタント】
7 回（13・14）	産学連携による新産業創出	大学研究室と地域企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での 平常点（講義内での 発言・貢献度）４０％、講義内で課す課題レポート６０％により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them .

MAN520R1

アントレプレナーシップ論

田中　克昌

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アントレプレナー（entrepreneur）は、企業家や起業家と訳されています。そのため、アントレプレナーシップ（entrepreneurship）は起業家精神、あるいは、企業家精神とされていますが、本来的には、事業を創造し挑戦する能力や姿勢をあらわしています。授業では、アントレプレナーシップに関する先行研究を踏まえた上で、企業家による事業創造や、起業家によるスタートアップ企業の立ち上げについて学修します。

【到達目標】
・アントレプレナーに関する先行研究を理解し、論文執筆に活用できるようになる。
・企業の事業創造やスタートアップの起業について幅広い事例を通じた学修により、自らの研究及び実務に応用し活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はテキストと講師が提供する資料をもとに行います。授業で学修した内容の定着と実践的な活用を図るため、グループディスカッション等により実践的に考察を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	アントレプレナーシップとは	アントレプレナー／アントレプレナーシップに関する多様な研究者の理論について学修し、研究の特徴や変遷について考察します。
2回（3・4）	事業創造と事業機会	企業が事業創造するための事業機会の発見や評価の方法について学修します。また、その事業機会から事業アイデアを創出する方法についても学修します。
3回（5・6）	事業創造とビジネスモデル構築①	企業の事業創造におけるプロセスについて学修します。事業アイデアをもとに事業コンセプトを定義し、経営資源を見極めるプロセスについて学修します。
4回（7・8）	事業創造とビジネスモデル構築②	企業の事業創造におけるプロセスについて学修します。事業コンセプトと経営資源の見極めをもとに、ビジネスモデルを構築します。
5回（9・10）	起業と理念	0 から 1 を起こす起業の視点からアントレプレナーシップについて、起業にあたってのパーパス、ミッションやビジョンについて学修します。
6　回（11・12）	スタートアップ企業への進展	起業後、スタートアップ企業として成長を果たすための取り組みであるマーケティング、人的資源管理、資金調達と運用について学修します。
7　回（13・14）	アントレプレナーシップの実践	事業創造と起業（スタートアップ企業）に関する学修を踏まえて、ビジネスモデルの構築やビジネスプランの作成に取り組みます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の前後に、各 2 時間ほどかけて授業内容を理解することを目安とします。

【テキスト（教科書）】
井上善海・田中克昌編著『事業創造と起業入門』中央経済社。
授業内容によっては、講師が資料を用意します。

【参考書】
適宜、授業の中で提示します。

【成績評価の方法と基準】
課題レポート６０％、授業への貢献度４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
本授業は対面形式を予定していますが、COVID-19 の感染状況によってはオンライン授業となることも想定しています。その際には、各自 PC 環境を用意ください。

【その他の重要事項】
実務経験のある教員による授業：担当教員は大手電機メーカー勤務経験を有し、経営戦略の策定と実行にも携わった経験がある。また、博士学位（経営学）とともに、経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士としても活動し、2030SDGs 公認ファシリテーター、2050 カーボンニュートラル公認ファシリテーターとしても活動している。これらの経験を活かし、理論と実践を融合した観点からアントレプレナーシップについて学修機会を提供できる。

【Outline (in English)】
Entrepreneurship is essentially the capability and attitude to create and challenge businesses. In this course, students learn about business creation and start-up companies by entrepreneurs, based on previous research on entrepreneurship. Students are expected to spend about 2 hours before and after each class to familiarize themselves with the course content. The overall grade for the class will be as follows. Report 60%; Contribution to class 40%.

MAN520R1

経営戦略論

井上　善海

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

【到達目標】
①経営戦略論の史的変遷を説明できる。
②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
③経営戦略の理論を実践（ケーススタディ）で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりと深さについて。 ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2 回（3・4）	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。 経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3 回（5・6）	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を 4 つに分類できることについて。 成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4 回（7・8）	製品ポートフォリオ・マネジメント 成長戦略の展開	2 次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。 グローバル戦略、戦略提携について。
5 回（9・10）	業界の構造分析 競争の基本戦略	5 つの競争要因分析について。 競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。
6 回（11・12）	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコーペティション戦略について。 タイムベース戦略、ディファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7 回（13・14）	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。 戦略評価について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
井上・大杉・森（2022）『経営戦略入門』中央経済社（2,200 円）

【参考書】
井上善海・佐久間信夫編（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房（2,500 円）
その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（４０%）、講義内で課す課題レポート（６０%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework. For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN520R1

ESG 投資と企業経営

小方　信幸

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業では、ESG 投資家と企業経営者が建設的な対話を行うことにより、企業は持続可能な成長を実現し、投資家は長期投資で高いリターンを実現することを理解する。その結果、社会の持続可能性が高まる仕組みを理解する。

【到達目標】
学生は下記 3 点について理解できる。
（1）投資の意思決定の際に、環境（Environment, E）、社会 (Social, S)、ガバナンス（Governance, G）の３つの非財務要因（ESG 要因）を考慮する ESG 投資と、ESG 投資市場について理解できる。
（2）ESG 投資が生まれた歴史的背景を理解できる。
（3）ESG 投資家と企業経営者が ESG 要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できる論理を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では理論と事例についての講義を行い、後半では講義の内容に沿った内容でグループ討議と全体討議を行う。講義とグループ討議を通じ、ESG 投資と企業経営の関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）講義の進め方 （2）講義： ESG 投資の概要と歴史 （3）欧米と日本の ESG 投資市場の概要
2 回（3・4）	ESG 投資家の企業評価のポイント	（1）企業評価の基礎 （2）証券投資理論の基礎
3 回（5・6）	ESG 投資市場におけるアセットオーナーの役割	（1）講義：欧米と日本の年金基金の比較 （2）ケース：わが国の年金基金の課題
4 回（7・8）	ESG 投資市場にけるアセットマネジャーの役割	ESG 投資を行うアセットマネジャーの具体的な取り組みを学ぶ
5 回（9・10）	統合報告書	ESG 投資家と企業経営の建設的対話のツールである統合報告書について学ぶ
6　回（11・12）	ESG 投資家によるエンゲージメント	欧米と日本の ESG 投資によるエンゲージメントの実際
7　回（13・14）	責任投資報告書	ESG 投資家が発行する責任投資報告書から、投資先企業の問題点を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。
（2）授業を振り返り、論点を整理する。
本授業の準備学習および復習の時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
小方信幸（2016）『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンス ー ESG 投資の本質を歴史からたどる―』同文舘出版
アムンディ・ジャパン（2021）『社会を変える投資　ESG 入門（新版）』日本経済新聞出版
その他の参考書は都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０％、期末レポート　６０％

【学生の意見等からの気づき】
学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるとのフィードバックがあったので、本年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
In this class, students will understand that constructive dialogue between ESG investors and corporate management will enable companies to achieve sustainable growth and investors to realize higher returns on their long-term investments. As a result, they will understand how sustainability is enhanced.

MAN520R1

SDGs と企業経営

小方　信幸

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解することを目的とする。併せて、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することも目的とする。

【到達目標】
（1）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
（2）SDG ｓの 17 の目標を理解できる。
（3）SDG ｓとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDG ｓと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）国連の理念 （2）SDGs 誕生の歴史的背景 （3）企業が SDG ｓに取り組む理由
2 回（3・4）	SDGs の人々（People）に関する目標（1）	SDG ｓ目標 1 -6 （1）人権についての基本的な理解を深める （2）ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3 回（5・6）	SDGs の人々（People）に関する目標（2）	SDG ｓ目標 1 -6 貧困問題に取り組むソーシャルビジネスの可能性を考える。
4 回（7・8）	SDGs の繁栄（Prosperity）に関する目標（1）	SDGs 目標 7-11 企業におけるジェンダーダイバーシティ
5 回（9・10）	SDGs の繁栄（Prosperity）に関する目標（2）	SDGs 目標 7-11 （1）従業員の働き方改革 （2）人的資本経営
6　回（11・12）	SDGs の地球（Planet) に関する目標（1）	SDGs 目標 12-15 （1）気候変動 （2）脱炭素
7　回（13・14）	SDGs の地球（Planet) に関する目標（2）	SDGs 目標 12-15 （1）廃棄物 （2）生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】
都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０%、期末レポート　６０%

【学生の意見等からの気づき】
学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline (in English)】
The first objective of this class is to understand the historical background of the Sustainable Development Goals (SDGs) established by the United Nations.　The next objective is to understand the 17 goals of the SDGs, and then to understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

MAN520R1

コーポレートガバナンス

林　順一

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、コーポレートガバナンスとサステナビリティの基礎と最新の動向について学習します。学習に際して、グローバルな視点や実務の観点を取り入れ、また事例を用いて理解を深めます。

【到達目標】
コーポレートガバナンスとは何か、どのような論点があるのか、またサステナビリティのいくつかの論点について、具体的に理解し、自らの考えがまとめられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では、講師作成のレジメに基づいた講義を行い、後半では、グループディスカッションなどの参加型授業を行い、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）授業の進め方の説明とその確認（2）最近のコーポレートガバナンスに関するトピックスに関する議論
2 回（3・4）	米国のコーポレートガバナンス	（1）米国のコーポレートガバナンスの変遷（1930 年代から現在まで、事例を含む)（2）最近の動き（ビジネス・ラウンド・テーブルの「会社の目的」の変更とその意味など）
3 回（5・6）	英国のコーポレートガバナンス	（1）伝統的な英国のコーポレートガバナンスの仕組み（機関投資家の役割の重視など）（2）最近の動き（コーポレートガバナンス・コードの改訂とその意義など）
4 回（7・8）	わが国のコーポレートガバナンス	（1）外国人機関投資家の圧力と日本企業の対応の歴史（2）アベノミクスのガバナンス改革の概要と現在の課題
5 回（9・10）	ドイツのコーポレートガバナンス、サプライチェーンの人権問題	（1）ドイツのコーポレートガバナンスの特徴と課題（2）サプライチェーンの人権問題への対応
6 回（11・12）	フランスのコーポレートガバナンス、社会的企業	（1）フランスのコーポレートガバナンスの特徴（2）ベネフィットコーポレーション、ダノンの事例分析など
7 回（13・14）	ESG 投資と SDGs、ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理	（1）ESG 投資と SDGs（2）ダイバーシティ、コンプライアンスとリスク管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
（1）事前配布資料がある場合には、事前に読んで、授業で発言できるように準備してください。（2）授業を振り返り、論点を整理してください。（3）期末レポートの作成があります。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布します。

【参考書】
林順一（2022）『コーポレートガバナンスの歴史とサステナビリティ－会社の目的を考える』文眞堂。

【成績評価の方法と基準】
平常点（５０%）、期末レポート（５０%）

【学生の意見等からの気づき】
コーポレートガバナンスに馴染みのない受講生にも理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけています。また受講生の要望に柔軟に対応します。

【学生が準備すべき機器他】
該当ありません。

【その他の重要事項】
※「実務経験のある教員による授業」に該当する場合
実務家教員（非常勤）。銀行・証券業界 28 年、不動産・資産運用会社 10 年余の実務経験（コーポレートガバナンス関連の実務経験を含む）を活かして、実務家の視点を踏まえた授業を行います。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundation of and recent trends in corporate governance and sustainability to students. In order to better understand the global and practical perspectives, a case study will be introduced.

MAN520R1

企業活動と社会Ⅰ

小方　信幸

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動において法令遵守は最低限の企業の社会的責任といる。しかし、国内外を問わず非倫理的行為である企業不祥事は後を絶たない。そこで、当授業では、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業の前半は主に講義を行う。後半はケース・メソッドで授業を進め、さらにグループディスカッションを行う。

【到達目標】
（1）経営倫理のフレームワークを理解できる。
（2）現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえでケースメソッドを用いて企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループ討議、全体討議を通じて、経営倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション 経営倫理の理論（1） 功利主義と現代社会	（1）講義：倫理的利己主義と功利主義 （2）ケース：フォード・ピントのケース
2回（3・4）	経営倫理の理論（2） カント「義務論」	（1）講義：カント「義務論」 （2）ケース：ブレント・スパーの処理を巡るケース
3回（5・6）	経営倫理の理論（3） ロールズ「正義論」	（1）講義：ロールズ「正義論」 （2）ケース：貧富の差について考える
4回（7・8）	経営倫理の実践（1） ロールズ「正義論」の視点で米国社会の現状を考える。	経済的格差の是正に必要なことは何か。
5回（9・10）	経営倫理の実践（2） 顧客関連の倫理	（1）講義 （2）ケース：シアーズ自動車センター
6　回（11・12）	経営倫理の実践（3） 従業員関連の倫理	（1）講義 （2）ケース：ソーラーブラインド
7　回（13・14）	経営倫理の実践（4） 国際経営の倫理	（1）講義：児童労働 （2）ケース：ネスレの児童労働廃絶への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
（2）授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900 円＋税
マイケル・サンデル（訳）鬼澤忍（2011）『これからの「正義」の話をしよう』早川書房（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）、900 円＋税　その他の参考書は都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、期末レポート６０％を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゲストスピーカーを招聘したところ、企業倫理に対する理解が深まったというフィードバックがあった。今年度もゲストスピーカー招聘を検討する。また、講義とグループ討議の組み合わせは理解を深めるとのフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】
ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。

【Outline (in English)】
In corporate activities, compliance with laws and regulations is the minimum social responsibility of a company. However, there has been no end to the number of corporate scandals, both in Japan and abroad, involving unethical behavior. In this class, we will use the case method to examine unethical corporate behavior and understand the framework of corporate ethics as it should be. The first half of the class will consist mainly of lectures. In the second half of the class, the case method will be used and group discussions will be held.

ARSI520R1

地域活性特論 I

橋本　正洋

科目分類：**プログラム科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**
群／プログラム：**地域産業・企業**／

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の活性化の取り組みについて、各地域で活躍するキーパーソンをゲスト講師にお招きし、課題、成功の要因を講義していただき、それを基に受講生と討議をお粉形式の講義とする。ゲストには、この分野で著名な有識者、行政、地域のリーダーにお願いする。
本講義は来年度は開講しない（原則隔年で実施）。

【到達目標】
地域における最新の取り組みを理解し、その戦略の在り方等について考察を深めることにより、自らの課題等の研究活動に活用できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
イントロダクションに続いて、各界の識者から講義及び討議テーマをいただき、それについてグループディスカッションを進め、全体で討議を行う。必要に応じ、現地での実習を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション	地域活性化に関する基本的な問題点を俯瞰する。 招聘講師について書斎を提示する。
2回（3・4）	地域活性化ケース１	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
3回（5・6）	地域活性化ケース２	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
4回（7・8）	地域活性化ケース３	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
5回（9・10）	地域活性化ケース４	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
6　回（11・12）	地域活性化ケース５	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
7　回（13・14）	地域活性化ケース６	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師を事前に提示するので、予習しておくこと。講義後には、毎回アンケート形式のレポートにより、コメントを提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に講師より配布、提示する。

【参考書】
講義の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループディスカッション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施する場合はおよそ 50 %）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】
他では得られない講師の講義を受講できる。

【学生が準備すべき機器他】
ゲスト講師が遠隔で講義する場合もあるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
本講義は原則隔年で行うが、他の講義との関係で、2025 年度の開講は未定であり注意すること。

【Outline (in English)】
In this lecture, key persons who are active in each region are invited as guest lecturers to discuss regional revitalization efforts. The guests will be prominent intellectuals, government officials and community leaders in this field. In principle, this lecture will be held every other year.

ECN500R1

経済学

梅溪　健児

科目分類：**導入科目（選択）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では入門レベルの経済学（ミクロ経済学が中心）を学ぶ。入門経済学については多数の教材が存在するが、本講義では政策創造研究科の研究に必要と考えられる論点に絞ってそのポイントを学ぶ。授業の目的は３点にまとめられる。第一に、当研究科の研究に関連が深い経済学の基本的な考え方を習得する（注：担当教員の指導経験の範囲内にとどまる）。第二に、今日の経済社会の問題に対処するために経済学の手法が適用されている実例を理解する。第三に、経済学を用いた論文執筆において共有されている論理と習慣を理解する。
これまで経済学を履修したことのない学生の受講を想定するが、すでに履修経験のある学生にとっても本講義が研究の前進に少しでも役立つことを期待しているので受講を歓迎する。

【到達目標】
本講義の目標は、①経済学が日常生活の利便性を高めたり地域社会の困難に対処するために適用されている最近の事例（例．ダイナミックプライシング）をレポートにまとめ、授業内で発表できること、②経済学の手法で書かれた研究論文を読解する基礎力を涵養できること、③経済学と他学問分野（例．社会学の一部分）を比較し研究手法の共通点と差異を理解できることの３点である。
なお、各自の必要に応じて、経済学の研究手法と合わせて補完的に習得すべきスキル（例．量的調査の実施、統計分析の知識、エクセル等の技能）を認識できることが望まれる。数学や統計学については初級レベルの内容を授業の中で紹介するにとどまる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
経済学の全体像を把握できるように授業の進行は入門テキストに基づくが、すべての内容を順を追って取り上げるのではなく、必要な部分を抽出した教材を配布して講義を行う。そして、受講生の理解を促すため、①講義において輪読または質疑応答と意見交換を行う（必要な教材は一部を除いて１週間前に配布）。②毎回の講義において復習テストを出題し次回講義にてフィードバックを行う。③論文執筆のイメージづくりに役立つ理論やモデルを具体例に則して毎回時間をとって紹介し、それらを第６回講義で総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	経済学の問題意識 消費者行動	需要と供給による市場の均衡を理解する。 需要曲線、無差別曲線、限界効用、効用の最大化、消費者余剰などを学ぶ。
2 回（3・4）	企業行動	供給曲線、利潤の最大化、生産関数、限界費用、生産者余剰、余剰分析、労働需要などを学ぶ。
3 回（5・6）	市場の均衡と市場の失敗	部分均衡と一般均衡、競争による資源配分の最適化、外部経済効果、規模の経済、公共財、公共政策などを学ぶ。
4 回（7・8）	情報の経済学とゲームの理論（基礎）	情報の非対称性、モラルハザード、逆選択、シグナリング、囚人のディレンマなどを学ぶ。
5 回（9・10）	オークションとマッチング（ゲームの理論（応用）） 輪読	マーケットデザイン、耐戦略性、勝者の呪い、受入れ保留アルゴリズムなどを学ぶ。 後半は全員参加の輪読を行う。
6 回（11・12）	経済学に則った研究論文執筆の特徴	問題意識、リサーチクエスチョン、先行研究、分析データ、分析手法、推定・予想、分析結果、考察・ディスカッション、結論、残された課題などの特徴を学ぶ。
7 回（13・14）	レポート発表・討議	共通課題に関するレポートを発表し討議を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃からニュースや記事に接する時に、経済学が問題解明や政策立案にどのように貢献しているのかに関心を持つことを勧める。チケットのダイナミック・プライシング、交通渋滞に対処するピークロード・プライシング、ゲームの理論を用いたマッチングの最適化などが経済学の今日的な適用例である。

【テキスト（教科書）】
伊藤元重（2015）『入門経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】
市村英彦・岡崎哲二他編（2020）『経済学を味わう』日本評論社
伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第 2 版）日本経済新聞出版
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社
坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書
坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書
筒井淳也他編（2015）『計量社会学入門』世界思想社

【成績評価の方法と基準】
復習テスト 5 回（50 %）、輪読（10 %）、レポート（40 %）の合計

【学生の意見等からの気づき】
復習テストは最初は重荷に感じたが、回を重ねるごとに知識の習得に効果が出てきたとの意見があったので継続する。身近な事例の紹介は経済学の理解にとても役立つとの指摘があったので引き続き行う。講義内の意見交換が貴重だとの意見があったので、これまでよりもその機会を確保したい。

【学生が準備すべき機器他】
教材は学習支援システム（Hoppii）に掲載し、また、各自作成した図表をレポート作成と発表に用いるのでパソコンが必要。

【その他の重要事項】
対面授業を基本とする。なお、コロナ禍の状況によっては授業形態を変更する。

【Outline (in English)】
This is an introductory course of economics aiming to encourage students who have not studied economics at university to acquire basic principles of economics. The goal of this course is to understand the intellectual contribution of the economics to the solution of social problems and the policy proposals among conflicting interests of people. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded according to the following scales: 5 take-home exams (50%), in-class discussion (10%) and the term paper (40%).

OTR600R1

プログラム演習

柿野　成美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】
研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを設定し深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて確認する
2 回（3・4）	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3 回（5・6）	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
4 回（7・8）	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
5 回（9・10）	先行研究の検討	先行研究のサーベイ方法と記述方法を学ぶ。
6 回（11・12）	先行研究の検討	各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
7 回（13・14）	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
8 回（15・16）	基本文献の精読	共通の基本文献を精読し、クリティカルリーディングを身に付ける。
9 回（17・18）	リサーチクエスチョンの検討	先行研究を踏まえ、リサーチクエスチョンを設定する方法を理解し、各自検討する。
10　回（19・20）	質的調査の方法	質的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する。
11　回（21・22）	量的調査の方法	量的調査の基本知識を理解し、研究への活用を討議する
12　回（23・24）	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に充分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【参考書】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加貢献（50 %）と個人発表内容（50 %）に基づき総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

【その他の重要事項】
校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。その場合、授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

柿野　成美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文、政策研究論文の完成に向けて、論文作成の基礎知識、質的及び量的調査の手法を習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、論文作成の知識と研究スキルを身に付ける。

【到達目標】
研究スキルの習得及び修士論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いてのディスカッション、校外学習、参加者による発表及び討論などにより、各自の研究テーマを深め、表現する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	授業の進め方について確認する。夏休み期間の研究の進捗状況を報告する。
2 回（3・4）	研究内容・方法の検討	各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて研究内容と方法の見直し・検討をする
3 回（5・6）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
4 回（7・8）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
5 回（9・10）	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。
6 回（11・12）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
7 回（13・14）	中間レビュー	研究計画の発表・見直しを行う。
8 回（15・16）	論文の記述方法の確認	序論・本論・結論の書き方や具体的な記述方法について確認する
9 回（17・18）	ゲスト講師による講義・ディスカッション	執筆論文のテーマに関するゲスト講師を招聘し、論文作成への視座を獲得する。
10　回（19・20）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
11　回（21・22）	文献・査読論文の輪読	文献・査読論文を選んで輪読し、発表する。
12　回（23・24）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の精読、発表に向けたプレゼンテーションの準備等、事前に充分な準備を行うこと。復習の具体的内容については、授業内に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【参考書】
ゼミ生の研究の進捗状況に合わせて適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加貢献（50 %）と個人発表内容（50 %）に基づき総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示してプレゼンテーションを行う。受講生がネットに接続して情報検索できる環境が必要である。

【その他の重要事項】
校外学習、ゲストスピーカーの招聘を予定している。また、ゼミ生の進捗状況によって授業計画を変更することがある。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic papers, the method of a qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

石山　恒貴

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究のできるようにする。そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【到達目標】
「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。
また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。
そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。
論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2 回（3・4）	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3 回（5・6）	研究テーマの調査方法（その１）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その１）
4 回（7・8）	研究テーマの調査方法（その２）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その２）
5 回（9・10）	研究テーマの調査方法（その３）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その３）
6 回（11・12）	調査結果の分析方法（その１）	調査結果の分析手法の検討（その１）
7 回（13・14）	調査結果の分析方法（その２）	調査結果の分析手法の検討（その２）
8 回（15・16）	調査結果の分析方法（その３）	調査結果の分析手法の検討（その３）
9 回（17・18）	調査結果から考察する方法（その１）	調査結果から考察する手法の検討（その１）
10　回（19・20）	調査結果から考察する方法（その２）	調査結果から考察する手法の検討（その２）
11　回（21・22）	調査結果から考察する方法（その３）	調査結果から考察をする手法の検討（その３）
12　回（23・24）	提言の検証方法（その１）	提言を検証する方法の検討（その１）
13　回（25・26）	提言の検証方法（その２）	提言を検証する方法の検討（その２）
14　回（27・28）	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際には、通年で 30 数回の演習がなされるが、そのために
１．自身の調査研究テーマの推進
２．ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
３．各人に与えられた課題の処理
４．合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】
参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】
大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。
特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】
ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.
Goal
At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1

プログラム演習

石山　恒貴

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
広い意味での「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」をめぐる修士論文・政策研究論文の作成に向けた体系的な知的作法の訓練をゼミ形式で行う。最低限の調査手法と調査研究論文・政策提言論文を作成する方法を勉強し、自立した調査研究をできるようにする。そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【到達目標】
「雇用、キャリア、人材育成、人的資源管理」だけでなく、研究にあたり必要な知識と技術とセンスを育成することが目的となる。
また、論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できることを到達目標とする。
そのために演習は毎週２コマ連続で開催する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
資料の探し方、読み方、調査の方法、調査結果の分析法などの講義や討論。参加者による報告と相互の質疑応答、コメント。全体にゼミ形式で進める。
論文に必要な、研究手法の選択、リサーチクエスチョンの設定、論文の表記、構成、定量調査の手法、定性調査の手法、考察の行い方について、包括的に習得できるための内容も軸となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	演習運営への導入	演習の進め方に関する基本方針の検討
2 回（3・4）	研究テーマの選定方法	研究テーマの選び方の検討
3 回（5・6）	研究テーマの調査方法（その１）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その１）
4 回（7・8）	研究テーマの調査方法（その２）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その２）
5 回（9・10）	研究テーマの調査方法（その３）	選んだ研究テーマの調査方法の検討（その３）
6 回（11・12）	調査結果の分析方法（その１）	調査結果の分析手法の検討（その１）
7 回（13・14）	調査結果の分析方法（その２）	調査結果の分析手法の検討（その２）
8 回（15・16）	調査結果の分析方法（その３）	調査結果の分析手法の検討（その３）
9 回（17・18）	調査結果から考察する方法（その１）	調査結果から考察する手法の検討（その１）
10　回（19・20）	調査結果から考察する方法（その２）	調査結果から考察する手法の検討（その２）
11　回（21・22）	調査結果から考察する方法（その３）	調査結果から考察をする手法の検討（その３）
12　回（23・24）	提言の検証方法（その１）	提言を検証する方法の検討（その１）
13　回（25・26）	提言の検証方法（その２）	提言を検証する方法の検討（その２）
14　回（27・28）	調査と研究についてのまとめ	調査と研究を実践できることの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実際には、通年で 30 数回の演習がなされるが、そのために
１．自身の調査研究テーマの推進
２．ゼミ全体の調査テーマなどへの参画
３．各人に与えられた課題の処理
４．合宿等のゼミ行事への参加に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度、必要な共通テキストを指定する。なお、必要な論文や資料はコピーして配布する。

【参考書】
参考書リストなどは別途配布する予定。文献の調べ方を教示し、各人で自分のテーマにそった文献を探し出すことを重視する。

【成績評価の方法と基準】
大学院の基準に従い、ゼミ活動への発言と作業状況と論文準備作業などをもとに総合的に評価する。
特に、ゼミの演習で課す課題対処の水準について重視する。

【学生の意見等からの気づき】
論文作成に向けた個別指導時間を多く設けるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回持参する必要はないにしても、パソコンおよび一定のソフトの知識は必要である。パワーポイントも使っていただく。

【その他の重要事項】
ゼミ全体としての共同作業から得られるところは大きい。個人作業だけでなく、共同作業にもできるかぎり参加することを望む。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of employment policy, career theory, human resource development and human resource management.
Goal
At the end of the course, students are expected to acquire the knowledge and skills necessary for research.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
In accordance with the standards of the graduate school, students will be evaluated comprehensively based on their comments and work status in seminar activities and preparation work for the paper.

OTR600R1

プログラム演習

高尾　真紀子

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】
修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、現場視察、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	授業の進め方、各自の研究テーマに沿って年間スケジュールについて調整する
2 回（3・4）	論文作成の基礎	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。
3 回（5・6）	研究テーマの選定	各自が研究テーマを選定し、研究テーマに関する討議を行う。
4 回（7・8）	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
5 回（9・10）	先行研究のサーベイ	先行研究のサーベイの方法を学び、各自の研究テーマに関係する先行研究の発表と討議を行う。
6 回（11・12）	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
7 回（13・14）	文献購読	共通の基本文献を輪読し、各自の研究に活用する。
8 回（15・16）	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
9 回（17・18）	リサーチクエスチョンの設定	先行研究を踏まえ、研究テーマからリサーチクエスチョンを設定する
10　回（19・20）	質的調査の方法	質的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する。
11　回（21・22）	量的調査の方法	量的調査の基本知識を講義し、研究への活用を討議する
12　回（23・24）	調査方法の検討	各自の研究テーマにおいてどのような調査方法がふさわしいのかを討議する。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究計画について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017 年，中公新書
伊藤修一郎『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』2011 年，東京大学出版会
上野千鶴子『情報生産者になる』2018 年，ちくま新書
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学　M-GTA によるキャリア研究』2017 年，晃洋書房
佐藤郁哉「社会調査の考え方 (上下)」2015 年、東京大学出版会
その他についてはその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】
演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】
研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようにディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

【その他の重要事項】
※講義概要は変更が起こりうる場合があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

高尾　真紀子

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文の基礎知識、質的及び量的調査の手法の習得するとともに、関連する分野の文献購読等を行い、修士論文作成の知識と研究スキルを身に着ける。

【到達目標】
修士論文の作成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本文献の輪読、ゲストを招いての質疑応答、現場視察、参加者による発表及び討論などにより、各自の専攻分野における研究を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	質的調査の方法	半構造化インタビュー、参与観察など質的調査の方法を学ぶ。
2 回（3・4）	フィールドワーク	フィールドワークにより質的調査の方法を実践的に習得する。
3 回（5・6）	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
4 回（7・8）	文献購読	基礎的文献の輪読を行い、フィールドワークのまとめ方を学ぶ。
5 回（9・10）	フィールドワーク結果の分析	フィールドワーク結果をもとにグループワークで分析を実施する。
6 回（11・12）	フィールドワーク結果の発表	フィールドワークの分析結果を発表する
7 回（13・14）	量的調査の方法	質問票の作り方等、量的調査の方法を学ぶ。
8 回（15・16）	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
9 回（17・18）	量的調査の分析	量的調査の分析手法を学び、実際のデータを使ってスキルを習得する。
10　回（19・20）	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
11　回（21・22）	調査結果の考察と提言	研究テーマに沿って調査結果の考察と提言を発表し討議する。
12　回（23・24）	論文作成の方法	論文作成の方法について学ぶ。
13　回（25・26）	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。
14　回（27・28）	研究発表	各自の研究について発表し、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表および討論のための十分な準備を行うこと。
その他、必要に応じて指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度指定する。

【参考書】
秋吉貴雄『入門公共政策学-社会問題を解決する「新しい知」』2017 年，中公新書
伊藤修一郎『政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法』2011 年，東京大学出版会
岡田正毅編著『働くひとの生涯発達心理学　M-GTA によるキャリア研究』2017 年，晃洋書房

【成績評価の方法と基準】
演習への参加による。

【学生の意見等からの気づき】
研究の基礎的な考え方、質的・量的調査手法の実践的方法を講義する。学生の多様な意見が反映されるようディスカッションを活発化させる。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じて、ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示できる設備を使用。受講生がネットに接続して情報検索できる環境。

【その他の重要事項】
※講義概要は変更が起こりうる場合があります。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to master the basic knowledge of academic paper, the method of qualitative and quantitative survey. Students can acquire knowledge and research skills for preparing master's theses by subscribing to previous literature and presenting research presentations.

OTR600R1

プログラム演習

増淵　敏之

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士 1 年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。

【到達目標】
学生が 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならず、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
3-4	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
5-6	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
7-8	文献購読/Literature subscription	文献購読による発表、議論/Presentation and discussion by subscribing to literature
9-10	文献購読/Literature subscription	文献購読による発表、議論/Presentation and discussion by subscribing to literature
11-12	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13-14	まとめ/summary	まとめ/summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表による評価 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：毎週月曜日 16 － 18 時、基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.

OTR600R1

プログラム演習

増淵　敏之

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士 1 年次の学生には専門性の高い教育に慣れてもらうために、導入的に文献購読、調査法、分析法の習得、そして修士論文の構成作業を通じて、論文執筆に当たっての基礎的な知識の習得を目標にし、学生の研究発表の機会において修士論文のベーシックな形を作ることを目標にする。
修士 2 年次の学生には具体的に修士論文を執筆することを目標にする。

【到達目標】
修士 1 年次の学生は 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。春学期ではその目的達成のための導入に充てる。
修士 2 年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。春学期では事前調査、本調査のための準備に充てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
文献輪読、研究発表を中心にフィールドワークも適宜、実施したい。学際的な研究は多様な文献を読まなければならず、また変化する時代の理解も深めなければならない。その点に留意して授業を進めたい。また修士 2 年次の学生には修士論文執筆のための個別指導を授業以外にも行う。内容が変更の場合もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス/guidance	授業の進め方について説明を行う/Explain how to proceed with the class
2 回（3・4）	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
3 回（5・6）	研究計画の発表/Announcement of research plan	研究計画の発表/Announcement of research plan
4 回（7・8）	論文の書き方/How to write a dissertation	論文執筆の手順と方法/Procedure and method of writing a dissertation
5 回（9・10）	形式要件及び参考文献/Formal requirements and references	論文の形式要件及び参考文献リストの作成法/Format requirements for papers and how to create a bibliography
6 回（11・12）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
7 回（13・14）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
8 回（15・16）	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
9 回（17・18）	文献購読/Literature subscription	文献購読/Literature subscription
10 回（19・20）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
11 回（21・22）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
12 回（23・24）	研究発表/Research presentation	研究発表/Research presentation
13 回（25・26）	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer	ゲスト講師による授業/Class by guest lecturer
14 回（27・28）	まとめ/summary	本年度の振り返り/Looking back on this year

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献を事前に読むことは必要、また研究発表のための資料作成等も事前に用意すること。また授業内容も適宜、変更することもあり得るので留意されたし。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【参考書】
とくになし。必要に応じて適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
研究発表による評価 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業に参加している学生が活発に自由に発言できる環境作りに留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
映像資料等を使用する場合もある。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは毎週月曜日 16 － 18 時。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
Basic knowledge of writing a dissertation through introductory literature reading, research and analysis methods, and the construction of a master's dissertation so that students in the first year of the master's course can become accustomed to highly specialized education. The goal is to create a basic form of master's thesis at the opportunity for students to present their research.
The goal of second-year master's students is to write a master's thesis.

OTR600R1

プログラム演習

上山　肇

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文作成に向けた演習

【到達目標】
各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2 回（3・4）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3 回（5・6）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4 回（7・8）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5 回（9・10）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6 回（11・12）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7 回（13・14）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8 回（15・16）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9 回（17・18）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10　回（19・20）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11　回（21・22）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12　回（23・24）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13　回（25・26）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14　回（27・28）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation
[Learning activities outside of classroom]
Preparation for presentation.
[Grading Criteria / Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1

プログラム演習

上山　肇

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論文作成に向けた演習

【到達目標】
各自の論文作成に向けた情報・知識の習得と論文の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
まちづくり等に関し、教員から提示された課題あるいは持ち寄り課題についての議論や基本図書の輪読等を通し、各自の論文作成に向けた情報や知識を習得します。また、その都度各自の論文の進捗状況について発表を通して確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	プログラム演習の進め方について説明します。
2 回（3・4）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
3 回（5・6）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
4 回（7・8）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
5 回（9・10）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
6 回（11・12）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
7 回（13・14）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
8 回（15・16）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
9 回（17・18）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
10　回（19・20）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
11　回（21・22）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
12　回（23・24）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
13　回（25・26）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。
14　回（27・28）	各自の論文執筆に必要な情報・知識の習得	教員が提示する課題に関する議論や基本図書の輪読、参加者による発表、論文指導等を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表に向けた準備。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
必要に応じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
共同研究・勉強会を通して他ゼミ等と交流を図ります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis to students taking this course.
[Learning Objectives]
Acquisition of information and knowledge for writing your own dissertation
[Learning activities outside of classroom]
Preparation for presentation.
[Grading Criteria / Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

OTR600R1

プログラム演習

北郷　裕美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特に観光学、メディア学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】
論文を作成する際に必要なスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、講義、受講者の研究発表・プレゼン、ディスカッションなどを中心に進める。また、個人の進度に応じた個別指導を並行して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	演習の編成に関する方針とスケジュール
2 回（3・4）	論文作成に向けた演習	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。 個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
3 回（5・6）	論文作成に向けた演習	論文作成に関する基礎的な知識を講義し、討議を行う。 個人発表とディスカッション、研究スキルの学習、論文の形式について概説
4 回（7・8）	各々の研究テーマ　計画発表	各々の研究テーマと計画について発表する
5 回（9・10）	各々の研究テーマ　計画発表	各々の研究テーマと計画について発表する
6 回（11・12）	各々の研究テーマ　計画発表	各々の研究テーマと計画について発表する
7 回（13・14）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション① 『文献購読』『映画視聴』	購読、視聴後グループディスカッション
8 回（15・16）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション② 『文献購読』『映画視聴』	購読、視聴後グループディスカッション
9 回（17・18）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション③ 『文献購読』『映画視聴』	購読、視聴後グループディスカッション
10　回（19・20）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション④ 『文献購読』『映画視聴』	購読、視聴後グループディスカッション
11　回（21・22）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑤ 『文献購読』『映画視聴』	購読、視聴後グループディスカッション
12　回（23・24）	各々の研究テーマ考察①	各々の研究テーマについて検討する
13　回（25・26）	各々の研究テーマ考察②	各々の研究テーマについて検討する
14　回（27・28）	夏休みの研究の準備	各々が夏休み中にどのような調査研究を行うのかプランを検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
西村大志・松浦雄介編『映画は社会学する』法律文化社
そのほか各回の演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

【参考書】
その都度提示する　基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している

【成績評価の方法と基準】
観光学、観光社会学の視点と調査方法をどの程度身につけたのかを評価する。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【Outline (in English)】
In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1

プログラム演習

北郷　裕美

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、論文作成のための知識と研究スキルを習得する。特に観光学、メディア学、社会学の包括的な知識を学修する。このゼミナールのテーマは観光・メディアである。

【到達目標】
論文を作成する際に必要なスキルを習得する。
修士 1 年次の学生は 2 年次に速やかに調査、研究に臨めるような基盤を作るようにすることを到達目標にする。
修士 2 年次の学生は修士論文の完成が到達目標になる。学生は修士論文として認められるものを完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の発表を基本に進める。校外学習（フィールドワーク）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス 夏休み中の研究についての結果発表	演習の編成に関する方針とスケジュール 受講生各々が研究発表を行う
2 回（3・4）	論文作成に向けた演習	受講生の個人発表とディスカッション、研究スキルの学習
3 回（5・6）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション① 『既存先行論文購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
4 回（7・8）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション② 『既存先行論文購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
5 回（9・10）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション③ 『既存先行論文購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
6 回（11・12）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション④ 『既存先行論文購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
7 回（13・14）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑤ 『既存先行論文購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
8 回（15・16）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑥ 『既存先行論文購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
9 回（17・18）	観光社会学を踏まえた社会学思考についての学びとディスカッション⑦ 『既存論文　購読』	先行研究を踏まえ、研究テーマから全体でディスカッションする
10　回（19・20）	修士論文構想確認	修士論文の構想を受講生各々が発表
11　回（21・22）	修士論文の進捗状況報告①	修士論文に向けた研究の進捗状況について各々が報告する。
12　回（23・24）	修士論文の進捗状況報告②	修士論文に向けた研究の進捗状況について各々が報告する。
13　回（25・26）	修士論文内容発表会①	修士論文執筆者が修士論文の内容を発表する。論文の形式の確認。指導。
14　回（27・28）	修士論文内容発表会②	修士論文執筆者が修士論文の内容を発表する。論文の形式の確認。指導。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の調査研究テーマにそった学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習に必要な論文や資料は毎回コピーして配布する。

【参考書】
その都度提示する　基本的に観光社会学・メディア論関連書籍を予定している　また関連する既存の各種論文を読み解く機会も設けたい

【成績評価の方法と基準】
観光学、観光社会学の視点、その調査方法をどの程度身につけたのかを評価の基準とする。また、ゼミ参加と論文作成の進捗状況なども評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
個人の関心や研究分野にしたがった指導を行う。受講生との対話によって柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器（パソコン、タブレット等）を使用することがある。

【その他の重要事項】
ゼミへの積極的な参加を望む。

【Outline (in English)】
In this seminar, you will acquire knowledge and research skills for writing a thesis. In particular, students acquire comprehensive knowledge of tourism studies, media studies, and sociology. The theme of this seminar is tourism and media.

OTR600R1

プログラム演習

橋本　正洋

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】
①論文作成のための基礎的な知識を習得する
②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2 回（3・4）	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3 回（5・6）	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4 回（7・8）	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5 回（9・10）	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6 回（11・12）	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7 回（13・14）	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8 回（15・16）	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9 回（17・18）	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10　回（19・20）	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】
各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（５０％）、研究発表内容（５０％）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【学生が準備すべき機器他】
ゼミにはパソコンを用意すること。HDMI 端子があることが望ましい。

【その他の重要事項】
ゼミの日程は、研究の進捗状況により変更するので、橋本研の googledribe を確認すること。

【Outline (in English)】
The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1

プログラム演習

橋本　正洋

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行う。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得する。

【到達目標】
①論文作成のための基礎的な知識を習得する
②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得する
③調査分析結果の考察方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実する。また、輪読などを行い、研究に必要な理論・分析手法などの習得をめざす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2 回（3・4）	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3 回（5・6）	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4 回（7・8）	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5 回（9・10）	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6 回（11・12）	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
7 回（13・14）	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
8 回（15・16）	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
9 回（17・18）	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
10　回（19・20）	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等を重視する。復習では目安となる水準を演習中に提示する。また、プレゼンテーションの実施によって、ロジカルに見解を伝えるスキルを習得することを目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ生の研究の進捗状況等に合わせて、必要な教材を紹介する。

【参考書】
各回の演習テーマごとに適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（５０％）、研究発表内容（５０％）により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義と異なり、ゼミは、学生自らが運営するとの意識をもって望むことが必要。

【Outline (in English)】
The seminar will be run in order to accomplish master thesis. The goal of the seminar is to learn research planning, selection of research themes, reviews on the previous works and methodologies on analytic skills.

OTR600R1

プログラム演習

井上　善海

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文・政策研究論文の作成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行います。研究計画書の作成、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、調査分析手法（定性的・定量的）、調査結果の考察など、論文作成のための知識や研究スキルを習得していただきます。

【到達目標】
①論文作成のための基礎的な知識を習得できている。
②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を習得できている。
③調査分析結果の考察方法を習得できている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習（ゼミ）方式で、各自が研究テーマに沿った研究成果を順次発表し、全員で議論することで、研究内容を充実させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明。
2 回（3・4）	論文作成の基礎知識①	問題意識について。問題意識がなぜ必要なのか。
3 回（5・6）	論文作成の基礎知識②	資料・文献の収集方法について。理論研究と実証研究について。
4 回（7・8）	論文作成の基礎知識③	研究論文執筆上のマナー（剽窃、注、参考文献）について。
5 回（9・10）	研究テーマの設定方法 個人研究発表	研究ネタの集め方について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
6 回（11・12）	研究テーマの発表 個人研究発表	研究ネタの整理と集約について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
7 回（13・14）	研究計画書の作成方法 個人研究発表	研究計画書の内容について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
8 回（15・16）	研究計画書の発表 個人研究発表	研究計画書の構成について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
9 回（17・18）	先行研究レビューの方法 個人研究発表	文研研究の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う
10　回（19・20）	定性的調査の方法 個人研究発表	事例研究、ヒヤリングの方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	定量的調査の方法 個人研究発表	アンケート調査、統計分析の方法について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	調査結果の分析手法 個人研究発表	事例記述、統計解釈について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	調査分析結果の考察 個人研究発表	論証と理論展開について。各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	まとめ	論文の書き方についての最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、文献の精読、研究発表のための資料作成等をしていただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
演習に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】
各回の演習テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（４０％）、研究発表内容（６０％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし。

【Outline (in English)】
We will conduct research guidance for preparing master thesis and policy research papers in a seminar (seminar) format. Students should acquire knowledge and research skills for preparing papers such as preparation of research plan, selection of research theme, review of prior research, survey analytical method (qualitative / quantitative), examination of survey results.

OTR600R1

プログラム演習

井上　善海

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文・政策研究論文の完成に向けた研究指導を演習（ゼミ）形式で行います。各自の論文執筆状況を報告してもらい、それを皆で討議することで、論文の完成度を高めていきます。

【到達目標】
①研究の方法論を理解したうえで、論文を完成させている。
②研究に必要な先行研究レビューや調査分析手法を踏まえたうえで論文を完成させている。
③調査分析結果を考察した論文を完成させている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
演習（ゼミ）方式で、各自が論文執筆状況を順次報告し、全員で議論することで研究内容を充実させていきます。 また、論文執筆のための個別指導を授業以外でも随時行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2 回（3・4）	論文執筆状況の報告と討議①	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
3 回（5・6）	論文執筆状況の報告と討議②	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
4 回（7・8）	論文執筆状況の報告と討議③	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
5 回（9・10）	論文執筆状況の報告と討議④	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
6 回（11・12）	論文執筆状況の報告と討議⑤	各自の論文執筆状況を報告し、全員で討議を行い、論文の完成度を高める。
7 回（13・14）	論文執筆状況の中間報告	各自の論文執筆状況の中間報告を行う。
8 回（15・16）	論文の見直し、修正①	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
9 回（17・18）	論文の見直し、修正②	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
10 回（19・20）	論文の見直し、修正③	中間報告を受けて、論文執筆の見直し、修正を行っていく。
11 回（21・22）	完成論文の最終チェック①	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
12 回（23・24）	完成論文の最終チェック②	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
13 回（25・26）	完成論文の最終チェック③	論文草稿をもとに、論文の完成度をチェックしていく。
14 回（27・28）	まとめ	論文提出の準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】
各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での 発言・貢献度（５０％）、研究発表内容（５０％）により成績評価を 行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
We will conduct research guidance to complete master's thesis / policy research paper in a seminar (seminar) form. We will report the status of writing their own papers and discuss them with everyone to improve the completeness of the thesis.

OTR600R1

プログラム演習

小方　信幸

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習（ゼミ）形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法（定性分析・定量分析）など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

【到達目標】
（1）研究の方法論を理解することができる。
（2）修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
「学習支援システム」に資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。
授業内容は、学生による発表を中心としたゼミ形式で行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス	学術論文を書くことの意義
2回（3・4）	論文の書き方 個人研究発表	（1）研究の進め方 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
3回（5・6）	論文の書き方 個人研究発表	（1）論文の構成 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
4回（7・8）	論文の書き方 個人研究発表	（1）論文の引用、研究倫理 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
5回（9・10）	論文の書き方 個人研究発表	（1）先行研究レビュー （2）研究計画、修士論文の進捗状況
6　回（11・12）	論文の書き方 個人研究発表	（1）分析対象、データ、方法 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
7　回（13・14）	論文の書き方 個人研究発表	（1）定性的方法論 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
8　回（15・16）	論文の書き方 個人研究発表	（1）定量的方法論 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
9　回（17・18）	文献講読 個人研究発表	（1）学生の研究テーマに沿った論文 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
10　回（19・20）	文献講読 個人研究発表	（1）学生の研究テーマに沿った論文 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
11　回（21・22）	文献講読 個人研究発表	（1）学生の研究テーマに沿った論文 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
12　回（23・24）	文献講読 個人研究発表	（1）学生の研究テーマに沿った論文 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
13　回（25・26）	文献講読 個人研究発表	（1）学生の研究テーマに沿った論文 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
14　回（27・28）	文献講読 個人研究発表	（1）学生の研究テーマに沿った論文 （2）研究計画、修士論文の進捗状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料、指定する文献、論文等を事前に読み、ゼミで発言ができるよう準備する。
（2）ゼミを振り返り論点を整理する。
（3）常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保していただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％、個人研究発表　５０％、

【学生の意見等からの気づき】
学期初めからゼミで研究法を学んだことにより、学術論文に対する理解が深まったとの意見があった。今年度も学期初から研究方法について学ぶ。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することがある。授業外でのゼミ合宿、企業訪問に加え、他ゼミの学生も参加することができる横断ゼミを検討する。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students complete master thesis.　Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis.　Students are also required to make presentations on their research results. Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

OTR600R1

プログラム演習

小方　信幸

科目分類：**演習科目（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文の完成を目的とし、そのための指導を演習（ゼミ）形式で行う。ゼミは学生による発表を中心に行い、全員が意見を述べ討論することを基本とする。具体的には、文献調査の方法、論文の引用・研究倫理、先行研究レビュー、分析の対象、データ、方法（定性分析・定量分析）など論文作成の方法論を学ぶ。また、学生は定期的に自らの研究成果を発表することが求められる。

【到達目標】
（1）研究の方法論を理解することができる。
（2）修士論文を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の発表を中心にゼミを行う。発表者に対し全員が意見を述べ討論を行うことを基本とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス 個人研究発表	（1）教員による授業の進め方 （2）研究計画、修士論文の進捗状況
2回（3・4）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
3回（5・6）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
4回（7・8）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
5回（9・10）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
6　回（11・12）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
7　回（13・14）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
8　回（15・16）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
9　回（17・18）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
10　回（19・20）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
11　回（21・22）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
12　回（23・24）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
13　回（25・26）	個人研究発表	修士論文の進捗状況
14　回（27・28）	個人研究発表	修士論文の進捗状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料、指定文献・論文等を事前に読み、ゼミで発言できるよう準備する。
（2）ゼミを振り返り、論点を整理する。
（3）常に自分の研究テーマに沿った文献、論文を読む時間を確保する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％、個人研究発表 ５０％

【学生の意見等からの気づき】
ゲストスピーカー招聘の希望があるので、ゼミ生の研究に参考となる専門性の高い方の招聘を検討する。

【その他の重要事項】
ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲスト・スピーカー招聘の場合、授業計画を変更することがある。授業外でのゼミ合宿、企業訪問に加え、他ゼミの学生も参加することができる横断ゼミを検討する。

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students complete master thesis.　Students are required to understand the method of the literature survey, citation, research ethics, previous research reviewing, method of both qualitative of quantitative analysis.　Students are also required to make presentations on their research results.　Students are also required to make presentations on their research results, regularly.

BSP580R1

研究法

石山　恒貴、増淵　敏之、北郷　裕美、柿野　成美、井上　善海、高尾　真紀子、小方　信幸、橋本　正洋

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を執筆するために社会科学研究及び政策研究の基礎について学習する。より円滑かつ的確に博士論文を執筆できるように博士論文の執筆過程をイメージしながら基礎的な事項を確認していく。

【到達目標】
・政策を研究する際或いは社会科学分野の研究を行う際に必要な知識、技術、勘所等について、基本的な水準に到達すること。
・各自の博士論文について、今後の作成計画や構想を具体的にイメージできるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
必要事項の講義、講義に基づく討論・グループ討論、課題についてのペーパーワーク等により進める。また、博士論文を執筆した先輩の経験談を聞く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	研究のプロセスおよびリサーチデザイン（石山）	博士論文を書くうえで、自身の研究領域および存在論・認識論の観点で、どのようなリサーチデザイン、分析を行うべきか考える。また、研究のプロセスのあり方について考える。
2 回（3・4）	博士論文における文献サーベイ（増淵） 博士論文の構成（北郷）	博士論文には独創性が求められる。先行研究のサーベイを通じてのテーマ設定及び着眼点について議論していく。 典型的な博士論文を読み、その構成について考える。
3 回（5・6）	社会人博士の取り方（橋本）	社会人経験を有する学生を中心として、学位取得に向けた自身の経験を踏まえたガイダンスを行うとともにディスカッションを通して、研究テーマ、研究の進め方など論文執筆に有益な機会とすることを目指す。
4 回（7・8）	計量経済学的手法の活用（小方）	計量経済学の手法を用いた査読論文を教材とし、査読プロセスを踏まえた上で、データ・分析手法・結論の導出などの特徴について議論する。
5 回（9・10）	量的調査（質問紙調査）の方法（高尾）	過去の博士論文を参照しながら、特に質問紙調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する。
6 回（11・12）	「研究方法」「論文執筆」等に関する再確認（上山）	この時期だからこそ再度、研究の基本に立ち返る。「研究とは」「論文執筆の注意点」「査読論文」等について考える。
7 回（13・14）	質的調査（事例調査）の方法（井上）	過去の博士論文を参照しながら、特に事例調査の実施にあたっての留意点や分析手法について講義し、各自の問題意識に沿って議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1　授業と並行して自分の博士論文の作成計画及び構想を練る。
2　論文作成法などの本を読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは用いない。各回ごとに参考文献を挙げる。

【参考書】
野村康『社会科学の考え方　認識論、リサーチ・デザイン、手法』2017 年, 名古屋大学出版会
自分の研究領域の優れたモノグラフが一番の参考文献となる。一般的には社会科学系の論文作成法の本は参考となる。研究法については、その都度、本や文献等を指示する。

【成績評価の方法と基準】
各回のレポート、授業への貢献等の総合点を合計して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
博士号取得者の経験は役に立つとの声が多いため、講義にも取り入れていく。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンによる提出物作成は必須。

【その他の重要事項】
一般的な研究法の知識等を概説するにとどまるので、実際の展開は各人が指導教員と相談しながら進めていただきたい。
授業後に質問等を受け付ける。

【Outline (in English)】
This course introduce the basics of social science research and policy research to write a doctoral thesis. Students are required to confirm fundamental skills while imagining the writing process of doctoral thesis.
Goal
At the end of the course, students are expected to be able to visualise a concrete plan and concept for the future preparation of each individual's doctoral thesis.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

OTR580R1

合同ゼミ

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程ではより専門性を高めることになるため、学生全員での議論の場を設けたい。とくに他領域での学生の発言が研究の奥行きと広がりに繋がることを期待している。学会での発表に結び付けることを到達目標としたい。

【到達目標】
投稿論文の掲載を到達目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回につき 1 名の学生の発表とする。ひとりにつき発表時間は 40 分、議論 60 分とする。レジュメは当日、配布、書式は基本的に自由だが、P・P は使用しないことを基本とする。発表の順番、司会進行は学生が行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業/Guidance, ordering of presentations, coordination work on progress	ガイダンス、発表の順番決め、進行についての調整作業/Guidance, ordering of presentations, coordination work on progress
2-5	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments
6-7	ゲスト講師の講義/Lecture by guest lecturer	博士論文の執筆について/About writing a doctoral dissertation
8	中間取り纏め/Intermediate summary	意見交換、進捗状況確認/Exchange opinions and check progress
9-12	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments	発表、議論、講評/Presentations, discussions, comments
13	ゲスト講師の講義/Lecture by guest lecturer	博士論文の執筆について/About writing a doctoral dissertation
14	纏め/Summary	意見交換、進捗状況確認/Exchange opinions and check progress

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
都度学生と相談して進め方を決めていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、推薦する。

【参考書】
適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】
発表、議論の場での発言を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】
学生の人数によって授業の実施方法を工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
自分の発表の回には配布用資料を用意のこと。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー毎週月曜日 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
As doctoral students will increase their expertise, we want to set up a forum for discussion among all students. In particular, I hope that the remarks of the students in other areas will lead to the depth and spread of the research. I would like to make my goal to be connected with presentations at academic societies.

MAN700R1

雇用政策特殊研究Ⅰ

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。
博士後期課程の初年度に該当し、最終的な博士論文の完成を可能とするための知識・スキルの習得を重点的に行う。

【到達目標】
学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。
博士後期課程の初年度として、学会発表、査読論文執筆などを十分に進めることができるレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回（3・4）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回（5・6）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回（7・8）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回（9・10）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回（11・12）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回（13・14）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回（15・16）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回（17・18）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回（19・20）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回（21・22）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回（23・24）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回（25・26）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回（27・28）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回（29・30）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回（31・32）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回（33・34）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回（35・36）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回（37・38）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回（39・40）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回（41・42）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回（43・44）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回（45・46）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回（47・48）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回（49・50）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回（51・52）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回（53・54）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回（55・56）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個別に指定する。

【参考書】
個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.
Goal
At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

MAN710R1

雇用政策特殊研究Ⅱ

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。
博士後期課程の中間の年度となることから、博士論文に着手できる条件をすべて整えるための内容を重点的に行う。

【到達目標】
学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。
博士論文に着手できる条件を整えるために、特に査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を重視する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回（3・4）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回（5・6）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回（7・8）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回（9・10）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回（11・12）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回（13・14）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回（15・16）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回（17・18）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回（19・20）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回（21・22）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回（23・24）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回（25・26）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回（27・28）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回（29・30）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回（31・32）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回（33・34）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回（35・36）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回（37・38）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回（39・40）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回（41・42）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回（43・44）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回（45・46）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回（47・48）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回（49・50）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回（51・52）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回（53・54）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回（55・56）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個別に指定する。

【参考書】
個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.
Goal
At the end of the course, students are expected to reach a level where students can adequately present their work at conferences and write peer-reviewed papers. Emphasis will be placed on reaching a level that will enable students to write peer-reviewed papers.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

MAN720R1

雇用政策特殊研究Ⅲ

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
雇用、キャリア、人的資源管理、職業能力開発などの領域を中心に、博士課程としての専門性に応じた授業を行う。文献レビュー、定量調査、定性調査、フィールドワークなど多角的に進める。
特に博士後期課程の集大成として、博士論文の完成に関連する内容を重点的に実施する。

【到達目標】
学会発表、査読論文の執筆が可能となるレベルへの到達を目指す。体系的に博士論文を構築していく。
本授業は博士後期課程の集大成となることから、博士論文そのものの完成に該当するレベルへの到達を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に個人指導が中心となるが、博士課程在籍者間における、情報共有と議論を効果的に交える。また、修士課程在籍者への指導経験をとおして、自身の研究領域への理解を深めていただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
2回（3・4）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
3回（5・6）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
4回（7・8）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
5回（9・10）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
6回（11・12）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
7回（13・14）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
8回（15・16）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
9回（17・18）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
10回（19・20）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
11回（21・22）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
12回（23・24）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
13回（25・26）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
14回（27・28）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
15回（29・30）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
16回（31・32）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
17回（33・34）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
18回（35・36）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
19回（37・38）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
20回（39・40）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
21回（41・42）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
22回（43・44）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
23回（45・46）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
24回（47・48）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
25回（49・50）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
26回（51・52）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
27回（53・54）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論
28回（55・56）	学会発表、査読論文の執筆、博士論文の構築	個人指導、および、博士課程在籍者間における、情報共有と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当領域および関連領域に関する、日本と海外の文献サーベイ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
個別に指定する。

【参考書】
個別に指定する。

【成績評価の方法と基準】
議論、発表、論文の執筆状況により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が主体的に学んでいくことを基本とするが、同時にきめ細かい支援も行う。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of academic research for doctoral work.
Goal
At the end of the course, students are expected to reach a level corresponding to the completion of the doctoral dissertation itself.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Students will be evaluated comprehensively based on their discussions, presentations, and written papers.

ARSl700R1

文化政策特殊研究Ⅰ

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】
1 年次はテーマ設定、修士論文の再検討から学会発表、投稿論文執筆へと進めていき、投稿、掲載に結びつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-28	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた文献及び関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、推薦する。

【参考書】
適宜、推薦する。

【成績評価の方法と基準】
発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】
文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【その他の重要事項】
基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。

【Outline (in English)】
As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSl710R1

文化政策特殊研究Ⅱ

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】
２年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research
2 回（3・4）	同上	同上
3 回（5・6）	同上	同上
4 回（7・8）	同上	同上
5 回（9・10）	同上	同上
6 回（11・12）	同上	同上
7 回（13・14）	同上	同上
8 回（15・16）	同上	同上
9 回（17・18）	同上	同上
10　回（19・20）	同上	同上
11　回（21・22）	同上	同上
12　回（23・24）	同上	同上
13　回（25・26）	同上	同上
14　回（27・28）	同上	同上
15　回（29・30）	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research
16　回（31・32）	同上	同上
17　回（33・34）	同上	同上
18　回（35・36）	同上	同上
19　回（37・38）	同上	同上
20　回（39・40）	同上	同上
21　回（41・42）	同上	同上
22　回（43・44）	同上	同上
23　回（45・46）	同上	同上
24　回（47・48）	同上	同上
25　回（49・50）	同上	同上
26　回（51・52）	同上	同上
27　回（53・54）	同上	同上
28　回（55・56）	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、推薦する。

【参考書】
適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】
発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】
文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline (in English)】
As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSl720R1

文化政策特殊研究Ⅲ

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士課程ではより専門性を高めることになるため、文献講読、フィールドワーク、議論を中心に授業を進めながら、まずは学会発表、査読論文の執筆を当初の到達目標とする。そして博士論文の全体を構成を並行して決めていく。

【到達目標】
２年次では学会発表、論文投稿をメインにするが、調査を積極的に行わなければならないので、フィールドワークの手法を会得することに力点を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマン・ツー・マンで授業を進めていく。適宜、教員の学会出席、調査への同行を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research	研究に関しての個別指導/Individual guidance on research
2 回（3・4）	同上	同上
3 回（5・6）	同上	同上
4 回（7・8）	同上	同上
5 回（9・10）	同上	同上
6 回（11・12）	同上	同上
7 回（13・14）	同上	同上
8 回（15・16）	同上	同上
9 回（17・18）	同上	同上
10　回（19・20）	同上	同上
11　回（21・22）	同上	同上
12　回（23・24）	同上	同上
13　回（25・26）	同上	同上
14　回（27・28）	同上	同上
15　回（29・30）	研究に関しての個別指導	研究に関しての個別指導
16　回（31・32）	同上	同上
17　回（33・34）	同上	同上
18　回（35・36）	同上	同上
19　回（37・38）	同上	同上
20　回（39・40）	同上	同上
21　回（41・42）	同上	同上
22　回（43・44）	同上	同上
23　回（45・46）	同上	同上
24　回（47・48）	同上	同上
25　回（49・50）	同上	同上
26　回（51・52）	同上	同上
27　回（53・54）	同上	同上
28　回（55・56）	同上	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた文献及び関連文献の購読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜、推薦する。

【参考書】
適宜、推薦する

【成績評価の方法と基準】
発表、議論の場での発言、研究成果を中心に評価していく。

【学生の意見等からの気づき】
文献紹介、フィールド紹介など細かい点にも留意していく。

【Outline (in English)】
As the doctoral course will raise the level of expertise, we will initially make presentations on academic sessions and writing peer-reviewed papers as initial targets while promoting classes focusing on document reading, field work, and discussion. And we decide the whole of the doctoral dissertation in parallel.

ARSx700R1

都市政策特殊研究Ⅰ

上山　肇

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】
論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	本科目の進め方について説明
2 回（3・4）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
3 回（5・6）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
4 回（7・8）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
5 回（9・10）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
6 回（11・12）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
7 回（13・14）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
8 回（15・16）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
9 回（17・18）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
10　回（19・20）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
11　回（21・22）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
12　回（23・24）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
13　回（25・26）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
14　回（27・28）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
15　回（29・30）	前半のまとめ	発表及びディスカッション
16　回（31・32）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
17　回（33・34）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
18　回（35・36）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
19　回（37・38）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
20　回（39・40）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
21　回（41・42）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
22　回（43・44）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
23　回（45・46）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
24　回（47・48）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
25　回（49・50）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
25　回（49・50）　26 回（51・52）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
27　回（53・54）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
28　回（55・56）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読。

【テキスト（教科書）】
適宜示します。

【参考書】
適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.
[到達目標 (Learning Objectives)]
Preparation of papers and presentation at academic conferences, etc.
[Learning activities outside of classroom]
Reading related literature.
[Grading Criteria / Policy]
Evaluation will be made based on the statements made at the presentations and discussions, and the research results.

ARSx710R1

都市政策特殊研究Ⅱ

上山　肇

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】
論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	本科目の進め方について説明
2 回（3・4）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
3 回（5・6）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
4 回（7・8）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
5 回（9・10）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
6 回（11・12）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
7 回（13・14）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
8 回（15・16）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
9 回（17・18）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
10　回（19・20）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
11　回（21・22）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
12　回（23・24）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
13　回（25・26）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
14　回（27・28）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
15　回（29・30）	前半のまとめ	発表及びディスカッション
16　回（31・32）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
17　回（33・34）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
18　回（35・36）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
19　回（37・38）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
20　回（39・40）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
21　回（41・42）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
22　回（43・44）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
23　回（45・46）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
24　回（47・48）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
25　回（49・50）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
26　回（51・52）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
27　回（53・54）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
28　回（55・56）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜示します。

【参考書】
適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.

ARSx720R1

都市政策特殊研究Ⅲ

上山　肇

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市政策に関する博士論文作成手法の習得

【到達目標】
論文（査読論文等含む）の作成及び学会等での発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にマンツーマンにより授業を進めていきます。前半・後半の最後に全体での発表及びディスカッションを行い到達度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	本科目の進め方について説明
2 回（3・4）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
3 回（5・6）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
4 回（7・8）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
5 回（9・10）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
6 回（11・12）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
7 回（13・14）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
8 回（15・16）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
9 回（17・18）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
10　回（19・20）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
11　回（21・22）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
12　回（23・24）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
13　回（25・26）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
14　回（27・28）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
15　回（29・30）	前半のまとめ	発表及びディスカッション
16　回（31・32）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
17　回（33・34）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
18　回（35・36）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
19　回（37・38）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
20　回（39・40）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
21　回（41・42）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
22　回（43・44）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
23　回（45・46）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
24　回（47・48））	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
25　回（49・50）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
26　回（51・52）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
27　回（53・54）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導
28　回（55・56）	研究に関する個別指導	研究に関する個別指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の講読。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜示します。

【参考書】
適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
発表や議論の場での発言、研究成果によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course introduces about writing method of a thesis of urban policy to students taking this course.

MAN700R1

企業経営特殊研究Ⅰ

井上　善海

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1 年次は、博士論文執筆に必要な知識・スキルの習得を目指します。具体的には、博士論文の全体構成を組み立て、先行研究レビューを行い、その限界と批判を示していただきます。また、修士論文をベースとした学会発表、投稿論文執筆に取り組んでいただきます。

【到達目標】
①博士論文執筆に必要な知識・スキルを習得できている。
②博士論文の全体構成を組み立て、先行研究レビューを行い、その限界と批判を示すことができている。
③修士論文をベースとした学会発表、論文投稿ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての 説明を行う。
2 回（3・4）	博士論文全体構成① 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
3 回（5・6）	博士論文全体構成② 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
4 回（7・8）	博士論文全体構成③ 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
5 回（9・10）	博士論文全体構成④ 個人研究発表	博士論文の全体構成について指導を行う。また、各自が関心を持つ研究内容に関する発表と討議を行う。
6 回（11・12）	研究テーマの設定① 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
7 回（13・14）	研究テーマの設定② 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
8 回（15・16）	研究テーマの設定③ 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
9 回（17・18）	研究テーマの設定④ 個人研究発表	研究テーマの設定について指導を行う。また、各自の研究テーマに関する発表と討議を行う。
10　回（19・20）	先行研究レビュー① 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	先行研究レビュー② 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	先行研究レビュー③ 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	先行研究レビュー④ 個人研究発表	先行研究レビューについて指導を行う。また、各自の先行研究に関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15　回（29・30）	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての 説明を行う。
16　回（31・32）	先行研究の限界と批判① 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
17　回（33・34）	先行研究の限界と批判② 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
18　回（35・36）	先行研究の限界と批判③ 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
19　回（37・38）	先行研究の限界と批判④ 個人研究発表	先行研究の限界と批判について指導を行う。また、各自の先行研究の限界と批判に関する発表と討議を行う。
20　回（39・40）	学会研究報告準備① 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
21　回（41・42）	学会研究報告準備② 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
22　回（43・44）	学会研究報告準備③ 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
23　回（45・46）	学会研究報告準備④ 個人研究発表	学会報告について指導を行う。また、各自の学会研究報告に関する発表と討議を行う。
24　回（47・48）	投稿論文準備① 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
25　回（49・50）	投稿論文準備② 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
26　回（51・52）	投稿論文準備③ 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
27　回（53・54）	投稿論文準備④ 個人研究発表	投稿論文執筆について指導を行う。また、各自の投稿論文に関する発表と討議を行う。
28　回（55・56）	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行い、2 年次への準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】
各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（４０%）、研究発表内容（６０%）により成績評価を 行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The first year aims to acquire knowledge and skills necessary for writing a doctoral thesis. Specifically, we will assemble the overall composition of the doctoral dissertation, conduct a prior research review, and show its limitations and criticism. In addition, we will work on writing conference presentations based on master's thesis and writing submitted manuscripts.

MAN710R1

企業経営特殊研究Ⅱ

井上　善海

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2 年次は、博士論文執筆に本格的に取り組んでいただきます。具体的には、博士論文の仮説の設定、定量調査、定性調査、フィールドワークなどを行います。また、学会発表、投稿論文も積み重ねていきます。

【到達目標】
①博士論文の仮説設定、定量調査、定性調査、フィールドワークなどができている。
②複数の学会での発表、投稿論文ができている。
③博士論文の草稿ができている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2 回（3・4）	仮説の設定① 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
3 回（5・6）	仮説の設定② 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
4 回（7・8）	仮説の設定③ 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
5 回（9・10）	仮説の設定④ 個人研究発表	仮説の設定について指導を行う。また、各自の仮説に関する発表と討議を行う。
6 回（11・12）	定量調査① 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
7 回（13・14）	定量調査② 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
8 回（15・16）	定量調査③ 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
9 回（17・18）	定量調査④ 個人研究発表	定量調査について指導を行う。また、各自の定量調査に関する発表と討議を行う。
10　回（19・20）	定性調査① 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
11　回（21・22）	定性調査② 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
12　回（23・24）	定性調査③ 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
13　回（25・26）	定性調査④ 個人研究発表	定性調査について指導を行う。また、各自の定性調査に関する発表と討議を行う。
14　回（27・28）	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15　回（29・30）	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16　回（31・32）	フィールドワーク① 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
17　回（33・34）	フィールドワーク② 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
18　回（35・36）	フィールドワーク③ 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
19　回（37・38）	フィールドワーク④ 個人研究発表	フィールドワークについて指導を行う。また、各自のフィールドワークに関する発表と討議を行う。
20　回（39・40）	調査分析① 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
21　回（41・42）	調査分析② 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
22　回（43・44）	調査分析③ 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
23　回（45・46）	調査分析④ 個人研究発表	調査分析について指導を行う。また、各自の調査分析に関する発表と討議を行う。
24　回（47・48）	考察① 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
25　回（49・50）	考察② 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
26　回（51・52）	考察③ 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
27　回（53・54）	考察④ 個人研究発表	考察について指導を行う。また、各自の考察に関する発表と討議を行う。
28　回（55・56）	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行い、3 年次への準備を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成していただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】
各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（４０％）、研究発表内容（６０％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
In the second year, you will be making full efforts to write the doctoral dissertation. Specifically, we set up hypotheses of doctor thesis, quantitative survey, qualitative survey, field work etc. We will also hold congress presentations and contributed papers.

MAN720R1

企業経営特殊研究Ⅲ

井上　善海

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年次は、博士論文の完成を目指します。具体的には、博士論文の完成度を高めるため、学会発表、投稿論文を積み重ねていきます。

【到達目標】
①博士論文の全体構成のバランスがとれている。
②複数の学会での発表、論文投稿ができている。
③博士論文が完成している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個人指導を中心に進めていきますが、他のメンバーとの議論を行うことによって、研究内容を高めるとともに、情報共有を行います。また、研究内容と関連する学会への出席、研究報告、論文投稿も積極的に行っていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	前半演習ガイダンス	前半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
2回（3・4）	博士論文執筆指導① 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
3回（5・6）	博士論文執筆指導② 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
4回（7・8）	博士論文執筆指導③ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
5回（9・10）	博士論文執筆指導④ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
6回（11・12）	博士論文執筆指導⑤ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
7回（13・14）	博士論文執筆指導⑥ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
8回（15・16）	博士論文執筆指導⑦ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
9回（17・18）	博士論文執筆指導⑧ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
10　回 （19・20）	博士論文執筆指導⑨ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
11　回 （21・22）	博士論文執筆指導⑩ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
12　回 （23・24）	博士論文執筆指導⑪ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
13　回 （25・26）	博士論文執筆指導⑫ 個人研究発表	博士論文の執筆指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を 行う。
14　回 （27・28）	前半まとめ	前半の演習の中間まとめを行う。到達目標の進捗状況を確認し、後半の演習の準備を行う。
15　回 （29・30）	後半演習ガイダンス	後半における演習（ゼミ）の進め方についての説明を行う。
16　回 （31・32）	博士論文完成度向上① 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
17　回 （33・34）	博士論文完成度向上② 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
18　回 （35・36）	博士論文完成度向上③ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
19　回 （37・38）	博士論文完成度向上④ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
20　回 （39・40）	博士論文完成度向上⑤ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
21　回 （41・42）	博士論文完成度向上⑥ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
22　回 （43・44）	博士論文完成度向上⑦ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
23　回 （45・46）	博士論文完成度向上⑧ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
24　回 （47・48）	博士論文完成度向上⑨ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
25　回 （49・50）	博士論文完成度向上⑩ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
26　回 （51・52）	博士論文完成度向上⑪ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
27　回 （53・54）	博士論文完成度向上⑫ 個人研究発表	博士論文の完成度を高めるための指導を行う。また、各自の博士論文の内容に関する発表と討議を行う。
28　回 （55・56）	後半まとめ	到達目標の達成状況の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習では、論文執筆状況報告のためのプレゼン資料等を作成し ていただきます。復習では目安となる水準を演習中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
論文執筆に必要な資料を毎回配布します。

【参考書】
各自の研究内容に沿った参考図書を適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本演習の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、演習内での発言・貢献度（５０%）、研究発表内容（５０%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The third year aims to complete the doctoral thesis. Specifically, in order to raise the degree of completion of the doctoral thesis, I will accumulate academic presentations and submitted papers.

MAN700R1

CSR 特殊研究 I

小方　信幸

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目の目的は博士論文執筆に必要な知識とスキルを身に付けることである。その知識とスキルは、研究方法に関する文献からの学びと、先行研究を批判的にレビューすることにより習得が可能となる。また、先行研究レビューを通じ、博士論文の全体構成（リサーチ・デザイン）を構築し、学会発表と投稿論文の準備を開始することが求められる。

【到達目標】
（1）博論執筆に必要な知識とスキルを習得することができる。
（2）先行研究を批判的にレビューすることができる。
（3）リサーチ・デザインを構築することができる。
（4）学会発表および学術誌への投稿の準備を開始することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	研究指導	（1）博士論文の全体像
		（2）先行研究レビューの進め方
2回（3・4）	研究指導	（1）博士論文の構成
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
3回（5・6）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
4回（7・8）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
5回（9・10）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
6回（11・12）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
7回（13・14）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
8回（15・16）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
9回（17・18）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
10回（19・20）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
11回（21・22）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
12回（23・24）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
13回（25・26）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
14回（27・28）	研究指導	春学期の振り返りと今後の課題
	総括	
15回（29・30）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
16回（31・32）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
17回（33・34）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
18回（35・36）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
19回（37・38）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
20回（39・40）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
21回（41・42）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
22回（43・44）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
23回（45・46）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
24回（47・48）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
25回（49・50）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
26回（51・52）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
27回（53・54）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー
28回（55・56）	研究指導	（1）学会発表、投稿論文の準備
	個人研究発表	（2）先行研究レビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】
個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
到達目標（1）から（4）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況についての発表機会を前年度以上に増やす。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help doctoral students acquire the knowledge and skills necessary for writing a doctoral dissertation. Those knowledge and skills could be acquired by learning from the literature on research methods and critically reviewing previous research. Students are also required to establish the research design of the doctoral dissertation and start preparations for presentation at the conference and for submission papers to academic journals.

MAN710R1

CSR 特殊研究 Ⅱ

小方　信幸

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目では、学生が研究計画に沿って調査・分析を行い、学会発表と学術誌への投稿を行うことを目的とする。また、論文執筆と並行して先行研究の批判的なレビューも求められる。

【到達目標】
（1）学会発表および学術誌への投稿ができる。
（2）先行研究を批判的にレビューすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表の準備 （3）先行研究レビュー
2回（3・4）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
3回（5・6）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
4回（7・8）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
5回（9・10）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
6　回（11・12）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
7　回（13・14）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
8　回（15・16）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
9　回（17・18）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
10　回（19・20）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
11　回（21・22）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
12　回（23・24）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
13　回（25・26）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
14　回（27・28）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
15　回（29・30）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
16　回（31・32）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
17　回（33・34）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
18　回（35・36）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
19　回（37・38）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
20　回（39・40）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
21　回（41・42）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
22　回（43・44）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
23　回（45・46）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
24　回（47・48）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
25　回（49・50）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
26　回（51・52）	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー

27（53・54）	回	個人発表および研究指導	（1）研究テーマの調査・分析 （2）学会発表および投稿論文の準備 （3）先行研究レビュー
28（55・56）	回	1年間の総括	1年間の振り返りと今後の研究方針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】
個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
到達目標（1）および（2）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況についての発表機会を前年度以上に設ける。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help doctoral students to conduct surveys and analyzes according to the research plan, to make presentations at academic conferences and to submit papers to academic journals. Critical review of prior research is also required in parallel with writing the submission papers.

MAN720R1

CSR 特殊研究Ⅲ

小方　信幸

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当科目の目的は学生が博士論文を完成することである。

【到達目標】
（1）学術誌に査読付きで採用される論文を書くことができる。
（2）先行研究を批判的にレビューすることができる。
（3）博士論文を完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
個人指導を中心とする。また、博士課程在籍者との情報共有を行うよう指導する。さらに、修士課程在籍者の指導を通じて、自らの研究テーマの理解を深め、研究の質を高めることを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
2回（3・4）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
3回（5・6）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
4回（7・8）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
5回（9・10）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
6　回（11・12）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
7　回（13・14）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
8　回（15・16）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
9　回（17・18）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
10　回（19・20）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
11　回（21・22）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
12　回（23・24）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
13　回（25・26）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
14　回（27・28）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
15　回（29・30）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
16　回（31・32）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
17　回（33・34）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
18　回（35・36）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
19　回（37・38）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
20　回（39・40）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
21　回（41・42）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
22　回（43・44）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
23　回（45・46）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
24　回（47・48）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
25　回（49・50）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
26　回（51・52）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
27　回（53・54）	個人発表および研究指導	（1）博士論文の進捗状況 （2）学会発表および投稿論文 （3）先行研究レビュー
28　回（55・56）	総括	1 年間の振り返りと今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究に必要な資料を毎回配布する。

【参考書】
個人別に研究内容にあったものを都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
到達目標（1）～（3）を基準に進捗状況をみて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
研究の進捗状況についての発表機会を前年度以上に設ける。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help doctoral students submit their doctoral dissertation.

ARSl700R1

地域社会政策特殊研究Ⅰ

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、査読論文の作成を目指す。

【到達目標】
地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、論文執筆のスキルを習得する。修士論文の再検討と査読論文の執筆を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2 回（3・4）	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
3 回（5・6）	論文作成に向けた個別指導 研究テーマ	各自の研究テーマに即して必要な論文購読等、個別指導を行う
4 回（7・8）	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究レビュー等、個別指導を行う
5 回（9・10）	論文作成に向けた個別指導 先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、先行研究等、個別指導を行う
6 回（11・12）	論文作成に向けた個別指導　先行研究レビュー	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7 回（13・14）	論文作成に向けた個別指導 RQ の設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切な RQ を設定するため、個別指導を行う
8 回（15・16）	論文作成に向けた個別指導 RQ の設定	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビューから適切な RQ を設定するため、個別指導を行う
9 回（17・18）	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
10　回（19・20）	論文作成に向けた個別指導 分析手法の検討	各自の研究テーマに即して必要な量的、質的分析手法等について、個別指導を行う
11　回（21・22）	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12　回（23・24）	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
13　回（25・26）	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビュー、分析手法、論文執筆のスキル等、査読論文の投稿に向けた個別指導を行う
14　回（27・28）	論文作成に向けた個別指導 査読論文	各自の研究テーマに即して必要な先行研究レビュー読、分析手法、論文執筆のスキル等、査読論文投稿に向けた個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
各自の研究テーマに合わせて指定する。

【成績評価の方法と基準】
授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSl710R1

地域社会政策特殊研究Ⅱ

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】
地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文の投稿及び掲載を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2 回（3・4）	論文作成に向けた個別指導　文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
3 回（5・6）	論文作成に向けた個別指導　文献調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
4 回（7・8）	論文作成に向けた個別指導　統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
5 回（9・10）	論文作成に向けた個別指導　統計分析	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
6 回（11・12）	論文作成に向けた個別指導　定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
7 回（13・14）	論文作成に向けた個別指導　定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
8 回（15・16）	論文作成に向けた個別指導　定量調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
9 回（17・18）	論文作成に向けた個別指導　定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
10　回（19・20）	論文作成に向けた個別指導　定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
11　回（21・22）	論文作成に向けた個別指導　定性調査	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
12　回（23・24）	論文作成に向けた個別指導　結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
13　回（25・26）	論文作成に向けた個別指導　結果と考察	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う
14　回（27・28）	論文作成に向けた個別指導　査読論文	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】
授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
査読論文執筆に向けた具体的な指導を行う。

【Outline (in English)】
In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ARSl720R1

地域社会政策特殊研究Ⅲ

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（必修）**　｜　単位：**4 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
各自の研究テーマに応じた研究指導を行う。文献調査、統計データの分析、質問紙調査等の定量分析、事例研究等の定性的分析を踏まえた政策立案について議論し、博士論文の作成を目指す。

【到達目標】
地域政策、社会政策に関する理論を理解し、分析能力及び政策立案能力を向上させ、査読論文を基に博士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文テーマに沿って個別指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	授業全体のガイダンス	授業の進め方、論文作成に向けたスケジュール
2 回（3・4）	論文作成に向けた個別指導　博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
3 回（5・6）	論文作成に向けた個別指導　博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
4 回（7・8）	論文作成に向けた個別指導　博論の構成	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
5 回（9・10）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
6 回（11・12）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
7 回（13・14）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
8 回（15・16）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
9 回（17・18）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
10　回（19・20）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
11　回（21・22）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
12　回（23・24）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
13　回（25・26）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。
14　回（27・28）	論文作成に向けた個別指導　博論執筆	各自の研究テーマに即して必要な論文購読、分析手法、論文執筆のスキル等、個別指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自の研究テーマに応じて取り上げた文献の購読、論文の作成。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
各自の研究テーマに合わせて指定する

【成績評価の方法と基準】
授業における議論、発表、論文によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
In this course, research guidance will be conducted according to each student's research theme for preparing doctoral dissertations. Students learn analysis of statistical data, quantitative analysis such as questionnaire survey, qualitative analysis and policy planning.

ECN590R1

経済政策特殊講義（実証分析入門）

柿野　成美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文執筆においては先行研究を丁寧に読み解くことが不可欠である。本講義は、実証研究を行っている雑誌掲載論文を教材として取り上げ、論文の作法と分析の手法に慣れるとともに、論文ポイントを把握するための読解力を養成することが目的である。

【到達目標】

１．実証研究論文の構成と作法を理解すること、２．先行研究の分析結果の読み方を習得すること、３．各自が今後執筆する論文に関わる実証研究の先行研究を読み進められるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実証分析を行っている査読論文を各自の関心に応じて選び、グループで論文のポイントとなる分析手法や結論の読み方を紐解き、論点を明確にする。授業で扱う論文は、教育、福祉、人材育成、男女共同参画、地域連携、環境など幅広く扱う。事前に用意された論文に事前に目を通してから講義に臨むこと。なお、データ分析の実習は行わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス　実証分析の基礎	実証分析の基本的な考え方について理解する。
2回（3・4）	実証分析論文の収集	図書館の国内外の論文検索機能について理解し、各自の関心に応じた実証分析論文を収集する。
3回（5・6）	実証分析の考え方①	相関係数、有意差検定の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
4回（7・8）	実証分析の考え方②	重回帰分析、ロジスティック回帰分析の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
5回（9・10）	実証分析の考え方③	因子分析・主成分分析等の基本的な考え方について理解し、論文を用いてグループで討議する。
6　回（11・12）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。
7　回（13・14）	先行研究論文の発表と討議	自身の執筆論文に関連した、実証研究で構成された論文を選び、その分析手法、内容検討結果を発表、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。事前に配布する論文を読んでから講義に出席することを前提とする。各自の研究分野に関する雑誌（査読論文が望ましい）にアクセスし、論文を検索する習慣を身につけることを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書はなく、教材を毎回配布する。教材は優れた実証分析で構成された学術論文を予定している。

【参考書】

浦上昌則・脇田貴文（2021）『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書
小塩真司（2021）『第 3 版　SPSS と Amos による心理・調査データ解析　因子分析・共分散構造分析まで』東京図書
小塩真司（2021）『研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析』東京図書

【成績評価の方法と基準】

平常点　５０％
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学術雑誌にアクセスし論文検索ができるパソコン。

【その他の重要事項】

教材で取り上げる論文は、回帰分析、因子分析などの量的分析手法を用いる研究が多いので、それらの考え方に慣れてほしい。

【Outline (in English)】

This course aims to enhance the ability to understand a paper through fast reading by familiarizing students with the structures and research methods of reviewed papers. Course materials will be mostly selected from established journals in Japanese focusing on empirical research on human resources, education, welfare, living economy, and consumer life.

ARSl590R1

経済政策特殊講義（消費者政策論）

柿野　成美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、デジタル化、グローバル化の進展の下で、複雑化・多様化する消費者問題に対し、消費者政策がどのように対応しているのか理解し、SDGs 達成に向けた消費者政策の今後の在り方について検討する。

【到達目標】

身近にある消費者問題に気づき、具体的な事例をもとに消費者政策の現状について理解し、今後の在り方について検討できるようになることを目標とする。主な論点は、1．消費者被害とその対応、2．消費者の自立支援（消費者教育・啓発）、3.SDGs 達成に向けた消費者と企業との共創（エシカル消費・消費者志向経営）である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。授業前半では、消費者庁幹部等をゲストスピーカーに招聘する他、飯田橋にある東京都消費生活総合センターの実地調査を取り入れる。授業後半では、各自で消費者政策に関する具体事例を設定し、発表・討議を行い理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	消費者政策の基本的な考え方や消費者政策の推進体制について学ぶ。
2 回（3・4）	消費者と企業の共創：消費者志向経営とエシカル消費	持続可能な社会に向けた企業と消費者の役割について具体的事例を用いて検討する。
3 回（5・6）	消費者政策の最前線（ゲストスピーカー）	消費者庁幹部をゲストスピーカーに招聘し、消費者政策の最前線について理解すると共に、これからの消費者政策の在り方についてディスカッションする。
4 回（7・8）	地方消費者行政の実際（現地調査）	東京都消費生活総合センター（飯田橋）を訪れ、消費者行政の相談対応の現状と課題について学ぶ。
5 回（9・10）	消費者の自立支援：消費者教育・啓発	学校、家庭、地域、職域における消費者教育の現状と課題について検討する。
6　回（11・12）	個人発表・討議	消費者政策に関する具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。
7　回（13・14）	個人発表・討議・まとめ	消費者政策に関わる具体事例を設定し、その現状と課題について発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から新聞等に目を通し、消費者政策に関連ある諸課題に関心を持つようにすること。

【テキスト（教科書）】

『日本の消費者政策―公正で健全な市場をめざして―』樋口一清・井内正敏、創成社、2020 年、2500 円

【参考書】

『くらしの豆知識 2022』国民生活センター編集・発行、全国官報販売協同組合

『消費者事件　歴史の証言』及川昭伍・田口義明、民事法研究会、2015 年

『消費者教育の未来ー分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】

レポート課題： 50 %、平常点： 50 %

毎回の講義における議論やリアクションペーパーへの記載等を平常点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

This course aims to understand how the consumer policy is responding to the increasingly complex and diversified consumer issues under the declining birthrate and aging population, digitalization, and globalization. In addition, we will consider the remaining issues and the ways to solve them.

ARSl590R1

経済政策特殊講義（生活政策論）

柿野　成美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では公正で持続可能な社会の形成に向けて地域が抱える生活課題を取り上げ、その課題解決に向けた政策の在り方について議論することを目的とする。

【到達目標】

地域における生活課題を設定し、あるべき解決策に向けた政策を具体的に検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義とディスカッションを中心に進める。講義では具体的事例を紹介し、ゲストスピーカーによる講義を取り入れる。授業の後半では、各自で生活に関わる課題を設定し、その解決の方向性について発表・討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	ガイダンス	公正で持続可能な社会の実現に向けた生活政策が求められる背景を理解し、具体的な課題について検討する。
2回（3・4）	地域とつながる学校教育（ゲストスピーカー）	生活者・消費者・市民を育む家庭科教育について取り上げ、地域と学校教育のつながりを創る方策について議論する。
3回（5・6）	行政組織をつなぐコーディネーター	教育行政と消費者行政のつながりをつくる消費者教育コーディネーターの事例を通じて、連携・協働のメカニズムを議論する。
4回（7・8）	消費者と地域企業をつなぐ学習プログラム	地域企業と小学生の親子を対象としたプログラム「SDGs 調査隊」を事例として、企業と消費者の共創に向けた学習プログラムについて議論する。
5回（9・10）	市民協働によるエシカル・サステナブルな地域づくり（ゲストスピーカー）	地域でエシカル・サステナブルに取り組むゲストスピーカーの講義を聞き、課題解決の方法について議論する。
6　回（11・12）	発表・討議	生活に関する具体課題を設定し、その処方箋ついて発表・討議する。
7　回（13・14）	発表・討議・まとめ	生活に関する具体課題を設定し、その処方箋ついて発表・討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。日頃から経済、社会に関する新聞、雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。「生活に関る政策の中で、私が考える最重要課題と解決のための処方箋」についてレポートを作成し発表する。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや参考資料を配布する。

【参考書】

〇政府の白書

内閣府「高齢社会白書」「少子社会対策白書」「子供・若者白書」「障害者白書」「経済財政白書」

厚生労働省「厚生労働白書」「労働経済白書」

環境省「環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書」

消費者庁「消費者白書」等

〇『消費者教育の未来―分断を乗り越える実践コミュニティの可能性』柿野成美、法政大学出版局、2019 年

【成績評価の方法と基準】

授業中の議論への参加度（50 %）、最終レポート（50 %）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the basic concepts that contribute to the realization of livelihood policies for the formation of a fair and sustainable society and to discuss the state of regional policies through specific examples.

MAN590R1

雇用政策特殊講義（雇用政策研究（マクロ））

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働市場において働く人々のキャリア形成支援、職業能力開発、若年・女性・高齢者・外国人などの雇用への対応をめぐる多くの施策の有効な展開は、日本における喫緊の課題であり、その雇用政策全般（マクロ）について検討する．少子高齢化，グローバル化，知識基盤社会化のなかで，雇用はどのような課題を担い、どのように対策を講ずることが適切であるかを考える。
様々な組織において、雇用・人事管理施策・人的資源管理にかかわる仕事を行う実務家、または，これらに興味のある人を念頭に，雇用とはいかにあるべきかを、総論的に検討する．ただし、雇用の実務に直接関係ない院生にも，雇用に関心があり、仕事経験があれば、もちろん履修可能である。

【到達目標】
雇用プログラムの入門的な位置づけにある科目。雇用・人事管理施策・人的資源管理の全体的な展望を得ていただくことを目的にする。現状、沿革、国際比較などについて、総論的な知識を獲得するとともに、雇用を考える際の勘所を養っていただくことを到達目標に置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
雇用の歴史的背景、国際比較、職業能力開発、キャリア形成支援、日本的雇用など、広い視点から、多角的な検討を行う。
各回の授業は，講義と議論の両者を併用して進める．毎回のテーマにそって講義を進めたのち，関連した課題をめぐり，受講生がいくつかのグループをつくって議論し，その結果を報告し，相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う．必要なコメントも最後に与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	雇用の定義、論点および、雇用の歴史	– そもそも雇用の定義、範囲は何を意味するのか。また、当たり前と思い込んでいる雇用の論点を、あらためて考え直してみる。また、日本型雇用はいつ形成されたのか、その歴史を探る。
2 回（3・4）	日本的雇用と雇用の国際比較	そもそも、日本的雇用とは何を意味するのだろうか。通説は正しいのか。日本と他国を国際比較すると、本質的な共通点と違いはどのようなものだろうかか？
3 回（5・6）	雇用の流動化、内部労働市場と外部労働市場	雇用の流動化の必要性が指摘されているが、そもそもその定義、また流動化がもたらすものとは？ さらに、労働市場の基本構造を考える
4 回（7・8）	職業能力開発	職業能力開発とは、通常の人材開発となにが違うのか？ 環境変化を踏まえ、求められる職業能力開発を考える
5 回（9・10）	非正規雇用、新卒一括採用、女性活躍兼業・副業など柔軟な働き方	非正規雇用という問題が注目されているが、その本質は何か？ 日本特有の慣行と言われる、新卒一括採用の是非を検討する。さらに、女性活躍について考える
6 回（11・12）	兼業・副業と雇用によらない働き方	兼業・副業、フリーランスなど新しい柔軟な働き方はなぜ生じたのか、その効果と課題について分析する。
7 回（13・14）	ミドル・シニアの働き方とまとめ	日本型雇用において、ミドル・シニアの現状はどのようなものか。その課題と今後の方向性を考える。さらに授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
雇用に関連した事項を広く勉強することが望ましいです。
1. 必須文献として指定された本を選択し、書評レポートを書くこと
2. 授業で配布される資料、論文などに目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用しないが，以下に掲げる 7 冊から 1 冊を選び、書評レポートをお願いする（どちらも早目に入手するか、図書館で借りるように）．このほか別途に挙げる主な参考書，授業でその都度，必要に応じて紹介する文献などを参照していただく．また，毎回の授業にはレジュメや参考資料を配付する予定．
1. ビーター・キャベリ（若山由美訳）『雇用の未来』日本経済新聞社,2001 年
2. 清家篤『雇用再生―持続可能な働き方を考える』NHK 出版,2013 年
3．山田久『失業なき雇用流動化』慶応義塾大学出版会，2016 年
4. 永野仁『労働と雇用の経済学』中央経済社,2017 年
5. 玄田有史『30 代の働く地図』岩波書店,2018 年
6. 山田久『賃上げ立国論』日本経済新聞出版社,2020 年
7．川上淳之『副業の研究』慶應義塾大学出版会，2021 年

【参考書】
・労働経済白書
・『日本労働研究雑誌』などの研究雑誌に掲載される論文

【成績評価の方法と基準】
評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点），② 2500 字以上の長さの科目レポートの得点（65 点満点）で，両者を足した総得点を規定による評価基準にそって評価する．ただし，これ以外に，必須の小レポートとして、書評レポートを課す．終了時に提出を求める科目レポートは，授業内容を自分なりに消化し，できるだけ自分の最終課題（修士論文テーマ）に引きつけて書くことが望ましい．

【学生の意見等からの気づき】
文献は、科目履修を決めた場合、出来るだけ早く図書館などで借り出すか、入手しておいていただきたい。なお、どうしても入手できない者のために、代替的な図書を指示することがある。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではパワーポイントを使うことがある．

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Employment Policy. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment, human resource management policies, and human resource management.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end reports : 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1

雇用政策特殊講義（人的資源管理論）

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義においては、変わりつつある日本的雇用を背景に、今後の人的資源管理をどのように設計・運用していくべきか、という点に焦点をあてる。人的資源管理に携わる人のみならず、企業の経営、人事施策、キャリア施策に興味を持つ人は、広く対象となる。人的資源管理論の知識を講義で解説した後に、受講者で今後の方向性を議論していくことにより、新しい知見の生成を目指していく。
参加型とし、受講生自身が選択した人的資源管理に関する事例（企業、公的団体、非営利を問わず組織の事例）について報告することを求める。

【到達目標】
人的資源管理の定義、概念、最新の動向を理解し、企業の組織経営、人事施策という大きな視野の中での位置づけることができるようにする。それを通じて、実際の企業／組織における人的資源管理を設計、運用、実施できるようになる知識とセンスの習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
人的資源管理の歴史的背景、日本的雇用の変化と課題、グローバルにおける人的資源管理の最新動向などを講義、解説したうえでグループディスカッションを行い、あるべき方向性を全員でつくりあげていく。また受講者相互の発表により、グローバルの状況、日本の状況の実態の理解を深める。
また、人的資源管理は、経営理論、リーダーシップ理論、キャリア理論との関係も重要である。こうした理論との関係性を踏まえながら、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人的資源管理の定義、歴史的背景、理論的背景	人的資源管理の定義を行い、どのような歴史的背景、理論的背景があるのかについて分析を行う。
2 回（3・4）	組織開発と組織行動	人的資源管理との関連において、組織開発と組織行動の重要概念について、分析、考察する。
3 回（5・6）	日本的雇用と職務	変化しつつある日本的雇用の状況を分析する。その変化を踏まえ、日本における職務主義と職能資格の実態を考察する
4 回（7・8）	戦略的人的資源管理と人事部の機能・役割	特に欧米における人的資源管理論の発展には戦略的人的資源管理論の貢献が大きく、経営戦略との結びつきが基礎となっている。この観点から分析を行う。それを踏まえて、人事部門の機能・役割がどうあるべきなのかについて考えていく。
5 回（9・10）	タレントマネジメントおよび受講者による事例発表	タレントマネジメントには、人材ポートフォリオ、報酬、評価、職務評価、目標管理、リテンションなど様々な要素がある。各要素とその統合の必要性を、タレントという観点から分析する。また、受講者による事例発表を行う。
6 回（11・12）	受講者による事例発表	受講者による事例発表を行う。
7 回（13・14）	受講者による事例発表とまとめ	受講者による事例発表と授業の総括として、人的資源管理の未来のあり方の総合的な考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、講義だけなく、グループ討議を積極的に取り入れていく。自分の所属する組織における人的資源管理についての問題意識を持ち、グループ討議にいかしていただきたい。
また講義で示す参考書については、積極的にお読みいただきたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ノートについては、毎回の授業で配布する。

【参考書】
石山恒貴『日本企業のタレントマネジメント』中央経済社,2020 年
石山恒貴　『組織内専門人材のキャリアと学習』　生産性労働情報センター　2013 年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版,2018 年

【成績評価の方法と基準】
評価は、①授業における議論の実施状況による得点（1 回あたり 5 点満点で計 35 点満点）、②受講者による事例発表の得点（65 点満点）で、両者を足した総得点を規定による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】
実務面の参考にしていただくべく、豊富な実例の紹介を行う

【学生が準備すべき機器他】
授業ではパワーポイントなど PC を使うことがある。

【その他の重要事項】
各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Human Resource Management. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Management.
Goal
At the end of the course, students are expected to understand the definitions, concepts, and current trends in human resource management
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1

雇用政策特殊講義（人材育成論）

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営学における人材育成という観点で、キャリア理論も含めて幅広く議論する授業である。不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察していく授業。
参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【到達目標】
不確実で変化の激しい環境化において、従来のような長期的な安定を全体にした人材育成の考え方は通用しなくなってきている。そのような不確実な環境における人材育成のあり方を、人材育成理論とキャリア理論を踏まえて考察できる視点を確立することを目的とする。また国際的な人材育成の視点を確立することも目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
人材育成とキャリアに関する幅広い理論と議論を紹介しつつ，日本の現在における人材育成を考える。また国際的な視点も考慮する。
各回の授業は、講義と議論の両者を併用して進める。毎回のテーマにそって講義をしたのち、関連した課題をめぐり、受講生がいくつかのグループをつくって議論し、その結果を報告し、相互に批判的な検討を加えるなどのディスカッションを行う。
参加型とし、受講生自身が選択した人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について報告することを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人材育成の定義と能力開発	人材育成について議論を進めていくために、それらの基本的な考え方、基本用語の定義、理論枠組みなどを考える。また、能力開発の詳細についても、検討する。
2 回（3・4）	キャリア理論	人材育成におけるキャリア理論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
3 回（5・6）	リーダーシップ理論	人材育成におけるリーダーシップ論の位置づけ、実務への応用、発展性について考える。
4 回（7・8）	実践共同体と越境的学習	学習理論の発展とも深い関係がある実践共同体と越境学習について、特に状況学習論との関係で考える。
5 回（9・10）	経験学習とジョブ・クラフティングおよび事例発表	学習理論において大きな比重を占める経験学習、および近年注目されるジョブ・クラフティングについて考える。さらに、受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する。
6 回（11・12）	事例発表	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、議論する。
7 回（13・14）	事例発表および人材育成の未来とまとめ	受講者が、人材育成に関する事例を発表し、発表し、議論する、および授業の総括として、人材育成の未来について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いずれかの人材育成に関する事例（企業、非営利組織、地域事例、諸外国の事例など）について調査し、授業内で発表する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業で配布するパワーポイントをテキストとして使用する。

【参考書】
労働政策研究・研修機構『新時代のキャリアコンサルティング』2016 年
石山恒貴『越境的学習のメカニズム』福村出版、2018 年

【成績評価の方法と基準】
評価は，①授業における議論の実施状況による得点（1 回当たり 5 点満点で計 35 点満点），②各自が分担する事例発表の得点（65 点満点）で，両者を足した総得点による。

【学生の意見等からの気づき】
理論の実務面への応用に受講者の興味・関心があるため、その点を重視して進める。

【学生が準備すべき機器他】
授業でパワーポイントを使うことがある。

【その他の重要事項】
受講者の事例発表が求められることにご留意いただきたい。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of Human Resource Development. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Human Resource Development.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on human resource development theory and career theory.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

MAN590R1

雇用政策特殊講義（地域雇用政策事例研究）

石山　恒貴

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域における雇用につき国内の事例を調査研究する科目。先進的な事例、成功・失敗事例などの特色ある顕著な例を取り上げて多様なケーススタディを行う。
地域活性化における人材育成のあり方、コーディネーターのあり方、実践共同体などネットワークの構築方法についても議論する。
地域雇用のあり方を、事例を通じて検討していく。参加型で、受講院生自身が選択した地域について事例研究をし、報告することを求める。

【到達目標】
事例を通じて雇用を地域の観点から学習する科目。各人が特定の地域を選んで報告することが必須要件であるが、それを通じて地域と雇用とキャリアをみる視点が広がっていくことが主な目的となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
広い意味で雇用あるいは地域にかかわる仕事を行うか、または、これらに興味のある人を念頭に、地域雇用とはいかにあるべきかを、事例分析的に検討していく。
受講生がどこか一地域を担当して、その雇用の状況に関して、授業内で発表していただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	地域雇用の定義と背景	そもそも地域雇用の定義、範囲、歴史とはどのようなものなのか、地域雇用の成功事例の共通点は何かを考える。
2 回（3・4）	地域における創造的な人材の集積	地域雇用においては、如何に創造的な人材が集まるかによって、競争力が左右される。UIJ ターンを含め、創造的な人材を集めた成功例を考える。
3 回（5・6）	地域のサードプレイスと関係人口	ゲスト講師の可能性もある。地域においては、その活性化においてサードプレイス（NPO、プロボノ、読書会など）や、よそものが地域に関わる関係人口という考え方が重要になっている。この新しい切り口を検討する。
4 回（7・8）	働き方の形態と地域	地域においては、新しい柔軟な働き方が生じつつある。二地点居住、副業、ワーケーション、新しい自営など、働き方と地域について考える。
5 回（9・10）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その 1）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
6 回（11・12）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討（その 2）	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する。
7 回（13・14）	地域雇用の対比 – 地域雇用の諸事例の対比と検討 (その 3）地域雇用の未来とまとめ	地域雇用の諸事例を、受講者が発表し、議論する、および授業の総括として地域雇用の未来を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生は以下のような事項に留意することが望まれる。
1．いずれかの地域を選び、その雇用状況と課題について、実地に調べること（その成果を授業中に発表していただく）
2．地域雇用政策をめぐる記事、番組などに注意を払うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業の都度配布する講義ノートによって行うので、教科書は使用しない。授業の際に、参考文献リスト等を配布することがある。

【参考書】
以下に掲げる主な参考書のほか、授業では地域雇用政策をめぐる各種論文、資料などを、その都度、必要に応じて紹介する。
石山恒貴編『地域とゆるくつながろう－サードプレイスと関係人口の時代』静岡新聞社　2019 年

【成績評価の方法と基準】
①授業における議論の実施状況による得点（1 回当り 5 点満点で計 35 点満点）、②各自が分担する地域雇用政策の事例研究の報告による得点（65 点満点）の合計点を、規程による評価基準に沿って評価する。

【学生の意見等からの気づき】
地域をみる視点が変わってきたとの反応があるので、その到達目標には今年度も留意したい。

【学生が準備すべき機器他】
場合によってパワーポイントによる投影などを行う。事例発表の際にパワーポイントを用いるか、それともレジュメのみにて行うかは任意。

【その他の重要事項】
各人の事例研究報告が課されていることに留意して受講すること。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Regional Employment Policy .At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Regional Employment Policy.
Goal
At the end of the course, students are expected to gain an overall perspective on employment and human resource strategies for regional revitalization.
Work to be done outside of class (preparation, etc.)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Presentation of case study assigned by each student: 65%、in class contribution: 35%

ARSl590R1

地域社会政策特殊講義（ウェルビーイング論）

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、ウェルビーイングが国内外の政策や企業経営においても重要なテーマとして注目されている。身体的・精神的・社会的に良好な状態を示し、幸福、健康、福祉と訳されることもあるウェルビーイングについて、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた学術分野での研究成果を学び、地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングな状態で生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かについて議論し、政策提言に必要な知識及び視点を養う。

【到達目標】
ウェルビーイングについての学術分野での研究成果、ウェルビーイングの測定、地域や企業における実践を踏まえ、ＥＢＰＭ（根拠に基づく政策形成）に資する政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
ウェルビーイングに関する学術的知見についてはできるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、地域や企業における実践についてワークショップや討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション：ウェルビーイングとは何か	ウェルビーイングの概念及び測定について学術的な知見を学び、ウェルビーイングとは何かについて議論する。
2 回（3・4）	ウェルビーイングの規定要因	ウェルビーイング（幸福）に関する心理学、経済学からウェルビーイングの規定要因について学び、議論する。
3 回（5・6）	ウェルビーイングに関する政策	世界各国及び日本におけるウェルビーイングに関する政策を学び、政策のあり方について議論する。
4 回（7・8）	お金とウェルビーイング（ワークショップ）	お金と幸せについてのワークショップを通じ、お金とウェルビーイングの関係について議論する。
5 回（9・10）	企業におけるウェルビーイング	健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を学び、幸福な働き方について議論する。
6 回（11・12）	地域におけるウェルビーイング	地域におけるウェルビーイングについて、人とのつながりや文化的な観点を含めて議論し、実践例を学ぶ。
7 回（13・14）	課題発表	各自が関心を持つ領域におけるウェルビーイングを実現する政策（方策）について発表とディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ウェルビーイング（幸福、健康）は身近なテーマであり、自分の関心のある領域について参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
内田由紀子『これからの幸福について　文化的幸福観のすすめ』2020 年、新曜社
大竹文雄 , 白石小百合 , 筒井義郎『日本の幸福度　格差・労働・家族 』2010 年，日本評論社
小塩隆士『「幸せ」の決まり方　主観的厚生の経済学』2014 年，日本経済新聞社
キャロル・グラハム（多田洋介訳）『幸福の経済学』2013 年，日本経済新聞出版社
経済協力開発機構『ＯＥＣＤ幸福度白書２―より良い暮らし指標：生活向上と社会進歩の国際比較』2015 年，明石書店
島井哲志『幸福の構造 – 持続する幸福感と幸せな社会づくり　あなたの幸せは何に左右されているか？』2015 年，有斐閣
橘木俊詔『「幸せ」の経済学』2013 年，岩波書店
友原章典『会社ではネガティブな人を活かしなさい』2021 年，集英社新書
ブルーノ・Ｓ・フライ（白石小百合訳）『幸福度をはかる経済学』2012 年，ＮＴＴ出版
デレック・ボック（土屋 直樹 , 茶野 努, 宮川 修子 訳）『幸福の研究―ハーバード元学長が教える幸福な社会』 2011 年，東洋経済新報社
前野隆司『幸せのメカニズム – 実践・幸福学入門』2013 年，講談社現代新書
矢野和男『文庫　データの見えざる手　ウエアラブルセンサが明かす人間・組織・社会の法則』2018 年，草思社文庫
矢野和男『予測不能の時代 データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』2021 年，草思社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』2019 年，光文社新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加・貢献）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新設科目のため該当しない

【Outline (in English)】
In recent years, well-being has been attracting attention as an important theme in national policies and corporate management. In this course, we will study the results of research on well-being in various academic fields such as psychology, economics, and business administration. We will discuss what kind of measures are necessary in regional policies and corporate management for people to live and work with well-being , taking up practical examples in regions and companies, and cultivate the knowledge and perspectives necessary for policy proposals.

ARSl590R1

地域社会政策特殊講義（少子高齢化と社会保障）

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の人口減少、少子高齢化、それに伴う社会保障費の増加は日本社会にとって最大の課題となっている。本講義では、日本の少子高齢化、人口減少の背景と経済、社会、地域への影響、財政悪化の最大の要因となっている社会保障費の増加にどのように対応すればよいのか等について議論し、政策提言に必要な知識及び視点を得る。

【到達目標】
日本の人口構造の変化等の基本的な課題について理解するとともに、社会保障の基本的な考え方と年金、医療、介護等の現状について基礎的な知識を習得し、政策立案・遂行に必要な視点を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
日本及び各国の少子高齢化と社会保障の現状と課題について、できるだけデータに即した客観的な視点を提示し（講義）、課題解決の方法について討議を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人口構造の変化と将来展望	日本及び地域別の人口構造の変化と将来展望について講義し、その社会・経済的影響について議論する。アジア地域の少子高齢化や移民問題についても議論する。
2 回（3・4）	少子化の背景と子育て支援策	少子化の経済・社会的背景とその影響及び子育て支援策について議論する。
3 回（5・6）	人口構造の変化と社会保障	日本の高齢化の現状と経済への影響及び社会保障の基本的な考え方について議論する。生活保護、ベーシックインカムについても議論する。
4 回（7・8）	人口構造の変化と年金制度	日本の年金制度創設の背景、制度改革の内容、各国の年金制度の比較等を提示し、どのような年金制度が望ましいのか、議論する。
5 回（9・10）	高齢化と医療政策	日本の医療の特徴、制度改革の内容、各国の医療の比較等を提示し、どのような医療政策が望ましいのか、議論する。
6 回（11・12）	高齢化と介護政策	公的介護保険創設の背景と介護の現状及び課題について提示し、どのような介護政策が望ましいか、議論する。
7 回（13・14）	課題発表	各自の関心あるテーマについて発表と議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
少子高齢化、社会保障は身近な問題であり、ニュース等で取り上げられることも多いため、日頃から新聞、ニュース報道に接し、問題意識をもっておくことが望ましい。自分の関心のあるテーマについては参考図書に挙げた書籍を読んでおくと役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回レジュメや参考資料を配布する

【参考書】
○政府の白書等
内閣府「国民生活白書」「高齢社会白書」「少子社会白書」厚生労働省「厚生労働白書」
○その他
エスピン－アンデルセン『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房
阿部彩『子どもの貧困』岩波新書
池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫
大竹文雄・平井啓 (編著)『医療現場の行動経済学　すれちがう医者と患者』東洋経済新報社
大泉啓一郎『老いてゆくアジア』中公新書
小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
河野稠果『人口学への招待』中公新書
小峰隆夫『人口負荷社会』日経プレミアシリーズ
柴田悠『子育て支援が日本を救う』勁草書房
友原章典『移民の経済学』中公新書
永吉希久子『移民と日本社会』中公新書
山口慎太郎『子育て支援の経済学』日本評論社
山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書
山崎史郎『人口減少と社会保障－孤立と縮小を乗り越える』中公新書
吉川洋『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への参加）（30 %）、各回の課題（20 %）、最終レポート（50 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ディベート形式のディスカッションを取り入れ、学生の多様な意見を授業に活かす。

【Outline (in English)】
This course deals with the problems of Japan's declining birthrate and aging population, population decline, we discuss its background and its impact on economy and society. Students will discuss what policies are desirable for social security such as pension, medical care, nursing care etc.

ARSl590R1

地域社会政策特殊講義（地域活性化システム論）

高尾　真紀子

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域活性化の様々な角度から焦点を当てて、内閣府の協力の下に、学外講師（関係省庁、自治体の政策担当者、民間専門家、有識者）が講義に臨み、受講者と直接ディスカッションを行う。受講者は地域活性化の現場で役立つ多角的な視点と実践的な知識を得ることを目指す。

【到達目標】
学外講師（関係省庁の政策担当者、有識者、民間専門家）とディスカッションを行うことにより、地域活性化をめぐる現状や課題、政策的知見を共有し、地域活性化に関する提言をまとめることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は対面を基本とし、一部地方とつなぐ等、オンラインを併用して実施する。毎回、学外講師による講義の後、受講者とディスカションを行う。また、受講者は毎回の講義テーマと関連し地域活性化に関するグループディスカッションを行う。最終日には地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）を利用し、データに基づく地域活性化の提言をまとめて発表することが求められる。
地域活性化を多様な角度からとらえることとしているが、毎年統一テーマを決めて、講義内容や講師を検討している（2018 年度：世界とつながる、2019 年度：人を育てる、2020 年度：都市と地方、2021 年度：地域のウェルビーイング、2022 年：関係人口と地域）。2023 年度のテーマは直近の社会経済情勢を踏まえて決定する予定。
参考までに、以下に 2022 年度の内容を記す（講師の肩書きは講義時のもの）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	講義 受講生によるディスカッション 1 担当教員によるまとめ	「地方創生の推進について」 内閣府地方創生推進室　矢野　純也氏
2 回（3・4）	講義 受講生によるディスカッション 2 担当教員によるまとめ	明治大学客員教授　農業ジャーナリスト　榊田みどり氏「農業政策と関係人口の創出」
3 回（5・6）	講義 受講生によるディスカッション 3 担当教員によるまとめ	株式会社価値総合研究所　主席研究員　鴨志田武史氏 「地方創生とＲＥＳＡＳ (地域経済分析システム)」
4 回（7・8）	講義 受講生によるディスカッション 4 担当教員によるまとめ	特定非営利法人　土佐山アカデミー事務局長 吉冨慎作氏 「過疎地域における関係人口の創出」遊びと学びの境界をな
5 回（9・10）	講義 受講生によるディスカッション 5 担当教員によるまとめ	島根県教育魅力化特命官 一般社団法人　地域・教育魅力化プラットフォーム　代表理事　岩本悠氏 「地域みらい留学を通じた教育魅力化と well − being な地域づくり」
6 回（11・12）	講義及び対談 受講生によるディスカッション 6 担当教員によるまとめ	株式会社パーソル総合研究所　主任研究員　井上亮太郎氏 「地方移住とウェルビーイング」
7 回（13・14）	受講生による発表 担当教員によるまとめ	各自が対象地域を設定し、分析に基づく地域活性化の方策について発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日頃から地域活性化に関する新聞や雑誌記事、ニュースなどを読み、政策に関する自分なりの見解を持つ習慣を身につけること。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ごとにレジュメを配布する。

【参考書】
前野隆司編著『システム × デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社
木下斉『地方創生大全』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
平常点 (1/3)、授業への貢献 (1/3)、発表の内容（1/3）を総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】
Zoom のブレークアウト・セッションの利用による講師とのディスカッションが好評だったため、地方在住の講師を招いてディスカッションできるよう、オンラインと対面を併用した講義とする。

【学生が準備すべき機器他】
ＰＣを接続して画面をスクリーンに表示できる設備
ＤＶＤの動画番組をスクリーンに表示できる設備

【その他の重要事項】
※オンライン授業の受講方法は学習支援システムに表示します。
※講義概要は講師の都合等により変更がある場合があります。

【Outline (in English)】
In this course, focusing on various angles of regional revitalization, guest lecturers such as practitioners, experts, administrative staff etc. give lectures and discuss directly with the students. This lecture is under the cooperation of the Cabinet Office.

ARSx590R1

都市政策特殊講義（地域社会論）

上山　肇

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会とまちづくり：地域まちづくりの観点から地域社会を考えます。

【到達目標】
地域社会を形成している諸要素（計画、ルール、コミュニティ、住民参加等）を認識しつつ、良好な地域社会が具体的にできあがるまでのシステムとプロセスを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
地域社会学のポイントを押さえながら、特に「まちづくり」の観点から具体的な事例を通して実践的な視点を養います。授業の一部に替えて視察を行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	はじめに	本授業で取り扱う範囲及び地域社会学の概論（理論と方法）について話します。
2 回（3・4）	都市と農村	「都市と農村」の分野の中から、特に「都市」における‘混住地域’などをテーマに授業を進めます。事例研究 (1)
3 回（5・6）	空間と場所	人が「都市」という場・空間でどのように生きているのかということについ、‘サスティナブル・シティ’などに焦点をあてて授業を進めす。事例研究 (2)
4 回（7・8）	リージョンとコミュニティ	地域社会学における基本理念である「リージョンとコミュニティ」の分野の中から‘地域社会とまちづくり’などに焦点をあてて授業を進めす。事例研究 (3)
5 回（9・10）	分権と自治	地域社会形成を考える上で重要なテーマである「分権と自治」について、自治体研究 を行い、同時に‘地方分権権’や‘参加’、‘ルール’等について考えます。事例研究 (4)
6 回（11・12）	開発と福祉	「開発と福祉」というテーマは、地域社会学の研究の中でも応用的な研究になりますが、特に‘再開発’や‘福祉のまちづくり’といったことに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (5)
7 回（13・14）	土地と環境	論点が広い「土地と環境」の中でも、特に‘都市計画’や‘景観’などに焦点をあてて授業を進めます。事例研究 (6)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、発言 20%、レポート 30%で行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が一層活発に議論が展開できるような内容の工夫。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
皆さんがこれから進めていく研究や論文を書くためのヒントを少しでも多く与えられればと考えています。受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course introduces local community and community development to students taking this course.

[Learning Objectives]
1.Recognize the elements that make up the community (plans, rule communities, community participation, etc.).
2.Understand the systems and processes that lead to the concrete formation of a good community.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria / Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1

都市政策特殊講義（都市空間論）

上山　肇

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市空間の成立条件（構成要素、計画、ルール、プロセス等）について学び、都市空間形成に関する能力を養います。

【到達目標】
都市政策立案に必要な都市空間に関する基本事項を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
都市空間の計画的利用を立案する行政、開発事業者、民間プランナーなどにとって必要な知識を、理論と実践（実務）の両方の視点から解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	(1) 地域社会における都市空間 (2) 都市環境と都市空間を取り巻く状況	(1)「まちづくり」とは (2) 都市化と都市問題
2 回（3・4）	(1) 都市空間の構成要素 (2) 都市空間を実現するための手段	(1) 建築と敷地、緑と都市、オープンスペース (2) 計画、ルール、事業　等
3 回（5・6）	(1) 都市空間の形成プロセス (2) 都市空間の規制手法１	(1) 市民参加と合意形成　等 (2) ゾーニングの歴史と理論
4 回（7・8）	(1) 都市空間の規制手法２ (2) 都市空間における景観	(1) ゾーニングと地区まちづくり (2) 景観コントロール
5 回（9・10）	(1) 都市空間の開発手法 (2) 都市空間の再生	(1) 都市再開発の仕組み　等 (2) 中心市街地の活性化
6 回（11・12）	(1) 都市空間の評価手法 (2) 事例研究１（事業）	(1) 評価の仕組み、具体的まちづくりの評価 (2) 土地区画整理事業、再開発事業、密集事業　等
7 回（13・14）	(1) 事例研究２（制度） (2) 事例研究３（テーマ型）	(1) 地域地区、地区計画　等 (2) 水辺空間の再生（国内・海外事例）　等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んできてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、発言 20 %、レポート 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、事例紹介が学生にとって有効であるため、今年度もできるだけ多くの事例（現地視察を含む）を授業に取り入れたいと考えています。

【その他の重要事項】
受講生と相談した上で、通常授業（1 回程度）を休日を利用し現地視察に振り替えることがあります。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In this course, you will learn about the conditions for establishing urban space (components, plans, rules, processes, etc.) and develop the ability to form urban space.
[Learning Objectives]
This course will help you understand the basics of urban space needed for urban policymaking.
[Learning activities outside of classroom]
Please read the materials to be distributed.
[Grading Criteria / Policy]
Your final grade will be calculated according to the following process: Attendance (50%), Comment (20%), and Reports(30%).

ARSx590R1

都市政策特殊講義（まちづくり事例研究）

上山　肇

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
具体的な都市や地域を対象として、資料収集やフィールドワークを行い、地域資源を活用した都市や地域のあり方を提示するとともに、今後の都市再生やまちづくりの手法を創造します。

【到達目標】
フィールド調査（あるいは資料分析）にもとづいた成果をまとめ、同時にプレゼンができる能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
これからのまちづくりは、都市や地域に積層する歴史や文化、また地域のコミュニティを活かしながら行っていくことが求められています。都市における既存の空間や景観に埋もれている資源、地域コミュニティ形成の実態を探るための調査や分析手法を学び、それらを表現する方法を習得します。学生による作品提出が課題となるため、受講生と相談したうえで授業を変則で行う場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス	当科目での課題について説明します。
2 回（3・4）	テーマ設定	調査対象地（商店街、住宅地、公園、水辺、地域コミュニティの具体例等）を選定します。
3 回（5・6）	事例研究及び作業①	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
4 回（7・8）	事例研究及び作業②	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
5 回（9・10）	フィールド調査	調査対象地でのフィールドワークの結果について整理します。
6 回（11・12）	事例研究及び作業③	各自の調査対象地の先行研究や情報について整理します。
7 回（13・14）	発表	各自、事例研究及び作業の成果をプレゼンします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査対象地に関する資料収集とフィールドワーク

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
講義の中で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、発言 20 %、作品 30 %で行います。

【学生の意見等からの気づき】
学生が時間内に課題（作品）を作成するための時間を確保しやすくできるよう授業を工夫する。

【Outline (in English)】
This course introduces the state of the city and the area utilized area resources, the technique of the city revival and the community development to students taking this course.

ARSl590R1

文化政策特殊講義（都市文化論）

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市と文化の関わりについての議論を学際的に行っていくが、基本的に経年的なアプローチを重視していく。都市の拡大とともに変容していく文化の諸相の考察が本授業のテーマになる。学生には都市文化を学んでいくための幅広い知識の習得を期待している。

【到達目標】
都市論の様々な議論を前提にした文化創出の政策的な手法、方法を理解することを到達目標としたい。とくに都市政策の面においても文化の活用は重要になってきているので、学生は具体的な事例を知識として習得することが必要で、それを自分なりに多角的に考察する姿勢を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
都市政策を考える上で、都市が内包する文化を把握することが極めて重要である。特にコミュニティ形成や新たな産業創出の上でも比重が高まってきているといえるだろう。本授業では 1960 年代以降に日本で盛んになってきた都市論全般を見ていくことから始めていくが、特に文化との関係性の強いものを中心に取り上げていく。文化面が強調されていくのは 1980 年以降になるが、前田愛、吉見俊哉などのいわゆるテクスト分析型の都市論、そして 1990 年代以降のカルチュラルスタディーズ、文化社会学領域での都市論までを概観していく。また都市文化を象徴する都市装置（劇場、映画館、カフェなど）にも着目、都市文化の生成に果たした役割も見ていきたい。ポップカルチャーもひとつの都市の文化として扱っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンスと都市論の系譜/Genealogy of guidance and urban studies	都市文化に関する基礎知識/Basic knowledge about urban culture
2 回（3・4）	近代においての都市形成と博覧会の果たした役割/The role played by urban formation and expositions in modern times	都市形成とイベント/City formation and events
3 回（5・6）	「考現学入門」解読とカフェ論/Deciphering "Introduction to Thinking and Learning" and Cafe Theory	フィールドワークの事例紹介と都市文化装置としてのカフェ/Case study of fieldwork and cafe as an urban cultural device
4 回（7・8）	百貨店論、東京への文化的装置の集中/Department store theory, concentration of cultural equipment in Tokyo	都市文化装置としての百貨店、文化装置の東京への集中過程/Department store as an urban cultural device, the process of concentrating cultural devices in Tokyo
5 回（9・10）	東京への文化的装置の集中、映画や小説の中の東京/Concentration of cultural equipment in Tokyo, Tokyo in movies and novels	文化装置の東京への集中過程、映画や小説の中に見る東京の変容/The process of concentration of cultural equipment in Tokyo, the transformation of Tokyo seen in movies and novels
6 回（11・12）	アジアの諸都市/Asian cities	アジアの諸都市にみられる文化の変容を見ていく、例：バンコク、マニラ/Look at the cultural transformations of Asian cities, eg Bangkok, Manila
7 回（13・14）	都市と異文化受容、都市というメディア/The media of cities, cross-cultural acceptance, and cities	異文化の受容による都市文化の変容、都市をメディアととらえるアプローチ/Transformation of urban culture by accepting different cultures, approach to seeing cities as media

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしてきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用

【参考書】
授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
都市文化を地域再生に結びつける方策について適宜、議論していく。授業の内容も適宜、工夫していく。

【学生が準備すべき機器他】
PC.DVD の使用もある。

【その他の重要事項】
多少、内容等が変わる可能性もある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
Discussions on the relationship between cities and culture will be conducted interdisciplinaryly, but basically we will emphasize aging approaches. The theme of this lesson is the consideration of various aspects of culture that transforms as the city expands. I expect students to acquire a wide range of knowledge to learn urban culture.

ARSl590R1

文化政策特殊講義（コンテンツツーリズム論）

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、コンテンツツーリズムが注目を集めてきている。従来的にいえば「聖地巡礼」ということになるのであろうが、ファンがコンテンツ作品に興味を抱いて、その舞台を巡るというものである。こうして記すと別に目新しいものではないという見方もできるであろうが、現在のコンテンツツーリズムは単に観光文脈だけではなく、地域の再生や活性化と結びついている点が重要である。本講義では国内の事例を中心にその展開過程、また今後の国の捉え方や新たなスキーム創出までを射程に入れて論じていく。

【到達目標】
到達目標としてはそれぞれの事例を分析し、評価できる能力をつけることに置く。特にコンテンツ作品に対する理解、地域でのコンテンツ創出の可能性、クールジャパンの政策枠組みの理解、幅広い知見の習得に努めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
観光文脈でのコンテンツの効用を考察していく。授業はコンテンツツーリズムの定義付けからこれまでの流れ、そして最近の事例を紹介しながら進めていく。地域振興としては新たなアプローチといえるので、課題も当然、様々存在することから、適宜の議論を交えていく。またコンテンツ作品そのものの紹介も行っていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス、コンテンツ・ツーリズム概要/Guidance and Content Tourism Overview	ガイダンス、コンテンツ—リズムの定義/Guidance, Content-Definition of Rhythm
2 回（3・4）	コンテンツ・ツーリズムの歴史、『北の国から』の魅力/History of content tourism, the charm of "From the North Country"	コンテンツツーリズムのこれまでの経緯、テレビドラマによる観光創出の事例紹介/Introducing the history of content tourism and examples of tourism creation through TV dramas
3 回（5・6）	大河ドラマの魅力、韓流ドラマ『冬のソナタ』の魅力/The charm of the taiga drama, the charm of the Korean drama "Winter Sonata"	テレビドラマによる観光創出の事例紹介、韓流ブーム/Introducing examples of tourism creation through TV dramas, Korean cultural boom
4 回（7・8）	「水木しげるロード」ができた理由、『らき☆すた』現象/The reason why "Mizuki Shigeru Road" was created, the "LuckiStar" phenomenonc	マンガ、アニメによる観光創出、アニメツーリズム/Tourism creation through manga and anime, anime tourism
5 回（9・10）	司馬遼太郎と藤沢周平、コンテンツがつくるイメージ/Ryotaro Shiba and Shuhei Fujisawa, the image created by the content	歴史小説及びその映像化による観光創出の事例紹介、イメージの形成について/Introducing examples of tourism creation through historical novels and their visualization, and forming images
6 回（11・12）	ご当地ソング考、「鬼滅の刃」を巡る/Around the local song, "Kimetsu no Yaiba"	ご当地ソングによる観光創出、小説のツーリズム具体例/Tourism creation by local songs, concrete examples of novel tourism
7 回（13・14）	新海誠作品を巡る、長井龍雪作品を巡る/Makoto Shinkai's work, Ryusetsu Nagai's work	現在のアニメツーリズムの動向、インバウンド観光への影響/Current trends in anime tourism, impact on inbound tourism

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてきて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
「物語を旅するひとびと」増淵敏之, 彩流社
「物語を旅するひとびと 2」増淵敏之, 彩流社

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例を中心にした学生の発表も交えていく。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】
多少、内容が変わることもある。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
Currently, content tourism is attracting attention. Conventionally speaking, "pilgrimage to the Holy Land" will be to be understood, but fans are interested in content works and go through the stage. In this way it will be possible to think that it is not a novelty, but it is important that current content tourism is not only related to the tourism context but also to the revitalization and revitalization of the region. In this lecture, we focus on domestic cases and discuss the development process, the way of capturing the future of the country and the creation of new schemes in the range.

ARSl590R1

文化政策特殊講義（文化地理学）

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域を論じて行く場合、地理学的な概念が不可欠になる。地理学は現代では空間の学問といわれており、学際的にその領域を拡張している。本授業は地域の文化的差異に注目する文化地理学の入門編である。講義全体を通じて、文化地理学とは何か、その方法上の特色はどこにあるかを考えていくが、また都市地理学の紹介も行って行きたい。

【到達目標】
到達目標は文化地理学の全貌把握にあり、その理論を個々が研究に活用できるようにすることにある。地理学が空間の学問である点を把握したうえで、学際的になっている現代の社会科学、人文科学の中でどのような位置を占め、文化的差異への注目はどのような効用をもたらせているのかを理解し、説明することができるところまで求めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
一般的には地理学は人文地理学と自然地理学のふたつの領域で構成されるが、本授業では文化地理学を主にして進めていく。文化地理学のこれまでの流れを把握しながら、空間論的、文化的転換期を迎えて以降の様々な研究を紹介していく。適宜、議論を交えていくが、最後にレポート課題の提出を求めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	人文地理学と現代社会・人文地理学と地域/Human Geography and Modern Society・Human Geography and Region	現代社会における地理学の位置付け、地域という概念について/About the position of geography in modern society and the concept of region
2 回（3・4）	文化地理学入門/Introduction to Cultural Geography	文化地理学のこれまでの流れを説明/Explaining the history of cultural geography
3 回（5・6）	食文化の地理学/Geography of food culture	おにぎり、稲荷寿司、どら焼き、バウムクーヘンなどの食文化を通じて文化的差異を見る/See cultural differences through food culture such as rice balls, Inari sushi, Taiyaki, and Baumkuchen
4 回（7・8）	文化的地域差についての議論/Discussion of cultural regional differences1	テーマを設定し、学生間での議論を行う/Set a theme and have discussions among students
5 回（9・10）	言語の地域性と景観の地域性/Regionality of language and regionality of landscape	言語地理学について学び、その後、景観論に言及する/Learn about linguistic geography and then mention landscape theory
6 回（11・12）	習慣の文化的差異と文化的差異を形成する要因/Cultural differences in customs and the factors that form them	儀式、しきたり、風俗の違いによる文化的差異、文化的差異に影響する要因について/Cultural differences due to differences in rituals, customs, and customs, and factors that influence cultural differences
7 回（13・14）	ポピュラーカルチャーの地理学/Geography of popular culture	これまでの地理学領域でのポピュラーカルチャーについての研究を紹介/Introducing research on popular culture in the field of geography so far

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の復習をしてくること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを中心に授業を進める。

【参考書】
「文化地理学ガイダンス」中川 正、神田 孝治、 森 正人、ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
説明をできるだけ平易に、具体例を交えて授業を行うことをこころがける。適宜、タイムリーな内容への変更もあり得る。

【学生が準備すべき機器他】
PC、DVD を使用することもある。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：金 16 － 18 時

【Outline (in English)】
When discussing regions, geographical concepts become essential. Geography is nowadays a discipline of space, and it has expanded its field interdisciplinarily. This lesson is an introduction to cultural geography focusing on cultural differences in the region. Throughout the lecture, I will consider what cultural geography is and what is unique about the method. I would also like to introduce urban geography.

ARSl590R1

文化政策特殊講義 (文化基盤形成論)

増淵　敏之

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域にはそれぞれに文化を育てる基盤がある。それは歴史が作ってきたものであり、また他からの文化の流入に注目する必要もあるだろう.。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。本授業でとくに注目するのはひととひととのネットワークである。毎回、事例を用いることによって、各地域の文化基盤形成のメカニズムを明らかにしていきたい。

【到達目標】
学習到達点としては現在、地域の文化基盤形成のプロセス、また文化基盤活用の実践の事例についても理解を促進し、また文化のアーカイブ化の重要性についても言及していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ハードパワーからソフトパワーへの転換が注目され、文化の重要性の認識が高まっている。また地域創生の観点からすれば、地域個々の文化が住民のアイデンティティ創出や集客事業においても注目されている。つまり文化が何らかの形で萌芽するためには、その基盤の形成プロセスを見る必要がある。具体的には絵画、映画、小説、マンガ、音楽などのコンテンツに注目し、それらを文化資源と捉え、その萌芽の基盤となるネットワーク形成やコミュニティ形成に注目していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	文化基盤についての歴史地理学的なアプローチの検討/Examining a historical geographic approach to cultural infrastructure	文化基盤の説明と時間と空間の組み合わせでみる文化基盤形成/Explanation of cultural infrastructure and formation of cultural infrastructure by combining time and space
2 回（3・4）	文士村、芸術家村、学者村/Scholar Village, Yunshujia Village, Scholar Village	田端、馬込、阿佐ヶ谷等、作家の集住による文化基盤形成 to 池袋モンパルナス、法政大学村などの集住による文化基盤形成について/With the formation of a cultural foundation by the settlement of Tabata, Magome, Asagaya, and writers About the formation of cultural foundation by the settlement of Ikebukuro Montparnasse and Hosei University village
3 回（5・6）	サロンという場とストリートという場/A place called a salon and a place called a street	サロンの形成、その事例紹介/ストリートにおけるコミュニケーション/Salon formation, case studies / street communication
4 回（7・8）	札幌における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Sapporo	札幌農学校を軸にした文化基盤形成/産業創出への展開/Development of cultural infrastructure formation / industry creation centered on Sapporo Agricultural College
5 回（9・10）	福岡における文化基盤形成のプロセスと大連における文化基盤形成のプロセス/The process of forming a cultural foundation in Fukuoka and the process of forming a cultural foundation in Dalian	ポップミュージックを軸にした文化基盤形成/戦前期大連における日本人の文化ネットワーク/Forming a cultural foundation centered on pop music / Japanese cultural network in prewar Dalian
6 回（11・12）	海外での文化基盤形成の事例/Examples of cultural infrastructure formation overseas	ロンドン・チェルシー、ニューヨーク・グリニッジビレッジ、ミュンヘン・シュワビング等の紹介/Introducing London Chelsea, New York Greenwich Village, Munich Schwabing, etc.
7 回（13・14）	履修学生の出身地における文化基盤形成の事例の発表/Presentation of examples of cultural foundation formation in the hometown of students	履修学生の発表を行う/Announce students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。13/14 回目に履修学生の発表を行ってもらう。その発表をもとに各自レポート作成、提出のこと。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
今橋映子『異都憧憬 日本人のパリ』平凡社
増淵敏之『湘南の誕生　音楽とポップ・カルチャーが果たした役割』リットーミュージック

【成績評価の方法と基準】
平常点（発表含む）30 %、レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】
より具体例を挙げ、実務的な視点からも興味の持てる内容にする。適宜、タイムリーな話題提供を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
新しいアプローチの領域なので、履修学生とともに知見を共有、蓄積していきたい。基本的には対面で実施するが、状況に応じてオンラインで実施することもある。オフィスアワー：月 16 － 18 時。

【Outline (in English)】
Each region has its own culture-growing base. It is a history that has been created, and it will be necessary to pay attention to the influx of culture from others. Of particular interest in this class is the network of people. I would like to clarify the mechanism of cultural base formation in each region by using examples every time.

TRS590R1

観光政策特殊講義（観光社会学）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光社会学とは何か　社会学という視点でその意味するところを考え続けることが本講義の目的である。現代社会における観光のあり方を探究することによって、現代社会の成り立ちを考えるのが観光社会学である。したがって、本講義では、観光に含まれる文化的要素も併せて把握することで、「現代観光」についてより理解を深める。

【到達目標】
現代社会における観光のあり方を、現代社会の特徴との関係において、学生の分析力を養う。現代社会において観光はサービス商品であるとともに政策面での重要な手段である。単なる観光事例研究やツーリズム研究に留まるものではなく、社会学的な手法や知見を基に、観光という広い領域をどう捉え直すか、言い換えれば、観光現象を一定の社会を背景に構築され制度化されたもの（中略）として理論化するもの（須藤・遠藤 2018）である。そういう意味において、「観光」は両義的なものである。この両義性のなかで観光現象を的確に分析できる研究者及び実践者を養うことがこの授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形でディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス　観光社会学が目指すもの	講義全体を俯瞰するとともに、観光のまなざしと映画に見る社会学という立ち位置で映画視聴による具体例の検証を行う
2 回（3・4）	現代観光の特徴と新たな観光形態	観光社会学とは何かという問いに対して社会学としての観光を考える　観光社会学の現状と課題や理論について触れながら、多様化するツーリズムの種類、事例を検証する
3 回（5・6）	観光社会学の多様な視点	観光社会学で多く語られるキーワードを、我々の日常的な社会現象や体験をもとに検証していく
4 回（7・8）	観光社会学の複数領域①　観光とメディア社会学　メディアは何を伝えたか　コミュニティメディアの役割と観光視点	観光課題を測るメディア研究実践　東北 N 市の地域 PR 動画の具体的分析事例（観光課題解決型　映像メディアの分析指標作成）を基に考察する
5 回（9・10）	観光社会学の複数領域②　その他の社会学領域	文化、産業、家族、宗教等　多くの社会学領域が観光といかなる結びつきがあるかを検証する
6 回（11・12）	観光施設の社会性と文化装置	観光に欠かせない多くの施設や文化装置について広く概観し各々が観光に果たす役割や課題を検証する
7 回（13・14）	モビリティ（ツーリズム）の時代　これからの観光を考える	ジョン アーリの語る「静止型社会（観察）」から「移動の社会学」として「モビリティ（移動・可動）」へのパラダイム転換「移動論的転回（空間論的転回）」に言及し、現在の仮想現実空間をサーフィンする我々の立ち位置とポストモダンツーリズムという意味を探る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成配布する PPT を通して独自のノートを作成してほしい　文献等はその都度紹介していく

【参考書】
須藤廣・遠藤英樹『観光社会学 2.0』福村出版、2018 年
遠藤 英樹、堀野 正人、寺岡 伸悟『観光メディア論』ナカニシヤ出版、2014 年
ジョン アーリ (著)、 ヨーナス ラースン (著)、加太 宏邦 (翻訳)『観光のまなざし』法政大学出版局、2014 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 点、レポート 70 点。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
What is tourism sociology? The purpose of this lecture is to continue to think about what tourism sociology means from the perspective of sociology. Tourism sociology considers the origins of modern society by investigating the nature of tourism in modern society. Therefore, this lecture deals with the "modern tourism" by grasping the cultural elements included in tourism.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS590R1

観光政策特殊講義（フィールドワーク論）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、フィールドワーク (現地調査）の理論と基本技術を身に付けることを目的とする。この講義では基本的に質的調査に軸足を置く予定である。

【到達目標】
フィールドワークの技法にはさまざまな種類があるが、まずはそれらを体系的に理解し、最終的には各自の研究テーマに合った調査法を選択すべきである。論文執筆にあたり、全体構成の中でフィールドワークの役割と位置づけを構築し、実践できるようになることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
フィールドワークには様々なアプローチがあるが、論文執筆にそれをどう生かすかについて学んでもらう。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。また、新型コロナ感染対応の状況次第であるが、合同でフィールドワークも実践したい。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンフィールドワークの基本	授業の目的と到達目標を確認し、講義全体を俯瞰する 質的研究（調査）の再評価を中心に歴史や意義を学ぶ
2 回（3・4）	フィールドワーク概論①	定性調査を基に、フィールドワークの理論や概念、仮説の立て方等を学ぶ
3 回（5・6）	フィールドワーク概論②	理論に基づいた事例研究に際し、方法論（調査技法）の長所短所について検証する
4 回（7・8）	フィールドワーク　具体的手法①	テキストベースの文献調査、アクションとしての参与観察等を通して手法の実際を学ぶ
5 回（9・10）	フィールドワーク　具体的手法②	アンケート・インタビュー手法を中心に具体的なシミュレーションを行う ロールプレイ的に簡単なワークショップも想定している
6 回（11・12）	CASE　STUDY(事例をもとに)	フィールドワークの実際について、事例を基に学ぶ 例）『暴走族のエスノグラフィー（佐藤郁哉著)』 例）『コミュニティ FM の可能性（北郷裕美著)』を用いて視覚的に解説する
7 回（13・14）	総括　資料作りと様々なフィールドワーク・ツール	これまでの学びを通して、収集した資料の分類・整理から生まれる新たな知見や理論構築について再考する またデータ分析等に用いる様々なツール（ハード機器　ソフトウェア）を情報リテラシーを用いて整理し、受講生各自の今後のフィールドワーク活動についての方針や計画についての発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書)】
特には設けないが毎回呈示する PPT を通して独自のノートを作成してほしい

【参考書】
佐藤郁也 (2008)「質的データ分析法―原理・方法・実践』新曜社
北郷裕美（2015）『コミュニティ FM の可能性』青弓社
佐藤郁哉（1984-2011）『暴走族のエスノグラフィー』新曜社

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、レポート 70%

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
The aim of this lecture is to acquire the theory and basic techniques of fieldwork (fieldwork).This lecture will basically focus on qualitative research.
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

ARSI520R1

観光政策特殊講義（コミュニティ-メディア論）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域社会を含む様々なコミュニティに帰属する一人の市民として、各々が多様な活動を行う際の、異なったセクター同士を結ぶコミュニケーションツールとしてのメディアの在り方、捉え方を考える。メディアも時代とともに多様化し、インターネットの普及でグローバルな発信のメディアとして市民が活用する機会・環境も生まれてきた。そこで市民社会 (特に地域社会) の課題を前提に、如何様にコミュニケーション手段としてのコミュニティーメディア、市民のメディアを捉えるべきか，を考える。

【到達目標】
本講義は毎回テーマ文脈を埋めながらメディア・コミュニケーションの歴史等も時系列的に捉えなおし、最終的に、受講者に市民メディアの役割を理解してもらうとともに、理想的な市民社会のコミュニケーション・モデル (規範モデル) を考えることを目標とする。現状認識としてマス・メディアと市民メディアの定義や機能・役割の違い、及び課題に焦点を当て比較検討し、その視点を基にメディア相互の特性や機能についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
基本的に講義は対面、オンラインどちらの場合も、パワーポイント及びウェブサイト・リンクや視聴覚教材を使った形式を取る。必要に応じて音声や画像、You tube、DVD 動画の視聴等も取り入れる。授業計画にあるような全体を繋ぐテーマを毎回設定しているため、講義後に提出いただく受講生のコメントや質問からピックアップした内容を基に、毎回講義内容を反映したＱ＆Ａやディスカッションも盛り込もうと考えている。これらのことは講義における双方の重要なコミュニケーションの一つと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス～地域情報・コミュニケーションの過去と現在（失われた空間の意味するところ）：マス・メディアの発展と限界	本講義の前提となる社会状況を俯瞰する：高度経済成長期の花形メディアは今いかなる状況にあるかを考える
2 回（3・4）	市民メディアの種類と歴史：パブリックアクセスを学ぶ	多様なコミュニティメディアの役割を時系列で総論的に扱う：市民メディアのキーワードである『パブリックアクセス』について考える
3 回（5・6）	映画視聴①：ディスカッションと解説	米国映画 (Public Access）を視聴する：米国映画 (Public Access）についての意見交換と解説
4 回（7・8）	映画視聴②：ディスカッションと解説	邦画 (コミュニティ放送前夜の時代を描いた作品）を視聴する：日本のコミュニティ・メディアを念頭に映画についての意見交換と解説
5 回（9・10）	動画視聴講義 コミュニティ放送を観る：コミュニティ放送の概要と機能　公共性指標	日本のコミュニティ FM 放送を取材した NHK ドキュメンタリーほか動画視聴　意見交換と解説：北海道のコミュニティ FM 放送調査を事例に解説
6 回（11・12）	コミュニティ放送の運営課題：コミュニティ放送と防災	日本のコミュニティ FM 放送の組織経営の在り方と課題について：様々な事例より、コミュニティメディアの防災側面　リスク最大値からの教訓を考える
7 回（13・14）	動画視聴講義 テロ事件をテーマとしたメディアリテラシー：ネット社会とコミュニティメディア	映像をまじえて『メディアリテラシー』全般について考える：コミュニティメディアのインターネット空間への広がりにおける可能性と将来的な課題を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧願う。

【テキスト（教科書）】
『コミュニティ FM の可能性: 公共性・地域・コミュニケーション　―』(北郷裕美著　青弓社)

【参考書】
『日本のコミュニティ放送－理想と現実の間で－』(北郷裕美 共著　晃洋書房)
『新・公共経営論』(北郷裕美 共著　ミネルヴァ書房）その他講義に際し適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、レポート試験 70 %を原則的な配分として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講生のコメントや質問を参考にしながらその内容を具体的な事例を中心に講義内で扱っていく。

【学生が準備すべき機器他】
講義は原則として、毎回 PC 機器、視聴覚機器（DVD 等）を使ったプレゼンテーション型の講義を PPT で行う。受講生が PC を用意して講義ノートを作成することは差し支えない。

【その他の重要事項】
講義内容は、受講者とのディスカッションに沿って変更することも可能とする。

【Outline (in English)】
The purpose of this lecture is to think about how community media as communication means should be grasped on the premise of the problem of civil society (especially local, regional community).
Your overall grade in the class will be decided
based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

TRS590R1

観光政策特殊講義（観光開発論）

北郷　裕美

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光開発、観光振興、地域振興の全体を俯瞰しながら、地域の観光化の功罪についても考察する。観光の歴史や観光産業の実態を検証しながら、観光は生活文化主体の地域文化であることを再確認する。さらにこの問題を最終的には政策や制度の問題と結びつけて観光開発のこれからを考える。

【到達目標】
この授業では、観光開発がもたらす社会問題に目を向け、それを観光地住民の課題として考える。観光開発の功罪という両側面から見ることで、最終的には、観光文化の意義、意味をネガティブなものからポジティブなものへと転換し、観光地住民の手で観光を創造するにはどのような方法があり得るのか、あるいはどのように支援することができるのかを学修する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科修士課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の論文執筆にどう活かせるかを学ぶ。教員のこれまでの具体的な調査活動や研究実績を基にして、基本的に座学で行うが、各自の研究テーマに沿った形ディスカッションやワークショップを試みたい。具体的な講義形式は、毎回スクリーンにパワーポイント及びウェブサイト・リンクを使った形式で投影しておこなう。必要に応じてレジュメの配布（学習支援システムに事前アップ）、板書、音声や画像、DVD 動画の視聴等も取り入れる。また課題提出を毎回課す。詳細はガイダンス時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンス　観光開発とは	最初に授業全体を概観し、本講義の目的や到達点を確認する 観光開発とは何かという原点を共有する
2 回（3・4）	観光開発における功と罪　地域創生における観光	観光の意味を再確認しながら観光化におけるメリット、デメリットを考察する 観光資源の在り方を通して地域創生の課題を考える
3 回（5・6）	サスティナブルツーリズム	現在盛んに語られている SDGs について再考し、そこと観光の関連を通して「サスティナブルなツーリズム」の意義を考える
4 回（7・8）	日本の観光開発の歴史	明治期から現在に至るまでの日本の観光開発の歴史を俯瞰していく 過去から現在、未来へとその足跡を辿っていくことで観光開発について再考する
5 回（9・10）	観光産業の成り立ち	旅行業の在り方に関して、産業面での捉え方を前提に具体的な交通手段、宿泊施設について「観光産業論」として検証する
6 回（11・12）	地域振興と観光　具体的な観光課題の検証（アクティブラーニング）	東北の K 市の観光政策を事例として検証し簡単なワークショップを行う この回の準備学習等は事前に告知する
7 回（13・14）	ホスピタリティと観光行政　これからの観光を考える	「おもてなし」の意味を再検証し、正しく「ホスピタリティ」について考える 地域振興との関連から、観光を政策や制度面から捉えなおし、現状を踏まえた「観光開発のこれから」を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習のために、毎回事前に講義用のレジュメを学習支援システムにアップする。講義後はコメントシート作成も兼ねて授業の復習は十分お願いしたい。また参考になる書籍やウェブサイト等を講義内で紹介するので適宜閲覧し、授業時間以外に学修してもらうことを望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。ただし普段から社会全体で議論されている内容（報道等）には注意深くあって欲しい。

【テキスト（教科書）】
特には設けないが毎回作成する PPT を通して独自のノートを作成してほしい
文献等はその都度紹介していく

【参考書】
ジョン・アーリ、加太宏邦訳『観光のまなざし－現代社会におけるレジャーと旅行』法政大学出版、1995 年
須藤廣、遠藤英樹『観光社会学 2.0 ―拡がりゆくツーリズム研究』明石書店、2018 年
長谷政広『観光振興論』税務経理協会 1998 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 点、レポート 70 点

【学生の意見等からの気づき】
コメントシート又は対面による学生の感想・意見を聞きながら授業を行う

【Outline (in English)】
With overlooking tourism development, tourism promotion, and regional promotion, we consider the advantages and disadvantages of regional tourism. In addition, in this lecture, it is important to examine the history of tourism and the actual situation of the tourism industry. Therefore, it is possible to reconfirm that tourism is a local culture centered on daily life. Ultimately, we will consider the future of tourism development by linking this issue with policy and system issues.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
- Class attendance and attitude in class: 30%
- Term-end examination reports: 70%

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域産業論）

橋本　正洋

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、地域での産業の再生、興隆について学ぶ。このため、実績のあるゲストを招き、実践的な講義と討議を行う。ここでは日本の地域における産業活動の実体を把握し、地方経済再生などを目指すために、どの様な政策・取り組みなどが必要かについて、理解を深める。

【到達目標】
日本の地域経済の状況を理解し、実務に応用可能な産業政策や企業の経営戦略などを立案・実行する能力をつけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションに続き、全国的にも著名であり、具体的な地域産業興隆を進めているゲスト講師からの講義及びグループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション	地域産業の現状と課題について俯瞰する。
2回（3・4）	地域産業興隆の状況	地域経済興隆の先進的取り組みについてゲスト講師からの講義を基に討論する。
3回（5・6）	地域産業の動向①	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
4回（7・8）	地域産業の動向②	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
5回（9・10）	地域産業の動向③	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
6　回（11・12）	地域産業の動向④	ゲスト講師による地域産業興隆のケーススタディの講義を基に議論する。
7　回（13・14）	まとめ	これまでの講義の内容を振り返り、地域産業のポイントをおさえる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地域産業とどのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト（教科書）】
講義の際に配布する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％)、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの評価に基づき、地域産業分析にかかる手法の講義も行う。

【学生が準備すべき機器他】
講師が遠隔で講義を行う場合があるのでパソコンを持ち込むこと。

【その他の重要事項】
ゲスト講師を事前に提示するので、予習をしておくこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, I will invite a guest who has a proven track record in the revitalization and prosperity of industry in the region, and give a practical lecture and sufficient discussion. Here, we aim to deepen our understanding of what kind of policies and initiatives are necessary in order to grasp the reality of industrial activities in Japan's regions and to aim for regional economic revitalization.

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域経営戦略論）

橋本　正洋

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、霞が関及び地方の政策責任者をはじめ、地域政策研究の第一人者、地方創生の担い手、地方の産業指標の見える化の専門家をゲストに迎え、地方創生に必要な取り組みを経済産業政策、企業経営戦略などの側面から多面的に考える。これにより、得た内容を実務（政策立案・運営、企業戦略）に活かすことを目指す。

【到達目標】
具体的に、日本経済の状況を踏まえたうえで、各地方における政策、取り組みなどを把握し、どのような成功例、課題があるかを理解することを目指す。その上で、地方経済再生のための戦略論を考察することを目指す。特に、地域経営とは何か、受講者自らが定義を示すことが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
イントロダクションにより地域経営戦略に関する概要を理解したうえで、官界、学界、実践家の第一人者からのレクチャーを受け、グループディスカッションを行い、今後の地方行政、政策運営、企業の経営戦略などに必要な発想、取り組みを考察する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション	地域経営戦略とは何か。
2回（3・4）	地域経営と政策	ゲスト講師からのプレゼンテーションを基に、わが国の経済政策（マクロ、地方振興策など）の方向性、特徴を確認する。その中で、地方の活性化、地方創生などのためにどのような政策が行われているか理解する。
3回（5・6）	地域経営戦略①	地域政策研究の第一人者からの講義を基に議論する。
4回（7・8）	地域経営戦略②	国の地域イノベーション政策担当責任者からの講義を基に、地域におけるイノベーション創生の議論を行う。
5回（9・10）	地域経営戦略③	地域行政の責任者を招き、地域行政の進め方、課題についての講義に基づき議論する。
6　回（11・12）	地域経営戦略④	地域の様々なデータの分析手法について専門家からの講義を受け演習を行う。
7　回（13・14）	まとめ	一連の講義を通して、地域地方経営に必要な政策等を受講者間で議論する。また、地域経営に関する疑問を解決し、更なる学習への橋渡しを行う機会とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常起きている経済活動や経済事象について関心を高め、それが地方の経済、社会動向などと、どのような関係にあるか、深く検討することが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト（教科書）】
教員、ゲスト受講者から資料を提示する。

【参考書】
授業の進展に伴い、適切な参考図書等を提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業中の発表・ディスカッションへの参加等)（おおむね５０％）、プレゼンテーション（おおむね５０％）とする。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションへの積極的参加が重要。
地域経営戦略分析に有効な手法に関する講義を含む。

【学生が準備すべき機器他】
一部遠隔講義がありうるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
今年度限りの貴重なゲストもおられるので、受講機会を逃さないように。

【Outline (in English)】
In this lecture, we welcomed leaders in regional policy research, leaders in regional revitalization, and experts in visualization of regional industrial indicators, as well as Kasumigaseki and regional policy managers. We consider initiatives from multiple perspectives, such as economic and industrial policy and corporate management strategy. Through this, we aim to utilize what we have learned in practice (policy planning and management, corporate strategy).

MAN590R1

産業政策特殊講義（地域イノベーション論）

橋本　正洋

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国の政策全般を俯瞰したうえで、イノベーション政策にフォーカスする。研究に政策要素（国、自治体の関与）がある学生には履修を推奨する。

ここでは、地域における経済再生戦略に必要な、国や地域のイノベーション政策のうち重要なものを取り上げ、それらの歴史的背景と現在の課題について検討する。これに基づき、地域イノベーションを創成するための地域産業政策の在り方、地域経済再生のための戦略論について考察する。

【到達目標】

政策立案の仕組みを明らかにするとともに、イノベーションとは何かを踏まえ、日本のイノベーション政策の大きな流れ、特に構造改革型政策を理解し、地域イノベーションとの関係を認識できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

政策の仕組みとイノベーション創生のモデルを理解したうえで、関係するイノベーション政策について概観したうえで、グループワークにより個別の政策、システムについて検討し、グループ及び全体で討議することにより本質的な理解を得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	ガイダンスとイントロダクション	講義の目的、進め方について説明し、イノベーションに関する基本的概念とモデルを説明する。
2 回（3・4）	政策プロセスとイノベーション政策概観	日本の政策プロセスとイノベーション政策を概観し、重要な事項について解説する。グループ分けを行い課題を選択する・
3 回（5・6）	イノベーション政策１	科学技術基本法制定、総合科学技術・イノベーション会議設置と日本のイノベーション政策
4 回（7・8）	イノベーション政策２	大学等技術移転促進法制定（ＴＬＯ法）、99 年：産業活力再生特別措置法制定（日本版ﾊﾞｲﾄﾞｰﾙ）と大学技術移転、大学発ベンチャー
5 回（9・10）	イノベーション政策３	国立大学法人化・大学改革
6　回（11・12）	イノベーション政策４	産業クラスター・地域イノベーション政策
7　回（13・14）	イノベーション政策５	省庁再編・独法改革

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常起きている産業経済活動や政策について関心を高め、それが国全体及び地方の政策、産業社会と、どのような関係にあるかを常に考えることが必要。すべての履修者は、そうした検討に基づいてプレゼンテーション、ディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト（教科書）】

講義の際に配布する。

【参考書】

講義の際に適宜資料を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッションによるプレゼンテーション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施の場合およそ 50 %）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義後にアンケートによりフィードバックを行い、講義の内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン用のパソコン等を用意すること。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業です。経済産業省における実経験とそのネットワークにより内容を構成します。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on innovation policy after taking a bird's-eye view of national policies in general。 Students who have policy elements(involvement of national or local governments) in their research are recommended to take this course.Innovation that occurs in a company is strongly influenced by the environment of each country (National Innovation System) in the company. This is due to the establishment of legal systems, tax systems, intellectual property systems, finance, and support organizations that differ from country to country. In order to bring about innovation in the region, it is necessary to establish appropriate innovation policies at the national and regional levels. In this lecture, we will take up important national and regional innovation policies necessary for regional economic revitalization strategies, and examine their historical background and current issues. Based on this, we will consider the ideal way of regional industrial policy to create regional innovation and the strategic theory for regional economic revitalization.

ARSI520R1

産業政策特殊講義（地域活性特論Ⅰ）

橋本　正洋

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地域の活性化の取り組みについて、各地域で活躍するキーパーソンをゲスト講師にお招きし、課題、成功の要因を講義していただき、それを基に受講生と討議をお粉形式の講義とする。ゲストには、この分野で著名な有識者、行政、地域のリーダーにお願いする。
本講義は来年度は開講しない（原則隔年で実施）。

【到達目標】
地域における最新の取り組みを理解し、その戦略の在り方等について考察を深めることにより、自らの課題等の研究活動に活用できるよう努める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
イントロダクションに続いて、各界の識者から講義及び討議テーマをいただき、それについてグループディスカッションを進め、全体で討議を行う。必要に応じ、現地での実習を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	地域活性化に関する基本的な問題点を俯瞰する。 招聘講師について書斎を提示する。
2 回（3・4）	地域活性化ケース 1	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
3 回（5・6）	地域活性化ケース２	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
4 回（7・8）	地域活性化ケース３	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
5 回（9・10）	地域活性化ケース４	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
6 回（11・12）	地域活性化ケース５	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する
7 回（13・14）	地域活性化ケース６	具体的な地域活性化プロジェクトに関するケースを紹介し、討議する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ゲスト講師を事前に提示するので、予習しておくこと。講義後には、毎回アンケート形式のレポートにより、コメントを提出する。

【テキスト（教科書）】
講義の際に講師より配布、提示する。

【参考書】
講義の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
グループディスカッション、講義への貢献及び必要に応じ最終課題（実施する場合はおよそ 50 %）により採点する。

【学生の意見等からの気づき】
他では得られない講師の講義を受講できる。

【学生が準備すべき機器他】
ゲスト講師が遠隔で講義する場合もあるので、パソコンを持参すること。

【その他の重要事項】
本講義は原則隔年で行うが、他の講義との関係で、2025 年度の開講は未定であり注意すること。

【Outline (in English)】
In this lecture, key persons who are active in each region are invited as guest lecturers to discuss regional revitalization efforts. The guests will be prominent intellectuals, government officials and community leaders in this field. In principle, this lecture will be held every other year.

MAN590R1

企業経営特殊講義（中小企業論）

井上　善海

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、わが国産業の競争力を支えてきた中小企業の構造的問題について、課題別に考察することをねらいとします。そこで、まずわが国中小企業の歴史的な変遷および国際比較を行いながら、中小企業の存在意義について明らかにします。その後、大企業との格差問題および下請中小企業問題を中心としながら、中小企業が地域経済の担い手やグローバル化に寄与していることについて考察していきます。

【到達目標】
①日本経済における中小企業の地位や役割について説明できる。
②大企業とは異なった中小企業の経営特性について説明できる。
③経営環境の変化に対応し、成長を続ける中小企業のマネジメントついて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	中小企業の経営特性 中小企業の歴史	単に大企業を縮小したような存在ではなく、大企業とは異なった経営特性を持つ中小企業が、その経営特性を生かす道としてどのような事業分野があるのかについて。 産業革命から現代まで、世界における中小企業がどのように変化してきたのかについて。
2 回（3・4）	海外の中小企業 中小企業問題と中小企業政策	海外では、中小企業がどのような地位を占め、どのような役割を担っているのかについて。 中小企業問題の本質とは何か、その解決のために講じられる中小企業政策の役割や体系について。
3 回（5・6）	経営環境の変容と戦略マネジメント 資金難と財務マネジメント	企業を取り巻く経営環境が変容しているなかで、中小企業が長期的な戦略にもとづく経営に取り組む必要性について。 資金調達をはじめとした中小企業の財務マネジメントのあり方について。
4 回（7・8）	分業構造の変容と下請マネジメント 企業間関係の変容とネットワーク・マネジメント	下請企業の構造的問題を解決するマネジメントについて。 経営資源に制約の多い中小企業が事業展開において抱える問題について。
5 回（9・10）	産業構造の変容と地域産業マネジメント 世界市場の変容とグローバル・マネジメント	産業集積の戦略的な連携や他地域への進出、地域資源の有効活用について。 中小企業がグローバル化を行うことによって起きる問題について。
6 回（11・12）	人材難と組織・人材マネジメント 後継者難と事業承継マネジメント	経営環境の多様な変化に適応していくための組織や人のマネジメントのあり方について。 中小企業に特有の事業承継リスクへの対応方法について。
7 回（13・14）	研究開発力不足と製品開発マネジメント 既存事業の衰退と事業開発マネジメント	イノベーションによる中小企業の製品開発マネジメントの重要性について。 中小企業の事業開発上の経営課題と対応策について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
井上善海編著（2022）『中小企業経営入門』中央経済社（2,300 円）

【参考書】
井上善海編（2009）『中小企業の戦略』同友館（2,800 円）
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（４０%）、講義内で課す課題レポート（６０%）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This lecture aims at considering the structural problems of SMEs that have supported the competitiveness of Japanese industries by subject. Therefore, while first making historical changes and international comparisons of SMEs, we will clarify the significance of SMEs. After that, we will consider the fact that SMEs are contributing to the regional economy and globalization, centering on inequality issues with large companies and subcontracting SMEs.

MAN590R1

企業経営特殊講義（経営戦略論）

井上　善海

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営戦略に関するこれまでの論点と研究成果を体系的に提示するとともに、その理論的枠組みを考察していくことをねらいとしています。このため、経営戦略の中でも事業戦略に焦点を当て、その策定・実行・評価のプロセスに従い、戦略の基礎理論とケーススタディを組み合わせ講義を進めます。これにより、伝統的理論からどのようにして現代の新しい戦略論が抽出・形成されてきたのかを理解していただきます。

【到達目標】
①経営戦略論の史的変遷を説明できる。
②経営戦略の策定・実行・評価のプロセスを説明できる。
③経営戦略の理論を実践（ケーススタディ）で検証できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義はテキストをもとに進め、補足資料についてはパワーポイントで示します。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	経営戦略とは ミッション	企業経営における経営戦略の役割と企業活動レベルごとの戦略の広がりと深さについて。 ミッションの明確化が戦略策定の最初の段階に位置付けられ、最も重要な戦略要素となることについて。
2 回（3・4）	ドメイン 環境・資源分析	ドメインにコア・コンピタンスの考え方が深くかかわっていることについて。 経営環境と経営資源をマトリックスで分析することについて。
3 回（5・6）	成長ベクトル 多角化	製品と市場の組み合わせにより、企業の成長戦略を 4 つに分類できることについて。 成長戦略のなかでもリスクの高い多角化について。
4 回（7・8）	製品ポートフォリオ・マネジメント 成長戦略の展開	2 次元マトリックスによる複数の事業や製品に対する資源配分決定について。 グローバル戦略、戦略提携について。
5 回（9・10）	業界の構造分析 競争の基本戦略	5 つの競争要因分析について。 競争の基本戦略の役割と競争地位ごとに採用する戦略の違いについて。
6 回（11・12）	バリューチェーン 競争戦略の展開	バリューチェーンの構成とコーペティション戦略について。 タイムベース戦略、ディファクトスタンダード戦略、ブルーオーシャン戦略について。
7 回（13・14）	経営戦略の実行と評価	戦略は計画的に策定され、創発的に形成されなければならないことについて。 戦略評価について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとにテキストや参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
井上・大杉・森（2022）『経営戦略入門』中央経済社（2,200 円）

【参考書】
井上善海・佐久間信夫編（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房（2,500 円）
その他、各回の講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での発言・貢献度（４０％）、講義内で課す課題レポート（６０％）により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
This lecture aims to systematically present past issues and research results on management strategy and to examine its theoretical framework.　For this reason, we will focus on business strategy among management strategies, and pursue a lecture that combines the basic theory of strategy and case study according to the process of formulation, execution and evaluation. By doing this, you understand how the modern new strategy theory has been extracted and formed from traditional theory.

MAN590R1

企業経営特殊講義（新産業創出論）

井上　善海

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボットに代表される技術革新によって新産業が生まれる第 4 次産業革命が、想定外のスピードとインパクトで進行しています。第 4 次産業革命は、大企業だけでなく中小企業や地域経済へも大きな影響を与えています。
本講義では、第 4 次産業革命に対応した地域経済の発展と中小企業に焦点を当て、地域の産業資源を最大限に活用した新産業創出のあり方やそれを支援する政策について考察を行います。

【到達目標】
①第 4 次産業革命の地域経済や中小企業への影響について説明できる。
②新産業創出の外発的、内発的な政策について説明できる。
③新産業創出のための支援機関や自治体の独自政策の必要性について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
5 回の授業は、外部からゲスト講師を招いて、多角的な視点から新産業の創出について考察を行います。また、授業の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、授業内容に関する質問は、授業中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	第 4 次産業革命と新産業創出	第 4 次産業革命が新産業創出に及ぼす影響について。
2 回（3・4）	多様なイノベーションの組み合わせによる新産業創出	宇宙産業と中小製造業のイノベーションについて。 【ゲスト講師：元大手電機メーカー経営企画担当】
3 回（5・6）	オープンイノベーションによる新産業創出	イノベーションを加速化するためのオープンイノベーションシステムについて。 【ゲスト講師：大手飲料メーカー R&D 担当】
4 回（7・8）	新産業創出支援機関の役割	中小機構の新事業創出支援の役割、商工会議所のビジネスサポートデスクの役割、事例 【ゲスト講師：中小機構チーフアドバイザー】
5 回（9・10）	新産業創出と知的財産権	迅速かつ柔軟な新産業創出を可能とする知的財産戦略について。 【ゲスト講師：特許事務所長・弁理士】
6 回（11・12）	IT 投資による新産業創出	新産業創出における IT 投資の重要性について。 【ゲスト講師：元マイクロソフト IT 担当】
7 回（13・14）	産学連携による新産業創出	大学研究室と地域企業との連携による様々な製品開発や実用化研究について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での 平常点（講義内での 発言・貢献度）４０%、講義内で課す課題レポート６０%により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The 4th industrial revolution where new industries are born by IoT, big data, artificial intelligence (AI), technological innovation typified by robot is progressing with unexpected speed and impact. The Fourth Industrial Revolution has great influence not only on large enterprises but also on SMEs and regional economies. In this lecture, we focus on the development of regional economies that respond to the Fourth Industrial Revolution and focus on small and medium enterprises and consider how to create new industries that maximally utilize local industrial resources and policies that support them .

MAN590R1

企業経営特殊講義（商店街活性化論）

井上　善海

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人口減少、大型店の郊外進出、コンビニの出現・増加、ネット通販の拡大等、商店街を取り巻く経営環境は、それぞれの時代において大きく変化してきました。それに対し、政府は各種の中心市街地政策や商店街政策を講じてきましたが、これらの政策が目に見える効果を上げてきたかどうかは議論が分かれるところです。
本講義では、商店街が今後も地域コミュニティの担い手として期待される役割を発揮していくためには、どのような政策や取り組みが必要かについて考察していきます。

【到達目標】
①地域経済における商店街の役割について説明できる。
②ショッピングセンター等の商業集積とは異なった商店街の経営特性について説明できる。
③経営環境の変化に対応し、存続・成長を続けていくための商店街活性化策ついて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は配布資料をもとに進めます。また、講義の内容をもとにしたディスカッションも行います。理解度を把握するため、定期的に講義の中でミニレポートを課します。講義内容に関する質問は、講義中以外にも、オフィスアワーやメール等で受け付けます。質問への回答は受講者全員で共有するため講義に反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	流通革命と中小小売業	消費者サイドが市場を定義する主役となる第三次流通革命の進展と中小小売業の対応について。
2 回（3・4）	商店街の現状と歴史	小売立地の構造的変化と商店街の衰退、規制緩和と競争激化、業種から業態への変化、ネットワーク化への対応といった中小小売業の経営危機について。
3 回（5・6）	商業集積としての商店街	自然発生的な日本の商店街と計画形成的な米国発祥のショッピングセンターとの経営特性の違いについて。
4 回（7・8）	地域経済における商店街の役割	地域コミュニティの核となる商店街の果たすべき社会的、公共的役割の向上を通じて、商店街に賑わいを創出し活性化を図ることについて。
5 回（9・10）	商店街活性化政策①「商店街活性化計画」	商店街のもつ限られた経営資源を効率良く活用するするための「商店街活性化計画」について。
6 回（11・12）	商店街活性化政策②「空き店舗対策・個店の魅力アップ」	商店街は個店の集積であり、魅力ある個店が増えることで商店街が活性化することについて。
7 回（13・14）	商店街活性化政策③「後継者育成」	若手・後継者などの内部人材を商店街の新たな担い手として発掘・育成することについて。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習ではシラバスをもとに参考図書等を用い事前学習をしておいてください。復習では目安となる水準を講義中に示します。 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義の際に資料を配布します。

【参考書】
中小企業庁編『中小企業白書』（各年度版）
その他、講義テーマごとに適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
本講義の３つの到達目標に対する達成度を評価基準に、講義内での 平常点（講義内での 発言・貢献度）４０％、講義内で課す課題レポート６０％により成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【Outline (in English)】
The business environment surrounding shopping districts has changed dramatically in each era, such as population decrease, the expansion of large stores in the suburbs, the appearance and increase of convenience stores, and the expansion of online mail order. On the other hand, the government has taken various central city policies and shopping street policies, but it is a matter of argument whether these policies have made visible effects.In this lecture, we will consider what policies and initiatives are necessary for the shopping district to continue to demonstrate the role expected as a carrier of the local community.

MAN590R1

CSR 特殊講義（CSR 論）

小方　信幸

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業では、CSR を本業を通じ社会的価値と経済的価値を創造する CSV（Creating Shared Value, 共通価値の創造）と定義する。CSV を経営戦略として如何にサステナビリティ経営を実現するべきかを考える。授業の前半では講義を行い、後半はグループディスカッションを行う。講義とグループ討議および全体討議を通じ、企業がをサステナビリティ経営を実現する経路を学ぶことを目的とする。

【到達目標】
学生は、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する CSV を経営戦略とすることにより、サステナビリティ経営を実現することが出来ることを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
「学習支援システム」に授業資料を掲載するので、事前学習を励行して頂きたい。
原則として、授業前半では理論とケースを学び、後半ではケースについてのグループ及び全体討議を行う。CSV を実践している企業のケースを通じて、企業が本業を通じて社会的価値と経済的価値を創造する経路を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）授業の進め方（2）歴史から学ぶ CSR 概念の形成と変遷
2 回（3・4）	共通価値の創造（CSV）	（1）M. ポーター他「共通価値の創造」戦略 （2）ケース：ネスレの CSV 戦略
3 回（5・6）	サステナビリティ経営	ケース：ユニリーバのサステナビリティ経営
4 回（7・8）	クレド経営	ケース：ジョンソン・エンド・ジョンソンの我が信条（Our Credo)
5 回（9・10）	長期志向経営	ケース：ノボ・ノルディスク
6　回（11・12）	日本の中小企業におけるサステナビリティ経営	ケース：サラヤ株式会社
7　回（13・14）	日本の中小企業における CSV 戦略	ケース：石坂産業株式会ア社

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読んで、グループ討議で発言できるように準備する。
（2）授業を振り返り論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加・授業貢献（４０%）、期末レポート（６０%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（1）学生から評価されたグループ討議を今年度も継続し、学生間で議論し考える時間を適切に確保する。また、教員と学生による双方向の授業スタイルを深化する。
（2）企業のサステナビリティ・CSR 部門の責任者をゲストスピーカーとして招聘したところ、受講生全員から CSR および CSV についての理解が深まったとの感想が寄せられた。2022 年度も授業の目的に合った方をゲストスピーカーとして招聘する考えである。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカーを招く場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
In this class, we define CSR as Creating Shared Value (CSV), which is the creation of social and economic value through core business activities, and consider how to realize sustainability management by using CSV as a management strategy. The first half of the class will consist of lectures and the second half will consist of group discussions. Through the lecture, group discussion, and group discussion as a whole, the objective is to learn the pathways for companies to realize sustainability management.

MAN590R1

CSR 特殊講義（企業活動と社会Ⅰ）

小方　信幸

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業活動において法令遵守は最低限の企業の社会的責任といる。しかし、国内外を問わず非倫理的行為である企業不祥事は後を絶たない。そこで、当授業では、ケースメソッドを用い、企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業の前半は主に講義を行う。後半はケース・メソッドで授業を進め、さらにグループディスカッションを行う。

【到達目標】
（1）経営倫理のフレームワークを理解できる。
（2）現実のビジネスで企業が非倫理的行為を行う原因を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
当科目では最初に規範倫理学の基礎理論を学ぶ。そのうえでケースメソッドを用いて企業の非倫理的行為について考察し、本来あるべき経営倫理のフレームワークを理解する。授業前半は主に講義を行い、後半はケース・メソッドで授業を進める。グループ討議、全体討議を通じて、経営倫理についての理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1・2）	イントロダクション 経営倫理の理論（1） 功利主義と現代社会	（1）講義：倫理的利己主義と功利主義 （2）ケース：フォード・ピントのケース
2回（3・4）	経営倫理の理論（2） カント「義務論」	（1）講義：カント「義務論」 （2）ケース：ブレント・スパーの処理を巡るケース
3回（5・6）	経営倫理の理論（3） ロールズ「正義論」	（1）講義：ロールズ「正義論」 （2）ケース：貧富の差について考える
4回（7・8）	経営倫理の実践（1） ロールズ「正義論」の視点で米国社会の現状を考える。	経済的格差の是正に必要なことは何か。
5回（9・10）	経営倫理の実践（2） 顧客関連の倫理	（1）講義 （2）ケース：シアーズ自動車センター
6　回（11・12）	経営倫理の実践（3） 従業員関連の倫理	（1）講義 （2）ケース：ソーラーブラインド
7　回（13・14）	経営倫理の実践（4） 国際経営の倫理	（1）講義：児童労働 （2）ケース：ネスレの児童労働廃絶への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読み、授業で発言できるように準備する。
（2）授業を振り返り、論点を整理する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
梅津光弘（2002）『ビジネスの倫理学』丸善出版、1,900 円＋税
マイケル・サンデル（訳）鬼澤忍（2011）『これからの「正義」の話をしよう』早川書房（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）、900 円＋税　その他の参考書は都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、期末レポート６０％を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ゲストスピーカーを招聘したところ、企業倫理に対する理解が深まったというフィードバックがあった。今年度もゲストスピーカー招聘を検討する。また、講義とグループ討議の組み合わせは理解を深めるとのフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】
ゲスト・スピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することもある。

【Outline (in English)】
In corporate activities, compliance with laws and regulations is the minimum social responsibility of a company. However, there has been no end to the number of corporate scandals, both in Japan and abroad, involving unethical behavior. In this class, we will use the case method to examine unethical corporate behavior and understand the framework of corporate ethics as it should be. The first half of the class will consist mainly of lectures. In the second half of the class, the case method will be used and group discussions will be held.

MAN590R1

CSR 特殊講義（ESG 投資と企業経営）

小方　信幸

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業では、ESG 投資家と企業経営者が建設的な対話を行うことにより、企業は持続可能な成長を実現し、投資家は長期投資で高いリターンを実現することを理解する。その結果、社会の持続可能性が高まる仕組みを理解する。

【到達目標】
学生は下記 3 点について理解できる。
（1）投資の意思決定の際に、環境（Environment, E）、社会 (Social, S)、ガバナンス（Governance, G）の３つの非財務要因（ESG 要因）を考慮する ESG 投資と、ESG 投資市場について理解できる。
（2）ESG 投資が生まれた歴史的背景を理解できる。
（3）ESG 投資家と企業経営者が ESG 要因について建設的な対話を行うことにより、持続可能な社会を実現できる論理を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では理論と事例についての講義を行い、後半では講義の内容に沿った内容でグループ討議と全体討議を行う。講義とグループ討議を通じ、ESG 投資と企業経営の関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）講義の進め方 （2）講義： ESG 投資の概要と歴史 （3）欧米と日本の ESG 投資市場の概要
2 回（3・4）	ESG 投資家の企業評価のポイント	（1）企業評価の基礎 （2）証券投資理論の基礎
3 回（5・6）	ESG 投資市場におけるアセットオーナーの役割	（1）講義：欧米と日本の年金基金の比較 （2）ケース：わが国の年金基金の課題
4 回（7・8）	ESG 投資市場にけるアセットマネジャーの役割	ESG 投資を行うアセットマネジャーの具体的な取り組みを学ぶ
5 回（9・10）	統合報告書	ESG 投資家と企業経営の建設的対話のツールである統合報告書について学ぶ
6　回（11・12）	ESG 投資家によるエンゲージメント	欧米と日本の ESG 投資によるエンゲージメントの実際
7　回（13・14）	責任投資報告書	ESG 投資家が発行する責任投資報告書から、投資先企業の問題点を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）配布資料を事前に読んで、授業で発言できるよう準備する。
（2）授業を振り返り、論点を整理する。
本授業の準備学習および復習の時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
小方信幸（2016）『社会的責任投資の投資哲学とパフォーマンス ー ESG 投資の本質を歴史からたどる―』同文舘出版
アムンディ・ジャパン（2021）『社会を変える投資　ESG 入門（新版）』日本経済新聞出版
その他の参考書は都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０％、期末レポート　６０％

【学生の意見等からの気づき】
学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるとのフィードバックがあったので、本年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】
In this class, students will understand that constructive dialogue between ESG investors and corporate management will enable companies to achieve sustainable growth and investors to realize higher returns on their long-term investments. As a result, they will understand how sustainability is enhanced.

MAN590R1

CSR 特殊講義 (SDGs と企業経営)

小方　信幸

科目分類：**博士後期（選択必修）**　｜　単位：**2 単位**

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業では、国連が持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）を制定した歴史的背景を理解することを目的とする。併せて、SDGs の 17 目標について理解し、さらに、SDGs とサステナビリティ経営の関係を理解することも目的とする。

【到達目標】
（1）国連が持続可能な開発目標（SDGs）を制定した歴史的背景を理解できる。
（2）SDG ｓの 17 の目標を理解できる。
（3）SDG ｓとサステナビリティ経営の関係を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
政策創造研究科博士後期課程のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半は主に講義を行い、後半は講義内容に沿ったテーマでグループ討議を行う。講義とグループ討議を通じて、SDG ｓと企業のサステナビリティ経営との関係を理解できるように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回（1・2）	イントロダクション	（1）国連の理念 （2）SDGs 誕生の歴史的背景 （3）企業が SDG ｓに取り組む理由
2 回（3・4）	SDGs の人々（People）に関する目標（1）	SDG ｓ目標 1 -6 （1）人権についての基本的な理解を深める （2）ネスレの児童労働撲滅の取り組み
3 回（5・6）	SDGs の人々（People）に関する目標（2）	SDG ｓ目標 1 -6 貧困問題に取り組むソーシャルビジネスの可能性を考える。
4 回（7・8）	SDGs の繁栄（Prosperity）に関する目標（1）	SDGs 目標 7-11 企業におけるジェンダーダイバーシティ
5 回（9・10）	SDGs の繁栄（Prosperity）に関する目標（2）	SDGs 目標 7-11 （1）従業員の働き方改革 （2）人的資本経営
6　回（11・12）	SDGs の地球（Planet) に関する目標（1）	SDGs 目標 12-15 （1）気候変動 （2）脱炭素
7　回（13・14）	SDGs の地球（Planet) に関する目標（2）	SDGs 目標 12-15 （1）廃棄物 （2）生物多様性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】
都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０％、期末レポート　６０％

【学生の意見等からの気づき】
学生から講義とグループ討議の組み合わせが理解を深めるというフィードバックがあったので、今年度も同様の授業スタイルを継続する。

【その他の重要事項】
ゲストスピーカー招聘を検討する。ゲストスピーカー招聘の場合は、授業計画を変更することもある。

【Outline (in English)】
The first objective of this class is to understand the historical background of the Sustainable Development Goals (SDGs) established by the United Nations.　The next objective is to understand the 17 goals of the SDGs, and then to understand the relationship between the SDGs and sustainability management.

法政大学
HOSEI University